
PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール 9.1 PeopleBook

2010 年 12月

商標と登録商標について

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

ライセンス制約の保証と結果的に生じる損害の免責

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

保証免責

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

制限付権利

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次のNoticeが適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

危険な用途への使用について

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性

（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用了ことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

第三者のコンテンツ、製品、サービスに対する免責

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

目次

まえがき

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール - まえがき	xlix
対象の PeopleSoft 製品	xlix
PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーションの基礎	xlix
PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールのドキュメンテーション	xlix
PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール アプリケーションの構成	l
PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール ドキュメンテーションの構成	l
ドキュメンテーション ロードマップ	li
PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールの用語	lii
PeopleBook と PeopleSoft オンライン ライブラリ	liii

第 1 章

グローバル ペイロール - はじめに	1
グローバル ペイロールの概要	1
グローバル ペイロールのビジネス プロセス	1
グローバル ペイロールの統合	2
グローバル ペイロールの導入	2

第 2 章

グローバル ペイロールについて	7
グローバル ペイロールの機能	7
エレメント	8
給与計算ルール	9
給与計算処理	9
オフサイクル処理	10

休暇欠勤処理	10
分割	11
遡及処理	11
ほかの PeopleSoft アプリケーションとのリアルタイム統合	11

第 3 章

コア アプリケーションのアーキテクチャについて	13
コア アプリケーションのアーキテクチャについて	13
エレメントについて	13
エレメントについて	14
エレメントとルールとの関連付け	15
コア アプリケーションで支給アイテム名 (PIN) 処理が使われる理由	16
処理のフレームワーク	17
処理順序	18
組織構造	19
処理構造	21
カレンダー	23
バッチ処理フローのアーキテクチャについて	24
グローバル ペイロールのモード	25
受給者の選択	25
計算 (技術情報)	27
バッチ処理で使用するアレイ (技術情報)	29
バッチ処理出力テーブル	31
多通貨について	33
通貨の使い方と定義	33
支給元レベルでの通貨	35
エレメント レベルでの通貨	35
為替レート タイプと換算日	36
累計と通貨	37
多通貨にまたがった支給額の表示	37
オンライン通貨デフォルト	37
バッチ処理の通貨	39
インストール設定の定義	40

インストール設定の定義に使用するページ	40
グローバル ペイロール設定のアクティブ化	41
デフォルトの国の設定	42
グローバル ペイロールのインストール設定の定義	42
スケジュール設定の定義および日付のロード	45
国別設定の定義	47

第 4 章

受給者データの使い方	51
受給者データについて	51
ヒューマン リソース管理からのデータ取得について	52
データベース システム エlement	53
アレイ	54
給与レート コード	54
周期	54
トリガ	55
受給者への給与計算システムと支給グループの割り当てについて	56
関係者の追加	58
関係者について	59
関係者の追加に使用するページ	59
関係者の追加	59
受給者データの表示	60
グローバル ペイロールの受給者データのページについて	60
職務情報の表示に使用するページ	61
職務情報の表示	61
受給者データの更新	62
銀行振込データの共有	63
スケジュール データの共有	63
ヒューマン リソース管理との休日スケジュールの共有	63
勤務管理とのスケジュール割り当ての共有	64

第 5 章

エレメントの一般情報の定義	67
エレメントについて	67
エレメントの分類について	68
データ取得エレメントについて	69
システム エレメント	70
アレイ	71
書き込み可能アレイ	71
ブラケット	72
給与レート コード	72
仮再計算	73
再計算/履歴抽出ルール	73
計算エレメントについて	74
変数	75
日付	75
期間	75
フォーミュラ	76
端数処理ルール	76
カウント	77
比例配分ルール	77
支給	77
控除	78
休暇付与	79
休暇取得	79
累計	80
ジェネレーション コントロール	80
構造化エレメントについて	81
エレメント グループと有資格グループ	81
セクション	82
プロセス リスト	82
エレメント タイプの定義	83
エレメント タイプとエレメント タイプ コードについて	83

エレメント タイプの定義に使用するページ	85
エレメント タイプの定義	85
入力タイプの定義	87
入力タイプについて	87
入力タイプの定義に使用するページ	88
入力タイプとエレメント グループの定義	88
入力タイプの選択と使用先レコードとフィールドの組み合わせの表示	90
プロンプト ビューについて	90
入力タイプの選択と使用先レコードとフィールドの組み合わせの表示に使用するページ ...	91
入力タイプ プロンプトで使用する入力タイプの定義	92
産業とカテゴリの定義	96
産業とカテゴリについて	96
産業とカテゴリの定義に使用するページ	97
エレメント名の定義	97
エレメント名について	97
PIN コードと PIN 番号について	98
指定日によるエレメント定義の選択処理について	98
エレメント名の定義に使用するページ	100
エレメント名の定義	101
支給定義へのユーザー定義フィールドの追加	112
エレメントに関するコメントの入力と確認	112
予測オプションの選択	112
コンポーネント エレメント情報の更新	113
コンポーネント エレメント情報の更新に使用するページ	113
コンポーネント エレメント情報の更新	113
サフィックスの定義	115
サフィックスについて	115
サフィックスの定義に使用するページ	116
支給/控除エレメントのコンポーネント エレメントおよび累計に対するサフィックスの定義	116
休暇付与エレメントに対するサフィックスの定義	118

第 6 章

データ取得エレメントの定義	121
データ取得エレメントについて	121
システム エレメントの使い方	122
システム エレメントについて	122
システム エレメントのバッチ処理について	123
システム エレメントの変更および表示に使用するページ	127
システム エレメント名の定義	128
システム エレメントの詳細の表示	128
アレイ エレメントの定義	130
アレイ エレメントについて	130
アレイのバッチ処理について	131
アレイ エレメントの定義に使用するページ	133
アレイ エレメント名の定義	134
SQL ステートメント情報の選択と定義	136
アレイ エレメントで使用する処理フォーミュラの定義	141
書き込み可能アレイ エレメントの定義	143
書き込み可能アレイ エレメントについて	144
書き込み可能アレイ エレメントの記憶領域に関する注意事項について	145
書き込み可能アレイ エレメントのバッチ処理について	145
書き込み可能アレイ エレメントの定義に使用するページ	146
書き込み可能アレイ名の定義	146
書き込み可能アレイのレコードとフィールドの定義	147
ブラケット エレメントの定義	148
ブラケット エレメントについて	149
補間法について	149
ブラケット エレメントのバッチ処理について	152
ブラケット エレメントの定義に使用するページ	157
ブラケット エレメント名の定義	158
ブラケット エレメントの検索ルールの定義	158
ブラケットの検索キーと戻り列の定義	160
ブラケットの検索値の入力	162

給与レート コード エLEMENTの定義	162
給与レート コードのマッピングについて	163
支給ELEMENTの定義における給与レート コード ELEMENTの使い方について	166
給与レート コード ELEMENTのバッチ処理について	168
このセクションで使用する共通フィールド	172
給与レート コード ELEMENTの作成に使用するページ	173
給与レート コード ELEMENT名の定義	173
給与レコード コード ELEMENTの作成	174
仮再計算ELEMENTの定義	175
仮再計算ELEMENTについて	175
仮再計算ELEMENTのバッチ処理について	176
仮再計算ELEMENTの定義に使用するページ	177
仮再計算ELEMENT名の定義	178
仮再計算ELEMENTの過去の期間ルール of 定義	178
元の値を上書きするELEMENTの指定	179
次のセグメントに渡される累計の選択	180
現在の期間ELEMENTに値を保存するELEMENTの指定	181
仮再計算を使用したデータの移動	182
再計算/履歴抽出ルール ELEMENTの定義	183
再計算/履歴抽出ルール ELEMENTについて	184
再計算/履歴抽出ルール ELEMENTのバッチ処理について	185
再計算/履歴抽出ルール ELEMENTの定義に使用するページ	187
再計算/履歴抽出ルール名の定義	188
ルール タイプと処理対象の期間 of 定義	188
再計算/履歴抽出ルール ELEMENTのフォーミュラの定義	191

第 7 章

計算ELEMENTの定義	195
計算ELEMENTについて	195
計算ELEMENT名の定義	196
ELEMENT ポインタ	196
デューレーション ELEMENT of 定義	197
デューレーション ELEMENTについて	198

デューレーション エLEMENTのバッチ処理について	204
デューレーション エLEMENTの定義に使用するページ	205
デューレーション名の定義	206
デューレーション エLEMENTの定義	206
期間を対象、または除外にする HR ステータスの定義	211
変数ELEMENTの定義	213
変数ELEMENTについて	213
フィールド フォーマットについて	213
変数のバッチ処理について	214
変数ELEMENTの定義に使用するページ	215
変数名の定義	216
変数の定義	217
日付ELEMENTの定義	218
日付ELEMENTの定義に使用するページ	218
日付名の定義	219
日付の定義、または既存の日付に基づいた新しい日付の計算	219
ELEMENT固有の識別子の割り当て	222
フォーミュラ ELEMENTの定義	223
フォーミュラにおけるELEMENT ポインタについて	223
フォーミュラ ELEMENTの定義に使用するページ	226
フォーミュラ名の定義	227
計算で使用するフォーミュラの定義	228
端数処理ルールおよびELEMENT ポインタ選択の指定	234
フォーミュラの表示	236
メッセージ ELEMENTの定義	237
端数処理ルール ELEMENTの定義	240
端数処理ルール ELEMENTについて	241
端数処理ルール ELEMENTの定義に使用するページ	246
端数処理ルール名の定義	246
数値の端数処理方法の定義	246
カウント ELEMENTの定義	248
カウント ELEMENTについて	248
カウント ELEMENTの定義に使用するページ	249
カウント ELEMENT名の定義	250
カウントの定義	250

比例配分ルールの定義	251
比例配分ルールについて	251
比例配分ルールの定義に使用するページ	252
比例配分ルール エlement名の定義	253
分子と分母の定義	253
ジェネレーション コントロール Elementの定義	256
ジェネレーション コントロール Elementについて	256
ジェネレーション コントロール Elementのバッチ処理について	260
ジェネレーション コントロール Elementの定義に使用するページ	260
ジェネレーション コントロール Element名の定義	261
バッチ処理における特定のElement条件の定義	262
対象、または除外にする従業員ステータス条件の定義	263
対象、または除外にする異動区分/理由コードの組み合わせの定義	264
対象、または除外にする周期コードの定義	264
対象、または除外にするセグメント ステータス条件の定義	265
対象、または除外にするフォーミュラ Elementの定義	266
対象、または除外にする実行タイプの定義	266
ジェネレーション コントロール周期の定義	267
ジェネレーション コントロール周期について	267
ジェネレーション コントロール周期の定義に使用するページ	268
ジェネレーション コントロール周期の定義	268

第 8 章

支給Elementおよび控除Elementの定義	269
支給Elementおよび控除Elementについて	269
支給および控除	270
計算ルールおよびコンポーネント	270
自動作成累計	271
周期およびジェネレーション コントロールによる計算	272
遡及計算	275
前処理フォーミュラおよび後処理フォーミュラ	276
比例配分および端数処理	279
支給および控除の割り当てとポジティブ入力	280

複数変換	281
支給エレメントの定義	281
支給エレメントの設定手順について	282
支給エレメントの定義に使用するページ	283
支給エレメント名の定義	285
支給エレメントのユーザー フィールドの定義	287
支給エレメントの計算ルールの定義	292
支給エレメントの端数処理オプションおよび比例配分オプションの定義	297
支給エレメントの自動作成累計の定義	299
支給エレメントの累計期間の選択	301
支給エレメントの作成済みエレメントの表示	302
支給エレメントの累計先となる累計の指定	303
支給エレメントの上書き	306
控除エレメントの定義	306
控除エレメントの設定手順について	307
純支給額の確認と延滞処理について	307
延滞と遡及処理について	315
回収処理について	318
控除エレメントの定義に使用するページ	319
控除エレメント名の定義	321
控除エレメントのユーザー フィールドの定義	322
控除エレメントの計算ルールの定義	322
控除エレメントの端数処理オプションおよび比例配分オプションの定義	322
延滞情報の定義	323
控除エレメントの自動作成累計の定義	329
控除エレメントの累計期間の選択	329
控除エレメントの作成済みエレメントの表示	330
控除エレメントの累計先となる累計の指定	330
控除の一般受取人の選択	330
控除エレメントの上書き	331
支給と控除の処理の準備	332

第 9 章

エレメント上書きの設定	333
エレメント上書きの設定について	333
エレメント上書きコンポーネントの修正	334
エレメント上書き割り当ての設定	338
設定コンポーネントについて	338
標準の修正手順について	339
代替コンポーネントの修正手順について	339
エレメント上書きの設定に使用するページ	341
共通のエレメント上書き設定の入力	343
標準ページおよびポジティブ入力の上書き設定の入力	346
エレメント割当ページに固有の設定の入力	350
ポジティブ入力の上書きに固有の設定の入力	355
標準コンポーネント上書き例の確認	359
代替コンポーネント上書き例の確認	363

第 10 章

累計の設定	367
累計について	367
累計エレメント	367
バッチ処理における残高累計について	368
遡及処理および累計	369
累計の定義	370
累計の定義に使用するページ	370
累計の名称の設定	371
累計期間およびタイミング情報の定義	371
累計キーの指定	378
累計に含まれるエレメントのリストの定義	379
累計の調整	381
累計の調整について	381

累計の調整に使用するページ	381
累計の調整	382
 第 11 章	
休暇欠勤管理について	387
休暇欠勤の設定と管理タスクについて	387
この章で使用する共通フィールド	388
設定タスク	389
継続タスク	390
休暇欠勤管理機能	391
スケジュール機能	392
休暇付与機能	392
休暇取得機能	394
休暇欠勤入力機能	396
セルフサービス機能	397
バッチ休暇欠勤プロセス	398
処理機能	398
休暇付与プロセス	399
休暇取得プロセス	400
日次データ	400
日次データのシステム エLEMENTの役割	402
休暇取得プロセス (詳細)	404
オンラインの休暇欠勤予測および残数照会プロセス	409
 第 12 章	
休暇欠勤ELEMENTの定義	411
休暇欠勤ELEMENTの設定について	411
事前設定	411
設定のガイドラインおよびその依存関係について	412
休暇欠勤フォーミュラ	413
休暇欠勤タイプと理由の定義	416

休暇欠勤タイプと理由について	416
休暇欠勤タイプの定義に使用するページ	416
休暇欠勤タイプの定義	416
休暇付与エレメントの定義	417
自動作成累計について	418
休暇付与エレメントの定義に使用するページ	419
休暇付与エレメント名の定義と予測の有効化	420
休暇付与数と計算方法の定義	421
端数処理および比例配分の定義	425
自動作成累計のルールの定義	427
累計期間の開始日と長さの定義	428
自動作成累計の表示	431
休暇付与エレメントのサポート エレメント上書きの定義	432
休暇取得エレメントの定義	432
休暇取得エレメントについて	433
休暇取得エレメントの定義に使用するページ	438
休暇取得エレメント名の指定および予測の設定の有効化	440
休暇取得エレメントの一般的な計算ルールの定義	442
日数計算フォーミュラ、関連支給エレメントと控除エレメント、およびその他の休暇取得エレメントの選択	444
休暇取得期間と休暇欠勤のリンクの定義	452
超過取得ルールの定義	457
休暇取得の優先度の定義	459
休暇欠勤予測ルールの定義	461
残数照会ルールの定義	462
ユーザー定義結果フィールドの定義	463
休暇取得エレメントのサポート エレメント上書きの定義	464
休暇欠勤エレメントの使用準備	464
休暇付与残数の予測および照会の設定	465
休暇付与残数の予測および照会を実行可能にする方法について	465
トランザクション定義の作成と休暇欠勤セルフサービスのフィルタに使用するページ	468
トランザクション定義の作成	469
ステータスによる休暇欠勤イベントのフィルタ	470

第 13 章

スケジュールの使い方	473
勤務スケジュールについて	473
スケジュールの作成と表示	479
スケジュールの作成について	479
スケジュールの定義と表示に使用するページ	480
スケジュール グループの定義	482
シフトの設定	482
勤務日の定義	489
スケジュール定義の作成	490
スケジュール定義のシフト詳細の定義	493
スケジュール カレンダーの表示	495
勤務スケジュールの確認	497
スケジュールの確認に使用するページ	497
スケジュールの確認	497
休日スケジュールの定義	498
休日スケジュールの定義に使用するページ	498
勤務スケジュールの割り当て	498
勤務スケジュールの割り当てについて	499
勤務スケジュールの割り当てに使用するページ	499
受給者への勤務スケジュールの割り当て	501
個人スケジュール定義の作成	504
交代勤務の比較	504
管理者用セルフサービス スケジュール機能の使い方	505
スケジュールの管理に使用するページ	506
スケジュールの管理	507
シフトの上書き	511
スケジュール管理のデフォルト オプションの選択	512
要員の変更	514
スケジュールのコピー	514
スケジュールの交換	515
スケジュールの割り当てと作成	515

従業員用セルフサービス スケジュール機能の使い方	516
スケジュール基本設定の入力とスケジュールの表示に使用するページ	516
スケジュールの基本設定の設定	516

第 14 章

組織構造の定義	519
組織構造について	519
エレメント グループの定義	522
エレメント グループについて	522
エレメント グループの定義に使用するページ	523
エレメント グループ名の設定	523
エレメント グループへのエレメントの挿入	524
有資格グループの定義	528
有資格グループについて	528
有資格グループの定義に使用するページ	528
有資格グループへのエレメント グループの挿入	529
支給元の定義	529
支給元について	530
支給元の定義に使用するページ	531
支給元の住所情報の入力	531
支給元の処理詳細の入力	532
支給グループの定義	536
支給グループについて	536
支給グループ デフォルトの上書きについて	536
支給グループの定義に使用するページ	537
支給グループのパラメータの定義	537
支給グループの端数処理、比例配分、および周期のデフォルトの定義	541

第 15 章

エレメント処理の定義	545
エレメントの処理について	545

この章で使用する共通フィールド	546
セクションについて	546
セクション タイプ	547
標準セクション	548
ポジティブ入力作成セクション	548
受給者セクション	552
サブプロセス セクション	552
休暇取得セクション	557
プロセス リストについて	559
プロセス リストの機能	559
バッチ処理とプロセス リスト マネージャ	560
プロセス リストのエLEMENTとセクションの順序	562
プロセス リストの遡及処理に関する注意事項	562
セクションの設定	563
セクションの設定について	563
セクションの設定に使用するページ	565
セクション名の設定	565
セクションを構成するELEMENTの選択	566
プロセス リストの受給者セクションの作成	570
プロセス リストの設定	571
プロセス リストについて	571
プロセス リストの設定に使用するページ	573
プロセス リスト名の設定	573
プロセス リストを構成するセクションの指定	574

第 16 章

カレンダーの使い方	577
カレンダーについて	577
この章で使用する共通フィールド	577
カレンダー支給プロセス フロー	579
カレンダーの作成	580
実行タイプの定義	581
実行タイプの定義に使用するページ	581

処理パラメータの指定	581
期間の作成	585
期間の作成に使用するページ	585
単一期間の定義	586
自動期間作成の使い方	589
単一カレンダーの作成	591
事前設定	592
単一カレンダーの作成に使用するページ	593
カレンダーと受給者選択条件のリンク	594
カレンダーのジェネレーション コントロール周期の上書き	598
カレンダーのサポート エLEMENTの上書き	599
ELEMENTのカレンダーからの除外	600
カレンダーのセットの作成	601
事前設定	601
カレンダーのセットの作成に使用するページ	602
カレンダーのセットの作成	602
カレンダー グループの定義	605
カレンダー グループについて	606
カレンダー グループの作成に使用するページ	608
カレンダー グループの作成	608
受給者のカレンダー上書き指示の入力	610
カレンダー上書きについて	610
受給者のカレンダー上書き指示の入力に使用するページ	611
上書きするカレンダーの選択	611
期間セグメントの処理指示の入力	613

第 17 章

ポジティブ入力の使い方	615
ポジティブ入力について	615
ポジティブ入力の特徴	615
ポジティブ入力のソース	616
インスタンスとバンドル	617
資格ルール	620

アクション タイプと処理ルール	621
分割に関する注意事項	624
バッチ処理とポジティブ入力	629
ポジティブ入力の作成	630
ポジティブ入力を作成する方法	631
ポジティブ入力を作成する際のヒント	631
最終決定または承認済みカレンダーのポジティブ入力	632
ポジティブ入力の作成に使用するページ	632
1 人の受給者に対するポジティブ入力の作成	633
複数の受給者に対するポジティブ入力の作成	637
ポジティブ入力詳細の上書き	639
ポジティブ入力を作成するテンプレート ベースのページの作成および使用	644
テンプレートについて	644
テンプレートの処理に使用するページ	645
ポジティブ入力用のデータ入力ページの作成	645
テンプレートで作成したページでのポジティブ入力の作成	649
ポジティブ入力の遡及調整	652
遡及調整について	652
ポジティブ入力の訂正	654
ポジティブ入力の確認	654

第 18 章

上書きの設定	655
上書きについて	655
この章で使用する共通フィールド	656
上書きレベル	657
主要エレメントの上書き	657
サポート エレメントの上書き	658
上書きに対する開始日および終了日のロジック	660
受給者上書きと分割	660
支給元上書きの定義	664
支給元上書きの処理ルールについて	664
支給元上書きの定義に使用するページ	665

支給元に関連付けられたエレメントの値の上書き	665
支給グループ上書きの定義	666
支給グループ上書きについて	666
支給グループ上書きの定義に使用するページ	667
受給者上書きの定義	667
受給者上書きについて	667
受給者上書きの定義に使用するページ	670
受給者別の支給および控除の割り当てまたは無効化	672
エレメント別の支給および控除の割り当てまたは無効化	676
受給者のコンポーネント値、ジェネレーション コントロール、周期、延滞、および変数の上書き	679
受給者のサポート エレメントの値の上書き	688
受給者上書きの処理	688
支給カレンダー上書きの定義	689
エレメント使用上書きの定義	690
エレメント定義上書きの定義	690
エレメント定義上書きについて	690
エレメント定義上書きの定義に使用するページ	691
ポジティブ入力を使った上書きの定義	691
エレメント割り当て上書き、ポジティブ入力、およびエレメント定義の間の競合の管理	692
補足ルール インスタンスの作成	707
バッチ処理での上書きの変換	712

第 19 章

エレメントの資格チェックと変換	717
エレメントの資格チェック	717
エレメントの変換	721
エレメントの変換	722
定義の指定日	722
開始日と終了日	722
ジェネレーション コントロール	722
延滞	723
支給と控除	723

上書き	724
再計算オプション	724
 第 20 章	
支給または控除の複数変換	727
複数変換について	727
この章で使用する共通フィールド	729
ポジティブ入力を使用した複数変換	729
ポジティブ入力を使用した複数変換に使用するページ	731
エレメント割当を使用した複数変換	731
エレメント割当を使用した複数変換について	731
ユーザー フィールドのないエレメント割当を使用した複数変換	732
ユーザー フィールドのあるエレメント割当を使用した複数変換	733
エレメント割当を使用した複数変換に使用するページ	736
累計ドライバを使用した複数変換	737
累計ドライバを使用した複数変換について	737
累計ドライバを使用する支給と控除の基本ルールの定義	740
累計ドライバを使用した複数変換に使用するページ	742
ユーザー フィールド セットのあるエレメント割当とポジティブ入力との相互作用の定義 ...	743
ユーザー フィールド セットの定義	744
ユーザー フィールド セットへの値の入力	745
ユーザー フィールドのある場合の支給/控除割当とポジティブ入力のマッチング	745
処理順序の定義	750
支給/控除割当とポジティブ入力があり、ドライバを使用した複数変換の管理	756
ユーザー フィールド セットの定義	756
ユーザー フィールド セットへの値の入力	757
累計ドライバに基づいて実行されたエレメント変換のマッチング	757
処理順序の定義	761
エレメントの資格の定義	764
エレメントの資格について	764
資格に関する追記事項	766
エレメントが複数変換される場合の計算ルールのコンポーネントの定義	767
複数変換を伴う分割について	768

累計ドライバを使用する場合と使用しない場合のエレメント分割	768
エレメント分割の比例配分	772
ユーザー フィールド セットが定義されている場合の分割カレンダーでのポジティブ入力 . 775	
エレメント分割がある場合のユーザー フィールド セットへの値の入力	775
分割がある場合の処理順序の定義	780
ユーザー フィールド セットが異なる複数の変換がある場合の補足ルール インスタンスの作成 . 785	
ユーザー フィールド セットを持つエレメント割当とポジティブ入力が複数存在する場合の補 足ルール インスタンスの作成	785
補足ルール インスタンスの処理順序について	792
複数回変換されるエレメントのデータの取得	796
延滞の定義	797
複数変換でのジェネレーション コントロールの使用	798
常時再計算オプションの使用	798
ブラケットとフォーミュラを使用したユーザー フィールドへのデータのロード	802
遡及処理に関する定義	802
ユーザー フィールド レベルによるデルタのグループ化	803
遡及プロセス上書きの繰り越しオプション	807
ユーザー フィールドおよびユーザー フィールド レベルによるデルタの繰り越し	807
未処理遡及デルタの管理	809
遡及再計算オプションの定義	809
スライス的一致と不一致の定義	810
システム エレメントの使い方	810

第 21 章

給与計算の処理	813
給与計算処理について	813
処理機能	814
処理の準備	815
処理の順序	816
処理の概念	817
ステータス コードと処理インジケータ	820

この章で使用する共通フィールド	825
処理の指示の入力	825
処理の指示の入力とラン コントロール パラメータの定義に使用するページ	826
処理の指示の入力	826
処理の再実行	832
デバッグとチューニング	833
グループ リストの作成	835
グループ リストの作成に使用するページ	836
グループ リストの作成	836
ストリーム処理の作成	837
ストリーム処理について	837
事前設定	837
ストリームの作成に使用するページ	838
ストリームの作成	838

第 22 章

給与計算結果の表示と最終決定	841
この章で使用する共通フィールド	842
処理結果の表示	843
ログ ファイルの表示	844
処理統計の表示	850
処理統計の表示に使用するページ	851
カレンダー グループ別の処理統計の表示	851
カレンダー別の処理統計の表示	853
受給者反復処理結果リストの表示	854
受給者反復処理結果リストの表示に使用するページ	854
受給者反復処理結果リストの表示	854
受給者メッセージの表示	856
受給者メッセージの表示に使用するページ	857
受給者メッセージの確認	857
受給者ステータスの表示および受給者の処理の指示の更新	859
受給者ステータスの表示と受給者の処理の指示の更新に使用するページ	859
受給者ステータスと処理の指示の確認	859

カレンダー別結果の表示	862
カレンダー別結果の表示に使用するページ	863
受給者のセグメント情報の表示	864
セグメントの詳細情報の表示	865
カレンダー別の支給と控除の表示	867
変換詳細の表示	869
カレンダー別累計の表示	869
カレンダー別サポート エレメントの表示	870
ポジティブ入力の結果の表示	871
ポジティブ入力の結果の表示に使用するページ	872
休暇取得処理からのポジティブ入力の表示	874
受給者に対して処理された全てのポジティブ入力の表示	874
システムで自動作成されたカレンダー別ポジティブ入力の表示	876
サポート エレメント情報の表示	877
休暇取得処理の日次結果の表示	877
休暇取得処理の日次結果の表示に使用するページ	878
休暇欠勤処理の日次結果の表示	880
休暇付与残数情報の表示	884
受給者の欠勤時間数の表示	886
ユーザー定義フィールドの値の表示	887
スケジュール設定フィールド 1 ～ 4 の値の表示	888
設定フィールド 1 ～ 4 の値の表示 (代替勤務スケジュールがアクティブな場合)	890
遡及計算のデルタ値の表示	890
デルタ値の表示に使用するページ	891
デルタ値の表示	891
カレンダー グループ別結果の表示	893
カレンダー グループ別結果の表示に使用するページ	894
処理結果管理ビューの定義	895
事前設定	895
処理結果管ビューの定義に使用するージ	896
処理結果管理ビューの設定	896
処理結果管理ビューの表示	899
処理結果管理ビューについて	899
処理結果管理ビューの表示に使用するページ	901
サマリ情報の表示	902

サポート エLEMENTの表示	903
支給と控除の表示	904
勤務管理累計の表示	905
休暇欠勤の表示	906
ELEMENT変換チェーンの表示	907
ELEMENT変換チェーンの表示に使用するページ	907
変換されたELEMENTの表示	907
ELEMENTの変換順序の表示	909
バッチ処理エラーおよびデータ入力エラーの修正	910
バッチ処理エラーについて	910
バッチ処理エラー メッセージについて	911
受給者メッセージ レポートの作成に使用するページ	916
給与計算メッセージ レポートの作成	916
給与計算実行または休暇欠勤処理実行の最終決定	918
給与計算実行または休暇欠勤処理実行のキャンセル	919
特殊な状態の処理	920
給与計算データのレポート	921
給与計算結果	922
給与計算データのレポートに使用するページ	922
給与計算結果レポートの作成	922

第 23 章

オフサイクル トランザクションの設定	929
オフサイクル設定について	929
オフサイクル リクエストの設定	930
オフサイクル リクエストの設定手順	930
オフサイクル リクエスト ページの設定に使用するページ	931
オフサイクル リクエストの設定	931

第 24 章

オフサイクル処理の管理	937
-------------------	-----

オフサイクル処理について	937
この章で使用する共通フィールド	938
オンサイクル処理とオフサイクル処理の相違点	940
オフサイクル トランザクションのタイプ	940
オフサイクル処理の機能	941
オフサイクル リクエストの入力手順	941
処理手順および後処理手順	943
オフサイクル バッチ処理	945
オフサイクル ルールの設定に使用するシステム エlement	948
オフサイクル トランザクションの起動	948
オフサイクル トランザクションの準備入力について	949
オフサイクル トランザクションの開始に使用するページ	949
オフサイクル リクエストの作成	950
基本のオフサイクル情報の入力	952
手動支給の記録	954
手動支給の記録について	954
手動支給の入力に使用するページ	955
手動支給詳細の記録	955
最終決定済み計算結果の訂正または取り消し	959
給与計算結果の訂正について	959
給与計算結果の訂正に使用するページ	964
行の修正	966
追加支給の作成	969
追加支給について	969
追加支給の作成に使用するページ	969
追加支給の指示の入力	970
前払いの処理	972
前払いについて	972
前払いの処理に使用するページ	973
前払い支給の指示の入力	973
オフサイクル トランザクションの処理および結果の表示	976

第 25 章

休暇欠勤の入力と処理	979
休暇欠勤イベントの入力、更新、および無効化	979
休暇欠勤入力について	980
休暇欠勤イベントの入力、更新、および無効化に使用するページ	981
休暇欠勤の入力、更新、および無効化	981
休暇欠勤に関する詳細情報の入力	987
休暇欠勤入力時における休暇付与残数の予測	995
休暇付与残数の予測について	995
休暇付与残数の予測に使用するページ	997
休暇付与残数予測結果の確認	997
予測メッセージの確認	1000
現在の休暇付与残数の表示と休暇付与残数照会プロセスの実行	1001
残数照会プロセスの開始と残数の表示に使用するページ	1001
受給者の休暇付与残数の表示	1002
残数照会プロセスの実行	1003
休暇付与残数の調整と上書き	1004
休暇付与の調整に使用するページ	1004
単一カレンダー期間の受給者の休暇付与調整	1004
周期ベースの休暇付与ルールの再定義	1006
日次休暇欠勤レコードの確認	1008
休暇付与および休暇取得プロセスの実行	1010
休暇付与および休暇取得プロセス	1010
休暇欠勤と分割	1014
休暇欠勤と遡及処理	1015
休暇欠勤データのレポート	1016
休暇欠勤処理結果レポートの作成に使用するページ	1016
休暇欠勤結果レポートの作成	1016

第 26 章

休暇欠勤セルフサービス機能の設定	1019
セルフサービスの設定タスクについて	1019
前提条件	1020
この章で使用する共通フィールド	1020
休暇欠勤のセルフサービス トランザクションの設定タスク	1020
国別のセルフサービス休暇欠勤ルール of 定義	1021
国別のセルフサービス休暇欠勤ルール of 定義に使用するページ	1021
休暇付与残数を表示するフィールド of 選択	1022
休暇欠勤履歴を表示するフィールド of 選択	1023
予測 of オプションおよびフィールド of 選択	1025
休暇残数エリメント of 入力と表示オプション of 選択	1026
休暇欠勤イベント of 削除オプション of 選択	1027
休暇取得エリメント別のセルフサービス休暇欠勤ルール of 定義	1028
PeopleSoft 提供 of 承認プロセス ID と承認フレームワーク イベントについて	1028
休暇欠勤期間と終了日計算について	1030
予測メッセージについて	1035
休暇取得エリメント別のセルフサービス休暇欠勤ルール of 定義に使用するページ	1035
休暇リクエスト of ユニット、管理ルール、および表示ルール of 定義	1037
休暇欠勤日 of 入力ルール of 定義	1041
ユーザー フィールド of 定義	1043
予測ルール of 定義	1045
予測メッセージ of カスタマイズ	1047
設定可能セクション テンプレートと延長された休暇欠勤コンポーネント of リンク	1048
セルフサービス休暇リクエスト of 予測ルール of 定義	1049
セルフサービス予測ルール of 定義に使用するページ	1049
セルフサービス休暇付与残数 of 予測ルール of 定義	1050
セルフサービス残数照会プロセス of ルール of 定義	1051
セルフサービス休暇欠勤ページ of テキスト of 表示または修正	1051

第 27 章

セルフサービス休暇リクエストの入力と承認	1053
前提条件	1053
休暇リクエスト トランザクションについて	1054
従業員セルフサービス ページの管理	1055
従業員が休暇リクエストの管理に使用するセルフサービス ページ	1056
休暇のリクエスト	1057
月次スケジュールの表示	1065
休暇残数の表示	1066
休暇リクエスト履歴の表示	1068
休暇リクエスト詳細の表示	1070
休暇付与残数の予測	1071
職務名の選択	1073
PeopleSoft Enterprise 勤務管理セルフサービスによる従業員の休暇欠勤の管理	1074
管理者セルフサービス ページの管理	1076
管理者が休暇リクエストの管理に使用するセルフサービス ページ	1076
従業員の休暇リクエストの代行	1078
従業員休暇リクエストの表示	1080
休暇残数の表示	1082
休暇リクエストの承認と却下	1083
休暇リクエスト履歴の確認	1086
勤務管理セルフサービスによる管理者の休暇欠勤の管理	1087

第 28 章

休暇管理での承認の使い方	1091
承認プロセスについて	1091
承認フレームワークと休暇管理	1092
承認トランザクションの設定	1095
承認プロセスの設計について	1095

第 29 章

休暇管理での委任の使い方	1097
委任について	1097
委任フレームワーク	1098
休暇管理のために用意されている委任設定の確認	1098
休暇管理のために用意されている委任設定	1098
ワークフロー トランザクションの確認	1099
委任の権限リストとロールの確認	1100
インストール設定の定義	1101
委任トランザクションの確認	1101
セルフサービスによる委任リクエストの追加	1102
セルフサービスによる委任の設定手順	1102
休暇欠勤に関する権限の委任例	1103

第 30 章

トリガの設定	1111
トリガについて	1111
トリガの用途	1111
トリガ テーブルのデータ	1113
トリガの作成	1121
使用済みまたは不要なトリガの管理	1126
支給および控除の割り当てを使用した分割トリガ	1130
トリガの手動定義	1131
トリガ定義の設定	1131
トリガ定義の設定について	1132
トリガ定義の設定に使用するページ	1139
トリガの定義	1139
アクションを起動するフィールド値の指定	1144
トリガの導入	1148
自動作成されたトリガの管理とトリガの手動定義	1150

トリガの管理とトリガの手動入力について	1150
トリガの管理とトリガの手動入力に使用するページ	1151
分割トリガの表示、追加、またはキャンセル	1152
遡及トリガの表示、追加、またはキャンセル	1157
反復トリガのトリガ ステータスの表示と変更	1164
カレンダー グループ ID 別反復トリガの表示	1168
PeopleSoft 提供のトリガの確認	1174

第 31 章

一括トリガの設定	1177
一括トリガについて	1177
Generate_Triggers 関数の宣言と呼び出し	1179
一括トリガの設定	1180
トリガの設定に使用するページ	1180
一括トリガの定義	1181
SQL オブジェクトの使用	1182
SQL ステートメントの表示	1183
一括トリガ アクション イベントの管理	1183
トリガ イベントの処理に使用するページ	1184
イベントの削除	1185
イベントの手動展開	1186
遡及トリガの表示	1186
反復トリガの表示	1187

第 32 章

分割の定義	1189
分割の設定について	1189
分割のタイプ	1190
期間、セグメント、スライスにおける開始日と終了日の関係	1191
エレメント変換の基本ルール	1193
有効日によるエレメント定義	1196

累計と累計メンバーのスライスに関するルール	1196
親エレメントと子エレメントの変換のルール	1197
分割と受給者上書き	1204
比例配分と分割	1208
遡及処理と分割	1211
分割を伴うポジティブ入力	1212
分割システム エレメント	1212
分割の設定	1213
分割について	1214
分割の設定に使用するページ	1214
分割イベントと分割タイプの定義	1215
トリガ フィールドの定義	1217
分割の管理	1217
分割の管理に使用するページ	1218
分割トリガの表示、追加、およびキャンセル	1218

第 33 章

遡及処理の定義	1219
遡及方法について	1219
この章で使用する共通フィールド	1221
遡及処理の一般ルールについて	1222
遡及処理の例	1222
再計算カレンダーの管理	1225
遡及デルタの計算と調整処理	1229
残高累計のロード	1237
再計算結果の保存	1238
前回の結果の取り消し	1239
遡及期間と繰越遡及期限の設定	1240
遡及処理の設定	1242
遡及処理の設定について	1242
遡及処理の設定に使用するページ	1245
デフォルト遡及方法の定義	1247
遡及処理の定義	1250

エレメントの繰越と遡及上書きの定義	1257
トリガ イベント ID の定義	1267
支給元レベルでの遡及処理の遡及期間制限および対象期間制限の定義	1270
受給者レベルでの遡及処理制限の定義	1276
未処理遡及デルタの管理	1278
遡及処理に影響するその他のページ	1283
複雑な遡及処理について	1286
分割と遡及	1287
繰越遡及での支給キーの使い方	1299
遡及とポジティブ入力	1305
遡及削除	1306
遡及追加	1307
通貨変更	1308
遡及処理のヒント	1308

第 34 章

銀行振込の定義	1311
銀行振込について	1311
銀行振込処理	1312
設定要件	1312
バッチ処理	1314
銀行振込処理のフロー	1315
銀行と支店の定義	1317
銀行と支店の定義について	1317
銀行および銀行支店の設定に使用するページ	1317
資金供給の設定	1318
資金供給の設定に使用するページ	1318
FB フォーマットの定義	1319
送金元銀行の定義	1320
支給元のデフォルト送金元銀行の定義	1320
支給元と送金元銀行の関連付け	1321
振込スケジュールの定義	1322
振込スケジュールについて	1323

振込スケジュールの定義に使用するページ	1324
支給決済日の指定	1324
控除受取人の定義	1326
控除受取人の定義について	1326
控除受取人の定義に使用するページ	1327
控除受取人の定義	1327
控除受取人の振込スケジュールの選択	1329
控除と受給者に対する受取人の割り当て	1330
受取人の割り当てについて	1330
控除と受給者に対する受取人の割り当てに使用するページ	1332
控除と受給者に対する個人受取人の割り当て	1333
受取人の口座情報の定義	1334
控除に対する一般受取人の割り当て	1335
受給者の純支給額配分の定義	1335
受給者の純支給額配分について	1336
受給者の純支給額配分情報の定義に使用するページ	1336
受給者の銀行口座情報の入力	1337
(MEX) 銀行間決済コードの指定	1339
純支給額配分の指定	1340
銀行振込処理の実行	1342
銀行振込処理について	1343
銀行振込処理の実行に使用するページ	1345
カレンダー実行用の純支給額と控除額の作成	1345
銀行振込結果のカレンダー グループ別確認	1347
銀行振込結果について	1347
銀行振込処理結果の確認に使用するページ	1347
純支給額の表示	1348
控除額表示	1352
国別処理での銀行情報の使用	1354
銀行振込での遡及計算の使用	1355
銀行振込の遡及処理について	1355
デフォルト遡及方法を訂正遡及とする指定	1356
デフォルト遡及方法を繰越遡及とする指定	1356
控除処理の詳細の確認	1357
[銀行振込処理] チェック ボックスをオフにした場合の銀行振込処理の例	1357

[現在の結果と調整の合計を使用] グループ ボックスの銀行振込処理の指定	1359
例: デフォルト遡及方法に繰越を選択して [銀行振込処理] チェック ボックスをオンにした場合の処理例	1361

第 35 章

支給の照合	1363
支給照合処理について	1363
事前設定	1364
銀行ファイル情報の入力	1365
銀行ファイルについて	1365
銀行ファイル情報の入力に使用するページ	1365
銀行ファイル情報の入力	1365
照合処理の実行	1368
照合処理の実行に使用するページ	1368
支給照合処理の実行	1369
トランザクションの表示	1369
例外トランザクションの表示に使用するページ	1370
例外トランザクションの表示	1370
照合済みトランザクションの表示	1371
例外の解決	1372
例外の解決に使用するページ	1372
トランザクションの手動照合	1372

第 36 章

アプリケーションとリスト セットの管理	1377
アプリケーションとリスト セットについて	1377
事前設定	1380
この章で使用する共通フィールド	1380
アプリケーションの設定	1380
アプリケーション定義の設定に使用するページ	1381
アプリケーションの定義	1381
属性値の定義	1384

リストセットの設定	1385
リスト セットの定義に使用するページ	1385
リスト セットの定義	1385
エレメント グループ属性の入力	1388

第 37 章

ユーティリティの使い方 1393

グローバル ペイロールのユーティリティについて	1393
この章で使用する共通の用語	1394
ユーティリティ使用ガイドライン	1396
パッケージの作成とアップグレード	1397
基本言語と関連言語	1399
バージョン管理機能	1401
削除機能	1402
UNIX ディレクトリと NT ディレクトリの関連付け	1402
エレメント関係の定義	1403
エレメント関係の定義に使用するページ	1404
エレメント マップの再作成	1404
エラーの確認	1409
エレメント マップへのレコードの追加	1410
エレメント マップへの規定外ルールの追加	1410
エレメント関係の表示	1412
エレメント関係の表示に使用するページ	1412
目的エレメントに使用されるエレメントの表示	1412
目的エレメントを使用するエレメントの表示	1414
規定パッケージの作成とエクスポート	1415
規定パッケージの作成とエクスポートの方法について	1416
規定パッケージの作成とエクスポートに使用するページ	1418
規定パッケージの名称設定	1420
規定パッケージのエレメントの選択 (エレメント名別)	1422
規定パッケージに含めるエレメントの選択 (属性別)	1424
選択条件の SQL Where 句の変更	1430
規定パッケージに含めるエレメントの選択 (バージョン別)	1431

パッケージおよびスクリプトの作成とパッケージのエクスポート	1432
規定パッケージに含まれるエレメントの表示	1436
バージョン別パッケージのバージョン詳細の表示	1438
パッケージ ステータスの表示	1438
スクリプトの表示	1439
規定パッケージのインポート、比較、およびアップグレード	1440
規定パッケージのインポート、比較、およびアップグレードについて	1441
比較レポートの実行	1445
規定パッケージのインポート、比較、およびアップグレードに使用するページ	1449
パッケージ定義の表示	1450
インポート処理、比較処理、およびアップグレード処理の開始	1451
比較処理の結果の確認	1459
アップグレード時のエラー確認	1464
パッケージ ステータスの表示	1465
スクリプトの表示	1466
エレメント名の変更	1467
エレメント名の変更方法について	1467
エレメント名の変更に使用するページ	1468
エレメント名の変更	1469
規定外パッケージの作成とエクスポート	1469
規定外パッケージの作成とエクスポートの方法について	1470
規定外パッケージの作成とエクスポートに使用するページ	1472
規定外パッケージの名称設定	1475
選択条件の定義	1476
選択条件の SQL Where 句の変更	1478
規定外パッケージのエレメントの表示	1479
スクリプトの作成と規定外パッケージのエクスポート	1480
規定外パッケージのスクリプトの表示	1482
パッケージ ステータスの表示	1483
規定外パッケージのインポート、比較、およびアップグレード	1484
規定外パッケージのインポート、比較、およびアップグレードの方法について	1484
規定外パッケージのインポート、比較、およびアップグレードに使用するページ	1486
規定外パッケージの名称設定	1491
規定外エレメント情報のインポート	1492
規定外パッケージとターゲット データベースのエレメントの比較	1493

規定外レコードのインポート	1495
規定外パッケージのアップグレード	1496
規定外パッケージのスキプトの表示	1497
パッケージ ステータスの表示	1499
パッケージのコピー	1499
パッケージのコピーに使用するページ	1500
規定パッケージとその選択条件のコピー	1500
規定外パッケージとその選択条件のコピー	1501
バージョン番号の割り当てとバージョン別パッケージ作成	1501
バージョン番号の割り当てとバージョン別パッケージ作成の方法について	1501
バージョン番号の割り当てとバージョン別パッケージ作成に使用するページ	1503
エレメントに対する新規バージョン番号の割り当て	1503
バージョン関係の定義	1505

第 38 章

セキュリティの定義	1507
セキュリティについて	1507
エレメント使用先セキュリティ	1508
所有者セキュリティ	1508
上書きレベル	1508
この章で使用する共通の用語	1509
ユーザー アクセスの制限	1509
各国固有のエレメントへのアクセスの制限方法について	1509
ユーザー アクセスの制限に使用するページ	1510
ユーザー アクセス用エレメントの定義	1511
エレメント セキュリティ	1512
受給者セキュリティ	1520
HR セキュリティ	1521
グループ セキュリティ	1524

第 39 章

PeopleSoft Enterprise 一般会計との統合	1525
一般会計インターフェイスについて	1525
この章で使用する共通フィールド	1526
グローバル ペイロールと一般会計の統合	1527
グローバル ペイロールと一般会計のインターフェイスのインテグレーション ポイントについて	1527
グローバル ペイロールと一般会計の統合の手順について	1529
グローバル ペイロールと一般会計の統合に使用するページ	1531
一般会計への費用の割り当てに使用するチャートフィールドの選択	1533
一般会計処理用の支給、控除、累計のグループ化	1533
一般会計勘定科目へのチャートフィールドとグループ コードのマッピング	1534
受給者のチャートフィールド値の上書き	1537
ポジティブ入力レベルでのチャートフィールドの上書き	1539
一般会計処理の実行とデータの送信	1539
一般会計への給与計算データの送信について	1539
一般会計処理の実行とデータの送信に使用するページ	1540
一般会計への給与計算データの送信	1540
一般会計勘定科目のないトランザクションの表示	1543
グローバル ペイロール会計トランザクションのリセット	1544
一般会計の遡及処理の定義	1544
デルタの二重計上	1544
国ページ	1546
一般会計データの遡及調整について	1548

第 40 章

PeopleSoft EnterpriseOne 一般会計との統合	1551
一般会計インターフェイスについて	1551
Enterprise データベースでのインテグレーション設定	1553
Enterprise データベースでのインテグレーションの設定に使用するページ	1553
サービス オペレーション バージョンとハンドラがアクティブであることの確認	1554

ノード定義の確認	1556
コネクタ プロパティの設定	1557
ルーティング設定の確認	1558
キュー設定の確認	1561
PeopleSoft Enterprise HRMS データベースのデータの表示	1563
サービス オペレーション ステータスの確認とインポート データの表示に使用するページ .	1563
一般会計ビジネス ユニット テーブルにインポートされたデータを表示するクエリーの作成 .	1564
一般会計勘定科目テーブルにインポートされたデータを表示するクエリーの作成	1565
ターゲット製品とターゲット システムの設定	1566
ターゲット製品とターゲット システムの設定について	1566
会計行貸借一致のデフォルト設定について	1567
このセクションで使用する共通フィールド	1568
ターゲット製品とターゲット システムの設定に使用するページ	1569
ターゲット製品の設定	1569
ターゲット システムの設定	1570
コスト センターと勘定科目のマッピング	1571
グローバル ペイロールと一般会計の統合に使用するコスト センターのマッピングについて .	1572
コスト センターと勘定科目をグローバル ペイロール システムにマッピングする際に使用する ページ	1575
一般会計への費用の割り当てに使用するチャートフィールドの選択	1576
一般会計処理用の支給、控除、累計のグループ化	1576
一般会計勘定科目へのチャートフィールド値とエレメント グループのマッピング	1576
コスト センターのマッピングに使用するチャートフィールドの選択	1577
支給元チャートフィールドの指定	1578
コスト センターへのチャートフィールド値のマッピング	1578
為替レートを検索	1580
為替レートの統合について	1580
通貨の端数処理について	1581
為替レートを検索に使用するページ	1582
市場レートのリクエスト	1583
会計行の作成とグローバル ペイロールから一般会計への会計行の転記	1584
会計行の転記について	1585

グローバル ペイロールの転記処理について	1586
グローバル ペイロール会計行の作成と転記に使用するページ	1588
グローバル ペイロール会計行の作成	1590
グローバル ペイロール会計行の転記	1590
トランザクション ステータスの表示	1593
セグメントごとに作成されたログ情報の表示	1598
グローバル ペイロール会計トランザクションのリセット	1599
バッチ転記でのデータのエラー処理	1600
データのエラー処理について	1600
消去または再処理するデータの特定制	1602
給与会計行のリセットと再転記	1603

第 41 章

PeopleSoft Enterprise 勤務管理との統合 1605

勤務管理で記録した給与支給対象時間に対するグローバル ペイロールでの給与計算の方法につい て	1605
勤務管理との統合によりグローバル ペイロールで実行されるタスク	1605
勤務管理での給与支給対象時間の作成方法	1606
給与計算実行を起動したときの処理の仕組み	1607
計画の注意点	1608
勤務管理との統合のためのグローバル ペイロールの設定	1609
勤務管理と統合するためのグローバル ペイロールの設定に使用するページ	1610
チャートフィールドと変数のマッピング	1611
勤務時間レポート コードと実行タイプのマッピング	1613
給与支給対象時間のトリガ作成	1614
タスクとサポート エLEMENTのマッピング	1615
勤務管理データを使用した給与計算の実行	1616
遡及処理について	1616
給与計算実行の準備	1617
給与計算実行の起動	1618
給与計算実行のキャンセル	1620
給与支給対象時間入力の給与支給ステータスの更新	1620
給与支給対象時間のステータスの更新	1620

給与支給対象時間入力の給与支給ステータスの更新に使用するページ	1622
給与支給ステータスの更新と費用データの返送	1622
勤務管理との勤務スケジュールの共有	1624

第 42 章

変動報酬機能との統合	1627
変動報酬の報奨について	1627
変動報酬との統合のためのグローバル ペイロールの設定	1627
変動報酬報奨の承認	1628
報奨の取得と検証	1628
変動報酬データのインテグレーション ポイント	1629
変動報酬報奨の処理	1629
変動報酬報奨の処理に使用するページ	1630
報奨の取得	1630
報奨の却下	1634
報奨の削除	1634
変動報酬管理への給与計算結果の通知	1635

第 43 章

PeopleSoft Enterprise パフォーマンス マネジメントとの統合	1637
パフォーマンス マネジメント インターフェイスについて	1637
グローバル ペイロール データベースの設定データの確認	1638
配布された設定データの確認に使用するページ	1638
配布された書込可能アレイの確認	1639
配布された書込可能アレイ定義の確認	1640
配布されたレポート データの確認	1640
レポート データ処理詳細の確認	1641
配布された GP_PAYE ジョブ定義の確認	1642
グローバル ペイロールの EPM テーブルへのデータのロード	1642

第 44 章**配布されたエレメントの表示 1645**

配布されたエレメントの表示方法について 1645

GP_ELEMENTS クエリーのアクセスと実行に使用するページ 1646

GP_ELEMENTS クエリーへのアクセス 1646

GP_ELEMENTS クエリーの実行 1648

第 45 章**レポート データの作成 1651**

レポート データ作成について 1651

データのレポート処理 1651

フィルタ 1655

レポート データと分割 1656

出力テーブルの定義 1657

ユーザー定義パラメータの定義 1658

バッチ処理の設定 1658

リアルタイム処理の設定 1660

レポート データを使用するトランザクションの作成 1660

この章で使用する共通フィールド 1661

レポート データの定義 1661

レポート データの定義に使用するページ 1662

出力テーブルと主要入力テーブルの選択 1662

フィールドのマッピング 1665

入力フィルタの作成 1670

レポート データの検証 1670

レポートの検証 1671

レポート データの検証に使用するページ 1671

レポート検証パラメータの入力 1671

レポート データの利用 1676

第 46 章

汎用レポートの設定と実行	1679
汎用レポートについて	1679
汎用レポートの設定	1680
汎用レポートの設定に使用するページ	1681
分割レベルの定義	1681
汎用レポート パラメータの定義	1683
汎用レポートの行と列の定義	1685
汎用レポートの実行	1688
汎用レポートの実行に使用するページ	1689
汎用レポートの実行	1689

第 47 章

データのアーカイブ	1693
グローバル ペイロール データのアーカイブ	1693
データ アーカイブ マネージャの管理	1695
データ アーカイブ マネージャの管理に使用するページ	1695
アーカイブ オブジェクトの管理	1695
アーカイブ テンプレートの管理	1697
データ アーカイブ マネージャの実行	1697
データ アーカイブ マネージャの実行に使用するページ	1698
グローバル ペイロール データのアーカイブ ジョブの定義	1699
クエリー バインド変数の定義	1701
アーカイブ ジョブの結果の表示	1701

付録 A

グローバル ペイロール クエリー	1703
標準で用意されているクエリー	1703

付録 B

グローバル ペイロールのレポート群 1707

グローバル ペイロールのレポート群: アルファベット順 1707

索引 1711

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール - まえがき

この章では、以下の内容について説明します。

- 対象の PeopleSoft 製品
- PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーションの基礎
- PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールのドキュメンテーション
- PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールの用語

対象の PeopleSoft 製品

この PeopleBook では、PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールについて説明します。

PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーションの基礎

システムの設定や設計に必要な基本情報は、この PeopleBook の姉妹編とも言える『PeopleSoft Enterprise HRMS 9.1 アプリケーションの基礎 PeopleBook』に記載されています。

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールのドキュメンテーション

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール アプリケーションの構成
- PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール ドキュメンテーションの構成
- ドキュメンテーション ロードマップ

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール アプリケーションの構成

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールのドキュメンテーションの構成は、アプリケーションの構成とよく似ています。そのためドキュメンテーションを理解するにはアプリケーション自体の構成を知ることが一番です。

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールは、以下に挙げる 2 つの構成要素から成り立っています。

- コア アプリケーション。コア アプリケーションには、以下のものが含まれています。
 - 給与計算ルール エンジン
 - 給与計算プロセス フレームワーク
 - 全ての国別アプリケーションに共通のプロセス、設定手順
- 国別拡張機能。国別拡張機能には、以下のものが含まれています。
 - 各国の法令、慣習に対応するオブジェクト (給与計算ルール、給与計算プロセス、レポート、追加の国別ページ、セルフ サービス アプリケーションなど)
 - 国別ルールおよびエレメント

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール ドキュメンテーションの構成

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールのドキュメンテーションは、アプリケーションと同様にコア ドキュメンテーションと国別拡張機能のドキュメンテーションの 2 つから成り立っています。

コア ドキュメンテーション

コア アプリケーションは全ての国で使用可能で、所在地に関係なくルールを設定したり給与計算を実行したりすることができます。コア ドキュメンテーションも同様に、その内容は全ての国に共通します。そのため、給与計算を使用する上で中心となるツール セットについての説明はありますが、各国に特有のルールなどについては説明していません。特定地域の要件に対応するために PeopleSoft から提供されている国別拡張機能の情報については、各国別拡張機能の PeopleBook を参照してください。

国別拡張機能のドキュメンテーション

国別拡張機能のアプリケーションが国ごとの要件を満たしているのと同様に、国別拡張機能のドキュメンテーションは国ごとの機能について説明しています。これには以下が含まれます。

- 国別拡張機能を持つコア機能
- 国別ルール設定
- PeopleSoft によりあらかじめ設定されているルールおよびテーブル
- 国別ページ
- 国別レポート
- PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の設定（銀行定義など、国によって異なるもの）
- 国別の導入情報

ドキュメンテーション ロードマップ

コア ドキュメンテーションと国別拡張機能のドキュメンテーションは相互に内容を補完し合っているため、両方のドキュメンテーションを一読されることをお勧めします。

ドキュメンテーションの参照方法

以下のとおり、状況に合わせてドキュメンテーションを使用してください。

- プロセスがコア アプリケーションと国別拡張機能の両方で設定される場合、最初にコア ドキュメンテーションを、その後に国別拡張機能のドキュメンテーションをお読みください。

たとえば銀行振込処理を設定する場合、まずコア アプリケーションで定義してから、国別拡張機能を設定し、その国特有の銀行振込情報を設定します。したがって、まずコア ドキュメンテーションの銀行振込に関する章を読み、その後で国別拡張機能のドキュメンテーションの銀行振込に関する章を読みます。

- プロセスがコア アプリケーションでのみ設定される場合は、コア ドキュメンテーションを確認します。
- プロセスが国別拡張機能でのみ設定される場合は、国別拡張機能のドキュメンテーションを確認します。

ドキュメンテーションの対象読者

ドキュメンテーションでは以下の読者を対象にしています。

- 技術

アプリケーションの技術的な設計知識を必要とされる場合、この PeopleBook の「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」のセクションや、ほかのセクションで頻繁に説明されているバッチ処理に関する情報を一読されることをお勧めします。

参照: 第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、13 ページ。

- 業務

ルールの設定方法などの情報を必要とされる場合、国別拡張機能のドキュメンテーションにある国別機能についての説明を一読されることをお勧めします。また、コア ドキュメンテーションにある給与計算エレメント (支給エレメントや控除エレメントなど) の定義方法に関するセクションを読むと、コア アプリケーションにおける各ツールの使用方法を知ることができます。

- 管理

管理者ユーザーの方々の場合、コア ドキュメンテーションと国別拡張機能のドキュメンテーションの両方の導入部分を一読されることをお勧めします。グローバル ペイロール製品全体を包括的に把握することができます。

注意: PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールを十分理解していただけるよう、製品の導入に携わる一般ユーザー/テクニカル ユーザーの方々はコア ドキュメンテーションおよびご使用になる国別拡張機能のドキュメンテーションをよくお読みください。

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールの用語

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール コアのドキュメンテーションと国別拡張機能のドキュメンテーションの間で、使用する用語が多少異なる場合があります。

- グローバル ペイロール コアのドキュメンテーションでは、従業員、非従業員、および関係者 (非従業員) 全体を指す言葉として「**受給者**」という言葉が使用されています。

しかし、国別拡張機能の中には、従業員と非従業員を明確に区別する法令ルールのあるものがあります。そのような場合、PeopleSoft では「**受給者**」ではなく、「**従業員**」や「**非従業員**」というように言葉を区別して使用しています。

- PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール コアのドキュメンテーションでは、民間の企業と公的機関の組織の両方を指す言葉として「組織」という言葉を使用しています。

国別拡張機能のドキュメンテーションの一部では、「組織」ではなく「国」という言葉を使用しています。これは、「国」が必須フィールドになっている国別拡張機能のページがあるためです。

PeopleBook と PeopleSoft オンライン ライブラリ

姉妹編の PeopleBook (PeopleBook と PeopleSoft オンライン ライブラリと呼ばれる) に以下のような一般情報が含まれています。

- PeopleSoft オンライン ライブラリと関連ドキュメンテーションについて
- PeopleSoft ドキュメンテーションへのご意見やご要望を Oracle に送信する方法
- ホストされている PeopleBook 、ダウンロード可能な HTML 形式の PeopleBook や PDF 形式の PeopleBook および更新版ドキュメンテーションにアクセスする方法
- PeopleBook の構成について
- PeopleBook で使用する表記規則
- ISO 標準の国コードおよび通貨コード
- 複数のアプリケーション間で共通の PeopleBook
- PeopleBook で使用する共通フィールド
- PeopleBook インターフェイスのナビゲートと PeopleSoft オンライン ライブラリの検索
- PeopleBook 内のスクリーン ショットおよびグラフィックの表示と印刷
- ローカルにインストールされた PeopleSoft オンライン ライブラリの管理方法 (Web サイトフォルダなど)
- ドキュメンテーション統合について、およびカスタマイズされたドキュメンテーションのライブラリへの統合方法
- アプリケーション フィールドで検出されるアプリケーション省略名

ご使用の PeopleTools リリースに対して、オンライン PeopleBook ライブラリ内で PeopleBook と PeopleSoft オンライン ライブラリを入手できます。

第 1 章

グローバル ペイロール - はじめに

この章では、以下の内容について説明します。

- グローバル ペイロールの概要
- グローバル ペイロールのビジネス プロセス
- グローバル ペイロールの統合
- グローバル ペイロールの導入

グローバル ペイロールの概要

グローバル ペイロールでは、給与計算および休暇欠勤の処理を行うと共に、ご使用の給与計算システムの仕様を詳細に調整することができます。ブラウザ環境、PeopleTools、およびルールベース システムを使用することによって、ソース コードの作成や変更を行わずに給与計算システムをオンラインで設定することが可能なため、導入にかかる時間や費用を削減することができます。

グローバル ペイロールには、アプリケーション固有のルールやコードがありません。**エレメント**と呼ばれる支給アイテムを使ってルールを定義し、バッチ処理中にどの給与計算コンポーネント、または休暇欠勤コンポーネントを計算するのかを、受給者単位で指定します。

関連項目:

[第 2 章、「グローバル ペイロールについて」、7 ページ](#)

グローバル ペイロールのビジネス プロセス

グローバル ペイロールには、以下のビジネス プロセスが用意されています。

- 給与計算
- 休暇欠勤
- 銀行業務

この PeopleBook のビジネス プロセスの章では、これらのビジネス プロセスについて説明します。

グローバル ペイロールの統合

グローバル ペイロールには、以下のアプリケーションが統合されています。

- PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理
- PeopleSoft Enterprise 勤務管理
- PeopleSoft Enterprise 一般会計

統合における留意事項については、この PeopleBook の導入に関する章で説明します。

関連項目:

[第 4 章、「受給者データの使い方」、51 ページ](#)

[第 41 章、「PeopleSoft Enterprise 勤務管理との統合」、1605 ページ](#)

[第 39 章、「PeopleSoft Enterprise 一般会計との統合」、1525 ページ](#)

グローバル ペイロールの導入

PeopleSoft セットアップ マネージャを使用すると、導入する機能に基づいて、実行する必要のある設定タスクのリストを生成できます。この設定タスクには、設定する必要のあるコンポーネントが、テーブルにデータを入力すべき順番でリストされます。また、関連する PeopleBook ドキュメンテーションへのリンクも含まれます。

グローバル ペイロールには、既存システムからグローバル ペイロールのテーブルヘデータをロードするコンポーネント インターフェイスも用意されています。テーブルにデータをロードするには、Excel to Component Interface ユーティリティを使用します。

以下は、コンポーネント インターフェイスを持つコンポーネントの一覧です。

コンポーネント	コンポーネント インターフェイス	参照
GP_ACM_USER_ADJ	CI_GP_ACUM_USER_ADJ	参照: 第 10 章、「 <u>累計の設定</u> 」、367 ページ。
GP_CALENDAR	CI_GP_CALENDAR	参照: 第 16 章、「 <u>カレンダーの使い方</u> 」、577 ページ。
GP_CALENDAR_PERIOD	CI_GP_CALENDAR_PERIOD	参照: 第 16 章、「 <u>カレンダーの使い方</u> 」、577 ページ。
GP_CALENDAR_RUN	CI_GP_CALENDAR_RUN	参照: 第 16 章、「 <u>カレンダーの使い方</u> 」、577 ページ。
GP_ED_PYE	CI_GP_ED_PYE	参照: 第 18 章、「 <u>上書きの設定</u> 」、受給者上書きの定義、667 ページ。
GP_GL_GROUP	CI_GP_GL_GROUP	参照: 第 39 章、「 <u>PeopleSoft Enterprise 一般会計との統合</u> 」、1525 ページ。
GP_GL_MAP	CI_GP_GL_MAP	参照: 第 39 章、「 <u>PeopleSoft Enterprise 一般会計との統合</u> 」、1525 ページ。
GP_OFFCYCLE_REQ	CI_GP_OFFCYCLE_REV	参照: 第 24 章、「 <u>オフサイクル処理の管理</u> 」、オフサイクル トランザクションの起動、948 ページ。
GP_PAYEE_SOVR	CI_GP_PAYEE_SOVR	参照: 第 18 章、「 <u>上書きの設定</u> 」、受給者上書きの定義、667 ページ。

コンポーネント	コンポーネント インターフェイス	参照
GP_RCP_PYE	CI_GP_RCP_PYE	参照: 第 34 章、「 <u>銀行振込の定義</u> 」、控除と受給者に対する受取人の割り当て、1330 ページ。
GP_BNK_FILE_ENTRY	GP_BNK_FILE_ENTRY_CI	参照: 第 35 章、「 <u>支給の照合</u> 」、銀行ファイル情報の入力、1365 ページ。
GP_BRACKETS	GP_BRACKETS	参照: 第 6 章、「 <u>データ取得エレメントの定義</u> 」、ブラケットエレメントの定義、148 ページ。
GP_PYENT	GP_PAYENTITY_SOVR	参照: 第 14 章、「 <u>組織構造の定義</u> 」、支給元の定義、529 ページ。
GP_PYGRP	GP_PAYGROUP_SOVR	参照: 第 14 章、「 <u>組織構造の定義</u> 」、支給グループの定義、536 ページ。
GP_PI_MNL_ERNDED	GP_POSITIVE_INPUT	参照: 第 17 章、「 <u>ポジティブ入力の使い方</u> 」、ポジティブ入力の作成、630 ページ。
GP_PYE_SECTION	GP_PYE_SECTIONS	参照: 第 15 章、「 <u>エレメント処理の定義</u> 」、セクションの設定、563 ページ。
GP_VARIABLE	GP_VARIABLES	参照: 第 7 章、「 <u>計算エレメントの定義</u> 」、変数エレメントの定義、213 ページ。

その他の情報ソース

導入プランの設定段階では、導入ガイド、テーブルへのデータ ロードの順序、データ モデル、ビジネス プロセス マップなど、PeopleSoft 内にある全ての情報を活用してください。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Setup Manager

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Component Interfaces

第 2 章

グローバル ペイロールについて

この章では、以下の内容について説明します。

- グローバル ペイロールの機能
- エlement
- 給与計算ルール
- 給与計算処理
- 休暇欠勤処理
- 分割
- 遡及処理
- ほかの PeopleSoft アプリケーションとのリアルタイム統合

グローバル ペイロールの機能

グローバル ペイロールでは、多国籍企業の給与計算をあらゆる面で管理できます。多国籍、多言語、多通貨、および欧州通貨単位 (EMU) の処理要件に対応しています。

コア アプリケーションでは、給与計算および休暇欠勤の処理を行うと共に、ご使用の給与計算システムの仕様も詳細に調整することができます。ブラウザ環境、PeopleTools、およびルールベース システムを使用することによって、ソース コードの作成や変更を行わずに給与計算システムをオンラインで設定することが可能なため、導入にかかる時間や費用を削減することができます。グローバル ペイロールでは、ハードウェアやソフトウェアをアップグレードしても、表示方法が変わりません。また、事実上どのオペレーティング システムの端末でも使用できます。ユーザー インターフェイスとしてブラウザを使っているため、オペレーティング システムに依存しないからです。

給与計算の実行は一般的に膨大で時間のかかる処理なので、必要部分にのみ計算が実行されます。つまり、毎回の実行で従業員 10,000 人が処理されるのではなく、20 人、100 人など、各実行時に調整の対象となる人数だけが処理されます。数時間または数日費やしたり、給与を次々と計算したりしなくても、給与計算処理を何度も実行することができます。

エレメント

グローバル ペイロールには、アプリケーション固有のルールやコードがありません。**エレメント**と呼ばれる支給アイテムを使ってルールを定義し、バッチ処理中にどの給与計算コンポーネント、または休暇欠勤コンポーネントを計算するのかを、受給者単位で指定します。

エレメントにより、システムを柔軟に利用できるようになります。給与計算のルールがソースコードに組み込まれていないため、プログラミングをしなくてもシステムに変更を加えることができます。つまり、一般ユーザーが管理および変更作業の大部分を行えるということです。

PeopleSoft には、入力されたルールを処理するユーティリティが用意されており、ユーザーが設定したエレメント名を使用して処理が行われます。

グローバル ペイロールでは、以下のエレメントを含む多数のエレメントに名前を付けて定義します。

- 支給
- 控除
- フォーミュラ
- 比例配分ルール
- 端数処理ルール
- 累計

いくつかの例外を除いて、エレメントは値に変換されます。たとえば、SALARY という名前のエレメントを作成し、特定の値、たとえばある受給者では 50,000、別の受給者では 67,000 に変換されるように設定することができます。

一度エレメントを定義すると、そのエレメントを特定の国または全ての国と関連付けることができます。また、産業、カテゴリ、あるいは最大 5 個までのユーザー定義データベース フィールドに基づいてグループを作成することもできます。このように、さまざまな方法でエレメントをグループ化することができるため、給与計算システムにさらに柔軟性を持たせることができます。

エレメントは、PeopleSoft でサポートされているどの国の言語でも設定できます。PeopleSoft に標準装備されているシステム エレメントには各国語の対訳が用意されています。また、ユーザーが作成したエレメントを複数の言語で定義することもできます。給与計算の導入時には、これらの言語の一部または全部を使用することができます。つまり、システムの内部処理を再設定せずに、各組織のニーズに適合した、任意または全ての言語を使った給与計算を作成することができます。

重要: エレメントの定義は、グローバル ペイロールの重要な概念です。給与計算を正しく完了させるには、給与計算の前にエレメントに名称を割り当て、定義を設定し、給与計算の処理順序を指定しておく必要があります。

給与計算ルール

給与計算ルールは複数のエレメントを組み合わせたもので、以下の目的で使用されます。

- 支給アイテムの計算、累計、および集計
- 支給アイテムのグループ化および順序指定
- フォーミュラと論理ステートメントの組み合わせによる反復処理の設定

ルールでは通常、1 つまたは複数のエレメントが使用されます。給与計算ルールでは、有資格グループ、ジェネレーション コントロール、受給者割り当て/上書き、サポート エレメント上書きなどをフィルタとして使用し、計算の対象となるエレメントを決定します。給与計算ルールを定義した後、プロセス リストと呼ばれるメイン コントロール機能に追加します。プロセス リストでは、給与計算中に処理されるエレメントおよび処理の順序が決定されます。

また、国ごとに固有のグローバル ペイロール ルールを定義することができます。

注意: コア アプリケーションには全ての国に使用できる一連のベスト プラクティス ルールが用意されていますが、各国特有のルールは含まれていません。通常、各国特有のルールは国別拡張機能の一部として提供されます。ユーザーによっては、コア アプリケーションのみを購入し、提供されているベスト プラクティス ルールを変更したり、新しいルールを作成したりすることで、新しい各国特有のルールを作成する場合があります。

給与計算処理

グローバル ペイロールを組織のニーズに合わせて設定し終わったら、給与計算に関する以下の処理を行います。

- 各給与計算実行で支給の対象になる受給者の決定
- 給与計算プロセスの実行
- 必要に応じて、正確な結果が得られるまで給与計算プロセスを再実行
- 給与計算の最終確定
- 銀行振込、レポート作成、給与明細書作成などの後処理の実行

まず最初に、処理の対象となる受給者を決めます。受給者を選択したら、給与計算プロセスを実行します。給与計算処理または休暇欠勤処理の実行後に一部の受給者のデータが変更された場合、この受給者についてだけ計算プロセスを再実行することができます。受給者全員についてプロセスを再実行する必要はありません。正しい結果が出るまで、何回でも必要なだけ計算を再実行できます。

オフサイクル処理

オフサイクル給与計算処理とは、通常の給与計算スケジュール外の給与計算結果に対する支給処理および訂正処理を指します。オフサイクルのトランザクションは、過去の支給の訂正や、次のオンサイクルの給与計算まで待てない雇用終了に伴う支給を前倒しで行う場合に使用されるのが一般的です。

カレンダーを追加で作成しなくてもオフサイクル処理を即座に実行することができます。その場合、オンサイクルの処理は自動的に一時停止されます。この機能はどの組織にとっても便利ですが、特に人材の入れ替わりの激しい組織には非常に便利です。グローバル ペイロールでは、以下の 4 つのオフサイクル トランザクション タイプがサポートされています。

- 手動支給
- 訂正
- 追加支給
- 前払い

休暇欠勤処理

受給者の休暇欠勤情報の追跡は、給与計算を正確に行うために不可欠です。病気、休養など、受給者の休暇欠勤の理由を明らかにする必要があります。最も重要なのは、受給者の休暇欠勤時間に対して給与を支給するかどうかを明確にすることです。

グローバル ペイロールでは、有効な休暇欠勤タイプとその処理方法を定義します。休暇付与および休暇取得のルールを設定したら、そのルールを使って受給者の休暇欠勤を追跡し、支給処理を行います。

分割

分割 (Segmentation) とは、プロセス リストに含まれる全て (または一部) のエレメントについて個別のスライスまたはセグメントごとに計算するプロセスです。支給期間中に発生した給与変更、従業員ステータス変更などのイベントに合わせて、給与コンポーネントを分割することができます。たとえば、支給期間中に従業員の職務に変更があり、変更前の職務と変更後の職務で支給のコンポーネントを分割する場合、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理で職務変更に伴う異動区分/理由フィールドの変更に合わせて給与明細書の支給結果の分割が起動されるように設定できます。

グローバル ペイロールには、このような状況に対処するために、**"期間分割"** および **"エレメント分割"** の 2 種類の分割方法が用意されています。

遡及処理

ある支給期間の給与計算処理が終わった後で、その支給期間に該当するデータを修正または追加しなければならない場合があります。このような状況に対処するには、グローバル ペイロールの遡及処理機能が役に立ちます。

ほかの PeopleSoft アプリケーションとのリアルタイム統合

グローバル ペイロールでは、ほかの PeopleSoft アプリケーションと同一のリレーショナル データ構造、ユーザー インターフェイス、レポート ツール、および設定機能を共有しているため、こうした PeopleSoft アプリケーションと統合して使うことができます。コンポーネントが統合されているので、グローバル ペイロールからほかの PeopleSoft アプリケーションのテーブルの情報にアクセスすることができます。

第 3 章

コア アプリケーションのアーキテクチャについて

この章では、コア アプリケーションのアーキテクチャ、エレメント、処理のフレームワーク、バッチ処理のアーキテクチャ、多通貨処理の概要、およびインストール設定の定義方法について説明します。

コア アプリケーションのアーキテクチャについて

グローバル ペイロールは、あらゆる国の組織で給与計算システムを作成することができるコア アプリケーション上に構成されています。コア アプリケーションのアーキテクチャを理解することで、グローバル ペイロールの複雑な詳細情報をより深く理解できます。

エレメントについて

グローバル ペイロールを使って給与計算システムを構築する場合、そのシステムが組織のあらゆるニーズに対応できるようにする必要があります。PeopleSoft では、このための方法の 1 つとして **"エレメント"** と呼ぶ構成要素を使用して給与計算システムを構築します。

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- エレメントについて
- エレメントとルールとの関連付け
- コア アプリケーションで支給アイテム名 (PIN) 処理が使われる理由

エレメントについて

エレメントは、グローバル ペイロールで最小の構成要素です。エレメントを他の構成要素と関連付けることによって給与計算システムの定義を行います。

エレメントを一度定義しておけば、システム内のどこでも繰り返し使用できます。

エレメント カテゴリは、以下のように分けられます。

エレメント タイプ	説明
データ取得エレメント	データを取得します。データ取得エレメントの中には、システム エレメントと呼ばれる、PeopleSoft にあらかじめ用意されている定義済みのエレメントがあります。それ以外は、給与計算システムを作成する際にユーザー自身が定義します。
計算	計算を実行します。
組織エレメント	システムの構造およびフレームワークを定義します。

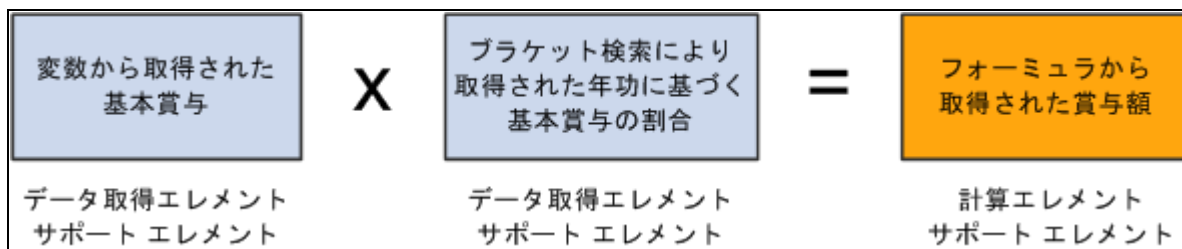
以下のようにエレメント カテゴリを分けることもできます。

エレメント タイプ	説明
主要エレメント	支給、控除、および休暇欠勤用の主要ルールを表します。
サポート エレメント	通常、単独では使われません。支給や控除など、より複雑なほかのエレメントを作成するために使われます。
その他のエレメント	資格条件、累計、ある種のルールなどを表します。

これらのエレメントをあらゆる方法で組み合わせ、必要な結果を給与計算処理で導き出すことができます。

例

今、ある受給者の賞与を計算するとします。あるエレメントは、賞与額を含むように定義されているとします。また別のエレメントは、受給者の年功に基づいて正確な基本賞与の割合を取得するためのブラケット エレメントとして定義されているとします。さらに別のエレメントは、変数から取得された基本賞与額と、ブラケット検索により取得された基本賞与の割合とを掛けて、賞与の支給額を算出するよう定義されているとします。以下の例は、これらのエレメントがグローバル ペイロール内でどのように関連し合うのかを表したものです。



エレメント同士がどのように関係して処理が行われるかを示した例

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、67 ページ

エレメントとルールとの関連付け

グローバル ペイロールでは、オンライン ページからデータを入力して、ルールの作成および保存を行います。

このルールによってコア アプリケーションが制御され、給与計算処理が定義されます。**ルール**とは、どのようにエレメントが計算されるかを定義したものと考えてください。ルールによって、給与計算処理そのものが定義されます。

グローバル ペイロールを使用している国ごとに、それぞれ独自のルールを定義します。たとえば、ある国では残業の定義として、過去 3 か月間の平均支給額に対し、受給者の年功に基づいた係数 (5 年勤続なら 1.3、10 年勤続なら 1.5、など) を掛け合わせた値を使用する、などがあります。グローバル ペイロールでは、ルールを定義することにより、各組織独自の給与計算処理の要件に対処することができます。

注意: PeopleSoft の国別拡張機能には、各組織の給与計算システムで必要とされるほとんどの国別ルールをあらかじめ定義したデータ セットが用意されています。

以下の図は、エレメントとルールによって給与計算処理がどのように定義されるかを表したものです。



エレメントがルールによって処理されることで、給与計算処理が行われます。

重要: 通常は、グローバル ペイロールの COBOL プログラムを修正する必要はありません。オンライン ページを使用して、それぞれの組織の給与計算処理の要件を満たすシステムを構成できます。アレイ サイズの修正といった例外もありますが、PeopleSoft が提供している COBOL プログラムの修正はできる限り行わないでください。修正がシステム全体の整合性に影響する恐れがあるためです。

関連項目:

第 6 章、「データ取得エレメントの定義」、アレイ エレメントの定義、130 ページ

コア アプリケーションで支給アイテム名 (PIN) 処理が使われる理由

PIN 番号は、エレメントに対する識別番号です。ユーザーが作成したエレメントや PeopleSoft から提供されるエレメントを含め、グローバル ペイロールの全てのエレメントには個別の PIN 番号が付いています。グローバル ペイロールのプログラムでは、エレメント名ではなくこの PIN 番号を参照して、エレメントへのアクセスおよび処理が行われます。

PIN は、グローバル ペイロールの**エレメント**として参照されます。PIN とエレメントは同一のもので、PIN 番号はエレメント番号と同じものです。PIN はアプリケーションのプログラムやテーブル構造のいたるところで参照されるため、ここで PIN という用語について説明します。PIN はプログラムおよびテーブル構造で使用する技術的な名称で、**エレメント**は全てのページや説明で使用する機能的な名称と考えてください。

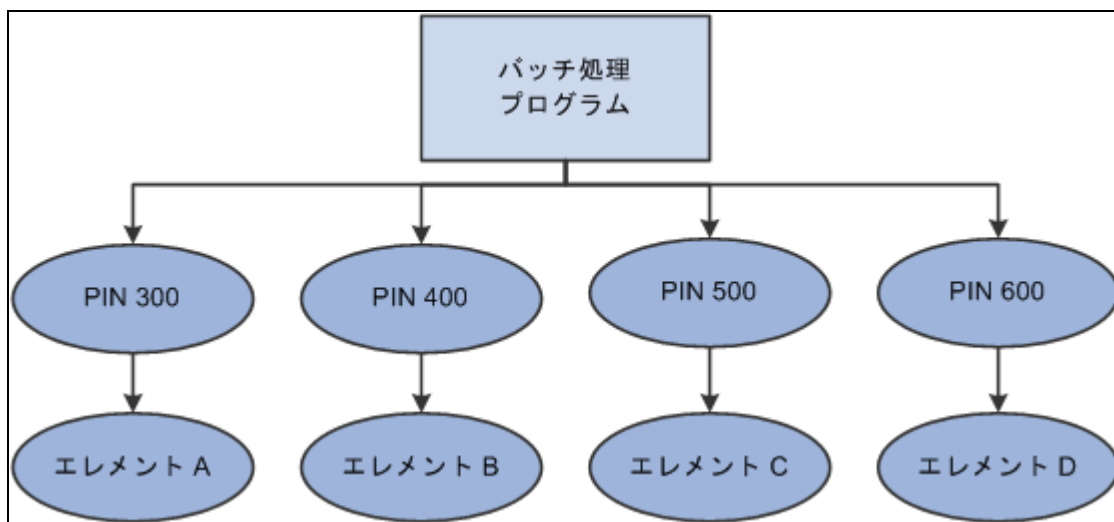
グローバル ペイロールはどの国のどの組織でも使用できるように設計されているため、このような仕組みが必要になります。各組織では通常、組織の要件に応じて、給与計算システムの基本になるエレメントに異なった名前を付けることが予想されます。また、国ごとに、各国の言語でそのエレメントに名前を付けることになります。さらに、PeopleSoft が提供するシステム エレメントは、多くの場合、複数の言語に翻訳されています。そのため名前がエレメントを特定する唯一の手段であれば、問題が発生する可能性があります。

また、PIN 番号を使うとバッチ処理のパフォーマンスが向上します。文字より数値を使う方が、システムにとっては効率的です。このパフォーマンスの向上により、処理アレイへの数値の読み込み、およびアレイ内の適切な位置を指すポインタの作成が簡単にできるようになります。

PIN には、番号が順に割り当てられます。

注意: ユーザーによって作成されたエレメントには、PIN 番号が自動的に割り当てられます。システムによって割り当てられる最初の番号は 100,001 です。100,001 より小さい PIN 番号は、グローバル ペイロールに用意されているエレメント用に予約されています。

以下の図のように、エレメントはエレメント名ではなく PIN 番号によってアクセスされます。



エレメントは PIN 番号によってアクセスされます。

処理のフレームワーク

どの国の組織でも、グローバル ペイロールのコア アプリケーションを共通の基盤および構造として、独自の計算ルールを作成します。コア アプリケーションによって、それぞれの組織の給与計算処理および休暇欠勤処理の基本のフレームワークが決まります。このフレームワークによって、給与計算または休暇欠勤の計算で使用する、一般的な処理順序、組織構造、処理構造が定義されます。

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- 処理順序
- 組織構造

- 処理構造
- カレンダー

処理順序

給与計算処理または休暇欠勤処理はいくつかの処理フェーズによって構成されています。その処理フェーズのいくつかは、まとめて実行することができます。給与計算処理または休暇欠勤処理の典型的な処理順序 (グローバル ペイロールで実行されるバッチ処理フェーズの処理順序) は、以下のフェーズで構成されます。

- 特定 (受給者の選択) フェーズ
- 計算
- 最終決定フェーズ

また必要に応じて、キャンセル、凍結、凍結解除、および一時停止のフェーズを実行したり、受給者ごとに処理の指示を変更したりすることができます。

バッチ処理が開始されると、グローバル ペイロールでは、指定された選択条件により、給与計算処理または休暇欠勤処理の実行対象となる受給者が決定されます。この特定フェーズは、カレンダー グループ ID ごとに 1 度だけ実行されます。

計算フェーズでは、給与計算または休暇欠勤の計算処理が行われます。各受給者は順番に処理されます。受給者ごとに、プロセス リストに指定されている各エレメントが処理されます。処理対象エレメントの選択では、資格やジェネレーション コントロールなどのさまざまな条件が考慮されます。

計算処理は何回でも繰り返すことができます。その場合、計算対象の支給のみが処理されます。計算が最初に実行された時点で、全ての支給が処理されます。それ以降の計算では、以下の支給だけが処理されます。

- 反復トリガから発生する支給
- 再計算を指定した支給
- 前回の実行でエラーになった支給

反復トリガは、受給者のデータに変更が生じたときに起動されるようにすることができます。たとえば、受給者の給与が変更されると反復トリガを起動させることができます。また、カレンダー グループ ID に新規採用者が追加されたときに反復トリガを起動させることもできます。

休暇欠勤または給与計算の実行が最終決定されると、プロセスは完了します。

関連項目:

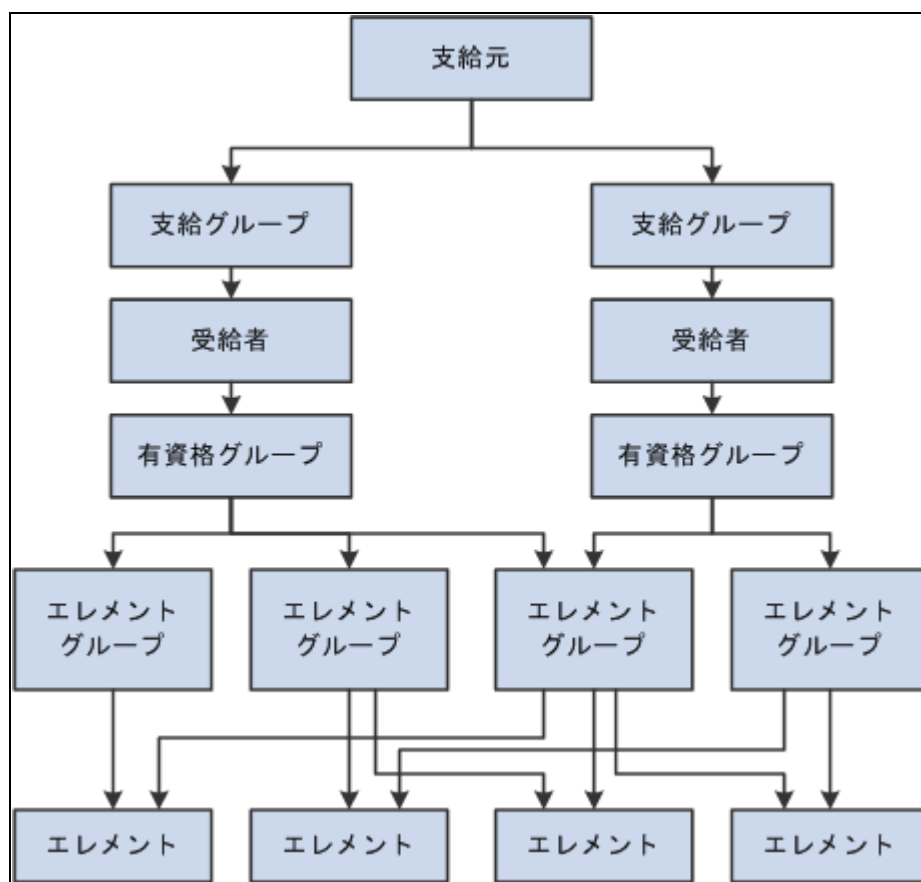
第 21 章、「給与計算の処理」、813 ページ

第 30 章、「トリガの設定」、反復トリガの設定、1132 ページ

第 15 章、「エレメント処理の定義」、プロセス リストについて、559 ページ

組織構造

グローバル ペイロール コア アプリケーションによって、給与計算処理のための組織構造が決められます。以下の図は、組織構造における構成要素の階層構造を表しています。



グローバル ペイロールの組織構造

支給元

支給元では、受給者へ支給を行う組織を定義します。また、各計算で処理通貨として使う通貨のタイプを定義します。

支給元に定義できる処理通貨は 1 つだけです。ただし、入力および出力には複数の通貨タイプを使用できます。たとえば、支給元に定義した処理通貨に関係なく、データ入力にはある通貨を使い、その支給の 50% に別の通貨を、残りの 50% にはまた別の通貨を指定することも可能です。

支給元に定義された処理通貨は、レポート作成に使われる通貨になります。

支給元は 1 つまたは複数の支給グループにリンクできます。ただし、各支給グループはそれぞれ 1 つの支給元にしかリンクできません。

それぞれの支給元には、特定の国を関連付けます。単一のカレンダー グループ ID を持つカレンダーのグループ、遡及方法、トリガ定義など、グローバル ペイロールの多くの機能にとって、この国指定は重要です。

支給グループ

グローバル ペイロールでは、支給グループと呼ばれる論理グループを使って、個人に受給資格を与えます。一般的に、同じ支給グループのメンバーにはなんらかの共通点があるため、給与計算システムで同時に処理されます。

支給グループの一般的な例としては、給与所得者グループや時間給所得者グループなどがあります。導入時にこのオプションを選択すると、受給者のデフォルトの支給および控除を支給グループに基づいて割り当てることができます。1 つの支給グループは、1 つの支給元にしか関連付けることができません。

各支給グループには、デフォルトの有資格グループが関連付けられています。これにより通常、その支給グループに対してデフォルトで割り当てられる支給および控除が決まります。支給グループに関連付けられているデフォルトの有資格グループは、受給者レベルのデフォルトとして使用されます。このデフォルトは上書きが可能です。

支給グループは、最終的には給与計算を処理する支給カレンダーに関連付けられます。一般に同じタイプの支給や控除を受けている受給者はもちろん、週次や月次など同じ周期で支給を受ける受給者をグループにまとめることが重要です。

受給者

受給者とは、組織内で支給の対象になる人のことです。

同じ支給グループに定義されている受給者が、異なる有資格グループに属している場合があります。支給グループに定義されている有資格グループは、あくまでもデフォルトです。支給グループのページで定義されている有資格グループは、受給者の初期デフォルトとして使用されます。このデフォルト値は上書きできます。

有資格グループ

有資格グループとは、エレメント グループをさらにグループ化したものです。有資格グループによって、ある受給者のグループが有資格者となる特定のエレメントが指定されます。デフォルトの有資格グループは、支給グループのレベルで定義されます。受給者は、支給グループ レベルのデフォルトとして定義されている有資格グループに割り当てられます。デフォルト値は上書きすることができます。

たとえば、月単位で支給を受けている受給者全員が含まれる支給グループがあるとします。この受給者のほとんどは、基本支給の対象となる正規の給与所得者です。ただし、その他に 10 名の幹部役員に対しても同じ支給グループで支給します。これらの幹部役員には、やや異なる支給と控除の資格を割り当てる必要があります。この場合、幹部役員の有資格グループを上書きして、"役員報酬" という有資格グループに幹部役員を割り当てます。各支給グループには、デフォルトの有資格グループを 1 つだけ割り当てます。

エレメント グループ

エレメント グループを使用すると、多数のエレメント (たとえば税金) を多数の有資格グループに割り当てることができるので、全ての有資格グループにエレメントを繰り返し割り当てする必要がなくなります。エレメント グループを使うと、こうしたエレメントをグループ化できます。1 つの有資格グループに対し、エレメント グループはいくつでも割り当てることができます。

エレメント

エレメントは、グローバル ペイロールの基本構成要素です。グローバル ペイロールの組織構造は、この基本になる給与計算構成要素を定義することから始まります。

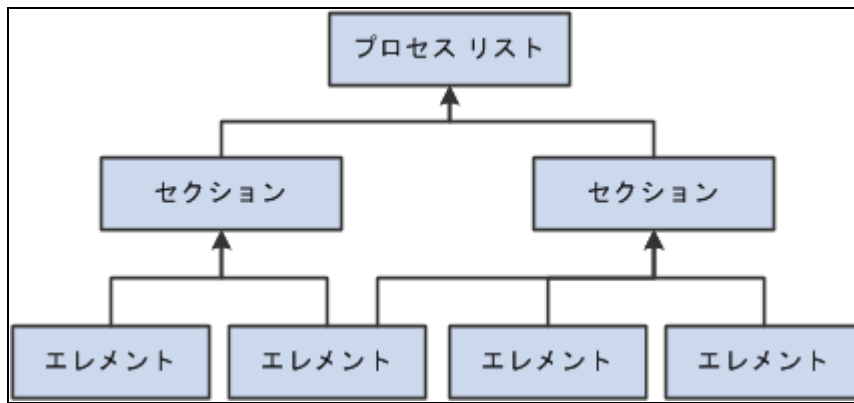
関連項目:

[第 4 章、「受給者データの使い方」、51 ページ](#)

[第 14 章、「組織構造の定義」、519 ページ](#)

処理構造

以下の図は、グローバル ペイロール処理構造の構成要素を表しています。



グローバル ペイロールの処理構造

プロセス リスト

プロセス リストには、総支給額エレメントおよび純支給額エレメントの処理と変換の手順を指定します。これらのエレメントは、セクションを使ってプロセス リストに追加します。プロセス リストにセクションを追加すると、そのセクションはリストに挿入された順に実行されます。また、条件付きでセクションを実行することもできます。

休暇欠勤と給与計算のどちらの計算処理を行うかは、プロセス リストで指定します。休暇欠勤処理と給与計算処理の実行では異なるカレンダーを使用します。このため、休暇欠勤の実行用と給与計算の実行用に別のプロセス リストを作成する必要があります。

プロセス リストの定義ページでは、どのタイプの計算を実行するかを指定します。計算タイプが休暇欠勤であれば、総支給額、純支給額、および純支給額下限のエレメント名フィールドは使用できません。計算タイプが給与計算であれば、総支給額および純支給額のエレメント名フィールドに値を入力する必要があります。純支給額下限エレメントはオプションです。純支給額下限エレメントの値を入力しないと、純支給額下限はゼロと見なされます。総支給額および純支給額のエレメント名を入力すると、総支給額累計および純支給額累計が参照されます。

純支給額エレメントと純支給額下限エレメントは、控除延滞処理で使用されます。控除できるかどうかを確認するために、純支給額および純支給額下限が控除額と比較されます。純支給額および純支給額下限が控除額より少なければ、一連のルールに従って控除処理が行われます。

純支給額および総支給額のエレメント番号およびその値は出力テーブルに保存され、レポート作成やオンライン照会の際にこれらのデータにアクセスできます。

セクション

セクションはエレメントをグループ化したもので、エレメントがプロセス リストで処理される順序を制御します。処理タイプに応じて、以下の 5 つのセクションが使用されます。

- 標準セクション: 休暇欠勤処理の実行、給与計算の実行、またはその両方で使用されます。
- サブ プロセス セクション: 給与計算の実行で使用されます。また、総額算出に使うことができます。
- 受給者セクション: 給与計算の実行で使用されます。

受給者セクションは、処理対象のエLEMENTとその順序を受給者レベルで柔軟に区別する必要のある、差し押さえなどのELEMENTに使うことができます。

- ポジティブ入力作成セクション: 休暇欠勤処理の実行、給与計算の実行、またはその両方で使用されます。

このセクションは、さまざまなカレンダーのポジティブ入力作成で使用されます。

- 休暇取得セクション: 休暇欠勤処理の実行で使用されます。

このセクションは、日付順に休暇欠勤処理を実行するのに使用されます。

定義済みのセクションは、複数のプロセス リストで再利用できます。

ELEMENT

ELEMENTは、グローバル ペイロールの基本構成要素です。ELEMENTには、単独で利用できるものと、**サポート ELEMENT**と呼ばれる単純なELEMENTを組み合わせでより複雑なELEMENTを形成できるものがあります。

給与計算処理や休暇欠勤処理の実行中に、各受給者のプロセス リストに含まれるELEMENTがそれぞれ変換されます。変換されるELEMENTは受給者によって異なるため、変換後のELEMENTの値は処理中の受給者によって異なります。

関連項目:

第 15 章、「[ELEMENT処理の定義](#)」、545 ページ

第 5 章、「[ELEMENTの一般情報の定義](#)」、67 ページ

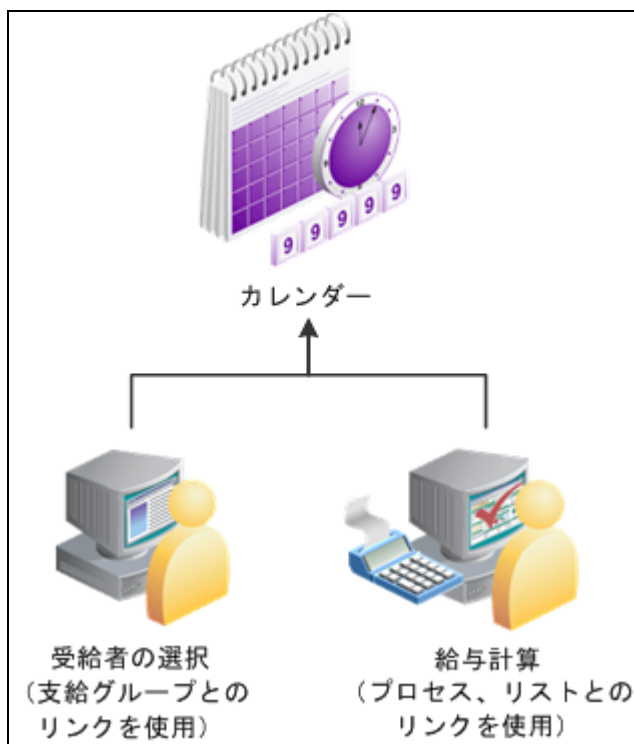
カレンダー

給与計算処理または休暇欠勤処理を実行するには、カレンダーを使用して関連するシステム構成要素をリンクさせます。また、支給対象者、支給額、および支給対象期間もカレンダーで管理されます。

1 つのカレンダーに関連付けられる支給グループは 1 つだけです。以下のさまざまな選択条件を用いて、支給対象者を定義できます。

- カレンダー実行タイプ: 支給項目を定義します。
- カレンダー期間 ID: 支給対象期間を定義します。
- カレンダー グループ ID: 同時に処理するカレンダーをグループ化します。

以下の図は、カレンダーによってどのように給与計算処理や休暇欠勤処理の構成要素が結び付けられているかを表しています。



カレンダーによってプロセス全体が結び付けられます。

関連項目:

第 16 章、「[カレンダーの使い方](#)」、577 ページ

バッチ処理フローのアーキテクチャについて

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- グローバル ペイロールのモード

- 受給者の選択
- 計算 (技術情報)
- バッチ処理で使用するアレイ (技術情報)
- バッチ処理出力テーブル

グローバル ペイロールのモード

グローバル ペイロールでは、非常に特殊な処理順序で受給者およびエレメントを処理します。給与計算処理または休暇欠勤処理の実行時には、受給者、エレメント、ルールなど、定義済みのシステム構成要素全てが連携して動作します。

グローバル ペイロールには、以下の 2 つの主要なモードがあります。

- 設定モード

設定モードでは、給与計算システムを構成する多様なエレメント、ルール、その他のシステム設定を定義します。

- 処理モード

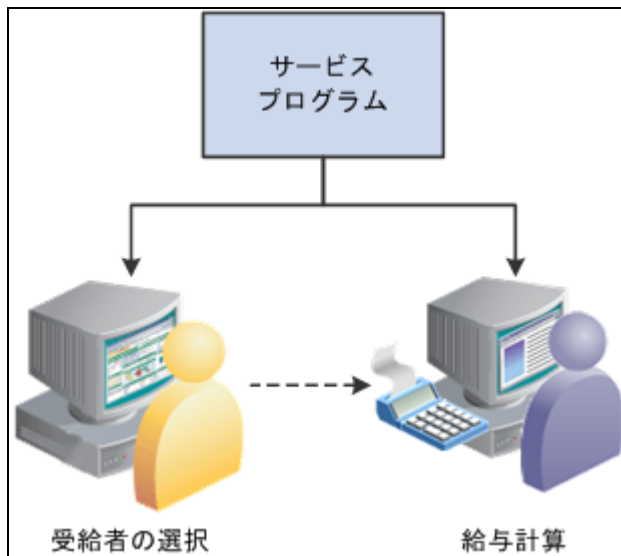
処理モードでは、定義済みの設定情報および入力されたデータが全て参照され、指定されたとおりに処理されます。

注意: このセクションでは、バッチ処理フローのアーキテクチャの大まかな概要について説明しています。処理の各フェーズについては、この PeopleBook の後の方で詳しく説明します。

受給者の選択

給与計算または休暇欠勤のバッチ処理を実行する際に、最初に呼び出されるのはサービス プログラムです。サービス プログラムは、処理対象となる受給者の選択と計算処理との間の調整役として機能します。サービス プログラムによって、受給者選択処理が起動されます。受給者の選択が終わると、サービス プログラムは受給者選択フェーズで作成されたデータの制御を計算プログラムに移します。

以下の図は、サービス プログラムがどのようにして受給者選択フェーズと計算フェーズの調整をしているかを表しています。



サービス プログラムはバッチ処理の開始点

給与計算処理を行うには、まず処理対象となる受給者を指定する必要があります。グローバル ペイロールでは、これを受給者の選択**または受給者の特定**と呼んでいます。受給者の選択は、給与計算処理および休暇欠勤処理では必須です。

受給者選択の処理は、計算処理とは別のものです。受給者選択のルールは、給与計算または休暇欠勤の計算処理に関連付けられていません。受給者の選択フェーズでは、受給者の選択、および後で計算フェーズに渡されるデータの作成だけが行われます。

支給カレンダーは、受給者選択処理と計算処理の調整と定義を行う制御機能としての役割を果たします。また、給与計算/休暇欠勤ラン コントロールでも、受給者の選択が制御されます。

カレンダー定義のページで、アクティブな受給者进行处理するのか、それともリストされた受給者のみを処理するのかを指定します。アクティブな受給者进行处理する場合、ほかにもいくつかの条件を指定できます。リストされた受給者のみを処理する場合は、処理対象にする受給者の従業員 ID を受給者リストに挿入します。

受給者の選択処理ではまた、遡及トリガおよび期間分割トリガが使われます。遡及トリガを使うと、特定の受給者について、現在の支給期間以外の支給期間も処理することができます。期間分割トリガを使うと、支給期間がセグメントに分割されるため、複数の計算が行われます。

受給者選択処理の結果、受給者処理ステータス (GP_PYE_PRC_STAT) レコードおよび受給者セグメント ステータス (GP_PYE_SEG_STAT) レコードが作成されます。受給者処理ステータス レコードは、カレンダーごとに各受給者に対して作成されます。遡及処理も対象になります。受給者セグメント ステータス レコードは、カレンダーごとに各セグメントの各受給者に対して作成されます。受給者処理ステータス レコードおよび受給者セグメント ステータス レコードには、実行中のカレンダーに関連付けられている受給者データが格納されます。実質的に、受給者処理ステータス レコードおよび受給者セグメント ステータス レコードには、処理対象の受給者および全支給期間がリストされます。これには、現在の支給期間および予想される遡及期間も含まれます。

関連項目:

[第 21 章、「給与計算の処理」、処理の概念、 817 ページ](#)

[第 16 章、「カレンダーの使い方」、 577 ページ](#)

計算 (技術情報)

受給者の選択が終わると、サービス プログラムは処理の制御を計算フェーズに移します。計算フェーズでは、受給者処理ステータス レコードおよび受給者セグメント ステータス レコードに保存されているデータが、受給者データの開始データ セットとして扱われます。

給与計算処理の最初のステップで、プロセス レベルのデータがアレイにロードされます。ロードされるデータには、支給元、支給グループ、有資格グループ、カレンダー、プロセス リストなどから取得されたデータが含まれます。これらのシステム データは、受給者固有のデータと違って頻繁に変更されることはありません。

計算プログラムでは、受給者選択フェーズで作成された受給者処理ステータス レコードおよび受給者セグメント ステータス レコードに基づき、各受給者データが処理されます。このプログラムによって、受給者レベルのデータが全て受給者アレイにロードされます。ロードされるデータには、職務、個人、給与、上書き、ポジティブ入力などのテーブルから取得されたデータが含まれます。

また、受給者レベルのデータをアレイにロードする処理では、支給を処理するたびにデータがリフレッシュされるか、またはデータへのポインタが初期化されるため、以下のことが可能になります。

- 正しい有効日の付いた情報が常に使用されます。
- 正しい年間累計残高が常に反映されます。
- 休暇欠勤データなどのポジティブ入力は、常に次の給与に繰り越されます。

この段階で、プロセス レベルおよび受給者レベルの全てのデータがアレイにロードされ、処理の準備が整います。

次に、計算フェーズでエレメントの資格が確認されます。

計算プログラムによって、プロセス リスト マネージャ プログラムが呼び出されます。プロセス リスト マネージャ プログラムでは、プロセス リストが参照され、どのエレメントをどの順番で処理するのかが決められます。

プロセス リスト マネージャで処理対象のエレメントが見つかり、各エレメントの管理プログラムである PIN マネージャが呼び出され、処理の始めに処理対象として確認された各エレメントが処理されます。PIN マネージャでは、この処理中に PINV アレイが参照されます。PINV アレイには、給与計算バッチ処理中に全てのエレメントの変換結果が保存されます。PINV に保存されているデータが未変換のエレメントがあることを示している場合、PIN マネージャによって、特定タイプのエレメントを処理する PIN 変換プログラムが呼び出されます。

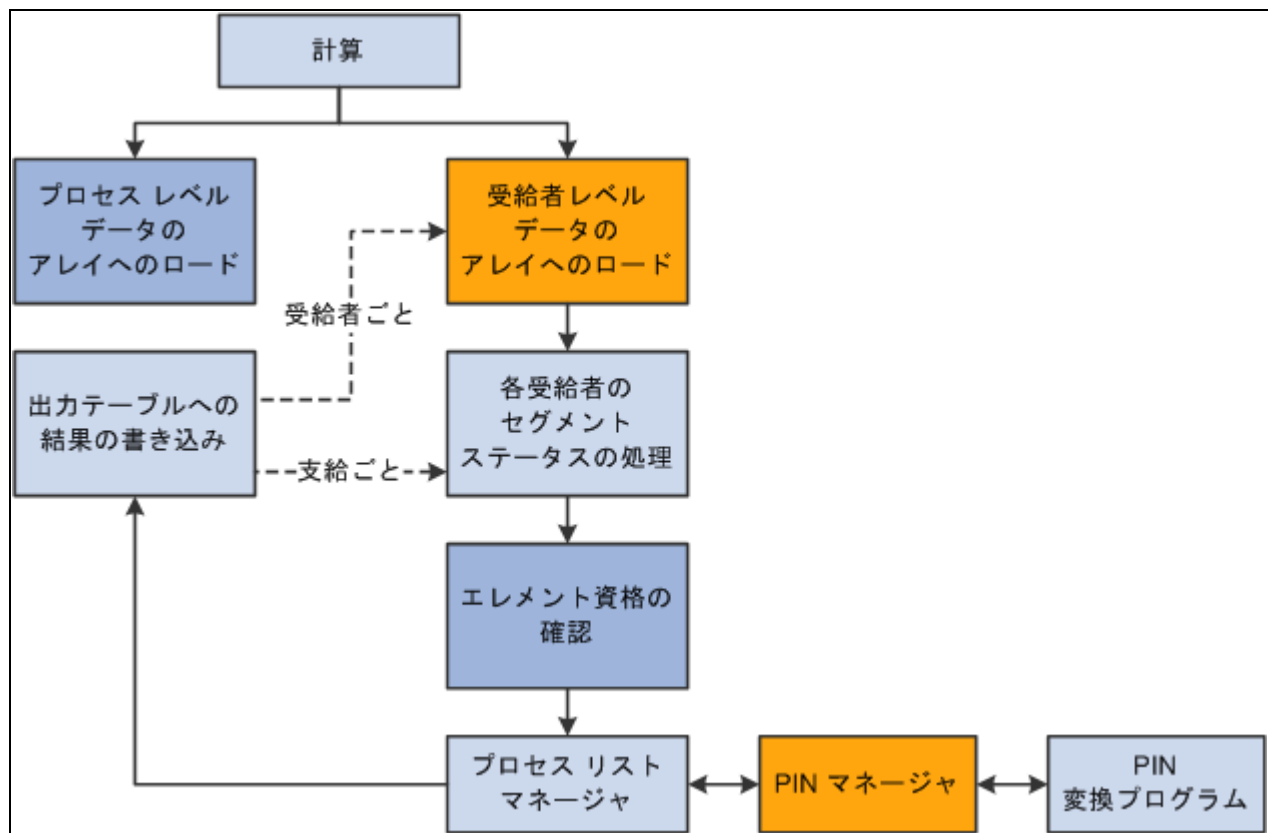
PINW と呼ばれる別のアレイには、バッチ処理中に変換される累計データが保存されます。

各 PIN 変換プログラムでは、それぞれ特定のタイプのエレメントが変換されます。たとえば、ある PIN 変換プログラムでは支給エレメントが変換され、別の PIN 変換プログラムではフォーミュラ エレメントが変換されます。PIN 変換プログラムによって、エレメントの定義がメモリにロードされます。その後 PIN 変換プログラムでは、受給者に対する受給者上書きデータやポジティブ入力データによって、メモリに保存されている定義が上書きされます。エレメントからほかのエレメントが参照され、メモリにロードされている定義が上書きされると、PIN 変換プログラムによって PIN マネージャが呼び出され、参照先のエレメントが変換されます。エレメントは、ほかのエレメントの構成要素になることができます。つまり、処理中にある 1 つのエレメントを変換すると、主要エレメントを構成しているほかのエレメントを全て変換する必要がある場合がある、ということです。この処理の結果は、支給額、控除額、およびその他のエレメントの値の計算に使用されます。計算結果の値が PIN マネージャに返されると、PIN マネージャによってその値が主要値アレイ (PINV) に書き込まれます。

各エレメントは周期的に、または**繰り返し**変換されます。つまり、各エレメントが変換され、データが PINV または PINW に保存されると、次にプロセス リスト マネージャによって再びプロセス リストが参照され、次に処理されるエレメントが確認されます。こうして処理は繰り返されます。

給与計算または休暇欠勤の計算処理が全て終了すると、その結果が適切な出力テーブルに書き込まれます。最初に PINV および PINW アレイが参照され、計算結果がデータベースに書き込まれます。次に、全てのポジティブ入力が参照され、ポジティブ入力の履歴レコードにデータが書き込まれます。最後に、後で遡及処理を行うためのデルタが作成されます。

以下の図は、バッチ処理の計算フェーズを表わしています。



計算処理

関連項目:

第 19 章、「エレメントの資格チェックと変換」、717 ページ

第 15 章、「エレメント処理の定義」、プロセス リストの設定に使用するページ、573 ページ

第 18 章、「上書きの設定」、655 ページ

第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、615 ページ

バッチ処理で使用するアレイ (技術情報)

グローバル ペイロールのバッチ処理では、データの保存にアレイを使用します。アレイは、COBOL プログラムで処理中のデータを保存する一時テーブルです。処理が終了すると、プログラムによって一時アレイから適切な出力テーブルにデータが書き込まれます。

アレイの最大サイズを、PeopleSoft が提供しているプログラムで定義されているサイズより大きくしたい場合には、COBOL プログラムの修正が必要になります。アレイが小さすぎてデータがアレイに入らなくなると、エラー メッセージが表示されてバッチ処理は異常終了します。エラー メッセージ (MSGID-ARRAY-OFLOW) には、アレイ、およびそのアレイが定義されている COBOL ファイルが表示されます。これによって、どのファイルを修正する必要があるのかがわかります。

アレイの反復回数の増加

テーブルにアクセスするプログラムでは、特定のサイズのメモリ領域を割り当てて、通常 1 回の給与計算で使用される給与計算処理テーブルの詳細行をテーブル アレイに保存します。

適切なテーブル アクセス プログラムのアレイの反復回数を増やすことで、アレイの最大サイズを増加させることができます。

注意: ここで詳しく説明する修正以外、グローバル ペイロールによって提供されている COBOL の修正は**極力**行わないことをお勧めします。

たとえば、GPCDPDM.CBL 内の修正前のコードを見てみましょう。

以下は、アレイおよびそのアレイに対応する、COUNT コントロール フィールドです。このフィールドの値を超過しない限り、処理が強制終了されることはありません。修正を行う際には、**強調表示**されている数字を両方とも同じ値に変更する必要があります。

```
05  L-PMT-COUNT          PIC 9999    VALUE 0    COMP.
      88  L-PMT-COUNT-MAX          VALUE ?200.

05  L-PMT-DATA                                OCCURS ?200
                                         INDEXED BY PMT-IDX.
```

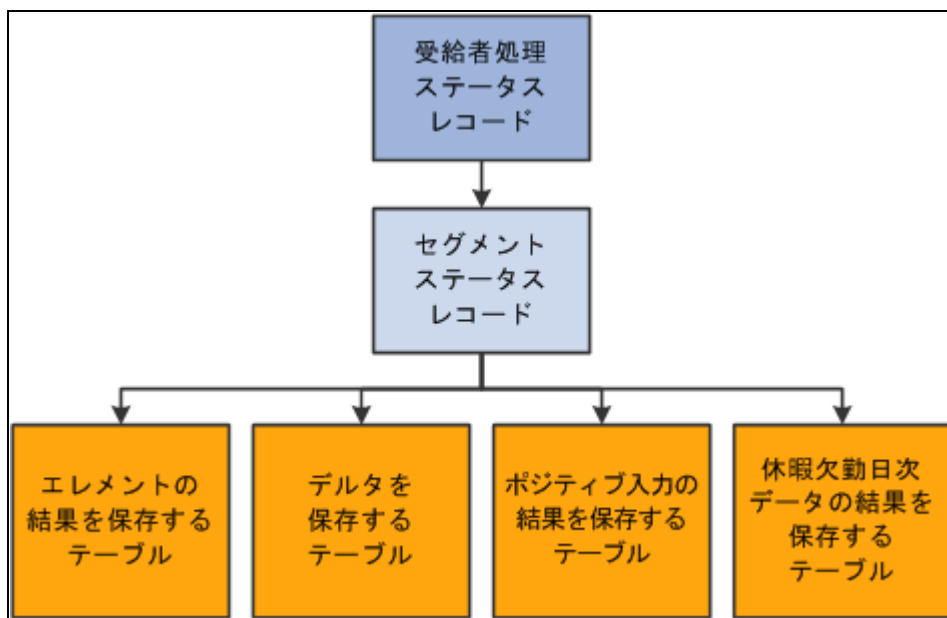
ここでは、どのカレンダーの実行中にも、1 人の受給者について処理する支給の数が 200 を超えないものと想定されています。200 を超える支給が処理されると、エラー メッセージ (MSGID-ARRAY-OFLOW) が表示され、その給与計算処理は終了します。

このアレイは処理する受給者が変わるたびにデータのロードとリフレッシュが行われますが、支給ごとにリフレッシュされるアレイや、処理全体を通してロードとインクリメントが行われるアレイもあります。

グローバル ペイロールの新規リリースにアップグレードする際、PeopleSoft からまったく新しいソース コードのセットが提供される場合でも、このタイプの修正は難しくありません。アレイ サイズの修正を新しいコード行に移動するだけです。アレイのサイズを修正したときは、必ずグローバル ペイロール COBOL コード行 (GPP*) 全体を再コンパイルする必要があります。

バッチ処理出力テーブル

給与計算または休暇欠勤のバッチ処理実行の最終目的は、一連の出力テーブルを作成することです。この出力テーブルには、重要なバッチ処理の結果が保存されます。グローバル ペイロールで作成した出力テーブルに保存されている情報のタイプがわかっているならば、これらのテーブルを使ってそれぞれの組織のニーズに対応したレポートを作成したり、その他の方法でデータを加工したりすることができます。以下の図は、バッチ処理の出力テーブル間の関係を表しています。



バッチ処理出力テーブル間の関係

受給者選択処理で作成されるテーブル

受給者選択処理によって、以下のテーブルが作成されます。

- 受給者処理ステータス レコード (GP_PYE_PRC_STAT)

カレンダーごとに、従業員 ID と雇用レコードの組み合わせそれぞれについて、受給者処理ステータス レコードが 1 つあります。

受給者処理ステータス レコードと受給者セグメント ステータス レコードとの関係は 1 対 1 または 1 対多です。

- 受給者セグメント ステータス レコード (GP_PYE_SEG_STAT)

受給者セグメント ステータス レコードは、受給者処理ステータス レコードの子レコードです。カレンダー内の総額/純額の計算ごとに、受給者セグメント ステータス レコードが 1 つ存在します。

エレメント結果を保存するテーブル

以下のテーブルに、エレメント結果が保存されます。

- 支給/控除 (GP_RSLT_ERN_DED)

バッチ処理終了後の支給および控除のエレメント結果が保存されます。

- その他のエレメント (GP_RSLT_PIN)

休暇付与エレメントの結果など、バッチ処理終了後の各種エレメントの変換結果が保存されます。

累計結果を保存するテーブル

累計テーブル (GP_RSLT_ACUM) には、バッチ処理終了後の累計結果が保存されます。

デルタを保存するテーブル

デルタ テーブル (GP_RSLT_DELTA) にデルタが保されます。デルタとは 2 つのエレメント結果の間の差分のことです。このデータは、遡及処理の際に重要になることがあります。このテーブルは、受給者セグメント ステータス テーブル (GP_PYE_SEG_STAT) の子テーブルです。受給者セグメント ステータス テーブルは受給者処理ステータス テーブル (GP_PYE_PRC_STAT) の子テーブルです。

ポジティブ入力の結果を保存するテーブル

以下のテーブルに、ポジティブ入力の結果が保存されます。

- ポジティブ入力データ (GP_RSLT_PI_DATA)

バッチ処理終了後のポジティブ入力計算の結果が保存されます。計算で使用されたポジティブ入力行だけがこのテーブルに含まれます。

- ポジティブ入力サポート エレメント上書き (GP_RSLT_PI_SOVR)

バッチ処理終了後のサポート エレメント上書きの結果が保存されます。

- 休暇欠勤日次データ (GP_RSLT_ABS)

休暇欠勤日時データの結果が保存されます。

多通貨について

どの複数国対応システムでも重要な点となるのは通貨のサポートです。グローバル ペイロールを使うと、多通貨処理を効率的に行うことができます。金額の入力および支払いには、どの通貨でも使うことができます。定義されたパラメータを使って必要な換算が自動的に行われます。

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- 通貨の使い方と定義
- 支給元レベルでの通貨
- エLEMENT レベルでの通貨
- 為替レート タイプと換算日
- 累計と通貨
- 多通貨にまたがった支給額の表示
- オンライン通貨デフォルト
- バッチ処理での通貨

注意: グローバル ペイロールは、欧州通貨統合 (EMU) の通貨変更要件に対応できるように設計されています。また、それ以外の全ての通貨にも対応しており、複数の通貨間で換算ができます。

通貨の使い方と定義

グローバル ペイロールで多通貨を使用するには、以下のテーブルを設定および管理します。

- 通貨コード テーブル (CURRENCY_CD_TBL。通貨コード データを格納)
- 通貨建値テーブル (CURR_QUOTE_TBL。通貨建値方法データを格納)
- 市場レート インデックス テーブル (RT_INDEX_TABLE。市場レート インデックス データを格納)
- 市場レート タイプ テーブル (RT_TYPE_TBL。市場レート タイプを格納)
- 市場レート データ テーブル (RT_RATE_TABLE。市場レート データを格納)

これらの PeopleSoft エンタープライズ コンポーネントのテーブルは、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理全体で使用されます。

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース 9.1 PeopleBook: エンタープライズ コンポーネント

システムで使用する通貨コード、タイプ、為替レート、および基本通貨を定義したら、多通貨を使って給与計算を実行するために、これらの情報がグローバル ペイロールでどのように使われるのかを知っておく必要があります。

このセクションに出てくるページについてはこのドキュメントの他の箇所で詳しく説明されているので、ここでは、通貨処理でこれらのページのフィールドがどのように使われるかについてだけ説明します。

通貨レート コード、レート タイプ、および為替レートを一度設定しておけば、これらを使って入力および出力する金額を制御できます。

以下の表は、グローバル ペイロールにおける、2 つのレベルの通貨コードの扱い方を表しています。

レベル	通貨コードの用途
支給元	この支給元に属する全ての受給者の処理通貨が決定されます。下位レベルで通貨コードの上書きが指定されていない場合、金額はこの処理通貨で処理されます。
データベース フィールドまたはエレメントの定義	職務テーブルまたは受給者データのコンポーネントで、受給者の基本報酬をデータベース フィールドとして入力する際に通貨コードを入力できます。また、支給や控除などほかのエレメントを定義するときも、その定義に通貨コードを割り当てることができます。こうすることにより、このエレメントに値が入力されると、そこで定義された通貨が適用されます。その後、この通貨は純支給額処理で処理通貨として指定されている通貨に換算されます。

グローバル ペイロールでは、ページ上で金額を入力するたびに通貨コードを指定する必要があります。通貨コードを使って、入力する通貨の単位を指定します。

支給元レベルでの通貨

給与計算処理では、支給元は組織の最上位レベルになります。全ての受給者は支給グループに割り当てられます。各支給グループは、1 つの支給元にのみ割り当てられます。支給元のページで入力された通貨は、その支給元に割り当てられている全ての支給グループ、およびそれらの支給グループに割り当てられている全ての受給者に適用されます。この支給元通貨を処理通貨といいます。

支給元に関連付けられた受給者の計算は全て、その支給元通貨で行われます。処理の前に、全ての入力アイテムがこの通貨に換算されます。処理が終わると、受給者ごとに全ての出力値が純支給額配分情報と共に保存されます。最終的に、この情報は銀行支給ファイルに渡されます。出力金額から別の通貨への換算は全て、この情報を受け取る団体（銀行など）によって処理されます。

処理に使用する通貨がそれぞれの国や地域で規定されていない場合、入出力で最もよく使用する通貨を処理通貨として必ず定義してください。

注意: 処理通貨は上書きできません。これは、ほかの通貨で金額の入力や出力ができないということではなく、実際の処理がこの通貨で行われていることを意味します。デフォルト通貨が上書きされた場合でも、支給額は処理通貨に換算されてから処理されます。

関連項目:

第 14 章、「組織構造の定義」、支給元の定義、529 ページ

エレメント レベルでの通貨

グローバル ペイロールには、多様な種類の金額エレメントがあります。通貨は、基本報酬およびその他のエレメントに使用できます。

基本報酬で通貨を使用する場合

職務データ コンポーネントで受給者の基本支給額を入力するときは、金額に通貨コードを指定します。この通貨が処理通貨と異なる場合、入力された金額は、受給者の支給が処理される前に処理通貨に換算されます。通貨コードを入力しない場合、これらの金額は処理通貨の値と見なされ、換算は行われません。

注意: 職務データ コンポーネントの通貨コードには、デフォルトとして支給元テーブルではなくインストール テーブルの基本通貨が表示されます。基本通貨は必ずしも支給元通貨と同じである必要はありません。基本通貨はグローバル ペイロールに影響しません。ただし、デフォルトの通貨コードを使って問題がないかを確認してください。正しくない場合は変更してください。

その他のエレメントで通貨を使用する場合

エレメントの例として支給および控除があります。支給エレメントや控除エレメントを定義する場合、支給エレメントまたは控除エレメントのコンポーネント フィールドに、変数などのほかのサポート エレメントを入力します。ベースやレートなどのコンポーネント フィールドには、通貨フォーマットを指定できます。通貨コードは、通貨フォーマットが指定されている全てのフィールドで指定する必要があります。バッチ システムへの入力時に、金額の通貨が処理通貨に変換されます。金額が変数で定義される場合、変数プログラムで金額が処理通貨に変換されます。その時点から、変換された値が計算で使用されます。変数が支給計算で使用される場合は、変換された値が使用されます。

関連項目:

第 6 章、「データ取得エレメントの定義」、システム エレメントの使い方、 122 ページ

為替レート タイプと換算日

グローバル ペイロールの計算では、支給元レベルで定義された処理通貨でない通貨の値があると、給与計算システムによる通貨換算が必要となります。通貨換算を行うには、使用する為替レート タイプと適用する換算日が認識される必要があります。為替レート タイプと換算日については以下で説明します。為替レート タイプと換算日が計算に使用されるのは、グローバル ペイロール内で行われる処理に対してだけです。オンラインの通貨換算など、ほかの機能には適用されません。

受給者レベルでの為替レート タイプと換算日

支給グループ コンポーネントの受給者職務データのデフォルトで定義した為替レート タイプと換算日を、受給者レベルで上書きすることができます。たとえば、イギリスの 10 人の受給者がドイツで勤務しているとします。このうちの 9 人には銀行の公定レート、残りの 1 人には特別のレートを使用するとします。これらの受給者が含まれる支給グループには、為替レート タイプに銀行の公定レートを定義します。しかし、10 人目の受給者についてはこの値を上書きする必要があります。職務データ コンポーネントで為替レート タイプを上書きすることができます。

受給者のデフォルトの値は、その受給者が含まれる支給グループに定義されている値です。この値を上書きした場合だけ、受給者レベルの値がシステムに保存されます。

為替レートの換算日は、支給期間終了日、支給日、または支給期間開始日とカレンダー期間の日付とを比較して決定されます。その結果、バッチ処理中に行う必要のある通貨換算に使われる為替レートが、適切な有効日に基づいて決められます。

関連項目:

[第 14 章、「組織構造の定義」、支給グループの定義、 536 ページ](#)

[第 14 章、「組織構造の定義」、支給元の定義、 529 ページ](#)

[第 4 章、「受給者データの使い方」、 51 ページ](#)

累計と通貨

累計の値は単一の通貨で管理されます。処理通貨を変更すると、累計の値は新しい処理通貨に自動的に換算されます。つまり、7 月 1 日に処理通貨をフラン (FRA) からユーロ (EUR) に切り替えると、6 月 30 日時点の累計の値がユーロに換算されます。6 月 30 日より後に累計に加算、または累計から差し引かれる金額は、ユーロで管理されます。

受給者が、異なる通貨で複数の国から給与を受け取る場合は、各通貨ごとに個別の累計を定義しておく必要があります。たとえば、ある受給者が 1 つの国で勤務しており、その国の通貨で給与を受け取っているとします。累計には、その受給者の年間累計支給額が保存されます。この受給者の職務が変更され、異なる通貨を使用する国がもう 1 つの勤務先として定義されたとします。この場合、この受給者の支給額を 1 つの累計に保存することができなくなります。したがって、2 つ目の国での年間累計支給額を保存するために、新しい累計をもう 1 つ定義する必要があります。

多通貨にまたがった支給額の表示

多くのオンライン ページでは、1 つの通貨で表示された支給額や金額を別の通貨で表示できるため、システムでサポートされている全ての通貨で換算を管理できます。

グローバル ペイロールでは、データ入力用および情報表示用のページで、金額を多通貨で表示できます。

オンライン通貨デフォルト

金額を入力するときには、通貨コードも入力する必要があります。デフォルトの通貨コードは変更可能です。

通貨のデフォルトには、プライマリ権限リスト基本設定、エレメント定義、または支給元の値が使用されます。プライマリ権限リスト基本設定では、プライマリ権限リスト基本設定レコード (OPR_DEF_TBL_HR) の EXCHNG_TO_CUR フィールドが参照されます。これは、プライマリ権限リスト基本設定のページで設定します。このレコードには有効日がありません。支給元レコードおよびエレメント定義レコードには、有効日があります。

以下の表は、デフォルトの通貨コードと有効日の一覧です。

ページ	デフォルト通貨コードのソース	有効日
支給	プライマリ権限リスト基本設定	なし
控除	プライマリ権限リスト基本設定	なし
変数	プライマリ権限リスト基本設定	なし
ブラケット	プライマリ権限リスト基本設定	なし
再計算/履歴抽出ルール	プライマリ権限リスト基本設定	なし
ポジティブ入力	エレメント定義に通貨がある場合はエレメント定義、そうでない場合はカレンダー ID の支給元	エレメント定義がソースの場合は、"定義の指定日" 時点の定義を使用します。支給元がソースの場合は、支給期間終了日を使用します。
サポート エレメント上書き	エレメント定義に通貨がある場合は支給元定義、そうでない場合は支給元	現在の日付
	エレメント定義に通貨がある場合は支給グループ定義、そうでない場合はその支給グループの支給元	現在の日付
	エレメント定義に通貨がある場合は支給カレンダー定義、そうでない場合はカレンダーの支給グループの支給元	支給期間終了日
	エレメント定義に通貨がある場合は受給者定義、そうでない場合はプライマリ権限リスト基本設定	現在の日付

ページ	デフォルト通貨コードのソース	有効日
上書き	エレメント定義に通貨がある場合は受給者定義、そうでない場合はプライマリ権限リスト基本設定	現在の日付

バッチ処理の通貨

以下は、バッチ処理の間に行われる通貨換算のステップです。

1. ユーザーは、自分が選択した通貨タイプを使って金額を入力します。
2. 為替レートが計算され、単一の処理通貨、つまり支給元レベルで定義されている処理通貨に換算されます。

金額に通貨コードが関連付けられていない場合、エレメントは変換されず、その支給はエラーになります。

バッチ処理では標準の PeopleSoft 通貨換算アプリケーションが使われます。このアプリケーションによって換算が行われ、入力された通貨に対応する分子および分母が返されます。この処理では、3 つの通貨を使った換算処理も行えます。

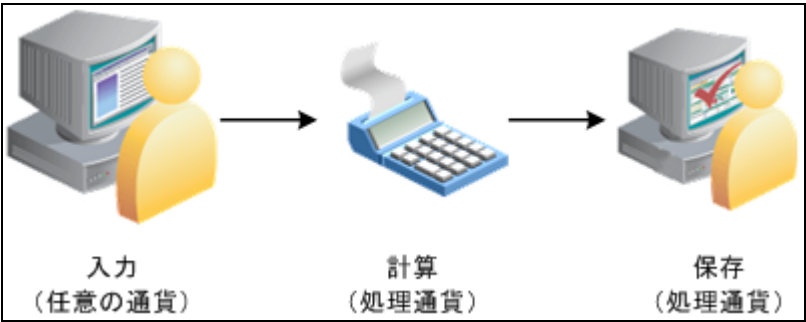
計算では、前の期間から取得されて別の通貨で保存されている累計値などの値は、現在の期間の為替レート タイプと有効日に基づいて、現在の処理通貨に換算されます。

3. 計算は処理通貨で行われ、その結果は処理通貨で PINV アレイに保存されます。
4. 計算結果は適切なテーブルに処理通貨で保存されます。通貨換算に使われた為替レート、通貨換算バッチ プログラムで使われた分子と分母、または最初に入力された金額と通貨コードは保存されません。

バッチ処理で、金額フィールドに関連付けられた通貨コードが見つからなかった場合、つまりフィールドが空白または通貨コードが無効な場合は、エレメントの変換ができないため、その支給はエラーになります。

注意: 計算に使われた元の金額および通貨コードを確認するには、入力ソース テーブルを参照してください。

以下のフローチャートは、バッチ処理で通貨がどのように処理されるかを表しています。



バッチ処理で使用する通貨

インストール設定の定義

インストール設定を定義するには、インストール テーブル コンポーネント (INSTALLATION_TBL)、インストール設定コンポーネント (GP_INSTALLATION)、および国別設定コンポーネント (GP_COUNTRY) を使用します。

グローバル ペイロールをインストールする際には、各組織に合わせてさまざまな設定やデフォルト値を選択します。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- グローバル ペイロール設定のアクティブ化
- デフォルトの国の設定
- グローバル ペイロールのインストール設定の定義
- スケジュール設定の定義および日付のロード
- 国別設定の定義

インストール設定の定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
製品	INSTALLATION_TBL1	[HRMS 基本設定]、 [インストール]、[インス トール テーブル]、[製 品]	インストールされている PeopleSoft アプリケー ションを定義します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
国別指定	INSTALLATION_TBL3	[HRMS 基本設定]、 [インストール]、[インストール テーブル]、[国別指定]	国別の情報を定義します。
インストール設定	GP_INSTALLATION	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[インストール設定]	グローバル ペイロール特有のインストール設定を定義します。
スケジュール設定	TL_INSTL_PUNCH	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[インストール設定]、[スケジュール設定]	勤務スケジュールのデフォルト設定を定義します。
日付テーブルのロード	TL_DATE_LOAD	スケジュール設定ページの [日付のロード] ハイパーリンクをクリックします。	スケジュールの設定で使用する日付をロードします。
国別設定	GP_COUNTRY	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[国別設定]、[国別設定]	純支給額確認フォーミュラ、デフォルト遡及方法、および銀行振込処理や一般会計処理などの国別設定パラメータを定義します。

グローバル ペイロール設定のアクティブ化

製品ページ ([HRMS 基本設定]、[インストール]、[インストール テーブル]、[製品]) にアクセスし、[グローバル ペイロール コア] チェック ボックスをオンにします。

PeopleSoft Enterprise Payroll for North America、または PeopleSoft Enterprise 給与計算インターフェイスを使用する場合は、それぞれのチェック ボックスもオンにします。従業員への支給には、グローバル ペイロールだけを使うことも、ほかの給与計算アプリケーションを組み合わせることもできます。たとえば、3 つの職務を兼任している従業員に対し、1 つの職務についてはグローバル ペイロールで、別の職務については Payroll for North America で、さらにもう 1 つの職務については給与計算インターフェイスでエクスポートしたデータを使用するサードパーティの給与計算システムで、給与を支給することができます。

グローバル ペイロールの国別拡張機能をインストールするには、製品ページの [グローバル ペイロール国別機能] ハイパーリンクをクリックして、適用する国別拡張機能を選択します。

デフォルトの国の設定

"国別指定" ページ ([HRMS 基本設定]、[インストール]、[インストール テーブル]、[国別指定]) にアクセスします。

[国] フィールドには、組織が業務を行う主要な国を設定します。従業員の大多数が支給を受ける国を指定してください。

グローバル ペイロールのインストール設定の定義

"インストール設定" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[インストール設定]) にアクセスします。

インストール設定 (I)		スケジュール設定 (S)	
▼ チェックポイント間隔			
確認フェーズ:	<input type="text" value="2000"/>	チェックポイント間隔の説明: バッチ処理のパフォーマンスに影響を及ぼす要素の 1 つに、データベースへの変更がコミットされるまでに蓄積される作業データ量があります。	
計算フェーズ:	<input type="text" value="1000"/>	[確認フェーズ]、[計算フェーズ] には、コミットまでの作業データ量を、各コミット間の処理フェーズで処理される受給者数で指定します。最適な設定値は、インストール内容や処理フェーズごとに異なります。	
TL 送信フェーズ:	<input type="text" value="3000"/>		
*キャンセル フェーズ:	<input type="text" value="2000"/>	[進行状況表示間隔] には、計算フェーズで進行状況をログに記録するタイムアウトを指定します。	
進行状況表示間隔:	<input type="text" value="500"/>		
休暇欠勤処理			
休暇欠勤履歴月数:	<input type="text" value="24"/>		
<input type="checkbox"/> 出力時にホスティング入力を含む			
▼ バッチ処理デフォルト			
スクリプト ロケーション: <input type="text"/>			
スクリプト ロケーションの例: C:\folder*			
規定バッチ デフォルト			
比較レポート印刷オプション			
<input checked="" type="checkbox"/> エラー/警告	<input checked="" type="checkbox"/> 修正	<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 削除
<input type="checkbox"/> 変更なし			
アップグレード処理の続行			
<input type="checkbox"/> エラーあり			
<input type="checkbox"/> 警告あり			

インストール設定ページ

チェックポイント間隔

チェックポイント間隔には、データベースの 1 つのコミットから次のコミットまでの間に処理される従業員数を指定します。[確認フェーズ] と [計算フェーズ] には、異なる間隔を指定することができます。**"コミット" された従業員は、技術的な問題で実行を再開しなければならない場合でも、再計算の必要はありません。**

進行状況表示間隔

処理された従業員数を処理ログに出力する頻度を指定します。

休暇欠勤処理

休暇欠勤履歴月数

休暇取得エレメント処理およびデュレーション エレメントで使用するために、休暇欠勤日次履歴をバッチ処理にロードする月数を指定します。休暇欠勤日次履歴は結果テーブル GP_RSLT_ABS からロードされます。

出力時にポジティブ入力をバンドル

このチェック ボックスをオンにすると、休暇欠勤処理でポジティブ入力がバンドルされます。可能であれば、1 行のポジティブ入力データとして給与計算に送られます。同じパーセントやレートを持つ、同じ休暇欠勤イベントに対するポジティブ入力データがまとめられます。ユニット値、金額値、およびベース値は合計されます。つまり、休暇欠勤処理から、日次データ行ではなくバンドルされたポジティブ入力行が出力されます。作成されたポジティブ入力結果テーブルに対するデータ保存領域のサイズを検討する際には、このことを考慮する必要があります。日次支給/控除エレメントの詳細は保存されない点に注意してください。これは給与計算時の実際の支給/控除計算にはいかなる影響も与えません。このチェック ボックスをオフにすると、休暇欠勤処理で、生成されるポジティブ入力結果テーブルには日次データ行が挿入され、給与計算の入力プロセスの一部として日次データ行がバンドルされます。

参照: 第 25 章、「休暇欠勤の入力と処理」、979 ページ。

パッケージ処理デフォルト

スクリプト ロケーション

DMS スクリプトが作成される場所を入力します。デフォルトは空白です。フィールドの下に、スクリプト ロケーションの入力方法を示す例が表示されます。

注意: 値は規定パッケージおよび規定外パッケージのデフォルトになります。このスクリプト ロケーションは、使用する PSNT プロセス スケジューラに対して設定されたロケーションと一致している必要があります。これは psconfig.cfg ファイルで設定されています。

比較レポート印刷オプション

このグループ ボックスは、印刷される比較レポートのセクションを制御します。印刷するレポートのセクションを選択します。パッケージ処理ページに表示されるオプションのデフォルトは、比較レポートを実行するたびに選択される値です。チェック ボックスは処理ページで上書きできます。

レポート セクションの値は、以下のとおりです。

- [エラー/警告]: 比較中に発生した警告またはエラーを印刷する場合に選択します。
- [修正]: ターゲット データベース内のエレメントとは異なるエレメントを印刷する場合に選択します。

上記の 2 つのオプションには、提供されているデフォルトが反映されます。

- [新規]: 新規エレメントを印刷する場合に選択します。
- [削除]: 削除されるエレメントを印刷する場合に選択します。
- [変更なし]: 変更のないエレメントを印刷する場合に選択します。

アップグレード処理の続行

このグループ ボックスは、エラーまたは警告がある場合にアップグレード処理を行うかどうかを制御します。デフォルトでは、各値はオフになっています。

有効値は以下のとおりです。

- [エラーあり]: エラーがあっても比較後にパッケージをアップグレードする場合に選択します。
- [警告あり]: 警告があっても比較後にパッケージをアップグレードする場合に選択します。

スケジュール設定の定義および日付のロード

"スケジュール設定" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[スケジュール設定]) にアクセスします。

インストール設定(I)

スケジュール設定(S)

日付のロード

日常処理に使用する日付範囲をロードするための年数を入力するには、[日付のロード] を選択します。
既存の日付範囲は 1998/06/19 から 2018/06/14 までです。

*スケジュール合計オプション:

休憩を含める

スケジュール決定オプション:

最新のスケジュール更新を採用

記録パターンのデフォルト値

記録時刻タイプ*	シフトの列見出し		
始業	始業	+	-
休憩	休憩	+	-
始業	始業	+	-
食事	昼食	+	-
始業	始業	+	-
終業	終業	+	-

Oracle Workforce Scheduling

☐ OWS スケジュールへの上書きを許可

スケジュール設定ページ

日付のロード

クリックすると "日付テーブルのロード" ページにアクセスします。このページでは、スケジュールで使用する日付の範囲をロードすることができます。1994 年から 2014 年までの日付は、あらかじめロードされています。この日付範囲より前か後の日付をロードする場合にのみ、この機能を使用します。

スケジュール合計オプション

このフィールドは、People Soft Enterprise 勤務管理がインストールされている場合にのみ有効です。食事、休憩、またはその両方の時間を、スケジュール定義、シフト定義、およびスケジュール管理ページの予定勤務時間の合計に含めるかどうかを指定します。オプションには、[休憩を含める]、[食事/休憩を含める]、[食事/休憩を除外]、および [食事を含める] があります。

スケジュール決定オプション

スケジュール変更の決定方法を指定します。

最新のスケジュール更新を使用して従業員のスケジュールを決定する場合は、[最新のスケジュール更新を採用] を選択します。使用される更新は、サードパーティの従業員スケジュール システムからのものか、オンライン スケジュール上書きになります。

オンライン スケジュール上書きを使用して 1 日のスケジュールを決定する場合は、[オンライン スケジュール上書きを採用] を選択します。サードパーティの従業員スケジュール システムによるスケジュール更新は使用されません。

記録パターンのデフォルト値

スケジュールのページで表示されるデフォルトの記録時刻タイプを順に指定します。また、[グリッドの列見出し] フィールドを使用して、スケジュールのページで表示される記録時刻タイプの列見出しを変更することもできます。

Oracle Workforce Scheduling



OWS スケジュールへの上書きを許可 (Oracle Workforce Scheduling スケジュールへの上書きを許可)
このチェック ボックスをオンにすると、マネージャは "スケジュールの管理" ページで従業員と従業員レコードの組み合わせについて OWS から挿入された記録スケジュールを変更または上書きすることがができます。

関連項目:

第 13 章、「スケジュールの使い方」、473 ページ

国別設定の定義

"国別設定" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[国別設定]、[国別設定]) にアクセスします。

	
国:	CYM クイマン諸島
純支給額確認フォーミュラ:	<input type="text"/> 
*デフォルト遡及方法:	<input type="text" value="繰越"/>
*不整合時の遡及方法:	<input type="text" value="繰越"/>
<input type="checkbox"/> セグメント以外のデルタ コンポーネントを保存	
現在の結果と調整の合計を使用	
<input type="checkbox"/> 銀行振込処理	
<input type="checkbox"/> 一般会計処理	
受給者割当処理	
*割当処理オプション:	<input type="text" value="セグメント終了日時点でアクティブな場合"/>
割当比例配分の開始日:	<input type="text"/>

国別設定ページ

純支給額確認フォーミュラ

優先順位による純支給額確認を使用する場合は、この国の純支給額確認に使用する純支給額確認フォーミュラを指定します。純支給額確認を行うと、控除後の純支給額がゼロ未満、または定義された下限額未満になるような控除は行われなくなります。優先順位による純支給額確認を使用すると、まず全ての控除が処理順序に従って計算されます。その後、優先順位の低い控除（優先順位番号の大きいもの）から順に、ここで指定したフォーミュラの変換が行われます。このフォーミュラは、エレメントの計算または純支給額の確認（あるいはその両方）を行うか、またはエレメントの計算をスキップするかを指示する値を返します。フォーミュラ作成のガイドラインについては、「エレメント処理の定義」の章で説明されています。

注意: 純支給額確認については、この PeopleBook の後の方で詳しく説明します。

参照: 第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、純支給額の確認と延滞処理について、307 ページ。

デフォルト遡及方法

選択した国に対して使用するデフォルトの遡及方法を指定します。
[繰越] または [訂正] を選択します。

不整合時の遡及方法

以下の場合に使用する遡及方法を [訂正] または [繰越] から選択します。

- 従業員が複数の支給グループまたは支給元に関連付けられている場合
- 同じ期間 ID が指定されている 2 つのカレンダーが、1 つのカレンダー グループ内で異なる遡及方法を使用する場合

受給者割当処理

[受給者割当処理] フィールドは、支給/控除の受給者割当をいつ処理するかを決定します。オプションは以下のとおりです。

- [セグメント終了日時点でアクティブな場合]: セグメント終了日に割当がアクティブな場合に、受給者割当ページで入力されたエレメントを処理するには、このオプションを選択します。
- [セグメント期間内でアクティブな場合]: セグメント終了日にアクティブな行以外に、セグメントの範囲内にある行について、受給者割当ページで入力されたエレメントを処理および比例配分するには、このオプションを選択します。

注意: 支給/控除割り当ての比例配分が必要なときは、このオプションを使用します。これは、支給/控除割り当ての比例配分を設定する手順の最初のステップです。さらに、受給者割り当てレコード (GP_PYE_OVRD) に対して分割トリガ定義を作成する必要があります。

参照: 第 32 章、「分割の定義」、支給/控除割当の分割と比例配分、1211 ページ。

割当比例配分の開始日

割当処理オプションが [セグメント期間内でアクティブな場合] のときに、割り当てを比例配分する開始日を入力します。日付を空白のままにすると、比例配分は遡及期間を含む全処理期間で有効になります。開始日を入力すると、比例配分は指定された日付以降に有効になります。この場合、前の行に影響を与えることで遡及結果を変更する事態を、避けることができます。

ゼロ以外のデルタ コンポーネントを保存

エレメント名のページ (GP_PIN) にある [結果] グループ ボックスの該当エレメントの設定に関係なく、ゼロ以外の値のデルタ金額やデルタ コンポーネントを保存する場合は、このチェックボックスをオンにします。エレメントの保存オプションをデルタに継承する場合は、このチェックボックスをオフにします。

以下の表は、チェック ボックスの設定が各レベルでどのように解釈されるかをまとめたものです。

エレメントの保存オプション	国のデルタ オプション	エレメントを保存	国を保存
オン	オン	はい	はい
オン	オフ	はい	はい
オフ	オン	いいえ	はい
オフ	オフ	いいえ	いいえ

注意: 遡及処理に関する情報については、この PeopleBook のほかの章で詳しく説明します。

参照: 第 33 章、「遡及処理の定義」、1219 ページ。

現在の結果と調整の合計を使用

このグループ ボックスの [銀行振込処理] と [一般会計処理] のどちらをオンにしても、遡及方法によって影響範囲が異なります。

- [デフォルト遡及方法] が [訂正] の場合、銀行振込処理と一般会計処理のどちらを指定しても、訂正遡及の動作に影響はありません。
- [デフォルト遡及方法] が [繰越] の場合、遡及処理では前回の金額や再計算後の金額は取り消されません。その代わりに、チェック ボックスの設定に従って、現在の結果 (V1R1) と調整の合計が銀行振込処理または一般会計処理に使用されます。

注意: 銀行振込処理や一般会計処理に対する遡及処理の動作については、この PeopleBook のほかの章で詳しく説明します。

参照: 第 34 章、「銀行振込の定義」、1311 ページ。

参照: 第 39 章、「PeopleSoft Enterprise 一般会計との統合」、1525 ページ。

第 4 章

受給者データの使い方

この章では、受給者データ、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理からのデータ取得、および受給者への給与計算システムと支給グループの割り当てについての概要と、以下の作業の方法について説明します。

- 関係者の追加
- 受給者データの表示
- 受給者データの更新
- 銀行振込データの共有
- スケジュール データの共有

受給者データについて

グローバル ペイロールでは、職務データ、個人データ、銀行情報、スケジュールなど、ヒューマン リソース管理で定義されている受給者データを使用します。

グローバル ペイロールには、以下の 3 つの受給者タイプがあります。

- 従業員
- 非従業員
- 職務を持つ関係者

これら全ての受給者タイプに対し、グローバル ペイロールで給与を支給することができます。

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.1 PeopleBook: 人事・労務管理、「PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理での個人情報の追加」、個人情報の追加。

職務データ コンポーネントでヒューマン リソース管理に受給者を追加する際に、その受給者の給与計算システムとしてグローバル ペイロールを指定し、その受給者を支給グループに割り当てます。この支給グループにより受給者に対するデフォルト処理が定義されますが、これは上書きすることができます。

グローバル ペイロールで定義されているエレメントを使用すると、処理中にヒューマン リソース管理から受給者固有の情報を取得することができます。たとえば、給与レート コード エレメントを使って、複数の給与コンポーネントで使用される情報をヒューマン リソース管理から取得することができます。

ヒューマン リソース管理とグローバル ペイロールで統合されている部分には、職務データや個人データを扱う部分など、国別に異なるものがあります。これらのトピックの詳細については、ヒューマン リソース管理およびグローバル ペイロールの対応する国別機能のドキュメンテーションを参照してください。

注意: グローバル ペイロールには、ユーザーが照会できる受給者を制限する、受給者レベル セキュリティが用意されています。

関連項目:

第 38 章、「セキュリティの定義」、1507 ページ

ヒューマン リソース管理からのデータ取得について

このセクションでは、どのようにヒューマン リソース管理のデータが取得され、グローバル ペイロールで以下のエレメントと共に使用されるかについて説明します。

- データベース システム エレメント
- アレイ
- 給与レート コード
- 周期
- トリガ

データベース システム エlement

データベース システム エlementには、ヒューマン リソース管理から取得した受給者関連データが含まれています。これらのデータは、通常は支給計算に使用されます。これらのElementの設定や、変換のための特別な処理は必要ありません。これらのElementは計算に使用される際に変換されます。

データベース システム エlementは、以下のヒューマン リソース管理テーブルのデータによって作成されます。

- PERSON
- PERS_DATA_EFFDT (有効日付き個人データ)
- PER_ORG_ASGN_VW
- JOB (国別サブ レコードから取得したフィールドを含む)
- PER_ORG_ASGN (雇用形態)
- PER_ORG_INST (雇用データ)
- ADDRESSES
- CONTRACT_DATA
- WKF_CNT_TYPE (従業員契約タイプ)

参照: 第 6 章、「データ取得Elementの定義」、システム Elementの使い方、122 ページ。

住所関連システム Elementの使い方

ヒューマン リソース管理では、1 人の受給者に対して複数の住所を登録することができます。グローバル ペイロールでは、これらの住所の中からどの住所を使用するかを指定できます。これには、フォーミュラおよび ADDRESS TYPE と呼ばれるデータベース システム Elementを使用します。

給与計算プロセスを実行すると、セグメントまたはスライスの終了日時点で有効な住所データが取得されます。

注意: システム Elementによって取得されたデータが 30 文字 (文字フィールド)、または整数 12 桁小数 6 桁 (数値フィールド) を超える場合、そのデータはバッチ処理で切り捨てられます。たとえば、ADDRESS フィールドのシステム Elementは、55 文字までのデータを含むことができますが、バッチ処理の際にデータの最後の 25 文字が切り捨てられます。

使用する受給者の住所を指定するには、以下の手順に従います。

1. システム エlement ADDRESS TYPE に適切な文字値を割り当てるフォーミュラを作成します。

たとえば、値 HOME を ADDRESS TYPE に割り当てるフォーミュラを作成します。

2. 作成したフォーミュラをプロセス リストのセクションに追加します。

注意: [HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[個人情報管理タイプ]、[住所タイプ] にある住所タイプ テーブル ページでさまざまな住所タイプを確認することができます。

アレイ

アレイは、データベース システム エlementによるデータ取得が行われないテーブルやビューからデータを取得するElementです。たとえば、アレイを使って、ヒューマン リソース管理の福利厚生テーブル、または会社テーブルからデータを取得し、それをグローバル ペイロールで処理することができます。

参照: 第 6 章、「データ取得Elementの定義」、アレイ Elementの定義、130 ページ。

給与レート コード

給与レート コードを使って、ヒューマン リソース管理から給与コンポーネントのデータを取得し、グローバル ペイロールに取り込むことができます。ヒューマン リソース管理からデータそのものが転送されるのではなく、グローバル ペイロール内で値を計算するため、給与計算ごとに通貨換算を実行することができます。グローバル ペイロールでは、給与レート コード Elementを定義して、ヒューマン リソース管理のテーブルに定義されている、対応する給与レート コードにリンクさせることができます。

参照: 第 6 章、「データ取得Elementの定義」、給与レート コード Elementの定義、162 ページ。

周期

ヒューマン リソース管理には、有効日を持つ周期テーブルがあり、周期ごとに周期年次化係数を入力します。周期年次化係数の定義は、グローバル ペイロールの給与計算処理にとって重要です。

グローバル ペイロールでは、ヒューマン リソース管理と同じ周期テーブルにアクセスして、グローバル ペイロール全体における年次化および非年次化に使用します。ヒューマン リソース管理で周期を設定するときに、係数を関連付けます。たとえば、年次係数を 1、月次係数を 12、週次係数を 52 にします。

年次化および非年次化に使用する周期計算式は、ヒューマン リソース管理とグローバル ペイロールで共通です。

- $(\text{年次額}) = (\text{金額}) \times (\text{周期係数})$
- $(\text{非年次額}) = (\text{年次額}) / (\text{周期係数})$

重要: ヒューマン リソース管理の周期テーブル ページで既存の周期の有効ステータス、周期タイプ、または周期年次化係数を変更すると、その周期を使用した過去の計算値には新しい値が反映されないことを警告するメッセージが表示されます。

グローバル ペイロールで支給や控除を定義する際に、ヒューマン リソース管理の周期係数が指定されます。支給エレメントや控除エレメントの年次化は、指定された周期係数を使用して行われます。支給エレメントや控除エレメントの非年次化は、指定されたカレンダー期間の周期を使用して行われます。ただし、ジェネレーション コントロール周期が指定されている場合は例外です。その場合は、支給や控除の年次化は指定された周期係数を使用して行われますが、非年次化はジェネレーション コントロール周期を使用して行われます。

グローバル ペイロールでは、周期は以下に使用されます。

- エレメント定義
- ジェネレーション コントロール
- カレンダー期間 (処理中の周期を定義する場合)
- 給与レート コード エレメント
- システム エレメント

参照: 第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、計算ルールおよびコンポーネント、270 ページおよび第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、周期およびジェネレーション コントロールによる計算、272 ページ。

トリガ

グローバル ペイロールでは、トリガにより、ヒューマン リソース管理のデータの変更に対応して、反復、分割、または遡及処理を起動することができます。たとえば、給与レートの遡及昇給を検出するトリガを作成すると、前の期間が再処理され、受給者に支払う金額が計算されます。

トリガはフィールド レベルおよびレコード レベルのデータ変更に対応できます。

グローバル ペイロールでは、一括トリガを作成することもできます。一括トリガを使用すると、設定テーブルのデータ変更時に起動される受給者トリガを生成することができます。一括トリガは、特定のコンポーネントの特定のレコードに対して設定できます。

参照: 第 30 章、「トリガの設定」、1111 ページおよび第 31 章、「一括トリガの設定」、1177 ページ。

受給者への給与計算システムと支給グループの割り当てについて

グローバル ペイロールを使用して給与を支給する受給者それぞれに対し、以下の処理を行う必要があります。

1. "インストール テーブル" の製品ページで、給与計算システムとして [グローバル ペイロール コア] チェック ボックスをオンにします。
2. ヒューマン リソース管理の "職務データ" の給与計算ページで、給与計算システムとして [グローバル ペイロール] を選択します。
3. "職務データ" の給与計算ページで、受給者を支給グループに割り当てます。

支給グループ割り当てにより、受給者の有資格グループ、為替レート タイプ、および**使用レートの指定日**が決まります。これらの値は、"職務データ - 給与計算" ページで受給者ごとに上書きすることができます。

注意: "職務データ" の給与計算ページで受給者の支給グループを選択する前に、グローバル ペイロールの一般設定の一部として、あらかじめ受給者の職務データのデフォルトを支給グループ名ページで定義する必要があります。

注意: "職務データ" の給与計算ページで受給者の休日スケジュールを指定しない場合、その受給者の支給グループに割り当てられている休日スケジュールが給与計算処理に使用されます。

参照: 第 14 章、「組織構造の定義」、519 ページおよびPeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.1 PeopleBook: 人事・労務管理、「雇用データの追加。」

受給者の給与計算システムを指定することができる処理には、以下の 3 つがあります。

- 採用
- 再雇用
- 給与計算システムの変更

雇用または再雇用の処理中に、"職務データ" の給与計算ページで受給者の給与計算システムを指定すると、指定された給与計算システムを示す給与計算システム フラグを持つ行が、各受給者の職務レコードに作成されます。

また、給与計算システムの変更処理を行って、給与計算システムを指定することもできます。

たとえば、もともとヒューマン リソース管理は導入されていたけれども、給与計算にはサードパーティの給与計算システムが使用されていたとします。その後、2004 年 1 月 1 日にグローバル ペイロールに移行することが決まったとします。そこで、グローバル ペイロールを指定する給与計算システム フラグを持つ行を職務レコードに追加します。そうすると、2004 年 1 月 1 日時点で有効な支給期間に対する受給者データの計算および支給には、グローバル ペイロール システムが使用されます。

重要な点

給与計算システムとしてグローバル ペイロールを指定する場合の重要な点をいくつかご紹介します。

- グローバル ペイロールで受給者を処理するには、受給者の職務レコードが存在する必要があります。給与計算システム フラグや支給グループに関する情報は、受給者の職務レコードに格納されているからです。これは、どの受給者タイプ (従業員、非従業員、および職務を持つ関係者) に対しても当てはまります。
- グローバル ペイロールでは、受給者が給与計算システムに関連付けられている期間の給与計算システム フラグがグローバル ペイロールに設定されている受給者のみを処理します。
- グローバル ペイロールでは、将来のデータに対して給与計算システム フラグをグローバル ペイロールから別の給与計算システムに変更することができます。
- グローバル ペイロールでは、過去のデータに対して給与計算システム フラグをグローバル ペイロールから別の給与計算システムに変更することができます。

注意: 給与計算システム フラグ変更に対して、遡及トリガおよび期間分割トリガを作成することをお勧めします。

- 受給者がグローバル ペイロールに追加され、給与計算システム フラグ インジケータがグローバル ペイロールに設定されると、GP_PAYEE_DATA レコードに行が作成されます。

この時点で、グローバル ペイロールの遡及計算開始日は職務有効日に設定されます。グローバル ペイロールでの処理中にシステムで遡及可能な最も早い有効日は、遡及計算開始日です。また、この日付以降の日付に遡及計算開始日が更新されることはありません。職務有効日が修正されたり、この日付より前の有効日でグローバル ペイロールに雇用レコードが追加されたりなど、遡及計算開始日の修正が必要となる場合、グローバル ペイロールの遡及制限割当ページで手動で修正を行う必要があります。

参照: [第 33 章、「遡及処理の定義」、1219 ページ。](#)

- 給与システム間の統合はありません。

たとえば、PeopleSoft Enterprise 給与計算インターフェイスからグローバル ペイロールに切り替えても、残高やデータは自動的に転送されません。情報の転送は、それぞれの組織で行う必要があります。

職務データ レコードの追加または変更時のシステムの動作

受給者の職務レコードが作成されると、システム上でもなんらかの作業が行われます。たとえば、スケジュール割り当てテーブルに行が追加され、対象の従業員が使用するデフォルトのスケジュールが設定されます。デフォルトのスケジュールは、グローバル ペイロールでは支給グループ レベルで、PeopleSoft Enterprise 勤務管理ではワークグループ レベルで割り当てられます。この処理は、受給者がグローバル ペイロールから支給を受けているかどうかに関係なく行われます。

関連項目:

[第 33 章、「遡及処理の定義」、遡及削除、1306 ページ](#)

[第 30 章、「トリガの設定」、有効日が指定されたレコードに対する分割トリガの設定、1134 ページ](#)

関係者の追加

このセクションでは、グローバル ペイロールへ関係者の追加の概要、および関係者の追加方法について説明します。

関係者について

関係者とは、従業員でも非従業員でもないけれども、このシステムによって給与を支給されている人を指します。関係者がグローバル ペイロールで給与を支給されている場合、その関係者は関係者タイプがグローバル ペイロール受給者として、システムに追加されます。

関係者の追加は、グローバル ペイロールの [関係者情報の追加] コンポーネントを使用して行います。このコンポーネントは、ヒューマン リソース管理の [個人情報の追加] コンポーネントと同じです。関係者の追加はどちらのアプリケーションからでも行うことができますが、グローバル ペイロール固有の受給者を追加する場合は、グローバル ペイロールの [関係者情報の追加] コンポーネントを使用した方が処理が簡単です。

関係者の追加に使用するページ


ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
関係者情報の追加	GP_ADD_PERSON	[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[関係者情報の追加]	グローバル ペイロールに関係者の受給者を追加します。

関係者の追加

関係者情報の追加ページ ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[関係者情報の追加]、[関係者情報の追加]) にアクセスします。

関係者情報の追加

[該当する個人情報の検索](#)

従業員 ID: 

雇用コード:

関係者タイプ:

関係者情報の追加

従業員 ID	関係者の従業員 ID を入力します。
雇用レコード (雇用レコード)	個人の雇用レコード番号を入力します。
関係者タイプ	グローバル ペイロールで給与を支給する場合は、[グローバル ペイロール受給者] を選択します。
個人情報の追加	関係者情報を設定して [個人情報の追加] ボタンをクリックすると、ヒューマン リソース管理の個人情報コンポーネントが表示されるので、個人情報を入力します。ここで雇用データ (グローバル ペイロールの関係者の受給者) を追加することができます。そうすると、ヒューマン リソース管理の職務データ コンポーネントが表示されるので、給与計算システムや支給グループなどの給与計算に関連するデータを入力します。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.1 PeopleBook: 人事・労務管理、
「PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理での個人情報の追加」

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.1 PeopleBook: 人事・労務管理、「雇用データの追加」

受給者データの表示

このセクションでは、グローバル ペイロールの受給者データに関するページの概要と職務情報の表示方法について説明します。

グローバル ペイロールの受給者データのページについて

グローバル ペイロールには、受給者データに関連するページが 2 つあります。職務情報ページと遡及制限割当ページです。このセクションでは、職務情報ページでの受給者の職務データの表示について説明します。遡及制限割当ページについては、この PeopleBook の後の方で説明します。

関連項目:

第 33 章、「遡及処理の定義」、遡及期間と繰越遡及期限の設定、 1240 ページ

第 33 章、「遡及処理の定義」、受給者レベルでの遡及処理制限の定義、 1276 ページ

職務情報の表示に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
職務情報	GP_PYE_DATA	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[職務情報確認]	ヒューマン リソース管理で受給者の職務レコードに保存されているグローバル ペイロールの固有情報、および職務レコードの支給グループに関連付けられている支給元が表示されます。

職務情報の表示

職務情報ページ ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[職務情報確認]、[職務情報]) にアクセスします。

職務情報確認

従業員 ID: KFG0001雇用レポート: 0名前: Catherine Duval

職務データ							加減サイズ		検索	全件表示	最初	1/1	最後
有効日	給与計算システム	支給グループ*	支給元	有資格グループ*	為替レート タイプ*	使用レポートの指定日							
2008/01/01	GP	KFGMONTHLY	KFGPAYENT										

職務情報

このページに表示されるデータを変更するには、"職務データ" の給与計算ページ、またはその他の職務データのコンポーネントを使って、ヒューマン リソース管理の職務レコードを更新する必要があります。

給与計算システム	受給者の給与計算システムが表示されます。値は以下のとおりです。 GP (グローバル ペイロール) NA (Payroll for North America) OT (その他) PI (給与計算インターフェイス)
支給グループ	受給者の支給グループが表示されます。
支給元	受給者の支給元が表示されます。
有資格グループ	受給者の有資格グループが表示されます。
為替レート タイプ	受給者の為替レート タイプが表示されます。この値はヒューマンリソース管理に保存されています。グローバル ペイロール固有の値ではありません。
使用レートの指定日	通貨換算レートを取得する際に使用される有効日が表示されます。有効値は、カレンダー ID に基づいた支給期間開始日、支給期間終了日、および支給日です。

注意: [有資格グループ]、[為替レート タイプ]、および [使用レートの指定日] フィールドの値は、受給者レベルで上書きされている場合にのみ表示されます。支給グループのデフォルト値が使用される場合は、これらのフィールドは空白です。

関連項目:

第 33 章、「遡及処理の定義」、受給者レベルでの遡及処理制限の定義、1276 ページ

受給者データの更新

受給者の職務データまたは個人データを変更する必要がある場合、有効日付きの行を新規に追加します。職務データや個人データの既存行を変更すると、データが壊れる可能性があります。

たとえば、給与計算プロセスの実行後に、既存の職務データ行または個人データ行の受給者データを変更するとします。支給キーを変更すると、遡及プロセスが起動され、以前の支給の取り消しを行おうとします。しかし、支給を取り消すセグメントのために作成されたデルタのどれとも職務レコードの支給キーが一致しないため、この支給はエラーになります。

これを修正するには、職務レコードを元に戻して、同一有効日連番が異なる行を新規に挿入します。

銀行振込データの共有

グローバル ペイロールでは、ヒューマン リソース管理にある銀行テーブル、銀行支店テーブル、および送金元銀行口座テーブルを使用します。これらのテーブルは、銀行の名称、住所、口座名、および銀行 ID などの一般銀行情報の定義に使用できます。

グローバル ペイロールには、受給者の銀行口座情報や支給詳細の定義で使用する銀行振込関連のページが追加されています。

参照: 第 34 章、「銀行振込の定義」、1311 ページ。

スケジュール データの共有

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- ヒューマン リソース管理との休日スケジュールの共有
- 勤務管理とのスケジュール割り当ての共有

ヒューマン リソース管理との休日スケジュールの共有

グローバル ペイロールでは、ヒューマン リソース管理で作成される休日スケジュールを使用します。休日スケジュール情報は、受給者の職務レコードに保存されています。グローバル ペイロールではこの休日スケジュールを使用して、休暇欠勤処理で日次データを作成し、休暇残数を更新します。また、休日スケジュールを使用して、給与計算処理および休暇欠勤処理でカウント エレメントの変換が行われます。

ヒューマン リソース管理の職務レベルで受給者の休日スケジュールが定義されていない場合、グローバル ペイロールでは、受給者の支給グループに定義されている休日スケジュールが使用されます。支給グループに定義された休日スケジュールは、デフォルトでは職務レコードに表示されません。

関連項目:

第 14 章、「組織構造の定義」、519 ページ

勤務管理とのスケジュール割り当ての共有

グローバル ペイロールおよび勤務管理では、スケジュールの設定や割り当てに多数の共通ページや共通レコードを使用します。つまり、両方のアプリケーションを使用している組織では、スケジュールの作成および割り当ては 1 回で済みます。

グローバル ペイロールでのスケジュール割り当てのバッチ処理は、勤務管理とは違った処理になります。グローバル ペイロールの処理では、受給者がデフォルトの勤務スケジュールを使用している場合、支給グループで定義されている勤務スケジュールがデフォルトとして使用されます。勤務管理の処理では、受給者がデフォルトの勤務スケジュールを使用している場合、ワークグループで定義されている勤務スケジュールがデフォルトとして使用されます。

グローバル ペイロールではスケジュールを、支給グループのデフォルトではなく受給者レベルで割り当てすることもできます。"勤務スケジュールの割当" ページ ([主スケジュールの詳細] タブおよび [代替スケジュールの詳細] タブ) で、スケジュールおよび代替スケジュールを受給者に個別に割り当てることができます。

重要な点

勤務スケジュールについての重要な点をいくつかご紹介します。

- 受給者のデフォルトの勤務スケジュールおよび代替勤務スケジュールは、職務レコードには保存されません。

これらの情報は勤務管理とグローバル ペイロールが共有している PS_SCH_ASSIGN テーブルに保存されます。受給者が採用されると、新しい行が追加され、デフォルトの勤務スケジュールが受給者データに適用されます。

- 受給者のデフォルトの勤務スケジュールおよび代替勤務スケジュールは、"勤務スケジュールの割当" ページの [主スケジュールの詳細] タブおよび [代替スケジュールの詳細] タブで、受給者レベルで上書きすることができます。

関連項目:

第 13 章、「スケジュールの使い方」、勤務スケジュールの割り当て、 498 ページ

第 41 章、「PeopleSoft Enterprise 勤務管理との統合」、 1605 ページ

第 14 章、「組織構造の定義」、 519 ページ

第 5 章

エレメントの一般情報の定義

この章では、エレメント、エレメントの分類、データ取得エレメント、計算エレメント、および構造化エレメントについての概要と、以下の作業の方法について説明します。

- エレメント タイプの定義
- 入力タイプの定義
- 入力タイプの選択と使用先レコードとフィールドの組み合わせの表示
- 産業とカテゴリの定義
- エレメント名の定義
- コンポーネント エレメント情報の更新
- サフィックスの定義

エレメントについて

グローバル ペイロールのエレメントには多くの種類があり、それぞれに独自の使用目的があります。エレメントは使用方法によって、さまざまなカテゴリに分類することができます。エレメントは、データの取得、結果の計算、またはその他のエレメントの処理順序の定義などに使用することができます。それ自身が独立したエレメントである場合もありますが、**サポート エレメント**と呼ばれる、ほかのエレメントの構成要素になっているエレメントもあります。

エレメントを定義する前に、エレメント タイプや入力タイプの定義といった基本設定を 1 回だけ行い、エレメント分類に活用します。こうすることにより、組織に最も適した形でエレメントを使用することができます。

各エレメント タイプにはそれぞれ固有の特徴がありますが、全てのエレメント タイプは共通の属性を有しています。これらの属性は同じ方法で定義および保存されます。エレメント名を定義した後は、コンポーネント エレメントを使用して、ルールなどの情報を追加することができます。

エレメントの分類について

エレメントはさまざまなカテゴリに分類することができます。以下の表は、エレメントを機能別に分類したものです。

データ取得エレメント	計算エレメント	構造化エレメント
システム エレメント	変数	エレメント グループ
アレイ	日付	セクション
書き込み可能アレイ	期間	プロセス リスト
ブラケット	フォーミュラ	
給与レート コード	端数処理ルール	
仮再計算	カウント	
再計算/履歴抽出ルール	比例配分ルール	
	支給	
	控除	
	休暇付与	
	休暇取得	
	累計	
	ジェネレーション コントロール	

また、エレメントは、主要エレメント、サポート エレメント、またはその他のタイプのエレメントなど、エレメント タイプ別に分類することもできます。主要エレメントは、単独で使用できます。サポート エレメントは、支給エレメントや控除エレメントなど、より複雑なエレメントを作成するために使用されます。その他のエレメントは、有資格条件、累計、およびある種のルールなどを定義するために使用されます。

以下の表は、エレメントをエレメント タイプ別に分類したものです。

主要エレメント	サポート エレメント	その他のエレメント
支給	システム エレメント	再計算/履歴抽出ルール
控除	アレイ	端数処理ルール
休暇付与	ブラケット	比例配分ルール
休暇取得	給与レート コード	累計
	変数	仮再計算
	日付	エレメント グループ
	デューレーション	セクション
	フォーミュラ	プロセス リスト
	カウント	ジェネレーション コントロール
	書き込み可能アレイ	

データ取得エレメントについて

PeopleSoft から提供されているデータ取得エレメントもありますが、その他にユーザー自身がデータ取得エレメントを定義することもできます。このセクションでは、以下の事項について説明します。

- システム エレメント
- アレイ
- 書き込み可能アレイ
- ブラケット
- 給与レート コード
- 仮再計算
- 再計算/履歴抽出ルール

システム エレメント

システム エレメントは PeopleSoft によって提供および管理され、給与計算ルールの定義に使用できる情報を含んでいます。システム エレメントを変更したり、それらを定義するために特別な処理を行う必要はありません。ユーザーによるシステム エレメントの追加はできませんが、名称を変更することは可能です。

システム エレメントには、以下の 2 つのタイプがあります。

- データベース システム エレメント

データベース システム エレメントは、受給者に関するデータを取得するエレメントと考えることができます。これらには、部門 ID、所在地、および個人データなどの、計算に頻繁に使用されるデータが格納されます。データベース システム エレメントは、計算に使用されるときにだけ変換されます。

- システム計算エレメント

システム計算エレメントは、給与計算処理によって値がロードされますが、実際のデータベース フィールドではありません。システム計算エレメントが変換されるかどうか、またいつ、どんな方法で変換されるかは、エレメントの使用目的およびタイプによって決まります。

たとえば、支給期間終了日や期間タイプなどは総額/純額計算の始めに毎回変換されますが、休暇欠勤計算で使用される日次データは毎日計算されます。また、給与レート コードと共に使用されるシステム計算エレメントなどは、給与レート コード エレメントが計算に使用される場合にのみ変換されます。

関連項目:

第 6 章、「データ取得エレメントの定義」、システム エレメントの使い方、122 ページ

アレイ

アレイによって、フィールドとエレメントがリンクされます。アレイには、グローバル ペイロールによってシステム エレメントに値がロードされないデータベース テーブルのデータが格納されます。また、グローバル ペイロール以外のテーブルに保存されている複雑なデータを取得する場合にも、アレイを使用できます。たとえば、アレイを作成して、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の DEPENDENT_BENEF テーブルから、受給者の扶養家族の誕生日データを取得することができます。

アレイは、COBOL プログラムで処理中にデータが保存される一時テーブルです。処理が終了すると、そのプログラムによって一時アレイから出力テーブルにデータが書き込まれます。

アレイの使用方法は、次の 2 つの処理ステップから成ります。

1. データベースからデータを取得する。
2. 取得したデータをそれ以降の処理で使用する。

アレイを定義する際には、必要な情報をシステムに入力して、これらのステップを両方とも実行できるようにしておく必要があります。

関連項目:

第 6 章、「データ取得エレメントの定義」、アレイ エレメントの定義、130 ページ

第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、バッチ処理で使用するアレイ (技術情報)、29 ページ

書き込み可能アレイ

書き込み可能アレイを使うと、ユーザー定義のエレメントの値をテーブルの行に書き込むことができます。書き込み可能アレイは、多くの点で標準のアレイとは反対の性質を持っています。

書き込み可能アレイを使って、独自の結果テーブルにデータをロードすることができます。まず PeopleSoft アプリケーション デザイナを使って結果テーブルを作成します。その後、グローバル ペイロールの書き込み可能アレイ コンポーネントで、バッチ処理時にそのテーブルに値をロードするエレメントを定義します。

関連項目:

第 6 章、「データ取得エレメントの定義」、アレイ エレメントの定義、 130 ページ

ブラケット

ブラケットを使って、他の値に基づいて検索テーブルの値を検索、取得することができます。

たとえば、年功ベースの賞与が支給されているとします。受給者の勤続年数に基づいた正確な賞与の金額を検索するために、ブラケットを作成します。

注意: ブラケットを定義する前に、検索ルールに関連のある構成要素を全て定義しておく必要があります。

関連項目:

第 6 章、「データ取得エレメントの定義」、ブラケット エレメントの定義、 148 ページ

給与レート コード

給与レート コード エレメントを使って、固定的賃金や固定的賃金外の給与などを含む、複数の給与データを変換します。給与レート コード エレメントを使用して、ヒューマン リソース管理から複数の給与データを取得し、グローバル ペイロールに取り込みます。ヒューマン リソース管理からデータそのものが直接転送されるのではなく、グローバル ペイロール内で値の計算が行われるため、給与計算を実行するたびに通貨換算を行うことができます。

ヒューマン リソース管理の給与レート コードは、グローバル ペイロールでは自動的に変換されません。給与レート コードを使用して支給を行うには、グローバル ペイロールで支給エレメントを設定し、その支給エレメントの定義内で給与レート コード エレメントを指定します。支給対象とする給与レート コード エレメント全てに対し、支給エレメントを定義する必要があります。

注意: グローバル ペイロールで給与レート コード エレメントを定義したら、そのエレメントを HR であらかじめ定義されている給与レート コードと関連付けます。グローバル ペイロールの導入後にヒューマン リソース管理で給与レート コードを作成した場合に限り、対応する給与レート コード エレメントがグローバル ペイロールに自動的に作成されます。

注意: グローバル ペイロールでは、レート マトリックスをマッピングすることはできません。グローバル ペイロールでマッピングできるのは、単純な給与レート コードのみです。

関連項目:

第 6 章、「データ取得エレメントの定義」、給与レート コード エレメントの定義、 162 ページ

仮再計算

一時的な再計算を実行し、その結果を保存せずに返したいときは、仮再計算ルールを定義します。仮再計算とは通常の計算処理で実行される補助的な計算のことで、特定のパラメータを仮に使用した場合の純額を算出できます。この計算結果は、その後の通常の計算処理で使用されます。仮再計算は必ず通常の計算の中で開始され、1 人の受給者、特定の期間のセットに対して実行されます。仮再計算の中間結果は、通常の計算で使用される結果の一部以外は、必要とされないので無視されます。

仮再計算を使用する例の 1 つとして、産前産後休業があります。仮に、受給者が休業前の 3 か月間の平均純支給額に基づいて、3 か月分の産休手当を与えられているとします。一定の条件（この場合は、出産）を満たした場合に限り、平均純支給額が計算されます。受給者が産前産後休業の間は、この平均額が必要となります。ある値が変更されると、その変更データの有効日が後の日付であっても、元の 3 か月分の平均額を再計算する必要があります。

関連項目:

第 6 章、「データ取得エレメントの定義」、仮再計算エレメントの定義、 175 ページ

再計算/履歴抽出ルール

再計算/履歴抽出ルール エレメントは、過去の期間のデータを取得するルールの設定に使用します。再計算/履歴抽出ルールは、フォーミュラおよび仮再計算で使用されます。

再計算/履歴抽出ルールを使った例として、3 か月分の給与の移動平均を計算する場合があります。たとえば、今が 4 月の支給期間の終わりだとします。3 か月前、すなわち 1 月の始めまでさかのぼって、受給者の給与の平均額を計算する再計算/履歴抽出ルールを定義します。5 月の支給期間に移った場合は、今度は 2 月までさかのぼって 3 か月分の平均額が計算されます。常に直前の 3 か月間の平均額が計算されます。

再計算/履歴抽出ルールは、以下のように利用できます。

- エレメント定義ページで支給エレメント、または控除エレメントに割り当てます。
- グローバル ペイロールの支給/控除、累計、またはエレメントの各結果テーブルに保存されるエレメントに割り当てます。

- 仮再計算エレメントによる再計算の期間検出に使用します。

関連項目:

[第 6 章、「データ取得エレメントの定義」、再計算/履歴抽出ルール エレメントの定義、 183 ページ](#)

計算エレメントについて

計算エレメントを使用して、フォーミュラ、支給、控除などのエレメントを計算します。

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- 変数
- 日付
- 期間
- フォーミュラ
- 端数処理ルール
- カウント
- 比例配分ルール
- 支給
- 控除
- 休暇付与
- 休暇取得
- 累計
- ジェネレーション コントロール

変数

変数エレメントを使用して、文字、日付、または数字などの値を定義および格納します。たとえば、1 月 1 日現在、3 つのフォーミュラと 2 つの支給エレメントがあり、それぞれで通貨係数 20 を使用して計算が行われているとします。また、4 月 1 日にこの係数は 25 に変更される予定になっているとします。変数エレメントを使用しない場合は、有効日付きの変更を 5 つそれぞれに対して行う必要があります。しかし、この係数を変数エレメントとして定義すると、変数自体に対する有効日付きの変更 1 回だけで済みます。これで、この変数が使用されているところでは 25 という新しい係数が使われます。

変数は、アレイと共に使用できる唯一のエレメントです。アレイを作成すると、その値を変数にロードすることができます。

関連項目:

[第 7 章、「計算エレメントの定義」、変数エレメントの定義、213 ページ](#)

日付

日付エレメントを使用することにより、既存の日付を基準として日付を加算、または減算して、新しい日付を計算することができます。たとえば、受給者が勤続 5 年目になる日付を計算するには、受給者の採用日に 5 年を加算します。

また、日付は分解することができます。たとえば、その日付の年だけを知りたい場合、日付エレメントを使用してその日付を年、月、または日に分けて取り出します。

関連項目:

[第 7 章、「計算エレメントの定義」、日付エレメントの定義、218 ページ](#)

期間

デュレーション エレメントを使用して 2 つの日付の間の期間を計算します。デュレーションは、1 つの日付をもう 1 つの日付から引いた結果です。デュレーションは、年数、月数、または日数で定義します。

たとえば、受給者の年齢を計算するには、その受給者の誕生日とカレンダー期間終了日の間のデュレーションを計算します。

関連項目:

第 7 章、「計算エレメントの定義」、デューレーション エレメントの定義、 197 ページ

フォーミュラ

フォーミュラを使用して、独自のエレメントを作成します。フォーミュラ エレメントとして、複雑なルール、数式、および反復計算を定義することができます。

たとえば、従業員の休暇付与、四半期の賞与、年金プランへの従業員拠出金を計算するフォーミュラなどを定義することができます。

関連項目:

第 7 章、「計算エレメントの定義」、フォーミュラ エレメントの定義、 223 ページ

端数処理ルール

端数処理ルールを使用して、フォーミュラ、支給、控除などの数値に変換されるエレメントに端数処理を適用します。端数処理ルールは、端数処理が正常に行われると 1、正常に行われないと 0 に値が変換されます。

たとえば、変換済みの値を小数第 2 位までで切り捨てる端数処理ルールを定義するとします。計算中に、変換値 2.833333 が取得されます。端数処理ルールにより、この値は 2.83 に切り捨てられます。

桁数または少数部桁数などで端数処理を行うか、または増分の値を使用して端数処理を行うかを指定します。また、[指定値以上は切上、未満は切捨]、[切上げ]、[切捨て] から端数処理のタイプを選択します。

関連項目:

第 7 章、「計算エレメントの定義」、端数処理ルール エレメントの定義、 240 ページ

カウント

カウントは、日次ベースで計算および集計を行うための手段です。たとえば、カウントを使用して受給者の勤務時間数を管理するとします。カウント エレメントを使用すると、1 日ごとに勤務時間を確認し、定義された期間内の勤務時間の累計を取ることができます。

カウント フォーミュラを定義すると、このカウントを比例配分ルールに関連付けることができます。分割が発生すると、比例配分ルールで使用されているカウント エレメントによって、時間数の比例配分に使用する分子と分母が決定されます。

関連項目:

第 7 章、「計算エレメントの定義」、カウント エレメントの定義、248 ページ

比例配分ルール

比例配分ルールを使用して、分割が発生した際に値を比例配分します。

比例配分ルールでは分子と分母を定義して、分割の対象となる期間の値に適用します。

たとえば、6 月 1 日から 6 月 30 日までの支給期間があり、6 月 1 日から 6 月 10 日までのセグメントを設定する場合、**分子**をセグメントの期間 (6 月 1 日から 6 月 10 日)、**分母**を支給期間の全体 (6 月 1 日から 6 月 30 日) として定義します。比例配分ルールは 0.333 (10/30) に変換されます。

関連項目:

第 7 章、「計算エレメントの定義」、比例配分ルールの定義、251 ページ

支給

支給エレメントを使用して、給与、賞与、手当、コミッション、年金および退職金などの受給者への全ての給与タイプを定義します。

支給エレメントには、次の 4 つのタイプの計算ルールを定義することができます。

- 金額
- ベース×パーセント

- ユニット×レート
- ユニット×レート×パーセント

たとえば、支給エレメントの計算ルールを次のように定義することができます。 EARNINGS1 = ユニット×レート このエレメントのコンポーネント (ユニットとレート) には、エレメントと同じ属性が適用されます。エレメントの値を変更すると、コンポーネントの値も変わります。一度支給エレメントを定義すると、そのコンポーネントを再利用することができるので、新しいエレメントを作成するたびにコンポーネントを定義し直す必要がなくなります。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、支給エレメントの定義、 281 ページ

控除

控除エレメントを使用して、受給者に対してさまざまなタイプの控除を定義します。控除には、退職プランに対する拠出金などのように任意のものも、税金や差し押さえのように法律で定められているものもあります。

控除エレメントには、次の 4 つのタイプの計算ルールを定義することができます。

- 金額
- ベース×パーセント
- ユニット×レート
- ユニット×レート×パーセント

レート、ユニット、ベース、およびパーセントのコンポーネントに加えて、以下の 3 つのコンポーネントが控除用に用意されています。

- 未控除額
- 回収額
- 延滞加算額

また、受給者の延滞を継続して管理するために、延滞残高累計も作成されます。延滞を使うと、純支給額が不足しているために今回の給与計算の実行から差し引けない控除額を保存できます。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、控除エレメントの定義、 306 ページ

休暇付与

休暇付与エレメントを使用して、休暇や休職などの休暇欠勤を管理します。休暇付与には、次の 2 つのタイプがあります。

- 周期ごと

休暇欠勤があるかどうかにかかわらず、休暇付与日数が計算されます。

たとえば、1 年に 12 日の休暇が受給者に与えられていて、この付与は毎月 10 時間ずつ累積されるとします。この付与では、使用されるかどうかにかかわらず、規定の量が毎月計算および更新されます。

- 休暇欠勤ごと

休暇欠勤がある場合にのみ、休暇付与日数が計算されます。

関連項目:

第 11 章、「休暇欠勤管理について」、 387 ページ

第 12 章、「休暇欠勤エレメントの定義」、休暇付与エレメントの定義、 417 ページ

休暇取得

休暇取得エレメントを使用して、休暇欠勤が有給休暇の対象となる条件を定義します。休暇取得エレメントには、休暇取得日数の下限および上限のルールも含まれます。休暇取得エレメントを設定して、時間、日、またはその他の単位で累計を行います。

たとえば、1 年に 12 日の休暇を付与されている受給者が 5 日間の休暇を取る場合、この受給者の休暇取得日数は 5 日になります。

休暇取得コンポーネントで休暇取得ルールを定義しておくと、休暇イベント入力ページでその休暇取得エレメントを入力して、休暇取得を管理することができます。

関連項目:

[第 11 章、「休暇欠勤管理について」、387 ページ](#)

[第 12 章、「休暇欠勤エレメントの定義」、休暇取得エレメントの定義、432 ページ](#)

累計

累計エレメントを使用して、残高を保存および追跡管理します。累計では、指定した期間に対する累計を保存できます。たとえば、1 年間の総支給額データを保存することができます。累計は、自動作成することも **(自動生成累計)**、手動で作成することもできます **(追加累計)**。

累計には、以下の 2 つのタイプがあります。

- 支給累計。総額/純額計算の値を累計します。
- 残数累計。1 か月または 1 年など、特定の期間の値を累計します。

また、残数を累計するレベルを定義することもできます。たとえば、受給者の雇用レコード番号、受給者の ID、部門、または組織単位で残数を累計できます。それぞれの組織にとって最も役立つように、管理レベルを設定できます。

関連項目:

[第 10 章、「累計の設定」、367 ページ](#)

[第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、自動作成累計、271 ページ](#)

ジェネレーション コントロール

ジェネレーション コントロール エレメントを使用して、給与計算処理でエレメントが変換されるかどうかを制御します。ジェネレーション コントロール エレメントを定義するには、従業員の HR ステータス、処理周期、セグメント ステータスなどに基づいて、エレメントが処理される前に満たす必要がある条件を指定します。

たとえば、毎週給与を支給されている受給者がいて、この受給者が月に 1 度だけ 100 ドルの医療控除を受けるとします。この場合、ジェネレーション コントロール周期のパラメータを定義して、この控除が月の最初の支給期間にのみ差し引かれるようにすることができます。

関連項目:

第 7 章、「計算エレメントの定義」、ジェネレーション コントロール エレメントの定義、 256 ページ

構造化エレメントについて

構造化エレメントは以下の要素から構成されます。

- エレメント グループと有資格グループ: 受給者が受け取る資格がある給与計算エレメントの、論理グループを作成するために使用します。
- セクションとプロセス リスト: 各エレメントの処理順序を管理するために使用します。

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- エレメント グループと有資格グループ
- セクション
- プロセス リスト

エレメント グループと有資格グループ

エレメント グループを使用して、有資格グループに関連付けるエレメントをグループ化します。有資格グループは、支給グループとリスト セットに関連付けられます。

エレメント グループは、それぞれの組織のニーズに合うように定義することができます。たとえば、給与計算体系が単純な組織の場合、1 つのエレメント グループに全ての支給エレメントをまとめ、もう 1 つのグループに全ての控除エレメントをまとめると、これら 2 つのエレメント グループ名を使うだけで全ての支給エレメントと控除エレメントを指定することができます。

関連項目:

第 14 章、「組織構造の定義」、エレメント グループの定義、 522 ページ

第 36 章、「アプリケーションとリスト セットの管理」、 1377 ページ

セクション

セクションとは、プロセス リストに追加されるエレメントのグループのことです。セクションでは、給与計算処理や休暇欠勤処理の実行時に変換するエレメントとその変換順序を指定します。

セクションには、以下の 5 つのタイプがあります。

- 標準。通常の処理に使用します。
- ポジティブ入力作成。さまざまなカレンダー支給期間のポジティブ入力の作成に使用します。
- 受給者セクション。受給者レベルでの処理対象エレメントと処理順序の指定に使用します。
たとえば、受給者への差し押さえ処理に対し受給者セクションを作成することができます。
- サブ プロセス。総支給額の計算やその他の反復処理に使用します。
- 休暇取得。日付順に休暇欠勤を処理する場合に使用します。

関連項目:

第 15 章、「エレメント処理の定義」、セクションの設定、 563 ページ

プロセス リスト

プロセス リストを使用して、給与計算実行の際のセクションの処理順序を制御します。プロセス リストでは、総支給額と純支給額の計算に使用される累計を識別し、この処理が給与計算のためのものなのか、休暇欠勤計算のためのものなのかを指定します。

それぞれの組織のニーズに合わせて、一般的に使用するプロセス リストや特定の目的に使用するプロセス リストを作成できます。たとえば、基本支給、休暇欠勤、賞与、およびコミッションなど、受給者が受ける支給タイプごとにプロセス リストを作成することができます。

関連項目:

第 15 章、「エレメント処理の定義」、プロセス リストの機能、 559 ページ

第 15 章、「エレメント処理の定義」、プロセス リストについて、 559 ページ

エレメント タイプの定義

エレメント タイプを定義するには、エレメント タイプ コンポーネント (GP_PIN_TYPE) を使用します。

このセクションでは、エレメント タイプとエレメント タイプ コードの概要、およびエレメント タイプの定義方法について説明します。

エレメント タイプとエレメント タイプ コードについて

PeopleSoft では、エレメント タイプ ページで使用するデータを提供しています。これらのデータは、バッチ処理中にユーティリティ プログラムで有効なエレメント タイプを変換するのに使用されます。以下の表は、PeopleSoft が提供するエレメントの 2 文字コードと対応するエレメント タイプのリストです。

エレメント タイプ コード	エレメント タイプ
AA	自動割当
AC	累計
AE	休暇付与
AR	アレイ
AT	休暇取得
BR	ブラケット
CT	カウント
DD	控除
DR	期間

エレメント タイプ コード	エレメント タイプ
DT	日付
EG	エレメント グループ
EM	エラー メッセージ
ER	支給
FC	仮計算
FM	フォーミュラ
GC	ジェネレーション コントロール
HR	履歴データ ルール
PO	比例配分ルール
PR	プロセス
RC	給与レート コード
RR	端数処理ルール
SE	セクション
SY	システム エレメント
VR	変数
WA	書込可能アレイ

ユーティリティ プログラムを修正することは可能ですが、実際に修正することはお勧めしません。代わりに、新しいエレメント タイプとそれを変換するユーティリティ プログラムを作成することをお勧めします。エレメント タイプ ページで新しいエレメント タイプを追加して、ユーティリティ プログラムに関連付けを行ってください。

注意: エレメント名がわかっていて、エレメント タイプがわからない場合、エレメント名照会ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[エレメント名表示]) でこの情報を検索できます。照会ページにはセキュリティがないため、ユーザーはこのページで全てのエレメントを確認できます。

エレメント タイプの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
エレメント タイプ	GP_PIN_TYPE	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[エレメント タイプ]	アレイ、ブラケット、および支給などのエレメント タイプを定義します。また、各エレメントの変換に使用するプログラム ID を定義することもできます。

エレメント タイプの定義

エレメント タイプ ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[エレメント タイプ]) にアクセスします。

エレメント タイプ

エレメント タイプ: BR

変換情報

☐ 変換しない

☒ ユーティリティ モジュールで変換

*プログラム ID:

GPPUBRKT

*名称:

ブラケット

略称:

ブラケット

コメント:

エレメント タイプ ページ

エレメント タイプ

検索画面で選択したエレメント タイプが表示されます。

変換情報

変換しない

エレメントを変換しない場合は、このボタンを選択します。この場合、このエレメント タイプに関連付けられているエレメントは単にポインタとして機能します。たとえば、エレメント グループはエレメントの集まりなので、値への変換は行いません。この設定はバッチ処理で参照されます。PIN マネージャによってエレメント タイプが確認され、なんらかの変換が必要かどうか判断されます。

ユーティリティ モジュールで変換

このエレメント タイプに関連付けられたエレメントを、PeopleSoftによって提供されているユーティリティ プログラム、またはユーザー定義のユーティリティ プログラムで変換する場合は、このボタンを選択します。

プログラム ID

各エレメントの変換に使用するユーティリティ プログラムを選択します。プログラム ID データは、PeopleSoft から提供されています。

バッチ処理の実行中にアレイ エレメントが見つかった場合、どのプログラムを呼び出してエレメントを変換するかが、まず確認されます。バッチ処理では、このフィールドの値を参照して、指定されたエレメント タイプの変換にはどのユーティリティ プログラムを使用するのかを判断します。

注意: [変換情報] グループ ボックスで [変換しない] を選択した場合は、このフィールドに値を入力することはできません。

入力タイプの定義

入力タイプを定義するには、入力タイプ コンポーネント (GP_ENTRY_TYPE) を使用します。

このセクションでは、入力タイプの概要、および入力タイプとエレメント グループの定義方法について説明します。

入力タイプについて

エレメントには、別のエレメントを利用することができます。ただし、場合によって使用できるエレメントのタイプに制限があることがあります。たとえば、支給エレメントの計算処理の際に休暇付与エレメントが使用されるというのでは、道理に合いません。エレメント定義で入力されるデータのタイプを制限するには、入力タイプ ページを使用します。

エレメントを指定する入力タイプを作成することもできますが、必ずしもそうする必要はありません。たとえば、エレメント名、金額、または日付タイプの入力タイプを作成することができます。入力タイプを使用して、どのような値を入力させるのかを指定します。入力タイプ ページに入力される情報は、エレメントごとにそれぞれ保存されます。

たとえば、計算ルールが金額として定義されている支給エレメント EARNINGS1 について考えてみましょう。EARNINGS1 は金額として定義されているので、EARNINGS1 の入力タイプには数値変数、数値フォーミュラ、数値などが使用できます。しかし、金額フィールドに日付が入力されないようにする必要があります。

入力タイプがオンラインで選択されたときにプロンプト ビューを使用するように関連付けるには、主に入力タイプ ページを使用します。定義した入力タイプにそれぞれプロンプト ビューを関連付けます。入力タイプによっては、[エレメント セキュリティと上書きのプロンプト ビュー] グループ ボックスに特定のプロンプト ビューを追加で関連付けます。グループ ボックスの各値は、エレメント名共通ページの [上書きレベル] グループ ボックスの値と関連しています。入力タイプ プロンプトは、入力タイプに密接に関連しています。入力タイプ プロンプトを使用して、アプリケーション内のフィールドの入力タイプを指定します。そうすると、入力タイプ プロンプトがグローバル ペイロールで使用され、指定された入力タイプ以外は入力できなくなります。入力タイプを選択すると、その入力タイプに指定されたプロンプト ビューが表示され、選択可能なエレメントのリストが表示されます。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント セキュリティと上書きのプロンプト ビュー、 90 ページ

入力タイプの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
入力タイプ	GP_ENTRY_TYPE	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[入力タイプ]	入力タイプを入力して、エレメントの固有グループを定義します。

入力タイプとエレメント グループの定義

入力タイプ ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[入力タイプ]) にアクセスします。

入力タイプ

入力タイプ: DTO

*名称: 日付

略称: 日付

*値タイプ: エレメント名

プロンプト ビュー名: GP_PIN.DTO_VW

エレメント セキュリティと上書きのプロンプト ビュー

カレンダー: GP_PIN.DTOCL_VW

支給元: GP_PIN.DTOPE_VW

支給グループ: GP_PIN.DTOPG_VW

エレメント定義: GP_PIN.DTOES_VW

受給者: GP_PIN.DTOPY_VW

ホスティング入力:

エレメント使用: GP_PIN.DTOEL_VW

入力タイプ ページ

- 値タイプ

この入力タイプが使用される際に、ページに表示されるフィールドのタイプを選択します。値は [文字]、[日付]、[エレメント名]、[整数]、[該当なし]、[数値] のいずれかです。[エレメント名] を選択した場合、[エレメント セキュリティと上書きのプロンプト ビュー] グループ ボックスに情報を入力できます。その他の値を選択した場合は、このグループ ボックスにデータを入力することはできません。
- プロンプト ビュー名

入力タイプ プロンプト ページの [プロンプト ビュー名] フィールドにこの値が表示されます。テキスト表示される値をシステムにハード コードする代わりに入力タイプ ページで値を定義して、表示されるプロンプト ビューを制御します。

エレメント セキュリティと上書きのプロンプト ビュー

カレンダー、受給者、支給元、ポジティブ入力、支給グループ、エレメント使用、エレメント定義

これらのフィールドは、エレメント名共通ページの [上書きレベル] グループ ボックス内のチェック ボックスに関連付けられています。これらのプロンプト ビューによって、さまざまなレベルで上書き入力ができ、セキュリティをさらに強化することができます。たとえば、支給元コンポーネントを使用しているときは、[プロンプト ビュー名] のプロンプト ビューではなく、[支給元] のプロンプト ビューがまず確認されます。これらの 8 つのプロンプト ビュー ([プロンプト ビュー名] のプロンプト ビューと、このグループ ボックスの 7 つのプロンプト ビュー) の使用目的は全て同じですが、使用先が異なります。エレメント名共通ページの [上書きレベル] のチェック ボックスがオンになっている場合に、このグループ ボックスのプロンプト ビューが使用されます。

入カタイプの選択と使用先レコードとフィールドの組み合わせの表示

入カタイプ プロンプト設定を定義するには、入カタイプ プロンプト コンポーネント (GP_ENTRY_PROMPT) を使用します。

このセクションでは、プロンプト ビューの概要および以下の作業を行う方法について説明します。

- プロンプト ビューの入カタイプの定義
- 使用先レコードとフィールドの組み合わせの表示

プロンプト ビューについて

プロンプト ビューは入カタイプと関連付けて使用され、フィールドに指定可能な値のリストを作成します。通常は、実際のエレメントを選択する前に入カタイプを選択する形で使用されます。この入カタイプは、どのタイプのエレメントを使用するのか、または文字列、数値、日付などのどの値を使用するのかを指定するために使用します。選択した入カタイプに基づいて、その次のフィールドに適切なプロンプト ビューが作成されます。

たとえば、支給エレメント定義の "計算" ページで計算ルールを選択すると、対応する入力タイプフィールドが使用可能になります。[計算ルール] を [金額] にすると、[金額タイプ] ラベルの隣にある 2 つのフィールドが使用できるようになります。1 つは入力タイプのフィールドで、もう 1 つは実際のエレメントを選択するフィールドです。入力タイプのフィールドには、有効値として [受給者レベル]、[変数 - 数値]、[控除]、[支給]、[数値]、[累計]、[給与レート コード - 金額]、[システム エレメント - 数値]、[フォーミュラ - 通貨 & 10 進数]、[ブラケット - 数値] などが表示されます。これらの有効値は全て入力タイプです。たとえば、[変数 - 数値] を選択して Tab キーを押すと、次のフィールドへフォーカスに移り、有効な値として変数のみが指定可能になります。[ブラケット - 数値] を選択すると、有効な値としてブラケットのみが指定可能になります。

上に挙げた支給エレメント定義の例では、[計算ルール] が [金額] の場合の入力プロンプト ID には GP_ENT_AMT_VW が定義されています。この入力プロンプト ID について、([有効入力タイプ] チェック ボックスをオンにすることで) [数値]、[累計]、[ブラケット]、[控除]、[支給]、[フォーミュラ]、[受給者レベル]、[レート コード]、[変数] のいずれかの入力タイプが有効であることを示しました。これは、[金額入力タイプ] フィールドの "計算" ページにフォーカスがあるときに表示される有効な入力タイプです。

入力タイプの選択と使用先レコードとフィールドの組み合わせの表示に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
入力タイプ プロンプト	GP_ENTRY_PROMPT	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[入力タイプ プロンプト]	入力タイプ プロンプトで有効にする入力タイプを定義します。入力プロンプト ID に対して指定可能な入力タイプが全てリスト表示されます。 このページを使用する前に入力タイプ ページの入力を完了しておく必要があります。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
入カタイプ プロンプト - プロンプト ID 使用先レ コード/フィールド	GP_ENTRY_PROMPT_VW	入カタイプ プロンプト ページの [プロンプト ID 使用先レコード/フィー ルド] リンクをクリック します。	入カプロンプト ID のレ コードとフィールドの組 み合わせが表示されま す。このページは入カタ イプ プロンプト ページ を参照し、このプロンプ トを使用するデータベー ス フィールドを簡単に表 示できるようにします。 有効な入カタイプを変更 するには、まずこのペー ジでどのレコードと フィールドの組み合わせ が影響を受けるかを確認 します。

入カタイプ プロンプトで使用する入カタイプの定義

入カタイプ プロンプト ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[入カタイプ プロンプト]) にアクセスします。

入力タイプ プロンプト

入力タイプ ID: GP_ENT_ABS6_VW

*名称: 受給者上書の休暇付与/取得

[プロンプト ID 使用先コード/フィールド](#)

入力タイプ			
カスタイズ 検索 全件表示 最初 1-10/65 最後			
入力タイプ	カレンダー/エレメント使用	支給元/支給グループ	ポジティブ入力/受給者
エレメント定義			
入力タイプ▲	名称▲	有効入力タイプ▲	プロンプト ビュー名
001	文字列	<input type="checkbox"/>	
002	数値	<input type="checkbox"/>	
003	カレンダー/日付	<input type="checkbox"/>	
AA0	自動割当	<input type="checkbox"/>	GP_PIN_AA0_VW
AC0	累計	<input type="checkbox"/>	GP_PIN_AC0_VW
AC4	セグメント累計	<input type="checkbox"/>	GP_PIN_AC4_VW
AE0	休暇付与	<input type="checkbox"/>	GP_PIN_AE0_VW
AE5	休暇付与	<input checked="" type="checkbox"/>	GP_PIN_AE5_VW
AR0	アレイ	<input type="checkbox"/>	GP_PIN_AR0_VW
AT0	休暇取得	<input checked="" type="checkbox"/>	GP_PIN_AT0_VW

入力タイプ プロンプト ページ

入力タイプ プロンプト ページを使用して、プロンプト ビューで有効にする入力タイプを定義します。

[入力タイプ] グリッドの [カレンダー]、[エレメント使用]、[支給元]、[支給グループ]、[ポジティブ入力]、[受給者]、および [エレメント定義] は、エレメント名共通ページの [上書きレベル] のチェック ボックスの指定と関連しています。これらのプロンプト ビューを使用して、さまざまなレベルでの上書きを入力し、セキュリティをさらに強化します。たとえば、支給元コンポーネントを使用しているときは、[プロンプト ビュー名] に定義されたプロンプト ビューではなく、[支給元] に定義されたプロンプト ビューがまず確認されます。このように、入力タイプの 8 つのプロンプト ビュー ([プロンプト ビュー名] のプロンプト ビューと、入力タイプ ページの [エレメント セキュリティと上書きのプロンプト ビュー] グループ ボックスの 7 つのプロンプト ビュー) の使用目的は全て同じですが、使用先が異なります。[エレメント セキュリティと上書きのプロンプト ビュー] グループ ボックスで指定されているプロンプト ビューは、エレメント名共通ページの [上書きレベル] のチェック ボックスがオンになっている場合に使用されます。入力タイプ プロンプト ページでは、その入力プロンプト ID が使用された際に有効なタイプとして表示される入力タイプを選択します。入力タイプ プロンプト ID を使用することにより、有効な入力タイプに関連付けられたプロンプト ビュー (入力タイプ プロンプト) を作成および管理できます。入力タイプは、入力タイプ プロンプト内にはハードコードされていません。

共通ページ情報

プロンプト ID 使用先レコード/フィールド

クリックするとプロンプト ID 使用先レコード/フィールド ページにアクセスします。

入カタイプ

入カタイプ ページの情報が表示されます。各入カプロンプト ID の入カタイプを選択することができます。たとえば、支給エレメント (EARNINGS1) があるとしします。エレメントの有効な入カタイプには、数値および累計があります。有効な入カタイプに関連付けられたチェック ボックスをオンにします。[有効入カタイプ] チェック ボックスをオンにすると、プロンプト ビューに有効値としてその入カタイプが表示されるようになります。選択した入カタイプに基づいて、入カタイプ ページの [プロンプト ビュー名] フィールドに定義されているプロンプト ビューが使用されます。

カレンダー/エレメント使用

[カレンダー/エレメント使用] タブをクリックします。

入カタイプ* プロンプト

入カプロンプト ID: GP_ENT_ABS6_VW *名称: 受給者上書の休暇付与/取得

[プロンプト ID 使用先レコード/フィールド](#)

入カタイプ*	名称*	カレンダー	エレメント使用
001	文字列		
002	数値		
003	カレンダー日付		
AA0	自動割当		GP_PIN_AA0EL_VW
AC0	累計		GP_PIN_AC0EL_VW
AC4	セグメント累計		
AE0	休暇付与	GP_PIN_AE0CL_VW	GP_PIN_AE0EL_VW
AE5	休暇付与	GP_PIN_AE5CL_VW	
AR0	アレイ		
AT0	休暇取得	GP_PIN_AT0CL_VW	GP_PIN_AT0EL_VW

入カタイプ プロンプト - カレンダー/エレメント使用タブ

このタブには、カレンダーおよびエレメント使用のプロンプト ビューの上書き情報が表示されます。

[プロンプト ビュー名] のプロンプト ビュー、および [カレンダー/エレメント使用]、[支給元/支給グループ]、[ポジティブ入力/受給者]、[エレメント定義] の各タブに表示されるプロンプト ビューは、入力タイプ ページで入力された、それぞれの入力タイプの情報に基づいています。入力タイプ プロンプトをオンラインで使用する場合、まず入力タイプを選択します。その後、選択した入力タイプに基づいて、その次のフィールドに値を入力します。

たとえば、支給額のフィールドに "変数" の入力タイプを選択した場合、そのフィールドで Tab キーを押すと、次のフィールドへフォーカスに移り、該当するプロンプト ビュー名が参照されます。"変数" の入力タイプのプロンプト ビュー名がこのフィールドのプロンプトとして使用され、その結果、変数のみが指定可能になります。

これらのタブで定義されているプロンプト ビューの機能は、[プロンプト ビュー名] で指定されているプロンプト ビューの機能と似ています。違いは、エレメント名共通ページにある [カレンダー]、[支給元]、[支給グループ]、[受給者]、[ポジティブ入力]、[エレメント定義]、および [エレメント使用] の上書きレベルのチェック ボックスによって、エレメントの上書きが行われるレベルが制御される点です。これらのタブには、それぞれの入力タイプに対するプロンプト ビューが個別に定義されています。これらのプロンプト ビューを定義すると、エレメント名共通ページで上書きレベルのチェック ボックスが使用可能になります。

つまり、使っている画面によって、プロンプト ビュー名または上書きのプロンプト ビュー名のどちらかを使用して、2 番目のフィールドの有効値のプロンプト ビューが決定されるということです。

支給元/支給グループ

[支給元/支給グループ] タブをクリックします。

このタブには、支給元および支給グループのプロンプト ビューの上書き情報が表示されます。

ポジティブ入力/受給者

[ポジティブ入力/受給者] タブをクリックします。

このタブには、ポジティブ入力および受給者のプロンプト ビューの上書き情報が表示されます。

エレメント定義

[エレメント定義] タブをクリックします。

このタブには、エレメント定義のプロンプト ビューの上書き情報が表示されます。

産業とカテゴリの定義

産業およびカテゴリを定義するには、カテゴリ コンポーネント (GP_PIN_CATEGORY) を使用します。

このセクションでは、産業およびカテゴリの概要を説明し、産業およびカテゴリの定義に使用するページのリストを紹介します。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

第 38 章、「セキュリティの定義」、ユーザー アクセスの制限、 1509 ページ

産業とカテゴリについて

産業およびカテゴリを使って、エレメントをさらに細かく分類できます。組織で使用する産業およびカテゴリに対してコードを作成します。コードごとに、そのコードを全ての国で使用するのか、特定の国で使用するのかを指定します。

全ての産業コードとカテゴリ コードは、産業/地域タイプ ページとカテゴリ タイプ ページで照会することができます。ユーザー ルール プロファイル ページで指定されたユーザーのセキュリティレベルにより、産業およびカテゴリを追加可能な国が決まります。

エレメント名共通ページで、産業とカテゴリをプロンプト テーブルから選択して、エレメントに関連付けます。エレメントが定義されている国により、有効な産業コードとカテゴリ コードが決まります。

注意: 既存の産業コードおよびカテゴリ コードは GP_PIN テーブルにも入力されているため、変更や削除を行うことはできません。産業/地域タイプ ページ、またはカテゴリ タイプ ページで更新を行っても、GP_PIN テーブルは更新されません。

産業とカテゴリの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
産業/地域タイプ	GP_PIN_INDUSTRY	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[産業/地域]	エレメントおよびサポート エレメントの分類に使用する産業/地域コードを定義します。
カテゴリ タイプ	GP_PIN_CATEGORY	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[カテゴリ]	エレメントおよびサポート エレメントの分類に使用するカテゴリ コードを定義します。

エレメント名の定義

このセクションでは、エレメント名、PIN コード、PIN 番号、および指定日によるエレメント定義の選択処理についての概要と、以下の作業を行う方法について説明します。

- エレメント名の定義
- エレメント定義へのユーザー定義フィールドの追加
- エレメントに関するコメントの入力と確認
- 予測オプションの選択

エレメント名について

エレメント タイプにはそれぞれ独自の使用目的がありますが、全てのエレメント タイプで共通する属性もあります。これらの属性は、各エレメント定義コンポーネントの最初のページで定義、保存されます。このページのオブジェクト名は常に GP_PIN で、全てのエレメント定義の最初のページとして表示されます。この章では、このページは <エレメント名> 共通ページと呼ばれていますが、多くの場合、作成中のエレメント タイプ (**支給名など**) を特定するためのラベルが付いています。エレメント名を定義すると、そのエレメント タイプに固有の追加情報を入力できるようになります。

PIN コードと PIN 番号について

エレメント名を作成すると、PIN コードと PIN 番号がエレメントに自動的に割り当てられます。PIN コードとエレメント名の値は、固有である必要があります。新しくエレメントを作成する場合、この固有の識別子の組み合わせが既に存在しているかどうかを確認されます。エレメント名は変更できますが、PIN コードは変更できません。

PIN 番号についての説明は以下のとおりです。

- PIN 番号を使用すると、エレメント名に関係なく、そのエレメントとエレメント名がどこで使用されているかを追跡管理することができます。

PIN 番号を使用すると、システムに影響を与えずにエレメント名を変更することができます。

- PIN 番号により、<エレメント名> 共通ページでエレメント データとエレメント名がポイントされます。
- PIN 番号はデータベース内でのみ意味を持つ値であり、同じエレメント名でもデータベースが違うと、PIN 番号が異なることがあります。
- PIN 番号は、GP_PIN テーブルに対するキーとして機能します。その値は、エレメント データを構成するほかのテーブルに保存されています。
- PIN 番号は、連番で割り当てられます。
- PIN 番号は、バッチ処理でのみ使用されます。

関連項目:

第 37 章、「ユーティリティの使い方」、グローバル ペイロールのユーティリティについて、1393 ページ

指定日によるエレメント定義の選択処理について

エレメントには、有効日の異なる複数の行を定義することができます。<エレメント名> 共通ページでエレメントに割り当てる定義の指定日によって、どの有効日行のエレメント定義を取得して処理を行うかが決まります。

[定義の指定日] には、[カレンダー期間開始日]、[カレンダー期間終了日]、[支給日]、[処理開始日]、および [処理終了日] から 1 つを選択します。

注意: カレンダー グループ ページを使って、受給者とカレンダー グループに対する [処理開始日] および [処理終了日] を上書きすることができます。

例 1

エレメントに、次のような有効日を持つ行 (定義) とその値があるとします。

有効日: 1990/01/01、値: 100

有効日: 2000/01/01、値: 125

有効日: 2000/01/31、値: 150

有効日: 2000/02/01、値: 175

1 月のカレンダーと 2 月のカレンダーには、以下の日付があるとします。

カレンダー日付	1 月のカレンダー	2 月のカレンダー
開始日	2000 年 1 月 1 日	2000 年 2 月 1 日
終了日	2000 年 1 月 31 日	2000 年 2 月 28 日
支払日	2000 年 2 月 1 日	2000 年 3 月 1 日

1 月のカレンダーを処理する場合、エレメントの定義の指定日に基づいてエレメントの定義が取得されます。

定義の指定日	使用される有効日行	値
カレンダー期間開始日	2000 年 1 月 1 日	125
カレンダー期間終了日	2000 年 1 月 31 日	150
支払日	2000 年 2 月 1 日	175

例 2

[処理開始日] および [処理終了日] は、前払い支給を行う場合に指定すると特に便利です。これらの日付にはそれぞれ、エレメントが実際に処理されるカレンダー期間の開始日と終了日が使われます。

たとえば、2 月に休暇を取る受給者への前払い支給を 1 月に行うとします。前払い支給を行うには、1 月に 2 月のカレンダーを処理します。その際、実際の処理期間である 1 月時点のエレメント定義を使用することができます。

以下の表は、定義の指定日の値に基づいて取得されるエレメント定義を表しています。

定義の指定日	使用される有効日行	値
処理開始日	2000 年 1 月 1 日	125
処理終了日	2000 年 1 月 31 日	150
カレンダー期間開始日	2000 年 2 月 1 日	175
カレンダー期間終了日	2000 年 2 月 28 日	175

関連項目:

第 16 章、「カレンダーの使い方」、受給者のカレンダー上書き指示の入力、610 ページ

エレメント名の定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
<エレメント名>	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[支給]、[支給名]	エレメント名を付け、基本パラメータを定義します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
<エレメント名> - ユーザー フィールド	GP_PIN_CUSTOM_SEC	<エレメント名> 共通ページの [ユーザー フィールド] リンクをクリックします。	エレメント定義にユーザー定義フィールドを追加します。
<エレメント名> - コメント	GP_PIN_SEC	<エレメント名> 共通ページの [コメント] リンクをクリックします。	エレメントに関する詳細コメントを入力したり、確認したりします。入力したコメントは単なる情報として扱われます。給与計算処理には影響しません。
<エレメント名> - <エレメント名> の予測	GP_FORECAST_SEC	<エレメント名> 共通ページの [予測] リンクをクリックします。休暇取得エレメントおよび休暇付与エレメントでのみ使用できます。	エレメントの予測オプションを指定します。

エレメント名の定義

<エレメント名> 共通ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[支給]、[支給名]) にアクセスします。

支給名(E)	計算(C)	端数処理/比例配分	自動作成累計(U)	その他の累計(A)	サポート エレメント上書き
*エレメント名: KOSALARY		エレメント タイプ: 支給		*フィールド フォーマット: 金額	
*名称: Salary		*フィールド フォーマット: 金額		エレメント番号: 2039 <input checked="" type="checkbox"/> 常時再計算	
*定義の指定日: カレンダー期間終了日					
エレメント使用			上書きレベル		
*所有者: PS 配布/管理なし			<input type="checkbox"/> 支給元 <input checked="" type="checkbox"/> エレメント使用		
*クラス: サンプル データ			<input type="checkbox"/> 支給グループ <input type="checkbox"/> エレメント定義		
*使用先: 全ての国			<input checked="" type="checkbox"/> 受給者 <input checked="" type="checkbox"/> ポジティブ入力		
国: ALL			<input checked="" type="checkbox"/> カレンダー		
産業/地域:					
カテゴリ:					
変換パラメータ			バージョン情報		
ドライバ累計:			最終更新日時: 00/08/10 00:00:00.000000		
ユーザー フィールド			最終更新者: PPLSOFT		
			ユーザー バージョン:		
			バージョン: P_8.30.00.00		
カスタム フィールド コメント					

<エレメント名> 共通ページ

注意: このスクリーン ショットは、全てのエレメント タイプの作成で使用する共通のページの例です。"支給 - 支給名" ページでエレメントを定義した後は、この PeopleBook に記載されている内容に従い、該当のコンポーネントで各エレメントの定義処理を続行します。

フィールド フォーマット

変換値のフォーマットを定義します。エレメント タイプにより有効値は異なります。[日付]、[10 進数]、[文字列]、[金額]、および [ポインタ] (変数の汎用フォーミュラ計算の場合) などがあります。

支給や控除など、エレメント タイプによっては表示されたフィールド フォーマットを変更できないことがあります。

注意: [10 進数] と [金額] の違いは、[金額] は通貨制御フィールドで、通貨コードを入力する必要があります。

定義の指定日

プロセスを実行する際に、どの時点 (日付) のエレメント定義を使用するかを指定します。オプションは、以下のとおりです。

[カレンダー期間開始日]: エレメントが関連付けられているカレンダー期間の開始日。

[カレンダー期間終了日]: エレメントが関連付けられているカレンダー期間の終了日。

[支給日]: エレメントが関連付けられているカレンダー期間の支給日。

[処理開始日]: エレメントが処理されるカレンダー期間の開始日。

[処理終了日]: エレメントが処理されるカレンダー期間の終了日。

エレメントによっては、選択肢が限定されているものがあります。たとえば、セクション エレメントおよびプロセス リスト エレメントでは、[カレンダー期間終了日] が唯一の有効値となります。

また、遡及処理でもこのフィールドの値は使用されます。再計算処理では必ずこの日付が参照され、各再計算のカレンダー期間に基づいた適切な日付が使用されます。

エレメント番号

PIN 番号です。

常時再計算

このチェック ボックスは、エレメントの変換中にのみ適用されます。デフォルトはオンです。このチェック ボックスをオンにすると、計算処理でこのエレメントが検出されるたびにエレメントの再計算が行われます。このチェック ボックスをオフにすると、前に変換された値が使用されます。

以下の場合には、チェック ボックスをオフにします。

- フォーミュラなどのエレメントを使用してエレメントの値を更新する場合。

オンにすると、このエレメントは、検出されるたびにエレメント定義に従って初期化されます。

- エレメント名共通ページで [エレメント使用] が上書きに設定されている変数など、変換をやり直すと前の変換値とは異なる値が出ると予測される場合。

たとえば、ループ、アレイ、またはカウントで使われるフォーミュラなど、前の値は無効で再計算の必要があると思われる場合は、このチェック ボックスをオンにします。

注意: このチェック ボックスがオフで、"セクション - 定義" ページの [再計算] チェック ボックスがオンになっている場合、そのセクションの処理中は、このエレメントは検出されるたびに変換されます。[再計算] チェック ボックスがオフになっている別のセクションでこのエレメントが検出された場合、このエレメントは一度だけ変換されます。

PIN マネージャがエレメントを検出すると、そのエレメントを変換する必要があるかどうかを確認されます。PIN マネージャによってエレメントの変換が必要と判断されると、再計算ロジックが参照されます。エレメントの再計算はプロセス リスト レベル、セクション レベル、およびエレメント レベルで指定できます。この内のいずれかのレベルで再計算が指定されている場合、エレメントは再計算されます。

たとえば、[常時再計算] チェック ボックスがオンになっていると、エレメントは再計算されます。[常時再計算] チェック ボックスがオフの場合、変換済みエレメントのテーブルから、計算日が同一の該当エレメント データが検索されます。該当するものがある場合、その値が使用されます。そうでない場合、エレメントが変換されます。

参照: 第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、指定日によるエレメント定義の選択処理について、98 ページ。

エレメント使用

このグループ ボックスでは、セキュリティ関連オプションをいくつか定義します。

所有者

エレメント定義の管理者および所有者を指定します。値は以下のとおりです。

[ユーザー管理]: ユーザー作成のエレメントを表します。全てのフィールドに入力できます。

[PS 配布/管理]: PeopleSoft によって配布および管理されるエレメントを表します。このエレメントに変更を加えるには、[ユーザー管理インジケータ] チェック ボックスをオンにします。こうすることにより、[所有者] の値が [PS 配布/ユーザーにより修正] に変更されます。将来、PeopleSoft によってこのエレメントの改訂版がリリースされた場合、その改訂版を採用するか、ユーザーが変更を加えた旧版のままにするかを選択することができます。どちらの場合も、エレメント所有者は変更されません。

支給エレメント、控除エレメント、または休暇欠勤エレメントの [エレメント名]、[名称]、[上書きレベル]、[クラス]、[産業/地域]、または [カテゴリ] を変更すると、そのエレメントの関連コンポーネント全てに同じ変更が加えられます。また、累計が自動生成され、変更されたアイテムの所有者も変更されます。

重要: エレメントの管理者をユーザーに変更すると元に戻すことができなくなります。

[PS 配布/管理なし]: サンプル データや法令データなど、PeopleSoft によって提供されているが管理はされていないエレメントを表します。編集可能フィールドを更新することができます。

[PS 配布/ユーザーにより修正]: [PS 配布/管理] から変更されたエレメントを表します。

[PS 配布/管理/保護]: PeopleSoft によって配布および管理されるエレメントを表します。[エレメント名]、[名称]、[上書きレベル]、[結果]、[ユーザー フィールド]、および [コメント] を編集できます。システム エレメントの場合は、[チャートフィールドとして使用] と [プロンプト ビュー名] を編集できます。行った変更は、将来 PeopleSoft によって改訂版がリリースされると、上書きされる可能性があります。

クラス

エレメントのルールタイプの表します。値は以下のとおりです。

[慣例]: PeopleSoft によって作成されたサンプル ルール。実際の法令やルールではなく、一般的に使用されているルールです。慣例ルールが使用される例としては、関税率を適用させる場合があります。慣例ルールは、実際の環境で頻繁に使用されます。

クラス指定なし

[サンプル データ]: サンプル データとして PeopleSoft によって作成されたルール。サンプル データは、実際の環境では使用されません。

[法令]: 法によって定められている計算ルール用に PeopleSoft によって作成されたルール。

[システム データ]: PeopleSoft によって作成されたルール。共通の定数や日付など、アプリケーションにあらかじめ定義されているシステム エレメントまたはシステム データです。

[クラス] フィールドは、[所有者] フィールドと併せて使用され、サポートおよびセキュリティのレベルを決定します。

注意: 全ての法令ルールが [PS 配布/管理] に設定されるわけではありません。法令ルールの中には、所有者が [PS 配布/管理なし] に設定されるものもあります。通常、これは法令ルールですが、課税対象総額の累計など、組織ごとに修正が必要な場合があります。課税対象総額の報告などを行う場合は、組織ごとに課税対象となる支給を指定できます。

使用先

エレメントが [全ての国] と [特定の国] のどちらで使用されるかを選択します。このフィールドは、ユーザーがアクセスできるエレメントを決定するためにユーザー ルール プロファイル セキュリティでも使用されます。

国

[使用先] フィールドで [特定の国] を指定した場合、[国] フィールドを指定します。セキュリティ関連オプションが適用される国を選択します。

注意: エレメント使用セキュリティは、検索画面に表示されるエレメントの数を制限する手段です。これにより、必要なエレメント情報のみを表示させることができます。

産業/地域

エレメントをさらに詳しく分類するには、産業コード、または地域コードを選択します。産業コードは、産業/地域タイプ ページで定義します。特定の産業で使用するエレメントを作成する場合は、ここで産業コードを指定します。一般的な産業コードには、銀行業、保険業、および業冶金業などがあります。

カテゴリ

エレメントをさらに詳しく分類するには、カテゴリ コードを選択します。カテゴリ コードは、カテゴリ タイプ ページで定義します。

ユーザー管理インジケータ

このチェック ボックスは、ユーザー ルール プロファイルに基づいた、エレメント管理の権限がある場合にのみ表示されます。[所有者] フィールドの説明を参照してください。

参照: 第 38 章、「セキュリティの定義」、ユーザー アクセスの制限、1509 ページ。

上書きレベル

このグループ ボックスでは、指定されたエレメントのセキュリティ関連の上書きレベルを有効にします。つまり、ユーザーがいつエレメントの値を上書きできるかを定義します。場合によっては、エレメントを処理対象から外すこともできます。たとえば、上書きレベルの [カレンダー] をオンにすると、"カレンダー" の除外エレメント ページにこのエレメントを登録して、特定のカレンダーに関連付けられた受給者データの処理にこのエレメントが使用されないようにすることができます。また、ブラケット、日付、デュレーション、フォーミュラ、または変数などのエレメントに対して [カレンダー] をオンにすると、"カレンダー" の "サポート エレメント上書き" ページにこのエレメントを登録して、特定のカレンダーの処理でこのエレメントの上書き値が使用されるようにすることができます。

支給元、支給グループ、受給者、カレンダー、エレメント使用、エレメント定義、ポジティブ入力

有効にする上書きレベルをそれぞれオンにします。エレメント タイプによって、指定できるオプションが異なります。

参照: 第 18 章、「上書きの設定」、655 ページ。

結果

このグループ ボックスでは、エレメントの変換値を結果テーブルに保存するタイミングを指定します。エレメント タイプによって指定できるオプションが異なります。

結果テーブルが大きくなりすぎると管理が難しくなるので、このオプションの選択には注意してください。レポートやオーディット、再計算/履歴抽出ルールおよび遡及の実行など、エレメントの前の変換値を参照する必要のある値のみを保存するようにしてください。

保存

このチェック ボックスをオンにすると、処理時に結果テーブルにエレメントの変換値が保存されます。エレメント タイプによっては、このチェック ボックスの下に表示されるオプションをオンにして、値を保存する条件を指定することができます。

[保存] チェック ボックスがオフになっていると、変換値は保存されません。

常時再計算

エレメント タイプが支給または控除の場合にのみ、デフォルトとして表示されます。このオプションを選択すると、変換値が 0 の場合でもエレメントの変換結果が保存されます。

エレメントが 0 以外

エレメント タイプが支給または控除の場合にのみ表示されます。このオプションを選択すると、変換値が 0 以外の場合はエレメントの変換結果が保存されます。

エレメント/コンポーネントが 0 以外

エレメント タイプが支給または控除の場合にのみ表示されます。このオプションを選択すると、エレメントの変換値、またはそのコンポーネント (パーセント、ベース、レート、ユニットなど) の値の 1 つが 0 以外である場合に、エレメントの変換値が保存されます。

このオプションを使用すると、延滞残高、回収額、未控除額、調整値、遡及調整値が 0 以外である場合に、エレメントの値またはコンポーネントの値が常に保存されます。

ゼロのとき保存

支給エレメントおよび控除エレメント以外の全てのエレメント タイプで表示されます。このチェック ボックスをオンにするには、まず [保存] チェック ボックスをオンにする必要があります。

[ゼロのとき保存] チェック ボックスを使用することで、結果テーブルに何を保存するかをさらに詳しく定義できます。

[ゼロのとき保存] チェック ボックスをオンにすると、値が 0 の場合でも、変換値が保存されます。

[保存] チェック ボックスをオン、[ゼロのとき保存] チェック ボックスをオフにすると、変換値が 0、空白、NULL のいずれでもない場合にのみエレメントの変換値は結果テーブルに書き込まれます。両方のチェック ボックスをオンにすると、変換値が 0、空白、または NULL であってもその値は結果テーブルに書き込まれます。どちらのチェック ボックスもオンにしない場合は、変換値は保存されません。

変換パラメータ

このグループ ボックス内のフィールドは、エレメント タイプが支給または控除の場合にのみ表示されます。

参照: 第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、支給エレメント名の定義、285 ページ。

バージョン情報

ユーザー バージョン

このフィールドに 14 文字までの英数字を入力して、エレメント定義に加えた変更を識別することができます。定義を保存すると、プレフィックス **INT_** が追加され、この変更がユーザー定義によるものであることが示されます。グローバル ペイロールのユーティリティを使って、バージョン別にエレメントをスタンプで区別して一括してまとめることもできます。

ここに入力する値は、更新したページの [バージョン] フィールドに表示されます。たとえば、支給エレメントの計算ルールを変更してエレメント名共通ページの [ユーザー バージョン] フィールドを更新すると、入力したバージョン情報が支給名ページと計算ページに表示されます。

バージョン

エレメントのバージョンが表示されます。**P_** で始まるバージョンは、PeopleSoft からリリースされたバージョンを表します。**INT_** で始まるバージョンは、ユーザーによって作成されたバージョンです。

以下の状況が発生すると、ページのバージョンがクリアされます。

- 変更後にページを保存した場合。

変更したページのバージョンだけがクリアされます。

- [ユーザー バージョン] フィールドに値を入力して、ページを保存した場合。

変更したページのバージョンだけがユーザー バージョンの値に変わります。

- エレメントにスタンプ処理を実行した場合。

この場合、そのエレメントには新しいバージョン番号がスタンプ付けされます。

その他の項目

カスタム フィールド

このリンクをクリックして、"<エレメント名> - カスタム フィールド" ページにアクセスします。

コメント

このリンクをクリックして、"<エレメント名> - コメント" ページにアクセスします。

予測

このリンクは、エレメント タイプが休暇付与、または休暇取得の場合にのみ表示されます。このリンクをクリックして、"<エレメント名> - 予測" ページにアクセスします。

関連項目:

第 37 章、「ユーティリティの使い方」、バージョン番号の割り当てとバージョン別パッケージ作成、1501 ページ

支給定義へのユーザー定義フィールドの追加

"支給名 - ユーザー フィールド" ページにアクセスします (支給名ページの [ユーザー フィールド] リンクをクリックします)。

このページのフィールドは、ニーズに合わせて使用します。たとえば、このフィールドを使ってエレメントを分類したり、レポートのソート順を指定したりできます。入力したデータは、システムエレメントによって保存されます。

エレメントに関するコメントの入力と確認

"支給名 - コメント" ページにアクセスします (支給名ページの [コメント] リンクをクリックします)。

PeopleSoft が提供するシステム計算エレメントには全て、エレメントの概要、このシステム エレメントを使用できるタイミングや場所などの詳細なコメントが付けられています。これらの情報は、特定のシステム エレメントの役割を把握するのに役立ちます。

ユーザー定義のエレメントの場合、コメント ページを使用して、そのエレメントについてのメモや詳細を確認したり入力したりすることができます。

予測オプションの選択

"<エレメント名> - <エレメント名> の予測" ページにアクセスします (エレメント名共通ページの [予測] リンクをクリックします)。



休暇付与
エレメント SICK 100 ENT(傷病日数 100%) の予測

予測

☐ 予測使用

<エレメント名> - <エレメント名> の予測ページ

予測使用

このチェック ボックスをオンにすると、このエレメントの休暇欠勤予測または残数照会が有効になります。

予測必須

このチェック ボックスは、休暇取得エレメントに対してのみ表示されます。このチェック ボックスをオンにすると、休暇イベント入力ページで予測処理を実行せずに休暇欠勤イベントを保存しようとした場合に、警告メッセージが表示されます。

コンポーネント エレメント情報の更新

コンポーネント エレメント情報を定義するには、コンポーネント コンポーネント (GP_COMPONENT) を使用します。

このセクションでは、コンポーネント エレメント情報の更新方法について説明します。

コンポーネント エレメント情報の更新に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
コンポーネント	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[コンポーネント]	支給、控除、および休暇付与の各エレメントを作成する際に作成される、レート、ユニット、ベース、パーセントなどのコンポーネント エレメントに関する情報を更新します。

コンポーネント エレメント情報の更新

"コンポーネント" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[コンポーネント]) にアクセスします。

コンポーネント名	
*エレメント名:	EARNING_1_BASE
*名称:	累計に基づく支給
エレメントタイプ:	自動割当コンポーネント
*フィールド・フォーマット:	金額
エレメント番号:	1131 <input type="checkbox"/> 常時再計算
<div> <div> エレメント使用 </div> <div> *所有者: PS 配布/管理なし *クラス: システム データ *使用先: 全ての国 国: ALL 産業/地域: カテゴリ: BSA 基本給 </div> </div> <div> 上書きレベル </div> <div> <input type="checkbox"/> 支給元 <input type="checkbox"/> エレメント使用 <input type="checkbox"/> 支給グループ <input type="checkbox"/> エレメント定義 <input checked="" type="checkbox"/> 受給者 <input checked="" type="checkbox"/> ポジティブ入力 <input type="checkbox"/> カレンダー </div> <div> 結果 </div> <div> <input type="checkbox"/> 保存 <input type="checkbox"/> ゼロのとき保存 </div> <div> 変換パラメータ </div> <div> このエレメント タイプには変換パラメータはありません。 </div> <div> バージョン情報 </div> <div> 最終更新日時: 05/11/09 11:57:22.000000 最終更新者: PPLSOFT ユーザー バージョン: バージョン: P_9.00.00 </div>	
カスタム フィールド コメント	

コンポーネント名ページ

このページで入力または選択が可能なのは、[名称] フィールド、[エレメント使用] チェック ボックス、[ユーザー フィールド] リンク、および [コメント] リンクだけです。

その他のフィールドは、親エレメントの値が変更されると更新されます。**親エレメント**には、支給エレメント、控除エレメント、休暇付与エレメントがあります。これらのフィールドには、親エレメントの作成時に入力された値が表示されます。

上書きレベル

エレメント使用

必要に応じて、このチェック ボックスをオンにし、コンポーネントに対する上書きレベルを指定します。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、支給定義へのユーザー定義フィールドの追加、 112 ページ

第 18 章、「上書きの設定」、上書きについて、 655 ページ

サフィックスの定義

サフィックスを定義するには、エレメント サフィックス コンポーネント (GP_SUFFIX) を使用します。

このセクションでは、サフィックスの概要と以下の方法について説明します。

- 支給/控除エレメントのコンポーネント エレメントおよび累計に対するサフィックスの定義
- 休暇付与エレメントに対するサフィックスの定義

サフィックスについて

グローバル ペイロールでは、サフィックスを使用して、支給、控除および休暇欠勤のエレメントに対して作成されるコンポーネントおよび自動作成累計を定義します。支給、控除、または休暇欠勤のエレメントを定義するときは、ベース、レート、ユニット、およびパーセントなどの、そのエレメントを構成するコンポーネントを指定する必要があります。エレメント名にサフィックスが付加され、これらのコンポーネントおよび自動作成累計に対し、自動的に**名前が指定**されます。たとえば、名前が EARN1 で、計算ルールが (ユニット× レート) の支給エレメントを定義するとします。この場合、この計算ルールで使用されているコンポーネントに対し、以下の 2 つの追加エレメントが自動的に作成されます。

- レート エレメント: EARN1_RATE
- ユニット エレメント: EARN1_UNIT

この例では、エレメントのコンポーネントに名前を指定するために、サフィックス **_RATE** および **_UNIT** が使用されています。

PeopleSoft からサフィックスが提供されていますが、ユーザー定義によるサフィックスを作成することもできます。サフィックスは国ごとに定義されるため、各国の言語で定義できます。

どのサフィックスが使用されるかは、エレメント名共通ページの [使用先] フィールドおよび [国] フィールドで指定された国に基づいて決められます。[使用先] フィールドが [全ての国] と定義されているエレメントの場合、エレメント サフィックス ページで [デフォルト サフィックス セット] チェック ボックスがオンになっている項目に応じて、使用されるサフィックスが決まります。

注意: エレメントを作成すると、そのエレメントに必要なサフィックスとコンポーネントだけが自動的に作成されます。たとえば、支給エレメント EARNINGS1 を作成し、その計算ルールを (ユニット×レート) として定義した場合、ユニットおよびレートのサフィックスだけが自動的に作成されます。

注意: 各国または [全ての国] に対して定義されているエレメントに適用されるサフィックスを、エレメント サフィックス (GP_SUFFIX) コンポーネントで追加、修正、削除することができます。

サフィックスの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
支給/控除	GP_SUFFIX1	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[エレメント サフィックス]、[支給/控除]	支給エレメントおよび控除エレメントのコンポーネントと累計に対するサフィックスを、選択した基本言語で定義します。
エレメント サフィックス - 休暇付与	GP_SUFFIX2	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[エレメント サフィックス]、[休暇付与]	休暇付与エレメントに対するサフィックスを、選択された基本言語で定義します。

支給/控除エレメントのコンポーネント エレメントおよび累計に対するサフィックスの定義

"支給/控除" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[エレメント サフィックス]、[支給/控除]) にアクセスします。

支給/控除(E)

休暇付与(A)

エレメント サフィックス

検索 | 全件表示 | 最初 1/21 | 最後

*国: ALL 全ての国

☒ デフォルト サフィックス セット

サフィックス区切り文字:

サフィックス - コンポーネント

*ベース: BASE

*パーセント: PCT

*レート: RATE

*ユニット: UNIT

カレンダー期間累計

*期間: PTDA

*期間ユニット: PTDU

*月間: MTDA

*月間ユニット: MTDU

*四半期: QTDA

*四半期ユニット: QTDU

*年間: YTDA

*年間ユニット: YTDU

会計期間累計

*期間金額 - 会計年度: FPDA

*期間ユニット - 会計年度: FPDU

*月間金額 - 会計年度: FMDA

*月間ユニット - 会計年度: FMDU

*四半期金額 - 会計年度: FQDA

*四半期ユニット - 会計年度: FQDU

*年間金額 - 会計年度: FYDA

*年間ユニット - 会計年度: FYDU

サフィックス - 延滞コンポーネント

*回収額: PBCK

*未控除額: ANT

*延滞加算額: ATAR

サフィックス - 延滞累計

*延滞: ARR

支給/控除ページ

国

サフィックスを定義する国を選択します。

国を選択すると、ページのフィールドに、選択した国の言語であらかじめ定義されているサフィックスが自動的に入力されます。このあらかじめ定義されているサフィックスは変更できます。

デフォルト サフィックス セット

エレメント名共通ページの [使用先] フィールドおよび [国] フィールドで "全ての国" に定義したエレメントで使用されるデフォルトサフィックスを指定するために選択します。

注意: このページの [国] フィールドとエレメント名共通ページの [国] フィールドの指定が一致しない場合、コンポーネントおよび自動作成累計にはデフォルトのサフィックス セットが使用されます。

サフィックス区切り文字

コンポーネント名のサフィックスとエレメント名の区切りとして使用されます。たとえば、支給エレメント EARN1 を作成し、その計算ルールを (ユニット×レート) として定義した場合、EARN1、EARN1_UN、EARN1_RT の 3 つのエレメントが作成されます。この場合、区切り文字はアンダースコア (_) になります。区切り文字には何を指定してもかまいません。このフィールドを空白にしておくこともできます。

[サフィックス - コンポーネント]、[カレンダー期間累計]、[会計期間累計]、[サフィックス - 延滞コンポーネント]、[サフィックス - 延滞累計]

特定の国の言語を使用して、コンポーネントまたは自動作成される累計の各タイプに付加されるサフィックスを入力します。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、計算ルールおよびコンポーネント、270 ページ

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、自動作成累計、271 ページ

休暇付与エレメントに対するサフィックスの定義

"エレメント サフィックス - 休暇付与" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[エレメント サフィックス]、[休暇付与]) にアクセスします。

支給/控除(E)

休暇付与(A)

1/21

検索 | 全件表示 | 最初 | 最後

国: ALL 全ての国

☒ デフォルト サフィックス セット

サフィックス区切り文字: -

サフィックス - コンポーネント

*有給ユニット: JNP

*調整ユニット: UNAD

サフィックス - 累計

*残数: BAL

*調整: ADJU

*休暇付与: ENT

*休暇取得: TAKE

エレメント サフィックス - 休暇付与ページ

[サフィックス - コンポーネント] および [サフィックス - 累計]

休暇付与エレメントに対して自動作成されるコンポーネントおよび累計に付加されるサフィックスを定義します。

関連項目:

第 12 章、「休暇欠勤エレメントの定義」、自動作成累計のルール の定義、 427 ページ

第 6 章

データ取得エレメントの定義

この章では、データ取得エレメントの概要および以下の方法について説明します。

- システム エレメントの使い方
- アレイの使い方
- 書き込み可能アレイの使い方
- ブラケットの定義
- 給与レート コードを定義します。
- 仮再計算の定義
- 再計算/履歴抽出ルールの定義

データ取得エレメントについて

グローバル ペイロールでは、データ取得エレメントを使用してシステムからデータを取り出します。

データ取得エレメントには、以下の 6 つの種類があります。

- システム エレメント
- アレイ
- ブラケット
- 給与レート コード
- 仮再計算
- 再計算/履歴抽出ルール

システム エレメントは、PeopleSoft によって定義および配布されます。アレイやブラケットなど、その他のエレメントは、ユーザーが名称と基本的なパラメータを定義します。

バッチ処理

システム エレメントおよびアレイにより取得されるデータが以下の長さを超える場合、超過分が切り捨てられます。

文字フィールド: 30 文字

数値フィールド: 整数 12 桁小数 6 桁

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、97 ページ

システム エレメントの使い方

このセクションでは、システム エレメントおよびシステム エレメントのバッチ処理についての概要と、以下の方法について説明します。

- システム エレメント名の定義
- システム エレメントの詳細の表示
- システム エレメントのコメントの表示

システム エレメントについて

システム エレメントは PeopleSoft により配布および管理されており、通常は計算に使用される受給者関連のデータが格納されます。ユーザーはシステム エレメントの追加はできませんが、その使用方法を決める各種パラメータを定義することはできます。

システム エレメントには、以下の 2 つのタイプがあります。

- データベース システム エレメント: あらかじめ定義されたデータベースのレコードおよびフィールドのリストから値を取得します。

- システム計算エレメント: システム内に保存されているデータから値を取得します。

システム計算エレメントが変換されるタイミングは、それぞれ異なります。たとえば、計算セグメントの始め、日ごと、給与レート コード エレメントを検出した時など、その目的によって変換のタイミングはさまざまです。

注意: レポートに使用するデータ ベース システム エレメントの値を保存するには、そのエレメントをプロセスに入れる必要があります。

システム エレメントのバッチ処理について

データベース エレメント、システム計算エレメントに関係なく、全てのシステム エレメントで考慮すべき重要な事柄があります。給与レートによって周期が管理されるシステム エレメント、つまり、給与周期によって管理されるシステム エレメントは、カレンダー期間の周期に基づいた [周期] フィールドの値によって年次化され、そして非年次化されます。つまり、支給、控除、休暇欠勤など、[周期] フィールドを使用するエレメントは、周期としてカレンダー期間の周期を使用するように定義する必要があります。このような方法を取ることで結果が正確なものとなり、不必要な年次化や非年次化がなくなります。

データベース システム エレメント

有効日付きレコードの値を取得するデータベース エレメントの場合、選択される行はその状況によって異なります。通常は、セグメント終了日時点の値が取得されます。スライスされたエレメントの変換中に参照された場合、そのスライスの終了日時点の値が使用されます。たとえば、職務レコードから値を取得する場合、従業員 ID、雇用レコード番号、セグメント終了日またはスライス終了日が一致したものが取得されます。

処理対象の国、および全ての国で使用されるシステム エレメント定義が、処理開始時にロードされます。システム エレメントは、処理で使用する際に変換されます。

注意: 使用されたデータベース システム エレメントの中で、保存するように定義されているものだけが結果テーブルに保存されます。

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理のデータベース システム エレメントで使用するレコード

次の表は、データベース システム エレメントにデータがロードされるデータベース テーブルの一覧です。

テーブル名	説明
PERSON	有効日なしのデータ。従業員 ID に基づいて選択されます。
PERS_DATA_EFFDT (有効日付き個人データ)	最新の有効日付き行は、有効日がセグメント終了日より前か同じ日付の行になります。スライスで参照される場合、有効日がスライス終了日より前か同じ日付の行が、最新の有効日付き行として参照されます。
JOB	最新の有効日付き行は、有効日がセグメント終了日より前か同じ日付の行になります。スライスで参照される場合、有効日がスライス終了日より前か同じ日付の行が、最新の有効日付き行として参照されます。
PER_ORG_ASGN (雇用形態)	有効日なしのデータ。従業員の組織レコード番号に基づいて選択されます。
PER_ORG_INST (雇用データ)	有効日なしのデータ。
CONTRACT_DATA	有効日なしのデータ。選択された職務レコードの CONTRACT_NUM (契約番号) フィールドに基づいて選択されます。
WKF_CNT_TYPE (従業員契約タイプ)	最新の有効日付き行は、職務レコードの契約番号と一致する契約番号を持つ、有効日がセグメント終了日より前か同じ日付の行になります。JOB テーブルと CONTRACT_DATA テーブルの CONTRACT_NUM は互いに同期が取られているため、どちらの CONTRACT_NUM を使用することもできます。契約番号がスライスで参照される場合は、スライス終了日が使用されます。
COMPENSATION	有効日 (EFFDT) および同一有効日連番 (EFFSEQ) が職務テーブルと一致する、各給与レートコード (COMP_RATECD) の給与有効連番 (COMP_EFFSEQ) 行が全て選択されます。

注意: これらのヒューマン リソース管理のテーブルについては、ヒューマン リソース管理のドキュメンテーションで詳しく説明します。

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.1 PeopleBook: 人事・労務管理、「雇用データの追加。」

データベース システム エLEMENTと通貨

データベース システム エLEMENTの中には、値が金額のものがあります。フィールドに保存される値は、その値が関連付けられている通貨単位で表わされます。この通貨は、グローバル ペイロールの処理通貨と同じ場合もあれば、異なる場合もあります。

注意: 職務レコードからデータを取得する COMPRATE システム エLEMENTを使用する場合には注意が必要です。このシステム エLEMENTは、複数のコンポーネントでロードされます。給与計算中に参照される場合、その値は最新の為替レート タイプや有効日には動的に更新されません。ヒューマン リソース管理で最後に更新を行った時点の為替レートや有効日を使って値がロードされます。

これらのシステム エLEMENTが変換される際、ヒューマン リソース管理のレコードの通貨コードと給与計算実行時の処理通貨とが一致しない場合、ヒューマン リソース管理の通貨からグローバル ペイロールの支給元ページで定義された処理通貨に換算されます。

次の表は、職務レコードの金額フィールドの一覧です。

職務レコードのフィールド	関連付けられている通貨
給与レート (COMPRATE)	通貨コード (CURRENCY_CD)
年間給与 (ANNUAL_RT)	通貨コード (CURRENCY_CD)
月間給与 (MONTHLY_RT)	通貨コード (CURRENCY_CD)
日給 (DAILY_RT)	通貨コード (CURRENCY_CD)
時間給与 (HOURLY_RT)	通貨コード (CURRENCY_CD)
シフト特別レート (SHIFT_RT)	通貨コード (CURRENCY_CD)

職務レコードのフィールド	関連付けられている通貨
変更額 (CHANGE_AMT)	通貨コード (CURRENCY_CD)
福利厚生費算定基礎 (年額) (ANNL_BENEF_BASE_RT)	通貨コード (CURRENCY_CD)

同様に、指定された周期で表されるシステム エレメントは、通貨のシステム エレメントと同じ方法で変換されます。職務レコードの給与レート フィールドは、職務レコードに保存されている給与周期で表されます。この給与周期は、グローバル ペイロールで使用されるカレンダー周期とは異なる場合があります。周期で管理されるデータベース システム エレメントは、全てカレンダー周期で変換されます。

システム計算エレメント

システム計算エレメントは、そのシステム計算エレメントが実際に使用されていて、"システム エレメント" のソース/使用ページで適切な出力オプションが選択されている場合に、出力結果のテーブルに出力されます。

データベース システム エレメントは、バッチ処理中に全てのデータが取得され、その値がアレイに格納されます。それに対し、システム計算エレメントは、適切な処理アプリケーションによって値の取得およびセットが行われます。たとえば、休暇欠勤処理の場合、休暇欠勤で使用するシステム エレメントに対してのみ、値がロードされます。

システム エレメントを使用して以下の処理を行います。

- 最初のアクティブ セグメントは、特定のプロセス ステータス レコードに対して作成された全アクティブ セグメントに基づいてロードされます。
- 最後のアクティブ セグメントも、特定のプロセス ステータス レコードに対して作成された全アクティブ セグメントに基づいてロードされます。

システム エレメントの変更および表示に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
システム エレメント名	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[システム エレメント]、[システム エレメント名]	エレメント名を付け、基本パラメータを定義します。
ソース/使用	GP_SYSTEM_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[システム エレメント]、[ソース/使用]	システム エレメントが、システム計算エレメントかデータベース システム エレメントかを指定します。データベース システム エレメントの場合、データ元のレコードとフィールド、およびフィールドがセットIDで管理されるかどうかを指定します。
ソース別システム エレメント	GP_SYSTEM_PIN_INQ	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[ソース別システム エレメント表示]	ソース別にシステム エレメントを表示します。
システム エレメント - <エレメント名> のコメント	GP_PIN_SEC	システム エレメント名ページの [コメント] リンクをクリックします。	PeopleSoft によって提供されるシステム計算エレメントの詳細なコメントを表示します。 参照: 第 5 章、「 <u>エレメントの一般情報の定義</u> 」、エレメントに関するコメントの入力と確認、112 ページ。

システム エLEMENT 名の定義

"システム エLEMENT - システム エLEMENT 名" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[ELEMENT]、[サポート ELEMENT]、[システム ELEMENT]、[システム エLEMENT 名]) にアクセスします。

注意: GP_PIN というオブジェクト名の ELEMENT 名共通ページで、ELEMENT 名やその基本パラメータを全て定義します。ELEMENT 名共通ページのページ タイトルや内容は、定義するグローバル ペイロール ELEMENT のタイプによって変わります。このページに表示されるフィールドについては全て、この PeopleBook のほかの章で説明されています。

PeopleSoft が提供するシステム計算のシステム ELEMENT には全て、ELEMENT の概要や、このシステム ELEMENT を使用できるタイミングや場所などの詳細なコメントが付けられています。これらの情報は、[コメント] リンクをクリックすると確認することができます。これらの情報は、特定のシステム ELEMENT がどのように使用されるかを把握するのに役立ちます。

関連項目:

[第 5 章、「ELEMENT の一般情報の定義」、ELEMENT に関するコメントの入力と確認、112 ページ](#)

[第 5 章、「ELEMENT の一般情報の定義」、ELEMENT 名の定義、97 ページ](#)

システム ELEMENT の詳細の表示

"ソース/使用" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[ELEMENT]、[サポート ELEMENT]、[システム ELEMENT]、[ソース/使用]) にアクセスします。

システム エレメント名

ソース/使用

エレメント名:

ABSENCE DATE

休暇欠勤日

所有者:

PS 保護

エレメント詳細

● システム計算

● データベース フィールド

レコード:

フィールド名:

ABSENCE_DATE

休暇欠勤日

☒ セットID による管理

☐ チャートフィールドとして使用

プロンプト ビュー名:

セットID エレメント:

バージョン:

8.00.00.00

ソース/使用ページ

レコード システム エレメントでデータを取得するレコードが表示されます。

フィールド名 システム エレメントでデータを取得するフィールドが表示されます。

セットID による管理 フィールドをセットID で管理する場合、オンにします。セットID で管理するエレメントには、フィールド名とプロンプト ビュー名を指定する必要があります。

チャートフィールドとして使用 [データベース フィールド] が指定されている場合にこのチェックボックスをオンにすると、エレメントをチャートフィールドとして使用することができます。チャートフィールドは、グローバル ペイロールを PeopleSoft Enterprise 一般会計と統合する場合に使用されます。

プロンプト ビュー名 セットID で管理するエレメントやチャートフィールドとして使用するエレメントには、プロンプト ビュー名を指定する必要があります。セットID で管理するシステム エレメントをポジティブ入力のサポート エレメント上書きで使用する場合も、プロンプト ビュー名を指定する必要があります。

セットID エレメント システム エレメントのセットID フィールド名が表示されます。

関連項目:

第 39 章、「PeopleSoft Enterprise 一般会計との統合」、一般会計への費用の割り当てに使用するチャートフィールドの選択、1533 ページ

アレイ エLEMENTの定義

アレイ エLEMENTを定義するには、アレイ コンポーネント (GP_ARRAY) を使用します。

このセクションでは、アレイ エLEMENTおよびアレイ エLEMENTのバッチ処理の概要と、以下の方法について説明します。

- アレイ名の定義
- SQL ステートメント情報の選択と定義
- アレイを使用してデータを取得するフィールドの定義
- アレイで使用する処理フォーミュラの定義

アレイ エLEMENTについて

アレイを使って、ヒューマン リソース管理のテーブルなど、給与計算ルールで使用、評価、または処理する必要のある外部ソースのデータを取得することができます。

アレイを作成するには、アレイ定義コンポーネントで FROM 句、SELECT 句、および WHERE 句から成る構造化照会言語 (SQL) ステートメントを組み立てる必要があります。

- FROM 句を定義するには、フィールド マップ/キー ページの [レコード (テーブル) 名] フィールドに、必要なデータを持つテーブルを指定します。
- SELECT 句を作成するには、フィールド マップ/キー ページの [取得フィールドと変数ELEMENTのマッピング] グループ ボックスに、必要なデータを持つテーブルの列 (フィールド) を指定します。
- WHERE 句を作成するには、アレイのキーと検索条件を定義します。アレイのキーの値に基づいた条件に従って、データベース テーブルからデータ行が取得されます。

これを行うには、フィールド マップ/キー ページの [キー/検索条件] グループ ボックスのフィールドを使用します。

- SQL ステートメントを定義したら、アレイ内のデータベース列の値をグローバル ペイロールの変数にマッピングする必要があります。

これらの変数に列の値を格納して、グローバル ペイロールのルールで使えるようにします。

これを行うには、フィールド マップ/キー ページの [変数エレメント名] フィールドを使用します。

注意: SQL ステートメントを構築したら、フォーミュラを定義することもできます。アレイで取得したデータの評価が必要な場合があるからです。

これは、処理フォーミュラ ページで行います。

注意: アレイは、有効日で管理されていません。アレイを変更すると、遡及処理に影響が出る可能性があります。

アレイのバッチ処理について

アレイを使用すると、システム エレメントでは取得できないデータベース テーブルやビューのデータにアクセスすることができます。アレイは値には変換されませんが、その代わりに処理を呼び出します。

フィールド マップ/キー ページで、受給者別のアレイも、受給者別でないアレイも作成できます。受給者別のアレイの場合、現在処理されているスライスまたはセグメントで変換されます。

アレイは、セグメントおよびスライスごとに変換する必要があります。アレイによって値がセットされるエレメントが、スライスされる別のエレメントでも使用されている場合、そのアレイおよびアレイの全ての戻り列のエレメントも確実にスライスされるように、アレイそのものをイベント リストに加える必要があります。そのため、アレイをイベント リストに入力する作業は必須となります。

受給者別に管理されるアレイの処理

受給者別に管理されるアレイの処理は、以下の手順で行われます。

1. カレンダー実行中に初めてこのアレイが検出されると、アレイによりデータベースが呼び出されます。

指定されたキーに基づいた WHERE 条件を満たすデータ行が全て、メモリに読み込まれます。カーソルは、従業員 ID (昇順)、雇用レコード番号 (昇順)、有効日 (降順) の順でソートされます。

2. 受給者ごとに、適切なデータ行にアクセスできるようにカーソルが設定されます。適切なデータ行とは、フィールド マップ/キー ページのフィールドで指定された受給者と有効日のフィールドのデータ行です。

受給者別のアレイは、支給期間終了日を基準にして支給ごとに並べられます。分割が発生していて、アレイがイベント リストに含まれている場合、あるいは、スライスまたはセグメントに分割される支給、控除、休暇欠勤エレメントで使用されている場合は、アレイは、スライスまたはセグメントの終了日の順に並べられる必要があります。

3. アレイ処理フォーミュラは、メモリに格納されている受給者データ (受給者カーソルが指している受給者のデータ) に対して、処理コードを基に適用されます。
4. データベース フィールドは、処理フォーミュラが適用されたデータの最後の行になります。

アレイにアクセスするたび、手順の 2 から 4 までは繰り返し実行されます。手順 1 は、受給者が変わった、または新しいスライスまたはセグメントが変換される場合に限り、再度実行されます。

受給者別に管理されないアレイの処理

受給者別に管理されないアレイの処理は、以下の手順で行われます。

1. カレンダー実行中に初めてこのアレイが検出されると、アレイによりデータベースが呼び出されます。

指定されたキーに基づいた WHERE 条件を満たすデータ行が全て、メモリに読み込まれます。そのため、処理フォーミュラでも有効日行の判定ロジックを使用する必要があります。

2. テーブルが有効日付きの場合、適切な日付 (セグメント、スライス、期間) を照会するシステムエレメントが、検索フォーミュラによって参照されます。

分割が発生していて、アレイがイベント リストに含まれている場合、あるいは、スライスまたはセグメントに分割される支給、控除、休暇欠勤エレメントで使用されている場合は、アレイは、スライスまたはセグメントの終了日の順に並べられる必要があります。アレイはデータベースから得た複数の行を戻すことができます。処理フォーミュラは、複数の行に対して適用されます。

3. アレイ処理フォーミュラが実行されます。
4. データベース フィールドは、処理フォーミュラが適用されたデータの最後の行になります。

アレイにアクセスするたび、手順の 2 から 4 までは繰り返し実行されます。手順 1 は、フィールド マップ/キー ページで [変換毎に再ロード] または [セグメント毎に再ロード] が選択されている場合に限り、実行されます。

関連項目:

第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、バッチ処理で使用するアレイ (技術情報)、 29 ページ

アレイ エレメントの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
アレイ名	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[アレイ]、[アレイ名]	エレメント名を付け、基本パラメータを定義します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
フィールド マップ/キー	GP_ARRAY_KEYS	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[アレイ]、[フィールド マップ/キー]	<ul style="list-style-type: none"> SQL ステートメントの FROM 句に対するデータベース テーブルを指定します。 アレイ、およびアレイのデータ取得時に使用する SQL ステートメントの WHERE 句に対するキーおよび検索条件を定義します。 アレイによって値を取得するフィールドとその値がセットされるエレメントを定義します。このデータは SQL ステートメントの SELECT 句で使用され、アレイが呼び出されたときに変換されるエレメントを指定します。また、データベースから取り込まれる各行のソート順も定義します。
処理フォーミュラ	GP_ARRAY_PROCESS	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[アレイ]、[処理フォーミュラ]	必要な処理フォーミュラを定義します。

アレイ エレメント名の定義

"アレイ名" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[アレイ]、[アレイ名]) にアクセスします。

アレイ名(A)		フィールド マップ キー(E)		処理フォーミュラ(P)	
*エレメント名:	K0ARCOMPANY	エレメント タイプ:	アレイ	*フィールド フォーマット:	10 進数
*名称:	Company Points Value	エレメント番号:	2025	<input checked="" type="checkbox"/> 常時再計算	
エレメント使用					
*所有者:	PS 配布/管理なし	上書きレベル			
*クラス:	ソフトウェア	<input type="checkbox"/> 支給元	<input type="checkbox"/> エレメント使用		
*使用先:	全ての国	<input type="checkbox"/> 支給グループ	<input type="checkbox"/> エレメント定義		
国:	ALL	<input type="checkbox"/> 受給者	<input type="checkbox"/> ホンテイク入力		
産業/地域:		<input type="checkbox"/> カレンダー			
カテゴリ:		結果			
		<input type="checkbox"/> 保存			
		<input type="checkbox"/> ゼロのとき保存			
変換パラメータ					
このエレメント タイプには変換パラメータは必要ありません。					
バージョン情報					
最終更新日時:		00/08/10 00:00:00.000000			
最終更新者:		PPLSOFT			
ユーザー バージョン:					
バージョン:		P_8.30.00.00			

[カスタム フィールド](#) [コメント](#)

アレイ名ページ

アレイは、処理が実行されている間だけ結果を保持する一時テーブルであり、処理が終了すればそれらのデータを保存しておく必要はなくなります。そのため、[保存] および [ゼロのとき保存] チェック ボックスはオフに設定され、入力できないようになっています。

さらに、アレイは有効日で管理されないため、このページには [定義の指定日] フィールドは用意されていません。アレイの定義を変更する場合は、新しいアレイを作成し、そのアレイを参照する有効日付きのエレメントを新規に作成します。データベース テーブル名またはビュー名を変更した場合も、新しいアレイを作成する必要があります。

注意: GP_PIN というオブジェクト名のエレメント名共通ページで、エレメント名やその基本パラメータを全て定義します。エレメント名共通ページのページ タイトルや内容は、定義するグローバル ペイロール エレメントのタイプによって変わります。このページに表示されるフィールドについては全て、この PeopleBook のほかの章で説明されています。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

SQL ステートメント情報の選択と定義

"フィールド・マップ/キー"-ページ・([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロー
ル/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[アレイ]、[フィールド マップ/キー])
にアクセスします。

アレイ名(A)

フィールド マップ/キー(F)

処理フォーミュラ(P)

エレメント名:

KOARCOMPANY

Company Points Value

所有者:

PS 非管理

*レコード (テーブル) 名:

COMPANY_TBL

会社コード

*レコード処理オプション:

セグメント毎に再ロード

取得フィールドと変数エレメントのマッピング

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-3/3 最後

フィールド使用	フィールド	変数エレメント名	通貨フィールド	ソート基準		
通貨	COMP_POINTS_VALUE	KOVRPOINTVAL	CURRENCY_CD	なし	+	-
その他	COMPANY	KOVRCOMPANY		なし	+	-
その他	EFFDT	KOVRCOEFFDATE		降順	+	-

キー/検索条件

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-2/2 最後

キー タイプ	フィールド	演算子	エレメント タイプ	エレメント名		
その他	EFFDT	<=	システム エレメント	PERIOD END DATE	+	-
その他	COMPANY	=	システム エレメント	COMPANY	+	-

生成 SQL ステートメントの確認

生成されるクエリを表示

☐ 実行時にステートメントをログに記録

バージョン:

P_8.90.00.00

フィールド マップ/キー ページ

レコード (テーブル) 名

PeopleSoft で定義されているテーブルのリストから、SQL ステートメントで使用するテーブルを選択します。SQL ステートメントの FROM 句では、選択したテーブル名に自動的にプレフィックス "PS_" が付けられます。

ビューを選択することもできます。検索結果リストには、データベースにある全ての SQL テーブルとビューが表示されます。

ロード処理オプション

アレイ データをデータベースから取得し直す周期を選択します。
値は以下のとおりです。

[従業員ベースの検索]: 受給者別のアレイを作成する場合に選択します。

受給者ごとに 1 回、データを取得します。1 人の受給者の処理が終わると、アレイのストレージが開放され、次の受給者の処理で利用できるようになります。

[1 回のみロード (小さいテーブル)]: 受給者別でないアレイを作成する場合に選択します。処理中にアレイが最初に参照されたときに 1 回だけ、データを取得します。ほかの 2 つの "再ロード" と比較してこのオプションでは、データ ロードのためのデータベースへのアクセスが 1 回しか行われなため、パフォーマンスが大幅に向上します。明記されているように、このオプションは小さいテーブルに対してのみ使用してください。このオプションに関連付けられているアレイのバッファは全体で、5000 行しか格納することができません。プロセス自体によってテーブルのデータを変更する場合 (この場合、プロセス内部でその更新内容を反映させるのが望ましいのですが)、[1 回のみロード (小さいテーブル)] オプションは選択しないでください。

[変換毎に再ロード]: 受給者別でないアレイを作成する場合に選択します。

アレイが変換されるたびに、データベースからデータを取得します。

[セグメント毎に再ロード]: 受給者別でないアレイを作成する場合に選択します。

各セグメントでアレイが変換される回数に関係なく、セグメントが処理されるたびに 1 回、データベースからデータを取得します。

注意: 選択されたロード処理オプションによって、[キー タイプ] フィールドに入力できるキー タイプは変わります。

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: Data Management

取得フィールドと変数エレメントのマッピング

[取得フィールドと変数エレメントのマッピング] グループ ボックスで、選択された行から値を取得する列を指定します。これは、SQL ステートメントの SELECT 句の一部として使用されます。また、選択された列の値をロードする変数エレメントを指定します。受給者別のアレイの場合、従業員 ID (および、指定されていれば、雇用レコード番号や有効日) でソートされます。従業員 ID と雇用レコード番号は昇順、有効日は降順でソートされます。

フィールド使用

以下のオプションから選択します。

[通貨]: 通貨換算が必要な場合に選択します。

[ポインタ]: 列で PIN が使用されている場合に選択します。

[その他]: 上記以外の場合に選択します。デフォルトはこの値です。

フィールド

データベース テーブルの列の中からフィールドを選択します。検索結果リストには、SELECT 句や ORDER BY 句で 사용할 ことが できる、データベース テーブルの列が全て表示されます。

変数エレメント名

選択されたフィールドの値をロードする変数を定義します。[変数エレメント名] フィールドは、必須フィールドではありません。このフィールドが空白の場合、データベース フィールド名の列にある値は、ORDER BY 句でだけ使用されます。

注意: 複数の異なるフィールド名に対し、同じ変数名を指定することはできません。

通貨フィールド

データベースから取得するフィールドが金額の場合、そのフィールドの通貨コードを保存しているフィールドの列名をデータベースから選択します。この通貨コードが処理通貨と異なる場合、データベース上の金額は処理通貨の値に換算されます。このフィールドは、[フィールド使用] で [通貨] が選択されている場合にのみ入力できます。

ソート基準

データベースから取り込まれる各行のソート順 (昇順、降順、またはなし) を定義します。検索フォーミュラによっては、取得する最初の行だけを必要としたり、ソート順によって結果が変化する特別なフォーミュラのロジックを使用したりするため、ソート順序は非常に重要です。

注意: 同じフィールドを複数のグローバル ペイロールの変数に割り当てることはできますが、昇順と降順など、複数のソート順序を指定することはできません。

キー/検索条件

キー タイプ

キー タイプを選択します。

[ロード処理オプション] が [従業員ベースの検索] の場合、キー タイプは [有効日]、[雇用レコード番号]、[従業員 ID]、[その他] のいずれかです。キーとして照会しているテーブル内の他のデータベース フィールドを使う場合は、[その他] を選択します。

[ロード処理オプション] が [1 回のみロード (小さいテーブル)]、[変換毎に再ロード]、または [セグメント毎に再ロード] の場合、キー フィールドは全て [その他] として定義されます。

ユーザー定義アレイに対するキーを指定する場合、少なくとも 1 つのキーを指定する必要がありますが、指定しなくてもこのページを保存することはできます (指定がない場合は、テーブル全体がロードされます)。

警告: アレイのキーを変更すると、[キー/検索条件] グループ ボックス、および処理フォーミュラ ページのデータがクリアされます。

フィールド

データベースに定義されているレコード (テーブル) の列の名前を正確に入力します。これは、WHERE 句の条件式の左辺になります。たとえば、"WHERE EMPLID = PAYEE ID1" (PAYEE ID1 はシステム エlement) という WHERE 句を作成する場合、[フィールド] に EMPLID を指定します。

フィールド名は、データベース テーブルの、フィールド ラベルやフィールド名称ではなく、列の名称と一致する必要があります。

演算子

WHERE 句の演算子を指定します。演算子を入力できるのは、キータイプが[その他] の場合のみです。有効な演算子は、<、<=、<>、=、>=、>、該当なしです。

エレメント タイプ

[ブラケット]、[フォーミュラ]、[システム エレメント]、または [変数] を選択します。エレメント・タイプを入力できるのは、キータイプが [その他] の場合のみです。

エレメント名

WHERE 句の条件式の右辺になるエレメントを指定します。たとえば、"WHERE EMPLID = PAYEE ID1" (PAYEE ID1 はシステム エレメント) という WHERE 句を作成する場合、[エレメント名] に PAYEE ID1 を指定します。キー タイプが [その他] の場合にのみ、エレメント名を指定することができます。

生成 SQL ステートメントの確認**実行時にステートメントを
ログに記録**

このチェック ボックスをオンにすると、バッチ処理中にアレイ モジュールにより動的に作成される SQL ステートメント テキストを見ることができます。PeopleTools Configuration Manager でリダイレクト出力のオプションを選択すると、それらのアウトプットをファイルに出力することができます。

生成されるクエリーの表示

クリックすると、リアルタイムで SQL ステートメントを確認することができます。アレイにデータを取り込むのに、どのような SQL が作成されるかが表示されます。また、[レコード (テーブル) 名] フィールドに定義されたテーブルの行数がリストされます。

システム エレメントのキー値としての使い方

ロード処理オプションの値によっては、[従業員 ID]、[雇用 Rcd]、および [有効日] をキーフィールドとして使用できます。

アレイ キーとして [従業員 ID] または [雇用レコード番号] を選択すると、[演算子] および [エレメント名] フィールドが非表示になり、現在の [従業員 ID] および [雇用レコード番号] に対して (=) 演算子が使用されます。[有効日] の場合は、[有効日との比較] フィールドで指定された日付に対して (<=) 演算子が使用されます。

たとえば、[ロード処理オプション] で [従業員ベースの検索] を選択して [キー タイプ] に [従業員 ID] を、[フィールド] に EMPLID を指定し、次に (行を追加して) [キー タイプ] に [雇用 Rcd] を、[フィールド] に EMPL_RCD を指定すると、現在の受給者のデータだけを取得する SQL ステートメントが作成されます。

受給者別のアレイ、および受給者別でないアレイでのキー タイプ [その他] の使い方

用意された 3 つのキー タイプを使用しない場合、またはそれ以外のフィールドをキーとして入力したい場合、キー フィールド名、演算子、エレメント タイプ、および適切なエレメント名を入力する必要があります。

1. 指定したキー フィールド (レコード列) に対する正しい演算子を選択します。これは、WHERE 句で使用される演算子になります。
2. エレメントのタイプを選択します。
3. エレメント タイプに対応したエレメント名を入力します。ここで指定するエレメントは、指定されたエレメント タイプで定義されているエレメントである必要があります。

ここで指定された値が、アレイにデータを取り込む際に必要となる SQL ステートメントの WHERE 句に使用されます。設定に合わせて、複数のキー フィールドを指定できます。

注意: このページで複数のキーを入力した場合、それらの複数の条件は常に AND 条件として処理されます。

例: ユーザー定義のキー構造

たとえば、部門 ID が一致するデータ行をデータベースから検索する場合を考えてみましょう。

[その他]、DEPTID、[=]、システム エレメント、DEPTID の順に選択します。このアレイが検出されると、部門テーブル (DEPT_TBL) の行の中から、現在処理中の受給者に対するシステム エレメント DEPTID と値の一致する部門 ID (DEPTID) を持つ行が検索されます。

アレイ エレメントで使用する処理フォーミュラの定義

"アレイ - 処理フォーミュラ" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[アレイ]、[処理フォーミュラ]) にアクセスします。

アレイ名(A)		フィールド マップ キー(E)		処理フォーミュラ(P)	
エレメント名:	KOARCOMPANY	Company Points Value	所有者:	PS 非管理	
レコード (テーブル) 名:	COMPANY_TBL	会社コード			
*処理オプション:	<input type="text" value="検索"/>				
エラー処理フォーミュラ:	<input type="text"/>				
<div> <div>処理フォーミュラ</div> <div> カスタマイズ 検索 全件表示 最初 1/1 最後 </div> </div>					
フォーミュラ名		名称			
<input type="text" value="KOFMARCOMPANY"/>		KOFMARCOMPANY		<div> <div>+</div> <div>-</div> </div>	

処理フォーミュラ ページ

処理オプション

フォーミュラをいつ、どのように適用するかを、以下の値の中から選択します。値は以下のとおりです。

[フォーミュラ別、全行に適用]: アレイで必要とされる全ての行が選択されます。まず最初のフォーミュラが全ての行に適用され、その次に 2 番目のフォーミュラ、というように全てのフォーミュラが順に適用されます。

[行別、全フォーミュラを適用]: データベースからデータ行が 1 行選択され、その 1 行に対してこのページの各フォーミュラが適用されます。その後、次の行が選択され、その行に対して各フォーミュラが適用されます。同様にして、各行ごとに全てのフォーミュラが適用されます。

[検索]: データベースからデータ行が 1 行選択され、その 1 行に対してこのページの各フォーミュラが適用されます。その後、次の行が選択され、その行に対して各フォーミュラが適用されます。フォーミュラの値が 1 になった時点で、ループは停止されます。したがって、たとえば特定の値のデータを検索する場合、その値が見つかった時点でデータの検索は停止されます。

注意: 検索処理について、処理オプションで [検索] を選択して [フォーミュラ名] を指定しない場合、アレイによって返された最初のデータ行が使用されます。

エラー処理フォーミュラ

行が 1 行も選択されなかった場合に、エラー処理に使用するエラー処理フォーミュラ名を選択します。

フォーミュラ名

アレイの変換で使用される、各データ行に適用するフォーミュラを選択します。

[処理オプション] で [検索] を選択した場合、ここにはブール値を返すフォーミュラを選択する必要があります。

注意: フォーミュラを使用する代わりに、必要なデータ行が常に最初に返されるようなアレイを定義することも検討してください。アレイによって返されるデータ行が常に 1 行だけで、その行に必要なデータが必ず含まれている場合、処理オプションが [検索] であっても [フォーミュラ名] フィールドの値を指定する必要はありません。

注意: 各フォーミュラには自動的に連番が割り当てられます。割り当てられた連番は変更できません。順番を間違えてしまった場合は、間違えたフォーミュラとそれ以降のフォーミュラを全て削除して、もう一度正しい順番で追加し直します。

関連項目:

第 7 章、「計算エレメントの定義」、フォーミュラ エレメントの定義、223 ページ

書き込み可能アレイ エレメントの定義

書き込み可能アレイ エレメントを定義するには、書き込み可能アレイ コンポーネント (GP_WRITE_ARRAY) を使用します。

このセクションでは、書き込み可能アレイ、書き込み可能アレイの記憶領域に関する注意事項、および書き込み可能アレイのバッチ処理についての概要と、以下の方法について説明します。

- 書き込み可能アレイ名の定義
- 書き込み可能アレイのレコードとフィールドの定義

書き込み可能アレイ エレメントについて

書き込み可能アレイ エレメントを使って、独自の結果テーブルにデータを書き込むことができます。まず PeopleSoft アプリケーション デザイナを使って結果テーブルを作成します。その後、このセクションで説明する書き込み可能アレイ ページを使って、バッチ処理でそのテーブルに値をロードするエレメントを定義します。書き込み可能アレイは、多くの点で標準のアレイとは反対の性質を持っています。書き込み可能アレイでは、テーブルの行の値をユーザー定義の変数に読み込むのではなく、ユーザー定義のエレメントの値をテーブルの行に書き込みます。

書き込み可能アレイを使用すると、レポートをニーズに合わせて構成できます。テーブルの各行をレポート上の情報行として使用することができます。また、複数のテーブルを組み合わせて 1 つのレポートを作成することもできます。たとえば、あるテーブルをレポートのヘッダー、別のテーブルをレポートの内容、さらに別のテーブルをレポートのフッターとして使用することができます。

書き込み可能アレイで複数行にわたる情報を 1 行にまとめることによって、貴重な記憶領域を節約することもできます。

書き込み可能アレイを定義するには、次の手順に従います。

1. PeopleSoft アプリケーション デザイナを使って、書き込み可能アレイ エレメントでデータをロードするテーブルを作成します。

テーブルの最初の 7 つのフィールドは、通常の結果テーブルのキー フィールドと同じにする必要があります。また、INSTANCE や SLICE_BGN_DT などの任意の結果テーブルのキーを使用したり、DEPTID などの通常の結果テーブルではキーとして使用されないフィールドをキーにすることもできます。

7 つのフィールドは、以下のとおりです。

- EMPLID
- CAL_RUN_ID
- EMPL_RCD
- GP_PAYGROUP
- CAL_ID
- ORIG_CAL_RUN_ID
- RSLT_SEG_NUM

2. 書込可能アレイ名ページで、書き込み可能アレイの名称に関する情報を定義します。

3. "定義とフィールド" ページで、書き込み可能アレイでデータをロードするテーブルを指定し、ロードするデータを持つエレメントと、そのエレメントのデータがロードされるテーブルのフィールド (列) をマッピングします。

注意: 書き込み可能アレイを使って結果テーブルを作成するときは、標準の結果テーブル全てで共有されるセグメント ステータスの基本キーをテーブルに含める必要があります。また、さらにキーを追加することもできます。

書き込み可能アレイ エレメントの記憶領域に関する注意事項について

ユーザー定義の結果テーブルを使用すると記憶領域の節約になりますが、通常の結果テーブルとデータが重複している場合、その重複分のスペースが余分に必要となります。以下に挙げる種類の結果については、書き込み可能アレイを使ってデータをまとめたり、一時保存しておくことをお勧めします。

- 検証処理で必要となる、規定外の個人データ

これらの情報は、通常の結果テーブルではなく 1 つの行にまとめて保存して、検証処理で必要になるときまで保持しておきます。

- 期間のサマリ データ

年間累計レポートで期間ごとのデータ サマリが必要な場合、期間ごとのサマリ データを必要な時期までさかのぼって保存することができます。

- レポートで使用される一時データ

レポートの作成時に、標準の結果テーブルで検出されたデータをコピーして、別の形式で出力することができます。その後レポート期間が終了したら、その複製のデータを削除できます。

一時データはデータによって削除する時期が異なるため、結果テーブルのデータ管理はシステムが実行せずにユーザーが行うように設定されています。

書き込み可能アレイ エレメントのバッチ処理について

通常、書き込み可能アレイ エレメントを呼び出すごとに、データ行が 1 行作成されます。複数行を出力するには、サブプロセス セクションでループ処理を行い、アレイを使用して書き込み可能アレイを複数回呼び出します。ポインタや変数を使って、書き込み可能アレイの 1 つのフィールドに異なるエレメントの値を入れることができます。しかし、文字列型のエレメントと数値型のエレメントを同じフィールドにマッピングすることはできません。

書き込み可能アレイ エレメントの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
書込可能アレイ名	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[書込可能アレイ]、[書込可能アレイ名]	エレメント名を付け、基本パラメータを定義します。
定義とフィールド	GP_WRITABLE_ARRAY	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[書込可能アレイ]、[定義とフィールド]	書き込み可能アレイ プロセスによりデータを挿入するテーブルを指定します。テーブルの各列 (フィールド名) にデータをロードするエレメントも指定します。

書き込み可能アレイ名の定義

"書込可能アレイ名" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[書込可能アレイ]、[アレイ名]) にアクセスします。

書き込み可能アレイの変換が正常に終了すると、エレメント自体の値が 1 に設定されます。ほとんどの場合、この値は保存しておく必要がないため、エレメント名共通ページの [保存] チェック ボックスと [ゼロのとき保存] チェック ボックスはデフォルトでオフになっています。必要であれば、これらのチェック ボックスはオンにすることができます。

さらに、書き込み可能アレイは有効日で管理されていないので、書込可能アレイ名ページには [定義の指定日] フィールドがありません。エレメントの定義を変更する必要がある場合は、変更する代わりに新しい書き込み可能アレイを作成し、その書き込み可能アレイを参照する有効日付きのエレメントを新規に作成します。データベース テーブルやビューの名称を変更する場合も、新しい書き込み可能アレイを作成します。

注意: GP_PIN というオブジェクト名のエレメント名共通ページで、エレメント名やその基本パラメータを全て定義します。エレメント名共通ページのページ タイトルや内容は、定義するグローバル ペイロール エレメントのタイプによって変わります。このページに表示されるフィールドについては全て、この PeopleBook のほかの章で説明されています。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

書き込み可能アレイのレコードとフィールドの定義

"定義とフィールド" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[書き込み可能アレイ]、[定義とフィールド]) にアクセスします。

書込可能アレイ名

定義とフィールド

エレメント名:

BEL WA EMPL TOT

Personal Information Report

所有者:

PS 管理

レコード (テーブル) 名:

GPNL_PERS_WA

Personal Information WA

バッチ挿入フラグ

☐ 直ちに挿入

書込可能アレイ フィールド

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-5/22 最後

フィールド名	入力タイプ	エレメント名	名称
COMPANY	システム エレメント - 文字列	COMPANY	会社コード
EMPLR_TAX_NUM_NLD	変数 - 数値	BEL VR LB NUM	Tax Id
GPNL_COLUMN_10	累計	BEL AC COL10 STHB	Model Loonstaat Column 10
GPNL_COLUMN_11	累計	BEL AC COL11 STHB	Model Loonstaat Column 11
GPNL_COLUMN_13	累計	BEL AC COL13 STHB	Model Loonstaat Column 13

バージョン:

P_9.00.00.689726

"定義とフィールド" ページ

注意: 書き込み可能アレイを保存するには、レコード名と最低 1 つのフィールド名を指定する必要があります。

レコード (テーブル) 名	<p>書き込み可能アレイでデータをロードするテーブル名を入力します。選択できるテーブルは、書き込み可能アレイの 7 つの必須キーフィールドを含むテーブルだけです。</p> <p>テーブル名にはプレフィックスの PS_ が自動的に付加されます。その名前が、SQL ステートメントの INSERT 句で使用されます。</p>
直ちに行挿入	<p>定義した書き込み可能アレイを使用して、同じプロセス内で標準のアレイが直ちに使用できるようにデータを生成する場合は、オンにします。こうすることにより、標準のアレイ エレメントが処理される際に、データが確実にデータベースに存在するようになります。</p> <p>このチェック ボックスがオフの場合、書き込み可能アレイによってロードされたデータは即座にはデータベース テーブルに書き込まれません。データは、これより後のタイミングで一括挿入プロセスによって挿入されます。</p> <hr/> <p>注意: 全てのリレーショナル データベース管理システム (RDBMS) に一括挿入機能が備わっているわけではありません。一括挿入機能のない RDBMS の場合、データ行は常に 1 行ずつ挿入されます。</p> <hr/>
フィールド名	<p>データがロードされる書き込み可能アレイのフィールド名を入力します。検索結果画面には、[レコード (テーブル) 名] フィールドで選択したテーブルに含まれるフィールドが一覧表示されます。</p> <p>フィールド名の追加順序は重要ではありません。</p>
入カタイプ	<p>フィールドに値をロードするエレメントのタイプを選択します。</p>
エレメント名	<p>書き込み可能アレイのキー フィールドにロードする値が入っているエレメントを選択します。</p> <hr/> <p>注意: 処理中は、選択したエレメントの現在の値がアレイに使用されます。エレメントを書き込み可能アレイ フィールドに関連付けるだけでは、エレメントは変換されません。</p> <hr/>

ブラケット エレメントの定義

ブラケット エレメントを定義するには、ブラケット コンポーネント (GP_BRACKET) を使用します。

このセクションでは、ブラケット、補間法、およびブラケットのバッチ処理についての概要と、以下の方法について説明します。

- ブラケットの検索ルールを定義します。
- 検索キーと戻り列の定義
- 検索値を入力します。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

ブラケット エレメントについて

ブラケットを使用すると、簡単な検索テーブルを作成することができます。ブラケットでは、定義されたテーブルに基づいてデータが検索され、検索データに対応する値が割り当てられます。ブラケットは、**バンド テーブル**または**検索テーブル**と呼ばれることもあります。

ブラケットでは複数の検索値 (検索列) を使用できます。ブラケットの処理では、検索値を使って 1 つあるいは複数の列を結果として返します。この結果は、フォーミュラなどのほかのエレメントで使用できます。

ブラケットを定義する前に、ブラケットの定義で使用するのに必要なエレメントを作成します。たとえば、勤務年数に応じて賞与額を求めるブラケットを作成するには、勤務年数を返すデューレーション エレメントを前もって作成します。

ブラケットを定義するには、次の手順に従います。

1. ブラケットの名称情報を、ブラケット名ページで定義します。
2. ブラケットの検索ルールを、検索ルール ページで定義します。
3. 検索テーブルに使用する検索キーの値および戻り列の値を、"検索キー/戻り列" ページで選択します。
4. 検索値を、データ ページで入力します。

補間法について

検索キーの値がデータ ページで定義されたブラケットの検索値に完全に一致しない場合に、ブラケットの返す値をどのように計算するかを補間法で定義します。

検索ルール ページで、以下の 4 つの補間法の中から 1 つを選択します。

- 線形:

数式を使って、指定された検索キーの次に高い値と次に低い値の間で比例配分した値を算出します。この方法は、1 つまたは 2 つの数値型の検索キーおよび数値型の戻り列を持つブラケットにのみ有効です。

- 最も近い値を使用:

最も近いキーの値を持つ行の戻り列の値を使用します。この方法は、数値型または日付型のキーを持つブラケットにのみ有効です。

- 次の高い値を使用:

次に高いキーの値を持つ行の戻り列の値を使用します。この方法は、全てのブラケットに有効です。

- 次の低い値を使用:

次に低いキーの値を持つ行の戻り列の値を使用します。この方法は、全てのブラケットに有効です。

たとえば、ブラケットを作成して勤続年数に応じた賞与を計算するとします。次の表は、検索キーと戻り列の一覧です。

検索キー (勤続年数)	戻り列 (賞与金額)
5	30%
10	60%

勤続年数が 7 年の場合、指定された補間法によって返される値が変わります。次の表は、補間法ごとの戻り値のリストです。

補間法	戻り値	説明
線形	42%	計算式によって、値は 42 パーセントと計算されます。
最も近い値を使用	30%	7 年の場合、10 年より 5 年の方が近いので、5 年の行の戻り列の値が使用されます。

補間法	戻り値	説明
次の高い値を使用	60%	次に高いキーの値の 10 年が選択され、その行の戻り列の値が返されます。
次の低い値を使用	30%	次に低いキーの値の 5 年が選択され、その行の戻り列の値が返されます。

最低/最高値オプションの使用

線形補間法では、次に値の低い行と次に値の高い行を検索して、戻り値の計算が行われます。次に値の低い行または高い行がない場合、検索ルール ページの [最低/最高値オプションの使用] チェック ボックスを使用して、最低値または最高値を使用するかどうかを指定できます。

たとえば、次のような検索キーと戻り列のブラケットを定義するとします。

検索キー (部門 ID、勤続年数)	戻り列 (賞与パーセント)
ABC、1	10
ABC、3	12
ABC、5	15
DEF、1	11
DEF、3	13
DEF、5	15

部門 ID が ABC で従業員の勤続年数が 6 年の場合、部門 ID ABC の次に値の低い行は勤続年数 5 年です。しかし、次に値の高い行はありません。[最低/最高値オプションの使用] チェック ボックスがオンの場合、最も値の高い、部門 ABC の勤続年数 5 年の戻り列の値が使用されます。

端数処理ルール

線形補間法を使用する場合、端数処理ルールを使って戻り値の端数処理タイプを指定できます。

たとえば、四半期に働いた時間数（四半期労働時間）に基づいて賞与金額と賞与レートが決定され、受給者の時間数がデータ ページで定義された値に一致しない場合は、線形補間法を使用して賞与額または賞与レートを決定する必要があるとします。その際、戻り列の値の小数点以下を丸めるとします。

ブラケットには、次の表のようなデータが登録されているとします。

検索キー - 四半期労働時間の累計	戻り列 - ブラケット - 賞与金額
200	2000
300	2500
500	3000

ある受給者の四半期間の労働時間が 303.5 時間だとします。線形補間法を使用すると、通常は以下のとおり値が返されます。

$$(303.5 - 300) / (500 - 300) = 3.5/200 = 0.017500$$

計算式は以下のとおりです。

$$2500 + (0.017500 * (3000-2500)) = 2500 + (0.017500 * 500) = 2500 + 8.75 = 2508.75$$

端数処理ルール エLEMENTが適用されると、小数点以下が丸められ、ブラケットからの戻り列の値は 2508.75 ではなく 2509 になります。

ブラケット エLEMENTのバッチ処理について

ブラケットの処理では、キー値に基づいて行が検索され、ブラケットの値が戻されます。

ブラケット エLEMENTは常に、最初に戻される列の値に変換されます。ブラケットは、処理中に検出された時点で変換されます。ブラケットの戻り列に指定されているELEMENTが処理中に検出されても、そのELEMENTがこのブラケットに関連付けられているかどうか分からないので、ブラケットは自動的に変換されません。

ブラケットおよび全ての戻り列は処理中に検出されると、使用されているスライス終了日またはセグメント終了日時点のデータが以下の条件に従ってロードされます。

- ブラケットを使用しているELEMENTがスライスされる場合、そのブラケットおよび全ての戻り列のELEMENTもまたスライスされます。

- ブラケットがプロセス リストで検出された場合、現在処理中のセグメントに対して変換されません。
- 分割の際にブラケットの戻り列を再変換する必要がある場合、そのブラケットは計算の中で使用されるか、イベント リストに含まれている必要があります。

ブラケットでの補間法の使い方

以下の点を考慮する必要があります。

- [補間法]: [次の高い値を使用]、[次の低い値を使用]、または [線形] を選択した場合、対応する [最低/最高値オプションの使用] チェック ボックスの値を設定します。
- [テーブルの範囲外]: 最初のキーが一致しない場合にのみ適用されます。
- [エラー処理オプション]: 適切な補間法および検索を使用しても一致するデータがない場合に適用されます。

指定可能なオプションは 2 つあります。[エラー作成] を選択すると、ブラケットおよび戻り列の変換は全く行われず、支給はエラーになります。[処理続行] を選択すると、ブラケットおよびその他の戻り列の値は 0 または空白 (フィールドのフォーマットによって異なります) に変換されます。

次の表は、バッチ処理における各補間法の使用方法を一覧にしたものです。

補間法	バッチ処理
最も近い値を使用	<p>一致しないキーが数値でない場合、エラー処理オプションに進みます。</p> <p>一致しないキーが数値の場合、次に低い値および次に高い値があるかどうか判断されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次に低い値だけがある場合は、その行が使用されます。 • 次に高い値だけがある場合は、その行が使用されます。 • 次に低い値と次に高い値の両方がある場合は、どちらの値がより近いかが判断され、近い方の行が戻されます。両方の値のちょうど中間に位置する場合は、高い方の行が戻されます。

補間法	バッチ処理
次の低い値を使用	<p data-bbox="875 249 1446 279">次に値の低い行があるかどうか判断されます。</p> <ul data-bbox="875 308 1479 814" style="list-style-type: none"><li data-bbox="875 308 1479 380">• 次に値の低い行がある場合は、その行が使用されます。<li data-bbox="875 409 1479 522">• 次に値の低い行がない場合、[最低/最高値オプションの使用] チェック ボックスの設定が参照されます。<li data-bbox="875 552 1479 665">• [最低/最高値オプションの使用] チェック ボックスがオンの場合、キーが一致した行の中から値の一番高い行が使用されます。<li data-bbox="875 695 1479 814">• [最低/最高値オプションの使用] チェック ボックスがオフの場合、エラー処理オプションに進みます。
次の高い値を使用	<p data-bbox="875 900 1446 930">次に値の高い行があるかどうか判断されます。</p> <ul data-bbox="875 959 1479 1465" style="list-style-type: none"><li data-bbox="875 959 1479 1031">• 次に値の高い行がある場合は、その行が使用されます。<li data-bbox="875 1060 1479 1173">• 次に値の高い行がない場合、[最低/最高値オプションの使用] チェック ボックスの設定が参照されます。<li data-bbox="875 1203 1479 1316">• [最低/最高値オプションの使用] チェック ボックスがオンの場合、キーが一致した行の中から値の一番高い行が使用されます。<li data-bbox="875 1346 1479 1465">• [最低/最高値オプションの使用] チェック ボックスがオフの場合、エラー処理オプションに進みます。

補間法	バッチ処理
線形	<p>一致しないキーが数値でない場合、エラー処理オプションに進みます。</p> <p>一致しないキーが数値の場合、次に低い値および次に高い値があるかどうか判断されます。</p> <ul style="list-style-type: none">• どちらか一方しか存在しない場合、[最低/最高値オプションの使用] チェック ボックスの設定が参照されます。• [最低/最高値オプションの使用] チェック ボックスがオンの場合、最低/最高値に該当する行が使用されます。線形補間法は使われません。• [最低/最高値オプションの使用] チェック ボックスがオフの場合、エラー処理オプションに進みます。 <p>次に低い値と次に高い値の両方がある場合、以下の処理が行われます。</p> <ul style="list-style-type: none">• キーに対して、以下が行われます。<ul style="list-style-type: none">• 次に値の低い行と次に値の高い行の値の差が調べられます。これを、キー差 1 とします。• 指定した値と次に値の低い行の値の差が調べられます。これを、キー差 2 とします。• キー差 2 をキー差 1 で割り、比率を算出します。これを、キー比率とします。• 戻り列に対して、以下が行われます。<ul style="list-style-type: none">• 次に値の低い行と次に値の高い行の値の差が調べられます。これを、戻り列差 1 とします。• キー比率を戻り列差 1 に適用します。これを、戻り列差 2 とします。• 戻り列差 2 を、次に値の低い行の戻り列の値に足します。この値が、戻り列に返されます。

ブラケット エレメントのバッチ処理についての補足

検索キーは、ブラケットの定義で入力された順に評価されます。キーの順序で、値は昇順にソートされます。

どの補間法でも、全てのキーが一致する行があれば、その行が使用されます。また、どの補間法でも、最初のキー、2 番目のキー、という順番にキーが照合されます。

キーが一致しないときの処理

最初のキーが一致しない場合、以下が実行されます。

- 一致しない場合の処理が [テーブルの範囲外] グループ ボックスで指定されているかどうかを確認されます。

最初のキーの値が、データ ページで最初の行に定義された検索キー 1 の値より低い場合は、以下が実行されます。

- [下回る場合は最小値を使用] チェック ボックスがオンの場合、最初の行が使用されます。
- [下回る場合は最小値を使用] チェック ボックスがオフの場合、エラー処理オプションに進みます。
- 最初のキーの値が、データ ページで最後の行に定義された検索キー 1 の値より高い場合は、以下が実行されます。
 - [上回る場合は最大値を使用] チェック ボックスがオンの場合、最終行が使用されます。
 - [上回る場合は最大値を使用] チェック ボックスがオフの場合、エラー処理オプションに進みます。
- 一致しない場合の処理が [テーブルの範囲外] グループ ボックスで指定されていない、かつ、補間法も選択されていない場合は、エラー処理オプションに進みます。
- 補間法が指定されていても、最初のキーのフィールド フォーマットが数値でない場合は、エラー処理オプションに進みます。
- 補間法が指定されていて、フィールド フォーマットが数値の場合は、指定された補間法に基づき適切なロジックが使用されます。それぞれの補間法の詳細については、上の表を参照してください。
- 次のキーで値が一致せず、補間法が指定されていない場合は、エラー処理オプションに進みます。

- 次のキーで値が一致せず、補間法が指定されている場合は、そこまでの全てのキーが一致した行だけが選択の対象となります。

補間方法に従って、適切なロジックが実行されます。それぞれの補間法の詳細については、上の表を参照してください。

ブラケット エレメントの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
ブラケット名	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[ブラケット]、[ブラケット名]	エレメント名を付け、基本パラメータを定義します。
検索ルール	GP_BRACKET1	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[ブラケット]、[検索ルール]	ブラケットの検索ルールを定義します。
検索キー/戻り列	GP_BRACKET2	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[ブラケット]、[検索キー/戻り列]	ブラケットの検索キーおよび戻り列を指定します。
ブラケット - データ	GP_BRACKET3	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[ブラケット]、[データ]	検索値を入力します。 "ブラケット" の "検索キー/戻り列" ページで選択した検索キーおよび戻り列の値が表示されます。

ブラケット エレメント名の定義

"ブラケット名" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[ブラケット]、[ブラケット名]) にアクセスします。

注意: GP_PIN というオブジェクト名のエレメント名共通ページで、エレメント名やその基本パラメータを全て定義します。エレメント名共通ページのページ タイトルや内容は、定義するグローバル ペイロール エレメントのタイプによって変わります。このページに表示されるフィールドについては全て、この PeopleBook のほかの章で説明されています。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

ブラケット エレメントの検索ルールの定義

"検索ルール" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[ブラケット]、[検索ルール]) にアクセスします。

ブラケット名 検索ルール 検索キー/戻り列 データ

エレメント名: K0BRSENIORITY Seniority 所有者: PS 非管理

定義 検索 | 全件表示 最初 1/1 最後

*有効日: 1990/01/01 *ステータス: アクティブ

検索ルール

エラー処理オプション

☐ エラー作成

☒ 処理続行

補間法: 次の低い値を使用

端数処理ルール エレメント:

テーブルの範囲外

☒ 下回る場合は最小値を使用

☒ 上回る場合は最大値を使用

☒ 最低/最高値オプションの使用

バージョン: P_8.30.00.00.P553K

検索ルール ページ

エラー処理オプション

以下の値から選択します。

[エラー作成]: 処理を停止してエラーを作成します。

[処理続行]: 値を返さずに処理を続けます。

テーブルの範囲外

キーの値がテーブルに定義されている値より大きい、または小さい場合の対処法を定義します。

[下回る場合は最小値を使用]: オンにすると、キーの値がテーブルに定義されている値を下回る場合、テーブルのデータの最小値が使用されます。

[上回る場合は最大値を使用]: オンにすると、キー値がテーブルに定義されている値を上回る場合、テーブルのデータの最大値が使用されます。

補間法

たとえばキーの値が 2 つの行の間になるなど、キーが完全に一致しなかった場合にどのような戻り値を返すかを補間法で指定します。どの補間法も、最初に一致しなかった検索キーに対してのみ、使用されます。以下の値から選択します。

[線形]: 数式を使って、指定された検索キーの次に高い値と次に低い値の間で比例配分した値を算出します。この方法は、1 つまたは 2 つの数値型の検索キーおよび数値型の戻り列を持つブラケットにのみ有効です。

[最も近い値を使用]: 最も近いキーの値を持つ行の戻り列の値を使用します。この方法は、数値型または日付型のキーを持つブラケットにのみ有効です。

[次の高い値を使用]: 次に高いキーの値を持つ行の戻り列の値を使用します。この方法は、全てのブラケットに有効です。

[次の低い値を使用]: 次に低いキーの値を持つ行の戻り列の値を使用します。この方法は、全てのブラケットに有効です。

参照: 第 6 章、「データ取得エレメントの定義」、補間法について、149 ページ。

最低/最高値オプションの使用

線形補間法を使用する場合、全ての検索キーが再度照合されます。続いて、検索キーの値の中から、次に値の低い行および次に値の高い行が検索されます。検索キーの値の中に次に低い行または高い行がない場合、[最低/最高値オプションの使用] チェック ボックスを使用して、最低値または最高値を使用するかどうかを指定できます。

参照: 第 6 章、「データ取得エレメントの定義」、補間法について、149 ページ。

端数処理ルール エレメント

線形補間法を使用する場合、端数処理ルールを使って戻り値の端数処理タイプを指定できます。線形補間法では、次に値の低いキーの戻り値と次に値の高いキーの戻り値の比率を計算し、その比率を基に算出した比例配分値を、次に値の低いキーの戻り値に追加して返すため、この端数処理は、フィールド フォーマットが数値 (数字または金額) の戻り列の全てに対して適用されます。返される結果には、小数が含まれる場合があります。

参照: 第 6 章、「データ取得エレメントの定義」、補間法について、149 ページ。

ブラケットの検索キーと戻り列の定義

"検索キー/戻り列" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[ブラケット]、[検索キー/戻り列]) にアクセスします。

ブレット名

検索ルール

検索キー/戻り列

データ

エレメント名:

KOBRSENIORITY

Seniority

所有者:

PS 非管理

定義

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

有効日:

1990/01/01

ステータス:

アクティブ

検索列

*検索キー 1 のタイプ:

デューション

*エレメント名 - キー 1:

KODRAY

検索キー 2 のタイプ:

エレメント名 - キー 2:

検索キー 3 のタイプ:

エレメント名 - キー 3:

検索キー 4 のタイプ:

エレメント名 - キー 4:

検索キー 5 のタイプ:

エレメント名 - キー 5:

戻り列

戻り値入力タイプ* 1:

ブレット

エレメント名 - 値 1:

KOBRSENIORITY

戻り値入力タイプ* 2:

エレメント名 - 値 2:

戻り値入力タイプ* 3:

エレメント名 - 値 3:

戻り値入力タイプ* 4:

エレメント名 - 値 4:

戻り値入力タイプ* 5:

エレメント名 - 値 5:

戻り値入力タイプ* 6:

エレメント名 - 値 6:

戻り値入力タイプ* 7:

エレメント名 - 値 7:

戻り値入力タイプ* 8:

エレメント名 - 値 8:

"検索キー/戻り列" ページ

検索列

[検索列] グループ ボックスには、ブレット データの検索に使用するキーを指定します。キーごとに、入力する検索キーのタイプ (エレメント タイプ) を選択します。次に、対応する [エレメント名] を選択します。最大 5 つの検索キーを入力できます。

戻り列

[戻り列] グループ ボックスには、戻される検索結果を格納する列を指定します。列ごとに、入力する戻り値入力タイプ (エレメント タイプ) を選択します。次に、対応する [エレメント名] を選択します。ブレット自体は最初の戻り列です。戻り列は 8 つまで入力できます。

ブラケットの検索値の入力

"ブラケット" - データ ページ ([HRMS・基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル・ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート・エレメント]、[ブラケット]、"ブラケット" - データ) にアクセスします。

The screenshot shows the 'Bracket' data page. At the top, there are tabs for 'Bracket Name', 'Search Rule', 'Search Key/Return List', and 'Data'. The 'Data' tab is selected. Below the tabs, there is a header section with 'Element Name: K0BRSENIORITY', 'Seniority', and 'Owner: PS 非管理'. The main content area is titled 'Bracket Search Key and Return List' and includes a 'Status: Active' field. Below this, there is a table with columns for 'Search Key' and 'Return Value'. The table contains three rows of data: the first row has '3.000000' and '6.000000', the second row has '6.000000' and '9.000000', and the third row has '9.000000' and an empty field. The table is titled 'Bracket Search Key and Return List' and includes a 'Status' field set to 'Active'.

"ブラケット" - データ ページ

[ブラケットの検索キーと戻り列値] グリッドの [検索キー]

検索キーの値を入力します。

[ブラケットの検索キーと戻り列値] グリッドの [戻り列 1 ～ 4]、[戻り列 5 ～ 8]

"検索キー/戻り列" ページの入力に基づいて、検索キーの値ごとに返される値を入力します。複数の戻り列値を入力することができます。

給与レート コード エレメントの定義

給与レート コード エレメントを定義するには、給与レート コード コンポーネント (GP_RATE_CODE) を使用します。

このセクションでは、給与レート コードのマッピング、支給における給与レート コードの使用、および給与レート コードのバッチ処理についての概要と、以下の方法について説明します。

- 給与レート コード エレメント名の定義

- 給与レート コード エLEMENTの作成

給与レート コードのマッピングについて

給与レート コード エLEMENTを使用して、固定的賃金コンポーネントや固定的賃金外の給与コンポーネントなど、ヒューマン リソース管理で定義された複数の給与コンポーネントの値を取得することができます。

ヒューマン リソース管理で設定された給与レート コードをグローバル ペイロールに取り込むには、それらの給与レート コードに対応する給与レート コード エLEMENTをグローバル ペイロールで定義し、該当するヒューマン リソース管理の給与レート コードとマッピングする必要があります。ヒューマン リソース管理の給与レート コードは、グローバル ペイロールの給与レート コード エLEMENTと 1 対 1 で関連付けることができます。

注意: グローバル ペイロールでは、レート マトリックスをマッピングすることはできません。グローバル ペイロールでマッピングできるのは、単純な給与レート コードのみです。

給与レート コード エLEMENTを定義し、ヒューマン リソース管理の給与レート コードにマッピングするには、以下の 2 つの方法があります。

1. ヒューマン リソース管理で給与レート コードを作成してからグローバル ペイロールを導入する場合、給与レート コード コンポーネントを使って給与レート コード エLEMENTを作成し、対応するヒューマン リソース管理の給与レート コードにマッピングします。

ヒューマン リソース管理の給与レート コードにマッピングすることにより、ELEMENTにヒューマン リソース管理の給与レート コードの値が割り当てられます。

2. グローバル ペイロールを導入してからヒューマン リソース管理で給与レート コードを作成する場合、給与レート コード エLEMENTが作成されるかどうかは、給与レート コード作成者のユーザー ID の行がユーザー ルール プロファイル ページにあるかどうかで決まります。

- a. ユーザー ルール プロファイル ページに、ヒューマン リソース管理で給与レート コードを作成するユーザーのユーザー ID の行がある場合、対応する給与レート コード エLEMENTが自動的に休暇管理に作成されます。この給与レート コードでは、給与レート コード名 ページに、給与レート コードを作成するユーザーのユーザー ID に対して定義されたものと同じ [使用先] および [国] フィールドの値が表示されます。異なる給与レート コードが必要な場合は、使用先に [全ての国] が定義されているユーザー ID のユーザーが、[使用先] および [国] フィールドを変更して給与レート コードを修正します。
- b. ユーザー ルール プロファイル ページに、ヒューマン リソース管理で給与レート コードを作成するユーザーのユーザー ID の行がない場合、給与レート コード エLEMENTはグローバル ペイロールに作成されません。上記の 1 と同様に処理されます。ユーザー ルール プロファイル ページに適切なユーザー ID 設定があるユーザーが、グローバル ペイロールの給与レート コード コンポーネントを使用して給与レート コード エLEMENTを作成する必要があります。

参照: 第 38 章、「セキュリティの定義」、ユーザー アクセスの制限、1509 ページ。

給与レート コード エLEMENTは、グローバル ペイロールの給与レート コード コンポーネントで確認できます。また、このコンポーネントでELEMENTをほかの給与レート コードにマッピングすることもできます。

次の表は、給与レート コード コンポーネントのページに表示される値の一覧です。

フィールド	値
ELEMENT名	ヒューマン リソース管理での給与レート コード名
ELEMENT タイプ	給与レート コード (RC)
名称	ヒューマン リソース管理での給与レート コードの名称
フィールド フォーマット	10 進数
定義の指定日	カレンダー期間終了日

フィールド	値
常時再計算	オフ
所有者	ユーザー管理
クラス	クラス指定なし
使用先	ヒューマン リソース管理で給与レート コードを作成するユーザーに対して、ユーザー ルール プロファイル ページで定義されている [使用先] フィールドの値と同じ
国	ヒューマン リソース管理で給与レート コードを作成するユーザーに対して、ユーザー ルール プロファイル ページで定義されている [国] フィールドの値と同じ
産業/地域	空欄
カテゴリ	空欄
上書きレベル	全てのオプションをオフ
保存	オン
ゼロのとき保存	オン
カスタム フィールド	空欄
コメント	空欄

支給エレメントの定義における給与レート コード エレメントの使い方について

給与レート コード エレメントは、ヒューマン リソース管理で定義された給与レート コードの値を返します。給与レート コードを受給者の支給額の計算で使用するには、支給エレメント定義でその給与レート コードを、支給額の計算ルールの一部として直接使用するか、支給額の計算ルールで使用するフォーミュラやほかのエレメントで使用する必要があります。

例

ある受給者の支給月額が 3 つのコンポーネント (基本給、能力給、基本給と能力給の月額合計の 10% の賞与) から構成されていて、以下の給与レート コードがヒューマン リソース管理で定義されているとします。

BASE = 1000 (基本給月額)

MERIT = 100 (能力給月額)

BONUS = 10 パーセント (賞与月額)

グローバル ペイロールでこれらの給与レート情報をヒューマン リソース管理から取得して計算に使用するには、対応する給与レート コード エレメントをグローバル ペイロールで作成し、ヒューマン リソース管理の給与レート コードにマッピングする必要があります。次の表はマッピング内容を一覧にしたものです。

ヒューマン リソース管理の給与レート コード	対応するグローバル ペイロールの給与レート コード エレメント
BASE	BASE
MERIT	MERIT
BONUS	BONUS

グローバル ペイロールには、賞与月額を計算できるように、給与計算ごとに基本給と能力給の合計を管理する累計 (SALARY TOTAL) が既に定義されています。ヒューマン リソース管理で定義された給与レート コードを使って、受給者の支給月額を計算します。この場合、グローバル ペイロールで 3 つの支給エレメントを作成する必要があります。

- E1 は、基本給を表します。

E1 の計算ルールには [金額] を選択し、基本給与額を取得するエレメントとして、給与レートコード エレメントの BASE を指定します。

- E2 は、能力給を表します。

E2 の計算ルールには [金額] を選択し、能力給与額を取得するエレメントとして、給与レートコード エレメントの MERIT を指定します。

- E3 は、賞与を表します。

E3 の計算ルールには [ベース*パーセント] を選択し、ベース コンポーネントとして累計エレメント SALARY TOTAL を、パーセント コンポーネントとして給与レートコード エレメント BONUS を指定します。

注意: グローバル ペイロールにヒューマン リソース管理の給与レートコードの情報を取り込むには、支給エレメントおよび控除エレメントの定義に給与レートコード エレメントを含める必要があります。

通常、給与レートコード エレメントは、支給エレメントを定義するときに計算ページで使用されます。次の表は、支給計算ルールのコンポーネントとして給与レートコード エレメントを使用する方法を一覧にしたものです。

レートコードタイプ	支給計算ルール	コンポーネント情報
固定額	金額	金額 = 給与レートコード エレメント
パーセント	ベース×パーセント	ベース = 該当する値 (通常は累計) パーセント = 給与レートコード エレメント
点数	ユニット×レート	レート = 該当する値 (通常は、会社テーブルから適切な給与点数を取得し、必要に応じて FTE を適用するアレイを呼び出すフォーミュラ) ユニット = 給与レートコード エレメント

レートコードタイプ	支給計算ルール	コンポーネント情報
時間	ユニット×レート	レート = 給与レートコードエレメント ユニット = 該当する値 (ポジティブ入力など)
時間給 + 固定額	ユニット×レート	レート = フォーミュラ (固定額の給与レートコードエレメントを取得し、計算済みの時間給与に加算するフォーミュラ) ユニット = 該当する値 (ポジティブ入力など)

注意: 支給エレメントのコンポーネントとして固定的賃金外の給与レートコードを使用する場合、"エレメントグループ" のエレメントグループメンバーページで、その支給エレメントの [資格の割当] を **【受給者】** に設定することをお勧めします。こうしておくと、処理の際、その支給期間において固定的賃金外の支給を持つ受給者に対してのみ固定的賃金外の処理が行われます。

警告: 支給エレメントの給与レートコードエレメントなど、給与レートコードエレメントを変換する順序は非常に重要です。

関連項目:

第 15 章、「エレメント処理の定義」、プロセスリストのエレメントとセクションの順序、[562 ページ](#)

給与レートコードエレメントのバッチ処理について

給与計算の処理中に給与レートコードエレメントが検出されると、給与レートコード PIN 変換プログラムが呼び出され、そのエレメントがカレンダー期間終了日に有効であるかどうか、固定的賃金の給与レートコードなのか固定的賃金外の給与レートコードなのかが最初に確認されます。その後、固定的賃金または固定的賃金外のどちらか該当する方の給与レートコードエレメントの定義に従って、給与レートコードが変換されます。

職務行の選択条件

固定的賃金、固定的賃金外どちらの給与レート コード エLEMENTの場合でも、グローバル ペイロールでは RATE AS OF DATE というシステム エLEMENTを使って、その給与レート コードで参照する最新の有効日の職務行を決定します。選択された職務行の従業員 ID、雇用レコード番号、および支給キーは、処理中の支給の値にそれぞれ一致する必要があります。一致しない場合、支給はエラーになります。

- RATE AS OF DATE に値がロードされていない場合、現在のスライスまたはセグメントの終了日を使用して職務行が選択されます。
- RATE AS OF DATE の値がカレンダー期間終了日より後の場合、カレンダー期間終了日を使用して職務行が選択されます。
- RATE AS OF DATE の値が職務行の一番古い有効日より前の場合、給与レート コードはゼロに変換され、その支給はエラーになります。
- その他の場合は全て、RATE AS OF DATE の値が使用されます。

給与レート コードに適用される FTE 係数は、支給キーが一致していて、有効日が RATE AS OF DATE の値またはスライス終了日と同じかそれより前の行の中で、最新の有効日を持つ職務行から取得されます。

通貨換算

ヒューマン リソース管理で定義されている、固定額、時間給、または時間給 + 固定額の給与レート コードの通貨コードが処理通貨と異なる場合、グローバル ペイロールでは処理中に標準通貨換算が実行されます。この場合、受給者の有効日付き為替レート タイプを使用して、通貨換算が行われます。

注意: パーセント給与レート コードまたは点数給与レート コードの場合、戻り値は金額ではないので、通貨換算は必要ありません。

周期換算

グローバル ペイロールでは、固定額または時間給 + 固定額の給与レート コードに対し、ヒューマン リソース管理で指定された周期コードとカレンダー期間の周期が一致しない場合、周期換算も行われます。対応するヒューマン リソース管理の周期係数を使って、給与レート コードが年次化されます。続いて適切な周期係数を用いて、カレンダー期間の周期に非年次化されます。給与レート コードを使用する支給ELEMENTは全て、周期オプションを [カレンダー期間の周期を使用] に設定する必要があります。

注意: パーセント給与レート コードまたは点数給与レート コードの場合、戻り値は金額ではないので、周期換算は必要ありません。

同一給与レート コード エLEMENTの複数インスタンスの変換

PS_COMPENSATION レコードに同一の固定的賃金または固定的賃金外の給与レート コードのインスタンスが複数ある場合、各インスタンスは個別に評価された後に全て合計され、給与レート コード エLEMENTには 1 つの値として戻されます。グローバル ペイロールでは、RATE CODE GROUP と FTE INDICATOR の 2 つのシステム エLEMENTが参照され、以下のルールが適用されます。

- インスタンス間で給与レート コード グループが異なる場合、システム エLEMENT RATE CODE GROUP が最後のインスタンスに従って変換され、その後エラー メッセージが生成されます。
- インスタンス間で FTE インジケータが異なる場合、システム エLEMENT FTE INDICATOR が最後のインスタンスに従って変換され、その後警告メッセージが生成されます。受給者がエラー状態になることはありません。グローバル ペイロールでは、給与レート コード タイプが固定額、または時間給 + 固定額の給与レート コードに対してのみ、FTE INDICATOR が使用されます。

たとえば、固定額の給与レート コードに、FTE が適用されるインスタンスが 1 つある場合、グローバル ペイロールではこのインスタンスに対して FTE_COMPRATE を使用します。2 番目のインスタンスでは FTE が適用されない場合、2 番目のインスタンスに対しては COMPRATE が使用され、その後 2 つのインスタンスが合計されます。

固定的賃金の給与レート コード エLEMENTの変換の順序

ヒューマン リソース管理の固定的賃金の給与レート コードにマッピングされた給与レート コード エLEMENTが検出されると、給与レート コードがELEMENTと一致する PS_COMPENSATION レコードの行が検索されます。その後、次の表のように、給与レート コード タイプに基づく値が返されます。

レート コード タイプ	PS_COMPENSATION の評価対象 フィールド	戻される給与レート コードの値
パーセント	COMP_PCT	パーセント
点数	COMP_RATE_POINTS	点数

レートコードタイプ	PS_COMPENSATION の評価対象 フィールド	戻される給与レートコードの値
固定額	COMPRATE および FTE_INDICATOR	FTE_INDICATOR が Yes の場 合、COMPRATE×FTE 係数 (職 務テーブルに保存)。 FTE_INDICATOR が No の場 合、COMPRATE。
時間	COMPRATE	時間給与

固定的賃金外の給与レートコード エLEMENTの変換の順序

ヒューマン リソース管理の固定的賃金外の給与レートコードにマッピングされた給与レートコード ELEMENTが検出されると、以下の順序で給与レートが検索されます。給与レートが見つかる
と処理は停止します。

- 給与テーブル (PS_COMPENSATION)
- 職務コード テーブル (PS_JOB_CD_COMP_RATE)

セットID フィールドおよび職務コード フィールドが、SETID_JOB_CODE システム エLEMENT
および JOB_CODE システム エLEMENTと一致する行が検索されます。

- HR 給与レート テーブル (PS_COMP_RATE_CD_TBL)

その後、次の表のように、給与レートコードタイプおよび FTE_INDICATOR に基づく値が返さ
れます。

レートコードタイプ	PS_COMPENSATION の評価対象 フィールド	戻される給与レートコードの値
パーセント	COMP_PCT	パーセント
点数	COMP_RATE_POINTS	点数

レート コード タイプ	PS_COMPENSATION の評価対象 フィールド	戻される給与レート コードの値
固定額、または時間給 + 固定額	COMP_RATE FTE_INDICATOR	FTE_INDICATOR が Yes の場合、 $COMP_RATE \times FTE$ 係数 (職務テーブルに保存)。 FTE_INDICATOR が No の場合、COMP_RATE。
時間	COMP_RATE	時間給与

このセクションで使用する共通フィールド

固定的賃金コンポーネント 受給者の固定的賃金となる給与コンポーネントを、固定的賃金コンポーネントと言います。固定的賃金コンポーネントは全て、ヒューマン リソース管理の PS_COMPENSATION レコードに保存されますが、グローバル ペイロールの受給者別エレメント割当ページまたはポジティブ入力ページで上書きできます。固定的賃金コンポーネントでは、時間給 + 固定額の給与レート コード タイプは使えません。

複数給与コンポーネント この機能によって、1 人の受給者に対し、基本給、能力給などの複数の給与レートを使用して支給することができます。コンポーネントは、固定額、時間給、時間給 + 固定額、従業員給与パッケージのパーセント、給与点数などで表示されます。

固定的賃金外の給与コンポーネント 固定的賃金の計算に含まれないコンポーネントを、固定的賃金外の給与コンポーネントと言います。PS_COMPENSATION レコードに保存されることもありますし、保存されないこともあります。給与計算処理の実行時には、変換の順序に従って適切なレートが使用されます。

給与レート コード エレメントの作成に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
給与レート コード名	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[給与レート コード]、[給与レート コード名]	エレメント名を付け、基本パラメータを定義します。
給与レート コード - 定義	GP_RATE_CODE	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[給与レート コード]、[定義]	給与レート コード エレメントを作成し、ヒューマン リソース管理で定義された給与レート コードにマッピングします。また、このページは給与レート コード エレメントの表示およびマッピングの変更にも使用できます。

給与レート コード エレメント名の定義

"給与レート コード - 給与レート コード名" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[給与レート コード]、[給与レート コード名]) にアクセスします。

注意: GP_PIN というオブジェクト名のエレメント名共通ページで、エレメント名やその基本パラメータを全て定義します。エレメント名共通ページのページ タイトルや内容は、定義するグローバル ペイロール エレメントのタイプによって変わります。このページに表示されるフィールドについては全て、この PeopleBook のほかの章で説明されています。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

給与レート コード エLEMENTの作成

"給与レート コード - 定義" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[ELEMENT]、[サポート ELEMENT]、[給与レート コード]、[定義]) にアクセスします。

給与レートコード名

定義

ELEMENT名:

KOGRCH

Global Base RC Hourly

所有者:

PS 非管理

ELEMENT マッピング

*給与レートコード:

KOGRCH

☒ 周期換算

☐ 警告の作成

定義

検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

有効日:

1980/01/01

ステータス:

アクティブ

名称:

Global Base RC Hourly

給与レートコード タイプ:

時間給

給与レートコード クラス:

計算方法:

なし

マトリックス名:

給与レート:

0.000000

給与周期:

H 時間毎

給与比率:

0.000

☒ 固定的賃金

☐ 最高レートを使用

☐ FTE 適用

☐ デフォルト値上書き不可

バージョン:

8.00.00.00

"給与レート コード" - 定義ページ

- 給与レート コード

このELEMENTにマッピングするヒューマン リソース管理の給与レート コードを選択します。給与レートコードを選択すると、ページの下半分に、選択したヒューマン リソース管理の給与レートコードの定義情報が表示されます。この情報は、グローバル ペイロールでは変更できません。
- 周期換算

このチェック ボックスのデフォルトは、オンです。オンの場合、給与レート コードにより返された値に、自動的に周期換算 (年次化/非年次化) が実行されます。

給与レート コードの値に周期換算をせずにそのまま返す場合は、このチェック ボックスをオフにします。

警告の作成

固定的賃金コンポーネントの給与レート コードに対してのみ、このチェック ボックスは使用できます。バッチ処理で受給者の給与レートコードに給与レート コードが見つからない場合に警告メッセージが表示されるように、このチェックボックスは自動的にオンに設定されます。

給与レート コードが検出されなかった場合でも警告メッセージを表示させたくない場合は、このチェック ボックスをオフにします。

関連項目:

第 4 章、「受給者データの使い方」、ヒューマン リソース管理からのデータ取得について、 52 ページ

仮再計算エレメントの定義

仮再計算エレメントを定義するには、仮再計算コンポーネント (GP_FICT_CALC) を使用します。

このセクションでは、仮再計算エレメントおよび仮再計算エレメントのバッチ処理についての概要と、以下の方法について説明します。

- 仮再計算の過去の期間ルールの定義
- 元の値を上書きするエレメントの指定
- 次のセグメントに渡される累計の選択
- 現在の期間エレメントに値を保存するエレメントの指定
- 仮再計算を使ったデータの移動

仮再計算エレメントについて

仮再計算ルールを使用すると、一時計算が実行できます。一時計算では、計算を実行して値を保存せずに返すことができます。

仮再計算とは通常の計算処理で実行される補助的な計算のことで、特定のパラメータを仮に使用した場合の純額を算出できます。この計算結果は、その後の通常の計算処理で使用されます。仮再計算は必ず通常の計算の中で開始され、1 人の受給者、特定の期間のセットに対して実行されます。

仮再計算の中間結果は、通常の計算で使用される結果の一部以外は、必要とされないので無視されます。

注意: 過去の期間の結果は変更されないで、仮再計算は遡及処理ではありません。新しいバージョン、デルタ、および調整値は作成されません。結果も保存されません。また、現在の期間の値の中には、過去の期間の仮再計算で使用され、元の計算で使用されていた値を上書きするものがあります。

仮再計算エレメントのバッチ処理について

バッチ処理の計算フェーズでは、支給の計算に支給ループが使用されます。支給ループ処理で仮再計算が必要になった場合、仮再計算アプリケーションに制御が渡されます。仮再計算アプリケーションでは、次の手順が実行されます。

1. 仮再計算の定義が読み込まれます。
2. 入力および出力のマッピング アレイが作成されます。
3. 過去の期間ルールを変換するために PIN マネージャが呼び出されます。
4. SERVC コピーブックの仮再計算スイッチが設定されます。
5. GPPSERVC プログラムが呼び出され、SERVC が渡されます。
6. 要求された平均/合計処理が行われます。
7. PIN マネージャに値が戻されます。

この時点で、サービス アプリケーションに制御が戻ります。サービス アプリケーションでは、いつ仮再計算が行われるかを把握しています。そのため、いくつかのプロセスについては仮再計算を実行し、遡及、受給者選択、出力テーブルへの書き込みなどのプロセスはバイパスする、という処理が可能です。

仮再計算の特定の結果をオーディット テーブルに書き込む際、デバッグに使用する場合を除いて、中間結果は保存されません。

カレンダーやセグメントは、最初に実行された順序で処理されます。

仮再計算エレメントの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
仮再計算名	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[仮再計算]、[仮再計算名]	エレメント名を付け、基本パラメータを定義します。
仮再計算 - プロセス	GP_FICT_CALC1	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[仮再計算]、[プロセス]	仮再計算を実行する期間の決定に使用される、仮再計算の過去の期間ルールを定義します。元のプロセスを使用すること、別のプロセスを指定して使用することもできます。
入力マッピング	GP_FICT_CALC2	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[仮再計算]、[入力マッピング]	元の値を上書きする現在の期間のエレメントを指定します。指定されたエレメントの元の値は、各仮再計算の期間ごとに上書きされます。
分割マッピング	GP_FICT_CALC3	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[仮再計算]、[分割マッピング]	次のセグメントに渡される累計を選択します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
出力マッピング	GP_FICT_CALC4	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[仮再計算]、[出力マッピング]	現在の期間に戻され、現在の期間エレメントとして保存される、仮再計算の期間エレメント (合計または平均) を指定します。

仮再計算エレメント名の定義

"仮再計算名" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[仮再計算]、[仮再計算名]) にアクセスします。

注意: GP_PIN というオブジェクト名のエレメント名共通ページで、エレメント名やその基本パラメータを全て定義します。エレメント名共通ページのページ タイトルや内容は、定義するグローバル ペイロール エレメントのタイプによって変わります。このページに表示されるフィールドについては全て、この PeopleBook のほかの章で説明されています。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

仮再計算エレメントの過去の期間ルールの定義

"仮再計算 - プロセス" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[仮再計算]、[プロセス]) にアクセスします。

仮再計算名

プロセス

入力マッピング

分割マッピング

出力マッピング

エレメント名:

DE_MT_FICT_CALC

Maternity Fictitious Calc

所有者:

PS 管理

定義

検索 | 全件表示

最初

1/1

最後

有効日:

1998/01/01

ステータス:

アクティブ

過去の期間エレメント決定ルール:

DE_MT_HIST_CALC

プロセス名

☐ 元のプロセス使用

☒ 指定プロセス使用

プロセス名:

DE_MT_PROCLST

バージョン:

P_8.00.00.00

プロセス ページ

過去の期間エレメント決定ルール	仮再計算で再計算する期間を決めるエレメントを選択します。使用可能なエレメントは、仮再計算用に特別に作成された再計算/履歴抽出ルールです。
元のプロセス使用	仮再計算で元のプロセスを使用する場合に選択します。このプロセスでは、仮再計算を 2 度実行することはできません。
指定プロセス使用	仮再計算で元のプロセス以外のプロセスを使用する場合に選択します。仮再計算で使用するプロセスを [プロセス名] フィールドで指定します。
<div>注意: 仮再計算では、受給者レベルでのシステム エレメントの値およびシステム計算エレメントの値には、過去の期間の値が使用されます。</div>	

元の値を上書きするエレメントの指定

"入力マッピング" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇 欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[仮再計算]、[入力マッピング]) にアクセスします。

仮再計算名

プロセス

入力マッピング

分割マッピング

出力マッピング

エレメント名:

DE_MT_FICT_CALC

Maternity Fictitious Calc

所有者:

PS 管理

定義

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

有効日:

1998/01/01

ステータス:

アクティブ

変数リスト

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

現在の期間エレメント	名称	仮再計算の期間エレメント	名称
DE_MT_GROSS_INPUT	Maternity Input Gross	DE_TX_FICT_GROSS	Fictive Gross for Net Calc.

入力マッピング ページ

現在の期間エレメント

過去の期間に値を渡すエレメントを指定します。

仮再計算の期間エレメント

現在の期間エレメントの値で値を上書きする過去の期間エレメントを指定します。

次のセグメントに渡される累計の選択

"分割マッピング" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇 欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[仮再計算]、[分割マッピング]) にアクセスし ます。

仮再計算名

プロセス

入力マッピング

分割マッピング

出力マッピング

エレメント名:

DE_MT_FICT_CALC

Maternity Fictitious Calc

所有者:

PS 管理

定義

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

有効日:

1998/01/01

ステータス:

アクティブ

累計リスト

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

仮再計算の期間エレメント	名称
--------------	----

分割マッピング ページ

仮再計算の期間エレメント

次のセグメントに値を渡すエレメントを指定します。

現在の期間エレメントに値を保存するエレメントの指定

"出力マッピング" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇 欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[仮再計算]、[出力マッピング]) にアクセスし ます。

仮再計算名プロセス入力マッピング分割マッピング出力マッピング

エレメント名:DE_MT_FICT_CALCMaternity Fictitious Calc所有者:PS 管理

定義

有効日:1998/01/01ステータス:アクティブ

変数リスト

仮再計算の期間エレメント	名称	現在の期間エレメント	名称
DE_TX_FICT_RESULT	Net from A Fictive Gross	DE_MT_NET_OUTPUT	Maternity Output Net

出力変数リスト - 期間別詳細

仮再計算の期間	仮再計算の期間エレメント	名称	現在の期間エレメント	名称
1	DE_TX_FICT_RESULT	Net from A Fictive Gross	DE_TX_TEMP1	1st Temp Variable -- Decimal
2	DE_TX_FICT_RESULT	Net from A Fictive Gross	DE_TX_TEMP3	2nd Temp Variable -- Decimal
3	DE_TX_FICT_RESULT	Net from A Fictive Gross	DE_TX_TEMP4	3rd Temp Variable -- Decimal

出力マッピング ページ

- 仮再計算の期間エレメント

現在の期間エレメントに合計値または平均値 (過去の期間ルール の計算タイプによって決定) を渡すエレメントを指定します。
- 現在の期間エレメント

過去の期間の計算結果を格納する現在の期間エレメントを指定し ます。
- 仮再計算の期間

仮再計算の期間の処理順序を番号で指定します。最も小さい番号の 仮再計算の期間が最初に、その後は番号順に処理されます。
- 仮再計算の期間エレメント

現在の期間に値を渡すエレメントを指定します。
- 現在の期間エレメント

過去の期間の計算結果を格納する現在の期間エレメントを指定しま す。

仮再計算を使用したデータの移動

次の表は、現在の期間から仮再計算の期間へ、またはその逆へ移動可能なデータを一覧にしたものです。

移動元エレメント	複数インスタンス	値のステータス	移動先エレメント	上書き前の複数インスタンス	上書きステータス
主要エレメント	なし	期間	主要エレメント	あり、スライス/ポジティブ入力	期間ごとに 1 インスタンス
主要エレメント	あり	合計済	主要エレメント	あり、スライス/ポジティブ入力	期間ごとに 1 インスタンス
主要エレメント	なし	期間	サポート エレメント	あり	期間ごとに 1 インスタンス
主要エレメント	あり	合計済	サポート エレメント	あり	期間ごとに 1 インスタンス
主要エレメント	なし	期間	累計	あり、スライス	期間ごとに 1 インスタンス
主要エレメント	あり	合計済	累計	あり、スライス	期間ごとに 1 インスタンス
サポート エレメント	あり	期間または合計済	サポート エレメント	あり	期間ごとに 1 インスタンス
サポート エレメント	あり	期間または合計済	主要エレメント	あり、スライス/ポジティブ入力	期間ごとに 1 インスタンス
サポート エレメント	あり	期間または合計済	累計	あり、スライス	期間ごとに 1 インスタンス

移動元エレメント	複数インスタンス	値のステータス	移動先エレメント	上書き前の複数インスタンス	上書きステータス
累計	あり、スライス	合計済	累計	あり、スライス	期間ごとに 1 インスタンス
累計	あり、ユーザー キー	期間または合計済 現在のユーザー キー値	累計	あり、ユーザー キー	現在のユーザー キー値に対するものだけが上書きされます。現在のユーザー キーは、PINV に追加されます。
累計	あり、スライス	合計済	サポート エレメント	あり、スライス	期間ごとに 1 インスタンス
累計	あり、スライス	合計済	主要エレメント	あり、スライス	期間ごとに 1 インスタンス
累計	あり、ユーザー キー	期間または合計済 現在のユーザー キー値	サポート エレメント	あり	期間ごとに 1 インスタンス
累計	あり、ユーザー キー	期間または合計済 現在のユーザー キー値	主要エレメント	あり、スライス/ポジティブ入力	期間ごとに 1 インスタンス

再計算/履歴抽出ルール エレメントの定義

再計算/履歴抽出ルール エレメントを定義するには、再計算/履歴抽出ルール コンポーネント (GP_HIST_RULE) を使用します。

このセクションでは、再計算/履歴抽出ルール エレメント、および再計算/履歴抽出ルール エレメントのバッチ処理についての概要と、以下の方法について説明します。

- ルール タイプと処理対象の期間の定義
- 再計算/履歴抽出ルールのフォーミュラを定義します。

再計算/履歴抽出ルール エレメントについて

再計算/履歴抽出ルール エレメントは、過去の期間からデータを取得するルールを設定するのに使用します。再計算/履歴抽出ルールは、フォーミュラおよび仮再計算で使用されます。

再計算/履歴抽出ルールは、"フォーミュラ" のフィールド ベース定義ページで支給エレメントおよび控除エレメントに関連付けることができます。また、支給/控除結果テーブル、累計結果テーブル、その他のエレメントの結果テーブルに保存されているエレメントにも関連付けることができます。また、再計算/履歴抽出ルールは、仮再計算エレメントで再計算の期間を決定するのに使用できます。

再計算/履歴抽出ルール エレメント、遡及計算、および仮再計算エレメントには、以下のような違いがあります。

- 再計算/履歴抽出ルール エレメントでは、過去の期間からデータを取得するルールを設定できます。
- 遡及計算では、過去の期間の再計算が可能で、その計算の結果は保持されます。
- 仮再計算エレメントでは、過去の期間の再計算が可能ですが、その結果は保持されず、最終金額のみが現在の期間に渡されます。

再計算/履歴抽出ルールを定義するには、次の手順に従います。

1. 再計算/履歴ページで、再計算/履歴抽出ルールの名称情報を定義します。
2. 処理期間ページで、ルール タイプと処理対象の期間を定義します。
3. パラメータ/マッピング ページで、再計算/履歴抽出ルールで使用するフォーミュラを定義します。

再計算/履歴抽出ルール エレメントのバッチ処理について

再計算/履歴抽出ルールは、"フォーミュラ" のフィールド ベース定義ページで支給または控除エレメントに関連付けることができます。また、グローバル ペイロールの支給/控除結果テーブル (GP_RSLT_ERN_DED)、累計結果テーブル (GP_RSLT_ACUM)、その他のエレメントの結果テーブル (GP_RSLT_PIN) に格納されているエレメントにも関連付けることができます。さらに、仮再計算エレメントで再計算期間の決定に使用することもできます。

警告: 再計算/履歴抽出ルール エレメントは、給与計算結果の最大のバージョン番号および最大のレビジョン番号を読み取ります。繰越遡及を使用してエレメントをさかのぼって再計算する際に、デルタが再計算エレメントに含まれ、さらに現在の期間にも繰り越されます。その結果、再計算/履歴抽出ルールで読み取られる結果に 2 度含まれることになります。

この問題を回避するには、"累計 - レベル" ページで、セグメント累計に対して [遡及処理] の [訂正を使用] をオンにします。

再計算/履歴抽出ルールは、正常に変換されると 1、正常に変換されないと 0 になります。この動作のしくみはアレイ エレメントと同じです。変換後の再計算/履歴抽出ルールは、以下のようにフォーミュラで使用できます。

IF HIST_RULE_TEST =1, THEN

(再計算/履歴抽出ルールによって値がロードされた変数エレメントを使用)

ELSE

(エラー処理)

END-IF

[最後に実行するフォーミュラ] に指定されているフォーミュラがエラーなしで変換された場合、またはそのフォーミュラが使用されず、[真の場合の停止処理] に指定されている変数の値が真の場合は、再計算/履歴抽出ルールの値は 1 に設定されます。

その他の場合、再計算/履歴抽出ルールの値は 0 に設定されます。SQL からデータは戻されません。

再計算/履歴抽出ルール エレメントの処理

再計算/履歴抽出ルールは、次のように処理されます。

1. グローバル ペイロールの結果テーブルに必要なエレメントに値をロードする SQL が動的に作成されます。

SQL の UNION を使って複数の結果テーブルから一度にデータを取得することができます。UNION を使用すると、再計算/履歴抽出ルールが呼び出されるたびに、データベースに直接アクセスが行われます。SELECT および一連の FETCH が毎回実行されます。このエレメント タイプの使用は、パフォーマンスに影響します。

2. 列が変数にマッピングされます。

これらの変数は、フォーミュラで 사용할 ことができます。

3. 最初のフェッチで、最初に取得するセグメントのキーが設定されます。

セグメントのキーに区切りが検出されるまで、レコードのフェッチは続けられます。入出力インターフェース コピーブック (PINL) に、取得したエレメントの値がセットされます。エレメント マッピングでエレメントが見つからなかった場合は、ヌル値がセットされます。その後、プログラムにより [セグメント別に実行するフォーミュラ] で指定したフォーミュラの変換が要求されます。

4. セグメントごとにフォーミュラの変換が実行されます。

5. 平均計算などの追加の計算のために、[最後に実行するフォーミュラ] に指定されているフォーミュラが変換されます。

次の表にあるとおり、カレンダーやセグメントは最初に実行された順序と逆の順序で処理されます。

元の処理順序	再計算/履歴抽出ルールの処理順序
1 月の休暇欠勤カレンダー	2 月の給与計算カレンダー
1 月の給与計算カレンダー (セグメント 2、セグメント 2)	2 月の休暇欠勤カレンダー
2 月の休暇欠勤カレンダー	1 月の給与計算カレンダー (セグメント 2、セグメント 1)
2 月の給与計算カレンダー	1 月の休暇欠勤カレンダー

先行値の計算に使用されるフォーミュラ

期間別に実行されるフォーミュラ (CUM_COMP) には、以下のものがあります。

- $CUM_PERIOD_SAL + CUR_SAL = CUM_PERIOD_SAL$ 支給額を計算します。
- $CUM_NUM_PERIODS + 1 = CUM_NUM_PERIODS$ 期間を計算します。

最後に実行されるフォーミュラ (AVG_COMP) には以下のものがあります。

$CUM_PERIOD_SAL / CUM_NUM_PERIODS = AVG_COMP$ 期間で割った支給額を計算します。

関連項目:

第 7 章、「計算エレメントの定義」、比例配分ルール of 定義、251 ページ

再計算/履歴抽出ルール エレメントの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
再計算/履歴	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[再計算/履歴抽出ルール]、[再計算/履歴]	エレメント名を付け、基本パラメータを定義します。
再計算/履歴抽出ルール - 処理期間	GP_HIST_RULE1	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[再計算/履歴抽出ルール]、[処理期間]	再計算/履歴抽出ルールの処理期間の詳細を定義します。[ルール タイプ] で選択した値によっては、入力できないフィールドもあります。
パラメータ/マッピング	GP_HIST_RULE2	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[再計算/履歴抽出ルール]、[パラメータ/マッピング]	再計算/履歴抽出ルールのフォーミュラを定義します。

再計算/履歴抽出ルール名の定義

"再計算/履歴抽出名" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[再計算/履歴抽出ルール]、[再計算/履歴抽出名]) にアクセスします。

注意: GP_PIN というオブジェクト名のエレメント名共通ページで、エレメント名やその基本パラメータを全て定義します。エレメント名共通ページのページ タイトルや内容は、定義するグローバル ペイロール エレメントのタイプによって変わります。このページに表示されるフィールドについては全て、この PeopleBook のほかの章で説明されています。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

ルール タイプと処理対象の期間の定義

"再計算/履歴抽出ルール - 処理期間" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[再計算/履歴抽出ルール]、[処理期間]) にアクセスします。

再計算/履歴		処理期間		パラメータマッピング	
エレメント名:	OE HR ROLL AVG	Hist rule for rolling average	所有者:	PS 非管理	
<div>定義</div> <div>検索 全件表示 最初 1/1 最後</div>					
*有効日:	2000/01/01	*ステータス:	アクティブ		
*ルール タイプ:	値の検索				
<div>適用開始日付範囲</div>					
*開始日タイプ:	日付	*開始日エレメント:	EO DT PRDBGN-1		
*終了日タイプ:	変数	*終了日エレメント:	EO VR DT PRDEND- N		
*基準の選択:	支給日	<input type="checkbox"/> 実行時にスタートメントをログに記録			
バージョン:	P_9.00.00.773001				

再計算/履歴抽出ルール - 処理期間ページ

注意: 処理期間ページでは、期間の**開始日**と**終了日**を指定します。その後で、選択した結果データを処理期間にマッピングします。エレメントのデータが期間内に存在しない場合、文字エレメントおよび日付エレメントに対しては空白が、数値エレメントおよび金額エレメントに対してはゼロがセットされます。

ルール タイプ

仮再計算/履歴ルールのタイプを以下のオプションから選択します。

[仮再計算で使用]: この再計算/履歴抽出ルール エレメントを仮再計算エレメントで使用して、再計算する支給期間を決める場合は、このオプションを選択します。

[値の検索]: この再計算/履歴抽出ルール エレメントをフォーミュラで使用して、過去に計算した値を取得する場合は、このオプションを選択します。

遡及開始日付範囲

開始日タイプ、終了日タイプ、開始日エレメント、および終了日エレメントを定義して、この再計算/履歴抽出ルールの期間を設定します。[値の検索] ルール タイプを選択した場合、このフィールドは[遡及開始日付範囲] として表示されます。[仮計算で使用] ルールタイプを選択した場合、このフィールドは[先行開始日付範囲] として表示されます。

[開始日タイプ] および [終了日タイプ] の値は、以下の中から選択します。

ブラケット

[カレンダー日]: 日付に変換されるエレメントを指定する代わりに、日付を直接入力します。ルール タイプが [値の検索] の場合は遡及開始日を、[仮再計算で使用] の場合は先行開始日を、隣のフィールドで指定します。

日付

フォーミュラ

システム エレメント

変数

基準の選択

再計算/履歴抽出ルールで処理する GP_RSLT テーブル データの基準となる日付を指定します。有効値は、[支給日]、[期間終了日]、および [期間開始日] です。

**実行時にステートメントを
ログに記録**

このチェック ボックスをオンにすると、バッチ処理中にアレイ モジュールにより動的に作成される SQL ステートメント テキストを見ることができます。PeopleTools Configuration Manager でリダイレクト出力のオプションを選択すると、それらのアウトプットをファイルに出力することができます。

例

3 月 28 日から 6 月 27 日の期間について、3 か月間の給与 (エレメント SALARY) を決定する必要があります。以下は、GP_RSLT テーブル値の一覧です。

支給期間	検死結果	期間開始日	期間終了日	支払日
2003 年 1 月	100	2003 年 1 月 1 日	2003 年 1 月 31 日	2003 年 2 月 2 日
2003 年 2 月	100	2003 年 2 月 1 日	2003 年 2 月 28 日	2003 年 3 月 2 日
2003 年 3 月	100	2003 年 3 月 1 日	2003 年 3 月 31 日	2003 年 4 月 2 日
2003 年 4 月	100	2003 年 4 月 1 日	2003 年 4 月 30 日	2003 年 5 月 2 日
2003 年 5 月	100	2003 年 5 月 1 日	2003 年 5 月 31 日	2003 年 6 月 2 日
2003 年 6 月	100	2003 年 6 月 1 日	2003 年 6 月 30 日	2003 年 7 月 2 日
2003 年 7 月	100	2003 年 7 月 1 日	2003 年 7 月 31 日	2003 年 8 月 2 日

[期間開始日] を選択すると、再計算/履歴抽出ルールでは、6 月、5 月、4 月が処理されます。7 月は処理されません。7 月の期間開始日の 7 月 1 日は、遡及期間の開始日の 6 月 27 日より後の日付だからです。同様に、3 月も処理されません。3 月の期間開始日の 3 月 1 日は、遡及期間の終了日の 3 月 28 日より前の日付だからです。

注意: 再計算/履歴抽出ルールでは、遡及開始日から処理が開始され、元の処理順序とは逆の順序で遡及終了日までさかのぼって各期間やセグメントが参照されます。

[期間終了日] を選択すると、再計算/履歴抽出ルールでは、5 月、4 月、3 月が処理されます。6 月は処理されません。6 月の期間終了日の 6 月 30 日は、遡及期間の開始日の 6 月 27 日より後の日付だからです。同様に、2 月も処理されません。2 月の期間終了日の 2 月 28 日は、遡及期間の終了日の 3 月 28 日より前の日付だからです。

[支給日] を選択すると、再計算/履歴抽出ルールでは、5 月、4 月、3 月が処理されます。6 月は処理されません。6 月の支給日の 7 月 2 日は、遡及期間の開始日の 6 月 27 日より後の日付だからです。同様に、2 月も処理されません。2 月の支給日の 3 月 2 日は、遡及期間の終了日の 3 月 28 日より前の日付だからです。

関連項目:

第 32 章、「分割の定義」、1189 ページ

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Data Management

再計算/履歴抽出ルール エLEMENTのフォーミュラの定義

"パラメータ/マッピング" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[ELEMENT]、[サポート ELEMENT]、[再計算/履歴抽出ルール]、[パラメータ/マッピング]) にアクセスします。

再計算/履歴				処理期間		パラメータマッピング	
ELEMENT名:		OE HR ROLL AVG		Hist rule for rolling average		所有者: PS 非管理	
<div>定義</div> <div>検索 全件表示 最初 1/1 最後</div>							
有効日:		2000/01/01		ステータス:		アクティブ	
*セグメント別に実行するフォーミュラ:		OE FM ROLL INIT					
真の場合は処理を停止:		GP FALSE					
最後に実行するフォーミュラ:		CM FM TRUE					
<div>ELEMENT マッピング</div> <div>カスサイズ 検索 全件表示 最初 1-3/3 最後</div>							
ELEMENT タイプ	過去の期間ELEMENT	現在の期間ELEMENT	スライス オプション				
累計	OE AC ROLLAVG	OE VR ROLLAVG AMT	スライスを合計				
累計	EO AC DISREGARD WG	EO VR ROLLAVG AMT	スライスを合計				
累計	EO AC DISRGRD UNIT	EO VR ROLLAVG UNIT	スライスを合計				

パラメータ/マッピング ページ

注意: 処理期間ページの [ルール タイプ] で指定した値によって、このページに表示されるフィールドは変化します。

給与計算を実行すると、[真の場合の停止処理] で指定された変数の値がゼロ以外になるか、または最後の過去の期間が処理されるまで、[セグメント別に実行するフォーミュラ] のフォーミュラが過去の期間ごとに変換されます。その後、[最後に実行するフォーミュラ] で指定されたフォーミュラが変換されます。

セグメント別に実行するフォーミュラ セグメント、または期間ごとに変換されるフォーミュラを指定します。

真の場合の停止処理 変数を入力します。この変数がゼロ以外の値になるか、終了日に達するか、または処理するデータがなくなるまで、期間ごとにフォーミュラが変換され続けます。

最後に実行するフォーミュラ 期間処理が終了したときに変換するフォーミュラを指定します。

真の場合に使用する期間 このフィールドは、[仮再計算で使用] ルール タイプのときのみ表示されます。変数を入力します。[セグメント別に実行するフォーミュラ] フィールドで指定したフォーミュラが呼び出されるごとに、この変数の値が 0 と 1 のどちらに設定されているかが確認されます。1 に設定されると、フォーミュラが呼び出された期間が仮再計算処理で使用されます。

エレメント マッピング

[エレメント マッピング] グリッドには、再計算/履歴抽出ルールでグローバル ペイロールの結果テーブルからデータを取得するエレメントが一覧表示されます。

エレメント タイプ 支給、控除、変数など、取得するエレメントのタイプを選択します。

過去の期間エレメント 値を取得するエレメントを指定します。

現在の期間エレメント 取得した値を格納する変数を指定します。ここに指定した変数は、[セグメント別に実行するフォーミュラ] フィールドで使用できるようになります。

スライス オプション

過去の期間内のエレメントの複数インスタンスを変換する方法を指定します。値は以下のとおりです。

- スライスを合計: 全てのスライスが合計されます。
- 最終スライスを使用: 最終スライスの値のみが使用されます。
- スライスを合計 - 現在の雇用レコード: 全てのスライスが合計されますが、EMPL_RCD が現在の EMPL_RCD と等しいデータ行のみが使用されます。
- 最終スライスを使用 - 現在の雇用レコード: 最終スライスの値のみが使用されますが、EMPL_RCD が現在の EMPL_RCD と等しいデータ行のみが使用されます。

第 7 章

計算エレメントの定義

この章では、計算エレメントの概要および以下の作業の方法について説明します。

- デュレーション エレメントの定義
- 変数エレメントの定義
- 日付エレメントの定義
- フォーミュラ エレメントの定義
- メッセージ エレメントの定義
- 端数処理ルール エレメントの定義
- カウント エレメントの定義
- 比例配分ルールの定義
- ジェネレーション コントロール エレメントの定義
- ジェネレーション コントロール周期エレメントの定義

計算エレメントについて

サポート エレメントは、システムの構成要素です。計算エレメントは、サポート エレメントの一部として使用されるもので、計算処理の補助や、より複雑なエレメントの作成に使用されます。

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- 計算エレメント名の定義
- エレメント ポインタ

計算エレメント名の定義

全てのエレメントについて、名称とその基本パラメータをエレメント名共通ページで定義する必要があります。全てのエレメントのコンポーネントの最初のページとして、エレメント名共通ページ (GP_PIN) が共有されています。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

エレメント ポインタ

エレメント ポインタは、システムの識別番号 (PIN) を使ってほかのエレメントを指し示すエレメントです。

定義したエレメントの値は、変わることがあります。これは、ほかのエレメントの計算でエレメントを使用する場合に問題となります。フォーミュラの作成では特に、この問題は大きくなります。エレメント ポインタを使うと、この問題を解決できます。

エレメント ポインタの利点

エレメント ポインタを使用すると、以下のような利点があります。

- フォーミュラで使用すると、汎用フォーミュラや再利用可能なフォーミュラを作成することができます。
- さまざまな支給、控除、および休暇欠勤の計算で、同じフォーミュラを使用することができます。
- フォーミュラを定義する際、フォーミュラを構成するさまざまなエレメントの値が変化することは珍しいことではありません。エレメントの値を参照する代わりに、エレメント ポインタを使ってシステムの識別番号、すなわち**エレメント番号**を参照することができます。
- エレメント番号は不変です。したがってエレメント番号を参照すると、エレメントの値が変わっても、そのエレメントを使用するフォーミュラを使い続けることができます。

エレメント ポインタの例

差し押さえを計算するフォーミュラがあります。受給者が変わると差し押さえの内容も変わります。このフォーミュラでエレメント ポインタを使って、エレメントの識別番号でエレメントを参照するようにすると、受給者ごとの差し押さえの数やタイプに合わせてフォーミュラを記述し直さずに済みます。エレメント ポインタでエレメントを参照すると、そのエレメントの現在の値を取得できるので、このフォーミュラで受給者に合った計算が可能になります。

エレメント ポインタを使用できるエレメント

エレメント ポインタは、"定義" ページを使用するほとんど全てのエレメントを参照することができます。

主に以下のようなエレメントを使って、データの取得、保存、およびエレメント ポインタの割り当てを行います。

- 変数
- ブラケット

ブラケットを使用する場合、エレメント ポインタには検索で戻された値を格納することができます。その場合、"ブラケット" の "検索キー/戻り列" ページで、ブラケットの値を格納するポインタを選択します。

- フォーミュラ
- アレイ

エレメント ポインタを使用して、取得する列には PIN 番号が格納されていることをシステムに認識させます。"アレイ" のフィールド マップ/キー ページを使用して、アレイで取得する列の設定を入力します。

関連項目:

[第 7 章、「計算エレメントの定義」、フォーミュラにおけるエレメント ポインタについて、 223 ページ](#)

デューレーション エレメントの定義

デューレーション エレメントを定義するには、デューレーション コンポーネント (GP_DURATION) を使用します。

このセクションでは、デュレーション エレメントおよびデュレーション エレメントのバッチ処理についての概要と、以下の方法について説明します。

- デュレーション エレメント名の定義
- デュレーション エレメントの定義
- 期間を対象、または除外にする HR ステータスの定義

デュレーション エレメントについて

デュレーション エレメントは、ある日付を別の日付から減算することで、2 つの日付の間の時間を計算します。たとえば、支給期間終了日における年齢は、支給期間終了日から生年月日を引いて算出されます。その結果の値がデュレーションになります。

デュレーション エレメントは、常に数値に変換されます。デュレーションの戻り値は、年数、月数、または日数で定義します。日数でデュレーションを定義する場合は、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の従業員ステータスに基づいて、特定の期間を対象にしたり、対象から除外したりすることができます。また、グローバル ペイロールで入力された休暇欠勤日数も、対象にしたり除外したりすることができます。

休暇欠勤の対象/除外

休暇欠勤の対象/除外機能は主に、デュレーションから休暇欠勤日数を除外する際に使われます。たとえば、勤続期間デュレーションの計算に病欠を含めたくないとします。日次休暇欠勤フォーミュラは、デュレーションの開始日から終了日まで、日次の休暇欠勤の計算のために変換されます。このフォーミュラでは、病欠の場合はその都度 1 が、それ以外の場合は 0 が戻されます。デュレーション プログラムでは、各日の値が合計されます。受給者のこの期間内の病欠が 15 日で、[休暇欠勤日数を含む] チェック ボックスがオフの場合、この期間のカレンダー日数の合計から 15 が引かれます。

フォーミュラでは、休暇欠勤デュレーション用に特別に設計されたシステム エレメントを呼び出すことができます。これらのエレメント名は、休暇欠勤の日次データの生成に使用するエレメント名と同じですが、サフィックス DU が付加されています。たとえば、ABS END DATE DU というシステム エレメントを使用して、特定の休暇欠勤の休暇欠勤終了日を取得することができます。

例 1: 端数処理

"デュレーション" の定義ページで、そのデュレーションに小数を含めるかどうか、およびデュレーションの端数処理をどうするかを定義します。このセクションでは、小数のデュレーションに対してどのように端数処理が行われるかを説明します。

端数処理を行う前の結果は、2 年と 5 か月と 20 日で、端数処理をせずに月数で結果を返したいとします。計算式は以下のとおりです。

$$29 \text{ か月} (= (2 \text{ 年} \times 12) + 5 \text{ か月}) + 20/30 = 29.666667$$

[小数でデュレーションを返す] チェック ボックスがオフの場合、値は 29 になります。

[小数でデュレーションを返す] チェック ボックスと [月単位に端数切上げ/日数 >=] チェック ボックスをオンにして、日数を 15 にすると、結果は次のようになります。

$$(2 \text{ 年} \times 12) + 5 \text{ か月} + 1 \text{ か月 (日数} > 15 \text{ であるため)} = 30$$

デュレーションの変換をシステム全体で使用する場合は、結果のわずかな差異が大きな違いをもたらす可能性があるので注意してください。

例 2: 端数処理

この例では、以下のような設定があるとします。

デュレーションの開始日は 1999 年 1 月 1 日、デュレーションの終了日は 2001 年 1 月 31 日。

次の表は、さまざまなオプションの組み合わせによって、デュレーション エレメントから戻される値がどのように変化するかを表しています。システムで標準のフィールド サイズは整数 12 桁 小数 6 桁なので、値は全て小数 6 桁で表示してあります。

デュレーションの 戻り値の単位	端数処理 年単位に端数切上 げ/月数 >=	端数処理 月単位に端数切上 げ/日数 >=	小数でデュレー ションを返す	値
年数	オフ	オフ	オン	2.083333
年数	オフ	オフ	オフ	2.000000
年数	オン、1	オフ	オフ	2.000000
月	オフ	オフ	オン	25.000000
月	オフ	オン、15	オフ	25.000000

デュレーションの 戻り値の単位	端数処理 年単位に端数切上 げ/月数 >=	端数処理 月単位に端数切上 げ/日数 >=	小数でデュレー ションを返す	値
日			オン	実行不可能です。 オンライン エ ラー メッセージ が表示されます。
日	オフ	オフ	オフ、開始日/終 了日を含む = オ フ	761.000000
日	オフ	オフ	オフ、開始日/終 了日を含む = オン	762.000000

注意: デュレーション プログラムでは、PeopleTools ユーティリティ PTPDTWRK を使用して、2 つの日付の差を取得します。GP デュレーション オプションが値を年で返すように指定されている場合、PTPDTWRK は AGE オプションで呼び出され、結果を年数、月数、および日数で返します。たとえば、日付が 2003 年 4 月 1 日から 2004 年 4 月 1 日のときは、PTPDTWRK は 1 年と 0 か月と 0 日を返します。終了日が 2004 年 3 月 31 日のときは、PTPDTWRK は 0 年と 11 か月と 30 日を返します。2 つの日付の小数形式の差は、 $364/365 = 0.99726$ で計算されるように思われますが、実際はそうではありません。PTPDTWRK では日付の差を日数で返すことができますが、その値を年数に変換するには、うるう年の回数を計算する必要があります。

期間を対象、または除外にする HR ステータス

"日次 HR ステータス条件の設定" ページで、HR の従業員ステータスに基づいて、該当ステータスの期間をデュレーション計算の対象としたり、対象から除外したりすることができます。

従業員ステータスによる [対象] または [除外] の条件がデュレーション定義の一部として定義される場合、以下のルールが適用されます。

- デュレーション開始日は、PS_JOB 行の最も古い有効日よりも前の日付にすることはできません。

デュレーション開始日が PS_JOB 行の最も古い有効日よりも前の日付の場合、デュレーション計算では、この従業員 ID/雇用レコード番号の組み合わせを持つ PS_JOB 行の中で最も古い有効日が、デフォルトのデュレーション開始日として使用されます。デュレーション計算では、その他のフィールドに基づいてデュレーション開始日が限定されることはありません。

- デュレーション終了日は、カレンダー期間終了日よりも後の日付にすることはできません。

デュレーション終了日がカレンダー期間終了日よりも後の日付の場合、デュレーション計算では、カレンダー期間終了日がデフォルトのデュレーション終了日として使用されます。

- PS_JOB 行の中で同一有効日連番が最も大きい行だけが計算の対象として考慮されます。それ以外の同一有効日連番の PS_JOB 行のステータスは無効と見なされるためです。
- デュレーション開始日またはデュレーション終了日が、上記の状況で PS_JOB 行の最も古い有効日またはカレンダー期間終了日に修正されても、警告またはエラーは発行されません。

たとえば、PS_JOB 行の最も古い有効日が 1995 年 1 月 7 日で、デュレーションの開始日が 1995 年 1 月 1 日の場合、デュレーションの開始日として PS_JOB 行の最も古い有効日より前の日付を使用することはできないので、1995 年 1 月 7 日が使用されます。

注意: 支給キーは、ステータス コントロールの [対象] または [除外] の計算では無視されます。

例 1: 期間を対象、または除外にする HR ステータス

この例では、以下のように設定されているとします。

開始日: 2000 年 1 月 1 日

終了日: 2000 年 1 月 31 日

戻り値の単位: 日

開始日/終了日を含む: オン

従業員ステータス: 休職 (有効日: 2000 年 1 月 22 日)

アクティブな日数: 21、非アクティブな日数: 10、日次休暇欠勤フォーミュラの結果: 5

次の表は、さまざまな対象/除外オプションの設定に基づいて、デュレーションの値がどのように変換されるかを表しています。

HR ステータス	日次休暇欠勤 フォーミュラ	デュレーションの 日数 (開始日/終了 日を含む = オン)	デュレーションの 日数 (開始日/終了 日を含む = オフ)	異動理由
対象 - アクティ ブ	空欄	21 日間	21 日間	アクティブな日数 のみ
対象 - 非アク ティブ	空欄	10 日間	9 日間	休職の日数のみ
対象 - アクティ ブ	含む	26 日間	26 日間	アクティブな日数 + フォーミュラ の日数
対象 - 非アク ティブ	含む	15 日間	14 日間	休職の日数 + フォーミュラの日 数
対象 - アクティ ブ	除外	16 日間	16 日間	アクティブな日数 - フォーミュラの 日数
対象 - 非アク ティブ	除外	5 日間	4 日間	休職の日数 - フォーミュラの日 数
空欄	含む	5 日間	5 日間	フォーミュラの日 数のみ
空欄	除外	26 日間	25 日間	合計日数 - フォーミュラの日 数
空欄	空欄	31 日間	30 日間	合計日数
除外 - アクティ ブ	空欄	10 日間	9 日間	休職の日数のみ

HR ステータス	日次休暇欠勤 フォーミュラ	デュレーションの 日数 (開始日/終了 日を含む = オン)	デュレーションの 日数 (開始日/終了 日を含む = オフ)	異動理由
除外 - 非アク ティブ	空欄	21 日間	21 日間	アクティブな日数 のみ
除外 - アクティ ブ	含む	15 日間	14 日間	休職の日数 + フォーミュラの日 数
除外 - 非アク ティブ	含む	26 日間	26 日間	アクティブな日数 + フォーミュラ の日数
除外 - アクティ ブ	除外	5 日間	4 日間	休職の日数 - フォーミュラの日 数
除外 - 非アク ティブ	除外	16 日間	16 日間	アクティブな日数 - フォーミュラの 日数

例 2: 期間を対象、または除外にする HR ステータス

デュレーションが次のように設定されているとします。

- 開始日: 1999 年 6 月 23 日
- 終了日: 1999 年 9 月 23 日

サブ期間が次のように定義されているとします。

- HR ステータスが [アクティブ] の場合、対象とする。
- サブ期間 > 5 日間

次の表は、ある受給者の PS_JOB 行のリストです。

ステータス	有効日
アクティブ	1999 年 6 月 23 日
停職	1999 年 7 月 1 日
アクティブ	1999 年 8 月 1 日
雇用終了	1999 年 8 月 10 日

デュレーションは、8 日 (最初のアクティブの日数) + 9 日 (2 番目のアクティブの日数) で合計 17 日に変換されます。どちらのアクティブの期間も 5 日を超えるため対象になります。

注意: HR ステータス以外のフィールドおよび支給キーは、ステータスの計算の対象/除外には考慮されません。

有効日が期間終了日より前か同じ PS_JOB 行だけが考慮されます。デュレーション開始日およびデュレーション終了日は、それぞれ PS_JOB 行の最も古い有効日および期間終了日に修正される可能性があります。これは、デュレーション開始日を PS_JOB の最も古い有効日より前にすることはできない、また、デュレーション終了日を期間終了日より後にすることはできない、というシステム ルールがあるためです。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.1 PeopleBook: 人事・労務管理

第 11 章、「休暇欠勤管理について」、日次データ、400 ページ

デュレーション エLEMENTのバッチ処理について

デュレーション モジュールは、次のような手順でデュレーション エLEMENTを変換します。

1. 必要に応じて、開始日および終了日を変換します。
2. ステータスが入力されている場合は、開始日が PS_JOB 行の最も古い有効日より前でないこと、および終了日が期間終了日より後でないことを確認します。
3. 開始日と終了日の間のデュレーション (年数、月数、または日数) を計算します。

4. HR ステータス条件が入力されている場合は、その処理を行います。
5. 必要に応じて、休暇欠勤日数を計算対象に入れたり、除外したりします。
6. 端数処理を適用します。
7. [小数でデュレーションを返す] チェック ボックスがオフの場合、小数を切り捨てます。

"デュレーション" の定義ページで、値を年で返すように指定して、[年単位に端数切上げ/月数 >=] と [月単位に端数切上げ/日数 >=] の両方のチェック ボックスをオンにした場合は、[月単位に端数切上げ/日数 >=] オプションが先に処理されます。その後、[年単位に端数切上げ/月数 >=] オプションが処理され、適用されます。

デュレーション エLEMENTの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
デュレーション名	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[デュレーション]、[デュレーション名]	エレメント名を付け、基本パラメータを定義します。
デュレーション - 定義	GP_DURATION	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[デュレーション]、[定義]	2 つの日付の間の日数、月数、年数を定義します。
日次 HR ステータス条件の設定	GP_DUR_STAT_SEC	定義ページで戻り値の定義に [日] を選択するとアクティブになる、[日次 HR ステータス条件の設定] リンクをクリックします。	ヒューマン リソース管理のステータス コードに従って、デュレーション計算の対象にしたり、除外したりする期間を指定します。

デュレーション名の定義

"デュレーション名" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[デュレーション]、[デュレーション名]) にアクセスします。

全てのエレメントについて、エレメント名共通ページでその名称と基本パラメータを定義してください。グローバル ペイロールでは、全てのエレメントのコンポーネントに、エレメント名共通ページ (GP_PIN) という共通ページが含まれています。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

デュレーション エレメントの定義

"デュレーション - 定義" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[デュレーション]、[定義]) にアクセスします。

デュレーション名		定義	
エレメント名:	PR DR DAYS PRD	Days in current period	所有者: PS 非管理
<div> 定義 検索 全件表示 最初 1/1 最後 </div>			
有効日:	1990/01/01	*ステータス:	アクティブ
入力パラメータの定義			
*開始日タイプ:	システム エレメント	開始日:	PERIOD BEGIN DATE
*終了日タイプ:	システム エレメント	終了日:	PERIOD END DATE
戻り値の定義			
*デュレーションの単位:	日	<input type="checkbox"/> 開始日/終了日を含む <input type="checkbox"/> 休暇欠勤日数を含む	
日次休暇欠勤フォーミュラ:		日次 HR ステータス条件の設定	
バージョン:	P_8.00.00.00		

デュレーション - 定義ページ

開始日タイプ、 終了日タイプ [開始日] および [終了日] フィールドのエレメント タイプを選択します。有効値は、[変数]、[日付]、[カレンダー日]、[システム エレメント]、[フォーミュラ]、および [ブラケット] です。

開始日、 終了日 デュレーション計算の対象となる最初と最後の日付を定義します。
日付を返すエレメント名を選択します。
[開始日] の日付が [終了日] の日付と同じか後の日付の場合、デュレーション エレメントはゼロに変換されます。

デュレーションの単位 デュレーションの戻り値の単位を選択します。有効値は以下のとおりです。

- [年]: このオプションを選択すると、デュレーションの戻り値は年数になります。デフォルト値です。
- [月]: このオプションを選択すると、デュレーションの戻り値は月数になります。
- [日]: このオプションを選択すると、デュレーションの戻り値は日数になります。

[日] を選択すると、[開始日/終了日を含む] チェック ボックスおよび [休暇欠勤日数を含む] チェック ボックスが使用できるようになります。

[開始日/終了日を含む] チェック ボックスをオンにすると、開始日と終了日が計算の対象となります。

たとえば、開始日が 2006 年 2 月 1 日、終了日が 2006 年 2 月 5 日の場合、[開始日/終了日を含む] チェック ボックスをオンにすると、計算結果は 5 日になります。[開始日/終了日を含む] チェック ボックスをオフにすると、終了日は無視され、計算結果は 4 日になります。この場合、[休暇欠勤日数を含む]、または [日次 HR ステータス条件の設定] の指定に対しても、終了日は無視されます。

([日] 選択して [開始日/終了日を含む] をオフにすると、開始日と終了日が同じ場合は値 0 が返されます。[開始日/終了日を含む] をオンにすると、値 1 が返されます。)

小数でデュレーションを返す

デュレーションの結果を小数形式で取得する場合は、このチェックボックスをオンにします。

[小数でデュレーションを返す] チェック ボックスをオンにすると、デュレーションは、定義された端数処理ルール適用後に小数値に変換されます。

[デュレーションの単位] の値によって、結果は以下のようになります。

[年]: 年数と、残りの月数および日数が小数形式で返されます。小数形式で計算するには、日数を 30 で割り、その結果を月数に加算します。次に、月数を 12 で割り、その結果を年数に加算します。たとえば、2 年と 1 か月のデュレーションは、2.08333 の値を返します。

[月]: 月数と、残りの日数 (1 か月に満たない日数) が小数形式で返されます。日数を 30 で割った数が、小数部分となります。

[日]: 無効です。

注意: 1 か月は、ある月の最初の日から次の月の最初の日までの期間と定義されています。たとえば、2006 年 1 月 1 日から 2006 年 1 月 31 日までは、1 か月ではなく 30 日です。1 か月にするには、[小数でデュレーションを返す] をオンにします。これにより、30 日 (1 か月と同等) が返されます。[小数でデュレーションを返す] チェック ボックスをオンにしないで月数をカウントすると、結果はゼロになります。

端数処理する日数

このチェック ボックスをオンにすると、端数がその右のフィールドで指定した日数以上の場合に月数が切り上げられます。

端数処理する月数

このチェック ボックスをオンにすると、端数がその右のフィールドで指定した月数以上の場合に年数が切り上げられます。

これらのフィールドを使用して、デュレーションの計算結果に適用する端数処理ルールを指定します。これらのチェック ボックスが両方ともオフの場合、端数処理は行われません。

これらのチェック ボックスのいずれかをオンにすると、指定した値より月数または日数が多い場合には、それぞれ 1 年または 1 か月が加算されます。

たとえば、[デュレーションの単位] が [年] の場合、[端数処理する月数] を選択して「6」を入力すると、計算結果が 3 年 6 か月のデュレーションでは 4 年という値が返されます。

注意: 指定した端数処理ルールは、デューレーションを小数に変換する前に適用されます。[小数でデューレーションを返す] チェック ボックスと端数処理オプションをオンにした場合、必要に応じて月数または年数が切り上げられ、小数値はゼロになります。

開始日/終了日を含む

このチェック ボックスをオンにすると、開始日と終了日が計算の対象になります。

休暇欠勤日数を含む

このチェック ボックスをオフにすると、休暇欠勤日数は計算対象から除外されます。たとえば、このチェック ボックスをオフにすると、デューレーションの期間から病欠の日数を引いた値を計算することができます。

[休暇欠勤日数を含む] チェック ボックスをオンにすると、休暇欠勤日数はデューレーションの計算対象になります。

このチェック ボックスは、戻り値の単位として [日] を選択すると、使用可能になります。

注意: [休暇欠勤日数を含む] がオフで、[日次休暇欠勤フォーミュラ] が指定されている場合、休暇欠勤日数は自動的に計算対象から除外されます。

日次休暇欠勤フォーミュラ

このフィールドは、戻り値の単位として [日] を選択すると、使用可能になります。

受給者が欠勤した日数を計算対象に含めたり、除外したりするには、休暇欠勤日数を返すフォーミュラを選択します。受給者の休暇欠勤日数を計算対象に含めるには、[休暇欠勤日数を含む] チェックボックスをオンにします。受給者の休暇欠勤日数を計算対象から除外するには、[休暇欠勤日数を含む] チェック ボックスをオフにします。そうすると、休暇欠勤日数がデューレーションの合計日数から差し引かれます。

このフォーミュラを変換して、開始日と終了日を含む、この期間の休暇欠勤の日次の履歴を取得します。対象となる欠勤日ごとに 1 が返されます。デューレーション プログラムでは、休暇取得プロセスによって出力される休暇欠勤日次データ (GP_RSLT_ABS) の各行に対するフォーミュラの値を累計し、休暇欠勤日が開始日と終了日の間にある全ての行に対するフォーミュラの結果を合計します。終了日は、[開始日/終了日を含む] チェック ボックスがオンの場合にのみ計算の対象となることに注意してください。

フォーミュラには、日数をカウントしたい休暇取得エレメントが指定されている必要があります。たとえば、IF ステートメントで休暇欠勤タイプを使うと、病欠だけを集計できます。

フォーミュラでは、休暇欠勤デューレーション用に特別に設計されたシステム エレメントを呼び出すことができます。これらのエレメント名は、休暇欠勤の日次データの生成に使用するエレメント名と同じですが、サフィックス DU が付加されています。たとえば、ABS END DATE DU というシステム エレメントを、特定の休暇欠勤の休暇欠勤終了日を検索するために使用できます。

日次 HR ステータス条件の設定

このフィールドは、戻り値の単位として [日] を選択すると、使用可能になります。

このリンクをクリックして "日次 HR ステータス条件の設定" ページにアクセスします。このページでは、HR の従業員ステータスコードに基づいて、該当ステータスの期間をデューレーション計算の対象としたり、対象から除外したりすることができます。

[休暇欠勤日数を含む] チェック ボックスをオンにして、**かつ**、ステータス コードに基づいて該当する期間を対象にしたり除外したりする場合、2 つのカウントが別個に変換され、その結果が組み合わされます。たとえば、従業員ステータスがアクティブになっている日数を対象とし、休暇欠勤日数は除外する場合、受給者がアクティブな日数がカウントされ、受給者が欠勤した日数が差し引かれます。

警告: 入力したこれら 2 つの指示によっては、日数が二重にカウントされる場合があります。たとえば、アクティブな日数と受給者が病欠の日数を含める場合、受給者がアクティブで病欠した日数は 2 度計算されます。

期間を対象、または除外にする HR ステータスの定義

"日次 HR ステータス条件の設定" ページにアクセスします ([日] を選択するとアクティブになる、定義ページの [日次 HR ステータス条件の設定] リンクをクリックします)。

デューレーション

日次 HR ステータス条件の設定

受給者の各日の HR ステータスによって、その日（または期間）を計算対象とするか除外とするかを指定します。さらに、受給者がそのステータスであった期間によって、その期間を計算対象とするか除外とするかも指定できます。たとえば、次のように指定します。

- 受給者が「アクティブ」の日は常に計算対象とする。
- 受給者の停職期間が 1 か月未満の場合は、計算対象とする。

リストしたステータスの処置

☒ 対象
☐ 除外

HR ステータス リスト					カスタマイズ	検索	全件表示	最初	1/1	最後
給与計算ステータス	右の条件に一致するサブ期間	オペランド	値	期間						
<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>									

"日次 HR ステータス条件の設定" ページ

"デューレーション" の定義ページで、戻り値の単位を [日] にすると、HR ステータス コードに基づいて期間をデューレーションの対象に含めたり、除外したりすることができます。最低期間と最高期間を指定して、範囲を限定することもできます。

リストしたステータスの処 置

[対象] または [除外] を選択して、[HR ステータス リスト] グリッドで指定したステータスを計算対象にしたり、対象から除外したりします。ステータスを対象とするか除外するかによって、次のように処理が異なります。

[対象] を選択すると、指定されたステータスに該当する期間はデューレーション計算の対象になります。

[除外] を選択すると、指定されたステータスに該当する期間はデューレーション計算の対象から除外されます。

入力されたステータス コードの組み合わせは、グループとして対象または除外されます。つまり、特定のステータス コードを対象として指定すると、指定されなかったコードは自動的に除外になります。また、特定のコードを除外として指定すると、指定されなかったコードは自動的に対象になります。

指定される期間には、PS_JOB の有効日が含まれます。

サブ期間の定義

以下のフィールドを使用して、デューレーションの対象/除外とする期間をさらに細かく定義します。

右の条件に一致するサブ期 間

オンにすると、特定の長さのサブ期間がデューレーションの対象/除外とされます。サブ期間には、受給者のステータスが変更されずにいる連続日数を指定します。

複数のサブ期間をカウントに含めることができるかどうかは、それらのサブ期間が同じ期間内にあるかどうかで決まります。各サブ期間が個々に条件を満たしている場合は、全て一緒に加算されます。期間は 1 つずつ計算されます。期間ごとに、このページで定義した条件がチェックされます。条件に適合すると、その期間は対象または除外と見なされます。条件に適合しない場合、その期間は無視されます。

オペランド

[<]、[<=]、[>]、および [≥] から選択して、その期間がデューレーション計算の対象または除外となるかどうかを決定します。
[オペランド] は、[値] および [期間] フィールドと共に使用されます。

値	デューレーションの対象/除外となる年数、月数、日数です。オペランドと共に使用し、デューレーション計算の対象/除外となるステータスの期間の長さを指定します。
期間	前のフィールドで選択した値に対する期間の単位です。[日]、[月]、または [年] から選択します。

変数エレメントの定義

変数エレメントを定義するには、変数コンポーネント (GP_VARIABLE) およびカテゴリ別変数コンポーネント (GP_VARIABLE_BY_CAT) を使用します。

このセクションでは、変数エレメント、フィールド フォーマット、および変数のバッチ処理についての概要と、以下の方法について説明します。

- 変数名の定義
- 変数の定義

変数エレメントについて

変数は、値を保管し、後で使用するための手段です。フォーミュラ、計算コンポーネント、またはそれ以外のところで値を入力する必要がある場合、変数の入力タイプを指定して、同じ値を繰り返し使用することができます。変数を使うと、ある値を変数として定義し、フォーミュラや計算のどこでもその値を呼び出すことができます。

例

1 月 1 日時点で、バッチ処理で変換される 3 つのフォーミュラと 2 つの支給で、通貨係数 20 が計算に使用されているとします。この係数が、4 月 1 日に 25 に変更されるとします。この係数に**数値**のフォーマット タイプを割り当てていると、有効日 (4 月 1 日) 付きの変更を 5 つそれぞれに対して行う必要があります。しかし、この通貨係数を変数エレメントとして定義し、この係数を使用する全ての箇所からこの変数を参照するようにすると、この変数の値を有効日 4 月 1 日で新しい係数 25 に変更するだけですみます。

フィールド フォーマットについて

変数は、以下のフィールド フォーマットで定義することができます。

- 文字列

文字列のフィールド フォーマットの場合、変数のフィールド長は 30 文字です。

- 日付

- 10 進数

10 進数のフィールド フォーマットの場合、変数のフィールド長は整数 12 桁小数 6 桁です。

- 金額

フィールド フォーマットが金額の変数のフィールド長は、使用する通貨コードに応じて最大 12.6 になります。

- ポインタ

変数は、ある変数エレメントを別のエレメントにリンクさせることが可能な**エレメント ポインタ** フィールド フォーマットとして定義することができます。変数エレメントをフォーミュラエレメントのコンポーネントとして使用し、そのフォーミュラをさらに汎用的に、さまざまな状況の変化にも対応できるようにするには、エレメント ポインタはとても便利です。

エレメント ポインタは、エレメントの実際の値ではなく、別のエレメントのエレメント番号を保存するために使用します。エレメント ポインタ変数を使うと、エレメント ポインタが指すエレメントの値が処理で使用されます。

注意: 直接的に、またはほかのエレメント (アレイなど) を使って変数に値を割り当てる場合、その変数が割り当てられた値のフィールド長やフィールド フォーマットに対応しているかどうかを考慮する必要があります。たとえば、50 文字のテキストを、フィールド長が 30 文字の文字列変数に割り当てないでください。同様に、金額の値を、フォーマット タイプが文字列の変数には割り当てないようにしてください。

関連項目:

[第 7 章、「計算エレメントの定義」、フォーミュラにおけるエレメント ポインタについて、223 ページ](#)

変数のバッチ処理について

変数はデータ入力エレメントなので、バッチ処理で検出されたときに変換されます。変換された値は、定義で指定した値と等しくなります。

変数名ページで [保存] チェック ボックスをオンにした場合は、変数の変換値が全て保存されます。

変数エレメントの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
変数名	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[変数]、[変数名]	エレメント名を付け、基本パラメータを定義します。
変数 - 定義	GP_VARIABLE	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[変数]、[定義]	変数名ページで指定したフィールド フォーマットに従って、変数の値を定義します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
カテゴリ別変数	GP_VARIABLE_BY_CAT	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[カテゴリ別変数]	<p>同じカテゴリ内の 1 つまたは複数の変数を表示または更新します。変数のカテゴリは、"変数" の変数名ページで割り当てます。最大 3 つの "値" タブが、このページに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [数値] タブには、10 進数または金額 (通貨コード付き) のフィールド タイプで定義された変数が表示されます。 • [文字値] タブには、文字列のフィールド タイプで定義された変数が表示されます。 • [日付値] タブには、日付のフィールド タイプで定義された変数が表示されます。 <p>注意: このページを使用して、変数を作成したり削除したりすることはできません。</p>

変数名の定義

"変数名" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[変数]、[変数名]) にアクセスします。

全てのエレメントについて、エレメント名共通ページでその名称と基本パラメータを定義してください。グローバル ペイロールでは、全てのエレメントのコンポーネントに、エレメント名共通ページ (GP_PIN) という共通ページが含まれています。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

変数の定義

"変数 - 定義" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[変数]、[定義]) にアクセスします。

変数名

定義

エレメント名:

KOVRCOMPANY

Store Company

所有者:

PS 非管理

定義

検索 | 全件表示

最初

1/1

最後

*有効日:

1990/01/01

31

*ステータス:

アクティブ

+

-

値:

☐ チャートフィールドとして使用

プロンプト ビュー名:

バージョン:

P_8.30.00.00.P553K

"変数" - 定義ページ

- 値

この変数に割り当てる値を入力します。

割り当てる値のタイプは、変数名ページで指定したフォーマット タイプによって異なります。
- チャートフィールドとして使用、プロンプト ビュー名

この変数エレメントをチャートフィールドとして使用する場合は、[チャートフィールドとして使用] チェック ボックスをオンにします。チャートフィールドは、PeopleSoft Enterprise 一般会計で使用されます。[プロンプト ビュー名] フィールドには、この変数と関連付けるレコードを指定します。レコードの名前は、GL マッピングのページで列見出しとして表示されます。

関連項目:

第 39 章、「PeopleSoft Enterprise 一般会計との統合」、グローバル ペイロールと一般会計の統合、1527 ページ

日付エレメントの定義

日付エレメントを定義するには、日付コンポーネント (GP_DATE) を使用します。

計算で日付を使用するには、日付エレメントを使用します。また、開始日を取得したり、別の日付を取得するために期間を加算または減算したりして、新しい日付を決める場合も日付エレメントを使用します。

注意: 日付エレメントは、特定の日付を定義する際に使用します。ある日付を別の日付から減算して、それらの日付の間の期間を求める必要がある場合は、日付エレメントでなく、デューレーションエレメントを使用します。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 日付名の定義
- 日付の定義、または既存の日付に基づいた新しい日付の計算を行います。
- エレメント固有の識別子の割り当て

関連項目:

第 7 章、「計算エレメントの定義」、デューレーション エレメントの定義、197 ページ

日付エレメントの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
日付名	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[日付]、[日付名]	エレメント名を付け、基本パラメータを定義します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
日付 - 定義	GP_DATE	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[日付]、[定義]	日付の定義、または既存の日付に基づいた新しい日付の計算を行います。
抽出	GP_DATE_EXTRACT	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[日付]、[抽出]	"日付" の定義ページで入力したエレメントに固有の識別子を割り当て、年、月、日のフィールドの値を個別に、または一緒に再利用できるようにします。

日付名の定義

"日付名" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[日付]、[日付名]) にアクセスします。

全てのエレメントについて、エレメント名共通ページでその名称と基本パラメータを定義してください。グローバル ペイロールでは、全てのエレメントのコンポーネントに、エレメント名共通ページ (GP_PIN) という共通ページが含まれています。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

日付の定義、または既存の日付に基づいた新しい日付の計算

"日付 - 定義" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[日付]、[定義]) にアクセスします。

日付名		定義		抽出	
エレメント名:	OSP DT ELIGIBILITY	OSP Eligibility Date	所有者:	PS 非管理	
<div>定義</div> <div>検索 全件表示 最初 1/1 最後</div>					
*有効日:	1990/01/01	*ステータス:	アクティブ		
日付作成パラメータ					
<input checked="" type="radio"/> 日付指定 <input type="radio"/> 日付作成					
*開始日タイプ:	システム エレメント	*開始日エレメント:	SERVICE DT		
*年入力タイプ:	数値	*日付作成用年の値:	0		
*月入力タイプ:	数値	*日付作成用月の値:	0		
*日入力タイプ:	数値	*日付作成用日の値:	0		
<input type="checkbox"/> 月の最終日を返す					
作成日付の変更パラメータ (オプション - デフォルトは [なし])					
<input type="radio"/> なし <input checked="" type="radio"/> 加算 <input type="radio"/> 減算					
<input type="checkbox"/> 月の最終日を返す					
*計算用年入力タイプ:	数値	*計算用年の値:	0		
*計算用月入力タイプ:	数値	*計算用月の値:	6		
*計算用日入力タイプ:	数値	*計算用日の値:	0		
バージョン:	P_8.00.00.00				

"日付" - 定義ページ

日付指定

日付を指定する場合はこのオプションを選択して、該当する日付を持つエレメントの入力タイプを [開始日タイプ] フィールドに指定します。[開始日] フィールド、または [開始日エレメント] フィールドに、該当する日付、または日付エレメントを定義します。[開始日] フィールドは、[開始日タイプ] フィールドで [カレンダー日] を選択すると表示されます。

日付作成

このオプションを選択すると、選択したエレメントを基にして日付が作成されます。

[日付作成] を選択すると、[年入力タイプ]、[月入力タイプ]、および [日入力タイプ] の各フィールドが使用可能になります。これらのフィールドを使用して、該当する年、月、日を持つエレメントの入力タイプを定義します。右側のフィールドでそれぞれの日付エレメントを指定します。

月の最終日を返す

このチェック ボックスをオンにすると、月の最終日が値として返されます。

このチェック ボックスは、[日付指定] と [日付作成] の両方のオプションで使用できます。このチェック ボックスをオンにすると、指定または作成された日付は、日付の日の部分がその月の最終日に書き換えられます。

作成日付の変更パラメータ (オプション - デフォルトは [なし])**なし**

この日付を使って計算を行う必要がない場合は、このオプションを選択します。日付の値は、上のグループ ボックスで定義した値のままになります。

加算

このオプションを選択すると、[日付作成パラメータ] グループ ボックスで定義した値に加算が行われます。[計算用年入カタイプ]、[計算用月入カタイプ]、および [計算用日入カタイプ] フィールドが利用できるようになり、入カタイプのドロップダウン リストが表示されます。これらの入カタイプ フィールドの右にあるフィールドで、対応するエレメントを指定します。

指定した値が [日付作成パラメータ] グループ ボックスの日付値に加算されます。

減算

このオプションを選択すると、[日付作成パラメータ] グループ ボックスで定義した値に減算が行われます。[計算用年入カタイプ]、[計算用月入カタイプ]、および [計算用日入カタイプ] フィールドが利用できるようになり、入カタイプのドロップダウン リストが表示されます。これらの入カタイプ フィールドの右にあるフィールドで、対応するエレメントを指定します。

指定した値が [日付作成パラメータ] グループ ボックスの日付値から減算され、変換結果の日付値になります。

月の最終日を返す

このチェック ボックスをオンにすると、月の最終日が値として返されます。このオプションは、加算または減算の実行後に適用されます。[日付作成パラメータ] グループ ボックスの [月の最終日を返す] チェック ボックスとは別のレベルで機能します。

例

次の表は、このページの設定に応じて得られる日付値を示しています。

日付指定 /日付作成	入力タイプ、 値	月の最終日 を返す	計算オプ ション	入力タイ プ、値	月の最終日 を返す	変換結果値
日付指定	日付、1999 年 11 月 22 日	オフ	追加	月: 数値、 2	オフ	2000 年 1 月 22 日
日付指定	日付、1999 年 11 月 22 日	オフ	追加	月: 数値、 2 日: 数値、 3	オフ	2000 年 1 月 25 日

エレメント固有の識別子の割り当て

"抽出" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[日付]、[抽出]) にアクセスします。

日付名

定義

抽出

エレメント名:

OSP DT ELIGIBILITY

OSP Eligibility Date

所有者:

PS 非管理

定義

検索 | 全件表示

最初

1/1

最後

有効日:

1990/01/01

ステータス:

アクティブ

+

-

年エレメント:

月エレメント:

OSP VR HIRE MONTH

OSP Hire Month

日エレメント:

抽出ページ

- 年エレメント月エレメント、日エレメント** 必要に応じて、"年"、"月"、および "日" を抽出する変数を選択します。
- たとえば、日付エレメントの変換結果の "年" の値だけが必要だとします。YEAR という変数を作成し、[年エレメント] フィールドで選択します。ここで、日付エレメントが 2008 年 1 月 10 日に変換されるとします。値 2008 が YEAR 変数に格納されます。
- 値がセットされた YEAR 変数は、新しい日付を作成する日付フォーミュラなどで使用することができます。

フォーミュラ エレメントの定義

フォーミュラ エレメントを定義するには、フォーミュラ コンポーネント (GP_FORMULA) を使用します。

このセクションでは、フォーミュラにおけるエレメント ポインタの概要と以下の方法について説明します。

- フォーミュラ名の定義
- 計算で使用するフォーミュラを定義します。
- 端数処理ルールおよびエレメント ポインタ選択の指定
- フォーミュラの表示

フォーミュラにおけるエレメント ポインタについて

フォーミュラを定義する際、フォーミュラを構成する各エレメントの値が変化することは珍しいことではありません。そのため、もしエレメントの特定の時点の特定の値を参照する場合は、構成要素のエレメントの値が変わる度にフォーミュラを変更する必要があります。エレメントの値を参照する代わりに、**エレメント ポインタ**を使ってシステムの識別番号、つまりエレメント番号を参照することができます。エレメント ポインタを使用すると、処理の時点で、エレメントのアレイに格納されている値が取得されます。エレメント番号は一定なので、その値は常に有効値として使用できます。そのため、そのエレメントを使用するフォーミュラも、そのまま継続して使用できます。

バッチ処理の際、**ポインタ**のフィールド フォーマットで定義された変数の値は、PINV アレイのエレメント ポインタ フィールドに格納されます。つまり、エレメント番号だけが保存され、変数エレメントは実際の文字値、数値、日付値には変換されないことになります。

フォーミュラで使用されている変数エレメントのフィールド フォーマットが**ポインタ**ではなく、エレメント属性ページで [エレメント値を使用] オプションが選択されている場合、フォーミュラではエレメントの値が使用されます。

フォーミュラで使用されている変数エレメントのフィールド フォーマットが**ポインタ**ではなく、エレメント属性ページで [エレメント番号を使用] オプションが選択されている場合、フォーミュラではエレメント番号が使用されます。

フォーミュラで使用されている変数エレメントのフィールド フォーマットが**ポインタ**で、エレメント属性ページで [エレメント値を使用] オプションが選択されている場合、フォーミュラではポインタ エレメントが指すエレメントの値が使用されます。

フォーミュラで使用されている変数エレメントのフィールド フォーマットが**ポインタ**で、エレメント属性ページで [エレメント番号を使用] オプションが選択されている場合、フォーミュラではポインタ エレメントの値が使用されます。言い換えると、**ポインタ**のフィールド フォーマットのエレメントに保存される値はエレメント番号なので、フォーミュラではエレメント番号が使用されます。

次の表は、設定によって使用される値をまとめたものです。

フィールド フォーマット	[エレメント値を使用] オプション を選択	[エレメント番号を使用] オプ ションを選択
フィールド フォーマットがポ インタ以外	エレメント値	エレメント番号
フィールド フォーマットがポ インタ	ポインタの値が指すエレメント の値	ポインタの値 (エレメント番号)

例 1

差し押さえを計算するフォーミュラがあります。しかし、差し押さえの計算方法は受給者によって異なります。このフォーミュラでエレメント ポインタを使って、エレメント番号でエレメントを参照するようにすると、受給者ごとの差し押さえ数やタイプに合わせてフォーミュラを記述し直さずに済みます。エレメント ポインタでエレメントを参照すると、そのエレメントの現在の値を取得できるので、このフォーミュラで受給者に合った計算が可能になります。

例 2

あるフォーミュラを使用する前のエレメントの値は、次のとおりとします。

エレメント 番号	エレメント名	エレメント タイプ	フィールド フォーマッ ト	10 進数値	文字値	ポインタ値
1000	V1	変数	10 進数	150		
2000	V2	変数	文字列		ABC	
3000	V3	変数	10 進数	250		
4000	V4	変数	ポインタ			1000

エレメント属性ページで [エレメント値を使用] オプションが選択されているとします。

エレメントのフィールド フォーマットが**ポインタ**でない場合は、フォーミュラではそのエレメントの値が使用されます。このとき、フォーミュラで次のステートメントを使用しているとします。

V1 を V3 に割り当てます。

フォーミュラが変換されると、V3 の値は 150 となります。

エレメントのフィールド フォーマットが**ポインタ**の場合は、フォーミュラではそのポインタが指すエレメントの値が使用されます。このとき、フォーミュラで次のステートメントを使用しているとします。

V4 を V3 に割り当てます。

フォーミュラが変換されると、V3 の値は 150 となります。

V4 をフォーミュラで使用する場合、フォーミュラでは [エレメント値を使用] オプション、または [エレメント番号を使用] オプションが選択されているかどうかを確認されます。この例では、[エレメント値を使用] オプションが選択されています。次に、フィールド フォーマットが**ポインタ**かどうかを確認されます。この例では、フィールド フォーマットは**ポインタ**です。ポインタの値は 1000 です。この 1000 はエレメント番号であり、このエレメント番号は V1 を指しているため、このフォーミュラでは V1 の値 (150) が使用されます。

今度は、エレメント属性ページで [エレメント番号を使用] オプションが選択されているとします。

[エレメント 1] と [エレメント 2] のフィールド フォーマットが**ポインタ**ではない場合は、フォーミュラではエレメント番号が使用されます。このとき、フォーミュラで次のステートメントを使用しているとします。

V2 を V4 に割り当てます。

この場合、エレメント番号が使用されるので、このフォーミュラが変換されると、V4 のポインタ値には 2000 が入ります。

[エレメント 1] と [エレメント 2] のフィールド フォーマットが**ポインタ**の場合は、フォーミュラではポインタ値が使用されます。このとき、フォーミュラで次のステートメントを使用しているとします。

V4 = 2000 かどうか。

V4 のポインタ値 = 2000 なので、この条件は真です。

V2 をフォーミュラで使用する場合、フォーミュラでは [エレメント値を使用] オプション、または [エレメント番号を使用] オプションが選択されているかどうかを確認されます。この例では、[エレメント番号を使用] オプションが選択されています。次に、フィールド フォーマットが**ポインタ**かどうかを確認されます。この例では、フィールド フォーマットはポインタではありません。このため、フォーミュラではエレメント番号 V2 が使用されます。V2 のエレメント番号は 2000 です。したがって、ポインタの値 V4 に 2000 が割り当てられます。

注意: V2 のエレメント番号を使用する場合は、割り当て先のエレメントのフィールド フォーマットはポインタである必要があります。また、[エレメント 1]、[エレメント 2]、および [エレメント 3] の属性ページで [エレメント番号を使用] オプションを選択する必要があります。

関連項目:

第 7 章、「計算エレメントの定義」、フィールド フォーマットについて、 213 ページ

第 7 章、「計算エレメントの定義」、変数エレメントの定義、 213 ページ

フォーミュラ エレメントの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
フォーミュラ名	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[フォーミュラ]、[フォーミュラ名]	エレメント名を付け、基本パラメータを定義します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
フィールド ベース定義	GP_FORMULA1_V2	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[フォーミュラ]、[フィールド ベース定義]	計算で使用するフォーミュラを定義します。 フォーミュラ定義を検証します。
エレメント属性	GP_FORMULA_F1_SEC	フィールド ベース定義 ページで、[エレメント属性] ボタンをクリックします。	端数処理ルール、前回の値の選択、およびエレメント ポインタ選択を、フォーミュラで使用するフィールドに割り当てます。
フォーミュラ - テキスト定義	GP_FORMULA2_V2	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[フォーミュラ]、[テキスト定義]	フォーミュラを表示し、問題がないか確認します。

フォーミュラ名の定義

"フォーミュラ名" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[フォーミュラ]、[フォーミュラ名]) にアクセスします。

全てのエレメントについて、エレメント名共通ページでその名称と基本パラメータを定義してください。グローバル ペイロールでは、全てのエレメントのコンポーネントに、エレメント名共通ページ (GP_PIN) という共通ページが含まれています。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

計算で使用するフォーミュラの定義

"フィールド ベース定義" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[フォーミュラ]、[フィールド ベース定義]) にアクセスします。

フォーミュラ名(E) フィールドベース定義(D) テキスト定義(I)

エレメント名: PEN FM CALC Pensions Formula Calc 所有者: PS 非管理

定義

*有効日: 1990/01/01 *ステータス: アクティブ 検証 検証済

フィールドベース領域

連番: 1

関数: IF 入力タイプ 1: 変数 演算子: <= 入力タイプ 2: システムエレメント

エレメント 1: GP TEMP001 DATE エレメント 2: PERIOD END DATE

カレンダー日付 1: カレンダー日付 2:

文字値 1: 文字値 2:

数値 1: 0.000000 数値 2: 0.000000

バージョン: P_8.80.00.00

フィールドベース定義ページ (1/5)

連番: 1

関数: IF 入力タイプ 1: 変数 演算子: <= 入力タイプ 2: システムエレメント

エレメント 1: GP TEMP001 DATE エレメント 2: PERIOD END DATE

カレンダー日付 1: カレンダー日付 2:

文字値 1: 文字値 2:

数値 1: 0.000000 数値 2: 0.000000

フィールドベース定義ページ (2/5)

連番:
3

関数:
ELSE

入力タイプ 1:
数値

演算子:
*

入力タイプ 2:
数値

割当先タイプ:

要素 1:

カレンダー日付 1:
文字値 1:
数値 1:
10000.000000

要素 2:

カレンダー日付 2:
文字値 2:
数値 2:
0.100000

割当先要素:

連番:
4

関数:

入力タイプ 1:

演算子:
+

入力タイプ 2:

割当先タイプ:

要素 1:

カレンダー日付 1:
文字値 1:
数値 1:
0.000000

要素 2:

カレンダー日付 2:
文字値 2:
数値 2:
0.000000

割当先要素:

フィールドベース定義ページ (3/5)

連番: 5					+ -
関数:	入力タイプ 1:	演算子:	入力タイプ 2:	割当先タイプ:	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
要素 1:	要素 2:		割当先要素:		
<input type="text"/>	<input type="text"/>		<input type="text"/>		
カレンダー日付 1:	カレンダー日付 2:				
<input type="text"/>	<input type="text"/>				
文字値 1:	文字値 2:				
<input type="text"/>	<input type="text"/>				
数値 1:	数値 2:				
<input type="text"/>	<input type="text"/>				
	0.000000				0.000000

連番: 6					+ -
関数:	入力タイプ 1:	演算子:	入力タイプ 2:	割当先タイプ:	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
要素 1:	要素 2:		割当先要素:		
<input type="text"/>	<input type="text"/>		<input type="text"/>		
SALARY 1					
カレンダー日付 1:	カレンダー日付 2:				
<input type="text"/>	<input type="text"/>				
文字値 1:	文字値 2:				
<input type="text"/>	<input type="text"/>				
数値 1:	数値 2:				
<input type="text"/>	<input type="text"/>				
	0.000000				10000.000000

フィールドベース定義ページ (4/5)

連番: 20					+ -
関数:	入力タイプ 1:	演算子:	入力タイプ 2:	割当先タイプ:	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
THEN			数値	フォーミュラ	
要素 1:	要素 2:		割当先要素:		
<input type="text"/>	<input type="text"/>		<input type="text"/>		
カレンダー日付 1:	カレンダー日付 2:				
<input type="text"/>	<input type="text"/>				
文字値 1:	文字値 2:				
<input type="text"/>	<input type="text"/>				
数値 1:	数値 2:				
<input type="text"/>	<input type="text"/>				
	0.000000				1.000000

連番: 21					+ -
関数:					
<input type="text"/>					
ENDIF					

バージョン: P_880.00.00

フィールドベース定義ページ (5/5)

フォーミュラの作成

[フィールド ベース領域] グループ ボックスで、行ごとに演算や結果を指定して、フォーミュラを作成します。

関数	フォーミュラの関数のタイプ、または修飾子のタイプを選択します。オプションには、[And]、[Average]、[Else]、[Endif]、[Exit]、[If]、[In]、[Maximum]、[Minimum]、[Or]、[Sum]、[Then]、および [コメント] があります。
((左かっこ)	フォーミュラの計算処理をグループ化する場合、オンにします。このチェック ボックスをオンにする場合は、[]) チェック ボックスもオンにする必要があります。かっこを使用してフォーミュラの計算処理をグループ化することにより、計算の順序を指定できます。
入力タイプ 1、入力タイプ 2、エレメント 1、エレメント 2、カレンダー日付 1、カレンダー日付 2、文字値 1、文字値 2、数値 1、数値 2	演算で使用するフィールドの入力タイプを選択します。入力タイプとして [日付]、[カレンダー日]、[文字列]、または [数値] を選択した場合は、対応する "日付値"、"文字値"、または "数値" フィールドに値を入力してください。その他の入力タイプを選択すると、対応する "エレメント" フィールドにプロンプト ビューが作成され、適切なエレメントを検索して指定することができます。
詳細	このアイコンをクリックすると、"エレメント N の属性" ページにアクセスします。このページで、端数処理ルール、前回の値の選択、およびエレメント ポインタ選択を、フォーミュラで使用するフィールドに割り当てます。"エレメント N の属性" ページで追加情報を入力すると、入力タイプ フィールドの右にあるチェック ボックスがオンになります。
演算子	入力したオペランドに対して実行する演算子を選択します。次の標準的な演算子を使用できます。空欄にするか、[-]、[*]、[/]、[+]、[<]、[<=]、[<>]、[=]、[>]、および [>=] から選択します。
) (右かっこ)	フォーミュラの計算処理をグループ化する場合、オンにします。このチェック ボックスをオンにする場合は、[(] チェック ボックスもオンにする必要があります。かっこを使用してフォーミュラの計算処理をグループ化することにより、計算の順序を指定できます。

**割当先タイプおよび割当先
エレメント**

エレメントに値を割り当てるには、先に入力タイプを指定してからエレメントを選択します。

たとえば、基礎年金額を定義する BASIC PENSION という名前のフォーミュラがあるとします。このエレメントは、フォーミュラがどのように変換されるかによって 1000 または 1200 に変換されます。エレメント BASIC PENSION に 1000 または 1200 の値を持たせるには、このフォーミュラの [エレメント 3] に BASIC PENSION を指定する必要があります。[エレメント 3] に指定すると、BASIC PENSION エレメントは、支給エレメントまたは控除エレメントとして使用することができ、これらの値を持つことになります。

このフォーミュラ エレメントの機能を有効にするには、有効日を指定してフォーミュラを保存する必要があります。

注意: カッコの中にも複数のセットのカッコを入力できます。この操作を行うには、複数の行を入力します。1 行につき、1 つの [(] または [)] しか指定できません。

フォーミュラの検証

フォーミュラを定義した後は、そのフォーミュラを保存し、構文を検証してフォーミュラを編集します。フォーミュラを変更した場合は常に、検証作業を行います。

確認

このボタンをクリックすると、フォーミュラの検証が行われます。フォーミュラの検証を行うと、フォーミュラが自動的に保存されます。

検証済

[検証] ボタンをクリックして、フォーミュラの検証に問題がなかった場合、このチェック ボックスがオンになります。

注意: フォーミュラの変更後に検証処理を行わないまま、そのフォーミュラを使用しているプロセスを実行すると、エラーが発生します。[検証] ボタンをクリックする前にページを保存します。ページはいつでも保存できますが、[検証] ボタンをクリックするまで、データベースに対する検証処理は行われません。[検証] ボタンをクリックすると、フォーミュラの検証と保存が行われます。

例: フォーミュラの設定

フォーミュラ エレメントを使用すると、数学演算子、論理演算子、ルール、および数式を使ってエレメントを作成できます。

この例では、年金控除を計算する簡単なフォーミュラを作成します。フォーミュラの要件は、次のとおりです。

- 基本給与 (basic comp) が 10,000 ドル未満の場合は、基本給与の 1% の年金控除 (pension) が適用されます。
- 基本給与が 10,000 ドル以上の場合は、10,000 ドルに対して 1%、その残額に対して 2% の控除が適用されます。

計算は全て、基本給与を使って行われます。このフォーミュラの変換結果が年金控除額となります。

まず、この計算内容を数式に置き換えます。

```
If BASE COMP < 10,000, then
  BASE COMP * .10 = PENSION,
else
  (10,000 * .01) + ((BASE COMP - 10,000) * .02) = PENSION
Endif
```

フォーミュラは、さまざまな方法で表すことができます。処理を能率的に行うには、最小限の処理しか必要としない最も単純なパターンを使用します。

計算内容を数式に置き換えたら、フォーミュラを入力します。エレメントの定義と基本情報の入力をまだ行っていない場合は、フォーミュラ名ページで行います。次に、フィールド ベース定義ページでフォーミュラを 1 行ずつ定義します。

次の表に従って、年金フォーミュラを入力します。

連番	機能	(エレメント 1	演算子	エレメント 2)	エレメント 3
1	If		BASE COMP	<	10,000		
2	Then		BASE COMP	*	.10		PENSIO N
3	Else	(10,000	*	.01)	

連番	機能	(エレメント 1	演算子	エレメント 2)	エレメント 3
4				+			
5		(
6		(BASE COMP	-	10,000)	
7				*	.02)	PENSIO N
8	Endif						

注意: If ステートメントは必ず Endif で終わる必要があります。

各エレメント名は、適切な入力タイプに関連付けられている必要があります。たとえば、最初の行では、エレメント 1 (BASE COMP) は、システム エレメントの入力タイプに関連付けられています。エレメント 2 (10,000) は、数値の入力タイプに関連付けられています。

テキスト定義ページにアクセスすると、フォーミュラ定義を確認することができます。フォーミュラを定義したら、フィールドベース定義ページの [検証] ボタンをクリックして、フォーミュラの検証を行います。

関連項目:

[第 7 章、「計算エレメントの定義」、フォーミュラにおけるエレメント ポインタについて、223 ページ](#)

端数処理ルールおよびエレメント ポインタ選択の指定

"エレメント属性" ページにアクセスします ("フォーミュラ - フィールド ベース定義" ページで [エレメント属性] ボタンをクリックします)。

フォーミュラ

エレメント 1 属性

エレメント 1:

GP PRD END DT EXTR

期間終了日抽出

値/ポイント選択

☒ エレメント値を使用

☐ エレメント番号を使用

前回の値の選択

☐ 前回の計算値を使用

エレメント属性ページ

端数処理ルール エレメント

フォーミュラ名ページで選択したエレメントのフィールド フォーマットが [金額]、[10 進数]、または [ポイント] の場合は、検索結果リストから端数処理ルールを選択します。このフィールドは、これらのフィールド フォーマットのエレメントでのみ表示されます。

端数処理ルールは、入力したオペランドに対してのみ適用されます。エレメント自体は更新されません。影響があるのは計算だけです。

値/ポイント選択

以下のフィールドを使用して、フォーミュラのエレメント ポインタを定義します。

- エレメント値を使用

このオプションを選択すると、計算でエレメントの値が使用されます。
- エレメント番号を使用

デフォルト値は [エレメント値を使用] です。エレメントの番号を使用するフォーミュラを作成することもできます。

このオプションを選択すると、現在の値ではなくシステムの識別番号、つまりエレメント番号を使用してエレメントが参照されます。

たとえば、差し押さえを計算するフォーミュラがあるとします。しかし、差し押さえの計算方法は受給者によって異なります。このフォーミュラでエレメント ポインタを使って、エレメントの識別番号でエレメントを参照するようにすると、受給者ごとの差し押さえの数やタイプに合わせてフォーミュラを記述し直さずに済みます。エレメント ポインタでエレメントを参照すると、そのエレメントの現在の値を取得できるので、このフォーミュラで受給者に合った計算が可能になります。
- Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.
- 235

前回の値の選択

前回の計算値を使用

前回計算した値を使用する場合は、このチェック ボックスをオンにします。

フォーミュラの表示

"フォーミュラ - テキスト定義" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[フォーミュラ]、[テキスト定義]) にアクセスします。

フォーミュラ名(E)		フィールドベース定義(D)		テキスト定義(T)	
エレメント:	PEN FM CALC	Pensions Formula Calc	所有者:	PS 非管理	
<div>定義</div> <div>検索 全件表示 最初 1/1 最後</div>					
有効日:	1990/01/01	ステータス:	アクティブ	<input type="button" value="行ごとにテキストを表示"/>	
<div>フォーミュラ テキスト</div> <pre> IF VR[GP TEMP001 DATE] <= SY[PERIOD END DATE] AND VR[GP TEMP002 DATE] >= SY[PERIOD BEGIN DATE] THEN (AC[GBR AC PENBL SEG] * (VR[PEN VR EE PCTG] / 100)) + VR[PEN VR EE AMT] >> VR[GP TEMP001 NUM] VR[GP TEMP001 NUM] + VR[PEN VR RESULT] >> VR[PEN VR RESULT] (AC[GBR AC PENBL SEG] * (VR[PEN VR ER PCTG] / 100)) + VR[PEN VR ER AMT] >> VR[GP TEMP002 NUM] VR[GP TEMP002 NUM] + VR[PEN VR ER RESULT] >> VR[PEN VR ER RESULT] 0 >> FM[PEN FM CALC] EXIT ENDIF /* STOP THE FORMULA WHEN ALL CORRECT ROWS ARE RETRIEVED. ORDER DESC MADE BASED ON END DATE. */ IF VR[GP TEMP002 DATE] < SY[PERIOD BEGIN DATE] THEN 1 >> FM[PEN FM CALC] ENDIF </pre>					
バージョン:	P_880.00.00				

テキスト定義ページ

テキスト定義ページを使用して、フィールドベース定義ページで作成したフォーミュラを確認します。誤りがある場合は、"フォーミュラ - フィールド ベース定義" ページに戻ってフォーミュラを修正します。

行ごとにテキストを表示

フィールドベース定義ページで作成したフォーミュラのテキストを、入力したとおり 1 行ずつ表示する場合にクリックします。

これは、エラーのあるフォーミュラをトラブルシューティングする際に便利です。SaveEdit により生成されたエラーが、テキスト内、およびページの下に表示されるエラー メッセージで特定されます。

注意: 行ごとに表示される場合、各行の先頭には行番号が表示され、表示されるフォーミュラ テキストの行に合わせてエラーの場所が更新されます。

メッセージ エLEMENTの定義

メッセージ エLEMENTは、フォーミュラ エLEMENTと密接に関連しています。メッセージ エLEMENTを十分に理解するためには、フォーミュラのセクションを読んだ後にこのセクションを読んでもください。

このセクションでは、メッセージ エLEMENTの定義方法について説明します。

注意: メッセージ エLEMENTはシステム データの中に用意されているため、メッセージ エLEMENTを定義する特定のオンライン ページはありません。

フォーミュラでメッセージ エLEMENTを参照することにより、バッチ処理で出力されるエラーメッセージを管理できます。メッセージ エLEMENTによって、エラー メッセージ テーブル PS_GP_MESSAGES にエラー メッセージを書き込むプログラムが呼び出されます。また、その後で支給をエラーにすることもできます。

PS_GP_MESSAGES テーブルのフィールドの多くは、自動的にロードされます。その他のフィールドは、バッチ処理の際にデータがロードされます。これらのフィールド値をフォーミュラの構成要素として使用すると、バッチ処理中に独自のメッセージやエラーの条件を作成できます。

自動的にロードされないフィールドに値をロードするために、以下の構成要素やプロセスが用意されています。

- **ポインタ**のフィールド フォーマットを持つ、5 つのシステム エLEMENT (MSG_BIND1_PTR ~ MSG_BIND5_PTR)

これらのポインタは、エラー メッセージで使用するパラメータを指し示します。

- 10 進数のフィールド フォーマットを持つ、5 つのシステム エlement
(MSG_BIND1_NM_IND ~ MSG_BIND5_NM_IND)

MSG_BINDx_NM_IND の値が 0 の場合、MSG_BINDx_PTR Element が指し示す Element 名が受給者メッセージのページに表示されます。それ以外の場合は、MSG_BINDx_PTR Element が指し示す Element 値が表示されます。

- メッセージ番号とメッセージ セット番号のための、10 進数のシステム Element
(MSG_NBR および MSG_SET_NBR)

- 計算をエラーにする、10 進数のシステム Element (MSG_PAYMENT_ERR)

このシステム Element の値が 0 以外の場合、その計算はエラーになります。

- エラー メッセージ Element タイプ

この Element タイプを持つ Element は、GP_PIN_NM テーブル内で 1 つだけ (MSG_PIN) です。フィールド フォーマットは **10 進数**です。[再計算] チェック ボックスをオフにする必要があります。この入力タイプは、フィールド ベース定義ページの Element 1 および Element 2 でのみ使用できます。バッチ処理中にこのメッセージ (フォーミュラ) Element が表示された場合は、指定されたメッセージ ID とパラメータに対応した PS_GP_MESSAGES テーブルの行が挿入されます。エラーがない場合は、MSG_PIN Element の値は 0 です。エラーが発生した場合は、MSG_PIN Element の値は 1 になります。この Element タイプを使用する主な理由は、ユーザー エラーを呼び出す必要があることをバッチ処理で認識できるようにすることです。バッチ処理では、その値は参照されません。

エラー メッセージに関連する全てのシステム Element は、空白またはゼロにリセットされます。

注意: フォーミュラ Element を使用する場合にのみ、ユーザー独自のエラー メッセージを作成できます。

例

次の表は、フォーミュラ Element の設定の例 (フォーミュラ定義の一部) です。

連番	機能	Element 1	演算子	Element 2	Element 3
1	If	XXXXXX	=	YYYYY	
2	Then (エラーの場合)			17005	MSG_SET_NBR

連番	機能	エレメント 1	演算子	エレメント 2	エレメント 3
				1015	MSG_NBR
3				ELEMENT_A (エレメント番号を使用)	MSG_BIND1_PTR (エレメント番号を使用)
4				ELEMENT_B (エレメント番号を使用)	MSG_BIND2_PTR (エレメント番号を使用)
5				1	MSG_BIND1_NM_IND
6				1	MSG_PAYMENT_ERR
7	If	MESS_AGE	=	0	
8	...				

次の表は、上の表で記述したフォーミュラの説明です。

連番	説明
1	フォーミュラの標準の式です。
2, 3	エラー メッセージ番号をシステム エレメント MSG_NBR と MSG_SET_NBR に割り当てます。
3	ELEMENT_A (エラーになっているエレメント) のエレメント番号を MSG_BIND1_PTR のポインタ値に割り当てます。

連番	説明
4	ELEMENT_B (エラーになっているエレメント) のエレメント番号を MSG_BIND2_PTR のポインタ値に割り当てます。
5	値 1 を MSG_BIND1_NM_IND に割り当て、ELEMENT_A にエレメント番号が含まれていることを示します。MSG_BIND2_NM_IND には値が割り当てられていないため、エレメント値として表示されます。
6	値 1 をエレメント MSG_PAYMENT_ERR に割り当て、支給ステータスをエラーにします。
7	MSG_PIN エレメントを使って、このエレメントタイプの変換プログラムを呼び出します。

注意: システムでは、各インジケータを確認してその数値がエレメント番号かどうかを判断します。これによりフォーミュラ メッセージ プログラムでは、その値をそのままにするか、エレメントの値を取得するのかが認識されます。値をそのままにすると、エレメント名がオンライン メッセージのページに表示されることになります。

関連項目:

第 7 章、「計算エレメントの定義」、フォーミュラ エレメントの定義、223 ページ

端数処理ルール エレメントの定義

端数処理ルール エレメントを定義するには、端数処理ルール コンポーネント (GP_ROUNDING) を使用します。

このセクションでは、端数処理ルール エレメントの概要と以下の方法について説明します。

- 端数処理ルール エレメント名の定義
- 数値の端数処理方法を定義します。

端数処理ルール エLEMENTについて

計算を実行して数値に変換する際、その値の端数进行处理する必要がある場合があります。端数処理された値は、保存され後続の計算で使用されます。端数処理を使用すると、あらかじめ定義されたルールに従って、値を自動的に変更することができます。

端数処理ルール ELEMENTを定義すると、システム全体でほかのELEMENTに適用して端数処理の方法を指定することが可能になります。

注意: システムの特定の機能に、多くの端数処理ルールが適用されています。これについては、この PeopleBook の該当する機能についてのセクションで説明されています。ここでは、端数処理ルール ELEMENTの一般的な機能だけを説明します。

端数処理対象の位の例

次の表は、"端数処理ルール" の定義ページで [端数処理] を選択すると、どのように端数処理が行われるかを表しています。

端数処理後の有効桁 (位)	オプション	端数処理前の値	端数処理後の値
小数二位	切捨て	123.454999	123.450000
	切捨て	123.455000	123.450000
	切捨て	123.450001	123.450000
	切捨て	123.450000	123.450000
	切上げ	123.454999	123.460000
	切上げ	123.455000	123.460000
	切上げ	123.450001	123.460000
	切上げ	123.450000	123.450000

端数処理後の有効桁 (位)	オプション	端数処理前の値	端数処理後の値
	4 以上は切り上げ、未満は切り捨て	123.454999	123.460000
	4 以上は切り上げ、未満は切り捨て	123.455000	123.460000
	4 以上は切り上げ、未満は切り捨て	123.450001	123.450000
	4 以上は切り上げ、未満は切り捨て	123.450000	123.450000
一の位	切捨て	123.499999	123.000000
	切捨て	123.500000	123.000000
	切捨て	123.000001	123.000000
	切捨て	123.000000	123.000000
	切上げ	123.499999	124.000000
	切上げ	123.500000	124.000000
	切上げ	123.000001	124.000000
	切上げ	123.000000	123.000000
	4 以上は切り上げ、未満は切り捨て	123.499999	124.000000
	4 以上は切り上げ、未満は切り捨て	123.500000	124.000000

端数処理後の有効桁 (位)	オプション	端数処理前の値	端数処理後の値
	4 以上は切り上げ、未満は切り捨て	123.000001	123.000000
	4 以上は切り上げ、未満は切り捨て	123.000000	123.000000
十の位	切捨て	124.999999	120.000000
	切捨て	125.000000	120.000000
	切捨て	120.000001	120.000000
	切捨て	120.000000	120.000000
	切上げ	124.999999	130.000000
	切上げ	125.000000	130.000000
	切上げ	120.000001	130.000000
	切上げ	120.000000	120.000000
	4 以上は切り上げ、未満は切り捨て	124.999999	130.000000
	4 以上は切り上げ、未満は切り捨て	125.000000	130.000000
	4 以上は切り上げ、未満は切り捨て	120.000001	120.000000
	4 以上は切り上げ、未満は切り捨て	120.000000	120.000000

増分による端数処理の例

次の表は、"端数処理ルール" の定義ページで [増分] を選択すると、どのように端数処理が行われるかを表しています。

増分	オプション	端数処理前の値	端数処理後の値
25	切捨て	137.499999	125.000000
	切捨て	137.500000	125.000000
	切捨て	150.000001	150.000000
	切捨て	150.000000	150.000000
	切上げ	137.499999	150.000000
	切上げ	137.500000	150.000000
	切上げ	150.000001	175.000000
	切上げ	150.000000	150.000000
	12.4 以上は切り上げ、未満は切り捨て	137.499999	150.000000
	12.4 以上は切り上げ、未満は切り捨て	137.500000	150.000000
	12.4 以上は切り上げ、未満は切り捨て	150.000001	150.000000
	12.4 以上は切り上げ、未満は切り捨て	150.000000	150.000000
2.5	切捨て	137.499999	135.000000

増分	オプション	端数処理前の値	端数処理後の値
	切捨て	137.500000	137.500000
	切捨て	150.000001	150.000000
	切捨て	150.000000	150.000000
	切上げ	137.499999	137.500000
	切上げ	137.500000	137.500000
	切上げ	150.000001	152.500000
	切上げ	150.000000	150.000000
	1.25 以上は切り上げ、未満は切り捨て	137.499999	137.500000
	1.25 以上は切り上げ、未満は切り捨て	137.500000	137.500000
	1.25 以上は切り上げ、未満は切り捨て	150.000001	150.000000
	1.25 以上は切り上げ、未満は切り捨て	150.000000	150.000000

端数処理ルール エレメントの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
端数処理名	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[端数処理ルール]、[端数処理名]	エレメント名を付け、基本パラメータを定義します。
端数処理ルール - 定義	GP_ROUND_RULE	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[端数処理ルール]、[定義]	数値の端数処理方法を定義します。

端数処理ルール名の定義

"端数処理ルール - 端数処理名" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[端数処理ルール]、[端数処理名]) にアクセスします。

全てのエレメントについて、エレメント名共通ページでその名称と基本パラメータを定義してください。グローバル ペイロールでは、全てのエレメントのコンポーネントに、エレメント名共通ページ (GP_PIN) という共通ページが含まれています。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

数値の端数処理方法の定義

"端数処理ルール - 定義" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[端数処理ルール]、[定義]) にアクセスします。

端数処理名

定義

エレメント名:

GBR RR ROUNDUP ODP Round Up 0 decimal places

所有者:

PS 非管理

定義

検索 | 全件表示 最初 1/1 最後

*有効日:

1990/01/01

*ステータス:

アクティブ

☒ 端数処理

☐ 増分

有効桁 (位):

0

x.000000

☐ 指定値以上は切上、未満は切捨

端数処理調整数:

5

☒ 切上げ

☐ 切捨て

端数処理サンプル:

端数処理結果 (指定値切上げ):

0.000000

端数処理結果 (切上げ):

0.000000

端数処理結果 (切捨て):

0.000000

バージョン:

P_8.00.00.00

端数処理ルール - 定義ページ

- 端数処理

一般的な端数処理ルールを使用する場合、このオプションを選択します。
- 増分

端数処理の増分を指定する場合、このオプションを選択します。
このオプションを選択すると、[増分] フィールドが表示されます。
このフィールドに増分の値を定義します。
- 有効桁 (位)

このフィールドは、[端数処理] オプションを選択すると表示されます。検索結果リストから有効桁 (位) を選択します。値は一の位から千億の位まで、または小数一位から小数五位までです。

ページの右下の [端数処理サンプル] フィールド、および端数処理結果のフィールドで、それぞれの端数処理の実行例を確認することができます。

指定値以上は切上、未満は切捨	<p>このオプションを選択すると、結果の端数の値が [端数処理調整数] フィールドに入力された値以上の場合に、入力された桁数や位に基づいて切り上げられます。端数がこの値未満の場合、結果は切り捨てられます。</p> <p>端数処理調整数のデフォルト値は 5 です。</p> <p>[端数処理] オプションを選択した場合、[端数処理調整数] フィールドに指定できるのは 1 桁だけです。[増分] オプションを選択した場合は、8 桁までの値を指定できます。[端数処理調整数] の値は、[有効桁 (位)] の位の右側の位に対して適用されます。たとえば、百の位に端数処理をする場合、十の位の桁が参照されます。</p>
切り上げ	<p>このオプションを選択すると、入力された位に基づいて端数が切り上げられます。指定された [有効桁 (位)] の右側の値がゼロより大きい場合に、切り上げられます。次の位だけでなく、それ以下の残りの位も全てチェックされます。</p>
切り捨て	<p>このオプションを選択すると、入力された位に基づいて端数が切り捨てられます。指定された [有効桁 (位)] の右側の位の数値が全てゼロに変わり、切り捨てられます。</p>
端数処理サンプル	<p>値を入力すると、このページで指定した設定に基づいてどのように端数処理が行われるかを確認できます。</p>

カウント エレメントの定義

カウント エレメントを定義するには、カウント コンポーネント (GP_COUNT) を使用します。

このセクションでは、カウント エレメントの概要とカウント エレメントの定義方法について説明します。

カウント エレメントについて

特定の期間の予定勤務日数または予定勤務時間数を計算する処理が必要な場合があります。この目的のためにカウント エレメントを使用できます。カウント エレメントは、主として比例配分の計算に使用されますが、このほかの状況で使用することもできます。

カウント エレメントを定義する際は、既にカウント フォーミュラとして定義されているフォーミュラを関連付けます。つまり、予定勤務日数または予定勤務時間数を集計するフォーミュラを定義しておき、次に "カウント" の定義ページでそのフォーミュラを関連付けます。関連付けられたフォーミュラは、カウント フォーミュラとして処理されます。

カウント エレメントでは、各受給者に関連付けられた勤務スケジュールを参照して、正しい勤務日数を集計します。それぞれの日の勤務スケジュールの確認が終了すると、分割またはスライスのサブ期間に対する日数や時間数が集計されます。

フォーミュラは、勤務スケジュールの期間内のそれぞれの日に対して変換されます。それぞれの日の単位数を返すフォーミュラを設定します。カウント プログラムにより、フォーミュラの結果が累積されます。カウント エレメントが比例配分ルール エレメントから呼び出されると、カウントする期間は比例配分ルール エレメントの期間になります。カウント フォーミュラが比例配分ルール エレメントで呼び出されない場合は、カウントする期間はセグメントの期間になります。

カウント フォーミュラの簡単な例に、GP COUNT WORK DAYS があります。

```
If SCHED HRS>0 Then
GP TRUE => GP COUNT WORK DAYS
Else
GP FALSE => GP COUNT WORK DAYS
Endif
```

関連項目:

[第 7 章、「計算エレメントの定義」、比例配分ルールの定義、 251 ページ](#)

[第 7 章、「計算エレメントの定義」、フォーミュラ エレメントの定義、 223 ページ](#)

[第 13 章、「スケジュールの使い方」、勤務スケジュールについて、 473 ページ](#)

[第 32 章、「分割の定義」、 1189 ページ](#)

カウント エレメントの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
カウント名	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[カウント]、[カウント名]	エレメント名を付け、基本パラメータを定義します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
カウント - 定義	GP_COUNT	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[カウント]、[定義]	カウント エレメントを定義します。このページを使用して、既存のカウント フォーマーミュラを選択します。

関連項目:

[第 7 章、「計算エレメントの定義」、フォーマーミュラ エレメントの定義、 223 ページ](#)

カウント エレメント名の定義

"カウント名" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[カウント]、[カウント名]) にアクセスします。

全てのエレメントについて、エレメント名共通ページでその名称と基本パラメータを定義してください。グローバル ペイロールでは、全てのエレメントのコンポーネントに、エレメント名共通ページ (GP_PIN) という共通ページが含まれています。

関連項目:

[第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ](#)

カウントの定義

"カウント - 定義" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[カウント]、[定義]) にアクセスします。

カウント名		定義	
エレメント名:	GP WORK DAY COUNT	労働日数	所有者: PS 管理
定義		検索 全件表示 最初 1/1 最後	
有効日:	1990/01/01	ステータス:	アクティブ
カウント フォーミュラ:	GP COUNT WORK DAYS	労働日数	
バージョン:	8.00.00.00		

"カウント" - 定義ページ

カウント フォーミュラ カウント処理を実行するフォーミュラ名を入力します。

<フォーミュラ名> リンク [カウント フォーミュラ] フィールドの隣のリンクをクリックすると、フォーミュラ定義ページにアクセスします。

比例配分ルール of 定義

比例配分ルールを定義するには、比例配分ルール コンポーネント (GP_PRORATION) を使用します。

このセクションでは、比例配分ルールの概要と、分子および分母の定義方法について説明します。

比例配分ルールについて

比例配分ルールは、分割か、または PRORATE というシステム エLEMENT と共に使用して呼び出します。比例配分ルールの分子および分母として使用する値を定義します。比例配分ルールを適用すると、分子が金額と掛け合わされ、その結果が分母で割られます。

比例配分ルールは、支給、控除、または周期ベースの休暇付与の各ELEMENTで使用できます。比例配分は、ELEMENTの金額、ベース、またはユニットの各コンポーネントにのみ適用されます。"支給グループ" のデフォルト ページで、デフォルトの比例配分ルールを割り当てることができます。

支給、控除、または周期ベースの休暇付与の各ELEMENTを定義する場合、比例配分について、以下の 3 つの選択肢があります。

- 分割の有無にかかわらず、比例配分を行わない。

- 支給グループの比例配分ルールを使用する。
- 特定の比例配分ルールを指定する。

分母のスケジュールの例

"比例配分ルール" の定義ページにある [分母のスケジュール] グループ ボックスで、どの勤務スケジュールを分母の計算に含めるのかを指定します。ある受給者には、以下の 2 つの勤務スケジュールがあるとします。

- 勤務スケジュール A: 週に 5 日
- 勤務スケジュール B: 週に 3 日

また、2 月はちょうど 4 週間あり、比例配分ルールは勤務日数を使用するように定義されているとします。

- この受給者に勤務スケジュール A しかない場合、分母は 20 (5 日 × 4 週) となります。
- 受給者に勤務スケジュール B しかない場合、分母は 12 (3 日 × 4 週) となります。
- 最初の 2 週間は勤務スケジュール A、次の 2 週間は勤務スケジュール B の場合、使用される分母は以下ようになります。
 - 期間終了日時点の勤務スケジュールを使用する場合、12 (3 日 × 4 週)。
 - 両方 (全て) の勤務スケジュールを使用する場合、16 ((5 日 × 2 週) + (3 日 × 2 週))。

注意: 比例配分エレメントを定義すると、比例配分名ページの [常時再計算] チェック ボックスが自動的にオンになります。これにより、エレメント分割が行われる際には、比例配分係数が適切に計算されるようになります。

比例配分ルールの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
比例配分名	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[比例配分ルール]、[比例配分名]	エレメント名を付け、基本パラメータを定義します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
比例配分ルール - 定義	GP_PRORATION	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[比例配分ルール]、[定義]	比例配分係数を構成する分子と分母を定義します。

比例配分ルール エレメント名の定義

"比例配分名" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[比例配分ルール]、[比例配分名]) にアクセスします。

全てのエレメントについて、エレメント名共通ページでその名称と基本パラメータを定義してください。グローバル ペイロールでは、全てのエレメントのコンポーネントに、エレメント名共通ページ (GP_PIN) という共通ページが含まれています。

関連項目:

[第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ](#)

分子と分母の定義

"比例配分ルール - 定義" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[比例配分ルール]、[定義]) にアクセスします。

比例配分名

定義

エレメント名:

KOPO CAL

Calendar days

所有者:

PS 非管理

定義

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

*有効日:

1990/01/01

*分子入力タイプ:

カウント

*分母入力タイプ:

変数

*ステータス:

アクティブ

*分子エレメント:

KOCT CAL DAY

*分母エレメント:

KOVR 30

分母のスケジュール

☐ セグメントの最新のスケジュール

☒ セグメントの全てのスケジュール

バージョン:

8.00.00.00

比例配分ルール - 定義ページ

分子入力タイプ、分母入力タイプ、分子エレメント、分母エレメント

分子 (スライス期間) と分母 (支給期間全体) を定義するエレメントのタイプを選択します。有効値は、[変数]、[累計]、[カウント]、[デュレーション]、および [フォーミュラ] です。

各入力タイプフィールドの右にある [分子エレメント] フィールド、または [分母エレメント] フィールドにエレメント名を入力します。

比例配分ルール の定義では、通常、カウントのエレメントタイプを使用します。たとえば、カウント エレメントを定義して、支給期間内の予定勤務日数や予定勤務時間を計算することができます。受給者データに対して分割が発生する場合、スライス期間 (スライスがない場合はセグメントの期間) に対するカウント エレメントが変換され、その値が分子として使用されます。また、期間全体に対するカウント エレメントも変換され、その値が分母として使用されます。

カレンダー日数を集計する場合は、デュレーション エレメントを使用します。カウント エレメントを使用することもできますが、1 日ごとに値が戻されるので、デュレーション エレメントを使用した方がパフォーマンスが向上します。分子には、スライスの開始日から終了日までの間のデュレーションでカレンダー日数を計算して使用します。分母には、期間の開始日から終了日までの間のカレンダー日数を計算するデュレーション エレメントを使用します。

カレンダー期間の実際の日数に関係なく、一定の値を使いたい場合には、変数を使います。たとえば、月ごとに支給を行う場合、月によってカレンダー日数が変化しますが、この変動を無視したいとします。この場合、値 30.00 で変数を作成し、これを分母として使用することができます。

分母のスケジュール

以下のフィールドを使用して、どの勤務スケジュールを分母の計算に含めるのかを指定します。

セグメントの最新のスケジュール

このオプションを選択すると、そのセグメントの最新のスケジュールが使用されます。

セグメントの全てのスケジュール

このオプションを選択すると、そのセグメントの全てのスケジュールが使用されます。

ジェネレーション コントロール エLEMENTの定義

ジェネレーション コントロール エLEMENTを定義するには、ジェネレーション コントロール コンポーネント (GP_GCTL_CONDITION) を使用します。

このセクションでは、ジェネレーション コントロール エLEMENTの概要と以下の方法について説明します。

- バッチ処理における特定のELEMENT条件の定義
- 対象、または除外にする従業員ステータス条件の定義
- 対象、または除外にする異動区分/理由コードの組み合わせの定義
- 対象、または除外にする周期コードの定義
- 対象、または除外にするセグメント ステータス条件の定義
- 対象、または除外にするフォーミュラ ELEMENTの定義
- 対象、または除外にする実行タイプの定義

ジェネレーション コントロール ELEMENTについて

ELEMENTの基本処理では、受給者データが処理されるたびにELEMENTが変換されます。ただし、常に受給者全てに対してELEMENTを変換する必要がない場合もあります。

ジェネレーション コントロール ELEMENTでは、バッチ処理で受給者のELEMENTを変換するかどうかを、さらに細かくコントロールすることができます。ジェネレーション コントロール ELEMENTを使うと、あらかじめ定義した条件に基づいて、ELEMENTを変換するかどうかをシステムに認識させることができます。

以下の 6 つのパラメータを使用して、ジェネレーション コントロール ELEMENTを定義します。

- HR ステータス
- 異動区分/理由
- セグメント ステータス
- 周期
- フォーミュラ

- 実行タイプ

上記のコントロール パラメータごとに、バッチ処理でエレメントを変換の対象にするか対象外にするかを指定します。エレメントを対象にすると、指定した値と一致する受給者のエレメントのみが変換されます。その他の値は全て除外されます。エレメントを除外にすると、指定した値と一致する受給者のエレメントは変換されません。その他の値は全て対象になります。

HR ステータスの例 1

従業員ステータスがアクティブな受給者を全て処理の対象にするには、このステータスを持つ全ての受給者を対象とするジェネレーション コントロール エレメントを作成します。次に、このジェネレーション コントロール エレメントを、制限を適用したいエレメントに関連付けます。その結果、バッチ処理では、従業員ステータスがアクティブである受給者に対してのみ、このエレメントは変換されます。非アクティブまたは雇用終了など、ほかの従業員ステータスを持つ受給者のエレメントは全て変換されません。

HR ステータスの例 2

次の表は、ある受給者の PS_JOB 行のリストです。

有効日	従業員ステータス
1999 年 1 月 1 日	アクティブ
1999 年 1 月 10 日	休職
1999 年 1 月 20 日	アクティブ

次の表は、エレメント E1 と E2 に適用されている、"<エレメント名> の HR ステータス" ページで定義されたジェネレーション コントロールの条件を表しています。

エレメント	対象/除外	従業員ステータス	セグメントの全職務レコード	最新の職務レコード
E1	対象	休職	オフ	オン
E2	対象	休職	オン	オフ

E1 は、最新の職務データ行の従業員ステータスが休職でないため、変換されません。E2 は、セグメント内に従業員ステータスが休職の職務データ行があるため、変換されます。

異動区分/理由の例 (分割なし)

次の表は、ある受給者の PS_JOB 行のリストです。

有効日	異動区分	異動理由
1990 年 1 月 1 日	採用	新規ポジション

次の表は、エレメント E1 に適用されている、"<エレメント名> の HR 異動区分/理由" ページで定義されたジェネレーション コントロールの条件を表しています。

エレメント	対象/除外	異動区分	異動理由
E1	対象	採用	新規ポジション

1999 年 1 月 1 日から 1999 年 1 月 31 日までの給与計算処理を行う場合、E1 は変換されません。これは、PS_JOB の行の有効日がセグメント内にないためです。

異動区分/理由の例 (分割あり)

次の表は、ある受給者の PS_JOB 行のリストです。

有効日	異動区分	異動理由
1990 年 1 月 1 日	採用	新規ポジション
1999 年 1 月 15 日	雇用終了	背信行為

次の表は、エレメント E1 に適用されている、"<エレメント名> の HR 異動区分/理由" ページで定義されたジェネレーション コントロールの条件を表しています。

エレメント	対象/除外	異動区分	異動理由
E1	対象	雇用終了	背信行為

1999 年 1 月の支給期間に対して、この受給者には 2 つのセグメントがあります。セグメント 1 (1999 年 1 月 1 日から 1999 年 1 月 15 日) とセグメント 2 (1999 年 1 月 16 日から 1999 年 1 月 31 日) です。

PS_JOB 行の有効日がセグメント 1 の日付範囲内にあるため、E1 はセグメント 1 で変換されます。有効日がセグメント 2 のパラメータの範囲内にないため、E1 はセグメント 2 では変換されません。

異動区分/理由の例 (最新勤務日を使用)

この例では、雇用終了する受給者に対し、特定の支給を行うとします。次の表は、エレメント E1 と E2 に適用されている、"<エレメント名> の HR 異動区分/理由" ページで定義されたジェネレーション コントロールの条件を表しています。

エレメント	対象/除外	異動区分	最新勤務日を使用
E1	対象	雇用終了	オン
E2	対象	雇用終了	オフ

この例では、以下の状況を想定します。

支給期間は、2001 年 1 月 1 日から 2001 年 1 月 31 日までです。

受給者の最終勤務日 (最新勤務日) は、2001 年 1 月 31 日です。

したがって、異動区分が**雇用終了**の職務データ行は、2001 年 2 月 1 日 (この受給者が雇用終了、または非アクティブになる最初の日) の有効日で挿入されます。

異動区分が期間内にあるかどうかの判断には雇用レコードの勤務終了日が参照されるので、E1 は変換されます。

有効日が 2001 年 2 月 1 日のため、E2 は 1 月には処理**されません**。なんらかの理由で受給者への支払いが 2 月になると、E2 が処理されます。

注意: [ジェネレーション コントロール]、"条件" の "<エレメント名> の HR 異動区分/理由" ページでは、指定されたセグメントに対して、全ての PS_JOB 行が考慮の対象とされます。PS_JOB 行は、そのセグメント内に有効日がある必要があります。

周期の例

週次の支給期間において、月の最初の支給期間にだけ、特定の控除を適用する必要があるとします。ただし、月に毎週実行する給与計算では、4 回とも全て同じプロセス リストを使用します。月の最初の支給期間用に別のプロセス リストを新しく作成しなくても済むように、ジェネレーション コントロールの周期条件に [月 - 第 1 週] を定義します。これで、4 つの全ての支給期間に対して同じプロセス リストを使用し、その上で月の最初の支給期間にだけ特定の控除処理を限定して使用できます。

ジェネレーション コントロール エLEMENTのバッチ処理について

ジェネレーション コントロール プログラムは、控除、支給、および休暇付与の各プログラムから呼び出されます。呼び出し側のプログラムから、変換対象のジェネレーション コントロール エLEMENTが渡されます。PIN マネージャが、プロセスを管理する中央プログラムとしての役割を果たします。

ジェネレーション コントロール ELEMENTの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
ジェネレーション CTL 名	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[ELEMENT]、[サポート ELEMENT]、[ジェネレーション コントロール]、[ジェネレーション CTL 名]	ELEMENT名を付け、基本パラメータを定義します。
ジェネレーション コントロール - 条件	GP_GCTL_CONDITION	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[ELEMENT]、[サポート ELEMENT]、[ジェネレーション コントロール]、[条件]	バッチ処理で特定のELEMENTを対象、または除外にするための条件を定義します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
<エレメント名> の HR ステータス	GP_GCTL_ST_SEC	"ジェネレーション コントロール - 条件" ページの [HR ステータス] リンクをクリックします。	バッチ処理で対象、または除外にする従業員ステータスを定義します。
<エレメント名> の HR 異動区分/理由	GP_GCTL_AR_SEC	"ジェネレーション コントロール - 条件" ページの [異動区分/理由] リンクをクリックします。	対象、または除外にする異動区分/理由コードの組み合わせを定義します。
<エレメント名> の周期	GP_GCTL_FQ_SEC	"ジェネレーション コントロール - 条件" ページの [周期] リンクをクリックします。	対象、または除外にする周期コードを定義します。
<エレメント名> のセグメント ステータス	GP_GCTL_SS_SEC	"ジェネレーション コントロール - 条件" ページの [セグメント ステータス] リンクをクリックします。	対象、または除外にするセグメント ステータスを定義します。
ジェネレーション コントロール - <エレメント名> > のフォーミュラ	GP_GCTL_FM_SEC	"ジェネレーション コントロール - 条件" ページの [フォーミュラ] リンクをクリックします。	対象、または除外にするフォーミュラ エレメントを定義します。
ジェネレーション コントロール - <エレメント名> > の実行タイプ	GP_GCTL_RT_SEC	"ジェネレーション コントロール - 条件" ページの [実行タイプ] リンクをクリックします。	対象、または除外にする実行タイプを定義します。

ジェネレーション コントロール エレメント名の定義

"ジェネレーション コントロール名" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[ジェネレーション コントロール]、[ジェネレーション コントロール名]) にアクセスします。

全てのエレメントについて、エレメント名共通ページでその名称と基本パラメータを定義してください。グローバル ペイロールでは、全てのエレメントのコンポーネントに、エレメント名共通ページ (GP_PIN) という共通ページが含まれています。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

バッチ処理における特定のエレメント条件の定義

"ジェネレーション コントロール - 条件" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[ジェネレーション コントロール]、[条件]) にアクセスします。

The screenshot displays the 'Generation Control - Conditions' page. At the top, there are tabs for 'Generation CTL Name' and 'Conditions'. Below this, the 'Element Name' is 'LN GC LOAN' and the 'Owner' is 'PS 非管理'. The 'Definition' section shows the 'Effective Date' as '1990/01/01' and the 'Status' as 'Active'. There are checkboxes for 'HR Status', 'Segment Status', 'Exception Reason', 'Formula', and 'Period'. The 'Exception Reason' and 'Formula' checkboxes are checked. The 'Version' is 'P_9.00.00'. The page also has search and navigation controls at the top right.

"ジェネレーション コントロール" - 条件ページ

HR ステータス

このリンクをクリックすると、"<エレメント名> の HR ステータス" ページにアクセスします。処理対象の従業員のステータス条件を指定します。

異動区分/理由

このリンクをクリックすると、"<エレメント名> の HR 異動区分/理由" ページにアクセスします。処理対象の異動区分/理由コードの組み合わせを指定します。

周期

このリンクをクリックすると、"<エレメント名> の周期" ページにアクセスします。処理対象の周期を指定します。

セグメント ステータス

このリンクをクリックすると、"<エレメント名> のセグメント ステータス" ページにアクセスします。処理対象のセグメント ステータス条件を指定します。

フォーミュラ

このリンクをクリックすると、"<エレメント名> のフォーミュラ" ページにアクセスします。処理対象のフォーミュラを指定します。

実行タイプ

このリンクをクリックすると、"<エレメント名> の実行タイプ" ページにアクセスします。処理対象の実行タイプを指定します。

重要: HR ステータスと周期など、複数のジェネレーション コントロール パラメータ タイプを入力すると、ジェネレーション コントロールを通過するには、従業員は両方の条件を満たす必要があります。異動区分に **[採用]** と **[再雇用]** を指定するなど、1 つのジェネレーション コントロール タイプに複数の値を入力した場合は、いずれかの条件を満たす従業員が対象 (または対象外) と見なされます。

対象、または除外にする従業員ステータス条件の定義

"<エレメント名> の HR ステータス" ページにアクセスします ("ジェネレーション コントロール - 条件" ページの [HR ステータス] リンクをクリックします。

"<エレメント名> の HR ステータス" ページ

対象 、 除外

これらのオプションを選択して、その下のグループ ボックスに入力する従業員のステータス条件を対象にするのか、除外にするのかを指定します。

セグメントの全職務レコード

このオプションを選択すると、セグメント期間内の全ての職務行が検索対象になります。[従業員ステータス] フィールドで指定した値の行が 1 行でもあれば、条件を満たしているとは見なされます。

最新の職務レコード

このオプションを選択すると、対象となる期間内で最新の有効日を持つ PS_JOB 行のみが検索対象となります。

従業員ステータス

リストからステータス コードを選択します。

対象、または除外にする異動区分/理由コードの組み合わせの定義

"<エレメント名> の HR 異動区分/理由" ページにアクセスします ("ジェネレーション コントロール - 条件" ページの [異動区分/理由] リンクをクリックします。

ジェネレーション コントロール

エレメント LN GC LOAN (回収決定) の HR 異動区分/理由

☒ 対象

☐ 除外

☐ 最新勤務日を使用

HR 異動区分/理由

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 1/1 | 最初 | 最後

異動区分	異動理由	名称
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

"<エレメント名> の HR 異動区分/理由" ページ

- 対象 、 除外

これらのオプションを選択して、その下のグループ ボックスに入力する異動区分/理由コードの組み合わせを対象にするのか、除外にするのかを指定します。
- 最新勤務日を使用

最新勤務日を使用する場合は、このチェック ボックスをオンにします。
- 異動区分 、 異動理由

HR 異動区分コードのリストから選択します。

注意: [異動区分] に値を入力して [異動理由] に値を指定しない場合は、その異動区分の全ての異動理由が有効であると見なされます。

対象、または除外にする周期コードの定義

"<エレメント名> の周期" ページにアクセスします ("ジェネレーション コントロール - 条件" ページの [周期] リンクをクリックします。

ジェネレーション コントロール

エレメント LN GC LOAN (回収決定) の周期

☒ 対象

☐ 除外

周期	加減算	検索	全件表示	1/1	最初	1/1	最後
周期	名称						

"ジェネレーション コントロール" - "<エレメント名> の周期" ページ

対象 、 除外

これらのオプションを選択して、その下のグループ ボックスに入力する周期コードを対象にするのか、除外にするのかを指定します。

周期

周期コードのリストから選択します。

対象、または除外にするセグメント ステータス条件の定義

"<エレメント名> のセグメント ステータス" ページにアクセスします ("ジェネレーション コントロール - 条件" ページの [セグメント ステータス] リンクをクリックします。

ジェネレーション コントロール

エレメント LN GC LOAN (回収決定) のセグメント ステータス

☒ 対象

☐ 除外

セグメント ステータス	加減算	検索	全件表示	1/1	最初	1/1	最後
セグメント ステータス							

"<エレメント名> のセグメント ステータス" ページ

対象 、 除外

これらのオプションを選択して、その下のグループ ボックスに入力するセグメント ステータス条件を対象にするのか、除外にするのかを指定します。

セグメント ステータス

セグメント ステータス条件のリストから選択します。

対象、または除外にするフォーミュラ エLEMENTの定義

"ジェネレーション コントロール - <エレメント名> のフォーミュラ" ページにアクセスします
("ジェネレーション コントロール - 条件" ページの「フォーミュラ」リンクをクリックします。

ジェネレーション コントロール

エレメント ER GC BASE PAY M (固定的賃金の区分 (月額)) のフォーミュラ

☒ 対象
 ☐ 除外

フォーミュラ名 加減算 検索 全件表示 📄 📅 最初 1/1 最後			
フォーミュラ名	名称		
ER FM BASE PAY M 🔍	固定的賃金の区分 (月給)	+	-

"ジェネレーション コントロール" - "<エレメント名> のフォーミュラ" ページ

对象、除外

これらのオプションを選択して、その下のグループ ボックスに入力するフォーミュラ エレメントを対象にするのか、除外にするのかを指定します。

フォーミュラ名

フォーミュラ エLEMENT のリストから選択します。




対象、または除外にする実行タイプの定義

"ジェネレーション コントロール - <エレメント名> の実行タイプ" ページにアクセスします
("ジェネレーション コントロール - 条件" ページの [実行タイプ] リンクをクリックします。

ジェネレーション コントロール

ILメント LN GC LOAN (回収決定) の実行タイプ°

☒ 対象
☐ 除外

実行タイプ°			
加減サイズ 検索 全件表示   最初 ◀ 1/1 ▶ 最後			
実行タイプ°	名称		
<input type="text"/>			<div><div>+</div><div>-</div></div>

ジェネレーション コントロール - <エレメント名> の実行タイプ ページ

対象 、 除外	これらのオプションを選択して、その下のグループ ボックスに入力する実行タイプを対象にするのか、除外にするのかを指定します。
実行タイプ	実行タイプのリストから選択します。

ジェネレーション コントロール周期の定義

ジェネレーション コントロール周期を定義するには、ジェネレーション コントロール周期コンポーネント (GP_GCTL_FREQUENCY) を使用します。

このセクションでは、ジェネレーション コントロール周期の概要とジェネレーション コントロール周期の定義方法について説明します。

ジェネレーション コントロール周期について

周期タグ エlementを使用して中間テーブルを定義し、ヒューマン リソース管理の周期テーブルにあるヒューマン リソース管理の周期とグローバル ペイロールの周期を関連付けます。使う機会が少ない周期はたくさんありますが、この機能により、ヒューマン リソース管理の周期テーブルではなく、グローバル ペイロールのテーブルを使用して、そのような周期を定義できます。

周期タグを使用することで、ジェネレーション コントロールはエレメントの年次化/非年次化の方法にも関連付けられます。

ジェネレーション コントロールを使用しない場合、年次化の分子はエレメントの周期で、分母はカレンダー期間の周期になります。ジェネレーション コントロールを使用する場合、年次化の分子は同じようにエレメントの周期ですが、分母はジェネレーション コントロールの周期になります。

ジェネレーション コントロール周期の定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
ジェネレーション コントロール周期	GP_GCTL_FREQUENCY	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[ジェネレーション コントロール周期]	ジェネレーション コントロール周期を定義します。

ジェネレーション コントロール周期の定義

"ジェネレーション コントロール周期" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[ジェネレーション コントロール周期]、[ジェネレーション コントロール周期]) にアクセスします。

ジェネレーション コントロール周期

周期タイプ:

FRST SCND

*名称:

第 1 週と第 2 週

略称:

第 1、2 週

*周期:

半月毎

周期タイプ:

半月

周期年次化係数:

24.00000000

ジェネレーション CTL 周期ページ

周期

[年次]、[隔週]、[契約]、[日次] などの有効な値をリストから選択します。

このフィールドの有効値は、FREQUENCY_TBL から取得しています。

第 8 章

支給エレメントおよび控除エレメントの定義

この章では、支給エレメントおよび控除エレメントの概要と、以下の方法について説明します。

- 支給エレメントの定義
- 控除エレメントの定義
- 支給と控除の処理の準備

支給エレメントおよび控除エレメントについて

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- 支給および控除
- 計算ルールおよびコンポーネント
- 自動作成累計
- 周期およびジェネレーション コントロールによる計算
- 遡及計算
- 前処理フォーミュラおよび後処理フォーミュラ
- 比例配分および端数処理
- エレメント別および受給者別の支給と控除の割り当て
- 複数変換

支給および控除

支給および控除は、グローバル ペイロールにハード コードされていません。代わりに、ユーザーが支給および控除に関する独自のルールをオンラインで作成します。支給および控除を定義する手順は基本的には同じですが、控除では延滞残高処理や銀行振り込み情報の処理方法を指定する必要があります。

計算ルールおよびコンポーネント

支給エレメントまたは控除エレメントを作成する場合、**ユニット×レート**、**ユニット×レート×パーセント**などの計算ルールを定義します。エレメント定義を保存すると、選択した計算ルールおよびエレメント タイプに基づいて以下のコンポーネントが自動的に作成されます。

- ユニット、レート、ベース、およびパーセントのコンポーネント。これらは計算ルールを基に作成されます。
- 回収額、未控除額、および延滞加算額のコンポーネント。これらは控除エレメントに対してのみ作成されます。
- 延滞残高累計。これは控除エレメントに対してのみ作成されます。

自動作成されたコンポーネントには、支給エレメント名または控除エレメント名にサフィックスを付加した名前が付けられます。たとえば、以下のような支給エレメントを作成するとします。

EARN1 = ユニット × レート EARN1_UNIT および EARN1_RATE という名前の 2 つのコンポーネント エレメントが自動的に生成されます。サフィックス名の言語は、エレメント名共通ページで指定する支給エレメントまたは控除エレメントの国によって決まります。

注意: 支給エレメント名および控除エレメント名の文字数は、サフィックスを付けるために最大 12 文字 (半角) に制限されています。ほかのエレメント名は 18 文字 (半角) まで使用できます。

コンポーネントは、支給エレメントまたは控除エレメントの属性を引き継ぎます。支給エレメントまたは控除エレメントの属性を変更すると、コンポーネントの属性も変更されます。前述の支給エレメント EARN1 の例では、エレメント名を REGULAR に変更すると、そのコンポーネント名も REGULAR_UNIT および REGULAR_RATE に変更されます。ユーザーが直接変更できるコンポーネントの属性は、名称、コメント、ユーザー フィールド、および上書きレベル (エレメント使用) だけです。これらの変更は、コンポーネント名ページで行います。

コンポーネントもエレメントの 1 つなので、ほかのエレメント定義で 사용할 ことができます。たとえば、以下のようなエレメントを定義するとします。

- SALARY1 = ユニット × レート

- $SALARY2 = \text{ユニット} \times \text{レート}$
- $SALARY2 \text{ のレート} = SALARY1 \text{ のレート}$

SALARY2 のレートを計算するときには、SALARY1 のレートが使用されます。このようにすると、新しいエレメントを定義するたびにレートを定義し直さずに済みます。SALARY1 のレートが、数値、フォーミュラなど、どのような方法で定義されても、SALARY2 のレートは常に SALARY1 のレートと等しくなります。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、コンポーネント エレメント情報の更新、 113 ページ

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、サフィックスの定義、 115 ページ

自動作成累計

支給エレメントまたは控除エレメントを定義する場合には、自動作成される累計も指定します。たとえば、定義した支給エレメントおよび控除エレメントごとに、年間の累計が作成されるように指定することができます。また、カレンダー期間ごと、会計期間ごと、またはその両方で累計が作成されるように指定することも可能です。さらに、金額、ユニット、またはその両方を保存するかどうかも指定できます。そして、累計に保存する期間、つまり期間、月、四半期、または年を指定できます。

コンポーネントと同様に、累計には、対応する支給エレメントおよび控除エレメントの属性が継承され、エレメント サフィックス コンポーネント (GP_SUFFIX) の支給/控除ページで定義したサフィックスが使用されます。

注意: 属性が支給エレメントまたは控除エレメントに直接関連付けられている累計は、支給コンポーネント (GP_EARNING) または控除コンポーネント (GP_DEDUCTION) で自動作成された累計だけです。累計コンポーネント (GP_ACCUMULATOR) を使用して作成した累計の属性は、支給エレメントまたは控除エレメントには直接関連しません。

関連項目:

第 10 章、「累計の設定」、 367 ページ

周期およびジェネレーション コントロールによる計算

支給または控除を設定するときに、計算ページで周期を指定することができます。次の 2 つのオプションがあります。

- [カレンダー期間の周期を使用]: このオプションを選択すると、エレメントの周期はカレンダー期間によって決定されます。
- [指定の周期を使用]: このオプションを選択すると、周期を定義することができます。

周期で管理されるレート コードを使用する支給エレメントまたは控除エレメントの場合は、[カレンダー期間の周期を使用] をオンにします。それ以外の場合、求めている結果を得られない可能性があります。

周期で管理されている給与レート コード エレメントは、カレンダー周期で変換されます。エレメントは、そのエレメントを管理する [周期オプション] フィールドに基づいて年次化され、カレンダー周期で非年次化されます。

たとえば、週単位の給与計算に対し、金額が 100 で周期が月次の支給エレメントを作成とします。ジェネレーション コントロール条件が定義されていない場合は、金額の年次化および非年次化が行われ、処理する周期の金額が算出されます。その組織の月次周期は 12 で、週次周期は 52 だとします。最初に、月次の金額である 100 ドルが 1200 ドルに年次化されます。その後、この金額が給与計算の周期、つまり週次の金額に非年次化されます。給与計算の周期が週次の場合、各支給期間の支給額は、以下ようになります。 $1200 / 52 = 23.076923$ 。

組織で複数の支給周期が使用されている場合、エレメントの金額は、それぞれの周期に対応した支給期間の金額に換算されます。たとえば、その組織では全受給者に対し、金額 1000 の年間賞与を 1 年を通して支給するとします。時間給での受給者は週単位で、給与受給者は月単位でその賞与の支給を受けます。賞与支給を年次の周期で $BON = 1000$ と定義する場合、年次化と非年次化を使用して、各グループの支給周期に基づいて全ての受給者にこの定義が適用されます。

ヒューマン リソース管理およびグローバル ペイロールの周期テーブル

グローバル ペイロールでは通常、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の周期テーブルを使用して周期の計算方法を決定します。ただし、周期によっては、このテーブルではなく、グローバル ペイロールのジェネレーション コントロール周期テーブルに定義されているものもあります。この例には、**[月 - 第 1 週]** があります。週次の周期を使用している場合に、支給エレメントがその月の最初の支給期間に支払われるようにとします。グローバル ペイロールでは、ジェネレーション コントロール周期を定義し、その周期をジェネレーション コントロールを使って目的の支給エレメントに割り当てることができます。

周期換算およびジェネレーション コントロール

ジェネレーション コントロールを使用すると、周期を始めとするさまざまな条件に基づいて、エレメントを処理するタイミングを制御できます。

[カレンダー期間の周期を使用] 以外の周期オプションを選択すると、その支給期間の周期に基づいて支給額の年次化および非年次化が行われます。ジェネレーション コントロール周期が存在する場合は、ジェネレーション コントロール周期に基づいて支給額の年次化および非年次化が行われます。周期換算時には、支給期間の周期はジェネレーション コントロールの周期によって上書きされます。

たとえば、計算ルールが **"金額"** で 1200、周期が年次、支給期間が月次で支給エレメントが定義されているとします。月次周期が と定義されていて、この支給に対するジェネレーション コントロール周期がない場合、この金額は月あたり 100 ドルに非年次化されます。(1200 / 12 = 100)。ジェネレーション コントロール周期が四半期の場合、この支給エレメントは 300 に非年次化されます。(1200 / 4 = 300)。

次の表は、周期の計算ルールとコンポーネントの一覧です。換算の実行:

計算ルール	コンポーネント
金額	金額
ベース × パーセント	ベース
ユニット × レート	ユニット
ユニット × レート × パーセント	ユニット

[周期オプション] フィールドで [カレンダー期間の周期を使用] を選択すると、周期換算は実行されません。

たとえば、計算ルールが [金額] で、金額が 100 の支給エレメントがあるとします。[周期] が [カレンダー期間の周期を使用] に設定されている場合、使用される期間の周期に関係なく、計算される金額は常に 100 になります。週次の支給グループおよび月次の支給グループがある場合、変換後の金額はどちらのグループの受給者に対しても 100 になります。ジェネレーション コントロール条件で周期が使用されている場合でも、年次化および非年次化は行われません。周期換算を行うには、支給計算ルールで周期を指定する必要があります。ジェネレーション コントロール周期の非年次化は、支給エレメント定義で周期を指定しない限り行われません。この処理を行わない場合でも、"ジェネレーション コントロール - <エレメント名> の周期" ページを使用して、そのエレメントが週次の支給グループに対して処理される時期を制御できます。

参照: 第 7 章、「計算エレメントの定義」、ジェネレーション コントロール エレメントの定義、256 ページ。

例 1: ジェネレーション コントロールを使用しない周期換算

固定額が 1200、年次周期 (係数 = 1) の支給エレメントがあるとします。ここで、月次周期 (係数 = 12) で支給期間を実行します。

エレメントに定義された周期の値 (1)、および支給期間に定義された周期の値 (12) が、ヒューマン リソース管理の周期テーブルから取得されます。エレメントの周期係数を期間の周期係数で割って、年次化/非年次化係数を算出します。このエレメントの計算に使用される式は、以下のとおりです。 $1200 \times 1/12 = 100$

例 2: ジェネレーション コントロールを使用する周期換算

月次の給与計算に、12 月にだけ支給されるクリスマス賞与の支給エレメントがあるとします。この支給エレメントには、固定額 50 と週次の周期 (係数 = 52) が設定されています。12 月に賞与を支給するには、次の手順に従います。

1. **December** という名前のジェネレーション コントロール周期を作成し、周期係数 1 を割り当てます。
2. **Christmas** という名前のジェネレーション コントロール定義を作成します。
3. この定義の [ジェネレーション コントロール]、"条件" の "<エレメント名> の周期" ページで、ジェネレーション コントロール周期 December を追加し、**[対象]** を選択します。
4. このジェネレーション コントロール定義を支給エレメントに追加します。
5. ジェネレーション コントロール周期 December を、カレンダー December に加えます。

受給者に対するカレンダー December の処理で、周期が条件になっているジェネレーション コントロールが支給エレメントに割り当てられていると、その周期と一致するジェネレーション コントロール周期がカレンダーに登録されているかどうかチェックされます。一致するものがない場合は、そのエレメントは処理されません。一致するものがある場合は、次の計算が実行されます。

エレメントの金額 (50) × エレメントの周期係数 (52) / ジェネレーション コントロール周期係数 (1) = 2600

分母が期間周期からジェネレーション コントロール周期に変わります。

遡及計算

遡及処理の際に、支給または控除エレメントが **[再計算しない]** になっている場合は、全てのセグメントとスライスが一致していれば、エレメントの前の値が、その全てのコンポーネント エレメントと一緒に返されます。ただし、再計算される期間と前回計算した期間の間でセグメントまたはスライスが一致しない場合は、指定した **[再計算しない]** オプションは無視され、エレメントは再計算されます。

セグメントの一致とは、セグメントの開始日、終了日、および支給キーが一致することです。セグメントが一致するには、セグメントのこれらの部分が全て一致する必要があります。

スライスの一致とは、スライスの日付に関係なく現在の計算でのスライス数と前回の計算でのスライス数が一致することです。セグメントと異なり、日付や範囲が違っていてもスライスは不一致とは見なされません。

以下のような場合に、不一致と見なされます。

- エレメントが過去に計算されていない場合は、遡及処理で常に計算されます。
- セグメントが一致しない、またはセグメントは一致するがスライスが一致しない場合は、**[再計算しない]** の指定が無視され、エレメントが再計算されます。

ポジティブ入力では、**[再計算しない]** の指定は上書きされます。ポジティブ入力のインスタンスでは、常に計算されます。

注意: アクション タイプが上書きになっているポジティブ入力の単一インスタンスでは、エレメントは再計算されます。アクション タイプが追加のポジティブ入力インスタンスでは、追加されるエレメントが再計算済みかどうかにかかわらず、常に再計算されます。つまり、アクション タイプが追加の新規ポジティブ入力行では、エレメントが **[再計算しない]** で指定されていても、再計算が行われるということです。

関連項目:

第 33 章、「遡及処理の定義」、1219 ページ

前処理フォーミュラおよび後処理フォーミュラ

支給エレメントまたは控除エレメントを定義する場合、前処理フォーミュラ、後処理フォーミュラ、およびその両方を計算ページで割り当てることができます。

- 前処理フォーミュラは、支給エレメントまたは控除エレメントを変換する**直前に**実行されるフォーミュラです。

たとえば、前処理フォーミュラを使用して、支給エレメントまたは控除エレメントの変換で使用するデータを取得することができます。

- 後処理フォーミュラは、支給エレメントまたは控除エレメントを変換した**直後に**実行されるフォーミュラです。

たとえば、後処理フォーミュラを使用して、変換された支給または控除およびそのコンポーネントの値を、PINV アレイに保存され、他のところで使用可能になる前に変更することができます。また、後処理フォーミュラを使用して、控除の年間限度額を設定したり、追加金額を加算したりすることもできます。

前処理フォーミュラおよび後処理フォーミュラは、エレメントのインスタンスごとに実行されますが、システム エレメントを使って、変換するタイミングを制御することができます。PeopleSoft では、前処理フォーミュラおよび後処理フォーミュラと一緒に使用する、たくさんのシステム エレメントが用意されています。

後処理フォーミュラのためのシステム エレメント

次の表は、PeopleSoft によって用意されている、後処理フォーミュラで使用するためのシステム エレメントの一覧です。全てのシステム エレメントと同じように、これらのエレメントはフォーミュラなどの処理で参照された場合にのみ変換されます。

システム エレメント	説明
CURR x VAL (x は AMT、PCT、UNITS、BASE、または RT)	<p>最も最近のインスタンスで変換された金額の値、またはパーセント、ユニット、ベース、およびレート各コンポーネントの値が格納されます。このエレメントには、金額が計算された場合はすぐにその金額の値がロードされ、パーセント、ユニット、ベース、レート各コンポーネントが変換された場合はすぐにそれぞれの値がロードされます。この値には、必要に応じて周期換算、比例配分、端数処理が適用された後の値が使用されます。この値は、後処理フォーミュラの入力データとして使用することができます。CURR x VAL は、SET CURR x VAL にゼロ以外の数値が設定されると更新されます。このシステム エレメントの主な用途は、支給または控除に対する現在の金額、または現在のパーセント、ユニット、ベース、レート各コンポーネントの値を確認することです。</p>
OVRD CURR x VAL (x は AMT、PCT、UNITS、BASE、または RT)	<p>最も最近のインスタンスで変換された金額の値、またはパーセント、ユニット、ベース、レート各コンポーネントの値の上書きに使用される値が格納されます。これは、後処理フォーミュラの出力と見なすことができます。このエレメントのセットに、上書きする値を割り当てます。</p> <p>OVRD CURR x VAL は、SET CURR x VAL が真(ゼロ以外の数値)に設定されると更新されます。</p>
SET CURR x VAL (x は AMT、PCT、UNITS、BASE、または RT)	<p>最も最近のインスタンスで変換された金額の値、またはパーセント、ユニット、ベース、レート各コンポーネントの値を上書きする場合は、このシステム エレメントにゼロ以外の値を設定します。この設定を行うと、OVRD CURR x VAL の値が金額の値、またはパーセント、ユニット、ベース、レート各コンポーネントの値に割り当てられます。</p>

例

以下の例は、年間控除に対して限度額を設ける後処理フォーミュラの使用法を示しています。控除の計算後に後処理フォーミュラを呼び出し、控除額が限度額に達しているかどうかを判断します。限度額に達している場合は、その控除に対して特定の処理を行います。

前提:

- DD は控除エレメントです。
- YTD Limit Amt は、年間限度額を表す変数です。
- Amt Over は、超過限度額を表す変数です。

このコードは次のようになります。

```
If DD YTD Accum + CURR AMT VAL + DD Arrears Amt <= YTD Limit Amt
Then exit

Else

DD YTD Accum + CURR AMT VAL + DD Arrears Amt - YTD Limit Amt = Amt Over
CURR AMT VAL - Amt Over = OVRD_CURR_AMT_VAL
1 = SET CURR AMT VAL
```

数字を使って表してみましょう。控除の年間限度額 (YTD Limit Amt) が 1000 だとします。受給者の控除の年間累計残高 (DD YTD Accum) は 950 です。現在の期間の控除 (CURR AMT VAL) は 125 で、延滞残高 (DD Arrears Amt) はありません。この場合、処理は次のようになります。

```
If 950 + 125 + 0 <= 1000
```

```
then exit
```

```
else
```

```
950 + 125 + 0 - 1000 = 75
```

```
125 - 75 = 50
```

上書き用エレメント (OVRD_CURR_AMT_VAL) に 50 という値が割り当てられ、SET CURR AMT VAL の値が 1 に設定されているので、上書き用エレメントの値が自動的に取得され、この控除に割り当てられます。

後処理フォーミュラの後で、変換済みの金額に定義されている端数処理ルールが適用されます。

注意: 後処理フォーミュラは、延滞処理の前に変換されます。つまり、限度額を設けるために後処理フォーミュラを使用する場合、フォーミュラで定義された超過限度額は延滞残高の更新に使用されません。

変換のタイミングを制御するシステム エレメント

PeopleSoft によって用意されているシステム エレメントを使って、前処理フォーミュラや後処理フォーミュラの変換を行うタイミングを制御することができます。次の表は、特定のインスタンスで前処理フォーミュラや後処理フォーミュラを実行する場合に便利なシステム エレメントの一覧です。

システム エレメント	説明
PI INSTANCE NUMBER	ポジティブ入力のインスタンス番号です。ポジティブ入力があると、そのインスタンス番号に変換されます。それ以外の場合は、ゼロに変換されます。
PI INSTANCE FIRST	最初のポジティブ入力インスタンスであるかどうかを表します。最初のポジティブ入力インスタンスの場合は Y、それ以外の場合は N に変換されます。
PI INSTANCE LAST	最後のポジティブ入力インスタンス。(Y / N)最後のポジティブ入力インスタンスの場合は Y、それ以外の場合は N に変換されます。

関連項目:

第 20 章、「支給または控除の複数変換」、727 ページ

比例配分および端数処理

支給エレメントまたは控除エレメントの比例配分および端数処理は、次に手順に従って行われます。

1. セグメントまたはスライスごとに、計算ルールのコンポーネントが取得されます。
2. セグメントまたはスライスごとに、適切なコンポーネントが比例配分されます。

注意: パーセント コンポーネントおよびレート コンポーネントは、比例配分の対象ではありません。

3. コンポーネントが端数処理されます。
4. セグメントまたはスライスが変換されます。
5. セグメントまたはスライスの変換後の金額が端数処理されます。

システム エレメント PRORATE

支給エレメントまたは控除エレメントの比例配分は、分割を行う、またはシステム エレメント PRORATE を使用するという、2 つの方法で実行することができます。

システム エレメント PRORATE を使用すると、分割が行われない場合にも支給エレメントまたは控除エレメントを比例配分できます。これを行うには、PRORATE が Y に設定される条件を定義する前処理フォーミュラを作成します。条件が満たされると、支給エレメントまたは控除エレメントに関連付けられた比例配分ルールを使用して比例配分が行われます。後処理フォーミュラには、PRORATE を N にリセットするコマンドを必ず入れるようにします。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、前処理フォーミュラおよび後処理フォーミュラ、276 ページ

支給および控除の割り当てとポジティブ入力

支給および控除は、受給者レベルに設定された計算ルール (ユニット、レート、ベース、パーセント、または金額) の 1 つまたは複数のコンポーネントで定義することができます。つまり、支給または控除は、処理の前に特定の受給者に割り当てる必要があります。受給者レベルとして指定されたコンポーネントの値は、ポジティブ入力またはエレメント/受給者割当コンポーネントを使用して入力する必要があります。エレメント別受給者割り当てページ、受給者別エレメント割り当てページ、およびポジティブ入力ページでは、特定の支給および控除に対する受給者レベルのデータを簡単に入力することができます。

関連項目:

第 9 章、「エレメント上書きの設定」、333 ページ

第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、615 ページ

複数変換

グローバル ペイロールでは、次に示す方法によって、単一のセグメント内でエレメントを複数回変換できます。

- エレメントに対するポジティブ入力で作成で、[アクション タイプ] に [追加]、[上書き]、または [ゼロにする] を指定します。

[アクション タイプ] が **追加** のポジティブ入力をエレメントに設定すると、そのエレメントは、エレメントの計算ルール定義、またはエレメント上書きがある場合はその上書き値を使用していったん変換されます。その後、ポジティブ入力の**追加**タイプのインスタンスに関連付けられた値を使用して、再度エレメントが変換されます。

追加タイプのポジティブ入力がある場合、それぞれの入力に異なるインスタンス番号が割り当てられ、そのエレメントの複数変換が行われます。

上書きタイプのポジティブ入力がある場合、それらは個別に処理されます。インスタンス番号を使用して、そのエレメントの複数変換が行われます。

- エレメント割り当てのページで、エレメントの複数インスタンスを入力する

たとえば、同じ期間に同じ差し押さえを複数回入力します。各入力に対してインスタンス番号が割り当てられ、それぞれ別々に処理されます。

ユーザー フィールドを定義して、エレメントの個別の変換結果を追跡することもできます。たとえば、差し押さえ番号というユーザー フィールドを定義して、差し押さえエレメントの個別の変換結果を識別することができます。

- 支給または控除の複数変換を行うドライバ累計を定義します。累計のインスタンスごとに、そのインスタンスに対応する支給または控除の変換が行われます。
- 支給または控除に対してエレメントの分割が行われると、エレメントのスライスごとに個別に変換が行われます。

関連項目:

第 20 章、「[支給または控除の複数変換](#)」、727 ページ

支給エレメントの定義

支給エレメントを定義するには、支給コンポーネント (GP_EARNING) を使用します。

このセクションでは、支給エレメントの設定手順の概要と以下の方法について説明します。

- 支給エレメント名の定義
- 支給エレメントのユーザー フィールドの定義
- 支給エレメントの計算ルールを定義します。
- 支給エレメントの端数処理オプションおよび比例配分オプションの定義
- 支給エレメントの自動作成累計の定義
- 支給エレメントの累計期間の選択
- 支給エレメントの作成済みエレメントの表示
- 支給エレメントの累計先となる累計の指定
- 支給エレメントの上書き

支給エレメントの設定手順について

支給は、給与、手当、および賞与などの全てのタイプの報酬のことで、従業員が行った仕事やサービスの対価として支給されるものです。それぞれの組織の支給ルールが実現されるように支給エレメントを定義します。

支給エレメントを作成するには、次の手順に従います。

1. 支給名ページで、支給名、セキュリティ レベル、および上書きレベルを定義します。

支給エレメントにドライバ累計やユーザー フィールドを関連付けます。

2. "支給" の計算ページで、計算ルールを設定します。

計算ルールを構成するコンポーネントを選択します。計算ルールには、金額、またはベース、パーセント、レート、およびユニットの組み合わせを指定できます。また、支給の周期を定義し、適用するジェネレーション コントロール パラメータを選択します。支給に前処理フォーミュラ、後処理フォーミュラ、および遡及再計算オプションを定義します。

注意: 既に支給が変換されて結果が出力されているか、または有効日付きの行が複数ある場合は、定義した計算ルールは変更できません。

3. "支給" の端数処理/比例配分ページで、エレメントの端数処理と比例配分ルールを指定します。

"支給グループ" のデフォルト ページで定義した端数処理および比例配分ルール、または独自のルールを指定したり、端数処理および比例配分を行わないように指定したりできます。

4. "支給" の自動作成累計ページで、自動作成累計の特性を定義します。

受給者の支給の残高を追跡し管理する累計の特性を定義します。累計のタイプ、および累計を更新するタイミングとその方法を指定し、その累計のカレンダーと会計期間を選択します。

5. "支給 - その他の累計" ページで、その支給エレメントの累計先となる累計を選択します。

この支給がどの累計に含まれるのかを指定できます。それぞれの累計について、エレメント名、開始日と終了日、支給を累計に加算するのか減算するのか、および累計に対する支給の加算/減算率を指定します。

6. 必要に応じて、サポート エレメントを上書きします。

支給の計算で使用される可能性のあるサポート エレメントを上書きできます。

支給エレメントの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
支給名	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[支給]、[支給名]	エレメント名を付け、基本パラメータを定義します。
支給 - <エレメント名> のユーザー フィールド	GP_PIN_USR_FLD_SEC	支給名ページの [変換パラメータ] グループ ボックス内の [ユーザー フィールド] リンクをクリックします。	ユーザー フィールドを定義して、個別のインスタンスをエレメントに作成します。
支給 - 計算	GP_ERN_DED_CALC	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[支給]、[計算]	支給エレメントの計算ルールを定義します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
端数処理/比例配分	GP_ERN_DED_RND	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[支給]、[端数処理/比例配分]	支給エレメントのコンポーネントの端数処理オプションおよび比例配分オプションを定義します。
自動作成累計	GP_AUTOGEN_ACUM	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[支給]、[自動作成累計]	支給エレメントの自動作成累計の特性を定義します。
支給 - <エレメント名>の累計期間	GP_ERN_DED_ACM_SEC	"支給" の自動作成累計ページの [累計期間] リンクをクリックします。	自動的に作成される累計を定義します。 このページは、控除エレメントの表示にも使用されます。 参照: 第 8 章、「 支給エレメントおよび控除エレメントの定義 」、 控除エレメントの定義 に使用するページ、 319 ページ。
支給 - <エレメント名>の作成済エレメント	GP_AUTOGEN_SEC	"支給" の自動作成累計ページの [作成済エレメント表示] リンクをクリックします。	支給エレメントに対して自動的に作成されたコンポーネントと累計が表示されます。 このページは、控除エレメントの表示にも使用されます。 参照: 第 8 章、「 支給エレメントおよび控除エレメントの定義 」、 控除エレメントの定義 に使用するページ、 319 ページ。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
その他の累計	GP_ERN_DED_AC_ADDL	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[支給]、[その他の累計]	支給エレメントの累計先となる、システムに定義済みの累計を指定します。
支給 - サポート エレメント上書き	GP_ELM_DFN_SOVR	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[支給]、[サポート エレメント上書き]	<p>支給エレメントで使用されている特定のサポートエレメント、または支給の定義に含まれていないサポート エレメントの値を上書きします。</p> <p>このページは、控除の上書きにも使用されます。</p> <p>参照: 第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、控除エレメントの定義に使用するページ、 319 ページ。</p>

関連項目:

[第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、控除エレメントの定義に使用するページ、 319 ページ](#)

[第 18 章、「上書きの設定」、エレメント定義上書きの定義、 690 ページ](#)

[第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ](#)

支給エレメント名の定義

"支給名" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[支給]、[支給名]) にアクセスします。

支給名(E)		計算(C)		端数処理/比例配分		自動作成累計(U)		その他の累計(A)		サポート エレメント上書き	
*エレメント名:		KOSALARY				エレメント タイプ:		支給			
*名称:		Salary				*フィールド フォーマット:		金額			
*定義の指定日:		カレンダー期間終了日				エレメント番号:		2039		<input checked="" type="checkbox"/> 常時再計算	
エレメント使用						上書きレベル					
*所有者:		PS 配布/管理なし				<input type="checkbox"/> 支給元		<input checked="" type="checkbox"/> エレメント使用			
*クラス:		サンプル データ				<input type="checkbox"/> 支給グループ		<input type="checkbox"/> エレメント定義			
*使用先:		全ての国				<input checked="" type="checkbox"/> 受給者		<input checked="" type="checkbox"/> ホンテイク入力			
国:		ALL				<input checked="" type="checkbox"/> カレンダー					
産業/地域:											
カテゴリ:											
変換パラメータ						バージョン情報					
ドライバ累計:						最終更新日時:		00/08/10 00:00:00.000000			
ユーザー フィールド						最終更新者:		PPLSOFT			
						ユーザー バージョン:					
						バージョン:		P_8.30.00.00			
カスタム フィールド コメント											

支給名ページ

注意: 全てのエレメントについて、エレメント名共通ページでその名称と基本パラメータを定義してください。グローバル ペイロールでは、全てのエレメントのコンポーネントに、エレメント名共通ページ (GP_PIN) という共通の先頭ページが含まれています。ただし、支給名ページには、支給にのみ適用される、次のようなフィールドがあります。

ドライバ累計

累計を使って支給の複数変換を行うには、[ドライバ累計] フィールドに累計を指定します。

累計のインスタンスごとに、支給のインスタンスが個別に変換されます。

注意: **ドライバ累計**を支給に関連付けると、その累計のユーザーキーがその支給のユーザー フィールドとして、その支給に引き継がれます。

参照: 第 20 章、「支給または控除の複数変換」、727 ページ。

ユーザー フィールド

このリンクをクリックすると、"<エレメント名> のユーザー フィールド" ページにアクセスします。このページでは以下のことが行えます。

- ユーザー フィールドのエレメントへの関連付け (最大 6 つまで)

ユーザー フィールドは、エレメントの個別のインスタンスの定義に使用されます。ユーザー フィールドによって、支給または控除の複数変換の作成や追跡を行うことができます。

注意: ユーザー フィールドの値は、サポート エレメント上書きの入力で指定したり、フォーミュラ、ブラケット、およびアレイでロードしたりして設定します。

たとえば、勤務地や生計費によって変化する手当を、Location というユーザー フィールドを関連付けることによって、基本支給に定義することができます。複数の勤務地に関連付けられた複数の手当が受給者に支給される場合、それぞれの勤務地をサポート エレメント上書きで定義することができます。

-
- ドライバ累計から引き継がれたユーザー フィールドの表示
 - 遡及デルタ ユーザー フィールド レベルの定義

参照: [第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、支給エレメントのユーザー フィールドの定義、287 ページ](#)および [第 20 章、「支給または控除の複数変換」、727 ページ](#)。

注意: 支給名ページのその他のフィールドについては全て、この PeopleBook で説明されています。

関連項目:

[第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、97 ページ](#)

支給エレメントのユーザー フィールドの定義

"支給 - <エレメント名> のユーザー フィールド" ページにアクセスします (支給名ページの [ユーザー フィールド] リンクをクリックします)。

支給

エレメント K0SALARY (Salary) のユーザー フィールド

ドライバ累計が定義されていません。

ドライバ累計:

ユーザー フィールド

ユーザー フィールド 1:	<input type="text"/>	エレメント 1:	<input type="text"/>
ユーザー フィールド 2:	<input type="text"/>	エレメント 2:	<input type="text"/>
ユーザー フィールド 3:	<input type="text"/>	エレメント 3:	<input type="text"/>
ユーザー フィールド 4:	<input type="text"/>	エレメント 4:	<input type="text"/>
ユーザー フィールド 5:	<input type="text"/>	エレメント 5:	<input type="text"/>
ユーザー フィールド 6:	<input type="text"/>	エレメント 6:	<input type="text"/>

*選択されたユーザー フィールドレベル:

OK

キャンセル

支給 - <エレメント名> のユーザー フィールド ページ

ユーザー フィールド N (N は 1 ～ 6 の番号)

ユーザー フィールドの値を保持するエレメントのタイプを定義します。

オプションには、[変数] および [システム エレメント] があります。

ルールの設計により、エレメント割当 (繰り返し) ページで定義されるこのフィールドの値が要求される場合、[変数] を選択する必要があります。これは、これらのページで上書きできるサポート エレメントは変数のみであるためです。

ポジティブ入力でこのエレメントの値を上書きする場合は、[変数] と [システム エレメント] のどちらも選択できます。

注意: これらのフィールドの値は、フォーミュラ、ブラケット、およびアレイなどの、ほかのエレメントを使用して設定することもできます。

注意: 支給名ページでドライバ累計を指定すると、これらのフィールドにはデータを入力できなくなります。ドライバ累計のユーザーキーが自動的に支給エレメントのユーザー フィールドとなり、[ユーザー フィールド N] (N は 1 ～ 6 の番号) の入力タイプ ([変数] または [システム エレメント]) には、継承されたドライバ累計のキーが表示されます。また、支給が一度でも処理されると、ユーザー フィールドは変更できなくなります。参照だけが可能になります。

エレメント N (N は 1 ～ 6 の番号) [ユーザー フィールド N] (N は 1 ～ 6 の番号) で [変数] を選択した場合は、このフィールドの値を保存する変数エレメント名を入力します。

注意: この変数は、あらかじめ変数定義のページで定義しておく必要があります。

[ユーザー フィールド N] (N は 1 ～ 6 の番号) で [システム エレメント] を選択した場合は、このフィールドの値を保存するシステム エレメント名を入力します。

注意: 支給名ページでドライバ累計を指定すると、[エレメント N] (N は 1 ～ 6 の番号) フィールドにはデータを入力できなくなります。ドライバ累計のユーザー キーが自動的に支給エレメントのユーザー フィールドとなり、[エレメント N] (N は 1 ～ 6 の番号) には、ドライバ累計のキー値を保存するために定義された変数またはシステム エレメントが表示されます。

遡及デルタ ユーザー フィールド レベル

ユーザー フィールド レベルを、次の中から選択します。このユーザー フィールド レベルで、異なるユーザー フィールド値を持つ支給の各インスタンスに対する遡及デルタのグループ化を制御します。

- [なし]: ユーザー フィールドの値の差に関係なく、支給の全てのインスタンスのデルタを合計します。
- [ユーザー フィールド 1]: [ユーザー フィールド 1] の値が同じ支給の、異なるインスタンスのデルタを合計します。
- [ユーザー フィールド 2]: [ユーザー フィールド 1] および [ユーザー フィールド 2] の値が同じ支給の、異なるインスタンスのデルタを合計します。
- [ユーザー フィールド 3]: [ユーザー フィールド 1]、[ユーザー フィールド 2]、および [ユーザー フィールド 3] の値が同じ支給の、異なるインスタンスのデルタを合計します。
- [ユーザー フィールド 4]: [ユーザー フィールド 1] から [ユーザー フィールド 4] までの値が同じ支給の、異なるインスタンスのデルタを合計します。
- [ユーザー フィールド 5]: [ユーザー フィールド 1] から [ユーザー フィールド 5] までの値が同じ支給の、異なるインスタンスのデルタを合計します。
- [定義された全てのユーザー フィールド]: [ユーザー フィールド 1] から [ユーザー フィールド 6] までの値が同じ支給の、異なるインスタンスのデルタを合計します。

注意: 選択可能な値は、定義されたユーザー フィールドの数によって変わります。たとえば、3 つのユーザー フィールドに [なし]、[ユーザー フィールド 1]、[ユーザー フィールド 2]、および [定義された全てのユーザー フィールド] という選択肢が用意されているとします。ユーザー フィールド、またはドライバ累計のユーザー キーを変更すると、使用可能な値が自動的に更新されます。ユーザー フィールドの数を減らして現在の [遡及デルタ ユーザー フィールド レベル] の値が無効になると、[遡及デルタ ユーザー フィールド レベル] の値は自動的に [定義された全てのユーザー フィールド] に変更され、そのことを知らせるメッセージが表示されます。[遡及デルタ ユーザー フィールド レベル] の値は、その後で変更できます。

重要: ユーザー フィールドを使用して控除が定義されている場合、そのユーザー フィールドは自動的に控除の自動作成延滞累計のユーザー キーにコピーされます。ユーザー フィールドが変更されると、ユーザー フィールドを使用した延滞累計のキーも自動的に同期が取られます。エレメントの変換後は、ユーザー フィールドは変更できません。

参照: [第 20 章、「支給または控除の複数変換」、727 ページ。](#)

関連項目:

[第 10 章、「累計の設定」、367 ページ](#)

支給エレメントの計算ルールの定義

"支給 - 計算" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[支給]、[計算]) にアクセスします。

支給名(E)

計算(C)

端数処理/比例配分

自動作成累計(U)

その他の累計(A)

サポート エレメント 上書き

エレメント名:KOSALARYSalary所有者:PS 非管理

定義

検索 | 全件表示 最初1/1最後

*有効日:1990/01/01

ステータス:アクティブ

*計算ルール:金額

コンポーネント タイプ のエレメントと値の指定

ユニット タイプ:

ユニット エレメント:

レート タイプ:

レート エレメント:

ペース タイプ:

ペース エレメント:

パーセント タイプ:

パーセント エレメント:

*金額タイプ:給与レートコード - 金額(時給+金額)

金額エレメント:K0GRCM

ジェネレーション コントロール:

前処理フォーミュラ:

後処理フォーミュラ:

*周期オプション:カレンダー期間の周期を使用

バージョン:P_8.30.00.00.P553K

周期:

適及再計算オプション

常時再計算

再計算しない

支給 - 計算ページ

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

293

計算ルール

エレメントの計算ルールを定義します。有効な値は、[金額]、[ベース*パーセント]、[ユニット*レート]、および[ユニット*レート*パーセント]です。選択する値によって、使用できる他のフィールドが決まります。

エレメントの計算ルールをいったん定義すると、以下の全ての条件が満たされない限りそのルールは変更できません。

- エレメントがまだ変換されていないこと (このエレメントの出力結果が存在しないこと)。
- エレメントの有効日付きの行が 1 行だけであること。

注意: 計算ルールの定義で、これらの条件が 1 つでも当てはまる場合は、別の新しいエレメントを作成する必要があります。この制限は主に遡及処理のために設けられています。[ユニット*レート]の計算ルールを使用して支給エレメントを定義するとします。複数の給与計算の実行後、新しい有効日付きの業を追加し、計算ルールを[金額]に変更します。そうすると、このエレメントを再計算する遡及イベントが発生し、現在の期間にそのデルタが繰り越されます。しかし、計算ルールは既に変更されているので、たとえばユニットに対する調整などは、現在の金額の計算ルールとは矛盾してしまいます。

ユニットタイプ、レートタイプ、ベースタイプ、パーセントタイプ、金額タイプ

必要に応じて、金額またはコンポーネントの値の決め方を指定します。更新可能なフィールドは、指定した計算ルールによって変わります。たとえば、計算ルールが [ユニット*レート] の場合、ユニットの値とレートの値を取得するには、それぞれ [ユニットタイプ] フィールドおよび [レートタイプ] フィールドでエレメントのタイプを指定します。指定できる値は、コンポーネントタイプによって異なります。

[受給者レベル] を選択すると、そのコンポーネントの値が受給者別エレメント割当ページ、エレメント別受給者割当ページ、またはポジティブ入力で検出された場合にのみ、エレメントが変換されます。コンポーネントを受給者レベルで定義するには、支給名ページの [上書きレベル] グループ ボックスの [受給者] チェックボックスまたは [ポジティブ入力] チェックボックスの一方または両方をオンにします。

**ユニット エレメント、レート
エレメント、ベース エレ
メント、パーセント エレ
メント、金額エレメント、
金額値、金額通貨**

計算ルールのコンポーネント タイプに対応するエレメント名を指定します。

注意: [金額タイプ] で [数値] を選択すると、[金額エレメント] フィールドは表示されません。その代わりに、[金額値] および [金額通貨] フィールドが入力可能になります。同様に、レート コンポーネントやベース コンポーネントで [数値] を選択すると、それぞれ [レート値] および [レート通貨] フィールド、[ベース値] および [基本通貨] フィールドが表示されます。<Check Alignment of PHs>[ユニット タイプ] または [パーセント タイプ] で [数値] を選択すると、それぞれ [ユニット値] フィールドまたは [パーセント値] フィールドが入力可能になります。

デフォルトの通貨コードの値は、ユーザーに定義されている通貨に基づいています。この通貨は、プライマリ権限リスト基本設定ページで設定します。支給エレメント用に入力された通貨は全て、エレメントの変換時には常に処理通貨に換算されます。処理通貨は、支給元情報を設定するときに定義します。計算ルールのコンポーネントに変数などのエレメント タイプを指定すると、そのエレメントに定義された通貨が使用され、その通貨が処理通貨と異なる場合は通貨換算が行われます。

**ジェネレーション コント
ロール**

適切なジェネレーション コントロール エレメントを選択して、エレメントを変換する条件を制限します。たとえば、ジェネレーション コントロールを使用して、アクティブな受給者のエレメントだけを変換するように指定できます。

ジェネレーション コントロール エレメントの定義は、ジェネレーション コントロール コンポーネントで行います。

注意: ジェネレーション コントロールによって控除が変換されない場合でも、延滞残高がある場合は、延滞回収は処理されます。また、遡及調整も処理されます。

参照: 第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、周期およびジェネレーション コントロールによる計算、272 ページ。

前処理フォーミュラ、後処理フォーミュラ 支給エレメントまたは控除エレメントのインスタンスが変換されるたびに、その直前または直後に実行されるフォーミュラを選択します。

参照: 第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、前処理フォーミュラおよび後処理フォーミュラ、 276 ページ。

周期オプション

設定する値の周期オプションを選択します。値は以下のとおりです。

[カレンダー期間の周期を使用]: エレメントの周期は、定義したカレンダー期間の周期になります。

[指定の周期を使用]: この値を選択する場合は、[周期] フィールドで周期を定義します。

参照: 第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、周期およびジェネレーション コントロールによる計算、 272 ページ。

周期

[周期オプション] で [指定の周期を使用] を選択する場合は、このフィールドに周期タイプを定義します。周期タイプには、"年次"、"隔週"、"契約"、"日次"、"4 週間毎"、"時間"、"月次"、"四半期"、"半月"、および "週次" があります。これらの値は、ヒューマン リソースの周期テーブルから取得されます。

遡及再計算オプション

遡及処理でエレメントの再計算を行うかどうかを指定します。値は以下のとおりです。

常時再計算

再計算しない

[常時再計算] を選択すると、遡及処理で使用されるときにエレメントが再計算されます。

注意: このフィールドは、遡及プロセス上書ページで上書きできません。

参照: 第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、遡及計算、 275 ページおよび第 33 章、「遡及処理の定義」、 1219 ページ。

支給エレメントの端数処理オプションおよび比例配分オプションの定義

"支給 - 端数処理/比例配分" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[支給]、[端数処理/比例配分]) にアクセスします。

支給名(E)計算(C)端数処理/比例配分自動作成累計(U)その他の累計(A)サポート エレメント 上書き

エレメント名:KOSALARYSalary所有者:PS 非管理

端数処理オプションの指定

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

有効日:1990/01/01ステータス:アクティブ

*端数処理オプション - ユニット:支給グループの端数処理使用ユニット エレメント:

*端数処理オプション - レート:支給グループの端数処理使用レート エレメント:

*端数処理オプション - ベース:支給グループの端数処理使用ベース エレメント:

*端数処理オプション - パーセント:支給グループの端数処理使用パーセント エレメント:

*端数処理オプション - 交換済金額:指定の端数処理使用金額エレメント:KORR 2DEC

比例配分オプションの設定

*比例配分オプション:支給グループの比例配分ルール比例配分エレメント:

支給 - 端数処理/比例配分ページ

端数処理オプション - ユ
ニット、端数処理オプ
ション - レート、端数処理
オプション - ベース、端数
処理オプション - パーセン
ト

コンポーネントの端数処理オプションを選択します。値は以下のとおりです。

[支給グループの端数処理使用]: この値がデフォルトです。"支給グループ - デフォルト" ページで定義した端数処理ルールを使用する場合は、このオプションを選択します。

[指定の端数処理使用]: この値を選択すると、その右側のフィールドで端数処理ルール エレメントが選択できるようになります。

注意: 支給コンポーネントの端数処理オプションを選択するには、その前に端数処理ルール エレメントを定義しておく必要があります。端数処理ルールは、端数処理ルール コンポーネントで定義します。

[端数処理なし]: 端数処理を行わない場合は、このオプションを選択します。

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

297

**端数処理オプション - 変換
済金額**

計算ルールが金額のエレメントの端数処理方法、および計算ルールでほかのコンポーネントを使用するエレメントの変換済みの値の端数処理方法を指定します。

たとえば、支給 E1 の計算ルールは [ユニット × レート] であるとし、[レート] および [ユニット] フィールドで [端数処理なし] を選択し、ここで端数処理ルールを選択すると、[ユニット × レート] の変換値が端数処理されます。または、レートを小数点以下 4 桁に端数処理した後、[ユニット × レート] の結果を小数点以下 2 桁に端数処理するとし、この場合は、[端数処理オプション - レート] フィールドとこのフィールドの両方で端数処理ルールを指定します。

通常、変換済みの金額には端数処理を行うので、[支給グループの端数処理使用] か [指定の端数処理使用] を選択します。[端数処理なし] を選択を選択するのは、特別な場合に限り、

注意: 計算処理では、小数点以下の桁数は固定されていません。しかし、国ごとにそれぞれの国の通貨の桁数に合うように端数処理の方法を制限できます。米国の場合は、金額を全て小数第二位までにして支給することができます。たとえば、200.6778 を 200.68 に切り上げて支給することができます。ただし、別の国では、金額を小数第二位未満にして支給することもできます。変換済み金額の端数処理ルールを定義する際には、この点についてよく考慮する必要があります。変換済み金額の端数処理は、控除の純支給額の確認処理の前に実行されます。純支給額の確認処理で部分フォーミュラを使用する場合、組織の端数処理要件に応じて、部分フォーミュラを金額を端数処理する必要があります。

**ユニット エレメント、レー
ト エレメント、ベース エ
レメント、パーセント エ
レメント、金額エレメント**

該当する端数処理オプションごとに、エレメントを指定します。

比例配分オプション

分割がある、またはシステム エレメント PRORATE の値がゼロでない場合に、そのコンポーネントの値または金額を比例配分するかどうか、およびどのように比例配分するのかを指定します。値は以下のとおりです。

[支給グループの比例配分ルール]: この値がデフォルトです。"支給グループ - デフォルト" ページで定義した標準の比例配分ルールを使用する場合は、このオプションを選択します。

[指定の比例配分ルール]: この値を選択すると、その右側のフィールドで比例配分ルール エレメントが選択できるようになります。

[比例配分しない]: この支給に比例配分ルールを適用しない場合は、このオプションを選択します。

比例配分エレメント

[比例配分オプション] フィールドで [指定の比例配分ルール] を選択した場合は、このフィールドで比例配分ルール エレメントを指定します。

関連項目:

第 7 章、「計算エレメントの定義」、比例配分ルールの定義、251 ページ

支給エレメントの自動作成累計の定義

"支給 - 自動作成累計" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[支給]、[自動作成累計]) にアクセスします。

支給名(E)	計算(C)	端数処理/比例配分	自動作成累計(U)	その他の累計(A)	サポートエレメント上書き
エレメント名:	KOSALARY	Salary	所有者:	PS 非管理	
累計レベル					
<input checked="" type="radio"/> 受給者 (従業員 ID) <input type="radio"/> 職務 (従業員 ID/雇用レポート番号)					
ユーザー キー タイプ* 1:	<input type="text"/>	キー エLEMENT 1:	<input type="text"/>		
ユーザー キー タイプ* 2:	<input type="text"/>	キー エLEMENT 2:	<input type="text"/>		
ユーザー キー タイプ* 3:	<input type="text"/>	キー エLEMENT 3:	<input type="text"/>		
ユーザー キー タイプ* 4:	<input type="text"/>	キー エLEMENT 4:	<input type="text"/>		
ユーザー キー タイプ* 5:	<input type="text"/>	キー エLEMENT 5:	<input type="text"/>		
ユーザー キー タイプ* 6:	<input type="text"/>	キー エLEMENT 6:	<input type="text"/>		
累計基準			変換のタイミング		
*基準: <input type="text" value="期間終了日"/>			<input checked="" type="radio"/> 累計メンバー変換時 <input type="radio"/> 随時 <input type="radio"/> 計算後		
			通知処理		
			<input type="checkbox"/> 訂正を使用		
移動: 累計期間... 作成済エレメント表示					

"支給" - 自動作成累計ページ

注意: [ユーザー フィールドのコピー] ボタン、[累計期間] リンク、[作成済エレメント表示] リンクを除くこのページのフィールドは全て、累計コンポーネントのレベル ページの各フィールドと同じです。これらのフィールドについては、この PeopleBook で説明されています。

参照: 第 10 章、「累計の設定」、累計キーの指定、378 ページ。

ユーザー フィールドのコピー

この支給に関連付けられているユーザー フィールドを自動作成累計にコピーする場合にクリックします。これらのフィールドは、この累計のユーザー キーになります。

このボタンをクリックすると、ユーザー フィールド値が異なる支給の変換ごとに、別々の累計インスタンスが作成されます。

注意: このボタンは、"<エレメント名> のユーザー フィールド" ページでユーザー フィールドが定義されている場合にだけ、表示されます。

重要: 控除にユーザー フィールドが定義されていると、これらのフィールドは自動的に、控除の自動作成延滞累計のユーザー キーとしてコピーされます。[ユーザー フィールドのコピー] ボタンをクリックして、ユーザー フィールドを延滞累計にコピーする必要はありません。ユーザー フィールドが変更されると、ユーザー フィールドを使用した延滞累計のキーも自動的に同期が取られます。エレメントの変換後は、ユーザー フィールドは変更できません。

参照: 第 20 章、「支給または控除の複数変換」、727 ページ。

累計期間

このリンクをクリックすると、累計期間ページにアクセスします。このページでは、支給エレメントを累計する期間を定義します。

作成済エレメント表示

このリンクをクリックすると、"<エレメント名> の作成済エレメント" ページにアクセスします。このページには、既に自動的に作成されているコンポーネントと累計が表示されます。

支給エレメントの累計期間の選択

"支給 - <エレメント名> の累計期間" ページにアクセスします (自動作成累計ページの [累計期間] リンクをクリックします)。

支給**エレメント K0SALARY (Salary) の累計期間**

下のインターフェースを使用して、定義する支給エレメントまたは控除エレメントの残高累計（たとえば年間累計）を自動生成します。

これらの累計の生成は、パフォーマンスやデータ量を考慮して最小限に抑えることを強くお勧めします。

カレンダー期間累計		
期間累計	<input type="checkbox"/> PTDA 金額	<input type="checkbox"/> PTDU ユニット
月間累計	<input type="checkbox"/> MTDА 金額	<input type="checkbox"/> MTDU ユニット
四半期累計	<input type="checkbox"/> QTDA 金額	<input type="checkbox"/> QTDU ユニット
年間累計	<input checked="" type="checkbox"/> YTDA 金額	<input type="checkbox"/> YTDU ユニット

会計期間累計		
期間累計	<input type="checkbox"/> FPDA 金額	<input type="checkbox"/> FPDU ユニット
月間累計	<input type="checkbox"/> FMDA 金額	<input type="checkbox"/> FMDU ユニット
四半期累計	<input type="checkbox"/> FQDA 金額	<input type="checkbox"/> FQDU ユニット
年間累計	<input type="checkbox"/> FYDA 金額	<input type="checkbox"/> FYDU ユニット

"支給 - <エレメント名> の累計期間" ページ

注意: 自動作成累計名には、支給エレメント名にサフィックスを付け加えたものが使用されます。サフィックスは各累計のチェック ボックスの隣に表示されます。これらのサフィックスは、エレメント名共通ページで指定する支給エレメントまたは控除エレメントの国によって決まります。

カレンダー期間累計、会計期間累計 作成する累計を選択します。累計は、必要なだけいくつでも選択することができますが、パフォーマンスとデータ量に注意する必要があります。

支給エレメントの作成済みエレメントの表示

"支給 - <エレメント名> の作成済みエレメント" ページにアクセスします (自動作成累計ページの [作成済エレメント表示] リンクをクリックします)。

支給

エレメント K0SALARY (Salary) の作成済エレメント

コンポーネント

ユニット エレメント:

ベース エレメント:

レート エレメント:

パーセント エレメント:

自動作成累計

加算/減算 | 印刷

累計タイプ*

エレメント名

カレンダー年間累計額

K0SALARY_YTDA

戻る

"支給 - <エレメント名> の作成済エレメント" ページ

コンポーネント

支給エレメントの各コンポーネントの自動作成済みエレメントが表示されます。

延滞エレメント

控除エレメントの場合、これらの延滞エレメントには [回収額]、[未控除額]、[延滞加算額]、および [延滞残高] が割り当てられます。最初の 3 つは控除コンポーネントで、[延滞残高] は累計です。

自動作成累計

自動作成累計が表示されます。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、サフィックスの定義、 115 ページ

支給エレメントの累計先となる累計の指定

"支給 - 累計" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[支給]、[累計]) にアクセスします。

支給名(E)	計算(C)	端数処理/比例配分	自動作成累計(U)	その他の累計(A)	サポートエレメント上書き
エレメント名: KOSALARY		Salary		所有者: PS 非管理	
累計先 加算/減算 検索 最初 1-4/4 最後					
累計(A)		累計値(B)			
累計エレメント	名称	開始日	終了日	累計指示	
K0AC1	Acum Premiums	1990/01/01		加算	+ -
K0AC3	Acum Premiums	1990/01/01		加算	+ -
KOSALARY_YTDA	Salary	1990/01/01		加算	+ -
K0ACGROSS	Current Gross	1990/01/01		加算	+ -

"支給" - "その他の累計" ページ

累計

支給エレメントの値をその他の累計に加算するのか減算するのかを指定します。たとえば、支給エレメントの変換結果を基本給与総額累計や課税対象総額累計に加算することができます。

累計ごとに、累計エレメント名、開始日、終了日、および支給エレメントの値を累計に加算するのか減算するのかを指定します。

累計エレメント

エレメント名を選択します。

開始日

支給エレメントの累計への加算または減算をいつ開始するのかを指定します。加算モードでは、デフォルトの日付はそのエレメントの最も早い有効日になります。減算の場合、デフォルトの日付は今日の日付になります。

終了日

支給エレメントの累計への加算または減算をいつ終了するのかを指定します。

注意: 支給エレメントを特定の期間だけ累計する場合は、開始日と終了日を入力します。開始日または終了日が支給期間中にある場合、その期間中、支給エレメントは累計されます。[終了日] を空白にすると、データを入力した日付から累計が開始され、[終了日] に日付が入力されるまで、全ての支給期間で累計されます。

累計指示

[加算] または [減算] を選択して、支給エレメントの値を累計に加算するのか減算するのかを指定します。

累計値

[累計値] タブをクリックします。

支給名(E) 計算(C) 端数処理/比例配分 自動作成累計(U) その他の累計(A) サポート エレメント上書き

エレメント名: KOSALARY Salary 所有者: PS 非管理

累計先

加算/減算 | 検索 | 最初 1-4/4 最後

累計(A) 累計値(B)

累計エレメント	名称	開始日	終了日	累計指示		
<div>K0AC1 🔍</div>	Acum Premiums	1990/01/01 📅	<div></div> 📅	加算 ▼	+ -	
<div>K0AC3 🔍</div>	Acum Premiums	1990/01/01 📅	<div></div> 📅	加算 ▼	+ -	
<div>K0SALARY_YTDA 🔍</div>	Salary	1990/01/01 📅	<div></div> 📅	加算 ▼	+ -	
<div>K0ACGROSS 🔍</div>	Current Gross	1990/01/01 📅	<div></div> 📅	加算 ▼	+ -	

その他の累計ページ - 支給

累計ごとに、その累計に加算または減算する、支給エレメントの値の比率を指定します。

オプション - パーセント

累計に加算または減算する、支給エレメントの値の比率を指定します。

[数値]: 比率を直接指定する場合に選択します。

[変数] または [フォーミュラ]: 累計に加算または減算する値を返す変数エレメントまたはフォーミュラ エレメントを使用する場合に選択します。

累計率

[オプション - パーセント] で [数値] を選択した場合は、このフィールドに 100 パーセントまでの範囲で比率を入力します。

パーセント エレメント

[オプション - パーセント] で [変数] または [フォーミュラ] を選択した場合は、このフィールドで変数名またはフォーミュラ名を指定します。

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

305

支給エレメントの上書き

支給コンポーネントのサポート エレメント上書きページを使用して、支給エレメントの定義で使用されているブラケット、日付、デュレーション、フォーミュラ、または変数の各エレメントの値を上書きできます。また、この上書き機能を使用すると、支給エレメントの定義に含まれていなくても、その支給エレメントの変換時に、ブラケット、日付、デュレーション、フォーミュラ、または変数などのサポート エレメントを変換することができます。

注意: "支給" の "サポート エレメント上書き" ページについては、この PeopleBook の「上書きの設定」の章で説明されています。

関連項目:

[第 18 章、「上書きの設定」、エレメント定義上書きの定義、690 ページ](#)

控除エレメントの定義

控除エレメントを定義するには、控除コンポーネント (GP_DEDUCTION) を使用します。

このセクションでは、控除エレメントの設定手順、純支給額の確認と延滞処理、延滞と遡及処理、および回収処理についての概要と、以下の方法について説明します。

- 控除エレメント名の定義
- 控除エレメントのユーザー フィールドの定義
- 控除エレメントの計算ルールを定義します。
- 控除エレメントの端数処理オプションおよび比例配分オプションの定義
- 延滞情報の定義
- 控除エレメントの自動作成累計の定義
- 控除エレメントの累計期間の選択
- 控除エレメントの作成済みエレメントの表示
- 控除エレメントの累計先となる累計の指定
- 控除の一般受取人の選択

- 控除エレメントの上書き

控除エレメントの設定手順について

控除とは、個人の給与から差し引かれる給与計算の要素のことです。控除には、任意控除と法定控除があります。任意控除には、退職プラン、企業の株式購入、組合費、駐車代などの控除があります。法定控除には、税や差し押さえなどの控除があります。

控除エレメントを作成するには、次の手順に従います。

1. 控除名、計算ルール、端数処理と比例配分ルール、累計、およびサポートエレメント上書きを、必要に応じて定義します。

注意: 控除エレメント定義で使用するページは、支給エレメント定義のページとほぼ同じです。

2. 純支給額が控除額に満たない場合に適用するルールを定義します。

これらのルールを定義するには、"控除" の延滞ページを使用します。**延滞**を使用すると、純支給額が不足しているために今回の給与計算の実行から差し引けない控除を保存できます。つまり、延滞には将来控除される金額が保存されます。

3. 必要に応じて、"控除" の受取人ページで、控除の一般受取人を指定します。

注意: このセクションでは、控除コンポーネントに固有のページについてのみ説明します。支給コンポーネントと控除コンポーネントの両方に共通するページについては、この章の支給についてのセクションで説明されています。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、支給エレメントの定義、 281 ページ

純支給額の確認と延滞処理について

控除エレメントを定義する際に、受給者の純支給額が控除の合計額より少ない場合はどうするかを定義します。また、その控除できなかった金額、つまり延滞額の回収方法も設定できます。

注意: 控除を定義する前に、"控除" の延滞ページにある機能を使用するか、これらの機能をユーザー自身で処理するかを決める必要があります。

純支給額の確認

純支給額の確認機能を使用すると、控除後の純支給額がマイナス、または定義された下限額未満になるような控除は行われなくなります。システムに用意されている延滞管理機能および回収機能を使用するには、純支給額の確認機能を有効にする必要があります。純支給額の確認を使用しない場合、受給者の純支給額がマイナスになっても、常に控除の合計額が差し引かれます。また、延滞処理のオプションは全て使用できません。

純支給額の確認を使用すると、純支給額が控除の合計額より少ないときの控除の順序を指定することができます。選択肢は以下のとおりです。

- 処理順序
- 優先順位

処理順序の場合は、セクションの処理中に検出された控除の順序が参照されます。この順序は、セクションに割り当てられた控除の連番によって決まります。控除を計算するときに、受給者の純支給額が控除額より多いかどうかが即座に確認されます。純支給額が足りない場合、"控除" の延滞ページの定義に従って、金額の一部を控除するか、全く控除しないかが決められます。

優先順位の場合は、"控除" の延滞ページで割り当てられた控除の相対優先番号が参照されます。優先順位に基づいて純支給額の確認を行う場合、まず純支給額の確認なしの処理順序で全ての控除が計算されます。その後、純支給額累計が確認されます。純支給額がゼロまたは定義された下限額より大きい場合は、処理が終了します。そうでない場合は、優先順位の最も低い控除を調整して、純支給額が足りているかどうかを確認されます。純支給額がゼロまたは定義された下限額を超えるまで、優先順位の低い控除から順にこの処理が繰り返されます。優先順位に基づいた純支給額の確認は反復処理を必要とするので、サブ プロセス セクションでのみ使用できます。

注意: 優先順位に基づいた純支給額の確認は、控除の処理順序と優先順位が異なる場合に使用すると便利です。たとえば、税引き前の控除の場合、正しい純支給額を算出するには、税計算の前に変換を行う必要があります。しかし、税計算の後に処理される差し押さえの控除の方が、税引き前の控除よりも重要となる場合があります。

注意: 通常、特定の給与計算の実行で使用する純支給額の確認方法は 1 つだけです。

処理順序による純支給額の確認と優先順位による純支給額の確認の違いを、次の例で説明します。

例: 処理順序による純支給額の確認

次の表は、処理順序に基づいた純支給額の確認 (NPV) の処理結果を表しています。それぞれの控除は、純支給額がマイナスの値になった場合に、部分控除を認めるように定義されているとします。

処理順序	常時再計算	金額 (純支給額の 確認前)	変換済金額	未控除額	純支給残額
給与					9,000
車両手当					9,000
健康保険	×	500	500	0	8,500
年金	×	1,500	1,500	0	7,000
税 1	□	2,240	2,240	0	4,760
税 2	□	720	720	0	4,040
組合費	×	500	500	0	3,540
駐車代	×	300	300	0	3,240
差し押さえ 1	□	1,208	1,208	0	2,032
差し押さえ 2	×	3,000	2,032	968	0

この例の場合、純支給額は差し押さえ 2 以外の全ての控除をカバーしています。差し押さえ 2 については、部分控除を差し引くことができます ($3,000 - 2,032 = 968$)。

例: 優先順位による純支給額の確認

次の表は、優先順位に基づいた純支給額の確認 (NPV) を行う場合の、最初の処理結果を表しています。純支給額の確認は、サブプロセスの最初の処理では行われません。

処理順序	常時再計算	金額 (純支給額の 確認前)	変換済金額	未控除額	純支給残額
給与					9,000
車両手当					9,000
健康保険	×	500	500	0	8,500
年金	×	1,500	1,500	0	7,000
税 1	□	2,240	2,240	0	4,760

処理順序	常時再計算	金額 (純支給額の確認前)	変換済金額	未控除額	純支給残額
税 2	<input type="checkbox"/>	720	720	0	4,040
組合費	×	500	500	0	3,540
駐車代	×	300	300	0	3,240
差し押さえ 1	<input type="checkbox"/>	1,208	1,208	0	2,032
差し押さえ 2	×	3,000	3,000	0	-968

注意: 車両手当は、現物の支給です。課税対象総額には含まれますが、純支給額には含まれません。

純支給残額がマイナスなので、もう一度処理が行われます。2 度目の処理では、優先順位の最も低い、つまり優先順位番号が最も大きい駐車代に対して純支給額の確認が行われます。まず、駐車代の最初の処理の値が戻されます。控除名ページの [常時再計算] チェック ボックスで定義した控除の再計算ルールが常に参照されます。そのため、2 度目の処理では、駐車代は再計算されずに純支給額の確認が行われます。

処理順序	常時再計算	未控除の場合の純支給額	金額 (純支給額の確認前)	変換済金額	未控除額	純支給残額	優先度
給与						-968	
車両手当						-968	
健康保険	×		500	500	0	-968	450
年金	×		1,500	1,500	0	-968	500
税 1	<input type="checkbox"/>		2,240	2,240	0	-968	100
税 2	<input type="checkbox"/>		720	720	0	-968	100
組合費	×		500	500	0	-968	700
駐車代	×	-668	300	0	300	-668	800

処理順序	常時再計算	未控除の場合の純支給額	金額 (純支給額の確認前)	変換済金額	未控除額	純支給残額	優先度
差し押さえ 1	□		1,208	1,208	0	-668	225
差し押さえ 2	×		3,000	3,000	0	-668	225

2 度目の処理の後でも、純支給残額はマイナスです。駐車代はこれ以上減額できないので、優先順位リストから除外されます。次のループでは、優先順位の最も低い控除は組合費になります。駐車代がスキップされること以外は全く同じ再計算ロジックが実行され、組合費が純支給額の確認処理の対象となります。組合費の次は、年金の控除が評価されます。この処理は、純支給残額がゼロ以上になるまで繰り返されます。

注意: パフォーマンスを向上させるには、税引き後の控除全てに同じ優先順位番号を割り当てて、同じ処理の中でまとめて変更するようにします。

優先順位による純支給額の確認の設定手順

控除の優先順位に基づいて純支給額の確認が行われるようにするには、処理順序による純支給額の確認では必要とされない設定をいくつか行う必要があります。

純支給額の確認で優先順位を使用するには、次の設定手順に従います。

1. 純支給額の確認のためのフォーミュラを定義します。

全ての控除が処理順序に従って計算された後で、優先順位の低い控除 (優先順位番号の大きいもの) から順に、このフォーミュラが変換されます。このフォーミュラは、エレメントの計算または純支給額の確認 (あるいはその両方) を行うか、またはエレメントの計算をスキップするかを指示する値を返します。フォーミュラ作成のガイドラインについては、「エレメント処理の定義」の章で説明されています。

2. 純支給額確認フォーミュラを、適用する国に割り当てます。

"国別設定" の国ページの [純支給額確認フォーミュラ] フィールドで、このフォーミュラを選択します。

3. "控除" の延滞ページで、控除の優先順位を指定します。

4. サブプロセス セクションに控除を登録します。

このサブプロセス セクションでは、[優先順位による純支給額確認] をオンにする必要があります。

参照: 第 15 章、「エレメント処理の定義」、セクションの設定、563 ページおよび第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、国別設定の定義、47 ページ。

延滞コンポーネントと累計

控除エレメントを作成すると、純支給額の確認の実行を指定したかどうかにかかわらず、延滞処理に対する 3 つのコンポーネント エレメントと延滞残高累計が自動的に作成されます。次に説明する、これらのコンポーネントは、純支給額の確認機能が使用される場合にのみ、自動的に更新されます。

- 未控除額

このコンポーネントでは、現在の支給期間に対する純支給額累計の下限額を超過した控除金額が保存されます。

注意: 純支給額累計は、プロセス リスト コンポーネント (GP_PROCESS) の定義ページで定義します。

- 回収額

このコンポーネントでは、延滞残高のうち現在の支給期間で回収される金額が保存されます。回収額には、現在の支給期間の未控除額は含まれません。

- 延滞加算額

"控除" の延滞ページで、[控除延滞を認める] チェック ボックスをオンにすると、延滞加算額が未控除額と等しくなります。

- 延滞残高

この累計では、受給者の延滞額の追跡管理を行います。延滞加算額コンポーネントの値が、この残高累計に加算されます。回収額コンポーネントの値は、この残高累計から減算されます。

延滞処理方法

純支給額が控除の合計額より少ない場合、部分的に控除するか、または全く控除しないようにすることができます。"控除" の延滞ページの [純支給額確認方法] グループ ボックスでオプションを指定します。以下の 2 つの例は、それぞれの処理方法による計算結果を示しています。

延滞処理の例 1: [部分控除を認める] チェック ボックスがオフの場合

[部分控除を認める] チェック ボックスがオフの場合、現在の支給期間に対し、純支給額が控除の合計額より多い場合にのみ控除が行われます。控除額全体を差し引くことができない場合、控除の合計額が延滞残高に加算されます。次の表は、この例の純支給額、控除額、および延滞額の一覧です。

現在の純支給残額	控除	開始時の延滞残高
100	120	50

処理手順は次のとおりです。

1. 控除額 120 を未控除額に加算します。
2. [控除延滞を認める] チェック ボックスがオンの場合、控除額 120 を延滞加算額に加算します。
3. 控除額をゼロにします。
4. 開始時の延滞残高 50 を回収額に移動します。
5. 開始時の延滞残高 50 を控除額に移動、つまり、回収額を控除額に加算します。

次の表は、処理後の値の一覧です。

控除	未控除額	延滞加算額	終了時の延滞残高
50	120	120	120

変換後の控除エレメントの値は、控除額と回収額の合計になります。

延滞処理の例 2:

1 月の控除前の純支給残額 = 50

次の控除があります。

- D1 = 25、部分控除を認める
- D2 = 50、全額控除のみ
- D3 = 50、部分控除を認める

次の表は、控除 D1、D2、および D3 の延滞処理における計算値の一覧です。

控除エレメント	変換済み金額	未控除額	延滞加算額	回収額	終了時の延滞残高	年間累計額	振替金額	最終純支給額
D1	25	0	0	0	0	25	25	25
D2	0	50	50	0	50	0	0	25
D3	25	25	25	0	25	25	25	0

1 月の最終純支給額 = 0

2 月の控除前の純支給額 = 110

次の表は、控除 D1、D2、および D3 の延滞処理における、2 月の計算値の一覧です。

控除エレメント	変換済み金額	未控除額	延滞加算額	回収額	終了時の延滞残高	年間累計額	振替金額	最終純支給額
D1	25	0	0	0	0	50	25	85
D2	85*	0	0	35	15	85	85	0
D3	0	50	50	0	75	25	0	0

* $50 + 35 = 85$ (現在の控除額 + 回収可能な延滞残高の金額)

2 月の最終純支給額 = 0

延滞と分割

期間が分割され、最初のセグメントで控除が延滞になると、後続くセグメントでその延滞の回収が試みられます。

純支給額の確認と遡及処理

純支給額の確認の前に、遡及調整額が控除額に加算されます。純支給額がこの調整額をカバーできない場合、カバーできなかった金額は全て未控除額に加算されます。

延滞と遡及処理について

延滞処理では、基本的に次の 2 つの状況を考慮する必要があります。

- ある支給期間に対し、最初は延滞が計算されたが、その後の遡及処理で延滞が計算されない場合。
- ある支給期間に対し、最初は延滞が計算されなかったが、その後の遡及処理で延滞が計算される場合。

延滞および遡及処理の繰越について、基本的なルールを以下に示します。

- 繰り越されるエレメントに基づいているエレメントの場合、同じように "繰り越し" で動作するようには設定しません。
- 別のエレメントに基づいているエレメントが控除の場合は、以下のようになります。
 - 繰り越されないエレメントに基づいている控除は繰り越します。
 - 繰り越されるエレメントに基づいている控除は繰り越しません。

注意: 延滞累計を定義する場合は、"累計" のレベル ページの [訂正を使用] チェック ボックスを常にオンにしておくことをお勧めします。これは、累計に含まれるコンポーネントがそれ自身はデルタを生成しないためで、累計が繰り越し処理される場合に二重計上が非常に発生しやすくなります。

参照: 第 10 章、「累計の設定」、367 ページおよび第 33 章、「遡及処理の定義」、1219 ページ。

延滞と遡及処理の繰り越しの例

次の例では、ほかのエレメントに基づくエレメントを設定する方法と、それらが遡及処理でどのように処理されるのかを説明します。ここでは特に、前回の期間の延滞を再計算する際の説明をしています。この説明は相互に関連するエレメントを再計算するあらゆる状況に当てはめることができます。

この例では、繰り越しの遡及方法を使用しているとします。遡及処理の繰り越しでは、全てのエレメントが自動的に繰り越されるわけではなく、繰り越すエレメントを手動で選択する必要があります。また、ほかのエレメントに関連付けられている控除があるときは、一定の設定ルールに従います。次の例では、一般的な設定について説明します。

この例では、以下のように設定されているとします。

- 1 月と 2 月の 2 つの支給期間があります。
- 2 月には、1 月に対する遡及支払いを行います。
- 以下のエレメントが含まれています。
 - E1: 固定額 (数値) = 100
 - D2: 固定額 (数値) = 95
 - D1: ベース × パーセント (ベースは支給 (E1)、パーセントは数値 (10%)。したがって、 $D1 = E1 \times 10\%$)
- その他のエレメント定義:
 - E1: 遡及再計算オプション = 常時再計算
 - D2: 遡及再計算オプション = 再計算しない
 - D1: 遡及再計算オプション = 再計算しない
- 1 月の E1 に対する遡及調整額は 100 です。受給者には総額で 200 が支給されています。2 月に繰り越されるデルタ 100 があります。

次の表に、E1、D1、D2、D1_ANT (未控除額)、D1_PBK (回収額)、D1_ATAR (延滞加算額)、D1_ARR (延滞累計) について、1 月と 2 月の 2 か月間に対する、再計算前および再計算後の金額を示します。2 月は現在の期間なので、2 月の再計算値はありません。

エレメント	遡及再計算オプション	1 月 - 再計算 前の値	1 月 - 再計算後 の値	2 月
E1	常時再計算	100	200 (デルタ 100)	300 (200 + 1 月から繰り 越しのデルタ 100)
D2	再計算しない	95	95	95
D1	再計算しない	5	5	35 (30 + 回収額 5)

エレメント	遡及再計算オプション	1 月 - 再計算 前の値	1 月 - 再計算後 の値	2 月
D1_ANT	再計算しない	5	5	0
D1_PBK	再計算しない	0	0	5
D1_ATAR	再計算しない	5	5	0
D1_ARR	訂正を使用 = オフ	5	5	0
純支給額	該当なし	0	0	170

この例の説明は以下のとおりです。

- 1 月分の D1 の値は 5 です。

D1 は E1 の 10% なので、通常なら 1 月の D1 の値は 10 になるのですが、E1 の値が 100 で D2 の値が 95 であり、純支給額はマイナスにできないので、1 月の D1 の上限額は 5 になります。控除されなかった分の 5 は、D1_ANT (未控除額)、D1_ATAR (延滞加算額)、D1_ARR (延滞累計) に移されます。

- 2 月分の E1 の値は 300 です。

これは、200 (E1 の 2 月の元の額) + 100 (1 月から繰り越されたデルタの額) = 300 で算出されます。

- 2 月分の D1 の値は 35 です。

これは、30 (2 月分の E1 の 10%) + 回収額 5 (2 月に繰り越された D1_ARR の 1 月分の値) = 35 で算出されます。

- D1 で控除される額の合計は 40 です。これは 2 か月分の合計で、 $D1 = 5$ (1 月分) + 35 (2 月分) = 40 で算出されます。

この遡及計算が正しいことは、次の方法でも確認できます。D1 は E1 の 10% なので、E1 の両方の月の元の金額を次のように合計します。 100 (1 月分) + 300 (2 月分) = 400 。つまり、 $D1 = 40$ (400 の 10%)。

回収処理について

控除に対し、アクション タイプが **"処理しない"** のポジティブ入力行、および延滞残高が存在する場合、その控除がまだプロセス リストにあって純支給額が足りていると、その延滞残高の回収が試みられます。

エレメントのジェネレーション コントロールでエレメントの変換が指定されていない場合でも、延滞残高があり、また [延滞回収の管理] オプションが [給与計算の全実行] に設定されていると、回収処理は行われます。

回収処理の対象となる延滞残高には、延滞残高に新しく加算された金額は含まれません。

回収処理と資格

回収処理では、受給者の控除資格は確認されません。受給者に延滞残高があり、その控除がまだプロセス リストにあって純支給額が足りている場合は、その延滞残高の回収が試みられます。たとえば、延滞残高のある受給者の有資格グループを変更した場合、その控除エレメントが新しい有資格グループに指定されないと、この延滞残高の回収処理は続けられます。

例: 延滞と回収処理

この例では、以下のような情報があるとします。

- 純支給額 = 100
- 控除額 = 120
- 開始時の延滞残高 = 50
- [純支給額の確認を実行する] がオン、[部分控除を認める] がオフ、[控除延滞を認める] がオンで、[延滞回収オプション] に [制限なし] が設定されているとします。

控除額および延滞加算額は以下ようになります。

- 未控除額 = 120
- 延滞加算額 = 120
- 控除額 = 0

回収処理は以下のように実行されます。

- 回収対象となる開始時の延滞残高 = 50

- 純支給額 = 100
- 回収額には 50 が設定されます。
- 回収額を控除額に加算します ($0 + 50 = 50$)。

延滞累計は以下のように計算されます。

- 開始時の残高 = 50
 - 延滞加算額 = 120
 - 回収額 = 50
 - 計算式: 開始時の残高 + 延滞加算額 - 回収額
- $$50 + 120 - 50 = 120$$

控除エレメントの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
[控除名]	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[控除]、[控除名]	エレメント名を付け、基本パラメータを定義します。
[控除] - [控除名] - [<エレメント名> のユーザーフィールド]	GP_PIN_USR_FLD_SEC	控除名ページの [変換パラメータ] グループ ボックス内の [ユーザーフィールド] リンクをクリックします。	ユーザー フィールドを定義して、個別のインスタンスをエレメントに作成します。
[控除] - [計算]	GP_ERN_DED_CALC	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[控除]、[計算]	控除エレメントの計算ルールを定義します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
[控除] - [端数処理/比例配分]	GP_ERN_DED_RND	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[控除]、[端数処理/比例配分]	控除エレメントの端数処理オプションおよび比例配分オプションを指定します。
[控除] - [延滞]	GP_ERN_DED_ARR	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[控除]、[延滞]	純支給額が控除額より少ないときの処理方法、延滞残高がある場合の、延滞の回収方法、およびサードパーティのシステムを使用する受取人への支払方法を指定します。
[控除] - [自動作成累計]	GP_AUTOGEN_ACUM	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[控除]、[自動作成累計]	控除エレメントの自動作成累計の特性を定義します。
[控除] - [自動作成累計] - [<エレメント名> の累計期間]	GP_ERN_DED_ACM_SEC	"控除" の自動作成累計ページの [累計期間] リンクをクリックします。	自動的に作成される累計を定義します。
[控除] - [自動作成累計] - [<エレメント名> の作成済エレメント]	GP_AUTOGEN_SEC	"控除" の自動作成累計ページの [作成済エレメント表示] リンクをクリックします。	控除エレメントに対して自動的に作成されたコンポーネントと累計が表示されます。
[控除] - [その他の累計]	GP_ERN_DED_AC_ADDL	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[控除]、[その他の累計]	控除エレメントの累計先となる、システムに定義済みの累計を指定します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
[控除] - [受取人]	GP_RCP_DED	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[控除]	控除の一般受取人を選択します。税務署など、特定の控除に対して受給者から源泉徴収される金額の全てを受け取る組織を指定します。
[控除] - [サポート エレメント上書き]	GP_ELM_DFN_SOVR	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[控除]、[サポート エレメント上書き]	控除エレメントの定義で使用されている特定のサポート エレメント、または控除の定義に含まれていないサポート エレメントの値を上書きします。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、支給エレメントの定義に使用するページ、283 ページ

控除エレメント名の定義

全てのエレメントについて、エレメント名共通ページでその名称と基本パラメータを定義してください。グローバル ペイロールでは、全てのエレメントのコンポーネントに、エレメント名共通ページ (GP_PIN) という共通の先頭ページが含まれています。ただし、控除名ページには、控除にのみ適用されるフィールドがいくつかあります。

控除名ページは、支給名ページとほぼ同じです。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、支給エレメント名の定義、285 ページ

控除エレメントのユーザー フィールドの定義

[控除]、"控除名" の "<エレメント名> のユーザー フィールド" ページは、[支給]、"支給名" の "<エレメント名> のユーザー フィールド" ページとほぼ同じです。

重要: ユーザー フィールドを使用して控除が定義されている場合、そのユーザー フィールドは自動的に控除の自動作成延滞累計のユーザー キーにコピーされます。ユーザー フィールドが変更されると、ユーザー フィールドを使用した延滞累計のキーも自動的に同期が取られます。エレメントの変換後は、ユーザー フィールドは変更できません。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、支給エレメントのユーザー フィールドの定義、 287 ページ

控除エレメントの計算ルールの定義

"控除" の計算ページは、"支給" の計算ページとほぼ同じです。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、支給エレメントの計算ルールの定義、 292 ページ

控除エレメントの端数処理オプションおよび比例配分オプションの定義

"控除" の端数処理/比例配分ページは、"支給" の端数処理/比例配分ページとほぼ同じです。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、支給エレメントの端数処理オプションおよび比例配分オプションの定義、 297 ページ

延滞情報の定義

"控除 - 延滞" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[控除]、[延滞]) にアクセスします。

控除名(D)

計算(C)

端数処理/比例配分

延滞(E)

自動作成累計(U)

その他の累計(A)

受取人(P)

サポート エレメント上書き

エレメント名:

KOTAX1

Tax1

所有者:

PS 非管理

定義

検索 | 全件表示 最初 1/1 最後

有効日:

1990/01/01

☒ 純支給額の確認を実行する

純支給額確認方法

☐ 部分控除を認める

☒ 純支給残額を使用

☐ フォーミュラを使用

部分フォーミュラ エレメント:

☐ 控除延滞を認める

優先順位:

999

サードパーティへの振替

☒ 控除済金額

☐ 計算済金額

延滞回収オプション

☒ 制限なし

☐ 指定額を使用

回収タイプ:

回収エレメント:

延滞回収の管理

☒ 給与計算の全実行

☐ 控除スケジュール

"控除" - 延滞ページ

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

323

純支給額の確認を実行する

このチェック ボックスをオンにすると、純支給額の確認が有効になります。純支給額の確認を行うと、純支給額が控除額より少ない場合に、純支給額がゼロまたは定義された下限額を下回らないようにすることができます。[部分控除を認める] チェック ボックスと [控除延滞を認める] チェック ボックスを使用して、その控除を差し引くのかどうか、またどのくらい差し引くのかを指定することができます。

このチェック ボックスをオンにしないと、控除後の純支給額がマイナスになる場合でも、控除額が全額差し引かれます。その場合、純支給残高がマイナスになった場合の処理を定義する必要があります。

純支給額がゼロでない下限額を下回らないようにするには、"プロセス リスト" の定義ページで下限額を定義します。

注意: このページのその他のフィールドは、このチェック ボックスをオンにした場合にのみ、入力することができます。

参照: 第 15 章、「エレメント処理の定義」、プロセス リストの設定、571 ページ。

優先順位

ほかの控除に対する、この控除の優先順位を指定します。受給者の純支給額が控除の合計額より少ない場合に、この値が参照されます。デフォルトの値は 999 です。この値は最大値でもあります。優先順位番号の小さい控除の方が、優先度が高くなります。たとえば、優先順位が 1 のエレメントの控除額は、その他の控除を差し引く前に差し引かれます。

同じ優先順位番号の控除が複数ある場合は、セクションに登録されている順、つまり処理順序に従って、控除に対する純支給額の確認が行われます。控除に複数のインスタンスがある場合、優先順位は処理順序の逆になります。たとえば、エレメント D1 のインスタンス 1、2、および 3 がある場合、その処理順序は 1、2、3 になります。反対に、純支給額の確認の順序は 3、2、1 になります。

注意: このフィールドは、控除の優先順位に基づいて純支給額の確認をする場合に使用します。

控除エレメントを定義した国に対して純支給額確認フォーミュラが関連付けられているか、または控除エレメントが全ての国に対して定義された場合に、このフィールドは使用可能になります。国別の純支給額確認フォーミュラを指定するには、国別設定のページを使用します。

参照: 第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、純支給額の確認と延滞処理について、307 ページ。

純支給額確認方法

このグループ ボックスで、控除があればそのうちいくらかを処理するのか、および未控除額を延滞残高として管理するのかどうかを指定します。

部分控除を認める

このチェック ボックスをオンにすると、控除後の純支給額がゼロ、または "プロセス リスト" の定義ページで定義した純支給額の下限額を下回る場合に、控除額の一部だけが差し引かれます。どのくらい控除するかは、次のオプションから選択して指定します。

[純支給残額を使用]: このオプションを選択すると、控除可能な純支給残額が全て差し引かれます。たとえば、受給者の純支給額が 100 で、控除額が 120 の場合、100 が控除されます。純支給額の下限額を定義している場合は、純支給額がその下限額を下回るような控除は行われません。

[フォーミュラを使用]: このオプションを選択すると、控除額の決定にフォーミュラが使用されます。

[フォーミュラを使用] オプションは、優先順位に基づいて純支給額の確認を行う場合に、税引き前の控除に対して特に役に立ちます。たとえば、純支給残額の 3 分の 1 など、純支給残額より少ない部分控除額を設定するフォーミュラを作成することができます。こうすることで、純支給額確認サブプロセス セクションで必要とされるループ数を減らすことができます。フォーミュラでは、システム エレメント OVRD CURR AMT VAL に部分控除額を割り当てるようにします。変換された金額は、純支給額の確認処理の前に端数処理されるので、部分控除の金額については、端数処理の要件に応じて、このフォーミュラで端数処理を行う必要があります。この控除エレメントの値がプラスの値で、かつ、純支給額の下限額を考慮した上で、システム エレメント NET AVAILABLE に格納されている純支給残額以下であるかどうかを確認されます。OVRD CURR AMT VAL の値がマイナスか、NET AVAILABLE の値より大きい場合、控除および支給はエラーになります。

この場合、フォーミュラは次のようになります。(sy/NET AVAILABLE/2) >> sy/OVRD CURR AMT VAL

このフォーミュラでは、純支給残額を分割して部分控除額を算出します。最初は 2 で割ります。

このチェック ボックスをオンにしない場合、控除の全額を差し引くことができないので、給与計算で控除は行われません。変換後の金額はゼロになります。

部分フォーミュラ エレメント

[フォーミュラを使用] オプションを選択する場合は、このフィールドに値を入力します。

控除延滞を認める

このチェック ボックスがオンの場合、控除額が控除可能な純支給額を上回ると、控除額が延滞残高累計に保存されます。これにより、未控除額 ([部分控除を認める] チェック ボックスの設定に従って、控除額の一部または全部) の追跡が可能になり、将来の給与計算で控除する必要がある金額として認識されます。将来の給与計算で回収する金額は、[延滞回収オプション] グループ ボックスで指定します。

[純支給額の確認を実行する] チェック ボックスがオンの場合、未控除額は常に保存されます。[控除延滞を認める] チェック ボックスがオンの場合にのみ、未控除額が延滞加算額コンポーネントに移され、回収の対象となります。さらに、この値は延滞残高に加算されます。

サードパーティへの振替

控除受取人に送金する控除額を指定します。受取人情報は、"控除" の受取人ページで定義します。

控除済金額

受給者に対する変換済みの金額だけを送金する場合は、このオプションを選択します。この場合、未控除額コンポーネントに保存されている金額は含まれません。

計算済金額

計算済みの金額、つまり変換された金額と未控除額の合計を送金する場合は、このオプションを選択します。

例: サードパーティへの振替方法の比較

延滞額が回収されると、控除済み金額と計算済み金額の最終的な値は同一になります。この例では、以下の状況を想定します。

D1: 控除済み金額 (値 = 100)

D2: 計算済み金額 (値 = 100)

期間 1 では、純支給額が不足しているため、D1 に対しては 50、D2 に対してはゼロが控除されます。D1 に対しては、控除済み金額の 50 が送金されます。D2 に対しては、変換済みの金額と未控除額の合計の 100 が送金されます。

期間 2 では、両方の控除に対する現在の控除額および回収額を、純支給額が上回っています。D1 は、150 (現在の控除額 100 と回収額 50 の合計) に変換されます。D2 は、200 (現在の控除額 100 と回収額 100 の合計) に変換されます。D1 に対しては 150 (現在の控除額と回収額の合計)、D2 に対しては 100 (現在の控除額のみ) が送金されます。期間 2 の後では、それぞれの控除に対して 200 が送金されています。

延滞回収オプション

制限なし

このオプションを選択すると、延滞残高の全額の控除が試みられます。たとえば、最初の給与計算の後で、受給者に 200 の延滞残高があったとします。[制限なし] オプションを選択すると、次に給与計算が処理されるときに、延滞残高全額の 200 の控除が試みられます。この額が回収額となります。

指定額を使用

このオプションを選択すると、数値を入力するか、またはブラケット、フォーミュラ、変数のエレメントを選択して、最大回収額を指定できます。

回収タイプ

このフィールドを使用できるのは、[指定額を使用] をオンにした場合のみです。最大回収額、つまり延滞残高がゼロになるまで各給与計算から控除される上限額を返すエレメントのタイプを選択します。

有効値は、[ブラケット]、[フォーミュラ]、[数値]、および [変数] です。

回収エレメント

最大回収額を返すエレメントを選択するか、数値を入力します。変数、ブラケット、およびフォーミュラの場合は、フィールド フォーマットが 10 進数または金額のエレメントのみが指定可能です。

注意: [支給] または "控除" の計算ページで定義されている通貨が使用されます。これらのページで通貨が定義されていない場合は、プライマリ権限リスト基本設定ページで定義されている通貨が使用されます。

延滞回収の管理

回収がいつ行われるかを指定します。

給与計算の全実行

このオプションを選択すると、受給者が支給を受けるたび、または受給者に対しセグメントが処理されるたびに、延滞額の回収が行われます。これは、期間内にジェネレーション コントロール条件が存在する場合も同様です。

控除スケジュール

このオプションを選択すると、控除が変換されたときにのみ、回収が行われます。たとえば、週単位の給与計算で毎月の最初の週次期間にのみ処理 (変換) される控除があるとしてします。この期間に受給者に対して延滞が作成されると、ジェネレーション コントロールが設定されているので、次の月の最初の週次期間までその回収は行われません。ただし、スケジュールされていない期間に対してポジティブ入力が行われている場合、回収が実行されます。

関連項目:

第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、ポジティブ入力の作成、630 ページ

控除エレメントの自動作成累計の定義

"控除" の自動作成累計ページは、"支給" の自動作成累計ページとほぼ同じです。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、支給エレメントの自動作成累計の定義、299 ページ

控除エレメントの累計期間の選択

[控除]、"自動作成累計" の "<エレメント名> の累計期間" ページは、[支給]、"自動作成累計" の "<エレメント名> の累計期間" ページとほぼ同じです。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、支給エレメントの累計期間の選択、301 ページ

控除エレメントの作成済みエレメントの表示

[控除]、"自動作成累計" の "<エレメント名> の作成済エレメント" ページは、[支給]、"自動作成累計" の "<エレメント名> の作成済エレメント" ページとほぼ同じです。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、支給エレメントの作成済みエレメントの表示、302 ページ

控除エレメントの累計先となる累計の指定

"控除" の "その他の累計" ページは、"支給" の "その他の累計" ページとほぼ同じです。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、支給エレメントの累計先となる累計の指定、303 ページ

控除の一般受取人の選択

"控除 - 受取人" ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[控除]、[受取人]) にアクセスします。

"控除" - 受取人ページ

注意: 最初に、控除受取人定義ページで一般受取人を定義する必要があります。受取人を指定するフォーミュラを使用する場合は、先にそのフォーミュラを定義する必要があります。

受取人選択

控除の受取人を選択するパラメータを選択します。値は以下のとおりです。

[受取人名]: 受取人 ID テーブルから受取人フィールド プロンプトの有効値を作成する場合に選択します。

[フォーミュラ別受取人]: フォーミュラ名から受取人フィールド プロンプトの有効値を作成する場合に選択します。

受取人

この控除の受取人を選択します。

この控除で源泉徴収される全額に対する**一般**受取人がいる場合は、その受取人を指定します。(「銀行振込」のセクションで説明されている控除受取人コンポーネントを使用して、受取人カテゴリ (一般または個人) を指定します。)

差し押さえがあるなど、受給者レベルで受取人を割り当てる場合は、このフィールドは空欄にしておきます。代わりに、受給者用の控除受取人割当ページを使用して、特定の受給者に対する控除額の個人受取人を選択します。特定の受給者または控除に対して複数の個人受取人を指定する場合 (複数変換される控除の場合) は、受給者別エレメント割当ページまたはエレメント別受給者割当ページを使用して、個人受取人をインスタンスに割り当てます。

注意: 控除に一般受取人を割り当てている場合でも、特定の受給者に対する受取人を上書きできます。受取人を上書きするには、受給者用の控除受取人割当ページで個人受取人を設定し、必要に応じて受給者別エレメント割当ページまたはエレメント別受給者割当ページを使用します。

関連項目:

第 34 章、「銀行振込の定義」、控除受取人の定義、1326 ページ

第 34 章、「銀行振込の定義」、控除と受給者に対する受取人の割り当て、1330 ページ

控除エレメントの上書き

"控除" の "サポート エレメント上書き" ページは、"支給" の "サポート エレメント上書き" ページとほぼ同じです。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、支給エレメントの上書き、306 ページ

支給と控除の処理の準備

支給エレメントまたは控除エレメントを設定した後で、以下の作業を行う必要があります。

- エレメント グループへのエレメントの追加

エレメント グループを使って、資格対象エレメントのグループ化を行います。

- セクションへのエレメントの追加

セクションでは、処理の際にどのエレメントがどの順序で変換されるかを定義します。

関連項目:

第 14 章、「組織構造の定義」、エレメント グループの定義、522 ページ

第 15 章、「エレメント処理の定義」、セクションについて、546 ページ

第 9 章

エレメント上書きの設定

この章では、エレメント割り当て上書きの概要と、以下の内容について説明します。

- ビジネス プロセスのニーズに応じたサポート エレメント上書きコンポーネントの修正および置換
- 標準コンポーネント上書き例の確認
- 代替コンポーネント上書き例の確認

エレメント上書きの設定について

グローバル ペイロールを使用すると、PeopleSoft 提供の以下のページを設定できます。

- エレメント詳細ページ (受給者別エレメント割当コンポーネントおよびエレメント別受給者割当コンポーネントからアクセス可能、支給/控除割り当てページとも呼ばれる)
- "ポジティブ入力 - 詳細" ページ (ポジティブ入力コンポーネントおよび "ポジティブ入力 - カレンダー別" コンポーネントからアクセス可能)

これらの各ページをそのまま使用することも、以下のようにすることも可能です。

- 上書きするエレメントに適合するようにラベル、プロンプト テーブル、トランスレート値、およびオン/オフ値を変更して各ページを修正します。
- エレメント詳細ページを置き換える新規のページおよびコンポーネントを作成します。これにより、さらに柔軟にフィールド、ページ ラベル、プロンプト、およびその他のページ エレメントを定義できるようになります。

PeopleSoft アプリケーション デザイナを使用して、他のコンポーネントと同様に PeopleSoft で代替のページおよびコンポーネントを作成します。

参照: 『Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Application Designer Developer's Guide』

エレメント上書きコンポーネントの修正

2 つの設定コンポーネントを使用して、エレメント上書きページを修正できます。具体的には、エレメント別設定コンポーネントおよびカテゴリ別設定コンポーネントで以下のことが可能です。

- エレメント詳細ページ (支給/控除割り当て用) を自分で作成した代替コンポーネントに置き換えます (ローン、差し押さえ、および債券などの上書き処理のため)。
- エレメント詳細ページ (支給/控除割り当て用) と "ポジティブ入力 - 詳細" ページ (ポジティブ入力用) を、以下の操作が可能なページを使用して修正します。
 - サポート エレメント上書きのグループ ボックス ラベルの定義
 - ユーザーが入力できるサポート エレメント上書きの指定
 - フィールドが必須であることの指定
 - 各サポート エレメント上書きについて、適用するプロンプト、オン/オフ値、トランスレート値の指定
 - サポート エレメント上書きラベルの定義

以下の表は、修正または置換できるエレメント上書きページのリストです。各ページに対して行うことができる変更内容を説明しています。

エレメント上書き ページ名	アクセス方法	修正/置換	[追加の上書き] グ ループ ボックスの 表示/非表示	サマリ
ポジティブ入力 - 詳細	<ul style="list-style-type: none"> ポジティブ入力ページで [詳細] リンクをクリックします。 "PI - カレンダー別" ページで [詳細] リンクをクリックします。 	オン/オフ	非適用	<ul style="list-style-type: none"> [サポート エレメント上書き] グループ ボックスの説明ラベルを定義します。たとえば、標準の [サポート エレメント上書き] グループ ボックス内に新しいグループ ボックスとして表示されるグループ ボックスに "車両手当上書き" というラベルを付けることができます。 [サポート エレメント上書き] グループ ボックス内の汎用フィールド ラベルを名称ラベルで置き換えます。たとえば、オブジェクト名別に変数をリストする "変数名" というラベルの付いたフィールドに、州またはビジネスユニットを示す変数に "州" や "会社" などの名称ラベルを持つフィールドを挿入できます。 [サポート エレメント上書き] グループ ボックス内のこれらのフィールド ラベルを、オン/オフ編集プロンプト、トランスレート テーブル プロンプト、および標準プロンプトなどのプロンプトにリンクします。たとえば、"州" または "場所" のフィールドを定義して、州または場所のプロンプト テーブルにリンクできます。

エレメント上書き ページ名	アクセス方法	修正/置換	[追加の上書き] グ ループ ボックスの 表示/非表示	サマリ
				<ul style="list-style-type: none">ユーザーにデータの入力を義務付ける "必須" としてフィールドを定義します。

エレメント詳細	<ul style="list-style-type: none"> • 受給者別エレメント割当ページで [エレメント名] リンクをクリックします。 • エレメント別受給者割当ページで [従業員 ID] リンクをクリックします。 • 受給者別エレメント割当ページまたはエレメント別受給者割当ページで [新規割当を追加] ボタンをクリックします。 	可/可	可	<ul style="list-style-type: none"> • [サポート エレメント上書き] グループ ボックスの説明ラベルを定義します。たとえば、特定の車両手当金額について "サポート エレメント上書き" ではなく "車両手当上書き" とグループ ボックスにラベルを付けることができます。 • [サポート エレメント上書き] グループ ボックス内の汎用フィールド ラベルを名称ラベルで置き換えます。たとえば、オブジェクト名別に変数をリストする "変数名" というラベルの付いたフィールドに、州またはビジネスユニットを示す変数に "州" や "会社" などの名称ラベルを持つフィールドを挿入できます。 • [サポート エレメント上書き] グループ ボックス内のこれらのフィールド ラベルを、オン/オフ編集プロンプト、トランスレート テーブル プロンプト、および標準プロンプトなどのプロンプトにリンクします。たとえば、"州" または "場所" のフィールドを定義して、州または場所のプロンプト テーブルにリンクできます。 • ユーザーにデータの入力を義務付ける "必須" としてフィールドを定義します。
---------	---	-----	---	--

				<ul style="list-style-type: none"> エレメント詳細ページを設定して、[追加の上書き] グループ ボックスのフィールドの表示/非表示を切り替えます。
--	--	--	--	---

エレメント上書き割り当ての設定

このセクションでは、設定コンポーネントおよび修正手順の概要、標準および代替のエレメント上書きコンポーネント作成に使用するページについて説明します。

設定コンポーネントについて

PeopleSoft は、サポート エレメント上書きコンポーネントを修正または置換できる以下の 2 つのよく似たコンポーネントを提供しています。

- エレメント別設定
- カテゴリ別設定

これらのコンポーネントでは、以下の操作が可能です。

- [上書き適用] フィールドで [両方] オプションを選択すると、エレメント詳細ページと "ポジティブ入力 - 詳細" ページの両方に適用されるサポート エレメント上書き変更を定義できます。
- [上書き適用] フィールドで [エレメント割当] オプションを選択すると、エレメント詳細ページ (受給者別エレメント割当コンポーネントおよびエレメント別受給者割当コンポーネントからアクセス可能) を修正できます。
- [上書き適用] フィールドで [ポジティブ入力] オプションを選択すると、"ポジティブ入力 - 詳細" ページ (ポジティブ入力コンポーネントからアクセス可能) を修正できます。

注意: エレメント別設定を定義するときに、処理する支給エレメントまたは控除エレメントがエレメント割当レベルまたはポジティブ入力でのみデータ入力を許可している場合があります。その場合、このページに表示されるオプションが制限されるため、いずれかのページにのみ適用される上書きを設定します。

注意: たとえば "税" などのカテゴリに対して表示テンプレートを設定し、そのカテゴリ内のあるエレメントに対して固有の表示テンプレートを設定する場合、エレメント レベルで行った設定が優先されます。つまり、あるカテゴリ内に 15 のエレメントがあり、そのうちの 14 では 1 つの表示テンプレートを使用するが、1 つのエレメントでは別の表示テンプレートが必要な場合、2 つの設定を行うだけでニーズに対応することができます。

標準の修正手順について

エレメント上書きコンポーネントを**修正**するには、次の手順に従います。

1. エレメントのエレメント別設定コンポーネントまたはカテゴリ別設定コンポーネントにアクセスします。
2. [フレーム ラベル上書き] グループ ボックスで、[ラベル タイプ] を使用して、ユーザー独自のエレメント上書きグループ ボックスのラベルを定義します。

[ラベル タイプ] で [メッセージ カタログ] オプションが選択されると、[メッセージ セット] および [メッセージ番号] などのフィールドが表示されます。[ラベル タイプ] で [静的テキスト] オプションが選択されると、[ラベル] フィールドだけが表示されます。
3. 支給/控除割り当てとポジティブ入力の両方に標準の上書きを作成する計画で、上書き情報がそれぞれに同じ場合は、[上書き適用] フィールドの [両方] オプションを選択します。
4. 支給/控除割り当て上書きとポジティブ入力上書きに異なる指定を行う場合は、[上書き適用] ドロップダウン フィールドの [エレメント割当] または [ポジティブ入力] オプションを選択します。
5. コンポーネントを保存します。

代替コンポーネントの修正手順について

代替コンポーネントを作成し、それを使用してエレメントの既存のエレメント詳細ページを置換するには、次の手順に従います。

1. PeopleSoft アプリケーション デザイナを使用して置換コンポーネントを作成します。

参照: 『Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Application Designer Developer's Guide』

2. エレメントのエレメント別設定コンポーネントまたはカテゴリ別設定コンポーネントにアクセスします。

3. 共通設定ページで、[フレーム ラベル上書き] グループ ボックスの [ラベル タイプ]、[メッセージ セット]、[メッセージ番号]、[ラベル] の各フィールドを使用して、ユーザー独自のエレメント上書きグループ ボックスのラベルを定義します。ここでは、エレメント詳細ページを代替コンポーネントに置き換えるので、これは "ポジティブ入力 - 詳細" ページのみに適用されます。
4. [エレメント割当ページ] グループ ボックスで、[代替ページの使用] オプションを選択します。

[標準ページの使用] オプションから [代替ページの使用] オプションに切り替えるときに、[標準ページおよびポジティブ入力の上書き] リストの内容が評価されます。このリストは、ポジティブ入力ページの表示にのみ適用されるようになります。標準エレメント割当ページの表示を制御するように設定されている項目があった場合、その項目は削除され、以下の警告が表示されます。

"エレメント割当ページを変更すると、エレメント上書きリストは削除されます。
"(17000,136)

カスタム データ入力ページを使用するように設定を変更すると、上書きのリストはポジティブ入力の入力にのみ適用されるようになります。エレメント割当、またはエレメント割当とポジティブ入力の両方に適用される行は削除されます。

変更を完了するには [OK] をクリックします。変更をキャンセルして現在のデータを保持するには [キャンセル] をクリックします。

[OK] をクリックして [代替ページの使用] オプションを有効にします。

5. [コンテンツ参照名] フィールドに、手順 1 で定義したコンテンツ参照を ([PeopleTools]、[ポータル]、[フォルダ/コンテンツ参照] で定義されているとおり) 入力します。
6. カテゴリ別設定を使用するときは、[標準ページおよびポジティブ入力の上書き] グリッドで修正を行います。エレメント別設定では、[ポジティブ入力の上書き] グリッドで修正を行います。[上書き適用] フィールドには [ポジティブ入力] オプションだけが表示されます。

注意: "ポジティブ入力 - 詳細" ページを代替コンポーネントで置き換えることはできません。"ポジティブ入力 - 詳細" ページに対する修正は、エレメントの上書きグループ ボックスでのフィールド、ラベル、プロンプトに限定されます。

7. コンポーネントを保存します。

エレメント上書きの設定に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
カテゴリ別設定	GP_ED_SETUP	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[カテゴリ別設定]、[カテゴリ別設定]	<p>[サポート エレメント上書き] グループ ボックスのユーザー独自のラベルを定義します。このラベルは、システム内で指定のエレメント カテゴリ内のエレメントについて表示されます。エレメント詳細ページとポジティブ入力 - 詳細ページの両方に適用されます。</p> <p>エレメント割当ページを指定します (エレメント詳細ページにのみ適用されます)。標準ページを使用すると、[追加の上書き] グループ ボックスのフィールドを表示するかどうかを制御できます。カスタム ページを使用すると、表示するページ、およびそのページに移動するための追加の検索条件を指定することができます。</p> <p>[サポート エレメント上書き] フィールドをエレメント詳細ページと "ポジティブ入力 - 詳細" ページの両方で同じように表示したい場合は、標準のエレメント上書き設定を入力します。</p>

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
エレメント別設定	GP_ED_SETUP	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[エレメント別設定]、[エレメント別設定]	<p>[サポート エレメント上書き] グループ ボックスのユーザー独自のラベルを定義します。このラベルは、システム内で指定のエレメント カテゴリ内のエレメントについて表示されます。エレメント 詳細ページとポジティブ 入力 - 詳細ページの両方に適用されます。</p> <p>エレメント割当ページを指定します (エレメント 詳細ページにのみ適用されます)。標準ページを使用すると、[追加の上書き] グループ ボックスのフィールドを表示するかどうかを制御できます。カスタム ページを使用すると、表示するページ、およびそのページに移動するための追加の検索条件を指定することができます。</p> <p>[サポート エレメント上書き] フィールドをエレメント 詳細ページと "ポジティブ入力 - 詳細" ページの両方で同じように表示したい場合は、標準のエレメント上書き設定を入力します。</p> <p>注意: このページは、カテゴリ別設定ページと似ています。</p> <p><u>参照: 第 9 章、「エレメント上書きの設定」、共通のエレメント上書き</u></p>

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
			設定の入力、 343 ページ。

共通のエレメント上書き設定の入力

カテゴリ別設定ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[カテゴリ別設定]、[カテゴリ別設定])。

カテゴリ別設定

国: ALL
 カテゴリ: EDA 支給控除割当
 入力タイプ: 支給

☒ 標準ページの使用 ☒ 追加の上書きの表示
☐ 代替ページの使用 コンテンツ参照名:

標準ページおよびホスティング入力の上書き

エレメント(E) | コントロール(C) | | 全件表示 | | 1/1 |

表示順序	上書き適用	入力タイプ	エレメント名	名称
10	両方	変数	LN VR TYPE	ローン タイプ

フレーム ラベル上書き

*ラベル タイプ:
 *メッセージ セット:
 *メッセージ 番号:

カテゴリ別設定ページ

注意: このスクリーン ショットは、カテゴリ別設定ページを示しています。このページは、エレメント別設定ページと非常によく似ています。

国 エレメント上書きページを設定する国を表示します。

カテゴリ

カテゴリ別設定ページを表示すると、エレメント上書きコンポーネントを修正するエレメントのカテゴリ (支給または控除) が表示されます。

注意: カテゴリ タイプ ページでエレメントのカテゴリを定義します。

エレメント名共通ページ (GP_PIN) でエレメントにカテゴリを割り当てます。

入カタイプ

エレメント上書きコンポーネントを修正する入カタイプが表示されます。

有効値は以下のとおりです。

- 支給
- 控除

注意: [入カタイプ] は空白のままにすることもできます。支給および控除のいずれでも、カテゴリ内の全てのエレメントに同じ設定を使用するときは、そのカテゴリに 1 つの設定を定義して、[入カタイプ] フィールドは空白にしておきます。

エレメント名

エレメント別設定ページを表示すると、エレメント上書きページを修正するエレメントが表示されます。

[フレーム ラベル上書き] グループ ボックス

次のフィールドを使用して、エレメント詳細ページと "ポジティブ入力 - 詳細" ページの汎用の [サポート エレメント上書き] グループ ボックスのラベルと置き換える名称ラベルを定義します。

注意: システムは、PeopleSoft 提供または標準のサポート エレメント上書きコンポーネントについてこれらの値を参照します。

ラベル タイプ

以下のオプションの中から 1 つを選択します。

- 静的テキスト

[静的テキスト] を選択する場合は、[ラベル] フィールドに静的ラベルを入力する必要があります。

- メッセージ カタログ

[メッセージ カタログ] を選択する場合は、新しいラベルのメッセージ セットとメッセージ番号を指定する必要があります。

メッセージ セットとメッセージ番号を入力すると、関連するラベルが表示されます。

メッセージ セット

エレメント詳細ページと "ポジティブ入力 - 詳細" ページに表示するラベルを含むメッセージ セットを選択します。

このフィールドは、[ラベル タイプ] で [メッセージ カタログ] を選択すると使用可能になります。

メッセージ番号

エレメント詳細ページと "ポジティブ入力 - 詳細" ページに表示するラベルに対応するメッセージ番号を選択します。

このフィールドは、[ラベル タイプ] で [メッセージ カタログ] を選択すると使用可能になります。

ラベル

エレメント詳細ページと "ポジティブ入力 - 詳細" ページに表示するラベルを入力します。

このフィールドは、[ラベル タイプ] で [静的テキスト] を選択すると使用可能になります。

[エレメント割当ページ] グループ ボックス

次のフィールドを使用して、標準ページを使用するか、またはエレメント詳細ページと "ポジティブ入力 - 詳細" ページを置き換える全体的に新規のコンポーネントを指定します。新規のコンポーネントにより、さらに柔軟にフィールド、ページ ラベル、プロンプト、およびその他のページ エレメントを定義できるようになります。

標準ページの使用

特定のエレメントのエレメント上書きページを (置換ではなく) 設定する場合に選択します。

代替ページの使用

特定のエレメントのエレメント詳細ページと "ポジティブ入力 - 詳細" ページを置き換える、代替ページおよびコンポーネントを指定する場合に選択します。

このオプションを選択する場合は、[コンテンツ参照名] フィールドにポータル定義を入力する必要があります。

注意: このページで選択する前に、代替ページ、コンポーネント、およびポータル コンテンツ参照を作成しておく必要があります。

参照: 『Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Application Designer Developer's Guide』

コンテンツ参照名

標準のエレメント詳細ページと "ポジティブ入力 - 詳細" ページを置き換える、作成済みのコンテンツ参照の名前を入力します。

このフィールドは、[代替ページの使用] を選択した場合にのみ表示されます。

追加の上書きの表示

エレメント詳細ページと "ポジティブ入力 - 詳細" ページの [追加の上書き] グループ ボックスの既存のフィールドを表示する場合に選択します。

このフィールドは、[標準ページの使用] を選択する場合にのみ関係します。

標準ページおよびポジティブ入力の上書き設定の入力

[標準ページおよびポジティブ入力の上書き] グループ ボックスの各フィールドを使用して、支給/控除割り当て入力とポジティブ入力の両方に、同じエレメント上書き修正ルールを指定します。具体的には、[エレメント] タブと [コントロール] タブを使用して以下の項目を定義します。

- エレメント詳細ページと "ポジティブ入力 - 詳細" ページでユーザーが上書きできるようにするサポート エレメント
- サポート エレメントがエレメント詳細ページと "ポジティブ入力 - 詳細" ページに表示される順序
- プロンプトおよび必須のフィールド

表示順序

上書きエレメントがエレメント詳細ページと "ポジティブ入力 - 詳細" ページに表示される順序を定義する順序番号を入力します。

注意: 上書きエレメントは昇順にリストされます。

上書き適用

以下の値から 1 つを入力します。

- [両方]: エレメント詳細ページと "ポジティブ入力 - 詳細" ページの両方に適用されるサポート エレメント上書き変更を定義します。
- [エレメント割当]: エレメント詳細ページ (受給者別エレメント割当コンポーネントおよびエレメント別受給者割当コンポーネントからアクセス可能) を修正します。
- [ポジティブ入力]: "ポジティブ入力 - 詳細" ページ (ポジティブ入力コンポーネントからアクセス可能) を修正します。

入力タイプ

エレメント詳細ページと "ポジティブ入力 - 詳細" ページで上書きを入力するサポート エレメントの種類を入力します。

エレメント割当で上書きに使用できる [入力タイプ] は、[変数] だけです。ポジティブ入力では、[システムエレメント] と [変数] のいずれかを選択できます。

エレメント名

指定した入力タイプに対応するエレメントを選択します。

受給者レベルでの上書きを許可するように設定されたエレメントのみが検索画面に表示されます。

また、[上書き適用] で [エレメント割当] または [両方] オプションが選択されている場合、金額タイプの変数エレメントは許可されません。ポジティブ入力に適用される上書きでのみ、金額タイプの変数を入力できます。

上書き必須

有効値は以下のとおりです。

- [両方]: エレメント詳細ページと "ポジティブ入力 - 詳細" ページでエレメントを必須にする場合に選択します。
- [エレメント割当]: エレメント詳細ページでエレメントを必須にする場合に選択します。
- [ポジティブ入力]: "ポジティブ入力 - 詳細" ページでエレメントを必須にする場合に選択します。

この値が選択されていて、ユーザーがエレメント詳細ページまたはカレンダー ID 上書き詳細ページでエレメントの値を入力しないと、ユーザーはページを保存できません。

注意: ゼロは数値型フィールドに対する実際の値とは見なされません。したがって、ユーザーが数値型のエレメントを必須にする場合、エレメント詳細ページまたはポジティブ入力 - 詳細ページでそのエレメントにゼロを入力することはできません。

編集タイプ

このフィールドを使用して、プロンプト テーブル編集に [エレメント名] フィールドで指定されたサポート エレメントを関連付けます。

以下の値から 1 つを入力します。

- プロンプト無

テーブル編集にサポート エレメントを関連付けない場合に選択します。

- Xlat 値

トランスレート テーブル編集にサポート エレメントを関連付ける場合に選択します。

このオプションを選択する場合は、[プロンプト ビュー名] フィールドでトランスレート テーブルを特定する必要があります。

- オン/オフ

オン/オフ編集にサポート エレメントを関連付ける場合に選択します。

[オン/オフ] を選択すると、エレメント詳細ページまたは "ポジティブ入力 - 詳細" ページでサポート エレメント上書きのフィールドの隣にチェック ボックスが表示されます。

- プロンプト

プロンプト テーブル編集にサポート エレメントを関連付ける場合に選択します。

このオプションを選択する場合は、[プロンプト ビュー名] フィールドでプロンプト ビューを特定する必要があります。

フィールド ラベル タイプ 以下のオプションの中から 1 つを選択します。

- 名称

[名称] を選択すると、サポート エレメントの略称が [フィールド ラベル] に表示専用で表示されます。

- エレメント名

[エレメント名] を選択すると、[フィールド ラベル] は空白で表示専用になります。

- 静的テキスト

[静的テキスト] を選択する場合は、[フィールド ラベル] に 30 文字までの英数字を入力する必要があります。

注意: エレメントはエレメント詳細ページまたはポジティブ入力 - 詳細ページに、エレメントの名称または名前をラベルとして使用して表示されます。

フィールド ラベル

[フィールド ラベル タイプ] で [静的テキスト] を選択する場合は、1 から 30 文字の英数字を入力する必要があります。このテキストは、エレメント詳細ページまたはポジティブ入力 - 詳細ページにこのフィールドを表示するときに、ラベルとして使用されます。

エレメント別設定ページにアクセスします。

エレメント割当ページに固有の設定の入力

前述のとおり、エレメント レベルの設定を行う支給または控除エレメントが、受給者 (エレメント割当) レベルまたはポジティブ入力 (ポジティブ入力 - 詳細) レベルでの上書きは許可するが、両方での上書きを許可しない場合があります。ポジティブ入力レベルでの上書きを許可しないエレメントでは、設定ページは次のように表示されます。

エレメント別設定ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバルペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[エレメント別設定]、[エレメント別設定])。

エレメント別設定

エレメント名: 20 D X ANIO 20 Days Per Year MEX

このエレメントについては、長期のエレメント割当を行うことはできません。ホジティブ入力のみ可能です。エレメント定義を確認するには、上のリンクをクリックしてください。必要に応じて受給者レベルで上書きを有効にし、エレメント割当を可能に変更してください。

エレメント割当ページ

☒ 標準ページの使用

☐ 追加の上書きの表示

☐ 代替ページの使用

コンテンツ参照名:

標準ページおよびホジティブ入力の上書き

エレメント(E) | コントロール(C) | 拡張 | 検索 | 最初 1-2/2 最後

表示順序	上書き適用	入力タイプ	エレメント名	名称		
10	ホジティブ入力	変数	LF VR MOTIVO BAJ	Termination Reason	+	-
20	ホジティブ入力	変数	LF VR VER FINIQ EE	Employee Termination Version	+	-

フレーム レベル上書き

*ラベル タイプ: 静的テキスト

*ラベル: General Parameters

エレメント別設定ページ

標準ページおよびホジティブ入力の上書き

エレメント(E) | コントロール(C) | 拡張 | 検索 | 最初 1-2/2 最後

エレメント名	上書き必須	編集タイプ	フロントビュー名	フィールド ラベル タイプ	静的テキスト ラベル		
TAX VR ZIPCOD ETBL		フロント無		名称を使用		+	-
ABS VR CLE AC CON2		フロント無		名称を使用		+	-

エレメント別設定ページ - [コントロール] タブ

[エレメント割当ページ] グループ ボックス

次のフィールドを使用して、エレメント詳細ページの汎用の [サポート エレメント上書き] グループ ボックスのラベルと置き換える名称ラベルを定義します。

注意: システムは、PeopleSoft 提供または標準のサポート エレメント上書きコンポーネントについてこれらの値を参照します。

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

351

ラベル タイプ

以下のオプションの中から 1 つを選択します。

- 静的テキスト

[静的テキスト] を選択する場合は、[ラベル] フィールドに静的ラベルを入力する必要があります。

- メッセージ カタログ

[メッセージ カタログ] を選択する場合は、新しいラベルのメッセージ セットとメッセージ番号を指定する必要があります。

メッセージ セットとメッセージ番号を入力すると、関連するラベルが表示されます。

メッセージ セット

エレメント詳細ページに表示するラベルを含むメッセージ セットを選択します。

このフィールドは、[ラベル タイプ] フィールドで [メッセージ カタログ] オプションを選択すると使用可能になります。

メッセージ番号

エレメント詳細ページに表示するラベルに対応するメッセージ番号を選択します。

このフィールドは、[ラベル タイプ] フィールドで [メッセージ カタログ] オプションを選択すると使用可能になります。

ラベル

エレメント詳細ページに表示するラベルを入力します。

このフィールドは、[ラベル タイプ] フィールドで [静的テキスト] オプションを選択すると使用可能になります。

標準ページおよびポジティブ入力の上書き

[標準ページおよびポジティブ入力の上書き] グループ ボックスの各フィールドを使用して、支給/控除割り当て入力に、同じエレメント上書き修正ルールを指定します。具体的には、[エレメント] タブと [コントロール] タブを使用して以下の項目を定義します。

- エレメント詳細ページでユーザーが上書きできるようにするサポート エレメント
- サポート エレメントがエレメント詳細ページに表示される順序
- プロンプトおよび必須のフィールド

表示順序

上書きエレメントがエレメント詳細ページに表示される順序を定義する順序番号を入力します。

注意: 上書きエレメントは昇順にリストされます。

エレメント名

指定した入力タイプに対応するエレメントを選択します。

受給者レベルでの上書きを許可するように設定されたエレメントのみが検索画面に表示されます。また、金額タイプの変数エレメントは許可されません。

上書き必須

有効値は以下のとおりです。

- [両方]: エレメント詳細ページと "ポジティブ入力 - 詳細" ページでエレメントを必須にする場合に選択します。
- [エレメント割当]: エレメント詳細ページでエレメントを必須にする場合に選択します。
- [ポジティブ入力]: "ポジティブ入力 - 詳細" ページでエレメントを必須にする場合に選択します。

この値が選択されていて、ユーザーがエレメント詳細ページまたはカレンダー ID 上書き詳細ページでエレメントの値を入力しないと、ユーザーはページを保存できません。

注意: ゼロは数値型フィールドに対する実際の値とは見なされません。したがって、ユーザーが数値型のエレメントを必須にする場合、エレメント詳細ページまたはポジティブ入力 - 詳細ページでそのエレメントにゼロを入力することはできません。

編集タイプ

このフィールドを使用して、プロンプト テーブル編集に [エレメント名] フィールドで指定されたサポート エレメントを関連付けます。

以下の値から 1 つを入力します。

- プロンプト無

テーブル編集にサポート エレメントを関連付けない場合に選択します。

- Xlat 値

トランスレート テーブル編集にサポート エレメントを関連付ける場合に選択します。

このオプションを選択する場合は、[プロンプト ビュー名] フィールドでトランスレート テーブルを特定する必要があります。

- オン/オフ

オン/オフ編集にサポート エレメントを関連付ける場合に選択します。

[オン/オフ] を選択すると、エレメント詳細ページのサポート エレメント上書きのフィールドの隣にチェック ボックスが表示されます。

- プロンプト

プロンプト テーブル編集にサポート エレメントを関連付ける場合に選択します。

このオプションを選択する場合は、[プロンプト ビュー名] フィールドでプロンプト ビューを特定する必要があります。

フィールド ラベル タイプ 以下のオプションの中から 1 つを選択します。

- 名称

[名称] を選択すると、サポート エレメントの略称が [フィールド ラベル] に表示専用で表示されます。

- エレメント名

[エレメント名] を選択すると、[フィールド ラベル] は空白で表示専用になります。

- 静的テキスト

[静的テキスト] を選択する場合は、[フィールド ラベル] に 30 文字までの英数字を入力する必要があります。

フィールド ラベル

[フィールド ラベル タイプ] で [静的テキスト] を選択する場合は、1 から 30 文字の英数字を入力する必要があります。このテキストは、エレメント詳細ページまたはポジティブ入力 - 詳細ページにこのフィールドを表示するときに、ラベルとして使用されます。

ポジティブ入力の上書きに固有の設定の入力

前述のとおり、エレメント レベルの設定を行う支給または控除エレメントが、受給者 (エレメント割当) レベルまたはポジティブ入力 (ポジティブ入力 - 詳細) レベルでの上書きは許可するが、両方での上書きを許可しない場合があります。受給者レベルでの上書きを許可しないエレメントでは、設定ページは次のように表示されます。

エレメント別設定ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバルペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[エレメント別設定]、[エレメント別設定])。

エレメント別設定

エレメント名: AGUINALDO Christmas Bonus MEX

このエレメントについては、長期のエレメント割当を行うことはできません。ポジティブ入力のみ可能です。エレメント定義を確認するには、上のリンクをクリックしてください。必要に応じて受給者レベルで上書きを有効にし、エレメント割当を可能に変更してください。

標準ページおよびポジティブ入力の上書き

カスタマイズ | 検索 | 最初 1-2/2 最後

エレメント(E)

コントロール(C)

表示順序	上書き適用	入力タイプ	エレメント名	名称		
10	ポジティブ入力	変数	LF VR MOTIVO BAJ	Termination Reason	+	-
20	ポジティブ入力	変数	LF VR VER FINIQ EE	Employee Termination Version	+	-

フレーム ラベル上書き

*ラベル タイプ: 静的テキスト

*ラベル: General Parameters

エレメント別設定ページ

標準ページおよびポジティブ入力の上書き

カスタマイズ | 検索 | 最初 1-2/2 最後

エレメント(E)

コントロール(C)

エレメント名	上書き必須	編集タイプ	フロントビュー名	フィールド ラベル タイプ	静的テキスト ラベル		
ERN DT TO PAY				名称を使用		+	-
GP GL AFF INTRA1		フロント	AFFILIATE_VW	名称を使用		+	-

エレメント別設定ページ

表示順序

上書きエレメントが "ポジティブ入力 - 詳細" ページに表示される順序を定義する順序番号を入力します。

注意: 上書きエレメントは昇順にリストされます。

エレメント入力タイプ

"ポジティブ入力 - 詳細" ページで上書きを入力するサポート エレメントの種類を入力します。

以下の値から選択します。

- 変数
- システム エレメント

エレメント名

エレメントの名前を入力します。

受給者レベルでの上書きを許可するように設定されたエレメントのみが検索画面に表示されます。

356

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

上書き必須

有効値は以下のとおりです。

- [両方]: エレメント詳細ページと "ポジティブ入力 - 詳細" ページでエレメントを必須にする場合に選択します。
- [エレメント割当]: エレメント詳細ページでエレメントを必須にする場合に選択します。
- [ポジティブ入力]: "ポジティブ入力 - 詳細" ページでエレメントを必須にする場合に選択します。

この値が選択されていて、ユーザーがエレメント詳細ページまたはカレンダー ID 上書き詳細ページでエレメントの値を入力しないと、ユーザーはページを保存できません。

注意: ゼロは数値型フィールドに対する実際の値とは見なされません。したがって、ユーザーが数値型のエレメントを必須にする場合、エレメント詳細ページまたはポジティブ入力 - 詳細ページでそのエレメントにゼロを入力することはできません。

編集タイプ

このフィールドを使用して、プロンプト テーブル編集に [エレメント名] フィールドで指定されたサポート エレメントを関連付けます。

以下の値から 1 つを入力します。

- プロンプト無

テーブル編集にサポート エレメントを関連付けない場合に選択します。

- Xlat 値

トランスレート テーブル編集にサポート エレメントを関連付ける場合に選択します。このオプションを選択する場合は、[プロンプト ビュー名] フィールドでトランスレート テーブルを特定する必要があります。

- オン/オフ

オン/オフ編集にサポート エレメントを関連付ける場合に選択します。[オン/オフ] を選択すると、"ポジティブ入力 - 詳細" ページでサポート エレメント上書きのフィールドの隣にチェック ボックスが表示されます。

- プロンプト

プロンプト テーブル編集にサポート エレメントを関連付ける場合に選択します。このオプションを選択する場合は、[プロンプト ビュー名] フィールドでプロンプト ビューを特定する必要があります。

フィールド ラベル タイプ 以下のオプションの中から 1 つを選択します。

- 名称

[名称] を選択すると、サポート エレメントの略称が [フィールド ラベル] に表示専用で表示されます。

- エレメント名

[エレメント名] を選択すると、[フィールド ラベル] は空白で表示専用になります。

- 静的テキスト

[静的テキスト] を選択する場合は、[フィールド ラベル] に 30 文字までの英数字を入力する必要があります。

注意: エレメントはエレメント詳細ページまたはポジティブ入力 - 詳細ページに、エレメントの名称または名前をラベルとして使用して表示されます。

フィールド ラベル

[フィールド ラベル タイプ] で [静的テキスト] を選択する場合は、1 から 30 文字の英数字を入力する必要があります。このテキストは、エレメント詳細ページまたはポジティブ入力 - 詳細ページにこのフィールドを表示するときに、ラベルとして使用されます。

標準コンポーネント上書き例の確認

支給/控除割り当てまたはポジティブ入力のどちらかについて、エレメント上書き詳細ページの外観を修正する場合、[エレメント割当ページ] グループ ボックスで [標準ページの使用] オプションを選択して、**標準コンポーネント上書き**を作成できます。たとえば、指定のエレメントまたはエレメント カテゴリについて、"ポジティブ入力 - 詳細" とエレメント詳細ページの両方で [サポート エレメント上書き] グループ ボックスの外観を修正する場合は、[標準ページおよびポジティブ入力の上書き] グリッドを使用して定義します。

カテゴリ別設定

国: JPN 日本
 カテゴリ: DENL 非公的控除
 入力タイプ: 控除

▼ エレメント割当ページ

☒ 標準ページの使用 ☐ 追加の上書きの表示
☐ 代替ページの使用 コンテンツ参照名:

標準ページおよびポジティブ入力の上書き 加減サイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

エレメント(E) | コントロール(C) |

表示順序	上書き適用	入力タイプ	エレメント名	名称
10	両方	変数	ER VR RUN TYPE	実行タイプ

フレーム ラベル上書き

*ラベル タイプ: 静的テキスト
 *ラベル:

[標準ページの使用] オプションを使用する [標準ページおよびポジティブ入力の上書き] の例

標準ページおよびポジティブ入力の上書き 加減サイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

エレメント(E) | コントロール(C) |

エレメント名	上書き必須	編集タイプ	アカウントビュー名	フィールド ラベル タイプ	静的テキスト ラベル
ER VR RUN TYPE	両方	フロント	GPJP_RUN_TYP_VW	名称を使用	実行タイプ

[標準ページおよびポジティブ入力の上書き] のタブの例

注意: "ポジティブ入力- 詳細" ページに同じフィールドが適用または表示されるようにするには、[上書き適用] フィールドで [ポジティブ入力] オプションを選択する必要があります。エレメント詳細ページと "ポジティブ入力- 詳細" ページの両方に同じフィールドが表示されるようにするには、[上書き適用] フィールドで [両方] オプションを選択します。

標準の設定を定義したら、受給者別エレメント割当ページ (またはエレメント別受給者割当ページ) にアクセスして、以下のように "Superannuation" のエレメント カテゴリに属する控除エレメントを割り当てまたは上書きできます。

受給者別エレメント割当

Mary Agar

ID: KA3001

雇用コード: 0

選択条件

カテゴリ:

入力タイプ:

指定日:

エレメント名:

選択条件で検索

クリア

割当(&A)

カラムサイズ | 検索 | | | 最初 1/1 | 最後

エレメント(E)

受取人(R)

エレメント名	名称	処理順序	開始日	終了日	アクティブ	インスタンス		
ER_ADDLSPR	Employer Additional Super	999	2002/07/01	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	1		

新規割当を追加

[控除受取人](#)

標準コンポーネント設定の受給者別エレメント割当ページの例

[ER ADDLSPR] の [エレメント名] リンクをクリックし、エレメント詳細ページにアクセスすると、出荷時のグループ ボックスではなく修正済みの [サポート エレメント上書き] グループ ボックスが表示されます。

受給者別エレメント割当

エレメント詳細

従業員 ID: KA3001 雇用コード: 0 名前: [Mary Agar](#)
 エレメント名: ER ADDLSPR Employer Additional Super インスタンス: 1

割当処理詳細

☐ 割当のアクティブ化 通貨コード: AUD オーストラリアドル
 *処理順序: 999 受取人効: 0
 *開始日: 2002/07/01 終了日: 前の終了日:
☐ 終了日のパッチ更新を許可 給与計算実行時に更新

計算情報

計算ルール: ベース*%
 ベース タイプ:
 ベース エレメント:
 値:
 パーセント タイプ:
 パーセント エレメント:
 値:
 金額タイプ:
 金額エレメント:
 金額値:

Superannuation Override

☐ Minimum Earn?
 Min Earn Amt:
☐ Maximum Earn?
 Max Earn Amt:
☐ Age Based?
☐ Under 18?
☐ 70 & Over?

追加の上書き

*周期オプション: エレメントの周期を使用
 周期:
 *ジェネレーション オプション: エレメント ジェネレーション コントロールを使用
 ジェネレーション コントロール:

エレメント詳細ページの例

上記において、[サポート エレメント上書き] グループ ボックスおよびフィールドはユーザー定義であることに注意してください。グループ ボックスはこれで **[Superannuation Override]** という名前になり、グループ ボックス内のフィールドは [標準ページおよびポジティブ入力の上書き] グリッドで先に定義したユーザー定義のラベルを持ちます。また、[エレメント割当ページ] グループ ボックスで、[追加の上書きの表示] チェック ボックスがオンにされているので、[Superannuation Override] グループ ボックスの下に [追加の上書き] グループ ボックスが表示されます。このチェック ボックスをオフにすると、このグループ ボックスは表示されません。

注意: この例では、[上書き適用] フィールドで [エレメント割当] オプションが選択されているので、標準の "ポジティブ入力 - 詳細" ページ (ポジティブ入力ページからアクセス可能) は修正されません。

代替コンポーネント上書き例の確認

エレメント上書き詳細ページを全て一緒に置換する (支給/控除割り当て上書きについてのみ) 場合は、PeopleSoft アプリケーション デザイナで置換用の代替コンポーネントを作成できます。そして、置換コンポーネントを指すエレメントまたはエレメント カテゴリの設定ルールを作成します。たとえば、PENSION AL 1 エレメントの上書き詳細ページをユーザー独自のデザインのコンポーネントに置き換える場合は、以下のように定義します。

置換コンポーネントのコンテンツ参照名を入力します。

エレメント別設定

エレメント名:

PENSION AL 1

Garnishment - Alimony 1

国: FRA

エレメント割当ページ

☐ 標準ページの使用
 ☒ 代替ページの使用

追加の上書きの表示

コンテンツ参照名:

HC_GPFR_GAR_DAT_GBL

Assign Garnishments FRA

標準ページおよびポジティブ入力の上書き

エレメント(E)

コントロール(C)

検索

最初

1/1

最後

表示順序	上書き適用	入力タイプ	エレメント名	名称
	両方	変数		

フレーム ラベル上書き

*ラベル タイプ:

メッセージ カリゲ

メッセージ セット:

メッセージ 番号:

コンテンツ参照名の入力例

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

363

置換コンポーネントを定義したら、受給者別エレメント割当ページ (またはエレメント別受給者割当ページ) にアクセスして、以下のように PENSION AL 1 エレメントを割り当てまたは上書きできます。

受給者別エレメント割当

Christopher Barfield ID: KUL905 雇用レコード: 0

選択条件

カテゴリ: 入力タイプ: エレメント名: 指定日:

選択条件で検索 クリア

割当 (&A) カスタマイズ | 検索 | 最初 1-2/2 最後

エレメント(E) 受取人(R)

エレメント名	名称	処理順序	開始日	終了日	アクティブ	インスタンス
SALARY 2	基本給	999	2010/12/14		<input checked="" type="checkbox"/>	1 + -
KOPENSION	Pension	999	2010/12/14		<input checked="" type="checkbox"/>	1 + -

新規割当を追加 控除受取人

代替コンポーネント設定の受給者別エレメント割当ページの例

[PENSION AL 1] の [エレメント名] リンクをクリックし、エレメントのエレメント詳細ページにアクセスすると、出荷時のエレメント詳細ページではなく以下の置換コンポーネントが表示されます。

Assign Garnishments FRA

従業員 ID: GF100ME831 **LAMANTIN, Christophe** 雇用レコード: 0

差押 カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-3/3 最後

差押 ID(G) 受取人(R) ステータス(S) エレメント(E)

Garnishment ID	Type	Start Date	Amount
ALIMONY 1	Alimony	2003/01/01	200.00
TAX	Tax	2003/02/01	5000.00
PENAL	Penal	2003/03/01	6000.00

ユーザー定義の代替ページの例

ページ タイトル、グループ ボックス タイトル、およびこのページ (HC_GPFR_GAR_DAT_GBL) の全てのフィールド ラベルはユーザー定義です。このページは、PeopleSoft アプリケーション デザイナでユーザーが作成しました。

第 10 章

累計の設定

この章では、累計の概要、および以下の項目について説明します。

- 累計の定義
- 累計の調整

累計について

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- 累計エレメント
- バッチ処理における残高累計
- 遡及処理および累計

累計エレメント

累計は、処理される際に定義済みの項目の累積値を保存するエレメントです。たとえば、発生した休暇付与残数、支給総額、およびその他の累積値を保存できます。

累計エレメントは以下のように定義できます。

- 自動

支給、控除、または休暇付与エレメントを作成すると、特定の期間にわたってエレメントの値を追跡するために一連の累計エレメントが自動的に作成されます。自動作成累計では、通常は単一のエレメントの値が累計されます。累計エレメントが追跡する期間を指定します。

- 手動

累計エレメントを作成して、全ての任意控除や全ての発生している休暇付与など、いくつかのエレメントを追跡できます。累計エレメントが追跡するエレメントを選択し、累計の対象となる期間を定義します。特定の期間にわたって単一の値または複数の値を累計できます。

累計には、以下に示すように 1 つは単一のセグメントに関するタイプと、いくつかの計算期間にわたるタイプの 2 つのタイプがあります。

- セグメント累計は、単一の総額/純額計算中に値を累計します。
- 残高累計は、1 か月間または 1 年間など、特定の期間中の値を累計します。

注意: セグメント累計で値を累計する場合、フォーミュラで取得した古い値を使用できます。ただし、残高累計で値を累計する場合、フォーミュラで取得した古い値は使用できません。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、自動作成累計、271 ページ

バッチ処理における残高累計について

このセクションでは、バッチ処理における累計残高のさまざまな処理方法について説明します。

残高の更新

前回の期間の終了時点以降の累計の値がロードされます。累計が処理されるときに、現在の期間の値が前回の値に加えられ、最新の残高が保存されます。バッチ処理により、各期間に対して同様にこの累計が繰り越されます。

新規インスタンスの作成

累計を定義するときに、属性 (レベル、基準日など) や対象期間 (カレンダー年など) を割り当てます。レベルによって、職務別に集計値を保存するか、従業員単位で全ての職務について合算した集計値を保存するかが決定されます。ユーザー キー (契約、部門など) を追加すると、細かい設定ができます。また、期間および基準日によって、適切な期間が決定されます。これらの属性が相互に関連して、バッチ処理で累計インスタンスごとにどのように値を累計するのか、どのタイミングで累計を行うのか、などが決定されます。キー フィールドの値を変更するたびに、残高およびセグメント累計の新しいインスタンスが作成されます。また、残高累計では新しい期間ごとに新しいインスタンスが作成されます。

結果テーブルへの書き込み

累計ページの設定によって、結果テーブルにその累計を自動的に書き込むかどうか指定されます。累計残高をいつ終了するのは、終了日後の保持期間として指定される月数を基準に、それぞれのインスタンスの累計終了日と現在の支給期間の開始日を比較して決定されます。

関連項目:

第 15 章、「エレメント処理の定義」、545 ページ

遡及処理および累計

遡及処理を使用する際に、累計についていくつか考慮が必要なことがあります。

セグメント累計のデルタのみが繰り越せます。これは、累計残高のデルタを繰り越すと、累計対象としてエレメントを二重に計算するおそれがあるからです。計算期間累計のデルタは累計ではなく、支給または控除に繰り越す必要があります。

遡及方法が訂正の場合、デフォルトでは累計には遡及期間の新しい遡及値が反映されます。遡及方法が繰り越しの場合、デフォルトでは遡及期間の遡及値は変更には使われず、現在の期間の調整値として渡され、デルタ値として反映されるように設定されています。

通常の遡及方法として設定されている "繰り越し" の指定を、上書きして "訂正" にするにはレベル ページ (自動作成累計では、"支給" の自動作成累計ページ) で [訂正を使用] チェック ボックスを使用します。全ての休暇残数累計は、訂正として定義します。これにより、それぞれの期間を反映した正確な累計の残数になります。

注意: 累計に結果が保存されると、[訂正を使用] チェック ボックスは選択できなくなります。チェック ボックスを選択できるようにするには、累計の結果を生成したペイロール カレンダーをキャンセルする必要があります。

例

累計が退職金口座の限度額として使用され、この累計の値によってほかのエレメントの値が決定されます。現在期間が 12 月で、10 月まで遡及するとします。さらに、10 月の開始時点での元の残高が 9,000 で、退職金口座への拠出がなかったとします。遡及の結果、拠出額が 1,000 として再計算された場合、それ以上拠出が行われないように 11 月に繰り越される累計残高にこの拠出額を含める必要があります。12 月の調整額に 1,000 のデルタが繰り越される際は、二重に計算されないように、累計には加算されません。

関連項目:

第 33 章、「遡及処理の定義」、残高累計のロード、 1237 ページ

累計の定義

累計を定義するには、累計コンポーネント (GP_ACCUMULATOR) を使用します。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 累計の名称の設定
- 累計期間およびタイミング情報の定義
- 累計キーの指定
- 累計に含まれる要素のリストを定義します。

累計の定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
累計名	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[累計]、[累計名]	累計エレメントに名前を付け、基本パラメータを定義します。
[累計] - [定義]	GP_ACCUMULATOR_2	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[累計]、[定義]	期間情報を定義し、累計が変換されるタイミングを指定します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
[累計] - [レベル]	GP_ACCUMULATOR_1	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[累計]、[レベル]	累計のキーを指定します。
メンバー	GP_ACCUMULATOR_3	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[累計]、[メンバー]	累計に含まれるエレメントのリストを定義します。

累計の名称の設定

作成する全てのエレメントについて、名称とその基本パラメータをエレメント名共通ページで定義する必要があります。グローバル ペイロールでは、全てのエレメントのコンポーネントの最初のページとして、同じエレメント名共通ページ (GP_PIN) を共有しています。

注意: 累計を作成するには、[10 進数] または [金額] のフィールド フォーマットを選択できます。通貨換算の対象になる可能性のあるエレメントには [金額] を、休日時間数や勤続年数などの金額以外の値を累計するエレメントには [10 進数] を選択します。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

累計期間およびタイミング情報の定義

"累計" の定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[累計]、[定義])。

累計名

定義

レベル

メンバー

エレメント名:

K0HOL_YTDA

Holiday

所有者:

PS 非管理

累計期間

*期間:

年間

*開始オプション:

支給元のカレンダーを使用

初期化ルール

初期化ルール エレメント:

終了日後の保持期間

月数:

累計基準

*基準:

期間終了日

累計のタイミング

☒ 補助メンバーとして

☐ 随時

☐ 計算後

通知処理

☐ 訂正を使用

保存オプション

☒ 全ての計算

☐ 休暇欠勤計算

☐ 給与計算

累計 - 定義ページ

累計期間

累計期間は、累計対象が収集、累積される期間を表します。

期間

以下の値から選択します。

[セグメント]: 単一の総額/純額計算またはセグメントのことです。分割がない場合は、セグメントと支給期間は同一です。

[カレンダー期間]: 現在のカレンダー期間の開始日と終了日が使用されます。

[月間]: 月単位で情報が収集されます。

[四半期]: 四半期で情報が収集されます。

[年間]: 年間で情報が収集されます。

[カスタム期間]: カスタム期間を使用すると、終了日がない累計を作成できます。たとえば、従業員の生涯賃金を管理する場合などに、終了日の必要ないカスタム期間を使用します。このオプションを選択すると、開始日を設定するために [日付] フィールドが表示されます。このフィールドでエレメント タイプを選択します。

開始オプション

累計の開始時期が指定できます。このフィールドは、[期間] フィールドで [月間]、[四半期]、または [年間] を選択した場合に表示されます。値は以下のとおりです。

[指定日]: [開始月オプション] および [開始日オプション] フィールドが表示されます。日と月を入力するか、これらの値を返す変数を選択します。

[支給元のカレンダーを使用] および [支給元の会計年度を使用]: "支給元" の処理詳細ページで設定されたデフォルトが使用されます。

初期化ルール

初期化ルール エlement

新しい期間が始まり、累計のインスタンスが新しく作成される場合に呼び出されるフォーミュラ エlementを入力します。また、このフォーミュラは、その結果がこの累計に追加されるように、累計メンバーとして設定されている必要があります。たとえば、年間の有給休暇日数を表す累計に対し、カレンダー年の初めに、決められた有給休暇日数だけを前年度から繰り越せるように制限できます。このような場合にフォーミュラを選択して使用します。新しい年に対する累計が作成されるときに、このフォーミュラが呼び出されます。このフィールドを空白のままにした場合は、特定の処理は発生しません。

終了日後の保持期間

月数

終了日後、出力結果テーブルに累計をどのくらいの期間保持するかを指定します。これは、現在の計算で必要な前回の累計値にアクセスするために使用できます。

注意: [期間] フィールドで [セグメント] を選択すると、このフィールドは使用できなくなります。

カスタム期間終了日オプション

以下のフィールドは、カスタム期間の累計でのみ使用されます。

注意: このグループ ボックスの 2 つのフィールドは独立して動作します。

0 の場合は終了日を設定

累計値がゼロであるときに、累計の終了日を期間のセグメント終了日に設定する場合にこのオプションを選択します。これにより、ゼロになったら累計値が表示され、その後の期間でのこの値の保存が中止されます。たとえば、未払いのローン残高を追跡する場合は、このフィールドを使用して完全に支払が終わるまで残高を表示できます。このチェック ボックスをオンにすると、[期間月数] フィールドにはデフォルトで 999 (終了日なしという意味) が挿入されます。

期間月数

累計の期間の長さを入力します。カスタム期間は、この期間の後に終了します。たとえば、産休を追跡する場合は、このフィールドを使用して、設定されている付与月数の累計を表示できます。[0 の場合は終了日を設定] チェック ボックスをオンにした場合は、このフィールドに値を入力しないでください。[0 の場合は終了日を設定] チェック ボックスをオンにすると、[期間月数] フィールドに入力した値は 999 という値 (終了日なしという意味) で上書きされます。

累計基準

基準

カレンダー日付のどの時点の値を累計するのかを決定します。有効値には、[期間開始日]、[期間終了日] (デフォルト)、[支給日]、[指定日] があります。[指定日] は、一般的に休暇欠勤処理で使われます。休暇欠勤が別の期間に属していても、その休暇欠勤が元の開始日に関連付けられていることがよくあります。

例:

ある月次の累計には、1 つのメンバー E1 があるとします。

週単位の支給グループの期間の日付は以下のとおりです。

開始日 = 2000 年 1 月 26 日

終了日 = 2000 年 2 月 3 日

支給日 = 2000 年 2 月 4 日

支給 1 = 100.00

[基準] フィールドの値により、E1 の値 100.00 が 1 月または 2 月、どちらの月次の値に加算されるのかが決まります。[期間開始日] を選択した場合、100.00 は 1 月の残高に加算されます。[期間終了日] (または [支給日]) を選択した場合、100.00 は 2 月の残高に加算されます。

注意: このフィールドは、[期間] フィールドで [月間]、[四半期]、または [年間] を選択した場合にのみ使用できます。

遡及処理

訂正を使用

[訂正を使用] をオンにすると、遡及方法が繰り越しとして定義されている場合に累計の動作が上書きされます。これにより、累計の "繰り越し" 動作を "訂正" に変更できます。[訂正を使用] がオンの場合、累計は "訂正" モードで動作します。現在期間内の累計は調整されません。デフォルト値です。

特定の残高累計を "訂正" に設定することによって、その累計の残高を給与計算が完了するまで待たなくても、遡及再計算が終わった時点でメンバー エLEMENTの新しく計算された値で更新できます。更新された残高が後続の計算で使われるような場合にこのような設定が必要です。

注意: 延滞累計を定義する場合は、"累計" のレベル ページの [訂正を使用] チェック ボックスを常にオンにしておくことをお勧めします。これは、累計に含まれるコンポーネントがそれ自身はデルタを生成しないためで、累計が繰り越し処理される場合に二重計上が非常に発生しやすくなります。

注意: いったん累計に結果が保存されると、[訂正を使用] チェック ボックスは選択できなくなります。チェック ボックスを選択できるようにするには、累計の結果を生成したペイロール カレンダーをキャンセルする必要があります。

累計のタイミング

累計の変換方法を選択します。全ての累計には、関連付けられたELEMENT ("累計" のメンバー ページで定義) のリストがあります。処理中に累計を参照する場合、指定した累積の発生時期によって累計の値が変わります。

補助メンバーとして

それぞれの拠出ELEMENTが変換されるときに、累計は新しい値を反映して更新されます。支給や休暇付与などのELEMENTの値を、そのELEMENTの計算時に累計に加算します。この累計はプロセス リストに含める必要はありません。

随時

累計は、たとえば、フォーミュラ内で検出された場合は常に変換されます。この累計は変換されるプロセス リストに含める必要はありません。累計に関連付けられている拠出エレメントが変換されても、累計自体は自動的に新しい値で更新されません。

計算後

累計は、メインの計算処理中は更新されませんが、最終決定された最後のセグメントの終わりからロードされる値を保持します。その他の全てのエレメントが変換された後でのみ、拠出メンバーの新しい、現在の値を反映するように累計が更新されます。これは自動的に行われるので、累計をプロセス リストに含める必要はありません。デフォルトでは、自動作成累計は **[計算後]** として定義されます。

保存オプション**保存オプション**

累計を変更および保存できる実行タイプを選択します。オプションは、以下のとおりです。

- [全ての計算]: 累計値は、どの実行タイプの場合でも変更できます。値は、全ての実行後に保存されます。

注意: 本当に必要な場合にのみこのオプションを選択してください。全ての実行後に値を保存すると、大量の記憶領域を消費します。

- [給与計算] 累計値は、給与計算実行中にのみ変更できます。値は、給与計算実行後にのみ保存されます。
- [休暇欠勤計算] 累計値は、休暇欠勤実行中にのみ変更できます。値は、休暇欠勤実行後にのみ保存されます。

注意: 累計が不適切な実行タイプの間に更新された場合はエラー メッセージが表示されます。たとえば、給与計算実行で休暇欠勤累計を更新しようとした場合にエラー メッセージが表示されます。

警告: 保存オプションは、バッチ処理を行う前に選択する必要があります。これは、バッチ システムが累計残高をロードするために使用する方法が既に生成されている結果と矛盾しないようにするためです。

累計キーの指定

"累計" のレベル ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[累計]、[レベル])。

累計名

定義

レベル

メンバー

エレメント名:

K0HOL_YTDA

Holiday

所有者:

PS 非管理

累計レベル

☐ 受給者 (従業員 ID)

☒ 職務 (従業員 ID/雇用レコード番号)

ユーザー キー タイプ* 1:

キー エレメント 1:

ユーザー キー タイプ* 2:

キー エレメント 2:

ユーザー キー タイプ* 3:

キー エレメント 3:

ユーザー キー タイプ* 4:

キー エレメント 4:

ユーザー キー タイプ* 5:

キー エレメント 5:

ユーザー キー タイプ* 6:

キー エレメント 6:

"累計" - レベル ページ

- 受給者 (従業員 ID)

受給者の全ての職務の結果を一緒に累計に保存する場合に選択します。これがデフォルトの設定です。
- 職務 (従業員 ID/雇用レコード番号)

従業員 ID/雇用レコード番号をキーとして、受給者が保持する各職務の結果を個別の累計に保存する場合に選択します。
- ユーザー キー タイプ

1 つの累計に 6 個までのユーザー キーを定義できます。ユーザー キーによって、累計を雇用レコードより細かいレベルで追跡管理できます。たとえば、契約番号または会社別に従業員の年間累計支給額を追跡管理できます。

ユーザー キーのエレメント タイプを入力します。有効な値は、[変数] と [システム エレメント] です。

キー エlement

これらのフィールドを使用して、累計キーとして使用するElementを選択します。たとえば、会社別に累計を追跡管理するには、ユーザー キーとしてシステム Element COMPANY を選択し、それぞれの所在地の従業員に対して個別に累計されている数字を管理します。

以下のガイドラインに従います。

- 従業員データは、異なる国の支給グループや支給元にまたがって累計されません。このため、COUNTRY をユーザー キーに指定しても意味がありません。
- キーの値は半角で 25 文字まで入力でき、文字、日付、または整数を使用できます。ユーザー キーを選択する前に、これらの値が結果テーブルにどのように保存されているのかを把握しておく必要があります。
- 10 進数および金額のElementをユーザー キーとして使用することは可能ですが、整数のみが使用され、小数点以下は無視されます。負の値は正の値に変換されて保存されます。

関連項目:

第 10 章、「累計の設定」、遡及処理および累計、 369 ページ

第 11 章、「休暇欠勤管理について」、 387 ページ

累計に含まれるElementのリストの定義

メンバー ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[Element]、[サポート Element]、[累計]、[メンバー])。

累計名定義レベルメンバー

Element名: KOHOL_YTDAHoliday所有者: PS 非管理

Elementメンバーリスト

メンバー累計値(B)

加算サイズ | 検索 | 最初1/1最後

Elementタイプ	Element名	名称	開始日	終了日	累計指示
支給	KOHOL	Holiday	1990/01/0131	31	加算

メンバー ページ

メンバー

[メンバー] タブをクリックします。

このタブのフィールドを使用して、累計の合計に含まれるエレメントを指定します。

エレメント タイプ エレメント タイプのリストから選択します。値は、[休暇付与]、[アレイ]、[自動割当]、[ブラケット]、[控除]、[デューレーション]、[支給]、[フォーミュラ]、[累計]、[システム エレメント]、および[変数] です。

エレメント名 この累計の合計に含まれるエレメントを選択します。1 つのエレメントを複数の累計に含めることも、また累計をほかの累計に含めることも可能です。

開始日 、 終了日 メンバーの累計への累積を開始および終了する時期を指定します。
このフィールドが空白の場合は、そのエレメントが有効である限り、累計は引き続き更新されます。

累計指示 エレメントが累計に加算されるのか減算されるのかを指定するために、[加算] または [減算] を選択します。

累計値

[累計値] タブをクリックします。

累計名 定義 レベル **メンバー**

エレメント名: KOHOL_YTDA Holiday 所有者: PS 非管理

エレメント **メンバー** リスト

メンバー 累計値(B)

加減算 | 検索 | 最初 1/1 最後

エレメント タイプ*	エレメント名	パーセント タイプ*	累計率
支給	KOHOL	数値	100.000000

累計 - メンバー - 累計値タブ

[メンバー] タブで選択したエレメントが一覧表示されます。

380

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

パーセント タイプ、 累計率 エレメントの値のうち、どれだけがこの累計に自動的に加算または減算するのかを指定します。値は以下のとおりです。

[数値]: パーセント (最大値は 100) を指定する場合は、このオプションを選択します。[累計率] フィールドにパーセントを入力します。

[変数] または [フォーミュラ]: 累積または差し引く値を返す変数またはフォーミュラ エレメントを指定する場合に選択します。[エレメント名] フィールドで、使用する変数名またはフォーミュラ名を選択します。

累計の調整

このセクションでは、累計調整の概要と、累計額を調整する方法について説明します。

累計の調整について

最終決定されたカレンダー グループ内の指定の受給者について、以下の操作ができます。

- 累計結果の調整または結果への新しいインスタンスの追加
- 結果への新しい累計の挿入

累計結果を調整する際は、計算の開始点としてロードされた累計を調整します。たとえば、3 月実行を最終決定し、3 月の年間累計に対して調整を行う必要があるとします。そして、この調整を行います。4 月実行を処理する際には、この調整と共に 3 月の年間残高を読み込み、累計の開始値として使用します。これとは対照的に、3 月を再計算させる遡及トリガ付きで 4 月を実行した場合、開始残高は 2 月からのもので、調整は無視されます。

累計の調整に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
累計残高調整	GP_ACM_USER_ADJ	[グローバル ペイロール /休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[残数/残高の調整]、[累計]、[累計残高調整]	最終決定されたカレンダー グループ内の指定の受給者について累計残高を調整します。

累計の調整

累計残高調整ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[残数/残高の調整]、[累計]、[累計残高調整])。

累計

従業員 ID: KA0006Michael O'Reilly雇用コード: 0

カレンダー グループ ID: KAM03M06June Monthly Payroll 2003カレンダー ID: KAM03M06JUNPAY

支給グループ: KAMONTHLYMonthly Pay Group

支給元: KAAUSBIAustralian Business Institute

累計

累計名:

インスタンス

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

累計開始日:31

累計終了日:31

ユーザー キー 1:

ユーザー キー 2:

ユーザー キー 3:

ユーザー キー 4:

ユーザー キー 5:

ユーザー キー 6:

累計値: 0.000000

適用済調整額: 0.000000

累計雇用コード番号: 000

調整

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

調整額	理由	更新日時	更新者
<div></div>	<div></div>		<div></div>

累計残高調整ページ

注意: 最終決定されていないカレンダー グループ内の累計は調整できません。

累計

累計名

調整する累計を選択します。累計を選択すると、その名称がフィールドの右側に表示され、[インスタンス] グループ ボックスに結果テーブルからの情報が挿入されます。結果が返されない場合は、この従業員に指定された雇用レコードとカレンダーに対し、累計の残高記録がないことを意味します。

インスタンス

このグループ ボックスは、選択した雇用レコードとカレンダーに対し残高記録が存在する場合にそれを表示します。表示されるカレンダー ID の期間終了時点の結果テーブルに追加する新しいインスタンスを入力できます。

累計開始日 、 累計終了日 累計期間の開始日と終了日です。

ユーザー キー 累計に関連付けられるユーザー キーです。

累計値 このカレンダー ID の期間終了日時点の従業員 (および雇用レコード) の累計の値です。

累計雇用レコード番号

このフィールドは、受給者が複数の職務を持っている場合に役立ちます。累計値に関連する雇用レコード番号を特定します。

ある従業員 ID の全ての累計データは、セグメントからセグメントへ職務に関係なく渡されます。このため、特定の雇用レコード番号にアクセスし、その職務を処理した結果の累計値を表示または調整する際、受給者のその他の職務も同様に累計値を表示および調整できます。

例として、受給者が以下のように 2 つの職務を持っているとします。

- 雇用レコード番号 = 0 (毎月 1000 の給与)
- 雇用レコード番号 = 1 (毎月 1100 の給与)

また、雇用レコード番号が年間給与累計のキーであると仮定します。そして、1 月/職務 1 と 1 月/職務 2 という 2 つのセグメントの給与計算を処理するとします。1 月のカレンダーで雇用レコード番号 0 の累計残高調整ページにアクセスした場合、累計雇用レコード番号 0 に対して 1000 の値が表示されます。(システムでは、最初のセグメントについて処理された内容のスナップショットが提供されます。)雇用レコード番号 1 でこのページにアクセスした場合、累計雇用レコード番号 0 に対して 1000 の値が再度表示されます。さらに、次の職務のリンクをクリックすると、累計雇用レコード番号 1 に対して 1100 の値が表示されます。

注意: 雇用レコード番号 0、累計雇用レコード番号 0 の累計残高を調整するが、受給者について処理された最後のセグメントが雇用レコード番号 1 である場合、調整は無視されます。この残高は次のカレンダーのソースになるので、雇用レコード番号 1、累計雇用レコード番号 0 の残高を調整するようにしてください。

適用済調整額

この累計インスタンスに対して行われた調整額の合計を示します。[保存] をクリックすると、この数値は、[調整] グループ ボックスに入力されている全ての累計調整額を反映して更新されます。

調整

調整額

正または負の調整額を入力します。

理由	調整の理由を入力します。
更新日時 、 更新者	ページを保存すると更新日時と更新者が表示され、調整データを照会したときにもこれらの情報が表示されます。

注意: 新しいインスタンスを追加して累計を調整することはできますが、入力したデータを削除することはできません。全ての調整データは、後でオーディットができるようシステムに記録されます。前の調整を無効にするには、相殺または負の値を持つ行を入力します。

第 11 章

休暇欠勤管理について

休暇欠勤管理とは、受給者の休暇欠勤情報を入力し処理を実行することです。この章は、グローバル ペイロール システムの休暇欠勤のタスクや機能について習得する上で出発点となる章です。ここでは、以下の内容について説明します。

- 休暇欠勤の設定と管理タスク
- 休暇欠勤管理機能
- バッチ休暇欠勤プロセス
- 休暇付与プロセス
- 休暇取得プロセス
- オンラインの休暇欠勤予測および残数照会プロセス

関連項目:

[第 12 章、「休暇欠勤エレメントの定義」、411 ページ](#)

[第 25 章、「休暇欠勤の入力と処理」、979 ページ](#)

[第 26 章、「休暇欠勤セルフサービス機能の設定」、1019 ページ](#)

[第 27 章、「セルフサービス休暇リクエストの入力と承認」、1053 ページ](#)

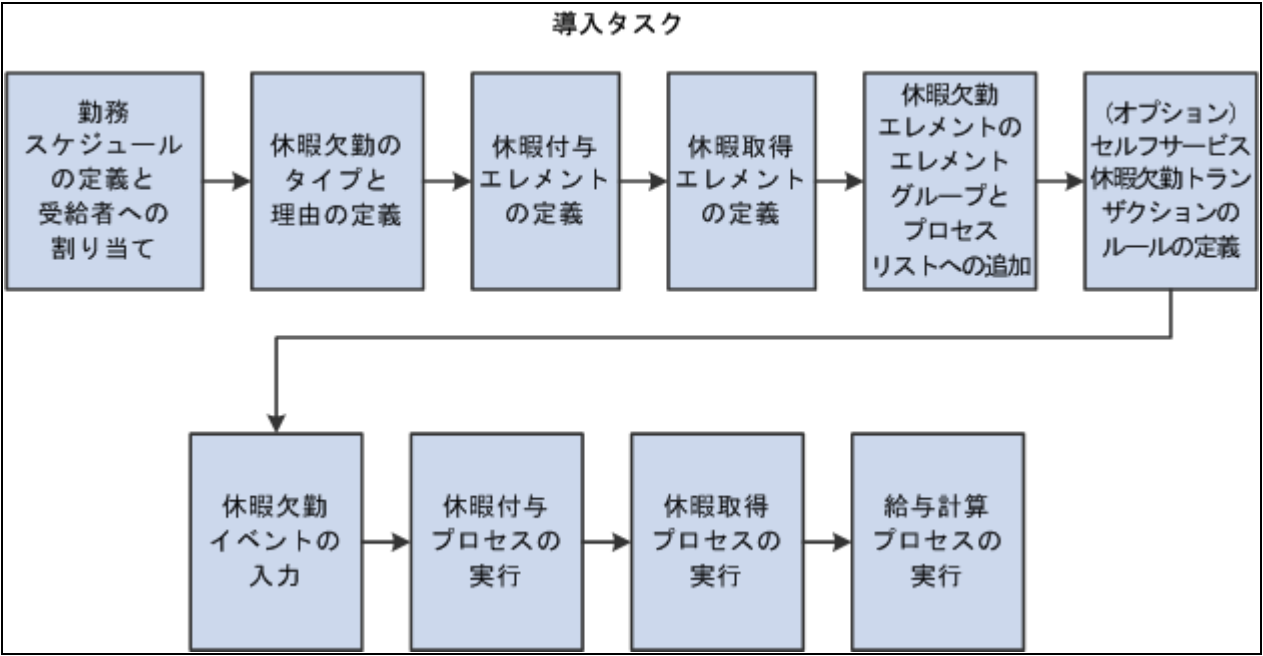
休暇欠勤の設定と管理タスクについて

このセクションでは、休暇欠勤の導入タスクと継続タスクの概要、共通フィールド、設定と継続の両タスクの手順について説明します。

休暇欠勤の導入および継続タスクの概要

受給者が業務を休んだ期間を追跡管理することは、正確な給与計算の実行には欠かせません。受給者が病気、休暇、その他の理由でいつ休んだのか、その期間に対して給与を支給するかどうかを把握する必要があります。

次のフローチャートは、休暇欠勤の設定と管理タスクの典型的な順序を示しています。



休暇欠勤の導入タスクと継続タスク

この章で使用する共通フィールド

休暇欠勤イベント	受給者が同じ理由で休んだ連続する期間。たとえば、受給者が月曜日から水曜日まで病気で休んだ場合、3 日間の休みを指して "休暇欠勤イベント" といいます。
調整	休暇付与残数に対しての増減
休暇付与	各タイプの休暇欠勤または各休暇欠勤イベントに対して受給者が取得する権利のある有給休暇数。有給休暇数は、どのような条件で発生するかによって、その数は異なります。たとえば、組織の受給者に 20 日/年の休暇を付与することができます。
休暇付与残数	使われていない休暇付与数

休暇取得	受給者が実際に取得した休暇数
ユニット	休暇付与、休暇取得、調整、残数、その他の休暇欠勤に係る期間を測る基準となる単位。通常、ユニットは時間数または日数を表します。使用する測定基準を選択します。

設定タスク

以下に示すのは、休暇欠勤機能を導入する手順の説明です。

1. 勤務スケジュールを定義し受給者に割り当てます。

勤務スケジュールには、受給者が勤務する予定の時間数と曜日が定義されています。この情報は、報告された休暇欠勤が予定勤務時間中に発生したのかをシステムに認識させるのに使用されるので、休暇欠勤プロセスでは重要な役割を持ちます。予定勤務期間中の休暇欠勤でも、組織の休暇欠勤ルールを満たしていれば有給になる場合があります。

2. 休暇欠勤タイプと理由の定義

休暇欠勤タイプでは、疾病、休暇、産前産後休業など、組織で追跡が必要なさまざまな種類の休暇を定義します。休暇欠勤タイプごとに、休暇欠勤をさらに詳しく類別するための休暇欠勤理由を複数設定できます。たとえば、疾病という休暇欠勤タイプの理由に、風邪、インフルエンザ、ストレスなどを定義できます。

3. 休暇付与エレメントの定義

休暇付与エレメントでは、さまざまな休暇欠勤タイプについて組織が受給者に対し有給休暇をどれだけ付与するかを定義します。また、休暇付与期間、計算周期、休暇付与残数への自動調整も指定します。たとえば、受給者に 15 日/年の有給休暇を付与するように "休暇" の休暇付与エレメントを設定できます。また、翌年 4 月 1 日までに使用されなかった全ての休暇日数の半分を受給者に補償するように指定することもできます。休暇付与は、休暇欠勤ごとまたは指定する周期ごとに付与することができます。

4. 休暇取得エレメントの定義

休暇取得エレメントは、有給休暇を認めるためのルールを定義します。どのタイプの休暇欠勤が有効で、休暇付与を使用する上でどの条件を満たす必要があるのかを定義します。たとえば、休暇付与を使うには 3 か月の雇用期間が必要であることを休暇取得ルールで条件定義できます。それぞれの休暇取得エレメントに、休暇欠勤タイプを 1 つと、休暇付与エレメントを 1 つ以上関連付けます。こうすることにより、有給/無給のユニット数を計算したり休暇付与残数を自動的に更新したりできます。また、各休暇取得エレメントに 1 つ以上の支給および控除エレメントをリンクできます。

5. 休暇欠勤エレメントを有資格グループとプロセス リストに追加します。

休暇付与および休暇取得エレメントを設定した後、支給および控除エレメントを定義した後に行ったのと同じ、次の 2 つのステップを実行します。このステップは、休暇付与が定期的な周期 (月次、年次など) ではなく休暇欠勤ごとに行われるときには適用されません。

- a. 休暇欠勤エレメントを適切なエレメント グループに追加します。このエレメント グループにより、どのエレメントが受給者に割り当てられるのかが決定されます。
- b. 休暇欠勤エレメントを 1 つ以上の休暇欠勤プロセス リストに追加します。プロセス リストは、休暇欠勤処理の際にどのエレメントが、どの順序で変換されるかを定義します。目的に応じて、休暇付与エレメント用と休暇取得エレメント用に、別々にプロセス リストを作成することも、1 つにまとめて作成することもできます。

6. (オプション) セルフサービス休暇欠勤トランザクションのルールを定義します。

従業員、管理者、またはその両方がセルフサービス ページを使用して休暇欠勤リクエストを入力できるようにするには、セルフサービス トランザクションのルールを定義します。また、セルフサービス休暇欠勤リクエストの承認ルールを定義することもできます。

注意: PeopleSoft Enterprise 勤務管理がインストールされている場合は、セルフサービス休暇欠勤ページの他にもタイムシート ページを使用して、休暇欠勤リクエストの入力やセルフサービス トランザクションのルール定義を行うことができます。

継続タスク

以下に示すのは、休暇欠勤イベントを管理する手順の説明です。

1. 休暇欠勤を入力します。

実際に発生した休暇欠勤をシステムに入力するには、休暇欠勤を識別する休暇取得エレメントを選択し、休暇欠勤の日付を入力します。設定手順の手順 2 で休暇欠勤理由を定義してある場合には、休暇欠勤の理由を入力して休暇欠勤の内容をさらに分類します。休暇取得ルールによっては、入力された休暇欠勤に対し休暇欠勤処理を実行する前に承認を要求することもできます。予測が必要な休暇取得エレメントを使用する場合、オンラインの予測プロセスを実行せずに休暇欠勤を保存しようとする、警告メッセージが表示されます。

注意: セルフサービス休暇欠勤トランザクションのルールを定義すると、従業員、管理者、またはその両方がセルフサービス ページを使用して休暇欠勤リクエストを入力できます。セルフサービス ページで入力されたリクエストは、承認されると実際の休暇欠勤として扱われます。

2. 必要に応じて休暇付与を上書きまたは調整し、ポジティブ入力を行います。

ユーザーは、必要に応じて休暇付与残数に対し、ポジティブ入力による調整を手動で入力したり (休暇付与が休暇欠勤ごとに定義される場合)、各受給者の標準付与ルールを上書きすることができます。

3. 休暇付与プロセス (GPPDPRUN) を実行します。

休暇付与プロセスでは、休暇付与数に変換され、受給者の休暇付与残数が更新されます。このプロセスを実行する手順は、通常の給与計算を実行する手順に似ています。休暇付与プロセスを開始すると、休暇欠勤カレンダーに関連付けられたプロセス リストが取得され、受給者それぞれについて適切な休暇付与エレメントに変換されます。

4. 休暇取得プロセス (GPPDPRUN) を実行します。

このプロセスを実行する手順は、通常の給与計算を実行する手順に似ています。休暇付与プロセスと休暇取得プロセスは同時に実行しても別々に実行してもかまいません。(ただし、休暇欠勤エレメントが支給および控除エレメントとは別のカレンダーに関連付けられている必要があります。)

休暇取得プロセスでは、以下の処理が実行されます。

- a. 休暇欠勤イベントの各日についての詳細データが作成されます。
- b. 日次データに休暇欠勤ルールが適用され、有給/無給ユニット数が算出されます。
- c. 算出されたユニットが、休暇欠勤取得ルールで定義した支給/控除エレメントに関連付けられます。
- d. 給与計算プロセス用のポジティブ入力が作成されます。
- e. 休暇付与残数が更新されます。

5. 給与計算プロセス (GPPDPRUN) を実行します。

この時点で給与計算 (GPPDPRUN) を実行する準備は既に完了しています。給与計算を実行すれば、休暇取得プロセスで作成されたポジティブ入力が支給または控除エレメントに換算されます。

休暇欠勤管理機能

グローバル ペイロール システムは、休暇欠勤管理に必要なあらゆる機能を備えています。事前に組織のニーズの分析と使う機能の決定に時間を割くことで、導入にかかる時間を省くことができます。

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- スケジュール機能
- 休暇付与機能
- 休暇取得機能
- 休暇欠勤入力機能
- セルフサービス機能

スケジュール機能

スケジュール機能には、次のものがあります。

- アプリケーション間でのスケジュールの共有

グローバル ペイロールと勤務管理の両方を使う場合、2 つのアプリケーションで同じ勤務スケジュールを共有することができます。

- ユーザー定義フィールド

シフトを設定する場合、シフト ページで 4 つまでのユーザー定義フィールドに情報を入力できます。休暇取得プロセスの実行時、この情報により日次データが自動的に更新されます。この情報は休暇欠勤フォーミュラで使うことができます。

関連項目:

第 13 章、「スケジュールの使い方」、473 ページ

休暇付与機能

休暇付与機能には、次のものがあります。

- 付与方法と周期

作成した休暇付与エレメントのそれぞれについて、休暇付与が休暇欠勤ごとに発生する (疾病ごとに 40 日など) か、指定した周期で発生する (1 か月に 2 日の病欠など) かを指定します。休暇欠勤を基準とした休暇付与は、休暇欠勤の発生後に休暇取得プロセスを実行すると変換されます。周期を基準とした休暇付与は、休暇付与プロセスの実行時に変換されます。周期ベースの休暇付与では、ジェネレーション コントロールを使って休暇付与を変換する条件を制限できます。たとえば、アクティブな受給者に限って変換することができます。

- 休暇付与数

休暇付与数を数値で入力するか、処理時に適切な数を取得するサポート エlementを定義できます。たとえば、勤続月数に基づき休暇付与数を返すブラケット エlementを作成します。

- 比例配分と端数処理

休暇付与ユニット数を端数処理または比例配分するように指定したり、使用する端数処理および比例配分ルールを定義できます (比例配分は周期ベースの休暇付与に限り適用されます)。

- 自動調整

特定の条件を満たしたとき (受給者が雇用終了したとき、特定の日付になったときなど) に、受給者の周期ベースの休暇付与残数の処理方法を指定できます。受給者に対し、未使用の休暇付与の全部または一部を補償したり、無効にするなどの調整が可能です。ジェネレーション コントロール エlementを使って、調整が行われる条件を定義できます。

- 累計基本設定

休暇付与の残数累計はシステムにより作成されます。ユーザーは、残数の計算方法を定義したり、追加の累計を選択できます。また、システムに累計の開始時期と期間を設定します。

- 休暇欠勤予測

休暇欠勤の入力中にオンライン休暇欠勤予測の使用を必須にするか、またはオプションにできます。予測機能を使うことにより、ユーザーは実際の休暇欠勤イベントや予定されている休暇欠勤イベントを入力し、前回最終決定されたカレンダー期間以降の将来の期間についてオンライン プロセスを実行できます。プロセスでは残数や定義しておいたアイテムの値が返されます。この機能を使うと、休暇欠勤数を満たすだけの休暇付与数を受給者が持っているかどうか、または今後付与されるかどうかなどについても判断できます。

- 残数照会

残数照会の機能を使うと、実際の休暇欠勤イベントや予定されている休暇欠勤イベントを入力しなくても受給者の休暇付与残数が確認できます。オンライン プロセスでは現在の付与残数が表示されます。また、日付を指定して休暇取得により発生する付与数を確認するのに使用できます。

関連項目:

第 12 章、「休暇欠勤Elementの定義」、休暇付与Elementの定義、 417 ページ

休暇取得機能

休暇取得機能には、次のものがあります。

- 休暇付与のリンク

休暇取得エレメントそれぞれに 1 つ以上の休暇付与エレメントをリンクすることができます。1 つ以上の休暇付与エレメントにリンクする場合、それらのエレメントが使用される順序を指定します。休暇欠勤が発生すると、まず最初の休暇付与エレメントの残数が使用され、それを使い切った後に次の休暇付与エレメントの残数が使用されます。

- 休暇欠勤タイプと理由コード

疾病、休暇、私的都合、勤務中の負傷など、組織で必要な休暇欠勤の分類を表す休暇欠勤タイプを作成します。各休暇欠勤タイプに対し、風邪、背中痛み、などの休暇欠勤理由をさらに詳しく分類するコードを定義できます。休暇欠勤イベントに関連付けられた休暇欠勤タイプと理由は、休暇欠勤フォーミュラで使用可能なシステム エレメントにロードされます。

- 承認

休暇欠勤イベントが承認されてから処理されるように条件付けることができます。このオプションを選択すると、ユーザーは休暇イベント入力ページで休暇欠勤を入力するときに休暇欠勤イベント入力詳細ページの [管理者承認済] チェック ボックスをオンにする必要があります。チェック ボックスがオフの場合、イベントは処理されません("休暇取得" の計算ページで指定)。

- 休暇欠勤の結合

同じ支給期間内で同じタイプの休暇欠勤の複数インスタンスについてポジティブ入力を 1 行作成するか、休暇欠勤イベントそれぞれについてポジティブ入力の行を別々に作成するか指定できます ("休暇取得" の計算ページで指定)。あるいは、全ての休暇欠勤取得についてポジティブ入力を 1 行作成するように指定できます (インストール設定ページで指定)。

- ユーザー定義フィールド

"休暇取得" の計算ページでユーザー定義フィールドに必要な情報を 4 つまで入力できます。休暇取得プロセスの実行時、この情報により日次データが自動的に更新されます。この情報は休暇欠勤フォーミュラで使うことができます。

- 支給と控除のリンク

休暇取得エレメントそれぞれに、ポジティブ入力を作成するための支給または控除エレメントを関連付けることができます。関連付けた支給または控除エレメントの計算ルールが、レート × ユニット、またはレート × ユニット × パーセントの場合には、そのエレメントの変換結果がユニット、パーセント、レート、金額で返されるよう指定することもできます。

- 休暇欠勤マッチング データの作成

マップ機能を使うと、休暇欠勤イベントが報告されたときに、関連付けられている休暇取得エレメントに対して休暇欠勤マッチング データが自動的に作成されます。フォーミュラを使って、休暇取得プロセスでマッチング データを作成する条件を定義することもできます。

- 日数計算フォーミュラ

休暇欠勤イベントの各日を評価するのに使用するフォーミュラを選択します。フォーミュラは、休暇付与残数と比較して有給/無給ユニットを計算するための休暇欠勤ユニット数を返します。

- 自動日数差し引き

休暇取得エレメントに休暇欠勤ごとに発生する休暇付与を関連付ける場合、休暇付与残数を減算する条件を指定します。

- 期間に関する条件

休暇欠勤が有給になるのに満たす必要がある期間条件を、到達する必要がある資格取得日付、最低休暇欠勤期間、休暇欠勤ごとの有給待機のうち、最高 3 つの条件を選択できます。

- 休暇欠勤のリンク

指定された期間内で同じタイプの関連する休暇欠勤をリンクするように指定できます。休暇欠勤の入力時に、リンクさせる休暇欠勤の元の開始日を入力します。このようにしてリンクされた休暇欠勤では、同じ休暇付与または同じ有給待機期間が共有できます。休暇欠勤をリンクできる期間も定義します。

- 休暇付与の超過取得

休暇欠勤に対し休暇付与数が足りないときの対処法を指定できます。対処法には、指定した限度までの超過取得を認める、無給として認識する、関連付けられた別の休暇取得エレメントの日数を再度割り当てその休暇取得/付与ルールで処理を実行する、などの選択肢があります。

- 同一日の休暇欠勤に対する優先処理

同一日に複数の休暇欠勤イベントを入力できるように設定するか、自動優先処理機能を使用できます。1 人の受給者に対し同じ日に 2 つ以上のイベントが入力されると、それぞれの休暇取得エレメントに割り当てられた優先順位に基づき、指定した日についてどの休暇欠勤イベントを処理するかを決定します。

関連項目:

第 12 章、「休暇欠勤エレメントの定義」、休暇欠勤タイプと理由の定義、416 ページ

第 12 章、「休暇欠勤エレメントの定義」、休暇取得エレメントの定義、432 ページ

休暇欠勤入力機能

休暇欠勤入力機能には、以下のものがあります。

- 時間指定

休暇欠勤を、丸 1 日もしくは時間指定で入力できます。休暇欠勤イベントの各日で受給者の休暇欠勤時間数が同じときに、その時間数を 1 回だけ入力するか、[または半日] グループ ボックスのチェック ボックスをオンにするか、適切な方を選択します。

- ユーザー定義フィールド

休暇欠勤イベントを入力するとき、ユーザー定義フィールドを 16 個まで入力できます。休暇取得プロセスの実行時、この情報により日次データが自動的に更新されます。この情報は休暇欠勤フォーミュラで使うことができます。この機能の使用を選択する場合、入力できるデータの種類についてのガイドラインをユーザーに提供することをお勧めします。

- 予測

ユーザーは、将来の期間の休暇欠勤を処理するプロセスを実行できます。これは、将来の休暇残数を予測したり、将来の期間に休暇欠勤関連のビジネス ルールを適用する場合に役立ちます。

参照: 第 11 章、「休暇欠勤管理について」、オンラインの休暇欠勤予測および残数照会プロセス、409 ページ。

関連項目:

第 25 章、「休暇欠勤の入力と処理」、979 ページ

セルフサービス機能

セルフサービス機能には、次のものがあります。

- 休暇欠勤の入力と予測

受給者および管理者は、Web ブラウザで休暇欠勤のリクエストを入力したり、リクエストを表示したり、特定の日付での休暇付与残数の予測などを実行できます。

- 休暇欠勤承認

管理者は、休暇欠勤リクエストをオンラインで承認、却下、または差し戻すことができます。

- 国別の表示設定

セルフサービス ページをどのように表示するか国別のルールを定義できます。たとえば、休暇付与残数、休暇欠勤履歴、予測オプションをどのようにユーザーに表示するかをコントロールできます。

- 取得別の表示設定

セルフサービス ページでデータの表示方法をコントロールするさまざまなルールおよび設定を定義できます。たとえば、誰が休暇欠勤リクエストを入力および承認するのか、日付ルール、およびメッセージのユーザーへの返信と表示方法をコントロールできます。また、勤務管理がインストールされている場合は、勤務管理のタイムシートで特定の休暇欠勤リクエストを行うこともできます。

- 予測ルール

予測結果と残数照会結果の両方について休暇付与残数をどのように表示するかを定義できます。

- 設定可能なセルフサービス テキスト

セルフサービス休暇欠勤ページに表示されるテキストを修正できます。テキスト カタログ機能を使用して、フィールド ラベル、ボタン テキスト、およびセルフサービス ページに表示されるテキストを修正できます。

関連項目:

[第 26 章、「休暇欠勤セルフサービス機能の設定」、1019 ページ](#)

[第 27 章、「セルフサービス休暇リクエストの入力と承認」、1053 ページ](#)

バッチ休暇欠勤プロセス

グローバル ペイロール プロセス (GPPDPRUN) 内の 2 つのバッチ プログラムは、休暇欠勤エントリの計算と給与計算の入力データの作成を行います。これらのプログラムは、休暇付与プロセスと休暇取得プロセスと呼ばれます。それぞれについて別々のプロセス リストを作成することも、1 つのプロセス リストを使用することもできます。プロセスの実行時にカレンダーにより呼び出された休暇欠勤プロセス リストに含まれる休暇付与および休暇取得エレメントが、ほかのエレメントと同じように処理されます。

注意: 休暇欠勤ごとに休暇付与エレメントを変換するために、休暇付与プロセスを個別に実行する必要はありません。これらのエレメントは、休暇取得プロセスを実行したときにのみ変換されます。

処理機能

処理機能には、次のものがあります。

- 処理期間

休暇欠勤期間は、支給期間と同じでも異なってもかまいません。たとえば、1 月の休暇欠勤は、1 月または 2 月のどちらにでも支給できます。休暇欠勤処理ごとに、ターゲットの支給カレンダーを指定します。

- 複数の休暇取得プロセス

複数の休暇取得プロセスで同じ支給カレンダーをターゲット カレンダーとして共有できます。こうすることにより、たとえば 1 月に取得した休暇と 2 月に取得した病欠の両方を 2 月に支給することが可能になります。そのためには、休暇欠勤プロセス リストを 2 つ (一方は休暇用、もう一方は病欠用) 作成し、それぞれのプロセス リストを別々の休暇欠勤カレンダーに関連付けます。そして、それぞれの休暇欠勤カレンダーで同じ支給カレンダーをターゲット カレンダーとして選択します。

- 休暇付与プロセスと休暇取得プロセスの連結

休暇付与プロセスと休暇取得プロセスを同時に実行することも、別々に実行することも可能です。

- 処理の順序

休暇欠勤取得は、プロセス リストの順序に従うか、または日付順に処理できます。休暇欠勤を日付順に処理するには、休暇取得エレメントをプロセス リストの休暇欠勤取得セクションに含めます。

関連項目:

第 15 章、「エレメント処理の定義」、休暇取得セクション、557 ページ

休暇付与プロセス

休暇付与プロセスの主な機能は、休暇付与エレメントの変換です。受給者の処理中、プロセス リスト マネージャによりプロセス リストで休暇付与エレメントが検出された時点でプロセスが開始されます。このプロセスには、次の 4 つのステップがあります。

1. 休暇付与ルール定義の取得

- a. 休暇付与エレメントの定義を取得します。
- b. 受給者の上書きがある場合、その値で休暇付与エレメントの定義が上書きされます。
- c. ポジティブ入力がある場合、ポジティブ入力で休暇付与エレメントの定義が上書きされます。
- d. 受給者の上書きが必須の場合に、いかなる上書きやポジティブ入力も存在しない場合は、このプログラムを終了します。

2. 周期ベースの休暇付与の変換

- a. 休暇付与に対するジェネレーション コントロールを確認します。
- b. ジェネレーション コントロールが入力されている場合は、ジェネレーション コントロール プログラムを呼び出します。プログラムにより、休暇付与エレメントや調整エレメントのプロセスが行われない場合は、プログラムを終了します。
- c. ジェネレーション コントロールが入力されていない場合、または条件が満たされていない場合は、PIN マネージャが呼び出され、休暇付与が変換されます。
- d. 休暇付与の周期が、支給期間の周期と異なる場合、休暇付与ユニットを換算します。

3. 調整の変換 (該当する場合)

- a. ジェネレーション コントロールにより、調整プロセスが要求される場合は、PIN マネージャが呼び出され、調整エレメントと補償ユニット エレメントが変換されます。
- b. 補償ユニット エレメントの値が、0 (ゼロ) でない場合、補償支給エレメントとユニットがポジティブ入力に追加されます。

4. 結果の更新

- a. PIN マネージャに対する戻り値を設定します。
- b. 休暇付与エレメントとユニットが計算された場合は、PIN マネージャの戻り値リストにその値を追加します。
- c. 調整エレメントとユニットが計算された場合は、PIN マネージャの戻り値リストにその値を追加します。

休暇取得プロセス

このセクションでは、以下の事項について説明します。

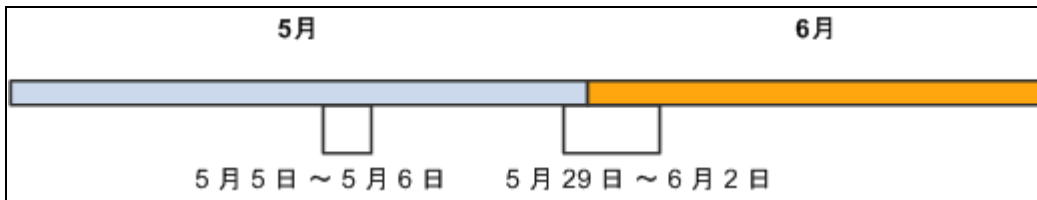
- 日次データ
- 日次データのシステム エレメントの役割
- 休暇取得プロセス (詳細)
- 日次処理 (詳細)

日次データ

休暇取得プロセスを実行するとき、プログラムで最初に行われることは、受給者について休暇欠勤処理期間 (処理期間が分割されている場合は、現在のセグメント) 中に発生したプロセス リストの各休暇欠勤イベントを**展開**することです。イベントを展開すると、GP_RSLT_ABS レコードに休暇欠勤イベントの各日についての詳細データ行が作成されます。これらの行は、**日次データ**と呼ばれます。

休暇取得プロセスでは、現在のセグメントの期間に属する日付を持つイベントがそれぞれ展開されます。休暇欠勤イベントの各日について行が作成されます。プロセスの対象期間に含まれない日付についても同様に行が作成されます。受給者が休暇欠勤イベントの前日と翌日に欠勤していない場合、それらの両日に対しても勤務スケジュールと休日スケジュールのシステム エlementがロードされます。受給者が報告された休暇欠勤の前日または翌日に欠勤している場合は、ルールでの設定に従い、休暇欠勤に関係したほかのシステム エlementがロードされます。

たとえば、処理期間が 5 月 1 日～ 5 月 31 日で、分割がないとします。受給者が 5 月 5 日～ 5 月 6 日と、5 月 29 日～ 6 月 2 日を休んだ場合、休暇取得プロセスでは最初の休暇欠勤について 2 行、2 回目の休暇欠勤について 5 行の日次データが作成されます。次の図に、この例を示します。



休暇欠勤イベントの各日に対して作成される日次データ

休暇欠勤イベントの各日について日次データの行が作成されても、各日が処理されるという意味ではありません。イベント全体が展開されるのは、それぞれの休暇欠勤日を正確に評価するのに必要な情報を全てシステムに認識させるためです。実際に処理されるのは、処理期間中に発生した休暇欠勤日だけになります。上記の例では、5 月の 5 日、6 日、29 日、30 日、31 日が処理されます。

日次データのソース

最初に日次データにロードされるデータのソースは次の 2 つです。

- 受給者の勤務および休日のスケジュール。曜日、予定勤務時間数、休日タイプの情報が提供されます。
- 休暇欠勤イベント。休暇取得Element、開始日と終了日、時間指定の休暇欠勤などの情報やその他の情報が提供されます。

次の図に、日次データのソースを示します。

日次データ		5 月 5 日	5 月 6 日
スケジュール	予定勤務時間数	8	8
	曜日	月曜日	火曜日
	休日タイプ	標準	標準
イベント	休暇欠勤の開始日	Y	N
	休暇欠勤の最終日	N	Y
	休暇欠勤時間数（予定勤務時間数より少ない場合）	0	4
休暇取得 プロセス	開始付与残数	2	1
	日数	1	1
	有給となるユニット数	1	1
休暇付与 プロセス	有給待機期間を満たすユニット数	0	0

日次データのソース

休暇取得プロセス自体も日次データに情報を提供します。プロセスにより休暇欠勤ルール（休暇欠勤エレメントによって定義）がイベントや予定勤務時間データに適用されると、日次データにロードされる一連の結果値が取得されます。取得される結果値には、開始付与残数、休暇欠勤ユニット数、有給/無給ユニット数、プロセス後の休暇付与残数などのさまざまな情報が含まれています。

日数計算フォーミュラを作成して休暇取得ルールに割り当てますが、このフォーミュラによって結果値が取得されます。このフォーミュラは休暇欠勤の各日に変換され、休暇欠勤日のユニット数（4 時間、1 日など）を返します。休暇欠勤の**日数計算**が終わると、その日数と休暇付与残数が照らし合わされます。支給に必要な有給待機期間またはその他の条件が満たされているかどうか判断され、有給となる休暇欠勤ユニット数が決定します。また、処理後の休暇付与残数も計算されます。

日次データのシステム エレメントの役割

休暇欠勤日次データの多くはシステム エレメントによって保存されます。システム エレメントとは、事前に定義されているエレメントです。

フォーミュラでのシステム エLEMENTの使い方

休暇取得ELEMENTを定義するときには日数計算フォーミュラを指定する必要があります。これを使って、受給者が休んだ処理対象日のユニット数が計算されます。このフォーミュラでは日次データに保存されている情報（場合によっては評価対象日の前後の日のデータも含む）を使うことができます。たとえば、受給者の予定勤務時間の情報を保存するシステム ELEMENTには、次の 3 つがあります。

- SCHED_HRS: 評価対象日の受給者の予定勤務時間数を取得します。
- SCHED_HRS_DB: 評価対象日前日の受給者の予定勤務時間数を取得します。
- SCHED_HRS_DA: 評価対象日翌日の受給者の予定勤務時間数を取得します。

前日または翌日の値を計算で使う日数計算フォーミュラを作成することもできます。また、SCHED_HRS ELEMENTの値を使って日数を計算する日数計算フォーミュラを作成することもできます。

使用する休暇欠勤機能によっては、その他のフォーミュラを作成する必要があります。これらのフォーミュラでも、システム ELEMENTによって取得される日次データを使用できます。

ユーザー定義フィールドの使い方

ユーザー定義のシステム ELEMENTを使用することにより、組織固有の休暇欠勤データを取得し、使用できます。ユーザー定義のフィールドに入力されたデータはシステム ELEMENTに格納され、休暇取得プロセスにより日次データのレコードに追加されます。その他のシステム ELEMENTと同様に、ユーザー定義のシステム ELEMENTにより取得されたデータも休暇欠勤フォーミュラで使用できます。

ユーザー定義フィールドは、以下のページで使用されます。

- 休暇イベント入力
- 休暇取得の計算
- シフト
- 休暇欠勤リクエスト (管理者または従業員)

休暇取得プロセス (詳細)

休暇取得エレメントの主な機能は、有給/無給ユニットの決定です。[休暇取得] プロセスでは、それぞれの休暇欠勤イベントを日次データに展開し、給与計算実行のためのポジティブ入力を作成します。また、残数累計も更新します。

1. 休暇取得エレメントの検索

- a. 現在のセグメント内にあるイベントについて、休暇取得処理アレイ内から現在の取得エレメントに対するイベント アレイを検索します。イベントが見つからなかった場合は、現在のセグメント内の日次行を検索します。
- b. イベントまたは日次行が見つかった場合は、休暇取得処理アレイの現在の休暇取得エレメントに対して、イベントの検出、日次行の検出、休暇取得処理を「Yes」に設定します。
- c. イベントまたは日次行が見つからなかった場合は、アレイの次の取得に進みます。

2. ルール定義の取得

休暇取得処理アレイの現在の休暇取得エレメントについて、以下が行われます。

- a. 取得エレメントの定義、および休暇付与の子レコード、支給/控除の子レコード、同一日の取得エレメントの子レコードなどのエレメントの子レコードを取得します。
- b. 休暇付与の子レコードごとに休暇付与定義を取得します。
- c. 休暇取得処理アレイの取得ポイントを該当の有効日付きの休暇取得定義に設定します。休暇取得定義がロード済みの場合でも、この設定はセグメントごとに行われます。

3. 休暇欠勤の既存の日次データ行を更新します。日次行が見つまっている場合は、休暇取得処理アレイの現在の休暇取得エレメントと一致し、セグメント内に存在する未処理の既存の日次データ行が更新されます。

- a. 取得処理ポイントを、該当の取得定義に設定します。また、行が処理されたことも示されます。
- b. 休暇取得プロセス ポイントを使って、休暇欠勤タイプ、休暇取得設定フィールドを更新します。
- c. 行の関連付け。重複が日次順序または休暇取得のセクション順序で正しく設定されます。

4. 勤務スケジュールがロードされていない場合は、休暇欠勤期間内のセグメントごとに、各雇用レコードに対しそれらをロードします。

現在の期間の勤務スケジュールと休日データを取得します。これには、現在の期間の前後の日付も含まれており、DB (休暇欠勤前) システム エlementと DA (休暇欠勤後) システム エlementに値が提供されます。

5. 現在セグメントのイベントを展開します。イベントの検出が「Yes」に設定されている場合、休暇取得処理アレイの現在の休暇取得エlementのイベントを展開し、そのイベントの各休暇欠勤日に対して休暇欠勤日次データ行を作成します。各日次データ行には、以下のものが含まれます。
 - a. 勤務スケジュール データ。
 - b. 代替勤務スケジュール データ。
 - c. 休日データ。
 - d. 休暇欠勤イベント情報。
 - e. Set Insert-No。
 - f. 該当の休暇取得エlementの定義への休暇取得ポイントの設定。その行がどのように処理されるかも指定されます。
 - g. 休暇取得データ。休暇取得プロセス ポインタを使用した休暇欠勤タイプとユーザー定義フィールドなど。
 - h. 行の関連付け。重複が日次順序または休暇取得のセクション順序で正しく設定されます。
6. 日次処理の実行 (次のサブセクションで詳しく説明します)

日次処理 (詳細)

以下に示すのは、(上記のステップ 6 の) 日次処理を実行するためのステップの詳細です。

1. 日次データの初期化

- a. 検証が実行中の場合、検証アレイを初期化し、取得エレメントの新しい検証行を作成します。
- b. 取得エレメントが変更されていて、前回の取得エレメントに上書き定義 (SOVR) があった場合、その SOVR 値を元の値に再設定します。
- c. 取得エレメントが変更されていて、現在の取得エレメントに、有効な上書き定義 (SOVR) がある場合、この取得エレメントの前回の上書き定義 (SOVR) の値を保存し、新しい上書き値を追加します。
- d. 取得エレメントが別のエレメントからマッピングされている場合は、現在処理中の日次行に対して、現在の日付、その前後の日付、および取得の親エレメントなどのポイントを使用すると、システム エレメントでデータが使用可能になります。
- e. 前日または翌日に休暇欠勤がない場合は、スケジュール データを適切なシステム エレメントにロードします。
- f. 複数イベント可を選択した場合、現在の日次行に対する全取得エレメントの時間指定の値を合計します。

2. イベントの初期化。セグメント内にある各イベントの 1 日目、または最初に処理が行われる日で初期化が実行されます。

- a. その休暇欠勤日が休暇欠勤イベントの開始日の場合は、以下を実行します。

最低休暇日数の条件を確認します。

リンク (休暇欠勤ごとのエレメントの場合) を確認します。

資格取得条件を確認します。

有給待機期間を確認します。

- b. 休暇欠勤日が休暇欠勤イベントの開始日ではない場合は、以下を実行します。

前回の日付から現在の日付に、その休暇欠勤イベントに関連するフィールドをコピーします。

資格取得条件を確認します。

有給待機期間を確認します。

3. 日数の取得

- a. PIN マネージャを呼び出し、日数計算フォーミュラを変換します。
- b. PIN マネージャを呼び出し、(該当する場合) 有給待機カウント フォーミュラを変換します。

4. 各日の評価 (有給/無給ユニットの作成)。通常処理、および予測処理に対して、実行されます。

- a. 最低休暇日数を確認します (該当する場合)。
- b. 資格取得日を確認します (該当する場合)。
- c. 有給待機期間を確認します (該当する場合)。
- d. 取得ユニットの結果が 0 (ゼロ) になるか、付与エレメントがなくなるまで、付与アレイをループ処理します。
- e. 現在の休暇欠勤付与残数を取得します。

残数が 0 (ゼロ) を超える場合、処理ユニットと照らし合わせます。残数が残りのユニット数を満たす場合は、そのユニットは有給ユニットとして見なされます。残数が不足していて、ほかに付与エレメントが存在しない場合は、超過取得ルールを適用します。

有給ユニットがある場合は、システムにより自動的に割り当てられる有給ユニットを PIN マネージャの戻り値リストに追加します。

- f. 有給日数ユニットと無給日数ユニットを PIN マネージャの戻り値リストの日次データ行に追加します。

5. 予測 PIN 処理。予測と残数の照会に対して、実行します。

PIN マネージャを呼び出し、予測 PIN を変換します。

6. 支給/控除日数計算のループ処理。通常の処理に対してのみ実行されます。

PIN マネージャを呼び出し、ユニット フォーミュラを変換します。

フォーミュラ結果が 0 (ゼロ) の場合、PIN マネージャを呼び出し、パーセント フォーミュラ、レート フォーミュラ、金額フォーミュラを変換します。

フォーミュラ結果が 0 (ゼロ) でない場合、支給/控除エレメント、ユニット、およびパーセントを日次のポジティブ入力に追加します。

7. マッピングおよびリダイレクトが指定された日次行の追加

- a. PIN マネージャを呼び出し、マッピングの判別フォーミュラを変換します。
- b. フォーミュラがない場合や、フォーミュラの値が 0 (ゼロ) でない場合は、マップされた取得エレメントに対して、現在の日付の休暇欠勤のデータ行のコピーが挿入されます。
- c. リダイレクトが指定された日付行の場合、その取得に対して、現在の日付の休暇欠勤のデータ行のコピーが挿入されます。
- d. マッピングおよびリダイレクトが指定された取得を取得処理アレイで検索します。取得処理が「No」に設定されている場合、取得処理アレイ ループで実行したように、ルール定義を取得します。取得処理が「Yes」に設定されている場合は、ルール定義は既にロードされています。
- e. マッピングまたはリダイレクトが指定された日付の取得が取得処理アレイで見つかった場合、以下の手順に従います。

取得処理ポイントを、該当の取得定義に設定します。

その休暇取得処理ポイントを使用して [休暇欠勤タイプ] フィールドと [設定取得] フィールドを更新します。

- f. 休暇欠勤ポイントを設定すると新しい行が関連付けられ、重複が日次順序または休暇欠勤取得のセクション順序で正しく設定されます。

8. 日次データ処理の終了

- a. 日次データの結果を日次データ行に保存します。
- b. 終了日が「Yes」に設定されている場合、予測エレメントの結果値を取得します。
- c. 休暇欠勤日がセグメントの終了日と同一日である場合、予測結果を保存します。
- d. 処理した日次データ行に、Set Insert-Yes の設定を行います。
- e. 日次プロセス スイッチを処理済に指定します。
- f. 検証が実行中の場合、取得エレメントの検証行を更新し、変換チェーンを書き込みます。
- g. 有効な上書き定義があり、処理対象のデータ行がない場合、現在の取得上書き定義に対して、前回の上書きエレメントの値 (SOVR) を再設定します。

オンラインの休暇欠勤予測および残数照会プロセス

これらの 2 つのオンライン休暇欠勤プロセスでは、将来の期間を対象として処理を実行できます。これらのプロセスを使用して、将来の休暇付与残数を予測したり、その他の休暇欠勤を適用したり、将来の期間に休暇欠勤関連のビジネス ルールを使用できます。

- 休暇欠勤予測

休暇欠勤予測プロセスは、実際の休暇欠勤または予定休暇欠勤を入力した後に休暇イベント入力ページで実行します。ユーザーが定義した予測フォーミュラが実行され、定義された英数字の値が返されます。また休暇取得エレメントの作成時に指定したエレメント メンバーの値の一覧も返されます。たとえば、フォーミュラを使って受給者の付与残数が休暇欠勤数に足りているかどうかも判別できます。付与残数が足りている場合は、ELIGIBLE の値が休暇イベント入力ページに表示され、未来の休暇欠勤処理後の付与残数、リクエストしている休暇欠勤の期間などの有益な情報が返されます。特定の休暇欠勤取得に対し、予測プロセスを実行せずに休暇欠勤の入力を保存しようとした場合に警告メッセージが表示されるよう設定することも可能です。

- 残数照会

残数照会プロセスは、予測残数ページで実行できます。ここで、取得エレメントを選択し、残数や値を確認したい特定の日付を指定します。

休暇欠勤予測や残数照会プロセスは、休暇付与プロセスや休暇取得プロセスのシュミレーションを行うものです。どちらのプロセスを行う場合でも、グローバル ペイロール システムでは受給者について最終決定されていない最初のカレンダーが確認され、そのカレンダー以降の期間 (カレンダー グループ テンプレートに含まれるもの) から、休暇欠勤予測の場合は最新の予測イベント日のカレンダーの期間まで、または残数照会の場合は目的の日付が属するカレンダーの期間までが参照されます。休暇欠勤予測プロセスと残数照会プロセスでは、受給者の支給グループに関連付けられているカレンダーのみを選択します。どちらのプロセスも直接的には通常のバッチ処理には影響を与えません。ただし、休暇欠勤予測のシステム エレメントで変換された値は通常のバッチ処理のシステム エレメントで使用できます。

休暇欠勤予測プロセスにより、休暇欠勤イベント レコード (GP_ABS_EVENT) の予測値 (ABS_EVT_FCST_VAL) と予測日時 (FCST_DTTM) が更新されます。残数照会プロセスでは、休暇欠勤イベント レコードは更新されません。

休暇取得ルールを定義するときに、開始残数、終了残数、休暇欠勤期間など、どの情報が表示されるかを指定できます。休暇欠勤予測または残数照会プロセスが完了すると、その結果がテーブル (GP_ABS_EVT_FCST) にロードされます。1 人の受給者に対し休暇欠勤予測または残数照会プロセスが正常に実行されるごとにこれらの結果は上書きされます。データは、休暇取得プロセスや休暇付与プロセスで使用される結果テーブルには書き込まれずに、GPX_ (GP_ではない) のプレフィックスが付いた同一のテーブルに書き込まれます。休暇取得プロセスを実行すると、予測値が結果テーブル (GP_RSLT_ABS) に書き込まれます。したがって、以下のようになります。

- 履歴ルールでは、現在実行しているデータではなく前回実行されたバッチ処理でのデータが返されます。
- 結果テーブルを読み込むアレイでは、現在実行されているバッチ処理の値ではなく、前回実行したバッチ処理からのデータが返されます。
- 書き込み可能アレイは処理されません。

関連項目:

第 12 章、「休暇欠勤エレメントの定義」、休暇取得エレメントの定義、 432 ページ

第 12 章、「休暇欠勤エレメントの定義」、残数照会ルールの定義、 462 ページ

第 12 章

休暇欠勤エレメントの定義

この章では、休暇欠勤エレメントの設定についての概要と、以下の内容について説明します。

- 休暇欠勤タイプと理由の定義
- 休暇付与エレメントの定義
- 休暇取得エレメントの定義
- 休暇欠勤エレメントの使用準備
- 休暇付与残数の予測および照会の設定

休暇欠勤エレメントの設定について

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- 前提条件
- 設定のガイドラインおよびその依存関係について
- 休暇欠勤フォーミュラ

事前設定

休暇欠勤エレメントを定義する前に、休暇欠勤機能の概要を説明する「休暇欠勤管理について」の章を確認してください。

関連項目:

第 11 章、「休暇欠勤管理について」、387 ページ

設定のガイドラインおよびその依存関係について

欠勤に対して支給を行ったり追跡管理を行うのに組織で使用する方針やルールを、休暇付与および休暇取得エレメントを作成して定義します。休暇付与エレメントには、受給者に有給休暇が発生する条件や時間数を定義します。休暇取得エレメントには、休暇取得プロセスで休暇欠勤が有給になるかどうかを決定するのに適用するルールを指定します。

設定前に、以下の点を考慮する必要があります。

- 多くの休暇欠勤機能では、フォーミュラを使用しなければならないことがあります。

休暇取得エレメントを定義する場合は、日数計算フォーミュラの設定は最低必須条件となります。休暇欠勤ごとに変換される休暇付与エレメントを定義する場合は、休暇欠勤毎フォーミュラエレメントも設定する必要があります。"休暇付与"の計算ページでフォーミュラの名称を入力しないと、休暇付与エレメントを保存できません。

- 休暇付与および休暇取得エレメントは関連しています。

休暇取得エレメントを定義するときは、適用する休暇付与ルールを指定しておきます。休暇取得エレメントを定義してから休暇付与エレメントを定義した場合、休暇取得コンポーネントに修正モードに戻ってその休暇付与エレメントを関連付ける必要があります。

- 各休暇取得エレメントに休暇欠勤タイプを割り当てます。

休暇欠勤タイプにより、休暇欠勤エレメントをグループ化し、分類します。1つの休暇欠勤タイプを、複数の休暇取得エレメントに割り当てることが可能です。

- 休暇取得ルールによっては、休暇取得エレメント間で相互依存の関係を持たせることができます。

休暇取得のエレメント間で相互関係を構築することで設定時間を省くことができます。休暇取得エレメントは、次の場合に関連付けられます。

- 休暇欠勤が休暇付与残数を超えたときに、別の休暇取得エレメントに関連する休暇付与を使うことを認める場合。
- 2番目の休暇取得エレメントについて同じイベントが作成されるように設定する場合。
- 1人の受給者に対して同じ日に複数の休暇欠勤を入力することができないようにし、エラーメッセージで重複するイベントの優先度についての情報を示すようにする場合。

- 休暇付与、調整、残数、その他の休暇欠勤関連の値には、それぞれ同じユニット (時間、日数、またはそれ以外の時間枠) が使われます。

たとえば、休暇付与を日数で表す場合、調整、残数、その他の休暇欠勤関連の値を定義するサポート エレメントも日数に必ず変換されるようにします。休暇欠勤エレメントの定義に使用されるユニットと、ユーザーが休暇付与を調整または上書きするときに使用するユニットは互いに一致している必要があります。

- 休暇付与エレメント、および休暇取得エレメントのほとんどは導入時に定義しますが、導入後に追加することも可能です。

業務上、変更が必要な場合は、既存の休暇欠勤エレメントを修正するのではなく、新しいエレメントを作成することをお勧めします。既存エレメントを変更すると、遡及処理に影響を及ぼす場合があります。

休暇欠勤フォーミュラ

フォーミュラを使うと、さまざまな休暇欠勤管理機能を容易に実現することができます。機能ごとに異なるフォーミュラを作成することもできますが、必要に応じていくつもの状況で同じフォーミュラを使用することもできます。

次の表は、休暇欠勤に関連するフォーミュラを一覧にしたものです。

フォーミュラおよびページ	用途	ロードされるエレメント	戻り値
休暇欠勤毎フォーミュラ エレメント ("休暇付与" - 計算ページ)	休暇欠勤ごとの 休暇付与エレメントの場合に必須。休暇付与を変換するタイミングを定義。 処理中に残数が必要な場合、日ごとに変換。		0 (ゼロ) = 休暇付与を変換しない 0 以外の値 = 休暇付与を変換
日数計算フォーミュラ ("休暇取得" - 日数計算フォーミュラ ページ)	全ての休暇取得エレメントに必須。各休暇欠勤日を判定し休暇付与残数と比較するユニットを返す。 常に、日ごとに変換。	DAY COUNT	休暇欠勤日のユニット数

フォーミュラおよびページ	用途	ロードされるエレメント	戻り値
差引フォーミュラ ("休暇取得" - 日数計算フォーミュラ ページ)	<p>休暇欠勤ごとの休暇付与エレメントの場合に必須。自動的に開始時の休暇付与残数から減算。</p> <p>休暇欠勤ごとの休暇付与が変換された直後に変換。</p>		休暇付与残数に加算/減算される数
判別フォーミュラ ("休暇取得" - 日数計算フォーミュラ ページ)	別の休暇取得エレメントの休暇欠勤イベントを作成する条件を定義。		0 (ゼロ) または 0 以外の値
(有給待機) カウントフォーミュラ ("休暇取得" - 期間ページ)	<p>受給者が有給待機期間を満たすために必要な休暇欠勤の残数を返す。</p> <p>有給待機カウントに使われるフォーミュラは、日数計算フォーミュラに使われるフォーミュラと同じことがよくある。たとえば、このフォーミュラを使って勤務日をカウントすることも可能である。</p>	WAIT COUNT	日数

フォーミュラおよびページ	用途	ロードされるエレメント	戻り値
予測エレメント ("休暇取得" - 予測ページ)	<p>休暇欠勤を判別するために予測プロセス中に使用。フォーミュラの結果は休暇イベント入力ページに表示。</p> <p>休暇イベントの日ごとに換算。システムには、休暇欠勤最後の日に換算された値のみが保存。</p>	ABS EVT FCST VAL	英数半角 30 文字まで

システム エレメントの多くは、休暇欠勤フォーミュラで使用され、休暇欠勤日次データ テーブルの列を示すために作成されています。

たとえば、SCHED HRS という名前のシステム エレメントを日数計算フォーミュラで使い、そのフォーミュラの名前を WRK DAY とし、次のように定義したとします。

```
IF SCHED HRS > 0
THEN 1 -->> WRK DAY
ELSE 0 -->> WRK DAY
END IF
```

フォーミュラは、予定勤務時間数 SCHED HRS が 0 (ゼロ) より大きいかを確認します。0 より大きければ、日数は 1 勤務日と等しくなります。0 以下であれば、1 勤務日としてカウントされません。つまりこのフォーミュラでは、予定勤務時間が最低 1 時間あれば、休暇欠勤日は 1 勤務日として見なされることとなります。

フォーミュラによって、処理している休暇取得エレメントに指定された期間の日次データの各行が処理されます。つまり、行ごとに日次データ テーブルから SCHED HRS の値が取得されます。

注意: 日次データ行の休暇欠勤システム エレメントには、現在の処理行に含まれるデータが反映されます。フォーミュラで他のシステム エレメントを使うことはできますが、そのエレメントは行ごとには変換されず、最初に一度だけ変換されます。たとえば、JOB 行から部門などのシステム エレメントを使う場合、部門の値はどの行でも同じ値となり、行ごとに変化することはありません。

関連項目:

第 6 章、「データ取得エレメントの定義」、システム エレメントの使い方、122 ページ

休暇欠勤タイプと理由の定義

休暇欠勤のタイプと理由を設定するには、休暇欠勤タイプ コンポーネント (GP_ABS_TYPE) を使用します。

このセクションでは、休暇欠勤タイプと理由の概要および定義方法について説明します。

休暇欠勤タイプと理由について

休暇取得エレメントを定義する場合、休暇、病気などの欠勤の種類を表す休暇欠勤タイプを割り当てます。休暇欠勤タイプは、全ての国で使用可能にすることも特定の国でだけ使用可能にすることもできます。休暇欠勤タイプごとに、休暇欠勤理由を任意の数だけ定義できます。

休暇欠勤イベントを入力すると、選択した休暇欠勤取得エレメントに関連付けられた休暇欠勤タイプが表示されます。休暇欠勤の理由の入力は必須ではありません。休暇欠勤タイプと理由コードは、バッチ処理またはオンラインの予測プロセスの際、ABSENCE_TYPE、ABSENCE_TYPE_DB (前日の休暇欠勤タイプ)、ABSENCE_REASON などのシステム エレメントにロードされます。これらのシステムエレメントは、休暇欠勤フォーミュラで使用されます。

休暇欠勤タイプの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
休暇欠勤タイプ	GP_ABS_TYPE	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇欠勤タイプ]、[休暇欠勤タイプ]	組織で認められている休暇欠勤のタイプを定義します。休暇欠勤のタイプごとに休暇欠勤の理由を設定できます。

休暇欠勤タイプの定義

休暇欠勤タイプ ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇欠勤タイプ]、[休暇欠勤タイプ])。

休暇欠勤タイプ°

国:

ALL

休暇欠勤タイプ°:

PMA

定義

検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

*有効日:

1990/01/01 31

*ステータス:

アクティブ°

+ -

名称:

有給産前産後休業

略称:

有給産休

☒ セルフサービスでリクエスト可

休暇欠勤理由

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-4/4 最後

休暇欠勤理由	名称	略称		
001	産前産後休業	産前産後	+	-
002	育児休業 - 父親	父親育児	+	-
003	産前産後休業 (延長)	産休の延長	+	-
004	産前病気休業	産前休業	+	-

休暇欠勤タイプ ページ

セルフサービスでリクエスト可

このチェック ボックスをオンにすると、セルフサービス休暇欠勤機能に全ての関連する休暇取得エレメントを設定できます。

休暇欠勤理由

各休暇欠勤理由には 3 桁以下の英数字をコードとして入力できます。

休暇付与エレメントの定義

休暇付与コンポーネント (GP_ABS_ENTL) を使って、組織に必要な各タイプの休暇付与に対して休暇付与エレメントを作成します。疾病、休暇、産前産後休業など、休暇欠勤の種類によって休暇を付与するルールが異なる場合、それぞれ別の休暇付与エレメントを作成します。

このセクションでは、自動作成累計の概要と、以下について説明します。

- 休暇付与エレメント名の定義と予測の有効化
- 休暇付与数と計算方法の定義
- 端数処理および比例配分ルールの定義

- 休暇付与の累計ルールの定義
- 累計期間の開始日と長さの定義
- 自動作成累計の表示
- 休暇付与エレメントのサポート エレメント上書きの定義

自動作成累計について

新しい休暇付与エレメントを定義して保存すると、休暇付与残数を追跡管理する累計が作成されます。

エレメントの保存後、累計の定義を開き、休暇付与残数累計に対し追加の設定を行います。

- 周期ベースの休暇付与の場合、前累計期間の付与残数の全部または一部を繰り越す初期化ルールを選択できます。初期化ルールを選択しない場合、新しい累計期間が開始されるときに付与残数は 0 (ゼロ) に設定されます。
- 休暇欠勤ベースと周期ベースの休暇付与のどちらの場合でも、残数に加える、または差し引くエレメントを追加/削除して、休暇付与残数を更新する方法を指定します。次のフォーミュラを使って休暇付与残数が計算されます。

休暇付与残数 = 休暇付与 - 取得ユニット + 調整ユニット

取得ユニットと調整ユニットはシステムにより自動的に割り当てられるエレメントで、休暇付与残数の累計が作成されると同時に作成されます。

例

VACATION という名前の休暇付与エレメントを作成すると、休暇付与の残数累計が自動的に作成されます。この表は、"累計" のメンバー ページで定義されたエレメントの一覧です (サフィックス名は国によって異なります)。エレメントを変換する時期について説明しています。

エレメント名	エレメント タイプ	累計指示	変換時期
VACATION (休暇付与)	休暇付与	追加	休暇付与が変換される とき

エレメント名	エレメントタイプ	累計指示	変換時期
VACATION_TAKE (取得ユニット)	自動割当	減算	取得プロセス中、取得済みユニット数が日ごとにこのエレメントに入れます。
VACATION_ADJU (調整ユニット)	自動割当	加算 (正または負の数)	休暇付与調整が変換されるとき

休暇付与エレメントの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
休暇付与名	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇付与]、[休暇付与名]	エレメントに名前を付け、基本パラメータを定義します。
休暇付与 - <エレメント名> の予測	GP_FORECAST_SEC	休暇付与名ページの [予測] リンクをクリックします。	休暇付与エレメントの予測機能を有効にします。
"休暇付与" - 計算	GP_ABS_ENTL	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇付与]、[計算]	休暇付与の計算方法、休暇付与数、ジェネレーション コントロールを定義し、特定の条件下での休暇付与残数を調整する際の指示を入力します。
端数処理/比例配分	GP_ABS_RND_PRORTN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇付与]、[端数処理/比例配分]	休暇付与エレメントの端数処理および比例配分ルールを定義します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
自動作成累計	GP_AUTOGEN_ACUM	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇付与]、[自動作成累計]	休暇付与残数の追跡管理に使用するユーザー キーと、付与累計の実行時期を指定します。
休暇付与 - <エレメント名> の累計期間	GP_AUTOGEN_SEC	自動作成累計ページの [累計期間] リンクをクリックします。	休暇付与の累期間の開始日と長さ (月間、年間など) を定義し、休暇付与、調整、休暇取得を追跡する自動作成累計のオプションを選択します。
休暇付与 - <エレメント名> の作成済エレメント	GP_ABS_ACM_SEC	自動作成累計ページの [作成済エレメント表示] リンクをクリックします。	エレメントの定義保存後に休暇付与エレメントの自動作成累計のリストを参照します。
サポート エレメント上書き	GP_ELM_DFN_SOVR	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇付与]、[サポートエレメント上書き]	休暇付与エレメントの定義で使用されるサポートエレメントを上書きします。 参照: 第 18 章、「 <u>上書きの設定</u> 」、 <u>エレメント使用上書きの定義</u> 、690 ページ。

休暇付与エレメント名の定義と予測の有効化

休暇付与名ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇付与]、[休暇付与名])。

全てのエレメントについて、名称とその基本パラメータをエレメント名共通ページで定義する必要があります。グローバル ペイロールでは、全てのエレメントのコンポーネントに、エレメント名共通ページ (GP_PIN) という共通ページが含まれています。

予測の有効化

定義している休暇付与エレメントが、休暇欠勤予測が有効になっている休暇休暇取得エレメントにリンクされる場合は、休暇付与名ページ下部にある [予測] リンクをクリックして予測ページにアクセスします。[予測使用] チェック ボックスをオンにします。

システム効率の低下を防ぐため、この機能は予測が必要とされる休暇取得エレメントまたは休暇付与エレメントに対してのみ使用してください。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

第 11 章、「休暇欠勤管理について」、休暇欠勤管理機能、 391 ページ

休暇付与数と計算方法の定義

"休暇付与" の計算ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバルペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇付与]、[計算])。

The screenshot displays the 'Calculation' page for defining vacation accruals. The page is divided into several sections:

- Header:** Includes tabs for 'Vacation Pay Name (E)', 'Calculation (C)', 'End Date Processing / Proportional Distribution', 'Automatic Accumulation (A)', and 'Support Element Upload'.
- Element Information:**
 - Element Name: KOWAE SICK
 - Status: Sick
 - Owner: PS 非管理
- Definition Section:**
 - *有効日 (Effective Date): 1990/01/01
 - *ステータス (Status): アクティブ (Active)
 - *休暇付与タイプ (Vacation Pay Type): フォーミュラ (Formula)
 - 休暇付与エレメント (Vacation Pay Element): KOWFM SICK ENTITL
- 周期の設定 (Period Setting):**
 - Calculation Period: ☐ 休暇欠勤発生毎に計算 (Calculate per vacation accrual occurrence), ☐ 支給期間毎に計算 (Calculate per payment period), ☒ その他の周期毎に計算 (Calculate per other period).
 - *周期 ID (Period ID): M 月次 (Monthly)
 - 休暇付与ジェネレーション コントロール エレメント (Vacation Pay Generation Control Element):
- 調整と補償 (Adjustment and Compensation):**
 - 調整タイプ (Adjustment Type):
 - 補償タイプ (Compensation Type):
- バージョン (Version):** P_8.90.00.00

"休暇付与" - 計算ページ

休暇付与タイプ

休暇付与数の変換に使用するエレメントのタイプを選択します。有効なオプションは、[累計]、[ブラケット]、[フォーミュラ]、[受給者レベル]、[システム エレメント]、[変数] です。

[受給者レベル] を選択する場合、休暇付与エレメントは、休暇付与/取得割当ページで受給者に割り当てられている場合にのみ変換されます。

休暇付与エレメント

[休暇付与タイプ] フィールドで [数値] 以外の値を選択した場合は、休暇付与を計算するエレメントの名前を選択します。

休暇付与ユニット

[休暇付与タイプ] フィールドで [数値] を選択した場合、このフィールドにはユニット数を入力します。

周期の設定

このグループ ボックスに表示されるフィールドは、選択する周期オプションに応じて変化します。

休暇欠勤発生毎に計算

休暇欠勤が発生したときにのみ休暇付与を行う場合、たとえば、それぞれの病気ごとに 42 日の休暇を受給者に付与する場合などに選択します。月次、年次などの通常周期で付与を行う場合には選択しないでください。

支給期間毎に計算

周期ベースの休暇付与で、支給期間ごとに休暇を付与する場合、このオプションを選択します。

その他の周期毎に計算、周期 ID 休暇付与が周期ベースであり、[周期 ID] フィールドで指定する周期で付与する場合に選択します。周期には、"年次"、"日次"、"週次"、"月次"、"四半期毎"、"半月毎" などがあります。

注意: 周期の値は、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理で定義します。

システムでは、周期を使って各支給期間ごとに発生する休暇付与数を決定します。たとえば、受給者に 1 日の休暇付与が "月次" で発生する場合、1 (日) × 12 か月で年次化 (1 年間の休暇付与の計算) を行います。付与数の非年次化には、休暇欠勤実行のカレンダー期間を使います。受給者の休暇欠勤が週単位で実行される場合は、休暇欠勤実行ごとに発生する休暇付与数を 12/52 で計算します。このため、受給者には 12/52 日、つまり 0.23 日の疾病休暇が支給期間ごとに発生します。

支給期間以外の周期を使用して休暇付与の非年次化を行う場合は、[休暇付与ジェネレーション コントロール エレメント] フィールドでジェネレーション コントロールの周期を選択します。

休暇欠勤毎フォーミュラ エレメント このフィールドは、[休暇欠勤発生毎に計算] を選択した場合にのみ表示されます。フォーミュラ エレメントを選択します。休暇取得プロセスを実行すると、日数計算フォーミュラ (日数計算フォーミュラ ページで定義) が変換され、休暇欠勤日が評価されて休暇付与残数が必要かどうか判別されます。残数が必要な場合、休暇欠勤毎フォーミュラ エレメントが変換されます。

条件が満たされると (フォーミュラが 0 (ゼロ) 以外の値を返すと)、休暇取得プロセスで休暇付与が行われます。条件が満たされない場合は、既存の休暇付与残数が使われます。

この休暇付与に関連付けられている休暇取得エレメントに最低支給期間、資格取得期間、または有給待機期間が指定されている場合、休暇欠勤毎フォーミュラはこれらの期間を満たした後でのみ実行されます。

**休暇付与ジェネレーション
コントロール エレメント**

給与付与エレメントの変換時の条件を制限するためにジェネレーション コントロール エレメントを選択します。このフィールドは、[支給期間毎に計算] または [その他の周期毎に計算] を選択すると表示されます。

たとえば、ジェネレーション コントロールを使ってエレメントの変換をアクティブな受給者に限定して行うことができます。周期ベースの休暇付与を定義している場合は、[その他の周期毎に計算] を選択すれば、ジェネレーション コントロール周期エレメントを選択できます。この場合、システムでは支給カレンダーの周期ではなく、ジェネレーション コントロール エレメントで定義された周期を使って、休暇付与数の非年次化や休暇付与の変換時期の決定が行われます。

調整と補償

周期ベースの休暇付与について、特定のイベントが発生したときに、受給者の休暇付与残数の全部または一部を自動的に減らす、または補償するように指定できます。ジェネレーション コントロールを使って、調整が発生する時期を定義します。

調整タイプ

休暇付与残数に加算または減算するユニット数を返すサポート エレメントのタイプを選択します。システムでは、返されたユニット数が休暇付与残数に **"加算"** されるため、残数から差し引く場合はエレメントが負の数を返す必要があります。[累計]、[ブラケット]、[フォーミュラ]、[システム エレメント]、[変数] のエレメント タイプから選択します。

調整エレメント

調整ユニットを返すサポート エレメントの名前を選択します。

たとえば、受給者は 3 か月前までの未使用休暇を翌年へ繰り越す資格があり、その期間を過ぎると未使用の休暇付与は全て失われるとします。ここで、3 月 31 日時点で受給者に前期から繰り越した未使用の休暇が 3 日あるとします。このフィールドで選択したエレメントにより、-3 の値が返されます。

**調整ジェネレーション
コントロール エレメント**

[調整タイプ] フィールドを入力した場合、このフィールドは必須フィールドです。調整が発生する時期を指定するジェネレーション コントロール エレメントを指定します。

補償タイプ	無効になるユニットの全てまたは一部を受給者に補償するために使用します。補償されるユニット数を返すサポート エレメントを選択します。有効なオプションは、[累計]、[ブラケット]、[フォーミュラ]、[システム エレメント]、[変数] です。
補償エレメント	補償するユニットを返すサポート エレメントの名前を選択します。
補償支給	[補償エレメント] フィールドの入力が終わったら、補償ユニットと関連付ける支給エレメントを選択します。休暇取得プロセスを実行するとき、現在のカレンダーに指定されたターゲット カレンダーにポジティブ入力を作成されます。

休暇付与の繰り越し

新しい累計期間の始めに新しい累計が作成されるとき、前回の累計の値は PREV VALUE ACCM というシステム エレメントに割り当てられます。休暇付与残数を新しい累計期間に繰り越す場合、初期化フォーミュラを "累計" の期間ページで作成して、この PREV VALUE ACCM から前回の値を取得してフォーミュラに割り当てます。次に、メンバー ページでこのフォーミュラ エレメントを累計のエレメント メンバー リストに追加 ([累計指示] で **[加算]** を選択) します。これにより、PREV VALUE ACCM の値はフォーミュラに割り当てられ、残数累計に加算されます。前年度の残数を全て、または任意の数だけ新しい累計に加算できます。

関連項目:

第 7 章、「計算エレメントの定義」、ジェネレーション コントロール周期の定義、 267 ページ

第 7 章、「計算エレメントの定義」、ジェネレーション コントロール エレメントの定義、 256 ページ

第 10 章、「累計の設定」、累計期間およびタイミング情報の定義、 371 ページ

端数処理および比例配分の定義

"休暇付与" の端数処理/比例配分ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇付与]、[端数処理/比例配分])。

休暇付与名(E)

計算(C)

端数処理/比例配分

自動作成累計(A)

サポート エLEMENT 上書き

ELEMENT名:

KOWAE SICK

Sick

所有者:

PS 非管理

端数処理/比例配分 オプションの指定

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

*端数処理ルール オプション:

支給グループの端数処理使用

端数処理ルール ELEMENT:

*比例配分オプション:

指定の比例配分ルール

比例配分ELEMENT:

KOWPO SICK HOURS

"休暇付与" - 端数処理/比例配分ページ

期間の分割がある場合に、休暇付与ユニットの端数処理や比例配分を行うようにシステムを設定できます。比例配分は周期ベースの休暇付与に限り適用されます。端数処理ルールと比例配分ルールの両方を選択した場合、休暇付与ユニットは比例配分されてから端数処理されます。調整ユニットと補償ユニットに対しては、端数処理または比例配分は行われません。

端数処理ルール オプション 休暇付与ユニットを端数処理する場合、[端数処理ルール オプション] フィールドで次のいずれかの値を選択し、端数処理ルールを指定します。

[支給グループの端数処理使用]: 受給者の支給グループに定義された端数処理ルールが適用されます。

[指定の端数処理使用]: [端数処理ルール ELEMENT] フィールドで選択する端数処理ルールが適用されます。

比例配分オプション、比例配分ELEMENT これらのフィールドは、周期ベースの休暇付与に限り適用されます。支給期間が分割されている場合に付与ユニットを比例配分するには、比例配分ルールを下の値から選択します。

[支給グループの比例配分ルール]: 受給者の支給グループに定義された比例配分ルールが適用されます。

[指定の比例配分ルール]: [比例配分ELEMENT] フィールドで選択する比例配分ルールが適用されます。

注意: PRORATE システム ELEMENTを使用すると、分割が行われていない場合でも休暇付与ELEMENTを比例配分できます。PRORATE の値を Y (Yes) または N (No) に設定し、比例配分をアクティブまたは非アクティブに切り替えます。たとえば、休暇付与ELEMENTの処理を開始する前に PRORATE を Y に設定するフォーミュラを作成することも可能です。処理が終わった後に、PRORATE システム ELEMENT を N に再度設定し直します。

関連項目:

第 7 章、「計算エレメントの定義」、端数処理ルール エレメントの定義、 240 ページ

第 7 章、「計算エレメントの定義」、比例配分ルールの定義、 251 ページ

自動作成累計のルールの定義

"休暇付与" の自動作成累計ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇付与]、[自動作成累計])。

休暇付与名(E)		計算(C)		端数処理/比例配分		自動作成累計(A)		サポート エレメント上書き	
エレメント名:		KOWAE SICK		Sick		所有者:		PS 非管理	
累計レベル									
<input type="radio"/> 受給者 (従業員 ID) <input checked="" type="radio"/> 職務 (従業員 ID/雇用レポート番号)									
ユーザー キー タイプ* 1:	システム エレメント			キー エレメント 1:	COMPANY				
ユーザー キー タイプ* 2:	システム エレメント			キー エレメント 2:	PAY ENTITY				
ユーザー キー タイプ* 3:	システム エレメント			キー エレメント 3:	GP PAYGROUP				
ユーザー キー タイプ* 4:				キー エレメント 4:					
ユーザー キー タイプ* 5:				キー エレメント 5:					
ユーザー キー タイプ* 6:				キー エレメント 6:					
累計基準					変換のタイミング				
*基準:					期間終了日				
					休暇付与累計は、累計メンバーである休暇付与エレメントが変換されるたびに更新されます。				
					適応処理				
					休暇付与累計には、常に訂正適応方法が使用されます。				
移動: 累計期間... 作成済エレメント表示									

"休暇付与" - 自動作成累計

このページのフィールドは、累計コンポーネントの定義ページにあるフィールドと同一のものです。ここでは、休暇付与エレメントに特有の設定についてのみ説明します。

レベル

ユーザー キー タイプ 1 ~ ユーザー キー タイプ 6、キー エレメント 1 ~ キー エレメント 6 ユーザーが元の開始日が同じ休暇欠勤イベントを複数入力したとき、その休暇取得エレメントを関連付けて 1 つの休暇欠勤ごとの休暇付与残数を共有する場合、ユーザー キーを選択して次のように設定できます。

ユーザー キーの 1 つに [システム エレメント] を選択し、対応するキー エレメントのフィールドで ORIG BEGIN DATE (元の開始日) を選択します。"<エレメント名> の累計期間" ページの [期間] フィールドで **[カスタム期間]** を選択します。[日付] フィールドで **[システム エレメント - 日付]** を選択し、[開始日エレメント] フィールドで **ORIG BEGIN DATE** を選択します。

このようにすると、同じ休暇取得エレメントで休暇欠勤イベントを 2 つ入力し、両方のイベントで元の開始日が同じ場合、2 番目のイベントでは最初のイベントの休暇付与残数が使われます。

変換のタイミング

[変換のタイミング] には、休暇付与残数累計が変換される時期が表示されます。オンライン メッセージが示すように、累計に含まれるエレメントがそれぞれ変換されるときに、累計自体も更新されます。この累計は更新される休暇欠勤プロセス リストに含める必要はありません。

遡及処理

[遡及処理] には、遡及処理時の累計の更新方法が表示されます。休暇欠勤累計では常に訂正遡及方法が使用されます。累計の値は、遡及処理でそのメンバー エレメントに対し新しく算出された値で、更新されます。

関連項目:

第 10 章、「累計の設定」、累計キーの指定、378 ページ

累計期間の開始日と長さの定義

"休暇付与" の "<エレメント名> の累計期間" ページにアクセスします (自動作成累計ページの [累計期間 ...] リンクをクリックします)。

休暇付与

エLEMENT KOWAE SICK (Sick) の累計期間

累計期間

*期間:

年間

*開始オプション:

指定日

*開始月オプション:

月

*開始月の値:

01

1 月

*開始日オプション:

数値

*開始日の値:

1

自動作成累計

☒ 残数

これらのインジケータを使用して、定義している休暇付与エLEMENTの残数が自動作成されます。

☒ 休暇付与

パフォーマンスとデータ量の点から、これらの累計の使用を最小にしておくことを強く推奨します。

☒ 調整

☒ 休暇取得

休暇付与 - <エLEMENT名> の累計期間

累計期間

期間

累計を追跡管理する期間を選択します。選択したオプションによって、表示されるフィールドが変化します。オプションは、以下のとおりです。

カレンダー期間

[カスタム期間]: このオプションを選択した場合は、[日付] フィールドで値を選択します。

[月間]: このオプションを選択した場合は、[開始オプション] フィールドと [開始日オプション] フィールドで値を選択します。

[四半期]: このオプションを選択した場合は、[開始オプション] フィールド、[開始月オプション] フィールド、および [開始日オプション] フィールドで値を選択します。

セグメント

[年間]: このオプションを選択した場合は、[開始オプション] フィールド、[開始月オプション] フィールド、および [開始日オプション] フィールドで値を選択します。

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

429

日付、開始日、開始日エレメント [期間] フィールドで [カスタム期間] を選択した場合、累計期間の開始日を指定するサポート エレメントのタイプを選択します。選択できるのは、[ブラケット - 日付]、[カレンダー日付]、[日付]、[フォーミュラ - 日付]、[システム エレメント - 日付]、[変数 - 日付] です。

([カレンダー日付] を選択すると、特定の日付を選択できます。[日付] を選択すると**日付**エレメントを使用できます。)

[開始日エレメント] フィールドで、日付を定義するエレメント名を選択します。最初のフィールドで [カレンダー日付] を選択した場合は、日付を選択します。

開始オプション

[期間] フィールドで [四半期] または [年間] を選択した場合、累計期間の開始日を定義するサポート エレメントのタイプを選択します。オプションは、以下のとおりです。

[指定日]:[開始月オプション] フィールドと [開始日オプション] フィールドで値を選択することで、指定した日付から累計期間が始まります。

[支給元のカレンダーを使用]: 支給元に対して定義されたカレンダーの開始日と同じ日から累計期間が始まります。

[支給元の会計年度を使用]: 支給元に対して定義された会計年度の開始日と同じ日から累計期間が始まります。

支給元のカレンダーと会計年度は、"支給元" の処理詳細ページで定義します。

開始月オプション

このフィールドは、[四半期] または [年間] を選択した場合にのみ表示されます。累計期間を開始する月を選択します。

開始日オプション

このフィールドは、[月間]、[四半期]、または [年間] を選択した場合にのみ表示されます。累計期間を開始する月の日にちを選択します。

警告: 休暇付与プロセスまたは休暇取得プロセスを実行した後、開始月または開始日を変更すると、累計結果が変わるおそれがあります。

自動作成累計

累計が作成されるときに、それぞれの累計の名前にサフィックスが自動的に付加され、その累計が表すもの (残数、休暇付与、調整、休暇取得) を識別できます。たとえば、VACATION という休暇付与エレメントには、VACATION_BAL、VACATION_TAKE などの累計があります。

残数

デフォルトでオンになっており、受給者に発生した未使用の休暇付与ユニットを追跡管理できるように残数累計が常に作成されます。残数累計が作成されるときに、休暇付与残数累計に算入される 2 つのシステム割り当てエレメント、つまり調整ユニットと取得ユニットも作成されます。

休暇付与

このチェック ボックスをオンにすると、累計期間中に受給者に発生する休暇付与ユニットの合計数 (使用したものも含む) を追跡管理する別の累計が作成されます。

調整

このチェック ボックスをオンにすると、システムにより自動的に割り当てられる調整ユニット エレメント用に、別の累計が作成されます。この累計で全ての調整 (手動/自動調整を含む) を追跡管理します。

休暇取得

このチェック ボックスをオンにすると、システムにより自動的に割り当てられる取得ユニット エレメント用に、別の累計が作成されます。この累計で、累計期間中、受給者が使った休暇付与ユニットの合計数を追跡管理します。

自動作成累計の表示

"休暇付与" の "<エレメント名> の作成済エレメント" ページにアクセスします (自動作成累計ページの [作成済エレメント表示] リンクをクリックします)。

休暇付与

調整ELEMENT:

KOWAE SICK_UNAD

支給UNIT ELEMENT:

KOWAE SICK_UNP

自動作成累計

累計タイプ

カレンダー年間累計UNIT

KOWAE SICK_BAL

カレンダー年間累計UNIT

KOWAE SICK_ENT

カレンダー年間累計UNIT

KOWAE SICK_ADJU

カレンダー年間累計UNIT

KOWAE SICK_TAKE

"休暇付与" - "<ELEMENT名> の作成済ELEMENT" ページ

休暇付与ELEMENTの定義を保存したら、自動作成累計のリストを表示できます。

休暇付与ELEMENTのサポート ELEMENT上書きの定義

"サポート ELEMENT上書き" ページを使って、ブラケット、日付、デューレーション、フォーミュラ、または付与ELEMENTに関連付けられた変数ELEMENTの値を上書きします。

関連項目:

第 18 章、「上書きの設定」、ELEMENT定義上書きの定義、690 ページ

休暇取得ELEMENTの定義

休暇取得コンポーネント (GP_ABS_TAKE) を使って、組織に必要な各タイプの休暇について休暇取得ELEMENTを作成します。たとえば、疾病、休暇、休職などに対する休暇の付与方法についてそれぞれのルールがある場合、それぞれについて休暇取得ELEMENTを個別に作成します。

このセクションでは、休暇取得ELEMENTについての概要と、以下の内容について説明します。

- 休暇取得ELEMENT名の指定と予測の設定の有効化
- 休暇取得ELEMENTの一般的な計算ルールの定義

- 日数計算フォーミュラ、関連支給エレメントと控除エレメント、およびその他の休暇取得エレメントの選択
- 休暇取得期間と休暇欠勤のリンクの定義
- 超過取得ルールの定義
- 休暇取得の優先度の定義
- 休暇欠勤予測ルールの定義
- 残数照会のルールの定義
- ユーザー定義結果フィールドの定義
- 休暇取得エレメントのサポート エレメント上書きの定義

休暇取得エレメントについて

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- マッピング
- 取得資格、最低休暇欠勤、および有給待機期間の基準
- 休暇取得のリンク
- ユーザー定義フィールドの日次データを上書きするシステム エレメント

マッピング

ユーザーは、ある休暇取得 (たとえば TAKE1) で休暇欠勤イベントを入力したときに、別の休暇取得エレメント (たとえば TAKE2) にも同一の休暇欠勤が作成されるようにシステムを設定できます。つまり、休暇取得プロセスを実行すると、TAKE2 の休暇欠勤データ (日次) テーブルにも TAKE1 に入力された同じデータを使用して、追加日数が作成されます。しかし、このとき休暇取得ルールには TAKE2 に定義されたものが使用されます。イベントをマッピングすることにより、1 つの休暇欠勤イベントに対して異なる休暇付与/取得ルールの組み合わせを使って変換ができます。

たとえば、法に定められた疾病プランのほかに、追加の疾病補助プランを設定したとします。病欠を入力すると受給者が両方のプランから給付を受け取るようにする場合、法定プランの休暇取得エレメント (SICK) を補足プランの休暇取得エレメント (SUPP SICK) にマップします。これで、ユーザーが SICK に対し休暇欠勤イベントを入力すると、SUPP SICK の追加の休暇欠勤日数も自動的に作成されるようになります。休暇取得プロセスが終了すると、これらの追加日数は休暇欠勤イベント レコード (GP_ABS_EVENT) ではなく、休暇欠勤データ (日次) テーブル (GP_RSLT_ABS) で参照できます。"休暇取得" の日数計算フォーミュラ ページでリンクされた休暇取得を定義します。

取得資格、最低休暇欠勤、および有給待機期間の基準

休暇取得エレメントを定義する際に、休暇欠勤の取得が認められるために必要な期間要件を 3 つまで選択することができます。

- 最低休暇欠勤

支給を認められるために最低限必要な休暇欠勤日数 (カレンダー日付) を定義します。休暇欠勤の日数が最低限必要とされる日数に達しなければ、休暇欠勤全体が無給になります。

- 資格取得

休暇欠勤の支給が認められる日付を指定します。

- 有給待機

休暇欠勤ごとに休暇発生までに必要な待機期間を指定します。この有給待機期間を満たした後に限り、休暇欠勤の支給が認められます。なお、有給待機期間を超過した日数しか有給になりません。相互に関連する休暇欠勤をリンクする場合、1 つの有給待機期間を全てのリンクされたイベントに適用するのか、イベントごとに設定されている有給待機期間をそれぞれ適用するのか指定できます。

休暇取得プロセスを実行すると、日数計算フォーミュラが変換され、各日が評価され、ここで説明した順序で期間条件が満たされているかが確認されます。最低支給期間が満たされていない場合、その日についてはそれ以上処理されず、日数計算フォーミュラから返された日数は無給日数と見なされます。最低休暇欠勤期間が満たされた場合、次は資格取得期間が満たされているかどうか、その次は有給待機期間が満たされているかどうか、というように順に確認されます。"休暇取得" の期間ページで取得資格、最低休暇欠勤、および有給待機期間の基準を定義します。

参照: 第 12 章、「休暇欠勤エレメントの定義」、休暇取得期間と休暇欠勤のリンクの定義、452 ページ。

休暇取得のリンク

定義された期間内で関連する休暇欠勤をリンクするように指定できます。同一の休暇欠勤が発生していて、それらが互いにリンクされているとき、休暇欠勤ごとの休暇付与または有給待機期間を共有することができます。"休暇取得" の期間ページで休暇欠勤のリンク条件を定義します。

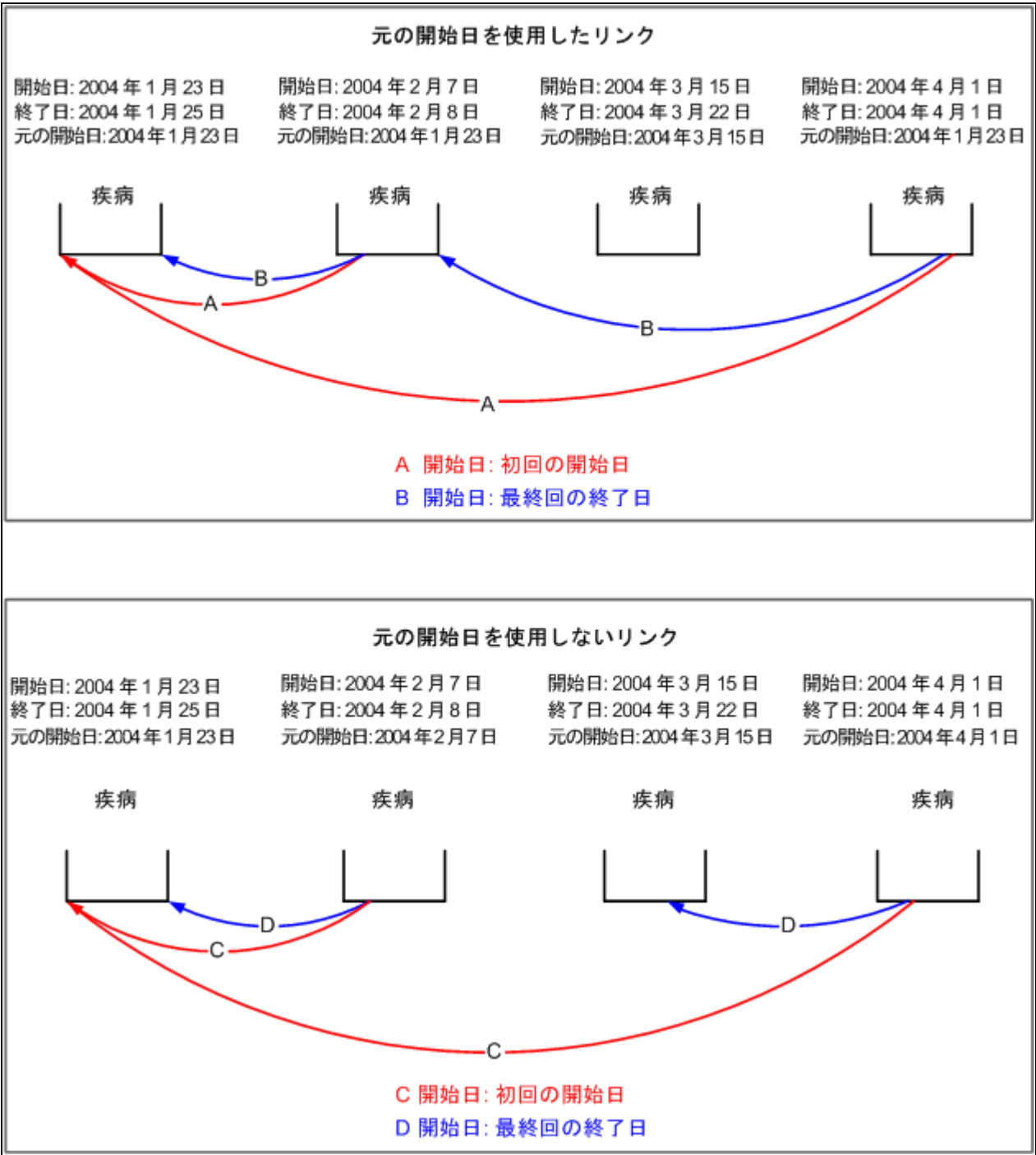
休暇取得プロセスを実行したとき、新しい休暇欠勤がリンクが可能な有効期間内にあるか判断されます。期間内にある場合は、新しいイベントに関連付けられている LINK YES-NO というシステム エLEMENT が YES に設定されます。休暇欠勤毎フォーミュラ エLEMENT ("休暇付与" の計算ページで選択) では、LINK YES-NO エLEMENT の値を参照して、休暇付与を変換するか、既存の休暇付与残数を使用するかが決定されます。

常に現在イベントの開始日と最後にこの条件に一致した休暇欠勤イベントが比較され、イベントがリンク期間内にあるかが判断されます。ユーザーは、どこまでの期間に含まれるイベントを一致イベントとして見なすのか、その条件を定義します。休暇イベント入力ページの [元の開始日] フィールドを使用して休暇欠勤のリンクを特定すると指定すると、同じ休暇欠勤タイプと元の開始日を持つ休暇欠勤エントリは 1 つの休暇欠勤期間として扱われます。

たとえば、受給者が足を骨折したため 1 月 23 日から 1 月 25 日まで欠勤し、そして 2 月 7 日から 2 月 8 日まで再度同じ理由で欠勤する場合、この表は休暇イベント入力ページの個人に関する休暇欠勤の入力方法を示しています。

休暇欠勤タイプ	休暇欠勤理由 (オンラインでは入力しません)	開始日	終了日	元の開始日
疾病	足の骨折	1 月 23 日	1 月 25 日	1 月 23 日
疾病	足の骨折の悪化	2 月 7 日	2 月 8 日	1 月 23 日

以下の図は、リンクがどのように行われるかの例を示します。



元の開始日を使用した/使用しない休暇欠勤のリンク

ユーザー定義フィールドの日次データを上書きするシステム エレメント

休暇欠勤イベント入力詳細ページのユーザー定義フィールド ([日付 1]、[日付 2]、[10 進数 1]、[10 進数 2] など) に入力された休暇欠勤データを上書きするため、最大で 16 のシステム エレメントを使用できます。取得プロセスを実行する際に、システム エレメントに割り当てられた値が休暇欠勤の結果テーブル (GP_RSLT_ABS) の日次データのユーザー入力値の位置に書き込まれます。システム エレメントを使用して、休暇欠勤イベントの日ごと、または選択した日のデータを上書きできます。

以下の表は、システム エレメント、休暇欠勤の結果テーブルで上書きされる対応するフィールド、および休暇欠勤イベント入力詳細ページのユーザー定義フィールドのラベルの一覧です。

システム エレメント	休暇欠勤の結果テーブルで上書きされるフィールド	休暇欠勤イベント入力詳細ページのフィールド ラベル
EVT CONFIGx DT UPD	EVT CONFIGx DT	[日付 1]、[日付 2]、[日付 3]、 [日付 4]
EVT CONFIGx DC UPD	EVT CONFIGx DC	[10 進数 1]、[10 進数 2]、[10 進数 3]、 [10 進数 4]
EVT CONFIGx CH UPD	EVT CONFIGx CH	[文字 1]、[文字 2]、[文字 3]、 [文字 4]
EVT CONFIGx MN UPD	EVT CONFIGx MN	[金額 1]、[金額 2]、[金額 3]、 [金額 4]

ここでは、x = 1、2、3、または 4

たとえば、ユーザーが休暇欠勤イベント入力詳細ページの [金額 1] フィールド (EVT CONFIG1 DC) の値として 100 USD を入力したとします。EVT CONFIG1 DC UPD システム エレメントを使用して、システムに休暇欠勤イベントの初日について 150 USD を結果テーブルに書き込ませることができます。さらに、イベントの残りの日数についてはユーザーが入力した値を使用します。

システム エレメントを使用するには、次の作業を行います。

- ユーザー定義フィールドを上書きできるかどうかを指定します。
"休暇取得" のユーザー定義フィールド ページでこれらのフィールドを選択します。
- 値をシステム エレメントに割り当てるための条件を定義するフォーミュラまたはルールを使用します。

関連項目:

第 12 章、「休暇欠勤エレメントの定義」、休暇取得期間と休暇欠勤のリンクの定義、 452 ページ

第 12 章、「休暇欠勤エレメントの定義」、ユーザー定義結果フィールドの定義、 463 ページ

休暇取得エレメントの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
休暇取得名	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇取得]、[休暇取得名]	エレメントに名前を付け、基本パラメータを定義します。
休暇取得 - <エレメント名> の予測	GP_FORECAST_SEC	休暇取得名ページの [予測] リンクをクリックします。	"休暇取得" の予測ページで入力する予測ルールを有効にします。
休暇取得 - 計算	GP_RSLT_ADM_ABS	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇取得]、[計算]	休暇取得エレメントの一般的な計算ルールの定義、休暇欠勤タイプの選択、休暇付与エレメントの関連付け、休暇欠勤イベントに管理者の承認が必要です。ユーザー定義フィールドも用意されています。
休暇取得 - 日数計算 フォーミュラ	GP_ABS_TAKE2	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇取得]、[日数計算フォーミュラ]	日数をカウントするための日数計算フォーミュラ、リンクさせる支給エレメントや控除エレメント、開始残数からの日数差引の条件、マップ先の取得エレメントを指定します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
休暇取得 - 期間	GP_ABS_TAKE3	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇取得]、[期間]	取得資格、最低休暇欠勤、有給待機などの要件を定義します。関連休暇欠勤への関連付けも行います。
休暇取得 - 超過取得	GP_ABS_TAKE4	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇取得]、[超過取得]	超過取得ルール (休暇付与残数が欠勤数に対し不足している場合の対処方法) を定義します。
休暇取得 - 優先度	GP_ABS_TAKE5	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇取得]、[優先度]	同じ受給者に対し、同一日に複数の休暇欠勤を入力できるかどうかを指定します。同一日に 1 つの休暇欠勤タイプしか入力できない場合には、休暇欠勤取得に対し優先順位を割り当てます。
休暇取得 - 予測	GP_ABS_TAKE6	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇取得]、[予測]	休暇欠勤予測に使用するフォーミュラ、休暇欠勤予測プロセスに表示されるエレメント リストを指定します。
休暇取得 - 残数照会	GP_ABS_TAKE7	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇取得]、[残数照会]	残数照会プロセスに表示されるエレメント リストを表示します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
休暇取得 - ユーザー定義 フィールド	GP_ABS_TAKE8	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇取得]、[ユーザー定義フィールド]	処理中にシステム エレメントが上書きできるユーザー定義フィールドを選択します。
サポート エレメント上書き	GP_ELM_DFN_SOVR	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇取得]、[サポート エレメント上書き]	休暇取得エレメントの定義に使用されるブラケット、日付、デュレーション、フォーミュラ、変数の各エレメントの値を上書きします。

休暇取得エレメント名の指定および予測の設定の有効化

休暇取得名ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇取得]、[休暇取得名])。

休暇取得名	計算	日数計算フォーミュラ	期間	超過取得	優先度	予測	残数照会	ユーザー定義フィールド	サポート エレメント上書き
*エレメント名:	KOATSICK			エレメント タイプ:	休暇取得				
*名称:	Long Term Sickness			*フィールド フォーマット:	(無効な値)				
*定義の指定日:	カレンダー期間終了日			エレメント番号:	2224	<input checked="" type="checkbox"/> 常時再計算			
エレメント使用					上書きレベル				
*所有者:	PS 配布/管理なし			<input type="checkbox"/> 支給元	<input type="checkbox"/> エレメント使用				
*クラス:	サンプル データ			<input type="checkbox"/> 支給グループ	<input type="checkbox"/> エレメント定義				
*使用先:	全ての国			<input type="checkbox"/> 受給者	<input type="checkbox"/> ボンティフ入力				
国:	ALL			<input type="checkbox"/> カレンダー					
産業/地域:	<input type="text"/>			結果					
カテゴリ:	<input type="text"/>			<input checked="" type="checkbox"/> 保存					
					<input checked="" type="checkbox"/> セミのとき保存				
変換パラメータ					バージョン情報				
このエレメント タイプには変換パラメータはありません。					最終更新日時: 06/08/29 15:11:08.000000				
					最終更新者: PPLSOFT				
					ユーザー バージョン: <input type="text"/>				
					バージョン: P_9.00.00				
カスタム フィールド コメント 予測									

休暇取得名ページ

全てのエレメントについて、名称とその基本パラメータをエレメント名共通ページで定義する必要があります。グローバル ペイロールでは、全てのエレメントのコンポーネントに、エレメント名共通ページ (GP_PIN) という共通ページが含まれています。

予測の設定の有効化

"休暇取得" の予測ページで休暇取得エレメントの予測ルールを定義する前に、休暇取得エレメントで予測を有効にしておく必要があります。これを行うには、休暇取得名ページの下部にある [予測] リンクをクリックして、"休暇取得" の予測ページにアクセスします。[予測使用] チェックボックスをオンにします。ユーザーが休暇イベント入力ページで休暇欠勤を入力する前に予測プロセスを実行する必要がある場合は、[予測必須] チェックボックスをオンにします。

システム効率の低下を防ぐため、この機能は予測が必要とされる休暇取得エレメントに対してのみ有効にしてください。

関連項目:

[第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ](#)

[第 11 章、「休暇欠勤管理について」、休暇欠勤管理機能、 391 ページ](#)

休暇取得ELEMENTの一般的な計算ルールの定義

"休暇取得" の計算ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバルペイロール/休暇欠勤管理]、[ELEMENT]、[休暇欠勤ELEMENT]、[休暇取得]、[計算])。

休暇取得名: KOATSICK Long Term Sickness 所有者: PS 非管理

定義 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

*有効日: 1990/01/01 *ステータス: アクティブ

*休暇欠勤タイプ: SCK 疾病

☐ 管理者の承認が必要 ☒ 複数インスタンス

休暇付与メンバーリスト 加減サイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

優先度	休暇付与ELEMENT	名称	休暇欠勤毎
1	KOAE SCK 100	Sickness 100	<input checked="" type="checkbox"/>

ユーザー定義フィールド

フィールド 1: SCK フィールド 2:

フィールド 3: フィールド 4:

バージョン: 8.00.00.00

"休暇取得" - 計算ページ

休暇欠勤タイプ

休暇欠勤タイプを選択します。休暇欠勤タイプは休暇欠勤タイプページで定義します。

管理者の承認が必要

この休暇取得に関連する全ての休暇欠勤を管理者が承認する必要がある場合、このチェック ボックスをオンにします。ユーザーが休暇欠勤を入力するときは、誰かが休暇欠勤イベント入力詳細ページで [管理者承認要] チェック ボックスをオンにしておく必要があります。オンにしないと、休暇取得プロセスを実行したときにイベントが処理されません。このチェック ボックスをオンにしたユーザーが管理者かどうかは確認されません。

注意: このフィールドは、セルフサービス ページで入力された休暇欠勤リクエストには適用されません。セルフサービス設定ページのフィールドによって、これらのリクエストの承認要件がコントロールされます。

複数インスタンス

このチェック ボックスをオンにすると、支給エレメントまたは控除エレメント (この休暇取得エレメントに関連付けられている) のために作成されたポジティブ入力のインスタンスについて個別のバンドルが作成されます。

たとえば、1 月の処理期間で受給者に次のような 2 回の疾病があるとします。

- イベント 1: 1 月 1 日～ 2 日
- イベント 2: 1 月 20 日～ 22 日

[複数インスタンス] がオンにされている場合、イベント 1 についてポジティブ入力が 1 行、イベント 2 についてポジティブ入力が 1 行作成され、給与明細に 2 つのイベントを分けてレポートできます。

休暇欠勤開始日と休暇欠勤期間開始日は、このチェックボックスをオンにするとロードされます。これらの開始日が支給プロセスのルールや控除プロセスのルールにとって必要なものである場合、このチェック ボックスをオンにします。

チェック ボックスがオフの場合、この期間において、この休暇取得で発生した全ての休暇欠勤イベントのポジティブ入力がまとめられます。1 行のポジティブ入力行に、全ての休暇イベントのポジティブ入力がまとめられます。

休暇付与メンバー リスト

[休暇付与メンバー リスト] グループ ボックスを使って休暇取得エレメントに 1 つ以上の休暇付与エレメントを関連付けます。休暇取得プロセスを実行したときに、指定した順序で休暇付与残数が差し引かれます。たとえば、休暇の休暇取得を変形休日の休暇付与、休暇の休暇付与の順序で関連付けた場合、変形休日はその休暇付与残数がなくなるまで使われ、その後、休暇の休暇付与残数から差し引かれます。

休暇付与メンバーリストに追加する全ての休暇付与エレメントが、休暇欠勤ごとの休暇付与か、周期ベースの休暇付与のどちらかに統一されている必要があります。リストに追加した最初のエレメントによって、次の行に追加できる休暇付与エレメントの選択が限定されます。

優先度

最大 3 桁で入力し、休暇取得が適用される休暇付与エレメントの順序を指定します。

休暇付与エレメント

休暇取得エレメントに関連付ける休暇付与エレメントを選択します。

休暇付与エレメントの行を既に追加している場合、"休暇付与" の計算ページで [周期の設定] オプションが選択されているかどうかによって、次に入力できるエレメント タイプ (休暇欠勤ベースの休暇付与エレメントまたは周期ベースの休暇付与エレメント) が決まります。

休暇欠勤毎

休暇付与が休暇欠勤ベースである ("休暇付与" の計算ページで [休暇欠勤発生毎に計算] オプションが選択されている) 場合、システムはこのチェック ボックスをオンにします。最初の行で選択した値によって、追加の行で選択できる休暇付与エレメントのタイプが決まります。

ユーザー定義フィールド

休暇取得の定義に必要な情報を追加するのに使用できる 4 つのユーザー定義フィールドが用意されています。休暇取得プロセスを実行するときに、入力したデータがシステム エレメント TAKE CONFIG1 から TAKE CONFIG4 までにロードされます。

フィールド 1～フィールド 4 各フィールドに 10 文字までの英数字を入力します。

4

日数計算フォーミュラ、関連支給エレメントと控除エレメント、およびその他の休暇取得エレメントの選択

"休暇取得" の日数計算フォーミュラ ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇取得]、[日数計算フォーミュラ])。

休暇取得名		計算	日数計算フォーミュラ	期間	超過取得	優先度	予測	残数照会	ユーザー定義フィルタ	サポートエレメント上書き
エレメント名:		KOATSICK		Long Term Sickness		所有者:		PS 非管理		
定義 検索 全件表示 最初 1/1 最後										
有効日:		1990/01/01		ステータス:		アクティブ				
日数差引の開始										
差引フォーミュラ エレメント:		KOFM SICK TAKE								
*開始日タイプ:		日付		開始日:		KODT OFFSET START				
*終了日タイプ:		日付		終了日:		KODT OFFSET END				
マップ先エレメント:										
*日数計算フォーミュラ:		KOFM C SICK								
ホスピタリティ入力作成メンバー リスト カスタマイズ 検索 最初 1-2/2 最後										
ユニット		レート		パーセント		金額				
順序	エレメント タイプ	エレメント	ユニット エレメント タイプ	ユニット エレメント						
1	支給	KOWRKAC	システム エレメント	DAY COUNT					+ -	
2	支給	KOSICK1	システム エレメント	DAY COUNT PD					+ -	

"休暇取得" - 日数計算フォーミュラ ページ

日数差引の開始

休暇取得エレメントが休暇欠勤ごとの休暇付与に関連付けられている場合、開始時の休暇付与残数から差し引く条件を定義するフォーミュラを選択できます。休暇付与エレメントが変換される時(休暇付与判別フォーミュラが真の場合)に限り、[日数差引の開始]で指定したフォーミュラが実行されます。

受給者が過去に発生した関連する休暇欠勤について既に休暇付与を受け取っている場合に、この機能を使って休暇付与の残数を差し引くことができます。たとえば、日数差引の開始フォーミュラを使って疾病の休暇付与数から過去 12 か月間に使われた日数を差し引くことができます。

差引フォーミュラ エレメント

実行するフォーミュラを選択します。[開始日] フィールドと [終了日] フィールドで定義した期間の各日についてフォーミュラが実行されますが、休暇付与エレメントが変換される場合に限りです。開始時の休暇付与残数から差し引かれるユニット数が返されます。

フォーミュラが実行されると、[開始日] フィールドと [終了日] フィールドで定義した期間の日ごとに休暇欠勤の日次データ行を 1 行ずつ繰り返し処理して、休暇取得エレメントごとに行単位でフォーミュラの値を求めます。

たとえば、フォーミュラにより、変数 SICK_PD_TAKEN に関連付けられた各行 (日) にユニット数が割り当てられるとします。この変数が休暇付与残数累計のメンバーで減算処理が指定されている場合、この変数が各日で変換され累計で使用されて開始時の休暇付与残数が減算されます。

どの休暇取得エレメントとイベントをシステムに認識させるかをフォーミュラで指定することが重要です。フォーミュラでは、休暇欠勤の日次データ行の全ての情報を参照できます。

開始日タイプ、終了日タイプ、開始日、終了日

フォーミュラが適用される期間の**開始日**または**終了日**を定義するエレメントのタイプを選択します。選択できるのは、[ブラケット - 日付]、[カレンダー日付]、[日付]、[フォーミュラ - 日付]、[システム エレメント - 日付]、[変数 - 日付] です。([カレンダー日付] を指定すると、特定の日付を選択できます。[日付] を指定すると**日付**エレメントを使用できます。)

[開始日] フィールドおよび [終了日] フィールドで、日付を定義するエレメント名を選択します。ただし、[カレンダー日付] を選択した場合は、このフィールドで日付を選択します。

イベントのマッピング

マップ先エレメント

このエレメントで休暇取得を作成すると同時に、別の休暇取得エレメントでも休暇取得を作成する場合、そのマップ先のエレメントの名前を選択します。

休暇取得プロセスでは、エレメントを変換するとき、処理されている現在日付で重複する休暇欠勤日次データ行が挿入されますが、休暇取得エレメントと休暇取得のユーザー定義フィールドが変更されます。

重要: マップされた休暇取得エレメントを休暇取得プロセス リストに追加する順序が重要です。このフィールドで選択するエレメントはソース エレメントの後に処理されます。ソース エレメントが最初に処理されないと、マップ先の休暇取得エレメントも変換されません。

判別エレメント

[マップ先エレメント] フィールドに値を入力すると、休暇欠勤イベントの各日について実行される判別フォーミュラを選択して、マップ先のエレメントに同じ内容のエントリを作成するか判別できます。

フォーミュラから 0 (ゼロ) 以外の値が返されるか、このフィールドを空白のままにすると、同じ内容の行が作成されます。

日数計算フォーミュラ

休暇欠勤イベントの各日を評価するのに使用するフォーミュラ エレメントを選択します。このフォーミュラは、休暇付与残数と比較する休暇欠勤日のユニットを返します。休暇取得プロセスでは休暇取得ルール、開始時の残数、休暇欠勤ユニットを使って、給与計算に渡す有給/無給ユニットの数を計算します。

日数計算フォーミュラでは、プランで要求される方法で休暇欠勤の各日が評価されます。たとえば、受給者の予定勤務時間が 8 時間にもかかわらず 3 時間しか勤務しなかった場合、日数計算フォーミュラを使って、これが全日、半日、0 (ゼロ) 日、5/8 日のうち、どの休暇欠勤になるか判別されます。

たとえば、日数計算フォーミュラが次のような内容だとします。

```
IF SCHED_HRS > 0  
THEN 1 ->> WRK_DAY  
ELSE 0 ->> WRK_DAY  
END IF
```

受給者が 2 月 1 日から 5 日まで休暇を取るとします。

水曜日 2 月 1 日 8 時間

木曜日 2 月 2 日 8 時間

金曜日 2 月 3 日 8 時間

土曜日 2 月 4 日 0 時間

日曜日 2 月 5 日 0 時間

日数計算フォーミュラでは各日が評価されます。2 月 1 日进行处理すると、システム エレメント SCHED HRS がロードされ、日数計算フォーミュラ WRK DAY は 1 に変換されます。2 月 4 日は受給者に勤務が予定されていません。SCHED HRS に 0 (ゼロ) がロードされ、WRK DAY は 0 に変換されます。

ポジティブ入力作成メンバー リスト

休暇取得プロセスで、計算ルールがユニット × レート、またはユニット × レート × パーセントの支給エレメントと控除エレメントにポジティブ入力を作成する場合には、このグループ ボックスのフィールドに値を指定します。計算ルールと比較するためのユニット値を返すサポート エレメントを指定します。パーセント、レート、金額を返すサポート エレメントを指定することもできます。

共通ページ情報

順序

休暇取得プロセスでこの休暇取得処理を毎日実行するときに、支給または控除エレメントのポジティブ入力を作成する順序を最大 3 桁の整数で指定します。番号が小さいエレメントから先に処理されます。

順序は、エレメント間に依存関係がある場合に限り重要です。たとえば、支給 1 で作成されたデータが支給 2 の変換に必要な場合、支給 1 の順番を先に設定しておく必要があります。

エレメント タイプ

休暇取得プロセスを実行したときにポジティブ入力を作成されるエレメントのタイプを選択します。[控除] または [支給] のどちらかを選択します。

エレメント

ポジティブ入力を作成される支給または控除エレメントの名前を選択します。

"レート×ユニット" または "レート×ユニット×パーセント" の計算ルールを持つ支給および控除のエレメントだけが選択できます。

ユニット

ユニット エレメント タイプ 支給または控除に関連付けられる有給/無給ユニットの値を返すサポート エレメントのタイプを選択します。選択できるエレメントのタイプは、[累計]、[ブラケット]、[フォーミュラ]、[システム エレメント]、[変数] です。

たとえば、日数計算フォーミュラで有給ユニット数を返す場合、DAY COUNT PD というシステム エレメントを選択します。また、無給ユニット数を返すには、DAY COUNT UNPD というシステム エレメントを選択します。

日数計算フォーミュラから返されるユニット数を、たとえば日数から時間数に換算するには、次のシステム エレメントを使うフォーミュラ エレメントを使用します。

- DAY COUNT (日数計算フォーミュラの結果)
- DAY COUNT PD (日数計算フォーミュラの有給日数)
- DAY COUNT UNPD (日数計算フォーミュラの無給日数)
- SCHED HRS (受給者の予定勤務時間)

注意: 休暇取得エレメントに休暇付与エレメントが関連付けられていない場合、有給/無給のエレメントは作成されません。DAY COUNT を使用する必要があります。

ユニット エレメント

支給または控除に関連付けられたユニットを返すサポート エレメントの名前を選択します。

レート

[レート] タブをクリックします。

- レート エレメント タイプ** レート コンポーネントの値を返すサポート エレメントのタイプを選択します。選択できるタイプは、[ブラケット]、[フォーミュラ]、[システム エレメント]、[変数] です。
- 休暇取得プロセスでは、入力した指定が各日で適用されます。そのため、レート コンポーネントの値が（たとえば休暇欠勤期間中に）変わった場合でも、その変更は該当する日付で正しく適用されます。
- たとえば、受給者が疾病時に 100 % の給与補償を受ける場合に、年功によりその補償割合が変更されたとします。この場合でも、システム エレメントを使うことによりポジティブ入力に対し、正しい変更後の値を取得できます。
- レート エレメント** エレメント タイプを選択してある場合、レート コンポーネントの値を返すサポート エレメントの名称を指定します。
- パーセント**
- [パーセント] タブをクリックします。
- パーセント エレメント タイプ** 支給または控除エレメントの計算ルールが "レート×ユニット×パーセント" と定義されている場合、パーセント コンポーネントの値を返すサポート エレメントを選択します。有効なオプションは、[ブラケット]、[フォーミュラ]、[システム エレメント]、[変数] です。
- 休暇取得プロセスでは、入力した指定が各日で適用されます。そのため、パーセント コンポーネントの値が（たとえば休暇欠勤期間中に）変更されても、その変更は該当する日付で正しく適用されます。
- たとえば、受給者が疾病の最初の 30 日について給与の 100 % を、それ以降は給与の 75 % を毎日受け取る場合でも、ブラケット エレメントにより、休暇欠勤の長さに応じて適切なパーセントの値が返されるため、正しい値を使用できます。
- パーセント エレメント** エレメント タイプを選択してある場合、パーセント コンポーネントの値を返すサポート エレメントの名称を指定します。

金額

[金額] タブをクリックします。

金額エレメント タイプ

支給または控除エレメントの金額コンポーネントの値を返すエレメントを選択します。

エレメントの計算ルールにあるそのほかのコンポーネントから返される値は、このコンポーネントからの値により全て上書きされます。レート コンポーネントやパーセント コンポーネントから値が返されるようにエレメントを選択できますが、実際の計算ではこれらの値は使用されなくなります。

有効なオプションは、[累計]、[ブラケット]、[フォーミュラ]、[システム エレメント]、[変数] です。

金額エレメント

金額コンポーネントの値を返すエレメントの名称を選択します。

関連項目:

第 15 章、「エレメント処理の定義」、545 ページ

休暇取得期間と休暇欠勤のリンクの定義

"休暇取得" の期間ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇取得]、[期間])。

休暇取得名		計算	日数計算フォーミュラ	期間	超過取得	優先度	予測	残数照会	ユーザー定義フィールド	サポートエレメント上書き
エレメント名:	KOATSICK	Long Term Sickness			所有者:		PS 非管理			
<div>定義 検索 全件表示 最初 1/1 最後</div> <div> <div>有効日: 1990/01/01</div> <div>ステータス: アクティブ</div> <div> <input type="checkbox"/> 資格取得 <div> *入力タイプ: カレンダー日 資格取得日付: </div> </div> <div> <input type="checkbox"/> 最低休暇欠勤 <div> *休暇欠勤期間タイプ: 数値 休暇欠勤の値: </div> </div> <div> <input checked="" type="checkbox"/> 有給待機 <div> *有給待機期間タイプ: 数値 *有給待機期間の値: 3.00 </div> </div> <div> <input type="checkbox"/> 休暇欠勤のリンク <div> <input type="checkbox"/> 元の開始日によるリンク カウント フォーミュラ: KOFM8 </div> </div> <div> <div> *開始: 最終回の終了日 *休暇欠勤間のデューレーション: 数値 デューレーションの値: </div> <div> *ユニット: 日数 </div> </div> </div>										

"休暇取得" - 期間ページ

対象

受給者が特定の日付以降に休暇取得を使用する資格を得られる場合には、[資格取得]、[入力タイプ]、および [日付エレメント] または [資格取得日付] の各フィールドに値を入力します。

資格取得

休暇取得の資格を得るために必要な期間を定義する場合にオンにします。

入力タイプ、 資格取得日付 [入力タイプ] フィールドで、資格取得日付を定義するサポート エレメントのタイプを選択します。休暇取得プロセスでは、資格取得日より前に取得された日数は無給ユニットとして処理されます。資格取得日以降に取得した休暇は、休暇付与残数の適用対象として認識されます。たとえば、資格取得日が 6 月 1 日の場合、6 月 1 日の休暇欠勤は有給扱いとなります。

有効なオプションは、[ブラケット]、[カレンダー日]、[日付]、[フォーミュラ]、[システム エレメント]、および [変数] です。[カレンダー日] を指定すると、特定の日付を選択できます。[日付] を指定すると日付エレメントを選択できます。

[資格取得日付] フィールドで、日付を定義するエレメント名を選択します。ただし、[入力タイプ] フィールドで [カレンダー日] を選択した場合は、適切な日付値を選択してください。

最低休暇欠勤

[最低休暇欠勤]、[休暇欠勤期間タイプ]、および [休暇欠勤の値] の各フィールドを使って、休暇欠勤が支給対象として認められるために最低必要な休暇欠勤の日数 (カレンダー日数) を指定します。休暇欠勤イベントが指定された最低期間を超えると、その休暇欠勤日数全てが支給対象として認められます。最低期間を超えなかった場合は、休暇欠勤日数全てが無給扱いとなります (最低期間を満たしているかを判断するときに、休暇欠勤のリンクは考慮されません。休暇欠勤のリンクについては、以下で説明します。)

システムは休暇欠勤の終了日を参照し、それがカレンダー期間内に含まれているかどうかにかかわらず、最低期間の条件が満たされているかを判断します。

最低休暇欠勤

休暇取得に必要な最低休暇欠勤ルールを定義する場合にオンにします。

休暇欠勤期間タイプ、休暇欠勤の値

[休暇欠勤期間タイプ] フィールドで、最低休暇欠勤期間を定義するサポート エレメントのタイプを選択します。期間はカレンダー日数で表します。有効なオプションは、[累計]、[ブラケット]、[デュレーション]、[フォーミュラ]、[数値]、[システム エレメント]、および [変数] です。

[休暇欠勤の値] フィールドで、エレメントの名前を選択します。ただし、最初のフィールドで [数値] を選択した場合は、このフィールドに 8 桁までの数値を入力します。

たとえば、4 日未満の休暇欠勤を無給とするルールの場合、最初のフィールドで [数値] を選択して、右側のフィールドに「4」と入力します。

有給待機

それぞれの休暇欠勤イベントが有給になるために、最低の有給待機期間を満たす必要がある場合、[有給待機]、[有給待機期間タイプ]、[有給待機期間の値]、および [カウント フォーミュラ] の各フィールドに値を入力します。最低の有給待機期間を満たしている場合、受給者には有給待機期間を超えた期間分だけ支給されます。

このページで有給待機を定義し、[休暇欠勤のリンク] チェック ボックスをオンにすると、リンクされたイベントで同じ有給待機期間を共有できるようにするフォーミュラを作成できます。

有給待機

休暇欠勤ごとに、有給発生までの待機期間を定義する場合は、このチェック ボックスをオンにします。

有給待機期間タイプ、有給待機期間の値 [有給待機期間タイプ] フィールドで、イベントが有給になるために必要な有給待機ユニット数を指定するサポートエレメントを選択します。このエレメントは、休暇欠勤イベントの初日に変換されます。

有効なオプションは、[累計]、[ブラケット]、[デュレーション]、[フォーミュラ]、[数値]、[システム エレメント]、および [変数] です。

[有給待機期間の値] フィールドで、エレメントの名前を選択します。ただし、最初のフィールドで [数値] を選択した場合は、このフィールドに 8 桁までの数値を入力します。たとえば、[数値] を選択して、その右側のフィールドに「3」を入力した場合、休暇欠勤の最初の 3 日は (有給待機期間と見なされ) 支給対象にはなりません。

[休暇欠勤のリンク] チェック ボックスをオンにして関連するイベントをリンクすると、期間計算フォーミュラが返す値を個別のイベントに適用するのではなく、リンクされた休暇欠勤期間全体に適用することができます。

期間計算フォーミュラでは、次のシステム エレメントのいずれかを参照できます。

- LINK YES-NO (リンク済みイベント - Yes/No): 現在のイベントが前回のイベントにリンクされているとき、YES に設定されます。
- ABS CUM LINK WAIT (休暇欠勤累積リンク済み有給待機): リンクされたイベントと現在のイベントの有給待機ユニットの合計を取得します。

これらの値は休暇欠勤の結果テーブルに保存され、期間から期間へ繰り越されます。

カウント フォーミュラ

[有給待機] がオンの場合、このフィールドにフォーミュラを選択します。カウント フォーミュラによって、有給待機期間としてカウントされる日数が算出されます。このフォーミュラは日数計算フォーミュラと似ていて、基本的にはまったく同じものですが、必ず同じにする必要はありません。たとえば、日数計算フォーミュラでは勤務日数を対象にしますが、カウント フォーミュラではカレンダー日数を対象にしてもかまいません。

カウント フォーミュラは、有給待機期間が満たされるまで休暇欠勤イベントの欠勤日ごとに変換されます。

注意: 有給待機期間に達した日に数時間勤務した場合に、その勤務に対し支給を行うには、カウント フォーミュラと日数計算フォーミュラを同じにする必要があります。

休暇欠勤のリンク設定

休暇欠勤のリンク

関連する休暇欠勤同士をリンクさせる場合にオンにします。

元の開始日によるリンク

現在の休暇欠勤イベントを元の開始日が同じ前回の休暇欠勤イベントにリンクさせるとき、このチェック ボックスをオンにします。

このチェック ボックスをオフにすると、イベントの開始日が元の開始日として扱われます。

開始

リンクされる休暇欠勤が有効な期間内にあるか判断するのに使われる開始日を指定します。休暇取得プロセスを実行したときに、現在の休暇欠勤イベントの 1 日目とこのフィールドで指定した日付が比較されます。その期間が、[休暇欠勤間のデュレーション] フィールドで定義された期間を超えてしまう場合はその休暇欠勤はリンクされません。値は以下のとおりです。

[最終回の終了日]: 同一の休暇イベントのうち、一番最後に (前回) 実行されたイベントの終了日が参照されます。[元の開始日によるリンク] をオンにした場合の最終回のイベントとは、同一の休暇イベントのうち一番最後に (前回) 実行されたイベントで、同一の元の開始日を持つものを指します。

[初回の開始日]: 同一の休暇イベントのうち、最初のイベントの開始日が参照されます。

- [休暇欠勤間のデュレーション]、[デュレーションの値]、ユニット

[休暇欠勤間のデュレーション] フィールドで、期間を定義するエレメントのタイプを選択します。有効なオプションは、[累計]、[ブラケット]、[デュレーション]、[フォーミュラ]、[数値]、[システムエレメント]、および [変数] です。

[デュレーションの値] フィールドで、デュレーション期間を定義するエレメント名を選択します。[休暇欠勤間のデュレーション] フィールドで [数値] を選択した場合は、ユニット数を入力します。

[ユニット] フィールドで、使用するユニットを選択します。有効な値は、[日数]、[月数]、[週数] です。

超過取得ルール の定義

"休暇取得" の超過取得ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇取得]、[超過取得])。

休暇取得名計算日数計算フォーミュラ期間超過取得優先度予測残数照会ユーザー定義フィールドサポート エレメント上書き

エレメント名KOATSICKLong Term Sickness所有者PS 非管理

定義

検索 | 全件表示 最初1/1最後

有効日1990/01/01ステータスアクティブ

*超過取得オプション他の休暇欠勤で取得

休暇取得KOAT SICK2

"休暇取得" - 超過取得ページ

"休暇取得" の超過取得ページで、受給者の休暇欠勤取得数が付与残数を超えた場合、つまり残数が 0 以下になった場合の処理方法を指定します。受給者が以下の処理をできるようにします。

- 指定した限度までの超過取得
- 無給の時間としての休暇欠勤の取得
- 別のタイプの休暇欠勤に関連付けられて発生した休暇付与の使用

超過取得ルールは、受給者が計算ページに定義された全ての関連する休暇付与を使い果たすまで有効になりません。

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

457

超過取得オプション

受給者の休暇欠勤取得数が付与残数を超えた場合、つまり残数が 0 以下になった場合の処理方法を指定します。有効値は以下のとおりです。

- [超過取得可] - 従業員に対し、既に発生している付与時間を超過して休暇取得を認める場合、このオプションを選択します。休暇欠勤時間が、今現在発生している休暇付与数を超過しても、指定した限度までは支給の対象となります。
- [無給時間として取得] - 付与残数を超えた休暇欠勤を、無給時間と見なす場合にこのオプションを選択します。休暇取得プロセスを実行すると、システム エレメント DAY COUNT UNP に無給ユニット数がロードされます。(無給ユニットを控除として処理するには、"休暇取得" の日数計算フォーミュラ ページの一番下のグリッドにこの控除エレメントを追加します。)
- [他の休暇欠勤で取得] - 別のタイプの休暇欠勤と関連付けられた休暇付与をこの休暇取得に適用できるときに、このオプションを選択にします。

このオプションが選択されると、下に [休暇取得] フィールドが表示されます。使用する休暇付与に関連付けられた休暇取得エレメントを選択します。

たとえば、産休の最初の 60 日について給与の 100%、次の 30 日について 50% を組織が支給するとします。休暇取得エレメントを 2 つ作成します。一方は "産休 60"、もう一方は "産休 30" とします。"産休 60" の休暇取得エレメントを定義するときに、[他の休暇欠勤で取得] オプション ボタンを選択し、"産休 30" のエレメントと関連付けます。受給者の実際の産休が休暇イベント入力ページで入力される場合、"産休 60" のエレメントを使って 合計 90 日が入力されます。最初の 60 日が 100% で支給され、産休の休暇付与を使い果たします。次の 30 日間はエレメントが "産休 30" の休暇取得エレメントに変更されます。つまり、60 日経過後は "産休 30" のエレメントを使って毎日、新規行が追加されます。

限度値タイプ、 超過限度値 これらのフィールドは、[超過取得オプション] で [超過取得可] が選択されている場合にのみ使用できます。

取得が認められる超過取得限度を定義するサポート エLEMENTを選択します。限度を超えた休暇取得は、全てシステム エLEMENT DAY COUNT UNP にロードされます。たとえば、限度が 3 ということは、3 日間までは有給ということです。

[超過限度値] で、ELEMENTの名前を選択します。最初のフィールドで [数値] を選択した場合は、このフィールドに数値を入力する必要があります。

休暇取得

これらのフィールドは、[超過取得オプション] で [他の休暇欠勤で取得] が選択されている場合にのみ使用できます。

使用する休暇付与に関連付けられた休暇取得ELEMENTを選択します。

休暇取得の優先度の定義

"休暇取得" の優先度ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[ELEMENT]、[休暇欠勤ELEMENT]、[休暇取得]、[優先度])。

休暇取得名計算日数計算フォーミュラ期間超過取得**優先度**予測残数照会ユーザー定義フィールドサポートELEMENT上書き

ELEMENT名:KOATSICKLong Term Sickness所有者:PS 非管理

定義

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

有効日:1990/01/01

ステータス:アクティブ

☐ 複数イベント可

イベント優先度:1

同一日に認められる休暇取得コード

加減サイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

休暇取得ELEMENT	名称

"休暇取得" - 優先度ページ

複数イベント可

このチェック ボックスをオンにすると、休暇イベント入力ページで、同一日に複数の休暇欠勤を入力できるようになります。たとえば、受給者に午前中 2 時間の組合の会議と 6 時間の休暇が発生した場合、[複数イベント可] チェック ボックスをオンにすると、同じ日に発生したこれら 2 つの休暇欠勤を入力し保存することが可能になります。このチェック ボックスをオフにすると、ユーザーが同一日に複数の休暇欠勤を入力できないようになります。

休暇イベント入力ページで同一日に複数のイベントを入力し保存しようとする、重複している旨を示したメッセージが表示されます。ユーザーが [OK] をクリックすると、競合する日付について最も優先度が高い (優先度の数字が最も小さいイベント) 休暇取得の定義が適用されます。

休暇取得エレメントの優先度は、[イベント優先度] フィールドで指定します。この休暇取得エレメントを使う休暇欠勤を入力すると、優先度の数字が休暇イベント入力ページに表示されます。

つまり、ユーザーが同一日に発生した組合の会議と休暇の入力を保存しようとしたときに、前述のメッセージを表示させれば、[複数イベント可] チェック ボックスをオフにします。

イベント優先度

ほかの取得エレメントと比較した、この休暇取得エレメントの優先度を、最大 3 桁までの一意の数字でこのフィールドに入力します。小さい数字は優先度が高いことを表します。

複数イベントが認められていないのに、ユーザーが同一日に複数の休暇欠勤タイプを入力すると、休暇取得の優先度についての情報を示すメッセージが表示されます。また、競合する日付について最も優先度の高い休暇取得の定義を使うプロセスをユーザーが起動することもできます。

同一日に認められる休暇取得コード

休暇取得 [複数イベント可] チェック ボックスをオンにした場合、同一日に取得できる休暇欠勤のエレメントを指定します。認められる休暇取得エレメントごとに 1 行追加します。少なくとも、エレメントを 1 つ選択します。

休暇取得プロセスを実行すると、同一日に発生した全てのイベントについて結果テーブルに書き込まれた時間の合計が計算されます。システムエレメント ABS CUM PARTIAL HR にその合計が返されます(予定勤務時間数が合計を超える場合にエラーを表示するフォーミュラを作成することができます。)

休暇欠勤予測ルールの定義

"休暇取得" の予測ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバルペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇取得]、[予測])。

休暇取得名 | 計算 | 日数計算フォーミュラ | 期間 | 超過取得 | 優先度 | 予測 | 残数照会 | ユーザー定義フィールド | サポートエレメント上書き

エレメント名: KOWAT SICK TAKE Sick 所有者: PS 非管理

定義

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

有効日: 1990/01/01 ステータス: アクティブ

*予測エレメント: KOWFM GEN FCST

予測結果エレメント リスト

カスタイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1-6/6 | 最後

順序	エレメント タイプ	予測エレメント	名称		
10	累計	KOWAE SICK_ENT	Sick Entitlement Hrs	+	-
20	累計	KOWAE SICK TAKE	Sick Take Hrs	+	-
30	累計	KOWAE SICK_BAL	Sick Balance Hrs	+	-
35	累計	KOWAE VAC TAKE	Vacations Taken Hrs	+	-
40	累計	KOWAE VAC_BAL	Vacations Balance Hrs	+	-
50	フォーミュラ	KOWFM GEN FCST	Generic Forecast Formula	+	-

"休暇取得" - 予測ページ

"休暇取得" の予測ページは、休暇欠勤の入力時に予測プロセスを有効にするために使用します。

注意: このページで情報を入力するには、"休暇取得" の "<エレメント名> の予測" ページの [予測使用] チェック ボックスがオンになっている必要があります。後者のページには、"休暇取得" の休暇取得名ページの下部にあるリンクからアクセスできます。

予測エレメント

予測プロセス時に変換するフォーミュラを選択します。

フィールド タイプが文字種のフォーミュラのみ使用可能です。このフォーミュラは休暇欠勤日が評価された (DAY COUNT、DAY COUNT PD、DAY COUNT UNPD エレメントが変換された) 直後に、イベントの各日で変換されます。最終的に算出された値が格納されます。

たとえば、受給者の休暇付与数が休暇欠勤数に足りているかどうかによって、FM ELIG という名前のフォーミュラが、ELIGIBLE または NOT ELIGIBLE という値を返すように設定するとします。この場合の予測フォーミュラは次のようになります。

```
IF DAY COUNT UNP > 0
THEN NOT ELIGIBLE >> FM ELIG
ELSE ELIGIBLE >> FM ELIG
ENDIF
```

予測結果エレメント リスト

このグループ ボックスにより、予測プロセスを実行後に休暇欠勤イベント コンポーネントの予測メッセージ ページに表示される内容が決定します。予測結果を表示するエレメントを選択します。たとえば、休暇欠勤の長さを表示するデューレーション エレメントや休暇付与残数を表示する累計エレメントなどを選択できます。

エレメントには、通常の休暇欠勤プロセスで変換されるエレメントを選択します。エレメントのタイプは [累計]、[ブラケット]、[日付]、[デューレーション]、[フォーミュラ]、[システム エレメント]、[変数] です。

関連項目:

[第 11 章、「休暇欠勤管理について」、休暇欠勤入力機能、396 ページ](#)

[第 12 章、「休暇欠勤エレメントの定義」、休暇欠勤フォーミュラ、413 ページ](#)

残数照会ルールの定義

"休暇取得" の残数照会ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇取得]、[残数照会])。

休暇取得名

計算

日数計算フォーミュラ

期間

超過取得

優先度

予測

残数照会

ユーザー定義フィールド

サポートエレメント上書き

エレメント名: KOWAT SICK TAKE Sick

所有者: PS 非管理

定義

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

有効日: 1990/01/01

ステータス: アクティブ

残数照会エレメント リスト

カスサイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1-6/6 | 最後

順序	エレメント タイプ	エレメント名	名称		
10	累計	KOWAE SICK_BAL	Sick Balance Hrs	+	-
20	累計	KOWAE SICK_TAKE	Sick Take Hrs	+	-
30	累計	KOWAE SICK_ENT	Sick Entitlement Hrs	+	-
33	累計	KOWAE VAC_TAKE	Vacations Taken Hrs	+	-
35	累計	KOWAE VAC_BAL	Vacations Balance Hrs	+	-
40	フォーミュラ	KOWFM GEN FCST	Generic Forecast Formula	+	-

"休暇取得" - 残数照会ページ

注意: このページに情報を入力するには、休暇取得名ページの下部にあるリンクからアクセスする予測ページで [予測使用] チェック ボックスをオンにしておく必要があります。

残数照会エレメント リスト

このグループ ボックスにより、残数照会プロセスの実行後に予測残数ページに表示される内容が決定します。結果を表示するエレメントを選択します。たとえば、休暇付与残数を追跡する累計エレメントや、残数を示すシステム エレメントなどを選択します。

エレメントのタイプは [累計]、[ブラケット]、[日付]、[デュレーション]、[フォーミュラ]、[システム エレメント]、[変数] です。

ユーザー定義結果フィールドの定義

"休暇取得" のユーザー定義結果フィールド ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品 / 業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇取得]、[ユーザー定義結果フィールド])。

休暇取得名: KOWAT SICK TAKE Sick 所有者: PS 非管理

定義 検索 | 全件表示 最初 1/1 最後

有効日: 1990/01/01 ステータス: アクティブ

ユーザー定義結果フィールド 加減算 | 検索 | 全件表示 | 最初 1-5/5 最後

設定タイプ

ユーザー定義文字 1	+	-
ユーザー定義文字 4	+	-
ユーザー定義 10 進数 1	+	-
ユーザー定義日付 1	+	-
ユーザー定義金額 1	+	-

"休暇取得" - ユーザー定義結果フィールド ページ

[設定タイプ] フィールドで、システム エLEMENTによって上書きできるユーザー定義フィールドを選択します。バッチ処理時に、対応するシステム ELEMENTに割り当てられた値によって、休暇欠勤結果テーブル (GP_RSLT_ABS) のユーザー定義値が上書きされます。ルールで使用するフィールドのみを選択します。

たとえば、ユーザーが休暇欠勤イベント入力詳細ページの [日付 3] フィールドに入力する値を上書き可に指定する場合は、[設定タイプ] フィールドで [ユーザー定義日付 3] を選択します。

関連項目:

第 12 章、「休暇欠勤ELEMENTの定義」、休暇取得ELEMENTについて、433 ページ

休暇取得ELEMENTのサポート ELEMENT上書きの定義

"サポート ELEMENT上書き" ページを使って、休暇取得ELEMENTに関連付けられたブラケット、日付、デュレーション、フォーミュラ、変数のELEMENTの値を上書きできます。

休暇欠勤ELEMENTの使用準備

休暇付与ELEMENTと休暇取得ELEMENTを作成したら、それらを使用するための準備を次の手順に従い実行します。

1. 受給者へのエレメントの割当

まず、エレメントをエレメント グループに追加することから始めます。(エレメント グループは有資格グループに関連付けられ、有資格グループは支給グループに関連付けられています。支給グループはそれぞれの受給者に関連付けられています。)受給者に休暇欠勤エレメントが関連付けられていれば、休暇付与が発生し、休暇欠勤に対して支給が行われます。ただし、例外も存在します。休暇欠勤ごとの休暇付与エレメントの場合、それらを受給者に割り当てる必要はありません。関連する休暇取得エレメントを割り当てることで、受給者は自動的に休暇欠勤ごとの休暇付与の資格を得るからです。受給者レベルに定義された休暇付与エレメント ("休暇付与" の計算ページで [休暇付与タイプ] フィールドに **[受給レベル]** を選択した場合) を割り当てるには、付与/取得割当ページを使用します。

2. 休暇欠勤処理フレームワークへのエレメントの追加

各セクションによって、処理で変換するエレメントを指定します。組織のニーズに合わせて、休暇付与プロセスと休暇取得プロセスの両方に対し 1 つのセクションを作成することも、別々にセクションを作成することも可能です。休暇欠勤ごとの付与エレメントは、セクションを通してプロセス リストに含める必要はありません。休暇欠勤ごとのエレメントは、休暇取得プログラムで関連する休暇取得エレメントが処理されるときに自動的に処理されるためです。

関連項目:

第 14 章、「組織構造の定義」、エレメント グループの定義、522 ページ

休暇付与残数の予測および照会の設定

このセクションでは、休暇欠勤予測と残数照会を実行可能にする方法の概要と、以下の作業を行う方法について説明します。

- トランザクション定義の作成
- 予測処理での休暇欠勤イベントのフィルタ

休暇付与残数の予測および照会を実行可能にする方法について

休暇欠勤予測または残数照会を使用する前には、休暇欠勤ごとに変換される休暇付与エレメントの場合を除き、適用する休暇取得エレメントや休暇付与エレメントに対しこれらの機能を使用できるように設定する必要があります。たとえば休暇に対する付与数だけを予測する場合は、休暇の休暇取得エレメントと休暇付与エレメントで予測機能を使用できるように設定しておきます。

休暇欠勤予測または残数照会を実行可能にするには、以下の手順に従います。

1. 休暇取得に対する予測フォーミュラを定義します (休暇欠勤予測の場合)。

予測フォーミュラでは、定義したビジネス ルールに従い休暇欠勤が判別されます。たとえば、フォーミュラを使って付与数が休暇欠勤数に十分足りているかどうかを判別できます。また、付与数が足りていなかった場合の処理を決定することも可能です。その結果、ユーザーが定義した文字種のストリング列が休暇イベント入力ページに返されます。たとえば、残数が足りている場合には "資格あり" や "完了" などの値が表示されます。予測フォーミュラは、日数判別フォーミュラ、有給日数フォーミュラ、無給日数フォーミュラが変換された後、休暇欠勤の各日に変換されます。休暇欠勤予測プロセスでは、フォーミュラでの最終的な値だけが保存され、休暇欠勤イベント テーブル (GP_ABS_EVENT) にロードされます。また、それらの値は休暇取得プロセスでイベントが処理される時に結果テーブル (GP_RSLT_ABS) にもロードされます。

フォーミュラでは、対象の日について無給ユニットがあるかどうか、なぜ無給ユニットとなったのか (待機期間の不足など) が確認できます。これらを確認するには、休暇開始待機残数 (ABS BEGIN WAIT BAL) や休暇終了待機残数 (ABS END WAIT BAL) などのシステム エレメントを参照します。

予測フォーミュラの結果に基づき、ほかの処理を実行させることも可能です。たとえば、資格ありの結果が返ってきたときに、ポジティブ入力の作成に使用されるユニット エレメントに自動的に値をロードするフォーミュラを作成することも可能です ("休暇取得" の日数計算フォーミュラ ページでユニットのエレメントを選択します。)

2. エレメント名共通ページからアクセスする予測ページで休暇取得エレメントに対し休暇欠勤予測/残数照会機能を実行可能にします。

- a. 休暇欠勤予測の場合は、予測を可能にするオプション ([予測使用] チェック ボックスをオン)、または予測を必須にするオプション ([予測必須] チェック ボックスをオン) を設定します。
- b. 残数照会の場合は、[予測使用] チェック ボックスをオンにします。

注意: [予測使用] フィールドは、休暇欠勤セルフサービスで予測を実行可能にするためには使用されません。休暇欠勤セルフサービスで予測を実行可能にするには、国別休暇取得設定コンポーネントの予測メッセージ ページで [予測可] フィールドを選択します。

PeopleSoft Enterprise 勤務管理と統合している場合、国別休暇取得設定コンポーネントの予測メッセージ ページにある [予測可] フィールドは、タイムシートで予測を実行可能にするために使用されます。

3. 必要に応じて、予測ページや残数照会ページに入力します。

- a. 休暇欠勤予測の場合、予測ページで予測プロセスの結果を返す予測フォーミュラとエレメントを選択します。
- b. 残数照会の場合、残数照会ページで残数照会プロセスの結果を返すエレメントを選択します。

4. 関連付けられた休暇付与エレメントの予測機能を有効にします。

関連付けられた周期ベースの休暇付与エレメントに手順 2 を行います。

注意: 休暇付与の場合、[予測使用] フィールドは、休暇欠勤セルフサービスからの全てのイベント入力で使用される休暇付与にも適用されます。また、勤務管理と統合している場合は、勤務管理のタイムシートにも適用されます。

5. リダイレクト先の休暇取得エレメントの予測機能を有効にします。

超過取得ページで、この休暇取得エレメントのリダイレクト先に別の取得エレメントを指定してある場合、そのリダイレクト先の休暇取得エレメントとそれに関連付けられた休暇付与エレメントに対して手順 2 を行います。

6. カレンダー グループのテンプレートを作成します。

予測プロセスまたは残数照会プロセスを実行する場合、参照先の休暇欠勤カレンダーを指定する必要があります。システムではこのカレンダーを参照して処理対象のエレメントや評価期間などを識別します。カレンダー グループ ページを使って適切な休暇欠勤カレンダーを選択します(休暇取得や休暇付与プロセスを実行する時に使用するカレンダーと同じカレンダーを選択します。)また、カレンダー グループ ページの [テンプレートとして使用] チェック ボックスをオンにしてこのカレンダー グループが予測プロセスで使用されることを示します。

テンプレートには、受給者について最終決定されていない最初のカレンダーから最新の休暇欠勤イベントの最終日 (または残数照会の指定日) までの予測対象期間を満たすものを選択します。通常、1 年以上の期間を持つカレンダー グループを使用する 경우가ほとんどです(最大で 225 のカレンダーを含めることができます。)テンプレートには、予測対象の従業員が属する支給グループが全て含まれている必要があります。

7. トランザクション定義を作成します。

トランザクション定義ページを使って、1 つ前の手順で作成したカレンダー グループ テンプレートに休暇欠勤予測プロセスまたは残数照会プロセスを関連付けます。両方のプロセスを使用する場合、プロセスごとにトランザクション定義を作成します。予測または残数照会プロセスの起動時に、トランザクション ID により参照先のカレンダー グループが識別されます。

8. 休暇欠勤イベントのステータスを予測プロセスで考慮するように指定します。

予測プロセスでは、指定するいずれかのステータスにある休暇欠勤イベントのみを扱うようにします。予測フィルタ ページを使用してステータスを選択します。

関連項目:

第 11 章、「休暇欠勤管理について」、休暇欠勤入力機能、 396 ページ

第 25 章、「休暇欠勤の入力と処理」、現在の休暇付与残数の表示と休暇付与残数照会プロセスの実行、 1001 ページ

第 25 章、「休暇欠勤の入力と処理」、休暇欠勤入力時における休暇付与残数の予測、 995 ページ

第 16 章、「カレンダーの使い方」、カレンダー グループの定義、 605 ページ

トランザクション定義の作成と休暇欠勤セルフサービスのフィルタに使用するページ

注意: 勤務管理と統合している場合、これらのページは、タイムシートの休暇欠勤のフィルタにも使用されます。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
トランザクション定義	GP_TXN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇欠勤予測トランザクション]、[トランザクション定義]	カレンダー グループ テンプレートを休暇欠勤予測プロセスまたは残数照会プロセスに関連付けて、トランザクション定義を作成します。トランザクション定義は国別で指定されます。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
予測フィルタ	GP_TXN_FILTER	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇欠勤予測トランザクション]、[予測フィルタ]	予測プロセス実行時に対象となる休暇欠勤イベントのステータスを選択します。 勤務管理と統合している場合、選択されたステータスは、タイムシートにおける予測処理でも使用されます。

トランザクション定義の作成

トランザクション定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇欠勤予測トランザクション]、[トランザクション定義])。

トランザクション定義(T)
予測フィルタ(E)

国:

AUS オーストラリア

トランザクション ID:

100

*名称:

Forecast Transaction

略称:

Forecast

*カレンダー グループ ID:

KA_TEMPLATE

Forecasting Template

トランザクション定義ページ

トランザクション ID

値は以下のとおりです。

100: 休暇欠勤予測プロセスを表します。

110: 残数照会プロセスを表します。

注意: 1 つの国に対し、上記 2 つのトランザクションを 1 つずつ定義できます。

カレンダー グループ ID 適切なカレンダー グループ ID を選択します。テンプレートとして設定されているカレンダー グループ ID の一覧から選択します。

ステータスによる休暇欠勤イベントのフィルタ

予測フィルタ ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[休暇欠勤エレメント]、[休暇欠勤予測トランザクション]、[予測フィルタ])。

トランザクション定義(T)

予測フィルタ(F)

国: AUS オーストラリア

トランザクション ID: 100

ワークフロー ステータス

カスタイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-4/11 最後

ワークフロー ステータス	詳細説明		
承認	承認	+	-
キャンセル	キャンセル	+	-
却下	却下	+	-
エラー - 管理者に連絡	エラー - 管理者に連絡	+	-

予測フィルタ ページ

[データ保存済]、[送信済]、[承認] などのステータス値を使用して、休暇欠勤リクエストの承認が追跡、管理されます。

休暇欠勤セルフサービスを使用している場合、このページを使用して、予測の実行時にどの休暇欠勤ステータスを対象とするかを指定します。たとえば、予測プロセスでステータスが **[承認]** の休暇欠勤のみを評価したい場合があります。このようなケースでは、[ワークフロー ステータス] フィールドで **[承認]** を選択します。

注意: 勤務管理と統合している場合は、このページを使用して、タイムシートで予測を使用する際にどの休暇欠勤ステータスを対象とするかを指定します。

休暇リクエストが休暇イベント入力ページから行われる場合、[ワークフロー ステータス] フィールドは空白に設定されます。このようなイベントは、休暇欠勤予測の実行時に対象となります。イベント入力とセルフサービスから入力されたイベントがある場合に休暇欠勤予測を実行すると、イベント入力から入力された全てのイベント、セルフサービスから入力された全てのイベント、およびステータスが予測フィルタ ページに含まれていた全てのイベントが対象となります。

第 13 章

スケジュールの使い方

この章では、勤務スケジュールの概要と、以下の方法について説明します。

- 勤務スケジュールの作成と表示
- スケジュールの確認
- 休日スケジュールを定義します。
- スケジュールの割り当て
- 管理者用セルフサービス スケジュール機能の使い方
- 従業員用セルフサービス スケジュール機能の使い方

注意: グローバル ペイロールおよび勤務管理では、スケジュールの設定および割り当てに、多数の共通ページや共通レコードを使います。両方のアプリケーションを使用してる組織では、スケジュールの設定および割り当ては 1 回で済みます。スケジュールのページに表示されるスケジュール情報はアプリケーションによって異なります。

関連項目:

第 41 章、「PeopleSoft Enterprise 勤務管理との統合」、勤務管理との勤務スケジュールの共有、1624 ページ

勤務スケジュールについて

グローバル ペイロールでは、勤務スケジュールを使用して出欠予定と連携し、従業員の出勤状況を管理します。さらに、受給者の休暇欠勤が勤務予定日と重なる時期を判別する休暇欠勤プロセスが実行可能になります。例外時間レポートの受給者については、スケジュールの設定後、例外データを入力します。一般時間レポートの受給者については、報告された時間とスケジュールが比較され、給与が決定します。

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- スケジュールのタイプ
- シフトのタイプ
- スケジュールの定義とカレンダー
- 交代勤務スケジュール
- セルフサービス スケジュール機能
- スケジュール設定

スケジュールのタイプ

以下の 3 種類の主要なスケジュールを定義できます。

- 記録時刻スケジュール。始業、終業、食事、休憩、および移動などの詳細時刻を含みます。
- 経過時間スケジュール。予定されている勤務時間数（たとえば、月曜日は 8 時間勤務など）を示します。
- フレックス スケジュール。従業員にフレックスの始業時間と終業時間を適用します。

シフトのタイプ

シフトは、記録時刻タイプのセットで構成されます。以下の 3 種類のシフトを作成できます。

- 経過時間シフト

たとえば、経過時間 8 時間のシフトなど、シフトごとに経過時間を 1 つだけ定義します（この 8 時間は記録時刻ではありません）。経過時間シフトに 24 時間を超過する時間数を指定することはできません。

- 記録時刻シフト

記録時刻シフトは、勤務時間をいくつか定義するシフトの作成に使用します。記録時刻シフトでは、始業記録と、その後にある最初の終業記録までの間を定義します。始業記録と終業記録の間には、休憩、食事、および移動などの記録時刻があります。記録時刻は各記録に関連付けられています。各記録の時間数を手動で入力することも、次の記録時刻が入力されている場合には時間数を自動計算することもできます。

- フレックス シフト

グローバル ペイロール システムは、シフトの始業と終業について受給者が自由に調整できるフレックス シフトをサポートしています。また、フレックス シフトに必要なコア タイム (必須就業時間) や週間勤務時間数を入力することもできます。ただし、処理にアレイが設定されている場合、週次の情報のみが使用されます。

参照: 第 6 章、「データ取得エレメントの定義」、アレイ エLEMENTの定義、 130 ページ。

例: フレックス シフト

フレックス シフトのタ イプ	始業	終業	予定勤務時 間	コア開始	コア終了	週間勤務時 間
1. フレック クス バン ド	06:00	18:00	8	09:00	15:00	40
2. フレック クス レン ジ	06:00	19:00	8			40
3. フレック クス コア	00:00	23.59	8 (1 日あ たりの平 均)	09:00	15:00	40
4. フレック クス コア プラス	00:00	23.59	8	09:00	15:00	40

この例では、以下ようになります。

1. 受給者は、午前と午後のそれぞれに指定されたフレックス時間 (始業は 6 時から 9 時、終業は 15 時から 18 時) の範囲内であればいつでも始業および終業することができます。また、1 日 8 時間、週 40 時間、およびコアタイム (9 時から 15 時) の間の就業が義務付けられています。フレックス時間内であれば、毎日の始業時間と終業時間は自由です。
2. 受給者は 1 日 8 時間、フレックス時間 (6 時から 19 時) の範囲内であればどの時間帯に働いてもかまいません。会社が設定するコア タイムはありません。ただし、週 40 時間の就労が義務付けられています。

3. 受給者は週 40 時間勤務し、コアタイム (9 時から 15 時) に就業していれば、どの時間帯に働いてもかまいません。また、フレックス時間内であれば、毎日の始業時間と終業時間は自由で、週 40 時間という条件を守れば、日によって勤務時間数は異なってもかまいません。
4. 受給者は週 40 時間およびコアタイム (9 時から 15 時) の間の就業が義務付けられています。フレックス時間内であれば、毎日の始業時間と終業時間は自由ですが、1 日 8 時間は勤務する必要があります。

スケジュール定義とスケジュール カレンダー

勤務スケジュールを定義するスケジュール定義は、スケジュール ID で区別されます。スケジュール定義を作成したら、支給グループおよび受給者に割り当てることができます。同じスケジュールを複数の支給グループに割り当てることができます。また、個別にスケジュールを作成して、指定の受給者に割り当てすることもできます。

スケジュール定義を使用してスケジュール カレンダーを作成し、受給者のスケジュールを決定します。スケジュール カレンダーとは、就業時間と非就業時間が指定された期間のことです。

交代勤務スケジュール

開始日の異なる同一のスケジュールを複数の受給者に割り当てる交代勤務スケジュールを定義できます。たとえば、連続操業される工場の基本的な交代勤務スケジュールは次のような構成になります。

- 7 回の日勤
- 1 日休み
- 7 回の午後勤務
- 1 日休み
- 7 回の夜勤
- 5 日休み

工場を 24 時間、週 7 日間稼動するには作業者を 4 つのグループに分け、交代勤務します。各交代勤務で同じスケジュールを使用しますが、シフトのそれぞれをカバーする交代勤務が必ず 1 つ存在するように実際の勤務は交互交代制で行われます。次の表は、ある月の実際の交代勤務を示しています。

開始日	交代勤務 1	交代勤務 2	交代勤務 3	交代勤務 4
1	日勤	非勤務日	午後勤務	夜勤

開始日	交代勤務 1	交代勤務 2	交代勤務 3	交代勤務 4
2	日勤	午後勤務	非勤務日	夜勤
3	日勤	午後勤務	夜勤	非勤務日
4	日勤	午後勤務	夜勤	非勤務日
5	日勤	午後勤務	夜勤	非勤務日
6	日勤	午後勤務	夜勤	非勤務日
7	日勤	午後勤務	夜勤	非勤務日
8	非勤務日	午後勤務	夜勤	日勤
9	午後勤務	非勤務日	夜勤	日勤
10	午後勤務	夜勤	非勤務日	日勤
11	午後勤務	夜勤	非勤務日	日勤
12	午後勤務	夜勤	非勤務日	日勤
13	午後勤務	夜勤	非勤務日	日勤
14	午後勤務	夜勤	非勤務日	日勤
15	午後勤務	夜勤	日勤	非勤務日
16	非勤務日	夜勤	日勤	午後勤務
17	夜勤	非勤務日	日勤	午後勤務
18	夜勤	非勤務日	日勤	午後勤務
19	夜勤	非勤務日	日勤	午後勤務
20	夜勤	非勤務日	日勤	午後勤務
21	夜勤	非勤務日	日勤	午後勤務
22	夜勤	日勤	非勤務日	午後勤務

開始日	交代勤務 1	交代勤務 2	交代勤務 3	交代勤務 4
23	夜勤	日勤	午後勤務	非勤務日
24	非勤務日	日勤	午後勤務	夜勤
25	非勤務日	日勤	午後勤務	夜勤
26	非勤務日	日勤	午後勤務	夜勤
27	非勤務日	日勤	午後勤務	夜勤
28	非勤務日	日勤	午後勤務	夜勤

セルフサービス スケジュール機能

セルフサービス スケジュール ページは管理者と受給者が使用できます。管理者は、これらのページを使用してスケジュールの表示、受給者のスケジュール基本設定の表示とスケジュール割り当ての変更、および個々の受給者のスケジュールの作成を行うことができます。従業員は、これらのページを使用して月次スケジュールの表示、個人スケジュール基本設定の入力が可能です。

スケジュール設定

スケジュール設定ページを使用して、記録時刻タイプに表示するラベル、日付テーブル (TL_DATES_TBL) の日付範囲、およびその他のスケジュール設定を定義します。日付テーブルには、カレンダー スケジュールの作成に必要とされる曜日、日、カレンダー年などの日付関連の情報が保存されます。

関連項目:

第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、スケジュール設定の定義および日付のロード、 45 ページ

第 13 章、「スケジュールの使い方」、従業員用セルフサービス スケジュール機能の使い方、 516 ページ

第 13 章、「スケジュールの使い方」、管理者用セルフサービス スケジュール機能の使い方、 505 ページ

スケジュールの作成と表示

スケジュールを作成するには、スケジュール グループ (SCH_GROUP)、シフト (SCH_SHIFT)、勤務日 (SCH_WRKDAY)、および 定義 (SCH_DEFINITION) の各コンポーネントを使用します。

このセクションでは、スケジュール作成の概要および以下の項目について説明します。

- スケジュール グループを定義します。
- シフトの設定
- 勤務日の定義
- スケジュール定義を作成します。
- スケジュール定義のシフト詳細の定義
- スケジュール カレンダーの表示

注意: セルフサービス ページは、管理者が勤務スケジュールを作成、表示、および修正するために使用できます。これらのページについてはこの章の後の方で説明します。

関連項目:

第 13 章、「スケジュールの使い方」、管理者用セルフサービス スケジュール機能の使い方、505 ページ

スケジュールの作成について

勤務スケジュールを作成するには、以下の手順に従います。

1. スケジュール グループを作成します。

スケジュール グループは、スケジュールを編成し、類似したスケジュールを持つ受給者をグループ分けします。各スケジュール グループは、(各シフト、勤務日、およびスケジュール定義と同じく) セットID と関連付けられています。スケジュールを割り当てる際は、割り当て可能なスケジュールが含まれるスケジュール グループを選択します。

2. シフトを作成します (オプション)。

[シフト] (SCH_SHIFT) コンポーネントを使用して経過時間シフト、フレックス シフト、および記録時刻シフトを作成するか、スケジュール定義を作成する際にシフト情報を手動で入力できます。

3. 勤務日を作成します (オプション)。

スケジュール定義内の日のラベルとして使用する勤務日を作成できます。

4. スケジュール定義を作成します。

スケジュール定義は、一連の短期または長期の勤務日で構成されます。スケジュール定義を作成する際に、事前定義済みのシフトと勤務日を組み込むことができます。また、シフト情報を手動で入力することもできます。

5. スケジュール カレンダーを確認します。

スケジュール カレンダーは、スケジュール定義を元に作成されます。

個人スケジュールの作成

特定の受給者にのみ適用するスケジュール定義を作成したい場合があります。そのようなケースでは、"勤務スケジュールの割当" ページからアクセス可能な 個人スケジュール定義コンポーネント (SCH_DEFN_ADHOC) を使用します。個人スケジュール定義ページの内容は、その他の全ての勤務スケジュールの定義に使用するスケジュール定義コンポーネントのページと同一です。

関連項目:

第 13 章、「スケジュールの使い方」、個人スケジュール定義の作成、 504 ページ

スケジュールの定義と表示に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
スケジュール グループ	SCH_GROUP	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[スケジュール]、[スケジュール グループ]、[スケジュール グループ]	スケジュール グループを定義します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
シフト	SCH_SHIFT	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[スケジュール]、[シフト]、[シフト]	経過時間、フレックス、および記録時刻の各シフトを設定します。
勤務日	SCH_WRKDAY	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[スケジュール]、[勤務日]、[勤務日]	勤務日を設定します。
定義	SCH_DEFINITION	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[スケジュール]、[定義]、[定義]	基本的なスケジュール定義の詳細を定義します。
スケジュール シフト	SCH_DEFINITION_2	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[スケジュール]、[定義]、[スケジュール シフト]	スケジュール定義のシフトを定義します。
シフト情報	SCH_DEFN_SEC	"定義" のスケジュールシフト ページで [追加詳細] リンクをクリックします。	シフト詳細を定義または確認します。
スケジュール カレンダー	SCH_CLND_VW_SEC	"定義 - スケジュール シフト" ページで [カレンダーの表示] リンクをクリックします。	特定のスケジュール定義から作成されたスケジュール カレンダーを確認します。

関連項目:

第 3 章、「[コア アプリケーションのアーキテクチャについて](#)」、スケジュール設定の定義および日付のロード、45 ページ

スケジュール グループの定義

スケジュール グループ ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[スケジュール]、[スケジュール グループ]、[スケジュール グループ])。

スケジュール グループ

スケジュール グループ:

KDCYM

*名称:

GP Core Schedule Group

略称:

GP Core Sc

デフォルト レコード グループ セットID

デフォルト セットID:

SHARE

Table Set shared across Corp

既存スケジュール グループの北:

スケジュール グループ

スケジュール グループを使用して、スケジュールを編成することができます。シフト、勤務日、およびスケジュール定義は、セットID 値に基づいて作成されます。スケジュール グループは、セット コントロール値を使用してこれらをグループ化します。

スケジュールを支給グループに割り当てるか、受給者に直接割り当てる際は、まず関連するスケジュール グループを選択する必要があります。この選択したスケジュール グループには、選択可能なスケジュールだけが含まれています。

既存スケジュール グループ [デフォルト セット ID] フィールドを空欄にすると、コピーするスケジュール グループを選択できます。コピーされるスケジュール グループ定義のセットID がコピーされます。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Data Management

シフトの設定

シフト ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[スケジュール]、[シフト]、[シフト])。

シフト

セットID: AUS01 Setid for AUS01 BU

シフト ID: KAPCH 0800

シフト項目

検索 | 全件表示 最初 1/1 最後

*有効日: 1980/01/01

*シフト タイプ: 記録時刻

開始時刻: 08:00

*名称: Punch-8 Hours Lunch & Break

略称: Punch 8hrs

予定勤務時間: 8.00

終了時刻: 17:00

勤務時間レポートのタスク グループ

タスク グループ:

タスク テンプレート ID:

勤務時間テンプレート:

スケジュール設定合計時間

合計 1: 0.00 合計 2: 0.00 合計 3: 0.00 合計 4: 0.00

シフト詳細

カスサイズ | 検索 | 最初 1-6/6 最後

シフト時間(S)

記録時刻タイプ*

時刻

タイムゾーン

時間

タスク プロファイル ID

設定 1

設定 2

設定 3

設定 4

+

-

始業	08:00:00		4.00							+	-
食事	12:00:00		1.00							+	-
始業	13:00:00		2.00							+	-
休憩	15:00:00		0.25							+	-
始業	15:15:00		1.75							+	-
終業	17:00:00		0.00							+	-

シフト ページ

有効日

シフトの有効日を入力します。保存済みのシフトを変更する場合、選択する有効日は制限されます。シフトの有効日を以下のような日付に変更することはできません。

そのシフトを含む全勤務日の最も古い有効日より前の日付

そのシフトを含むスケジュール カレンダーの開始日より後の日付

デフォルトのスケジュール ID にそのシフトを含む全支給グループの最も古い有効日より後の日付

シフト タイプ

タイプを選択します。オプションは、以下のとおりです。

[経過時間]: このオプションを選択すると、時刻のタイプには [経過] のみが表示されます。1 つの経過時間シフトが保持できるのは、1 つの時間エントリだけです。

[記録時刻]: [始業]、[終業]、[休憩]、[食事]、および [移動]の中から記録時刻タイプを選択できます。[フレックス シフト情報] グループ ボックスはこのページには表示されません。記録時刻シフトを保存するには、[始業] と [終業] の記録時刻を入力する必要があります。

[フレックス]: [始業] と [終業] の記録時刻のみ入力できます。[フレックス シフト情報] グループ ボックスが表示され、入力が可能です。フレックス シフトを保存するには、[始業] と [終業] の記録時刻を入力する必要があります。

追加モードで定義している場合、記録詳細を指定した後にこのフィールドを変更しようとする、[シフト タイプ] フィールドの値を変更すると記録詳細が削除されるという警告が表示されます。有効日が付いている全ての行について記録詳細が削除され、[シフト タイプ] フィールドの値は新しく選択したタイプで更新されます。

シフト タイプを指定して保存した後は、他のタイプに変更することはできません。

非勤務日

この日が非勤務日であることを示す場合に選択します。

注意: セルフサービスの休暇欠勤期間の計算に非勤務日を含める場合は、非勤務日で使用する時間を [時間] フィールドに追加する必要があります。

予定勤務時間

そのシフトの勤務時間の合計が表示されます。たとえば、受給者に対して 9 時始業、18 時終業を義務付け、打刻しない 1 時間の昼休みがシフトに含まれるとします。このフィールドでの計算は 9 時間となりますが、組織はそのうちの 8 時間分の就労に対して給与を支払うので、予定勤務時間は 8 時間になります。

このフィールド値には、ページ下部のグループ ボックスにある時間の合計が計算されます。その際、[食事] の時間は計算から除外されます。記録時刻シフトおよびフレックス シフトでは、この数値を編集することもできます。経過時間シフトでは、このフィールドの値は、常に経過時間の記録エントリの時間と等しくなっており、変更はできません。

記録時刻や記録時間に影響を及ぼす変更が行われると、[予定勤務時間] フィールドの値は再計算されます。

開始時刻、終了時刻

これらのフィールドは、シフトの開始時刻と終了時刻を示します。固定シフトと記録時刻シフトの場合、これらのフィールドには [シフト詳細] グループ ボックスに入力された情報に基づいて自動的に値が挿入されます。

勤務時間レポートのタスク グループ

このグループ ボックスを使用すると、スケジュール定義の作成中に勤務時間レポートおよびタスク エlementを表示できます。このグループ ボックスは、勤務管理がインストールされている場合にのみ表示されます。

タスク グループ

タスク グループを選択します。[勤務時間レポート テンプレート ID] フィールドには関連付けられている勤務時間レポート テンプレートが表示されます。

タスク テンプレート ID

選択したタスク グループに関連付けられているタスク テンプレートが表示されます。タスク テンプレートに関する詳細を表示するには隣にあるリンクをクリックします。

勤務時間テンプレート (勤務時間レポート テンプレート) このフィールドには、選択したタスク グループに関連付けられている勤務時間レポート テンプレートが挿入されます。勤務時間レポート テンプレートに関する詳細を表示するには、このフィールドの隣のリンクをクリックします。

タスク テンプレートと関連する勤務時間レポート テンプレートにより、スケジュール用にグリッド列に表示されるタスク エLEMENTと勤務時間レポート エLEMENTが決まります。

スケジュール設定合計時間

追跡する時間の合計が表示されます。ページ下部のグループ ボックスにある列 ([設定 1] ~ [設定 4]) ごとに、チェック ボックスがオンになっている全てのエントリの合計時間数が計算され、[スケジュール設定合計時間] の対応する各フィールド ([合計 1] ~ [合計 4]) の時間数が更新されます。

フレックス シフト情報

[シフト タイプ] で [フレックス] を選択した場合、このフレックス シフトに義務付けるコア タイムを入力します。

コア開始 、 コア終了

コア タイム、つまり食事時間と休憩時間を除いて受給者が勤務しなければならない時間を入力します。コア開始時間は、シフトの [始業] で記録される時間よりも後になり、コア終了時間は、シフトの [終業] で記録される時間よりも前になる必要があります。

週間勤務時間

このシフトに必要な週間勤務時間数を入力します。

シフト詳細

このグループ ボックスのラベルは、選択したシフト タイプによって異なります。シフト ページを保存するには、記録時刻詳細が少なくとも 1 行は必要です。

タイプ

記録時刻タイプを選択します。[移動] という記録時刻タイプ以外は、同じ記録時刻タイプを連続して選択することはできません。オプションは、以下のとおりです。

[始業]: 勤務時間の開始時刻です。シフトの開始時だけでなく、休憩や食事後の業務再開時にも使用します。記録時刻シフト、およびフレックス シフトでは、最初の記録時刻タイプは必ず [始業] にしてください。記録時刻シフト、またはフレックス シフトでは、[始業] の行に [時刻] および [時間] の値が入力されていない場合、シフトの保存はできません。

[移動]: タスクおよび給与に関する変更を伴う勤務時間の開始を記録します。

[休憩]: 休憩時間の開始を記録します。[休憩] を選択した場合、その直後の記録時刻タイプを [始業] または [移動] にする必要があります。

[食事]: 食事時間の開始時刻を記録します。[食事] を選択した場合、その直後の記録時刻タイプを [始業] または [移動] にしないとページを保存できません。

[終業]: 無給時間、勤務していない時間が開始される時刻です。記録時刻シフト、およびフレックス シフトでは、最終の記録時刻タイプは必ず [終業] にしてください。[時間] フィールドへの入力はできません。同じシフト内で先に [始業] の記録時刻がないと、[終業] の記録時刻を入力することはできません。記録時刻シフトおよびフレックス シフトでは、[終業] の行に [時刻] の値が入力されていないと、シフトの保存はできません。記録時刻シフトおよびフレックス シフトでは、[終業] の記録時刻を入力する必要があります。[終業] の行より後にシフトに対する記録時刻を追加することはできません。

[経過時間]: 経過時間シフトの場合に使用します。関連する [時間] フィールドには、シフトの経過時間を入力します。[経過] の行に時間を入力しないと、経過時間シフトは保存できません。

注意: この PeopleBook では、"記録時刻" と "記録時刻タイプ" という用語を同じ意味で使うことがあります。

時刻

記録時刻シフトおよびフレックス シフトに使用します。記録時刻シフトおよびフレックス シフト中の全記録 ([終業] を除く) には必ず時刻と時間を入力します。各記録の予定開始時刻を入力します。シフトの最初の記録時刻は必ず入力してください。その後続けて記録時刻を入力できます。または、前の記録の時間を基にして記録時刻を自動的に計算することもできます。

記録時刻を変更すると、それが最終行でなければ、変更後の記録時刻の値と次行の記録時刻の値を基にして [時間] の値が変更されます。また、変更するのが最初の行でなければ、変更後の新しい記録時刻の値を基にして、直前の [時間] の値も変更されます。

記録時刻を入力する場合、その直前の行の記録時刻を基に [時間] の値が計算されます。[時間] に値を入力すると、次行の [時刻] フィールドの値が自動計算されます。

タイムゾーン

このシフトについて入力された時刻に割り当てられたタイムゾーンを入力します。

時間

2 つの記録時刻の時間差を時間数で表わします。この値はユーザーが入力するか、あるいは次行の記録時刻が入力されると自動計算されます。

記録時刻を変更すると、それが最終行でなければ、変更後の記録時刻の値と次行の記録時刻の値を基にして [時間] の値が変更されます。また、変更するのが最初の行でなければ、変更後の新しい記録時刻の値を基にして、直前の [時間] の値も変更されます。

行を削除すると、削除した行の前後の行の記録時刻の値の差異が計算され、削除した行の直前の行の [時間] の値がその差異に変更されます。

記録時刻シフト、およびフレックス シフトが 24 時間を超過すると、警告が表示されます。

[時間] の値は、1 時間を 1 とする百分率で表示されます。

注意: このフィールドは、休暇欠勤セルフサービスの休暇欠勤期間の計算で使用されるフレックスおよび記録時刻スケジュールの非勤務日で使用します。

設定 1 ～ 設定 4 (スケジュール設定)

これらのチェック ボックスをオンにすると、シフト内の時間数が計算されます。対応する [スケジュール設定合計時間] の各フィールドが、シフト内の対応する時間数で更新されます。

たとえば、シフト内の午前と午後の時間数を自動計算するには、午前の全記録時刻の行で [設定 1] のチェック ボックスをオンにし、午後の全記録時刻の行で [設定 2] のチェック ボックスをオンにします。

注意: これらのフィールドは、休暇欠勤セルフサービスの休暇欠勤期間の計算で使用されるフレックスおよび記録時刻スケジュールの非勤務日で使用します。

勤務日の定義

勤務日ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[スケジュール]、[勤務日]、[勤務日])。

勤務日

セットID: AUS01 Setid for AUS01 BU

勤務日 ID: KA8HRDAY

勤務日情報 検索 | 全件表示 最初 1/1 最後

*有効日:	1979/12/31	31	+ -
*名称:	8 Hour Day	略称:	8Hrs

勤務日ページ

スケジュール定義を作成する際、シフトをグループ分けするために勤務日を使用します。勤務日の有効日と名称を入力します。勤務日の有効日は、それを使用するスケジュール定義の有効日と同じかそれより前である必要があります。

注意: 勤務日の設定は、スケジュール定義を作成するための前提条件ではありません。スケジュール定義を作成する際には、勤務日によってグループ分けされていないシフト情報を定義できます。

スケジュール定義の作成

"定義" の定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[スケジュール]、[定義]、[定義])。

定義(D)

スケジュール シフト(S)

セットID:

AUS01

Setid for AUS01 BU

スケジュール ID:

KA8HRELAPSED

スケジュール詳細

検索 | 全件表示

最初

1/1

最後

有効日:

1980/01/01

31

*ステータス:

アクティブ

+

-

*名称:

8 hour Elapsed

略称:

8 hour Ela

*定義タイプ:

経過時間

スケジュール日数:

7

☐ 交代勤務スケジュール

*サマータイム ルール:

修正時間

勤務時間レポートのタスク グループ*

デフォルト タスク グループ:

タスク テンプレート ID:

勤務時間レポート テンプレート ID:

"定義" - 定義ページ

スケジュール ID このページにアクセスするために入力した値が表示されます。

スケジュール詳細

有効日 スケジュール定義の開始日を指定します。たとえば、スケジュールが月曜日から始まる場合は、入力する日付が月曜日になるようにします。

定義タイプ

タイプを選択します。オプションは、以下のとおりです。

[経過時間]: この定義に使用できるのは、経過時間シフトのみです。

[記録時刻]: この定義に使用できるのは、記録時刻シフトのみです。

[フレックス]: この定義に使用できるのは、フレックス シフトのみです。

同一定義内で異なるタイプのシフトを組み合わせることはできません。

追加モードで定義をしている際、一度シフト詳細行を選択した後にこのフィールドの値を変更しようとする、タイプ フィールドを変更するとシフト詳細行が削除されるという警告が表示されます。

タイプを指定して保存したスケジュール定義は、他のタイプに変更することはできません。たとえばタイプを [経過時間] と指定して保存したスケジュール定義を [記録時刻] に変更することはできません。

交代勤務スケジュール

この定義が交代勤務スケジュール用であることを示す場合に選択します。このチェック ボックスをオンにすると、[交代勤務の詳細] グループ ボックスが表示されます。

スケジュール日数

スケジュールに含める日数を入力します。この日数はいつでも変更できます。日数を変更すると、スケジュール内の各日につき 1 行が存在するように SCH_DEFN_DTL テーブルに対して自動的に行が挿入または削除されます。

サマータイム ルール

このフィールドは、記録時刻スケジュールとフレックス スケジュールに適用されます。

サマータイム時間切替日があるシフトと重なる場合にその日のスケジュールをどのように決定するかを選択します。

[修正時間]: シフトを 1 時間長くまたは短くする場合でも、指定された終業時間が使用されます。

[修正期間]: シフトに指定された合計期間を維持するようにスケジュールが調整されます。

勤務時間レポートのタスク グループ

このグループ ボックスを使用すると、スケジュール定義の作成中に勤務時間レポートおよびタスク エlementを表示できます。このグループ ボックスは、勤務管理がインストールされている場合にのみ表示されます。

タスク グループ

タスク グループを選択します。[勤務時間レポート テンプレート ID] フィールドには関連付けられている勤務時間レポート テンプレートが表示されます。

タスク テンプレート ID

選択したタスク グループに関連付けられているタスク テンプレートが表示されます。タスク テンプレートに関する詳細を表示するには隣にあるリンクをクリックします。

勤務時間レポート テンプレート ID

このフィールドには、選択したタスク グループに関連付けられている勤務時間レポート テンプレートが挿入されます。勤務時間レポート テンプレートに関する詳細を表示するには、このフィールドの隣のリンクをクリックします。

タスク テンプレートと関連する勤務時間レポート テンプレートにより、スケジュール用にグリッド列に表示されるタスク エlementと勤務時間レポート エlementが決まります。

交代勤務の詳細

このグループ ボックスを使用してスケジュールの交代勤務パターンを決定します。同一のスケジュールを共有するが、開始日の異なる複数の交代勤務 ID を作成します。

交代勤務 ID

各交代勤務の ID を入力します。

相対日付

交代勤務が開始する日を、スケジュールの初日から数えて何日目かで入力します。たとえば、このフィールドに「8」を入力した場合、関連する交代勤務は初日から 7 日後に開始します。

注意: 「0」を入力したり、スケジュールの合計日数を超える数値を入力することはできません。

交代勤務の追加

新しい交代勤務を挿入する場合にクリックします。新しい交代勤務の相対日付を決定するために、交代勤務間の日数を入力するように求められます。

スケジュール定義のシフト詳細の定義

"定義" のスケジュール シフト ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[スケジュール]、[定義]、[スケジュール シフト])。

定義(D)スケジュール シフト(S)

セットID: AUS01Setid for AUS01 BU
スケジュール ID: KA8HRELAPSED

スケジュール詳細

検索 | 全件表示 | 最初1/1 | 最後

有効日: 1980/01/01
名称: 8 hour Elapsed
タスクグループ:

ステータス: アクティブ
勤務時間合計: 40.00
カレンダーの表示

シフト詳細

カスサイズ | 検索 | 全件表示 | 最初1-7/7 | 最後

シフト時間(S) | 設定可能時間の合計(C) | 検索

選択	日数	勤務日 ID	シフト ID	非勤務日	予定勤務時間	追加詳細		
<input type="checkbox"/>	1	KA8HRDAY	KA8ELAPSED	<input type="checkbox"/>	8.00	追加詳細	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>
<input type="checkbox"/>	2	KA8HRDAY	KA8ELAPSED	<input type="checkbox"/>	8.00	追加詳細	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>
<input type="checkbox"/>	3	KA8HRDAY	KA8ELAPSED	<input type="checkbox"/>	8.00	追加詳細	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>
<input type="checkbox"/>	4	KA8HRDAY	KA8ELAPSED	<input type="checkbox"/>	8.00	追加詳細	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>
<input type="checkbox"/>	5	OFF	OFF	<input checked="" type="checkbox"/>	0.00	追加詳細	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>
<input type="checkbox"/>	6	OFF	OFF	<input checked="" type="checkbox"/>	0.00	追加詳細	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>
<input type="checkbox"/>	7	KA8HRDAY	KA8ELAPSED	<input type="checkbox"/>	8.00	追加詳細	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>

シフト詳細で作業

☒ 全て選択 | ☐ 全て選択解除 | | |

スケジュール日数: 7

"定義" - スケジュール シフト ページ

このページを使用して、以下の 2 種類の方法でスケジュールのシフト情報を定義します。

- 事前定義済みの勤務日とシフトの使用

[勤務日 ID] 列と [シフト ID] 列を使用して、事前定義済みの勤務日とシフトを選択します。
入力したシフトに基づいて残りの列に値が挿入されます。

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

493

- 手動入力 (フレックス スケジュールと記録時刻スケジュールの場合)

定義しているスケジュールのタイプによって、[シフト詳細] グリッドに表示される列が決定されます。記録時刻スケジュールの場合は、スケジュール設定ページで定義したデフォルトの記録時刻パターンとラベルが表示されます。使用可能な全ての記録時刻タイプを表示するには、[記録パターン] フィールドで [全記録パターン] を選択します。フレックス スケジュールの場合は、[In] (始業)、[Out] (終業)、および [予定勤務時間] の各フィールドが表示されます。経過時間スケジュールの場合は、非勤務日と予定勤務時間を示すフィールドが表示されます。

非勤務日を指定するには、事前定義済みの非勤務日を選択するか、[非勤務日] チェック ボックスをオンにして始業時刻と終業時刻を入力できます。このチェック ボックスをオンにすると、[追加詳細] リンクは非アクティブになります。これにより、非勤務日の時間を追加できます。

[カレンダーの表示] リンクをクリックして、スケジュール定義から作成されるスケジュール カレンダーを表示します。

[追加詳細] リンクをクリックして、シフトの詳細を表示または入力できるシフト情報ページにアクセスします。

参照: 第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、スケジュール設定の定義および日付のロード、45 ページ。

[コピー]、[貼り付け]、および [シフトのクリア]

[選択] 列のチェック ボックスをオンにします。これにより、[コピー]、[貼付け]、および [シフトのクリア] の各リンクが使用できるようになり、勤務日とシフト情報の行をすばやくコピー、挿入、および削除できます。

参照: 第 13 章、「スケジュールの使い方」、シフトの設定、482 ページ。

設定可能時間の合計

[設定可能時間の合計] タブをクリックします。

定義(D)

スケジュールシフト(S)

職務名:

従業員 ID:

雇用コード: 0

スケジュール詳細

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

有効日:

名称: 8 hour Elapsed

勤務時間合計: 40.00

タスクグループ: [カレンダーの表示](#)

シフト詳細

加減算 | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1-7/7 | 最後

シフト時間(S)

設定可能時間の合計(C)

選択	日数	勤務日 ID	シフト ID	非勤務日	予定勤務時間	追加詳細		
<input type="checkbox"/>	1	<input type="text" value="KA8HRDAY"/>	<input type="text" value="KA8ELAPSED"/>	<input type="checkbox"/>	8.00	追加詳細	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>
<input type="checkbox"/>	2	<input type="text" value="KA8HRDAY"/>	<input type="text" value="KA8ELAPSED"/>	<input type="checkbox"/>	8.00	追加詳細	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>
<input type="checkbox"/>	3	<input type="text" value="KA8HRDAY"/>	<input type="text" value="KA8ELAPSED"/>	<input type="checkbox"/>	8.00	追加詳細	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>
<input type="checkbox"/>	4	<input type="text" value="KA8HRDAY"/>	<input type="text" value="KA8ELAPSED"/>	<input type="checkbox"/>	8.00	追加詳細	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>
<input type="checkbox"/>	5	<input type="text" value="KA8HRDAY"/>	<input type="text" value="KA8ELAPSED"/>	<input type="checkbox"/>	8.00	追加詳細	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>
<input type="checkbox"/>	6	<input type="text" value="OFF"/>	<input type="text" value="OFF"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	0.00	追加詳細	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>
<input type="checkbox"/>	7	<input type="text" value="OFF"/>	<input type="text" value="OFF"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	0.00	追加詳細	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>

シフト詳細で作業

☒ 全て選択 ☐ 全て選択解除

スケジュール日数: 7

スケジュール定義 - スケジュール シフト - 設定可能時間の合計タブ


このタブには、各設定インジケータに関連付けられている合計時間数が表示されます。給与計算ルールと休暇欠勤ルールでこの設定可能時間の合計を使用できます。

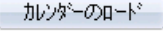
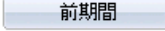

スケジュール カレンダーの表示

スケジュール カレンダー ページにアクセスします ("定義" のスケジュール シフト ページで [カレンダーの表示] リンクをクリックします)。

スケジュール カレンダー

セットID: AUS01 Setid for AUS01 BU
 スケジュール ID: KA8HRELAPSED 8 hour Elapsed

開始日: 2010/12/14 
 ワークグループ: 

曜日	日付	日数	勤務日 ID	シフト ID	予定勤務時間	追加詳細
3 - 火曜	2010/12/14	1	KA8HRDAY	KA8ELAPSED	8.00	追加詳細
4 - 水曜	2010/12/15	2	KA8HRDAY	KA8ELAPSED	8.00	追加詳細
5 - 木曜	2010/12/16	3	KA8HRDAY	KA8ELAPSED	8.00	追加詳細
6 - 金曜	2010/12/17	4	KA8HRDAY	KA8ELAPSED	8.00	追加詳細
7 - 土曜	2010/12/18	5	KA8HRDAY	KA8ELAPSED	8.00	追加詳細
1 - 日曜	2010/12/19	6	OFF	OFF		追加詳細
2 - 月曜	2010/12/20	7	OFF	OFF		追加詳細

スケジュール カレンダー ページ

このページを使用すると、特定のスケジュール定義から作成されたスケジュール カレンダーを表示できます。

開始日

表示するスケジュール カレンダーの開始日を入力します。デフォルトでは、このページには関連付けられているスケジュール定義の有効日から始まるスケジュール カレンダーが表示されます。

交代勤務 ID

スケジュール カレンダーを表示する交代勤務 ID を選択します。このフィールドは、スケジュール カレンダー用に定義された交代勤務 ID が存在する場合にのみ表示されます。

ワークグループ

スケジュール カレンダーを表示するワークグループを入力します。このフィールドは、勤務管理がインストールされている場合にのみ使用できます。

カレンダーのロード

選択した日付とワークグループのスケジュール カレンダーを表示する場合にクリックします。

前期間

前の期間のスケジュール カレンダーを表示する場合にクリックします。

次期間

次の期間のスケジュール カレンダーを表示する場合にクリックします。

勤務スケジュールの確認

記録時刻タイプのスケジュールについては、シフトに変更が加えられた場合、関連するスケジュールも再度確認する必要があります。

スケジュールの確認に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
確認対象スケジュール	SCH_CLND_REFRESH	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[スケジュール]、[確認対象スケジュール]、[確認対象スケジュール]	シフトを変更した後にスケジュールを確認します。

スケジュールの確認

確認対象スケジュール ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[スケジュール]、[確認対象スケジュール]、[確認対象スケジュール])。

確認対象スケジュール

セットID: SHARE Table Set shared across Corp

確認の必要なスケジュール定義

カスタマイズ | 検索 | 最初 1/1 最後

スケジュール ID	名称	ステータス	確認	スケジュールの表示
KOWRKSCH	KOWRKSCH	未確認	<div>確認</div>	スケジュールの表示

確認対象スケジュール ページ

記録時刻タイプのスケジュールについて関連するシフトが変更されたため、確認の必要があるスケジュールのリストがこのページに表示されます。確認の必要があるスケジュールごとに、スケジュール ID、名称、ステータスが表示されます。

スケジュールを確認する場合は [確認] ボタン、スケジュール定義ページにアクセスする場合は [スケジュールの表示] リンクをクリックします。

休日スケジュールの定義

休日スケジュールを定義するには、休日スケジュール コンポーネント (HOLIDAY_SCHED_TBL) を使用します。

バッチ処理時に各受給者の休日スケジュールが取得され、この情報を使って休暇処理およびカウントが実行されます (日次休日スケジュール情報のシステム エLEMENTがいくつか用意されています)。

デフォルトでは、受給者には支給グループの休日スケジュールが継承されます。"職務データ" の給与計算ページを使用して受給者に異なる休日スケジュールを割り当てることができます。

休日スケジュールの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
休日スケジュール	HOLIDAY_SCHED_TBL	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[休日スケジュール]、[休日スケジュール]	休日スケジュールを定義します。

勤務スケジュールの割り当て

このセクションでは、勤務スケジュールの割り当ての概要と、以下の項目について説明します。

- 受給者への勤務スケジュールの割り当て
- 個人スケジュール定義の作成
- 勤務スケジュールの交代勤務の比較

勤務スケジュールの割り当てについて

勤務スケジュールを作成した後は、支給グループ名ページを使用してスケジュール グループとスケジュール ID を各支給グループに割り当てます。デフォルトでは、受給者には受給者の支給グループに関連付けられているスケジュール グループと勤務スケジュールが継承されます。(支給グループは、職務情報コンポーネントの給与計算ページを使用して受給者に割り当てられます。)

勤務スケジュール割当コンポーネント (GP_SCH_ASSIGN) を使用して支給グループのデフォルト以外のスケジュールを受給者に明示的に割り当てることができます。また、このコンポーネントを使用して、代替のスケジュールを受給者に割り当て、個人スケジュール定義コンポーネント (SCH_DEFN_ADHOC) にアクセスして受給者の個人スケジュールを定義することもできます。

受給者にスケジュールを割り当てると、その受給者に対しそれとは異なるタイプで定義されている勤務日上書きは全て削除され、新しく割り当てたスケジュールと同じか、それより後の日付が設定されます (たとえば、**記録時刻**の代わりに**経過時間**を割り当てた場合など)。

管理者は、セルフサービス ページを使用してスケジュールを受給者に割り当てたり、スケジュール割り当てを変更することができます。セルフサービス ページについてはこの章の後の方で説明します。

注意: スケジュールの割り当てについては、Workforce_Sync メッセージが PERSON_DATA キューでアクティブである必要があります。このキューは PeopleSoft インテグレーション ブロカー機能に用意されています。

勤務スケジュールの割り当てに使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
支給グループ名	GP_PYGRP_NAME	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[組織]、[支給グループ]、[支給グループ名]	スケジュール グループとスケジュールを支給グループに割り当てます。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
勤務スケジュールの割当	SCH_ASSIGN	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[受給者レベル 上書き]、[勤務スケジュール割当]、[勤務スケジュール割当]	受給者の長期スケジュールまたは代替スケジュールを割り当てます。
定義	SCH_DEFINITION	"勤務スケジュールの割当" ページで、[スケジュールの作成] リンク (割当方法が [個人スケジュールの作成] である場合にのみ表示) をクリックします。	特定の受給者のスケジュール定義詳細を定義します。
スケジュール シフト	SCH_DEFINITION_2	"勤務スケジュールの割当" ページで、[スケジュールの作成] リンク (割当方法が [個人スケジュールの作成] である場合にのみ表示) をクリックします。スケジュール シフト ページを選択します。	特定の受給者のシフト詳細を定義します。
スケジュール カレンダー	SCH_CALENDAR	"勤務スケジュールの割当" ページで、[スケジュールの表示] リンクをクリックしてスケジュール カレンダー ページにアクセスします。([スケジュールの表示] リンクは、割当方法が [デフォルト使用] または [定義済スケジュールの選択] である場合に表示されます。)スケジュール カレンダー ページの [交代勤務情報の比較] リンクをクリックします。	選択した交代勤務を比較して、スケジュール割り当ての有効日時点での交代勤務のパターンを確認します。

関連項目:

第 14 章、「組織構造の定義」、支給グループの定義に使用するページ、 537 ページ

第 13 章、「スケジュールの使い方」、スケジュールの管理に使用するページ、 506 ページ

受給者への勤務スケジュールの割り当て

"勤務スケジュールの割り当て" ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[受給者レベル上書き]、[勤務スケジュール割り当て]、[勤務スケジュール割り当て])。

勤務スケジュールの割り当て

Helen Grimes

従業員 ID: KA3007

職務名: Clerk-Shipping

雇用コード: 0

展開して説明を表示

スケジュール割り当て

加減算 | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

主スケジュール(P)

代替スケジュール(A)

有効日	割り当て方法	スケジュール グループ*	スケジュール ID	名称	交代勤務 ID	スケジュールの表示		
2000/01/01	定義済スケジュールの選択	KAAUS	KA4WKROT	4 Week Rotating Roster	TEAM 3	スケジュールの表示	+	-

スケジュール割り当ての履歴を全て表示 (デフォルトの変更を含む)

"勤務スケジュールの割り当て" ページ

主スケジュールの詳細

割当方法

以下の値から選択します。

- [個人スケジュールの作成]: この受給者について有効日が設定されたスケジュールを作成する場合に選択します。このオプションを選択すると、[スケジュールの作成] リンクが表示されます。
- [定義済スケジュールの選択]: 受給者と関連付けるスケジュールグループとスケジュール ID を選択します。
- [デフォルト使用]: 受給者の支給グループのデフォルト スケジュールを割り当てる場合に選択します。

注意: 支給期間の開始日よりスケジュールの有効日が後の場合、支給期間の開始日からスケジュールの有効日までの期間については、比例配分の分母は、支給グループのデフォルト スケジュールに従います。スケジュールを全期間に割り当てるには、スケジュールの有効日を期間の開始日に変更します。

スケジュール グループ

割当方法が [定義済スケジュールの選択] または [個人スケジュールの作成] である場合は、受給者に割り当てるスケジュール グループを選択します。各スケジュール グループには、受給者に関連付けることができるスケジュール (定義済みスケジュールを割り当てる場合)、または使用可能な定義済みの勤務日とシフト (個人スケジュールを作成する場合) を決定するセットID が関連付けられています。

割当方法が [デフォルト使用] である場合は、受給者の支給グループから継承されるスケジュール グループが表示されます。

スケジュール ID

割当方法が [定義済スケジュールの選択] である場合は、受給者に割り当てるスケジュールを選択します。

割当方法が [デフォルト使用] である場合は、受給者の支給グループから継承されるスケジュール ID が表示されます。

割当方法が [個人スケジュールの作成] である場合は、このフィールドには受給者の従業員 ID と 0 が 5 つ表示されます。たとえば、受給者の従業員 ID が KA3007 である場合、スケジュール ID は KA300700000 となります。

交代勤務 ID

このフィールドは、選択したスケジュールが交代勤務スケジュールである場合に表示されます。受給者を割り当てるスケジュールの相対日付を決定するために使用されます。

スケジュールの表示

このリンクは、割当方法が [デフォルト使用] または [定義済スケジュールの選択] である場合に表示されます。クリックすると、スケジュール カレンダー ページにアクセスして、スケジュール割り当ての有効日時点のスケジュールを確認できます。交代勤務スケジュールの場合は、スケジュール カレンダー ページのリンクをクリックして交代勤務情報を比較できます。

スケジュールの作成

このリンクは、割当方法が [個人スケジュールの作成] である場合に表示されます。クリックすると、個人スケジュール定義コンポーネントにアクセスして、この受給者のスケジュールを定義できます。

代替スケジュール

[代替スケジュール] タブを選択します。

勤務スケジュールの割当

Helen Grimes

従業員 ID: KA3007

職務名: Clerk-Shipping

雇用コード: 0

展開して説明を表示

スケジュール割当

主スケジュール(P)

代替スケジュール(A)

有効日	割当方法	代替スケジュール グループ*	代替スケジュール ID	名称	スケジュールの表示
2000/01/01	デフォルト使用				スケジュールの表示

スケジュール割当の履歴を全て表示 (デフォルトの変更を含む)

主割当の履歴(R)

代替割当の履歴(L)

有効日	割当方法	スケジュール グループ*	スケジュール ID	名称	交代勤務 ID
2000/01/01	定義済スケジュール	KAAUS	KA4WKROT	4 Week Rotating Roster	TEAM 3

"勤務スケジュールの割当" ページ - 代替スケジュール タブ

このタブを使用して代替のスケジュールを受給者に割り当てます。このタブのフィールドは、[主スケジュールの詳細] タブのフィールドと似ています。

スケジュール割り当ての履歴の表示

ページの履歴セクション展開するリンクをクリックすると、受給者の支給グループに割り当てられたデフォルトのスケジュールに対する変更を含む、全てのスケジュール割り当てが表示されます。

個人スケジュール定義の作成

個人スケジュール定義の定義ページにアクセスします ("勤務スケジュールの割当" ページで、[スケジュールの作成] リンクをクリックします)。

スケジュール定義を作成するのと同じ方法で受給者のスケジュールを定義します。ただし、個人スケジュールを交代勤務スケジュールにすることはできません。

関連項目:

第 13 章、「スケジュールの使い方」、スケジュール定義の作成、490 ページ

交代勤務の比較

スケジュール カレンダー ページにアクセスします ("勤務スケジュールの割当" ページで、[スケジュールの表示] リンクをクリックします)。

スケジュール カレンダー

セットID: AUS01 Setid for AUS01 BU
 スケジュール ID: KA4WKROT 4 Week Rotating Roster

開始日: 2010/12/14 *交代勤務 ID: TEAM 1

ワークグループ:

カレンダーのロード 前期間 次期間

スケジュール カレンダー

シフト時間(S) 設定可能時間の合計(C) 加減サイズ | 検索 | 最初 1-28/28 最後

曜日	日付	日数	勤務日 ID	シフト ID	始業	昼食	始業	終業	タイムゾーン	予定勤務時間	追加詳細
3 - 火曜	2010/12/14	1	KASHIFTPM	KASHIFTPM	14:00:00	18:30:00	19:00:00	22:30:00		8.00	追加詳細
4 - 水曜	2010/12/15	2	KASHIFTPM	KASHIFTPM	14:00:00	18:30:00	19:00:00	22:30:00		8.00	追加詳細
5 - 木曜	2010/12/16	3	KASHIFTPM	KASHIFTPM	14:00:00	18:30:00	19:00:00	22:30:00		8.00	追加詳細
6 - 金曜	2010/12/17	4	KASHIFTPM	KASHIFTPM	14:00:00	18:30:00	19:00:00	22:30:00		8.00	追加詳細
7 - 土曜	2010/12/18	5	KASHIFTPM	KASHIFTPM	14:00:00	18:30:00	19:00:00	22:30:00		8.00	追加詳細
1 - 日曜	2010/12/19	6	OFF	OFF							追加詳細
2 - 月曜	2010/12/20	7	OFF	OFF							追加詳細

スケジュール カレンダー ページ

表示されるスケジュール パターンが実際のスケジュールの長さです。たとえば、スケジュールが 28 日間である場合は、それが表示される実際のパターンです。

交代勤務情報の比較

比較する交代勤務を選択する場合にクリックします。スケジュールに関連付けられている交代勤務 ID のリストが表示されます。比較したい交代勤務 ID を選択し、[交代勤務情報のロード] ボタンをクリックします。

管理者用セルフサービス スケジュール機能の使い方

管理者は、グローバル ペイロールのセルフサービス ページを使用して勤務スケジュールの割り当て、表示、変更、および上書きを行うことができます。適用範囲、割り当て済みのシフト、および合計勤務時間数の表示に加えて、管理者は要員の変更、シフトの交換、スケジュールのコピー、および短期と長期のスケジュールの変更が可能です。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- スケジュールの管理
- シフトの上書き
- デフォルト オプションの選択

- 要員の変更
- スケジュールのコピー
- スケジュールの交換
- スケジュールの割り当てと作成

スケジュールの管理に使用するページ

注意: 以下の表は、グローバル ペイロールで提供されるセルフサービス スケジュール ページだけを示しています。勤務管理もインストールしている場合は、『PeopleSoft Enterprise 勤務管理 PeopleBook』のドキュメンテーションも参照してください。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
週次スケジュール	SCH_MNG_DAILY SCH_MNG_WEEKLY SCH_MNG_DRANGE	[管理者セルフサービス]、[勤務時間管理]、[スケジュールの管理]、[スケジュールの管理]、[週次スケジュール]	受給者のスケジュールを表示し、リンクされているページにアクセスしてスケジュールを更新します。
"日次詳細 <日付>" ページ	SCH_MNG_DAILY_DTL	週次スケジュール ページで、時間数 のリンクをクリックします。	指定のシフトおよび上書きシフト情報の詳細を表示します。
スケジュール表示オプションの管理	SCH_MNG_OPTIONS	週次スケジュール ページ下部の [スケジュール表示オプション] リンクをクリックします。	"スケジュールの管理" ページのデフォルト設定を定義します。
スケジュール基本設定	SCH_EE_PREF	週次スケジュール ページで、"<管理者名> の従業員" グループ ボックスの受給者の名前をクリックします。	従業員の連絡先およびスケジュールの基本設定を表示します。 このページは他の箇所でも使用されます。 参照: 第 13 章、「スケジュールの使い方」、スケジュール基本設定の入力とスケジュールの表示に使用するページ、516 ページ。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
要員の変更	SCH_MNG_REPLACE	週次スケジュール ページで、受給者を選択し、[スケジュールの置き換え] ボタンをクリックします。	従業員の交換要員を検索します。
スケジュールのコピー	SCH_MNG_COPY	週次スケジュール ページで、受給者を選択し、[スケジュールのコピー] ボタンをクリックします。	別の従業員に使用できるように従業員スケジュールをコピーします。
スケジュールの交換	SCH_MNG_SWAP	週次スケジュール ページで、2 人の受給者を選択し、[スケジュールの交換] ボタンをクリックします。	2 人の従業員のスケジュールを交換します。
勤務スケジュールの割当	SCH_ASSIGN	[管理者セルフサービス]、[勤務時間管理]、[スケジュールの管理]、[スケジュールの管理]、[勤務スケジュール割当]	受給者への勤務スケジュールの割り当て

スケジュールの管理

週次スケジュール ページにアクセスします ([管理者セルフサービス]、[勤務時間管理]、[スケジュールの管理]、[スケジュールの管理]、[週次スケジュール])。

週次スケジュール

▼ 従業員の選択条件

従業員選択条件

説明	値
タイム レポーター グループ°	GXABS
従業員 ID	
雇用コード°	
姓	
名	
ビジネス ユニット	
職務コード°	
職務名称	
部門	
監督者の従業員 ID	
直属上司のポジション番号	
所在地コード°	
会社コード°	
北米支給グループ°	
グローバル ヘッドロールの支給グループ°	

選択条件をクリア

選択条件を保存

従業員を取得

▶ 説明

週次スケジュール ページ (1/3)

日付/スケジュールの選択

表示単位: 週

日付: 2009/04/07

スケジュール グループ: *スケジュール タイプ: 主要 前週 翌週

Betty Locherty の従業員

選択	氏名	職務名	火曜 09/04/07	水曜 09/04/08	木曜 09/04/09	金曜 09/04/10	土曜 09/04/11	日曜 09/04/12	月曜 09/04/13
<input type="checkbox"/>	John Hicks	GX JOB CODE 5	0時間 OFF	0時間 OFF	0時間 OFF	0時間 OFF	7時間 GXSH7HRS 8:00 午前-4:00 午後	7時間 GXSH7HRS 8:00 午前-4:00 午後	7時間 GXSH7HRS 8:00 午前-4:00 午後
<input type="checkbox"/>	Lester Quirk	GX JOB CODE 5	8時間 GXH8HRS 8:00 午前-5:00 午後	8時間 GXH8HRS 8:00 午前-5:00 午後	8時間 GXH8HRS 8:00 午前-5:00 午後	8時間 GXH8HRS 8:00 午前-5:00 午後	0時間 OFF	0時間 OFF	8時間 GXH8HRS 8:00 午前-5:00 午後

週次スケジュール ページ (2/3)

スケジュール アクション

スケジュールのコピー スケジュールの置き換え スケジュールの交換

凡例

承認済研修		休暇欠勤予定		休日		複数シフト	
加スオーバー シフト		予定非勤務日	OFF	要員変更済み	R	シフトに変更項目あり	

移動:

[管理者セルフサービス](#)
[勤務時間管理](#)
[スケジュール表示オプション](#)
[勤務スケジュールの割当](#)

週次スケジュール ページ (3/3)

このページにアクセスすると、スケジュール表示オプションの管理ページで設定されているデフォルトに応じて [日次スケジュール]、[週次スケジュール]、または [日付範囲スケジュール] のいずれかが表示されます。

[従業員の選択条件] に値を入力し、[従業員を取得] ボタンをクリックして、変更または確認が必要な受給者のリストをフィルタします。[ワークグループ] と [タスクグループ] の各フィールドは、勤務管理がインストールされている場合にのみ適用されます。[北アメリカの支給グループ] フィールドは、Payroll for North America がインストールされている場合にのみ適用され、[グローバル ペイロールの支給グループ] フィールドは適用されません。

表示単位

リストされている受給者とそのスケジュールを選択した期間を使用して表示する場合に [日]、[週]、または [日付範囲] を選択します。ここで選択した値によって、さまざまなリンクや日付フィールドに表示されるラベルが決定されます。

- [日] を選択した場合は、開始時刻と終了時刻も入力できます。
- [日付範囲] を選択した場合、最大 31 日間のスケジュールを表示できます。

スケジュール タイプ

[主要] または [代替] を選択します。

適用範囲

このフィールドは、日次スケジュールの場合に表示されます。[スケジュール済] と [未スケジュール] を選択できます。

リフレッシュ

表示設定を選択した後でページをリフレッシュする場合にクリックします。

<管理者名> の従業員

検索条件を満たす受給者が一覧表示されます。

選択

このフィールドは、スケジュール アクションのフィールドと連携しています。

名前

スケジュールを変更する前に従業員のスケジュールの基本設定を確認するスケジュール基本設定ページにアクセスする場合は、従業員の氏名をクリックします。

<X> 時間 (X は時間数)

シフト詳細を確認したり、シフトを上書きするために指定のシフトの日次詳細ページにアクセスする場合はこのリンクをクリックします。

スケジュール アクション

[スケジュールの置き換え]、[スケジュールの交換]、および [スケジュールのコピー] というスケジュール アクションを確認後、実行します。

スケジュールの置き換え

受給者の交換要員を検索するには、受給者を選択して [要員の変更] ボタンをクリックします。

スケジュールのコピー

受給者のスケジュールをコピーするには、受給者を選択して [スケジュールのコピー] ボタンをクリックします。コピー元のスケジュールを継承する受給者を指定する "スケジュールのコピー" ページが表示されます。

スケジュールの交換

2 人の受給者のスケジュールを交換するには、2 人の受給者を選択して [スケジュールの交換] ボタンをクリックします。

凡例

承認済研修、休暇欠勤予定、休日などのイベントはアイコンでスケジュール上に示されます。クロスオーバー シフトは、深夜 0 時を過ぎても続くシフトを示します。承認済研修は、勤務管理がインストールされている場合にのみ指定できます。

1 日に複数のシフトがある場合は、最初のシフト情報が複数シフト アイコンと共に表示されます。2 番目のシフトとその詳細は、"日次詳細 <日付>" ページに表示されます。

注意: 承認済研修、休暇欠勤予定、休日、欠勤のアイコンを表示するには、スケジュール表示オプションの管理ページでこれらのオプションを選択しておく必要があります。

シフトの上書き

"日次詳細 <日付>" ページにアクセスします ("スケジュールの管理" ページで、時間数 のリンクをクリックします)。

2009/05/09 のスケジュール詳細

[John Hicks](#)

従業員 ID: GXEEABS62

職務名: GX JOB CODE 5

雇用コード番号: 0

説明

スケジュールのリフレッシュ

*スケジュール タイプ: 記録

*記録パターン: デフォルト

デフォルト タスク グループ:

スケジュールのリフレッシュ (既存のスケジュールをクリアし、上記の選択に基づいてリフレッシュします。)

主スケジュール

スケジュール詳細(S)

シフト ID	タスク グループ*	非勤務日	始業	食事	始業	終業	タイムゾーン	予定勤務時間	追加詳細
GXSH7HRS		<input type="checkbox"/>	08:00:00	12:00:00	13:00:00	16:00:00		7.00	追加詳細

代替スケジュール

今日のスケジュール データはありません

研修詳細

今日の研修データはありません

休暇欠勤詳細

今日の休暇欠勤データはありません

休日詳細

今日の休日データはありません

保存

[スケジュールの管理に戻る](#)

"日次詳細 <日付>" ページ

スケジュール管理のデフォルト オプションの選択

"スケジュール表示オプションの管理" ページにアクセスします (週次スケジュール ページ下部の [スケジュール表示オプション] リンクをクリックします)。

スケジュール オプションの管理

週次グリッドの開始日:

デフォルト表示:

週

最大表示行数:

10

スケジュール カテゴリ
選択

承認済研修

休暇欠勤予定

休日

欠勤

記号

週次/日付範囲オプション

週次ページおよび日付範囲ページに表示するオプションを以下から選択してください。

タスク データ

タスク エlement:

勤務時間レポート項目

時間Element:

スケジュール表示オプションの管理ページ

このページを使用して "スケジュールの管理" ページのデフォルト設定を定義します。

- 週次グリッドの開始曜日

スケジュール グリッドに最初に表示する曜日を選択します。
- デフォルト表示

[日付範囲]、[日]、または [週] を選択して、"スケジュールの管理" ページにアクセスした際に日次、週次、または日付範囲のいずれかのページが表示されるようにします。
- 最大表示行数

各ページに表示する受給者の最大人数を入力します。

スケジュール カテゴリ

スケジュールでアイコンを付けるイベントのタイプを選択します。該当日には対応する記号が表示されます。

承認済研修は、勤務管理がインストールされている場合にのみ適用されます。この場合、PeopleSoft エンタープライズ ラーニング マネジメントおよびヒューマン リソース管理の研修管理で記録されている研修日数を特定できます。

休暇欠勤予定は、(GP_ABS_EVENT テーブルの) 申請済みと承認済み休暇欠勤を表わしています。勤務管理がインストールされている場合は、休暇欠勤予定に基本福利厚生利用者の休職も含まれます。

欠勤情報は、記録時刻スケジュールの受給者に適用されます。勤務管理がインストールされている場合にのみレポートできます。欠勤の記号は、日次スケジュール ページにのみ表示されます。過去の欠勤情報を確認できるように、欠勤情報は保存されます。

週次/日付範囲オプション

勤務管理がインストールされている場合は、週次ページまたは日付範囲ページに 1 つのタイプのタスク データと 1 つの勤務時間レポート項目を表示できます。

要員の変更

"要員の変更" ページにアクセスします (週次スケジュール ページで受給者を選択し、[スケジュールの置き換え] ボタンをクリックします)。

このページには、変更要員が必要なシフトまたは時間範囲には勤務予定のない全ての受給者がリストされます。休暇欠勤が入力されている受給者は除外されます。勤務管理がインストールされている場合は、研修が予定されている受給者も除外されます。

休暇欠勤する受給者をその期間に勤務するスケジュールがない別の受給者と変更する場合に、要員の変更機能を使用します。

交換要員として働く従業員を選択し、[要員の変更] ボタンをクリックします。"スケジュールの管理" ページの [日次スケジュール詳細] 列で、変更された従業員には "R" が表示されます。

この従業員と交代する変更要員はスケジュールを継承します。変更された従業員には、その日の休暇欠勤をレポートするために適切な支給を示す元のスケジュールが保持されます。

要員の変更を元に戻す必要がある場合は、変更された従業員のセル ("R" が表示されているセル) 内の [日次詳細の表示] をクリックします。[要員の変更を元に戻す] ボタンをクリックして [OK] をクリックします。

スケジュールのコピー

"スケジュールのコピー" ページにアクセスします (週次スケジュール ページで受給者を選択し、[スケジュールのコピー] ボタンをクリックします)。

コピー元のスケジュールを適用する 1 人または複数の従業員を選択して、[コピー] ボタンをクリックします。定義された日付または日付の範囲の 1 日全体がコピーされます。

注意: "スケジュールの管理" ページで [表示単位] オプションとして [日] を選択した場合は、[開始日] フィールドは表示だけで編集できません。

スケジュールの交換

"スケジュールの交換" ページにアクセスします (週次スケジュール ページで 2 人の受給者を選択し、[スケジュールの交換] ボタンをクリックします)。

必要に応じて開始日と終了日を変更して、[スケジュールの交換] ボタンをクリックします。1 日全体のスケジュールが 2 人の従業員の間で交換されます。[表示単位] に [日付範囲] を選択した場合は、リストされている全ての日が交換されます。

重要: 休暇欠勤する受給者を変更するために、スケジュールの交換機能を使わないでください。スケジュールの交換機能を使用して変換された受給者が休暇欠勤をレポートした場合は、受給者が休暇欠勤に対し適切な支給を受けられないことがあります。これは、休暇欠勤数を決定するために、休暇欠勤プロセスが受給者の実際のスケジュールではなく交換されたスケジュールを参照するからです。交換されたスケジュールは、非勤務日または別のシフト用の場合があります。

注意: [表示単位] オプションとして [日] を選択した場合は、このページの [開始日] フィールドは表示だけで編集できません。

スケジュールの割り当てと作成

受給者の "勤務スケジュールの割当" ページにアクセスします ([管理者セルフサービス]、[勤務時間管理]、[スケジュールの管理]、[スケジュールの管理]、[勤務スケジュール割当])。

このページを使用して勤務スケジュールを受給者に割り当てたり、割り当て済みのスケジュールを表示するページや、特定の受給者のスケジュールを作成するページにアクセスすることができます。これらのページは、管理者がスケジュールを割り当てたり個人スケジュールを作成するために使用するページと同じです。

関連項目:

第 13 章、「スケジュールの使い方」、勤務スケジュールの割り当て、498 ページ

従業員用セルフサービス スケジュール機能の使い方

従業員は、グローバル ペイロールのセルフサービス ページを使用して、スケジュール更新時の希望連絡方法、集中勤務週に勤務可能かどうか、および曜日ごとの希望シフトなどのスケジュールの基本設定を入力できます。管理者が要員を変更したり、スケジュールを交換またはコピーする際、従業員の基本設定を表示して選択可能な最良の変更要員またはスケジュールを決定できます。

このセクションでは、スケジュール基本設定の設定方法について説明します。

スケジュール基本設定の入力とスケジュールの表示に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
スケジュール基本設定	SCH_EE_PREF	[セルフサービス]、[勤務時間レポート]、[ユーザー基本設定]、[スケジュールの基本設定]	従業員は、スケジュールに関連する基本設定を表示および更新できます。
個人情報	HR_EE_PERS_INFO	スケジュール基本設定 ページで [連絡先情報の更新] リンクをクリックします。	連絡先情報を表示し、各情報を更新できるページにアクセスします。
月次スケジュール	SCH_EE_MONTHLY SCH_EE_PREF	[セルフサービス]、[勤務時間レポート]、[勤務時間の表示]、[月次スケジュール]、[月次スケジュール]	従業員がスケジュールを表示できるようにします。

スケジュールの基本設定の設定

"スケジュールの基本設定" ページにアクセスします ([セルフサービス]、[勤務時間レポート]、[ユーザー基本設定]、[スケジュールの基本設定])。

連絡先基本設定

従業員の希望電話番号と電子メール アドレスが表示されます。PeopleSoft Enterprise eProfile-人材プロファイルがインストールされている場合は、個人情報ページにアクセスするリンクをクリックでき、そこで連絡先情報を更新できます。

スケジュール基本設定

各曜日について、勤務する際に希望するシフトまたは開始時刻と終了時刻を入力します。

集中勤務可

集中勤務週に勤務可能かどうかを定義します。

シフト

勤務する際に希望するシフトを入力します。このフィールドは、従業員 ID に基づいて値が入力されます。現在のユーザーにスケジュールが割り当てられている場合、選択できるシフトはユーザーのスケジュール ID とユーザーのスケジュール グループによって決定されるセットID に対応するシフトだけです。ユーザーにスケジュールが割り当てられていない場合は、[シフト] フィールドは表示されません。

注意: 開始/終了時刻とシフトとの整合性が検証されることはありません。入力された時刻がシフト内に収まるかどうかを検証するロジックは存在しません。

開始時刻、終了時刻

勤務を希望する開始時刻と終了時刻を入力します。

超過勤務可

超過勤務可能かどうかを入力します。

二交代制可

二交代制で勤務可能かどうかを入力します。

第 14 章

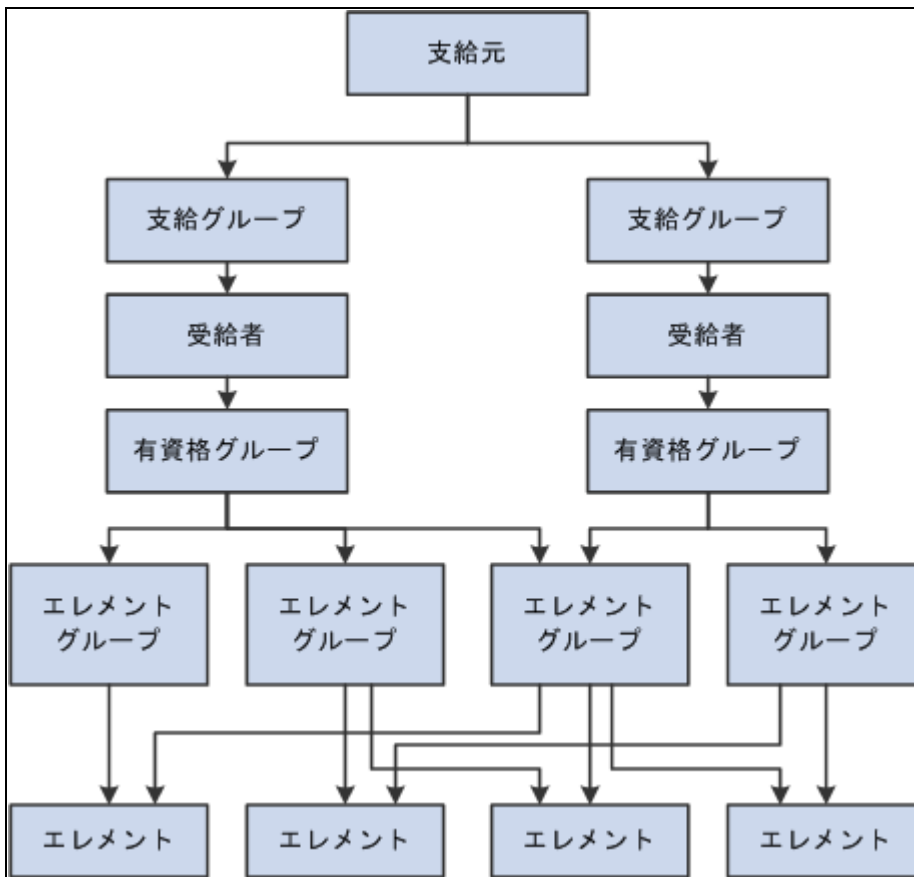
組織構造の定義

この章では、グローバル ペイロールの組織構造の概要および以下の項目について説明します。

- エレメント グループの定義
- 有資格グループの定義
- 支給元の定義
- 支給グループの定義

組織構造について

次の図は、給与計算処理用のグローバル ペイロールの組織構造のコンポーネントを示しています。



グローバル ペイロールの組織構造

エレメントは、グローバル ペイロールの基本構成要素です。エレメント グループは、有資格グループに一連のエレメントを関連付けるために使用します。有資格グループは支給グループに関連付けられます。支給特性を共有する複数の受給者は、支給グループに関連付けられます。複数の支給グループが 1 つの支給元に関連付けられます。支給元は、受給者に対して給与を支給する業務組織のことです。

受給者が受け取るエレメントを管理する方法として、有資格グループとエレメント グループが使用されます。エレメント グループは、支給、控除、休暇付与、および休暇取得などの個別のエレメントで構成されています。有資格グループは、エレメント グループで構成されています。この 2 つのレベルのアプローチにより、以下の例に示すようなより効率的な設定が可能になります。

受給者には、管理者用の有資格グループや従業員用の有資格グループなどの有資格グループがそれぞれ割り当てられます。役職手当のように管理者だけが受け取るエレメントもあれば、超過勤務手当のように従業員だけが受け取るエレメントもあります。また、基本給与や税控除などのように、受給者全員が対象となっているエレメントもあります。

例

管理者と従業員という 2 つの異なる受給者のグループが存在するため、有資格グループを 2 つ作成するとします。

50 個の支給エレメントがあります。これらのうち、10 個を管理者専用の支給エレメント (E1-E10) とし、他の 10 個を従業員専用の支給エレメント (E11-E20) とします。そして、残りの 30 個を全受給者用の支給エレメント (E21-E50) とします。また、受給者全員用に 20 個の税控除エレメント (D1-D20) と、管理者のみを対象とした 10 個の任意控除エレメント (D21-D30) があるとします。

エレメント グループがない場合は、管理者の有資格グループに対してエレメントを 70 個、従業員の有資格グループに対してエレメントを 70 個追加しなければなりません。

エレメント グループの概念を利用して、以下の 5 つのエレメント グループを作成します。

- 管理者支給エレメント グループ (管理者のみを対象とした支給)
- 従業員支給エレメント グループ (従業員のみを対象とした支給)
- 共通支給エレメント グループ (両方の受給者グループを対象とした支給)
- 税控除エレメント グループ (20 個の控除エレメント)
- 任意控除エレメント グループ (管理者のみを対象とした 10 個の控除エレメント)

次の表は、有資格グループに追加するエレメント グループを示しています。

有資格グループ	エレメント グループ メンバー
管理者	管理者支給 (E1-E10) 共通支給 (E21-E50) 税控除 (D1-D20) 任意控除 (D21-D30)
従業員	従業員支給 (E11-E20) 共通支給 (E21-E50) 税控除 (D1-D20)

初期導入後にエレメントを追加する場合、エレメント グループの別のメリットが十分に活かされます。導入後に新しく D21 という税控除を作成するとします。その場合、新しいエレメントを全ての有資格グループに追加する必要はありません。税控除というエレメント グループにエレメントを一回追加するだけで十分です。

エレメント グループの定義

エレメント グループを定義するには、エレメント グループ コンポーネント (GP_ELEMENT_GROUP) を使用します。

このセクションでは、エレメント グループの概要と以下の作業を行う方法について説明します。

- エレメント グループ名の設定
- エレメント グループにエレメントを挿入します。

エレメント グループについて

数多くあるエレメントを区別できるように、エレメントを支給、控除、休暇などのエレメント グループとして定義できます。エレメント グループを使用すると、以下のことが可能になります。

- 複数の受給者への同一のエレメントのセットの割り当て

たとえば、あるエレメント グループに支給エレメントをまとめ、もう 1 つのグループには控除エレメントをまとめ、これら 2 つのエレメント グループを使って支給と控除を指定することもできます。あるいは、時給の従業員用の支給エレメントにエレメント グループを 1 つ作成し、給与所得従業員用の支給エレメントに別のエレメント グループをもう 1 つ作成することもできます。

- オフサイクルの給与計算中に処理するエレメントのセットの識別

オフサイクル トランザクションを処理しているときに、給与計算の訂正や予定外の支給など、エレメント グループ機能を使用して処理するエレメントを指定できます。オフサイクル リクエスト コンポーネント (GP_OFFCYCLE_SETUP) を通してオフサイクルの処理指示を入力する際には、エレメント セットを選択します。

オフサイクル トランザクションを処理しているときに、給与計算の訂正や予定外の支給など、エレメント グループ機能を使用して処理済みのエレメントをフィルタできます。オフサイクル リクエスト コンポーネント (GP_OFFCYCLE_SETUP) を通してオフサイクルの処理指示を入力する際には、エレメント セットを選択します。

- リスト セットの作成

リスト セットとは、エレメントのリストを必要とするプロセスまたはレポートで利用できるエレメントとパラメータの集まりです。たとえば、エレメント グループを使用して、給与明細作成プロセスで使用するリスト セットを作成できます。

関連項目:

第 24 章、「オフサイクル処理の管理」、937 ページ

第 36 章、「アプリケーションとリスト セットの管理」、1377 ページ

エレメント グループの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
エレメント グループ名	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[エレメント グループ]、[エレメント グループ名]	エレメント グループ名を設定し、基本パラメータを定義します。
エレメント グループメンバー	GP_ELEMENT_GROUP	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[エレメント グループ]、[エレメント グループ - エレメント グループメンバー]	エレメント グループにエレメントを挿入します。

エレメント グループ名の設定

全てのエレメントについて、エレメント名共通ページでその名称と基本パラメータを定義してください。グローバル ペイロールでは、全てのエレメントのコンポーネントに、エレメント名共通ページ (GP_PIN) という共通の先頭ページが含まれています。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

エレメント グループへのエレメントの挿入

エレメント グループ メンバー ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[エレメント グループ]、[エレメント グループ メンバー])。

エレメントグループ名

エレメントグループメンバー

エレメント名: K0EGEARNINGS Earnings

所有者: PS 非管理

定義

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

*有効日: 1990/01/01

*ステータス: アクティブ

+ -

*エレメントグループの用途: 資格処理

エレメントグループメンバー

カスタイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1-5/20 | 最後

エレメントタイプ*	エレメント名	名称	資格の割当		
支給	K0SALARY	Salary	有資格グループ	+ -	
支給	K0OVERTM	Overtime	有資格グループ	+ -	
支給	K0PREM1	Premium1	有資格グループ	+ -	
支給	K0PREM2	Premium2	有資格グループ	+ -	
支給	K0PTOBAL	PTO Balance	有資格グループ	+ -	

バージョン: 8.00.00.00

エレメント グループ メンバー ページ

リスト セットで参照されているエレメント グループを変更する際は注意してください。エレメント グループの変更は、関連するリスト セットに影響を与えます。リスト セットとその使用方法、およびエレメント グループとの関係は、この PeopleBook の別の章で詳しく説明しています。

参照: 第 36 章、「アプリケーションとリスト セットの管理」、 1377 ページ。

エレメント グループの用途 このエレメント グループがどのように使用されるかを定義します。このフィールドによって、[エレメント グループ メンバー] グループ ボックスで選択可能なエレメント タイプが制限されます。値は以下のとおりです。

- [全用途を含む]: このエレメント グループが資格処理、オフサイクル処理用プロセス セットの定義、リスト セット機能と共に使用可能な場合に選択します。
- [資格処理]: デフォルト値です。このエレメント グループを資格処理にのみ使用する場合に選択します。
- [プロセス セット]: このエレメント グループが指定のセグメントについて処理されるエレメントの特定のセットを識別する場合に選択します。このタイプのエレメント グループは、オフサイクル処理で使用できます。エレメントをこのグループに入れても資格要件は免除されません。受給者はエレメントを変換するためにこれらのエレメントの資格が必要です。
- [アプリケーション]: このエレメント グループを特にリスト セット機能と共に使用する場合に選択します。この値を選択すると、[アプリケーション - 静的/動的] グループ ボックスと [アプリケーションのデフォルト ソート順序] フィールドが表示されます。

注意: [エレメント グループの用途] フィールドの値は、**複数の有効日**が設定されている行で同一である必要があります。このため、このページに有効日の設定された第 2 の行を追加する場合、有効日の設定された新しい行の [エレメント グループの用途] フィールドには元の行または最も古い有効日の設定された行の値がデフォルトで挿入され、全ての有効日の設定された行で [エレメント グループの用途] フィールドが入力できなくなります。つまり、1 行しかない場合は、[エレメント グループの用途] フィールドの値を編集できます。複数の行を挿入する場合は、全ての行が同じ [エレメント グループの用途] フィールドの値 (元の行または最も古い有効日の設定された行の値) を持ち、全ての行で [エレメント グループの用途] フィールドが入力できなくなります。

アプリケーション - 静的/動的

エレメント グループが静的なエレメント リストであるのか動的なエレメント リストであるのかを選択します。静的なエレメント グループの場合は、[エレメント グループ メンバー] グループ ボックスにエレメント リストが表示されます。動的なエレメント グループの場合は、エレメント グループが呼び出されるたびにグループに入れるエレメントを動的に決定する SQL Where 句 ([動的選択条件] フィールド) のみが表示されます。また、Where 句には、選択したエレメントをソートするための Order By 句を含めることができます。このオプションは、[エレメント グループの用途] が [アプリケーション] であるときにだけ選択できます。

エレメント グループ メンバー

エレメント タイプ

エレメント グループに追加するエレメントのタイプを選択します。有効値は [休暇付与]、[休暇取得]、[控除]、[支給]、および [エレメント グループ] です。

注意: エレメント グループをネストする (つまり、エレメント グループ内にエレメント グループを入れる) 場合は、メンバー グループは親グループと同じ用途オプションを持つ必要があります。

エレメント名

選択したエレメント タイプに対応するエレメント名を選択します。

名称

エレメントの定義コンポーネントを個別のブラウザ ウィンドウで開く場合にクリックします。

資格の割当

選択したエレメントを受給者に割り当てする方法を選択します。このフィールドにより、受給者を有資格グループに登録するだけでそのエレメントが処理されるのか、受給者レベルの支給/控除割当ページでエレメントを割り当てたり、ポジティブ入力を行う必要があるのかを指定できます。このフィールドは、[エレメント グループの用途] が [資格処理] か [全用途を含む] である場合に表示されます。

値は以下のとおりです。

[有資格グループ]: 有資格グループによりこのエレメント グループに関連付けられている全てまたは大半の受給者に対し適用されます。支給および控除のほとんどが受給者特有のものであるため、このオプションが頻繁に使用されることはありません。

[受給者]: 受給者単位で適用されるエレメントです。通常、支給エレメントおよび控除エレメントのほとんどが、このカテゴリに入ります。

このフィールドは、[エレメント グループの用途] に [プロセス セット] を選択すると表示されません。また、[エレメント タイプ] が [エレメント グループ] である場合も表示されません。

アプリケーションのデフォルト ソート順序

エレメントをソートするための順序番号を入力します。複数のエレメントを同一行に表示する場合は、同一の順序番号を使用します。たとえば、事業主と従業員の控除を横に並べて表示する場合に同じ順序番号を使用します。このフィールドは、[エレメント グループの用途] が [アプリケーション] か [全用途を含む] である場合に表示されます。

[エレメント グループの用途] フィールドの変更

必要な場合は、エレメント グループを作成した後で、[エレメント グループの用途] の値を変更できます。このフィールドの値が変更されると、以下のチェックが実行されます。

- このフィールドの値が [資格処理] または [プロセス セット] で、エレメント グループをその特定の領域で使用している場合は、[全用途を含む] への変更だけが可能です。
- このフィールドの値が [資格処理] または [プロセス セット] であるが、エレメント グループをその特定の領域で使用していない場合は、いかなる変更も可能です。
- このフィールドの値が [全用途を含む] である場合は、現在の用途を変更しない場合にのみ変更が許可されます。たとえば、エレメント グループがプロセス セットを定義するために使用されている場合には、[資格処理] に変更することはできません。

関連項目:

- 第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、615 ページ
- 第 36 章、「アプリケーションとリスト セットの管理」、1377 ページ

有資格グループの定義

資格処理グループを定義するには、有資格グループ コンポーネント (GP_ELIG_GROUP) を使用します。

このセクションでは、有資格グループの概要と、エレメント グループを有資格グループに挿入する方法について説明します。

有資格グループについて

有資格グループは、特定の受給者を資格対象者とする指定エレメントの集まりを示すものです。有資格グループは、1 つまたは複数のエレメント グループから構成され、主に従業員のタイプやレベルを区別するために使用されます。たとえば、会社の幹部役員に関連付けるエレメント グループに対し、有資格グループを設定できます。

各支給グループにデフォルトの有資格グループを割り当てます。支給グループに割り当てられた受給者には、その支給グループ定義にある有資格グループが引き継がれます。受給者別に、割り当てられた支給グループの定義を上書きするには、受給者レベルで別の有資格グループを指定します。

有資格グループの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
有資格グループ	GP_ELIG_GROUP	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[組織]、[有資格グループ]、[有資格グループ]	エレメント グループを有資格グループに挿入します。

有資格グループへのエレメント グループの挿入

有資格グループ ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバルペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[組織]、[有資格グループ]、[有資格グループ])。

有資格グループ

有資格グループ: GF1MANAG01

定義

検索 最初 1/1 最後

*有効日: 2000/01/01 31

*ステータス: アクティブ

*名称: 管理者

略称: 管理者

有資格グループ メンバー

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-5/31 最後

エレメント名	名称		
URS EG COTISATIONS	URSSAF element group	+	-
APP EG ELEMENTS	Base salary earnings	+	-
ASS EG ASSEDIC	Usual ASSEDIC El. Grp.	+	-
TAX EG TAXES	Levies deductions	+	-
TAX EG TAXSAL	Taxe on salary element group	+	-

有資格グループ ページ

エレメント名

この有資格グループに関連付けるエレメント グループの名称を選択します。エレメント グループを追加するには、さらに行を追加します。

支給元の定義

- 支給元を定義するには、支給元コンポーネント (GP_PYENT) を使用します。
- このセクションでは、支給元の概要および以下の作業を行う方法について説明します。
- 支給元の住所情報を入力します。
 - 支給元の処理詳細を入力します。

注意: このセクションでは、支給元コンポーネントの最初の 2 ページについて説明します。遡及制限ページ、"サポート エlement 上書き" ページ、および送金元銀行リンク ページを含む支給元コンポーネントの他のページについては、この PeopleBook の別のセクションで説明しています。

関連項目:

第 33 章、「遡及処理の定義」、遡及期間と繰越遡及期限の設定、1240 ページ

第 18 章、「上書きの設定」、支給元上書きの定義、664 ページ

第 34 章、「銀行振込の定義」、支給元と送金元銀行の関連付け、1321 ページ

支給元について

支給元は、受給者に対する給与の支払いを担当する組織です。支給元を使って、計算の処理時に使用する通貨コードも定義できます。支給元とは、組織を給与計算の観点から法的な定義を用いて表したものです。多くの場合、組織と支給元は同じです。ただし、グローバル ペイロールでは組織と支給元との関係を定義しません。複数の組織が 1 つの親会社により所有されている場合、その親会社が支給元となることがあります。あるいは、同一組織であっても、その組織を構成する子会社がそれぞれ独立した支給元となっている場合もあります。システムでは、累計のほとんどが支給元別に定義されます。

バッチ処理

処理詳細ページのデータは、ロードするエレメントを決定するためにバッチ処理時に使用されます。エレメント名共通ページで [全ての国] と指定されているエレメント、および [特定の国] と指定されているエレメントで支給元の国が指定されているエレメントだけがロードされます。

それ以外の国のエレメントが参照先になっている場合は、バッチ プログラムによってエラーが記述されます。処理を続行するかどうかは、そのエレメントの重要度によって決まります。続行しない場合は、以下の内容のメッセージが表示されます。

エレメント %1 (PIN %2) が UPINA にロードされませんでした (国: %3 には該当しません)。

処理が続行される場合は、次の内容のメッセージのいずれかが表示されます。

エレメント %1 (PIN %2) のデータはプロセスにロードされませんでした (国: %3 には無効)。

プロセス リスト %3 の親エレメント %2 のエレメント %1 が %4 にありません。 (PIN 番号、%5)

注意: 指定された国が一致しないという理由以外で、エレメントがロードされない場合もあります。

支給元の定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
支給元住所	GP_PYENT_NAME	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[組織]、[支給元]、[支給元住所]	支給元の住所情報を入力します。
支給元 - 処理詳細	GP_PYENT_PRCS_DTL	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[組織]、[支給元]、[処理詳細]	支給元の処理詳細を入力します。

支給元の住所情報の入力

支給元住所ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[組織]、[支給元]、[支給元住所])。

支給元住所(P)

処理詳細(D)

遡及制限(R)

サポート エlement 上書き

送金元銀行リンク(B)

支給処理統合(C)

支給元: KOPE1

*名称: Pay Entity 1

略称: Pay Entity

定義

検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

*有効日: 1990/01/01

*ステータス: アクティブ

国: CYM

ケイマン諸島

住所:

住所編集

支給元住所

国 支給元が存在する国を選択します。

住所 支給元の住所を入力する場合は [住所編集] リンクをクリックします。選択した国用に設定された住所フィールドが表示されます。住所情報のフィールドへの入力 は 必須ではありません。組織の支給元に適用される情報だけ入力します。その他のフィールドは空白のままにしておきます。

支給元の処理詳細の入力

"支給元" の処理詳細ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[組織]、[支給元]、[処理詳細])。

支給元住所(P)	処理詳細(D)	遡及制限(R)	サポート エlement 上書き	送金元銀行リンク(B)	支給処理統合(C)
支給元: KOPE1 Pay Entity 1 *国: CYM クイマン諸島					
期間定義					
*カレンダー年開始月:		1 月	*カレンダー年開始日:		1
*会計年度開始月:		1 月	*会計年度開始日:		1
支給情報(&D)					
支給キー 1:		会社コード	支給キー 2:		契約番号
支給キー 3:			支給キー 4:		
*送金元銀行 ID:		KU01 State Bank			
処理割当					
有効日: 1990/01/01 ステータス: アクティブ					
処理通貨					
*通貨コード:		USD アメリカドル			
<input checked="" type="radio"/> 端数処理なし <input type="radio"/> 指定の端数処理使用 端数処理ルール Element:					
<input type="checkbox"/> ホステッド入力による資格の上書きを許可					

"支給元" - 処理詳細ページ

警告: 導入後は、上記ページの有効日が設定されている領域よりも上にあるフィールドの値を変更しないでください。変更すると、遡及計算および累計計算の整合性が損なわれる場合があります。

国 支給元の処理国を選択します。

時間枠定義

カレンダー年開始月、カレンダー年開始日 支給元が採用しているカレンダー年の開始日を入力します。累計定義で特に異なる設定を定義しない限り、この日付がカレンダー年に基づいた累計のデフォルトの開始日として使用されます。

会計年度開始月、会計年度開始日 支給元が、カレンダー年とは異なる会計年度を採用している場合、その会計年度の開始日を指定します。累計定義で特に異なる設定を定義しない限り、この日付が会計年度に基づいた累計のデフォルトの開始日として使用されます。

支給情報

支給キー 1 ～ 支給キー 4 ビジネス ルールで支給キーを使用する必要がある場合は、ここで支給キーを設定します。1 つの支給元に対し、支給キーを 4 つまで設定できます。オプションは、[会社コード]、[契約番号]、[部門]、および [事業所 ID] です。

支給キーは主に遡及繰り越しで使われます。たとえば、再計算期間 (この期間の遡及デルタが繰り越されます) に [会社コード] や [契約番号] などの支給キーが指定されていて、その遡及デルタが現行期間に繰り越される場合、システムでは現行の支給期間の中で遡及デルタ データを別に分けて保存します。これにより、これらの支給キーのセットに対し GP_PYE_SEG_STAT というレコードが新たに作成され、現行の支給期間における総額/純額計算を分けて実行できます。

送金元銀行 ID

デフォルトの送金元銀行を入力します。この支給元の受給者の給与支給アクティビティに、資金を提供するために使用されます。送金元銀行リンク ページから、この値を上書きすることもできます。

処理通貨

計算が実行される前に、その他の通貨が支給元レベルで定義された処理通貨に換算されます。

通貨コード

デフォルトの処理通貨を選択します。ここで指定した通貨は、計算やレポートに使用されたり、関連通貨のないエレメントのデフォルト通貨として使用されます。

注意: 支給期間中に有効日に変更された場合、その支給期間の最終日の時点での有効通貨が使用されます。通貨を変更する場合は、支給期間の開始時に行うようにしてください。

端数処理なし

通貨換算時に端数処理をしない場合、このオプション ボタンを選択します。

指定の端数処理使用

値のソース (たとえばポジティブ入力、累計、再計算/履歴抽出ルールなど) にかかわらず、通貨換算時に端数処理ルールを実行する場合、このオプション ボタンを選択します。

端数処理ルール エlement [指定の端数処理使用] を選択した場合は、端数処理に使用する端数処理ルール エlementを入力します。

ポジティブ入力による資格の上書きを許可 ポジティブ入力による有資格グループのデフォルトの上書きを許可する場合は、このチェック ボックスをオンにします。これにより、受給者が受け取ることができるElementを決定する有資格グループの設定を上書きすることができます。

たとえば、バッチ処理中に、受給者の有資格グループにない支給Elementに対するポジティブ入力が出てきたとします。この場合、このチェック ボックスをオンにしておけば、このようなポジティブ入力が処理されるようになります。

遡及処理をする場合、その支給期間の元の計算で使用されていたものと同じ通貨を使って支給期間を再計算する必要があります。再計算期間と現行期間の処理通貨が異なる場合、新しく計算された値と以前の値との差異は元の計算での通貨を使って計算されます。

遡及デルタは、受給者レベルで定義された有効日 (支給期間の開始日と終了日、および支給日) 時点の為替レートを使って、処理通貨に換算されます。そのため、遡及調整は処理通貨を使って計算されることになります。

例

2001 年 1 月から 2001 年 6 月まで、通貨をフランス フラン (FRF) に設定するとします。7 月には、ユーロ (EUR) に変更します。7 月に、受給者に対し 2001 年 6 月に対する遡及があるとします。この再計算は FRF を使用して処理されます。デルタは、まず FRF を使って計算されてから、現行の支給期間の為替レートを使ってユーロに換算されます。遡及調整は、ユーロで現行の期間に反映されます。

デルタは FRF で計算および保存されます。7 月のカレンダーを処理する場合、7 月のカレンダーに読み込まれるよう指定、または設定されたデルタが取得され、ユーロに変換された後に 7 月の計算で使用されます。

関連項目:

[第 33 章、「遡及処理の定義」、1219 ページ](#)

[第 34 章、「銀行振込の定義」、1311 ページ](#)

[第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、多通貨について、33 ページ](#)

[第 18 章、「上書きの設定」、655 ページ](#)

支給グループの定義

支給グループを定義するには、支給グループ コンポーネント (GP_PYGRP) を使用します。

このセクションでは、支給グループおよび支給グループ デフォルトの上書きの概要と、以下の作業を行う方法について説明します。

- 支給グループのパラメータを定義します。
- 支給グループの端数処理、比例配分および周期のデフォルトを定義します。

注意: このセクションでは、支給グループ コンポーネントの最初の 2 ページについて説明します。支給グループ コンポーネントの 3 つ目のページである "サポート エlement上書き" ページについては、この PeopleBook の別のセクションで説明しています。

関連項目:

第 18 章、「上書きの設定」、655 ページ

支給グループについて

支給グループは、支給の受給資格を個人に与えるための論理的グループであり、支給特性を共有する受給者で構成されます。支給グループの受給者全員が同一の支給周期 (開始日、終了日、および支給日) と給与計算処理を持ち、同一の支給元に所属する必要があります。

支給グループ デフォルトの上書きについて

支給グループを設定する際に、支給グループに関連付けられている受給者に適用する、有資格グループや勤務スケジュールなどのいくつかのデフォルト設定を定義します。

ただし、支給および控除については支給グループ ルールを上書きできます。この機能は、あるルールが特定の受給者グループに当てはまらない場合などに使用すると便利です。

同一タイプの支給や控除を受ける従業員をグループ化できます。これにより、支給グループの大半の受給者に適用されるエレメント グループを定義できます。受給者ごとに上書きを行って例外を作成したり、デフォルトの支給グループを上書きすることもできます。

支給グループの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
支給グループ名	GP_PYGRP_NAME	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[組織]、[支給グループ]、[支給グループ名]	支給グループのパラメータを定義します。
デフォルト	GP_PYGRP_DFLT	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[組織]、[支給グループ]、[デフォルト]	支給グループの端数処理、比例配分および周期のデフォルトを定義します。

支給グループのパラメータの定義

支給グループ名ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[組織]、[支給グループ]、[支給グループ名])。

支給グループ名		デフォルト	サポート エlement 上書き
支給グループ:	KOPGA		
*名称:	Pay Group 1	略称:	Paygroup
*支給元:	KOPE1  Pay Entity 1	国:	ケイマン諸島
<div>定義</div> <div>検索 全件表示 最初 1/1 最後</div>			
*有効日:	1990/01/01 	*ステータス:	アクティブ   
受給者職務データのデフォルト			
*有資格グループ:	KOEL1 	有資格グループ 1	
*為替レート タイプ:	OFFIC 	Official Rate	
*為替レートの日付:	支給期間終了日 		
受給者スケジュールのデフォルト			
*スケジュール グループ:	KOCYM 	GP Core Schedule Group	
*スケジュール ID:	KOWRKSCH 	KOWRKSCH	
代替スケジュール グループ:			
代替スケジュール ID:			
*休日スケジュール ID:	KCY01 	Cayman Islands Holiday Schedul	

支給グループ名ページ

支給元

この支給グループに関連付ける支給元を選択します。1 つの支給グループに対し、1 つの支給元を関連付けられます。

警告: 一度給与計算を処理した後で、支給元を変更しないでください。変更するとデータが損なわれる場合があります。

受給者職務データのデフォルト

このグループ ボックスでは、支給グループに関するさまざまなデフォルト設定を定義します。有効日はグループ ボックス全体の内容に適用されているため、スケジュール、ビジネス プロセス、またはルールに変更が生じた場合、これらのオプション全てを一度に変更できます。

注意: 支給グループの受給者全員に同一の有資格グループ、為替レート タイプ、または休日スケジュールが設定されているとは限りません。デフォルトは全て、"職務データ" の給与計算ページで上書きすることができます。有効日を使用して、特定期間のデフォルト値を上書きできます。"職務データ" の給与計算ページで [給与計算システム] フィールドを [グローバル ペイロール] に設定した場合にのみ、[有資格グループ]、[為替レート タイプ]、[休日スケジュール] を含む [グローバル ペイロール] グループ ボックスが表示されます。

参照: 第 4 章、「受給者データの使い方」、51 ページ。

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.1 PeopleBook: 人事・労務管理、「雇用データの追加。」

有資格グループ

この支給グループに関連付けるデフォルトの有資格グループを選択します。

有資格グループによって支給グループの受給者にエレメントが適用されます。有資格グループは支給グループに関連付ける必要があります。各支給グループに定義されたデフォルトに従い、受給者に有資格グループが割り当てられます。このデフォルト値は、受給者ごとに上書きできます。

注意: 有資格グループに登録されている受給者に対し個別にエレメントを割り当てることは可能ですが、割り当てようとしているエレメントの有資格グループにその受給者が属している必要があります。

為替レート タイプ

処理時に支給グループの通貨換算に使用されるデフォルトの為替レート タイプを選択します。処理通貨ではなく、通貨のエレメントを指定してください。処理の際、ここで指定した為替レート情報に従い、処理通貨に換算されます。レート タイプ ページで為替レート タイプを定義します。

参照: 『PeopleSoft Enterprise Components for PeopleSoft Enterprise HRMS and Campus Solutions PeopleBook』

為替レートの日付

為替レートの取得に使用する有効日を選択します。これらのオプションは、この支給グループに関連付けられたカレンダー日付と対応します。選択できるのは、[支給期間開始日]、[支給期間終了日]、および [支給日] です。

受給者スケジュールのデフォルト

支給グループのスケジュールのデフォルトを定義します。受給者には、受給者の支給グループに定義されたスケジュールのデフォルトに基づいて、勤務スケジュールと代替勤務スケジュールを割り当てることができます。

スケジュール グループ 支給グループのスケジュール グループを選択します。スケジュールグループを使用すると、スケジュールを特定のグループに分類することができます。

スケジュール ID 支給グループのスケジュール ID を選択します。

交代勤務 ID 選択したスケジュール ID の交代勤務 ID を選択します。交代勤務 ID は、交代勤務スケジュールと共に使用されます。交代勤務スケジュールは、スケジュール開始日が異なる複数の受給者に割り当てることができます。

注意: [交代勤務 ID] フィールドは、交代勤務スケジュールを選択した場合にのみ表示されます。

代替スケジュール グループ (省略可) 支給グループの代替のスケジュール グループを選択します。

代替勤務スケジュール (省略可) 代替の勤務スケジュールを選択します。受給者には、特定の休暇欠勤用の代替勤務スケジュールを関連付けることができます。

代替交代勤務 ID (省略可) 支給グループの代替の交代勤務 ID を選択します。

注意: [代替交代勤務 ID] フィールドは、交代勤務スケジュールを選択した場合にのみ表示されます。

休日スケジュール ID この支給グループの休日スケジュールを選択します。"職務データ"の給与計算ページで受給者に異なる休日スケジュールを選択していない場合は、支給グループの休日スケジュールが処理に使用されます。ただし、支給グループの休日スケジュールは、受給者の職務レコードのデフォルトとしては入力されません。

関連項目:

[第 14 章、「組織構造の定義」、支給元の定義、529 ページ](#)

[第 32 章、「分割の定義」、比例配分と分割、1208 ページ](#)

[第 7 章、「計算エレメントの定義」、比例配分ルールの定義、251 ページ](#)

[第 13 章、「スケジュールの使い方」、勤務スケジュールについて、473 ページ](#)

支給グループの端数処理、比例配分、および周期のデフォルトの定義

デフォルト ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[組織]、[支給グループ]、[デフォルト])。

支給グループ名

デフォルト

サポート エlement 上書き

支給グループ:

KOPGA

Pay Group 1

期間情報

*会計年度開始:

支給元のデフォルトを使用

開始月:

開始日:

定義

検索 | 全件表示

最初

1/1

最後

有効日:

1990/01/01

ステータス:

アクティブ

コンポーネント端数処理デフォルト

*端数処理オプション - ベース:

指定の端数処理使用

*ベース:

KORR 2DEC

*端数処理オプション - ユニット:

指定の端数処理使用

*ユニット:

KORR 5DEC

*端数処理オプション - レート:

指定の端数処理使用

*レート:

KORR 3DEC

*端数処理オプション - パーセント:

指定の端数処理使用

*パーセント:

KORR 3DEC

*端数処理オプション - 金額:

指定の端数処理使用

*変換済金額:

KORR 2DEC

*比例配分オプション:

指定比例配分使用

*比例配分ルール:

KOPO CAL

周期のデフォルト

*日次:

日次

日次

*月次:

月次

月次

デフォルト ページ

期間情報

支給グループの会計年度の日付を定義します。

会計年度開始

この支給グループについて、組織の会計年度の開始日を定義します。値は以下のとおりです。

[支給元のデフォルトを使用]: これを選択すると、下の 2 つのフィールドは入力できなくなります。

[指定開始日を使用]: 下の 2 つのフィールドに値を入力します。

開始月 、 開始日

組織の会計年度の開始月、開始日を入力します。

コンポーネント端数処理デフォルト

支給グループ レベルで支給および控除についてデフォルトの端数処理ルールを指定します。支給エレメントや控除エレメントを定義する際にそれぞれに固有の端数処理を指定することも、支給グループのデフォルト設定を使用するように指定することもできます。

端数処理オプション - ベース、端数処理オプション - ユニット、端数処理オプション - レート、端数処理オプション - パーセント、端数処理オプション - 金額

支給、控除、および休暇付与エレメントなどのコンポーネントが計算の前に端数処理を行うことができるかどうかを指定できます。値は以下のとおりです。

[端数処理なし]: コンポーネントの端数処理を行いません。

[指定の端数処理使用]: 右側の該当するフィールドに端数処理ルールを入力します。

変換済金額

支給と控除の変換済み金額に適用する端数処理ルールを選択します。

端数処理は、エレメントの計算ルールを処理してから行われます。計算ルールが "金額" の支給エレメントや控除エレメントにも端数処理が行われます。値は以下のとおりです。

[端数処理なし]: その金額の端数処理を行いません。

[指定の端数処理使用]: 右側のフィールドに端数処理ルールを入力します。

比例配分オプション

[比例配分なし] または [指定比例配分使用] を選択します。

比例配分ルール

[比例配分オプション] フィールドで [指定比例配分使用] を選択した場合は、この支給グループ処理時に使用されるエレメントのデフォルトとして使用する比例配分ルールを入力します。支給エレメントや控除エレメントを定義する場合、支給グループのデフォルト値を使用するか、または特定の支給エレメントや控除エレメントに対し固有のルールを使用するようにシステムに対し指定できます。

周期のデフォルト

このグループ ボックスを使用して、複数支給の計算コンポーネントで使用される周期のデフォルトを定義します。

注意: "職務データ" の給与計算ページで各受給者に割り当てられた支給グループに関連付けられている周期係数に基づいて "職務データ" の給与データ ページに表示される日次および月次の給与レートが計算されます。その結果、グローバル ペイロールのルール内でこれらの対応する日次および月次のレート システム エlementを直接使用する場合は、支給グループに関連付けられている周期係数を、これらの値を決定した結果の値と一致させる必要があります。そうしないと、日次および月次レートが職務データから直接取得されるため、レートが同期しないことがあります。

関連項目:

第 7 章、「計算Elementの定義」、端数処理ルール Elementの定義、 240 ページ

第 7 章、「計算Elementの定義」、比例配分ルールの定義、 251 ページ

第 6 章、「データ取得Elementの定義」、給与レート コード Elementの定義、 162 ページ

第 15 章

エレメント処理の定義

この章では、エレメントの処理、セクション、およびプロセス リストの概要と、以下の項目について説明します。

- セクションの設定
- プロセス リストの設定

エレメントの処理について

グローバル ペイロールでは、給与計算、休暇取得、および休暇付与の各プロセスを定義できます。プロセスを設定するには、次の手順に従います。

1. 給与計算または休暇欠勤処理の実行で変換対象となる**セクション**、つまりエレメントの論理グループを作成します。
2. エレメントの各セクションの変換順序および変換条件を特定する**プロセス リスト**に、セクションを追加します。

プロセス リストはいくつでも作成できますが、給与計算と休暇欠勤処理には別のリストが必要になります。

3. プロセス リストを実行タイプで関連付けて、カレンダーと結び付けます。
4. カレンダーを使ってプロセスのスケジュールを作成します。

給与計算または休暇欠勤処理を実行するには、定義したプロセスを実行します。プロセス リスト マネージャというプログラムが、各受給者に対し最初に呼び出されます。このプログラムと PIN マネージャが連動し、プロセス リストの各セクションの順に、エレメントを変換します。システムにより、処理結果を保存するためのファイルおよびテーブルのセットが作成されます。

この章で使用する共通フィールド

再計算

このチェック ボックスをオンにすると、プロセス リストで同じエレメントが複数回出てきた場合に、その都度、PIN マネージャによってエレメントが再計算されるように指定できます。PIN マネージャがエレメントのエレメント名共通ページの [常時再計算] チェック ボックスの設定に従うようにする場合は、このチェック ボックスをオフにします。

サブプロセス セクションでは、[再計算] がオンになります (優先順位による純支給額確認用に設定されているサブプロセス セクションは除く)。この設定は変更できません。

エレメントを再計算すると処理速度が下がる場合があるので、再計算はできるだけ行わないようにしてください。

連番

セクションの中のエレメントの連番を入力し、処理順序を指定します。処理順序は大変重要です。給与計算や休暇欠勤の計算に直接影響を及ぼす場合があるからです。

セクションでは、一意で 5 桁までの数字を指定できます。連番は、10、20、30 や 15、30、45 などの単位で割り当てます。こうすると、エレメントを挿入する際に番号を変更する必要はありません。

セクションについて

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- セクション タイプ
- 標準セクション
- ポジティブ入力作成セクション
- 受給者セクション
- サブプロセス セクション
- 休暇取得セクション

セクション タイプ

セクションは、規模の大きいプロセス リストを扱いやすい大きさに分割することによって、各エレメント グループの処理順序を管理します。各セクションには、1 つまたは複数のエレメントが含まれます。1 つのセクションに複数のエレメント グループを追加することはできず、通常はセクションにセクションを含めることもできません。

セクションを使うことにより、作業単位を再利用できます。たとえば、ある一連の支給コードのセットが複数のプロセスで使われている場合、支給セクションを 1 つ作成して、それを複数のプロセス リストに関連付けることができます。

セクションは有効日で管理されています。給与計算の実行時には、カレンダー期間終了日に基づいて、プロセス リストに関連付けられたセクションが検索されます。

5 つのタイプのセクションを定義して、以下について決定します。

- 給与計算または休暇欠勤実行におけるセクション エレメントの処理方法
- 支給エレメント、休暇取得エレメント、およびサポートエレメントなど、各セクションに追加できるエレメントタイプ
- セクションが休暇欠勤処理、給与計算、またはその両方に使えるかどうか

次の表で、セクション タイプ、処理タイプ、および用途について簡単に説明します。

セクション タイプ	処理タイプ	用途
標準	休暇欠勤、給与計算、またはその両方	通常処理、あるいは休暇付与処理や休暇取得処理の定義に使用します。
ポジティブ入力作成	休暇欠勤または給与計算	別のカレンダー用のポジティブ入力（支給または控除）の作成に使用します。例：食事手当
受給者	休暇欠勤、給与計算、またはその両方	受給者レベルで、処理エレメントと処理順序の指定に使用します。例：裁判所命令

セクション タイプ	処理タイプ	用途
サブプロセス	給与計算	純額計算、控除優先順位による純支給額確認、あるいはその他の反復処理を行います。特定のエレメントを変換するかどうかを決定するループと条件式を含めることができます。例: 転居費用、賞与の支給
休暇取得	休暇欠勤	休暇欠勤開始日に基づく日付順の休暇取得エレメントの変換に使用します。

標準セクション

プロセス リストのセクションはほとんどが標準セクションです。給与計算または休暇欠勤処理の実行中、プロセス リスト マネージャが標準セクションを処理する際は、指定した順序でセクション内のエレメントが読み取られ変換されます。

ポジティブ入力作成セクション

ポジティブ入力作成セクションによって、ポジティブ入力の作成が開始されます。ポジティブ入力とは、食事手当や出張手当など、単一の支給期間のみに適用され、受給者ごとに異なる支給データや控除データの入力のことです。ポジティブ入力は給与計算実行時に作成され、別の給与計算実行時に変換されます。プロセス リスト マネージャによる**ソース** カレンダーの処理中にポジティブ入力作成セクションが見つかり、ポジティブ入力の行が作成されます。作成された行は、**ターゲット** カレンダーと呼ばれる別のカレンダーのプロセスで処理され、支給が行なわれます。ソース カレンダーおよびターゲット カレンダーは、同一または異なる支給期間あるいはカレンダー グループ ID に関連付けられます。

組織が、1 日に 4 時間以上勤務する受給者に食事手当を支給すると仮定します。ポジティブ入力ページで費用を手動で入力する代わりに、定義済みの計算式に基づいてポジティブ入力を作成できます。

注意: ポジティブ入力は手動で入力を行ったり、ほかのアプリケーションから入力されることもあります。

ポジティブ入力作成セクションに関するルール

ポジティブ入力作成セクションに関するルールは、以下のとおりです。

- ポジティブ入力は、次のいずれかの計算ルールで定義された支給エレメントおよび控除エレメントに対してだけ作成できます。

ベース × パーセント

ユニット × レート

ユニット × レート × パーセント

- ポジティブ入力を作成する前に、支給または控除エレメントの少なくとも 1 つの自動割り当てコンポーネント (ベース、パーセント、レート、またはユニット) が変換されている必要があります。

プロセス リスト マネージャにより、バッチ処理中にポジティブ入力作成セクションが見つかり、最初のエレメント用にポジティブ入力作成プログラムが呼び出され、このエレメントのいずれかのコンポーネントにデータがロードされているかどうか判断されます。ロードされている場合、ターゲット カレンダー用にポジティブ入力の行が作成されます。1 つもロードされていない場合は、プロセス リスト マネージャはセクションの次のエレメントへ移ります。

- ポジティブ入力はソース カレンダーの処理中に作成され、ターゲット カレンダーの処理中に変換されるため、ソース カレンダーを使って給与計算または休暇欠勤プロセスを実行する前に、ソース カレンダーとターゲット カレンダーの両方を作成しておく必要があります。
- エレメントの資格が検証されるのは、ターゲット カレンダーの処理中です。ポジティブ入力を作成されるソース カレンダーの処理中ではありません。

エレメントの資格を検証する際に、以下の項目についても検証されます。

- エレメントが有資格グループを通して受給者に割り当てられていること
- エレメントが "カレンダー" の除外エレメント ページの [除外エレメント] グリッドにないこと
- エレメントがポジティブ入力ページとPI - カレンダー別ページで [処理しない] に指定されていないこと

- ジェネレーション コントロールおよび有資格グループに変更を加えると、ポジティブ入力の変換に影響が出る場合があります。

6 月の給与計算で受給者のポジティブ入力を作成すると仮定します。ターゲット カレンダーが 7 月で、受給者が 7 月の時点で資格がなくなっていた場合は、支給元設定の [ポジティブ入力による資格の上書きを許可] チェック ボックスの設定に基づいてポジティブ入力に変換されるかどうかが決まります。

- 期間分割が発生する場合、ターゲット カレンダーではなく、ソース カレンダーの開始日および終了日に基づいて、ポジティブ入力作成セクションが分割されます。

ソース カレンダーが分割されると、プロセス リスト マネージャにより、各セグメントに対し 1 度だけ、ポジティブ入力作成プログラムが呼び出されます。作成されたポジティブ入力は、ターゲット カレンダーの終了日に基づいて、ターゲット カレンダーに指定されます。

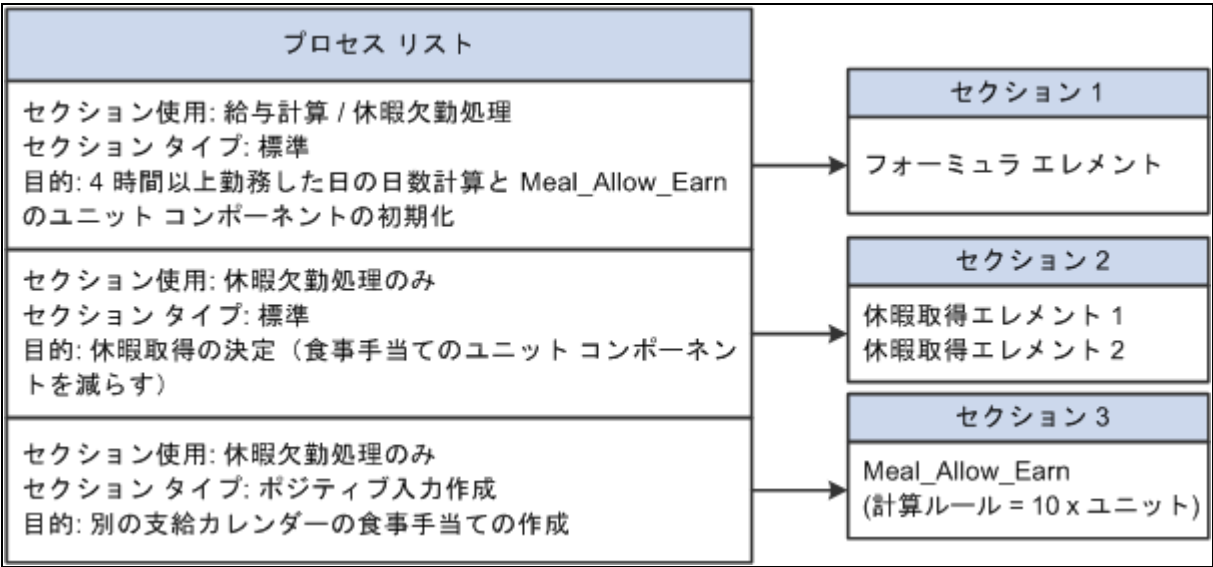
- エレメントの分割が発生する場合、各スライスごとにポジティブ入力のインスタンスが別々に作成されます。

各スライスに関連付けられた指定日のレートは、セグメント終了日ではなくスライス終了日に対応しています。

ポジティブ入力作成セクションの例

1 日の労働時間が 4 時間以上である従業員に対して食事手当が毎日支給される場合に、ユニット × レートの計算ルールで Meal_Allow_Earn という支給エレメントを作成したとします。

この場合、プロセス リストはここに示す例のようになります。ポジティブ入力作成セクションは、プロセス リストの最後にあります。



プロセス リストとポジティブ入力作成セクションの関係の例

まず、セクション 1 のフォーミュラ エレメントが変換されます。これにより、期間中、受給者が 1 日 4 時間以上勤務する日数で、Meal-Allow-Earn のユニット コンポーネントが初期化されます。次に、セクション 2 に進み、休暇取得エレメントが変換されます。これにより受給者が 4 時間以上勤務する予定であった日を欠勤した日数分だけ、食事手当でのユニット数が削減されます。予定勤務時間が 5 時間で、実際に受給者が 5 時間勤務した場合に、ユニット数が 1 日に変換されると仮定します。最後に、食事手当での支給エレメントを含むセクション 3 のポジティブ入力作成セクションに進みます。支給エレメントのユニット コンポーネントがセクション 1 およびセクション 2 でロードされているので、次の表にあるようなポジティブ入力の行が作成されます。

エレメント	レート コンポーネント (Meal-Allow-Earn_Rate)	ユニット コンポーネント (Meal-Allow-Earn_Unit)
Meal-Allow-Earn	10	1

ターゲット カレンダーに対して給与計算プロセスを実行するまでは、データ行は何も変更されません。システムでは次に、受給者にまだ食事手当での資格があるかどうか検証されます。資格がある場合は、10 × 1 の計算式でポジティブ入力に変換されます。

関連項目:

[第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、615 ページ](#)

[第 16 章、「カレンダーの使い方」、577 ページ](#)

[第 14 章、「組織構造の定義」、エレメント グループの定義、522 ページ](#)

[第 14 章、「組織構造の定義」、有資格グループの定義、528 ページ](#)

[第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、分割に関する注意事項、624 ページ](#)

受給者セクション

受給者セクションを使うと、受給者ごとに変換対象のエレメントを指定し、その処理順序を設定することができます。裁判所命令、受給者が退職プランへの積立て金を拠出する財形貯蓄、および受給者レベルに応じた特別な指示が必要な場合などに、受給者セクションを使用します。

受給者セクションを作成し終わったら、受給者セクション ページを使って特定の受給者用の変換対象エレメントを定義します。プロセス リスト内に受給者セクションが見つかり、その受給者用の適切な受給者セクションが検索され、セクション内のエレメントが 1 つずつ処理されます。

プロセス リストには複数の受給者セクションを含めることができます。サブプロセス セクションの中に受給者セクションを含めることができます。

サブプロセス セクション

サブプロセス セクションは、以下の状況で特に有効です。

- 既知の純額に基づいた**総額**の算出

たとえば、受給者が特定の金額の賞与の支給を受けたとします。この場合、反復計算を使用するサブプロセス セクションを作成して、税金および税金徴収後の総支給額を計算し、必要な純額を求めることができます。

- 相対的な優先順位に基づいた控除の取得

優先順位による純支給額確認を有効にしたサブプロセス セクションを作成できます。控除が純支給額または定義した純支給額下限を超えた場合、反復処理により各控除の相対的優先順位に基づいて控除額が調整されます。

サブプロセスには、特定のエレメントを変換するかどうか、およびループ アクションを行うかどうかを定義する条件式を含めることができます。

参照: 第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、純支給額の確認と延滞処理について、307 ページ。

サブプロセス セクションの使用に関するルール

サブプロセス セクションの使用に関するルールは、以下のとおりです。

- サブプロセス セクションの全てのエレメントおよびサポート エレメントは、サブプロセスの実行中に再計算されます。

このルールの例外は、優先順位による純支給額確認を有効にしたサブセクションです。これらのセクションについては、エレメントを再計算するかどうかを選択できます。デフォルトでは、再計算しません。

- サブプロセスでの反復処理のたび、繰り越し調整が対象として考慮されます。
- サブプロセスの処理中に、通常のエレメント資格およびジェネレーション コントロールが適用されます。
- サブプロセス セクションの中に標準セクションと受給者セクションを含めることができます。
- 反復処理中に使われる累計は自動修正されるため、リセットする必要はありません。

反復処理中、必要に応じて古い値が削除され、新しい値が加算または減算されます。累計の [累計のタイミング] オプションが **【計算後】** に設定されている場合、処理が終了するまでその値は更新されません。

優先順位による純支給額確認を有効にしたサブセクションでは、このルールは反復処理中に計算されたエレメントにのみ適用されます。累計は、控除用に実際に取得できた金額に応じて更新されます。

- エレメント変換チェーンによりサブプロセスが検証されます。

検証チェーンの結果は反復して書き込まれます。つまり、ループは反復番号付きで記録されます。

参照: 第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、エレメント変換チェーンの表示、907 ページ。

- 優先順位による純支給額確認機能を使用すると、純支給額がゼロ (定義した純支給額下限) を下回ったことを検出した時点で純支給額確認処理が実行されます。

複数のサブプロセス セクションのプロセス リストへの追加

1 つのプロセス リストに複数のサブプロセス セクションを組み込むためのガイドラインを以下に示します。

- 複数のサブプロセス セクションを作成する代わりに、同じサブプロセスの中で複数のエレメントの総額算出ができます。

純額が全て入力された後、控除の前に総額が算出されます。エレメントまたはエレメント グループの総額を算出したときに、その総額を保持するための別の支給エレメントを作成してください。既存のエレメント内の純額は変わりません。ポジティブ入力による入力の場合でも、結果テーブルにある純額は、入力された実際のポジティブ入力と同じになります。全額をレポートするには、純額と総額の両方を含む累計を作成します。

- 総額を計算するエレメントの数を減らすには、類似エレメントのグループ (たとえば、同一の税措置を受けるエレメントなど) の総額を保持する累計を作成します。

該当する累計にこの総額エレメントを加算できます。

- 優先順位による純支給額確認を使用する場合は、対象となる全ての控除を同じサブプロセス ループに入れる必要があります。

純支給額確認は、純支給額確認のサブプロセス ループの外にある全ての控除の処理順序に従って行われます。

サブプロセス セクションで使用される純支給額確認のロジックを定義するガイドライン

優先順位による純支給額確認を行うには、以下のガイドラインに従います。

- セクションを作成する際に、"セクション" の定義ページで [優先順位による純支給額確認] チェック ボックスをオンにします。

注意: このチェック ボックスは、関連する国の "国別設定" の国ページに純支給額確認フォーミュラが含まれている場合にのみ表示されます。

- 通常の**処理**順序でサブプロセス セクションに控除およびその他のエレメントをリストします。

純支給額確認プロセス中に "控除" の延滞ページで控除に割り当てられた優先順位が参照されません。

- ループ フォーミュラを、ループ アクションを開始するエレメントと関連付けます。最初のループ中に、フォーミュラが真 (1) を返すと、サブプロセス内の全てのエレメントが処理順序で計算されます。後続のループを実行する前に、フォーミュラは純支給額をチェックします。純支給額がゼロまたはプロセス リストに定義した純支給額下限より大きいことが検出された場合、フォーミュラは偽の値 (0) を返し、ループ プロセスを終了します。純支給額がゼロまたは定義した純支給額下限より小さい場合は、フォーミュラは真の値 (1) を返し、別のパスを開始します ("国別設定" の国ページで選択した純支給額確認フォーミュラが自動的に呼び出され、最下位の優先順位を持つ控除が調整されます)。

次の例は、FM ANOTHER PASS と呼ばれる条件式を使用してループを起動する方法を示しています。システム エレメント SUB PROCESS PASS を使用して、現行のループ番号が判別されます。このエレメントは、各パスの前に自動的に増分されます。GXVRNPVMIN は、純支給額下限を決定する "プロセス リスト" の定義ページに入力されたエレメントを表します。

```
If ac/NET1 >=var/GXVRNPVMIN and sy/SUB PROCESS PASS > 1
then 0 >> fm/FM ANOTHER PASS?
Else
  1 >> fm/FM ANOTHER PASS?
Endif
```

SUB PROCESS PASS > 1 は、ループを最低でも 1 度処理し、エレメントを全て計算することを指示します。この指示がないと、サブプロセス セクションのエレメントは、控除を取得する前に純支給額が純支給額下限を超えるイベントで処理されません (通常のケース)。

- ゼロ以外の純支給額下限を指定するには、"プロセス リスト" の定義ページで純支給額下限エレメントを選択します。

純支給額確認フォーミュラを作成するためのガイドライン

"国別設定" の国ページを使用して純支給額確認フォーミュラを、優先順位による純支給額確認機能を使用する予定の各国に割り当てます。このフォーミュラの [常時再計算] オプションを有効にします。プロセス リスト マネージャ プログラムは、フォーミュラを 2 番目のループで始まるサブプロセス セクションに含まれる各控除につき 1 度変換します。

フォーミュラは、以下の 4 つの値のいずれかを返します。

- 0 = 計算、および純支給額確認を実行

計算および純支給額確認が同じ反復処理中に発生する必要がある場合にこの値を返します。これは総額/純額サブプロセス セクションのデフォルト設定であり、通常はこのフォーミュラでは使用されません。

- 1 = 計算

これは、ループの最初の反復処理のデフォルト値です。2 番目の反復処理で始まるフォーミュラが変換されます。

- 2 = 純支給額確認を実行
- 3 = スキップ

フォーミュラがその他の値を返した場合は、エラー メッセージが表示され、セグメントがエラーになります。また、控除がスキップされ、セクション内の次のエレメントから処理が続行されます。フォーミュラが存在しない場合は、エラー メッセージが表示され、セグメントがエラーになります。セグメントの計算は、デフォルト設定のゼロ (計算、および純支給額確認を実行) で続行されます。

以下にサンプルのフォーミュラを示します。

```
/* This formula controls the processing per deduction during a Net Pay
Validation sub-process */

/*set to calculate*/
1 >> fm/FM CONTR NPV FLOW

/*if Net is greater than the defined minimum and deduction is not
NPV completed we need to calculate*/
IF ac/NET >= var/MINIMUM NET and sy/NPV COMPLETED = 0
    Exit
End-If

/*if element is NPV modified already don't use it again; set to skip*/
If sy/NPV COMPLETED = 1
    2 >> fm/FM CONTROL NPV FLOW
    exit
end-if

/*if the element isn't of lowest priority, calculate*/
if sy/CURR PRIORITY NBR <> sy/LOW PRIORITY NBR then
    Exit
End-If

/*set formula to NPV processing*/
3 >> fm/FM CONTROL NPV FLOW
```

サブプロセスのフォーミュラでのシステム エレメントの使い方

優先順位による純支給額確認処理のフォーミュラを作成する際に、以下のシステム エレメントが役立ちます。

システム エレメント	説明
NET AVAILABLE	純額累計の現在値から現在処理中の控除を除く純支給額下限を引いた値を保持します。これは、エレメントの純支給額確認中に、支給と控除の変換モジュールによって設定されます。控除を部分的に計算する純支給額確認の部分フォーミュラは、このエレメントを参照することができます。
CURR PRIORITY NBR	現在処理中の控除の優先順位を保持します。純支給額確認フォーミュラを処理する前に控除プログラムで設定します。

システム エレメント	説明
LOW PRIORITY NBR	サブプロセス セクション内で処理されている控除の相対的に最下位の優先順位を保持します。LOW PRIORITY NBR システム エレメントは、現在のサブプロセス反復処理で純支給額確認が処理されている優先順位を表します。控除が各サブプロセス ループの終了時に純支給額確認プロセスによってゼロに減らされると、このエレメントは次に最低位の優先順位 (一番高い優先順位番号) に設定されます。より高位の優先順位の控除が存在しない場合は、このエレメントがゼロに設定されます。
SUB PROCESS PASS	現在のループ反復処理の番号を保持します。この番号は、サブプロセス ループの開始時に設定されます。
NPV COMPLETED	(バイナリ: 1/0、10 進値の 1 または 0)。控除が純支給額確認プロセスの前のパスで修正済みでゼロに設定されている場合は、真 (ゼロ以外の値) に設定します。このエレメントを真に設定するには、控除の全てのインスタンスを処理してゼロにする必要があります。
PRIOR DED VAL	以前に計算された控除額を保持します。控除額は、純支給額確認で控除を処理している間に、純支給額確認サブプロセス内でのみ使用可能です。システムエレメントは、純支給額確認の部分フォーミュラ (純支給額確認サブプロセス セクション内のみ) で使用できます。

関連項目:

第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、国別設定の定義、47 ページ

休暇取得セクション

休暇取得セクションを使用すると、セクションで定義されている処理順序ではなく、休暇欠勤が発生した順序に基づいて休暇取得エレメントを処理できます。これらのセクションは、休暇取得エレメント間に依存関係があるとき、および支給対象の休暇欠勤を適切に判断するために日付順の処理が必要な場合に役立ちます。

休暇取得セクションの例

受給者が過去 1 年間に疾病や労働災害で休暇欠勤した日数分、疾病の休暇付与を減らす要件があるとします。受給者は 2 月に疾病で 7 日間、労働災害で 6 日間、疾病で 8 日間という順序で休暇欠勤しました。

SICK (疾病)、IND ACC (労働災害) という処理順序で休暇取得エレメントを含むセクションを作成します。以下の段落で説明するように、セクション タイプは、休暇取得の補償に使用できる休暇付与数に影響します。

- セクション タイプが [標準] である場合は、IND ACC 休暇取得より先に 2 つの SICK 休暇取得が処理されます。

このため、2 番目の SICK 休暇取得で利用可能な付与残数を決定する際、労働災害で取得された日数は考慮されません。

- セクション タイプが [休暇取得] である場合は、休暇欠勤が発生順に処理されます。

その結果、最後の SICK 休暇取得の付与残数は、過去 1 年間に労働災害と前の疾病で取得 (支給) された日数分減ります。

休暇取得セクションのルール

休暇取得セクションには以下のルールがあります。

- 休暇取得セクションには、休暇取得エレメントのみ含めることができます。
- 休暇取得には、休暇欠勤開始日に基づいて処理されます。

最も古い開始日を持つ休暇欠勤イベントを検索する場合、休暇欠勤イベント レコード (GP_ABS_EVENT) が検索されます。

- 複数の休暇欠勤が同じ日付を持つ場合、どの休暇取得を最初に処理するかを決定するため、セクションに定義された処理順序が参照されます。

たとえば、休暇取得セクションに休暇取得 A と B がこの順序で設定されていて、6 月 2 日～3 日 (休暇取得 B) と 6 月 3 日 (休暇取得 A) に休暇欠勤イベントがレポートされたとします。休暇欠勤日は以下の順序で処理されます。

- 6 月 2 日、休暇取得 B (最も古い開始日を持つイベント)
- 6 月 3 日、休暇取得 A
- 6 月 3 日、休暇取得 B

- 休暇取得エレメント (親エレメント) が別の休暇取得エレメント (子エレメント) にマッピングされている場合は、以下ようになります。
 - 子エレメントは、その日の親エレメントの処理が終わり次第処理されます。

プロセス リストには親エレメントの後に子エレメントが表示されます。その日の全ての自動作成および手動入力された休暇取得エレメントが処理された後でのみ次の日に進みます。
- 親エレメントが処理されているセクションに含まれていない子エレメントは、子エレメントを含むセクションが変換されるまで処理されません。

注意: マッピングとは、"休暇取得" の日数計算フォーミュラ ページの [マップ先エレメント] フィールド、または "休暇取得" の超過取得ページの [他の休暇欠勤で取得] フィールドにエレメントを入力して、ある休暇取得から別の休暇取得へのリンク付けを行うことを意味します。

参照: 第 12 章、「休暇欠勤エレメントの定義」、日数計算フォーミュラ、関連支給エレメントと控除エレメント、およびその他の休暇取得エレメントの選択、 444 ページ。

参照: 第 12 章、「休暇欠勤エレメントの定義」、超過取得ルールの定義、 457 ページ。

プロセス リストについて

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- プロセス リストの機能
- バッチ処理とプロセス リスト マネージャ
- プロセス リストのエレメントおよびセクションの順序
- プロセス リストの遡及処理に関する注意事項

プロセス リストの機能

プロセス リストによって、給与計算処理を最上位レベルで管理します。プロセス リストには、次の 3 つの基本機能があります。

- 給与計算処理で変換するセクション (エレメントのセット) と変換順序の指定
- 給与計算処理で使用する総支給額および純支給額の累計の指定

銀行振込処理では、純支給額の累計を参照して、純支給額が決められます。

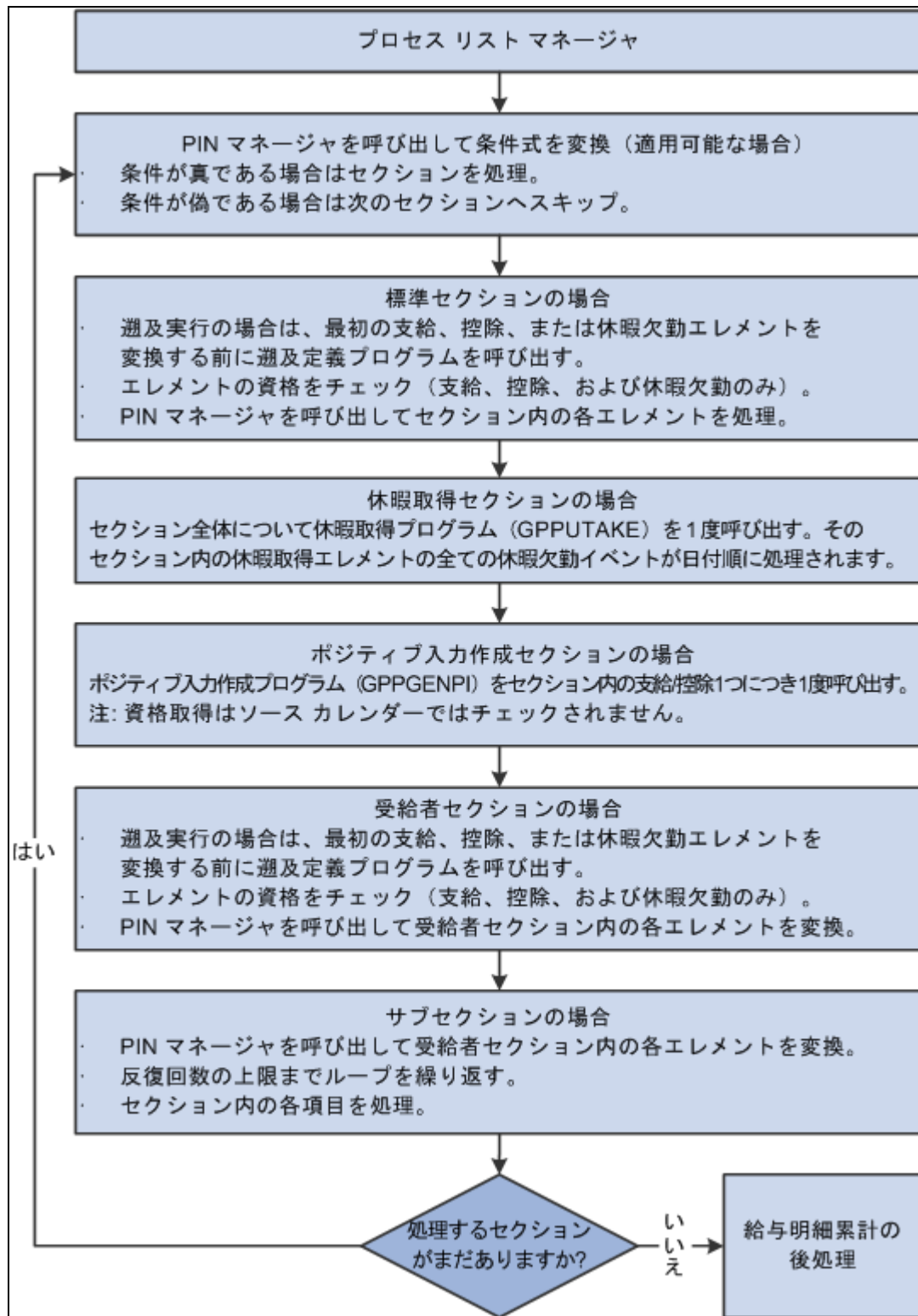
- 処理を給与計算または休暇欠勤処理のどちらに適用するかの指定

給与計算と休暇処理はよく似ていますが、遡及処理の際の処理方法が多少異なります。

バッチ処理とプロセス リスト マネージャ

プロセス リスト マネージャは、給与計算のプロセス中に PIN マネージャを呼び出し、プロセス リストにあるエレメントを変換するためのプログラムです。プロセス リストから指定された順序でセクションを 1 つずつ読み込みます。条件式があると、プロセス リスト マネージャから PIN マネージャが呼び出され、条件式が変換されます。フォーミュラの変換結果が 0 である場合、セクションは処理されません。フォーミュラの変換結果が 0 以外の数字である場合は、セクションは処理されます。

次の図で、給与計算または休暇欠勤の実行中に、プロセス リスト マネージャと PIN マネージャがどのように連携してプロセス リストのセクションが変換されるかを説明します。



プロセス リスト マネージャ

関連項目:

第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、バッチ処理フローのアーキテクチャについて、 24 ページ

第 32 章、「分割の定義」、 1189 ページ

第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、 615 ページ

プロセス リストのエレメントとセクションの順序

セクション内のエレメントおよびプロセス リスト内のセクションは、給与計算プロセス用に正しい実行順序で論理的に配列する必要があります。以下にガイドラインをいくつか示します。

- 休暇付与の処理では残数累計が加算されます。

休暇取得処理では残数累計が減算されます。同じプロセス リストに休暇付与エレメントおよび休暇取得エレメントを含めて、付与エレメントの後に休暇取得エレメントを置いた場合、加算された残数累計を休暇取得処理に使用できます。

- 条件式が処理される前に、アレイを使ってデータ フィールドに情報をロードする必要がある場合、条件セクションの前にそのアレイを含むセクションを追加します。
- パーセント以外のレート コードを持つ支給の変換は、パーセントのレート コードを持つ支給の変換の前に行います。パーセント計算で使われる給与レート コード グループのメンバー エレメントの変換を先に済ませておく必要があるからです。
- 固定的賃金のレート コードを持つ支給の変換は、固定的賃金外の給与レート コードを持つ支給の変換の前に行います。この順序だと、適切な時間給が先に計算されるため、"時間給 + 固定額" のレート コードを持つ支給の計算に利用できるようになるからです。
- エレメントが標準およびポジティブ入力作成の両方のセクションに存在し、標準セクションがポジティブ入力作成セクションよりも前にくる場合、そのエレメントのポジティブ入力作成時にベースおよびユニットへの調整が考慮されます。

PIN マネージャは、変換された金額と調整額との合計値を返します。ポジティブ入力作成セクションのみにエレメントがある場合は、処理時に調整は無視されます。

プロセス リストの遡及処理に関する注意事項

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- プロセス リストへの変更が遡及処理に与える影響
- 遡及処理中のサブプロセス セクションの再計算

プロセス リストへの変更が遡及処理に与える影響

有効日に注意してください。以前に処理された給与計算期間に適用する有効日の設定されたデータのセットを修正する場合、遡及処理を実行すると結果が変わります。将来の給与計算期間のみについてセクションを変更する場合は、新しい有効日の設定された行をセクションに追加し、エレメントのリストを修正します。

遡及処理中のサブプロセス セクションの再計算

遡及処理中にサブプロセス セクションが実行されると、"支給" の計算ページで支給エレメントおよび控除エレメント用に選択した **[遡及再計算オプション]** が反映されます。たとえば、**[再計算しない]** を選択した場合、サブプロセス セクションでエレメントは再計算されません。

関連項目:

第 33 章、「遡及処理の定義」、1219 ページ

セクションの設定

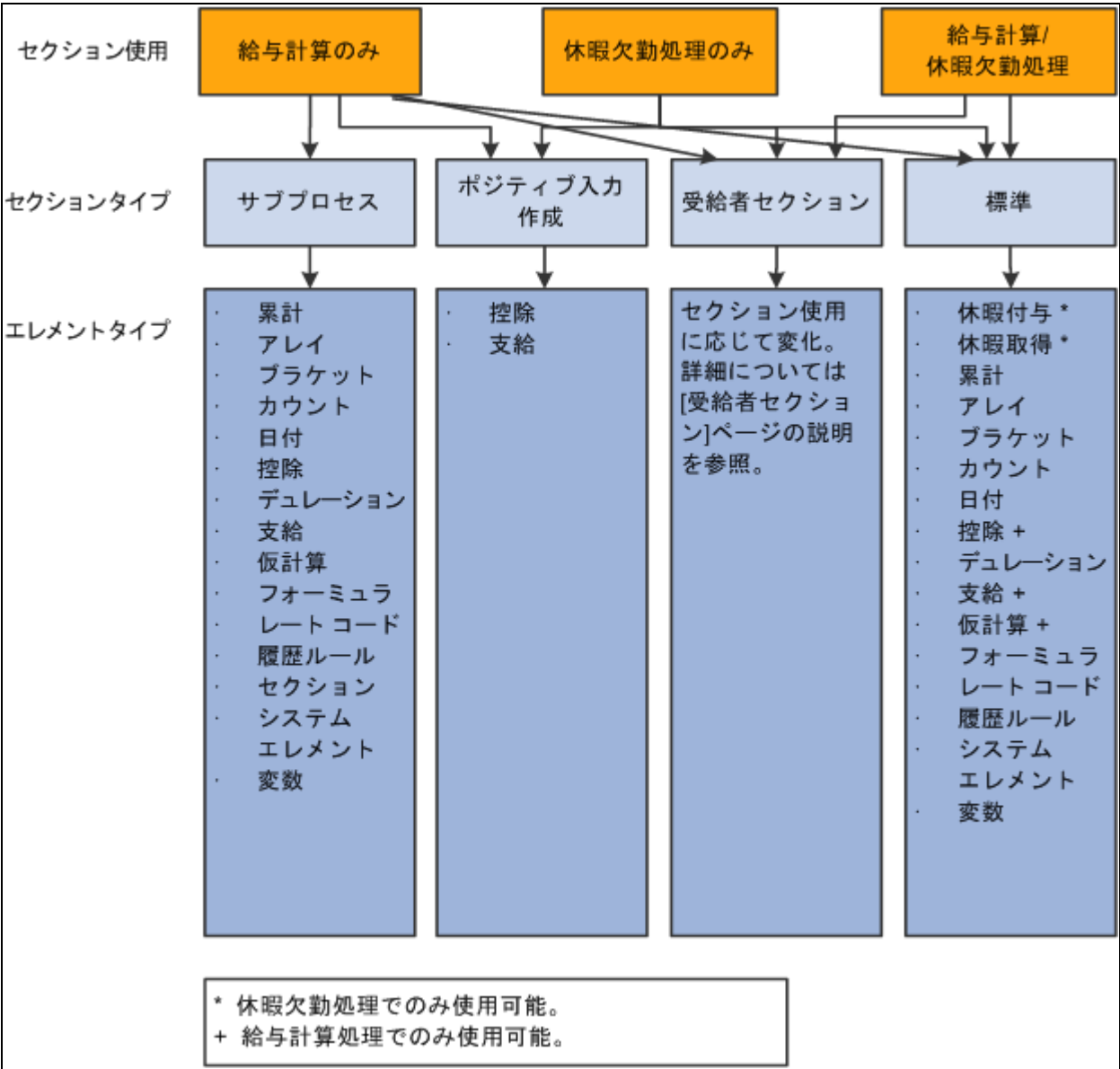
セクションを設定するには、セクション コンポーネント (GP_SECTION) を使用します。

このセクションでは、セクション設定の概要および以下の作業を行う方法について説明します。

- セクション名の設定
- セクションを構成するエレメントを選択します。
- プロセス リストの受給者セクションを作成します。

セクションの設定について

セクションはプロセス リストの作成に使う構成要素です。エレメント名を指定し、セクション使用に給与計算処理、休暇欠勤処理、またはその両方を指定してセクションを作成します。最後に、セクション タイプを選択し、処理する順序でエレメントを挿入します。使用できるエレメントは、セクションの使用対象およびセクション タイプにより異なります。次の図は、各セクションタイプで選択可能なエレメント タイプを示しています。



セクションに追加できるエレメントは、セクション使用とセクション タイプによって異なります。

警告: セクションにエレメントを追加したり、セクションからエレメントを削除してから遡及支給
を実行すると、正しい結果が得られない場合があります。セクションのエレメントに変更を加える
前に、遡及処理に及ぼす影響を確認してください。

関連項目:

- 第 15 章、「エレメント処理の定義」、セクションの設定、 563 ページ
- 第 15 章、「エレメント処理の定義」、プロセス リストのエレメントとセクションの順序、 562
ページ

セクションの設定に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
セクション名	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[プロセス]、[セクション]、[セクション名]	セクション名を設定し、基本パラメータを定義します。 このページは、プロセス リストの設定にも使用されます。 参照: 第 15 章、「 エレメント処理の定義 」、 プロセス リストの設定に使用するページ 、573 ページ。
定義	GP_SECTION	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[プロセス]、[セクション]、[定義]	セクションを構成するエレメントを選択します。
受給者セクション	GP_PYE_SECTION	[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[受給者レベル上書き]、[受給者セクション]、[受給者セクション]	プロセス リストの受給者セクションを作成します。

セクション名の設定

"セクション" のセクション名ページを使って、各セクションの基本パラメータの値を入力します。グローバル ペイロールでは、全てのエレメントで同一のエレメント名共通ページ (GP_PIN) が共有されます。

注意: "セクション" のセクション名ページの [定義の指定日] フィールドでは、**[カレンダー期間終了日]** だけが有効な値です。給与計算プロセスを実行すると、カレンダー期間終了日が読み込まれ、どの有効日付きセクションとプロセス リストを使用するかが決められます。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

セクションを構成するエレメントの選択

定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[プロセス]、[セクション]、[定義])。

セクション名

定義

エレメント名:

KOAE ABS

Absences

所有者:

PS 非管理

定義

検索

最初

1/1

最後

有効日:

1990/01/01

*ステータス:

アクティブ

*セクション使用:

休暇欠勤処理のみ

*セクション タイプ:

標準

セクション エレメント リスト

カスタマイズ

検索

全件表示

最初

1-5/6

最後

エレメント

ドライブ

累計

連番	エレメント タイプ	エレメント名	名称	再計算		
1	休暇付与	KOAE FHOL	Floating Holiday	<input type="checkbox"/>	+	-
2	休暇付与	KOAE PTO	PTO	<input type="checkbox"/>	+	-
3	休暇取得	KOAT PTO	Paid Time Off	<input type="checkbox"/>	+	-
4	休暇取得	KOATSICK	Long Term Sickness	<input type="checkbox"/>	+	-
5	休暇取得	KOAT SICK2	Sickness	<input type="checkbox"/>	+	-

定義ページ

セクション使用

セクションを給与計算、休暇欠勤処理、またはその両方に使用するかどうかを指定します。この指定により、作成できるセクション タイプおよびセクションに追加できるエレメントも決定されます。有効な値は、[休暇欠勤処理のみ]、[給与計算のみ] および [給与計算 / 休暇欠勤処理] です。

セクション タイプ

セクション タイプを選択します。給与計算または休暇欠勤の実行中に、プロセス リスト マネージャがこのセクションのエレメントをどのように処理するかを指定します。[セクション使用] での選択に応じて使用できる値が異なります。

[休暇欠勤処理のみ]:[休暇取得]、[ポジティブ入力作成]、[受給者セクション] または [標準] を選択します。

[給与計算のみ]:[サブ プロセス]、[ポジティブ入力作成]、[受給者セクション] または [標準] を選択します。

[給与計算/休暇欠勤処理]:[受給者セクション] または [標準] を選択します。

選択したタイプによって、[セクション エレメント リスト] グループ ボックスの特定のフィールドが非表示になったり、入力可能になったりします。[受給者セクション] を選択すると、全てのフィールドが入力できなくなります。このページを保存した後、受給者セクション ページにアクセスして特定の受給者用に変換するエレメントを選択できます。

優先順位による純支給額確認

[セクション タイプ] として [サブプロセス] を選択し、関連する国の国別設定コンポーネントで純支給額確認フォーミュラが指定されている場合にのみ表示されます。このセクションを優先順位による純支給額確認に適合させる場合にオンにします。これにより、純支給額確認ロジックがセクションを通過する最初のループに適用されなくなります。代わりに、最初のループ中にその処理順序に応じてエレメントが計算されます。

ループ アクションが [開始] のエレメントの隣にあるコントロールフォーミュラは、後続のループの数をコントロールします。このフォーミュラは、純支給額をゼロ (または定義した純支給額下限) と比較して、別のループを実行するかどうかを決定します。純支給額確認フォーミュラ ([国別設定] で指定) は、後続のループで各控除に対して発生する項目をコントロールします。このフォーミュラが返す値に応じて、控除が計算され純支給額確認が行われるか、計算のみまたは純支給額確認の実行のみが行われるか、あるいは控除がスキップされます。

反復回数の上限

このフィールドは、[ループ アクション] フィールドと連携していて、[セクション タイプ] として [サブプロセス] を選択した場合にのみ表示されます。ループを実行するには、ループの反復回数の上限を入力します。有効値は 1 から 999 までです。小数は入力**できません**。

注意: より効率的に処理を行うには、反復処理を最小限にとどめ、条件が一致した場合は反復回数の上限に達する前でもループを終了させる条件をループに含めます。

フォーミュラ名

このフィールドは、[セクション タイプ] として [サブプロセス] を選択した場合にのみ表示されます。このフィールドは、[ループ アクション] フィールドと連携しています。エレメント (ループ内のエレメント) を処理するかどうかを決定する数値フォーミュラを選択できます。

- ループ アクションが [開始] のエレメントの隣にあるコントロール フォーミュラは、開始タグと終了タグの間の全てのエレメントの変換をコントロールします。フォーミュラによる変換結果がゼロ (偽) になった場合、これらのエレメントは変換されず、ループは終了します。変換の結果が 0 以外の値 (たとえば、-2、-1、1、または 2) になると、条件が真であると見なされ、ループ内のエレメントが変換されます。
- ループ アクションが [なし] の、単一のエレメントに関連付けられているフォーミュラは、そのエレメントにだけ適用されます。フォーミュラの変換結果がゼロである場合、そのエレメントは変換されません。変換の結果が 0 以外の値になると、そのエレメントは変換されます。

ループ アクション

このフィールドは、[セクション タイプ] として [サブプロセス] を選択した場合にのみ表示されます。ループの開始または終了を指定するループ アクションを選択します。有効な値は、[なし]、[開始]、および [終了] です。1 つのサブプロセスに対しては、[開始] と [終了] を 1 つずつ指定できます。[開始] の後には必ず [終了] を指定します。このフィールドは、[反復回数の上限] フィールドと連携しています。

エレメント タイプ

セクションに追加するエレメントのタイプを選択します。指定した [セクション タイプ] および [セクション使用] の値に応じて有効なオプションが表示されます。

標準セクションでは、[累計]、[アレイ]、[ブラケット]、[カウント]、[日付]、[デュレーション]、[フォーミュラ]、[レート コード]、[履歴ルール]、[システム エレメント]、[変数] または [書可アレイ] から選択できます。

給与計算の標準セクションでは、上記の全ての値に加えて、[控除]、[仮計算] および [支給] を選択できます。

休暇欠勤処理の標準セクションでは、上記の標準セクションの全ての値に加えて、[休暇付与] と [休暇取得] を選択できます。([休暇付与] は、周期ベースの休暇付与エレメントだけを指します。)

サブプロセス セクションでは、[累計]、[アレイ]、[ブラケット]、[カウント]、[日付]、[控除]、[デュレーション]、[支給]、[仮計算]、[フォーミュラ]、[レート コード]、[履歴ルール]、[システム エレメント]、または [変数] から選択できます。

ポジティブ入力作成セクションでは、[支給] または [控除] を選択できます。

休暇取得セクションでは、[休暇取得] を選択します。

エレメント名

セクションに含めるエレメントの名前を入力します。指定するエレメント タイプによって、選択できるエレメントが決まります。

ドライバ累計

[ドライバ累計] タブをクリックします。

このタブには、エレメント名共通ページ (GP_PIN) で支給または控除にドライバ累計が定義されている場合に、ドライバ累計が表示されます。このタブは参照専用です。ドライバと支給または控除を関連付けるには、支給または控除の設定コンポーネントにアクセスします。

関連項目:

[第 7 章、「計算エレメントの定義」、フォーミュラ エレメントの定義、223 ページ](#)

プロセス リストの受給者セクションの作成

受給者セクション ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[受給者レベル上書き]、[受給者セクション]、[受給者セクション])。

受給者セクション

従業員 ID: KOW001 雇用コード: 0 名前: Antonio Smith

セクション

検索 最初 1/1 最後

*エレメント名: KOSE PAYEE セクション使用: 給与計算

有効日

検索 最初 1/1 最後

*有効日: 2009/03/09 *ステータス: アクティブ

受給者セクション エレメント

カスタマイズ 検索 全件表示 最初 1/1 最後

連番	エレメント タイプ	エレメント名	名称	再計算
				<input type="checkbox"/>

受給者セクション ページ

このページを使用する前に、"セクション" のセクション名ページおよび "セクション" の定義ページを使用して受給者セクションを作成しておきます。

エレメント名

"セクション" のセクション名ページで定義した受給者セクション名を入力します。

セクション使用

セクションを使用できるプロセス リストのタイプを示す値が表示されます。"給与計算"、"休暇処理"、"いずれか" があります。これらは、"セクション" の定義ページの [セクション使用] フィールドで指定できます。

570

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

受給者セクション エレメント

エレメント入カタイプ

セクションに追加するエレメントのタイプを選択します。[セクション使用] での値に応じて有効値が異なります。

"給与計算": [累計]、[アレイ]、[ブラケット]、[カウント]、[日付]、[控除]、[デュレーション]、[支給]、[仮計算]、[フォーミュラ]、[履歴ルール]、[給与レート コード]、[システム エレメント]、[変数]、または [書込可能アレイ] から選択できます。

"休暇処理": [休暇付与] (周期ベースの付与エレメント)、[休暇取得]、[累計]、[アレイ]、[ブラケット]、[カウント]、[日付]、[デュレーション]、[フォーミュラ]、[履歴ルール]、[給与レート コード]、[システム エレメント]、[変数]、または [書込可能アレイ] から選択できます。

"いずれか": [累計]、[アレイ]、[ブラケット]、[カウント]、[日付]、[デュレーション]、[フォーミュラ]、[給与レート コード]、[システム エレメント]、[変数]、または [書込可能アレイ] から選択できます。

エレメント名

セクションに追加するエレメントの名称を選択します。

プロセス リストの設定

プロセス リストを設定するには、プロセス リスト コンポーネント (GP_PROCESS) を使用します。

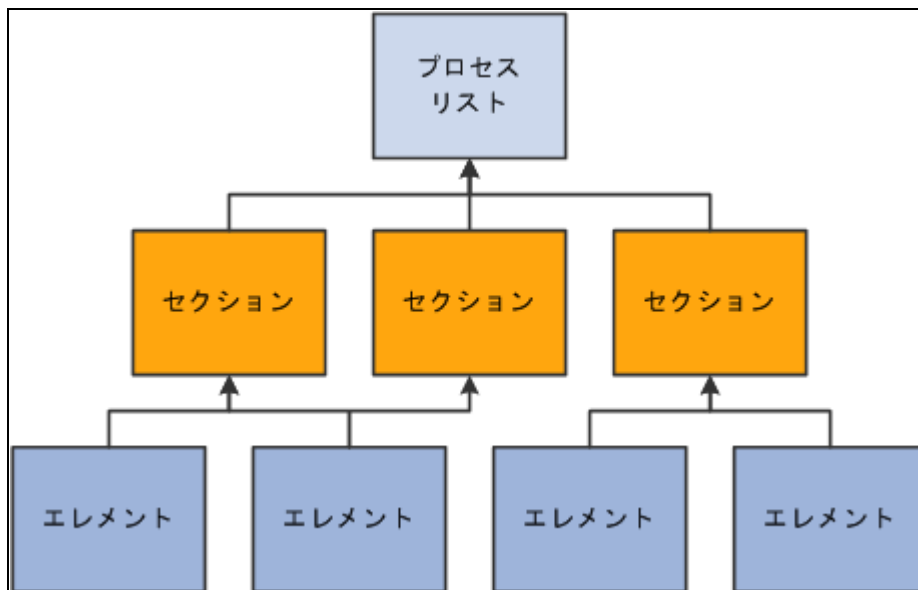
このセクションでは、プロセス リスト設定の概要と、以下の作業について説明します。

- プロセス リスト名の設定
- プロセス リストを構成するセクションの指定

プロセス リストについて

プロセス リストを作成する前に、プロセス リストに追加するエレメント セットをグループ分けして、プロセスに含めるセクションに定義しておきます。プロセス リストでは、各セクションを実行するタイミングを条件付きロジックを使って指定できます。

次の図は、エレメント、セクション、およびプロセス リストの関係を示しています。



プロセス リスト、セクション、およびエレメントの関係

給与計算用に複数のプロセス リストを作成することができます。たとえば、基本支給、賞与、時間外給与など、支給タイプごとに別のプロセス リストを作成することも、全ての支給タイプを処理する 1 つのプロセス リストを作成することも可能です。休暇欠勤用には別のプロセス リストを作成します。休暇欠勤は給与計算と切り離して処理する必要があるからです。

プロセス リストの作成が完了したら、実行タイプによってプロセス リストに 1 つまたは複数のカレンダーを関連付けます。カレンダーによって以下が決定されます。

- 支給先

そのカレンダーの支給グループおよび受給者選択条件で指定されます。

- 支給エレメント

カレンダーに関連付けられたプロセス リストで指定されます。

- 支給期間および支給周期

カレンダーにリンクされた周期 ID によって指定されます。

給与計算を実行する際は、カレンダーの支給期間終了日が読み込まれ、該当する有効日の付いたプロセス リストが検索されて、選択された受給者に対する給与計算処理が 1 人ずつ行われます。

関連項目:

第 16 章、「カレンダーの使い方」、577 ページ

第 11 章、「休暇欠勤管理について」、バッチ休暇欠勤プロセス、398 ページ

プロセス リストの設定に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
プロセス リスト名	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレームワーク]、[プロセス]、[プロセス リスト]、[プロセス リスト名]	プロセス リスト名を設定し、基本パラメータを定義します。
定義	GP_PROCESS	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレームワーク]、[プロセス]、[プロセス リスト]、[定義]	プロセス リストを構成するセクションおよび実行順序を指定します。

プロセス リスト名の設定

プロセス リスト名ページを使って、プロセス リストの基本パラメータの値を入力します。グローバル ペイロールでは、全てのエレメントで同一のエレメント名共通ページ (GP_PIN) が共有されます。

注意: プロセス リスト名ページの [定義の指定日] フィールドでは、**[カレンダー期間終了日]** だけが有効な値です。給与計算プロセスを実行すると、カレンダー期間終了日が読み込まれ、使用する有効日の設定されたプロセス リストとセクションが決められます。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、97 ページ

プロセス リストを構成するセクションの指定

定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[プロセス]、[プロセス リスト]、[定義])。

プロセスリスト名

定義

エレメント名:

KOPR PAY

Process Pay

所有者:

PS 非管理

定義

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

有効日:

1990/01/01

*ステータス:

アクティブ

*計算タイプ:

給与計算

総支給額:

K0ACGROSS

Current Gross

純支給額:

K0ACNET

Current Net

純支給額下限入力タイプ:

純支給額下限エレメント:

プロセス リスト メンバー

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1-3/8 | 最後

連番	セクション エレメント名	Section Description	条件入力タイプ	条件エレメント名	名称		
1	KOSE INIT	Initial Section				+	-
2	KOSE REM	Remuneration				+	-
3	KOSE PAYABS	Absence Payroll				+	-

バージョン:

P_8.30.00.00.P553K

定義ページ

計算タイプ

休暇欠勤処理または給与計算にこのプロセス リストを使用できるかどうかを指定します。またこのプロセス リストに追加できるセクションのタイプを指定します。有効な値は [休暇欠勤計算] および [給与計算] です。

総支給額

総支給額の累計エレメントを入力します。受給者のセグメント ステータス レコードに、総支給額が保存されます。このフィールドは、休暇欠勤処理のプロセス リストでは使用できません。

純支給額

銀行振込処理で受給者の純支給額決定に使われる純支給額累計エレメントを選択します。受給者のセグメント ステータス レコードに、純支給額が保存されます。この情報は、延滞処理で純支給額を検証するときにも使われます。このフィールドは、休暇欠勤処理のプロセス リストでは使用できません。

純支給額下限入力タイプ

このフィールドは、純支給額確認機能を使用する際に適用可能になります。受給者の控除が純支給額または定義した純支給額下限を超えると純支給額確認が行われます。純支給額が純支給額下限を下回らないようにするには、純支給額下限を定義するエレメント タイプを選択します。これは、処理が処理順序（純支給額確認のサブセクションに含まれない）と優先順位（純支給額確認セクションに含まれる）のどちらで行われるのかに関係なく、純支給額確認処理で有効です。

有効な値は [ブラケット]、[フォーミュラ] および [変数] です。

純支給額下限エレメント

純支給額下限を定義するエレメントを選択します。[純支給額下限入力タイプ] で選択したタイプによって選択できるエレメントが決まります。

控除の純支給額確認処理では、ここで定義された純支給額下限が使用されます。純支給額下限値を入力しない場合は、ゼロが純支給額確認中の純支給額下限として使用されます。

このエレメントを定義する際に、エレメントを再計算するかどうかを考慮してください。ほとんどの場合、支給実行全体につき 1 つの純支給額下限値が必要です。この場合、[常時再計算] チェックボックスをオフにします。

プロセス リスト メンバー**セクション エレメント名**

追加するセクションの名前を選択します。選択した計算タイプにより、追加できるセクションが決まります。1 つのプロセス リストには同じセクションを 1 度しか使えませんが、同じセクションを複数のプロセス リストに追加できます。

条件入力タイプ

[フォーミュラ] または [変数] を選択して、プロセス リストに追加するセクションを変換する条件を指定できます。

条件エレメント名

このフィールドは、条件入力タイプを選択した場合に必要です。条件を定義するエレメントの名前を選択します。エレメントによる変換結果が 0 になると、条件が偽と見なされ、セクションは変換されません。計算の結果が 0 以外の値（たとえば、-2、-1、1、または 2）になると、条件が真であると見なされ、セクションが変換されます。

関連項目:

第 15 章、「エレメント処理の定義」、プロセス リストのエレメントとセクションの順序、 562 ページ

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、純支給額の確認と延滞処理について、 307 ページ

第 16 章

カレンダーの使い方

この章では、カレンダーの概要と以下の項目について説明します。

- 実行タイプの定義
- 期間の作成
- 単一カレンダーの作成
- カレンダーのセットの作成
- カレンダー グループの定義
- 受給者のカレンダー上書きの入力

カレンダーについて

このセクションでは、共通フィールドと、以下の内容について説明します。

- カレンダー支給プロセス フロー
- カレンダーの作成

この章で使用する共通フィールド

カレンダー

処理対象となる受給者、実行タイプ、および支給期間を指定します。ジェネレーション コントロールに対しても、処理から特定のエレメントを除外する、サポート エレメントを上書きする、およびほかの情報を提供する、などの情報を指定します。

カレンダー グループ

給与計算処理または休暇欠勤処理を開始する場合、カレンダー グループ ID を入力して、処理するカレンダーまたはカレンダーのセットを指定する必要があります。オフサイクル実行の場合は、処理するオフサイクル グループのセットを指定します。

同時に複数のカレンダーまたはオフサイクル グループを処理できます。カレンダー グループは国名がキーとなっているため、1 つのカレンダー グループに同じ国の複数のカレンダーまたはオフサイクル グループを含めることができます。

期間

実行処理を行う支給期間と支給周期を定義します。

支給期間をカレンダーにリンクすることによって、給与計算実行に関連付けます。実行タイプと同様に、支給期間は再利用できます。

実行タイプ

給与計算または休暇欠勤の実行を指定するためにユーザーが定義できます。一般的な実行タイプとしては、基本支給、賞与、時間外給与、前払いがあります。実行タイプでは、使用するプロセス リスト、遡及トリガを処理するかどうか、および勤務管理またはヒューマン リソース管理の変動報酬管理アプリケーションのデータを処理する際に必要な情報を指定します。実行タイプは、ジェネレーション コントロール、再計算/履歴抽出ルール、および遡及マッチング処理にも使用されます。

実行タイプをカレンダーにリンクすることによって、給与計算実行処理に関連付けます。実行タイプの情報はカレンダーとは関係なく定義するため、同じ実行タイプを複数のカレンダーにリンクできます。たとえば、週次の支給グループと月次の支給グループがあり、同じプロセス リストが使用されているときは、実行タイプを 1 つ設定して、それを複数のカレンダーにリンクすることも可能です。有効日を設定することで、プロセス リストまたは遡及トリガ処理を変更でき、さらに変更前の設定でも遡及計算を再生成できます。

関連項目:

[第 32 章、「分割の定義」、1189 ページ](#)

[第 7 章、「計算エレメントの定義」、ジェネレーション コントロール エレメントの定義、256 ページ](#)

[第 6 章、「データ取得エレメントの定義」、再計算/履歴抽出ルール エレメントの定義、183 ページ](#)

[第 33 章、「遡及処理の定義」、未処理遡及デルタの管理、1278 ページ](#)

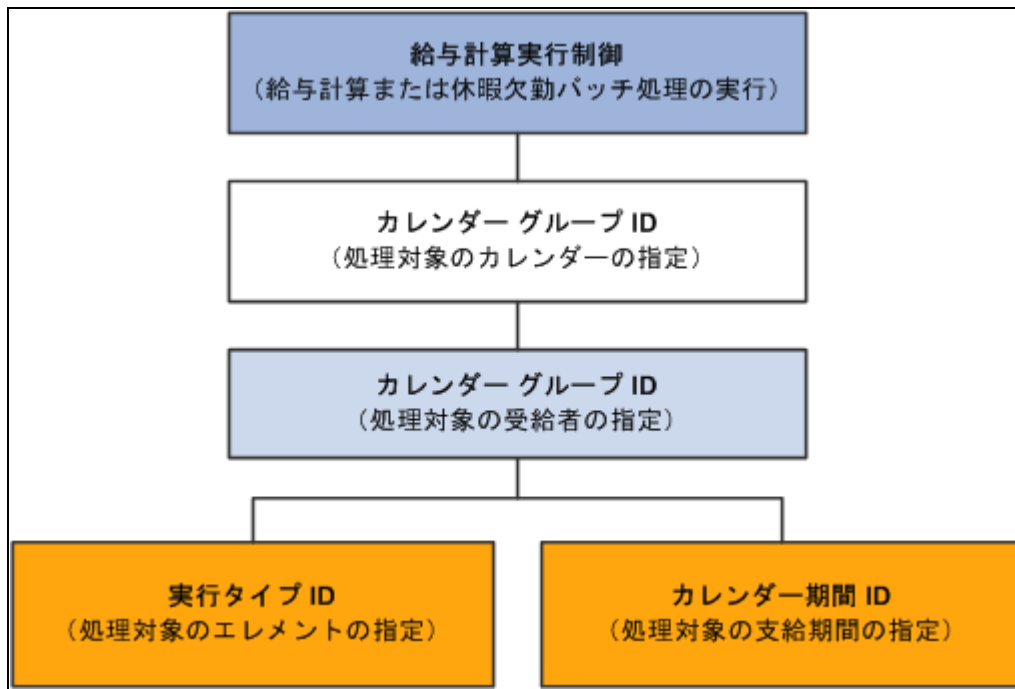
カレンダー支給プロセス フロー

給与計算実行または休暇欠勤実行の処理時には、処理対象となる受給者と、その受給者に対して、どの支給、控除、その他のエレメントを処理するか、および処理を行う期間について把握している必要があります。

オンサイクル処理では、カレンダーによってこの情報が一元管理されます。カレンダーは、処理対象となる受給者と処理内容およびその支給期間を定義する各構成要素にリンクされています。

注意: オフサイクル処理では、カレンダーではなくオフサイクル グループによって、処理対象となる受給者、エレメント、および期間を指定します。

次の図は、各構成要素がオンサイクルの給与計算および休暇欠勤のバッチ処理実行時に、どのように連携するかを示します。



コンポーネントの相互作用

関連項目:

第 24 章、「オフサイクル処理の管理」、オフサイクル処理について、937 ページ

カレンダーの作成

カレンダーでは、給与計算または休暇欠勤実行のルールやプロセスに従い、選択された支給グループの受給者がまとめられます。以下のいずれかの方法でカレンダーを定義できます。

- カレンダー コンポーネントを使ってカレンダーを個別に定義

この機能を使ってカレンダーを定義する際は、ジェネレーション コントロール、上書き、または処理から除外する要素を指定できます。勤務管理から取得する給与支給対象時間の期間も指定できます。

- 自動カレンダー作成コンポーネントを使って、複数のカレンダーを同時定義

カレンダー コンポーネントを使って、自動作成されたカレンダーを編集できます。

注意: カレンダーを作成する前に、カレンダーに関連付けられる実行タイプと期間 ID を定義しておく必要があります。

参照: 第 16 章、「カレンダーの使い方」、事前設定、 592 ページ。

実行タイプの定義

このセクションでは、処理パラメータの指定方法について説明します。

実行タイプの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
実行タイプ	GP_RUN_TYPE	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[プロセス]、[実行タイプ]、[実行タイプ]	使用するプロセス リスト、および遡及トリガを処理するかどうかやその他の処理パラメータを指定します。

処理パラメータの指定

実行タイプ ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[プロセス]、[実行タイプ]、[実行タイプ])。

実行タイプ

実行タイプ: GNPAYROLL
***名称:** 給与計算 **略称:** 給与計算
***計算タイプ:** 給与計算 ☐ 重複可

通及調整ソース		加算減算 検索 全件表示 最初 1/1 最後	
実行タイプ	名称		
		+	-

定義		検索 全件表示 最初 1/1 最後	
有効日:	2002/01/01	*ステータス:	アクティブ
プロセス名:	SALARIS PR Regular Payroll Process		
<input type="checkbox"/> 通及トリガの処理			

勤務管理 TRC		加算減算 検索 全件表示 最初 1/1 最後	
勤務時間レポートコード	名称		
		+	-

変動報酬 - 報奨		加算減算 検索 全件表示 最初 1/1 最後	
*支給	名称		
		+	-

実行タイプ ページ

注意: 処理が開始された後は、実行タイプ ページ上のフィールドを編集できません。変更するには、給与計算実行をキャンセルします。

計算タイプ [給与計算] または [休暇欠勤計算] を選択します。

重複可

セグメントの重複を許可する場合はチェック ボックスをオンにします。

このチェック ボックスがオフの場合、受給者選択処理によってセグメント ステータス レコードを作成する際、システムによって従業員 ID、雇用レコード、支給グループ、実行タイプ、期間 ID、セグメントの開始日と終了日が全て同じで、アクティブなセグメント ステータス レコードが、他に既に存在するかどうかチェックされます。

一致するレコードが存在しない場合は、新しいセグメント ステータス レコードが作成されます。

このチェック ボックスでは、ある条件下での重複支給の可否を設定します。たとえば、オフサイクルの支給を計算するカレンダーを作成するとします。この場合は、通常の給与計算サイクルの間に、受給者に対して重複支給が行われるのを避ける必要があります。この場合、チェック ボックスをオフにしておけば、受給者に対して重複支給は行われません。また、賞与またはコミッションの給与計算を実行するためのカレンダーを作成する場合、複数のカレンダー ID を定義し、同じ受給者に複数のカレンダーを使って支給を許可することがあります。この場合には、チェック ボックスをオンにして、受給者に対して支給が 2 回行われるようにします。

注意: 設定とは関係なく、カレンダー内の同じ受給者に対して重複するセグメントは作成されません。受給者カレンダー上書きまたはオフサイクルの前払いのある期間を部分的に処理した場合、同じカレンダーの後続の処理では期間の残りの部分のみが処理され、処理の重複が回避されます。

遡及調整ソース

実行タイプ名

給与計算実行中に遡及調整を含める追加の実行タイプを入力します。たとえば、通常の給与計算実行タイプに対する追加の遡及調整ソースとして賞与の実行タイプを選択できます。これにより、通常の給与計算実行中に賞与の遡及デルタを自動的に繰り越せるため、受給者は不定期的な賞与支給の実行を待つことなく、賞与の遡及調整を受け取ることができます。

参照: 第 33 章、「遡及処理の定義」、未処理遡及デルタの管理、1278 ページ。

定義

プロセス名

[計算タイプ] フィールドで選択した値に基づいて、休暇欠勤または給与計算のプロセス リストからリストを入力します。

遡及トリガの処理

遡及トリガを処理するには、このチェック ボックスをオンにします。賞与または経費の処理実行中には遡及トリガを無視する場合がありますが、通常の給与計算では遡及トリガの処理を常に含めます。

このチェック ボックスがオンにされると、カレンダー ID に含まれる全ての受給者には、遡及トリガが処理されます。

カレンダーおよびカレンダー グループ ID レベルでこのフィールドを上書きできます。

勤務管理 TRC

勤務時間レポート コード

特定の実行タイプを処理する場合に勤務時間レポート コードを選択します。

注意: このフィールドは、勤務管理を使用している場合にのみ表示されます。

変動報酬 - 報奨

支給

処理中の報奨レコードにリンクされた支給エレメントを入力します。

注意: このフィールドは、ヒューマン リソース管理の変動報酬管理アプリケーションを使用している場合にのみ表示されます。

関連項目:

[第 41 章、「PeopleSoft Enterprise 勤務管理との統合」、1605 ページ](#)

[第 42 章、「変動報酬機能との統合」、1627 ページ](#)

期間の作成

期間を設定するには、期間コンポーネント (GP_CALENDAR_PERIOD) を使用します。

給与計算または休暇欠勤を処理するには、計算対象となる期間に対し、期間 ID を使って支給期間の開始日、終了日、周期を定義します。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 単一期間の定義
- 自動期間作成の使用

期間の作成に使用するページ




ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
期間	GP_CALENDAR_PERIOD	<ul style="list-style-type: none">• [グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[カレンダー定義]、[期間]、[期間]• [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[カレンダー]、[期間]、[期間]	単一の支給期間を定義します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
自動期間作成	GP_AUTO_PRD	<ul style="list-style-type: none"> [グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[カレンダー定義]、[期間 - 自動作成]、[自動期間作成] [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[カレンダー]、[自動期間作成]、[自動期間作成] 	複数の支給期間を定義します。

単一期間の定義

期間ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[カレンダー定義]、[期間]、[期間])。

期間

期間 ID: KOWCA05M04
***名称:**
略称:
***期間開始日:** 
***期間終了日:** 
***周期:**  月次
周期係数: 12.00000000

期間ページ

注意: 処理が開始された後は、期間ページ上のフィールドを編集できません。変更するには、給与計算実行をキャンセルします。

期間開始日、 期間終了日

計算される期間の日付を入力します。

カレンダーによっては、支給期間が同じでも、その支給日は異なる場合があります。支給日は "カレンダー" の定義ページで指定します。

周期

周期を入力します。この周期を使用して、ジェネレーション コントロールの周期なしで定義された支給、控除、または休暇付与エレメントを非年次化します。ジェネレーション コントロールの周期がエレメントに対して定義されている場合は、以下のとおりになります。

- エレメントのジェネレーション コントロールとカレンダー ID のジェネレーション コントロールが一致する場合には、このジェネレーション コントロールの周期は非年次化係数に使用されます。
- エレメントのジェネレーション コントロールとカレンダー ID のジェネレーション コントロールが一致しない場合は、いくつかの例外を除き、エレメントは処理されません。

遡及調整がある場合は、調整は支給または控除には適用されますが、支給または控除自体は処理されません。控除プログラムにより、延滞回収処理は実行されます。回収金額が生成されると、控除額は回収金額に変換されます。

注意: 休暇付与エレメントには 2 つのジェネレーション コントロール フィールドがあり、1 つは主要エレメント、もう 1 つは調整処理に使用します。

周期係数

年次化または非年次化の係数を表示します。

期間 ID で定義可能な時間および周期のデータ例

次の表は、終了日と周期を変えることで異なる期間を定義する例を示しています。

開始日	終了日	周期
6 月 1 日	6 月 7 日	週次

開始日	終了日	周期
6 月 1 日	6 月 30 日	月次
6 月 1 日	6 月 15 日	半月
6 月 1 日	8 月 31 日	四半期

周期の例

4 つのエレメントがあり、各エレメントが総額 1200 で開始していると仮定してください。次の表は、さまざまな周期オプションを組み合わせた場合の影響を表しています。周期オプション適用後の各エレメントの値は、表の最終行に表示されています。

周期	エレメント 1	エレメント 2	エレメント 3	エレメント 4
金額	1200	1200	1200	1200
周期 (エレメント定義)	月次 (12)	月次 (12)	月次 (12)	月次 (12)
ジェネレーションコントロール周期	なし	月次 (12)	月次 (12)	年次 (1)
支給期間の周期	半月 (24)	半月 (24)	半月 (24)	半月 (24)
カレンダーのジェネレーションコントロール周期	なし	月次 (12)	なし	半月 (24)
計算金額 (金額×年次化係数/非年次化係数)	600 (金額×周期/支給期間の周期)	1200 (金額×周期/ジェネレーションコントロールの周期)	処理なし	24 000 (金額×周期/ジェネレーションコントロールの周期)

関連項目:

第 7 章、「計算エレメントの定義」、ジェネレーション コントロール エレメントの定義、 256
ページ

自動期間作成の使い方

自動期間作成ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と
給与計算処理]、[カレンダー定義]、[期間 - 自動作成]、[自動期間作成])。

自動期間作成

ラン コントロール ID: 01

[レポート マネージャ](#)[プロセス モニター](#)

実行

期間作成パラメータ

*周期 ID:

*単位:

日

*開始日:

2009/04/03

*終了日:

2009/04/03

*期間 ID プレフィックス:

期間周期サフィックス:

*連番:

1

作成される期間 ID (最大値は 99):

01 - nn

*期間内の単位数:

自動期間作成ページ

期間作成パラメータを入力して [実行] をクリックします。

周期 ID

カレンダーの期間周期を入力します。このフィールドは期間の名称
作成にも使用します。

注意:

入力した値が、[単位] フィールドと [期間内の単位数] フィー
ルドの値との整合性を検証して変更されることはありません。

参照:

第 16 章、「カレンダーの使い方」、単一期間の定義、 586
ページ。

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

589

単位	<p>期間の単位を選択します。</p> <p>[日] と [月] は [期間内の単位数] フィールドと共に使用し、期間の日数または月数を指定します。</p> <p>[半月] は 15 日間を表します。最初の半月周期には常に 1 日から 15 日までが含まれます。2 番目の半月周期には、16 日から 28、29、30、31 日のいずれかまで (月によって異なる) が含まれます。この値を選択すると、[期間内の単位数] が表示されなくなります。</p>
期間内の単位数	<p>作成された各期間の単位数を入力します。</p>
開始日 、 終了日	<p>[開始日] の日付から期間が作成されます。[終了日] の日付に達するまで、期間が連続して作成されます。</p> <p>[終了日] より以前、または同日を終了日として持つ期間が作成されます。</p>
期間 ID プレフィックス	<p>7 文字までの半角英数字でプレフィックスを入力します。システムでは、このプレフィックスに期間周期サフィックスと連番を組み合わせ、各期間固有の期間 ID を作成します。</p>
期間周期サフィックス	<p>期間 ID に追加される期間周期サフィックス (接尾辞) を入力します。デフォルト値は選択した周期 ID の最初の文字になっています。</p>
連番	<p>最初の期間の番号を入力します。以降に作成される各期間に対し、連番が継続して自動的に割り当てられます。</p> <p>これは、同じ年に別の処理を実行して期間を作成する際に便利です。仮に、月次の給与計算に 6 つの期間を作成する必要があるとします。このフィールドに 1 を入力すると、1 から 6 までの期間が作成されます。その後、残りの月の期間を作成する際には、7 を入力します。</p>
作成される期間 ID (最大値は 99)	<p>このフィールドは、期間 ID プレフィックス、期間周期サフィックス、および連番を組み合わせ、プロセスによって作成される期間を示します。たとえば、期間 ID プレフィックスに PAY2001、期間周期サフィックスに M、連番に 1 と入力した場合、作成される期間は PAY2001M01 ~ PAY2001Mnn となります。nn は、作成された最後の期間の番号です。</p>

例: 単位と期間内の単位数の組み合わせ

次の表は、単位と期間内の単位数のさまざまな組み合わせを使用して定義した期間の例を示しています。

単位	期間内の単位数	検死結果
日	7	7 日間単位の期間が作成されます (週単位の給与計算に使用)。
日	14	14 日間単位の期間が作成されます (隔週単位の給与計算に使用)。
半月	なし	15 日間単位の期間が作成されます (半月周期の給与計算に使用)。期間には、1 日から 15 日までのものと 16 日から各月の最終日までのものがあります。
月	1	1 か月単位の期間が作成されます (月単位の給与計算に使用)。
月	3	3 か月単位の期間が作成されます (四半期単位の給与計算に使用)。

単一カレンダーの作成

単一のカレンダーを作成するには、カレンダー コンポーネント (GP_CALENDAR) を使用します。

このセクションでは、事前設定および以下の方法について説明します。

- カレンダーと受給者選択条件のリンク
- カレンダーのジェネレーション コントロール周期を上書きします。
- カレンダーのサポート エLEMENTの上書き

- エレメントのカレンダーからの除外

注意: 処理が開始された後は、これから処理する受給者リストへ受給者を追加する以外に、カレンダー コンポーネント上のフィールドは変更できません。これらのページを変更するには、処理をキャンセルします。

事前設定

カレンダーを作成する前に、カレンダーに関連付ける実行タイプと期間 ID を定義します。

別のカレンダーのポジティブ入力を作成する休暇欠勤実行、給与計算実行のカレンダーを作成する場合は、ターゲット カレンダーを先に作成します。

注意: カレンダーは 1 つの支給グループに関連付けられています。受給者の支給グループを変更すると、期間分割が生じます。たとえば、受給者が PGA の支給グループから PGB に 6 月 15 日に変更される場合、1 日から 14 日までは PGA のカレンダーで処理され、15 日から 30 日までは PGB のカレンダーで処理されます。

関連項目:

[第 16 章、「カレンダーの使い方」、実行タイプの定義、581 ページ](#)

[第 16 章、「カレンダーの使い方」、期間の作成、585 ページ](#)

[第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、615 ページ](#)

単一カレンダーの作成に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
"カレンダー" - 定義	GP_CALENDAR1	<ul style="list-style-type: none"> [グローバル ペイ ロール/休暇欠勤管 理]、[休暇欠勤処理 と給与計算処理]、 [カレンダー定義]、 [カレンダー]、[定義] [HRMS 基本設定]、 [製品/業務別定義]、 [グローバル ペイ ロール/休暇欠勤管 理]、[フレーム ワー ク]、[カレンダー]、 [カレンダー]、[定義] 	カレンダーに関連付けら れた支給グループ、期間 ID、実行タイプ ID、 ターゲット カレンダー ID および受給者選択の 検索条件をリンクしま す。
"カレンダー" - ジェネ レーション コントロール	GP_CALENDAR3	<ul style="list-style-type: none"> [グローバル ペイ ロール/休暇欠勤管 理]、[休暇欠勤処理 と給与計算処理]、 [カレンダー定義]、 [カレンダー]、[ジェ ネレーション コント ロール] [HRMS 基本設定]、 [製品/業務別定義]、 [グローバル ペイ ロール/休暇欠勤管 理]、[フレーム ワー ク]、[カレンダー]、 [カレンダー]、[ジェ ネレーション コント ロール] 	カレンダーのジェネレー ション コントロール周期 を上書きします。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
"カレンダー" - サポート エレメント上書き	GP_CALENDAR2	<ul style="list-style-type: none"> [グローバル ペイ ロール/休暇欠勤管 理]、[休暇欠勤処理 と給与計算処理]、 [カレンダー定義]、 [カレンダー]、[サ ポート エレメント上 書き] [HRMS 基本設定]、 [製品/業務別定義]、 [グローバル ペイ ロール/休暇欠勤管 理]、[フレーム ワー ク]、[カレンダー]、 [カレンダー]、[サ ポート エレメント上 書き] 	カレンダーに関連付けら れたブラケット、日付、 デューレーション、フォー ミュラ、または変数エレ メントの値を上書きしま す。
"カレンダー" - 除外エレ メント	GP_CALENDAR4	<ul style="list-style-type: none"> [グローバル ペイ ロール/休暇欠勤管 理]、[休暇欠勤処理 と給与計算処理]、 [カレンダー定義]、 [カレンダー]、[除外 エレメント] [HRMS 基本設定]、 [製品/業務別定義]、 [グローバル ペイ ロール/休暇欠勤管 理]、[フレーム ワー ク]、[カレンダー]、 [カレンダー]、[除外 エレメント] 	カレンダーから除外する 支給、控除、休暇取得、 または休暇付与エレメン トを指定します。

カレンダーと受給者選択条件のリンク

"カレンダー" の定義ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[カレンダー定義]、[カレンダー]、[定義])。

定義			
ジェネレーション コントロール		サポート エLEMENT 上書き	
除外 ELEMENT			
支給グループ:	KOWPG KU2	US Biweekly Hourly	カレンダー ID: KU KUB26
支給元:	KOWPE ABS1	Absence Pay Entity	国: CYM
*期間 ID:	KUB26	2004/12/16 - 2004/12/29	
*支給日:	2004/12/29		
*実行タイプ:	KOWRYABS	休暇欠勤管理実行タイプ	
ターゲット カレンダー:		-	

受給者オプション	
<input checked="" type="radio"/> アクティブな受給者のみ	追加条件 [アクティブな受給者 - 追加条件付き]、[アクティブ受給者/条件付き受給者]、または [全ての受給者 - 追加条件付き] を選択した場合に、受給者選択の追加条件として以下の条件を選択します。 <input type="checkbox"/> ポジティブ入力 <input type="checkbox"/> 遡及変更未処理
<input type="radio"/> アクティブな受給者 - 追加条件付き	
<input type="radio"/> アクティブ受給者/条件付き受給者	
<input type="radio"/> 全ての受給者 - 追加条件付き	
<input type="radio"/> リストされた受給者のみ	

"カレンダー" - 定義ページ

期間 ID カレンダーが表す支給期間を入力します。対応する日付が隣の開始日と終了日を示すフィールドに表示されます。

支給日 受給者に支給される日を入力します。税計算用に、このデータが重要な国もあります。

実行タイプ このカレンダー実行に使用されるプロセス リストを指定する実行タイプを入力します。実行タイプにより、遡及トリガを処理するかどうかも指定されます。

<実行タイプ名称> 使用するプロセス リストを指定したり、遡及トリガを処理するかどうか、およびその他の処理パラメータを指定する実行タイプ ページにアクセスする場合にクリックします。

参照: 第 16 章、「カレンダーの使い方」、処理パラメータの指定、581 ページ。

ターゲット カレンダー 休暇欠勤処理の実行またはポジティブ入力を作成する処理の実行を定義する際に使用します。作成される日次データまたはポジティブ入力に対するターゲット カレンダーを指定します。休暇欠勤処理では過去の期間をターゲットにすることはできないので、ターゲット カレンダーの終了日は現在の期間 ID の終了日より前にはできません。

勤務カレンダー

勤務管理を使用している場合は、カレンダー期間 ID を入力します。これにより、期間を給与計算カレンダーにマップできるようになります。この期間によって、勤務管理の支給対象時間が給与計算実行に取り込まれます。

受給者オプション

選択された支給グループの中でどの受給者を、定義中のカレンダーに含めるかを指定します。受給者を自動的に指定することも、手動で選択することもできます。アクティブな受給者とは、支給期間中に少なくとも 1 日、この支給グループでアクティブとなった受給者です。

システムでは、ここに入力した情報を基に各カレンダーでどの受給者を処理をするのかを決定します。

注意: アクティブな受給者用に作成されたカレンダーでは、支給が重複してしまうことのないよう、支給グループ、期間 ID および実行タイプの組み合わせが重複しないようにしてください。

アクティブな受給者のみ

ほかの選択条件なしで、全てのアクティブな受給者を含める場合に選択します。

アクティブな受給者とは、支給期間中に少なくとも 1 日、この支給グループでアクティブとなった受給者です。

アクティブな受給者 - 追加条件付き

保留のポジティブ入力または保留の遡及トリガを持つアクティブな受給者のみを含める場合に選択します。このオプションを選択する場合は、[ポジティブ入力] チェック ボックスまたは [遡及変更未処理] チェック ボックス、あるいはその両方をオンにする必要があります。

アクティブ受給者/条件付き受給者

全てのアクティブな受給者およびこの支給グループでこれまでにアクティブとなった受給者で、保留のポジティブ入力、保留の遡及トリガ、または保留の繰越済調整額を持つ受給者のみを含める場合に選択します。このオプションを選択する場合は、[ポジティブ入力] チェック ボックスまたは [遡及変更未処理] チェック ボックス、あるいはその両方をオンにする必要があります。

全ての受給者 - 追加条件付き

保留のポジティブ入力または保留の遡及トリガを持つ受給者のみを含める場合に選択します。このオプションを選択する場合は、[ポジティブ入力] チェック ボックスまたは [遡及変更未処理] チェック ボックス、あるいはその両方をオンにする必要があります。

リストされた受給者のみ

処理対象の受給者を自動的に選択するのではなく、受給者リストを使って選択するには、このオプション ボタンを選択します。[受給者リスト] グループ ボックスが使用可能になります。

このオプションを使って、1 人の受給者、または小人数の受給者グループに対して支給できます。

ポジティブ入力

[アクティブな受給者 - 追加条件付き]、[アクティブ受給者/条件付き受給者]、または [全ての受給者 - 追加条件付き] を選択すると使用可能になります。

[アクティブな受給者 - 追加条件付き] を選択して、このチェックボックスをオンにすると、このカレンダーによって保留のポジティブ入力を持つアクティブな受給者が処理されます。

[アクティブ受給者/条件付き受給者] を選択して、このチェックボックスをオンにすると、このカレンダーによってアクティブな受給者と保留のポジティブ入力を持つ受給者が処理されます。

このチェック ボックスをオンにすると、雇用終了した受給者であっても、その受給者に対しポジティブ入力が存在するので、アクティブのみの実行にその受給者を含めることができます。

遡及変更未処理

[アクティブな受給者 - 追加条件付き]、[アクティブ受給者/条件付き受給者]、または [全ての受給者 - 追加条件付き] を選択すると使用可能になります。

[アクティブな受給者 - 追加条件付き] を選択して、このチェックボックスをオンにすると、このカレンダーによって保留の遡及トリガを持つアクティブな受給者が処理されます。

[アクティブ受給者/条件付き受給者] を選択して、このチェックボックスをオンにすると、このカレンダーによってアクティブな受給者または遡及変更が未処理の受給者が処理されます。

このチェック ボックスにより、非アクティブな受給者であっても、その受給者に影響する遡及処理が存在するので、非アクティブな受給者をアクティブのみの実行に含めることができます。

受給者リスト

[リストされた受給者のみ] オプションを選択すると、このグループ ボックスが表示されます。

- 従業員 ID

このカレンダーで処理する受給者を入力します。受給者リストの受給者は全て、このカレンダーに関連付けられた支給グループに現在所属しているか、または過去に所属していた必要があります。カレンダーがオープンである限り、受給者を受給者リストに追加できます。
- 計算対象期間終了日

このフィールドのデフォルト値は、[期間 ID] フィールドで選択された期間の終了日です。支給期間の一部について受給者の計算を実行する場合は、それより前の日付を入力できます。入力した日付以前の日付で終了するセグメントだけが計算されます。

カレンダーのジェネレーション コントロール周期の上書き

"カレンダー" のジェネレーション コントロール ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[カレンダー定義]、[カレンダー]、[ジェネレーション コントロール])。

定義 ジェネレーション コントロール サポート エlement 上書き 除外 Element

支給グループ*: KOWPG KU2 US Biweekly Hourly カレンダー ID: KU KUB26

支給元: KOWPE ABS1 Absence Pay Entity 国: CYM

ジェネレーション コントロールの周期

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

周期タグ	名称	周期年次化係数
<input type="text"/>		0.0000000 <div>+ -</div>

"カレンダー" - ジェネレーション コントロール ページ

資格および非年次化処理のために、Element レベルで入力したジェネレーション コントロールの周期と周期を比較するには、両方の周期をここで入力します。

- 周期タグ

上書きする周期 ID を入力します。
- 周期年次化係数

選択した周期 ID に関連付けられた年次化係数が表示されます。

有資格の例

週単位の支給グループと支給期間があると仮定します。この支給グループには、毎月の最初の支給期間にのみ処理される控除があります。**"月の初回処理時"** (係数 12) というジェネレーションコントロールの周期を作成し、控除に割り当て、各月の最初のカレンダーに **"月の初回処理時"** という周期を関連付けます。

控除が処理される際に、エレメントのジェネレーション コントロールの周期とカレンダーの値が比較されます。一致する場合、控除は有資格と認められます。一致する値がない場合、控除は有資格と認められず、処理されません。ジェネレーション コントロールとカレンダーに複数の周期の値がある場合、複数の周期が一致しても係数が異なるときは、受給者に対する処理はエラーになります。

関連項目:

第 19 章、「エレメントの資格チェックと変換」、ジェネレーション コントロール、722 ページ

カレンダーのサポート エレメントの上書き

"カレンダー" の "サポート エレメント上書き" ページにアクセスします ([グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[カレンダー定義]、[カレンダー]、[サポート エレメント上書き])。

定義 ジェネレーション コントロール サポート エレメント上書き 除外エレメント

支給グループ: KOWPG KU2 US Biweekly Hourly カレンダー ID: KU KUB26
 支給元: KOWPE ABS1 Absence Pay Entity 国: CYM

カレンダーのサポート エレメント上書きリスト 加減サイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

エレメントタイプ	エレメント名	名称
<input type="text"/>		

+ -

"カレンダー" - "サポート エレメント上書き" ページ

カレンダーのサポート エレメント上書きリスト

エレメント タイプ

エレメント タイプを選択します。有効値は、[ブラケット]、[日付]、[デュレーション]、[フォーミュラ] および [変数] です。

- エレメント名

上書きする特定のエレメントを選択します。
- 数値

上書き値を入力します。プロセス リストで指定のエレメントが処理されるとき、このフィールドで定義した上書き値が適用されます。
上書き値自体は、ポジティブ入力の指示、受給者上書き処理などによって上書きされる場合があります。
- 関連項目:

第 18 章、「上書きの設定」、 655 ページ

エレメントのカレンダーからの除外

"カレンダー" の除外エレメント ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[カレンダー定義]、[カレンダー]、[除外エレメント])。

定義

ジェネレーション コントロール

サポート エレメント上書き

除外エレメント

支給グループ:

K0WPG KU2

US Biweekly Hourly

カレンダー ID:

KU KUB26

支給元:

K0WPE ABS1

Absence Pay Entity

国:

CYM

除外エレメント

カスタマイズ

検索

全件表示

最初

1/1

最後

エレメント タイプ	エレメント名	名称		
<div></div>			<div>+</div>	<div>-</div>

"カレンダー" - 除外エレメント ページ

- エレメント タイプ

エレメント タイプを選択します。有効値は、カレンダーのタイプに応じて [休暇付与] および [休暇取得]、または [控除] および [支給] です。
- エレメント名

処理から除外するエレメントを入力します。エレメントは処理されず、ポジティブ入力の使用、延滞残高からの回収、調整の繰り越し、およびフォーミュラでの "割り当て" は行われません。

注意: 処理からエレメントを除外するには、そのエレメントをカレンダーの上書きができるように定義しておく必要があります。

関連項目:

第 18 章、「上書きの設定」、655 ページ

カレンダーのセットの作成

このセクションでは、事前設定とカレンダーのセットの作成方法について説明します。

事前設定

一連のカレンダーを作成する前に、カレンダーに関連付ける実行タイプと期間を定義します。期間を自動的に作成するには、自動期間作成機能を使います。

別のカレンダーのポジティブ入力を作成する休暇欠勤実行、給与計算実行のカレンダーを作成する場合は、ターゲット カレンダーを先に作成します。

注意: カレンダーは 1 つの支給グループに関連付けられています。受給者の支給グループを変更すると、期間分割が生じます。

関連項目:

第 16 章、「カレンダーの使い方」、実行タイプの定義、581 ページ

第 16 章、「カレンダーの使い方」、期間の作成、585 ページ

第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、615 ページ

カレンダーのセットの作成に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
自動カレンダー作成	GP_AUTO_CAL1	<ul style="list-style-type: none">• [グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[カレンダー定義]、[カレンダー - 自動作成]、[自動カレンダー作成]• [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[カレンダー]、[自動カレンダー作成]、[自動カレンダー作成]	自動カレンダー作成プロセスを実行してカレンダーのセットを作成します。

カレンダーのセットの作成

自動カレンダー作成ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[カレンダー定義]、[カレンダー - 自動作成]、[自動カレンダー作成])。

自動カレンダー作成

ラン コントロール ID: 01 [レポート マネージャ](#) [プロセス モニター](#) [実行](#)

カレンダー パラメータ

*カレンダー ID プレフィックス: KOW1

*支給グループ: KOWPG GP1 Absence Management to GP 1

*実行タイプ: KOWRYABS 休暇欠勤管理実行タイプ

*周期: M 月次

*第 1 期間 ID: KOWCA05M01 KOWCA05M01 Monthly (2005-01-01 終了日 2005-01-31)

第 1 ターゲット カレンダー:

作成されるカレンダー ID ("nn" の最大値は 99): KOW1 KOWCA05M01 - KOW1 KOWCA05Mnn

支給日の設定

☒ 期間終了日からの日数

☐ 特定の曜日

日数: 000

負数を使用して、支給日を期間終了日より前の日付に設定してください。

支給日が休日の場合

☒ 支給日を 1 日前に変更

☐ 支給日の変更なし

☐ 支給日を 1 日後に変更

受給者オプション

☒ アクティブな受給者のみ

☐ アクティブな受給者 - 追加条件付き

☐ アクティブ受給者/条件付き受給者

☐ 全ての受給者 - 追加条件付き

追加条件

[アクティブな受給者 - 追加条件付き]、[アクティブ受給者/条件付き受給者]、または [全ての受給者 - 追加条件付き] を選択した場合に、受給者選択の追加条件として以下の条件を選択します。

☐ ホンテイ入力

☐ 遡及変更未処理

自動カレンダー作成ページ

カレンダー ID プレフィックス

7 文字までの半角英数字でプレフィックスを入力します。システムではこのプレフィックスに、このカレンダーに関連付けられた期間 ID とカレンダー番号を加えて、各カレンダー固有のカレンダー ID を作成します。

たとえば、[第 1 期間 ID] が PAY2001M01 で、REGULAR というプレフィックスを入力すると、最初に作成されたカレンダー ID は REGULAR PAY2001M01 になります。

支給グループ

作成するカレンダーの支給グループを入力します。

実行タイプ

カレンダーに関連付ける実行タイプを入力します。

周期

カレンダーを作成するための周期を入力します。

第 1 期間 ID

カレンダーの作成に使用する第 1 期間を入力します。[周期] で選択した値によって、選択できる期間 ID は異なります。

期間を作成する際、定義した連続する期間の数だけ、カレンダーが作成されます。

第 1 ターゲット カレンダー

別のカレンダーに対するポジティブ入力を作成する休暇欠勤処理、給与計算処理のカレンダーを定義する場合は、作成する最初のカレンダーのターゲット カレンダー ID を入力します。このフィールドへの入力は任意です。

この ID に基づいて、自動作成カレンダーに使用する連続するターゲット カレンダーが決まります。

注意: 連続するターゲット カレンダーを決定するために、[第 1 ターゲット カレンダー] フィールドに入力するカレンダーは、カレンダーが表わす月またはその他の期間を表わす 2 桁の数値で終わる標準の名称指定規則に従う必要があります。たとえば、[第 1 ターゲット カレンダー] として GXCI CPY2000M01 を選択できます。最後の 2 桁の数値は連続するターゲット カレンダーを決定するために使用されます。GW10204P などの標準的でない [第 1 ターゲット カレンダー] を選択した場合、[保存] または [実行] をクリックするとエラー メッセージが表示されます。

このプロセスにより、最大で 99 個のカレンダーを作成できますが、各カレンダーは既存の 1 つのターゲット カレンダーに基づいている必要があります。たとえば、カレンダー ABS001 ~ ABS099 を作成しようとしても、ターゲット カレンダーが PAY001 ~ PAY050 しか存在しない場合、カレンダー ABS051 ~ ABS099 を作成できません。

支給日の設定**期間終了日からの日数、日数**

支給日を期間終了日前、または期間終了日後の特定の日にする場合に選択します。[日数] フィールドに正または負の数値を入力します。たとえば、期間終了日の 2 日前に常に支給するには、[日数] フィールドに「-2」と入力します。

特定の曜日

支給日を常に週の同じ曜日にする場合に選択します。[支給曜日] フィールドで曜日を選択します。[期間終了日以前] または [期間終了日以後] を選択して、選択した曜日がカレンダー期間終了日と異なる場合に適用する条件を指定します。たとえば、月単位のカレンダーの支給日として金曜日を選択し、期間終了日が 5 月 26 日で、5 月の最終金曜日が 25 日であるとしします。[期間終了日以前] を選択すると、支給日は 5 月 25 日になります。[期間終了日以後] を選択すると、支給日は次の金曜日の 6 月 1 日となります。また、週単位のカレンダーを設定し、土曜日を期間終了日、金曜日を支給日として指定するとしします。2001 年 7 月を例に挙げると、期間終了日は 7 月 7 日、14 日、21 日、および 28 日になります。[期間終了日以前] を選択すると、支給日は 7 月 6 日、13 日、20 日、および 27 日になります。[期間終了日以後] を選択すると、支給日は 7 月 13 日、20 日、27 日、および 8 月 3 日になります。

支給日が休日の場合

支給日が休日の場合の処理方法を指示するオプションを選択します。[支給日を 1 日前に変更]、[支給日の変更なし] および [支給日を 1 日後に変更] のいずれかを選択します。

受給者オプション

このグループ ボックスは、[リストされた受給者のみ] オプションがないことを除き、"カレンダー" の定義ページの [受給者オプション] と同じです。

関連項目:

[第 16 章、「カレンダーの使い方」、カレンダーと受給者選択条件のリンク、594 ページ](#)

カレンダー グループの定義

このセクションでは、カレンダー グループの概要と、カレンダー グループ ID の作成方法について説明します。

カレンダー グループについて

カレンダー グループには、オンサイクル実行時に同時に処理するカレンダー、またはオフサイクル実行時に処理するオフサイクル グループを指定します。カレンダー グループを作成する際は、以下の点を考慮してください。

- ラン コントロール ページで定義した処理フェーズは、カレンダー グループの全メンバーに対して実行されます。このため、まったく同じ計算が必要なカレンダーをグループにまとめます。
- 国が異なるエレメントを同時に処理することはできません。

支給元が (カレンダーの支給グループに基づいて) 異なる国であるカレンダーは、同じカレンダー グループに入れないようにしてください。

- カレンダー グループ ID のカレンダーの順序によって、計算処理順序が決定されます。

同じカレンダー グループ ID で、休暇欠勤カレンダーと給与計算カレンダーを処理する場合は、正確な結果が得られるように、給与計算カレンダーより先に休暇欠勤カレンダーを処理します。

処理の順序

支給期間の日付の順序に従ってカレンダーの処理を実行してください。給与計算は、カレンダーが実行および最終決定される順序に基づいて処理される場合が非常に多いからです。カレンダーを支給期間の順序で実行しない場合、累計および遡及制限日付の処理方法に影響が出る可能性があります。次に続く支給期間用以外のカレンダーを挿入すると、予期しない結果を招く可能性があります。

支給期間の順序に従わずに処理されるカレンダーでは、累計結果に関して以下のような問題が発生します。

- 処理されている国に対して、最終決定された給与計算または休暇欠勤カレンダーの中でどれが最新かを判断し、累計がカレンダー処理に含まれます。
- 累計値は、支給期間の開始日および終了日ではなく、累計の開始日および終了日に基づいて、各カレンダーに保存されます。

累計の開始日および終了日に支給期間の日付が含まれる場合は、結果テーブルに累計が書き込まれます。

- 累計は結果テーブルには書き込まれない可能性があり、累計値を参照または更新するのを防ぐため、次のカレンダーに含まれない場合があります。

- 累計残高が正しくない場合があります。

2 月のカレンダーを処理する前に 3 月のカレンダーを実行すると仮定します。この場合、2 月の開始残高として含まれる累計残高が、3 月のカレンダーの結果に含まれる可能性があります。

支給期間の順序に従わずに処理されるカレンダーでは、遡及制限日付に関する以下のような問題が発生します。

- 遡及制限日付は、受給者の処理中にそのカレンダーグループ ID 内で最初に処理されるカレンダーに基づいて決められます。

後でそれ以前の支給期間の日付を持つカレンダーが処理されたとしても、遡及制限日付は最初に処理されたカレンダーの日付に基づいて決められます。

- 遡及処理においては、最終決定したカレンダーの中から、カレンダー期間の終了日がトリガ有効日より後の日付で、最新のタイムスタンプを持つものを検索することで、再実行するカレンダーが決められます。

たとえば、1 月のカレンダー (カレンダー 1)、2 月のカレンダー (カレンダー 2)、別の 1 月のカレンダー (カレンダー 3)、3 月のカレンダー (カレンダー 4) を、この順で実行し最終決定するとします。2 月 15 日の遡及データがある場合、カレンダー 2、カレンダー 3、およびカレンダー 4 が再実行されます。

注意: オンサイクル処理では、複数のカレンダーに同じカレンダー グループ ID を指定し、受給者の確認処理が完了した後にそれらのカレンダーのうち 1 つを処理しないと決めた場合は、ほかのカレンダーを実行する前に全実行をキャンセルしておく必要があります。実行をキャンセルした後、キャンセルしたい支給グループのカレンダーに戻り、元の支給グループ ID を変更または削除します。その後、処理中の支給グループの給与計算を再実行します。オフサイクル処理では、全実行をキャンセルする必要はありません。代わりに、カレンダー グループからオフサイクル グループを削除し、適切なグループを追加できます。オフサイクル処理を再度実行する際に、削除されたオフサイクル グループがキャンセルされ、追加したグループが処理されます。

関連項目:

第 24 章、「[オフサイクル処理の管理](#)」、オフサイクル処理について、937 ページ

カレンダー グループの作成に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
カレンダー グループ	GP_CALENDAR_RUN	<p>[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[カレンダー定義]、[カレンダー グループ]、[カレンダー グループ]</p> <p>[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[オフサイクル]、[オフサイクル カレンダー グループ]、[カレンダー グループ]</p>	同時に処理するオフサイクル グループのカレンダー ID を定義します。カレンダーはリストされている順序で処理されます。

カレンダー グループの作成

カレンダー グループ ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[カレンダー定義]、[カレンダー グループ]、[カレンダー グループ])。

カレンダー グループ

カレンダー グループ ID: K1G_SMK_DEC04M

*名称: DEC 04 - Monthly 略称: DEC 04 - M

*国: USA アメリカ

☐ デフォルトとして使用
 ☐ ストリーム処理の実行
 処理開始:

☐ オフサイクル
 ☒ 適及トリガの処理
 処理終了:

カレンダー リスト			加減	検索	全件表示	最初	1/1	最後
*連番	*支給グループ	*カレンダー ID						
10	K1GPG1	K1GDEC04M						

カレンダー グループ ページ

注意: オンサイクル実行の処理が開始された後は、カレンダー グループ ページ上のフィールドを編集できません。このページを変更するには、給与計算実行をキャンセルします。

テンプレートとして使用

このカレンダー グループを使ってオンラインの休暇欠勤予測または残数照会プロセスを実行する場合は、このチェック ボックスをオンにします。このオプションはオフサイクル処理では選択できません。

参照: 第 11 章、「休暇欠勤管理について」、オンラインの休暇欠勤予測および残数照会プロセス、409 ページ。

ストリーム処理の実行

このカレンダー グループにストリーム処理を使用する場合は、このチェック ボックスをオンにします。この機能は通常、オフサイクル処理には使用されません。

オフサイクル

このカレンダー グループをオフサイクル処理に使用する場合は、このチェック ボックスをオンにします。

遡及トリガの処理

このカレンダー グループの遡及トリガを処理する場合は、このチェック ボックスをオンにします。

オンサイクル処理でのデフォルト値は、実行タイプ ページの [遡及トリガの処理] チェック ボックスの設定に基づいています。実行タイプの中に遡及トリガの処理が指定されているものがある場合、オンの状態がデフォルトになります。

オフサイクル処理では、このカレンダー グループに追加するオフサイクル グループに訂正トランザクションが含まれている場合、このチェック ボックスをオンにする必要があります。

カレンダー リスト

同時に処理するカレンダーをリストします。[連番] フィールドで入力する番号によってカレンダーの処理順序が決まります。このグリッドは、[オフサイクル] チェック ボックスをオンすると非表示になります。

処理順のオフサイクル グループ リスト

以下のグリッドは、[オフサイクル] チェック ボックスをオンにすると表示されます。処理するオフサイクル グループをリストします。オフサイクル グループには、特定の支給グループおよび期間について処理するオフサイクル トランザクションを指定します。

処理順のオフサイクル グループ リスト				
加減 検索 全件表示 印刷 最初 1/1 最後				
連番	支給グループ	期間 ID	オフサイクル グループ	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="+"/> <input type="button" value="-"/>

オフサイクル グループの値の入力ページ

関連項目:

[第 11 章、「休暇欠勤管理について」、オンラインの休暇欠勤予測および残数照会プロセス、409 ページ](#)

受給者のカレンダー上書き指示の入力

このセクションでは、カレンダー上書きの概要および以下の項目について説明します。

- 上書きするカレンダーの選択
- 期間セグメントの処理指示の入力

カレンダー上書きについて

受給者カレンダー上書きでは、カレンダーの選択条件を "上書き" します。たとえば、[受給者オプション] の [アクティブな受給者 - 追加条件付き] と [ポジティブ入力] などの選択条件を使用してカレンダーを設定したとします。退職 (非アクティブ) していてポジティブ入力を持たない人の受給者カレンダー上書きを追加した場合でも、カレンダー上書きによりその受給者はカレンダーに基づいて処理されます。同じ受給者およびカレンダーに対してオフサイクルの前払いを設定した場合でも、処理では全ての通常の選択条件が適用され、受給者は処理されません。

受給者のカレンダーに対し追加セグメント (総額/純額支給) を作成し、特定のセグメント処理の指示を入力することができます。

3 月に、4 月 1 日から 15 日まで休暇を取る受給者の前払い処理を行うとします。3 月に 4 月の支給の半分を受給者に支給することになるため、4 月には 4 月 16 日～ 30 日までの給与だけを支給します。"受給者カレンダー グループ" のカレンダー グループ ページを使ってこの処理を実行できます。

3 月と 4 月を含めるカレンダー グループを作成します。3 月に前払いを処理するには、3 月のカレンダー グループ ページを使って、3 月と 4 月 1 日～ 15 日までのカレンダー両方で受給者に支給されるように指示します。4 月には 4 月のカレンダー グループを使いますが、ここでは 4 月 16 日～ 30 日までの支給だけが受給者に行われるように指示します。

カレンダーのセグメントを処理する際、どの有効日のルールを適用するか、およびどの期間の累計を更新するかを指定できます。たとえば、3 月に 4 月の金額の支給をする場合、3 月に有効な支給ルールを適用し、3 月の累計を更新するように指示できます。もしくは、4 月に有効になるルールを使用するように指示することもできます。

注意: カレンダー上書きを使用して前払いを処理する別の方法として、オフサイクル オンデマンド コンポーネント (GP_OFFCYCLE_) で前払いの指示を入力し、オフサイクル給与計算を実行することができます。

受給者のカレンダー上書き指示の入力に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
受給者カレンダー グループ	GP_PYE_RUN	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[受給者レベル上書き]、[受給者カレンダー グループ]、[受給者カレンダー グループ]	カレンダーを選択し、受給者に固有な処理指示を入力します。
セグメント詳細	GP_PYE_RUN_SEC	カレンダー グループ ページで [セグメント詳細] のリンクをクリックします。	受給者の期間セグメントを作成し、どのセグメントを処理するかを指定します。

上書きするカレンダーの選択

受給者カレンダー グループ ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[受給者レベル上書き]、[受給者カレンダー グループ]、[受給者カレンダー グループ])。

受給者カレンダー グループ

従業員 ID: KA0004

雇用コード: 0

名前: [David Holley](#)

カレンダー グループ ID: KAM02M10

処理詳細

*処理開始日: 2002/10/01 31

*処理終了日: 2002/10/31 31

*支給日: 2002/10/15 31

☐ 上書きカレンダーを実行

処理対象カレンダー

加減算 | 検索 | 全件表示 | 最初 1-2/2 最後

連番	支給グループ	カレンダー ID	処理オプション	セグメント詳細		
10	KAMONTHLY	KAM02M10OCTABS	標準カレンダー前	セグメント詳細	+	-
20	KAMONTHLY	KAM02M10OCTPAY	標準カレンダー前	セグメント詳細	+	-

受給者カレンダー グループ ページ

- [処理開始日]、処理終了日、支給日

処理開始日、処理終了日、および支給日を入力します。これらのフィールドは、(エレメント名共通ページで [定義の指定日] が [処理開始日]、[処理終了日]、または [支給日] に設定されている) 処理中の有効日付きエレメントに適用されます。

この日付によって、どの有効日ルール (エレメントの定義) をこれらのエレメントに使用するか、エレメントに対しどの期間の累計を更新するかが決まります。

たとえば、支給エレメントに対し [定義の指定日] が、[処理終了日] に設定されているとします。バッチ処理中にそのエレメントが処理される場合、[処理終了日] フィールドで入力した日に有効なエレメントの定義が使用されます。

[処理開始日] または [処理終了日] が含まれる期間の累計も更新されます。

上書きカレンダーを実行

このチェック ボックスをオンにすると、[処理対象カレンダー] グループ ボックスまたはセグメント詳細ページで指定しているカレンダーまたはセグメントのみが処理されます。

このチェック ボックスがオフの場合は、[処理対象カレンダー] グループ ボックスにリストされている上書きの必要なカレンダーの他に、カレンダー グループに含まれているカレンダーも処理されます。
- 612

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

処理対象カレンダー

このグループ ボックスでは、受給者に固有の特別な処理指示の指定が必要なカレンダーを選択します。

連番

カレンダーの処理順序を決定する番号を入力します。

支給グループ

上書きするカレンダーに関連付けられた支給グループを入力します。

カレンダー ID

上書きするカレンダーを入力します。

処理オプション

[上書きカレンダーを実行] チェック ボックスがオフの場合にのみ適用します (つまり、選択したカレンダーだけを上書きします)。カレンダー グループのほかの全てのカレンダーの前あるいは後に、上書き指示があるカレンダーの処理を行うかどうかを決める処理オプションを選択します。値は [標準カレンダー前]、[標準カレンダー後] および該当なしのいずれかです。

たとえば、3 月のカレンダー グループに通常カレンダーと賞与カレンダーが含まれる場合、4 月のカレンダー グループにも同様に含まれます。通常の 3 月および 4 月のカレンダーの上書き入力を作成します。上書き指示のある通常カレンダーを処理するには、賞与カレンダーが処理される前に、[標準カレンダー前] を選択します。カレンダーは、3 月通常、3 月賞与、4 月通常、4 月賞与の順に処理されます。

セグメント詳細

このリンクをクリックすると、セグメント詳細ページにアクセスします。

期間セグメントの処理指示の入力

セグメント詳細ページにアクセスします (カレンダー グループ ページで [セグメント詳細] リンクをクリックします)。

受給者カレンダー グループ

セグメント詳細

Georgy Penha

セグメント詳細

カスタム | 検索 | 全件表示 | 1/1 | 最後

カレンダー ID	セグメント開始日	セグメント終了日	処理対象		
GRM AU GR LHFM06	2002/01/01	2002/01/31	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-

リカ確認

セグメント詳細ページ

セグメント開始日、セグメント終了日

カレンダー期間の中で、処理をする日と処理をしない日を入力します。

カレンダー期間全体について指示を入力します。

注意: カレンダー期間の一部に対して支給計算を行うには、受給者に対して複数の期間分割トリガを作成する必要があります。セグメント詳細ページで入力する日付は、トリガ有効日と対応している必要があります。たとえば、2 月 1 日から 9 日までの支給を処理し、残りの日数は処理しない場合、2 月 10 日の分割トリガを定義します。

関連項目:

- 第 32 章、「分割の定義」、1189 ページ
- 第 30 章、「トリガの設定」、有効日が指定されたレコードに対する分割トリガの設定、1134 ページ
- 第 30 章、「トリガの設定」、開始日と終了日が指定された支給/控除割り当てレコード (GP PYE OVRD) に対する分割トリガの設定、1135 ページ

第 17 章

ポジティブ入力の使い方

この章では、ポジティブ入力の概要および以下の項目について説明します。

- ポジティブ入力の作成
- ポジティブ入力を作成するテンプレート ベースのページの作成および使用
- ポジティブ入力の遡及調整
- ポジティブ入力の確認

ポジティブ入力について

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- ポジティブ入力の特徴
- ポジティブ入力のソース
- インスタンスとバンドル
- 資格ルール
- アクション タイプと処理ルール
- 分割に関する注意事項
- バッチ処理とポジティブ入力

ポジティブ入力の特徴

ポジティブ入力とは、1 つの支給期間に対して入力する支給および控除データです。これは、勤務時間や一時賞与などの受給者特定のデータで、期間ごとに変更することができます。手動でポジティブ入力をしたり、PeopleSoft Enterprise 勤務管理などのアプリケーションからデータを受け取ることもできます。

支給エレメントまたは控除エレメントのポジティブ入力を行う際は、固定額、またはエレメントの計算ルール コンポーネントの値のどちらでも入力できます。たとえば、受給者の基本給エレメントを計算するルールが「基本給 = レート × ユニット」である場合は、計算ルールを上書きする金額を入力したり、レート、ユニット、またはその両方に値を指定できます。値を入力する場合は、"40 時間" などの数値を入力したり、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理のコンポーネントの値を取得するレート コード エレメントを選択することもできます。

グローバル ペイロールは、ポジティブ入力を行う際に使用するオプション機能を備えています。入力に適用する通貨を選択し、受給者の部門、職務コード、または所在地を上書きし、組織に特定の情報を入力して、これらを一般会計のシステムに送信することもできます。

注意: 入力したデータは 1 つの支給期間にのみ適用されます。エレメントの長期にわたる上書きを設定する場合は、受給者別エレメント割当ページまたはエレメント別受給者割当ページを使用します。

ポジティブ入力のソース

ポジティブ入力は、さまざまなソースから作成されます。次のことが可能です。

- ポジティブ入力ページでデータを手動入力できます。
- 勤務管理、ヒューマン リソース管理の変動報酬管理ビジネス プロセス、またはサードパーティ アプリケーションからデータを取得できます。
- 休暇取得プロセス (GPPDPRUN) を実行し、有給および無給休暇をポジティブ入力に変換できます。
- プロセス リストにポジティブ入力作成セクションを含めて、別の支給カレンダーにポジティブ入力を自動的に作成できます。

1 つの例外を除いて、手動で入力されたデータは、ほかのソースで作成されたポジティブ入力を常に上書きします。手動入力のデータのうちアクション タイプが [追加] のものは、自動作成された入力を上書きしません。勤務管理および休暇取得プロセスなどの複数のソースから受給者データが自動入力され、手動入力のデータがない場合、全ての自動入力が給与計算実行時に処理されます。

手動入力された場合のみ、ポジティブ入力を編集できます。自動作成された入力を追加、削除、または修正する必要がある場合は、ポジティブ入力を作成して、自動作成入力を**上書き**します。また、データがほかのアプリケーションで作成されている場合は、ソース レコードを修正して、そのデータを再送信します。

関連項目:

第 12 章、「休暇欠勤エレメントの定義」、411 ページ

第 15 章、「エレメント処理の定義」、ポジティブ入力作成セクション、548 ページ

第 41 章、「PeopleSoft Enterprise 勤務管理との統合」、1605 ページ

第 42 章、「変動報酬機能との統合」、1627 ページ

インスタンスとバンドル

このセクションでは、ポジティブ入力のインスタンスとバンドルの概要について説明します。

インスタンス

ポジティブ入力で入力された値は、**インスタンス**とも呼ばれます。ポジティブ入力を手動でシステムに入力する際は、入力ごとにインスタンス番号を割り当てます。つまり、受給者が 3 つの異なるレートで超過勤務を行い、"超過勤務" と名付けられたエレメントに、3 つの異なるポジティブ入力を行う場合、それぞれの入力には個別のインスタンス番号が割り当てられます。次の例は、計算ルールが (超過勤務) = (レート) × (ユニット) であると仮定しています

エレメント	インスタンス	レート × ユニット
超過勤務	1	25 × 10
超過勤務	2	35 × 5
超過勤務	3	30 × 5

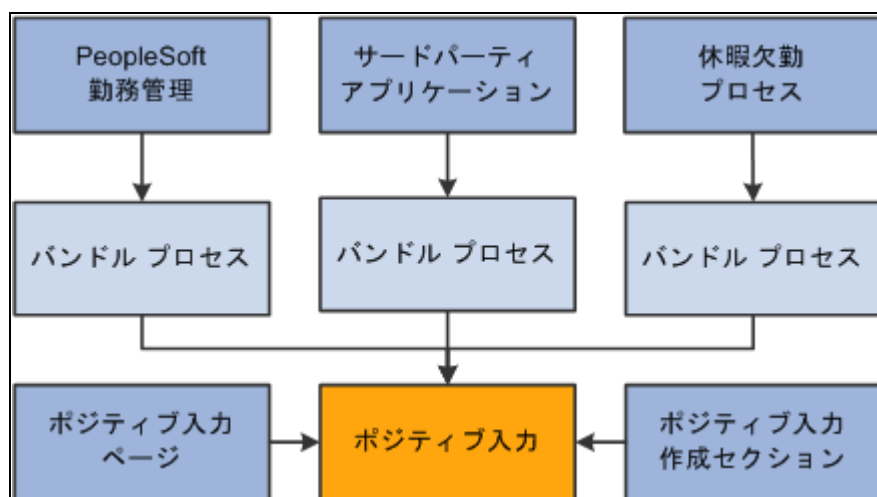
ポジティブ入力が外部ソースから作成される場合、インスタンス番号はシステムにより自動的に割り当てられます。個別のインスタンス番号が各ポジティブ入力に対して割り当てられるか、ひとまとまりの入力に対して割り当てられるかは、バンドルが発生したかどうかによります。

バンドル

休暇取得プロセス、勤務管理、またはサードパーティ アプリケーションによって作成されたポジティブ入力は、さらに効率良く処理するために、支給期間ごとにアレイにバンドルされることがよくあります。週単位の支給周期で 1 日に 8 時間勤務する場合、8 時間ごとに 5 回入力するところを 40 時間にして 1 回の入力にバンドルできます。バンドルは、複数行ではなく単一行の出力 (GP_RSLT_ERN_DED) を作成する以外に処理または結果に影響を与えません。

バンドルごとにインスタンス番号が割り振られます。インスタンス番号は 1 から始まり、カレンダー実行時に含まれるバンドルされた各エレメントに対し割り当てられます。

データをバンドルするルールは、ポジティブ入力のソースによって異なります。次の図は、ポジティブ入力とバンドルのソースを示しています。



ポジティブ入力とバンドルのソース

勤務管理のバンドル ルール

勤務管理から取得されたポジティブ入力は (勤務管理内では**給与支給対象時間**と呼ばれる)、共通のデータを含む場合、スライスまたはセグメントでバンドルされます。つまり、以下のデータ タイプの値が同じ場合にバンドルされます。

- レート
- 通貨
- 指定日のレート
- タスク エンティティ*

* バンドルするためには、ビジネス ユニット、製品、および部門など、勤務管理で定義し選択されたタスク エンティティは、マッピング ページを使ってグローバル ペイロールのシステム エレメントまたは変数エレメントにマッピングされている必要があります。

例 1

受給者には、1 週間の勤務日それぞれに対しポジティブ入力が 1 つずつあり、合計 5 つの入力が存在します。それぞれの入力には、表のようなレート値が指定されています。木曜日を除き、支給レートは毎日同じです。その結果、4 日間の勤務日を自動的に 10 のレートでバンドルして 1 つのインスタンスが作られ、木曜日の勤務日に対しては 12 のレートで別のインスタンスが作成されます。

曜日	勤務時間	レート
月	8	10
火	4	10
水	8	10
木	8	12
金	8	10

例 2

受給者が 2 つの部門で勤務しています。ポジティブ入力には、部門 (A または B) を定義するシステム エレメントと、勤務時間を指定する変数エレメントが含まれます。バンドルするには、システム エレメントが一致することが条件なので、部門 A の全ての入力がバンドルされ、部門 B の入力には別のバンドルが作成されます。

曜日	変数	システム エレメント
月	8	部門 A
火	8	部門 A

曜日	変数	システム エlement
水	8	部門 B
木	8	部門 B
金	8	部門 A

休暇取得のバンドル ルール

休暇取得プロセスで作成され、同じスライスやセグメント内にあるポジティブ入力は、休暇取得エlementの定義によってはバンドルできる場合があります。

- 休暇取得エlementで複数インスタンスを許可するオプションを選択していない場合、支給期間中にある同じ理由の休暇取得のポジティブ入力はバンドルされます。
- 休暇取得エlementに対するポジティブ入力を、複数の支給エlementまたは控除エlementに関連付ける場合 ("休暇取得" の日数計算フォーミュラ ページ)、それぞれの支給エlementと控除エlementのポジティブ入力が個別にバンドルされます。

サードパーティ アプリケーションのバンドル ルール

サードパーティ アプリケーションから取得されたポジティブ入力は、グローバル ペイロールに送信される前に各インスタンスに割り当てられたバンドル グループ タグによって、バンドルができる場合とできない場合があります。サードパーティ アプリケーションはソース (PI_SOURCE) フィールドに対して固有の値を使い、分割条件がある場合にそれらに対応する必要があります。サードパーティのインターフェイスでは、グローバル ペイロールで要求される方法でポジティブ入力をバンドルする必要があります。

資格ルール

ポジティブ入力を変換するには、以下の条件の全てを満たす必要があります。

- 処理対象の受給者が選択され、処理対象に指定されていること。
支給期間のカレンダーを作成する際に、受給者の選択条件を入力します。給与計算処理のランコントロールを設定する際、計算対象の受給者を選択します。
- エlementがカレンダーから除外されないこと。

- エレメントが、処理中に実行されるプロセス リストのセクションに含まれていること。
- エレメントが受給者の有資格グループに属しているか、ポジティブ入力が "支給元" の処理詳細 ページで上書きとして選択されていること。

ポジティブ入力に変換されない原因

処理中に変換されなかったポジティブ入力のインスタンスがある場合、その原因として可能性が高いのは、上記に資格ルールとして述べたもの以外に、以下が考えられます。

- エレメント計算ルールのコンポーネントの値が受給者レベルの入力として定義されているが、ポジティブ入力、受給者上書きのどちらでも、コンポーネントの値を指定しなかった場合。

コンポーネントの値を入力せずにポジティブ入力を行うと、エレメントの定義、受給者の上書きがある場合には、それらを使ってエレメントが変換されます。
- 給与計算処理の計算フェーズの最終反復を実行後、または受給者の計算を凍結後にポジティブ入力を行った場合。

関連項目:

[第 16 章、「カレンダーの使い方」、577 ページ](#)

[第 15 章、「エレメント処理の定義」、545 ページ](#)

[第 14 章、「組織構造の定義」、有資格グループの定義、528 ページ](#)

[第 21 章、「給与計算の処理」、処理の概念、817 ページ](#)

アクション タイプと処理ルール

ポジティブ入力のインスタンスを手動で入力する際、インスタンスの処理方法を指示するアクション タイプを選択します。以下のアクション タイプから選択できます。

- 上書き
- 追加
- 処理なし
- ゼロにする

各アクション タイプの簡単な説明を以下に示します。

上書き

アクション タイプが [上書き] のポジティブ入力を作成すると、エレメントのインスタンスの計算ルールを上書きする金額を入力したり、エレメントの計算ルール コンポーネント (レート、ユニット、パーセント、またはベース) の値を入力することができます。計算ルールが金額として定義されている場合は、金額だけを入力できます。

支給コードを固定額の 100 EUR と定義するとします。受給者には、100 EUR ではなく 90 EUR を支給したいとします。ポジティブ入力ページで、アクション タイプを [上書き] にして金額 90 EUR を入力します。変換時に定義金額 100 EUR は上書きされ、受給者は 90 EUR を受け取ります。

追加

アクション タイプが [追加] のポジティブ入力を作成した場合、受給者別エレメント割当ページまたはエレメント別受給者割当ページにエレメント定義または指示が入力されていると、それに基づいてエレメントの通常変換が行われます。さらに、ポジティブ入力に入力した値に基づいてエレメントが再度処理されるので、処理が複数回行われます。

支給コードを固定額の 100 EUR と定義するとします。受給者には、さらに 50 EUR を支給したいとします。管理者はポジティブ入力ページでアクション タイプを [追加] にして追加の 50 EUR を入力します。定義金額 100 EUR が処理され、さらに追加金額 50 EUR が変換されます。その結果、受給者は 150 EUR を受け取ります。

処理なし

アクション タイプが [処理しない] のポジティブ入力を作成すると、カレンダー計算時に受給者に対してそのエレメントは処理されません。結果テーブルに結果は書き込まれません。

[処理しない] の指示は、"カレンダー ID 上書き詳細" ページで終了日を入力しない限り、手動、自動作成にかかわらず、カレンダーの全てのセグメントやスライス内のエレメントに対するポジティブ入力の全インスタンスに適用されます。終了日を入力すると、同じスライスやセグメント内のインスタンスへの指示を限定できます。

たとえば、インスタンス 1 のアクション タイプが [処理しない] で、同じエレメントのインスタンス 2 のアクション タイプが [上書き] であるとします。インスタンス 1 に終了日を入力しない場合、[処理しない] の指示は両方のインスタンスに適用され、どちらも処理されません。

ゼロにする

アクション タイプが [ゼロにする] のポジティブ入力を作成すると、値が 0 の支給または控除のインスタンスが変換されます。

[処理しない] とは異なり、[ゼロにする] の場合は結果テーブルに 0 の金額を書き込み、給与明細の金額としてゼロが使用できるようになります。また、[ゼロにする] を選択しても他のインスタンスには影響しません。

アクション タイプが混在する場合のルール

1 つのセグメント内に複数のアクション タイプを持つポジティブ入力が存在する場合は、以下のルールが適用されます。

- ポジティブ入力が [追加] と [上書き] アクション タイプの組み合わせである場合は、上書き入力が存在するのでエレメント定義は変換されません。

その代わりに、[上書き]、[追加] という順序 (階層: まずアクション タイプが [上書き] の入力、次にアクション タイプが [追加] の入力) でこれらのアクション タイプの全てのポジティブ入力が処理されます。

E3 が固定額 100 USD であると仮定します。アクション タイプが [追加] で 30 USD のインスタンス 1 と、アクション タイプが [上書き] で 200 USD のインスタンス 2 という、2 つのポジティブ入力を作成します。

アクション タイプが競合しているように見えますが、アクション タイプが入力された順序は関係なく両方の入力が処理されます。アクション タイプが [上書き] の入力がまず処理され、支給/控除結果テーブルに 200 USD の行が作成されます。次に、アクション タイプが [追加] の入力が処理され、支給/控除結果テーブルに 30 USD の行が作成されます。

結果として、支給/控除結果テーブルには 2 行が追加され、受給者は E3 について 230 USD を受け取ります。エレメント自体の定義は、ルール定義に基づいて変換されません。

- アクション タイプの組み合わせとは無関係に、アクション タイプが [処理しない] の入力があると、そのセグメントのその他のポジティブ入力は常に [処理しない] で上書きされます。

言い換えると、このエレメントについては何も処理されません。[処理しない] の値は、全てのアクション タイプより優先されます。

- アクション タイプ [ゼロにする] は、現在のポジティブ入力インスタンスにのみ影響します。

アクション タイプ [上書き]、[追加]、および [ゼロにする] を組み合わせた場合、全てのエントリが処理されます。

E4 が固定額 500 USD であると仮定します。次の属性を持つ 3 つのポジティブ入力を作成します。

- アクション タイプが [上書き] で 700 USD
- アクション タイプが [ゼロにする]
- アクション タイプが [追加] で 300 USD

最終の結果として、3 つ全てのポジティブ入力が処理され、支給/控除結果テーブルに 3 行 (インスタンス) が書き込まれ、受給者は E4 について 1000 USD を受け取ります。エレメント自体の定義は変換されません。また、結果額が 0 の行が作成されます。

関連項目:

第 18 章、「上書きの設定」、エレメント割り当て上書き、ポジティブ入力、およびエレメント定義の間の競合の管理、 692 ページ

第 20 章、「支給または控除の複数変換」、ユーザー フィールド セットのあるエレメント割当てとポジティブ入力との相互作用の定義、 743 ページ

分割に関する注意事項

カレンダー支給期間に期間分割やエレメント分割がある場合、ポジティブ入力は比例配分されません。ポジティブ入力は、インスタンスの終了日に基づいて、1 つのセグメントまたはスライスに割り当てられます。

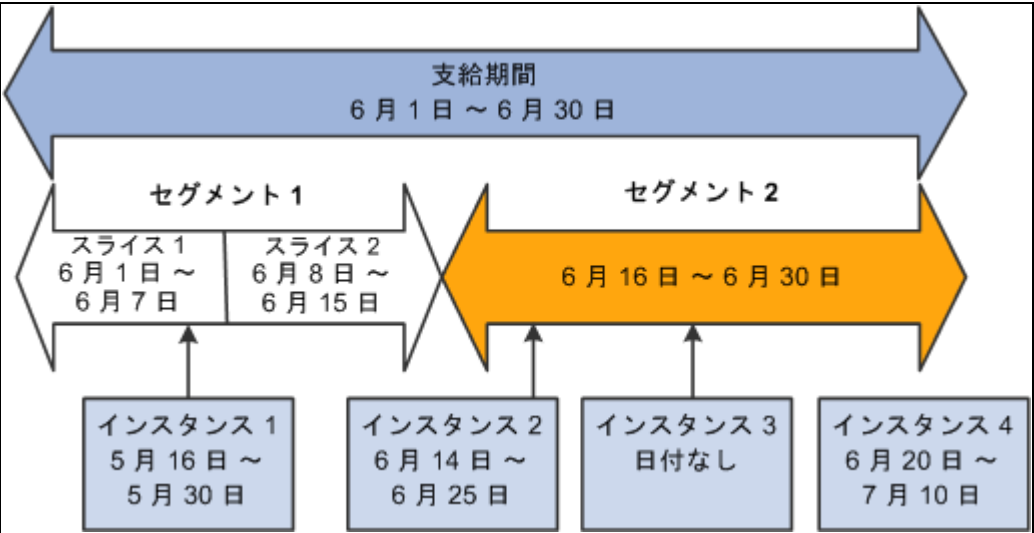
- 終了日がカレンダー期間開始日の前になる場合、インスタンスは支給期間の最初のセグメントかスライスに割り当てられます (次の図のインスタンス 1 を参照)。
- 終了日がカレンダー期間内にある場合、インスタンスはその期間内のセグメントかスライスに割り当てられます (次の図のインスタンス 2 を参照)。

- 終了日が指定されていないとき、インスタンスは支給期間の最後のセグメントかスライスに割り当てられます。

この場合、カレンダーとインスタンスの終了日が同じと見なされます (次の図のインスタンス 3 を参照)。例外として、"処理しない" の指示を入力すると、エレメントが変換されるのを防ぐことができます。終了日についての指示を入力しないでこの設定を行った場合、エレメントはどのスライスまたはセグメントにおいても変換されません。

- 終了日が支給期間終了日の後になる場合、インスタンスは処理されません (次の図のインスタンス 4 を参照)。

次の図は、終了日を基準にセグメントとスライスに割り当てられるインスタンスを示しています。



終了日を基準にセグメントとスライスに割り当てられるインスタンス

例 1: ポジティブ入力に与える期間分割の影響

1 月の給与計算を処理しているとします。1 月 16 日に、受給者が昇進した結果、期間分割が発生しました (2 つの総額/純額に分割)。これとは無関係のトランザクションで、この受給者に対し開始日 1 月 20 日、終了日 1 月 21 日の支給エレメントのポジティブ入力を行いました。ポジティブ入力の終了日がセグメント 2 の中にあるので、セグメント 2 の中でのみ処理されます。セグメント 1 では、支給エレメントが通常どおり処理され、ポジティブ入力による影響を受けません。

セグメント 1 1 月 1 日 ~ 15 日	セグメント 2 1 月 16 日 ~ 31 日
エレメントは通常どおり処理されます。	ポジティブ入力が処理されます。

例 2: ポジティブ入力に与えるエレメント分割の影響

1 月の給与計算を処理しているとします。1 月 16 日に受給者の給与レートが変更になったために、エレメント分割 (スライス) が発生しました。この受給者に対し開始日 1 月 20 日、終了日 1 月 21 日のポジティブ入力を行いました。ポジティブ入力の終了日がスライス 2 の中にあるので、ポジティブ入力とそのスライスに割り当てられます。エレメントはスライス 1 では処理されません。つまり、ポジティブ入力はエレメントの分割を上書きします。(スライス日は、まだ累計と関連しています。)

スライス 1 1 月 1 日～ 15 日	スライス 2 1 月 16 日～ 31 日
エレメントについて入力されたポジティブ入力は 処理されません。	ポジティブ入力が処理されます。

注意: この例は重要なことを示しています。つまり、エレメントがスライスされていて、あるスライスを対象とした **"上書き"** のポジティブ入力が、同じ分割内の別のスライスを対象にしていなかった場合、エレメントは上書きの対象となるスライスでのみ、上書き値を使用して変換されるということです。それ以外のスライスでエレメントの変換が行われることはありません。これは、ポジティブ入力は単一のスライスではなく、**"セグメント全体"** でエレメントの通常変換を上書きするからです。

例 3: 給与計算に与えるエレメント分割の影響

スライスおよびセグメントにポジティブ入力を割り当てるルールは、給与計算にも影響を与える可能性があります。

(総額) = (支給 1) + (支給 2) とします。ポジティブ入力または分割がない場合、エレメントの値は以下のようになります。

エレメント	分割を伴わないエレメント値
支給 1	3000
支給 2	900
総額	3900

エレメント	分割を伴わないエレメント値
税	10% × 総額

税 = 390 (10% × 3900)

6 月 10 日、税率が 20 % に引き上げられたので、エレメント分割が発生しました。分割イベント定義には支給 1、支給 2、および税が含まれます。

エレメント分割 (ポジティブ入力なし) により、各エレメントの値は次のとおりになっています (支給 1 と支給 2 が比例配分されたと仮定)。

エレメント名	スライス 1 6 月 1 日～ 10 日	スライス 2 6 月 11 日～ 30 日
支給 1	1000	2000
支給 2	300	600
総額	1300	2600
税	10% × 総額	20% × 総額

税 = 650 ((10% × 1300) + (20% × 2600))

ポジティブ入力のインスタンスを入力すると、次の結果になります。

エレメント	金額	開始日	終了日
支給 1	3300	6 月 2 日	6 月 8 日

ポジティブ入力終了日に基づき該当のスライスに割り当てられます。インスタンスの終了日がスライス 1 の中にあるので、支給 1 のポジティブ入力はスライス 1 で変換され、そのエレメントの標準計算が上書きされます。さらに、エレメントのポジティブ入力は同じ分割内の全てのスライスの通常変換を上書きするため、支給 1 はスライス 2 で変換されません。

ポジティブ入力およびエレメントの分割がある場合、エレメントの値は次のようになります。

エレメント名	スライス 1 6 月 1 日～ 10 日	スライス 2 6 月 11 日～ 20 日
支給 1	3300	0
支給 2	300	600
総額	3600	600
税	10% × 総額	20% × 総額

$$\text{税} = 480 ((10\% \times 3600) + (20\% \times 600))$$

ポジティブ入力のインスタンスが、今度は以下に示すような開始日と終了日を持っていたとすると、入力はスライス 2 に割り当てられ、20 % の税が課され 3300 となります。

エレメント	金額	開始日	終了日
支給 1	3300	6 月 8 日	6 月 12 日

次に、エレメントの値は次のようになります。

エレメント名	スライス 1 6 月 1 日～ 10 日	スライス 2 6 月 11 日～ 20 日
支給 1	0	3300
支給 2	300	600
総額	300	3900
税	10% × 総額	20% × 総額

$$\text{税} = 810 ((10\% \times 300) + (20\% \times 3900))$$

税額は、スライス 1 に割り当てられたインスタンスの場合は 660 ですが、ここでは 1080 になります。ポジティブ入力がどのスライスやセグメントに割り当てられるかによって給与計算に大きな影響を与えることになります。

注意: この例は重要なことを示しています。つまり、エレメントがスライスされていて、あるスライスを対象とした **"上書き"** のポジティブ入力が、同じ分割内の別のスライスを対象にしていない場合、エレメントは上書きの対象となるスライスでのみ、上書き値を使用して変換されるということです。それ以外のスライスでエレメントの変換が行われることはありません。これは、ポジティブ入力は単一のスライスではなく、**"セグメント全体"** でエレメントの通常変換を上書きするからです。

関連項目:

第 32 章、「分割の定義」、1189 ページ

バッチ処理とポジティブ入力

このセクションでは、バッチ処理でポジティブ入力がどのように扱われるかを説明します。

未処理のポジティブ入力

全てのポジティブ入力の処理が終わらなくてもカレンダーを最終決定できます。たとえば、受給者に 10 ユニットのポジティブ入力があり、計算フェーズを実行後、そのユニットを 12 に変更すると、(ユニット フィールドが反復トリガを作成するように設定されている場合) 反復トリガが作成されます。計算フェーズを再実行しない場合は、10 ユニットだけが処理されます。ただし、遡及処理を実行すれば、12 ユニットが全て処理されます (ユニット フィールドが遡及トリガも作成するように設定されている場合)。

延滞回収

アクション タイプが [上書き] のポジティブ入力インスタンスが存在する場合、延滞回収金額が決定され、最初のポジティブ入力インスタンスに追加されます。エレメントが現在の期間中に 1 セグメントあたり複数回変換される場合は、延滞回収金額を適用する際に次の階層が参照されます。

1. エレメントの通常変換
2. エレメントの上書き変換
3. エレメントのその他の変換

ポジティブ入力のタイプが [追加] のインスタンスのみ存在する ([上書き] などのその他のアクション タイプはなし) 場合、エレメントの通常変換に基づいた最初の計算に延滞回収が適用されます。エレメントの後続のその他の変換には追加されません。アクション タイプ [上書き] と [追加] が混在している場合、延滞回収金額はエレメントの上書き変換に適用されます。最後に、エレメントの通常変換が存在せず、エレメントの上書き変換も存在しない場合は、延滞回収はエレメントのその他の変換に適用されます。延滞回収金額は 1 度だけ適用されるようにしてください。

周期換算、端数処理、および比例配分

ポジティブ入力で入力した数値のコンポーネントや金額には周期換算、端数処理、および比例配分は適用されません。ポジティブ入力で入力されなかったコンポーネントの場合は、エレメント定義に基づき通常のルール処理が行われます。

バッチ処理によるポジティブ入力の保存方法

手動で行ったポジティブ入力は、自動で作成されたポジティブ入力とは別のレコードで管理されます。ただし、処理中に対象と見なされた全てのポジティブ入力は、そのソースにかかわらず、同じ出力のレコード (GP_RSLT_PI_DATA) に保存されます。2 次のレコード (GP_RSLT_PI_SOVR) には、手動で入力した、または勤務管理から取得した部門、職務コードなどサポート エレメントのデータが保存されます。

各インスタンスに対して、1 行のデータが出力テーブルに書き込まれます。入力がバンドルされた場合は、そのバンドル全体に対して 1 行のデータが出力テーブルに書き込まれます。それぞれの入力に個別のインスタンス番号が割り当てられた場合、それぞれの入力に対して 1 行のデータが出力テーブルに書き込まれます。

出力テーブルに保存されたインスタンス番号によって、それぞれの入力に処理結果をリンクできます。自動生成されるソース コード (PI_Source) は、休暇欠勤、ポジティブ入力作成セクション、手動、または勤務管理など、入力ソースを表します。

ポジティブ入力の作成

このセクションでは、ポジティブ入力の作成手順、作成に関するヒントおよび以下の項目について説明します。

- 1 人の受給者に対するポジティブ入力を行います。
- 複数の受給者に対するポジティブ入力の作成
- ポジティブ入力詳細の上書き

ポジティブ入力を作成する方法

ポジティブ入力を行う前に、ポジティブ入力と関連付けられるカレンダーを設定する必要があります。カレンダーの作成は、給与計算の実行タイプを使って行います。カレンダーを作成した後に、ポジティブ入力の作成を開始することができます。

グローバル ペイロールでは、ポジティブ入力を手動で行うため、いくつかのオプションを提供しています。こうしたページでは次のことが可能です。

- 選択した支給グループおよびカレンダーに関連付けられた、1 人の受給者に対するポジティブ入力の作成
- 同じ支給グループおよびカレンダーに関連付けられた、複数の受給者に対するポジティブ入力の作成
- テンプレートを使った同じ支給グループに属する受給者専用のデータ入力ページの作成

関連項目:

第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、ポジティブ入力を作成するテンプレート ベースのページの作成および使用、 644 ページ

第 16 章、「カレンダーの使い方」、 577 ページ

ポジティブ入力を作成する際のヒント

このセクションでは、ポジティブ入力を作成する際のヒントについて説明します。

異なる支給キーによる受給者のポジティブ入力

ポジティブ入力は、それが処理される期間の支給キーに適用されます。たとえば、契約 ID の変更により分割が発生した場合、ポジティブ入力はそのセグメントに有効な契約 ID に適用されます。インスタンスに対して適切な開始日や終了日を入力することによって、ポジティブ入力を特定の契約に割り当てることができます。ポジティブ入力を前期の契約に適用する場合、適用するカレンダーの開始日、終了日を入力します。必要に応じて、遡及処理が行われます。

業務別に異なるレートで支給を受ける受給者のポジティブ入力

こうしたページでは次のことが可能です。

- 適切な数値レートを入力したり、レート コードを選択し、データを取得

- 支給エレメントが固定的賃金外のレート コードで定義されている場合、職務コード システム エレメントを上書き

選択した職務コードに対するレートが検索されます。

関連項目:

第 14 章、「組織構造の定義」、支給元の処理詳細の入力、532 ページ

最終決定または承認済みカレンダーのポジティブ入力

最終決定または承認済みの受給者に対して入力されたポジティブ入力は、同じカレンダーの遡及支給実行中にのみ処理されます。ポジティブ入力を作成する支給グループおよびカレンダーが最終決定済みであるか、銀行処理が承認済みで、カレンダーに関連付けられた受給者が存在する場合は、次のようなメッセージがデータ入力ページに表示されます。

"支給カレンダーは最終決定/承認済みです。確定後に行った変更は、遡及処理での対応となります。"

ポジティブ入力の作成に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
ポジティブ入力	GP_PI_MNL_ERNDED	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[支給と控除の割当]、[ポジティブ入力]、[ポジティブ入力]	1 人の受給者に対するポジティブ入力を行います。従業員 ID、支給グループ、およびカレンダーを選択してこのページにアクセスします。
PI - カレンダー別	GP_PI_GRP_ERNDED	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[カレンダー別ポジティブ入力]、[PI - カレンダー別]	同じ支給グループおよびカレンダーの受給者に対して、ポジティブ入力を作成、編集、または表示します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
ポジティブ入力 - 詳細	GP_PI_MNL_SEC	ポジティブ入力ページの [メイン コンポーネント] タブまたは "PI - カレンダー別" ページの [エレメント上書き] タブの詳細ボタンをクリックします。	パーセント、ベース、レート、ユニット、金額の各フィールドにレートコードまたは数値を入力します。また、[通貨] フィールドで通貨の変更、[ポジティブ入力名] フィールドで名称の追加、[開始日] および [終了日] フィールドで値の入力を行います。また、部門、職務コード、指定日の給与レートなどポジティブ入力に関連付けられたシステム エlement および変数 Element も上書きできます。

関連項目:

第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、テンプレートの処理に使用するページ、 645 ページ

1 人の受給者に対するポジティブ入力の作成

ポジティブ入力ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[支給と控除の割当]、[ポジティブ入力]、[ポジティブ入力])。

ポジティブ入力

従業員 ID:	KOG003	名前:	Darlene Bergsten	雇用コード:	0
支給グループ:	KOPGA	名称:	Pay Group 1	支給元:	KOPE1
カレンダー ID:	KOCA1999/11 PAY	開始日:	1999/11/01	終了日:	1999/11/30

支給/控除

[加減算](#) | [検索](#) | [全件表示](#) | [印刷](#) | [最初](#) | [1/1](#) | [最後](#)

アクション(A)

メイン コンポーネント(M)

ソース(S)

...

入力タイプ	エレメント名	エレメント名称	インスタンス	アクション タイプ*		
支給	KOPREM1	Premium1	2	上書き	+	-

ポジティブ入力ページ

1 人の受給者に対するポジティブ入力を作成するには、次の手順に従います。

1. [アクション] タブで、ポジティブ入力を行う支給エレメントまたは控除エレメントを選択し、インスタンス番号を割り当て、処理中に実行されるアクションを指定します。
2. 必要に応じて、[メイン コンポーネント] タブで、エレメントの計算ルール コンポーネントに対する数値を入力します。
3. エレメントの計算ルール コンポーネントに対してパーセントまたはベースの数値を入力するか、レート コード エレメントを選択する場合は、[メイン コンポーネント] タブの詳細ボタンをクリックします。

また、必要に応じて、システム エレメントまたは変数エレメントの値を上書きすることもできます。

アクション

[アクション] タブをクリックします。

この受給者に適用されるポジティブ入力の各インスタンスを入力します。

入力タイプ

[支給] または [控除] を選択して、ポジティブ入力を行うエレメントのタイプを指定します。

エレメント名、エレメント名称

ポジティブ入力を行うエレメントを名前または名称で選択します。以下の条件を全て満たすエレメントを選択できます。

- 選択した入力タイプであること。
- ポジティブ入力の上書きが可能になっていること (エレメント名 共通ページ (GP_PIN) で指定)。
- ユーザー ルール プロファイル ページのユーザー ルール プロファイルに関連付けられた国に対し定義されたエレメントであること。

つまり、ユーザー ルール プロファイルに [特定の国] としてフランスが設定されている場合、フランスおよび全ての国に対して設定されたエレメントだけを表示できます。

インスタンス

エレメントに入力するポジティブ入力のインスタンスを表す、1 から 999 までの数字を入力します。最初の行のデフォルト入力値は 1 ですが、受給者に対して同じエレメントのポジティブ入力がある場合、インスタンス番号には、既存の行に割り当てられているインスタンス番号の最大値を増加した値が割り当てられます。インスタンス番号によって、同じエレメントに対する複数行のポジティブ入力の優先順位を指定します。インスタンス番号が小さければ、優先度が高いことを意味します。

アクション タイプ

ポジティブ入力のこのインスタンスを処理する際に行われるアクションのタイプを選択します。[上書き]、[追加]、[処理しない] および [ゼロにする] から選択します。

[ゼロにする] を選択すると、"ポジティブ入力 - 詳細" ページで情報を入力できなくなります。

参照: 第 17 章、「[ポジティブ入力の使い方](#)」、[アクション タイプと処理ルール](#)、621 ページ。

メイン コンポーネント

[メイン コンポーネント] タブをクリックします。

入力できるフィールドは、[アクション タイプ] フィールドの選択値と、支給エレメントまたは控除エレメントで使われる計算ルールによって異なります。

ユニット

ユニットがエレメントの計算ルールのコンポーネントの場合、このフィールドに正または負のユニット数を入力できます。

レート コード エレメントを選択してヒューマン リソース管理のユニットの値を取得するには、詳細ボタンをクリックして "ポジティブ入力 - 詳細" ページにアクセスします。

ユニットの値を入力しない場合、エレメントの計算ページでユニットが定義済みの場合は、該当する値を決めるエレメントの指定日が確認されます。

レート

[ユニット] フィールドと同様です。

金額

エレメントの計算ルールを上書きするには、正または負の金額を入力します。計算ルールにかかわらず、この金額を使ってエレメントが変換されます。

金額を入力しても、エレメントの計算ルールに "ユニット" や "レート" のコンポーネントが使用されていれば、[ユニット] や [レート] フィールドに数値を入力できます。入力した値が計算に使われることはありませんが、支給と控除の結果テーブルにその値が転送され、給与明細で利用できます。

たとえば、レート × ユニットと定義された支給エレメントがあり、金額とレートを入力した場合、入力した金額を使ってエレメントが変換され、金額とレートの両方の値が結果テーブルに転送されます。

通貨コード

レートまたは金額を選択する際は、処理通貨のコード (エレメント定義または支給元で定義済み) が表示されます。

別の通貨を使う場合は、その通貨を選択します。

詳細

詳細ボタンをクリックして "ポジティブ入力 - 詳細" ページにアクセスし、エレメントの計算ルール コンポーネント (パーセント、ベース、レート、金額、ユニット) にレート コードを選択するか、数値を入力します。また、ビジネス ユニット、部門、または職務などのポジティブ入力のこのインスタンスに関連付けられている変数またはシステム エレメントを上書きして、その他の指示を入力することもできます。

"ポジティブ入力 - 詳細" ページで指示が入力されている場合、[詳細あり] チェック ボックスがオンになります。

ソース

[ソース] タブをクリックします。

更新者、最終更新日時

これらのフィールドには、そのポジティブ入力情報を最後に更新したユーザーの ID と更新日時が表示されます。

バッチ コード

受給者レコードに関連付けられているポジティブ入力を識別しやすいように、一意のバッチ コードを入力します。

複数の受給者に対するポジティブ入力の作成

"PI - カレンダー別" ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[ポジティブ入力 - カレンダー別]、[PI - カレンダー別])。

カレンダー別ポジティブ入力

支給グループ: KOPGA 名称: Pay Group 1 支給元: KOPPE1
 カレンダー ID: KOGA 1999/10 PAY 期間開始日: 1999/10/01 期間終了日: 1999/10/31

このカレンダーは最終決定されているので、これ以降の変更は遡及処理での対応となります。

▼ 既存エントリの検索

ビジネス ユニット: GBIBU Global Business Institute BU 事業所 ID:

会社コード: 所在地コード:

部門: バッチ コード:

☐ 選択行から値をコピー

支給/控除

要素 ソース(S)

加減算 全件表示 1-3/3

従業員 ID	名前	雇用コード	入力タイプ	要素名	要素名称	インスタンス		
KOG001	Rebekah Jones	000	支給	KOPREM1	Premium1	1	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>
KOG002	Issac Nichta	000	支給	PARKING	駐車代	1	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>
KOG003	Darlene Bergsten	000	支給	KOPREM1	Premium1	1	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>

PI - カレンダー別ページ

このページを使って、同じ支給グループおよびカレンダーに関連付けられた複数の受給者に対するポジティブ入力を追加、変更、または表示できます。このページからポジティブ入力を削除することはできません。

既存エントリの検索

このグループ ボックスを使って、表示または編集するポジティブ入力レコードを指定します。検索条件を全て満たす入力が入力が検索されます。

受給者のポジティブ入力を表示する、または未処理の入力を編集するには、次の手順に従います。

1. 確認するポジティブ入力に対する検索条件を入力します。

部門または所在地コードで検索するには、先にビジネス ユニットを選択する必要があります。

バッチ コードで検索するには、検索条件に一致し、バッチ コードが割り当てられている受給者が最低でも 1 人存在する必要があります。これは、[既存エントリの検索] グループ ボックスの [バッチ コード] フィールドでは、検索条件に一致する受給者に割り当てられた全てのバッチ コードの取得元のテーブルが検索されるためです。

2. [検索] ボタンをクリックします。
3. [支給/控除] グループ ボックスの両方のタブで入力を確認または編集します。

支給/控除

このグループ ボックスのフィールドは、1 人の受給者のポジティブ入力を行うために使用するポジティブ入力ページ上のフィールドと似ています。

複数の受給者のポジティブ入力を行うには、次の手順に従います。

1. (省略可) [ソース] タブで、受給者レコードが関連付けられているポジティブ入力を識別しやすいように、各受給者行に固有のバッチ コードを入力します。
2. このタブにある残りの必須およびオプションのデータ入力フィールドの入力を完了します。
3. (省略可) 詳細ボタンをクリックして "ポジティブ入力 - 詳細" ページにアクセスし、各受給者のレート コード、開始日および終了日、その他の指示を入力します。

ポジティブ入力に関連付けられたシステム エlementおよび変数Elementを上書きすることもできます。

4. 必要であれば、データ入力フィールドに行を追加します。

データ入力フィールドに行を追加するには、次の手順に従います。

1. [選択行から値をコピー] チェック ボックスをオンにして、指定の行に入力した値を新しい行にコピーします。

このチェック ボックスをオフにすると、空白の行が追加されます。

2. コピーする行の [+] (行 N に複数行を追加) ボタンをクリックして、表示されるユーザー プロンプト フィールドに追加する行数を入力します。

[従業員 ID] フィールドと [雇用レコード] フィールドの値はコピーされません。

3. [エレメント] タブと [エレメント上書き] タブの両方で、全ての新しい行に対して従業員 ID とその他の値を入力します。

関連項目:

第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、1 人の受給者に対するポジティブ入力の作成、633 ページ

第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、ポジティブ入力詳細の上書き、639 ページ

ポジティブ入力詳細の上書き

"ポジティブ入力 - 詳細" ページにアクセスします (ポジティブ入力ページの [メイン コンポーネント] タブまたは "PI - カレンダー別" ページの [エレメント上書き] タブの 詳細ボタンをクリックします)。

[カレンダー別ホスピティブ入力](#)
 ホスピティブ入力 - 詳細

従業員 ID: K0G001
 支給グループ: K0PGA
 カレンダー ID: K0 M200601P PGAREG
 エレメント: K0PREM1

名前: [Rebekah Jones](#)
 名称: Pay Group 1
 開始日: 2006/01/01
 エレメント名: Premium1

雇用レート: 000
 終了日: 2006/01/31
 インスタンス: 002

▼ 値またはエレメントの設定

ユニット値:	<input type="text"/>	ユニット エレメント:	<input type="text"/>
レート値:	<input type="text"/>	レート エレメント:	<input type="text"/>
ベース値:	<input type="text"/>	ベース エレメント:	<input type="text"/>
パーセント値:	<input type="text"/>	パーセント エレメント:	<input type="text"/>
金額値:	<input type="text"/>	金額エレメント:	<input type="text"/>
開始日:	<input type="text"/>	終了日:	<input type="text"/>

通貨 USD

▼ 休暇欠勤日

イベント開始日:	<input type="text"/>	イベント終了日:	<input type="text"/>
期間開始日:	<input type="text"/>	期間終了日:	<input type="text"/>

▼ その他のデータ

バッチコード:	<input type="text"/>	ホスピティブ入力名:	<input type="text"/>
---------	----------------------	------------	----------------------

▼ サポートエレメント上書き(&E)

ビジネス ユニット: GBIBU

サポートエレメント上書き(&E)	加算/減算	検索	全件表示	最初	1/1	最後
エレメント入力タイプ*	エレメント名	名称	文字値	文字値検索	数値	日付値
<input type="text"/>	<input type="text"/>		<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

[ポジティブ入力 - 詳細ページ](#)

ページ上部に表示されるタイトルは、このページにポジティブ入力ページからアクセスしたか、PI - カレンダー別ページからアクセスしたかに応じて異なります。

値またはエレメントの設定

ユニット、レート、ベース、およびパーセントの各フィールドは、これらが、選択した支給エレメントまたは控除エレメントの計算ルールに使用されるコンポーネントである場合にのみ使用できます。ポジティブ入力ページで入力した全ての数値が、ここで表示されます。

ユニットに正または負の数値を入力したり、ヒューマン リソース管理の値を取得するレート コード エレメントを選択できます。コンポーネントに値を入力しない場合、およびコンポーネントの値が該当エレメントの計算ページで定義済みである場合は、エレメントの指定日を使用して値が決定されます。

開始日 、 終了日

[開始日] フィールドには、ポジティブ入力のインスタンスの開始日を入力します。[開始日] フィールドに値を入力する場合、[終了日] フィールドにも値を入力する必要があります。開始日は処理に使用されません。

終了日は、カレンダー期間終了日と異なる場合に入力します。カレンダー期間が分割される場合、入力した終了日により、ポジティブ入力のインスタンスをどのセグメントやスライスに割り当てるかが決まります。終了日はカレンダー期間終了日、またはそれ以前である必要があります。

通貨コード

[レート値]、[ベース値]、または [金額値] フィールドに値を入力すると、処理通貨のコード (エレメント定義または支給元で定義済み) がこのフィールドに表示されます。別の通貨を使う場合は、その通貨を選択します。

休暇欠勤日

休暇取得に関連付けられた支給エレメントまたは控除エレメントのポジティブ入力を行う場合は、以下のフィールドに値を入力します。

イベント開始日 、 イベント 終了日 休暇欠勤イベントの日付を入力します。

期間開始日

休暇欠勤イベントまたはカレンダー期間の開始日より後の日付を入力します。

期間終了日

休暇欠勤イベントまたはカレンダー期間の終了日より前の日付を入力します。

その他のデータ

バッチ コード

このフィールドには、[エレメント上書き] タブにバッチ コードが設定されている場合、それがデフォルトで挿入されます。バッチ コードはオプションで、受給者レコードが関連付けられているポジティブ入力を識別しやすいようにします。この識別子をPI - カレンダー別ページで検索値として使用できます。

注意: 各受給者については、"PI - カレンダー別" ページに入力するバッチ コードが、[エレメント上書き] タブのバッチ コードと同期化されます。逆の場合も同様です。

ポジティブ入力名 (ポジティブ入力の名称) 入力した名称は GP_RSLT_PI_DATA レコードに保存されます。この機能を使うと、給与明細や報告書を、エレメント名共通ページ (GP_PIN) で定義したエレメントの名称以外の特別な名称を使って印刷できます。

サポート エレメント上書き

ポジティブ入力のインスタンスと関連付けられた、システム エレメントまたは変数エレメントを上書きできます。たとえば、インスタンスに関連付けられた部門、職務コード、または所在地を上書きできます。固定的賃金外の支給エレメントの職務コードを上書きする際、指定した職務に対する給与レートが使用されます。

ある受給者が組織で 2 つのタイプの業務に就き、支給レートが 2 つあると仮定します。支給期間中、受給者は、正規の業務である職務 A で 32 時間、職務 B で 8 時間働きました。この場合、職務 A のポジティブ入力のインスタンスに 32 時間を入力します。この入力を受給者の正規の職務に適用されるので、このインスタンスには他に何も入力する必要はありません。次に職務 B のインスタンスに 8 時間を入力し、[サポート エレメント上書き] グループ ボックスを使って 8 時間のインスタンスの標準職務コードを上書きします。

1 回の上書きは、ポジティブ入力したインスタンス 1 つだけに適用されます。インスタンスが変換されると、サポート エレメントはその前の値に戻されます。入力できるフィールドは、そのエレメントのフォーマットが数字か、文字か、日付かによって変わります。通貨値は入力できません。

注意: 実際に表示される [サポート エレメント上書き] グループ ボックスは、このドキュメンテーションで表示されるものと異なる場合があります。各エレメントのラベル、フィールド、およびプロンプト表示は、サポート エレメント上書きのデータを簡単かつ正確に入力できるよう、設定可能なエレメント上書き機能を使用して修正できます。

参照: 第 9 章、「[エレメント上書きの設定](#)」、333 ページ。

ビジネス ユニット	<p>ヒューマン リソース管理の職務データ コンポーネントで受給者に割り当てられたもの以外のビジネス ユニットを指定するには、検索結果リストから選択します。</p> <p>[サポート エレメント上書き] グループ ボックスに値を入力する際に使用できるように、検索結果リストに値がロードされます。</p>
エレメント入力タイプ	<p>上書きするエレメント タイプを選択します。選択できる値は [システム エレメント] と [変数] です。</p>
エレメント名	<p>以下の条件を全て満たすエレメントから、上書きするエレメントの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none">• 選択した入力タイプであること。• ポジティブ入力の上書きが可能になっていること (エレメント名 共通ページで指定)。• ユーザー基本設定に一致すること。
文字値	<p>選択したサポート エレメントで文字値を使用する場合、このフィールドには 25 文字 (半角) まで入力できます。</p> <p>ビジネス ユニットを選択していない場合、部門、職務コード、所在地のシステム エレメントを選択すると、このフィールドは使用できなくなります。</p> <p>ビジネス ユニットおよび部門、職務コード、または所在地を選択した場合、選択したビジネス ユニットに適用できる値がリストされた検索結果リストが表示されます。表示されたリストから上書き値を選択できます。</p> <p>たとえば、ビジネス ユニットにビジネス ユニット 123 を、エレメント名に職務コードを選択すると、ビジネス ユニット 123 に関連付けられた全ての職務コードが検索結果リストに表示されます。</p>
数値	<p>サポート エレメントで数値を使う場合は、使用する数値を入力します。</p>
日付値	<p>サポート エレメントで日付値を使う場合は、使用する日付を入力します。</p>

関連項目:

第 6 章、「データ取得エレメントの定義」、給与レート コード エレメントの定義、 162 ページ

第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、分割に関する注意事項、 624 ページ

第 9 章、「エレメント上書きの設定」、 333 ページ

ポジティブ入力を作成するテンプレート ベースのページの作成および使用

ポジティブ入力テンプレートを作成するには、ポジティブ入力テンプレート コンポーネント (GP_PI_BULK_TMPLT) を使用します。

このセクションでは、テンプレートの概要および以下の作業を行う方法について説明します。

- ポジティブ入力用のデータ入力ページの作成
- テンプレート ベースのページでのポジティブ入力の作成

テンプレートについて

テンプレートを使用して、受給者に固有のポジティブ入力情報の入力をユーザーに促す独自のデータ入力ページを設計できます。6 つまでの支給および控除エレメントのフィールドに加えて、2 つのコンポーネントの上書きを可能にし、各支給または控除エレメントに対して 3 つのサポート エレメントを上書き可能にできます。ユーザーは、設計したページにアクセスして、同一の支給グループの複数の受給者についてポジティブ入力を迅速に入力できます。

関連項目:

第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、ポジティブ入力の作成、 630 ページ

テンプレートの処理に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
PI - テンプレート	GP_PI_BULK_TMPLT	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[ポジティブ入力テンプレート]、[PI - テンプレート]	データ入力ページ (テンプレート別 PIページ) に表示されるフィールドを定義します。
テンプレート別 PI	GP_PI_BULK_SSN	[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[テンプレート別ポジティブ入力]、[テンプレート別 PI]	同じ支給グループおよびカレンダーの受給者に対して、ポジティブ入力を作成します。このページは、"PI - テンプレート" ページで作成されたテンプレートに基づいて構成されます。

ポジティブ入力用のデータ入力ページの作成

"PI - テンプレート" ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[ポジティブ入力テンプレート]、[PI - テンプレート])。

国:

GBR

テンプレート ID:

LOANS

*名称:

Employee Loans

▼ エレメント コンポーネント/メイン コンポーネント

<div>エレメント タイプ* 1</div> <div>控除</div>	<div>エレメント 1</div> <div>LOA DD LOAN</div> <div>Employee Loan</div>	<div>コンポーネント 1A</div> <div>金額</div>	<div>コンポーネント 1B</div> <div></div>	<div>コンポーネント 1C:</div> <div></div>
<div>エレメント タイプ* 2</div> <div>控除</div>	<div>エレメント 2:</div> <div>LOA DD EXCEP</div> <div>Loans - Exceptional repayment</div>	<div>コンポーネント 2A</div> <div>金額</div>	<div>コンポーネント 2B:</div> <div></div>	<div>コンポーネント 2C:</div> <div></div>
<div>エレメント タイプ* 3</div> <div></div>	<div>エレメント 3:</div> <div></div>	<div>コンポーネント 3A:</div> <div></div>	<div>コンポーネント 3B:</div> <div></div>	<div>コンポーネント 3C:</div> <div></div>
<div>エレメント タイプ* 4</div> <div></div>	<div>エレメント 4</div> <div></div>	<div>コンポーネント 4A:</div> <div></div>	<div>コンポーネント 4B:</div> <div></div>	<div>コンポーネント 4C:</div> <div></div>
<div>エレメント タイプ* 5</div> <div></div>	<div>エレメント 5:</div> <div></div>	<div>コンポーネント 5A:</div> <div></div>	<div>コンポーネント 5B:</div> <div></div>	<div>コンポーネント 5C:</div> <div></div>
<div>エレメント タイプ* 6</div> <div></div>	<div>エレメント 6:</div> <div></div>	<div>コンポーネント 6A:</div> <div></div>	<div>コンポーネント 6B:</div> <div></div>	<div>コンポーネント 6C:</div> <div></div>

▼ エレメント属性

保存オプション

☐ 常に保存
 ☒ コンポーネントがゼロ以外のとき
 ☐ サブ要素が存在するとき

通貨コード:

GBP

☐ 通貨の上書きの禁止
 ☐ 開始終了日を使用
 ☐ ビジネス エントリのエントリを有効化

使用可能な小数部桁数:

2

サブ要素 エレメント上書き

<div>入力タイプ* 1</div> <div>変数</div>	<div>エレメント 1</div> <div>LN VR LOAN ID</div> <div>Employee Loan ID</div>
<div>入力タイプ* 2:</div> <div>変数</div>	<div>エレメント 2:</div> <div>LN VR LOAN TYPE</div> <div>Employee Loan Type</div>
<div>入力タイプ* 3:</div> <div></div>	<div>エレメント 3:</div> <div></div>

PI - テンプレート ページ

注意: 各テンプレートは、テンプレートを作成したユーザーの国と関連付けられています。

エレメント コンポーネント/メイン コンポーネント

エレメント名共通 (GP_PIN) ページでポジティブ入力が入力可能に設定された支給または控除エレメントを 6 つまで選択できます。これらのエレメントは、データ入力ページに表示されるものです。

エレメント タイプ [支給] または [控除] のエレメント タイプを選択します。

エレメント

ポジティブ入力による上書きを可能にするエレメントを入力します。1 つのテンプレートで同じエレメントを 2 回以上選択しないでください。選択した場合、テンプレートの保存時にエラーになります。

入力したエレメント設定がテンプレートのサポート エレメント指定と矛盾する場合、テンプレートの保存時に警告メッセージが表示されます。

コンポーネント

選択した各支給または控除エレメントに対して、1 つから 3 つのコンポーネントの上書きフィールドを含めることができます。コンポーネントは、支給または控除エレメントの計算ルールに使用されます。

ユーザーが上書き可能なコンポーネントのタイプを選択します。選択できるのは、[金額]、[ベース]、[パーセント]、[レート] および [ユニット] です。

[金額] 以外は、エレメントの計算ルールに含まれているコンポーネントのみ、このフィールドの値として選択できます ([金額] は常に選択できます)。エレメントの 3 つの [コンポーネント] フィールドの値に重複がないか、システムによって相互検証されます。

保存オプション

テンプレート ベースのポジティブ入力ページを使用して給与計算データを入力すると、Global Payroll ではコンポーネント インターフェイスを使用して、このデータを実際のポジティブ入力レコードにロードします。ポジティブ入力レコードに送信して保存するデータを制限する場合は、[保存オプション] グループ ボックスのフィールドを使用します。

[常に保存]: 値がコンポーネント用に指定されているか、サポート エレメント上書き用に指定されているかに関係なく、受給者のポジティブ入力を保存する場合に選択します。

[コンポーネントがゼロ以外のとき]: 1 つ以上のコンポーネントに値が指定されているときにだけ受給者のポジティブ入力を保存する場合に選択します。

[サポート エレメントが存在するとき]: コンポーネント値が入力されているかどうかに関係なく、値がサポート エレメント上書き用に指定されているときにポジティブ入力を保存する場合に選択します。

エレメント属性

通貨コード

全ての入力に適用される通貨コードを表示するフィールドを含めるには、該当する通貨を選択します。

[コンポーネント] の値に [金額]、[ベース] または [レート] を選択した場合は、[通貨コード] フィールドに値を入力するか、[通貨の上書きの禁止] チェック ボックスをオフにする必要があります。

注意: ここで選択する値は、受給者レベルのデフォルトの通貨コード値です。

通貨の上書きの禁止

このテンプレートを使用したポジティブ入力インスタンスで、通貨の上書きを許可しない場合に選択します。

開始終了日を使用

データ入力ページに [期間開始日] フィールドと [終了日] フィールドを表示する場合に選択します。これにより、ポジティブ入力インスタンスの開始日と終了日が入力できるようになります。

カレンダー期間が分割される場合、終了日よりインスタンスをどのセグメントやスライスに割り当てるかが決まります。

ビジネス ユニットのエントリを有効化

データ入力ページで [ビジネス ユニット] フィールドを表示する場合はオンにします。オンにすると、ポジティブ入力インスタンスでビジネス ユニットを指定できるようになります。

使用可能な小数部桁数

このテンプレートに関連付けられたポジティブ入力で使用可能な小数点以下の桁数を入力します。ここに入力した値により、このテンプレートに関連付けられたポジティブ入力を受給者レベルで行う場合に、使用可能な小数点以下の桁数が決まります。

サポート エレメント上書き

テンプレート別 PI ページでポジティブ入力を行う際に、ユーザーが上書きできるシステム エレメントまたは変数エレメントを、3 つまで選択できます。

入カタイプ

選択できる値は [システム エレメント] と [変数] です。

サポート エレメント

ユーザーが上書きできるサポート エレメントの名前を入力します。指定のエレメントを 1 度だけ選択できます。

関連項目:

第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、ポジティブ入力詳細の上書き、 639 ページ

テンプレートで作成したページでのポジティブ入力の作成

テンプレート別 PI ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[テンプレート別ポジティブ入力]、[テンプレート別 PI])。

テンプレート別ポジティブ入力

国: AUS オーストラリア
 テンプレート: KAREGULAR Regular Bulk Positive Input
 通貨: AUD

カレンダー選択
 支給グループ:
 カレンダー ID:
 期間日付:

保存オプション
☐ 常に保存
☐ コンポーネントがゼロ以外のとき
☐ サポート エlementが存在するとき

共通属性設定
アクション タイプ
☒ 上書き
☐ 追加
☐ ゼロにする
 バッチ コード:

受給者にこれらのElementに対するポジティブ入力がある場合
☒ 新規入力を挿入しない
☐ 確認後に挿入
☐ 確認なしで挿入

受給者リストに行を追加
☐ 選択行から値をコピー

受給者リスト
 受給者 (P) | Element 3 と 4 | Element 5 と 6 | 通貨コード (C) | 開始日と終了日 (D) | サポート Element (S) | ポジティブ入力表示 (V) | 最初 | 1/1 | 最後

保存済	従業員 ID	名前	雇用コード	Car Allowance; ユニット	Train fare advance; ユニット
<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>		<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

テンプレート別 PI ページ

注意: 表示されるフィールドは、テンプレートによって異なります。テンプレート別 PI ページは、単一のポジティブ入力インスタンスのデータ入力を迅速に行うことを目的としています。

従業員 ID および雇用レコード番号の各組み合わせに対して、データを 1 行入力できます。ポジティブ入力を保存すると、既存のポジティブ入力とのチェックが行われ、新しい有効なポジティブ入力がポジティブ入力テーブルに挿入されます。正常に処理されたポジティブ入力は、横にある [保存済] チェック ボックスがオンになります。

指定した受給者のポジティブ入力を保存した後は、このコンポーネントを使用して編集することはできなくなります。保存後に、その受給者のポジティブ入力に修正または追加を行う場合は、ポジティブ入力コンポーネントまたはポジティブ入力 - カレンダー別コンポーネントから行う必要があります。どちらのコンポーネントも複数のポジティブ入力インスタンスを作成できます。初回の入力は "ポジティブ入力 - テンプレート別" コンポーネントを使用して迅速に実行できます。2 回目以降は必要に応じて、上記の 2 つのコンポーネント ("ポジティブ入力" または "ポジティブ入力 - カレンダー別") のどちらかを使用して、指定の支給グループ/支給カレンダーのポジティブ入力を全て呼び出すことができます。その時点で、複数のインスタンスを入力したり、必要に応じて初回の入力を修正できます。

保存オプション

このグループ ボックスには、ポジティブ入力テンプレートの作成時に選択された保存オプションが表示されます。テンプレート別 PI ページでは、この値は上書きできません。

カレンダー選択

支給グループ ポジティブ入力を作成する支給グループを選択します。

カレンダー ID ポジティブ入力を作成するカレンダー ID を選択します。カレンダー期間の開始日と終了日が表示されます。

共通属性設定

入力するポジティブ入力の各インスタンスに適用するアクション タイプを選択します。

参照: 第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、アクション タイプと処理ルール、621 ページ。

バッチ コード このオプション フィールドでは、作成するポジティブ入力の各インスタンスに適用する固有のバッチ コードを入力できます。バッチ コードは、受給者レコードが関連付けられているポジティブ入力を識別しやすいようにします。この識別子をPI - カレンダー別ページで検索値として使用できます。また、バッチ コードは、"PI - カレンダー別" ページや "ポジティブ入力 - 詳細" ページで修正または編集できます。

受給者にこれらのエレメントに対するポジティブ入力がある場合

このグループ ボックスのオプションでは、挿入しようとした受給者とエレメントの組み合わせで、既存のポジティブ入力が見つかった場合に、新しいポジティブ入力をどのように処理するかを決定します。グループ ボックス内の全てのオプションは、受給者レベルで機能します。

新規入力を挿入しない

このオプションを選択すると、受給者とエレメントの組み合わせで既存のポジティブ入力が存在する場合、ポジティブ入力の行は挿入されません。その代わりに、[保存] をクリックしたときに、1 人以上の受給者で、挿入しようとした行に一致する既存のポジティブ入力データが存在することを示すメッセージが表示されます。挿入されなかった行は、[受給者リスト] グループ ボックスの [保存済] チェック ボックスがオフのままになっています。

確認後に挿入

このオプションを選択すると、受給者とエレメントの組み合わせで既存のポジティブ入力が存在する場合、ポジティブ入力の行を挿入するかどうかの確認が行われます。[OK] をクリックして了解すると、ポジティブ入力が挿入されます。[キャンセル] をクリックすると、ポジティブ入力の挿入は中止されます。挿入を中止した行は、[受給者リスト] グループ ボックスの [保存済] チェック ボックスがオフのままになっています。

確認なしで挿入

このオプションを選択すると、受給者に既存のポジティブ入力が存在しているかどうかにかかわらず、全ての新しいポジティブ入力が挿入されて保存されます。

受給者リストに行を追加

選択行から値をコピー

特定の行に入力した値を新しい行にコピーする場合にオンにします。このチェック ボックスをオフにすると、空白の行が追加されません。

このチェック ボックスがオンの場合、コピーする行の [+] (行 N に複数行を追加) ボタンをクリックして、表示されるユーザー プロンプト フィールドに追加する行数を入力することができます。[従業員 ID] フィールドと [雇用レコード] フィールドの値はコピーされません。

受給者リスト

このグループ ボックスを使用して、受給者に対するポジティブ入力の行を入力します。このグループ ボックスに表示されるタブは、テンプレートごとに異なります。

保存済

ポジティブ入力の行の隣のこのチェック ボックスは、その行がポジティブ入力テーブルに正常に挿入されたときにオンになります。

ポジティブ入力の遡及調整

このセクションでは、遡及調整の概要と、ポジティブ入力を訂正する方法について説明します。

遡及調整について

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- ポジティブ入力と再計算オプション
- ポジティブ入力の削除
- デルタの適用
- 不一致のセグメントとスライスおよび再計算しないオプション
- バージョン番号

ポジティブ入力と再計算オプション

ポジティブ入力は、遡及処理中にエレメントの再計算ルールを上書きします。エレメントの計算ページの [遡及再計算オプション] チェック ボックスの設定にかかわらず、ポジティブ入力に入力される値を基にインスタンスが変換されます。

ただし、ポジティブ入力を削除する際にはこのルールは適用されません。

ポジティブ入力の削除

再計算を行わないよう設定されていて、支給カレンダーが既に最終決定されているエレメントのポジティブ入力を削除する場合、元の入力をそのままにして、アクションを [処理しない] に変更するのが最善の方法です。こうしておけば、次に給与計算を再実行しても、エレメントは変換されません。入力を削除してしまうと、エレメントや期間の分割がある場合は、予測外の結果が生じるおそれがあります。

デルタの適用

セグメントが一致するときに遡及デルタを調整値として現在の期間に繰り越すために、エレメントのデルタが合計され、現在のカレンダーの最初のセグメントに繰り越されます。最初のセグメントがスライスされている場合は、この最初のセグメント内の最初のスライスに調整値が繰り越されます。エレメントが現在の期間中に 1 セグメントあたり複数回変換される場合は、合計されたデルタを適用する際に次の階層が参照されます。

1. エレメントの通常変換
2. エレメントの上書き変換
3. エレメントのその他の変換

現在の期間で、[追加] のアクション タイプだけを持つポジティブ入力の複数のインスタンスが存在する場合、調整値がエレメントのその他の変換ではなくエレメントの通常変換に適用されます。[上書き] と [追加] のアクション タイプが混在するために複数の行が存在する場合、遡及調整値がエレメントの上書き変換に適用されます。最後に、エレメントの通常変換が存在せず、エレメントの上書き変換も存在しない場合は、遡及調整値がエレメントのその他の変換に適用されます。調整額が適用されるのは 1 度だけです。

不一致のセグメントとスライス

エレメントが分割されている場合に遡及処理を行うと、元の計算の変換数と再計算のスライス数が比較され、不一致が存在するかどうか判断されます。アクション タイプが [追加] のポジティブ入力インスタンスは、偽の不一致を発生させることがあるのでカウントから除外されます。

バージョン番号

手動以外のソースから作成されるポジティブ入力に遡及調整を行う際は、バージョン管理機能を使って元の入力と修正後の入力を区別します。元の入力にバージョン番号 1 が割り当てられます。この番号は PI_VER_NUM フィールドにロードされます。バージョン番号は調整が行われるたびに増加します。このバージョンは、遡及支給処理による結果を追跡するためのバージョン番号およびレビジョン番号とは異なります。

そのカレンダーに作成されたポジティブ入力の全てのインスタンス (変更しなかったインスタンスも含む) に割り当てられたバージョン番号が更新されるため、元の入力と遡及処理に使用される入力を区別できます。

たとえば、休暇取得プロセスで 1000 の値を持ったポジティブ入力のインスタンスを作成したとします。このインスタンスと、その他の手動以外の全てのポジティブ入力には、自動的にバージョン 1 が割り当てられます。2 か月後に、遡及調整により値が 1200 に変更されたとします。ターゲット カレンダーの給与計算を再実行すると、更新されたポジティブ入力と、その他の手動以外の全てのポジティブ入力は、自動的にバージョン 2 になります。

関連項目:

第 30 章、「トリガの設定」、1111 ページ

第 33 章、「遡及処理の定義」、1219 ページ

ポジティブ入力の訂正

ポジティブ入力のインスタンスを修正するには、元の入力の支給期間で修正を行います。オンライン変更を検出するための遡及トリガを定義した場合、入力はトリガ発生テーブルに書き込まれます。受給者の次の給与計算サイクルを実行する際、テーブルからデータが読み込まれ、ポジティブ入力の遡及調整が行われます。

ポジティブ入力の確認

給与計算処理の計算フェーズを実行した後で、[カレンダー別結果] およびカレンダー グループ別結果コンポーネントに含まれるページでポジティブ入力を表示することができます。

関連項目:

第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、ポジティブ入力の結果の表示、871 ページ

第 18 章

上書きの設定

この章では、上書きの概要および以下の項目について説明します。

- 支給元上書きの定義
- 支給グループ上書きの定義
- 受給者上書きの定義
- 支給カレンダー上書きの定義
- エレメントを使用した上書きの定義
- エレメント定義上書きの定義
- ポジティブ入力を使用した上書きの定義
- エレメント定義、ポジティブ入力、およびエレメント割り当て上書きの間の競合の管理
- 補足ルール インスタンスの作成
- バッチ処理での上書きの変換

上書きについて

このセクションでは、この章で使用する共通フィールドと以下の項目について説明します。

- 上書きレベル
- 主要エレメントの上書き
- サポート エレメントの上書き
- 上書きに対する開始日および終了日のロジック
- エレメントの上書きと分割

上書きを使用して、指定期間に対するエレメントの変換に使う値を制御します。給与計算または休暇欠勤処理を実行する際に、エレメントのルール定義が検索され、入力した上書きの指示が全て適用されます。

この章で使用する共通フィールド

エレメント定義上書き	主要エレメント (支給、控除、休暇取得、または休暇付与) の定義で使用されたブラケット、日付、デュレーション、フォーミュラ、または変数エレメントの値を上書きします。
支給カレンダー上書き	カレンダーから特定の支給、控除、および休暇欠勤エレメントを除外し、関連付けられたブラケット、日付、デュレーション、フォーミュラ、および変数エレメントの値を上書きできます。
支給元上書き、支給グループ上書き	指定の支給元または支給グループにリンクされた受給者のエレメントを変換する際、ブラケット日付、デュレーション、フォーミュラ、または変数エレメントの値を上書きします。
受給者上書き	受給者固有の上書きでは以下の 4 つのタイプの上書きが可能です。 <ul style="list-style-type: none">• 支給、控除、または休暇欠勤エレメントの割り当てまたは無効化• 支給、控除、または休暇欠勤 (および控除に対する延滞回収金額) エレメントの定義の上書き• 特定の支給または控除で使用する変数値の上書き• 変換が発生するたびに行われる、ブラケット、日付、デュレーション、フォーミュラ、または変数エレメントの上書き
ポジティブ入力上書き	ポジティブ入力インスタンスに対する支給、控除、または休暇欠勤エレメントの定義を上書きします。ポジティブ入力のインスタンスと関連付けられた、システムおよび変数エレメントを上書きできます。
エレメント使用上書き	エレメントの値が、アレイ、ブラケット、日付、またはフォーミュラ エレメントによって更新可能かどうかを制御します。

上書きレベル

エレメントの上書き指示を入力する前に、エレメント名共通ページの [上書きレベル] グループボックスで適切なチェック ボックスをオンにして、上書きを許可するタイプを指定する必要があります。

サポート エレメントの上書きを可能にする場合は、エレメント名共通ページで [常時再計算] チェック ボックスをオフにします。この操作を行わない場合は、エレメントの変換には上書きの値ではなくエレメントの定義の値が使用されます。

注意: 追加レベルの受給者カレンダー上書きがサポート エレメントに存在します (オフサイクル リクエスト コンポーネントを使用)。このレベルは、オフサイクル リクエストでのみ使用でき、定期カレンダーには展開されません。"受給者カレンダー上書き" ページでサポート エレメント上書きを入力する前に、サポート エレメントのエレメント名共通ページにある [上書きレベル] グループボックスの [受給者] チェック ボックスと [カレンダー] チェック ボックスをオンにする必要があります。

参照: 第 24 章、「オフサイクル処理の管理」、追加支給の作成、969 ページ。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、97 ページ

主要エレメントの上書き

上書きレベルでは、支給、控除、休暇取得、および休暇付与の各エレメントの値を、システムの定める以下の適用順序に従って制御することができます。

1. 受給者上書き

受給者レベルで、支給、控除、休暇欠勤のエレメントの割り当てまたは無効化を行ったり、各エレメントの定義を上書きします。

2. 支給カレンダー上書き

3. エレメント使用上書き

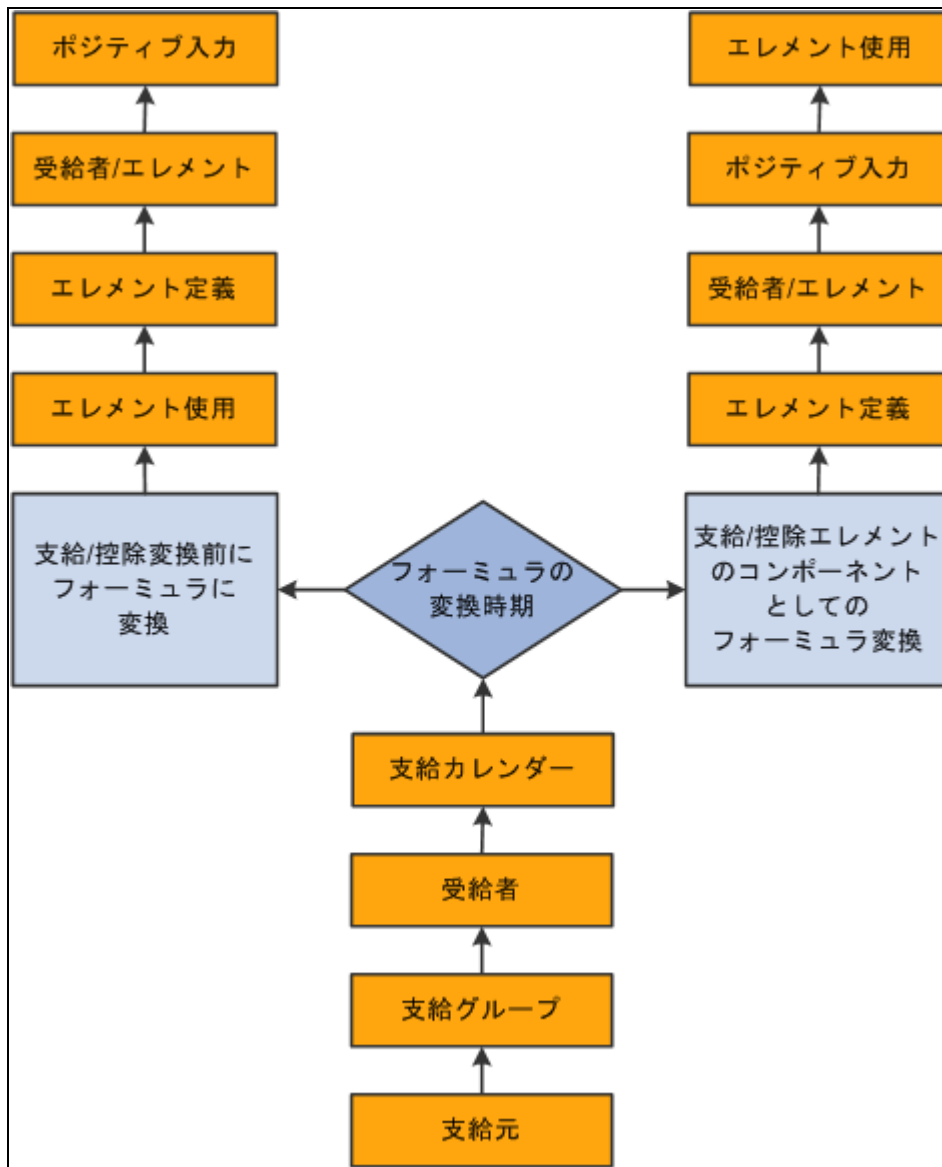
4. ポジティブ入力上書き

サポート エLEMENTの上書き

8 つの上書きレベルによって、ブラケット、日付、デューレーション、フォーミュラ、および変数の値を制御できます。

- 支給元上書き
- 支給グループ上書き
- 受給者上書き: 受給者に対して変換が発生するたびに、ブラケット、日付、デューレーション、フォーミュラ、または変数ELEMENTの値を上書きします。
- 受給者/ELEMENT上書き: 受給者に割り当てられた特定の支給または控除に使用された変数の値を上書きします。
- 支給カレンダー上書き
- ELEMENT使用上書き
- ELEMENT定義上書き
- ポジティブ入力上書き

サポート ELEMENTに対して複数の上書きがある場合は、支給元上書きから始まり、次の図に示された順序で上書きが適用されます。



エレメント上書きの階層

注意: 受給者/エレメント上書きでは、受給者の特定の支給または控除に関連付けられた変数エレメントの上書きが参照されます。これらの上書きは、エレメント別受給者割当ページおよび受給者別エレメント割当ページにリンクされているエレメント詳細ページで入力します。受給者上書きとは、受給者に関連付けられたブラケット、日付、デュレーション、フォーミュラ、または変数の上書きです。このような上書きは、受給者のサポート エレメント上書きページで入力します。

例

VARIABLE1 は、以下の値を持っています。

- 30 (ルール定義)

- 20 (支給元上書き)
- 10 (支給グループ上書き)

この場合、支給元上書きより支給グループ上書きが優先されるので、VARIABLE1 は 10 に変換されます。

上書きに対する開始日および終了日のロジック

上書き指示を入力する際に、開始日を指定します。

開始日は、上書き指示の適用をいつ開始するかを表します。デフォルトは現在の日付です。

ほとんどの場合、終了日は省略可能です。終了日は、上書き指示がいつ非アクティブになるかを指定します。同じエレメントに対して複数行の指示を入力する場合にのみ、入力必須です。

処理される上書きタイプによって、開始日と終了日の処理ルールは異なります。

受給者上書きと分割

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- 受給者上書きと分割
- 受給者上書きを要因とする分割
- 受給者上書きの場合の比例配分と分割

受給者上書きと分割

ヒューマン リソース管理または以下のデータの変更に基づいて、支給期間をスライスまたは分割するように、グローバル ペイロール システムを設定できます。

- 期間中に発生する職務ステータスまたは職務名の変更
- 期間中に発生する部門間異動
- 期間中に発生する給与レートの変更

スライスまたは分割された期間内に受給者上書きがある場合、上書きの終了日と同様にセグメント/スライスの終了日に基づいて、異なるスライス/セグメントに上書きが適用されます。

上書きが適用されるスライスまたはセグメントは、以下のルールに従って決定されます。

- 上書きをセグメントに適用する場合は、上書きの終了日がセグメント終了日と同じか、それ以降の日付 (または空白) である必要があります。
- 上書きの終了日が、あるセグメントの終了日よりも後の日付で、次のセグメントの終了日と同じかそれよりも後の日付の場合は、1 つの上書きを複数のセグメントに適用できます。
- 上書きの終了日がセグメント終了日よりも前の日付の場合、上書きはそのセグメントには適用されません。
- セグメント上書きはセグメント終了日時点でアクティブにする必要があります。

支給元、支給グループ、およびエレメント定義の上書きが、分割に影響されることはありません。エレメントの定義と上書きは、期間またはエレメントの分割にかかわらず、全ての期間で 1 度だけ検索されます。

注意: 期間内のスライス/セグメントに上書きを適用するルールについては、分割の章で詳しく説明します。

参照: 第 32 章、「分割の定義」、分割の設定、 1213 ページ。

受給者上書きを要因とするエレメント分割

既に述べたとおり、ヒューマン リソース管理またはその他のデータの変更に基づいて、支給期間をスライスまたは分割するようにグローバル ペイロール システムを設定できます。一方、他のデータ変更がない場合でも、上書きに直接対応して、分割および比例配分をトリガするようにシステムを設定することができます。つまり、上書き自体が分割をトリガするデータ変更と見なされるように、システムを設定することができます。こうすると、エレメントの値を割り当てたり上書きしたりしたときに、上書きの開始日および終了日に基づいて、割り当てられたエレメント、および分割エレメント リストに含まれるその他のエレメントがスライスされます。

たとえば、支給エレメント E1 を割り当てたり上書きするとエレメント分割がトリガされるようにシステムを設定し、受給者別エレメント割当コンポーネント (GP_ED_PYE) で、開始日と終了日にそれぞれ 6 月 10 日と 20 日を指定して (支給期間は月次とします) E1 を受給者に割り当てるとします。割り当て/上書きの開始日と終了日に基づいて、エレメントは 3 つのセグメントにスライスされ、2 番目のスライスのエレメントが処理 (および比例配分) されます。

エレメント	スライス 1 6 月 1 日～ 10 日	スライス 2 6 月 11 日～ 20 日	スライス 3 6 月 21 日～ 30 日
支給 = E1 計算ルール = 金額 金額 = 300	スライス 1 のエレメント は変換されない	変換後の金額 = 100 (比 例配分係数 = .333333333)	スライス 3 のエレメント は変換されない

注意: エlement 割り当てまたは上書きによってトリガできる分割は、**Element 分割**のみです。

Element 割り当てに対応して分割がトリガされるようにシステムを設定するには、以下の手順に従います。

1. 国別設定コンポーネント (GP_COUNTRY) で、[セグメント期間内でアクティブな場合] オプションを選択します。

これにより、終了日が支給期間の終了日よりも前のものを含め、期間内の全ての Element 割り当て/上書きが処理されます。

参照: 第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、インストール設定の定義、40 ページ。

2. 割り当てる Element を比例配分する場合、支給または控除の定義ページで、Element に比例配分ルールを関連付けます。

参照: 第 8 章、「支給 Element および控除 Element の定義」、支給 Element の端数処理オプションおよび比例配分オプションの定義、297 ページ。

3. 開始日と終了日が指定された支給および控除の割り当てレコード (GP_PYE_OVRD) に対する分割トリガを設定し、割り当ての**開始日**が支給期間開始日よりも後の場合、および割り当ての**終了日**が支給期間終了日よりも前の場合、またはそのいずれかの場合に、Element 分割をトリガする支給および控除をリストします。

参照: 第 30 章、「トリガの設定」、開始日と終了日が指定された支給/控除割り当てレコード (GP_PYE_OVRD) に対する分割トリガの設定、1135 ページ。

受給者レベル上書きの場合の比例配分と分割

受給者レベル、主要 Element の上書きの比例配分は、以下の条件に該当する場合に発生します。

注意: 主要 Element の上書きには、支給と控除が含まれます。サポート Element の上書きには、変数、フォーミュラ、アレイ、ブラケットなどの Element が含まれます。

- 期間分割またはエレメント分割が、エレメント上書きまたは割り当てと直接関係のないデータ変更によってトリガされるとき。
 - 支給または控除の割り当てが適用される期間に**期間分割**がある場合 (つまり、全てのエレメントが分割されます)、エレメントが比例配分されるように定義されると、割り当てられたエレメントはセグメントの開始日および終了日に基づいて比例配分されます。このようにしないと、そのエレメントの値全体が、ターゲットのセグメントそれぞれに適用されます。
 - 支給または控除の割り当てが適用される期間に**エレメント分割**があり、割り当てられたエレメントがスライス対象エレメントのリストに含まれている場合、そのエレメントが比例配分されるように定義されると、スライス日に基づいてエレメントが比例配分されます。このようにしないと、そのエレメントの値全体が、ターゲットのスライスそれぞれに適用されます。
- 主要エレメントの上書きまたは割り当てがエレメント分割を直接トリガするように、システムを設定するとき。

この場合、そのエレメントが比例配分されるように定義されると、割り当ての開始日と終了日に基づいて、割り当てられたエレメント (およびエレメント リストでそのエレメントと関連付けられている全てのエレメント) がスライスされます。他の理由によるスライスまたは分割は行われません。エレメントが比例配分されるように定義されないと、割り当ての開始日と終了日によって定義されるスライス内で、エレメントの値がそのまま処理されます。

注意: 受給者別エレメント割当コンポーネント (GP_ED_PYE) およびエレメント別受給者割当コンポーネント (GP_ED_ELEM) で、受給者に割り当てられた上書きの開始日と終了日に基づいて支給期間内のエレメントをスライスするように、システムを設定することができます。この作業については、トリガ定義の章で説明します。

参照: 第 30 章、「トリガの設定」、開始日と終了日が指定された支給/控除割り当てレコード (GP_PYE_OVRD) に対する分割トリガの設定、1135 ページ。

注意: 主要エレメント上書きが比例配分されるのは、エレメントが比例配分されるように定義されていて、かつ期間分割がある場合 (全てのエレメントが分割されます)、またはエレメント分割がある場合でそのエレメントがスライス対象エレメントのリストに含まれているときです。

サポート エレメント上書きについて、サポート エレメントが比例配分されるのは、それが比例配分されるように定義されたエレメントのコンポーネントで、そのエレメントが分割またはスライスの対象になっているときです。

支給元上書きの定義

このセクションでは、支給元上書きの処理ルールの概要と、支給元に関連付けられたサポート エレメントの値を上書きする方法について説明します。

支給元上書きの処理ルールについて

処理中には、開始日と終了日 (指定されている場合)、およびエレメント名共通ページでエレメントに対して定義された "定義の指定日" が参照されます。

上書きの指示は以下の場合に有効となります。

- 開始日は、エレメントの定義の指定日より前、または同じ日付にする必要があります。
- 終了日は、定義の指定日より後、または同じ日付にする必要があります。

例

VARIABLE1 は、以下のように定義されます。

- 定義の指定日 = カレンダー期間開始日
- 値 = 100
- 支給期間 = 2004/01/01 - 2004/01/31

次のような支給元上書きがあるとします。

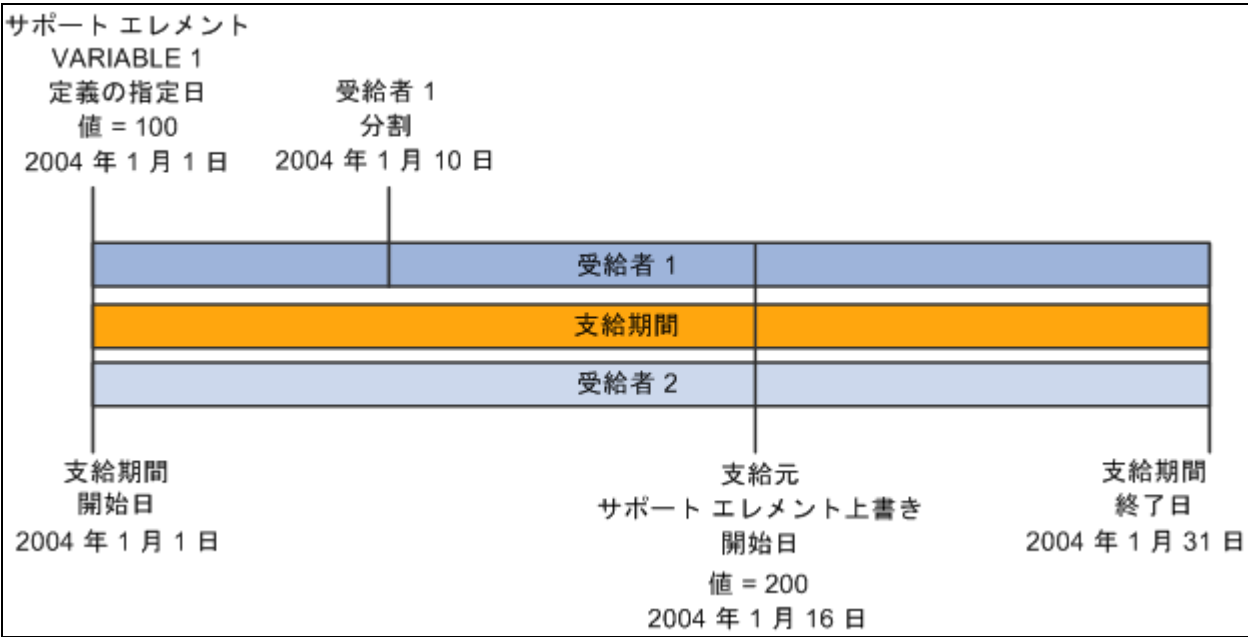
- 開始日 = 2004/01/16 (終了日なし)
- 値 = 200

受給者 1 は、2004/01/10 で分割が発生しています。受給者 2 には分割がありません。

どちらの受給者も、VARIABLE1 の値は同じになります。受給者 1 の分割による、VARIABLE1 の値への変化はありません。

次の図では、支給元サポート エレメント上書きは VARIABLE1 の定義の指定日 (カレンダー期間開始日) には当てはまらないため、どちらの受給者にも適用**できず**、その結果両方の受給者の値は 100 となります。

ただし、VARIABLE1 の定義の指定日が支給期間終了日である場合には、どちらの受給者にも支給元上書き値 200 が使用されます。



支給元上書きの処理ルール例

支給元上書きの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
[支給元] - [サポート エレメント上書き]	GP_PYENT_SOVR	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[組織]、[支給元]、[サポート エレメント上書き]	特定の支給元に関連付けられたブラケット、日付、デューレーション、フォーミュラ、または変数エレメントの値を上書きします。

支給元に関連付けられたエレメントの値の上書き

"支給元" の "サポート エレメント上書き" ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[組織]、[支給元]、[サポート エレメント上書き])。

支給元住所(P)

処理詳細(D)

遡及制限(R)

サポート エlement上書き

送金元銀行リンク(B)

支給処理統合(C)

支給元: KOPE1 Pay Entity 1

サポート エlement上書きリスト

加減算 | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

Element日付 値

Elementタイプ*	Element名	名称	開始日	終了日		
デューション	KODRAGECHILD	Age of a child	2009/03/31			

"支給元" の "サポート エlement上書き" ページ

"支給元" の "サポート エlement上書き" ページで支給元上書きを定義するには、次の手順に従います。

1. 上書き指示を入力するサポート エlementのタイプと名前を選択します。
2. 上書きの開始日および終了日を入力します。
3. [値] タブで上書きの値を入力します。

支給グループ上書きの定義

このセクションでは、支給グループ上書きの概要と、支給グループ上書きの定義に使用するページを示します。

支給グループ上書きについて

特定の支給グループの受給者に関連付けられているサポート エlementの値を上書きするには、"支給グループ" の "サポート エlement上書き" ページを使います。このページの処理ルールは、"支給元" の "サポート エlement上書き" ページと似ています。

支給グループ上書きの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
[支給グループ] - [サポート エlement上書き]	GP_PYGRP_SOVR	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[組織]、[支給グループ]、[サポート エlement上書き]	特定の支給グループの受給者に関連付けられたブラケット、日付、デューレーション、フォーミュラ、または変数の各Elementの値を上書きします。

関連項目:

第 18 章、「上書きの設定」、支給元に関連付けられたElementの値の上書き、 665 ページ

受給者上書きの定義

このセクションでは、受給者上書きおよび受給者上書きの処理ルールの概要と、以下の項目について説明します。

- 受給者別の支給および控除の割り当てまたは無効化
- Element別の支給および控除の割り当てまたは無効化
- 受給者のコンポーネント値、ジェネレーション コントロール、周期、延滞、および変数の上書き
- 受給者のサポート Elementの値の上書き

受給者上書きについて

受給者上書きにより、支給または控除Elementを特定の受給者に対してどのように処理するかを制御できます。

受給者上書きの使用目的

受給者上書きを使用すると、以下の作業を行うことができます。

- 受給者の支給または控除エレメントの割り当てまたは無効化
- 受給者に割り当てられた支給または控除エレメントに定義されたコンポーネント値の上書き、または指定済みの周期、ジェネレーション コントロール、回収タイプ、延滞回収金額の上書き
- 受給者に割り当てられた特定の支給/控除によって使用される変数エレメントの上書き
- 変数を使用する**全て**のエレメント (受給者に割り当てられた 1 つの支給または控除だけでなく) の変数の上書き
- 受給者に関連付けられたサポート エレメントの上書き

受給者上書きの方法

以下の 2 とおりの方法で、受給者に割り当てられた特定の支給または控除の上書きを入力できます。

- 受給者別にエレメントを割り当て、無効化、および上書きする方法

この操作を行うには、受給者を選択して支給または控除を割り当てるか、受給者の既存のエレメント割り当ての上書きを入力します。

- エレメント別に受給者上書きを定義する方法

この操作を行うには、エレメントを選択してそれを受給者に割り当てるか、エレメントの既存の割り当ての上書きを入力します。

受給者上書きを使った複数の変換のトリガ

同じ支給または控除に対して割り当て日付が重複する複数の上書きを入力することで、受給者レベルでエレメントの複数の変換をトリガできます。

参照: 第 20 章、「支給または控除の複数変換」、727 ページ。

割り当て済みの支給と控除の終了日のバッチ更新

割り当て済みの支給と控除の終了日のバッチ更新は、"SET ED END DATE" と "UNSET ED END DATE" の 2 つのシステム エレメントによって制御します。終了日をシステムで更新する処理は、次の手順で行われます。

- 支給および控除の各割当につき、[終了日のバッチ更新を許可] チェック ボックスのチェックが行われます。チェック ボックスがオンの場合、関連するシステム エレメントのチェックが行われます。

- SET ED END DATE のシステム エlementがオンの場合
 - [前の終了日] フィールドは、[終了日] フィールドの現在値で更新されます。
 - [終了日] フィールドは、終了日の変更を実行したスライスまたはセグメントの日付で更新されます。
 - [給与計算実行時に更新] フィールドは、終了日の変更を実行したカレンダー グループの ID と名称で更新されます。
- UNSET ED END DATE のシステム エlementがオンの場合
 - [前の終了日] フィールドは、[終了日] フィールドの現在値で更新されます。
 - [終了日] フィールドの現在値は削除されて空白になります。
 - [給与計算実行時に更新] フィールドは、終了日の変更を実行したカレンダー グループの ID と名称で更新されます。

これらのシステム エlementは、現在処理中の支給または控除のコンテキスト内でのみ機能します。なお、"SET ED END DATE" および "UNSET ED END DATE" のシステム エlementをオンにする方法は、PeopleSoft では提供されていません。そのため、これらのシステム エlementをオンにするフォーミュラを作成し、終了日を更新する支給と控除に後処理フォーミュラとして割り当てる必要があります。フォーミュラを独自に定義することで、これらのシステム エlementをオンにする基準を自分で決めることができます。

たとえば、ある受給者がローン金額を完済したため、その受給者に割り当てられているローンの控除を終了する場合を考えます。また、返済の完了を反映するためにローンの控除の終了日を更新するとします。これを実現するには、次のパラメータを持つフォーミュラを作成します。

- 控除の名前: GXDDDED01
- 変数: GXVRED01この値には、ローン金額 (返済する金額) を保存します。
- 変数: GXVRED02一時的な変数で、フォーミュラの処理中に一時的な値を保存するために使用します。
- 累計: GXDDDED01_CUSこのカスタム期間累計には、ローン金額に対するこれまでの支払金額を保存します。

これらのパラメータを使用して、次の要素を持つフォーミュラを作成します。

1. これまでの支払金額と現在の金額の合計がローン金額より少ない場合は終了します。このフォーミュラの要素は、次のように表されます。

```
If (ac) GXDDDED01_CUS + (sy) CURR AMT VAL < (vr) GXVRED01
THEN
EXIT
```

2. これまでの支払金額と現在の金額の合計がローン金額以上の場合、まずは、これまでの支払金額と現在の金額の合計を取得し、ローン金額を減算します。これが、控除する金額を判別するために、現在の金額から減算する金額です。このフォーミュラの要素は、次のように表されます。

```
ELSE
(ac) GXDDDED01_CUS + (sy) CURR AMT VAL
- (vr) GXVRED01 >> (vr) GXVRED02
(sy) CURR AMT VAL - (vr) GXVRED02 >> (sy) OVRD CURR AMT VAL
(sy) OVRD CURR AMT VAL >> (formula name)
1 >> (sy) SET CURR AMT VAL
```

3. 最後に、条件を満たしていたので、終了日の設定を行います。

```
1 >> (sy) SET ED END DATE
```

注意: 終了日の設定およびリセットは、現在の期間に対してのみ行われ、遡及期間に対しては行われません。

警告: 受給者やエレメントの終了日を手動で管理している場合は、終了日をバッチで更新しないことをお勧めします。この機能を使用すると、フォーミュラで使用できない手動で入力した値も上書きされます。

関連項目:

第 18 章、「上書きの設定」、受給者のコンポーネント値、ジェネレーション コントロール、周期、延滞、および変数の上書き、 679 ページ

受給者上書きの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
受給者別エレメント割当	GP_ED_PYE	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[支給と控除の割当]、[受給者別エレメント割当]	受給者別に支給割り当てと控除割り当てを表示および更新したり、支給割り当てまたは控除割り当てを無効にします。


ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
エレメント別受給者割当	GP_ED_ELEM	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[支給と控除の割当]、[エレメント別受給者割当]	エレメント別に支給割り当ておよび控除割り当てを表示、更新したり、支給割り当てまたは控除割り当てを無効にします。
エレメント詳細	GP_ED_PYE_DTL_SEC	<ul style="list-style-type: none"> 受給者別エレメント割当ページで、エレメント名のリンクをクリックします。 エレメント別受給者割当ページで、受給者の ID のリンクをクリックします。 	<p>このページは次の目的に使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 支給および控除を受給者に割り当てます。 支給エレメントまたは控除エレメントに定義されたコンポーネントの値を上書きします。 受給者に割り当てられた支給または控除に関連付けられた変数値を上書きします。 ジェネレーションコントロール、周期、および延滞を上書きします。
サポート エレメント	GP_PAYEE_SOVR	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[受給者レベル上書き]、[サポート エレメント]、[サポート エレメント]	受給者に関連付けられたエレメントの値 (ブラケット、日付、デューレーション、フォーミュラ、変数) を上書きします。

関連項目:

第 25 章、「休暇欠勤の入力と処理」、休暇付与の調整に使用するページ、1004 ページ

受給者別の支給および控除の割り当てまたは無効化

受給者別エレメント割当ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[支給と控除の割当]、[受給者別エレメント割当])。



受給者別エレメント割当

Rebekah Jones ID: K0G001 雇用コード: 0

選択条件

カテゴリ: 入力タイプ: エレメント名: 指定日:

選択条件で検索 クリア

割当 (&A) カスタマイズ | 検索 | 最初 1/1 最後

エレメント名	名称	処理順序	開始日	終了日	アクティブ	インスタンス
LOAN PAYBCK	ローン回収	999	2010/12/21		<input checked="" type="checkbox"/>	1

新規割当を追加 控除受取人

受給者別エレメント割当ページ

このページに最初にアクセスしたとき、受給者に対する全ての既存の割り当てが [割当] グリッドに表示されます。[選択条件] グループ ボックスの各フィールドを使用して、受給者に対して検索される支給および控除のサブセットを選択して表示します。

カテゴリ

表示するエレメントのカテゴリを選択します。支給元の国に一致するカテゴリだけが表示されます。カテゴリが入力されていない場合、エレメントの検索でカテゴリは使用されません。

入力タイプ

入力タイプを選択します。有効なオプションは次のとおりです。

- 控除

割り当てられた控除のみを検索する場合に選択します。

- 支給

割り当てられた支給のみを検索する場合に選択します。

- (空白)

割り当てられた支給と控除の両方を検索する場合に選択します。

エレメント名

エレメント名を入力するか、[エレメント名] フィールドを空白のままにして指定した入力タイプおよびカテゴリに属する全てのエレメントを検索します。

受給者の支給元と一致する国が定義されているエレメントだけか、全ての国に定義されたエレメントが選択できます。また、上書きレベルに "受給者" が指定されているエレメントだけを入力できます。

指定日

指定日を入力するか、このフィールドを空白のままにします。

指定日を入力すると、指定日にアクティブなエレメント割り当てだけが検索されます。アクティブな割り当てには以下のものが含まれます。

- 開始日が指定日以前の日で、**かつ**終了日が指定されていない割り当て
- 開始日が指定日以前の日で、**かつ**終了日が指定日以後の割り当て

日付を入力しないと、指定日に関係なく全てのエレメントが検索されます。

選択条件で検索

指定した検索条件に基づき、受給者に割り当てられている支給または控除を選択する場合にクリックします。

クリア

指定した検索条件を全てクリアする場合にクリックします。

新規割当を追加

新規の支給または控除の割り当てを追加する場合に、[新規割当を追加] ボタンをクリックします。このボタンをクリックすると、[エレメントの選択] ダイアログ ボックスが表示され、割り当てるエレメントのタイプ (支給または控除) および名前を指定する必要があります。次に、[エレメントの選択] ダイアログ ボックスで [OK] をクリックすると、エレメント詳細ページが表示され、新規割り当ての詳細を入力できます。

控除受取人

ページ上部に名前と ID が表示されている受給者の "控除受取人追加" ページにアクセスする場合にクリックします。

"控除受取人追加" ページを使用して、受取人を控除および受給者にリンクします。

参照: 第 34 章、「銀行振込の定義」、1311 ページ。

エレメント

[エレメント] タブにアクセスします。

[エレメント] タブの各フィールドを使用して、エレメントの割り当てを更新または無効にします。

受給者の支給エレメントまたは控除エレメントを更新するには、次の手順に従います。

1. エレメント名のリンクをクリックします。
2. 処理順序を修正します。
3. 終了日を修正します。

支給または控除の割り当てを無効にするには、次の手順に従います。

1. 無効にする割り当てを選択します。
2. その割り当ての [適用] チェック ボックスをオフにするか、手動で終了日を入力します。

注意: エレメントをエレメント グループに割り当てる際は、エレメントが該当のエレメント グループを有資格グループとして持つ各受給者に対して自動的に計算されるのか、それとも受給者に割り当てられたときのみ計算されるかどうかを指示します。

次に、受給者に対してポジティブ入力が存在する場合にのみエレメントを変換するのか、それとも受給者別エレメント割当ページ、エレメント別受給者割当ページ、または付与/取得割当ページで受給者にエレメントを割り当てた場合にのみ変換するのかを指定します。

処理順序

割り当てられたエレメントの処理順序を更新します。

このフィールドのデフォルト値は 999 です。1 が最小値で、そのエレメントが最初に処理されることを示します。

注意: このフィールドは、**同じエレメント**の各割り当てが処理される順序を制御します。たとえば、**控除 A** を同じまたは重複する開始日と終了日を使用して複数回割り当てる場合は、[処理順序] フィールドで割り当てのインスタンスが処理される順序を 1 番目、2 番目、3 番目などと指定します。このフィールドを使用して、エレメント間の相対的な処理順序を制御することはできません。相対的な処理順序を管理するには、プロセス リストとセクションを使用してエレメントの処理順序を定義する必要があります。

参照: 第 20 章、「支給または控除の複数変換」、727 ページ。

開始日

このフィールドには、エレメント割り当ての開始日が表示されます。この日付を修正するには、エレメント名のリンクをクリックしてエレメント詳細ページにアクセスし、そのページの [開始日] フィールドの日付を変更します。

終了日

このフィールドには、エレメント割り当ての終了日が表示されます。この日付は、[エレメント] タブの [終了日] フィールドで直接修正できます。

アクティブ

デフォルトではこのチェック ボックスはオンになっています。この受給者に対してエレメントの変換を行わない場合は、チェック ボックスをオフにします。

インスタンス

割り当てられた各エレメントにはインスタンス番号が自動的に割り当てられます。

同じ支給または控除に対して新規行が追加されると、このフィールドの値が 1 増加します。

注意: この番号を使用して、同じエレメントに複数の割り当てが存在する際でもエレメントの固有のインスタンスが作成されます。同一または重複する開始日と終了日を使用したエレメントの複数の変換が可能です。

参照: 第 20 章、「支給または控除の複数変換」、エレメント割当を使用した複数変換、731 ページ。

注意: 標準のエレメント割り当てインターフェイスを置き換えるコンポーネントを定義する場合は、ユーザーに割り当ての削除、割り当ての適用、および割り当ての開始日と終了日の更新を行う機能を付与するか拒否できます。ここに表示されている標準のコンポーネントでは、ユーザーがこのようなアクションを実行することを制限できません。

参照: [第 9 章、「エレメント上書きの設定」、333 ページ。](#)

受取人

[受取人] タブをクリックします。

受取人タグ

[受取人タグ] フィールドを使用して、支給または控除割り当ての受取人タグを更新または修正します。

注意: 受取人タグは、複数変換で使われます。同じエレメントの異なる割り当てをそれぞれ固有の受取人タグに関連付け、各タグを異なる受取人 ID または受取人名に関連付けることができます。割り当てられたエレメントの変換ごとに異なる受取人に関連付けることができます。

注意: "控除受取人追加" ページで、控除および受給者に対する受取人タグを定義します。

参照: [第 34 章、「銀行振込の定義」、控除と受給者に対する受取人の割り当て、1330 ページ。](#)

関連項目:

[第 18 章、「上書きの設定」、上書きに対する開始日および終了日のロジック、660 ページ](#)

[第 14 章、「組織構造の定義」、エレメント グループの定義、522 ページ](#)

[第 20 章、「支給または控除の複数変換」、727 ページ](#)

エレメント別の支給および控除の割り当てまたは無効化

エレメント別受給者割当ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[支給と控除の割当]、[エレメント別受給者割当])。

エレメント別受給者割当

エレメント名: LOAN Company Loan

選択条件

国: アメリカ

指定日: 日

支給元:

支給グループ:

選択条件で検索

クリア

割当 (&A)

カスサイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-2/36 最後

割当 (A) | 受取人 (B) | 支給グループ (C)

従業員 ID	レポート	名前	処理順序	開始日	終了日	アクティブ	インスタンス
G1EE0027		0 Edward O'Hare	999	2008/11/24		<input checked="" type="checkbox"/>	1
G1EE0031		0 Annie Padoni	999	2008/12/01		<input checked="" type="checkbox"/>	1

新規割当を追加

エレメント別受給者割当ページ

注意: このページは、受給者別エレメント割当ページと似ています。以下で説明しているページ エレメントを除き、受給者別エレメント割当ページに関する情報はこのページにも適用されます。

参照: 第 18 章、「上書きの設定」、受給者別の支給および控除の割り当てまたは無効化、672 ページ。

[選択条件] グループ ボックスの各フィールドを使用して、ページ上部に表示された支給または控除が割り当てられた受給者を検索するための検索条件を指定します。

国

このフィールドは、エレメントが全ての国を対象に定義されていない限り、データ入力に使用できません。エレメントが全ての国に適用される場合、このフィールドは空白になり、特定の国を入力できます。

指定日

指定日を入力するか、このフィールドを空白のままにします。

指定日を入力した場合、[選択条件で検索] ボタンをクリックすると、指定日にエレメント割り当てがアクティブな受給者が表示されます。

注意: アクティブな割り当ては、受給者別にエレメントの検索を行うときと同じ方法で定義します。

参照: 第 18 章、「上書きの設定」、受給者別の支給および控除の割り当てまたは無効化、672 ページ。

日付を入力しない場合、検索中に検索された支給と控除がこれまでに割り当てられた全ての受給者が表示されます。

支給元

検索するエレメントが割り当てられている従業員の支給元を指定します。

支給グループ

検索するエレメントが割り当てられている従業員の支給グループを指定します。

新規割当を追加

新規の支給または控除の割り当てを追加する場合にクリックします。

このボタンをクリックすると、[受給者の選択] ダイアログ ボックスが表示され、エレメントを割り当てる受給者の従業員 ID と雇用レコード番号、および割り当て開始日を指定する必要があります。次に、[受給者の選択] ダイアログ ボックスで [OK] をクリックすると、エレメント詳細ページが表示され、新規割り当ての詳細を入力できます。

配属データ

[割当] タブをクリックします。

[割当] タブの [アクティブ] フィールドを使用して、エレメントの割り当てを有効または無効にします。

受取人

[受取人] タブをクリックします。

このタブは、控除受取人に関連付けられているエレメントに対して表示されます。

受取人タグ

[受取人タグ] フィールドを使用して、支給または控除割り当ての受取人タグを指定または修正します。

注意: 受取人タグは、複数変換で使用します。同じエレメントの異なる割り当てをそれぞれ固有の受取人タグに関連付け、各タグを異なる受取人 ID または受取人名に関連付けることができるため、割り当てられたエレメントの変換ごとに異なる受取人に関連付けることができます。

注意: "控除受取人追加" ページで、控除および受給者に対する受取人タグを定義します。

参照: [第 34 章、「銀行振込の定義」、控除と受給者に対する受取人の割り当て、1330 ページ。](#)

受取人の編集

[従業員 ID] 列に表示された ID を持つ受給者の "控除受取人追加" ページにアクセスする場合にクリックします。

"控除受取人追加" ページを使用して、受取人を控除および受給者にリンクします。

参照: [第 34 章、「銀行振込の定義」、1311 ページ。](#)

参照: [第 34 章、「銀行振込の定義」、1311 ページ。](#)

支給グループ

[支給グループ] タブを選択します。

[受給者詳細] タブの各フィールドを使用して、従業員の支給元や支給グループの情報を表示します。

受給者のコンポーネント値、ジェネレーション コントロール、周期、延滞、および変数の上書き

エレメント詳細ページにアクセスします (受給者別エレメント割当ページでエレメント名のリンクをクリックするか、エレメント別受給者割当ページで受給者の ID のリンクをクリックします)。

エレメント詳細

従業員 ID: KOG001 雇用コード: 0 名前: Rebekah Jones

エレメント名: LOAN PY PI 給与計算でのローン支払 (手動) インスタンス: 1

割当処理詳細

☒ 割当のアクティブ化 通貨コード: USD アロカトル

*処理順序: 999

*開始日: 2010/12/13 終了日: 前の終了日:

☐ 終了日のバッチ更新を許可 給与計算実行時に更新

計算情報

計算ルール: 金額

金額タイプ:

金額エレメント:

金額値:

サポート エレメント上書き(&E)

加減算 | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

変数名	名称	文字値	数値	日付値
<input type="text"/>		<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

エレメント詳細ページ (1/2)

追加の上書き

*周期オプション: エレメントの周期を使用

周期:

*ジェネレーション オプション: エレメント ジェネレーション コントロールを使用

ジェネレーション コントロール:

エレメント詳細ページ (1/2)

注意: エレメント詳細ページの外観は、エレメント別設定コンポーネントおよびカテゴリ別設定コンポーネントを使用して変更できます。またはユーザーが設定可能なコンポーネントを指定してこのページを置き換えることができます。選択するオプションによっては、実際のページの表示がここに示した標準のページとは異なる場合があります。

参照: 第 9 章、「エレメント上書きの設定」、333 ページ。

割当処理詳細

エレメント名

割り当てているエレメントまたは上書きを入力しているエレメントの名前が表示されます。

割当のアクティブ化

エレメント割り当てをアクティブまたは非アクティブにするには、このチェック ボックスをオンまたはオフにします。

開始日、終了日	エレメント割り当ての開始日と終了日を指定します。
終了日のバッチ更新を許可	<p>給与計算処理中に、このエレメント割当の [終了日] フィールドに対して、システムによる更新を許可にする場合はオンにします。</p> <p>参照: 第 18 章、「上書きの設定」、割り当て済みの支給と控除の終了日のバッチ更新、 668 ページ。</p>
前の終了日	<p>最後の更新前の終了日の値が表示されます。</p> <hr/> <p>注意: 給与計算処理で行われた終了日の変更のみ、このフィールドの値に影響します。エレメント詳細ページで手動で終了日を変更しても、[前の終了日] フィールドに表示される値には影響しません。</p> <hr/>
給与計算実行時に更新	<p>最後に終了日の変更を実行したカレンダー グループの ID と名称が表示されます。これは、遡及処理の場合も同様です。たとえば、6 月のカレンダー グループの処理によって、遡及処理がトリガされ、その結果、2 月のカレンダー グループに関連付けられている終了日に変更された場合、[給与計算実行時に更新] フィールドには、6 月のカレンダー グループの情報が表示されます。</p>
処理順序	<p>割り当てられたエレメントの処理順序を指定します。</p> <p>このフィールドのデフォルト値は 999 です。1 が最小値で、そのエレメントが最初に処理されることを示します。</p> <hr/> <p>注意: このフィールドは、同じエレメントの各割り当てが処理される順序を制御します。たとえば、控除 A を同じまたは重複する開始日と終了日を使用して複数回割り当てる場合は、[処理順序] フィールドで割り当てのインスタンスが処理される順序を 1 番目、2 番目、3 番目などと指定します。このフィールドを使用して、エレメント間の相対的な処理順序を制御することはできません。相対的な処理順序を管理するには、プロセス リストとセクションを使用してエレメントの処理順序を定義する必要があります。</p> <hr/> <p>参照: 第 20 章、「支給または控除の複数変換」、 727 ページ。</p>

受取人タグ

[受取人タグ] フィールドを使用して、支給または控除割り当ての受取人タグを指定または修正します。

注意: 受取人タグは、複数変換で使用します。同じエレメントの異なる割り当てをそれぞれ固有の受取人タグに関連付け、各タグを異なる受取人 ID または受取人名に関連付けることができるため、割り当てられたエレメントの変換ごとに異なる受取人に関連付けることができます。

注意: "控除受取人追加" ページで、控除および受給者に対する受取人タグを定義します。

参照: 第 34 章、「銀行振込の定義」、控除と受給者に対する受取人の割り当て、1330 ページ。

通貨コード

割り当てられたエレメントの計算に使用する通貨を指定します。

計算情報

このグループ ボックスの各フィールドを使用して、支給エレメントまたは控除エレメントの計算ルールを構成するコンポーネントの値 (**ユニット、レート、ベース、パーセント、および金額**) を割り当てたり上書きすることができます。

たとえば、エレメントの計算ルールが**ユニット×レート**である場合、ユニットとレートの値は入力できますが、ベースとパーセントの値は入力できません。

どの計算ルールを使用している場合でも、金額を入力することは可能です。コンポーネントの値と一緒に金額を入力する場合は、その金額を使ってエレメントが変換されます。たとえば、ユニット×レートの計算ルールを持つ支給エレメントで金額を入力すると、その金額が計算で使用されます。ユニットおよびレートを入力しても、結果テーブルにユニットおよびレートの値が入力されるだけで、エレメントの変換にこれらの値は使用されません。

ユニット、レート、ベース、パーセント、または金額の各コンポーネントの値を上書きするには、上書きの値を返すエレメント タイプを選択します。数値エレメントの場合は、[値] フィールドで適切な数字を入力し、ほかのエレメント タイプの場合は、エレメント フィールドで上書きの値を取得するエレメントの名前を入力します。

サポート エレメント上書き

[サポート エレメント上書き] グループ ボックスの各フィールドを使用して、支給または控除の計算で使用される変数の値を上書きします。

支給または控除の計算で使用される変数の値を上書きするとき、上書き値は特定の受給者に対する支給または控除の変換にだけ影響します。支給または控除が変換された後、変数はその前の値に設定されます。これらの上書きは、受給者/エレメント上書きとも呼びます。

サポート エレメント上書きでは、親のエレメントと同じ開始日と終了日を使用します。通貨の入力タイプを使って値を入力することはできません。

重要: 変数を使う**全ての**エレメント (変数を使う支給または控除だけでなく) に対して変数エレメントを上書きするには、"受給者のサポート エレメント上書き" ページを使用します。

注意: 標準の [サポート エレメント上書き] グループ ボックスは、上書き変数、必須フィールド、およびプロンプト テーブル、トランスレート値、およびオン/オフ編集などの簡単な編集についての説明ラベルを含むように設定できます。あるエレメントまたはエレメントのカテゴリに対してこのグループ ボックスを設定するには、エレメント別設定コンポーネントおよびカテゴリ別設定コンポーネントを使用します。変更したグループ ボックスで標準のグループ ボックスを置き換えます。

参照: 第 9 章、「エレメント上書きの設定」、333 ページ。

例: 2 つの上書き方法による変数の変化

E1 と E2 は、金額 = V1 の固定額として設定されています。

V1 = 100 (エレメント定義の値)

"受給者のサポート エレメント上書き" ページで、V1 = 200 と上書き指定されている場合、E1 および E2 は 200 に変換されます。

"受給者別エレメント割当" ページまたは "エレメント別受給者割当" ページで、E1 に対して V1 = 200 の上書きが指定されている場合、E1 が 200 に変換された後、V1 は 100 にリセットされ、E2 は 100 に変換されます。

例: 裁判所命令に対する変数値の入力

受給者が裁判所命令を受けていると、受給者の可処分所得の定義が必要な場合があります。簡略化した例を使うと、判事により、E1 および E2 が可処分所得の対象として指定されており、E2 は 50% だけが計算に含まれるとします。E1 が 1000 で E2 が 500 である場合、可処分所得は 1250 (内訳 $1000 + 1/2 \times 500$) になります。

"累計" のメンバー ページで可処分所得の累計を定義する際に、エレメント (E1 と E2) およびパーセントを指定します。このページで、特定のパーセント (100 および 50) を指定することもできますが、この累計を受給者固有のものに設定せずに、たとえば次に E2 に 75% のパーセント値を持つ受給者が生じたときにも再利用できるように、デフォルトが 100 (パーセント) の 2 つの変数を作成します。累計では、パーセントではなく変数名を入力します。

受給者の変数値を入力するには、受給者別エレメント割当ページで差し押さえ控除エレメントを選択し、エレメント詳細ページにアクセスし、変数値 (この例では E2 に 50%) を入力します。

参照: 第 10 章、「累計の設定」、累計に含まれるエレメントのリストの定義、379 ページ。

例: 差し押さえを計算する変数上書きの使い方

以下の支給エレメントとメンバーで、差し押さえ GARNAC1 の累計があるとします。

エレメント	パーセント	累計率
EARNING1	VARIABLE1	空欄のまま
EARNING2	VARIABLE2	空欄のまま
EARNING3	VARIABLE3	空欄のまま

変数は、以下のように設定されています。

変数	デフォルト値
VARIABLE1	100
VARIABLE2	100
VARIABLE3	100

受給者 8001 には、同じ計算ルールを使う 2 つの差し押さえがあるとします。

GARNISH1 = パーセント × ベース

GARNISH2 = パーセント × ベース

ここでは、以下のようになっています。

パーセント = 受給者レベル上書き

ベース = GARNAC1

エレメント詳細ページで以下のように設定します。

エレメント	パーセント	受給者のサポート エレメント上書き	エレメント	受給者レベル上書き 値
GARNISH1	10	オン	VARIABLE1	75
GARNISH1	10	オン	VARIABLE2	50
GARNISH2	10	オン	VARIABLE1	60

- EARNING1 = 1000
- EARNING2 = 500
- EARNING3 = 750

GARNISH1 の計算では、システムにより GARNAC1 が検出されると、パーセントが変数かどうかを確認されます。サポート エレメント上書きが検索され、受給者 8001 の VARIABLE1 と VARIABLE2 の上書き値が検出されると、GARNAC1 の値は次のように計算されます。

$$[(1000 \times 75\%) + (500 \times 50\%) + (750 \times 100\%)] = 1750$$

GARNAC1 は次のように計算されます。

$$(EARNING1 \times VARIABLE1 + EARNING2 \times VARIABLE2 + EARNING3 \times VARIABLE3)$$

また、GARNISH1 の GARNAC1 に対する計算ルールは、以下のとおりです。

1000 × 75% (VARIABLE1 の受給者レベル上書き値 75 を使用)

500 × 50% (VARIABLE2 の受給者レベル上書き値 50 を使用)

750 × 100% (VARIABLE3 は、受給者レベル上書き値がなかったのでデフォルト値 100 を使用)

GARNISH2 の計算では、VARIABLE1 のサポート エレメント上書きのみが検出され、GARNAC1 の値は次のように計算されます。

$$[(1000 \times 60\%) + (500 \times 100\%) + (750 \times 100\%)] = 1850$$

次に、この GARNAC1 の計算式を示します。

$(\text{EARNING1} \times \text{VARIABLE1} + \text{EARNING2} \times \text{VARIABLE2} + \text{EARNING3} \times \text{VARIABLE3})$

GARNISH2 の GARNAC1 の実際の計算は次のとおりです。

$1000 \times 60\%$ (VARIABLE1 の受給者レベル上書き値 60 を使用)

$500 \times 100\%$ (VARIABLE2 は、受給者レベル上書き値がなかったのでデフォルト値 100 を使用)

$750 \times 100\%$ (VARIABLE3 は、受給者レベル上書き値がなかったのでデフォルト値 100 を使用)

追加の上書き

このグループ ボックスの各フィールドを使用して周期、ジェネレーション コントロール、および延滞を上書きします。

周期オプション

エレメント名共通ページで定義した周期を上書きします。オプションは、以下のとおりです。

[カレンダー期間の周期を使用]: エレメントの周期は、定義したカレンダー期間の周期になります。

[エレメントの周期を使用]: エレメントを設定したときに定義した周期が使用されますが、カレンダー期間を使うこともできます。

[指定の周期を使用]: [周期] フィールドに特定の周期値を入力します。

ジェネレーション コントロール

エレメント名共通ページで定義したジェネレーション コントロールの条件を上書きします。エレメント レベルでジェネレーション コントロールの詳細を指定せずにここで指示を入力できます。オプションは、以下のとおりです。

[ジェネレーション コントロールを使用しない]: 計算ルール レベルで定義したジェネレーション コントロールは無視されます。

[ジェネレーション コントロールを指定]: [ジェネレーション コントロール] フィールドにジェネレーション コントロール値を入力します。

[エレメント ジェネレーション コントロールを使用]: エレメントを設定したときに定義したジェネレーション コントロールが使用されます。

回収オプション

延滞回収を上書きします。エレメントが控除で、延滞ページで [控除延滞を認める] チェック ボックスがオンの場合にのみ使用できます。オプションは、以下のとおりです。

[エレメント回収額を使用]: 控除エレメントの設定中に定義した回収額が使用されます。延滞ページで [純支給額の確認を実行する] チェック ボックスがオンにされていない控除には使用できません。

[指定額を使用]: 延滞回収金額を指定する場合に選択します。[指定額を使用] を選択した場合は、[回収タイプ] フィールドにエレメント タイプを指定する必要があります。回収タイプを指定したら、[回収エレメント] フィールドでエレメント名を選択するか、または [回収額] フィールドで数値を入力します (どちらを選択するかはエレメントタイプによって異なる)。

[制限なし]: 回収金額に制限を指定しない場合に選択します。

注意: [回収額] フィールドの通貨は、エレメント定義の通貨と一致すると見なされます。

注意: [回収オプション] フィールドは、選択されたエレメントが、控除コンポーネント (GP_DEDUCTION) の延滞ページで [控除延滞を認める] が選択された控除である場合にのみ表示されます。

回収タイプ

延滞回収金額を上書きするには、上書き金額を取得するエレメントのタイプを選択します。オプションは、[ブラケット]、[フォーミュラ]、[数値]、および[変数] です。[回収エレメント] フィールドでエレメント名を選択するか、[回収額] フィールドに数値を入力します。

注意: エレメント詳細ページの外観は、エレメント別設定コンポーネントおよびカテゴリ別設定コンポーネントを使用して変更できます。またはユーザーが設定可能なコンポーネントを指定してこのページを置き換えることができます。選択するオプションによっては、実際のページの表示がここに示した標準のページとは異なる場合があります。

参照: 第 9 章、「エレメント上書きの設定」、333 ページ。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、周期およびジェネレーション コントロールによる計算、 272 ページ

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、純支給額の確認と延滞処理について、 307 ページ

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、延滞と遡及処理について、 315 ページ

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、回収処理について、 318 ページ

受給者のサポート エレメントの値の上書き

サポート エレメント ページを使用して、受給者に関連付けられた値 ([ブラケット]、[日付]、[デュレーション]、[フォーミュラ]、[変数]) を上書きします。受給者のエレメントが変換されるたびに、選択した上書きの値が使用されます。

サポート エレメント ページは、"支給元" の "サポート エレメント上書き" ページと似ていますが処理ルールが異なります。

関連項目:

第 18 章、「上書きの設定」、支給元上書きの定義、 664 ページ

受給者上書きの処理

受給者の上書きについては、セグメント終了日 (または、分割がない場合は期間終了日) が参照され、受給者にサポート エレメント上書きが使用されるかどうかが決まります。上書きが処理されるには、終了日がセグメント終了日と同じか、それより後の日付である必要があります。支給元および支給グループとは異なり、定義の指定日は参照されません。

例: 分割と受給者のサポート エレメント上書き

2 人の受給者には、同じ上書きがあります。

- 受給者 1 には分割がありません。

- 受給者 2 には分割があります。セグメント 1 は 1 月 1 日～ 15 日です。セグメント 2 は 1 月 16 日～ 31 日です。
- 支給期間は 1 月 1 日～ 31 日です。
- VR1 は変数エレメントであり、50 として定義されています。
- VR1 には、1 月 16 日から始まる受給者レベル上書き 100 があります。

受給者 1 では、VR1 の値は、分割がないので常に 100 です。

受給者 2 では、VR1 の値はセグメント 1 については 50 であり、セグメント 2 については 100 です。

関連項目:

第 18 章、「上書きの設定」、受給者上書きと分割、 660 ページ

支給カレンダー上書きの定義

給与計算処理または休暇欠勤処理のカレンダーを定義する際は、上書きについて 2 種類の指示を入力することができます。こうしたページでは次のことが可能です。

- 支給、控除、または休暇欠勤エレメントを指定して、全ての受給者に対する処理から除外できます。

"カレンダー" の除外エレメント ページでこれらの指示を入力できます。

- カレンダーの "サポート エレメント上書き" ページで、ブラケット、日付、デューレーション、フォーミュラ、および変数の各エレメントの値を上書きできます。

この場合、上書きはカレンダー期間に適用されると見なされ、開始および終了日は使用されません。

関連項目:

第 16 章、「カレンダーの使い方」、エレメントのカレンダーからの除外、 600 ページ

第 16 章、「カレンダーの使い方」、カレンダーのサポート エレメントの上書き、 599 ページ

第 16 章、「カレンダーの使い方」、受給者のカレンダー上書き指示の入力、 610 ページ

エレメント使用上書きの定義

エレメント使用による更新機能は、別のエレメントによってどのエレメントを更新するのかを管理するために使用します。このアプリケーションの以下の 4 つのコンポーネントでは、エレメントを別のエレメントによって更新できます。

- アレイ ("アレイ" のフィールド マップ/キー ページにある [取得フィールドと変数エレメントのマッピング] のフィールドを使用)
- ブラケット ("ブラケット" の "検索キー/戻り列" ページにある [戻り列] のフィールドを使用)
- 日付 ("日付" の抽出ページにある [定義] の日付に関するフィールドを使用)
- フォーミュラ ("フォーミュラ" のフィールド ベース定義ページの割り当て先エレメントを指定するフィールドを使用)

別のエレメントを使用して更新されるエレメントの値を上書きする方法は 2 つあります。ポジティブ入力を使って更新するか、支給/控除割当ページからアクセスできるサポート エレメントの上書きページで上書きを入力する方法です。

エレメント定義上書きの定義

このセクションでは、エレメント定義上書きの概要と、エレメント定義上書きの定義に使用するページを示します。

エレメント定義上書きについて

エレメント上書きを使って、主要エレメントに関連付けられた特定のサポート エレメントを上書きすることができます。サポート エレメントは、主要エレメントの定義の一部です。

主要エレメントに関連付けられたエレメントの定義を上書きするには、エレメント定義の "サポート エレメント上書き" ページを使います。このページは、"支給元" の "サポート エレメント上書き" ページと似ています。

主要エレメントの上書きに対する処理ルールは、支給元の上書きに対する処理ルールと同じですが、エレメントの上書きはバッチ処理の支給、控除、休暇欠勤モジュールで変換されます。したがって、上書きされたサポート エレメントは、変換された後、その前の値に戻ります。

エレメント定義上書きの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
支給 - サポート エレメント上書き	GP_ELM_DFN_SOVR	<ul style="list-style-type: none"> [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[支給]、[サポート エレメント上書き] 控除コンポーネント、休暇取得コンポーネント、または休暇付与コンポーネントからもそれぞれのエレメントの "サポート エレメント上書き" ページにアクセスできます。 	支給、控除、休暇取得、または休暇付与エレメントに関連付けられたブラケット、日付、デュレーション、フォーミュラ、変数エレメントの定義を上書きします。

関連項目:

第 18 章、「上書きの設定」、支給元上書きの定義、 664 ページ

ポジティブ入力を使った上書きの定義

ポジティブ入力コンポーネントでポジティブ入力を行い、支給、控除、または休暇欠勤エレメントを上書きすることができます。ポジティブ入力を使って、特定の 1 つの支給期間の受給者関連データを入力します。たとえば、ある支給期間の一時賞与や勤務時間を入力するのにポジティブ入力を使うことができます。

また、ポジティブ入力コンポーネントの詳細ページからアクセスする [サポート エレメント上書き] グリッドでも、ポジティブ入力のインスタンスに関連付けられたシステム エレメントや変数エレメントを上書きすることができます。ここで使用するエレメント値は、数値、文字、または日付のみで、金額は使用できません。

上書きは、ポジティブ入力したインスタンス 1 つだけに適用されます。インスタンスが変換された後は、そのサポート エlement は元の値に戻されます。

ポジティブ入力と上書きの処理ルール

ポジティブ入力レコードには開始日と終了日がありますが、これらの日付はポジティブ入力連番 (インスタンス番号) をセグメントまたはスライスに割り当てる方法としてのみ使用されます。サポート エlement に割り当てられる値は、その連番のインスタンスでのみ使用されます。使用した後は、ポジティブ入力の前に割り当てられた値に戻ります。

関連項目:

第 17 章、「[ポジティブ入力の使い方](#)」、615 ページ

第 18 章、「[上書きの設定](#)」、[支給元上書きの定義](#)、664 ページ

Element 割り当て上書き、ポジティブ入力、および Element 定義の間の競合の管理

このセクションでは、同じ支給または控除に対して Element 割り当てとポジティブ入力競合する場合の管理方法について説明します。

競合する Element 割り当てとポジティブ入力を処理するルール

グローバル ペイロールでは、1 つの支給期間スライスまたはセグメント内で、同じ Element について複数の Element 割り当ておよびポジティブ入力の行を入力することができます。これらの上書きに含まれる指示間の競合を管理するために、支給および控除の割り当てとそれらに対応するポジティブ入力と同じスライスまたはセグメント内で **マッチング** され、このセクションで説明する処理ルールに基づいて、変換する Element および採用する指示が決定されます。

注意: Element 割り当てとポジティブ入力と同じ Element について、同じ支給期間スライスまたはセグメントで発生する場合、Element 割り当てとポジティブ入力は **一致している** と見なされます。

競合する Element 割り当てとポジティブ入力を処理する際に、以下のルールが適用されます。

ルール番号	説明
ルール 1: 1 つの割り当て対 1 つまたは複数のポジティブ入力 "上書き" 行	各スライスまたはセグメント内で、アクション タイプが "上書き" のエレメントに対する 1 つまたは複数のポジティブ入力行、およびそれと一致する 単一 のエレメント割り当てが存在する場合、エレメント割り当てではなくポジティブ入力に変換されます。ポジティブ入力行に計算ルールの全てのコンポーネントの値が指定されていない場合、エレメント割り当てからこの未指定のコンポーネントの値が検索されます。そこで見つからない場合は、エレメントのルール定義から検索されます。
ルール 2: 多数の割り当て対 1 つまたは複数のポジティブ入力 "上書き" 行	各スライスまたはセグメント内で、同じエレメントに複数のエレメント割り当てが存在し、それと一致する "上書き" 行がポジティブ入力に最低でも 1 つ存在する場合、全てのエレメント割り当てが無視され、ポジティブ入力上書きだけが変換されます。 ポジティブ入力の "上書き" 行に計算ルールの全てのコンポーネントの値が指定されていない場合、未指定のコンポーネント値についてはエレメント定義が検索されます。 注意: 金額がポジティブ入力に入力されている場合、この金額によってエレメントのルール定義の個々のコンポーネント値が上書きされます。
ルール 3: 1 つの割り当て対 1 つまたは複数のポジティブ入力 "追加" 行	各スライスまたはセグメント内で、アクション タイプが "追加" のエレメントに対する 1 つまたは複数のポジティブ入力行、およびそれと一致する 単一 のエレメント割り当てが存在する場合、ポジティブ入力の各行が変換され、エレメント割り当ても変換されます。ポジティブ入力行に計算ルールの全てのコンポーネントの値が指定されていない場合、エレメント割り当てからコンポーネントの値が検索されます。そこで見つからない場合は、エレメントのルール定義から検索されます。

ルール番号	説明
ルール 4: 多数の割り当て対 1 つまたは複数のポジティブ入力 "追加" 行	<p>各スライスまたはセグメント内で、同じエレメントに複数の割り当てが存在し、それと一致するアクション タイプが "追加" のポジティブ入力行が 1 つまたは複数存在する場合、以下ようになります。</p> <ul style="list-style-type: none">エレメント割り当て行を考慮せず、"追加" の各ポジティブ入力行が変換されます。 <p>ポジティブ入力行にエレメントの計算ルールの全てのコンポーネントの値が指定されていない場合、未指定のコンポーネント値についてはエレメント定義が検索されます。</p> <ul style="list-style-type: none">ポジティブ入力を考慮せず、各エレメント割り当て行が処理されます。 <p>エレメント割り当て上書きにエレメントの計算ルールの全てのコンポーネントの値が指定されていない場合、未指定のコンポーネント値についてはエレメント定義が検索されます。</p> <p>注意: 金額がポジティブ入力レベルまたはエレメント割り当てレベルで入力された場合、それらの金額が処理され、個々のコンポーネント値は無視されます。</p>
ルール 5: 1 つまたは複数の割り当て対ポジティブ入力の "ゼロにする" 行	<p>同じエレメントに 1 つまたは複数の割り当てが存在し、それと一致するアクション タイプが "ゼロにする" の行がポジティブ入力に存在する場合、"ゼロにする" 行だけが処理されます。全てのエレメント割り当て入力は無視されます。</p> <p>注意: ポジティブ入力の "ゼロにする" インスタンスは、同じセグメントまたはスライス内で割り当てられたエレメントだけでなく、他のスライスまたはセグメントの同じエレメントの全ての割り当てに適用されます。</p>

ルール番号	説明
ルール 6: ポジティブ入力の "上書き" および "ゼロにする" 行と関連したエレメント割り当て	<p>エレメント割り当てが存在し、それと一致する "上書き" 行と "ゼロにする" 行の両方がポジティブ入力に存在する場合、"上書き" 行と "ゼロにする" 行は変換されますがエレメント割り当ては変換されません。ポジティブ入力の "上書き" 行に計算ルールの全てのコンポーネントの値が指定されていない場合、エレメント割り当てからこの未指定のコンポーネントの値が検索されます。そこで見つからない場合は、エレメントのルール定義から検索されます。</p> <p>注意: ポジティブ入力の "ゼロにする" インスタンスは、同じセグメントまたはスライス内で割り当てられたエレメントだけでなく、他のスライスまたはセグメントの同じエレメントの全ての割り当てに適用されます。</p> <p>注意: "ゼロにする" アクションはインスタンスごとに変換されます。</p>
ルール 7: ポジティブ入力の "追加" および "ゼロにする" 行と関連したエレメント割り当て	<p>エレメント割り当てが存在し、それと一致する "追加" 行と "ゼロにする" 行の両方がポジティブ入力に存在する場合、"追加" 行と "ゼロにする" 行は変換されますがエレメント割り当ては変換されません。ポジティブ入力の "追加" 行に計算ルールの全てのコンポーネントの値が指定されていない場合、エレメント割り当てからこの未指定のコンポーネントの値が検索されます。そこで見つからない場合は、エレメントのルール定義から検索されます。</p> <p>注意: ポジティブ入力の "ゼロにする" インスタンスは、同じセグメントまたはスライス内で割り当てられたエレメントだけでなく、他のスライスまたはセグメントの同じエレメントの全ての割り当てに適用されます。</p> <p>注意: "ゼロにする" アクションはインスタンスごとに変換されます。</p>

ルール番号	説明
ルール 8: ポジティブ入力の "処理しない" 行と関連したエレメント割り当て	各スライスまたはセグメント内で、エレメント割り当てが存在し、それと一致する "処理しない" 行がポジティブ入力に存在する場合、エレメント割り当ては変換されません。同じスライスまたはセグメントに他の種類 ("ゼロにする" 、 "上書き" 、または "追加") のポジティブ入力があっても、 "処理しない" の指示があれば、エレメントは変換されません。
ルール 9: 1 つのエレメント割り当てで [適用] チェック ボックスがオフ	各スライスまたはセグメント内で、あるエレメント割り当ての [適用] チェック ボックスがオフになっている場合、 "処理しない" アクションを意味し、支給/控除は変換されません。また、それと一致するアクション タイプが "追加" または "上書き" のポジティブ入力が存在する場合、ポジティブ入力は変換されますが、エレメント割り当てに "処理しない" アクションがあるため、ルール定義は変換されません。 注意: "処理しない" の指示があるため、上記のルール 1 およびルール 3 のように、ポジティブ入力で指定されていないコンポーネント値をエレメント割り当てから検索することはできません。指定されていない値は、エレメントのルール定義から直接検索されます。
ルール 10: 多数のエレメント割り当ての 1 つで [適用] チェック ボックスがオフ	各スライスまたはセグメント内で、同じエレメントに複数の割り当てが存在し、あるインスタンスの [適用] チェック ボックスがオフになっていると、その他全てのインスタンスの [適用] チェック ボックスはオンであってもインスタンスは一切処理されません。言い換えると、[適用] がオフとなる対象はエレメントまたはスライス レベルで、他の行のアクションは無効になります。

重要: エレメント割り当てはポジティブ入力と同じスライスまたはセグメント内でのみ競合が起こるため、ここで説明するルールは、**スライスまたはセグメント単位**で適用されることに注意してください。エレメントの分割またはスライスがない場合、スライスまたはセグメントの開始日と終了日は期間全体の開始日および終了日と同じであると考えることができ、エレメント割り当てとポジティブ入力は全期間にわたって競合します。ただし、このルールには例外があります。ポジティブ入力の "ゼロにする" 行は、他のセグメントまたはスライス内の同じエレメントの割り当てを全てキャンセルします。つまり、**"ゼロにする"** 行は、それが発生するセグメントまたはスライスに限定されません。

以下の例は、受給者レベル上書きがどのように処理されるかを示し、分割またはスライスされた期間と分割されていない期間においてエレメント割り当てとポジティブ入力がどのように競合するかを説明しています。

これらの例は、レート×ユニット×パーセントの計算ルールを持つ支給エレメント E1 に基づいています。

注意: これらの例では、割り当てられた支給または控除に関連付けられたユーザー フィールド値はないと仮定しています。ユーザー フィールド値がある場合のルールの変更については、複数変換の章を参照してください。

参照: 第 20 章、「支給または控除の複数変換」、727 ページ。

例: ルール 1 (1 つの割り当て対 1 つまたは複数のポジティブ入力 "上書き" 行)

以下のエレメント割り当てとポジティブ入力が支給エレメント E1 に存在すると仮定します。

コンポーネント	ルール定義	エレメント割当	ポジティブ入力 (上書き)	ポジティブ入力 (上書き)
ユニット	受給者レベル	10	10	5
レート	50	60	75	
パーセント	150			

ルール 1 を適用すると、E1 は以下のように変換されます。

$$1. 10 \times 75 \times 150\% = 1125$$

コンポーネント	ルール定義	エレメント割当	ポジティブ入力 (上書き)	ポジティブ入力 (上書き)
ユニット	受給者レベル		10	

コンポーネント	ルール定義	エレメント割当	ポジティブ入力 (上書き)	ポジティブ入力 (上書き)
レート	50		75	
パーセント	150			

ポジティブ入力の最初のインスタンスが変換され、未指定のコンポーネント値についてはエレメント割り当てからルール定義が検索されます。

$$2. 5 \times 60 \times 150\% = 450$$

コンポーネント	ルール定義	エレメント割当	ポジティブ入力 (上書き)	ポジティブ入力 (上書き)
ユニット	受給者レベル			5
レート	50	60		
パーセント	150			

ポジティブ入力の 2 番目のインスタンスが変換され、未指定のコンポーネント値についてはエレメント割り当てからルール定義が検索されます。

例: ルール 2 (多数の割り当て対 1 つまたは複数のポジティブ入力 "上書き" 行)

以下のエレメント割り当てとポジティブ入力が支給エレメント E1 に存在すると仮定します。

コンポーネント	ルール定義	エレメント割り当て (インスタンス 1)	エレメント割り当て (インスタンス 2)	ポジティブ入力 (上書き)
ユニット	受給者レベル	10	10	5
レート	50	60	75	
パーセント	150			

ルール 2 を適用すると、E1 は以下のように変換されます。

$$5 \times 50 \times 150\% = 375$$

コンポーネント	ルール定義	エレメント割り当て (インスタンス 1)	エレメント割り当て (インスタンス 2)	ポジティブ入力 (上書き)
ユニット	受給者レベル			5
レート	50			
パーセント	150			

ポジティブ入力に変換され、未指定のコンポーネント値を取得するためにルール定義が検索されます。全ての支給/控除割り当ては無視されます。

例: ルール 2 (多数の割り当て対 1 つまたは複数のポジティブ入力 "上書き" 行 - 上書きに基づくエレメント分割を使用)

以下のエレメント割り当てとポジティブ入力が支給エレメント E1 に存在し、割り当ての開始日および終了日に基づいてエレメント分割が発生すると仮定します。

注意: 受給者別エレメント割当コンポーネント (GP_ED_PYE) およびエレメント別受給者割当コンポーネント (GP_ED_ELEM) で、受給者に割り当てられる上書きの開始日と終了日に基づいて支給期間をスライスするように、システムを設定することができます。この作業については、トリガ定義の章で説明します。

参照: 第 30 章、「トリガの設定」、開始日と終了日が指定された支給/控除割り当てレコード (GP PYE OVRD) に対する分割トリガの設定、1135 ページ。

注意: この例では、エレメント割り当ては "割り当て"、ポジティブ入力は "PI"、アクション タイプが上書きのポジティブ入力は "上書き" と省略されています。

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	割り当て (イン スタンス 2) スライス 2: 6 月 16 日～ 30 日	PI (上書き) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	PI (上書き) スライス 2: 6 月 16 日～ 30 日
ユニット	受給者レベル	10	10	2	5
レート	50	60	75		
パーセント	150				

ルール 2 を適用すると、E1 は以下のように変換されます。

1. スライス 1 (6 月 1 日～ 15 日) : $2 \times 60 \times 150\% = 180$

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	割り当て (イン スタンス 2) スライス 2: 6 月 16 日～ 30 日	PI (上書き) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	PI (上書き) スライス 2: 6 月 16 日～ 30 日
ユニット	受給者レベル			2	
レート	50	60			
パーセント	150				

ルール 2 を適用すると、スライス 1 (6 月 1 日から 6 月 15 日) のポジティブ入力は処理されますが、対応するエレメント割り当ては処理されません。ポジティブ入力上書きは指定されていないコンポーネント値を同じスライス内のエレメント割り当てから検索するため、ポジティブ入力はスライス 1 の割り当てのレート コンポーネントの値 (60) を使用し、次にスライス 1 のエレメント割り当てではパーセント値が指定されていないため、ルールのパーセント値 (150) を取得します。

2. スライス 2 (6 月 16 日～ 30 日) : $5 \times 75 \times 150\% = 562.50$

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	割り当て (イン スタンス 2) スライス 2: 6 月 16 日～ 30 日	PI (上書き) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	PI (上書き) スライス 2: 6 月 16 日～ 30 日
ユニット	受給者レベル				5
レート	50		75		
パーセント	150				

ルール 2 を適用すると、スライス 2 (6 月 16 日から 6 月 30 日) のポジティブ入力は処理されますが、対応するエレメント割り当ては処理されません。ポジティブ入力上書きは指定されていないコンポーネント値を同じスライス内のエレメント割り当てから検索するため、ポジティブ入力はスライス 2 の割り当てのレート コンポーネントの値 (75) を使用し、次にスライス 2 のエレメント割り当てではパーセント値が指定されていないため、ルールのパーセント値 (150) を取得します。

例: ルール 4 (多数の割り当て対 1 つまたは複数のポジティブ入力 "追加" 行)

以下のエレメント割り当てとポジティブ入力が支給エレメント E1 に存在すると仮定します。

注意: この例では、エレメント割り当ては "**割り当て**"、ポジティブ入力は "**PI**"、アクション タイプが追加のポジティブ入力は "**追加**" と省略されています。

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1)	割り当て (インスタンス 2)	PI (追加)	PI (追加)
ユニット	受給者レベル	10	10	2	5
レート	50	60	75		
パーセント	150				

ルール 4 を適用すると、E1 は以下のように変換されます。

$$1. 10 \times 60 \times 150\% = 900$$

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1)	割り当て (インスタンス 2)	PI (追加)	PI (追加)
ユニット	受給者レベル	10			
レート	50	60			
パーセント	150				

最初のエレメント割り当てが変換され、未指定のコンポーネント値を取得するためにルール定義が検索されます。

$$2. 10 \times 75 \times 150\% = 1125$$

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1)	割り当て (インスタンス 2)	PI (追加)	PI (追加)
ユニット	受給者レベル		10		
レート	50		75		
パーセント	150				

2 番目のエレメント割り当てが変換され、未指定のコンポーネント値を取得するためにルール定義が検索されます。

$$3. 2 \times 50 \times 150\% = 150$$

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1)	割り当て (インスタンス 2)	PI (追加)	PI (追加)
ユニット	受給者レベル			2	
レート	50				
パーセント	150				

ポジティブ入力の最初のインスタンスが変換され、未指定のコンポーネント値を取得するためにルール定義が検索されます。

$$4. 5 \times 50 \times 150\% = 375$$

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1)	割り当て (インスタンス 2)	PI (追加)	PI (追加)
ユニット	受給者レベル				5
レート	50				
パーセント	150				

ポジティブ入力の 2 番目のインスタンスが変換され、未指定のコンポーネント値を取得するためにルール定義が検索されます。

例: ルール 5 (1 つまたは複数の割り当て対ポジティブ入力の "ゼロにする" 行)

以下のエレメント割り当てとポジティブ入力が支給エレメント E1 に存在すると仮定します。

コンポーネント	ルール定義	エレメント割り当て (インスタンス 1)	エレメント割り当て (インスタンス 2)	ポジティブ入力 (ゼロにする)
ユニット	受給者レベル	10	10	
レート	50	60	75	
パーセント	150			

ルール 5 を適用すると、E1 は以下のように変換されます。

支給 1 = 0

コンポーネント	ルール定義	エレメント割り当て (インスタンス 1)	エレメント割り当て (インスタンス 2)	ポジティブ入力 (ゼロ にする)
ユニット	受給者レベル			0
レート	50			
パーセント	150			

ポジティブ入力の "ゼロにする" 行だけが変換され、エレメント割り当ては変換されません。

**例: ルール 5 (1 つまたは複数の割り当て対ポジティブ入力の "ゼロにする" 行 - 上書きに基づく
エレメント分割を使用)**

以下のエレメント割り当てとポジティブ入力 that 支給エレメント E1 に存在し、割り当ての開始日および終了日に基づいてエレメント分割が発生すると仮定します。

注意: 受給者別エレメント割当コンポーネント (GP_ED_PYE) およびエレメント別受給者割当コンポーネント (GP_ED_ELEM) で、受給者に割り当てられる上書きの開始日と終了日に基づいて支給期間をスライスするように、システムを設定することができます。この作業については、トリガ定義の章で説明します。

参照: 第 30 章、「トリガの設定」、開始日と終了日が指定された支給/控除割り当てレコード (GP_PYE_OVRD) に対する分割トリガの設定、1135 ページ。

注意: この例では、エレメント割り当ては "割り当て"、ポジティブ入力は "PI"、アクションタイプが "ゼロにする" のポジティブ入力は "RTZ" と省略されています。

コンポーネント	ルール定義	割り当て (イン スタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日 ~ 15 日	割り当て (イン スタンス 2) スライス 2: 6 月 16 日 ~ 30 日	PI (RTZ) スライス 1: 6 月 1 日 ~ 15 日
ユニット	受給者レベル	10	10	RTZ
レート	50	60	75	
パーセント	150			

ルール 5 を適用すると、E1 は以下のように変換されます。

1. スライス 1 (6 月 1 日～ 15 日) : E1 = 0

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	割り当て (インスタンス 2) スライス 2: 6 月 16 日～ 30 日	PI (RTZ) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日
ユニット	受給者レベル			0
レート	50			
パーセント	150			

スライス 1 では、ポジティブ入力の "ゼロにする" 行だけが変換され、エレメント割り当ては変換されません。

2. スライス 2 (6 月 16 日～ 30 日) : E1 = 0

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	割り当て (インスタンス 2) スライス 2: 6 月 16 日～ 30 日	PI (上書き) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日
ユニット	受給者レベル		0	
レート	50			
パーセント	150			

スライス 2 では、6 月 16 日から 30 日のエレメント割り当ては無視され、ポジティブ入力を使用して入力された "ゼロにする" 行だけが処理されます。これは、ポジティブ入力の "ゼロにする" インスタンスが同じセグメントまたはスライス内で割り当てられたエレメントだけでなく、他のスライス内の同じエレメントの全ての割り当てに適用されるためです。

例: ルール 6 (ポジティブ入力の "上書き" および "ゼロにする" 行と関連したエレメント割り当て)

以下のエレメント割り当てとポジティブ入力が支給エレメント E1 に存在すると仮定します。

コンポーネント	ルール定義	エレメント割当	ポジティブ入力 (上書き)	ポジティブ入力 (ゼロにする)
ユニット	受給者レベル	10	2	
レート	50	60		
パーセント	150			

ルール 6 を適用すると、E1 は以下のように変換されます。

$$1. 2 \times 60 \times 150\% = 180$$

コンポーネント	ルール定義	エレメント割当	ポジティブ入力 (上書き)	ポジティブ入力 (ゼロにする)
ユニット	受給者レベル		2	
レート	50	60		
パーセント	150			

ポジティブ入力上書きが変換され、未指定のコンポーネント値を取得するためにエレメント割り当てとルール定義の両方が検索されます。

$$2. \text{支給 } 1 = 0$$

コンポーネント	ルール定義	エレメント割当	ポジティブ入力 (上書き)	ポジティブ入力 (ゼロにする)
ユニット	受給者レベル			
レート				
パーセント				

ポジティブ入力の "ゼロにする" 行だけが変換され、エレメント割り当ては変換されません。

例: ルール 9 (1 つのエレメント割り当てで [適用] チェック ボックスがオフ)

以下のエレメント割り当てとポジティブ入力が支給エレメント E1 に存在すると仮定します。

コンポーネント	ルール定義	エレメント割り当て ([適用] がオフ)	ポジティブ入力 (追加)
ユニット	受給者レベル		2
レート	50		
パーセント	150		

ルール 7 を適用すると、E1 は以下のように変換されます。

$$2 \times 50 \times 150\% = 150$$

コンポーネント	ルール定義	エレメント割り当て ([適用] がオフ)	ポジティブ入力 (追加)
ユニット	受給者レベル		2
レート	50		
パーセント	150		

アクション タイプが "追加" のポジティブ入力に変換されます。支給 E1 のその他の変換は行われません。

例: ルール 10 (多数のエレメント割り当ての 1 つで [適用] チェック ボックスがオフ)

以下のエレメント割り当てとポジティブ入力が支給エレメント E1 に存在すると仮定します。

コンポーネント	ルール定義	エレメント割当 (適用 = オン)	エレメント割り当て ([適用] がオフ)	エレメント割当 (適用 = オン)
ユニット	受給者レベル	10	2	15
レート	50	60		75
パーセント	150			50

ルール 10 を適用すると、支給 E1 は変換されません。

補足ルール インスタンスの作成

このセクションでは、補足ルールの作成がトリガされる条件について説明します。

補足ルールとは、既存の要素割当の開始日と終了日が支給期間の一部しか含まない場合に、その割当を**補足する**ために自動的に変換される支給または控除です。たとえば、開始日と終了日にそれぞれ 1 月 1 日と 15 日を使用して受給者に控除を割り当て、月次の支給期間カレンダーを使用するとします。一定の条件下で、開始日と終了日に 1 月 16 日と 31 日を使用して同じ要素の割り当てが自動的に作成されます。つまり、セグメント内のスライス 1 における既存の割り当てを補足するため、スライス 2 で控除のインスタンスが自動的に作成されます。

割り当てられた要素の補足ルールは、以下の条件に該当する場合に作成されます。

1. 国別設定ページで [セグメント期間内でアクティブな場合] オプションを選択します。

この場合、終了日が期間終了日よりも前の日付のものを含め、期間内の全ての要素割り当てが処理されます。

参照: 第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、インストール設定の定義、40 ページ。

2. 受給者別要素割当コンポーネント (GP_ED_PYE) および要素別受給者割当コンポーネント (GP_ED_ELEM) で、支給および控除を受給者に割り当てる際にそれらが要素分割 (スライス) をトリガするように設定します。

参照: 第 30 章、「トリガの設定」、1111 ページ。

3. 支給または控除の割り当てられた**開始日**が、期間開始日よりも後の日付であり、かつ割り当てられた**終了日**が期間終了日よりも前の日付か、またはそのいずれかです。

4. 割り当てられる要素の資格のタイプを要素 グループ メンバー ページで "有資格グループ" に設定し、支給名ページまたは控除名ページで要素に "**受給者**" 上書きレベルを指定します。

参照: 第 14 章、「組織構造の定義」、要素グループの定義、522 ページおよび第 18 章、「上書きの設定」、上書きレベル、657 ページ。

注意: 支給名ページまたは控除名ページで "受給者" 上書きレベルを選択すると、受給者別要素割当コンポーネント (GP_ED_PYE) および要素別受給者割当コンポーネント (GP_ED_ELEM) を使用して、要素を受給者レベルで割り当てることができます。

さらに、以下の条件が満たされる必要があります。

注意: これらのルールは、割り当てのページまたは支給/控除の定義ページで、支給または控除に関連付けられたユーザー フィールド値がないことを想定しています。ユーザー フィールド値がある場合のルールの変更については、複数変換の章を参照してください。

- 支給期間内のどのスライスにも、同じエレメントに対してポジティブ入力の **"上書き"** 行がない。

いずれかのスライスにポジティブ入力の **"上書き"** 行があると、他の全てのスライスで補足ルールを作成できません。

- 支給期間内のどのスライスにも、同じエレメントに対してポジティブ入力の **"処理しない"** 行がない。

いずれかのスライスに **"処理しない"** 行があると、他の全てのスライスで補足ルールを作成できません。

- 支給期間内のどのスライスにも、同じエレメントに対してポジティブ入力の **"ゼロにする"** 行がない。

いずれかのスライスに **"ゼロにする"** 行があると、他の全てのスライスで補足ルールを作成できません。

注意: 支給または控除に対してエレメント割り当てが既にある場合、補足ルール インスタンスは作成されません。たとえば、1 月 1 日～ 15 日の期間に対して既存の割り当てがあり、開始日と終了日にそれぞれ 1 月 16 日と 1 月 31 日を使用して同じエレメントの割り当てを追加すると、スライス 2 (1 月 16 日～ 31 日) の補足ルールは作成されません。

注意: 同じエレメントが複数回割り当てられる場合でも、割り当てられるエレメントに対して、補足ルール インスタンスは任意のスライスで 1 つしか作成されません。たとえば、支給期間のスライス 1 で同じ控除を 5 回割り当てる場合、スライス 2 で補足ルール インスタンスは 1 つしか作成されません。

注意: スライス内にポジティブ入力の **"追加"** 行があっても、同じスライスまたは他の全てのスライスで、補足ルール インスタンスが作成されます。

これらの条件が**全て**満たされた場合、支給または控除の**計算ルール**で指定したユニット、レート、パーセント、または金額コンポーネントの定義を使って、補足ルールが作成されます。

注意: 計算ルールは、支給コンポーネント (GP_EARNING) または控除コンポーネント (GP_DEDUCTION) で指定された、支給または控除の定義です。

以下の例は、グローバル ペイロール システムによって補足ルール インスタンスがどのように、またどんな状況で作成されるかを示しています。

例: 支給割り当てにより補足ルール インスタンスの作成がトリガされる

支給エレメント E1 に対するエレメント割り当てがあると仮定します (計算ルールはレート×ユニット×パーセント)。資格は有資格グループで、エレメント割り当ての開始日と終了日はそれぞれ、6 月 1 日と 6 月 15 日です。

注意: この例では、エレメント割り当ては "**割り当て**" と略して表記してあります。

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日 ~ 15 日	スライス 2: 6 月 16 日 ~ 30 日
ユニット	5	2	
レート	50	60	
パーセント	150	100	

割り当ての開始日と終了日に基づいて、カレンダーは 2 つのスライス (スライス 1 = 6 月 1 日 ~ 15 日、スライス 2 = 6 月 16 日 ~ 30 日) に分割されます。

E1 は以下のように変換されます。

1. スライス 1 (6 月 1 日 ~ 15 日) : $2 \times 60 \times 100\% \times .5$ (比例配分係数) = 60

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日 ~ 15 日	スライス 2: 6 月 16 日 ~ 30 日
ユニット	5	2	
レート	50	60	
パーセント	150	100	

2. スライス 2 (6 月 16 日 ~ 30 日) : $5 \times 50 \times 150\% \times .5$ (比例配分係数) = 125

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日 ～ 15 日	補足ルール スライス 2: 6 月 16 日 ～ 30 日
ユニット	5		5
レート	50		50
パーセント	150		150

ルール定義 (支給コンポーネントで指定された支給の定義) を使用して、スライス 2 (6 月 16 日～ 30 日) で E1 の補足ルール インスタンスが作成されます。

例: ポジティブ入力の "上書き" により補足ルール インスタンスが作成されない

支給エレメント E1 に対して、エレメント割り当てとポジティブ入力が存在するとします (計算ルールはレート×ユニット×パーセント)。資格は有資格グループで、エレメント割り当てとポジティブ入力の開始日および終了日はそれぞれ、6 月 1 日と 6 月 15 日です。

注意: この例では、エレメント割り当ては "**割り当て**"、ポジティブ入力は "**PI**"、アクション タイプが上書きのポジティブ入力は "**上書き**" と省略されています。

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日 ～ 15 日	PI (上書き) スライス 1: 6 月 1 日 ～ 15 日	スライス 2: 6 月 16 日 ～ 30 日
ユニット	5	10	2	
レート	50	60		
パーセント	150			

割り当ての開始日と終了日に基づいて、カレンダーは 2 つのスライス (スライス 1 = 6 月 1 日～ 15 日、スライス 2 = 6 月 16 日～ 30 日) に分割されます。

E1 は以下のように変換されます。

1. スライス 1 (6 月 1 日～ 15 日) : $2 \times 60 \times 150\% \times .5$ (比例配分係数) = 90

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	PI (上書き) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	スライス 2: 6 月 16 日～ 30 日
ユニット	5		2	
レート	50	60		
パーセント	150			

「エレメント割り当て上書き、ポジティブ入力、およびエレメント定義の競合の管理」セクションで説明したルール 1 に従って、スライス 1 (6 月 1 日～ 15 日) のポジティブ入力は処理されますが、対応するエレメント割り当ては処理されません。ポジティブ入力で指定されていないレート コンポーネントの値 (60) がスライス 1 のエレメント割り当てから検索され、次にスライス 1 のエレメント割り当てではパーセント値が指定されていないため、パーセント値 (150) がルールから検索されます。

2. スライス 2 (6 月 16 日～ 30 日) : スライス 1 のポジティブ入力の "上書き" 行により他の全てのスライスで補足ルールが作成されないため、E1 の補足ルール インスタンスは作成されません。

例: ポジティブ入力の "処理しない" の指示により補足ルール インスタンスが作成されない

支給エレメント E1 に対して、ポジティブ入力とエレメント割り当てがあり、資格は有資格グループであると仮定します (E1 の計算ルールはレート×ユニット×パーセント)。それぞれ、ポジティブ入力の開始日と終了日は 6 月 1 日と 6 月 10 日で、エレメント割り当ての開始日と終了日は 6 月 11 日と 6 月 20 日です。ポジティブ入力には **"処理しない"** アクション タイプが指定されています。

注意: この例では、ポジティブ入力は **"PI"**、エレメント割り当ては **"割り当て"** と省略されています。

コンポーネント	ルール定義	PI (処理しない) スライス 1: 6 月 1 日～ 10 日	割り当て (インスタンス 1) スライス 2: 6 月 11 日～ 20 日	スライス 3: 6 月 21 日～ 30 日
ユニット	5		10	
レート	50		60	
パーセント	150			

割り当ての開始日と終了日に基づいて、カレンダーは 3 つのスライス (スライス 1 = 6 月 1 日～10 日、スライス 2 = 6 月 11 日～20 日、スライス 3 = 6 月 21 日～30 日) に分割されます。

E1 は以下のように変換されます。

1. スライス 1 (6 月 1 日～10 日) : "処理しない" の指示があるため、E1 は処理されません。
2. スライス 2 (6 月 11 日～20 日) : スライス 1 の "処理しない" の指示により同じセグメント内の他の全てのスライスで処理が行われないため、E1 は処理されません。
3. スライス 3 (6 月 21 日～30 日) : スライス 1 の "処理しない" の指示により他の全てのスライスで補足ルールが作成されないため、補足ルール インスタンスは作成されません。

バッチ処理での上書きの変換

このセクションでは、バッチ処理での上書きについて説明します。

次の表は、バッチ処理中にどのようにサポート エlement に対する上書きが変換されるかを説明しています。

プログラム	プロセス
受給者データ マネージャ	支給元、支給グループ、受給者、およびカレンダーのサポート エlement 上書きの階層に従い、その中で最も優先順位の高い上書きをサポート エlement 上書きと値のアレイにロードします。

プログラム	プロセス
PIN マネージャ	<p>サポート エlementが変換されたかどうかを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none">• Elementが変換されていない場合、受給者データ マネージャによってサポート Element上書きが検索されます。• サポート Element上書きがある場合は、上書きの値が使用されます。• サポート Element上書きがない場合は、PIN 変換プログラムが呼び出されます。• Elementが変換されている場合、PIN マネージャは RECALC 論理を確認します。• RECALC = NO である場合、PIN マネージャは既に変換された値を返します。• RECALC = YES である場合、サポート Element上書きが検索されます。RECALC がない場合は、PIN マネージャによってPIN 変換プログラムが呼び出されElementが変換されます。
Element割り当て	<p>アレイ、フォーミュラ、ブラケット、または日付の抽出によって、別のElementに値を割り当てることができます。この場合、Elementは変換されていると見なされます。</p>

プログラム	プロセス
支給、控除、休暇付与、休暇取得プログラム	<p>主要エレメントの上書き、次に受給者/エレメントの上書き、最後にポジティブ入力の上書きが、支給、控除、休暇取得、または休暇付与エレメントに使用されるサポート エレメントに適用されます。</p> <p>主要エレメントの上書きは、支給、控除、休暇取得、および休暇付与エレメントの変換中に有効です。受給者/エレメントの上書きは、休暇取得および休暇付与エレメントの変換中に有効です。支給および控除エレメントについて、受給者/エレメントの上書きおよびポジティブ入力上書きはそれぞれの支給/控除インスタンスで有効です。</p> <p>それぞれの上書きタイプに対して、プログラムにより、上書きの値が割り当てられる前に、サポート エレメントの現在の値が保存されます。上書きが有効でなくなると、サポート エレメントは保存されている値に戻されます。</p>

支給/控除プログラム フロー

支給/控除プログラムで実行される内容について説明します。

1. 支給、控除、休暇取得、または休暇付与のルール定義を検索します。
2. 主要エレメントの上書きがある (支給、控除、休暇取得、または休暇付与に関連付けられたサポート エレメントを上書きする指示がある) 場合は、サポート エレメントの現在の値が取得、保存されます。

各サポート エレメントの値を上書き値 (支給エレメントまたは控除エレメントの変換中に有効となる) に設定します。

3. インスタンスごとにループ処理を行います。

注意: 休暇取得エレメントおよび休暇付与エレメントでは、エレメントは 1 回だけ変換されます。支給エレメントおよび控除エレメントでは、多数のインスタンス変換が行われることがあります。

4. 受給者/エレメントまたはポジティブ入力のサポート エレメント上書きが存在する場合、上書き値がある各サポート エレメントの現在の値を取得、保存します。

5. それぞれのサポート エLEMENTの上書き値を設定します。

同じサポート エLEMENTに対して受給者/ELEMENTの上書きとポジティブ入力の両方の上書きがある場合は、ポジティブ入力の上書きが適用されます。

6. 受給者/ELEMENTの上書き (フィールド単位) をルールに適用します。

ポジティブ入力の上書き (フィールド単位) をルールに適用します。

7. 支給/控除インスタンスを計算します。

8. インスタンスの戻り値を PIN マネージャの戻り値リスト (支給/控除とコンポーネント) に追加します。

9. 受給者/ELEMENTおよびポジティブ入力のサポート エLEMENT上書きにより上書きされた各サポート エLEMENTを以前の値に再設定します。

10. インスタンスのループ処理を終了します。

11. 主要ELEMENTの上書きにより上書きされた各サポート エLEMENTを以前の値に再設定します。これにより、サポート エLEMENTの値が、支給、控除、休暇取得、または休暇付与ELEMENTの変換前の値に完全に戻されます。

第 19 章

エレメントの資格チェックと変換

この章では、給与計算または休暇欠勤の実行の際に、変換される資格がどのエレメントにあるのか、および変換される資格があるエレメントを変換するかどうか、などの判断方法について説明します。ここでは、以下の内容について説明します。

- エレメントの資格チェック
- エレメントの変換

エレメントの資格チェック

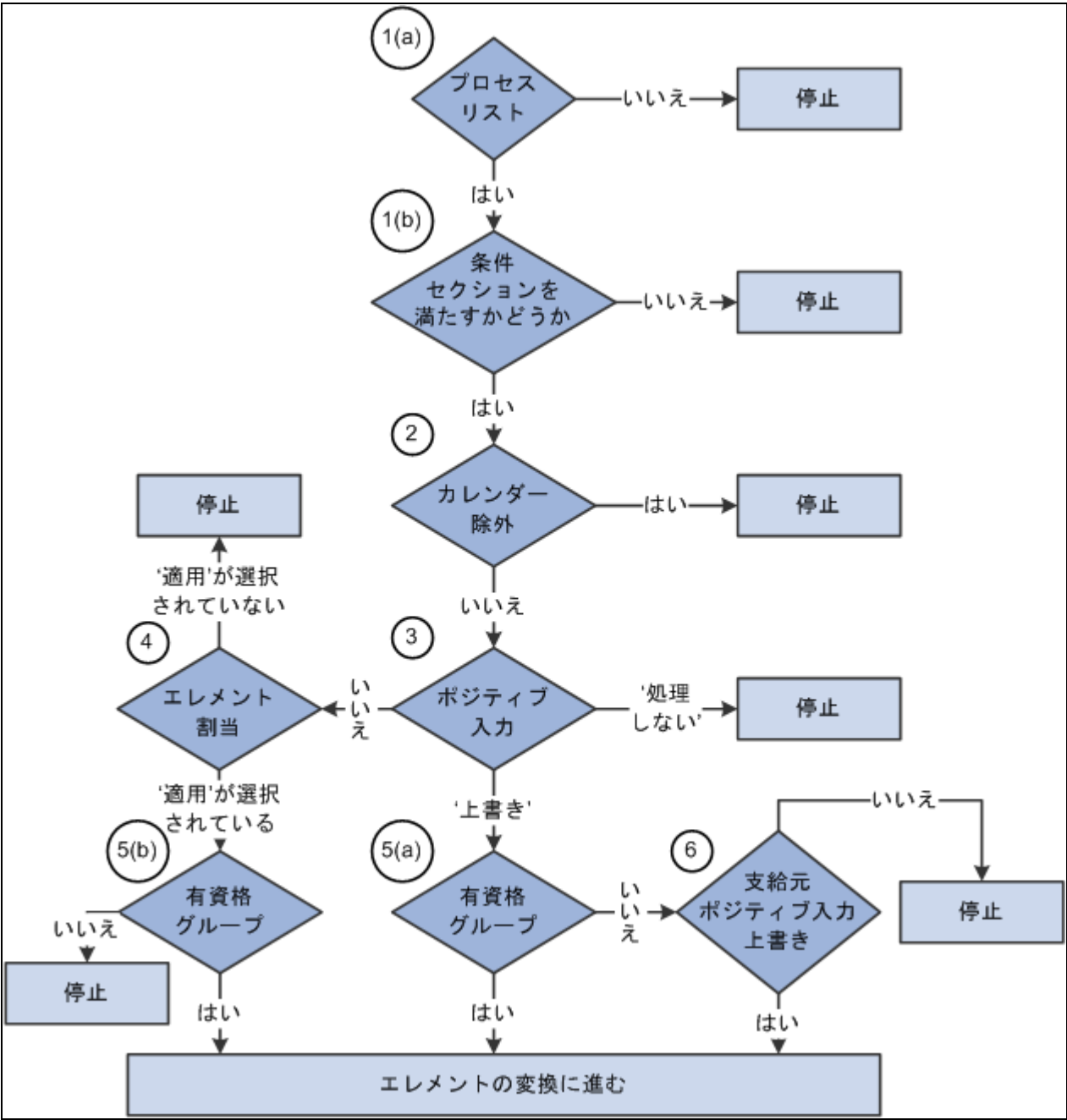
このセクションでは、どのエレメントが変換される資格を持つのかを判断する方法について説明します。

資格の有無を確認する資格チェック プログラムによって、プロセス リストにあるどの支給、控除、休暇取得、および周期ベースの休暇付与エレメントが、変換される資格を持つかが判定されます。

- エレメントに資格がある場合、資格スイッチとプロセス スイッチが「Yes」に設定されます。プロセス リスト マネージャによって PIN マネージャが呼び出され、そのエレメントが変換されます。
- エレメントに資格がない場合、プロセス スイッチは通常「No」に設定され、エレメントは変換されません。

一定の状況下では、エレメントに資格がない場合でもプロセス スイッチが「Yes」になることもあります。たとえば、支給または控除の遡及デルタがカレンダーに繰り越されている場合や、控除に未払いの延滞残高がある場合です。このような場合、デルタが調整として変換されたり、延滞残高が変換されることがありますが、支給または控除のエレメント自体は変換されません。

次の図は、システムによって、エレメントの資格の有無がチェックされる際の手順を示したものです。



エレメント資格チェック図

エレメントの資格判断の際には、以下がチェックされます。

1. プロセス リスト

プロセス リストで資格チェックが最初に行われます。エレメントが変換資格を持つためには、そのプロセスのセクションに入っている必要があります。

プロセス リストによって、セクションの変換条件が指定されます。必要条件が満たされず、セクションが変換されない場合、そのセクションのエレメントに対する処理は続行されません。

注意: ポジティブ入力作成セクションでは、エレメントの資格が検証されるのは、ターゲットカレンダーの処理中です。ポジティブ入力を作成されるソース カレンダーの処理中ではありません。

2. カレンダー除外

資格チェック プログラムでは、現在処理中のカレンダーからそのエレメントを除外する指示が入力されているかどうかを検証されます。エレメントが除外されている場合、資格スイッチは「No」に設定されます。この場合、エレメントは変換されず、ポジティブ入力も使用されず、延滞残高からの回収、調整の繰り越しも行われません(エレメントを除外しても、フォーミュラでそのエレメントに値を割り当てることは可能です)。

3. ポジティブ入力

ポジティブ入力がない場合は、エレメント割当の検証 (手順 4) に進みます。

[上書き] アクション タイプのポジティブ入力のインスタンス (**[処理しない]** が指定されていない) がある場合は、有資格グループが検証されます (手順 5)。

[処理しない] アクション タイプのポジティブ入力のインスタンスがある場合は、[上書き] または [追加] アクション タイプのほかのインスタンスがあっても、資格チェック プログラムによってプロセス スイッチは「No」に設定されます。つまり、[処理しない] インスタンスが 1 つでもあれば、そのエレメントの処理は停止するということです。

注意: ここでは、ユーザー フィールドが含まれている場合、エレメントとは、エレメントとユーザー フィールド セットを指します。たとえば、差し押さえのユーザー フィールドが "都道府県/州" で、受給者にネバダ州とカリフォルニア州の両方の差し押さえがあるとします。このような場合、ネバダ州の差し押さえポジティブ入力の [処理しない] インスタンスは、カリフォルニア州の同じ差し押さえポジティブ入力の資格処理には影響しません。これは、以下で説明されている項目のいくつかにも適用されます。

参照: 第 20 章、「支給または控除の複数変換」、727 ページ。

4. エレメント割当

エレメント割当には 2 つの機能があります。1 つは、エレメントを受給者に割り当てることです。う 1 つは、受給者のエレメントの定義を上書きすることです。

ポジティブ入力がない場合は、受給者レベルでエレメントを割り当てたり、上書きする指示がエレメント別受給者割当ページ、受給者別エレメント割当ページ、または付与/取得割当ページで入力されているかどうかを検証されます。

エレメント割当がない場合は、有資格グループが検証されてエレメントの有無が確認されます (手順 5)。

エレメント割当があり、[適用] チェック ボックスがオンになっている場合は、有資格グループが検証されます (手順 5)。

エレメント割当があり、エレメントの [適用] チェック ボックスがオンになっていない場合は、プロセス スイッチが「No」に設定されます。エレメントが受給者の有資格グループにある場合でも、エレメントは有資格であると認められません。この場合、ユーザーはエレメントの資格定義を上書きできます。

注意: エレメントを有資格グループに追加する際には、そのエレメントの受給者レベルでの入力がある場合にのみ有資格であると認められるように指定できます。これは、ポジティブ入力とエレメント割当の両方に適用されます。この場合、ポジティブ入力またはエレメント割当のどちらかがないと、エレメントが有資格であるとは認められません (手順 5 を参照)。

5. 有資格グループ

エレメントは、有資格グループに追加され、受給者レベルまたは有資格グループと指定されます。受給者レベルで指定されるエレメントは、そのエレメントの受給者レベルで入力を必要とします。これは、ポジティブ入力またはエレメント割当を使用して達成されます (上の手順 3 と 4 を参照)。

[上書き]アクション タイプのポジティブ入力インスタンスがあって、その中に [処理しない] インスタンスがなく、そのエレメントが受給者の有資格グループにある場合は、プロセス スイッチと資格スイッチは「Yes」に設定されます。それ以外の場合は、支給元上書きについて検証されます (手順 6)。

エレメント割当があり、[適用] チェック ボックスがオンで、そのエレメントが受給者の有資格グループにある場合は、プロセス スイッチと資格スイッチは「Yes」に設定されます。

ポジティブ入力またはエレメント割当がない場合は、受給者の [有資格グループ] と指定された有資格グループにエレメントがあるかどうかを検証され、プロセス スイッチと資格スイッチは「Yes」に設定されます。エレメントが有資格グループにない場合、エレメントの処理は停止します。

6. 支給元上書き

"支給元" の処理詳細ページで、支給元のポジティブ入力上書きを許可しておく、エレメントは受給者の有資格グループにない場合でも変換される資格を持ちます。

注意: 延滞残高のある控除エレメントが資格条件の検証を通過しない場合でも、"控除" の延滞ページにある [延滞回収の管理] グループ ボックスの [給与計算の全実行] オプション ボタンが選択されていれば、回収処理は実行されます。

関連項目:

[第 15 章、「エレメント処理の定義」、545 ページ](#)

[第 16 章、「カレンダーの使い方」、エレメントのカレンダーからの除外、600 ページ](#)

[第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、615 ページ](#)

[第 18 章、「上書きの設定」、受給者別の支給および控除の割り当てまたは無効化、672 ページ](#)

[第 20 章、「支給または控除の複数変換」、727 ページ](#)

エレメントの変換

このセクションでは、エレメント変換の概要と以下の項目について説明します。

- 定義の指定日
- 開始日と終了日
- ジェネレーション コントロール
- 延滞
- 支給と控除
- 上書き
- 再計算オプション

エレメントの変換

資格条件を満たしているエレメントの変換に影響を及ぼす要因は多数あります。通常はエレメントタイプごとに、エレメント変換プログラムが用意されています。支給エレメントと控除エレメントは同じプログラムで処理されます。

定義の指定日

有効日で管理された全てのエレメントには、[定義の指定日] フィールドがあります。このフィールドで、エレメント定義を検索するときにどの有効日が付いた行を使うのかが指定されます。[定義の指定日] の値はエレメント名共通ページで指定します。たとえば、[カレンダー期間開始日] を選択すると、カレンダー期間の開始日に有効なエレメント定義が検索されます。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、指定日によるエレメント定義の選択処理について、98 ページ

開始日と終了日

開始日と終了日は、上書き指示と共に使用され、上書きが適用される期間を指定します。処理される上書きタイプによって、開始日と終了日の処理ルールは異なります。

関連項目:

第 18 章、「上書きの設定」、上書きに対する開始日および終了日のロジック、660 ページ

ジェネレーション コントロール

ジェネレーション コントロールにより、受給者に対して支給、控除、休暇付与、または休暇付与調整の処理を行うかどうかをさらに細かく管理できます。ジェネレーション コントロールではエレメントの変換条件を定義します。HR ステータス、実行タイプ、セグメント ステータス、およびその他のパラメータに基づいて条件を定義できます。

パラメータごとに、バッチ処理でそのエレメントを入力の対象にするか対象外にするかを指定します。そのエレメントが処理されるためには、各受給者はそのエレメントに対する全てのジェネレーション コントロール条件に一致している必要があります。

受給者が、ある控除のジェネレーション コントロールの条件に一致しなかった場合でも、回収処理が行われ、遡及調整が実行される場合があります。受給者が支給のジェネレーション コントロールの条件に一致しなかった場合でも、遡及調整は実行されます。

関連項目:

第 7 章、「計算エレメントの定義」、ジェネレーション コントロール エレメントの定義、 256 ページ

延滞

控除がジェネレーション コントロールの条件に一致しない場合でも、延滞ページの [延滞回収の管理] グループ ボックスの値によって、回収処理が行われる場合があります。延滞には [給与計算の全実行] と [控除スケジュール] の 2 つのオプションがあります。[控除スケジュール] では、延滞回収処理を行うためには控除がジェネレーション コントロールの条件に一致する必要があります。[給与計算の全実行] では、控除がジェネレーション コントロールの検証を通過しない場合でも回収処理は行われます。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、純支給額の確認と延滞処理について、 307 ページ

支給と控除

ここでは、支給および控除プログラムでのエレメント変換の手順について説明します。

1. 資格チェックの検証を通過すると、エレメント ルールはエレメント別受給者割当ページ、受給者別エレメント割当ページ、またはポジティブ入力ページの入力で上書きされます。

必要な受給者レベルのコンポーネントがない場合、エレメントは変換されません。この場合でも遡及調整処理と延滞回収は行われます。

注意: ここでは、エレメントは、エレメントとユーザー フィールド セットを指します。

参照: 第 20 章、「支給または控除の複数変換」、 727 ページ。

2. 最後に、ジェネレーション コントロールがチェックされます。

ジェネレーション コントロールの条件に一致しない場合、支給エレメントまたは控除エレメントは変換されませんが、この場合でも延滞回収と遡及調整処理を行うことができます。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、269 ページ

上書き

さまざまなレベルで値またはエレメントの定義を上書きできます。たとえば、支給、控除、休暇欠勤などの主要エレメントを受給者レベルで上書きしたり、カレンダーの除外機能を使用して全ての受給者に対するプロセス リストからエレメントを除外することができます。

エレメント名共通ページの [上書きレベル] グループ ボックスで [受給者] チェック ボックスをオフにすると、エレメントの受給者レベルでの上書きを禁止できます。

エレメントに上書きのレベルがいくつかある場合には、階層に従って処理されます。

関連項目:

第 18 章、「上書きの設定」、655 ページ

再計算オプション

エレメント名共通ページの [常時再計算] オプション、"支給/控除" の計算ページの [遡及再計算オプション]、およびセクション コンポーネントの [再計算] オプションによって再計算を指定できます。

エレメント名共通ページの [常時再計算] をオンにすると、そのエレメントは、計算プロセスで検出されるたびに再計算されます。つまり、フォーミュラを更新してそれを再計算または再変換する場合、このチェック ボックスがオフになっていると、エレメントの前回の変換値が使用されます。[常時再計算] オプションは、変換処理中の期間に対してのみ適用されます。

"支給/控除" の計算ページの [遡及再計算オプション] では、[常時再計算] または [再計算しない] を選択することができます。[再計算しない] を選択してある場合、支給および控除プログラムによって遡及期間でそのエレメントは変換されず、前の計算の値が返されます。この値が、支給と控除、支給と控除のコンポーネント、延滞処理、および遡及調整に適用されます。

注意: セクションの再計算設定は、エレメント変換チェーン全体ではなく、そのセクションのエレメントだけに適用されます。つまり、親エレメントによって使用されるエレメントには適用されません。

PIN マネージャ ロジック

エレメントを変換するために PIN マネージャが呼びされると、次の手順で変換が行われます。

1. 現在の時間枠 (つまり、セグメントまたはスライス) でエレメントが既に変換されているかどうかチェックされます。
2. エレメントが変換されていない場合は、PIN マネージャによって該当する変換プログラムが呼び出されます。
3. エレメントが変換されている場合は、再計算ロジックがチェックされます。

再計算ロジック

再計算ロジックは次のとおりです。

1. エレメント名共通ページの [常時再計算] チェック ボックスが確認されます。

チェック ボックスがオンの場合、該当するエレメント変換プログラムが呼び出されます。オフの場合は、次のステップに進みます。

2. PIN マネージャがプロセス リストから呼び出された場合は、この PIN マネージャによって、現在のエレメントのセクションの [再計算] チェック ボックスが確認されます。

チェック ボックスがオンの場合、該当するエレメント変換プログラムが呼び出されます。チェック ボックスがオフの場合は、PIN マネージャによって、以前に変換されたエレメントの値が返されます。エレメントは再計算されません。

例 1

フォーミュラ F1 で変数 V1 に 10 という値を割り当ててから、別のフォーミュラ F2 で V1 を使用するとします。V1 の [常時再計算] がオンになっている場合には、次のようになります。

V1 の値を取得するためにフォーミュラ プログラムによって PIN マネージャが呼び出され、PIN マネージャは V1 が変換されていることを確認します。[常時再計算] がオンになっているため、エレメントを変換するために変数エレメント変換プログラムが、PIN マネージャによって呼び出されます。V1 は、定義の内容に従い変換されます。F1 から V1 に割り当てられた値は失われません。

V1 の [常時再計算] チェック ボックスをオフにした場合は、フォーミュラから V1 に割り当てられた値は失われません。V1 を変換するために F2 から呼び出された PIN マネージャは、V1 が変換されていることを確認します。さらに PIN マネージャによって、[常時再計算] がオフになっていることが確認され、以前に変換された値がフォーミュラ プログラムに返されます。

日付、アレイ、およびブラケットでも、値を変数に割り当てることができます。正しい計算を行うには、再計算ロジックを考慮する必要があります。

例 2

この例では、[常時再計算] チェック ボックスがオンになっている必要があります。カウント エレメントの変換では日次処理が発生します。ほかのところでは使用されていないフォーミュラを変換するために PIN マネージャが 1 日に 1 度呼び出されます。最初の日には、このフォーミュラが変換されます。このフォーミュラの [常時再計算] がオンになっていないと、2 日目には最初の日値が使用されてしまいます。

関連項目:

第 33 章、[「遡及処理の定義」、1219 ページ](#)

第 20 章

支給または控除の複数変換

この章では、複数変換の概要と以下の方法について説明します。

- ポジティブ入力を使用した複数変換
- エレメント割当を使用した複数変換
- 累計ドライバを使用した複数変換
- ユーザー フィールド セットのあるエレメント割当とポジティブ入力との相互作用の定義
- 支給/控除割当とポジティブ入力があり、ドライバを使用した複数変換の管理
- エレメントの資格の定義
- エレメントが複数変換される場合の計算ルールのコンポーネントの定義
- 累計ドライバとドライバ エレメントによるエレメント分割の定義
- 複数回変換されるエレメントのデータの取得
- 延滞の定義
- 複数変換でのジェネレーション コントロールの使用
- 常時再計算オプションの使用
- ブラケットとフォーミュラを使用したユーザー フィールドへのデータのロード
- 遡及処理に関する定義
- システム エレメントの使い方

複数変換について

次に示す方法によって、単一のセグメントでエレメントを複数回変換できます。

- エレメントをスライスまたは分割する (エレメント分割または期間分割を使用)

期間分割またはエレメント分割を使用してエレメントを分割すると、エレメントは複数回変換されます。

- エレメントに対するポジティブ入力で作成で、[アクション タイプ] に [追加]、[上書き]、または [ゼロにする] を指定します。

エレメントに **"追加"** ポジティブ入力を作成すると、エレメントは、エレメントのルール定義を使用して (またはエレメント上書きがある場合は、上書き値を使用して) 1回変換されます。その後、ポジティブ入力の追加タイプのインスタンスに関連付けられた値を使用して再び変換されます。

複数のポジティブ入力**上書き**を入力すると、インスタンス番号別に上書き値が別々に変換されます。

- エレメント割り当てのページで、エレメントの複数インスタンスを入力する

たとえば、同じ期間またはセグメントに、同じ差し押さえを複数回入力できます。各入力に対してインスタンス番号が割り当てられ、それぞれ別々に処理されます。

- 支給と控除の複数変換を行う累計ドライバを定義する

累計ドライバを指定した支給エレメントまたは控除エレメントでは、その累計のインスタンスごとに対応する変換が行われます。

この章では、以下のタイプの複数変換を中心に説明します。

- ポジティブ入力を使用した変換
- エレメント割当を使用した変換
- 累計ドライバを使用した変換

分割を使用したエレメントの複数変換は、分割についての章で説明します。

関連項目:

第 32 章、「分割の定義」、1189 ページ

この章で使用する共通フィールド

支給/控除割当

"**支給/控除割当**" という用語は、受給者別エレメント割当、エレメント別受給者割当、およびエレメント詳細の各ページで、受給者に対して支給、控除、またはサポート エレメント上書きを割り当てることを指しています。

注意: 表やグラフィックでは、"**E/D 割当**" と略されて表記される場合があります。

ポジティブ入力

ポジティブ入力とは、ポジティブ入力ページおよび "ポジティブ入力" の詳細ページで、単一の支給期間に対して入力される支給と控除のデータを指します。

注意: 表やグラフィックでは、"**PI**" と略されて表記される場合があります。

関連項目:

[第 18 章、「上書きの設定」、受給者上書きの定義、667 ページ](#)

[第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、615 ページ](#)

ポジティブ入力を使用した複数変換

ポジティブ入力を使用してエレメントの複数変換を行うには、次の手順に従います。

1. エレメントの上書きレベルに [受給者] と [ポジティブ入力] を選択します。

この作業は、支給または控除のエレメント名ページで行います。

2. [アクション タイプ] に [追加] または [ゼロにする] を指定して受給者とエレメントのポジティブ入力を入力するか、[アクション タイプ] に [上書き] または [追加] を指定して複数のポジティブ入力行を定義します。

この作業は、ポジティブ入力ページで行います。

例 1: ポジティブ入力の "追加" インスタンスを使用して複数変換を行う場合

エレメントに **"追加"** ポジティブ入力を入力すると、そのエレメントは、エレメント レベル定義 (またはエレメントの上書きがあれば、上書き値) を使用して 1 回変換され、その後、追加のポジティブ入力値を使用して再び変換されます。たとえば、エレメント レベルで 1000 EUR (ユーロ) の固定額として支給を定義し、500 EUR の **"追加"** ポジティブ入力を入力した場合、1000 EUR の値でエレメントが 1 回変換され、その後、500 EUR の値で再び変換されます。

例 2: ポジティブ入力の "上書き" インスタンスを使用して複数変換を行う場合

[アクション タイプ] に [上書き] を指定して、エレメントに複数のポジティブ入力を作成すると、各入力に対して異なるインスタンス番号が割り当てられ、別々に変換されます。たとえば、エレメント レベルで 100 USD (アメリカ ドル) の固定額として支給を定義し、200 USD のポジティブ入力 **上書き** をエレメントに 2 つ入力した場合、各入力が別々に (200 USD + 200 USD) 変換されますが、エレメント レベル定義を使用した支給の変換 (100 USD) は行われません。

例 3: ポジティブ入力の "ゼロにする" インスタンスを使用して複数変換を行う場合

"ゼロにする" インスタンスとポジティブ入力上書きの両方を入力すると、**"ゼロにする"** 行と上書きの両方が変換されます。たとえば、エレメント レベルで 500 USD の固定額として控除を定義し、200 USD のポジティブ入力 **上書き** と **"ゼロにする"** 行を入力した場合、エレメントは 2 回 (1 回目は 200 USD、2 回目は 0 USD) 変換されます。

注意: **"ゼロにする"** アクションを選択しても、他のポジティブ入力インスタンスには影響しません。**"ゼロにする"** を選択したインスタンスのみに適用されます。

関連項目:

[第 32 章、「分割の定義」、1189 ページ](#)

[第 18 章、「上書きの設定」、655 ページ](#)

[第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、615 ページ](#)

ポジティブ入力を使用した複数変換に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
ポジティブ入力	GP_PI_MNL_ERNDED	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[支給と控除の割当]、[ポジティブ入力]、[ポジティブ入力]	ポジティブ入力を割り当て、支給および控除の金額を入力します。
ポジティブ入力 - 詳細	GP_PI_MNL_SEC	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[支給と控除の割当]、[ポジティブ入力]、[ポジティブ入力 - 詳細] [メイン コンポーネント] タブにアクセスして [詳細] ボタンをクリックします。	ポジティブ入力の上書き詳細を入力します。

エレメント割当を使用した複数変換

このセクションでは、エレメント割当を使用した複数変換の概要と以下の方法について説明します。

- ユーザー フィールドのないエレメント割当を使用した複数変換
- ユーザー フィールドのあるエレメント割当を使用した複数変換

エレメント割当を使用した複数変換について

グローバル ペイロールでは、エレメント割当を使用して支給または控除の複数変換を行うことができます。

これには、以下の 2 つの方法があります。

- ユーザー フィールドを指定せずに、重複した開始日および終了日の支給または控除の割当を複数入力します。

- 重複した開始日および終了日を持つ支給または控除の割当の各インスタンスを別々に定義し、ユーザー フィールドを指定します。

ユーザー フィールドのないエレメント割当を使用した複数変換

支給/控除割当ページで、重複した開始日と終了日のエレメント割当が複数検出されると (ユーザー フィールド指定なし)、各割当は別々に変換されます。累計インスタンスは個別には作成されません。

たとえば、7 月の控除 A のインスタンスを 3 つ定義した場合、各インスタンスが変換され、その控除の自動作成累計により結果が合計されます。

注意: 必要であれば、エレメントの各変換結果を別々に保存するための別の累計を定義できますが、自動作成累計では結果は自動的に合計されます。

ユーザー フィールドのないエレメント割当を使用した複数変換を行うには、次の手順に従います。

1. エレメント定義のページで支給または控除を定義します。
2. 支給または控除を定義する際は、上書きレベルに [受給者] を選択します。
3. 受給者別エレメント割当ページまたはエレメント別受給者割当ページにアクセスし、同一のエレメントの割当を複数入力します。

各入力に対してインスタンス番号が自動的に割り当てられ、それぞれが区別されます。

注意: 各セグメントに対してエレメントのインスタンスが複数ある場合、[処理順序] フィールドを使用して、エレメントの処理順序を制御できます。

グローバル ペイロールによってエレメントが処理される際は、各入力に対して 1 回ずつ変換が行われ、その後、自動作成累計によって変換結果が合計されます。

例: ユーザー フィールドのない支給および控除の割当

以下の差し押さえ控除の例を考えてみます。

控除名	インスタンス番号	開始日	終了日	金額
差押 A	1	2003 年 3 月 1 日	2006/2/28	100
差押 A	2	2003/6/15	2003 年 12 月 31 日	350

控除名	インスタンス番号	開始日	終了日	金額
差押 A	3	2003 年 7 月 1 日	2004/6/30	1200

この例では、以下ようになります。

- エレメント割り当てのページに、差し押さえのインスタンスが 3 つあります (インスタンス 1、2、および 3)。
- 2003 年 7 月の給与計算処理中に、控除は 3 回変換されます (同じ給与計算期間またはセグメントの各エレメント割当に対して 1 回ずつ)。
- 各エレメント割当ごとの個別の累計インスタンスは作成されません。代わりに、単一の累計インスタンスで変換結果が合計されます。

ユーザー フィールドのあるエレメント割当を使用した複数変換

重複した開始日と終了日および異なるユーザー フィールド値を持つ複数の割当が検出されると、各割当は別々に変換されます。累計のユーザー キーによっては、個別の累計インスタンスが作成され、異なる変換結果が別々に保存されます。

- 自動作成累計 (または、エレメントの変換結果を保存するために作成されたその他の累計) のユーザー キーがエレメントのユーザー フィールドと一致する場合、個別の累計インスタンスが作成され、エレメントのそれぞれの変換結果が別々に保存されます。

たとえば、7 月の控除 A のインスタンスを 3 つ定義し、その控除にはユーザー フィールド **"所在地"** が関連付けられており、1 つのセグメント内に 3 つの所在地 (所在地 A、B、および C) に対する控除割当がある場合、各所在地の控除が変換されて、個別の累計インスタンス (各所在地に対して 1 つずつ) に結果が保存されます。

- 自動作成累計 (または、エレメントの変換結果を保存するために作成されたほかの累計) のユーザー キーがエレメントのユーザー フィールドと一致しない場合、単一の累計インスタンスでエレメントの全ての変換結果が合計される場合と合計されない場合の両方があります。

どちらの動作が行われるかは、累計キーがあれば、累計キーがどのように処理されるかによって異なります。たとえば、控除 A にユーザー フィールド **"州"** が設定されていて、対応する累計のユーザー キーが **"会社"** だったとします。この控除に 2 つのインスタンス (カリフォルニアとニューヨーク) があり、それぞれ会社 **"ABC"** と会社 **"DEF"** に関連付けられている場合、各変換に対して個別の累計インスタンスが作成されます。

ユーザー フィールドのあるエレメント割当を使用した複数変換を行うには、次の手順に従います。

1. エlement定義のページで支給または控除を定義します。

たとえば、LOAN という名前のローン回収控除を定義します。

2. 支給または控除のElement名ページで [ユーザー フィールド] リンクをクリックし、ユーザー フィールド設定のページにアクセスします。

たとえば、LOAN という控除名の [ユーザー フィールド] リンクをクリックします。

3. ユーザー フィールド設定のページでユーザー フィールドを定義し、ユーザー フィールド値に基づいた一意のElement割り当てを行えるようにします。

たとえば、"ローン タイプ" というユーザー フィールドを定義します。

4. ユーザー フィールドを変数として定義し、変数名を指定します。

支給または控除に関連付けられたユーザー フィールドは、変数として定義する必要があります。これは、変数のみがElement割り当てのページで上書き可能であるためです。

注意: ユーザー フィールドを使用してElementに変数を割り当てるには、変数定義のページで変数を事前に定義しておく必要があります。受給者にElementを割り当てる際に、Element詳細ページで変数値を定義できます。

5. (省略可) 支給または控除の定義コンポーネントの自動作成累計ページで [ユーザー フィールドのコピー] ボタンをクリックして、Elementのユーザー フィールドを自動作成累計に移動します。

これを行うと、異なるユーザー フィールド値を持つ各変換に対して別々の累計インスタンスが作成されます。

注意: 控除に関連付けられたユーザー フィールドが、控除の自動作成延滞累計に自動的に移動します。ユーザー キーを延滞累計にコピーする必要はありません。ただし、[ユーザー フィールドのコピー] ボタンをクリックして、ユーザー フィールドをその他の全ての自動作成累計に移動させる必要があります。

6. 支給または控除の定義コンポーネントで、上書きレベルに [受給者] を選択します。

7. 受給者別エレメント割当ページまたはエレメント別受給者割当ページにアクセスし、インスタンス番号とユーザー フィールドで各割当を区別しながら、受給者に複数のエレメント割当を入力します。

グローバル ペイロールがエレメントを処理する際には、各入力に変換され、一意のユーザー フィールド値を持つ各割り当てに対して個別の累計インスタンスが作成されます。

たとえば、同じ受給者に、異なるインスタンス番号および異なるユーザー フィールド値 (異なるローン タイプ) を持つ LOAN 控除を複数割り当てます。

例: ユーザー フィールドおよび一致する累計キーのある支給と控除の割り当て

以下のローン回収控除の例を考えてみます。

控除名	インスタンス番号	開始日	終了日	金額	ユーザー フィールドが "ローン タイプ" のサポート エレメント上書き
LOAN	1	2003 年 7 月 1 日	2006/2/28	100	Car
LOAN	2	2003/6/15	2003 年 12 月 31 日	350	Personal
LOAN	3	2003 年 7 月 1 日	2004/6/30	1200	Education

この例では、以下のようになります。

- ローン回収控除は、ユーザー フィールド "ローン タイプ" に関連付けられています。
- ユーザー フィールド "ローン タイプ" は、LOAN 控除の自動作成累計のユーザー キーです。
- 異なるユーザー フィールド値を持つ 3 つのローンがエレメント割り当てページで割り当てられています (インスタンス 1、2、および 3)。
- 7 月の給与計算処理中に、控除は 3 回 (各インスタンスに対して 1 回ずつ) 変換され、対応する累計インスタンスが 3 つ作成されます。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、269 ページ

第 10 章、「累計の設定」、367 ページ

第 18 章、「上書きの設定」、受給者上書きの定義、667 ページ

エレメント割当を使用した複数変換に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
受給者別エレメント割当	GP_ED_PYE	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[支給と控除の割当]、[受給者別エレメント割当]、[受給者別エレメント割当]	受給者別に特定の支給エレメントおよび控除エレメントを上書きしたり、支給エレメントまたは控除エレメントを無効にします。
エレメント別受給者割当	GP_ED_ELEM	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[支給と控除の割当]、[エレメント別受給者割当]、[エレメント別受給者割当]	エレメント別に受給者の特定の支給および控除を上書きしたり、支給エレメントまたは控除エレメントを無効にします。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
エレメント詳細	GP_ED_PYE_DTL_SEC	<ul style="list-style-type: none"> 受給者別エレメント割当ページで、エレメント名のリンクをクリックします。 エレメント別受給者割当ページで、受給者の ID のリンクをクリックします。 	<p>このページは次の目的に使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 支給エレメントまたは控除エレメントに定義されたコンポーネントの値を割り当てたり、上書きします。 受給者に割り当てられた支給または控除に関連付けられた変数値を割り当てたり、上書きします。 ジェネレーションコントロール、周期、および延滞を上書きします。

累計ドライバを使用した複数変換

このセクションでは、累計ドライバを使用した複数変換の概要および累計ドライバを使用する支給と控除の基本ルールの定義方法について説明します。

累計ドライバを使用した複数変換について

グローバル ペイロールでは、累計ドライバを定義して、支給または控除の複数変換を行うことができます。累計ドライバを指定した支給エレメントまたは控除エレメントでは、その累計のインスタンスごとに対応する変換が行われます。

累計を設定して別のエレメントの複数変換を行うには、以下を定義する必要があります。

- ドライバの累計対象となるエレメント
- ドライバ累計
- 累計に基づいて変換を行うエレメント (支給または控除)

- ドライバの累計対象エレメントで複数の累計インスタンスを作成するためのユーザー フィールド

次の手順に従って、累計ドライバを使用した複数変換を行います。

注意: 以下で説明する手順は、累計ドライバを使用する支給または控除を定義するための 1 つの方法にすぎません。実際の設定は、以下の説明とは異なる場合があります。

1. 累計ドライバの累計対象となる支給エレメントまたは控除エレメントを定義します。

たとえば、SALARY という名前の支給を定義します。

2. 支給または控除のエレメント名ページで [ユーザー フィールド] リンクをクリックし、ユーザー フィールド設定のページにアクセスします。

たとえば、SALARY エレメントの支給名ページで [ユーザー フィールド] リンクをクリックします。

3. ユーザー フィールド設定のページで支給または控除とユーザー フィールドを関連付け、エレメントの各変換に対してユーザー フィールド別に個別の累計インスタンスが作成されるようにします。

このフィールドは、変数またはシステム エレメントとして指定できます。

たとえば、州別または所在地別に区別する必要がある課税対象支給 (SALARY) を定義する場合、"州" または "所在地" という名前のユーザー フィールドを定義します。

注意: ユーザー フィールドを変数として定義する場合、変数定義のページで変数を事前に定義しておく必要があります。

4. 支給または控除を保存するためのセグメント累計を定義します。累計のユーザー キーと支給または控除に定義したユーザー フィールドは、一致している必要があります。

たとえば、"State Taxable Gross" (州課税対象総額) という名称の累計を定義し、累計キーに "州" を使用して、課税対象支給が州別に分類されるようにします。

注意: 累計のユーザー キーに "州" を使用した場合、異なる州の SALARY エレメントが変換されると、州ごとに個別の累計インスタンスが作成されます。

5. 手順 4 で定義した累計に基づいて支給または控除の変換を行う場合、エレメント名ページの [ドライバ累計] フィールドを使用して、その累計を対象エレメントのドライバとして指定します。

たとえば、州ごとに課税対象支給に基づいて変換する必要のある税控除を定義する場合、"State Taxable Gross" 累計をこの控除のドライバ累計として定義します。

注意: 支給および控除に関連付けられたドライバ累計のユーザー キーは、支給および控除に自動的に継承されます。これらのユーザー キーは、支給エレメントまたは控除エレメントのユーザー フィールドになります。

例: 累計ドライバを使用した複数変換

次の表は、州税控除のドライバ累計のインスタンスを示しています。

ドライバ (累計名)	ユーザー キー (州)	結果値
State Taxable Gross	州 A	6000
State Taxable Gross	州 B	5500
State Taxable Gross	州 C	7000

この累計には、州レベルで課税される、給与や超過勤務手当などの支給が保存されます。この累計には、ユーザー キー "州" が設定されています。

また、累計対象の支給も、ユーザー フィールド "州" に関連付けられています。

"State Taxable Gross" 累計によって、州所得税控除の複数変換が行われます。

この控除は、州課税対象総額の 20 パーセントとして定義されています。

次の表で示すように、3 つのドライバ累計インスタンスに対応して州所得税の変換処理は 3 回行われます。

控除 (州課税対象総額の 20%)	ユーザー フィールド (州)	結果値
州所得税 (インスタンス 1)	州 A	1200
州所得税 (インスタンス 2)	州 B	1100
州所得税 (インスタンス 3)	州 C	1400

この例では、以下のようになります。

- ユーザー フィールド "州" が各課税対象支給エレメント (たとえば給与や超過勤務支給など) に関連付けられているため、"State Taxable Gross" 累計の適切なインスタンスが支給エレメントによって自動的にロードされます。
- "State Taxable Gross" 累計は、州所得税控除のドライバとして定義されます。
- ドライバ累計のユーザー キーは、州所得税控除に自動的に継承されます。
- ドライバ累計の発生ごとに、州所得税控除の変換が別々に行われます。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、269 ページ

第 10 章、「累計の設定」、367 ページ

累計ドライバを使用する支給と控除の基本ルールの定義

このセクションでは、以下の基本ルールについて説明します。

- 累計ドライバを使用する支給と控除
- 累計ドライバとして使用する累計

累計ドライバを使用する支給と控除

累計ドライバを使用する支給と控除は、以下のルールに従って設定する必要があります。

- 支給エレメントまたは控除エレメントには、ドライバ累計のユーザー キーと同じユーザー フィールドを設定する必要があります。

注意: ドライバ累計のユーザー キーからユーザー フィールドが支給および控除に自動的に継承されます。

- 支給または控除のユーザー フィールドは、ドライバ累計のユーザー キーと同じ順序である必要があります。
- 支給または控除の定義にドライバ累計を指定してユーザー キーを指定しないことはできません。

支給または控除には、少なくとも 1 つの (累計のユーザー キーと一致する) ユーザー フィールドを関連付ける必要があります。

- ドライバ累計を使用して複数回の変換が行えるエレメントは、支給と控除のみです。
- 支給または控除には、そのエレメント自身の自動作成累計をドライバとして使用することはできません。

注意: また、一般ルールとして、循環参照を避けるために、そのエレメント自身が含まれている累計をドライバとして使用することはできません。

注意: 自動作成累計は、[支給名] および控除名ページの [ドライバ累計] フィールドのプロンプト ビューから自動的に除外されます。

- 支給エレメントまたは控除エレメントに設定できるドライバは、1 つのみです。

ドライバ累計として使用する累計

ドライバとして使用する累計は、以下のルールに従って設定する必要があります。

- ドライバとして使用できるエレメント タイプは、累計のみです。
- セグメント累計のみが、ドライバとして使用できます。
- ドライバとして使用するセグメント累計には、"累計" のレベル ページの [累計のタイミング] グループ ボックスで **[累計メンバー変換時]** が選択されている必要があります。
- ドライバとして使用する累計には、ユーザー キーが少なくとも 1 つ必要です。

注意: [支給名] および控除名ページで有効なドライバ累計としてプロンプト表示されるのは、累計のタイミングが [累計メンバー変換時] として定義されたセグメント累計で、さらに少なくとも 1 つのユーザー キーが定義されている累計のみです。

- ドライバ累計のユーザー キーは、自動的に支給または控除のユーザー フィールドになります。
- ドライバのユーザー キーのデフォルト値は、自動的に **"延滞"** 累計に設定されます。

延滞累計のキー構造を変更することはできません。ただし、ほかの自動作成累計には、ドライバのキー構造のデフォルトが自動的に設定されることはありません。これらの累計には異なるキー セットを定義できます。また、同じキーを使うこともできます。

注意: 全ての自動作成累計に同じキー セットを使用する場合、自動作成累計ページの [ユーザー フィールドのコピー] ボタンをクリックします。これにより、キー値に基づいて、ドライバが実行されるエレメントの累計インスタンスが個別に作成されます。

- 支給または控除に関連付けた後で、ドライバの累計キーを変更できます。

ユーザー キーを変更すると、支給または控除のユーザー フィールドは、自動的に更新され、累計キーと同一になります。ドライバ実行対象のエレメントが控除の場合、新規のキー構造が自動作成延滞累計に自動的に継承されます。ただし、[ユーザー フィールドのコピー] ボタンをクリックして、その他の自動作成累計を更新する必要があります。支給または控除が処理された後は、ドライバのユーザー キーを変更することはできません (ユーザー キーに対するデータ入力ができない状態になります)。

累計ドライバを使用した複数変換に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
ユーザー フィールド	GP_PIN_USR_FLD_SEC	<ul style="list-style-type: none"> • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[支給]、[支給名] • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[控除]、[控除名] <p>支給名ページまたは控除名ページで [ユーザー フィールド] リンクをクリックします。</p>	<p>このページは次の目的に使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ドライバ累計で累計を行う支給エレメントまたは控除エレメントとユーザー フィールドを関連付けます。 • ドライバ累計に基づいて変換される支給エレメントまたは控除エレメントとユーザー フィールドを関連付けます。 • ドライバ累計とドライバ累計に基づいて変換される支給または控除を関連付けます。
累計名	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[累計]、[累計名]	ドライバ累計に名前を付けます。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
レベル	GP_ACCUMULATOR_1	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[累計]、[レベル]	ドライバ累計のユーザーキーを定義します。
定義	GP_ACCUMULATOR_2	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[累計]、[定義]	ドライバ累計の期間 (たとえば、[セグメント] や [カスタム期間]) を定義します。
メンバー	GP_ACCUMULATOR_3	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[累計]、[メンバー]	ドライバ累計に含めるメンバー (支給または控除) を定義します。

ユーザー フィールド セットのあるエレメント割当とポジティブ入力との相互作用の定義

このセクションでは、同じ支給または控除に対するエレメント割当およびポジティブ入力があり、その支給または控除にユーザー フィールドが関連付けられている場合に、グローバル ペイロールによって行われる競合上書きの処理方法について説明します。

具体的には、以下の内容について説明します。

- ユーザー フィールド セットの定義
- ユーザー フィールド セットへの値の入力
- 支給/控除割当とポジティブ入力のマッチング
- 支給/控除割当とポジティブ入力の処理順序の定義

ここで説明する概念は、ユーザー フィールドが定義されている際のポジティブ入力とエレメント割当との相互作用を理解するために不可欠です。

重要: このセクションは、ポジティブ入力とエレメント割当の相互作用に関して、「上書きの設定」の章の情報を補足するものです。このセクションを読む前に、「上書きの設定」の章を確認する必要があります。

関連項目:

第 18 章、「上書きの設定」、エレメント割り当て上書き、ポジティブ入力、およびエレメント定義の間の競合の管理、 692 ページ

ユーザー フィールド セットの定義

グローバル ペイロールでは、ポジティブ入力またはエレメント割当に指定された全てのユーザー フィールドの値を、"**ユーザー フィールド セット**" と呼びます。支給または控除には、それぞれ固有のユーザー フィールド値のセットを持つ、複数のエレメント割当およびポジティブ入力を定義できます。

たとえば、以下の表で示すエレメント割当とポジティブ入力インスタンスには、それぞれ異なるユーザー フィールド セットが関連付けられています。

注意: 以下の例では、支給/控除割当は "**E/D 割当**"、ポジティブ入力は "**PI**" と略して表記してあります。

支給/控除定義	E/D 割当	PI (上書き)	PI (上書き)
エレメント名	LOAN	LOAN	LOAN
インスタンス番号	2	1	2
金額	350	175	225
ユーザー フィールド (ローン目的)	College	Car	Boat
ユーザー フィールド (ローン タイプ)	Family	Personal	Personal

ユーザー フィールド セットへの値の入力

支給または控除にユーザー フィールドがある場合、通常ユーザー フィールドの値は、支給/控除割当またはポジティブ入力から取得されます。エレメントが変換される前に、ポジティブ入力とエレメント割当のページで入力された値に基づいて、ユーザー フィールドに値が入力されます。

ただし、エレメント割り当てのページまたはポジティブ入力のページでユーザー フィールドの値が定義されていない場合は、その他のソースから値が取得される場合もあります。たとえば、アレ、フォーミュラ、ブラケットやその他のサポート エレメント上書き (カレンダー レベル上書きや支給グループ上書き) から値が取得されます。

ユーザー フィールドのある支給または控除がスライスまたは分割される場合、ユーザー フィールドの値はスライスまたはセグメントから取得され、スライスまたはセグメント間で異なる場合があります。

ユーザー フィールドのある場合の支給/控除割当とポジティブ入力のマッチング

グローバル ペイロールでは、単一の支給期間、スライスまたはセグメント内の同じエレメントについて、エレメント割当およびポジティブ入力の上書き複数入力できます。これらの上書きに含まれる、競合に関する指示を管理するために、支給および控除割当は、同じスライスまたはセグメント内の対応するポジティブ入力と**マッチング**処理され、その後で、変換するエレメントと、この PeopleBook の「**上書きの設定**」の章で説明する処理ルールに基づいて従う指示が判断されます。また、割り当てられたエレメントとポジティブ入力にユーザー フィールドが関連付けられている場合は、共通のユーザー フィールド セットに基づいて、エレメント割当とポジティブ入力がマッチング処理されます。

注意: エレメント割当とポジティブ入力と同じエレメントについて、同じ支給期間スライスまたはセグメントで発生し、ユーザー フィールド セットが同じ場合、エレメント割当とポジティブ入力は**一致している**と見なされます。

以下に例を示します。

- 特定のスライスまたはセグメントで、ポジティブ入力**上書き**のユーザー フィールド セットと支給/控除割当のユーザー フィールド セットが一致している場合、ポジティブ入力が処理され、エレメント割当は処理されません。
- 特定のスライスまたはセグメントで、ポジティブ入力**上書き**のユーザー フィールド セットと支給/控除割当のユーザー フィールド セットが一致していない場合、ポジティブ入力とエレメント割当の両方が処理されます。

つまり、一致するユーザー フィールド セットを持たない限り、ポジティブ入力上書きとエレメント割当は **"異なる"** エレメントとして扱われます。ユーザー フィールド セットが一致している場合は、ユーザー フィールドのない同一エレメントに適用される処理ルールと同じルールに従って処理されます。

参照: 第 18 章、「上書きの設定」、エレメント割り当て上書き、ポジティブ入力、およびエレメント定義の間の競合の管理、692 ページ。

例 1: エレメント割当とポジティブ入力が部分的に一致している場合

控除 "LOAN PAYBACK" には、次の 2 つのユーザー フィールドがあります。

- ユーザー フィールド 1 = ローン目的
- ユーザー フィールド 2 = ローン タイプ

次の表は、この控除のポジティブ入力とエレメント割当を示しています。

注意: 以下の例では、支給/控除割当は **"E/D 割当"**、ポジティブ入力は **"PI"** と略して表記してあります。

	E/D 割当	E/D 割当	PI (上書き)	PI (上書き)
エレメント名	LOAN PAYBACK	LOAN PAYBACK	LOAN PAYBACK	LOAN PAYBACK
インスタンス番号	1	2	1	2
金額	100	350	175	225
ユーザー フィールド 1 (ローン目的)	Car	College	Car	Boat
ユーザー フィールド 2 (ローン タイプ)	Personal	Family	Personal	Personal

この控除では 3 つのインスタンスが変換されます。

インスタンス番号	金額	ローン目的	ローン タイプ	上書きソース
1	175	Car	Personal	ポジティブ入力上書き
2	350	College	Family	エレメント割当

インスタンス番号	金額	ローン目的	ローン タイプ	上書きソース
3	225	Boat	Personal	ポジティブ入力上書き

この例では、ポジティブ入力インスタンス 1 とエレメント割当インスタンス 1 が同一のユーザーフィールドに基づいてマッチングされ、ポジティブ入力インスタンスのみが処理されます。ポジティブ入力インスタンス 2 とエレメント割当インスタンス 2 は一致していないため、両方のインスタンスが処理されます。

例 2: エレメント割当とポジティブ入力が完全に一致している場合

控除 A には、次の 2 つのユーザー フィールドがあります。

- ユーザー フィールド 1 = 州
- ユーザー フィールド 2 = 市

次の表は、この控除のポジティブ入力とエレメント割当を示しています。

注意: 以下の例では、支給/控除割当は "**E/D 割当**"、ポジティブ入力は "**PI**" と略して表記してあります。

	ルール定義	E/D 割当	E/D 割当	PI (上書き)	PI (上書き)
エレメント名		控除 A	控除 A	控除 A	控除 A
インスタンス番号	該当なし	1	2	1	2
ベース	200	300			
パーセント	受給者レベル	25%	50%	75%	100%
ユーザー フィールド 1 (州)	該当なし	ニューヨーク	カリフォルニア	ニューヨーク	カリフォルニア
ユーザー フィールド 2 (市)	該当なし	ニューヨーク	ロサンゼルス	ニューヨーク	ロサンゼルス

この控除では 2 つのインスタンスが変換されます。

インスタンス番号	ベース	パーセント	州	市	上書きソース
1	300	75%	ニューヨーク	ニューヨーク	ポジティブ入力 上書き
2	200	100%	カリフォルニア	ロサンゼルス	ポジティブ入力 上書き

この例では、ポジティブ入力インスタンス 1 とエレメント割当インスタンス 1、およびポジティブ入力インスタンス 2 とエレメント割当インスタンス 2 がマッチングされます。エレメント割当ではなくポジティブ入力に変換されます。

注意: ベース コンポーネントの値が両方のポジティブ入力と 2 番目のエレメント割当には指定されていないため、変換時には、まずエレメント割当、次にルール定義を参照してベースの値が取得されます。

例 3: 別のエレメントによってユーザー フィールドの値が割り当てられる場合のマッチング

支給 "E1" にはユーザー フィールド "州" が定義されています。

"州" の値はアレイによって設定されており、アレイによって返された現在値は "ネバダ" です。

ユーザー フィールドの値は、エレメント割り当てのページまたはポジティブ入力のページを使用して、サポート エレメント上書きとして入力することもできます。

次の表は、E1 のエレメント割当とポジティブ入力を示しています。

注意: 以下の例では、支給/控除割当は "E/D 割当"、ポジティブ入力は "PI" と略して表記してあります。

	E/D 割当	E/D 割当	PI (上書き)	PI (上書き)
エレメント名	E1	E1	E1	E1
インスタンス番号	1	2	1	2
金額	1000	2000	3000	4000
ユーザー フィールド (州)	なし	カリフォルニア	なし	アリゾナ

E1 では 3 つのインスタンスが変換されます。

インスタンス番号	金額	州	上書きソース
1	3000	ネバダ	ポジティブ入力上書き
2	2000	カリフォルニア	エレメント割当
3	4000	アリゾナ	ポジティブ入力上書き

例 4: "追加" タイプのポジティブ入力のマッチング

控除 D1 には、ベース×パーセントの計算ルールが定義されています。

また D1 には、次の 2 つのユーザー フィールドがあります。

- ユーザー フィールド 1 = 州
- ユーザー フィールド 2 = 市

次の表は、D1 のエレメント割当とポジティブ入力を示しています。

注意: 以下の例では、支給/控除割当は "**E/D 割当**"、ポジティブ入力は "**PI**" と略して表記してあります。

	E/D 割当	PI (追加)
エレメント名	D1	D1
ベース	総支給額	総支給額
パーセント	10%	入力なし
ユーザー フィールド 1 (州)	ニューヨーク	ニューヨーク
ユーザー フィールド 2 (市)	ニューヨーク	ニューヨーク

D1 では 2 つのインスタンスが変換されます。

インスタンス番号	ベース	パーセント	州	市	上書きソース
1	総支給額	10%	ニューヨーク	ニューヨーク	エレメント割当
2	総支給額	10%	ニューヨーク	ニューヨーク	ポジティブ入力 (追加)

ポジティブ入力に "追加" アクション タイプが指定されているため、控除割当に加えて追加のインスタンスも変換されます。ただし、ポジティブ入力にパーセント値が含まれていないため、一致する控除割当が参照されてパーセント値が取得されます。

処理順序の定義

支給または控除の処理順序は、以下の 2 つの要因によって決定されます。

- プロセス リストまたはセクション内でのエレメントのローケーションと連番

プロセス リストとセクションは、**異なる**エレメントの処理順序の管理に役立ちます。

- エレメントの処理順序番号

処理順序とは、複数の支給/控除割当がある際に、**同じ**エレメントのインスタンスが変換される順序のことです。

注意: 受給者別エレメント割当ページまたはエレメント別受給者割当ページの [処理順序] フィールドを使用して、**"同じ"** 支給/控除の相対処理順序を定義します。

たとえば、以下の連番を持つ、プロセス リストの同じセクション内にある控除について考えてみます。

連番	エレメント名
1	Main Loan Payback
2	Supplemental Loan

上記の表中の控除が受給者に割り当てられる際に、次の処理順序が設定されたとします。

入力タイプ	エレメント名	インスタンス	処理順序
控除	Main Loan Payback	1	2
控除	Supplemental Loan	1	1
控除	Main Loan Payback	2	1

給与計算処理中には、"Supplemental Loan" の前に "Main Loan Payback" 控除が処理されます。これは、"Main Loan Payback" 控除の方が処理セクション内での優先度が高いためです。ただし、"Main Loan Payback" 控除にはインスタンスが 2 つ存在します。どちらが先に処理されるかは、処理順序番号に基づいて決定されます。この例では、"Main Loan Payback" のインスタンス 2 の優先度の方が高い (処理順序番号が小さい) ため、最初に処理されます。

複雑な状況での処理順序の定義

前述の例では、エレメント割当のみの処理であったため、処理順序の決定方法は単純でしたが、エレメント割当とポジティブ入力が組み合わされると、処理順序の決定はより複雑になります。

そのような場合には、次のルールが適用されます。

ルール	説明
ルール 1	<p>エレメント割当は、各ユーザー フィールド セットの中で最初に計算されます。また、エレメント割当によって、同じユーザー フィールド セットを持つポジティブ入力の処理順序が決定されます。</p> <p>たとえば、処理順序番号が最も小さいエレメント割当が最初に処理され、次に、同じユーザー フィールドを持つポジティブ入力処理されます。さらに、処理順序番号が次に小さいエレメント割当が処理され、その後、同じユーザー フィールド セットを持つポジティブ入力処理されます。つまり、ポジティブ入力は、同じユーザー フィールド セットを持つエレメント割当の処理順序を継承します。これは、ポジティブ入力がエレメント割当を上書きする場合も同様です。</p> <p>注意: ポジティブ入力と同じユーザー フィールド セットを持つエレメント割当が複数あり、それぞれ異なる処理順序番号が割り当てられていた場合には、その中で最も小さい処理順序番号に基づいて、そのユーザー フィールド セットの処理順序が決定されます。</p>

ルール	説明
ルール 2	あるユーザー フィールド セットを持つエレメント割当に対して、同じユーザー フィールド セットを持つポジティブ入力がある場合、エレメント割当の処理順序はこのポジティブ入力のグループ全体に継承されます (上記のルール 1 参照)。ただし、このポジティブ入力グループ内では、アクション タイプ ("上書き"、"追加"、または "ゼロにする") に関係なく、インスタンス番号の順番で個々のポジティブ入力が次々に処理されます。つまり、ポジティブ入力のグループは、同じユーザー フィールド セットを持つエレメント割当の処理順序に基づいて順番に処理され、グループ内では、インスタンス番号順に各ポジティブ入力が処理されます。
ルール 3	同じユーザー フィールド セットを共有する各インスタンスの処理が終わった後に、ユーザー フィールド セットの一致する支給/控除割当のないポジティブ入力が処理されます。これらのポジティブ入力は、インスタンス番号順に処理されます。
ルール 4	ユーザーが処理順序番号を入力しなかった場合、処理順序はデフォルト値の 999 に設定されます。処理順序番号が 999 の入力は、他の入力が処理された後、最後に処理されます。
ルール 5	複数の支給/控除割当に同じ処理順序番号が指定されている場合、開始日の順序 (昇順) で処理されます。
ルール 6	処理順序番号の同じ複数の支給/控除割当に、同じ開始日が指定されている場合は、インスタンス番号の順序 (昇順) で処理されます。 注意: 複数の支給/控除割当は、処理順序番号、開始日、インスタンス番号の順で処理されます。

注意: 分割カレンダーには、分割されていないカレンダーのエレメント割当とポジティブ入力に適用される処理順序ルールと同じルールが適用されます ("**スライス単位またはセグメント単位**" で適用されるルールは除きます)。ただし、スライスまたは分割されたカレンダーの場合は、他にもいくつかの検討事項があります。これらについては、この章の後で説明します。

参照: 第 20 章、「支給または控除の複数変換」、複数変換を伴う分割について、768 ページ。

以下に、上記のルールの適用例を挙げます。

注意: 以下の例では、エレメント割当とポジティブ入力の競合がある場合に、処理順序がどのように設定されるかについて説明しています。ここに挙げられているような状況は、ごくまれにしか発生しません。

例 1: エレメント割当およびポジティブ入力がある場合の処理順序の定義

ローン回収控除には、次の 2 つのユーザー フィールドがあります。

- ユーザー フィールド 1 = ローン目的
- ユーザー フィールド 2 = ローン分類

次の表は、この控除のエレメント割当とポジティブ入力を示しています。

注意: 以下の例では、支給/控除割当は "**E/D 割当**"、ポジティブ入力は "**PI**" と略して表記してあります。

	E/D 割当	E/D 割当	E/D 割当	PI (上書き)	PI (上書き)	PI (上書き)	PI (追加)
エレメント名	LOAN	LOAN	LOAN	LOAN	LOAN	LOAN	LOAN
インスタンス番号	1	2	3	1	2	3	4
処理順序	30	10	40	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
金額	100	350	175	500	225	600	3000
ユーザー フィールド 1	Car	College	Bike	Car	Stove	Car	College
ユーザー フィールド 2	Personal	Family	Personal	Personal	Family	Personal	Family

LOAN では、6 つのインスタンスが、以下の順序で変換されます。

変換番号	金額	ユーザー フィールド 1	ユーザー フィールド 2	上書きソース
1	350	College	Family	エレメント割当
2	3000	College	Family	ポジティブ入力 (追加)
3	500	Car	Personal	ポジティブ入力上書き
4	600	Car	Personal	ポジティブ入力上書き
5	175	Bike	Personal	エレメント割当
6	225	Stove	Family	ポジティブ入力上書き

ルール 1 に従って、処理順序番号が最も小さい (10)、金額が 350 のエレメント割当が最初に処理されます。次に、同じユーザー フィールド セットを持つ、金額が 3000 の追加ポジティブ入力が処理されます。

注意: エレメント割当に、同じユーザー フィールド セットを持つ **"追加"** ポジティブ入力インスタンスがある場合は、エレメント割当が最初に処理されます。

Car と Personal のユーザー フィールド セットを持つエレメント割当の処理順序番号 (30) に基づき、同じ Car と Personal のユーザー フィールド セットを持つポジティブ入力が、ルール 2 に従って処理されます。

ルール 2 に従って、ポジティブ入力のインスタンス番号に基づき、500 のポジティブ入力の処理後、600 のポジティブ入力が処理されます。

ルール 3 に従って、同じユーザー フィールド セットを共有する各インスタンスの処理が終わった後、最後に、ユーザー フィールド セットの一致する支給/控除割当のないポジティブ入力 (Bike と Stove のユーザー フィールド セットを持つポジティブ入力) が処理されます。

例 2: 同じユーザー フィールド セットを持つ複数の支給/控除割当がある場合

ローン回収控除には、次のユーザー フィールドが定義されています。

- ユーザー フィールド 1 = ローン目的
- ユーザー フィールド 2 = ローン分類

次の表は、この控除の支給/控除割当とポジティブ入力を示しています。

注意: 以下の例では、支給/控除割当は "**E/D 割当**"、ポジティブ入力は "**PI**" と略して表記してあります。

	E/D 割当	E/D 割当	E/D 割当	PI (上書き)	PI (追加)
エレメント名	LOAN	LOAN	LOAN	LOAN	LOAN
インスタンス番号	1	2	3	1	2
処理順序	30	40	35	該当なし	該当なし
金額	100	250	175	500	200
ユーザーフィールド 1	Car	Car	Motorcycle	Car	Motorcycle
ユーザーフィールド 2	Personal	Personal	Personal	Personal	Personal

LOAN では、3 つのインスタンスが、以下の順序で変換されます。

変換番号	金額	ローン目的	ローン分類	上書きソース
1	500	Car	Personal	ポジティブ入力上書き
2	175	Motorcycle	Personal	エレメント割当
3	200	Motorcycle	Personal	ポジティブ入力 (追加)

ルール 1 に従って、エレメント割当の処理順序によってポジティブ入力の処理順序が決定されます (このため、処理順序番号が 30 のエレメント割当が選ばれて、ポジティブ入力インスタンス 1 の変換が決定されます)。

支給/控除割当とポジティブ入力があり、ドライバを使用した複数変換の管理

このセクションでは、同じエレメントに対して支給/控除割当とポジティブ入力がある場合に、累計ドライバに基づいて変換されるエレメントの処理方法について説明します。

具体的には、以下の内容について説明します。

- 累計ドライバを使用する支給と控除のユーザー フィールド セットの定義
- 累計ドライバを使用するエレメントのユーザー フィールド セットへの値の入力
- 累計ドライバに基づいて実行されたエレメント変換のマッチング
- 処理順序の定義

ここで説明する概念は、累計ドライバに基づいて変換されるエレメント、ポジティブ入力、およびエレメント割当の相互作用を理解するために不可欠です。

注意: このセクションは、「上書きの設定」の章のポジティブ入力とエレメント上書きの相互作用に関する情報を補足するものです。このセクションを読む前に、「上書きの設定」の章を確認する必要があります。

関連項目:

第 18 章、「上書きの設定」、エレメント割り当て上書き、ポジティブ入力、およびエレメント定義の間の競合の管理、692 ページ

ユーザー フィールド セットの定義

累計ドライバを使用する支給または控除のユーザー フィールド セット (ユーザー フィールドとその値) は、ドライバとして指定した累計のユーザー キーから継承されます。

累計ドライバを使用する全ての支給および控除は、以下のルールに従う必要があります。

- 支給または控除のユーザー フィールドは、ドライバ累計のユーザー キーと同じ順序である必要があります。

- 支給または控除は、関連付けられたユーザー キーを持たないドライバ累計にリンクできません。

支給または控除には、少なくとも 1 つの (累計のユーザー キーと一致する) ユーザー フィールドを関連付ける必要があります。

関連項目:

第 20 章、「支給または控除の複数変換」、累計ドライバを使用する支給と控除の基本ルール of 定義、740 ページ

ユーザー フィールド セットへの値の入力

累計ドライバを使用するエレメントに関連付けられたユーザー フィールドの値は、複数のソースから入力されます。以下のように入力されます。

- 支給/控除割当ページで入力されたサポート エレメント上書き (受給者レベル上書き)
- 支給グループ、カレンダー、またはその他のレベルで入力された上書き値
- ユーザー フィールドに値を入力するために設定されたアレイ、フォーミュラ、ブラケット、またはその他のエレメント

累計ドライバに基づいて実行されたエレメント変換のマッチング

グローバル ペイロールでは、累計ドライバを使用するエレメントには、エレメント割当とポジティブ入力に適用されるマッチング ルールと同じルールが適用されます (マッチング ルールが累計ドライバを使用する支給と控除まで拡張されるだけです)。つまり、累計ドライバ インスタンスを持つエレメントが、エレメント割当およびポジティブ入力と同じスライスまたはセグメントで発生すると、エレメント割当またはポジティブ入力のユーザー フィールド セットとドライバ インスタンスのユーザー フィールド セットが比較され、どのドライバ インスタンスにエレメント割当およびポジティブ入力を適用するかが決定されます。マッチングは、同じユーザー フィールド セットが同じスライスまたはセグメントで検出された場合に成立します。

参照: 第 20 章、「支給または控除の複数変換」、ユーザー フィールドのある場合の支給/控除割当とポジティブ入力のマッチング、745 ページ。

例 1: 累計ドライバを使用するエレメントと支給/控除割当およびポジティブ入力のマッチング

Tax Deduction には、ドライバ累計 (State Taxable Gross) が定義されています。

各ドライバ インスタンスは、ポジティブ入力のインスタンスまたはエレメント割当のどちらかとマッチングされます。

Tax Deduction には、ユーザー フィールド "州" が 1 つあります。

Tax Deduction には、ベース×パーセントの計算ルールが定義されています。

パーセントは、"州" を使用して適切なパーセント値を取得するフォーミュラとして定義されているとします。

ベースは、CURR_DRIVER_VAL として定義されているとします。

注意: CURR_DRIVER_VAL は、エレメントの計算にドライバ累計が使用されている場合に、ドライバ累計の現在値を取得する標準装備のシステム エレメントです。このシステム エレメントとその他のシステム エレメントについては、この章で後述します。

参照: 第 20 章、「支給または控除の複数変換」、システム エレメントの使い方、810 ページ。

給与計算処理中に、ドライバの 2 つのインスタンスが検出されます。

注意: 以下の例では、支給/控除割当は "**E/D 割当**"、ポジティブ入力は "**PI**" と略して表記してあります。

ドライバ (累計名)	ユーザー キー (州)	結果値
State Taxable Gross	州 1	6000
State Taxable Gross	州 2	5500

次の表は、この控除の支給/控除割当とポジティブ入力を示しています。

	E/D 割当	PI (上書き)
エレメント名	Tax Deduction	Tax Deduction
インスタンス番号	1	1
処理順序	20	該当なし
金額	600	225
ユーザー フィールド (州)	州 1	州 2

この控除では、2 つのインスタンスが、以下の順序で変換されます。

変換番号	金額	ユーザー フィールド (州)	上書きソース
1	600	州 1	エレメント割当
2	225	州 2	ポジティブ入力上書き

この例では、以下のようになります。

- ドライバ エレメントには 2 つのインスタンスがあります (州 1 と州 2)。
- 州 1 のドライバ インスタンスと支給/控除割当が、同じユーザー フィールド値に基づいてマッチングされます。
- 州 2 のドライバ インスタンスとポジティブ入力上書きが、同じユーザー フィールド値に基づいてマッチングされます。
- 支給/控除割当とポジティブ入力によって、該当するエレメント定義が上書きされます。

例 2: エレメント割当またはポジティブ入力と一致しないドライバ インスタンスがある場合

Tax Deduction には、ドライバ累計 (State Taxable Gross) が定義されています。

ポジティブ入力またはエレメント割当のどちらのインスタンスとも一致しないドライバ インスタンスがあります。

Tax Deduction には、ユーザー フィールド "州" が 1 つあります。

Tax Deduction には、ベース×パーセントの計算ルールが定義されています。

パーセントは、"州" を使用して適切なパーセント値を取得するフォーミュラとして定義され、このフォーミュラは "州 1"、"州 2"、"州 3" について 3% を返すとしします。

ベースは、CURR_DRIVER_VAL として定義されているとしします。

注意: CURR_DRIVER_VAL は、エレメントの計算にドライバ累計が使用されている場合に、ドライバ累計の現在値を取得する標準装備のシステム エレメントです。このシステム エレメントとその他のシステム エレメントについては、この章で後述します。

参照: 第 20 章、「支給または控除の複数変換」、システム エレメントの使い方、810 ページ。

給与計算処理中に、ドライバの 3 つのインスタンスが検出されます。

注意: 以下の例では、支給/控除割当は "**E/D 割当**"、ポジティブ入力は "**PI**" と略して表記してあります。

ドライバ (累計名)	ユーザー キー (州)	結果値
State Taxable Gross	州 1	6000
State Taxable Gross	州 2	5500
State Taxable Gross	州 3	3300

次の表は、この控除の支給/控除割当とポジティブ入力を示しています。

	E/D 割当	E/D 割当	E/D 割当	PI (上書き)	PI (上書き)	PI (上書き)
エレメント名	Tax Deduction	Tax Deduction	Tax Deduction	Tax Deduction	Tax Deduction	Tax Deduction
インスタンス番号	1	2	3	1	2	3
処理順序	20	10	30	該当なし	該当なし	該当なし
金額	600	555	175	225	325	500
ユーザーフィールド (州)	州 1	州 4	州 5	州 2	州 6	州 5

この控除では、6 つのインスタンスが変換されます。

変換番号	金額	ユーザー フィールド (州)	上書きソース
1	555	州 4	エレメント割当
2	600	州 1	エレメント割当
3	500	州 5	ポジティブ入力上書き
4	225	州 2	ポジティブ入力上書き
5	325	州 6	ポジティブ入力上書き
6	99 (3300 x 3%)	州 3	ドライバ オカレンス

この例では、以下のようになります。

- 州 1 (6000) の累計インスタンスと金額が 600 のエレメント割当がマッチングされます。エレメント割当は処理されますが、累計インスタンスは処理されません (エレメント割当によって累計インスタンスが上書きされます)。
- 州 5 (175) のエレメント割当と、同じユーザー フィールドを持つポジティブ入力インスタンス (500) がマッチングされます。ポジティブ入力インスタンスは処理されますが、エレメント割当は無視されます (ポジティブ入力によってエレメント割当が上書きされます)。
- ユーザー フィールド セットの一致する組み合わせはもうありません。残りのポジティブ入力上書きと、同じユーザー フィールドを持つポジティブ入力またはエレメント割当のないドライバ オカレンス (99) が処理されます。

処理順序の定義

以下のように、支給および控除割当とポジティブ入力が併用されているときに適用される処理ルールが、支給および控除割当とポジティブ入力に加えて累計ドライバが使用されている場合にも適用されます。

参照: 第 20 章、「支給または控除の複数変換」、ユーザー フィールド セットのあるエレメント割当とポジティブ入力との相互作用の定義、743 ページ。

- 支給/控除割当は個別の各ユーザー フィールド セットの中で最初に計算され、支給/控除割当によって同じユーザー フィールド セットを持つポジティブ入力の処理順序が決定されます。
- 支給/控除割当の後に、同じユーザー フィールド セットを持つポジティブ入力がインスタンス番号順に処理されます。

注意: ポジティブ入力によってエレメント割当を上書きする場合、そのポジティブ入力は、上書きするエレメント割当の処理順序を継承します。

- 次に、同じユーザー フィールドを持たないポジティブ入力がインスタンス番号順に処理されます。

さらに、累計ドライバを使用するエレメントに対しては、以下のルールが適用されます。

ユーザー フィールド セットが一致するエレメント割当またはポジティブ入力のないドライバ オカレンスは、ポジティブ入力の後に処理されます。

例: 累計ドライバを使用するエレメントの処理順序

Tax Deduction には、ドライバ累計 (State Taxable Gross) が定義されています。

ポジティブ入力またはエレメント割当のどちらのインスタンスとも一致しないドライバ インスタンスがあります。

Tax Deduction には、ユーザー フィールド "州" が 1 つあります。

Tax Deduction には、ベース×パーセントの計算ルールが定義されています。

パーセントは、"州" を使用して適切なパーセント値を取得するフォーミュラとして定義され、このフォーミュラは "州 1"、"州 2"、"州 3" について 3% を返すとします。

ベースは、CURR_DRIVER_VAL として定義されているとします。

注意: CURR_DRIVER_VAL は、エレメントの計算にドライバ累計が使用されている場合に、ドライバ累計の現在値を取得する標準装備のシステム エレメントです。このシステム エレメントとその他のシステム エレメントについては、この章で後述します。

参照: 第 20 章、「支給または控除の複数変換」、システム エレメントの使い方、810 ページ。

給与計算処理中に、ドライバの 3 つのインスタンスが検出されます。

注意: 以下の例では、支給/控除割当は "E/D 割当"、ポジティブ入力は "PI" と略して表記してあります。

ドライバ (累計名)	ユーザー キー (州)	結果値
State Taxable Gross	州 1	6000
State Taxable Gross	州 2	5500
State Taxable Gross	州 3	3300

次の表は、この控除の支給/控除割当を示しています。

	E/D 割当	E/D 割当	E/D 割当	E/D 割当
エレメント名	Tax Deduction	Tax Deduction	Tax Deduction	Tax Deduction
インスタンス番号	1	2	3	4
処理順序	10	30	20	30
金額	1000	750	175	225

	E/D 割当	E/D 割当	E/D 割当	E/D 割当
ユーザー フィールド (州)	州 1	州 1	州 4	州 5

次の表は、この控除のポジティブ入力を示しています。

	PI (上書き)	PI (上書き)	PI (上書き)	PI (追加)	PI (上書き)	PI (追加)
エレメント名	Tax Deduction	Tax Deduction	Tax Deduction	Tax Deduction	Tax Deduction	Tax Deduction
インスタンス番号	1	2	3	4	5	6
金額	600	555	175	225	325	500
ユーザー フィールド (州)	州 1	州 2	州 6	州 2	州 6	州 5

Tax Deduction では、9 つのインスタンスが、以下の順序で変換されます。

変換番号	金額	ユーザー フィールド (州)	上書き
1	600	州 1	ポジティブ入力上書き
2	175	州 4	エレメント割当
3	225	州 5	エレメント割当
4	500	州 5	ポジティブ入力 (追加)
5	555	州 2	ポジティブ入力上書き
6	225	州 2	ポジティブ入力 (追加)
7	175	州 6	ポジティブ入力上書き
8	325	州 6	ポジティブ入力上書き
9	99 (3300 x 3%)	州 3	ドライバ オカレンス

この例では、以下のようになります。

- 最も小さい処理順序番号のユーザー フィールド セット (州 1、処理順序番号 = 10) が最初に処理されます。
- 次に小さい処理順序番号のユーザー フィールド セット (州 4、処理順序番号 = 20) が処理されます。
- このように、同じユーザー フィールド セットがなくなるまでエレメントの処理順序が定義され、処理されます。最後に処理されるエレメントは、州 3 のドライバ オカレンスで、一致するエレメント割当またはポジティブ入力がありません。このドライバ オカレンスには最も大きい処理順序番号 (最も低い優先度) が指定されます。

注意: システム エレメント CURR_DRIVER_VAL には、エレメント割当またはポジティブ入力に対応する累計ドライバ インスタンスがある場合にのみ、値が入力されます。対応する累計インスタンスがない場合には、CURR_DRIVER_VAL の値は 0 (ゼロ) になります。そのため、ドライバ インスタンスのない支給/控除割当またはポジティブ入力のデータを入力する際には、"ベース" や "金額" の値を入力する必要があります。上記の例の場合では、州 4、州 5、州 6 の入力には、"ベース" または "金額" の値が必要です。

エレメントの資格の定義

このセクションでは、エレメントの資格の概要および資格に関する追記事項について説明します。

エレメントの資格について

複数変換の場合にも、標準のエレメント資格ルールが適用されます。ただし、エレメントが複数回変換される場合、およびエレメントに複数のユーザー フィールド セットがある場合に、どのように資格が定義されるのかを考慮することが重要です。

支給または控除の資格の割り当ては、以下のいずれかの方法で定義できます。

- 有資格グループ

エレメントの資格が **"有資格グループ"** の場合、単に受給者に割り当てられた有資格グループに含まれることによって、エレメントが処理されます。受給者に割り当てられた有資格グループに支給/控除が含まれていない場合、複数の支給/控除割当があるかどうか、またはドライバが定義されているかどうかに関係なく、受給者はその支給または控除に対する変換資格を持ちません。

- 受給者

エレメントの資格が **"受給者"** の場合、支給/控除割当またはポジティブ入力のみが変換される資格を持ちます。これは、ドライバまたはドライバ インスタンスがエレメントにあるかどうかに関係なく適用されます。

注意: 資格は、スライスまたはセグメント別に決定されます。たとえば、控除のエレメントの資格が **"受給者"** に定義され、分割カレンダーの最初のセグメントに控除のポジティブ入力がある場合、控除は最初のセグメントでのみ処理されます。

標準の資格ルールに加えて、以下の追加ルールが適用されます。

ユーザー フィールドのある支給または控除の資格は、そのユーザー フィールド セットのみに適用されます。つまり、エレメント割当の [適用] チェック ボックスをオフにしたり、またはポジティブ入力の [処理しない] を選択したりすると、該当するユーザー フィールド セットの処理のみがオフになります。

以下に挙げる例で、上記のルールを示します。

例 1: エレメント割当の場合の資格

ローン回収控除には、次の支給/控除割当があります。

注意: 以下の例では、支給/控除割当は **"E/D 割当"** と略して表記してあります。

	E/D 割当 (適用 = オン)	E/D 割当 (適用 = オフ)
エレメント名	LOAN PAYBACK	LOAN PAYBACK
インスタンス番号	1	2
金額	100	250
ユーザー フィールド (ローン目的)	Car	Mobile

この控除では 1 つのインスタンスが変換されます。

変換番号	金額	ローン目的	上書きソース
1	100	Car	エレメント割当 (適用 = オン)

例 2: ポジティブ入力の場合の資格

州税控除には、次のポジティブ入力があります。

注意: 以下の例では、ポジティブ入力は **"PI"** と略して表記してあります。

	PI (上書き)	PI (処理しない)
エレメント名	State Tax	State Tax
インスタンス番号	1	2
金額	350	500
ユーザー フィールド (州)	州 1	州 2

この控除では 1 つのインスタンスが変換されます。

変換番号	金額	州	上書きソース
1	350	州 1	ポジティブ入力上書き

関連項目:

第 14 章、「組織構造の定義」、エレメント グループへのエレメントの挿入、524 ページ

資格に関する追記事項

複数割当 (たとえば、差し押さえとローンなど) の結果として複数回変換されるエレメントに対しては、エレメントの資格を **"受給者"** に設定することをお勧めします。累計ドライバ インスタンスの結果として複数回変換されるエレメントに対しては、エレメントの資格を **"有資格グループ"** に設定することをお勧めします。ドライバ累計インスタンスに基づいて変換するように設定された支給/控除エレメントの資格を **"受給者"** として定義した場合、割り当てが行われるか、または **"追加"** アクションタイプのポジティブ入力がない限り、エレメントは変換されません。

例: ドライバ累計を使用する控除の資格が **"受給者"** として定義されている場合

州税控除のエレメント資格は **"受給者"** に設定されています。

州税控除には、ベース×パーセントの計算ルールが定義されています。パーセントは、州課税対象総額 (State Taxable Gross) の 10 パーセントとして定義されています。

"State Taxable Gross" 累計にはベースが保持されており、この累計に基づいて税控除が**実行**されます。

このドライバ累計には 1 つのインスタンスがあります。

ドライバ累計名	ユーザー フィールド (州)	結果値
State Taxable Gross	州 1	6000

州税控除に入力された割り当ては、以下のとおりです。

計算ルール	上書き値
インスタンス番号	1
パーセント	入力なし
ベース	入力なし
ユーザー フィールド (州)	州 1

エレメントの計算ルールに定義されているパーセントとベース ($10\% \times 6000 = 60$) を使用して、州 1 の控除のインスタンスが 1 つ変換されます。

注意: 上記の例では、エレメント割当てがなかった場合は、税控除は行われません。資格が **"受給者"** に指定されている場合、エレメントを変換するためには、支給/控除割当てまたは **"追加"** ポジティブ入力が必要です。

エレメントが複数変換される場合の計算ルールのコンポーネントの定義

支給または控除を作成する際に、受給者レベルでエレメントの金額または計算ルールのコンポーネントを定義できます。この場合、エレメント割り当てのページまたはポジティブ入力のページで、金額またはコンポーネントの値を入力する必要があります。入力が行われなかった場合、エレメントは変換されません。

ただし、複数回変換されるエレメントの場合は、受給者レベルの入力を行う前に、以下のことを考慮する必要があります。

- 受給者レベルの入力を必要とする複数変換を設定すると、受給者に対する金額またはコンポーネントの値が定義されるまで、エレメントは処理されません。
- 受給者レベルの入力を指定したエレメントにドライバ累計のインスタンスがある場合、ユーザー フィールド値の一致するエレメント割当またはポジティブ入力があるときだけ、そのエレメントが処理されます (欠落したコンポーネントの値を提供できる、対応するポジティブ入力またはエレメント割当のないドライバ累計インスタンスは無視されます)。したがって、エレメントが処理されない状況もあり得ます。

関連項目:

第 18 章、「上書きの設定」、655 ページ

第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、615 ページ

複数変換を伴う分割について

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- 累計ドライバを使用する場合と使用しない場合のエレメント分割
- エレメント分割の比例配分
- ユーザー フィールド セットが定義されている場合の分割カレンダーでのポジティブ入力
- エレメント分割がある場合のユーザー フィールド セットへの値の入力およびユーザー フィールド セットの処理
- 分割がある場合の処理順序の定義

累計ドライバを使用する場合と使用しない場合のエレメント分割

ドライバとして使用される累計がスライスされる際には、以下のルールが適用されます。

- ドライバ累計がスライスされると、ドライバ実行対象の支給または控除が自動的にスライスされます。

ドライバ実行対象の支給または控除がスライスされると、支給または控除の各スライスにはそのドライバの値が適用されます。このドライバによって、支給または控除の各スライスの複数変換を行うことができます。

- 支給および控除によって、一致するスライス日を持つ累計インスタンスが使用されます。

一致するものがない場合は、支給または控除のスライス日を含むスライス日を持つ累計インスタンスが使用されます。

例 1: 累計ドライバを使用しない支給および控除のエLEMENT分割

累計 "AC1" は、ELEMENTの分割イベント定義のリストに含まれています。

AC1 には、支給 E1、E2、および E3 というメンバーがあります。

これらの支給は、累計と共に、分割イベント定義のリストに自動的に含まれます。

AC1、E1、E2、および E3 は、分割トリガが発生するとスライスされます。

分割トリガは 1 月 15 日に定義されていて、支給期間は月次であると想定します。

E1 の金額は 700、E2 は 1000、および E3 は 1500 です。

次の表には、支給の結果が含まれています。

支給	インスタンス	スライス番号	スライス日	金額
E1	1	1	1 月 1 日～ 14 日	350
E1	2	2	1 月 15 日～ 31 日	350
E2	1	1	1 月 1 日～ 14 日	500
E2	2	2	1 月 15 日～ 31 日	500
E3	1	1	1 月 1 日～ 14 日	750
E3	2	2	1 月 15 日～ 31 日	750

次の表には、累計の結果が含まれています。

累計	インスタンス番号	スライス番号	スライス日	金額
AC1	1	1	1 月 1 日～ 14 日	1600
AC1	2	2	1 月 15 日～ 31 日	1600

例 2: 累計ドライバを使用する支給および控除のエLEMENT分割

累計 "AC1" は、ELEMENTの分割イベント定義のリストに含まれています。

AC1 には、支給 E1、E2、および E3 というメンバーがあります。

これらの支給は、累計と共に、分割イベント定義のリストに自動的に含まれます。

AC1 は、控除 "D1" のドライバ累計です。

ドライバ累計 "AC1" がスライスされると、ドライバ実行対象の控除 (D1) も自動的にスライスされます。

"州" は、AC1 のユーザー キーであると共に、D1 のユーザー フィールドでもあります。

D1 は、ベース×パーセントとして定義されています (パーセントは、各州で同じであるとしします)。

ベースは CURR_DRIVER_VAL で、パーセントは 15 パーセントです。

注意: CURR_DRIVER_VAL は、ELEMENTの計算にドライバ累計が使用されている場合に、ドライバ累計の現在値を取得する標準装備のシステム ELEMENTです。このシステム ELEMENTとその他のシステム ELEMENTについては、この章で後述します。

参照: 第 20 章、「支給または控除の複数変換」、システム ELEMENTの使い方、810 ページ。

分割トリガは 1 月 15 日に定義されていて、支給期間は月次であると想定します。

E1 の金額は 700、E2 は 1000、および E3 は 1500 です。

次の表には、支給の結果が含まれています。

支給	インスタンス	スライス番号	スライス日	金額	ユーザー フィールド
E1	1	1	1 月 1 日～ 14 日	175	州 1
E1	2	2	1 月 15 日～ 31 日	175	州 1
E1	3	1	1 月 1 日～ 14 日	175	州 2

支給	インスタンス	スライス番号	スライス日	金額	ユーザー フィールド
E1	4	2	1 月 15 日～ 31 日	175	州 2
E2	1	1	1 月 1 日～ 14 日	250	州 1
E2	2	2	1 月 15 日～ 31 日	250	州 1
E2	3	1	1 月 1 日～ 14 日	250	州 2
E2	4	2	1 月 15 日～ 31 日	250	州 2
E3	1	1	1 月 1 日～ 14 日	375	州 1
E3	2	2	1 月 15 日～ 31 日	375	州 1
E3	3	1	1 月 1 日～ 14 日	375	州 2
E3	4	2	1 月 15 日～ 31 日	375	州 2

次の表は、累計の結果を示しています。

累計	インスタンス番 号	スライス番号	スライス日	金額	ユーザー フィー ルド
AC1	1	1	1 月 1 日～ 14 日	800	州 1
AC1	2	2	1 月 15 日～ 31 日	800	州 1
AC1	3	1	1 月 1 日～ 14 日	800	州 2

累計	インスタンス番号	スライス番号	スライス日	金額	ユーザー フィールド
AC1	4	2	1 月 15 日～ 31 日	800	州 2

次の表は、控除の結果を示しています。

控除	インスタンス番号	スライス番号	スライス日	金額	ユーザー フィールド
D1	1	1	1 月 1 日～ 14 日	120	州 1
D1	2	2	1 月 15 日～ 31 日	120	州 1
D1	3	1	1 月 1 日～ 14 日	120	州 2
D1	4	2	1 月 15 日～ 31 日	120	州 2

エレメント分割の比例配分

累計ドライバの実行対象となる支給または控除を設定する際に、比例配分を正しく定義しないと、予期しない結果を招く可能性があります。

たとえば、分割イベント リストにドライバ累計を含めた場合、そのドライバ実行対象のエレメントを比例配分する必要はありません。これは、ドライバ累計がスライスされると、累計メンバーとドライバ実行対象のエレメントの両方が自動的にスライスされるためです。分割イベント リストに累計ドライバを含めず、ドライバ実行対象のエレメントを含めた場合、累計ドライバとドライバ実行対象のエレメントは均等にスライスされず、同期はとられません。このような状況では、ドライバ実行対象のエレメントを比例配分する必要があります。

例: 累計ドライバを使用する支給および控除のエレメント分割 (累計ドライバが分割イベント定義のリストに含まれていない場合)

AC1 は、控除 "D1" のドライバ累計です。

AC1 はエレメントの分割イベント定義のリストに含まれていませんが、D1 は含まれています (分割があると、D1 のみがスライスされます)。

AC1 には、支給 E1、E2、および E3 というメンバーがあります。

"州" は、AC1 のユーザー キーであり、D1 のユーザー フィールドです。

D1 は、ベース×パーセントとして定義されています (パーセントは、各州で同じであるとし
ます)。

ベースは CURR_DRIVER_VAL で、パーセントは 15 パーセントです。

注意: CURR_DRIVER_VAL は、エレメントの計算にドライバ累計が使用されている場合に、ドライバ累計の現在値を取得する標準装備のシステム エレメントです。このシステム エレメントとその他のシステム エレメントについては、この章で後述します。

参照: 第 20 章、「支給または控除の複数変換」、システム エレメントの使い方、810 ページ。

分割トリガは 1 月 15 日に定義されていて、支給期間は月次であると想定します。

E1 の金額は 700、E2 は 1000、および E3 は 1500 です。

次の表には、支給の結果が含まれています。

支給	インスタンス番号	金額	ユーザー フィールド
E1	1	350	州 1
E1	2	350	州 2
E2	1	500	州 1
E2	2	500	州 2
E3	1	750	州 1
E3	2	750	州 2

次の表には、累計の結果が含まれています。

累計	インスタンス番号	スライス日	金額	ユーザー フィールド
AC1	1	1 月 1 日～ 31 日	1600	州 1
AC1	2	1 月 1 日～ 31 日	1600	州 2

次の表は、比例配分がオフの場合の控除の結果を示しています。

控除	インスタンス番号	スライス番号	スライス日	金額	ユーザー フィールド
D1	1	1	1 月 1 日～ 14 日	240	州 1
D1	2	2	1 月 15 日～ 31 日	240	州 1
D1	3	1	1 月 1 日～ 14 日	240	州 2
D1	4	2	1 月 15 日～ 31 日	240	州 2

注意: 比例配分がオフの場合は、結果が水増しされます。

次の表は、比例配分がオンの場合の控除の結果を示しています。

控除	インスタンス番号	スライス番号	スライス日	金額	ユーザー フィールド
D1	1	1	1 月 1 日～ 14 日	120	州 1
D1	2	2	1 月 15 日～ 31 日	120	州 1
D1	3	1	1 月 1 日～ 14 日	120	州 2
D1	4	2	1 月 15 日～ 31 日	120	州 2

関連項目:

[第 32 章、「分割の定義」、比例配分と分割、1208 ページ](#)

ユーザー フィールド セットが定義されている場合の分割カレンダーでのポジティブ入力

ポジティブ入力分割カレンダーに入力されていると、通常、セグメントはポジティブ入力によって上書きされます。ただし、ユーザー フィールド セットが定義されている場合には、ポジティブ入力のユーザー フィールド セットに基づいて上書きが行われます。つまり、ポジティブ入力と同じユーザー フィールド セットを持つ支給または控除のセグメントだけが上書きされます。異なるユーザー フィールド セットを持つ支給または控除のその他の変換 (ドライバ インスタンスによるものか、エレメント割当によるものか) には、エレメント分割が適用されます。

関連項目:

第 32 章、「分割の定義」、1189 ページ

第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、分割に関する注意事項、624 ページ

エレメント分割がある場合のユーザー フィールド セットへの値の入力

支給または控除にエレメント分割が定義されている場合には、スライスごとにユーザー フィールド セットが決められます。

ユーザー フィールドの値がエレメント割当からのものか、ポジティブ入力からのものか、またはドライバ累計からのものかに応じて、以下のように値が割り当てられます。

- **ユーザーフィールドの値がエレメント割当からのものである場合:** エレメント割当は、通常はセグメント内の全てのスライスに適用され、エレメント割当に関連付けられているユーザー フィールドの値も、そのセグメント内の全てのスライスに適用されます。ただし、エレメント分割をその開始日と終了日に基づいてトリガするようにシステムを設定していると、ユーザー フィールドの値はスライスごとに異なる値になる可能性があります。

参照: 第 18 章、「上書きの設定」、受給者上書きと分割、660 ページ。

- ユーザー フィールドの値がポジティブ入力からのものである場合:** ポジティブ入力は、常に特定のスライスまたはセグメントをターゲットとします。ポジティブ入力の終了日によって、ポジティブ入力が適用されるスライスまたはセグメントが決定され、そのスライスまたはセグメントのみにユーザー フィールド セットが適用されます。たとえば、支給が 2 つのセグメントに分割されており、1 つ目のセグメントの開始日と終了日は 6 月 1 日と 6 月 15 日、2 つ目のセグメントの開始日と終了日は 6 月 16 日と 6 月 30 日であるとしします。終了日が 6 月 10 日の支給に対してポジティブ入力を入力すると、このポジティブ入力は支給期間の 1 つ目のセグメントに分類され、ポジティブ入力に関連付けられているユーザー フィールドは、そのセグメントにのみ適用されます。

参照: 第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、分割に関する注意事項、624 ページおよび第 20 章、「支給または控除の複数変換」、ユーザー フィールド セットが定義されている場合の分割カレンダーでのポジティブ入力、775 ページ。

- ユーザー フィールドの値がドライバ累計からのものである場合:** ドライバ累計のインスタンスには、ドライバ累計に関連付けられたユーザー キーの値が含まれます。ドライバ累計が分割イベント リストに含まれているかどうかに応じて、スライス日またはセグメント日のどちらかがインスタンスに割り当てられます。ドライバの各スライスまたは各セグメントのユーザー キーの値は、支給または控除の、対応するセグメントまたはスライスに適用されます。

例 1: 支給/控除割当の使用されているエレメント分割 (全てのユーザー フィールドが支給/控除割当ページで上書きとして入力されている場合)

控除 "D1" は、分割イベントのエレメント リストに含まれています。

この控除には、累計ドライバは指定されていません。

給与計算は、月次で実行されます。

有効日が 6 月 16 日の分割トリガが作成されます。

全てのユーザー フィールドは、エレメント割り当てのページで上書きとして入力されています。

次の表は、この控除の控除割当を示しています。

注意: 以下の例では、支給/控除割当は "E/D 割当" と略して表記してあります。

	E/D 割当	E/D 割当	E/D 割当
エレメント名	D1	D1	D1
インスタンス番号	1	2	3

	E/D 割当	E/D 割当	E/D 割当
処理順序	10	20	30
金額	1000	500	600
ユーザー フィールド 1 (州)	州 1	州 2	州 1
ユーザー フィールド 2 (会社)	AAA	AAA	AAA

この控除では、6 つのインスタンスが、以下の順序で変換されます。

変換番号	スライス番号	スライス日	金額	ユーザー フィールド 1 (州)	ユーザー フィール ド 2 (会社)	上書きソース
1	1	6 月 1 日～ 15 日	500	州 1	AAA	エレメント割当
2	2	6 月 16 日 ～ 30 日	500	州 1	AAA	エレメント割当
3	1	6 月 1 日～ 15 日	250	州 2	AAA	エレメント割当
4	2	6 月 16 日 ～ 30 日	250	州 2	AAA	エレメント割当
5	1	6 月 1 日～ 15 日	300	州 1	AAA	エレメント割当
6	2	6 月 16 日 ～ 30 日	300	州 1	AAA	エレメント割当

この例では、各変換のユーザー フィールド セットはエレメント割当によって入力され、両方のスライスに均等に適用されます。

例 2: 支給/控除割当の使用されているエレメント分割 (全てのユーザー フィールドが支給/控除割当ページで上書きとして入力されているわけではない場合)

控除 "D1" は、分割イベントのエレメント リストに含まれています。

この控除には、累計ドライバは指定されていません。

給与計算は、月次で実行されます。

有効日が 6 月 16 日の分割トリガが作成されます。

全てのユーザー フィールドが、エレメント割り当てのページで上書きとして入力されているわけではありません。"会社" ユーザー フィールドの値は、フォーミュラによって決定されます。このフィールドには、各スライスごとに異なる値が入ります。

次の表は、この控除の控除割当を示しています。

注意: 以下の例では、支給/控除割当は "**E/D 割当**" と略して表記してあります。

	E/D 割当	E/D 割当	E/D 割当
エレメント名	D1	D1	D1
インスタンス番号	1	2	3
処理順序	10	20	30
金額	1000	500	600
ユーザー フィールド 1 (州)	州 1	州 2	州 1

この控除では、6 つのインスタンスが、以下の順序で変換されます。

変換番号	スライス番号	スライス日	金額	ユーザー フィールド 1 (州)	ユーザー フィールド 2 (会社)	上書きソース
1	1	6 月 1 日～ 15 日	500	州 1	AAA	エレメント割当
2	2	6 月 16 日 ～ 30 日	500	州 1	ZZZ	エレメント割当
3	1	6 月 1 日～ 15 日	250	州 2	AAA	エレメント割当
4	2	6 月 16 日 ～ 30 日	250	州 2	ZZZ	エレメント割当

変換番号	スライス番号	スライス日	金額	ユーザー フィールド 1 (州)	ユーザー フィールド 2 (会社)	上書きソース
5	1	6 月 1 日～ 15 日	300	州 1	AAA	エレメント割当
6	2	6 月 16 日 ～ 30 日	300	州 1	ZZZ	エレメント割当

エレメント割当として入力されていないユーザー フィールドの値は、スライスごとに決定され、スライスごとに異なります。

例 3: ポジティブ入力の使用されているエレメント分割 (全てのユーザー フィールドがポジティブ入力ページで上書きとして入力されている場合)

控除 "D1" は、分割イベントのエレメント リストに含まれています。

この控除には、累計ドライバは指定されていません。

給与計算は、月次で実行されます。

有効日が 6 月 16 日の分割トリガが作成されます。

全てのユーザー フィールドが、ポジティブ入力のページで上書きとして入力されます。

全てのポジティブ入力には、開始日と終了日が指定されています。

次の表は、この控除のポジティブ入力を示しています。

注意: 以下の例では、ポジティブ入力は "PI" と略して表記してあります。

	PI (上書き)	PI (上書き)
エレメント名	D1	D1
インスタンス番号	1	2
開始日	6 月 1 日	6 月 16 日
終了日	6 月 15 日	6 月 30 日
金額	1000	600

	PI (上書き)	PI (上書き)
ユーザー フィールド 1 (州)	州 1	州 2
ユーザー フィールド 2 (会社)	AAA	ZZZ

この控除では、2 つのインスタンスが、以下の順序で変換されます。

変換番号	スライス番号	スライス日	金額	ユーザー フィールド 1 (州)	ユーザー フィールド 2 (会社)	上書きソース
1	1	6 月 1 日～ 15 日	1000	州 1	AAA	ポジティブ入力
2	2	6 月 16 日～ 30 日	600	州 2	ZZZ	ポジティブ入力

変換 1 (スライス 1) では、ポジティブ入力インスタンス 1 で定義されたデータが使用され、変換 2 (スライス 2) では、ポジティブ入力インスタンス 2 で定義されたデータが使用されます。

分割がある場合の処理順序の定義

分割カレンダーには、分割されていないカレンダーでエレメント割当て、ポジティブ入力とドライバ インスタンスと共に発生する際に適用される処理順序ルールと同じルールが適用されます (**スライス単位またはセグメント単位**で適用されるルールは除きます)。

以下に例を示します。

- 各**スライスまたはセグメント**では、支給/控除割当てがそれぞれ個別のユーザー フィールド セットの中で最初に計算され、支給/控除割当てによって、同じユーザー フィールド セットを持つポジティブ入力の処理順序が決定されます。
- 各**スライスまたはセグメント**では、支給/控除割当ての後に、同じユーザー フィールド セットを持つポジティブ入力インスタンス番号順に処理されます。

注意: ポジティブ入力によってエレメント割当てを上書きする場合、そのポジティブ入力は、上書きするエレメント割当ての処理順序を継承します。

- 次に、各**スライスまたはセグメント**では、同じユーザー フィールド セットを持たないポジティブ入力インスタンス番号順に処理されます。

- ポジティブ入力の処理後、エレメント割当またはポジティブ入力のユーザー フィールド セットが一致していないドライバ オカレンスが処理されます。

これらのルールは、各スライスまたはセグメント**内**のエレメントの処理順序に対してのみ適用されます。別のスライスやセグメント**間**での処理順序を決定する場合は、分割のソースとタイプに応じて (エレメント分割または期間分割)、以下で説明するいずれかのルールが適用されます。

- 割り当てられたエレメントが分割イベントのエレメント リストに含まれているためにスライスされる場合 (分割イベントによるエレメント分割):

この場合、割り当てられたエレメントは複数のスライスに分割されますが、各スライス内のエレメントには**同じ**処理順序番号 (場合によっては**同じ**ユーザー フィールドと他の割当データも) が適用されます。このケースでは、処理順序番号の最も小さい割当が最初に計算され、次に、同じユーザー フィールド セットを持つ全てのポジティブ入力インスタンスが**最初のスライスから最後のスライスまで** 1 スライスずつ処理されます。各スライスでは、ユーザー フィールド セットが発生し、その後で次のセットに移動します。たとえば、処理順序番号が 10、州がカリフォルニアのユーザー フィールドを持つ控除 D1 が、同じユーザー フィールド セットを持つポジティブ入力と共にスライス 1、スライス 2、スライス 3 の順に処理され、次に、処理順序番号が 20、州がネバダのユーザー フィールドを持つ控除 D1 が同じスライス順序で処理されます。同じユーザー フィールドを持たないポジティブ入力がある場合は、この後、スライス順ではなくインスタンス番号順に処理されます。

- 割り当てられたエレメントで、その開始日と終了日が支給期間の開始日と終了日と一致しないときにスライスをトリガするように設定している場合 (割当日に基づいたエレメント分割):

この場合、割当自体によってエレメント分割がトリガされます。また、支給期間の各スライスに同じエレメントに対する別の割当 (それぞれ独自の処理順序番号、ユーザー フィールド、およびその他の割当固有のデータを持つ) が存在する可能性があります。このケースでは、処理順序番号の最も小さい割当が最初に計算され、次に、同じユーザー フィールド セットを持つ全てのポジティブ入力インスタンスが**ポジティブ入力インスタンスの順**に 1 スライスずつ処理されます。各スライスでは、ユーザー フィールド セットが発生します。さらに、スライス内で処理順序番号が次に小さいエレメント割当が処理され、その後、同じユーザー フィールド セットを持つポジティブ入力がインスタンス番号順に処理されます。同じユーザー フィールドを持たないポジティブ入力がある場合は、この後、インスタンス番号順に処理されます。

参照: 第 20 章、「支給または控除の複数変換」、ユーザー フィールドのある場合の支給/控除割当とポジティブ入力のマッチング、745 ページおよび第 32 章、「分割の定義」、1189 ページ。

- 期間分割があり、割り当てられたエレメントを含む全てのエレメントが複数のセグメントに分割される場合:

この場合、エレメントはセグメント順に処理されます。つまり、セグメント 1 のエレメントが処理された後、セグメント 2 のエレメントが処理され、セグメント 2 のエレメントが処理された後、セグメント 3 のエレメントが処理されます。異なるセグメントの中にエレメント分割 (スライス) がある場合、分割が行われた理由に応じて、前の 2 つのルールのうちいずれかが適用されます。

参照: 第 32 章、「分割の定義」、1189 ページ。

例 1: 割り当てられたエレメントが分割イベント リストに含まれているためスライスされる場合 (全てのユーザー フィールドが支給/控除割当てで上書きとして入力されている場合)

控除 "D1" は、分割イベントのエレメント リストに含まれています。

この控除には、累計ドライバは指定されていません。

給与計算は、月次で実行されます。

4 月 11 日と 4 月 21 日の分割トリガが作成されます。これにより、そのエレメントについて支給期間が 3 つのスライスに分割されます。

割当は支給期間全体にわたります。

全てのユーザー フィールドは、エレメント割り当てのページで上書きとして入力されています。

次の表は、この控除の控除割当を示しています。

注意: 以下の例では、支給/控除割当は "**E/D 割当**" と略して表記してあります。

	E/D 割当	E/D 割当
エレメント名	D1	D1
インスタンス番号	1	2
処理順序	10	20
金額	900	600
ユーザー フィールド 1 (州)	州 1	州 2
ユーザー フィールド 2 (会社)	AAA	AAA

この控除では、6 つのインスタンスが、以下の順序で変換されます。

変換番号	スライス番号	スライス日	金額	ユーザー フィールド 1 (州)	ユーザー フィールド 2 (会社)	上書きソース
1	1	4 月 1 日～ 10 日	300	州 1	AAA	エレメント割当
2	2	4 月 11 日 ～ 20 日	300	州 1	AAA	エレメント割当
3	3	4 月 21 日 ～ 30 日	300	州 1	AAA	エレメント割当
4	1	4 月 1 日～ 10 日	200	州 2	AAA	エレメント割当
5	2	4 月 11 日 ～ 20 日	200	州 2	AAA	エレメント割当
6	3	4 月 21 日 ～ 30 日	200	州 2	AAA	エレメント割当

割当は、処理順序番号に従って (処理順序番号が最も小さい場合に優先度が最も高い) 変換され、ユーザー フィールド セットの中でスライス 1、スライス 2、スライス 3 の順に処理された後、次のユーザー フィールド セットに移動します。

例 2: エレメント分割が支給/控除割当によって直接トリガされる場合 (ユーザー フィールドを持つポジティブ入力、全てのユーザー フィールドが支給/控除割当とポジティブ入力で上書きとして入力されている場合)

控除 D1 は、開始日と終了日が期間の開始日と終了日と一致しない受給者に割り当てられると、エレメント分割 (および比例配分) をトリガするように設定されています。

控除 D1 は、開始日と終了日が 4 月 16 日～ 30 日の受給者に最初に割り当てられます。次に、控除 D 1 は、開始日と終了日が 4 月 1 日～ 15 日の同じ受給者に割り当てられます。これにより、支給期間は 2 つのスライスに分割されます。

2 つ目の割当の開始日と終了日の方が最初の割当の開始日と終了日より早い場合でも、最初の割当の処理順序番号は、2 つ目の割当の処理順序番号より小さくなります。

D1 のポジティブ入力は、両方のスライス (4 月 1 日～ 15 日、4 月 16 日～ 30 日) にあります。

ユーザー フィールドには全てのエレメント割当とポジティブ入力に関連付けられています。

注意: 以下の例では、支給/控除割当は "**E/D 割当**"、ポジティブ入力は "**PI**" と略して表記してあります。

	E/D 割当	E/D 割当	PI (追加)	PI (上書き)	PI (追加)
エレメント名	D1	D1	D1	D1	D1
インスタンス番号	2	1	1	2	3
処理順序	20	10	該当なし	該当なし	該当なし
開始日と終了日	4 月 1 日～ 15 日	4 月 16 日～ 30 日	4 月 1 日～ 15 日	4 月 1 日～ 15 日	4 月 16 日～ 30 日
金額	1000	500	600	200	400
ユーザー フィールド 1 (州)	州 1	州 2	州 2	州 1	州 2

この控除では、4 つのインスタンスが、以下の順序で変換されます。

変換番号	スライス番号	スライス日	金額	ユーザー フィールド 1 (州)	上書きソース
1	2	4 月 16 日～ 30 日	250	州 2	エレメント割当
2	1	4 月 1 日～ 15 日	600	州 2	ポジティブ入力
3	2	4 月 16 日～ 30 日	400	州 2	ポジティブ入力
4	1	4 月 1 日～ 15 日	200	州 1	ポジティブ入力

この例では、処理順序番号が最も小さいエレメント割当は、スライス 2 にあるユーザー フィールドの値が州 2 の割当で、この割当が最初に処理されます。次に、金額 600 の最初のスライスの同じユーザー フィールド セットを持つポジティブ入力 **"追加"** 行が処理され、次に同じユーザー フィールド セットを持つ金額 400 のポジティブ入力 **"追加"** 行が処理されます (ユーザー フィールド セットの全てのスライスがポジティブ入力インスタンス順に 1 つずつ処理されます)。最後に、スライス 1 の一致するエレメント割当の処理順序番号 (20) に基づいて、このスライスの 200 のポジティブ入力上書きが処理されます。

ユーザー フィールド セットが異なる複数の変換がある場合の補足ルール インスタンスの作成

補足ルールとは、既存のエレメント割当の開始日と終了日が支給期間の一部しか含まない場合に、その割当を**補足する**ために自動的に変換される支給または控除です。

このセクションでは、以下について説明します。

- 支給または控除に対して複数のエレメント割当とポジティブ入力があり、その支給または控除にユーザー フィールドの値が関連付けられている場合に、補足ルール インスタンスを作成します。
- エレメント割当とポジティブ入力に関連する補足ルール インスタンスの処理順序を定義します。

重要: このセクションは、「**上書きの設定**」の章の補足ルール インスタンスに関する情報を補足するものです。このセクションを読む前に、「**上書きの設定**」の章を確認する必要があります。

参照: 第 18 章、「**上書きの設定**」、補足ルール インスタンスの作成、707 ページ。

ユーザー フィールド セットを持つエレメント割当とポジティブ入力が複数存在する場合の補足ルール インスタンスの作成

補足ルール インスタンスは、「**上書きの設定**」の章で説明される特定の条件下でのみ作成され、割当にユーザー フィールド セットが関連付けられているときは、ユーザー フィールドが存在しない場合に適用される、補足ルールの作成に関する同様の基本条件が適用されます。

さらに、特定のエレメント割当に対する補足ルール インスタンスを作成するには、以下の条件を満たしている必要があります。

1. 任意の支給期間スライスにある同じユーザー フィールド セットについて、アクション タイプが **"上書き"**、**"ゼロにする"**、または **"処理しない"** のポジティブ入力が存在しない。これらが存在すると、補足ルールを作成できません。
2. 補足ルール インスタンスの作成が試行される同じスライスに既に値を設定済みの、アクション タイプが **"上書き"** または **"ゼロにする"** のポジティブ入力が存在しない。このポジティブ入力に補足ルールと同じユーザー フィールド セットが存在するかどうかは関係ありません。

注意: 同じエレメントが複数回割り当てられる場合でも、割り当てられるエレメントに対して、補足ルール インスタンスは任意のスライスで 1 つしか作成されず、割りごとにユーザー フィールド セットは異なります。たとえば、支給期間のスライス 1 で同じ控除を 5 回割り当ててる場合、それぞれの割当に異なるユーザー フィールド セットを適用しても、スライス 2 で補足ルール インスタンスは 1 つしか作成されません。

例: 同じ、または異なるユーザー フィールド セットを持つ複数の割当によって単一の補足ルール インスタンスの作成をトリガする場合

支給エレメント E1 に 2 つの割当があり (計算ルールは、レート×ユニット×パーセント)、これらの割当には同じユーザー フィールド セットがあるとします。エレメント割当の開始日と終了日は、それぞれ 6 月 1 日と 6 月 15 日です。

注意: この例では、エレメント割り当ては **"割り当て"** と略して表記してあります。

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	割り当て (インスタンス 2) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	スライス 2: 6 月 16 日～ 30 日
ユニット	5	2	4	
レート	50	60	60	
パーセント	150	100	100	
ユーザー フィールド (州)	ネバダ	カリフォルニア	カリフォルニア	

割当の開始日と終了日に基づいて、カレンダー内に 2 つのスライス (スライス 1 = 6 月 1 日～ 15 日、スライス 2 = 6 月 16 日～ 30 日) が作成されます。

E1 は以下のように変換されます。

1. スライス 1 (6 月 1 日～ 15 日) で : $2 \times 60 \times 100\% \times .5$ (比例配分係数) = 60

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	割り当て (インスタンス 2) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	スライス 2: 6 月 16 日～ 30 日
ユニット	5	2		
レート	50	60		
パーセント	150	100		
ユーザー フィールド (州)	ネバダ	カリフォルニア		

2. スライス 1 (6 月 1 日～ 15 日) で : $4 \times 60 \times 100\% \times .5$ (比例配分係数) = 120

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	割り当て (インスタンス 2) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	スライス 2: 6 月 16 日～ 30 日
ユニット	5		4	
レート	50		60	
パーセント	150		100	
ユーザー フィールド (州)	ネバダ		カリフォルニア	

3. スライス 2 (6 月 16 日～ 31 日) で : $5 \times 50 \times 150\% \times .5$ (比例配分係数) = 125

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	割り当て (インスタンス 2) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	補足ルール スライス 2: 6 月 16 日～ 30 日
ユニット	5			5
レート	50			50
パーセント	150			150

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	割り当て (インスタンス 2) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	補足ルール スライス 2: 6 月 16 日～ 30 日
ユーザー フィールド (州)	ネバダ			ネバダ

ルール定義 (支給定義コンポーネントで指定された支給の定義) に戻することで、スライス 2 (6 月 16 日～ 30 日) に E1 の補足ルール インスタンスが 1 つ作成されます。2 つの支給割当に対して 1 つの補足ルールのみ作成されます。

例: あるスライスでのポジティブ入力の "上書き" により別のスライスでの補足ルールが作成されない

控除 D1 は、受給者に割り当てられるとエレメント分割 (および比例配分) をトリガするように設定されています。

D1 は、開始日と終了日が 6 月 1 日～ 15 日の受給者に割り当てられます。

開始日と終了日が 6 月 1 日と 6 月 15 日の D1 にはポジティブ入力上書きがあります。

ポジティブ入力上書きとルール定義で同じユーザー フィールド値を共有します。

注意: この例では、エレメント割り当ては **"割り当て"**、ポジティブ入力は **"PI"**、アクション タイプが上書きのポジティブ入力は **"上書き"** と省略されています。

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	PI (上書き) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	スライス 2: 6 月 16 日～ 30 日
ユニット	5	2	4	
レート	50	60	60	
パーセント	150	100	100	
ユーザー フィールド (州)	ネバダ	カリフォルニア	ネバダ	

割当の開始日と終了日に基づいて、カレンダー内に 2 つのスライス (スライス 1 = 6 月 1 日～ 15 日、スライス 2 = 6 月 16 日～ 30 日) が作成されます。

E1 は以下のように変換されます。

1. スライス 1 (6 月 1 日～ 15 日) で : $2 \times 60 \times 100\% \times .5$ (比例配分係数) = 60

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	PI (上書き) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	スライス 2: 6 月 16 日～ 30 日
ユニット	5	2		
レート	50	60		
パーセント	150	100		
ユーザー フィールド (州)	ネバダ	カリフォルニア		

2. スライス 1 (6 月 1 日～ 15 日) で : $4 \times 60 \times 100\% \times .5$ (比例配分係数) = 120

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	PI (上書き) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	スライス 2: 6 月 16 日～ 30 日
ユニット	5		4	
レート	50		60	
パーセント	150		100	
ユーザー フィールド (州)	ネバダ		ネバダ	

2. スライス 2 (6 月 16 日～ 30 日) : 補足ルール変換なし

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	PI (上書き) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	補足ルール スライス 2: 6 月 16 日～ 30 日
ユニット	5			補足ルール変換なし
レート	50			

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	PI (上書き) スライス 1: 6 月 1 日～ 15 日	補足ルール スライス 2: 6 月 16 日～ 30 日
パーセント	150			
ユーザー フィールド (州)	ネバダ			

スライス 1 (6 月 1 日～ 15 日) のポジティブ入力上書きにより、スライス 2 (6 月 16 日～ 30 日) には補足ルールが作成されません。その理由は、ポジティブ入力上書きには、控除定義コンポーネントで入力されたルール定義に基づいてスライス 2 への作成が試行されるルール インスタンスと同じユーザー フィールド値 (ネバダ) があるからです。

例: ポジティブ入力の "上書き" により同じスライスでの補足ルール インスタンスが作成されない

控除 D1 は、受給者に割り当てられるとエレメント分割 (および比例配分) をトリガするように設定されています。

D1 は、開始日と終了日が 6 月 1 日～ 10 日の受給者に割り当てられます。その結果、有効日が 6 月 11 日の分割トリガが作成されます。

分割トリガは給与レートの変更に伴って作成され、控除 D1 は分割イベント リストに含まれており、トリガの有効日は 6 月 21 日です。

開始日と終了日が 6 月 11 日と 6 月 20 日の D1 にはポジティブ入力上書きがあります。

ポジティブ入力上書きとルール定義で同じユーザー フィールド値を共有しません。

注意: この例では、エレメント割り当ては **"割り当て"**、ポジティブ入力は **"PI"**、アクション タイプが上書きのポジティブ入力は **"上書き"** と省略されています。

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日～ 10 日	PI (上書き) スライス 2: 6 月 11 日～ 20 日	スライス 3: 6 月 21 日～ 30 日
ユニット	3	3	4	
レート	50	60	60	
パーセント	150	100	100	

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日～ 10 日	PI (上書き) スライス 2: 6 月 11 日～ 20 日	スライス 3: 6 月 21 日～ 30 日
ユーザー フィールド (州)	ネバダ	カリフォルニア	テキサス	

控除割当の開始日と終了日、追加の分割イベントに基づいて、カレンダーに 3 つのスライス (スライス 1 = 6 月 1 日～ 10 日、スライス 2 = 6 月 11 日～ 20 日、スライス 3 = 6 月 21 日～ 30 日) が作成されます。

D1 は次のように変換されます。

1. スライス 1 (6 月 1 日～ 15 日) で : $3 \times 60 \times 100\% \times .33$ (比例配分係数) = 60

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日～ 10 日	PI (上書き) スライス 2: 6 月 11 日～ 20 日	スライス 3: 6 月 21 日～ 30 日
ユニット	3	3		
レート	50	60		
パーセント	150	100		
ユーザー フィールド (州)	ネバダ	カリフォルニア		

スライス 1 では、支給/控除割当が変換されます。

2. スライス 2 (6 月 11 日～ 20 日) で : $4 \times 60 \times 100\% \times .33$ (比例配分係数) = 80

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日～ 10 日	PI (上書き) スライス 2: 6 月 11 日～ 20 日	スライス 3: 6 月 21 日～ 30 日
ユニット	3		4	
レート	50		60	
パーセント	150		100	

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日～ 10 日	PI (上書き) スライス 2: 6 月 11 日～ 20 日	スライス 3: 6 月 21 日～ 30 日
ユーザー フィールド (州)	ネバダ		テキサス	

スライス 2 の補足ルール インスタンスは処理されません。その理由は、補足ルールと同じ期間の上書きによってルールが変換されないからです。これは、上書き (ユーザー フィールド = テキサス) に補足ルールと同じユーザー フィールド セット (ユーザー フィールド = ネバダ) がなくても該当します。

2. スライス 3 (6 月 21 日～ 30 日) で : $3 \times 50 \times 150\% \times .33$ (比例配分係数) = 75

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) スライス 1: 6 月 1 日～ 10 日	PI (上書き) スライス 2: 6 月 11 日～ 20 日	補足ルール スライス 3: 6 月 21 日～ 30 日
ユニット	3			3
レート	50			50
パーセント	150			150
ユーザー フィールド (州)	ネバダ			ネバダ

ルール定義 (控除定義コンポーネントで指定された控除の定義) に戻ること、スライス 3 (6 月 21 日～ 30 日) に D1 の補足ルール インスタンスが 1 つ作成されます。

補足ルール インスタンスの処理順序について

前述した分割カレンダーの処理順序ルールに従って、補足ルール インスタンスにエレメント割当てとポジティブ入力組み合わせられている場合のユーザー フィールド セットの処理順序が決定されます。つまり、処理順序は支給/控除割当てによって継続的に決定されます。ただし、補足ルール インスタンスがある場合は、以下のルールも適用されます。

補足ルール インスタンスが作成されると、そのインスタンスの変換順序は、任意のスライスまたはセグメントの同じユーザー フィールド セットを持つエレメント割当て (ある場合) の処理順序番号によって決定されます。ただし、そのユーザー フィールド セットの中では、補足ルール インスタンスは、それが発生するスライスの順序に基づいて処理されます。

注意: 補足ルールと同じユーザー フィールド セットを持つ複数のエレメント割当がある場合、処理順序は常に、割当の中で最も小さい処理順序番号を使用して決定されます。

エレメント割当と補足ルール インスタンスでユーザー フィールドが一致していない場合、インスタンスはスライス順に処理され、前述の処理順序ルールに従って順序が決定されます。

以下に、上記のルールの適用例を挙げます。

例 1: エレメント割当で補足ルールと同じユーザー フィールドを共有する場合の処理順序

支給 E1 は、受給者に割り当てられるとエレメント分割 (および比例配分) をトリガするように設定されています。

E1 は、開始日 6 月 16 日、ユーザー フィールド "州" の値が "MO" の受給者に割り当てられます。金額は 3000、終了日は未定です。

E1 は、開始日 6 月 16 日、ユーザー フィールド "州" の値が "AR" の同じ受給者に割り当てられます。金額は 3000、終了日は未定です。

ルール定義レベルで、E1 は、金額の計算ルールとユーザー フィールド "州" の値 "MO" を使用して定義されます。金額は 4000 です。

注意: この例では、エレメント割り当ては **"割り当て"** と略して表記してあります。

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) 処理順序番号 = 10 スライス 2: 6 月 16 日 ~ 30 日	割り当て (インスタンス 2) 処理順序番号 = 20 スライス 2: 6 月 16 日 ~ 30 日	
金額	4000	3000	2000	
ユーザー フィールド (州)	MO	MO	AR	

E1 の 3 つのインスタンスは、以下の順序で変換されます。

エレメント	インスタンス	割り当て (インスタンス)	金額	ユーザー フィールド	開始/終了日
E1	1	0	2000 (補足ルール インスタンス)	MO	6 月 1 日 ~ 15 日

エレメント	インスタンス	割り当て (インスタンス)	金額	ユーザー フィールド	開始/終了日
E1	2	1	1500	MO	6 月 16 日～ 30 日
E1	3	2	1000	AR	6 月 16 日～ 30 日

この例では、ユーザー フィールド セットが MO のエレメント割当の処理順序番号によって、一致する補足ルール インスタンスの処理順序が決定されます。このユーザー フィールド セットの中で、補足ルールおよび関連するエレメント割当は、それらが発生するスライスの順に処理されます (スライス 1、スライス 2 の順)。

例 2: エレメント割当で補足ルールと同じユーザー フィールドを共有する場合の処理順序

支給 E1 は、受給者に割り当てられるとエレメント分割 (および比例配分) をトリガするように設定されています。

E1 は、開始日 6 月 16 日、ユーザー フィールド "州" の値が "AR" の受給者に割り当てられます。金額は 3000、終了日は未定です。

E1 は、開始日 6 月 16 日、ユーザー フィールド "州" の値が "MO" の同じ受給者に割り当てられます。金額は 2000、終了日は未定です。

ルール定義レベルで、E1 は、金額の計算ルールとユーザー フィールド "州" の値 "MO" を使用して定義されます。金額は 4000 です。

注意: この例では、エレメント割り当ては "割り当て" と略して表記してあります。

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) 処理順序番号 = 10 スライス 2: 6 月 16 日～ 30 日	割り当て (インスタンス 2) 処理順序番号 = 20 スライス 2: 6 月 16 日～ 30 日	
金額	4000	3000	2000	
ユーザー フィールド (州)	MO	AR	MO	

E1 の 3 つのインスタンスは、以下の順序で変換されます。

エレメント	インスタンス	割り当て (インスタンス)	金額	ユーザー フィールド	開始/終了日
E1	1	0	2000 (補足 ルール イン スタンス)	MO	6 月 1 日～ 15 日
E1	2	1	1500	AR	6 月 16 日～ 30 日
E1	3	2	1000	MO	6 月 16 日～ 30 日

この例では、前の例と同様に、ユーザー フィールド セットが MO のエレメント割当の処理順序番号によって、一致する補足ルール インスタンスの処理順序が決定されます。このユーザー フィールド セットの中で、補足ルールおよび関連するエレメント割当は、それらが発生するスライスの順に処理されます (スライス 1、スライス 2 の順)。ただし、前の例とは異なり、この例では、エレメント割当のユーザー フィールド値と処理順序番号は元に戻ります。つまり、ユーザー フィールド値が AR の割当の処理順序番号は、ユーザー フィールド値が MO の割当より小さく (つまり、優先度が高く)、スライス順序についてはこの割当の方が最初に計算されます。

例 3: エレメント割当で補足ルールと同じユーザー フィールドを共有していない場合の処理順序

支給 E1 は、受給者に割り当てられるとエレメント分割 (および比例配分) をトリガするように設定されています。

E1 は、開始日 6 月 16 日、ユーザー フィールド "州" の値が "KS" の受給者に割り当てられます。金額は 3000、終了日は未定です。

E1 は、開始日 6 月 16 日、ユーザー フィールド "州" の値が "AR" の同じ受給者に割り当てられます。金額は 2000、終了日は未定です。

ルール定義レベルで、E1 は、金額の計算ルールとユーザー フィールド "州" の値 "MO" を使用して定義されます。金額は 4000 です。

注意: この例では、エレメント割り当ては **"割り当て"** と略して表記してあります。

コンポーネント	ルール定義	割り当て (インスタンス 1) 処理順序番号 = 10 スライス 2: 6 月 16 日～ 30 日	割り当て (インスタンス 2) 処理順序番号 = 20 スライス 2: 6 月 16 日～ 30 日	
金額	4000	3000	2000	
ユーザー フィールド (州)	MO	KS	AR	

E1 の 3 つのインスタンスは、以下の順序で変換されます。

エレメント	順序番号	割り当て (インスタンス)	金額	ユーザー フィールド	開始/終了日
E1	1	0	2000 (補足ルール インスタンス)	MO	6 月 1 日～ 15 日
E1	2	1	1500	KS	6 月 16 日～ 30 日
E1	3	2	1000	AR	6 月 16 日～ 30 日

この例では、エレメント割当と補足ルール インスタンスでユーザー フィールド セットは一致していません。補足ルールは、スライスの順序に従って割当より前に処理されます。また、ユーザー フィールドの値が "KS" の割当が処理された後、ユーザー フィールドの値が "AR" の割当が処理順序番号に基づいて処理されます。

複数回変換されるエレメントのデータの取得

支給または控除にユーザー フィールドがあり、複数のユーザー フィールド セットによって複数変換が行われる場合、特定のセグメントでエレメント値が返される際に、変換結果が合計されます。個々のユーザー フィールド インスタンスの値は返されません。

例: エレメントの各インスタンス値の合計

支給エレメント E2 には、ベース コンポーネントとして E1 が使用されます。

次の表で示すように、E1 は 1 つのセグメント内で複数回変換されます。

インスタンス番号	ユーザー フィールド (州)	金額	セグメント開始日	セグメント終了日
1	州 1	2000	2003/10/01	2003/10/31
2	州 2	1000	2003/10/01	2003/10/31
3	州 3	500	2003/10/01	2003/10/31

E2 にはベース コンポーネントとして E1 が使用されるとすると、E2 の変換の際には E1 の値として 3500 が返されます (2000 + 1000 + 500)。

注意: エレメントの各ユーザー フィールド インスタンスの値を使用する必要がある場合は、適切なユーザー キーを使用してセグメント累計を作成します。この例では、まず、ユーザー フィールド "州" を使用して E1 のセグメント累計を定義します。その後、E2 の定義でこのセグメント累計をベース コンポーネントとして使用します。

延滞の定義

ユーザー フィールドを持ち、延滞処理が定義されている控除エレメントには、次のルールが適用されます。

- 控除に関連付けられたユーザー フィールドは、自動作成延滞累計の累計キーのデフォルト値として自動的に設定されます。

これにより、ユーザー フィールド セットごとに延滞の追跡管理を行うことができます。

- 控除の延滞回収は、同じユーザー フィールドの値を持つインスタンスのみに適用されます。
- 延滞が定義されている控除がスライスされても変換されず、延滞回収のみが処理される場合、延滞回収は、カレンダー期間の各スライスではなくセグメント全体に適用されます。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、延滞と遡及処理について、 315 ページ

複数変換でのジェネレーション コントロールの使用

ジェネレーション コントロールは、エレメント定義レベルと支給/控除割当レベルの両方で設定することができます。ジェネレーション コントロールは、定義レベルに関係なく、インスタンスごとに考慮されます。受給者別エレメント割当ページまたはエレメント別受給者割当ページで、エレメントの各割り当てごとに異なるジェネレーション コントロール パラメータを定義できます。

注意: ジェネレーション コントロールは、ポジティブ入力によって上書きされます。つまり、エレメントのポジティブ入力がある場合には、ジェネレーション コントロール パラメータに関係なく、ポジティブ入力に変換されます。

注意: 遡及調整と延滞回収は、ジェネレーション コントロールの影響を受けず、常に処理されます。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、周期およびジェネレーション コントロールによる計算、 272 ページ

常時再計算オプションの使用

支給名ページおよび控除名ページ (GP_PIN) の [常時再計算] オプションは、インスタンスレベルではなく、エレメント レベルで適用されます。たとえば、ユーザー フィールド "州" の値が "カリフォルニア" に指定された控除インスタンスの [常時再計算] オプションをオンにして、ユーザー フィールド "州" の値が "ニューヨーク" に指定されたインスタンスの [常時再計算] オプションをオフにすることはできません。支給または控除が再計算に設定されている場合、最初の計算で得られた全ての変換結果は、再計算で得られた変換結果に置き換えられます。

[常時再計算] オプションがオンの場合は、以前に計算された値が変更される場合やユーザー フィールド セットが既に存在しない場合に累計と延滞の古い値がクリアされるように、エレメントを算入する累計が更新されます。

以下に挙げる例で、累計がどのように更新されるのかを示します。

注意: 支給または控除の再計算は、通常、エレメントがプロセス リストに複数回配置されていたり、純支給額確認プロセスが複数回実行されたりした場合に発生します。

例 1: エLEMENTの再計算でインスタンス数が変わるケース

控除 D1 は、累計 AC1 に加算されます。

AC1 に保存されている初期残高は、ゼロ (0) です。

プロセス リストで D1 が最初に検出された際に、この控除は 3 回変換されます。

インスタンス	変換済金額	ユーザー フィールド 1 (州)	ユーザー フィールド 2 (所在地)	スライス日
1	5000	州 1	所在地 1	1 月 1 日～ 31 日
2	1000	州 2	所在地 2	1 月 1 日～ 31 日
3	3500	州 3	所在地 3	1 月 1 日～ 31 日

D1 の各変換ごとに、対応する累計インスタンスがあります。

連番	金額	ユーザー フィールド 1 (州)	ユーザー フィールド 2 (所在地)	スライス日
1	5000	州 1	所在地 1	1 月 1 日～ 31 日
2	1000	州 2	所在地 2	1 月 1 日～ 31 日
3	3500	州 3	所在地 3	1 月 1 日～ 31 日

プロセス リストで D1 が 2 回目に検出された際には、2 回しか変換が行われません。

インスタンス	変換済金額	ユーザー フィールド 1 (州)	ユーザー フィールド 2 (所在地)	スライス日
1	5500	州 1	所在地 1	1 月 1 日～ 31 日
2	4000	州 2	所在地 2	1 月 1 日～ 31 日

注意: 州 3 の結果は、支給および控除結果テーブル (GP_RSLT_ERN_DED) に保存されません。

次の表は、累計 AC1 がどのように更新されたのかを示しています。

連番	金額	ユーザー フィールド 1 (州)	ユーザー フィールド 2 (所在地)	スライス日
1	5500 (5000 - 5000 + 5500)	州 1	所在地 1	1 月 1 日～ 31 日
2	4000 (1000 - 1000 + 4000)	州 2	所在地 2	1 月 1 日～ 31 日
3	0 (3500 - 3500 + 0)	州 3	所在地 3	1 月 1 日～ 31 日

例 2: エレメントの再計算で異なるユーザー フィールド セットを持つインスタンスが変換される ケース (インスタンス数は同じ)

控除 D1 は、累計 AC1 に加算されます。

AC1 に保存されている初期残高は、ゼロ (0) です。

プロセス リストで D1 が最初に検出された際に、この控除は 3 回変換されます。

インスタンス	変換済金額	ユーザー フィールド 1 (州)	ユーザー フィールド 2 (所在地)	スライス日
1	5000	州 1	所在地 1	1 月 1 日～ 31 日
2	1000	州 2	所在地 2	1 月 1 日～ 31 日
3	3500	州 3	所在地 3	1 月 1 日～ 31 日

D1 の各変換ごとに、対応する累計インスタンスがあります。

連番	金額	ユーザー フィールド 1 (州)	ユーザー フィールド 2 (所在地)	スライス日
1	5000	州 1	所在地 1	1 月 1 日～ 31 日
2	1000	州 2	所在地 2	1 月 1 日～ 31 日
3	3500	州 3	所在地 3	1 月 1 日～ 31 日

プロセス リストで D1 が 2 回目に検出された際には、この控除は 3 回変換されますが、その中の 1 つには異なるユーザー フィールド値が割り当てられます。

インスタンス	変換済金額	ユーザー フィールド 1 (州)	ユーザー フィールド 2 (所在地)	スライス日
1	5500	州 1	所在地 1	1 月 1 日～ 31 日
2	2500	州 2	所在地 2	1 月 1 日～ 31 日
3	2000	州 4	所在地 4	1 月 1 日～ 31 日

次の表は、累計 AC1 がどのように更新されたのかを示しています。

連番	金額	ユーザー フィールド 1 (州)	ユーザー フィールド 2 (所在地)	スライス日
1	5500 (5000 - 5000 + 5000)	州 1	所在地 1	1 月 1 日～ 31 日
2	2500 (1000 - 1000 + 2500)	州 2	所在地 2	1 月 1 日～ 31 日
3	2000	州 4	所在地 4	1 月 1 日～ 31 日
4	0 (3500 - 3500 + 0)	州 3	所在地 3	1 月 1 日～ 31 日

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 101 ページ

ブラケットとフォーミュラを使用したユーザー フィールドへのデータのロード

支給または控除に関連付けられたユーザー フィールドの値をフォーミュラまたはブラケットによって入力する場合、フォーミュラまたはブラケットの値が返される際には支給または控除のゼロインスタンスが更新されます。つまり、フォーミュラまたはブラケットによってユーザー フィールド値が入力されるときに、エレメントの複数インスタンスは作成されません。たとえば、支給 E1 が 100 USD に変換され、このエレメントに関連付けられたユーザー フィールド "州" の値が "カリフォルニア" だったとします。その後、このユーザー フィールドに値を入力するフォーミュラまたはブラケットによって、州の値が "ネバダ" と定義された場合、カリフォルニアの既存値が上書きされ、ネバダにはゼロ インスタンスの値が設定されます。

関連項目:

[第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、ブラケット、72 ページ](#)

[第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、フォーミュラ、76 ページ](#)

遡及処理に関する定義

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- ユーザー フィールド レベルによるデルタのグループ化
- 遡及プロセス上書きの繰り越しオプション
- ユーザー フィールドおよびユーザー フィールド レベルによるデルタの繰り越し
- 未処理遡及デルタの管理
- 遡及再計算オプションの定義
- スライスの不一致

ユーザー フィールド レベルによるデルタのグループ化

グローバル ペイロールでは、一致するユーザー フィールド セットに基づいて、支給または控除のデルタをグループ化したり区分したりすることができます。一致と見なすための条件を定義して、エレメントのデルタをグループ化するために必要な一致レベルを制御できます。この条件には、1 つ目のユーザー フィールドのみが一致した場合にデルタをグループ化できる、1 つ目と 2 つ目の両方が一致した場合にデルタをグループ化できる、または 1 つ目、2 つ目、および 3 つ目が一致した場合にデルタをグループ化できるなどを定義できます。

現在の期間に繰り越される遡及デルタのグループ化方法を制御するには、支給エレメントまたは控除エレメントの定義の際に、次のユーザー フィールド レベルの中から 1 つを選択します。

ユーザー フィールド レベル	説明
なし	エレメント レベルのグループ化 (ユーザー フィールド セットの違いに関係なく、全てのデルタを結合)
ユーザー フィールド 1	部分設定 (ユーザー フィールド 1 だけを基準に、一致している場合にデルタを結合)
ユーザー フィールド 2	部分設定 (ユーザー フィールド 1 と 2 だけを基準に、一致している場合にデルタを結合)
ユーザー フィールド 3	部分設定 (ユーザー フィールド 1、2、3 を基準に、一致している場合にデルタを結合)
ユーザー フィールド 4	部分設定 (ユーザー フィールド 1、2、3、4 を基準に、一致している場合にデルタを結合)
ユーザー フィールド 5	部分設定 (ユーザー フィールド 1、2、3、4、5 を基準に、一致している場合にデルタを結合)
定義された全てのユーザー フィールド	全設定 (全てのユーザー フィールドが一致している場合にデルタを結合)

注意: ユーザー フィールド設定のページで [遡及デルタ ユーザー フィールド レベル] の値を設定します。

参照: 第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、支給エレメントのユーザー フィールドの定義、 287 ページ。

以下に挙げる例で、ユーザー フィールド レベルに基づいて、どのようにデルタのグループ化または区分が行われるのかを示します。

例 1: ユーザー フィールド レベルが "なし" の場合

期間 2 で期間 1 にさかのぼる遡及処理があり、エレメント E1 のユーザー フィールド レベルが [なし] に設定されているとします。

遡及方法は繰り越しです。

期間 1 (V1R1) の結果は、次のとおりです。

支給	インスタンス	金額	ユーザー フィールド 1 (州)	ユーザー フィールド 2 (所在地)	ユーザー フィールド 3 (会社)
E1	1	300	州 1	所在地 1	ABC
E1	2	200	州 1	所在地 2	DEF
E1	3	150	州 3	所在地 3	ABC

期間 1 が再計算された際 (V1R2) の結果は、次のとおりです。

支給	インスタンス	金額	ユーザー フィールド 1 (州)	ユーザー フィールド 2 (所在地)	ユーザー フィールド 3 (会社)
E1	1	400	州 1	所在地 1	ABC
E1	2	300	州 1	所在地 2	DEF
E1	3	200	州 3	所在地 3	ABC

E1 の以下のデルタが結果テーブルに保存されます。

支給	デルタ番号	デルタ	ユーザー フィールド 1 (州)	ユーザー フィールド 2 (所在地)	ユーザー フィールド 3 (会社)
E1	1	250			

注意: デルタはエレメント レベルで保存されるため、各ユーザー フィールド セットのデルタが合計されます (100 + 100 + 50 = 250)。ユーザー フィールドの値は保存されません。

例 2: ユーザー フィールド レベルが "定義された全てのユーザー フィールド" (全設定) の場合

期間 2 で期間 1 にさかのぼる遡及処理があり、ユーザー フィールド レベルが [定義された全てのユーザー フィールド] に設定されているため、全てのユーザー フィールドが一致している場合に遡及デルタがグループ化されるものとします。

遡及方法は繰り越しです。

期間 1 (V1R1) の結果は、次のとおりです。

支給	インスタンス	金額	ユーザー フィールド 1 (州)	ユーザー フィールド 2 (所在地)	ユーザー フィールド 3 (会社)
E1	1	300	州 1	所在地 1	ABC
E1	2	200	州 1	所在地 2	DEF
E1	3	150	州 3	所在地 3	ABC

期間 1 が再計算された際 (V1R2) の結果は、次のとおりです。

支給	インスタンス	金額	ユーザー フィールド 1 (州)	ユーザー フィールド 2 (所在地)	ユーザー フィールド 3 (会社)
E1	1	400	州 1	所在地 1	ABC
E1	2	300	州 1	所在地 2	DEF
E1	3	200	州 3	所在地 3	ABC

E1 の以下のデルタが結果テーブルに保存されます。

支給	デルタ番号	デルタ	ユーザー フィールド 1 (州)	ユーザー フィールド 2 (所在地)	ユーザー フィールド 3 (会社)
E1	1	100	州 1	所在地 1	ABC
E1	2	100	州 1	所在地 2	DEF
E1	3	50	州 3	所在地 3	ABC

注意: ユーザー フィールド レベルの設定によって、遡及デルタの合計にはユーザー フィールドの完全一致が求められるため、デルタはユーザー フィールド セットごとに保存されます。

例 3: ユーザー フィールド レベルが "ユーザー フィールド 1" (部分設定) の場合

期間 2 で期間 1 にさかのぼる遡及処理があり、ユーザー フィールド レベルが [ユーザー フィールド 1] に設定されているため、ユーザー フィールド 1 が一致している場合に遡及デルタがグループ化されるものとします。

ユーザー フィールド 1 は "会社" です。

遡及方法は繰り越しです。

期間 1 (V1R1) の結果は、次のとおりです。

支給	インスタンス	金額	ユーザー フィールド 1 (会社)	ユーザー フィールド 2 (州)	ユーザー フィールド 3 (所在地)
E1	1	300	ABC	州 1	所在地 1
E1	2	200	DEF	州 1	所在地 2
E1	3	150	ABC	州 3	所在地 3

期間 1 が再計算された際 (V1R2) の結果は、次のとおりです。

支給	インスタンス	金額	ユーザー フィールド 1 (会社)	ユーザー フィールド 2 (州)	ユーザー フィールド 3 (所在地)
E1	1	400	ABC	州 1	所在地 1
E1	2	300	DEF	州 1	所在地 2
E1	3	200	ABC	州 3	所在地 3

E1 の以下のデルタが結果テーブルに保存されます。

支給	デルタ番号	デルタ	ユーザー フィールド 1 (会社)	ユーザー フィールド 2 (州)	ユーザー フィールド 3 (所在地)
E1	1	150	ABC		
E1	2	100	DEF		

注意: この例では、会社 (ユーザー フィールド 1) ごとにデルタが保存されます。

遡及プロセス上書きの繰り越しオプション

エレメントをほかのエレメントへ繰り越す際には (遡及方法は関係なし)、繰り越し元のエレメントのユーザー フィールド セットとユーザー フィールド レベルの両方が、**繰り越し先**のエレメントのユーザー フィールド セットとユーザー フィールド レベルに一致している必要があります。

関連項目:

第 33 章、「遡及処理の定義」、1219 ページ

ユーザー フィールドおよびユーザー フィールド レベルによるデルタの繰り越し

デルタが合計され、前の期間から現在の期間へ繰り越される際には、以下のルールが適用されます。

- エレメントのデルタは、現在のカレンダーの最初のセグメント (最初に変換されたインスタンス) へ繰り越されます。
- この最初のセグメントがスライスされている場合は、その中の最初のスライスに調整値が繰り越されます。
- 受給者レベル データがないため、またはジェネレーション コントロールの設定によって、支給または控除が現在の期間で変換されない場合、エレメントの遡及調整は、現在の期間の初のインスタンスとして繰り越されます。
- 遡及調整のみのインスタンス (一致する現在期間インスタンスのない繰り越し調整インスタンス) がある場合、調整インスタンスは、スライス日ではなく、セグメント日に変換されます。
- ポジティブ入力またはルール処理と遡及調整がある場合、この遡及調整は、最初に変換されたインスタンスに追加されます。
- 現在の期間に控除の延滞回収があり、控除自体は変換されていない場合、延滞回収と調整は合算され、セグメント日を使用して単一のインスタンスが作成されます。

以下の追加ルールは、エレメントのユーザー フィールド レベルが定義されている際に適用されます。

- ユーザー フィールド レベルが [なし] の場合、デルタは、現在期間の支給または控除の最初のインスタンスへ繰り越されます。これらのデルタは、最初のインスタンスのユーザー フィールド値を引き受けます。

現在のインスタンスがない場合、この調整値が最初のインスタンスとなり、セグメント日を使用してユーザー フィールド セットに値が取得されます。

- ユーザー フィールド レベルが [定義された全てのユーザー フィールド] (全設定) の場合、デルタに関連付けられた全てのユーザー フィールドが遡及調整に付随して繰り越されます。
- ユーザー フィールド レベルが部分設定 ([ユーザー フィールド 1]、[ユーザー フィールド 2]、[ユーザー フィールド 3]、[ユーザー フィールド 4] など) の場合、デルタは、指定した部分設定と一致するエレメントの最初のインスタンスに繰り越されます。

一致するものがない場合は、セグメント日を使用してユーザー フィールド セットに値が取得されます。

以下の追加ルールは、ユーザー フィールドを持つ支給と控除およびユーザー フィールドを持たない支給と控除、ドライバが指定されているエレメントおよびドライバが指定されていないエレメントに適用されます。

- 同じユーザー フィールド値を持つエレメントのインスタンスが現在の期間に複数ある場合、調整は最初のインスタンスに適用されます。
- 各ユーザー フィールド セットに対して可能な遡及調整は 1 つのみです。

調整値は、ユーザー フィールド セットの最初のインスタンスに追加され、そのインスタンスに関連付けられた日付で保存されます。

- 同じユーザー フィールド セットを持つエレメントの現在のインスタンスがない場合、セグメント日を使用して調整自体が変換されます。

新しいユーザー フィールド セットが、エレメントの新しい追加インスタンスになります。

関連項目:

第 20 章、「支給または控除の複数変換」、ユーザー フィールド レベルによるデルタのグループ化、803 ページ

第 33 章、「遡及処理の定義」、複雑な遡及処理について、1286 ページ

未処理遡及デルタの管理

未処理遡及デルタの管理コンポーネントでは、インスタンスとユーザー フィールド セット別に遡及デルタが表示されます。ただし、未処理遡及デルタの管理コンポーネントの以下の属性は、インスタンス レベルやユーザー フィールド セット レベルではなく、エレメント レベルで適用されます。

- 遡及デルタ マッチング処理 (デフォルトのマッチング処理、処理なし、カレンダーに適用)
- 繰越先支給グループおよび繰越先カレンダー

注意: 未処理遡及デルタの管理コンポーネントを使用して、未処理遡及デルタを特定のカレンダーに指定し、デルタの繰越先エレメントを変更できます。繰り越し元のエレメントのユーザー フィールド セットとユーザー フィールド レベルの両方が、**繰り越し先**のエレメントのユーザー フィールド セットとユーザー フィールド レベルに一致している必要があります。

関連項目:

[第 33 章、「遡及処理の定義」、未処理遡及デルタの管理、1278 ページ](#)

遡及再計算オプションの定義

支給および控除の定義コンポーネントの計算ページにある [遡及再計算オプション] は、インスタンス レベルではなく、エレメント レベルで適用されます。たとえば、ユーザー フィールド "州" の値が "カリフォルニア" の控除インスタンスに対しては遡及再計算オプションを [再計算] に設定し、"州" の値が "ニューヨーク" の控除インスタンスに対しては [再計算しない] を設定するといったことはできません。

関連項目:

[第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、遡及計算、275 ページ](#)

[第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、支給エレメントの計算ルールの定義、292 ページ](#)

スライスの一致と不一致の定義

遡及処理の際に、支給または控除エレメントが **[再計算しない]** になっている場合は、エレメントの前の値が、そのコンポーネント エレメントと一緒に返されます。ただし、再計算される期間と前回計算した期間の間でセグメントまたはスライスが一致しない場合は、指定した **[再計算しない]** オプションは無視され、エレメントは再計算されます。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、遡及計算、275 ページ

システム エレメントの使い方

グローバル ペイロールでは、累計ドライバを使用して複数変換を行う支給または控除の定義に使用できるシステム エレメントが標準で用意されています。これらのシステム エレメントの中でも最も重要なのは、CURR_DRIVER_VAL です。このシステム エレメントは、エレメントの計算ルールでドライバ累計がベースとして使用されている場合に、ドライバ累計の現在値を返します。

例: CURR_DRIVER_VAL の使い方

ドライバ累計を使用するエレメント (支給または控除) を定義する際に、ドライバ累計に基づいてエレメントを変換する他に、そのドライバ累計を計算ルールでも使用場合があります。

たとえば、州課税対象総額に基づいて複数回の変換が行われる税控除 D1 を定義するとします。このエレメントは、以下のように定義されます。

- 州課税対象総額は、ユーザー キー "州" を持つ "State Taxable Gross" という名前の累計に含まれています。
- この累計に基づいて、ベース×パーセントの計算ルールが定義されている税控除 D1 の変換が行われます。
- パーセントには "州" に基づいて値を返すフォーミュラ、ベースには課税対象総額支給が定義されています。

エレメントの計算ルールを定義する際には、ベースに "State Taxable Gross" 累計を使用せずに、システム エレメント "CURR_DRIVER_VAL" を使用して、ドライバ累計の現在値を取得することができます。

システム エレメントを使用すると、以下のような利点があります。

- 処理中に、既存のドライバ累計インスタンスの値が変更されて、新しいインスタンスが作成され、ドライバ累計の正しい現在値が変わってしまう場合があります。

このような問題を避けるため、システム エlement "CURR_DRIVER_VAL" によって既存の累計インスタンスのスナップショット (コピー) が作成されます。このスナップショットは、ドライバ実行対象の支給または控除が変換前にプロセス リストで検出されるたびに作成されるため、正しい現在値を使用してElementの変換を行うことが可能になります。

- パフォーマンスの観点から見て、累計値が直接アクセスされる場合よりも、計算ルールで CURR_DRIVER_VAL が使用されている場合の方が、支給または控除のドライバ変換が迅速に行われます。
- 支給または控除の計算ルールでドライバ累計が直接使用されると、通常の累計値取得ロジックが起動され、累計アレイにある間違っただ行が返される可能性があります。

たとえば、ユーザー キーの値は、支給または控除の変換中に (たとえば、フォーミュラによって) 変更される場合があります、間違っただドライバ値 (行) が返される可能性があります。

注意: グローバル ペイロールでは、有効な結果を得るため、ドライバ累計の代わりにシステム Element "CURR_DRIVER_VAL" を使用することをお勧めします。

その他のシステム Element

グローバル ペイロールでは、CURR_DRIVER_VAL のほかに、次のシステム Element が標準で用意されており、累計ドライバの実行対象となる支給または控除を定義する際に使用できます。

	システム Element	オカレンス レベル	有効範囲	フィールド フォーマット
1	USER_FIELD_EXISTS	Element	セグメント全体	文字列 (0/1)
2	DRIVER_EXISTS	Element	セグメント全体	文字列 (0/1)
3	ACCUM_IS_DRIVER	Element	セグメント全体	文字列 (0/1)
4	DRIVER_ELEM	Element	セグメント全体	PIN 番号
5	ED_ASSIGN_EXISTS	Element	支給/控除変換のみ	文字列 (0/1)
6	PI_EXISTS	Element	支給/控除変換のみ	文字列 (0/1)

	システム エlement	オカレンス レベル	有効範囲	フィールド フォーマット
7	DRIVER_EXISTS	Element	支給/控除変換のみ	文字列 (0/1)
8	UFS_ED_ASGN_EXISTS	UFS ごと	支給/控除変換のみ	文字列 (0/1)
9	UFS_PI_EXISTS	UFS ごと	支給/控除変換のみ	文字列 (0/1)
10	UFS_DRIVER_EXISTS	UFS ごと	支給/控除変換のみ	文字列 (0/1)
11	INSTANCE_NUM	Element	支給/控除変換のみ	10 進数
12	ED_ASSIGN_INSTANCE_NUM	インスタンスごと	支給/控除変換のみ	10 進数
13	ED_PROCESS_ORDER	インスタンスごと	支給/控除変換のみ	10 進数
14	ED_ASSIGN_BGN_DT	インスタンスごと	支給/控除変換のみ	日付
15	ED_ASSIGN_END_DT	インスタンスごと	支給/控除変換のみ	日付
16	CURR_DRIVER_VAL	インスタンスごと	支給/控除変換のみ	10 進数
17	UFS_PI_INST_FIRST	インスタンスごと	支給/控除変換のみ	文字列 (Y/N)
18	UFS_PI_INST_LAST	インスタンスごと	支給/控除変換のみ	文字列 (Y/N)

注意: ELEM_IS_DRIVER を除く全てのシステム Element は、支給Elementまたは控除Elementの属性です。ELEM_IS_DRIVER は、累計の属性です。

関連項目:

第 44 章、「配布されたElementの表示」、1645 ページ

第 21 章

給与計算の処理

この章では、給与計算処理の概要と以下の方法について説明します。

- 処理の指示の入力
- グループ リストの作成
- 処理ストリームの作成

注意: この章では、オンサイクル処理に焦点を置いていますが、ここで説明するほとんどの概念や手順は、オフサイクル処理にも適用されます。

関連項目:

第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、841 ページ

第 24 章、「オフサイクル処理の管理」、937 ページ

第 25 章、「休暇欠勤の入力と処理」、休暇付与および休暇取得プロセスの実行、1010 ページ

給与計算処理について

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- 処理機能
- 処理の準備
- 処理の順序
- 処理の概念
- ステータス コードと処理インジケータ

処理機能

給与計算システムの設定が終了すると、給与計算実行の準備が整います。定期的な給与計算のプロセスを実行する場合も、休暇取得または休暇付与のプロセスを実行する場合も、ステップは同じです。プロセス リストとカレンダー定義によって、処理対象の従業員と処理内容が決定されます。

グローバル ペイロールの処理能力を有効活用するには、給与計算実行および休暇欠勤実行の処理方法と、使用できるオプションの内容を理解することが重要です。以下のいくつかのセクションで、主な処理機能、準備、プロセスを実行するためのステップ、および処理を監視するためのステータス コードについて説明します。

仮給与計算実行の反復処理

反復処理を使用すると、必要なシステム リソースを最小限に抑えながら、複雑な仮給与計算の実行を迅速に処理できます。まず確認フェーズを開始して、給与計算実行の選択条件に合った受給者それぞれにフラグを立てます。次に計算フェーズを開始して、**"確認済み"** の全ての受給者の純所得を計算します。または必要に応じて、それらの従業員の休暇付与や休暇取得を計算します。結果を確認して必要な訂正をした後、前回の実行から変更のあった受給者の計算フェーズを再実行します。

ストリーム処理

ストリーム処理はオプション機能で、この機能を使うと処理時間を短くすることができます。受給者を従業員 ID に基づいてサブセットに分けて、この複数の受給者のセットに対して同時に計算処理を実行できます。

グループ リスト

グループ リストは、処理予定の受給者群のサブセットで、ユーザーが定義します。この機能を使用すると、給与計算担当者は、異なる受給者のセットを同時に処理することができます。

トラブルシューティング ツール

給与計算または休暇欠勤計算を実行するときに、受給者ごとに、各エレメントが変換された方法と順序を示すエレメント変換チェーンを作成することができます。このチェーンにより、プロセス リストのそれぞれのエレメントを変換するのにかかった時間もわかります。エレメント変換チェーンを作成するには、非常に多くのシステム リソースが必要です。このため、この機能は問題を解決するときに限って使用してください。

関連項目:

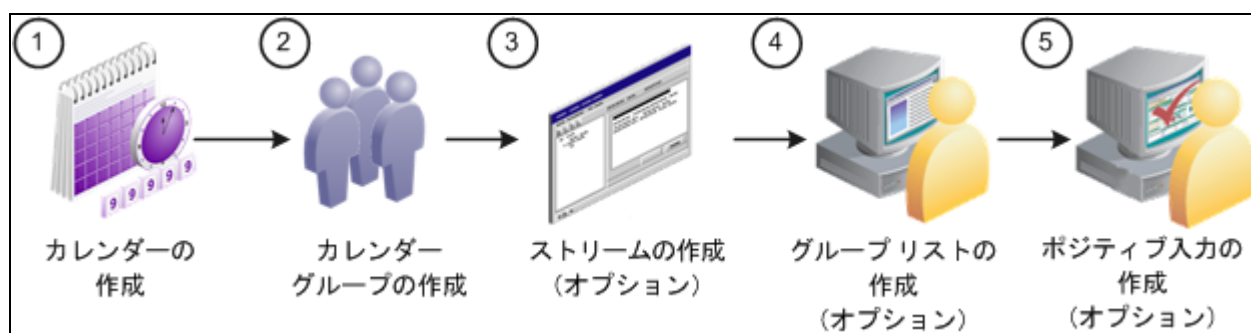
第 21 章、「給与計算の処理」、ストリーム処理の作成、837 ページ

第 21 章、「給与計算の処理」、グループ リストの作成、835 ページ

第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、エレメント変換チェーンの表示、907 ページ

処理の準備

次の図は、給与計算処理の準備のステップを示しています。

**処理の準備ステップ**

給与計算処理の準備の手順は、以下のとおりです。

1. カレンダーの作成 (必須)

カレンダーを使って、処理対象となる支給グループ、実行タイプ、プロセス リスト、およびカレンダー期間を指定します。支給グループ、実行タイプ、およびプロセス リストは、システムの導入時に定義します。カレンダー期間は、導入時でもカレンダーを設定するときでも定義できます。

重要: [リストされた受給者のみ] オプションを選択して、カレンダーに受給者を追加する目的以外では、処理を開始した後に、[期間]、[カレンダー]、または [カレンダー グループ] の各コンポーネントのフィールドを編集することはできません。これらのページに変更を加える必要がある場合には、給与計算実行をキャンセルする必要があります。

2. カレンダー グループ ID の作成 (必須)

カレンダー グループ ID によって、一括して実行する一連のカレンダーとそれらのカレンダーを処理する順序を指定します。ストリーム処理を使用する場合は、カレンダー グループ ID を設定するときそれを指定する必要があります。

3. ストリームの作成 (オプション)

ストリーム処理を使用するには、各ストリームの対象となる従業員 ID の範囲を定義します。ストリーム設定は 1 回の処理で済みますが、データベース管理者のサポートが必要なことがあります。

4. グループ リストの作成 (オプション)

グループ リスト機能を使用するには、給与計算処理を実行する担当者が各グループ リストの受給者を選択します。グループリストはユーザー ID と関連付けられています。

5. ポジティブ入力の入力 (オプション)

支給期間のポジティブ入力は、処理を開始する前でも後でも入力できます。計算フェーズを実行後にポジティブ入力を入力した場合は、変更を取り込むために計算フェーズを再実行してください。

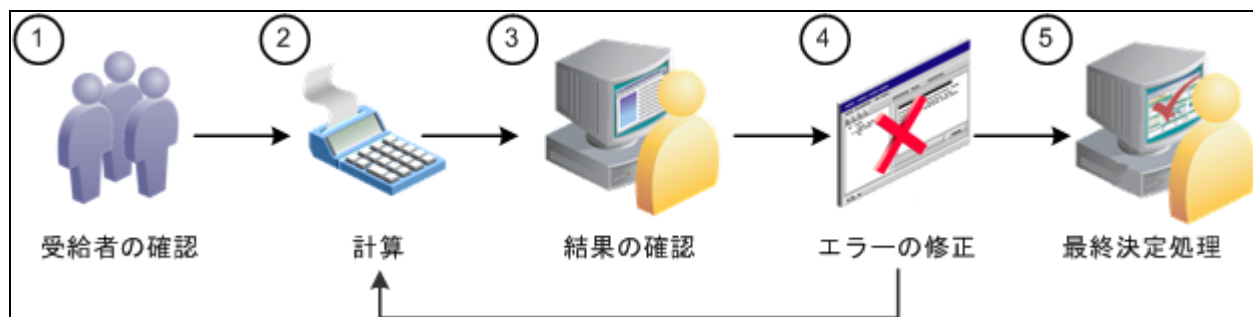
関連項目:

第 16 章、「カレンダーの使い方」、577 ページ

第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、615 ページ

処理の順序

次の図は、給与計算処理と休暇欠勤処理のステップを示しています。



処理ステップ

給与計算または休暇欠勤処理の実行手順は、以下のとおりです (ステップ 1、2、および 5 では休暇欠勤/給与計算ページを使用します)。

1. 受給者の確認 (確認フェーズ)

給与計算サイクルは、処理する受給者全員を確認する処理を実行したときから開始します。

2. 計算の実行 (計算フェーズ)

計算フェーズでは、受給者ごとに、給与計算実行の場合は総支給額と純支給額を、休暇欠勤実行の場合は休暇取得または休暇付与のユニットを算出します。

3. 結果の確認

たとえば無効なエレメント定義や受給者の資格に問題がある場合など、計算フェーズで問題が発生した場合は、その受給者はエラーになります。さまざまなページを使用して、結果のサマリ、エラー、警告メッセージを確認できます。

4. エラーの修正および再計算

エラーを修正するために、ポジティブ入力ページを更新したり、グローバル ペイロールと統合されているほかのアプリケーション (ヒューマン リソース管理や勤務管理など) でのデータ変更が必要となる場合もあります。変更後に、計算フェーズを再度実行して、再計算が必要な受給者についてのみ処理を行うことができます。

5. 実行の最終決定

処理結果に問題がなくなった時点で、最終決定フェーズを実行してそのカレンダー グループ ID を閉じます。

処理の概念

このセクションでは、給与計算処理と休暇欠勤処理のステップについて詳しく説明します。

受給者の確認

給与計算実行または休暇欠勤実行は、休暇欠勤/給与計算ページで [確認] チェック ボックスをオンにして開始します。確認フェーズでは、そのカレンダー グループ ID にリンクされた全てのカレンダーが順に処理され、そのカレンダーの設定時に指定した支給グループに属する全ての受給者が検出されます。次に、そのカレンダーの受給者選択条件に一致する受給者のサブセットが確認されます。

確認フェーズは、カレンダー グループ ID ごとに 1 回実行します。また、ストリーム処理を使用している場合はストリームごとに 1 回実行します。実行後に、新規受給者の追加、雇用終了した受給者の削除、ポジティブ入力の入力、または受給者の資格に影響するその他の変更を行った場合には、計算フェーズの実行時に反復トリガの検索によってそれらの変更が検出されます。職務レコードに対しどのような変更が発生した場合に反復トリガが作成されるのか、定義しておく必要があります。

たとえば、確認フェーズ実行後に、5 人の新規に採用された受給者がその支給グループに追加されたとします。それぞれの新規採用者が追加されるごとに、反復トリガが作成されます。計算フェーズを実行すると、新規採用の反復トリガが検索されて処理対象の受給者に含まれます。

カレンダー グループ ID は、確認フェーズを起動した時点から最終決定フェーズを実行して実行を完了するまで **"オープン"** であると認識されます。

重要: 受給者が一度にリンクできるのは、1 つのオープンなカレンダー グループ ID のみです。たとえば、7 月の給与計算を完了し、別のカレンダー グループ ID を賞与について設定した場合、これらの受給者の賞与計算を実行する前に 7 月の基本給与計算実行を最終決定しておく必要があります。この機能により、必ず正しい順序で累計が更新されます。

受給者の計算

対象の受給者が確認されると、純支給額計算、休暇取得、または休暇付与計算を実行できます。1 回に 1 人の受給者が、カレンダーごとに計算されます。受給者に関連付けられたカレンダーが分割されている場合、つまり、その受給者がそのカレンダーで複数の純額支給を受け取る場合、それぞれのセグメントの純額が計算されてから、その受給者の次のカレンダーの純額が計算されます。1 人の受給者の全てのカレンダーについての純支給額の計算が終了すると、次の受給者の計算に移ります。

通常、同じカレンダー グループ ID に対して計算フェーズを何回か実行しますが、初回は確認フェーズで選択した対象の受給者全員に対して実行し、その後は変更またはエラーのある受給者について実行します。反復処理のたびに、以下のオプションのいずれかを選択して、計算対象の受給者を選択します。

- 計算

この計算オプションは、最も頻繁に使用します。このオプションにより、反復トリガのある受給者全員が確認されます。これには、新規採用されたり異動のあった受給者、前回計算時にエラーが発生した受給者、および [処理インジケータ] を使って処理の指示を手動で入力した受給者が含まれます。

- 全て再計算

場合によっては、カレンダー グループ ID、ストリーム、またはグループ リストに関連付けられた全ての受給者について再計算する必要があります。[全て再計算] オプションによって、既存の計算は全て削除され、受給者の再確認は行われずに、受給者全員について再度計算が行われます。つまり、各受給者が受給者選択条件を変わずに満たしているかは判別されません。

計算の凍結と凍結解除

実際のビジネスの現場では、通常、給与計算のプロセスの実行開始日から締切日までの間を少し空けて設定しています。そして、その期間中のある時点で、反復トリガのある受給者 (給与調整がある受給者など) の処理を停止して、エラーの修正に集中し、給与計算を最終決定できるようにする場合があります。この場合には、指定する受給者の計算を凍結させます。計算フェーズでは、給与計算実行中に受給者に対して行われたオンラインでの変更や、計算後に入力された受給者へのポジティブ入力 は全て無視されます。後に受給者が凍結解除されたときのため、そのトリガは維持されます。ただし、受給者を凍結した後で [全て再計算] オプションを実行した場合は、その受給者は再計算されます。

休暇欠勤/給与計算ページの [凍結] オプションを選択して、ストリーム処理、グループ リスト、またはカレンダー グループ ID の全ての受給者を凍結または凍結解除することができます。また、受給者ステータス ページでは選択した受給者を凍結できます。

受給者の計算を凍結するには、以下の条件を満たす必要があります。

- 全てのカレンダーの全てのセグメントについて、その受給者に関連付けられた各支給の計算ステータスが **[計算正常終了]** であること。ある受給者に対する 1 つのセグメントを凍結または凍結解除する場合は、そのカレンダー グループに対するその受給者の全てのセグメントが凍結または凍結解除されることになります。
- 選択ステータスが **[ユーザーによる一時停止]**、**[システムによる一時停止]**、または **[キャンセル]** ではないこと。

アクティブな受給者の一時停止

処理の指示を送信する際に、アクティブな受給者全員を一定の状況下で自動的に一時停止するオプションを選択することができます。これにより、小人数の受給者グループに対する臨時賞与など、特別な実行処理を行うことができます。休暇欠勤/給与計算ページの [受給者一時停止] チェックボックスを使用して、この機能を実行することができます。オンサイクル処理では、確認フェーズと計算フェーズ ([全て再計算] を含む) を実行する際に、このオプションを使用できます。オフサイクル処理では、このオプションは自動的に選択され、変更できません。

[受給者一時停止] チェック ボックスをオンにすると、各受給者の処理の際に、以下の処理が行われます。

- 受給者が、オープンになっている別のカレンダー グループに関連付けられているかどうかを確認されます。

- 関連付けられている場合、そのカレンダー グループの受給者の計算ステータスが確認されます。
- 計算ステータスが [凍結] でない限り、受給者はその実行を一時停止されます。そのため、新規の実行ですぐにその受給者の確認および計算を行うことができます。
- 計算ステータスが [凍結] の場合、受給者は、現在設定中の新規の実行を一時停止されます。

関連項目:

[第 30 章、「トリガの設定」、1111 ページ](#)

[第 21 章、「給与計算の処理」、ステータス コードと処理インジケータ、820 ページ](#)

ステータス コードと処理インジケータ

ステータス コードと処理インジケータは、給与計算処理と休暇欠勤処理において重要な役割を果たします。ステータス コードは、処理結果の監視や確認に使用すると便利です。処理インジケータを使用すると、特定の受給者に対する処理の指示を手動で入力できます。このセクションでは、主に、コードの作成方法とその意味について説明します。

ステータス コード

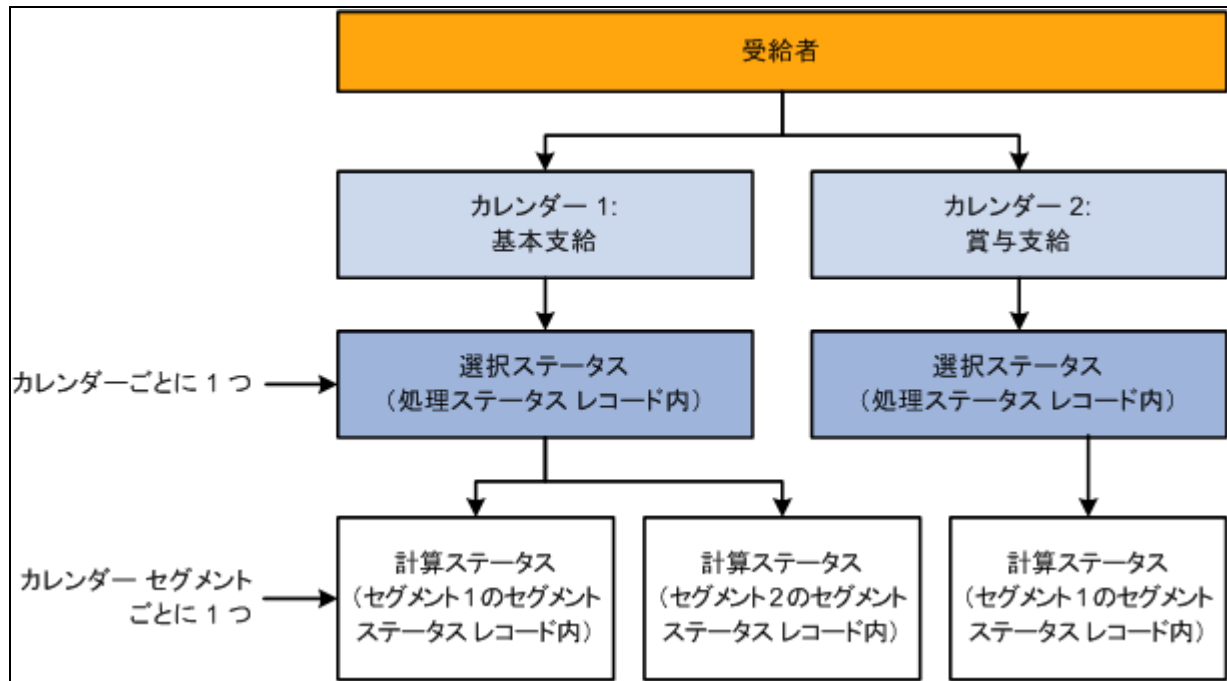
処理対象の各受給者が確認されるときに、2 つのステータス コードが作成されます。

- **選択ステータス コード:** カレンダーごとに各受給者に 1 つ作成され、処理ステータス レコードに保存されます。確認フェーズの初回実行時に、それぞれの受給者の選択ステータスは [アクティブ] または [非アクティブ] に設定され、受給者が処理対象として確認された理由が表されます。このステータスは、計算フェーズを反復処理するたびに自動的に更新されます。これによって、受給者が処理の対象または対象外になった理由が表されます。

ステータスが **"一時停止"** または **"キャンセル"** の場合のみ、除外された受給者の記録を残します。単に受給者に選択対象となる資格が既にある場合 (たとえば、異なる支給グループに受給者が割り当てられている場合など)、記録は行われず、受給者の処理レコードおよびステータス レコードは削除されます。

- 計算ステータス コード:** カレンダー セグメントごとに各受給者に 1 つ作成され、セグメントステータス レコードに保存されます。カレンダーに期間分割がない場合は、受給者の計算ステータスは 1 つです。計算ステータスは、そのセグメントに対して最後に実行されたアクションを表示します。たとえば、[確認済]、[計算済]、[エラー]、または [凍結] などです。初めて計算フェーズを実行する前には、それぞれの受給者のステータス コードは **[確認済]** になっています。

次の図に、処理対象の受給者が確認されたときに、どのようにステータス コードが作成されるかを示します。



受給者が処理対象と確認されたときに作成されるステータス コード

処理インジケータ

場合によって、給与計算実行または休暇欠勤実行から受給者をキャンセルするなどして、一時的に受給者に対し凍結、凍結解除の処理を停止したり、または受給者レベルでのその他の処理を行う必要があります。このような処理は、次の反復処理で行うアクションを指定する処理インジケータを入力することで可能になります。たとえば、受給者 A の選択ステータスが **[アクティブ]** で、この受給者の給与計算実行をキャンセルする必要がある場合は、受給者の処理インジケータを **[キャンセル]** に設定します。次の計算フェーズの実行時に、受給者 A の計算結果は全て削除され、受給者 A の選択ステータスは **[キャンセル]** に変更されます。処理インジケータの更新は、受給者ステータス コンポーネントで行います。

重要: 1 つの処理インジケータを変更すると、同じカレンダー グループ ID の受給者のセグメントは全て更新されます。

ステータス コードと処理インジケータの定義

以下の表に、ステータス コードと処理インジケータを示します。選択ステータス (カレンダーごとに受給者に 1 つ) と計算ステータス (カレンダー セグメントごとに 1 つ) はシステムにより管理されますが、処理インジケータはユーザーが管理します。

選択ステータス	説明
アクティブ	受給者はそのカレンダー内の少なくとも 1 日はアクティブでした。
非アクティブ	受給者は、そのカレンダー内ではアクティブではありませんでしたが、ポジティブ入力、遡及トリガ、または繰り越し調整のために選択されました。
キャンセル	受給者は、手動でカレンダー実行から除外されています。現在のカレンダー実行または遡及実行に対して、この受給者は再選択されません。
ユーザーによる一時停止	受給者は、ユーザーにより手動でカレンダー実行を一時停止されました。カレンダーの次回実行時に、受給者の確認と純支給額の計算が再度行われます。
システムによる一時停止	受給者は、別のオープンされているカレンダー グループ ID に関連付けられています。一度に 1 つの最終決定されていないカレンダー グループ ID にしか、受給者は選択できません。

計算ステータス	説明
確認済	セグメントは計算対象として確認されましたが、まだ計算は行われていません。

計算ステータス	説明
計算正常終了	セグメントは計算済みです。
以降の計算凍結	凍結解除するか、または "全て再計算" フェーズを実行しない限り、セグメントがその後の計算対象にならないことを示します。
最終決定	カレンダー実行が最終決定されました。以降の変更はできません。
最終決定 - 振込処理完了	セグメントは最終決定され、振込処理も完了しました。このステータスは、最終決定ステップを実行した後に振込処理を実行した場合に発生します。
計算エラー	計算中にエラーが発生しました。
計算エラー - スキップ	エラーのため、受給者の計算が実行されなかったことを示します。
計算エラー - ルール	メッセージ エlementを使用して定義した条件 (ルール) の結果としてエラーが生成されました。
セグメント未作成	セグメントに予定された支給が含まれていません。

処理インジケータ	説明
正常	この初期設定は、それぞれの計算後に表示されます。この受給者には特別な処理の指示がないことを示します。
キャンセル	計算フェーズの次の反復処理時に、この受給者が給与計算処理または休暇欠勤処理から除外されることを示します。選択ステータスは [キャンセル] に変更されます。給与計算実行を最終決定する前にインジケータを [キャンセル以外] に変更しない限り、この受給者は再度確認されません。

処理インジケータ	説明
再計算	受給者の職務（従業員 ID と雇用レコード番号の組み合わせ）に関連付けられた全ての計算は、計算フェーズの次回実行時に再実行されます。このステータスは、休暇欠勤/給与計算ページの [全て再計算] オプションに似ていますが、これはユーザーによって選択された受給者に対してのみ適用されます。
停止	計算フェーズの次回実行時には、受給者の処理は行われません。選択ステータスは "一時停止" に変更され、計算結果は全て削除されます。以降の計算時からは（この受給者について正常終了するかキャンセルされるまで）確認と計算が繰り返し行われます。ほかの処理をする必要はありません。
キャンセル解除	選択ステータスが [キャンセル] から [アクティブ] 、 [非アクティブ] 、またはその他の適切な値に変更され、計算フェーズの次回実行時に受給者の確認と計算が再度行われます。
凍結	休暇欠勤/給与計算ページまたは受給者ステータスページで "全て再計算" あるいは "凍結解除" か "解除" を選択しない限り、受給者は再計算の対象となりません。
解除	受給者の凍結ステータスを取り消します。

関連項目:

第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、受給者ステータスの表示および受給者の処理の指示の更新、 859 ページ

この章で使用する共通フィールド

開始従業員 ID 、 終了従業員 ID 照会ページの照会対象に含まれる、あるいはストリーム ページのストリーム処理に含まれる最初と最後の受給者の従業員 ID 番号を入力します。

処理の指示の入力

給与計算実行または休暇欠勤実行を開始する準備が完了したら、ラン コントロール ID を作成し、処理項目を指定します。

1. "休暇欠勤計算/給与計算" の休暇欠勤/給与計算ページにアクセスします。
2. 処理対象となる受給者を指定します。オプションは処理フェーズによって異なります。
3. 実行する処理フェーズを選択します。最初は必ず確認フェーズを選択します。カレンダー グループに対する処理を開始するには、まずカレンダー グループを指定する必要があります。
4. エlement変換チェーンの作成、または処理統計の作成を行う場合、該当するオプションを選択します。
5. ログ ファイルに使用する言語を選択します。
6. [実行] ボタンをクリックします。

注意: プロセス リスト ページには、プロセス名とその説明として、"GPPDPRUN" と "グローバルペイロール" が表示されます。休暇欠勤実行と給与計算実行には同じ名称が使用されます。

反復処理が行われるため、実行が最終決定されるまで、休暇欠勤/給与計算ページに何度か戻って指示を更新することになります。たとえば、計算フェーズの実行後、結果を確認して修正するため、同じラン コントロール ID を使って "休暇欠勤計算/給与計算" の休暇欠勤/給与計算ページにアクセスし、次のフェーズの処理に対する指示を入力する場合などです。実行の最終決定が可能になるまで、このプロセスを必要な回数繰り返します。処理フェーズが終了するたびに、ラン コントロール レコードは削除されます。

給与計算実行が異常終了した場合、問題を修正して、休暇欠勤/給与計算ページから再実行情報ページを表示し、処理が停止しているところから再実行できます。給与計算実行を始めから開始する必要はありません。処理が異常終了した際には、同じラン コントロール ID を使用して再実行を行うことが重要です。これは、ラン コントロール ID を使用して、再実行に必要な情報が保存されているためです。新しいラン コントロール ID を**使用することはできません**。

このセクションでは、以下の項目について説明します。

- 給与計算処理、休暇取得処理、および休暇付与処理の指示の入力
- 異常終了した実行および処理の再実行についての情報の表示

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Process Scheduler

処理の指示の入力とラン コントロール パラメータの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
休暇欠勤/給与計算	GP_RUNCTL	[グローバル ペイロール /休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇欠勤計算/給与計算]、[休暇欠勤/給与計算]	給与計算、休暇取得、または休暇付与のプロセスの処理の指示を入力します。このページは、オンサイクルおよびオフサイクルの両方の給与計算実行に使用します。
再実行情報	GP_RUNCTL_SEC	休暇欠勤/給与計算ページの [再実行情報] リンクをクリックします。	実行が異常終了した場合に、問題を解決した後、どこから処理が再開され、再実行されるのかなどの関連情報を表示します。
デバッグ/チューニングオプション	GP_RUNCTL_DEBUG_SEC	休暇欠勤/給与計算ページの [デバッグ/チューニング オプション] リンクをクリックします。	統計を作成して、給与計算実行のパフォーマンスを向上させます。

処理の指示の入力

休暇欠勤/給与計算ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇欠勤計算/給与計算]、[休暇欠勤/給与計算])。

休暇欠勤計算/給与計算

実行

ラン コントロール ID: 01 [レポート マネージャ](#) [プロセス モニター](#)

給与計算/休暇欠勤処理の実行

カレンダー グループ ID:	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/> オフツ
ストリーム番号:	<input type="text"/>	プロセス番号:
グループ リスト ID:	<input type="text"/>	言語: 日本語 ▼

処理フェーズとオプション

<input type="checkbox"/> 確認	<input type="checkbox"/> 計算	<input type="checkbox"/> 凍結	<input type="checkbox"/> 最終決定
<input type="checkbox"/> 受給者一時停止	<input type="checkbox"/> 全て再計算	<input type="checkbox"/> 凍結解除	<input type="checkbox"/> 停止
<input type="checkbox"/> 確認済			<input type="checkbox"/> キャンセル

[再実行情報](#) [デバッグ/チューニング オプション](#)

休暇欠勤/給与計算ページ

給与計算/休暇欠勤処理の実行

カレンダー グループ ID

一連のカレンダーを処理するために選択します。最終決定済みのカレンダー グループ ID は、検索結果リストから除外されます。

オープン

カレンダー グループの属性です。この設定は、カレンダー グループ テーブルに保存されています。カレンダー グループに対して最初に確認フェーズが実行された際に、そのカレンダー グループは "オープン" であると認識され、このチェック ボックスはオンになります。最終決定フェーズが実行されると、"オープン" とは認識されなくなり、このチェック ボックスはオフになります。

ストリーム番号

カレンダー グループ ページで [ストリーム処理の実行] チェックボックスがオンにしてあると、この [ストリーム番号] フィールドを使用できます。以下の条件が適用されます。

- 処理フェーズとして [確認] チェック ボックスをオンにする場合は、処理するストリーム番号を入力する必要があります。
- [計算]、[凍結解除]、または [凍結] チェック ボックスをオンにした場合は、対象のストリーム番号を入力します。全てのストリームに対して確認フェーズを実行してある場合は [グループ リスト ID] フィールドに入力する必要があります。

グループ リスト ID

特定のグループ リストに含まれる受給者のみを計算、凍結、凍結解除する場合は、グループ リスト ID を入力します。ユーザーは、自分のユーザー ID で作成したグループ リストのみを処理できます。

言語

ログ ファイルの表示に使用される言語を指定します。ログ ファイルはシステム管理者が、実行が正常に終了したかどうかを判断する際に有用です。ユーザーに定義した設定言語が、デフォルトとして使用されます。

参照: 第 21 章、「給与計算の処理」、ストリーム処理の作成、837 ページ。

処理フェーズとオプション

実行する処理フェーズを選択します。確認や計算のフェーズを一緒に行うなど、複数のフェーズを同時に実行できます。1 つのオプションをオンにすると、ほかのオプションが使用不可になる場合もあります。

確認

最初に処理を実行するときに、このチェック ボックスをオンにします。指定のカレンダー グループ ID と、場合によっては特定のストリーム番号に関連付けられていて、そのカレンダー グループに含まれるカレンダーのカレンダー コンポーネントで定義された受給者選択条件を満たしている全ての受給者が確認されます。また、計算フェーズと確認フェーズを同時に実行することができます。

確認フェーズを実行した後は、全実行をキャンセルする場合を除き、同じカレンダー グループ ID やストリームについて、このチェック ボックスを再びオンにすることはできません。反復処理の場合、データに対する変更を基に受給者が加えられたり除外されたりします。そのため、確認処理を複数回実行する必要はありません。この処理には、反復トリガが使用されます。反復トリガが設定された受給者に対しては、計算フェーズの実行時に確認と計算が再度行われます。

計算

給与計算や休暇欠勤実行のための休暇欠勤ユニットを計算をする場合に、このチェック ボックスをオンにします。確認フェーズの後、あるいは同時に計算フェーズを実行できます。最初に計算処理が実行される場合、確認フェーズでフラグの付いた全ての受給者が計算されます。

その後に実行する計算フェーズでは、該当するチェック ボックスをオンにして、処理または再処理する受給者のサブセットを定義します。

以下の受給者を再確認および再計算する場合は、[計算] チェック ボックスをオンにします。

- 前回の計算でエラーになった受給者
- 一時停止ステータスになった受給者
- [処理インジケータ] を **[再計算]** または **[キャンセル以外]** に手動で設定した受給者
- 反復トリガを持ち、凍結されていない受給者

凍結された受給者も含め既に計算済みの全ての受給者を再計算する場合に、[計算] および [全て再計算] の両方をオンにします。反復トリガのある受給者のみが、再確認されます。

凍結

計算済みの受給者を凍結する場合に、このチェック ボックスをオンにします (**[確認済]** ステータスの受給者は凍結されません)。選択した受給者の全ての計算が凍結されます。この受給者に対して計算フェーズを再実行した場合、受給者が凍結されている間に追加された反復トリガおよびポジティブ入力は無視されます。ただし、[全て再計算] チェック ボックスをオンにした場合は、反復トリガとポジティブ入力は処理されます。

最終決定

このカレンダー グループ ID の給与計算、または休暇欠勤処理を終了する場合に、このチェック ボックスをオンにします。実行を最終決定すると、それ以上計算できなくなります。

最終決定フェーズは単独で実行する必要があります。

凍結解除

凍結された受給者の凍結を解除する場合に、このチェック ボックスをオンにします。バッチ処理中に、計算ステータスは **"計算済み"** にリセットされます。その後の計算フェーズの実行時に、これらの受給者の計算は必要に応じて再実行されます (再計算の指示または反復トリガが設定されているなどの理由がない限り、これらの受給者の再実行は自動的に行われません)。

停止

オープンされている給与計算実行で受給者を一時停止する場合に、このチェック ボックスをオンにします。一時停止になった受給者には、[未処理] のステータスを持つ反復トリガが定義されます。その後、オープンの給与計算実行が最終決定になる前に、これらの受給者をオフサイクルまたは賞与などのほかの実行処理に含めることができます。オープンの給与計算実行に戻した場合は、これらの一時停止になった受給者の確認と計算が再度行われます。一時停止になった受給者に関連付けられた遡及情報は失われません。

キャンセル

全ての給与計算実行を無効 (カレンダー グループが実行されなかった場合と同様の状態) にする場合、このチェック ボックスをオンにします。受給者の全ての計算が削除され、データは全て元の値に戻され、ステータスのインジケータも全て削除されます。

このチェック ボックスは、確認フェーズや計算フェーズを実行した後でオンにします。このチェック ボックスをオンにした場合は、ほかのオプションは使用できなくなります。支給が最終決定された後では、実行をキャンセルすることはできません。

キャンセル フェーズは単独で実行する必要があります。

受給者一時停止

このチェック ボックスでは、今回の実行で受給者を処理できるように、オープン状態の別のカレンダー グループからの受給者に対する実行を一時停止するかどうかを指定します (受給者の確認処理は、一度に 1 つの (オープン状態の) カレンダー グループ ID でしか実行できません)。

オンサイクル処理では、[確認] または [計算] チェック ボックスをオンにした場合に、このチェック ボックスを使用できます。デフォルトではオフに設定されています。

オフサイクル処理では、このチェック ボックスは常にオンになっており、設定の変更はできません。

全て再計算

このチェック ボックスをオンにする場合は、[計算] チェック ボックスもオンにします。凍結されている受給者も含め全ての受給者の前回までの実行結果が削除され、ステータスが元の値に戻されます。次に既に計算済みの受給者全員が再計算されます。ただし、再確認はされません。

処理では使用されても、エレメント定義の変更など、反復トリガを作成しないレコードを修正した場合は、このオプションの使用が適しています。

警告: 全ての受給者を再計算すると、システムのリソースに大きな負荷がかかります。データ不良、不正確なエレメント定義、その他広範に影響を及ぼす問題により、多くの受給者に計算違いが発生したと考えられる場合にのみ、[全て再計算] チェック ボックスをオンにしてください。

確認済

全てのストリームに対して確認フェーズが実行されている場合、このチェック ボックスがオンになります。全てのストリームが確認されると、その他の処理フェーズにグループ リストを使用できます。

再実行情報

処理中にデータベースのエラーなどの致命的エラーが起こった場合は、その処理が停止され、エラー メッセージが表示されます。[再実行情報] リンクをクリックすると、どのフェーズで処理が停止したか、問題を解決した後はどこから再開されるのかを参照できます。エラーを訂正した後、処理を再実行します。通常、実行をキャンセルする必要はありません。

デバッグ/チューニング オプション

[デバッグ/チューニング オプション] リンクをクリックして表示されたページで、統計を作成し、給与計算実行のパフォーマンスを向上させることができます。

関連項目:

- 第 21 章、「給与計算の処理」、ストリーム処理の作成、 837 ページ
- 第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、給与計算実行または休暇欠勤処理実行の最終決定、 918 ページ
- 第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、給与計算実行または休暇欠勤処理実行のキャンセル、 919 ページ
- 第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、エレメント変換チェーンの表示、 907 ページ

処理の再実行

再実行情報ページにアクセスします (休暇欠勤/給与計算ページの [再実行情報] リンクをクリックします)。

休暇欠勤計算/給与計算

再実行情報

ラン コントロール ID:	01
カレンダー グループ ID:	
フェーズ:	初期
プログラム オプション確認:	
ステップ:	実行フェーズ ステップ初期
再実行プログラム:	
次のステップ:	0
再実行番号:	
従業員 ID の再開始:	

再実行情報ページ

- フェーズ、プログラム オプション確認、 ステップ** プログラムが処理中にコミットした場合、これらのフィールドで、処理がどの段階で停止したかを確認します。[フェーズ] には、"初期"、"反復"、"キャンセル"、"確認"、"計算"、"最終決定"、"完了" のいずれかが表示されます。
- 再実行プログラム、次のステップ、 再実行番号** 確認フェーズで処理が異常終了した場合のみ、これらのフィールドに情報が表示されます。

従業員 ID の再開始

計算フェーズで異常が発生した場合、処理を再実行するときに最初に計算される受給者の従業員 ID が表示されます。

注意: グループ リストに対する計算フェーズが再実行される際には、再開時点でのグループ リストの定義が使用されます。

デバッグとチューニング

デバッグ/チューニング オプション ページにアクセスします (休暇欠勤/給与計算ページの [デバッグ/チューニング オプション] リンクをクリックします)。

休暇欠勤計算/給与計算

デバッグ/チューニング オプション

ラン コントロール ID: 01

カレンダー グループ ID:

パフォーマンス チューニング

☐ 統計の更新

データ取得の負荷を低減し効率よく処理を実行するために、頻繁にアクセスされる情報はプロセスによりテーブルにロードされます。これらのテーブルの情報はプロセスが終了する前にクリアされます。データベースがこの情報を最も効率よく取得できるようにするには、テーブルに情報がロードされた後にそのテーブルの統計情報を更新する必要があります。

この処理は頻繁に行う必要はありません。多くの受給者を処理する、代表的な受給者処理を行う際に実行することをお勧めします。

デバッグ

☐ 一括挿入の停止

[一括挿入の停止] をオンにすると、テーブルに挿入されるデータのキャッシュへの格納は行われません。一括挿入の停止は、データの重複挿入を追跡する際に非常に重要です。

☒ トレースしない

SQL 時間をログ

エラーのエレメントをトレース

全エレメントをトレース

エレメント変換のオーディット ログ (変換チェーン) を作成するには、トレース オプションを指定します。

デバッグ/チューニング オプション ページ

パフォーマンス チューニング

統計の更新

システムで取得される一時テーブルは、カレンダー処理が終了するまで (最終決定されるかキャンセルされるまで) 保持されます。給与計算のバッチ処理中に使用直後にクリアされることはありません。そのため、これらのテーブルから正確な統計情報を取得する処理が容易化され、その結果、パフォーマンスも向上しています。これらのテーブルの統計情報を更新する最適なタイミングは、カレンダーの計算処理が完了していて、そのカレンダーが引き続きオープン状態であるときです。全てのカレンダーがクローズ状態の場合は、統計情報を更新しないことをお勧めします。この時点では、一時テーブルは空であるからです。

[統計の更新] チェック ボックスを使用すると、バッチ処理時に特に重要ないくつかの一時テーブルを更新できます。

デバッグ

一括挿入の停止

このチェック ボックスをオンにすると、複数のテーブルに挿入されるデータのキャッシュへの格納は行われません。結果テーブルに重複した結果を挿入している際に重複挿入などの SQL エラーが発生した場合は、このチェック ボックスをオンにして処理を再度実行します。実行後、SQL エラー メッセージと共にエラーの原因となった従業員 ID が表示されます。

計算フェーズでは、複数のトレース オプションが使用できます。これらのオプションによって、次の実行で計算される受給者に対するエレメント変換チェーン (計算フェーズ結果の詳細ファイル) の作成をリクエストできます。

注意: 大量の受給者を計算する場合に、[SQL 時間をログ]、[エラーのエレメントをトレース]、および [全エレメントをトレース] を選択すると、システムのパフォーマンスが低下する可能性があります。これらのオプションはトラブルシューティングの場合にのみ使用してください。これらのオプションでは同レベルのシステム リソースが必要になります。

トレースしない

エレメント変換チェーンを作成しない場合、このオプションを選択します。

SQL 時間をログ

バッチ処理中に職務テーブル、職務日付情報テーブル、雇用形態テーブル、および雇用データ テーブルのカーソル (複数行が返される SELECT 文) が開かれるたびに、受給者データ管理プログラムによってログ ファイルがレポートされるようにする場合にこのオプションを選択します。この情報はパフォーマンス調整に有用です。

エラーのエレメントをトレース

エラーの受給者のみを含むエレメント変換チェーンを作成する場合にこのオプションを選択します。

全エレメントをトレース

計算された受給者の全てのエレメントがどのように変換されたかを表示するエレメント変換チェーンを作成する場合にこのオプションを選択します。全てのエレメントの中間値とエレメントが変換された順序を決定できます。

グループ リストの作成

グループ リストにより、同時に処理できる受給者のサブセットを定義します。グループ リストは、ユーザー ID とリンクしています。自分が作成したグループ リストであれば、どれでも処理できます。カレンダー グループに確認フェーズを実行した後は、計算、凍結、および凍結解除の処理フェーズでグループ リストを使用できます。グループ リストとストリームは、どちらか一方しか使用できません。処理にグループ リストを選択するとストリーム番号は選択できず、ストリーム番号を選択するとグループ リストは選択できません。

グループ リストのメンバーの主な特徴は以下のとおりです。

- グループ リストのメンバーはいつでも更新できます。処理にはグループ リストの最新の定義が使用されます。
- 処理中の支給カレンダーと関連付けられていないグループ リストの受給者は無視されます。
- 1 人の受給者を 2 つ以上のグループ リストに含めることも可能ですが、推奨しません。

同じメンバーを含む異なるグループ リストを使用して、同じカレンダー グループに対して処理を同時に開始すると、開始後すぐに、2 番目の処理は停止します。これによって、グループ リストから重複している受給者を削除できます。

警告: グループ リストを指定して計算フェーズを実行すると、最初の確認フェーズの後にカレンダーから追加または削除された受給者に対する変更はシステムに認識されません。これは、グループ内の受給者のみが処理されるためです。見落とされた受給者を処理するには、実行を最終決定する前に、グループ リストを指定せず全ての受給者に対して計算フェーズを実行します。

グループ リストの作成に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
グループ リスト	GP_GRP_LIST	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者グループ]、[グループ リスト]、[グループ リスト]	給与計算または休暇欠勤処理の実行中に処理する受給者のサブセットを作成、編集、表示します。

グループ リストの作成

グループ リスト ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者グループ]、[グループ リスト]、[グループ リスト])。

グループ リストの管理

グループ リスト ID: K1GGL01

*名称: 略称:

従業員リスト		カスタマイズ	検索	全件表示	最初	1-2/2	最後
従業員 ID	名前						
<input type="text" value="K1GSMK02"/> 🔍	Fabio Fabiano	<input type="button" value="+"/> <input type="button" value="-"/>					
<input type="text" value="K1GSMK06"/> 🔍	Loring James	<input type="button" value="+"/> <input type="button" value="-"/>					

グループ リスト ページ

従業員 ID

グループに入れる各従業員の ID を選択します。

注意: ユーザーが表示または編集できるのは、そのユーザーのユーザー ID を使用して作成したグループのみです。

ストリーム処理の作成

このセクションでは、ストリーム処理の概要、事前設定、およびストリームの作成について説明します。

ストリーム処理について

ストリーム処理は、給与計算処理に柔軟性を与えるオプション機能です。従業員 ID に基づき受給者をサブセット、つまり**ストリーム**に分割し、以下のいずれかを実行できます。

- 選択したストリームの受給者のみ計算
- 同時に 2 つ以上のストリームを計算

一度に複数のストリームが処理されることで、処理時間が大幅に短縮されます。つまり、ストリームは 1 つずつで処理されるのではなく、複数のストリームが同時に処理され、処理量が増加します。また、給与計算の結果をデータベースにコミットできるように、それぞれの実行の順序を管理しブレイク ポイントを作成する際、ストリームの使用は有用です。

カレンダー グループ ID を最終決定する前に各ストリームを処理する必要があります。最終決定フェーズは、同じカレンダー グループ ID で処理される全ての受給者に影響を及ぼすため、ストリームを使用できません。

事前設定

ストリーム処理では、事前にいくつかの手順を行う必要があります。手順 1 と 2 は 1 回だけ実行します。手順 3 と 4 は、給与計算でストリーム処理を使用するたびに行います。

ストリーム処理の準備をするには、次の手順に従います。

1. ストリームを作成します。
2. データベース内のテーブルを分割します。

データベース管理者は従業員 ID をキーとして用いてテーブルを分割する必要があります。

3. カレンダー作成の際、カレンダー グループ ページで [ストリーム処理の実行] チェック ボックスをオンにします。

4. 休暇欠勤/給与計算ページで、処理するストリームを選択します。

複数のストリーム処理を同時に実行するには、以下の手順に従います。

- a. 最初のストリームの処理オプションを選択します。
- b. 異なるラン コントロール ID を使用して、次のストリームの指示を入力します。
- c. 各ストリームに対し、手順 4b を繰り返します。

ストリームは、一括、または個別に実行できます。






ストリームの作成に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
ストリーム	GP_STREAM	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者グループ]、[ストリーム]、[ストリーム]	ストリーム処理を設定します。 ストリーム処理を使用する前に、データベース内のテーブルを分割しておく必要があります。

ストリームの作成

ストリーム ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者グループ]、[ストリーム]、[ストリーム])。

ストリーム

ストリーム情報					カストマイズ 検索 全件表示   最初  1-6/6  最後	
*ストリーム番号	開始従業員 ID	終了従業員 ID				
1	GXTLEE01	GXTLEE10				
2	GXTLEE11	GXTLEE25				
3	GA0501	GA0506				
4	GA0508	GA0515				
5	G1EE0030	G1EE0035				
6	GXEEAM2GP01	GXEEAM2GP05				

ストリーム ページ

ストリーム番号、およびそのストリームに含める最初と最後の受給者の従業員 ID を入力します。

注意: 複数のストリームに同じ従業員 ID を含めることはできません。

第 22 章

給与計算結果の表示と最終決定

この章では、以下の方法について説明します。

- 処理結果の表示
- ログ ファイルの表示
- 処理統計の表示
- 受給者反復処理結果リストの表示
- 受給者メッセージの表示
- 受給者ステータスの表示および受給者の処理の指示の更新
- カレンダー別結果の表示
- ポジティブ入力結果の表示
- 休暇取得処理の日次結果の表示
- 遡及計算デルタ値の表示
- カレンダー グループ別結果の表示
- 処理結果管理ビューの定義
- 処理結果管理ビューの表示
- エLEMENT変換チェーンの表示
- バッチ処理とデータ入力エラーの修正
- 給与計算実行または休暇欠勤実行の最終決定
- 給与計算実行または休暇欠勤実行のキャンセル
- 特殊な状態の処理
- 給与計算データのレポート

関連項目:

第 21 章、「給与計算の処理」、813 ページ

この章で使用する共通フィールド**アクション タイプ**

ポジティブ入力のインスタンスが処理されたときに行われたアクションのタイプが表示されます。値は以下のとおりです。

[追加]: エレメントの通常変換が行われた後に再びそのエレメントが処理され、ポジティブ入力から金額が追加されたことを示しています。

[処理しない]: ポジティブ入力ページの指示により、このインスタンスは変換されなかったことを示しています。

[上書き]: ポジティブ入力ページの金額、レート、ユニット、パーセント、ベース金額を使用してこのインスタンスの値が変換されたことを示しています。

[ゼロ]: ポジティブ入力のインスタンスは変換されず、結果テーブルにはゼロがロードされたことを示しています。

計算アクション

このフィールドには、以下の値が表示されます。

[計算]: セグメントが計算済みであることを示します。

[計算して置換]: そのセグメントは計算されていて、その後、訂正タイプが "置換" でオフサイクル訂正が選択されていることを示します。

[取消]: そのセグメントは当初は計算されていましたが、再計算期間中に受給者が選択される資格を失ったため、セグメントの計算が取り消されたことを示します。たとえば、受給者は当初支給グループ A に所属していましたが、支給グループ B に異動したとします。受給者の支給グループを支給グループ B に変更するために遡及変更が行われます。前回の計算を**取り消す**ために、**"取消"** セグメントが遡及中に支給グループ A のカレンダーで作成されます。

開始従業員 ID 、 終了従業員 ID

照会ページの照会対象に含まれる、あるいはストリーム ページのストリーム処理に含まれる最初と最後の受給者の従業員 ID 番号を入力します。

有給 、 無給	日数計算の有給部分と無給部分です。
レビジョン番号 、 バージョン番号	<p>これらのフィールドを組み合わせで使用し、金額が遡及により再計算されたかどうかを示され、その場合に、どの遡及方法が適用されたかが示されます。</p> <p>遡及方法が "訂正" のときは、バージョン番号が 1 つ増加し、レビジョン番号は 1 のままです。</p> <p>遡及方法が "繰越" のときは、バージョン番号はそのまま、レビジョン番号が 1 つ増加します。</p> <p>カレンダー計算の最初の出力結果はバージョン 1、レビジョン 1 の組み合わせになります。</p>
セグメント番号	セグメントに関連付けられた番号です。カレンダーが分割されていない場合は、値 1 が表示されます。

処理結果の表示

計算フェーズを実行した後で、その結果を表示できます。処理結果は次の表にリストされたコンポーネントで表示されます。次に示された順序でコンポーネントを表示することをお勧めします。

結果を表示するコンポーネント	用途
ログ ファイル	システム管理者は、COBOL プロセスが正常に終了したかどうかを確認できます。
処理統計	エラーになった受給者の数などの、実行の処理統計が表示されます。カレンダー別、またはカレンダー グループ別に表示されます。
受給者反復処理結果リスト	反復計算の対象になった受給者のリストが表示されます。
受給者メッセージ	エラー メッセージおよび警告が表示されます。

結果を表示するコンポーネント	用途
[受給者ステータス] タブ	受給者の計算ステータスを表示し、個々の受給者の処理インジケータを入力できます。
カレンダー グループ別結果	選択したカレンダー グループ ID に関連付けられたカレンダーごとに、受給者の計算済みの支給、控除、累計、およびサポート エLEMENTが表示されます。また、カレンダー セグメント別計算、ポジティブ入力、休暇欠勤、およびデルタや繰り越し調整を含む遡及計算が参照できます。
カレンダー別結果	カレンダー グループ別結果コンポーネントと同じ情報が表示されますが、指定したカレンダーに関する情報のみが表示されます。異なるカレンダーグループに使用された際のカレンダーの結果も表示できます。たとえば、カレンダーに遡及が発生し複数回実行された場合、元の実行結果と各遡及実行結果にアクセスできます。
ELEMENT変換チェーン	各ELEMENTがどのように変換されたかが表示されます。

最終決定フェーズの後も、これらのコンポーネントは有益なリソースになります。"受給者メッセージ" と "反復トリガ" 以外は、実行の最終決定後も全ての情報にアクセスできます。給与計算実行または休暇欠勤実行全体をキャンセルすると、全ての結果が削除されます。

ログ ファイルの表示

このセクションでは、給与計算または休暇欠勤処理によって生成されたログ ファイルの表示について説明します。

システム管理者は、ログ ファイルを使って、実行の基本情報やその実行が正常に完了したかどうかを確認します。ファイルの作成に使用される言語は、休暇欠勤/給与計算ページで、処理の指示を入力した担当者のユーザー ID によって決まります。

注意: エラー発生時に従業員 ID がわかっている場合は、その従業員 ID がログ ファイルに書き込まれます。

例 1: 正常に終了した処理のログ ファイル

休暇欠勤/給与計算ページで選択したデータベース名および処理オプションが、ログ ファイルの先頭に表示されます。

```

Process started           :                13:27:09

Connecting to Database           GP830DVL
with User ID           :                PSGP
and Batch Run ID       :                1

Calendar Group ID           K0CRUSA 199910
Stream Number           :                00
Group List ID           :
Identify Option          :                No
Calculation Option       :                Y
- Trace Option          :                A
- Recalculate All       :                N
Unfreeze Option          :                N
Freeze Option            :                N
- By Calendar           :                N
Finalize Option          :                N
Cancel Option            :                N

```

インストール設定ページで選択した [チェックポイント間隔] と [進行状況表示間隔] の値が次のログ ファイルの次のセクションに表示されます。

```

Checkpoint / Restart

CheckPoint Interval       :                1000
Progress Interval         :                0500

```

実行フェーズに関する情報は以下のとおりです。この中の情報のいくつかは、休暇欠勤/給与計算ページで [再実行情報] リンクをクリックしても参照できます。

```

Run Phase                 :                1
Cancel Pgm Option         :
Identify Pgm Option       :
Next Program              :
Next Step                 :                0000

```

```
Next Number          :          00
Next Employee ID     :

Processing Payee Range

First Employee ID    :          B-BARET100
Last Employee ID     :          ZP007
```

それぞれの処理フェーズの開始と終了のタイムスタンプ メッセージが表示されます。タイムスタンプは、データベースのマシン タイムではなく、アプリケーション サーバーのマシン タイムを表します。

```
Initial Phase started :          13:27:12

Looking for T&L feed
COMMIT TAKEN

Initial Phase ended   :          13:27:12

Iterative Phase started:          13:27:12

COMMIT TAKEN

Iterative Phase ended :          13:27:12

Cancel   Phase started:          13:27:12

Canceling Selectively for Recalculation
Total number of Segments processed :          0
COMMIT TAKEN

Cancel   Phase ended  :          13:27:14

Identify Phase started:          13:27:14

Iterative screening for new Payees

Total number of Payees identified :          10
Total number of Segments identified :          20
COMMIT TAKEN

Identify Phase ended  :          13:27:17
```


Calculate Phase started: 13:27:18

Looking for T&L feed

COMMIT TAKEN

Total number of Payees processed : 10

Total number of Segments processed : 20

Total number of Payees in error : 0

Total number of Segments in error : 0

Calculate Phase ended : 13:27:45

COMMIT TAKEN

Process ended : 13:27:45

COBOL Array usage recorded during this run

PAYEE or SEGMENT Level Arrays

Copybook	Array Name	Used	Limit

GPPIDNT7.CBL	CSTAT-DATA OF W-WK	2	50
GPPIDNT7.CBL	CSEG-ENTRY OF W-WK	2	99
GPPIDNT7.CBL	JOB-ROW OF W-WK	1	1000
GPCDPDM1.CBL	L-JOB-DATA	1	100
GPCDPDM1.CBL	L-EMP-DATA	1	20
GPCDPDM1.CBL	L-PRD-DATA	1	20
GPCDPDM1.CBL	L-ADR-DATA	2	20
GPCDPDM1.CBL	L-CMP-DATA	3	100
GPCDPDM1.CBL	L-WS-DATA	1	20
GPCDPDM .CBL	L-PMT-DATA	2	50
GPCDPDM5.CBL	L-EVNT-DATA	1	50
GPCUPINV.CBL	PINV-DATA	89	5000
GPCUPINW.CBL	PINWB-DATA	33	3000
GPCDPDM2.CBL	L-ABS-DATA	5	1000
GPCDPDM5.CBL	L-FWD-PI-DATA	10	500

GPCDPDM5.CBL	L-FWD-SOVR-DATA	10	600
GPCDPDM5.CBL	L-PI-DATA	5	300
GPCDPDM5.CBL	L-PI-SOVR-DATA	3	600
GPCDPDM5.CBL	L-PI-REF-DATA	3	600
GPCUPINW.CBL	PINWC-DATA	6	2000
GPCDPDM5.CBL	L-EOVR-DATA	1	300

PROCESS Level Arrays

Copybook	Array Name	Used	Limit
GPCDPRUN.CBL	CAL-DATA	2	100
GPCUPING.CBL	PING-DATA	25	50
GPCUPINT.CBL	PINT-DATA	107951	300000
GPCUPINA.CBL	PINA-DATA	6718	18000
GPCUPINB.CBL	PINB-DATA	6718	18000
GPCPLIST.CBL	PL-PRCLIST-DATA	1	20
GPCPLIST.CBL	PLS-SECTION-DATA	10	200
GPCPLIST.CBL	PLE-ELEMENT-DATA	64	2000
GPPCANWA.CBL	WA-TBL-NM OF W-WK	43	50 ***
GPPIDNT7.CBL	PE-ENTRY OF PE-DATA	1	50

例 2: エラーにより終了した処理のログ ファイル

休暇欠勤/給与計算ページで選択したデータベース名および処理オプションが、ログ ファイルの先頭に表示されます。

```

Process started           :                11:06:34

Connecting to Database           GP830TS1

with User ID                 :                PS

and Batch Run ID             :                GGTEST

Calendar Group ID            :                GXHCRUSA 199910

Stream Number                :                00

Group List ID                :

Identify Option              :                N

```

```
Calculation Option      :          Y
-   Trace Option        :          N
-   Recalculate All     :          Y
Unfreeze Option         :          N
Freeze Option           :          N
-   By Calendar         :          N
Finalize Option         :          N
Cancel Option           :          N

Checkpoint / Restart

CheckPoint Interval     :          1000
Progress Interval       :          0500
Run Phase               :          1
Cancel Pgm Option       :
Identify Pgm Option     :
Next Program            :
Next Step               :          0000
Next Number             :          00
Next Employee ID        :

Processing Payee Range

First Employee ID       :          B-BARET100
Last Employee ID        :          Z9060

Initial Phase started   :          11:06:38

Looking for T&L feed
COMMIT TAKEN

Initial Phase ended     :          11:06:38

Cancel   Phase started:          11:06:38

Canceling All For Recalculation

Total number of Segments processed :          12
COMMIT TAKEN
```

```
Cancel      Phase ended      :                11:06:45

Calculate Phase started:                11:06:45

Looking for T&L feed

COMMIT TAKEN

Application Program Failed

Action Type      : SQL FETCH

In Pgm Section   : SQLRT: DA000-FETCH

With Return Code: 08608

Error Message    : [Microsoft][ODBC SQL Server Driver]String data,
right truncation (SQLSTATE 01004) 0

Application Program Failed

In Pgm Section   : GPPDPDM1: RD000

Application Program Failed

In Pgm Section   : GPPDPDM0: XA000-GET-NEXT-SEGMENT

Application Program Failed

In Pgm Section   : GPPSERVC: XP000-CALL-PMT-DATA-MGR

Application Program Failed

In Pgm Section   : GPPDPRUN: JA000-CALL-SERVICE

Process ended      :                11:06:48

The process terminated with ERRORS.
```

関連項目:

第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、バッチ処理エラーおよびデータ入力エラーの修正、910 ページ

処理統計の表示

このセクションでは、給与計算または休暇欠勤処理の処理統計の表示について説明します。

処理統計コンポーネントでは、以下の大まかな単位で処理結果を表示できます。

- [確認済]、[エラー]、[計算済]、[最終決定] の各受給者数

- [アクティブ]、[非アクティブ]、[キャンセル]、および [一時停止] の各受給者数

処理統計の表示に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
カレンダー グループ別	GP_CALRUN_STAT1	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[処理統計]、[カレンダー グループ別]	給与計算実行または休暇欠勤実行の処理統計が、カレンダー グループ別に表示されます。 最初に確認フェーズを実行します。
カレンダー別	GP_CALRUN_STAT2	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[処理統計]、[カレンダー別]	給与計算実行または休暇欠勤実行の処理統計が、カレンダー別に表示されます。

カレンダー グループ別の処理統計の表示

カレンダー グループ別ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[処理統計]、[カレンダー グループ別])。

システムによる一時停止 オープンになっている別のカレンダー グループ ID でも確認されたために、システムによる一時停止を受けた受給者です。

計算ステータス

このグループ ボックスには、各計算ステータスの受給者の数とその割合を示すパーセントが表示されます。

セグメント ステータス

このグループ ボックスには、アクティブ、非アクティブのステータスを持つ受給者の数とその割合を示すパーセントが表示されます。

アクティブ - カレンダー期間内 カレンダー期間内で最低 1 日はアクティブとなっていたために確認が行われた受給者です。

非アクティブ - 雇用終了後 会社を既に退職した者に支給される販売手数料など、非アクティブとなっていた期間に支給を受けた受給者、または支給キーに不整合が生じ繰り越し遡及の対象となったため支給を受けた受給者です。

関連項目:

第 33 章、「[遡及処理の定義](#)」、1219 ページ

カレンダー別の処理統計の表示

カレンダー別ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[処理統計]、[カレンダー別])

カレンダー別ページのフィールドは、カレンダー グループ別ページと同じですが、各フィールドにはそれぞれのカレンダーの結果が反映されます。

このカレンダー グループ ID に関連付けられた次の、または前のカレンダーの統計は、[カレンダー統計] のタイトル バーの右向きや左向きの三角ボタンをクリックすると表示できます。

関連項目:

第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、カレンダー グループ別の処理統計の表示、 851
ページ

受給者反復処理結果リストの表示

"受給者反復処理結果リスト" の受給者反復処理結果ページを使用して、最後に実行された反復計算処理の対象者とその理由を確認できます。このページで、リストに含まれる受給者 (特定の受給者、再計算処理を受けた受給者、またはカレンダー グループ全体) を定義できます。各バッチ処理の過程で、処理によって影響を受けた受給者の反復処理結果リストが自動的に作成されます。

受給者の反復処理結果リストは、最終決定処理の実行時に削除されます。

受給者反復処理結果リストの表示に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
受給者反復処理結果リスト	GP_PYE_ITER_LST	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[受給者反復処理結果リスト]、[受給者反復処理結果]	バッチ処理の過程で処理された全ての従業員のリストが表示されます。

受給者反復処理結果リストの表示

受給者反復処理結果リスト ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[受給者反復処理結果リスト]、[受給者反復処理結果])。

受給者反復処理結果リスト

カレンダー グループ ID: 11国: CYM

選択条件

開始従業員 ID:

終了従業員 ID:

プロセス番号:

プロセス アクション:

プロセス理由:

☒ 直近の反復処理

受給者

カスサイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

従業員 ID	名前	プロセス番号	プロセス アクション	プロセス理由	直近	結果	メッセージ	ステータス	タイムスタンプ
		0			<input type="checkbox"/>	結果	メッセージ	ステータス	

受給者反復処理結果リスト ページ

カレンダー グループ ID

このリストは、カレンダー グループの処理が最終決定されるまで使用可能です。最終決定の時点でリストは削除されます。

プロセス番号

プロセス番号には、ユーザー ID、ラン コントロール ID、タイムスタンプ、グループ リスト ID が関連付けられています。

直近の反復処理

このチェック ボックスをオンにすると、最後のカレンダー グループ実行で処理された受給者のみが返されます。

プロセス アクション

プロセス アクションは、リストに含めるための上位の条件を示します。[追加済]、[計算済]、[ステータス変更済]、[未計算]、[削除済]のいずれかを選択します。

プロセス理由

[プロセス理由] を選択して、検索の対象を限定します。ここでは、[キャンセル - ユーザー]、[プロセス エラー]、[凍結 - ラン コントロール]、[初期計算]、[初期確認]、[反復トリガ]、[前回エラー]、[再計算 - ユーザー]、[全て再計算 - ラン コントロール]、[一時停止 - ユーザー]、[一時停止 - システム]、[勤務管理送信]、[キャンセル解除 - ユーザー]、[凍結解除 - ラン コントロール]、および [一時停止解除 - システム] のいずれかを選択します。

注意: 初期確認と計算を同時に実行した場合、[プロセス アクション] および [プロセス理由] は、それぞれ [計算済]、[初期確認] と表示されます。

受給者の選択

[選択条件] グループ ボックスで指定した条件に基づいて、検索を実行します。

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

855

従業員 ID	検索条件に一致した従業員 ID が表示されます。
直近	検索結果として表示された情報が最近のものである場合、このチェック ボックスがオンになります。
メッセージ	[メッセージ] リンクをクリックすると、受給者メッセージ ページが表示されます。
ステータス	[ステータス] リンクをクリックすると、受給者ステータス ページが表示されます。
結果	[結果] リンクをクリックすると、カレンダー グループ結果ページが表示されます。
タイムスタンプ	ラン コントロールが保存された時間が表示されます。

受給者メッセージの表示

受給者メッセージ ページでは、計算フェーズで発生したエラーや警告が表示されます。PeopleSoft により定義された、メッセージ カタログのメッセージが表示されます。また、ユーザーがフォーミュラ エlementを使用して作成した独自のメッセージも表示されます。メッセージを確認したい受給者群を指定します。

メッセージ ログは、最終決定プロセス実行時に削除されます。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 確認フェーズまたは計算フェーズで、カレンダー グループ ID に生じたエラーや警告
- 選択したメッセージの詳細情報が表示されます。

重要: エラー メッセージは問題の解決を要する場合に発行され、エラーがあると給与計算または休暇欠勤の最終決定を行うことはできません。

受給者メッセージの表示に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
受給者メッセージ	GP_MESSAGE_LOG	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[受給者メッセージ]、[受給者メッセージ]	確認フェーズまたは計算フェーズで、そのカレンダー グループ ID に発生したエラーや警告が表示されます。
メッセージの詳細	GP_MESSAGE_SP	受給者メッセージ ページで [詳細] リンクをクリックします。	選択したメッセージの詳細情報が表示されます。

受給者メッセージの確認

受給者メッセージ ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[受給者メッセージ]、[受給者メッセージ])。

受給者メッセージ

カレンダー グループ ID: 1 1 国: CYM

選択条件

開始従業員 ID:

支給グループ:

グループ リスト ID:

メッセージ セット:

終了従業員 ID:

カレンダー ID:

計算ステータス:

メッセージ番号:

メッセージの重要度:

[一致するメッセージの選択](#) [クリア](#) [レポートの印刷へ](#)

メッセージ 加減算 | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

メッセージ ☒ 支給データ ☐

従業員 ID	名前	レポート	計算ステータス	メッセージ	セット	メッセージ番号	重要度	
		0						詳細

受給者メッセージ ページ

受給者メッセージを表示するには、次の手順に従います。

1. [選択条件] グループ ボックスに、メッセージの選択条件を入力します。(省略可)

グループ リスト ID を選択した場合は、表示されたグループに現在所属する受給者へのメッセージが表示されます。選択条件を指定しない場合は、表示されているカレンダー グループの全ての受給者へのメッセージが表示されます。

2. [一致するメッセージの選択] ボタンをクリックして検索結果を表示します。

メッセージ

メッセージ セット、メッセージ番号 メッセージ カタログのメッセージ セット番号とメッセージ番号です。メッセージ セット 17005 には、コアとなるバッチ処理に使用されるメッセージのセット番号が含まれます。国特有のバッチ処理のメッセージには国別のセット番号が付けられています。メッセージ番号が 300 を超えない場合、テキストは COBOL ログ ファイルにのみ表示されます。300 を超えるものについては、オンライン表示されます。

詳細 このリンクをクリックすると、"メッセージの詳細" ページに移動し、メッセージの全テキスト、説明、およびメッセージを生成したグローバル ペイロール プログラムの名前やセクション名を参照できます。

メッセージ ユーザーの使用言語に関連付けられた言語でメッセージが表示されます。翻訳されていないメッセージは、グローバル ペイロールで定義された基本言語で表示されます。

支給データ

このタブでは、警告またはエラー メッセージに関連付けられたカレンダー ID、支給グループ、およびセグメントが表示されます。

関連項目:

[第 21 章、「給与計算の処理」、ステータス コードと処理インジケータ、820 ページ](#)

[第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、バッチ処理エラーおよびデータ入力エラーの修正、910 ページ](#)

受給者ステータスの表示および受給者の処理の指示の更新

このセクションでは、受給者ステータスと処理の指示の確認方法について説明します。

重要: 処理インジケータを変更すると、特定のカレンダー グループ ID で受給者に関連付けられた **全ての**カレンダーの処理インジケータが更新されます。

関連項目:

第 21 章、「給与計算の処理」、ステータス コードと処理インジケータ、820 ページ

受給者ステータスの表示と受給者の処理の指示の更新に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
[受給者ステータス] タブ	GP_PAYEE_STATUS	[グローバル ペイロール /休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[受給者ステータス]、[受給者ステータス]	処理インジケータ別、計算ステータス別、またはその他の条件別に受給者を選択し、実行されるアクションを指定します。

受給者ステータスと処理の指示の確認

受給者ステータス ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[受給者ステータス]、[受給者ステータス])。

受給者ステータス

カウンタグループ: 1 1 国: CYM

選択条件

開始従業員 ID:

終了従業員 ID:

支給グループ:

カウンタ ID:

グループリスト ID:

計算ステータス:

処理インジケータ:

選択条件で検索

クリア

受給者

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | | | 最初 | 1/1 | 最後

受給者ステータス

カウンタグループ

従業員 ID	名前	レポート	処理インジケータ	計算ステータス	選択ステータス	計算タイムスラフ	結果	メッセージ
		0	<div></div>				結果	メッセージ

[受給者ステータス] タブ

受給者ステータスを確認するには、次の手順に従います。

- [選択条件] グループ ボックスで、確認する受給者を指定します (省略可)。
たとえば、次の実行で一時停止される全ての受給者を参照するには、[処理インジケータ] フィールドで [一時停止] を選択します。
- [選択条件で検索] ボタンをクリックして検索結果を表示します。

受給者の処理の指示を指定するには、次の手順に従います。

- [選択条件] グループ ボックスで、指示を入力する受給者を指定します。
- [受給者ステータス] タブで、該当する処理インジケータを選択します。

[受給者ステータス] タブ

検索結果が表示されます。遡及セグメントを含めそれぞれのセグメントが各行にリストされます。

処理インジケータ

実行するアクションを選択します。すぐに有効になるアクションと、対象の受給者群に対して次回バッチ処理を実行したときに有効になるアクションがあります。受給者に関連付けられた選択ステータスおよび支給の計算ステータスによって、どのアクションを選択できるかが決定されます。(実行を最終決定した後に、処理インジケータを変更することはできません。)

全ての処理インジケータは、受給者に対する全ての支給に適用されます。カレンダー別結果コンポーネントで受給者の支給リストを参照できます。受給者が 2 つの職務に就いているため 2 つの処理インジケータを有していて、1 つの処理インジケータを [キャンセル] にした場合、2 つ目の処理インジケータも [キャンセル] に設定されるのでその受給者には支給されなくなります。オプションは、以下のとおりです。

[キャンセル]: 次に計算を実行するときに、その受給者の結果とセグメント ステータス レコードが削除されます。選択ステータスは [キャンセル] になります。後でステータスを [キャンセル解除] に変更しない限り、[キャンセル] のステータスが保持されます。

[凍結]: 計算ステータスが [計算正常終了] の場合にのみ許可されます。直ちにステータスが [凍結] に更新され、このカレンダー期間での最後の計算以降に入力された未処理のポジティブ入力やその他の変更が今後の計算フェーズでは無視されます。受給者の全セグメントに適用されます。

正常.

再計算 (再計算): 計算ステータスが [計算正常終了] または [凍結] の場合にのみ使用します。次に [計算] を実行するときに、受給者の再計算が行われます。

[一時停止]: 次にバッチ処理を実行するときに、その受給者の結果およびセグメント ステータス レコードが削除されます。選択ステータスが [ユーザーによる一時停止] に設定されています。受給者は支払の実行に含まれるよう再指定されます。

[キャンセル解除]: 選択ステータスが [キャンセル] の場合にのみ使用します。

[凍結解除]: 計算ステータスが [凍結] の場合にのみ許可されます。このアクションにより、計算ステータスは直ちに [計算正常終了] に変更されます。この受給者の計算フェーズが次に実行されるときに、未処理の変更 (反復トリガ) が処理されます。受給者の全セグメントに適用されます。

結果

このリンクをクリックすると、カレンダー グループ別結果ページにアクセスします。このページには、セグメント、支給、控除、累計およびサポート エlementに関する情報が表示されます。

メッセージ

このリンクをクリックすると、受給者メッセージ ページにアクセスします。このページには、カレンダー グループ ID について作成されたエラーと警告が表示されます。

[カレンダー データ] タブ

このタブによって、支給が作成されたセグメント、カレンダーと関連付けられた支給元、および休暇欠勤または給与計算の実行タイプを確認します。

カレンダー別結果の表示

計算フェーズを実行するたびに、カレンダー別結果コンポーネントの各ページを使用して受給者情報を表示できます。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 受給者のセグメント情報が表示されます。
- セグメントの詳細情報
- カレンダー別の支給と控除
- カレンダー別の累計
- カレンダー別のサポート エlement

実行するたびにカレンダーの結果を確認できます。たとえば、遡及の結果 2000 年 2 月のカレンダーが 3 月、4 月および 5 月に再計算される場合、カレンダー別結果コンポーネントでそれぞれのカレンダー実行の結果をすぐに参照できます。カレンダーの実行結果の各セットを表示するには、右向きまたは左向き三角ボタンをクリックします。

関連項目:

第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、カレンダー グループ別結果の表示、 893 ページ

カレンダー別結果の表示に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
カレンダー別結果 - カ レンダー実行結果	GP_RSLT_CAL_SEG	[グローバル ペイロール /休暇欠勤管理]、[休暇欠 勤処理と給与計算処 理]、[休暇/給与計算情報 の確認]、[カレンダー別 結果]、[カレンダー実行 結果]	受給者のセグメント情報 が表示されます。ポジ ティブ入力、休暇欠勤、 および遡及結果を表示す るページへのリンクもあり ます。
<従業員 ID> の結果セ グメント詳細	GP_RSLT_SEG_SP	<ul style="list-style-type: none"> カレンダー実行結果 ページで [セグメン ト詳細] リンクをク リックします。 カレンダー グループ 結果ページで [セグ メント詳細] リンク をクリックします。 	セグメント処理やセグ メント ステータスの詳細 情報が表示されます。 このページには、カレン ダー グループ別結果の ページからもアクセスで きます。 参照: 第 22 章、「給与 計算結果の表示と最終決 定」、 <u>カレンダー グルー プ別結果の表示に使用す るページ、 894 ページ。</u>
カレンダー別結果 - 支給 /控除	GP_RSLT_CAL_ED	[グローバル ペイロール /休暇欠勤管理]、[休暇欠 勤処理と給与計算処 理]、[休暇/給与計算情報 の確認]、[カレンダー別 結果]、[支給/控除]	受給者の支給と控除に関 する情報が表示されま す。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
カレンダー別結果 - エレメント変換詳細	GP_RSLT_RES_SEC	"カレンダー別結果" の支給/控除ページで [変換詳細] リンクをクリックします。	各エレメントの変換詳細が表示されます。 このページには、カレンダー グループ別結果のページからもアクセスできます。 参照: 第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、 <u>カレンダー グループ別結果の表示に使用するページ、894 ページ。</u>
カレンダー別結果 - 累計	GP_RSLT_CAL_ACUM	[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[カレンダー別結果]、[累計]	累計金額が表示されます。
カレンダー別結果 - サポート エレメント	GP_RSLT_CAL_PIN	[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[カレンダー別結果]、[サポート エレメント]	支給額または控除額を計算するために使用された各サポート エレメントの情報が表示されます。

受給者のセグメント情報の表示

"カレンダー別結果" - カレンダー実行結果ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[カレンダー別結果]、[カレンダー実行結果])。

カレンダー実行結果

支給控除

累計

サポートエレメント

Issac Nichta

EMP

ID: K0G002

雇用コード: 0

カレンダー ID: K0CA 1999/10 ABS

支給グループ: K0PGA

Pay Group 1

カレンダー グループ別セグメント情報

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

カレンダー グループ ID	セグメント開始日	セグメント終了日	計算アクション	セグメント番号	バージョン番号	レビジョン番号	セグメント詳細
K0CRCYM 1999M10	1999/10/01	1999/10/31	計算	1	1	1	セグメント詳細

その他の結果ページ

ホリデー入力-休暇欠勤

ホリデー入力-給与計算

作成済ホリデー入力

休暇欠勤データ

遡及計算データ

"カレンダー別結果" - カレンダー実行結果ページ

セグメント詳細 このリンクをクリックすると、"X (Y) の結果セグメント詳細 (X は従業員 ID、Y は名前)" ページが表示されます。

セグメントの詳細情報の表示

<従業員 ID> の結果セグメント詳細ページにアクセスします (カレンダー実行結果またはカレンダー グループ結果ページの [セグメント詳細] リンクをクリックします)。

カレンダー別結果

K0G002 (Issac Nichta) の結果セグメント詳細

従業員

個人 ID: K0G002

レポート:

0

期間情報

カレンダー グループ ID:	K0 M200602	2006 02 - MONTHLY			■ オフサイクル
支給グループ:	K0PGA	カレンダー ID:	K0 M200602A PGAREG	支給元:	K0PE1
期間 ID:	K0 M200602	ターゲット カレンダー ID:	K0 M200602P PGAREG	国:	CYM
開始日:	2006/02/01	計算タイムスタンプ:	2006/08/25 12:15	実行タイプ:	K0RYABS
終了日:	2006/02/28	選択ステータス:	アクティブ	計算タイプ:	休暇欠勤
支給日:	2006/02/28				

セグメント情報

開始日:	2006/02/01	セグメント番号:	1	レビジョン番号:	1
終了日:	2006/02/28	計算アクション:	計算	バージョン番号:	1
総額結果:	0.00	純額結果:	0.00	通貨:	USD
レート タイプ:	OFFIC	計算ステータス:	最終決定		

支給先

会社コード:	KCY
契約番号:	0001

<従業員 ID> の結果セグメント詳細ページ

期間情報**期間 ID**

そのカレンダーの範囲に含まれる期間の ID です。

開始日 、 終了日

その処理ステータス レコードに関連付けられた開始日と終了日です。これらの日付はそのカレンダーの開始日および終了日と一致します。

ターゲット カレンダー ID

このカレンダー実行のカレンダーを定義する際に選択したターゲット カレンダーです。

計算タイム スタンプ

この受給者に対して最後に計算処理が実行された時刻です。

セグメント情報

レート タイプ

その支給に関連付けられた為替レート タイプです。為替レート タイプは、支給グループ名ページで定義し、受給者別に上書きできます。

計算ステータス

値は以下のとおりです。

[アクティブ セグメント]: 受給者が、そのカレンダー セグメント内の少なくとも 1 日はアクティブだったことを表します。

[非アクティブ セグメント]: 受給者が、その期間内にアクティブでなかったことを表します

[最終決定]: 支給またはトランザクションの特定の計算が最終決定されたことを表します。

トランザクション タイプ

オフサイクル結果の際に表示されます。有効値は、[訂正]、[前払給与]、[不定期支給]、[手動支給] です。

支給 ID

手動支給の ID です。

支給番号

手動支給の支給番号です。

支給キー

このグループ ボックスには、受給者の支給元に定義されている支給キーが表示されます。

関連項目:

第 21 章、「給与計算の処理」、ステータス コードと処理インジケータ、820 ページ

第 14 章、「組織構造の定義」、支給元の処理詳細の入力、532 ページ

カレンダー別の支給と控除の表示

"カレンダー別結果" - 支給/控除ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[カレンダー別結果]、[支給/控除])。

カレンダー実行結果

支給/控除

累計

サポート エレメント

Issac Nichta

EMP

ID: K0G002

雇用コード: 0

カレンダー ID: K0 M200803P PGAREG

支給グループ: K0PGA

Pay Group 1

カレンダー情報

検索

最初

1/1

最後

カレンダー グループ ID: K0 M200803

名称: 2008 03 - MONTHLY

セグメント番号: 1

バージョン: 1

レビジョン: 1

総額結果値: 3,976.50

USD

純額結果値: 3,271.77

USD

支給/控除

カスタマイズ

検索

全件表示

最初

1-5/11

最後

エレメント結果

コンポーネント

遡及調整

控除延滞

ユーザー フィールド

エレメント タイプ	エレメント名	金額	名称	インスタンス	スライス開始日	スライス終了日	変換詳細
支給	K0MEAL	52.500000	Meal Allowance	1	2008/03/01	2008/03/31	変換詳細
支給	K0PREM1	0.000000	Premium1	0	2008/03/01	2008/03/31	変換詳細
支給	K0PREM2	324.000000	Premium2	0	2008/03/01	2008/03/31	変換詳細
支給	K0SALARY	3600.000000	Salary	0	2008/03/01	2008/03/31	変換詳細
控除	K0DED	381.840000	Deduction%	0	2008/03/01	2008/03/31	変換詳細

"カレンダー別結果" - 支給/控除ページ

金額

このエレメントに対して計算された金額です。控除の場合は、控除額に回収額を加えた金額になります。

遡及調整

計算調整値

その支給または控除エレメントに対する遡及が行われた場合の、この支給期間中に適用された全ての遡及調整額の合計です。

ベース調整値

ベースがエレメント計算ルールコンポーネントになっている場合の、この支給期間中にベース額に適用された全ての遡及調整額の合計です。

ユニット調整値

ユニットがエレメント計算ルールコンポーネントになっている場合の、この支給期間中にそのユニットに行われた全ての遡及調整額の合計です。

控除延滞

金額

控除額に回収額を加えた金額です。

未控除額

現在の支給期間の純支給額累計を超える控除額です。

回収額	延滞残高のうち、現在の支給期間中に回収される予定の金額です。
延滞加算額	延滞残高累計に加算される金額です。延滞ページの [控除延滞を認める] チェック ボックスをオンにしている場合は、[延滞加算額] は [未控除額] と等しくなります。
変換詳細	このリンクをクリックすると、各エレメントの変換詳細が表示されるエレメント変換詳細ページにアクセスできます。

変換詳細の表示

カレンダー別結果 - エレメント変換詳細ページにアクセスします ("カレンダー別結果" - 支給/控除ページの [変換詳細] リンクをクリックします)。

カレンダー グループ別結果

エレメント変換詳細

従業員 ID: K6001

名前: Bai Lichen

雇用コード: 0

エレメント:

エレメント:

セグメント: 1

インスタンス: 0

コンポーネントと調整の詳細

支給控除インスタンス: 0

PI インスタンス: 0

トライブあり

金額: 0.000000

金額ソース:

調整金額: 0.000000

レート: 0.000000

レート ソース:

ユニット: 0.000000

ユニット ソース:

ユニット調整値: 0.000000

ベース: 0.000000

ベース ソース:

ベース調整値: 0.000000

パーセント: 0.000000

パーセント ソース:

控除延滞

回収額: 0.000000

未控除額: 0.000000

延滞加算額: 0.000000

カレンダー別結果 - エレメント変換詳細ページ

カレンダー別累計の表示

"カレンダー別結果" - 累計ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[カレンダー別結果]、[累計])。

カレンダー実行結果

支給控除

累計

サポート エレメント

Issac Nichta

EMP

ID: K0G002

雇用コード: 0

カレンダー ID: K0CA 1999/10 ABS

支給グループ: K0PGA

Pay Group 1

カレンダー情報

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

カレンダー グループ ID: K0CRCYM 1999M10

名称: October 1999

セグメント番号: 1

バージョン: 1

バージョン: 1

総額結果値: 0.00 USD

純額結果値: 0.00 USD

累計

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1-5/6 | 最後

累計結果

ユーザー キー

期間	エレメント名	金額	名称	開始日	終了日
年間	K0AE FHOL_BAL	0.000000	Floating Holiday Balance	1999/01/01	1999/12/31
年間	K0AE FHOL_ENT	16.000000	Floating Holiday Entitlement	1999/01/01	1999/12/31
年間	K0AE FHOL_TAKE	16.000000	Floating Holiday Take	1999/01/01	1999/12/31
年間	K0AE PTO_BAL	0.000000	Paid Time Off Balance	1999/01/01	1999/12/31
年間	K0AE PTO_ENT	10.000000	Paid Time Off Entitlement	1999/01/01	1999/12/31

"カレンダー別結果" - 累計ページ

累計結果

期間 累計によって追跡される期間です。

ユーザー キー

このタブでは、各累計のユーザー キーに関連付けられたシステム エlementや変数Elementが表示されます。

カレンダー別サポート エlementの表示

"カレンダー別結果" - サポート エlement ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[カレンダー別結果]、[サポート エlement])。

カレンダー実行結果

支給控除

累計

サポート エlement

Issac. Nichta

EMP

ID: KOG002

雇用レコード: 0

カレンダー ID: K0 M200803A PGAREG

支給グループ: K0PGA

Pay Group 1

カレンダー情報

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

カレンダー グループ ID: K0 M200803

名称: 2008 03 - MONTHLY

セグメント番号: 1

バージョン: 1

バージョン: 1

総額結果値: 0.00 USD

純額結果値: 0.00 USD

サポート エlement

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1-5/15 | 最後

Element タイプ	Element 名	名称	金額	文字値	日付値	スライス開始日	スライス終了日
休暇付与	K0AE FHOL	Floating Holiday	16.000000			2008/03/01	2008/03/31
休暇付与	K0AE PTO	PTO	10.000000			2008/03/01	2008/03/31
カウント	K0CT WORK DAY	Work Days	21.000000			2008/03/01	2008/03/31
フォーミュラ	K0FM MEL ALL	Meal Allowance	21.000000			2008/03/01	2008/03/31
フォーミュラ	K0FM9	K0FM9	1.000000			2008/03/01	2008/03/31

"カレンダー別結果" - サポート エlement ページ

各サポート エlementの変換値のタイプは、その値が [金額]、[文字値]、[日付値] の下のどの列にリストされるかを見るとわかります。

スライス開始日 、 **スライ** サポート エlementが変換されたスライスの開始日と終了日です。
ス終了日

ポジティブ入力の結果の表示

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 休暇取得処理からのポジティブ入力
- 受給者に対して処理された全てのポジティブ入力
- システムで自動作成されたカレンダー別ポジティブ入力
- サポート エlement情報

ポジティブ入力の結果の表示に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
ポジティブ入力 - 休暇欠勤	GP_RSLT_CAL_AE GP_RSLT_RUN_AE	<ul style="list-style-type: none">• [グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[カレンダー別結果]、[カレンダー実行結果] カレンダー実行結果ページの [ポジティブ入力 - 休暇欠勤] リンクをクリックします。• [グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[カレンダー グループ別結果]、[カレンダー グループ結果] カレンダー グループ結果ページの [ポジティブ入力 - 休暇欠勤] リンクをクリックします。	休暇欠勤カレンダーに対して処理された周期ベースの休暇付与エレメントの残数調整が表示されます。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
ポジティブ給与計算	GP_RSLT_CAL_PI GP_RSLT_RUN_PI	<ul style="list-style-type: none"> カレンダー実行結果ページの [ポジティブ入力 - 給与計算] リンクをクリックします。 カレンダー グループ結果ページの [ポジティブ入力 - 給与計算] リンクをクリックします。 	そのカレンダー グループのカレンダーをターゲットとして処理された全てのポジティブ入力が表示されます。
ポジティブ入力 - 詳細	GP_RSLT_PI_COMP_SP	ポジティブ給与計算ページの [その他のデータ] リンクをクリックします。	ユーザーの指示の詳細が表示されます。
サポート エlement 上書き	GP_RSLT_PI_SOVR_SP	ポジティブ給与計算ページの [上書き] リンクをクリックします。	ユーザーの指示の詳細が表示されます。
ポジティブ入力	GP_RSLT_CAL_GPI GP_RSLT_RUN_GPI	<ul style="list-style-type: none"> カレンダー実行結果ページの [作成済ポジティブ入力] リンクをクリックします。 カレンダー グループ結果ページの [作成済ポジティブ入力] リンクをクリックします。 	プロセス リストの作成済みポジティブ入力セクションや休暇取得処理、および勤務管理から取得された給与支給対象時間から、別のカレンダーに対して作成された変換済または未変換のポジティブ入力が表示されます。
ポジティブ入力 - 詳細	GP_RSLT_GPICOMP_SP	ポジティブ入力ページの [その他のデータ] リンクをクリックします。	自動作成されたポジティブ入力のインスタンスの詳細情報が表示されます。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
サポート エlement上書き	GP_RSLT_GPISOVR_SP	ポジティブ入力ページの [上書き] リンクをクリックします。	自動生成されたポジティブ入力のインスタンスに関連するサポート エlementの詳細情報が表示されます。

休暇取得処理からのポジティブ入力の表示

ポジティブ休暇欠勤ページにアクセスします (カレンダー実行結果ページまたはカレンダー グループ結果ページの [ポジティブ入力 - 休暇欠勤] リンクをクリックします)。

[カレンダー実行結果](#)
[ポジティブ休暇欠勤](#)
[ポジティブ給与計算](#)
[ポジティブ入力](#)

Issac Nichta EMP ID: KOG002 雇用コード: 0
 カレンダー ID: KOCA 1999/10 ABS 支給グループ: KOPGA

カレンダー情報 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後
 カレンダー グループ ID: KOCRCYM 1999M10 October 1999
 セグメント番号: 1 バージョン: 1 レビジョン: 1

残数調整 加減算 | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

Element名	ソース	アクション タイプ	残数調整	開始日	終了日

[メイン結果ページに戻る](#)

ポジティブ入力 - 休暇欠勤ページ

ソース "休暇欠勤" は、ポジティブ入力のインスタンスが休暇取得処理によって作成されたことを示します。

残数調整 この休暇取得Elementに対する付与残数を調整するユニット数です (該当する場合)。

開始日 、 終了日 その休暇欠勤イベントの開始日と終了日です。

受給者に対して処理された全てのポジティブ入力の表示

ポジティブ入力 - 給与計算ページにアクセスします (カレンダー実行結果ページまたはカレンダー グループ結果ページで [ポジティブ入力 - 給与計算] リンクをクリックします)。

カレンダー実行結果

ポジティブ休暇欠勤

ポジティブ給与計算

ポジティブ入力

Issac Nichta

EMP

ID: KOG002

雇用コード: 0

カレンダー ID: KOCA 1999/10 ABS

支給グループ: KOPGA

カレンダー情報

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

カレンダー グループ ID: KOCRCYM 1999M10

名称: October 1999

セグメント番号: 1

バージョン: 1

バージョン: 1

総額結果値: 0.00 USD

純額結果値: 0.00 USD

支給/控除

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

入力タイプ	エレメント名	名称	インスタンス	ソース	アクション タイプ	その他のデータ	上書き
						その他のデータ	上書き

[メイン結果ページに戻る](#)

ポジティブ給与計算ページ

支給/控除

- 入力タイプ

入力のタイプが表示されます。
- エレメント名

エレメントの名前が表示されます。
- 名称

エレメントの名称が表示されます。
- ソース

ポジティブ入力のソースが表示されます。値は以下のとおりです。
[休暇欠勤]: このインスタンスは、休暇取得処理で作成されたことを示しています。
[作成済PI] (作成済ポジティブ入力): このインスタンスは、プロセス リストの作成済みポジティブ入力セクションで作成されたことを示しています。
[手動]: このインスタンスは手動で入力されたことを示しています。
[勤務管理]: このインスタンスは、勤務管理から取得されたことを示しています。

その他のデータ

このリンクをクリックすると、ポジティブ入力 - 詳細ページが表示され、ポジティブ入力の詳細ページで入力された指示の詳細が表示されます。

上書き

このリンクをクリックすると、"サポート エlement上書き" ページが表示され、ポジティブ入力の上書きページで入力された全ての
上書き情報が表示されます。

関連項目:

第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、ポジティブ入力詳細の上書き、 639 ページ

第 18 章、「上書きの設定」、 655 ページ

システムで自動作成されたカレンダー別ポジティブ入力の表示

作成済ポジティブ入力ページにアクセスします (カレンダー実行結果ページまたはカレンダー グループ結果ページの [作成済ポジティブ入力] リンクをクリックします)。

カレンダーグループ結果

ポジティブ休暇欠勤

ポジティブ給与計算

ポジティブ入力

Issac Nichta

EMP

ID: K0G002

雇用コード: 0

カレンダーグループ ID: K0CRCYM 1999M10 October 1999

カレンダー情報

検索 最初 1/2 最後

カレンダー ID: K0CA 1999/10 ABS 支給グループ: K0PGA

ポジティブ入力詳細

カスサイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-5/9 最後

入力タイプ*	Element名	名称	インスタンス	ソース	アクション タイプ*	その他のデータ	上書き
支給	KOMATERN	Maternity	101	休暇欠勤	上書き	その他のデータ	上書き
支給	KOMATERN	Maternity	103	休暇欠勤	上書き	その他のデータ	上書き
支給	KOMATERN	Maternity	105	休暇欠勤	上書き	その他のデータ	上書き
支給	KOMATERN	Maternity	107	休暇欠勤	上書き	その他のデータ	上書き
支給	KOMATERN	Maternity	109	休暇欠勤	上書き	その他のデータ	上書き

[メイン結果ページに戻る](#)

ポジティブ入力ページ

その他のデータ

このリンクをクリックすると、ポジティブ入力 - 詳細ページが表示され、そのポジティブ入力のインスタンスに関連する詳細情報を表示できます。

上書き

このリンクをクリックすると、"サポート エlement上書き" ページが表示され、その作成済みインスタンスに関連付けられたサポート エlementの情報を表示できます。

関連項目:

- 第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、サポート エlement情報の表示、 877 ページ
- 第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、ポジティブ入力詳細の上書き、 639 ページ

サポート エlement情報の表示

カレンダー別結果 - "サポート エlement上書き" ページにアクセスします (ポジティブ入力ページの [上書き] リンクをクリックします)。

カレンダー別結果

サポート エlement上書き(&E)

従業員 ID: KOG002 Nichta,Issac

Element名: KOMEAL 名称: Meal Allowance

インスタンス: 101

サポート エlement上書き(&E)

サポート エlement上書き(E) セットID データ(S)

加算タイプ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

入力タイプ	サポート Element	名称	文字値	数値	日付値
				0.000000	

サポート エlement上書き

セットID データ

このタブをクリックすると、そのサポート エlement上書きに関連付けられたセットID が表示されます。

関連項目:

- 第 18 章、「上書きの設定」、 655 ページ

休暇取得処理の日次結果の表示

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 休暇欠勤処理の日次結果

- 受給者の休暇付与残数に関する情報
- 受給者の欠勤時間数
- ユーザー定義フィールドの値
- スケジュール設定フィールド 1 ～ 4 の値。
- フィールド 1 ～ 4 の値(代替勤務スケジュールがアクティブな場合)。

休暇取得処理の日次結果の表示に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
休暇欠勤データ	GP_RSLT_CAL_ABS GP_RSLT_RUN_ABS	<ul style="list-style-type: none"> • [グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[カレンダー別結果]、[カレンダー実行結果] <p>カレンダー実行結果ページで [休暇欠勤データ] リンクをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[カレンダー グループ別結果]、[カレンダー グループ結果] <p>カレンダー グループ結果ページで [休暇欠勤データ] リンクをクリックします。</p>	日数計算、日数計算の有給や無給部分、終了付与残数、予測値、休暇欠勤のタイプ、および理由を含む、休暇取得処理の日次の結果が表示されます。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
休暇欠勤残数データ	GP_ABS_EXPLAIN_SP	休暇欠勤データ ページの [休暇欠勤詳細 1] タブで [残数詳細] リンクをクリックします。	その受給者の休暇付与残数に関する詳細情報が表示されます。
休暇欠勤開始/終了データ	GP_ABS_BGN_END_SP	休暇欠勤データ ページの [開始/終了データ] タブで [開始/終了] リンクをクリックします。	受給者の休暇欠勤が 1 日未満の場合に、欠勤時間数が表示されます。この休暇欠勤が以前の休暇欠勤にリンクされている場合は、この休暇の開始日と元の休暇の開始日が表示されます。
ユーザー定義フィールド	GP_ABS_CONFIG_SP	休暇欠勤データ ページの [スケジュール データとユーザー定義フィールド] タブで [ユーザー定義フィールド] リンクをクリックします。	休暇欠勤を報告したときにユーザー定義フィールドに入力した値、およびその取得エレメントに関連付けられたユーザー定義の値が表示されます。
勤務スケジュール データ	GP_ABS_WS_SP	休暇欠勤データ ページの [スケジュール データとユーザー定義フィールド] タブで [勤務スケジュール] リンクをクリックします。	シフト ページでこの休暇欠勤日に設定されたスケジュール設定 1 … 4 フィールドに対する値が表示されます。また、勤務日上書きスケジュールに関連付けられたスケジュール設定フィールドの値も表示されます。
代替勤務スケジュール データ	GP_ABS_ALT_WS_SP	休暇欠勤データ ページの [スケジュール データとユーザー定義フィールド] タブで [代替勤務スケジュール] リンクをクリックします。	この休暇欠勤日に設定されたスケジュール設定 1 … 4 フィールドに対する値が表示されます。その休暇欠勤日に代替勤務スケジュールが有効な場合にのみ、適用されます。

休暇欠勤処理の日次結果の表示

休暇欠勤データ ページにアクセスします (カレンダー実行結果ページまたはカレンダー グループ 結果ページの [休暇欠勤データ] リンクをクリックします)。

カレンダー実行結果

休暇欠勤データ

選定計算データ

Issac Nichta

EMP

ID: K0G002

雇用コード: 0

カレンダー ID: K0CA 1999/10 ABS

支給グループ: K0PGA

カレンダー情報

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

カレンダー グループ ID: K0CRCYM 1999M10

名称: October 1999

セグメント番号: 1

バージョン: 1

レジョン: 1

総額結果値: 0.00 USD

純額結果値: 0.00 USD

休暇欠勤日次データ

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1-3/5 | 最後

休暇欠勤詳細 1

休暇欠勤詳細 2

開始/終了データ

スケジュール データとユーザー定義フィールド

関連エレメント

...

エレメント名	名称	休暇欠勤日	曜日	日数計算	有給	無給	処理後の休暇付与残数	残数詳細
K0AT PTO	Paid Time Off	1999/10/22	金曜	8.000000		8.000000		残数詳細
K0AT PTO	Paid Time Off	1999/10/21	木曜	8.000000	2.000000	6.000000		残数詳細
K0AT PTO	Paid Time Off	1999/10/20	水曜	8.000000	8.000000		2.000000	残数詳細

この結果ページに戻る

休暇欠勤データ ページ

- 日数計算

その休暇取得エレメントに対する日数計算フォーミュラの結果が表示されます。
- 休暇付与残数

この休暇欠勤が計算された後に、その受給者に付与される有給休暇日数が表示されます。
- 残数詳細

このリンクをクリックすると、休暇欠勤残数データ ページが表示され、その休暇欠勤の詳細情報を参照できます。

参照: 第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、休暇付与残数情報の表示、 884 ページ。

休暇欠勤詳細 2

[休暇欠勤詳細 2] タブをクリックします。

カレンダー実行結果

休暇欠勤データ

選及計算データ

Issac. Nichta

EMP

ID: K0G002

雇用コード: 0

カレンダー ID: K0CA 1999/10 ABS

支給グループ: K0PGA

カレンダー情報

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

カレンダーグループ ID: K0CRCYM 1999M10

名称: October 1999

セグメント番号: 1

バージョン: 1

バージョン: 1

総額結果値: 0.00 USD

純額結果値: 0.00 USD

休暇欠勤日次データ

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1-3/5 | 最後

休暇欠勤詳細 1

休暇欠勤詳細 2

開始/終了データ

スケジュール データとユーザー定義フィールド

関連エレメント

エレメント名	名称	休暇欠勤日	休暇欠勤タイプ	休暇欠勤理由	予測値
K0AT PTO	Paid Time Off	1999/10/22			
K0AT PTO	Paid Time Off	1999/10/21			
K0AT PTO	Paid Time Off	1999/10/20			

[メイン結果ページに戻る](#)

休暇欠勤データ - 休暇欠勤詳細 2 タブ

[予測値] フィールドには、その休暇欠勤イベントの最終日の予測値が表示されます。

開始/終了データ

[開始/終了データ] タブをクリックします。

カレンダー実行結果

休暇欠勤データ

選及計算データ

Issac. Nichta

EMP

ID: K0G002

雇用コード: 0

カレンダー ID: K0CA 1999/10 ABS

支給グループ: K0PGA

カレンダー情報

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

カレンダーグループ ID: K0CRCYM 1999M10

名称: October 1999

セグメント番号: 1

バージョン: 1

バージョン: 1

総額結果値: 0.00 USD

純額結果値: 0.00 USD

休暇欠勤日次データ

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1-3/5 | 最後

休暇欠勤詳細 1

休暇欠勤詳細 2

開始/終了データ

スケジュール データとユーザー定義フィールド

関連エレメント

エレメント名	名称	休暇欠勤日	休暇欠勤データソース	元の開始日	開始/終了	休日タイプ	休日時間
K0AT PTO	Paid Time Off	1999/10/22	イベント処理	1999/10/18	開始/終了		
K0AT PTO	Paid Time Off	1999/10/21	イベント処理	1999/10/18	開始/終了		
K0AT PTO	Paid Time Off	1999/10/20	イベント処理	1999/10/18	開始/終了		

[メイン結果ページに戻る](#)

休暇欠勤データ - 開始/終了データ タブ

休暇欠勤データ ソース

その休暇欠勤イベントを作成した休暇欠勤処理が表示されます。値は以下のとおりです。

[取得処理]: "休暇取得" の超過取得ページの指示によって超過取得日数が別の取得エレメントに振り分けられたとき、または "休暇取得" の日数計算フォーミュラ ページで定義されたマッピング機能によって 2 次休暇欠勤イベントが作成されたときに、この行は作成されます。

[イベント処理]: 休暇取得処理中にその休暇欠勤イベントが日次の行に展開されたときに、この行は作成されます。

元の開始日

これがリンクされた休暇欠勤の場合は、このフィールドに休暇イベント入力ページで入力した元の開始日が表示されます。

開始/終了

このリンクをクリックすると、休暇欠勤開始/終了データ ページが表示され、半日休暇欠勤の情報が表示されます。

参照: 第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、受給者の欠勤時間数の表示、886 ページ。

休日タイプ

休暇欠勤が休日に発生した場合には、"BRG" (振替休日)、"CAN" (カナダ法定休日)、"HIGH" (給与割増率 - 中)、"LOW" (給与割増率 - 低)、"STD" (標準)、"USA" (U.S. 法定休日)、"VERY" (給与割増率 - 高) を含む休日のタイプから、該当するものが表示されます。

休日時間

休日スケジュール ページで指定した時間数が表示されます。

スケジュール データとユーザー定義フィールド

[スケジュール データとユーザー定義フィールド] タブをクリックします。

カレンダー実行結果

休暇欠勤データ

通及計算データ

Issac Nichta

EMP

ID: K0G002

雇用レコード: 0

カレンダー ID: K0CA 1999/10 ABS

支給グループ: K0PGA

カレンダー情報

検索 | 全件表示 | 最初

カレンダー グループ ID: K0CRCYM 1999M10

名称: October 1999

セグメント番号: 1

バージョン: 1

バージョン: 1

総額結果値: 0.00 USD

純額結果値: 0.00 USD

休暇欠勤日次データ

カスサイズ | 検索 | 全件表示 | 最初

休暇欠勤詳細 1

休暇欠勤詳細 2

開始/終了データ

スケジュール データとユーザー定義フィルド

関連イベント

...

エレメント名	名称	休暇欠勤日	ユーザー定義フィルド	予定勤務時間	勤務スケジュール	代替 - 予定勤務時間	代替勤務スケジュール
K0AT PTO	Paid Time Off	1999/10/22	ユーザー定義フィルド	8:00	勤務スケジュール		代替勤務スケジュール
K0AT PTO	Paid Time Off	1999/10/21	ユーザー定義フィルド	8:00	勤務スケジュール		代替勤務スケジュール
K0AT PTO	Paid Time Off	1999/10/20	ユーザー定義フィルド	8:00	勤務スケジュール		代替勤務スケジュール

[この結果ページに戻る](#)

休暇欠勤データ - スケジュール データとユーザー定義フィールド タブ

ユーザー定義フィールド

このリンクをクリックすると、ユーザー定義フィールド ページが表示され、その休暇欠勤イベントおよび休暇取得エレメントに関連付けられたユーザー定義フィールドの情報を参照できます。

予定勤務時間

休暇欠勤日に受給者が勤務する予定だった時間数が表示されます。

勤務スケジュール

このリンクをクリックすると、勤務スケジュール データ ページが表示され、その受給者の勤務日 ID、ユーザー定義フィールドのデータ、およびスケジュール上書きに関する情報を参照できます。

代替 - 予定勤務時間

その休暇欠勤日に受給者が勤務する予定だった時間数が、その受給者の代替勤務スケジュールに従って表示されます。

代替勤務スケジュール

このリンクをクリックすると、代替勤務スケジュール データ ページが表示され、受給者の勤務日 ID、ユーザー定義フィールドのデータ、および代替勤務スケジュールのスケジュール上書きに関する情報を参照できます。

参照: 第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、設定フィールド 1 ～ 4 の値の表示 (代替勤務スケジュールがアクティブな場合)、890 ページ。

関連エレメント

「関連エレメント」タブをクリックします。

カレンダー実行結果

休暇欠勤データ

通及計算データ

Issac Nichta

EMP

ID: K0G002

雇用レポート: 0

カレンダー ID: K0CA 1999/10 ABS

支給グループ: K0PGA

カレンダー情報

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

カレンダーグループ ID: K0CRCYM 1999M10

名称: October 1999

セグメント番号: 1

バージョン: 1

レビジョン: 1

総額結果値: 0.00 USD

純額結果値: 0.00 USD

休暇欠勤日次データ

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1-3/5 | 最後

休暇欠勤詳細 1

休暇欠勤詳細 2

開始/終了データ

スケジュール データとユーザー定義フィルト

関連エレメント

エレメント名	名称	休暇欠勤日	マップ先エレメント	ソース PIN 名	超過取得エレメント
K0AT PTO	Paid Time Off	1999/10/22			
K0AT PTO	Paid Time Off	1999/10/21			
K0AT PTO	Paid Time Off	1999/10/20			

[この結果ページに戻る](#)

[休暇欠勤データ] - [関連エレメント] タブ

マップ先エレメント

その受給者の休暇欠勤に関連付けられている休暇取得エレメントが、"休暇取得" の日数計算フォーミュラ ページでほかの休暇取得エレメントにマッピングされている場合は、一致する休暇欠勤イベントを自動作成する休暇取得エレメント名が表示されます。

ソース PIN 名

2 次休暇欠勤イベントの作成のトリガになる休暇取得エレメントが表示されます。

超過取得エレメント

そのイベントが超過取得となった場合で、"休暇取得" の超過取得ページでこの休暇取得エレメントに対して **[他の休暇欠勤で取得]** オプションを選択した場合は、指定した休暇取得エレメント名がここに表示されます。

休暇付与残数情報の表示

休暇欠勤残数データ ページにアクセスします (休暇欠勤データ ページの [休暇欠勤詳細 1] タブの [残数詳細] リンクをクリックします)。

カレンダー別結果

休暇欠勤残数データ

エレメント名:KOAT PTO

名称:Paid Time Off

休暇欠勤日:1999/10/08

残数詳細

処理前の休暇付与残数:0.000000

処理後の休暇付与残数:0.000000

日数計算:8.000000

有給:0.000000

無給:8.000000

処理前有給待機残数:0.000000

処理後有給待機残数:0.000000

有給待機カウント:0.000000

有給待機カウント累計:0.000000

資格取得日付:☒ 資格取得

最低休暇日数:☒ 最低休暇

リク休暇日数:☐ リク

休暇欠勤残数データ ページ

- 処理前の休暇付与残数、休暇付与残数

この休暇取得が計算される前および計算された後に、受給者に付与された有給休暇数が表示されます。
- 日数計算

計算済みの日数計算が表示されます。
- 処理前有給待機残数

この休暇欠勤が有給待機ルールの対象の場合は、現在の休暇欠勤日が有給になるために受給者が休む必要のある残数がこのフィールドに表示されます。現在の休暇欠勤日は含まれません。
- 処理後有給待機残数

現在の休暇欠勤日が計算された後の有給待機残数が表示されます。
- 有給待機カウント

有給待機カウント フォーミュラの結果が表示されます。
- 有給待機カウント累計

現在の休暇欠勤イベントに関連付けられた有給待機ユニット数が表示されます。

資格取得日付	その休暇欠勤が資格取得期間の対象の場合に、その受給者が有給休暇を取れるようになる日付がこのフィールドに表示されます。資格取得日以降に取得した休暇は、休暇付与残数の適用対象として認識されます。この日付より前の日は無給です。
資格取得	資格取得日になるとこのチェック ボックスがオンになります。
最低休暇日数	この休暇欠勤が最低休暇日数ルールの対象の場合は、受給者の全ての休暇欠勤が有給になるために休む必要のあるカレンダー日数の最低数がこのフィールドに表示されます。
最低休暇	この休暇欠勤が最低休暇日数の条件をクリアしている場合に、このチェック ボックスがオンになります。
リンク休暇日数	その休暇欠勤が休暇欠勤のリンク ルールの対象である場合にのみ、このフィールドが適用されます。この休暇欠勤日の時点で、この休暇欠勤イベントと関連の休暇欠勤イベントに対するリンク済み有給休暇数の残数が表示されます。リンク付けられた休暇欠勤は、同じ付与および同じ待機期間を共有します。
リンク	この休暇欠勤イベントがほかの休暇欠勤イベントとリンクされている場合、このチェック ボックスがオンになります。

受給者の欠勤時間数の表示

休暇欠勤開始/終了データ ページにアクセスします (休暇欠勤データ ページの [開始/終了データ] タブの [開始/終了] リンクをクリックします)。

カレンダー別結果

休暇欠勤開始/終了データ

エレメント名:KOAT PTO

名称:Paid Time Off

休暇欠勤日:1999/10/08

開始/終了データ

☐ 休暇開始日

☒ 休暇終了日

☐ 開始日の半日

☐ 終了日の半日

時間指定:

イベント開始日:1999/10/04

イベント終了日:

元のイベント開始日:1999/10/04

休暇欠勤開始/終了データ ページ

- エレメント名

休暇取得エレメント名が表示されます。
- 時間指定

受給者が 1 日全部ではなく部分的に欠勤した場合、その時間数がこのフィールドに表示されます。
- 元のイベント開始日

休暇欠勤イベント入力詳細ページの [元の開始日] フィールドに入力した日付が表示されます。

ユーザー定義フィールドの値の表示

ユーザー定義フィールド ページにアクセスします (休暇欠勤データ ページの [スケジュール データとユーザー定義フィールド] タブで [ユーザー定義フィールド] リンクをクリックします)。

カレンダー別結果

ユーザー定義フィールド

エレメント名: KOAT PTO

名称: Paid Time Off

休暇欠勤日: 1999/10/08

休暇取得

ユーザー定義 1:

ユーザー定義 2:

ユーザー定義 3:

ユーザー定義 4:

休暇欠勤イベント

日付 1:	10 進数 1:	0.000000	文字 1:	金額 1:
日付 2:	10 進数 2:	0.000000	文字 2:	金額 2:
日付 3:	10 進数 3:	0.000000	文字 3:	金額 3:
日付 4:	10 進数 4:	0.000000	文字 4:	金額 4:

ユーザー定義フィールド ページ

休暇取得

ユーザー定義 1、ユーザー定義 2、ユーザー定義 3、ユーザー定義 4 "休暇取得" の計算ページの [ユーザー定義フィールド] に入力した情報が、これらのフィールドに表示されます。

休暇欠勤イベント

これらのフィールドには、休暇欠勤イベント入力詳細ページの [ユーザー定義フィールド] に入力した情報が表示されます。

スケジュール設定フィールド 1 ～ 4 の値の表示

勤務スケジュール データ ページにアクセスします (休暇欠勤データ ページの [スケジュール データとユーザー定義フィールド] タブで [勤務スケジュール] リンクをクリックします)。

カレンダー別結果

勤務スケジュール データ

エレメント名: KOAT PTO

名称: Paid Time Off

休暇欠勤日: 1999/10/22

スケジュール データ

予定勤務時間: 8.00

勤務日 ID: KQWRK1

ユーザー定義 1: 12.00

ユーザー定義 2: 4.00

ユーザー定義 3:

ユーザー定義 4:

スケジュール上書き

☐ スケジュール上書き

予定勤務時間:

勤務日 ID:

ユーザー定義 1 上書き:

ユーザー定義 2 上書き:

ユーザー定義 3 上書き:

ユーザー定義 4 上書き:

勤務スケジュール データ ページ

スケジュール データ

- 予定勤務時間

休暇欠勤日に受給者が勤務する予定だった時間数が表示されます。
この時間数は、シフト ページの [予定勤務時間] フィールドから
ロードされます。
- 勤務日 ID

受給者に割り当てられた勤務パターンの勤務日 ID が表示されま
す。勤務日 ID は支給グループ名ページで支給グループの全ての
メンバーに割り当てられ、勤務スケジュールの割当ページから受給
者に対して上書きできます。
- ユーザー定義 1 ~ ユーザー
定義 4

このシフトのシフト ページでスケジュールのスケジュール設定合計
時間の各フィールドに集計されたデータが表示されます。

スケジュール上書き

- スケジュール上書き

受給者に対する上書きが入力された場合、このチェック ボックスが
オンになります。
- 予定勤務時間

入力された勤務日上書きに関連付けられた予定勤務時間が表示され
ます。

勤務日 ID	上書き対象として選択された勤務日 ID が表示されます。
ユーザー定義 1 上書き ~	勤務日上書きスケジュールに関連付けられたスケジュール設定
ユーザー定義 4 上書き	フィールドの値が表示されます。

設定フィールド 1 ~ 4 の値の表示 (代替勤務スケジュールがアクティブな場合)

代替勤務スケジュール データ ページにアクセスします (休暇欠勤データ ページの [スケジュール データとユーザー定義フィールド] タブで [代替勤務スケジュール] リンクをクリックします)。

このページのフィールドは勤務スケジュール データ ページのものと同じですが、これらのフィールドについては、代替勤務スケジュールに対しても同様に適用されます。

関連項目:

第 22 章、「[給与計算結果の表示と最終決定](#)」、スケジュール設定フィールド 1 ~ 4 の値の表示、888 ページ

遡及計算のデルタ値の表示

このセクションでは、デルタ値の表示について説明します。

受給者に遡及処理を行うと、その受給者に作成された各エレメントが再計算されます。再計算された結果と元の結果の差異は"**デルタ**"と呼ばれます。デルタは未払いまたは過払いを表し、これにより受給者の支給調整が生じます。

デルタ値の表示に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
遡及計算デルタ	GP_RSLT_CAL_DLTA	<p>[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[カレンダー別結果]、[カレンダー実行結果]</p> <p>カレンダー実行結果ページで [遡及計算デルタ] リンクをクリックします。</p>	遡及のために再計算された支給に関連付けられたデルタ値が表示されます。

デルタ値の表示

遡及計算デルタ ページにアクセスします (カレンダー実行結果ページで [遡及計算デルタ] リンクをクリックします)。

[カレンダー実行結果](#)
[休暇欠勤データ](#)
[遡及計算デルタ](#)

Issac Nichta

EMP

ID: K0G002

雇用コード: 0

カレンダー ID: K0CA 1999/10 ABS

支給グループ: K0PGA

カレンダー情報

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

カレンダー グループ ID: K0CRCYM 1999M10

名称: October 1999

セグメント番号: 1

バージョン: 1

バージョン: 1

総額結果値: 0.00 USD

純額結果値: 0.00 USD

デルタ

加減算 | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

デルタ金額

繰越先

マッチング

ユーザー フィールド

要素名

名称

デルタ番号

金額デルタ

ユニット デルタ

ベース デルタ

訂正済

繰越

[メイン結果ページに戻る](#)

遡及計算デルタ ページ

金額デルタ、ユニット デルタ、ベース デルタ 元の値と再計算された値の差異が表示されます。

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

891

訂正済 遡及方法が、元の計算値が再計算された値と置き換わったことを示す "訂正" のとき、このチェック ボックスがオンになります。

繰越 遡及方法が "繰越" のとき、または遡及方法が "訂正" で繰り越し例外を定義したときに、このチェック ボックスがオンになります。指示に従って、繰り越しに定義された支給と控除の各デルタが調整として現在の期間に繰り越されたか、またはエレメントの値が新しいエレメントに繰り越されたことを示します。

繰越先

このタブでは、現在の期間のエレメントの遡及デルタの値を受け取るカレンダー グループ ID、カレンダー、支給グループ、およびエレメントが表示されます。

マッチング

[マッチング] タブをクリックします。

カレンダー実行結果

休暇欠勤データ

遡及計算デルタ

Issac Nichta

EMP

ID: K0G002

雇用コード: 0

カレンダー ID: K0CA 1999/10 ABS

支給グループ: K0PGA

カレンダー情報

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

カレンダー グループ ID: K0CRCYM 1999M10

名称: October 1999

セグメント番号: 1

バージョン: 1

レビジョン: 1

総額結果値: 0.00 USD

純額結果値: 0.00 USD

デルタ

拡大縮小 | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

デルタ金額

繰越先

マッチング

ユーザー フィールド

エレメント名	名称	デルタ番号	マッチング処理	ターゲット カレンダー ID	ターゲット支給グループ ID

[メイン結果ページに戻る](#)

遡及計算デルタ - マッチング タブ

繰り越し遡及処理の際に、雇用記録番号、支給元、支給グループおよび実行タイプが一致したとき、再計算されたカレンダーからの調整が現在のカレンダーに繰り越されます。これらのどれかが一致しない場合は、未処理遡及デルタ ページでその受給者に定義され、[デルタ金額] に表示される繰り越し指示に従って処理されます。

マッチング処理

未処理遡及デルタ ページで入力した指示が表示されます。値は以下のとおりです。

[カレンダーに適用] (カレンダーに適用): 未処理遡及デルタ ページの [ターゲット カレンダー] フィールドと [ターゲット PG] フィールドに入力した指定のカレンダーと支給グループに、その遡及デルタが取り込まれたことを示しています。

[デフォルトのマッチング処理] (デフォルトのマッチング処理): 現在のカレンダーと支給グループに、その遡及デルタが取り込まれたことを示しています。

[処理なし] (処理なし): その未処理遡及デルタは遡及調整としてカレンダーに取り込まれていないことを示しています。

ターゲット カレンダー ID そのデルタが繰り越されたカレンダーと支給グループが表示されます。
ターゲット支給グループ ID

支給キー

支給キーの名称およびその値が表示されます。

関連項目:

[第 33 章、「遡及処理の定義」、1219 ページ](#)

[第 33 章、「遡及処理の定義」、繰越遡及での支給キーの使い方、1299 ページ](#)

カレンダー グループ別結果の表示

このセクションでは、カレンダー グループ別の結果の表示について説明します。カレンダー別に結果を表示することもできます。

関連項目:

[第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、カレンダー別結果の表示、862 ページ](#)

カレンダー グループ別結果の表示に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
カレンダー グループ結果	GP_RSLT_RUN_SEG	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[カレンダー グループ別結果]、[カレンダー グループ結果]	全てのカレンダー グループの処理統計が表示されます。このコンポーネントには、カレンダー別結果コンポーネントと同じ情報が表示されますが、個々のカレンダーに対するものではなく、カレンダー グループに対する情報が表示されます。ポジティブ入力、休暇欠勤、および遡及処理結果を表示するページへのリンクもあります。
<従業員 ID> の結果セグメント詳細	GP_RSLT_SEG_SP	<ul style="list-style-type: none"> カレンダー実行結果ページで [セグメント詳細] リンクをクリックします。 カレンダー グループ結果ページで [セグメント詳細] リンクをクリックします。 	セグメント処理やセグメント ステータスの詳細情報が表示されます。
カレンダー グループ別結果 - 支給/控除	GP_RSLT_RUN_ED	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[カレンダー グループ別結果]、[支給/控除]	受給者の支給と控除に関する情報が表示されます。
カレンダー グループ別結果 - エLEMENT変換詳細	GP_RSLT_RES_SEC	"カレンダー グループ別結果" の支給/控除ページで [変換詳細] リンクをクリックします。	各ELEMENTの変換詳細が表示されます。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
カレンダー グループ別結果 - 累計	GP_RSLT_RUN_ACUM	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[カレンダー グループ別結果]、[累計]	累計金額が表示されます。
カレンダー グループ別結果 - サポート エレメント	GP_RSLT_RUN_PIN	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[カレンダー グループ別結果]、[サポート エレメント]	支給額または控除額を計算するために使用された各サポート エレメントの情報が表示されます。

処理結果管理ビューの定義

このセクションでは、事前設定および処理結果管理ビューの設定について説明します。

事前設定

リスト セットによって、処理結果管理ビューのフレームワークが管理されます。アプリケーション定義は、システム データとして標準で用意されています。このアプリケーション定義によって、リスト セットとエレメント グループに属性が割り当てられます。リスト セットは、ページに表示されるエレメントを決定する際に使用されます (そのリスト セットに定義されたエレメント グループが参照されます)。処理結果管理ビュー コンポーネントとコンポーネント上に表示される情報は、これらの属性によって管理されます。異なるデータ ビュー タイプに対して、さまざまなリスト セットを設定できます。

リスト セットを使用して、以下のことが行われます。

- 有効または非表示になる照会ページの決定
- リスト セットに定義されているエレメント グループの中からの、ページのエレメント リスト領域に表示されるエレメント グループの指定
- デフォルト タイトルの受け入れまたはデフォルト タイトルの上書き
- 支給、控除、累計、サポート エレメント、および休暇欠勤などのエレメント リストの指定

- 総額累計および純額累計に使用されるエレメントの個別リストの指定
- 照会ページで表示されるエレメント セットの定義
- 表示されるエレメントの属性の構成

参照: 第 36 章、「アプリケーションとリスト セットの管理」、1377 ページ。

また、グローバル ペイロール管理者や福利厚生管理者など、特定の PeopleSoft のロールを持つユーザー別に、表示できるエレメントを決めておく必要があります。たとえば、グローバル ペイロール管理者は全てのエレメントを表示できる一方で、福利厚生管理者は福利厚生控除のみにアクセスでき、給与情報にはアクセスできない、というように決定しておく必要があります。

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration の「Setting Up Roles」

処理結果管理ビューの定義に使用するージ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
管理ビュー定義	GP_RSLT_ADM_SETUP	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[処理結果管理ビューの定義]、[管理ビュー定義]	国オプションを設定し、サマリ ページの [受給者詳細] グループ ボックス用にリスト セットを PeopleSoft のロールに関連付けます。 参照: 第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、サマリ情報の表示、902 ページ。

処理結果管理ビューの設定

管理ビュー定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[処理結果管理ビューの定義]、[管理ビュー定義])。

処理結果管理ビューの定義

国: AUSオーストラリア

エレメント リスト セット: RSLT_ADMAdministrator Results

▼ ロール

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

ロール名	名称		
GP Administrator AUS	GP Administrator AUS	+	-

受給者詳細フィールド

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

連番: 1

*フィールド タイプ: 休暇欠勤/給与計算結果

支給キー:

*入力タイプ: システム エレメント - 文字列

エレメント名: COMPANY

会社コード

フィールド ラベル

*ラベル タイプ: エレメント名称

ラベル テキスト:

メッセージ セット番号:

メッセージ番号:

フィールド 名称

レポート (テーブル) 名: COMPANY_TBL

会社コード

フィールド名: COMPANY

☐ セットID による管理

管理ビュー定義

ロール

リスト セットに関連付けるロールを入力します。

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration の「Setting Up Roles」

受給者詳細フィールド

フィールド タイプ

サマリ ページの [受給者詳細] セクションに表示される値のフィールド タイプを入力します。有効値は、[支給キー] および [休暇欠勤/給与計算結果] です。

支給キー

[フィールド タイプ] に [支給キー] を指定した場合、サマリ ページの [受給者詳細] セクションに表示される支給キー番号を入力します。

入力タイプ	[フィールド タイプ] に [休暇欠勤/給与計算結果] を指定した場合、入力タイプを入力します。有効値は、[システム エlement - 文字列] と [変数 - 文字列] です。
エレメント名	[フィールド タイプ] に [休暇欠勤/給与計算結果] を指定した場合、選択した入力タイプのエレメント名を入力します。
フィールド ラベル	
ラベル タイプ	<p>選択したフィールド タイプのラベルを入力します。選択したラベルタイプに基づいて、さまざまなフィールドを編集できます。</p> <p>[フィールド タイプ] が [支給キー] の場合、有効値は、[メッセージ カタログ] または [テキスト] になります。</p> <p>[フィールド タイプ] が [休暇欠勤/給与計算結果] の場合、有効値は、[エレメント名称]、[エレメント名]、[メッセージ カタログ]、または [テキスト] になります。</p>
ラベル テキスト	[ラベル タイプ] に [テキスト] を選択した場合は、ラベルに使用するテキストを入力します。ここで入力した名称は、サマリ ページ - [受給者詳細] グループ ボックスで表示されます。
メッセージ セット番号	[ラベル タイプ] に [メッセージ カタログ] を選択した場合は、メッセージ セット番号を入力します。ここで入力した値は、サマリ ページ - [受給者詳細] グループ ボックスで表示されます。
メッセージ番号	[ラベル タイプ] に [メッセージ カタログ] を選択した場合は、メッセージ番号を入力します。ここで入力した値は、サマリ ページ - [受給者詳細] グループ ボックスで表示されます。
フィールド説明	
	このセクションのフィールドを使用して、レコードからフィールドの名称を取得します。
レコード (テーブル) 名	<p>サマリ ページの [受給者詳細] グループ ボックスにフィールドの名称を表示する場合は、このフィールドにレコード名を入力します。</p> <p>少なくとも 1 文字のキーを持つテーブルのみ選択できます。</p>

フィールド名	サマリ ページの [受給者詳細] グループ ボックスに名称を表示するフィールド名を入力します。 エレメントの名称が正常に変換されるように、選択したレコードには EMPLID、EFFDT または SETID がキーとして含まれるのに加え、1 つの追加キーが含まれる場合があります。レコードに EMPLID、EFFDT または SETID 以外に追加キーが含まれている場合は、このフィールドを [フィールド名] フィールドに指定する必要があります。
セットID による管理	選択したレコードがセットID によって管理される場合、このフィールドは自動的にオンになります。

処理結果管理ビューの表示

このセクションでは、処理結果管理ビューの概要と以下の表示について説明します。

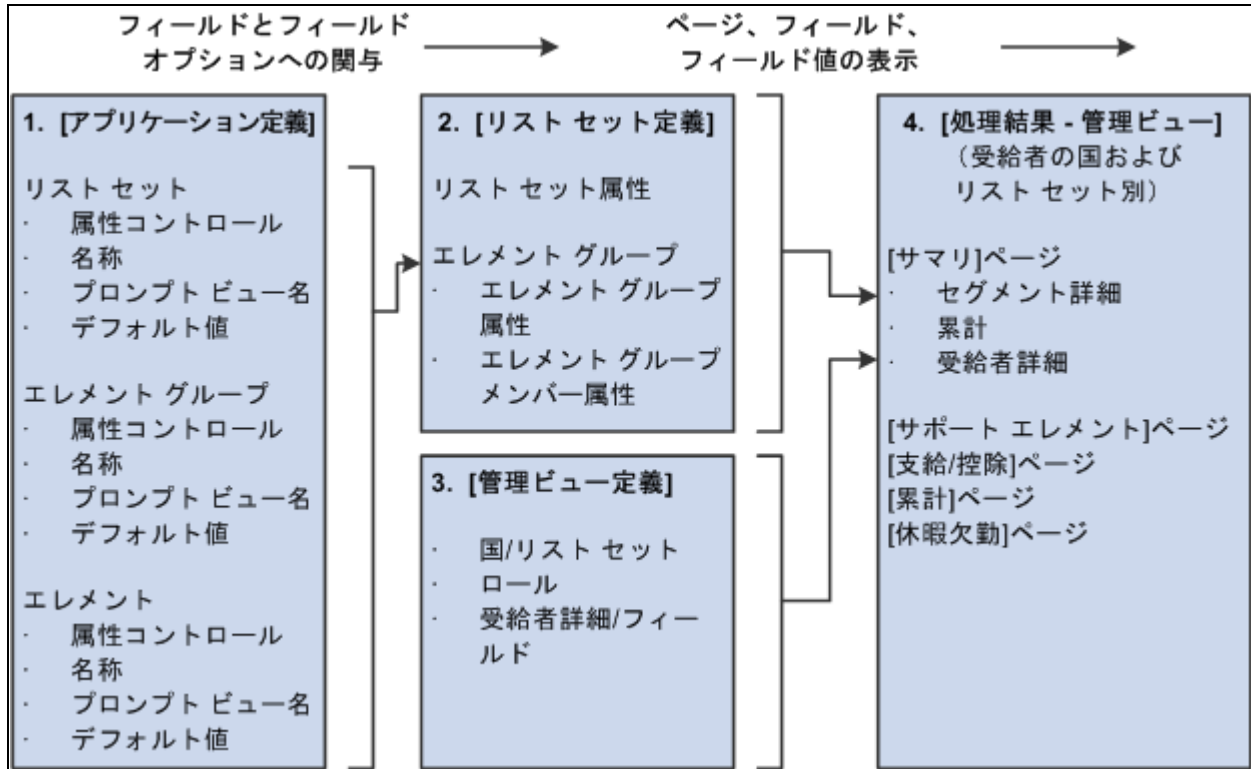
- サマリ情報の表示
- サポート エレメント
- 支給と控除
- 累計
- 休暇欠勤

処理結果管理ビューについて

処理結果管理ビューの各照会ページは、ユーザーが設定した給与計算処理の結果の表示に使用されます。これらのページでは、給与計算処理が行われた後に、以下のタイプの情報を表示することができます。

- 総支給額累計および純支給額累計、受給者詳細、セグメント詳細などを含むサマリ情報
- 変数や累計など、給与計算で使用するサポート エレメント
- 支給エレメントと控除エレメント
- 累計
- 休暇欠勤

管理ビュー定義ページでのアプリケーション定義、リスト セット、およびロールについての設定は、全て処理結果 - 管理ビュー コンポーネントの表示に関与しています。たとえば、リスト セット定義ページの [リスト セット属性] グループ ボックスでの設定によって、処理結果 - 管理ビュー コンポーネントの表示内容が管理されます。これは、処理結果 - 管理ビュー コンポーネントの表示に対するリスト セットの、多数ある関与の中のほんの一例です。次の図は、この関係の概要を示しています。



処理結果 - 管理ビュー コンポーネントの表示に関する設定

注意: PeopleSoft では [国] の値が "ALL" の RSLT_ADM アプリケーションが標準で用意されており、処理結果 - 管理ビュー コンポーネントと連動して機能するように設計されています。したがって、このアプリケーションは変更しないようにしてください。このアプリケーションと選択したリスト セットをリンクして、処理結果 - 管理ビュー コンポーネントの表示を管理するために使用します。

関連項目:

第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、処理結果管理ビューの定義、895 ページ

処理結果管理ビューの表示に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
[サマリ]	GP_RSLT_ADM_SUMM	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[処理結果 - 管理ビュー]、[サマリ]	受給者情報がセグメント別に表示されます。
[処理結果 - 管理ビュー] - [サポート エlement]	GP_RSLT_ADM_SOVR	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[処理結果 - 管理ビュー]、[サポート エlement]	受給者の支給および控除の計算に使用するサポート エlementに関する情報が表示されます。
[処理結果 - 管理ビュー] - [支給/控除]	GP_RSLT_ADM_ED	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[処理結果 - 管理ビュー]、[支給/控除]	受給者の支給と控除に関する情報が表示されます。
[処理結果 - 管理ビュー] - [累計]	GP_RSLT_ADM_ACUM	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[処理結果 - 管理ビュー]、[累計]	累計金額が表示されます。
[処理結果 - 管理ビュー] - [休暇欠勤]	GP_RSLT_ADM_ABS	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[処理結果 - 管理ビュー]、[休暇欠勤]	その休暇欠勤カレンダーに対して処理される休暇欠勤日次データ、ポジティブ入力作成メンバーリスト、および累計が表示されます。

サマリ情報の表示

サマリ ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[処理結果 - 管理ビュー]、[サマリ])。

サマリ(S) サポート エレメント(E) 支給/控除(D) 累計(A) 休暇欠勤(B)

AK Alaska EMP ID: K1GAK001 雇用コード: 0

カレンダー グループ ID: K1G SMPL OCT04M リスト セット: RSLT_ADM

セグメント情報

セグメント詳細

開始日: 2004/10/01 終了日: 2004/10/31

カレンダー ID: K1GOCT04M 2

支給グループ: K1GPG2 GP US Pay Group 2 - Monthly

支給日: 2004/10/31

計算タイムスタンプ: 2004/09/07 18:20 計算ステータス: 最終決定

総額/純額 カスタマイズ | 最初 1/1 最後

名称	現在額	年間累計
	2237.250000	0.000000
	620.000000	0.000000
	145.000000	0.000000

受給者詳細 カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

フィールド	値	名称
会社	K1G	GP US Company G

サマリ ページ

注意: このページの表示は、リスト セットとロール ベース セキュリティによって管理されます。ユーザーのロールおよびそのロールと指定のリスト セットとの関連付けによって、異なる値が表示されます。

参照: 第 36 章、「アプリケーションとリスト セットの管理」、1377 ページ。

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration の「Setting Up Roles」

セグメント詳細

リスト セット設定に関係なく、受給者のセグメントに関する情報が表示されます。セグメントの開始日と終了日、カレンダー ID、支給グループ、支給日、計算タイム スタンプ、計算ステータスなどが表示されます。

受給者詳細

リスト セット設定に関係なく、受給者のセグメントに関連する給与計算結果テーブルに保存された情報が表示されます。このグリッドのタイトルと内容は、国別に設定され、管理ビュー定義ページの [受給者詳細フィールド] グループ ボックスの設定に従って表示されます。

参照: 第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、処理結果管理ビューの定義、895 ページ。

分割が発生した場合は、最後のスライスの値が表示されます。

総額/純額

受給者のセグメントに関連付けられたセグメントの値と年間累計が表示されます。このグリッドのタイトルと内容は、国別に設定され、関連付けられたリスト セットに従って指定されます。[名称] 列の値は、エレメント グループ属性ページの [タイプ/名称] タブの [名称] フィールドから取得されます。列の見出しは、リスト セット定義ページのリスト セット属性 (リスト セットのアプリケーション定義によって割り当てられる) から取得されます。アプリケーションとリスト セットの関係については、この PeopleBook の別の箇所でさらに詳しく説明します。

参照: 第 36 章、「アプリケーションとリスト セットの管理」、1377 ページ。

サポート エLEMENTの表示

"処理結果 - 管理ビュー" - サポート エLEMENT ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[処理結果 - 管理ビュー]、[サポート エLEMENT])。

The screenshot displays the 'Support Element' page. At the top, there are tabs: サマリ(S), サポート エLEMENT(E), 支給控除(D), 累計(A), and 休暇欠勤(B). The main content area shows employee information for Bai Lichen (EMP ID: K6001, 雇用コード: 0). Below this, there are search filters for Category and Amount, and buttons for '選択条件で検索' and '選択条件をクリア'. The 'セグメント情報' section shows the start and end dates (2006/01/01 to 2006/01/31) and the calendar ID (K6CM06M01 JANABS). The 'サポート エLEMENT' section has a table with the following data:

タイプ	ELEMENT名	名称	金額	文字値	日付値
			0.000000		

"処理結果 - 管理ビュー" - サマリ ページ

このページには、リスト セットに定義されたサポート エLEMENTが表示されます。

選択条件

このグループ ボックスは、処理結果 - 管理ビュー コンポーネントのほとんどのページに表示されます。選択条件を入力しない場合は、設定で定義されたリスト セットに適用される全てのエレメントが表示されます。選択条件を入力した場合は、その照会ページのエレメントに対してフィルタが掛けられますが、ほかの照会ページのエレメント情報には影響しません。

複数の条件を入力した場合は、全ての条件を満たすエレメントのみが表示されます。

カテゴリ

フィルタを掛けるエレメントのカテゴリ名を選択します。このドロップダウン リストに表示されるカテゴリ名は、カテゴリ テーブルから取得されます。

参照: 第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、産業とカテゴリの定義、 96 ページ。

金額

表示する金額のタイプを選択します。[負の金額] または [正の金額] を選択できます。全ての金額を取得する場合は、このフィールドを空白のままにします。

支給と控除の表示

"処理結果 - 管理ビュー" - 支給/控除ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[処理結果 - 管理ビュー]、[支給/控除])。

サマリ(S)

サポート エレメント(E)

支給/控除(D)

累計(A)

休暇欠勤(B)

Bai Lichen

EMP

ID: K6001

雇用コード: 0

カレンダー グループ ID: K6CM06M01

リスト セット: RSLT_ADM

選択条件

カテゴリ:

金額:

☐ ポジティブ入力のみ

☐ 調整値詳細の表示

選択条件で検索

選択条件をクリア

セグメント情報

検索 最初 1/2 最後

開始日: 2006/01/01

終了日: 2006/01/31

カレンダー ID: K6CM06M01JANABS

Test

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | | | 最初 1/1 最後

結果(U)

期間(R)

ユーザー キー(K)

タイプ	エレメント名	名称	インスタンス	金額	計算済ベース額	レート	パーセント	変換詳細
			0	0.000000				変換詳細

"処理結果 - 管理ビュー" - 支給/控除ページ

このページには、リスト セットに定義された支給と控除が表示されます。このページでは、[カテゴリ] と [金額] に加えて、[調整値詳細の表示] および [ポジティブ入力のみ] を選択条件として選ぶことができます。

勤務管理累計の表示

"処理結果 - 管理ビュー" - 累計ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[処理結果 - 管理ビュー]、[累計])。

サマリ(S)

サポート エレメント(E)

支給/控除(D)

累計(A)

休暇欠勤(B)

Bai Lichen

EMP

ID: K6001

雇用コード: 0

カレンダー グループ ID: K6CM06M01

リスト セット: RSLT_ADM

選択条件

カテゴリ:

金額:

選択条件で検索

選択条件をクリア

セグメント情報

検索 最初 1/2 最後

開始日: 2006/01/01

終了日: 2006/01/31

カレンダー ID: K6CM06M01JANABS

累計

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | | | 最初 1/1 最後

結果(U)

ユーザー キー(K)

期間(R)

期間	エレメント名	名称	金額	累計開始日	累計終了日
			0.000000		

"処理結果 - 管理ビュー" - 累計ページ

このページには、リスト セットに定義された累計が表示されます。

休暇欠勤の表示

"処理結果 - 管理ビュー" - 休暇欠勤ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤 管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[処理結果 - 管理ビュー]、[休暇欠勤])。

サマリ(S)サポート エlement(E)支給/控除(D)累計(A)休暇欠勤(B)

Bai LichenEMPID: K6001雇用コード: 0

カレンダー グループ ID: K6CM06M01リスト セット: RSLT_ADM

選択条件

カテゴリ:

金額:

選択条件で検索

選択条件をクリア

セグメント情報

検索最初1/2最後

開始日: 2006/01/01終了日: 2006/01/31カレンダー ID: K6CM06M01JANABS

▼ 休暇欠勤データ

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初1/1最後

結果(U)期間(P)休暇付与残数(N)

休暇取得Element	名称	Element タイプ	日数計算	有給日数	イベント開始日	イベント終了日	休暇欠勤日

▼ ポジティブ入力作成メンバー リスト

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初1/1最後

開始日	終了日	休暇取得Element	名称	パーセント	ユニット

▼ 累計

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初1/1最後

結果(U)ユーザー キー(K)期間(R)

累計期間	Element 名	名称	Element タイプ	累計開始日	累計終了日	計算結果値
						0.000000

"処理結果 - 管理ビュー" - 休暇欠勤ページ

このページには、休暇欠勤情報が表示される 3 つの Element リスト領域があります。これらのリスト領域には、休暇欠勤日次データ、ポジティブ入力作成メンバー、および累計が表示されます。表示される各 Element は、リスト セットに定義されています。

906

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

エレメント変換チェーンの表示

給与計算を実行するときに、受給者ごとに各エレメントが変換される方法と順序を示すエレメント変換チェーンを作成することができます。このチェーンにより、プロセス リストの各エレメントを変換するのにかかった時間もわかります。これは、給与計算処理で計算に時間がかかる場合やルール定義でパフォーマンス調整を行うときに有効です。エレメント変換チェーンの作成には非常に多くのシステム リソースが必要なため、この機能を使うのは、問題を解決するときだけにするをお勧めします。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 変換されたエレメントの表示
- エレメントが変換された順番の表示

エレメント変換チェーンの表示に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
エレメント変換チェーン	GP_AUDIT_CHAIN	[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[エレメント変換チェーン]、[エレメント変換チェーン]	処理中に受給者に対して変換されたエレメントが表示されます。
チェーン検証詳細	GP_AUDIT_DTL_SEC	エレメント変換チェーン ページで [エレメント名] のリンクをクリックします。	各エレメントが変換された順番、およびそのエレメントが変換された数値、文字値、または日付値が表示されます。

変換されたエレメントの表示

エレメント変換チェーン ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[休暇/給与計算情報の確認]、[エレメント変換チェーン]、[エレメント変換チェーン])。

エレメント変換チェーン

従業員 ID: K0G001

Rebekah Jones

雇用コード: 0

カレンダーグループ: K0 2007 01

2007 01 - MONTHLY

カレンダー情報

カレンダー ID: K0 M200701 A PGAREG

カレンダー実行 ID: K0 2007 01

支給グループ: K0PGA

セグメント番号: 1

開始日: 2007/01/01

終了日: 2007/01/31

バージョン: 1

レビジョン: 1

プロセス リスト エレメント

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 |

最初 1-3/8 最後

エレメント

変換時間

スライス日

追加情報

入力タイプ	エレメント名	名称	数値	文字値	日付値
アレイ	K0ARCOMPANY	Company Points Value	1.000000		
アレイ	K0ARCHILDREN	Count Children			
システム エレメント	GP PAYGROUP	支給グループ ID		K0PGA	

エレメント変換チェーン ページ

- 開始日、 終了日

エレメントを処理したカレンダーの開始日と終了日が表示されます。
- エレメント名

クリックすると、チェーン検証詳細ページが表示され、エレメントが変換された順番を参照できます。
- [変換時間] タブ
- 処理秒数

そのエレメントを変換するのにかかった秒数です。変換にかかった時間が 1 秒未満の場合、アスタリスク (*) が表示されます。
- 異常終了トレース

プログラムのエラー、破損したテーブル、またはその他の問題により、そのエレメントの変換を追跡管理するのが不可能な場合に、このチェック ボックスがオンになります。

[スライス日] タブ

そのエレメントが変換されるスライスの開始日と終了日が表示されます。

[追加情報] タブ

ポインタ値

[エレメント名] フィールドで指定したポインタ エレメントが変換された PIN 番号が表示されます。**ポインタ**のフィールド フォーマットを持つエレメントにのみ適用されます。

調整

遡及調整など、そのエレメントに対する計算済みの調整金額が表示されます。**"10 進数"** または **"金額"** のフィールド フォーマットを持つエレメントにのみ適用されます。

計算未処理値

そのエレメントが処理中に端数処理された場合、端数処理前の金額が表示されます。**"10 進数"** または **"金額"** のフィールド フォーマットを持つエレメントにのみ適用されます。

関連項目:

第 6 章、「データ取得エレメントの定義」、仮再計算エレメントの定義、175 ページ

エレメントの変換順序の表示

チェーン検証詳細ページにアクセスします (エレメント変換チェーン ページで [エレメント名] リンクをクリックします)。

エレメント変換チェーン

チェーン検証詳細

エレメント名:

GP PAYGROUP

支給グループ ID

エレメント タイプ:

SY

システム エレメント

変換時間

0.01 秒 (*) は処理時間が 0.01 秒以下であることを意味します。

チェーン検証詳細

カスタマイズ

検索

全件表示

最初

1/1

最後

エレメント

変換時間

スライス日

追加情報

タイプ	エレメント名	名称	レベル	変換連番	数値	文字値	日付値
SY	GP PAYGROUP	支給グループ ID	1	1		KOPGA	

チェーン検証詳細ページ

[変換連番] フィールドは、変換順序を示します。

バッチ処理エラーおよびデータ入力エラーの修正

このセクションでは、バッチ処理エラーとエラー メッセージの概要、および受給者メッセージ レポートの作成方法について説明します。

バッチ処理エラーについて

バッチ処理中にエラーが発生すると、支給の計算ステータスに以下のいずれか 1 つが割り当てられます。

- エラー

金額計算中にエラーが発生したことを示します。たとえば、バッチ処理でエレメント定義に対する適切な有効日付の行が見つからなかった場合などです。

- 計算エラー - スキップ

エラーのため、受給者の計算が実行されなかったことを示します。たとえば、受給者の職務行が見つからなかった場合などです。

- 計算エラー - ルール

それぞれの組織で定義されたエラーの条件に一致したことを示します。たとえば、受給者の給与が 1 億円に達したときや、その他の指定金額に達したときなどに、エラー メッセージを生成するフォーミュラ エレメントなどです。

計算フェーズを実行するたびに、エラーになった支給の数を処理統計コンポーネントで確認できます。また、受給者メッセージ コンポーネントでも、エラーごとに生成された警告やメッセージを参照できます。エラーの原因となった問題を解決した後、計算フェーズを再実行します。指定した受給者の再計算が実行されます。

照会の各ページに表示される詳細情報を使用することで、ほとんどのエラーを解決することが可能ですが、それ以上の情報が必要になる場合もあります。数人の受給者に対するエラーを解決する場合、それらの受給者に限定してエレメント変換チェーンを作成することができます。

変換チェーンを作成するには、次の手順に従います。

1. 受給者ステータス ページで、[処理インジケータ] を [再計算] に設定します。
2. 休暇欠勤/給与計算ページで [計算] チェック ボックスをオンにし、[デバッグ/チューニング オプション] リンクをクリックして [エラーのエレメントをトレース] オプションを選択します。

3. ジョブを開始します。

重要: エラーのある給与計算は最終決定できません。給与計算実行を完了する前に全てのエラーを解決できない場合は、エラーのある給与計算をキャンセルして、後から追加実行で処理します。

データ エラーと入力漏れ

データ入力エラー、事務処理の遅れ、およびほかの要因から、システムが検出できないエラーが生じる場合もあります。照会の各ページは、この種の問題を見つけるのに役立ちます。

ほかのアプリケーションからグローバル ペイロールに送信されたデータにエラーが含まれている場合、以下のいずれかを行います。

- 送信元アプリケーションのエラーを修正し、データを再送信します。
- ポジティブ入力機能を使用して、間違ったデータを上書きします。

送信元アプリケーションのエラーを修正することにより、送信元アプリケーションとグローバル ペイロールの両方で正しいデータを維持することができます。

関連項目:

第 17 章、「[ポジティブ入力の使い方](#)」、615 ページ

バッチ処理エラー メッセージについて

グローバル ペイロールのバッチ処理メッセージは、次の 2 種類に分けられます。

- メッセージ 1 ～ 300

情報メッセージおよび処理の異常終了を示すメッセージです。これらのメッセージは、処理ログに表示され、処理の進捗状況や処理の異常終了の原因となった重大なエラーを知らせます。

- メッセージ 301 以上

警告または重大ではないエラーのメッセージです。受給者メッセージ ページで指定される受給者に対し 1 つ以上のセグメント (支給) でこれらのエラーが生じて、処理は続行できます。

これらのメッセージは、いくつかの例外を除いて、エレメントの変換やセグメントがスキップされる原因となった問題を知らせ、影響を受ける受給者を示します。これらのメッセージは、受給者メッセージ ページで参照できます。

これら 2 種類のバッチ処理エラー メッセージは、標準で提供されるメッセージ セット 17005 およびユーザーによって作成されるメッセージ セットに適用されます。

メッセージ セット番号 17005 には、グローバル ペイロールのコアとなるアプリケーション バッチ処理に対するメッセージが含まれています。このセット内の主なメッセージの説明を以下に示します。

受給者メッセージ ページまたは受給者メッセージ レポートによって、バッチ処理メッセージを確認することができます。受給者メッセージ レポートを使用すると、給与計算の最終決定を完了するために追加編集が必要な受給者を確認できます。オンラインで使用可能なものと同じ選択ロジックが提供されます。

メッセージ番号	メッセージ/説明
3	<p>アレイ上限数 %3 のコピーブック %2 に定義されているアレイ %1 の内部アレイがオーバーフローしました。</p> <p>COBOL ではデータのスペース配分が動的に行われないので、データを読み込むための全てのアレイに行数をあらかじめ設定しておく必要があります。処理中に、プログラム内に確保された保存領域を超えるデータがデータベースから取得されると、このメッセージが発行されます。このメッセージでは、どの保存領域が超過したか、その領域はどのコピー ブックで定義されたか、およびその領域の限度が指定されます。</p> <p>先に進むには、システム管理者かシステム プログラマに、領域を必要数まで拡大し、グローバル ペイロール COBOL アプリケーションを再コンパイルした後に、その処理を再実行するように依頼する必要があります。</p> <p>サンプル メッセージ:</p> <pre>GPPDPDM1: XB000 Internal array overflow occurred for array %1 defined in copybook %2 with a max array count of %3 L-PMT-DATA GPCDPDM.CBL 20</pre> <p>解決例: 問題のコピー ブックから以下に示された設定部分を見つけます。</p> <pre>05 L-PMT-COUNT PIC 9999 VALUE 0 => COMP. 88 L-PMT-COUNT-MAX VALUE 50.</pre> <pre>05 L-PREV-PMT-PTR PIC 9999 VALUE 0 => COMP. 05 L-ORIG-PMT-COUNT PIC 9999 VALUE 0 => COMP. 05 L-PMT-DATA OCCURS 50 INDEXED BY PMT-IDX.</pre> <p>OCCURS 句の番号を増やしますが、同時に L-PMT-COUNT-MAX の VALUE も同数にします。このアレイには、カレンダーグループ内の 1 人の受給者のために処理されたセグメントごとに 1 行が含まれます。また、受給者が複数の職務に就いている場合は、処理中の雇用レコード番号全てについて、履歴行を 1 行と、全ての遡及セグメント、および現在の処理期間に含まれるセグメント数が含まれます。</p>

メッセージ番号	メッセージ/説明
301	<p>プロセス リスト %3 の親エレメント %2 のエレメント %1 が %4 にありません。(PIN 番号. %5)</p> <p>キー属性アレイ (UPINT または UPINA) の 1 つでそのエレメントに対する入力が見つからない場合に、エレメント変換プログラムによってこのエラー メッセージが発行されます。このメッセージには、エレメント コンポーネント、その親 (%2) および今回処理されるプロセス リスト (%3) が指定されます。また、UPINT または UPINA (%4) で入力が見つからないことやそのエレメントの PIN 番号 (%5) も通知されます。</p> <p>親エレメントが現在実行中のカレンダー グループの国以外の国に特別に定義されたエレメントを使用するように設定されている場合に、このエラーが発生する可能性があります。</p> <p>解決方法: 親エレメントを調べます。または、エラーが報告されたエレメントがプロセス リストに直接にある場合、プロセス リストのセクションを調べます。エレメントの関連付けを修正するか、該当するプロセス リストからそのエレメントを削除します。</p> <p>メッセージ 314 と 315 も参照してください。</p>

メッセージ番号	メッセージ/説明
302	<p>エレメント %1 (親エレメント %2、プロセス リスト エレメント %3) の定義は %4 の時点で非アクティブです。</p> <p>受給者メッセージ ページでは、%n プレースホルダーがエレメント名に置き換えられます。処理中に、変換のリクエストが行われた日付 (%4) 以前に非アクティブに設定されたエレメントを変換するリクエストが行われた場合、このメッセージが発行されます。親エレメント (%2) は、このエレメントに直接関連付けられているエレメントです。プロセス リスト エレメント (%3) は、エラーのエレメントと親エレメントの両方に関連しているプロセス リストのエレメントを表します。</p> <p>より複雑な設定では、親エレメントとプロセス リストのエレメントの間に複数のエレメントの階層がある場合もあります。プロセス リストの入力に対しエラーが発生した場合は、3 つのエレメント全てに同じエレメント名が表示されます。</p> <p>解決方法: エラーのエレメント定義を見直し、そのエレメントを非アクティブにする必要があるか判断します。非アクティブにする必要がある場合は、親エレメントの定義を修正して、変換の際にこのエレメントの値を使用しないで済むようにします。エラーのエレメントが直接プロセス リストにある場合 (つまりプロセス リストのセクションにある場合)、そのセクションからそのエレメントを削除する必要があります。</p>
314	<p>エレメント %1 の PIN %2 は無効です。有効範囲は 1 から %3 です。PIN はロードされませんでした。</p> <p>エレメントまたはエレメント ルール定義がロードされるときに、このメッセージが表示されます。PIN 番号の有効範囲 (1 ~ 300,000) 外の PIN 番号を持つエレメントが検出されます。最大限度は、GPCUPINT の UPINT アレイのサイズです。</p> <p>解決方法: PIN 番号 (%2) がゼロの場合、いずれかのルールの設定に問題があります。PIN 番号が 300,000 を超えているということは、ルール設定が拡大していることを表します。UPINT アレイを拡大するために、システム管理者またはアプリケーション開発者に相談してください。</p>

メッセージ番号	メッセージ/説明
315	<p>エレメント %1 (PIN %2) のデータはプロセスにロードされませんでした (国: %3 には無効)。</p> <p>このメッセージはエレメントまたはエレメント ルール定義のロード中に表示されます。このメッセージは、メッセージ 314 と違って PIN 番号は有効ですが、処理中にデータをロードしようとしているエレメントが現在の処理に関連付けられた国 (%3) 以外の国用のエレメントであるために表示されるメッセージです。</p> <p>解決方法: 最後に正常に実行されてから行われたルールの修正または追加に注目して、ルール設定を確認します。</p>

受給者メッセージ レポートの作成に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
給与計算メッセージ	GP_GPSQR04_PNL	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[レポート]、[給与計算メッセージ]	メッセージ レポート (GP000004) SQR プロセスを実行して、給与計算の最終決定を完了するために追加編集が必要な受給者を確認します。

給与計算メッセージ レポートの作成

給与計算メッセージ ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[レポート]、[給与計算メッセージ])。

給与計算メッセージ

ラン コントロール ID: 01
[レポート マネージ](#)
[プロセス モニター](#)

言語コード: 英語

*カレンダー グループ ID:

GP CE Switzerland 2000-01
国: CHE

選択条件

開始従業員 ID:	<input type="text"/>	終了従業員 ID:	<input type="text"/>
支給グループ:	<input type="text"/>	カレンダー ID:	<input type="text"/>
グループ リスト ID:	<input type="text"/>	計算ステータス:	
メッセージ セット:	<input type="text"/>	メッセージ番号:	<input type="text"/>
メッセージの重要度:			

給与計算メッセージ ページ

カレンダー グループ ID	処理対象のカレンダー グループを指定します。
開始従業員 ID 、 終了従業員 ID	処理対象の受給者の範囲を指定します。[終了従業員 ID] に値を入力したら必ず [開始従業員 ID] にも値を入力する必要があります。
支給グループ	処理対象の支給グループを指定します。
カレンダー ID	処理対象のカレンダーを指定します。
グループ リスト ID	グループ リスト ID に現在割り当てられている受給者が処理されます。
計算ステータス	処理対象の計算ステータスを指定します。
メッセージ セット	特定のメッセージ セットを選択することができます。選択したグローバル ペイロールのメッセージのみがレポートされます。
メッセージ番号	このフィールドは、[メッセージ セット] を指定した場合に入力可能になります。有効なメッセージ番号を入力します。
メッセージの重要度	[エラー] または [警告] を選択して、情報メッセージおよび処理の異常終了を示すメッセージ (メッセージ番号 300 以下) をレポートから除外します。

給与計算実行または休暇欠勤処理実行の最終決定

給与計算実行または休暇欠勤実行を最終決定すると、それ以降の変更はできません。カレンダーグループのカレンダーは、実行の最終決定後にのみ、それ以降に実行される他のカレンダーグループの遡及処理で使えるようになります。

給与計算サイクルの最後に実行全体を最終決定する前に、エラーを全て解決し全ての調整を行います。最終決定フェーズを実行すると、以下のことが行われます。

- 各支給の計算ステータスが [最終決定] に設定されます。
- 全ての警告、エラー メッセージ、エレメント変換チェーン、処理済みの遡及トリガ、および未処理も含む反復トリガが削除されます。ポジティブ入力、分割トリガ、および未処理遡及トリガは削除されません。
- カレンダー グループ ページで参照できるようにタイムスタンプ (処理の開始時間と終了時間) が挿入されます。
- カレンダー グループ ID が [最終決定] とマークされ、[オープン] インジケータが選択解除されます。

このセクションでは、給与計算実行または休暇欠勤実行を最終決定する方法について説明します。

重要: 最終決定フェーズは取り消しできません。

給与計算実行または休暇欠勤実行を最終決定するには、次の手順に従います。

1. 以下の条件を満たすことを確認します。

以下のいずれかの条件を満たしていない場合、バッチ処理は異常終了します。ログ ファイルをチェックすることで、満たされていない条件を確認できます。

条件	チェック箇所
支給がエラーや確認ステータスになっていないこと。	そのカレンダー グループ ID の処理統計コンポーネント。
受給者が [ユーザーによる一時停止] または [システムによる一時停止] になっていないこと。	そのカレンダー グループ ID の処理統計コンポーネント。
そのカレンダー グループに対してストリーム処理が使用されている場合は、全てのストリームの処理を終えていること。	処理統計コンポーネント。ストリーム番号が不明の場合、ストリーム ページをチェックします。
全ての [処理インジケータ] が [正常] に設定されていること。	受給者ステータス ページ。

全ての反復トリガが削除されるので、その前に反復トリガ確認ページを参照して別の実行で対処する必要のある未処理のトリガがあるかどうかを調べることができます。

参照: 第 30 章、「トリガの設定」、カレンダー グループ ID 別反復トリガの表示、1168 ページ。

- 同じラン コントロール ID で "休暇欠勤計算/給与計算" の休暇欠勤/給与計算ページにアクセスして、[最終決定] チェック ボックスをオンにします。
- そのカレンダー グループ ID の処理統計コンポーネントを確認して、**最終決定**された数と**合計**の数が一致するかを確認します。

給与計算実行または休暇欠勤処理実行のキャンセル

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 給与計算全体のキャンセル
- 受給者個人別のキャンセル

全て(カレンダーグループID 全体) の給与計算または休暇欠勤処理の実行をキャンセル、またはカレンダーグループID から受給者を個人別にキャンセルできます。キャンセルする全ての受給者に対し、全ての計算が削除され、選択ステータスが [キャンセル] に設定され、計算ステータスが削除されます。またエレメント変換チェーンでリクエストした場合、全てのエラー メッセージ、警告および検証レコードが削除されます。

手動で**キャンセルを解除**するか、または実行全体をキャンセルした場合には、確認フェーズを再実行しない限り、キャンセルされた受給者は、遡及実行を含め、それ以降の反復処理の対象となりません。

実行全体のキャンセル

給与計算の実行全体をキャンセルする必要は、通常生じません。ただし、ほとんどまたは全ての受給者に影響を与える問題が発見された場合、その実行全体のキャンセルは、問題に最も効率的に対処する方法となります。たとえば、カレンダーに誤ったプロセス リストを適用した場合や、カレンダー グループ ID に誤った順序でカレンダーを挿入した場合は、個別に受給者の訂正を行うより、実行をキャンセルして訂正を行い、再度確認フェーズを実行した方が効率が良いでしょう。

給与計算実行をキャンセルするには、休暇欠勤/給与計算ページの [キャンセル] チェック ボックスをオンにします。

受給者個人別のキャンセル

受給者個人をキャンセルするには、その受給者の [処理インジケータ] を [キャンセル] にします。

受給者のキャンセルを解除すると、次の処理実行中に反復トリガが作成されます。計算フェーズの次の反復処理中に、その受給者は削除された後で再確認されます。確認処理で受給者がまだ選択条件を満たしていると決定した場合は、その受給者はその実行で処理されます。それ以外の場合、その受給者は再びキャンセルされます。

特殊な状態の処理

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 2 つのオープンなカレンダー グループに含まれる受給者の処理
- オフサイクル カレンダーの実行

2 つのオープンなカレンダー グループに含まれる受給者の処理

同じ支給グループに対して、月末の給与計算と四半期のボーナスなどの 2 つの支給を短期間で作成する必要が生じる場合があります。1 人の受給者に対し、異なるカレンダー グループ ID で同時に確認フェーズを実行することはできないため、支給ごとに個別のカレンダーを作成し、それらと同じカレンダー グループ ID に、処理されるべき順序で追加する方法を推奨しています。

受給者が複数のオープンなカレンダー グループに含まれる場合、その受給者は最初に使用されるカレンダー グループ ID で選択および処理されます。2 番目のカレンダー グループ ID で処理されるときには、その受給者のステータスはエラーになってしまいます。2 番目のカレンダー グループ ID で受給者を処理するには、以下のいずれかを行います。

- 最初のカレンダー グループ ID を最終決定して、その後で 2 番目のカレンダー グループ ID を実行します。
- 最初のカレンダー グループ ID で受給者を一時停止して、次に一時停止のアクションを呼び出すために、最初のカレンダー グループ ID を再計算します。次に、2 番目のカレンダー グループ ID を再実行および最終決定します。その後、最初のカレンダー グループ ID を再計算します。これが適用できるのは、たとえば、期間中に受給者の支給グループが変わり、以前と現在の支給グループのカレンダーが別のカレンダー グループにリンクされている場合などです。

オフサイクル カレンダーの実行

オフサイクル給与計算を実行する必要が生じる場合があります。たとえば、従業員が雇用終了した後に、すぐに給与を支給する必要がある場合や、給与計算結果を修正する必要がある場合などです。オフサイクル処理の実行指示に関しては、この PeopleBook のほかの箇所で説明しています。

関連項目:

第 24 章、「[オフサイクル処理の管理](#)」、937 ページ

給与計算データのレポート

このセクションでは、給与計算結果の概要とその作成方法について説明します。

給与計算結果

給与計算結果ページでは、カレンダー グループ別または期間別に給与計算結果を作成できます。ラン コントロール ページには、作成された結果をフィルタするいくつかのフィールドがあります。

ラン コントロール ページによって以下のアプリケーションとプログラムが起動されます。

- 1. GP_RGST_EXT アプリケーション エンジン プログラム。このプログラムは、指定されたラン コントロールのオプションと設定に基づいて給与計算結果を抽出するレポート データ用のパラメータを準備します。
- 2. GP000001 SQR プログラム。このプログラムは、給与計算結果を出力します。このプログラムは、給与計算結果ラン コントロール ページからパラメータを読み取って、指定されたリスト セットに対して定義されているパラメータを使用してレポートを出力します。

関連項目:

第 45 章、「レポート データの作成」、1651 ページ

給与計算データのレポートに使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
給与計算結果	GP_RGST_RC	[グローバル ペイロール /休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[レポート]、[給与計算結果]、[給与計算結果]	指定されたカレンダー グループまたは期間における給与計算結果を含むレポートを作成します。

給与計算結果レポートの作成

給与計算結果ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[レポート]、[給与計算結果]、[給与計算結果])。

給与計算結果

ラン コントロール ID: PS

[レポートマネージャ](#)[プロセス モニター](#)

実行

言語コード:

英語

レポート パラメータ

*レポート実行単位: カレンダー グループ *レポート タイプ: 従業員詳細

*カレンダー グループ ID: G1_GRP_PERF_AUG04 Aug 04 Performance Testing

期間情報

日付タイプ:

開始日: 終了日:

年度: 四半期:

リスト セット

*国: USA [エレメント リスト セット 作成](#)*リスト セット: GP000001 [Payroll Results Register](#)

ソート基準

カレンダー グループ: 1

支給元: 2

支給グループ: 3

会社: 部門: 所在地: 事業所: 実行タイプ: 通貨:

従業員レベルのソート基準

☒ 従業員名と雇用コード番号☐ 従業員 ID と雇用コード番号

受給者グループ

*対象グループ選択方法: 全ての受給者

グループ ID: グループ指定日: 絞込日: グループ リスト ID:

受給者

[カスタイズ](#) | [検索](#) | [最初](#) | [1/1](#) | [最後](#)

従業員 ID	名前		
<input type="text"/>		+	-

組織選択

[カスタイズ](#) | [検索](#) | [最初](#) | [1/1](#) | [最後](#)

選択	選択値	名称		
<input type="text"/>	<input type="text"/>		+	-

給与計算結果ページ

レポート パラメータ

レポート実行単位

レポートを [カレンダー グループ] または [期間] のいずれで作成するかを指定します。

[カレンダー グループ] を選択すると、[期間情報] グループ ボックスのフィールドは使用できなくなります。[期間] を選択すると、[カレンダー グループ ID] フィールドは使用できなくなります。

注意: 書込可能アレイ "GP WA GUIDE" を含んだセクションが、選択したカレンダー グループまたは期間に 1 つ以上関連付けられていることを確認します。関連付けられていない場合、GP_RGST_EXT アプリケーション エンジンでは結果を正しく抽出できません。

レポート タイプ

作成するレポートのタイプを選択します。有効値は以下のとおりです。

- [従業員詳細]: このレポートには各従業員のセグメント詳細が表示されます。また、支給/控除セクションと累計/延滞セクションの両方が含まれています。
- [従業員サマリ]: このレポートには、全てのセグメントの要約が表示されます。累計/延滞セクションは含まれません。
- [組織サマリ]: このレポートには、従業員の詳細は表示されません。このレポートには、組織内での支給額と控除額の総額が表示されます。

カレンダー グループ ID

給与計算結果を作成するカレンダー グループ ID を入力します。

期間情報

日付タイプ

給与計算結果を作成する日付のタイプを入力します。有効値は以下のとおりです。

- [支給日範囲]:[開始日] フィールドおよび [終了日] フィールドに指定した範囲に含まれる全支給日を対象とした給与計算結果が作成されます。
- [期間開始日範囲]:[開始日] フィールドおよび [終了日] フィールドに指定した範囲に含まれる全開始日を対象とした給与計算結果が作成されます。
- [期間終了日範囲]:[開始日] フィールドおよび [終了日] フィールドに指定した範囲に含まれる全終了日を対象とした給与計算結果が作成されます。
- [年度と四半期]:[年度] フィールドおよび [四半期] フィールドに年度と四半期を対象とした給与計算結果が作成されます。

開始日、終了日

給与計算結果を作成する支給日、開始日または終了日の範囲を入力します。

年度、四半期

給与計算結果を作成する年度と四半期を入力します。

リスト セット

給与計算結果レポートでは、リスト セットを選択する必要があります。リスト セットでは、特定のアプリケーションに関連付けられている、エレメントおよび対応するエレメント属性のグループを表します。選択したリスト セットによって、給与計算結果として出力するレポート データの抽出に使用される支給、控除および累計が決まります。また、出力したレポートのセクションとタイトルも決まります。

参照: 第 36 章、「アプリケーションとリスト セットの管理」、アプリケーションとリスト セットについて、1377 ページ。

国

ここで選択した国によって、選択できるリスト セットが決まります。

エレメント リスト セット作成 リスト セット定義ページに追加モードでアクセスします。

リスト セット

レポートで使用するリスト セットを選択します。リスト セットを選択すると、[リスト セット] フィールドの横にリンクが表示され、リスト セット定義ページで選択したリスト セットに更新/表示モードでアクセスできます。

ソート基準

9 つのソート基準フィールドがあり、1 つのレポート定義に対して最大 7 つのソート基準フィールドを定義できます。レポートの給与計算結果をソートするフィールド別に数値を入力します。空白のフィールドまたは値がゼロのフィールドは、レポートでは使用されません。

従業員レベルのソート基準 従業員を [従業員名と雇用レコード番号] または [従業員 ID と雇用レコード番号] のいずれを基準にしてソートするかを選択します。

受給者グループ

対象グループ選択方法

レポート内の従業員のフィルタ方法を選択します。有効値は以下のとおりです。

- [全ての受給者]: 指定された条件を満たす全ての受給者を含める場合に選択します。この値を選択する場合は、[受給者グループ] グループ ボックスの残りのフィールドに値を入力しないでください。
- [グローバル ペイロール グループ リスト]: 特定のグローバル ペイロール グループ リストの全ての受給者を含める場合に選択します。この値を選択する場合は、[グループ リスト ID] フィールドに対象とするグループ リストを入力します。
- [HR グループ ビルド]: 特定のグループ ビルドから全ての受給者を含める場合に選択します。この値を選択する場合は、[グループ ID] フィールドに対象とするグループ ビルドを入力します。レポートに含めるグループのメンバーを決めるには、[グループ指定日] フィールドおよび [絞込日] フィールドを使用します。
- [受給者]: [受給者] グループ ボックスに指定した受給者のみを含める場合に選択します。

グループ ID

[対象グループ選択方法] フィールドで [HR グループ ビルド] を選択すると、入力したグループ ID のメンバーである受給者がレポートに含まれます。

グループ指定日

レポートには、この日付または [絞込日] フィールドに指定した日付の時点で、指定されたグループ ID に属しているメンバーが含まれます。

このフィールドを空白のままにしておくと、現在のシステム日付が [グループ指定日] で使用されます。

絞込日

選択したグループ ID の定義に有効日が付いたレコードが含まれている場合、実行するレコードの日付を入力します。たとえば、有効日が 2002 年 1 月 1 日のグループを実行する場合に、2006 年 2 月 15 日時点でそのグループに含まれる有効日の付いた行を実行するとします。この場合、グループ指定日に 2002 年 1 月 1 日を選択し、絞込日に 2006 年 2 月 15 日を選択します。このフィールドを空白のままにしておくと、現在の日付でグループが実行されます。

グループ リスト ID

[対象グループ選択方法] フィールドで [グローバル ペイロール グループ リスト] を選択すると、入力したグループ ID のメンバーである受給者がレポートに含まれます。

受給者

[対象グループ選択方法] フィールドで [受給者] を選択した場合は、レポートに含める受給者の従業員 ID を入力します。

組織選択

[選択] フィールドおよび [選択値] フィールドを使用して、組織条件に基づいてレポートに含める受給者を決定します。以下の条件に基づいて受給者を選択できます。

- 企業
- 部門
- 事業所
- 勤務地
- 支給元
- 支給グループ

第 23 章

オフサイクル トランザクションの設定

この章では、オフサイクル設定の概要とオフサイクル リクエストの設定方法について説明します。

オフサイクル設定について

グローバル ペイロールを使用すると、オフサイクル リクエスト ページを設定できます。このページは、提供されたままの状態でも使用することも、このページを修正して、オフサイクルの各トランザクション タイプで使用する特定のデフォルト設定を作成することもできます。このような設定を作成すると、オフサイクル リクエスト ページに表示されるデータやオプションの数は大幅に減少します。

設定を定義すると、オフサイクル リクエストのいくつかの側面を制御できます。オフサイクル設定ページを使用すると、以下を行うことができます。

- 組織で有効なオフサイクル トランザクションのタイプを指定します。
- オフサイクル トランザクションのタイプに基づいて、リクエスト ページの基本的なフィールド レベルでのデフォルト値を決定します。
- ビジネス上の理由を特定し、トランザクションのタイプに基づいて、リクエスト ページに必要なデータを設定します。

注意: オフサイクルのトランザクションの設定方法について十分に理解するには、まず、リクエスト ページに関するドキュメンテーションを参照してください。これにより、設定するレコードについて理解できます。

参照: [第 24 章、「オフサイクル処理の管理」、937 ページ。](#)

オフサイクル トランザクションのタイプ

グローバル ペイロールでは、以下の 4 つのオフサイクル トランザクション タイプがサポートされています。

- 手動支給

現金または小切手による支給など、システム外で計算および支払いを行うアイテムの支給を記録できます。

- 訂正

最終決定済みの給与計算結果を訂正するトランザクションです。たとえば、定期実行に含まれていない新規採用者に対する支給や、エラーになった受給者に対する賞与支給の取り消しなどに適用されます。

- 不定期支給

特別賞与や費用の払い戻しなど、オンサイクル処理外で、カレンダーに通常定義されない 1 回限りの支給などに適用されます。

- 前払い

前払いトランザクションは、雇用終了に伴う賃金の前払いや、休暇に関する事前処理や事前支給など、通常にスケジュールされる前のセグメント処理です。

オフサイクル リクエストの設定

このセクションでは、オフサイクル リクエストの設定の概要とオフサイクル リクエストの設定方法について説明します。

オフサイクル リクエストの設定手順

トランザクションのタイプごとにオフサイクル リクエストを設定できます。

オフサイクル リクエスト ページを設定するには、次の手順に従います。

1. 設定するオフサイクル トランザクション タイプを国ごとに選択します。
2. オフサイクル処理にいくつかの理由コードを関連付ける必要がある場合は、設定対象のトランザクション タイプに適用可能な理由コードを入力します。このトランザクション タイプのオフサイクル リクエスト時に特定の理由コードを指定したい場合は、デフォルトの理由コードを 1 つ入力します。
3. このオフサイクル トランザクション タイプで利用できる理由をそれぞれに入力します。
4. 処理コントロールを選択します。

選択したオフサイクル トランザクションのタイプに特定の追加設定を行う必要があります。以下のレポートを作成できます。

- 訂正については、使用する訂正タイプや遡及方法などに関する訂正方法を選択します。
- 手動支給と追加支給については、オフサイクル トランザクションの開始日と終了日を入力するためのカレンダー コントロールを選択します。

オフサイクル リクエスト ページの設定に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
オフサイクル設定	GP_OC_SETUP	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[オフサイクル設定]、[オフサイクル設定]	オフサイクル リクエスト ページを設定するグローバル ペイロール設定を定義します。これは、国とトランザクションのタイプに固有の設定です。

オフサイクル リクエストの設定

オフサイクル設定ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[オフサイクル設定]、[オフサイクル設定])。

オフサイクル設定

国: スペイン

オフサイクル タイプ: 訂正

☒ リクエストの入力を許可

デフォルト理由:

訂正の理由リスト

検索 | 全件表示

最初 1/3 最後

*理由:

*名称:

略称:

訂正方法

*訂正タイプ:

☐ 訂正タイプ*の入力を許可

*適及方法:

☐ 適及方法の入力を許可

処理コントロール

☐ 処理コントロールを非表示

*支払方法:

☒ 支払方法の入力を許可

*エレメント選択:

☐ エレメント選択の入力を許可

エレメント セット:

オフサイクル設定ページ

オフサイクル設定ページのフィールドについて

オフサイクル トランザクション タイプごとにページ特性は異なります。トランザクション タイプ間で共通のフィールドや、トランザクション タイプごとに固有のフィールドがあります。この表では、トランザクション タイプごとに使用可能なオプションについて説明します。

フィールド	手動支給	訂正支給	追加支給	前払い
リクエストの入力を許可	可	可	可	可
デフォルト理由	可	可	可	可
理由	可	可	可	可
名称	可	可	可	可
略称	可	可	可	可

この表では、トランザクション タイプごとに使用可能なカレンダー コントロール オプションについて説明します。

フィールド	手動支給	訂正支給	追加支給	前払い
カレンダー コントロールを非表示	可	不可	可	不可
開始日の入力を許可	可	不可	可	不可
終了日の入力を許可	可	不可	可	不可

この表では、トランザクション タイプごとに使用可能な処理コントロール オプションについて説明します。

フィールド	手動支給	訂正支給	追加支給	前払い
処理コントロールを非表示	可	可	可	不可
支給キーの入力を許可	可	不可	可	不可
実行タイプ	可	不可	可	不可
実行タイプの入力を許可	可	不可	可	不可
支払方法	不可	可	可	可
支払方法の入力を許可	不可	可	可	可
一部期間の前払を許可	不可	不可	不可	可
エレメント選択	可	可	可	不可
エレメント選択の入力を許可	可	可	可	不可

この表では、トランザクション タイプごとに使用可能な訂正方法のオプションについて説明します。

フィールド	手動支給	訂正支給	追加支給	前払い
訂正タイプ	不可	可	不可	不可
訂正タイプの入力を許可	不可	可	不可	不可
遡及方法	不	可	不可	不可

フィールド	手動支給	訂正支給	追加支給	前払い
遡及方法の入力を許可	不可	可	不可	不可

トランザクション タイプと理由

国	オフサイクル リクエスト ページを設定する国が表示されます。
オフサイクル タイプ	リクエスト ページを設定するオフサイクル トランザクション タイプを選択します。有効値は、[追加支給]、[前払]、[訂正]、および [手動支給] です。
リクエストの入力を許可	特定の国における特定のオフサイクル タイプについてオフサイクル リクエストの入力を許可する場合はオンにします。デフォルトでは、このチェック ボックスはオンになっています。このチェック ボックスをオフにすると、指定したタイプと国についてはオフサイクル リクエストを入力できなくなります。
デフォルト理由	オフサイクル リクエストのデフォルトの理由を入力します。この理由は、リクエストの作成時に上書きできます。

追加支給の理由リスト

このセクションのタイトルは、入力したオフサイクル タイプによって異なります。タイトルは、"追加支給の理由リスト"、"前払の理由リスト"、"訂正の理由リスト"、"手動支給の理由リスト" のいずれかです。

理由	<p>このオフサイクル タイプに対して、オフサイクル リクエスト ページで指定可能にする有効な理由を全て入力します。これらの理由のみが、指定可能になります。</p> <p>新しい理由が追加されると、選択された全ての属性がオフサイクル リクエスト ページで使用できるようになります。</p>
名称	理由の説明を入力します。
略称	理由の簡単な説明を入力します。

カレンダー コントロール

カレンダー コントロールを非表示	オフサイクル リクエスト ページのカレンダー コントロールを全て非表示にする場合はオンにします。
開始日の入力を許可	オフサイクル リクエストの開始日の入力を許可する場合はオンにします。
終了日の入力を許可	オフサイクル リクエストの終了日の入力を許可する場合はオンにします。

訂正方法

このセクションは、[オフサイクル タイプ] が [訂正] の場合にのみ入力できます。

訂正タイプ	有効な訂正タイプを選択します。値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• [強制取消]: 処理対象の受給者が検出されるかどうかにかかわらず、支給カレンダーまたは休暇欠勤カレンダーは取り消されます。• [置換]: 受給者が有資格であるかどうかに基づいてエレメントが再計算または削除されます。これは、通常の遡及処理と同じです。
--------------	--

訂正タイプの入力を許可	オフサイクル リクエストのユーザーが訂正タイプを入力できるようにする場合はオンにします。
--------------------	--

遡及方法	選択した訂正タイプで使用する遡及方法を選択します。値は、[強制訂正] または [既存の遡及ルールを使用] です。
-------------	--

遡及方法の入力を許可	オフサイクル リクエストのユーザーが遡及方法を入力できるようにする場合はオンにします。
-------------------	---

プロセス コントロール

処理コントロールを非表示	オフサイクル リクエスト ページの処理コントロールを全て非表示にする場合はオンにします。
---------------------	--

支給キーの入力を許可	オフサイクル リクエストのユーザーが支給キーを入力できるようにする場合はオンにします。
実行タイプ	このオフサイクル タイプで使用する実行タイプを入力します。
実行タイプの入力を許可	オフサイクル リクエストのユーザーが実行タイプを入力できるようにする場合はオンにします。
支払方法	このオフサイクル タイプと理由で使用する支払方法を選択します。 [現金]、[小切手]、[郵便為替]、[第 1 口座にのみ支給]、または [通常の配分を使用] を選択できます。
支払方法の入力を許可	オフサイクル リクエストのユーザーが支払方法を入力できるようにする場合はオンにします。
一部期間の前払を許可	このオプションは、オフサイクル タイプが前払の場合にのみ使用できます。支給期間の一部で前払いする場合はオンにします。
エレメント選択	オフサイクル リクエストのエレメント選択を選択します。[全て]、 [ポジティブ入力のあるエレメント]、または [限定エレメント セット] を選択できます。
エレメント選択の入力を許可	オフサイクル リクエストのユーザーがエレメント選択を入力できるようにする場合はオンにします。
エレメント セット	[エレメント選択] の値が [限定エレメント セット] の場合、このフィールドの値を入力できます。エレメント セットによって、処理するプロセス リストに含まれる支給と控除が定義 (限定) されます。

第 24 章

オフサイクル処理の管理

この章では、オフサイクル処理の概要と、以下の方法について説明します。

- オフサイクル トランザクションの開始
- 手動支給の記録
- 最終決定済み計算結果の訂正または取り消し
- 追加支給の作成
- 前払いの処理
- オフサイクル トランザクションの処理および結果の表示

オフサイクル処理について

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- オンサイクル処理とオフサイクル処理の相違点
- オフサイクル トランザクションのタイプ
- オフサイクル処理の機能
- オフサイクル リクエストの入力手順
- 処理手順および後処理手順
- オフサイクル バッチ処理
- オフサイクル ルールの設定に使用するシステム エlement

この章で使用する共通フィールド

エレメント選択

選択するオプションによって、プロセス リストにある主要エレメント (支給および控除) の変換が決定されます。値は以下のとおりです。

[全て]: オンサイクル給与計算処理と同じ変換を行う場合に選択します。

[ポジティブ入力のあるエレメント]: ポジティブ入力が入力されたエレメントのみを変換する場合に選択します。

注意: 選択内容にかかわらず、ポジティブ入力は常に処理されます。

[限定エレメント セット]: プロセス リスト内の選択した支給エレメントおよび控除エレメントのみを処理する場合に選択します。処理対象のエレメント グループを入力します。限定エレメント セットを定義するには、エレメント グループ コンポーネント (GP_ELEMENT_GROUP) を使用します。

たとえば、受給者のポジティブ入力を入力する際に事業主拠出金も処理されるように指定するには、事業主拠出金用のエレメントを含むエレメント グループを作成して、支給方法を入力するときにこのエレメント セットを選択します。

限定エレメント セットにエレメントを含めても、一般の資格ルールは上書きされません。限定エレメント セットは、変換するエレメントをさらに限定する追加フィルタとして機能します。

参照: 第 14 章、「組織構造の定義」、エレメント グループの定義、522 ページ。

オフサイクル グループ

処理対象のオフサイクル トランザクション セットを指定します。オフサイクル グループ名は、ユーザーが自由に定義できます。使用できる名前に制限はありません。

支給日

以下の決定の際に使用される日付です。

- 累計を更新する期間 (支給日に基づいて累計が行われるように定義された累計の更新期間)
- 処理中に取得されるエレメント定義 (定義の指定日として支給日を使用されているエレメントのエレメント定義)

支払方法

[現金]、[小切手]、[郵便為替]、[通常の配分を使用]、および [第 1 口座にのみ支給] を選択できます。このフィールドは、手動支給以外の全てのトランザクション タイプに適用されます。選択した支払方法によって、計算処理中にルールを通じて割り当てられる支払方法が決定されます。

期間開始日、期間終了日

以下の決定の際に使用される日付です。

- 累計を更新する期間 (期間開始日または期間終了日に基づいて累計が行われるように定義された累計の更新期間)
- 処理中に取得されるエレメント定義 (定義の指定日として期間開始日または期間終了日を使用されているエレメントのエレメント定義)

手動支給、訂正、および追加支給では、ターゲット カレンダーからこれらの日付が継承されますが、これらのデフォルト値は上書きできます。前払い支給では、ソース カレンダー (前払い対象のカレンダー) からこれらの日付が継承されますが、上書きはできません。

サポート エレメント上書き

[サポート エレメント上書き] ボタンをクリックして、受給者カレンダー上書きページにアクセスし、特定の受給者およびカレンダーに関連付けられたブラケット、日付、デュレーション、フォーミュラ、または変数などのエレメントの値を上書きできます。

ターゲット期間 ID

残高累計が更新される期間に影響を与えます。ターゲット期間により、前払いを除く全てのトランザクションの期間開始日と期間終了日のデフォルト値が設定されます。前払いでは、ターゲット期間により、処理開始日と処理終了日の値が設定されます。

オンサイクル処理とオフサイクル処理の相違点

オンサイクル処理とは、定期的に行う給与計算処理のことを指します。この処理では、あらかじめ定義された期間、カレンダー、およびカレンダー グループに対して、給与計算が繰り返し実行されます。たとえば、月次周期が定義された支給グループに対して、毎年 12 回、定期的に給与計算処理を行う場合などに使用されます。

オフサイクル処理とは、通常の給与計算スケジュール外の最終決定された結果に対する支給処理および訂正処理を指します。オフサイクルのトランザクションは、過去の支給の訂正や、次のオンサイクルの給与計算まで待てない雇用終了に伴う支給を前倒しで行う場合に使用されるのが一般的です。

注意: 四半期ごとの賞与、手当の支給、および定期的な給与計算実行よりも処理頻度が少ないその他の定期トランザクションでは、大きな受給者グループを扱う場合が多いため、オンサイクル処理を適用することによって、より効率的な管理を行うことができます。

この章で説明する例外を除けば、オンサイクル処理に適用される概念は、オフサイクル処理にも適用されます (遡及、分割、カレンダーとカレンダー グループ、計算の実行、銀行振込、一般会計など)。オンサイクル処理とオフサイクル処理の主な相違点は、処理内容と処理対象の指示の入力方法です。

関連項目:

[第 21 章、「給与計算の処理」、813 ページ](#)

オフサイクル トランザクションのタイプ

グローバル ペイロールでは、以下の 4 つのオフサイクル トランザクション タイプがサポートされています。

- 手動支給

現金または小切手による支給など、システム外で計算および支払いを行うアイテムの支給を記録できます。

- 訂正

最終決定済みの給与計算結果を訂正するトランザクションです。たとえば、定期実行に含まれていない新規採用者に対する支給や、エラーになった受給者に対する賞与支給の取り消しなどに適用されます。

- 追加支給

特別賞与や費用の払い戻しなど、オンサイクル処理外で、カレンダーに通常定義されない 1 回限りの支給などに適用されます。

- 前払い

前払いトランザクションは、雇用終了に伴う賃金の前払いや、休暇に関する事前処理や事前支給など、通常にスケジュールされる前のセグメント処理です。

オフサイクル処理の機能

オフサイクル処理では、以下の処理を行うことができます。

- 受給者の通常の支払い方法の上書き

"純支給額配分の指定" ページで受給者に対して定義した支払い方法、または計算プロセス中にルールを通じて定義される支払い方法を上書きできます。たとえば、月に 1 回定期的に給与が自動振込で支給される場合でも、その受給者に対して 1 回限りの賞与を小切手で発行することができます。

参照: 第 34 章、「銀行振込の定義」、受給者の純支給額配分の定義、1335 ページ。

- 変換されるエレメントの限定

前払いを除く全てのオフサイクル トランザクションには、変換されるプロセス リストの主要エレメント (支給と控除) を限定するための機能が 2 種類用意されています。[エレメント選択] セクションでは、変換する主要エレメント (これらのエレメントの遡及またはポジティブ入力は除く) を選択することができます。全てのエレメント、ポジティブ入力のあるエレメント、または処理対象の限定された主要エレメントのセットを指定できます。

- サポート エレメントの上書き

前払いを除く全てのオフサイクル トランザクションでは、特定の受給者とカレンダーに対するブラケット、日付、デュレーション、フォーミュラ、および変数の値を上書きできます。前払いトランザクションでは、前払い処理対象のカレンダーのカレンダー定義から上書き値が取得されます。

オフサイクル リクエストの入力手順

同じ支給グループおよびターゲット期間に対して、複数のオフサイクル リクエストを入力できます。

オフサイクル トランザクションのリクエストを入力するには、次の手順に従います。

1. オフサイクル オンデマンド コンポーネント (GP_ONDEMAND) を使用して、オフサイクル グループを作成します。

オフサイクル グループは、同時に処理される受給者と支給のグループです。オフサイクル グループによって、処理対象のオフサイクル トランザクションとその処理の指示が指定されます。これには、支払い対象や支払い内容 (支給グループ)、および支払い時期 (ターゲット カレンダー ID) などが含まれます。オフサイクル グループの用途は、各受給者に対して個別に指示を入力すること以外は、オンサイクル処理でのカレンダーと似ています。オフサイクル オンデマンド ページでオフサイクル グループの名前を入力します。

2. 個々の支給リクエストを入力します。

オフサイクル オンデマンド コンポーネントでは、オフサイクル手順を任意の順序で実行することはできません。リクエストを入力するには、[リクエスト作成] ボタンまたは [リクエスト編集] ボタンをクリックします。最低 1 つのリクエストが作成されている場合、ボタンは [リクエスト編集] と表示されます。

ボタンをクリックするとメイン リクエスト ページに移動し、ユーザーの組織に有効なオフサイクルのタイプが表示されます。このメイン ページで、トランザクション タイプ別に受給者の ID を指定します。次に、詳細のリンクをクリックすると、トランザクション タイプの個々の詳細ページが表示されます。

注意: オフサイクル設定ページを使用して、オフサイクル トランザクションの個々の詳細ページに表示されるフィールドを設定します。これらのページを設定すると、オフサイクル トランザクションを作成する際に表示されるフィールドおよびオプションの数が大幅に減少します。

参照: 第 23 章、「オフサイクル トランザクションの設定」、929 ページ。

3. オフサイクル実行用のカレンダー グループを作成します。

オフサイクル処理用のカレンダー グループにより、同時に処理する**オフサイクル グループ**が指定されます (これに対し、オンサイクル処理のカレンダー グループでは、同時に処理する**カレンダー**が指定されます)。同じページを使用して、全てのカレンダー グループを作成し、オフサイクル処理に関連するフィールドを入力します。

オフサイクル オンデマンド コンポーネントのオフサイクル オンデマンド ページで [カレンダー グループ作成] ボタンをクリックすると、オフサイクル実行用のカレンダー グループを作成できます。ダッシュボードからカレンダー グループを作成すると、オフサイクル グループの名前 (キーの 1 つ) がカレンダー グループ名として使用されます。また、カレンダー グループ ページに、オフサイクル カレンダー グループの作成に必要なその他の情報が入力されます。

注意: 訂正リクエストを処理する場合、訂正が要求された支給を再計算するための遡及トリガが存在していることを確認してください。

処理手順および後処理手順

オフサイクル トランザクションのリクエストを処理するには、次の手順に従います。

1. オフサイクル実行を開始します。

オフサイクル オンデマンド コンポーネントのオフサイクル オンデマンド ページで、[計算] ボタンをクリックしてオフサイクル実行を開始します。計算はリモート コールとして実行されます。リモート コールにより、計算処理の間、ブラウザはオフサイクル オンデマンド ページに表示されたままになります。完了時には関連メッセージが表示されます。計算が実行されるたびに、受給者がキャンセルされ、計算の対象となる受給者が特定され、受給者の全てのエレメントが計算されます。

注意: オンサイクル処理の場合と同様に、"休暇欠勤計算/給与計算" ページを使用してオフサイクル処理を実行することもできます。

計算が終了すると、受給者ステータス ページが開きます。このページから、カレンダー グループ別結果ページと受給者メッセージ ページにアクセスできます。受給者ステータス ページは結果が計算されたかどうかを反映します。このページでは、以下の内容を確認できます。

- 受給者の計算ステータス
- 受給者の結果
- 受給者のメッセージ

注意: カレンダー グループが作成されているとき、[ステータスと結果の表示] リンクをクリックすると、受給者ステータス ページにいつでもアクセスできます。

2. 処理結果を確認したら、以下の操作を選択できます。

- 計算をキャンセルします。オフサイクル オンデマンド ページで [キャンセル] ボタンをクリックします。
- オフサイクル トランザクションの変更に基いて再計算します。オフサイクル オンデマンド ページで [計算] ボタンをクリックします。
- 給与計算処理を最終決定します。オフサイクル オンデマンド ページで [最終決定] ボタンをクリックします。これが終了したら、ステップ 3 に進みます。

3. 銀行振込、一般会計、費用データを勤務管理へ送信、レポートなどの、全ての後処理を実行します。

各後処理の手順は、オンサイクルと同じ順序で実行する必要があります。必ず、オンサイクル給与計算と同じナビゲーションを使って、これらの手順を開始してください。

関連項目:

第 21 章、「給与計算の処理」、処理の指示の入力、825 ページ

第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、受給者ステータスの表示および受給者の処理の指示の更新、859 ページ

オフサイクル バッチ処理

オフサイクル処理では、影響を受ける受給者が、アクティブになっているほかの実行で自動的に一時停止されるため、これらの受給者をオフサイクル処理に含めることが可能になります (受給者は、一度に 1 つの実行でしかアクティブにできません)。

オフサイクル リクエストが送信されると、以下の処理が行われます。

- 受給者が、オープンになっているカレンダー グループに関連付けられているかどうかを確認されます。
- 関連付けられている場合、オフサイクル グループですぐに計算を行えるようにするために、その受給者は、そのカレンダー グループで一時停止されます。

注意: 計算ステータスが "凍結" に設定されている場合、受給者は、オフサイクル カレンダー グループで一時停止されます。

トランザクション処理は、処理対象のオフサイクル リクエストのタイプによって異なります。

手動支給

手動支給では、バッチ検証により、計算された総支給および純支給の累計額が、入力された総支給額および純支給額と一致しているかどうかチェックされます。計算された総支給額および純支給額が、入力された金額と異なる場合、メッセージが表示され、その受給者のステータスはエラーに設定されます。これらの金額が一致しない限り、給与計算を最終決定することはできません。

バッチ処理中に、入力した実行タイプに関連付けられたプロセス リストが使用されます。

手動支給が処理されるときは、次のような処理が行われます。

- 手動支給リクエストで入力した支給および控除については、以下のとおりです。
 - プロセス リストに含まれている場合にのみ変換されます。
 - ジェネレーション コントロールを含め、エレメントの資格はチェックされません。
 - 前処理フォーミュラおよび後処理フォーミュラが変換されます。後処理フォーミュラによる、支給または控除の値の修正は、適用されません。
 - 個々のコンポーネントは変換されません。ただし、ユーザーがコンポーネントを追加した場合、そのコンポーネントは保存され、関連する累計に追加されます。たとえば、ユニットを時間として入力した場合、金額は、金額の計算ではなくこのユニットの残数を更新するために使用されます。
- 他の支給および控除は、エレメント選択に従って変換されます。
- サポート エレメントは、プロセス リストに含まれている場合、常に変換されます。
- 期間分割トリガとエレメント分割トリガの両方が無視されます。
- PeopleSoft Enterprise 勤務管理および PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の変動報酬管理からの入力は無視されます。

訂正

オフサイクル訂正は、オンサイクル実行で行われる遡及訂正と同様に、遡及処理に基づいて行われます。

- トリガは、訂正または取り消し対象のカレンダーの支給期間終了日、またはそれ以前に存在する必要があります。
- 以下の 2 つの訂正タイプを選択できます。
 - [置換]: 間違って支払われた既存の支給を置き換えます。
 - [強制取消]: 間違って支払われた既存の支給を、受給者に資格があるかどうかにかかわらず、取り消します。
- 遡及方法は以下の 2 つのタイプを使用できます。
 - [既存の遡及ルールを使用]: トリガとルール設定に基づいた遡及方法が使用されます。
 - [強制訂正]: 遡及方法は "訂正" になります。
- 訂正または取り消し対象のカレンダーに対して、支給および控除は、通常の処理と資格に基づいて変換されます。

- 新しいカレンダーが作成され、処理されます。デルタが存在し、繰り越しが行われる場合、自動生成されたこれらの新規のオフサイクル カレンダーに対してデルタの繰り越しが実行されません。
- 支給および控除は、エレメント選択や、オフサイクル リクエストで入力したポジティブ入力に従って変換されます。
- プロセス リストにある全てのサポート エレメントが変換されます。
- 分割トリガは無視されます。
- 勤務管理および変動報酬管理アプリケーションからの入力は無視されます。

追加支給

バッチ処理中に、入力した実行タイプに関連付けられたプロセス リストが使用されます。

- 追加支給リクエストで入力した支給および控除には、以下のオンサイクル バッチ処理ロジックが適用されます。
 - プロセス リストに含まれている場合にのみ変換されます。
 - ジェネレーション コントロールを含め、エレメントの資格は考慮されます。
 - 前処理フォーミュラおよび後処理フォーミュラが変換されます。
 - 個々のコンポーネントが必要に応じて変換されます。
- 支給および控除は、エレメント選択やオフサイクル リクエストで入力したポジティブ入力に従って変換されます。
- サポート エレメントは、プロセス リストに含まれている場合、常に変換されます。
- 期間分割トリガとエレメント分割トリガの両方が無視されます。
- PeopleSoft 勤務管理および PeopleSoft 変動報酬管理アプリケーションからの入力は無視されます。

前払い

前払いトランザクションでは、カレンダー グループは、適切なカレンダーに基づいて処理されます。オンサイクル処理と同じバッチ処理ロジックが適用されます。

オフサイクル ルールの設定に使用するシステム エLEMENT

次の表で、オフサイクル処理に使用する標準装備のシステム エLEMENTについて説明します。

システム エLEMENT	説明	値
GP TX TYPE	トランザクション タイプを識別します。	<ul style="list-style-type: none"> • R (訂正) • M (手動支給) • U (追加支給) • A (前払い) • なし (オンサイクル実行)
OFF CYCLE	カレンダーがオフサイクルであるかオンサイクルであるかを識別します。	<ul style="list-style-type: none"> • Y (Yes) = オフサイクル カレンダー • N (No) = オンサイクル カレンダー (準定期実行も含め、定義されたカレンダーに基づく全ての実行が、オンサイクルと見なされます。)
GP CORR TYPE	訂正タイプを識別します。	<ul style="list-style-type: none"> • N (通常の遡及) • R (置換 - 通常の遡及) • V (取消 - 通常の遡及) • W (取消 - 置換)

オフサイクル トランザクションの起動

この章では、オフサイクル トランザクションの準備入力の概要と、以下の方法について説明します。

- オフサイクル リクエストの作成
- 基本のオフサイクル情報の入力

オフサイクル トランザクションの準備入力について

オフサイクル オンデマンド ページまたはオフサイクル リクエスト ページにアクセスして、オフサイクル リクエストを作成することができます。オフサイクル オンデマンド コンポーネント (GP_ONDEMAND) を使って、オフサイクル リクエストを作成し、リクエストを処理して結果を表示します。オフサイクル リクエスト コンポーネント (GP_OFFCYCLE_REQ) では、該当するオフサイクル トランザクション タイプの従業員 ID を入力します。オフサイクル リクエスト ページで従業員 ID を入力した後、処理対象のトランザクション タイプごとに用意されているページで詳細を入力します。

受給者に複数のトランザクション タイプの入力がある場合は、手動支給、訂正、追加支給、前払い支給の順にトランザクションが処理されます。その他の順序でトランザクションを処理するには、別のオフサイクル グループを設定して、別の実行で支給を処理します。

オフサイクル トランザクションの開始に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
オフサイクル オンデマンド	GP_ONDEMAND	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[オフサイクル]、[オフサイクル オンデマンド]、[オフサイクル オンデマンド]	<p>このページにアクセスすると、以下のことを行えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> オフサイクル リクエストを作成または編集します。 オフサイクル カレンダー グループを作成または編集します。 オフサイクル カレンダー グループを処理します。このページから、実行を計算、キャンセル、または最終決定できます。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
オフサイクル リクエスト	GP_OFFCYCLE_REQ	<ul style="list-style-type: none"> オフサイクル オンデマンド ページで [リクエスト作成] をクリックします。 [グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[オフサイクル]、[オフサイクル リクエスト]、[オフサイクル リクエスト] 	入力した従業員 ID に対するオフサイクル トランザクション タイプの詳細ページにアクセスします。

オフサイクル リクエストの作成

支給グループ、ターゲット期間 ID、およびオフサイクル グループの名前を入力し、オフサイクル オンデマンド ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[オフサイクル]、[オフサイクル オンデマンド]、[オフサイクル オンデマンド])。

オフサイクル オンデマンド

支給グループ: GXPGOFFB Off Cycle Pay Group 2
ターゲット期間 ID: GXCPOFFSEP Off Cycle Monthly Period Sept 2004/09/01 - 2004/09/30
オフサイクル グループ: GXMP1B 国: GXB

リクエスト設定

☐ リクエスト入力済

☒ カレンダー グループ作成済 カレンダー グループ: GXPGOFFBMP1

カレンダー グループ処理

☐ 計算結果の最終決定可 処理ステータス: 未処理

[ステータスと結果の表示](#)

☐ 最終決定済

オフサイクル オンデマンド ページ

リクエスト作成、リクエスト編集 このボタンをクリックすると、オフサイクル リクエストページにリクエストが作成されます。リクエストが既に作成されている場合、ボタンは [リクエスト編集] と表示され、クリックすると作成済みのオフサイクル リクエストを編集することができます。

カレンダー グループ作成、カレンダー グループ編集 このボタンをクリックするとカレンダー グループ ページにアクセスし、オフサイクル トランザクションを処理するカレンダー グループを作成することができます。カレンダー グループが既に作成されている場合、ボタンは [カレンダー グループ編集] と表示され、クリックすると作成済みのカレンダー グループを編集することができます。

参照: 第 16 章、「カレンダーの使い方」、カレンダー グループの定義、605 ページ。

計算

このボタンをクリックすると、オフサイクル トランザクションが計算されます。計算はリモート コールとして実行されます。リモート コールにより、計算処理の間、ブラウザはオフサイクル オンデマンド ページに表示されたままになります。

注意: [計算] ボタンの機能は単純化されており、計算を凍結したり、エレメントのトレースをオンにしてプロセスを実行するようなオプションは利用できません。こうしたオプションを利用するには、「休暇欠勤計算/給与計算」ページでオフサイクル カレンダー グループを処理する必要があります。

参照: 第 21 章、「給与計算の処理」、処理の指示の入力、825 ページ。

ステータスと結果の表示

このリンクをクリックすると、受給者ステータス ページにアクセスします。このページを使用して、処理インジケータ別、計算ステータス別、またはその他の条件別に受給者を選択し、実行されるアクションを指定します。また、受給者ステータス ページ上のリンクをクリックすると、カレンダー グループ別結果コンポーネント (GP_RSLT_CAL_RUN) または受給者メッセージ コンポーネント (GP_MESSAGE) にアクセスできます。

参照: 第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、受給者ステータスの表示および受給者の処理の指示の更新、859 ページ; 第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、カレンダー別結果の表示、862 ページおよび第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、受給者メッセージの表示、856 ページ。

最終決定

このボタンをクリックすると、オフサイクル実行が最終決定されます。このボタンは、カレンダー グループの計算が正常に完了した後でのみ表示されます。

キャンセル

このボタンをクリックすると、オフサイクル実行がキャンセルされます。このオプションは、オフサイクル グループがカレンダー グループに関連付けられるとすぐに表示されます。

リクエスト入力済、カレンダー グループ作成済、計算結果の最終決定可、最終決定済

オフサイクル オンデマンド ページ上のプッシュボタンの右側にあるチェック ボックスは、入力には使用できません。これらのチェック ボックスは、オフサイクル処理の進捗状況を示します。たとえば、リクエストを作成し、カレンダー グループの作成を完了し、計算を 1 回実行して、エラーがなかった場合、オフサイクル オンデマンド ページで複数のチェック ボックス ([リクエスト入力済]、[カレンダー グループ作成済]、および [計算結果の最終決定可]) がオンになり、既に完了した手順を示します。

基本のオフサイクル情報の入力

支給グループ、ターゲット期間 ID、およびオフサイクル グループの名前を入力し、オフサイクル リクエスト ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[オフサイクル]、[オフサイクル リクエスト]、[オフサイクル リクエスト])。

オフサイクル リクエスト

支給グループ: GXPGOFFB Off Cycle Pay Group 2
 ターゲット期間 ID: GXCPOFFOCT Off Cycle Monthly Period Oct 2004/10/01 - 2004/10/31
 オフサイクル グループ: GXMP2 国: GXB
 支給日: 2006/05/10

▼ 記録する手動支給

手動支給 - 記録する受給者と支給のリスト

[カスタイズ](#) | [検索](#) | [📄](#) | [📊](#) 最初 1/1 最後

従業員 ID	名前	雇用コード	支給番号	支給詳細		
GXEEOC006	Reba Etgar	000	000000000000000000		+	-

▼ 訂正するカレンダー

訂正 - 訂正する受給者とカレンダーのリスト

[カスタイズ](#) | [検索](#) | [📄](#) | [📊](#) 最初 1/1 最後

従業員 ID	名前	雇用コード	訂正するカレンダー	訂正詳細		
GXEEOC007	Mary Douglas	000			+	-

▼ 追加支給 (2)

追加支給 - 支給対象の受給者リスト

[カスタイズ](#) | [検索](#) | [📄](#) | [📊](#) 最初 1-2/2 最後

従業員 ID	名前	雇用コード	給与計算カレンダー ID	支給詳細		
GXEEOC008	Derrin Kroll	000	GXCPOFFOCT###1		+	-
GXEEOC009	Jerard Olersir	000	GXCPOFFOCT###1		+	-

▼ 前払

前払 - 前払対象の受給者とカレンダー グループのリスト

[カスタイズ](#) | [検索](#) | [📄](#) | [📊](#) 最初 1/1 最後

従業員 ID	名前	雇用コード	カレンダー グループ	前払詳細		
GXEEOC010	Irving Newberry	000			+	-

オフサイクル リクエスト ページ

従業員 ID

該当するオフサイクル トランザクション セクションで従業員 ID を入力します。このセクションは、オフサイクル グループに関連付けられた支給グループに関連付けられている受給者 (および職務) に限定されます。

雇用レコード番号

オフサイクル トランザクションを作成する職務を選択します。

理由

デフォルトの理由コード、または作成されるオフサイクル リクエストに適用される理由コードを選択します。このフィールドは、理由コードを使用するためのオフサイクル トランザクション タイプが設定済みの場合にのみ表示されます。設定はオフサイクル設定ページで行います。

注意: 理由コードは、トランザクション タイプの設定が既に作成されている場合にのみ使用されます。理由コードを入力すると、特定の設定を選択したことになります。

参照: 第 23 章、「オフサイクル トランザクションの設定」、929 ページ。

**支給詳細、訂正詳細、前払
詳細**

クリックすると、手動支給詳細ページ、訂正詳細ページ、追加支給詳細ページ、または前払詳細ページにアクセスし、該当するオフサイクル トランザクション タイプの詳細を入力することができます。

手動支給の記録

このセクションでは、手動支給の記録の概要と、手動支給詳細の記録方法について説明します。

手動支給の記録について

手動支給とは、グローバル ペイロール システム外で準備された支給を指します。手動支給を使用する状況としては、グローバル ペイロールにアクセスできないような遠隔地にオフィスがあるために、手動支給を入力して最後の給与計算調整を行う場合が考えられます。また、システムによって作成された給与小切手のエラーを訂正するために手動支給を作成することもできます。

手動支給はシステム外で作成されるため、これらの支給をグローバル ペイロールに手動で記録して、従業員の支給、控除、差し押さえ、税残高などを更新する必要があります。

たとえば、従業員 8101 は 1 月 1 日に遠隔地のオフィスで採用されました。担当者は新規採用について本社に通知しませんでした。そのため、1 月分の給与計算が行われた際に、その新規採用の従業員は小切手を受け取ることができませんでした。このような場合、給与計算担当者は、オフサイクル実行で処理する手動支給の計算と作成を行います。その後、本社のシステムに入力するためにその小切手情報を転送する必要があります。

手動支給は、オフサイクル給与計算実行で処理されます。

手動支給の入力に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
手動支給詳細	GP_OFFCYCLE_M_SEC	オフサイクル リクエスト ページの [手動支給] セクションの [支給詳細] アイコンをクリックします。	全ての手動支給の詳細を入力します。

手動支給詳細の記録

手動支給詳細ページにアクセスします (オフサイクル リクエスト ページの [手動支給] セクションの [支給詳細] アイコンをクリックします)。

オフサイクル リクエスト

手動支給詳細

支給グループ*: GXPGOFFB

期間 ID: GXCPOFFSEP

オフサイクル グループ*: GXMP1B

従業員 ID: GXEE00006

名前: Reba Etgar

雇用コード: 0

カレンダー ID: GXCPOFFSEP###1

カレンダー コントロール

*支給日: 2006/10/16

*期間開始日: 2005/04/01

*期間終了日: 2005/04/30

処理コントロール

*実行タイプ: GXRYOFFPAY

エレメント選択

☒ 全て

☐ ホットデブ入力のあるエレメント

☐ 限定エレメント セット

エレメント セット:

支給キー上書き

会社コード:

部門:

手動支給詳細

*支給番号: 12345

*発行日: 2005/04/15

支給 ID: 123

確認

入力値

総支給額: 450.000000

純支給額: 390.000000

計算値

前回確認総額: 0.000000

前回確認純額: 0.000000

確認ステータス

☒ 未確認

☐ 確認済

☐ 計算時に確認

手動支給詳細ページ (1/2)

支給

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

メインコンポーネント(M)

追加コンポーネント(A)

エレメント名	名称	インスタンス番号	ユニット	金額	累計率	計算値
QTRLY BONUS	四半期賞与	1		450.000000		0.000000

控除

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

メインコンポーネント(M)

追加コンポーネント(A)

エレメント名	名称	インスタンス番号	ユニット	金額	累計率	計算値
TAX 1	月間累計総額に基づく税	1		60.000000		0.000000

サポートエレメント上書き - 支給ヘルプ

手動支給詳細ページ (2/2)

注意: このページで入力に使用できるフィールドは、このタイプのオフサイクル トランザクションに対して作成された設定に応じて異なります。

このページ画面は、設定が作成されていない場合のページを示します。

参照: 第 23 章、「オフサイクル トランザクションの設定」、929 ページ。

支給日 値を入力しない場合は、オフサイクル リクエスト ページからのデフォルト値が使用されます。この日付は、有効日付きルールを選択、および適切な時間枠への結果の割り当て (月間、四半期、および年間残数) を制御します。

注意: 前述のように、支給日は、更新する期間残数を決定する際に使用されます。そのため、元の支給の発行日とは異なる場合があります。

期間開始日、 期間終了日 ターゲット期間 ID から取得されます。
以下の決定の際に使用される日付です。

- 累計を更新する期間 (期間開始日または期間終了日に基づいて累計が行われるように定義された累計の更新期間)
- 処理中に取得されるエレメント定義 (定義の指定日として期間開始日または期間終了日を使用されているエレメントのエレメント定義)

手動支給、訂正、および追加支給では、ターゲット カレンダーからこれらの日付が継承されますが、これらのデフォルト値は上書きできます。前払い支給では、ソース カレンダー (前払い対象のカレンダー) からこれらの日付が継承されますが、上書きはできません。

実行タイプ

理由コードを使用していて、選択した理由によって実行タイプが設定されない場合、カレンダーの実行タイプを入力します。

エレメント選択

このセクションの各フィールドは、オフサイクル トランザクションで処理されるエレメントを示します。必要なオプションを選択します。手動支給の場合、最も論理的な選択肢は [ポジティブ入力のあるエレメント] です。

支給キー上書き

このセクションの各フィールドには、支給元レベルで選択されている支給キーが表示されます。支給キーが設定されている場合にのみ表示されます。支給キーは、上書きが可能です。支給キーが上書きされない場合は、期間終了日の受給者職務情報から取得した支給キーの値が使用されます。

注意: 1 つの支給キーを上書きする場合、全ての支給キーを上書きする必要があります。

手動支給詳細**支給番号**

この手動支給の支給番号、現金受領、小切手、銀行振替に関連付けられた番号を入力します。

発行日

支給が発行され、受給者に対して支払い可能になった日付を入力します。

支給 ID

この支給を支給照合処理に含めるために、この手動支給に適用される支給 ID を追加します。

総支給額

手動支給の総支給額を入力します。

純支給額

手動支給の純支給額を入力します。

計算値

ポジティブ入力詳細で入力された支給または控除が総支給および純支給の累計に算入される際の定義方法に基づいて、[前回確認総額] および [前回確認純額] に値が取得されます。支給または控除は 100 パーセント未満で累計に累積可能なため、計算された総支給と純支給は、入力された [総支給額] および [純支給額] の値と異なる場合があります。

確認

このページの全てのデータを入力した後に、このボタンをクリックして手動支給の入力を確認します。確認プロセスでは、金額が正しく入力されているかどうかを確認するため、入力された総支給額および純支給額と計算された総支給および純支給の累計額が一致しているかどうかを検証されます。金額が一致しない場合、手動支給詳細は保存できますが、処理はできません。手動支給を確認して処理を実行するには、入力された総支給額および純支給額が、計算された総支給および純支給の累計額と一致している必要があります。ただし、確認ステータスが [計算時に確認] の場合は例外です。

確認ステータス

確認プロセスが実行されると、[確認ステータス] が自動的に更新されます。

[未確認]: 計算された総支給および純支給の累計額と入力された総支給額および純支給額が一致しないか、または支給が保存されたが確認はされなかったことを示します。

[確認済]: 計算された総支給および純支給の累計額と入力された総支給額および純支給額が一致したことを示します。

[計算時に確認]: 支給または控除が、ほかのエレメントに基づく累計に算入されたことを示します。エレメントの変換が計算時に行われる必要があるため、計算が実行されるまで確認はされません。

注意: 全ての支給と控除を入力して [確認] ボタンをクリックすると、計算が実行され、総支給額と純支給額を算定できます。手動支給自体を発行する際にも同様に使用できます。

支給および控除の詳細

エレメント名

この手動支給で使用される全ての支給エレメントまたは控除エレメントを入力します。

ユニット、レート、金額、ベース、パーセント、通貨コード

手動支給の各エレメントの適切なフィールドに値を入力します。

累計率

エレメントの定義に基づいて、このエレメントが総支給額累計および純支給額累計に加算または減算されるパーセントが表示されます。

注意: エレメントが、別のエレメントに基づいて累計される場合、そのエレメント名が表示されます。また、エレメントの累計率が総支給と純支給で異なる場合、このフィールドには ##### が表示されます。このようなときは、"# - 累計率は、総額と純額で異なります。" というメッセージが表示されます。

計算値

確認プロセスが実行された後、総支給額累計および純支給額累計の両方またはいずれかに算入されるエレメントの計算値が表示されます。

サポート エレメント上書き

クリックすると、サポート エレメント上書きページが表示されます。このページでは、特定の支給または控除のサポート エレメントの値を上書きできます。上書き詳細が入力されている場合は、[詳細あり] チェック ボックスがオンになります。

**サポート エレメント上書き
- 支給レベル**

クリックすると、受給者カレンダー上書きページが表示されます。このページでは、この手動支給のサポート エレメントの値を上書きできます。この上書きは処理対象の全てのサポート エレメントに適用されます。

最終決定済み計算結果の訂正または取り消し

グローバル ペイロールでは、通常、訂正は、組み込み遡及処理機能により、オンサイクル給与計算の基本部分として処理されます。オフサイクル処理では、より重要な例外にすばやく対処することができます。

このセクションでは、給与計算結果の訂正の概要と、給与計算結果の訂正指示の入力方法について説明します。

給与計算結果の訂正について

選択可能な訂正タイプは 2 つあります。以下のとおりです。

- 置換
- 強制取消

選択可能な遡及方法には 2 つのタイプがあります。以下のとおりです。

- 既存の遡及ルールを使用
- 強制訂正

"通常の遡及訂正" および "置換訂正" の例

4 月の給与計算が完了した後で、支給が間違っていることに受給者が気付いたとします。1 月に遡及の昇給があったとします。給与が10,000.00 から11,000.00 に昇給されています。5 月末の支給まで待つのではなく、オフサイクル訂正支給を行うことにします。

"既存の遡及ルールを使用した置換訂正" では、既存トリガによって決定されたとおりに、通常の遡及処理モードおよび通常の遡及処理セットによって調整が処理されます。オンサイクル実行と同様、遡及ルールの標準の使用方法および検証方法が適用されます。これには以下が含まれます。

- 遡及モード
- エレメントの繰り越し
- エレメントの再計算

繰り越しモード クライアントでは、この例は、以下のように処理されます。

処理対象カレンダー	バージョン/レビジョン番号	給与 - (古い値)	年間累計 (古い値)	給与 - (新しい値)	繰り越されるデルタ	年間累計 (新しい値)
1 月 (第 1 トリガ)	V1R2	10,000	10,000	11,000	1,000	10,000
2 月	V1R2	10,000	20,000	11,000	1,000	20,000
3 月	V1R2	10,000	30,000	11,000	1,000	30,000
4 月	V1R2	10,000	40,000	11,000	1,000	40,000
オフサイクルターゲットカレンダー				4,000		44,000

"強制訂正遡及を使用した置換訂正" では、通常の遡及処理の動作が、"訂正するカレンダー" の繰り越しで無効になります。遡及トリガのクロス検証が実行されている間は (トリガ間の遡及方法の不整合は許可されていません)、ほかのルールは無効になります。以下は、通常の遡及訂正についての説明です。

- 遡及モードは "訂正" です (トリガの遡及イベントの処理では無視されます)。
- エレメントは繰り越されません (遡及処理セットは無視されます)。
- 全てのエレメントは再計算されます (遡及の再計算設定は無視されます)。

繰り越しモード クライアントでは、この例は、以下のように処理されます (遡及モードでの変化に注目してください)。

処理対象カレンダー	バージョン/レビジョン番号	給与 - (古い値)	年間累計 (古い値)	給与 - (新しい値)	繰り越されないデルタ	年間累計 (新しい値)
1 月 (第 1 トリガ)	V1R2	10,000	10,000	11,000	1,000	11,000
2 月	V2R1	10,000	20,000	11,000	1,000	22,000
3 月	V2R1	10,000	30,000	11,000	1,000	33,000
4 月	V2R1	10,000	40,000	11,000	1,000	44,000
オフサイクルターゲットカレンダー						

"取消 - 置換" および "取消 - 通常の遡及" の例

たとえば、ある受給者が 2 月中に "有給休職" ステータスで処理されたとします。本来は "無給休職" ステータスで処理されるべきでした。トリガは 1 月 1 日に設定されていますが、1 月には変更は行われなかったとします。

確認対象の元の値	2 月	取り消し入力	オフサイクル
給与 (E1)	10000	"給与"	- 10000
401K	1000	401K	- 1000
FWT	2000	FWT	- 2000

確認対象の元の値	2 月	取り消し入力	オフサイクル
組合費	100	組合費	- 100
純支給額	6900	純支給額	- 6900

[強制取消] オプションでは、例で示されているとおり、支給が全てのエレメントで (または全てのアイテムで) 取り消されます。これは HR データベースで受給者ステータスがまだ更新されていない場合でも行われます。必要なデータ訂正が行われない場合、**次の遡及処理で、取り消された支給の再確認と再計算が行われます。**

必要な訂正が既に行われて受給者ステータスが HR データベースで訂正されている場合、置換リクエストでも取り消しは行われますが、通常の遡及処理ルールが適用されるため、エレメントごとの結果は異なることがあります。

"既存の遡及ルールを使用した強制取消" では、元のトリガによって決定された遡及処理モードが使用され、ほかのルールは無効になります。全てのエレメントは再計算されます (遡及の再計算設定は無視されます)。繰り越しクライアントでは、残高およびターゲット カレンダー計算の点から、以下のような結果になります。

	第 1 トリガ				ターゲット カレンダー
	1 月	2 月	3 月	4 月	オフサイクル
	v1r2	v1r2	v1r2	v1r2	
E1 (古い値)	10000	10000	10000	10000	
年間累計 (古い値)	10000	20000	30000	40000	
E1 (新しい値)	10000	0	10000	10000	- 10000
年間累計 (新しい値)	10000	20000	30000	40000	30000
差額		10000			

訂正クライアントでは、残高およびターゲット カレンダー計算に関して、以下のように処理されます。

- エレメントは繰り越されません (遡及処理セットは無視されます)。

- 全てのエレメントは再計算されます (遡及の再計算設定は無視されます)。

	第 1 トリガ				ターゲット カレンダー
	1 月	2 月	3 月	4 月	オフサイクル
	v2r1	v2r1	v2r1	v2r1	
E1 (古い値)	10000	10000	10000	10000	
年間累計 (古い値)	10000	20000	30000	40000	
E1 (新しい値)	10000	0	10000	10000	0
年間累計 (新しい値)	10000	10000	20000	30000	
差額		10000			

"強制訂正遡及を使用した強制取り消し" では、通常の遡及動作が "訂正するカレンダー" と繰り越して無効になる標準の置換と同様の処理が行われます。遡及トリガのクロス検証が実行されている間は (トリガ間の遡及方法の不整合は許可されていません)、ほかのルールは無効になります。以下は、置換取り消し訂正についての説明です。

- 遡及モードは "訂正" です (トリガの遡及イベントの処理では無視されます)。
- エレメントは繰り越されません (遡及処理セットは無視されます)。
- 全てのエレメントは再計算されます (遡及の再計算設定は無視されます)。

繰り越しクライアントでは、残高およびターゲット カレンダー計算に関して、以下のように処理されます。

	第 1 トリガ				ターゲット カレンダー
	1 月	2 月	3 月	4 月	オフサイクル
	v2r1	v2r1	v2r1	v2r1	
E1 (古い値)	10000	10000	10000	10000	

	第 1 トリガ				ターゲット カレンダー
年間累計 (古い値)	10000	20000	30000	40000	
E1 (新しい値)	10000	0	10000	10000	0
年間累計 (新しい値)	10000	10000	20000	30000	30000
差額		10000			

訂正クライアントでは、"既存の遡及ルールを使用した強制取消" による処理と "強制訂正遡及を使用した強制取消" による処理に大きな違いはありません

注意: 前述の例には、訂正された給与計算と実際の訂正を示すために、3 月と 4 月が終了済み給与計算として記述されています。これらは、特に通常の繰り越しクライアントに対する通常の遡及処理と強制置換処理の性質の違いを示しています。この違いは、最も最近の支給期間 (この場合、4 月) に対する訂正に現れる場合がありますが、動作の相違は通常、ほとんどありません。

給与計算結果の訂正に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
訂正リクエスト詳細	GP_OFFCYCLE_C_SEC	オフサイクル リクエスト ページの [訂正するカレンダー] セクションの [訂正詳細] アイコンをクリックします。	給与計算結果の訂正指示を入力します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
ポジティブ入力	GP_PI_MNL_ERNDED	<ul style="list-style-type: none"> 訂正リクエスト詳細ページで [PI 訂正するカレンダー] リンクをクリックします。 訂正リクエスト詳細ページで [PI ターゲット カレンダー] リンクをクリックします。 	<p>訂正が必要なカレンダーに対するポジティブ入力を入力します。</p> <p>ターゲット カレンダーに対するポジティブ入力を入力します。</p> <p>注意: "取消" では、既存のデータを取り消すことしか行わないため、遡及モードにかかわりなく、これらの PI リンクを使用することはありません。</p> <p>このページは、追加支給および前払い支給の指示を入力する際にも使用します。</p> <p>参照: 第 24 章、「<u>オフサイクル処理の管理</u>」、<u>追加支給の作成に使用するページ</u>、969 ページおよび第 24 章、「<u>オフサイクル処理の管理</u>」、<u>前払いの処理に使用するページ</u>、973 ページ。</p>
休暇欠勤イベント入力	GP_ABS_EVENT	訂正リクエスト詳細ページで [休暇イベント入力] リンクをクリックします。	<p>訂正が必要な休暇欠勤イベントを入力します。</p> <p>注意: このリンクは、PeopleSoft Enterprise 休暇管理がインストールされている場合にのみ表示されます。</p>

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
受給者カレンダー上書き	GP_PYE_CAL_SOVR	訂正リクエスト詳細ページで [サポート エレメント上書き - ターゲットカレンダー] リンクをクリックします。	サポート エレメント上書き情報の入力と確認を行います。 このページは、追加支給の指示を入力する際にも使用します。 参照: 第 24 章、「 <u>オフサイクル処理の管理</u> 」、 <u>追加支給の作成に使用するページ</u> 、969 ページ。
遡及	GP_TRIGGER_RTO	訂正リクエスト詳細ページで [トリガ確認] リンクをクリックします。	遡及トリガ情報の入力と確認を行います。

行の修正

訂正リクエスト詳細ページにアクセスします (オフサイクル リクエスト ページの [訂正するカレンダー] セクションの [訂正詳細] アイコンをクリックします)。

オフサイクル リクエスト

訂正リクエスト詳細

支給グループ: GXPGOFFB

期間 ID: GXCPOFFSEP

オフサイクル グループ: GXMP1B

従業員 ID: GXEEOC007

名前: Mary Douglas

雇用コード: 0

ターゲット カレンダー ID: GXCPOFFSEP##1

訂正するカレンダー

*カレンダー ID: GXCAOFFB OCT04

訂正する PI カレンダー

☐ 最終決定されていないカレンダー (前払処理済) を検索

休暇欠勤イベント入力

訂正方法

訂正タイプ: 置換

適及方法: 既存の適及ルールを使用

処理コントロール

*支給日: 2006/10/16

*支払方法: 通常の配分を使用

エレメント選択

☒ 全て

☐ 本タイプ入力のあるエレメント

☐ 限定エレメント セット

限定エレメント セット名:

PIターゲット カレンダー

サポートエレメント上書き - ターゲット カレンダー

トリガ確認

☐ 適及トリガあり

▼ 適及トリガ

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

トリガ有効日	トリガ イベント ID	トリガ ステータス	トリガ ソース	トリガ タイプ
		未処理	手動	

訂正リクエスト詳細ページ

注意: このページで入力に使用できるフィールドは、このタイプのオフサイクル トランザクションに対して作成された設定に応じて異なります。

このページ画面は、設定が作成されていない場合のページを示します。

参照: 第 23 章、「オフサイクル トランザクションの設定」、929 ページ。

- カレンダー ID

訂正対象のカレンダーを選択します。
- 最終決定されていないカレンダー (前払処理済) を検索

オンサイクル カレンダー自体がまだ最終決定されていないが、この受給者に対してカレンダーが前払いとして既に処理されている場合、このフィールドを選択すると、そのカレンダーが選択されて訂正されます。
- 訂正する PI カレンダー

このリンクをクリックすると、ポジティブ入力ページにアクセスします。

休暇欠勤イベント入力	このリンクをクリックすると、休暇イベント入力ページにアクセスします。
訂正タイプ	訂正のタイプを入力します。有効値は [置換] および [強制取消] です。
	<p>注意: 取り消し処理の際には、支給を無効にする必要があります。銀行振込の最終決定後に "カレンダー グループ別支給額の確認" コンポーネントを使用するか、"支給の手動照合" ページで照合目的を指定する際に、支給を無効にできます。これは、自動的に処理されません。</p>
遡及方法	この訂正タイプで使用する遡及方法を入力します。有効値は [既存の遡及ルールを使用] および [強制訂正] です。
支給日	値を入力しない場合は、オフサイクル リクエスト ページからのデフォルト値が使用されます。この日付は、有効日付きルールの選択、および適切な時間枠への結果の割り当て (月間、四半期、および年間残数) を制御します。
支払方法	訂正の支払い方法を選択します。
エレメント選択	この訂正で処理するエレメントを選択します。
	<p>注意: 強制取消訂正では、[エレメント選択] を使用して入力することはできません。</p>
PI ターゲット カレンダー	このリンクをクリックすると、ポジティブ入力ページにアクセスします。
サポート エレメント上書き - ターゲット カレンダー	このリンクをクリックすると、受給者カレンダー上書きページにアクセスします。
トリガ確認	このリンクをクリックすると、遡及トリガの表示、編集、追加を行うことができます。

遡及トリガあり

訂正対象のカレンダーの支給期間終了日またはそれ以前にトリガがあり、そのトリガが、オフサイクル グループの支給グループに関連付けられた国と同じ国を表している場合、このチェック ボックスがオンになります。チェック ボックスがオフの場合は、手動でトリガを作成するか、データに対する訂正を作成してトリガを作成する必要があります。

遡及トリガ

訂正と同じ国に関連付けられている遡及トリガのリストが表示されます。

追加支給の作成

このセクションでは、追加支給の概要および追加支給の指示の入力方法について説明します。

追加支給について

追加支給とは、通常の処理サイクル外で処理が行われる 1 回限りの支給のことを指します。たとえば、特別賞与、報償、費用の払い戻し、従業員の住宅賃借料などに適用されます。これらのトランザクションは手動支給の際とほとんど同じですが、手動支給が一般的にシステム外で支給され、支給が行われた後でシステムに記録されるのに対し、追加支給はシステム内で支給されます。

追加支給で支給されるアイテムおよび金額は、通常、1 回限りのポジティブ入力として入力されます。

追加支給の作成に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
追加支給詳細	GP_OFFCYCLE_U_SEC	オフサイクル リクエスト ページの [追加支給] セクションの [支給詳細] アイコンをクリックします。	追加支給処理の指示を入力します。
ポジティブ入力	GP_PI_MNL_ERNDED	追加支給詳細ページで [ポジティブ入力] リンクをクリックします。	ターゲット カレンダーに対するポジティブ入力を入力します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
受給者カレンダー上書き	GP_PYE_CAL_SOVR	追加支給詳細ページで [サポート エlement上書き] リンクをクリック します。	特定の追加支給に関連付 けられたブラケット、日 付、デュレーション、 フォーミュラ、または変 数Elementの値を上書 きします。

追加支給の指示の入力

追加支給詳細ページにアクセスします (追加支給詳細ページの [追加支給] セクションの [支給詳細] アイコンをクリックします)。

[オフサイクル リクエスト](#)
追加支給詳細

支給グループ: GXPGOFFB 期間 ID: GXCPOFFSEP オフサイクル グループ: GXMP1B
 従業員 ID: GXEEOC008 名前: Derrin Kroll 雇用レポート: 0
 カレンダー ID: GXCPOFFSEP###

カレンダー コントロール
 *支給日: 2006/05/10
 *期間開始日: 2004/09/01 *期間終了日: 2004/09/30

処理コントロール
 *実行タイプ:
 *支払方法: 通常の配分を使用

Element 選択
☒ 全て
☐ ポジティブ入力のあるElement
☐ 限定Element セット 限定Element セット名:

支給キー上書き
 会社コード: 部門:

[ポジティブ入力](#) [サポート Element 上書き](#)

追加支給詳細ページ

注意: このページで入力に使用できるフィールドは、このタイプのオフサイクル トランザクションに対して作成された設定に応じて異なります。

このページ画面は、設定が作成されていない場合のページを示します。

参照: 第 23 章、「オフサイクル トランザクションの設定」、929 ページ。

カレンダー ID

ターゲット期間 ID に基づいてターゲット カレンダーが作成されます。カレンダー名は、ターゲット期間 ID とトランザクション用の連番で構成されます。カレンダー コンポーネントでそのカレンダーにアクセスすることはできませんが、そのカレンダーのデータは結果テーブルに保存されます。

支給日

値を入力しない場合は、オフサイクル リクエスト ページからのデフォルト値が使用されます。この日付は、有効日付きルールを選択、および適切な時間枠への結果の割り当て (月間、四半期、および年間残数) を制御します。

期間開始日、 期間終了日

ターゲット期間 ID から取得されます。

以下の決定の際に使用される日付です。

- 累計を更新する期間 (期間開始日または期間終了日に基づいて累計が行われるように定義された累計の更新期間)
- 処理中に取得されるエレメント定義 (定義の指定日として期間開始日または期間終了日を使用されているエレメントのエレメント定義)

手動支給、訂正、および追加支給では、ターゲット カレンダーからこれらの日付が継承されますが、これらのデフォルト値は上書きできます。前払い支給では、ソース カレンダー (前払い対象のカレンダー) からこれらの日付が継承されますが、上書きはできません。

実行タイプ

実行タイプによって、処理中に使用するプロセス リストが指定されます。

選択したソース カレンダーに関連付けられたプロセス リストに、変換対象のエレメントが含まれていない場合、追加支給に対する新規のプロセス リストおよび実行タイプを作成して、その新規の実行タイプをこのフィールドで選択することができます。

支払方法

追加支給の支払い方法を選択します。

エレメント選択

この追加支給で処理するエレメントを選択します。

注意: 通常の支給および控除が追加支給に表示されないようにするには、[限定エレメント セット] フィールドに値を入力するか、[ポジティブ入力のあるエレメント] オプションを選択して、処理する全てのエレメントをポジティブ入力ページに入力します。

支給キー上書き

このセクションは、手動支給詳細ページの [支給キー上書き] セクションと同一です。支給グループに関連付けられている支給元に定義された支給キーの値を上書きできます。

参照: 第 24 章、「オフサイクル処理の管理」、手動支給の記録、[954 ページ](#)。

ポジティブ入力

このリンクをクリックすると、ポジティブ入力ページにアクセスし、ターゲット カレンダーに対するポジティブ入力を入力できます。

サポート エlement上書き

[サポート エlement上書き] アイコンをクリックして、受給者カレンダー上書きページにアクセスし、特定の追加支給に関連付けられたブラケット、日付、デュレーション、フォーミュラ、または変数などのElementの値を上書きできます。

前払いの処理

このセクションでは、前払いの概要および前払い支給の指示の入力方法について説明します。

前払いについて

前払い処理は、定期スケジュールの前に行われるオンサイクル カレンダーの処理です。たとえば、早期退職に伴う支給や全期間または一部期間の前払いなどに適用されます。

注意: 前払いオンサイクル カレンダーは、定期実行に含まれているときと同様に個別に処理されます。処理が行われるタイミングのみが異なります。一括支給を行う場合は、前払い支給ではなく、追加支給を作成します。

この PeopleBook の他の章で、オンサイクル処理を使用した前払い処理について詳しく説明されています。

参照: 第 16 章、「カレンダーの使い方」、受給者のカレンダー上書き指示の入力、[610 ページ](#)。

前払いの処理に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
前払リクエスト詳細	GP_OFFCYCLE_A_SEC	オフサイクル リクエストページの [前払] セクションで [前払詳細] アイコンをクリックします。	前払い支給処理の指示を入力します。
休暇残数調整	GP_PI_MNL_AE	前払リクエスト詳細ページで [休暇残数調整] ボタンをクリックします。	休暇付与残数の調整を行います。
ポジティブ入力	GP_PI_MNL_ERNDED	前払リクエスト詳細ページで [ポジティブ入力] ボタンをクリックします。	支給および控除の上書きを行います。
遡及	GP_TRIGGER_RTO	前払リクエスト詳細ページで [トリガ確認] リンクをクリックします。	遡及トリガ情報の入力と確認を行います。
休暇欠勤イベント入力	GP_ABS_EVENT	前払リクエスト詳細ページで [休暇イベント入力] リンクをクリックします。	前払い支給に関連する休暇欠勤イベントを入力します。
受給者カレンダー グループ	GP_PYE_RUN	前払リクエスト詳細ページで [受給者カレンダー上書き情報の確認] リンクをクリックします。	前払い対象期間の受給者カレンダーに対する上書きの詳細を入力します。

前払い支給の指示の入力

前払リクエスト詳細ページにアクセスします (前払リクエスト詳細ページの [前払] セクションで [前払詳細] アイコンをクリックします)。

オフサイクル リクエスト

前払リクエスト詳細

支給グループ: GXPGOFFB

期間 ID: GXCPOFFSEP

オフサイクル グループ: GXMP1B

従業員 ID: GXEEOC010

名前: Irving Newberry

雇用コード: 0

カレンダー グループ: GXCROFFB APR05

カレンダー

カスタマイズ

検索

全件表示

最初

1-2/2

最後

カレンダー ID	支給日	計算対象期間開始日	計算対象期間終了日	支払方法
GXCROFFB APR05 ABS	2006/10/16			
GXCROFFB APR05	2006/10/16			通常の配分を使用

トリガ確認

休暇欠勤イベント入力

受給者カレンダー上書き情報の確認

上書きあり

▼ 通知トリガ

カスタマイズ

検索

全件表示

最初

1/1

最後

トリガ有効日	トリガ イベント ID	トリガ ステータス	トリガ ソース	トリガ タグ
		未処理	手動	

前払リクエスト詳細ページ

注意: このページで入力に使用できるフィールドは、このタイプのオフサイクル トランザクションに対して作成された設定に応じて異なります。

このページ画面は、設定が作成されていない場合のページを示します。

参照: 第 23 章、「オフサイクル トランザクションの設定」、929 ページ。

注意: 同じカレンダー グループおよび受給者に対する複数の前払い処理を、同じオフサイクル実行で行うことはできません。同じ支給期間内の複数の期間 (1 日から 5 日と 10 日から 11 日など) の前払いを同時に行う場合は、2 つのリクエストを設定して別の実行で処理する必要があります。

また、2 つの異なるオフサイクル リクエストで同じ受給者およびカレンダー グループに対して 2 つの前払い支給が設定されている場合、これらを同じ実行でまとめて処理しようすると、"重複が検出されました。1 つを除く全てのリクエストが無視されます。" という内容の警告が表示されます。警告を無視して処理を続行するか、リクエストを変更してから処理を行います。

前払する受給者とカレンダー グループ

カレンダー グループ

支給グループに関連付けられた最終決定済みのカレンダー グループを選択します。[カレンダー] グリッドには、選択したカレンダー グループに関連付けられた全てのカレンダーが処理順に表示されます。

支給日

値を入力しない場合は、オフサイクル リクエスト ページからのデフォルト値が使用されます。この日付は、有効日付きルールを選択、および適切な時間枠への結果の割り当て (月間、四半期、および年間残数) を制御します。

計算対象期間開始日、計算対象期間終了日

一部の期間の支給を発行するには、その支給対象期間の開始日または終了日を入力します。たとえば、月次の支給カレンダーの場合、1 日から 15 日までを処理するには、終了日に 15 日を入力するだけです。16 日から月末までを処理するには、ユーザーは開始日に 16 日を入力するだけです。

ここで日付を入力すると、オフサイクル実行中に分割トリガなしで期間分割が行われます。分割トリガは、オンサイクル トランザクションとオフサイクル トランザクションの両方に影響を及ぼすため、望ましくありません。たとえば、10 日分の給与を前払いしている場合、同じ期間の受給者の賞与支給または休暇欠勤データを分割する理由はありません。

不必要な支給の重複を避けるため、カレンダーに開始日と終了日を定義したときは常に、後続処理でそのセグメントが同じカレンダーの同じ期間に含まれていないかどうかを確認されます。このルールは、実行タイプによってそのカレンダー期間に対する重複が許可されているかどうかに関係なく適用されます。

支払方法

その給与計算カレンダーの支払い方法のデフォルト値を上書きできます。

休暇残数調整、ポジティブ入力

このボタンは、休暇残数調整ページ、またはポジティブ入力ページにアクセスするために使用します。アクセスされるページは、リスト内のカレンダーが休暇欠勤カレンダーか給与計算カレンダーかで決定されます。

休暇欠勤カレンダーの場合、このボタンをクリックすると休暇残数調整ページにアクセスし、休暇付与残数を調整することができます。

給与計算カレンダーの場合は、このボタンをクリックするとポジティブ入力ページにアクセスし、支給と控除の上書きを行うことができます。

トリガ確認

このリンクをクリックすると、遡及ページにアクセスし、トリガの確認、追加、削除を行うことができます。

休暇欠勤イベント入力

このリンクをクリックすると、休暇イベント入力ページにアクセスし、この前払い支給に関連する休暇欠勤イベントを入力することができます。

受給者カレンダー上書き情報の確認

クリックすると、カレンダー グループ ページ (GP_PYE_RUN) が表示されます。このページでは、上書きの表示や変更を行うことができます。前払い支給処理の場合は、カレンダー処理を行わない上書きを含む、全ての受給者カレンダー上書きが使用されます。

参照: 第 24 章、「オフサイクル処理の管理」、手動支給の記録、954 ページ。

上書きあり

カレンダー グループに受給者カレンダー上書きがある場合は、このインジケータがオンになります。

オフサイクル トランザクションの処理および結果の表示

オフサイクル オンデマンド コンポーネントは、リクエストの作成、およびカレンダーの作成に使用されますが、オフサイクル リクエストの処理と結果の確認にも使用されます。オフサイクル オンデマンド ページでは、実行を計算し、結果を表示して、処理を最終決定するかキャンセルすることができます。実行を計算するたびに、まず全ての結果がキャンセルされ、次にオフサイクル リクエストが確認されて計算されます。したがって、オンデマンド ページから計算処理を実行する限り、反復トリガの設定は必要ありません。"休暇欠勤/給与計算" ラン コントロール ページを使用してオフサイクル リクエストを計算する場合は、[全て再計算] オプションを選択せずに [計算] を選択するとき、再確認と再計算を行うために反復トリガが必要です。

遡及トリガと分割トリガはオフサイクル トランザクションでも作成する必要があります。国ごとに適切なトリガ定義が設定されていないと、トリガは作成されません。トリガ定義を作成する必要があるレコードは、GP_OFFCYCL_M_VW、GP_OFFCYCL_C_VW、GP_OFFCYCL_U_VW、および GP_OFFCYCL_A_VW です。これらは、手動支給、訂正、追加支給、および前払いにそれぞれ対応しています。

参照: 第 30 章、「トリガの設定」、トリガ定義の設定、1131 ページ。

このページから処理を行う際に、クリックするボタンに応じて、実行を計算、最終決定、またはキャンセルするリモート コールが行われます。これにより、オフサイクル オンデマンド ページが表示されたままで、処理が実行されます。"休暇欠勤計算/給与計算" ページには移動しません。変換チェーン、ストリーム、またはプロセス リストを利用して処理を実行するには、オンサイクル 給与計算処理の場合と同じ "休暇欠勤計算/給与計算" ページを使用して、処理を実行する必要があります。オフサイクル オンデマンド ページで計算処理が正常に実行されると、計算または最終決定の完了時に、受給者ステータス ページが自動的に表示されます。実行をキャンセルすると、受給者ステータス ページではなく、キャンセルが正常に実行されたことを示すメッセージが表示されます。

注意: 給与計算処理および結果の表示の詳細については、「給与計算処理」の章および「給与計算結果の表示と最終決定」の章で説明されています。

関連項目:

第 21 章、「給与計算の処理」、給与計算処理について、 813 ページ

第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、受給者ステータスの表示および受給者の処理の指示の更新、 859 ページ

第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、カレンダー別結果の表示、 862 ページ

第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、受給者メッセージの表示、 856 ページ

第 25 章

休暇欠勤の入力と処理

この章では、以下の方法について説明します。

- 休暇欠勤イベントの入力、更新、および無効化
- 休暇欠勤入力時における休暇付与残数の予測
- 現在の休暇付与残数の表示と残数照会プロセスの実行
- 休暇付与残数の調整と上書き
- 日次休暇欠勤レコードの確認
- 休暇付与および休暇取得プロセスの実行
- 休暇欠勤結果の作成

関連項目:

[第 11 章、「休暇欠勤管理について」、387 ページ](#)

[第 12 章、「休暇欠勤エレメントの定義」、411 ページ](#)

休暇欠勤イベントの入力、更新、および無効化

このセクションでは、休暇欠勤入力の概要および以下の項目について説明します。

- 休暇欠勤イベントの入力、更新、および無効化
- 休暇欠勤に関する詳細情報の入力

休暇欠勤入力について

予定されている勤務時間に従業員が勤務しなかった場合、休暇取得エレメント、開始日、終了日、その他管理するデータを記録します。

休暇欠勤は以下のページから入力できます。

- 休暇イベント入力ページ

給与計算管理者は、このページを使用して休暇欠勤イベントを記録できます。

- セルフサービス休暇欠勤ページ

受給者と管理者は、セルフサービス ページを使用して休暇欠勤のリクエストを入力できます。また、管理者は、セルフサービス ページからリクエストを承認することもできます。

PeopleSoft Enterprise 勤務管理を休暇欠勤管理と共に使用している場合は、勤務管理のタイムシート ページを利用して休暇欠勤管理セルフサービスのページにアクセスできます。

参照: 第 27 章、「セルフサービス休暇リクエストの入力と承認」、1053 ページ。

この章では、給与計算管理者の休暇欠勤入力タスクについて説明します。

休暇欠勤イベントの入力手順

休暇欠勤イベントを入力する手順は、次のとおりです。

1. 受給者の休暇イベント入力ページにアクセスします。
2. 休暇取得エレメントを選択し、休暇欠勤の開始日および終了日を入力します。
3. 必要に応じて、時間指定や休暇欠勤の元の開始日を入力します。
4. [詳細] リンクをクリックして、休暇欠勤イベント入力詳細ページにアクセスします。休暇欠勤に関連するその他の詳細情報があればそれを入力できます。
5. 入力したイベントに対して予測処理が必要とされる場合は、休暇イベント入力ページに戻り、休暇欠勤入力時における休暇付与の予測手順に従います。最初に予測処理を実行せずに休暇欠勤取得エントリを保存しようとすると、警告メッセージが表示されます。

参照: 第 25 章、「休暇欠勤の入力と処理」、休暇欠勤入力時における休暇付与残数の予測、995 ページ。

休暇欠勤イベントの入力、更新、および無効化に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
休暇欠勤イベント入力	GP_ABS_EVENT	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[休暇欠勤管理]、[休暇欠勤イベント]、[休暇イベント入力]	休暇欠勤を入力、更新、および無効化します。休暇欠勤予測プロセスを開始します。
休暇欠勤イベント入力詳細	GP_ABS_EVENT_SEC	休暇イベント入力ページの [詳細] リンクをクリックします。	理由、処理アクション、管理者承認、ユーザー定義データ、休暇付与調整、時間指定など、休暇欠勤に関する詳細情報を入力します。

休暇欠勤の入力、更新、および無効化

休暇イベント入力ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[休暇欠勤管理]、[休暇欠勤イベント]、[休暇イベント入力])。

休暇イベント入力

予測メッセージ

従業員 ID:

KOG001

雇用コード:

0

名前:

Rebekah Jones

開始日:

2003/01/01

終了日:

2006/12/31

リフレッシュ

予測

休暇欠勤イベント

休暇取得(T)

処理ステータス(S)

予測値(F)

休暇取得要素	名称	開始日	終了日	時間指定	処理アクション	無効	元の開始日
KDAT PTO	Paid Time Off	2003/02/05	2003/02/05		正常	<input type="checkbox"/>	2003/02/05
KDAT PTO	Paid Time Off	2003/01/04	2003/01/08		正常	<input type="checkbox"/>	2003/01/04

休暇イベント入力ページ

休暇欠勤を新規に入力するには、行を挿入して、以下に説明するフィールドに値を入力します。行を変更する場合は、その行を削除し、新たに行を追加します。

注意: 同一日に複数の休暇欠勤を入力できないように休暇欠勤ルールで設定されている場合、日付が重なる休暇欠勤を入力しイベントを保存しようとする、エラー メッセージが表示されます。自動優先処理機能を使用するように設定し、休暇取得エレメントに優先度が割り当てられている場合は、問題の日付について優先権がどの休暇取得エレメントにあるか判断され、優先処理を実行するかどうか選択できます。休暇欠勤の優先ルールは、"休暇取得" の優先度ページで定義します。

開始日、終了日

ユーザーは、[開始日] フィールドと [終了日] フィールドに日付を入力することで、指定の日付範囲に含まれる休暇リクエストを表示できます。開始日、終了日、または両方の日付が空白の場合は、デフォルトの日付に基づいて検索されます。

[開始日] から [終了日] までの期間は、国別設定コンポーネントの履歴グリッド ページに入力された [デフォルト履歴期間] の値で決まります。[デフォルト履歴期間] が設定されていない場合、[開始日] フィールドには現在の日付より 90 日前の日付が、[終了日] フィールドには現在の日付から 90 日後の日付がデフォルトで使用されます。

参照: 第 26 章、「[休暇欠勤セルフサービス機能の設定](#)」、国別のセルフサービス休暇欠勤ルールの定義、1021 ページ。

リフレッシュ

[開始日] フィールドおよび [終了日] フィールドに日付を入力するか、日付を変更または削除した後、[リフレッシュ] ボタンをクリックします。

注意: [開始日] フィールドまたは [終了日] フィールドの日付を変更した後、[リフレッシュ] をクリックしないと、このボタンをクリックする必要があることを示すエラー メッセージが表示されます。[リフレッシュ] ボタンをクリックすれば、休暇欠勤の入力を継続できます。

休暇取得

休暇取得エレメント

受給者の休暇欠勤に該当する休暇取得エレメントを選択します (受給者に資格がある休暇取得エレメントだけでなく、組織で定義されている全ての休暇取得エレメントから選択できます)。

開始日、終了日

休暇欠勤の開始日および終了日を入力します。休暇欠勤が断続的に発生する場合は、それぞれのイベントを別々に入力します。たとえば、受給者が 2 日間病欠し、3 日間勤務に戻り、その後再び病欠した場合、2 つの休暇欠勤イベントを入力します。休暇欠勤に週末が含まれる場合（木曜日から月曜日までの休暇欠勤の場合など）は、1 つの休暇欠勤イベントとして入力します。

指定した開始日の時点で有効な休暇取得定義が適用されます。

時間指定

1 日未満の休暇欠勤の場合に、その時間数を入力します。

受給者が 1 日以上欠勤した（開始日と終了日が異なる）場合は、休暇欠勤の 1 日目についてのみ時間指定が適用されます。1 日目以外を指定するには、[詳細] リンクをクリックして休暇欠勤イベント入力詳細ページにアクセスします。

処理アクション

新規の休暇欠勤イベントは、デフォルトで [正常] が設定されています。

既に休暇取得プロセスで処理されている休暇欠勤を無効にする場合に、[無効] を選択します。無効に設定されたイベントは、それ以降のプロセス実行において処理されません。その代わりに、次に取得プロセスが実行される際に、処理アクションが [正常] に再設定され、[無効] チェック ボックスが自動的にオンになります。

遡及処理では、無効にされたイベントを除いて新バージョンの結果が計算されます。無効にされたイベントからはポジティブ入力は作成されず、支給/控除の結果にはデルタが含まれます。

無効

イベントを無効に設定し休暇取得プロセスを実行した場合、このチェック ボックスはオンになります。

このチェック ボックスは、自動優先処理機能を使用し、休暇取得工元素に優先度を割り当てている場合もオンになります。重複した日付の休暇欠勤エントリを保存しようとする、優先度の低いイベントが自動的に無効になり、日付が重複しない新規イベントが作成されます。

元の開始日

過去に同じ理由で取得された休暇欠勤に、この休暇欠勤をリンクできるように休暇取得ルールで設定されている場合に、このフィールドに日付を入力します ([休暇欠勤のリンク] および [元の開始日] によるリンク) オプションは、"休暇取得" の期間ページで設定します)。

この休暇欠勤が別の休暇欠勤と関連している場合、このフィールドに最初の休暇欠勤の開始日を入力します。

例: 受給者が次の期間、病欠したとします。

休暇欠勤タイプ	休暇欠勤理由 (オンラインでは入力しません)	休暇欠勤イベント開始日	終了日	元の開始日
疾病	手首の捻挫	5 月 15 日	5 月 16 日	5 月 15 日
疾病	インフルエンザ	6 月 1 日	6 月 5 日	6 月 1 日
疾病	手首が未完治	6 月 10 日	6 月 10 日	5 月 15 日

1 行目と 3 行目の休暇欠勤イベントについて、同じ元の開始日を入力すると、システムでは、これらの休暇欠勤が関連していることが認識されます。休暇欠勤どうしがリンクするように休暇取得エレメントを定義している場合、現在の休暇欠勤がリンク可能な期間内に発生しているかが確認されます。期間内に発生していれば、この 2 つのイベントはリンクされます。

[元の開始日] のデフォルト値は [開始日] の日付になります。ここで開始日を変更しても、元の開始日は更新されません。

詳細

このリンクをクリックすると、休暇欠勤イベント入力詳細ページが表示され、休暇欠勤に関する詳しい情報を入力できます。

入力ソース

休暇取得を入力したユーザーを表示します。

ワークフロー ステータス

休暇取得の現在のワークフロー ステータスを表示します。

予測

休暇欠勤イベントの入力後、このボタンをクリックすると予測プロセスが開始されます。このボタンを使用するには、1 つまたは複数の取得エレメントに対して休暇欠勤予測が有効になっている必要があります。

処理ステータス

[処理ステータス] タブを選択します。

休暇イベント入力

予測メッセージ

従業員 ID: K0G001

雇用レポート: 0

名前: [Rebekah Jones](#)

開始日: 2003/01/01

終了日: 2006/12/31

リフレッシュ

予測

休暇欠勤イベント

加減算 | 検索 | 全件表示 | 最初 1-2/2 最後

休暇取得(I)

処理ステータス(S)

予測値(F)

休暇取得エレメント	名称	開始日	終了日	ステータス	カレンダー グループ ID	処理日
K0AT PTO	Paid Time Off	2003/02/05	2003/02/05	未処理		
K0AT PTO	Paid Time Off	2003/01/04	2003/01/08	未処理		

休暇イベント入力ページ: [プロセス ステータス] タブ

ステータス

休暇欠勤イベントは給与計算処理に関連付けられているため、このイベントのステータスが表示されます。有効値は、[未処理]、[処理済]、および [最終決定済] です。

注意:

ステータスが [最終決定済] の休暇欠勤イベントが定期または不定期計算時に遡及処理された場合、そのステータスは [処理済] に設定されます。

カレンダー グループ ID

休暇取得処理が行われたカレンダー グループを表示します。

処理日

休暇取得処理が行われた日付を表示します。

予測値

[予測値] タブをクリックします。

休暇イベント入力

予測メッセージ

従業員 ID: K0G001

雇用コード: 0

名前: [Rebekah Jones](#)

開始日: 2003/01/01

終了日: 2006/12/31

リフレッシュ

予測

休暇欠勤イベント

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1-2/2 | 最後

休暇取得(T) | 処理ステータス(S) | 予測値(F) | 設定

休暇取得要素	名称	開始日	終了日	予測値	予測日時	予測詳細		
KOAT PTO	Paid Time Off	2003/02/05	2003/02/05			予測詳細	+	-
KOAT PTO	Paid Time Off	2003/01/04	2003/01/08			予測詳細	+	-

休暇イベント入力ページ - 予測値タブ

- 開始日、 終了日

これらのフィールドには、メイン ページで入力した休暇欠勤イベントの日付が表示されます。ここで加えた変更は全てメイン ページに反映されます。
- 予測値

[予測値] は、予測エレメントによって導き出された値 (半角英数字) です。予測フォーミュラを "休暇取得" - 予測ページで取得エレメントと関連付けます (たとえば、予測エレメントによって "ELIGIBLE" または "NOT ELIGIBLE" という値が返されます)。
- 予測日時

その休暇取得エレメントに対して、予測プロセスが最後に実行された日時です。
- 予測詳細

休暇欠勤予測結果ページにアクセスする場合にクリックします。

休暇欠勤イベント行の削除

[削除] 行ボタンは、[給与計算ステータス] とイベント入力ページで選択された [削除オプション] に応じて使用できる場合と使用できない場合があります。選択された [削除オプション] が [処理済を除く全てのイベント] の場合、[削除] 行ボタンは、処理済行と最終決定済行の全てにわたって無効です。選択された [削除オプション] が [最終決定済を除く全てのイベント] の場合、[削除] 行ボタンは、全ての最終決定済行で無効です。

[削除オプション] の [最終決定済を除く全てのイベント] を選択している場合に、休暇欠勤イベントを削除しようとする、警告が表示されます。"特定の開始日と終了日のイベントの削除を確認する" という警告メッセージが表示されます。このメッセージには次の内容の説明が付きます "この休暇欠勤イベントはすでに処理されている。このイベントを削除すると、休暇欠勤が再処理され、結果が修正される可能性がある"。

参照: 第 26 章、「休暇欠勤セルフサービス機能の設定」、国別のセルフサービス休暇欠勤ルールの定義、1021 ページ。

休暇欠勤に関する詳細情報の入力

休暇欠勤イベント入力詳細ページにアクセスします (休暇欠勤イベント入力ページで [詳細] リンクをクリックします)。

休暇欠勤イベント

休暇欠勤イベント入力詳細

休暇取得:

KOAT PTO

休暇欠勤理由:

入力ソース:

休暇管理者

ワークフロー ステータス:

承認済

*処理アクション:

正常

☐ 無効

☒ 管理者承認済

休暇欠勤タイプ:

休暇

イベント優先度:

10

最終更新日:

2002/10/21

処理ステータス(S):

未処理

カレンダー グループ ID:

処理日:

初回処理日:

休暇欠勤開始/終了データ

*開始日:

2003/02/05

終了日:

2003/02/05

元の開始日:

2003/02/05

半休等:

なし

ユーザー定義フィールド

ユーザー定義フィールド 1

日付 1:

文字 1:

金額 1:通貨 1:

10 進数 1:

ユーザー定義フィールド 2

日付 2:

文字 2:

金額 2:通貨 2:

10 進数 2:

ユーザー定義フィールド 3

日付 3:

文字 3:

金額 3:通貨 3:

10 進数 3:

ユーザー定義フィールド 4

日付 4:

文字 4:

金額 4:通貨 4:

10 進数 4:

上書き

休暇付与数:

調整数:

外部

休暇欠勤イベント入力詳細ページ (1/2)

988

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

ユーザー定義フィールド 1

日付 1: 

文字 1:

金額 1: 通貨 1: 

10 進数 1:

ユーザー定義フィールド 2

日付 2: 

文字 2:

金額 2: 通貨 2: 

10 進数 2:

ユーザー定義フィールド 3

日付 3: 

文字 3:

金額 3: 通貨 3: 

10 進数 3:

ユーザー定義フィールド 4

日付 4: 

文字 4:

金額 4: 通貨 4: 

10 進数 4:

上書き

休暇付与数:

調整数:

[リセット](#)

休暇欠勤イベント入力詳細ページ (2/2)

休暇取得

休暇イベント入力ページで選択した休暇取得エレメントが表示されます。

イベント優先度

"休暇取得" の優先度ページで休暇取得エレメントに優先度が割り当てられている場合は、その値が表示されます。

同一日に複数の休暇欠勤を入力する場合には、エントリを保存する際に自動優先処理機能を使用するオプションがあります。この機能では、重複する休暇欠勤の優先度が比較され、どの休暇取得ルールを適用するかが決定されます。値が小さければ、優先度が高いことを意味します。

休暇欠勤理由

休暇欠勤の開始日の時点で有効とされる理由の中から選択します。
休暇欠勤の理由は、休暇欠勤タイプ ページで定義し、"休暇取得" の計算ページで休暇欠勤タイプと休暇取得エレメントをリンクさせます。

休暇欠勤タイプ

休暇取得エレメントの休暇欠勤タイプが表示されます。

入力ソース

休暇欠勤の入力されたソースを指定します。値は以下のとおりです。

休暇管理者: 休暇欠勤イベントが休暇イベント入力ページで入力されたことを示します。休暇イベント入力ページで新しいエントリを入力する場合のデフォルト値です。

サードパーティ: 休暇欠勤イベント入力は、サードパーティ インターフェイスを使用して作成されたものです。

従業員セルフサービス: 休暇欠勤イベント入力は、従業員セルフサービスの休暇リクエスト ページで作成されたものです。

管理者セルフサービス: 休暇欠勤イベント入力は、管理者セルフサービスの休暇リクエスト ページで作成されたものです。

従業員タイムシート: 休暇欠勤イベントは、従業員タイムシート ページで作成されたものです。

管理者タイムシート: 休暇欠勤イベントは、管理者タイムシート ページで作成されたものです。

管理者承認済

このチェック ボックスをオンにすると、休暇取得プロセス実行の際に休暇取得が処理されます。"休暇取得" の計算ページで、休暇取得 エlement に対し管理者承認を必要としないよう定義した場合は、このチェック ボックスはデフォルトでオンになります。

最終更新日

入力したデータを保存後、日付が表示されます。

ワークフロー ステータス

休暇取得の現在のワークフロー ステータスを表示します。

処理ステータス

休暇欠勤イベントは給与計算処理に関連付けられているため、このイベントのステータスが表示されます。有効値は、[未処理]、[処理済]、および [最終決定済] です。

カレンダー グループ ID

休暇取得処理が行われたカレンダー グループを表示します。

処理日

このフィールドには、この休暇欠勤イベントの最新の処理日が表示されます。

初回処理日

このフィールドの値は、休暇欠勤イベントの元の処理日を表します。遡及処理では、[処理日] および [初回処理日] フィールドに異なった処理日が表示されます。

ユーザー定義フィールド

4 つまでのユーザー定義フィールドにデータを入力できます。休暇取得プロセスを実行すると、日次レコードにデータが書き込まれ、日数計算フォーミュラで使用できるようになります。

GP_ABS_EVENT レコードの 4 つのシステム エlement が、各ユーザー定義フィールドに対応します。命名規則は以下のとおりです。

- 日付: EVT CONFIG1(2, 3, 4) DT
- 10 進数: EVT CONFIG1(2, 3, 4) DC
- 文字: EVT CONFIG1(2, 3, 4) CH
- 金額: EVT CONFIG1(2, 3, 4) MN

省略形の説明: EVT CONFIG = Event configurable (ユーザー定義)、DT = date (日付)、DC = decimal (10 進数)、CH = character (文字)、MN = monetary (金額)

たとえば、ある従業員が病欠に対して 100 パーセントまたは 80 パーセントの給与支給を受けるとします。100% を受け取る場合、5 日間の病欠を取得するごとに 1 日の休暇を失います。10 進数のフィールドのいずれかに従業員の選択に応じて 100 または 80 を入力し、それぞれのケースで従業員が失う休暇日数を計算するフォーミュラを使用します。

注意: ユーザー定義フィールドに入力された値は、休暇取得プロセス中に休暇取得ルールに応じて上書きできます。

注意: このページのユーザー定義フィールドと、"休暇取得" の計算ページに表示されるユーザー定義フィールドとは無関係です。

上書き

休暇取得エlement が休暇欠勤ごとの休暇付与エlement と関連付けられている場合、このグループ ボックスを使用して、標準休暇付与数の上書きまたは受給者の休暇付与残数の調整を行います。周期ベースの休暇付与数を上書きする、または休暇付与の残数を調整するには、休暇残数調整ページを使用します。

重要: 休暇付与エlement の定義に使用されたユニット タイプと同一のものを使用する必要があります。

休暇付与数

このイベントの休暇付与を上書きするには、このフィールドにそのユニット数を入力します。休暇取得が複数の休暇付与エレメントとリンクされている場合は、最初にリンクされたエレメントの休暇付与のみが上書きされます。

調整数

休暇付与残数を調整するには、このフィールドにユニット数を入力します (入力された数値は、自動的に割り当てられた調整エレメントにロードされます)。休暇付与残数を減らす場合は、負の数を入力します。

休暇欠勤開始/終了データ**開始日、終了日、元の開始日**

これらのフィールドには、メイン ページで入力した休暇欠勤イベントの日付が表示されます。ここで加えた変更は全てメイン ページに反映されます。

次のフィールドに入力するデータは、休暇欠勤フォーミュラで参照される場合にのみ、休暇欠勤計算で使用されます。

半休等

休暇欠勤イベントの中で半休等を取得した日を指定します。

休暇欠勤設定ページの [終了日または期間の計算] チェック ボックスがオンになっている、[ユニット タイプ] が [時間] に指定されている場合、このグループ ボックスでの時間指定または半日のエントリに対して、終了日または期間の自動計算の要素が考慮されます。

たとえば、ある従業員が月曜日から金曜日まで 1 日 8 時間勤務のスケジュールを組んでいるとします。この従業員が 2007 年 1 月 8 日月曜日から 2007 年 1 月 10 日水曜日までの休暇欠勤を報告します。その後、月曜日は半日の休暇欠勤とし、残りの休暇欠勤は終日として取得するとします。

例 1: 国別休暇取得設定は以下のように定義されます。

- [ユニット タイプ] = [時間]。
- [半休等の許可] = オン
- [半休等] = [時間指定]。

これらの設定で、休暇欠勤データを正しく入力するには、従業員は以下の内容をレポートする必要があります。

- [開始日] = 2007 年 1 月 8 日。
- [終了日] = 2007 年 1 月 10 日。
- [半休等] = [開始日のみ]。
- [開始日の時間数] = 4。

例 2: 国別休暇取得設定は以下のように定義されます。

- [ユニット タイプ] = [時間]。
- [半休等の許可] = オン
- [半休等] = [半日]。

これらの設定で、休暇欠勤データを正しく入力するには、従業員は以下の内容をレポートする必要があります。

- [開始日] = 2007 年 1 月 8 日。
- [終了日] = 2007 年 1 月 10 日。
- [半休等] = [開始日のみ]。

- [開始日は半日] = オン

警告: 休暇欠勤ユニット タイプが国別休暇取得設定の日付で定義されている場合、半休等指定オプションを使用することは推奨されません。

注意: 次のフィールドに入力するデータは、休暇欠勤フォーミュラで参照される場合にのみ、休暇欠勤計算プロセスで使用されます。

休暇欠勤計算時に [半休等] フィールドで選択可能なオプションは、次のとおりです。

- 全ての日
- 終了日のみ
- なし
- 開始日のみ
- 開始日と終了日

開始日の時間数、終了日の時間数、全ての日の時間数 受給者が休暇欠勤の開始日、終了日、または全ての日に欠勤した時間数をそれぞれ入力します。

重要: これらのフィールドは、Oracle Workforce Scheduling をインストールし、[半休等] フィールドのオプションを選択しない限り使用できません。

開始日は半日、終了日は半日、全ての日が半日 受給者がちょうど半日休んだ場合、このチェック ボックスをオンにします。

重要: これらのフィールドは、Oracle Workforce Scheduling をインストールし、[半休等] フィールドのオプションを選択しない限り使用できません。

開始日の始業時刻、終了日の始業時刻、全ての日の始業時刻 指定された勤務日の予定始業時刻を入力します。

重要: これらのフィールドは、Oracle Workforce Scheduling をインストールし、[半休等] フィールドのオプションを選択しない限り使用できません。

開始日の終業時刻、終了日の終業時刻、全ての日の終業時刻	指定された勤務日の予定終業時刻を入力します。 重要: これらのフィールドは、Oracle Workforce Scheduling をインストールし、[半休等] フィールドのオプションを選択しない限り使用できません。
------------------------------------	--

関連項目:

第 12 章、「[休暇欠勤エレメントの定義](#)」、[休暇取得の優先度の定義](#)、459 ページ

第 12 章、「[休暇欠勤エレメントの定義](#)」、[ユーザー定義結果フィールドの定義](#)、463 ページ

休暇欠勤入力時における休暇付与残数の予測

このセクションでは、予測の概要および以下の項目について説明します。

- 休暇付与残数の予測結果の確認
- 予測メッセージの確認

休暇付与残数の予測について

休暇欠勤予測プロセスによって、休暇欠勤イベントによる影響を検証できます。この機能を使用するには、組織に適用される予測ルールを定義し、休暇欠勤予測の機能を有効にしておく必要があります。

休暇欠勤予測の手順

休暇欠勤予測を行う手順は、次のとおりです。

1. 休暇イベント入力ページで、受給者の実際の、または予定されている休暇欠勤イベントを入力します。
2. [予測] ボタンをクリックして、予測プロセスを開始します。

注意: 予測プロセスを開始するまでは、休暇欠勤リクエストは自動的に保存されません。ページを移動する前に保存を求めるプロンプトが表示されますが、予測プロセスの前後に予測情報を保存することは必ずしも必要ではありません。

3. 必要に応じて予測メッセージ ページを確認し、処理中にエラーや警告が発生していないかどうか確認します。
4. エラーが発生した場合は修正し、再度プロセスを実行します。

予測プロセスを実行するたびに、それまでの予測データは上書きされます。

5. 休暇イベント入力ページで [予測詳細] リンクをクリックし、結果を参照します。

休暇欠勤予測と遡及処理

休暇欠勤予測の場合、予測期間には、未処理の遡及トリガが存在するため再処理する必要があるカレンダーが含まれます。休暇欠勤イベントが変更された場合は遡及トリガを作成して、そのトリガの有効日を期間に含む最終決定済カレンダーを予測期間に含める必要があります。

遡及処理を持つ休暇欠勤予測の例

ある従業員の休暇付与残数は、9 月の実行が終了した時点で 16 時間です。10 月の実行で、従業員の休暇欠勤は 10 月 17 日 - 10 月 19 日の 24 時間です。この休暇欠勤に対して休暇付与残数は不足しているため、一部は有給になりません。この休暇欠勤のために定義されているルールにより、このイベントは資格無しと見なされます。

休暇欠勤の終了日が 10 月 18 日に変更された場合は、十分な休暇付与残数があるため、このイベントは資格ありと見なされます。このイベントに対する変更によって遡及トリガが作成され、その結果、10 月のカレンダーは予測時に再処理されます。

注意: 休暇欠勤イベントが変更された場合は遡及トリガを作成して、そのトリガの有効日を期間に含む最終決定済カレンダーを予測期間に含める必要があります。また、遡及制限を満たす最も古い遡及トリガ (休暇欠勤イベントからの遡及トリガに限定されません) が選択されて、遡及処理の起点となるテンプレート カレンダーが決定します。カレンダー期間の終了日は、遡及制限日以後の遡及トリガの最小有効日以後でなければなりません。

関連項目:

第 25 章、「休暇欠勤の入力と処理」、休暇欠勤と遡及処理、1015 ページ

第 11 章、「休暇欠勤管理について」、オンラインの休暇欠勤予測および残数照会プロセス、409 ページ

休暇付与残数の予測に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
休暇欠勤予測結果	GP_ABS_EVT_FCS_SEC	休暇イベント入力ページの [予測値] タブで [予測詳細] リンクをクリックします。	指定された休暇欠勤イベントとそのイベントにマッピングされている全ての取得エレメントに対して実行された予測プロセスの結果を確認します。
予測メッセージ	GP_ABS_FCST_MSG	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[休暇欠勤管理]、[休暇欠勤イベント]、[予測メッセージ]	予測プロセスの実行中に作成されたメッセージを確認します。
予測メッセージ詳細	GP_ABS_FCS_MSG_SEC	予測メッセージ ページで [詳細] リンクをクリックします。	選択されたエラーまたは警告メッセージの内容を確認します。

休暇付与残数予測結果の確認

休暇欠勤予測結果ページにアクセスします (休暇欠勤イベント入力ページの [予測値] タブで [予測詳細] リンクをクリックします)。

休暇欠勤イベント

休暇欠勤予測結果

休暇取得エレメント: KQAT PTO

開始日: 2003/01/04

休暇欠勤タイプ: 休暇

終了日: 2003/01/08

予測値: ELIGIBLE

予測日時: 2009/05/11 11:19AM

休暇欠勤予測結果詳細

カスサイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-6/6 最後

予測結果

累計結果

ユーザー キー 1-3(1)

ユーザー キー 4-6(4)

第 2 エレメント	予測エレメント	タイプ	数値	文字値	日付値
KQAT PTO	KQAE PTO_BAL	累計	2.000000		
KQAT PTO	KQAE FHOL_BAL	累計	0.000000		
KQAT PTO	KQAE PTO_TAKE	累計	8.000000		
KQAT PTO	KQAE FHOL_TAKE	累計	16.000000		
KQAT PTO	KQAE PTO_ENT	累計	10.000000		
KQAT PTO	KQAE FHOL_ENT	累計	16.000000		

休暇欠勤予測結果ページ

予測結果

このタブには、"休暇取得" の予測ページに表示されている各エレメントに対する予測値が、関連する取得エレメントと共に表示されます。

第 2 エレメント

結果に関連する取得エレメント名が表示されます。たとえば、"休暇取得" の予測ページに表示されている取得エレメント、ほかのエレメントから割り当てが変更された (リダイレクトされた) 取得エレメント、その取得に関連するマップ先取得エレメントなどがあります。

注意: リダイレクト先のエレメントは "休暇取得" の超過取得ページで指定し、マップ先エレメントは "休暇取得" の日数計算フォーマット ページで指定します。リダイレクト先の休暇取得エレメントは、ほかの休暇取得エレメントにリダイレクトすることができます。たとえば、A が B にリダイレクトされ、B が C にリダイレクトされている場合は、C もこのフィールドに表示されます。

予測エレメント、タイプ

値が予測されたエレメントの名前とそのタイプが表示されます。
予測の値は、"休暇取得" の残数照会ページにリストされている各エレメントに対して表示されます。

累計結果

[累計結果] タブをクリックします。

休暇欠勤イベント

休暇欠勤予測結果

休暇取得イベント: KOAT PTO

開始日: 2003/02/05

休暇欠勤タイプ: 休暇

終了日: 2003/02/05

予測値: ELIGIBLE

予測日時: 2009/05/11 11:19AM

休暇欠勤予測結果詳細

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-6/6 最後

予測結果 | 累計結果 | ユーザー キー 1-3(1) | ユーザー キー 4-6(4)

第 2 エレメント	開始日	終了日
KOAT PTO	2003/01/01	2003/12/31
KOAT PTO	2003/01/01	2003/12/31
KOAT PTO	2003/01/01	2003/12/31
KOAT PTO	2003/01/01	2003/12/31
KOAT PTO	2003/01/01	2003/12/31
KOAT PTO	2003/01/01	2003/12/31

休暇欠勤予測結果ページ - 累計結果タブ

"休暇取得" の予測ページにある [予測結果エレメント リスト] に含まれる累計データに関して、累計期間の開始日と終了日が表示されます。

ユーザー キー

[ユーザー キー 1-3] タブまたは [ユーザー キー 4-6] タブをクリックします。

休暇欠勤イベント			
休暇欠勤予測結果			
休暇取得イベント:	KDAT PTO	開始日:	2003/02/05
休暇欠勤タイプ:	休暇	終了日:	2003/02/05
予測値:	ELIGIBLE	予測日時:	2009/05/11 11:19AM
休暇欠勤予測結果詳細 カスタマイズ 検索 全件表示 最初 1-6/6 最後			
予測結果 累計結果 ユーザー キー 1-3(1) ユーザー キー 4-6(4)			
第 2 エLEMENT	ユーザー キー 1	ユーザー キー 2	ユーザー キー 3
KDAT PTO	KCY	0001	
KDAT PTO	KCY	0001	
KDAT PTO	KCY	0001	
KDAT PTO	KCY	0001	
KDAT PTO	KCY	0001	
KDAT PTO	KCY	0001	

休暇欠勤予測結果ページ - ユーザー キー タブ

"休暇取得" の予測ページにある [予測結果ELEMENT リスト] に含まれる累計データに関して、累計のユーザー キーの値が表示されます。

予測メッセージの確認

予測メッセージ ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[休暇欠勤管理]、[休暇欠勤イベント]、[予測メッセージ])。

休暇イベント入力		予測メッセージ	
従業員 ID:	KDG001	雇用コード:	0
		名前:	Rebekah Jones
予測メッセージ カスタマイズ 検索 全件表示 最初 1/1 最後			
計算ステータス	メッセージ テキスト	メッセージ セット番号	メッセージ番号
Calculation Successful	A retro trigger effdt 1999-10-04 exists prior to the Begin Date 2000-02-01 of the Forecast Template K0ABSONLINE (Cal Group ID)	17005	492 詳細

予測メッセージ ページ

計算ステータス

処理中にエラーまたは警告が発生した場合、発生したフェーズを示します。

メッセージ テキスト

メッセージの内容とその他の関連情報が、省略された形で表示されます。

関連項目:

第 21 章、「給与計算の処理」、ステータス コードと処理インジケータ、820 ページ

現在の休暇付与残数の表示と休暇付与残数照会プロセスの実行

残数照会機能を使用して、受給者の現在の休暇付与残数を確認することができます。また、残数照会プロセスを実行して、"休暇取得" の残数照会ページで指定されているエレメントの値を返すこともできます。通常、これらのエレメントのうち 1 つが休暇残数の値を返します。指定した日付の時点での値が表示されます。

このセクションでは、以下の項目について説明します。

- 受給者の現在の残数確認
- 残数照会プロセスの開始

関連項目:

第 21 章、「給与計算の処理」、ステータス コードと処理インジケータ、820 ページ

残数照会プロセスの開始と残数の表示に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
現在残数	GP_ABS_CUR_BAL	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[休暇欠勤管理]、[休暇残数確認]、[現在残数]	受給者の現在の休暇付与残数を表示します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
予測残数	GP_ABS_FCST_BAL	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[休暇欠勤管理]、[休暇残数確認]、[予測残数]	残数照会プロセスを開始し、その結果を表示します。

受給者の休暇付与残数の表示

現在残数ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[休暇欠勤管理]、[休暇残数確認]、[現在残数])。

現在残数
予測残数
予測メッセージ

従業員 ID: KOG001
雇用コード: 0
名前: [Rebekah Jones](#)

休暇付与現在残数

[カスタイズ](#)
[検索](#)
[全件表示](#)
[最初](#)
1-2/2
[最後](#)

累計残数

ユーザー キー

累計期間	休暇付与要素	要素名	数値	開始日	終了日
年間	KOAE PTO	KOAE PTO_BAL	30.000000	2008/01/01	2008/12/31
年間	KOAE FHOL	KOAE FHOL_BAL	48.000000	2008/01/01	2008/12/31

現在残数

[累計残数] タブ

[開始日] と [終了日] で指定された期間において、その受給者に対して最後に実行された休暇付与プロセスに基づいて休暇付与の残数が表示されます。

[ユーザー キー] タブ

休暇付与の累計ページで定義された各ユーザー キーに対して入力された値が表示されます。

関連項目:

第 12 章、「休暇欠勤エレメントの定義」、自動作成累計のルール of の定義、427 ページ

残数照会プロセスの実行

予測残数ページにアクセスします ([グローバル ペイロール /休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[休暇欠勤管理]、[休暇残数確認]、[予測残数])。

現在残数

予測残数

予測メッセージ

従業員 ID: K0G001

雇用コード: 0

名前: [Rebekah Jones](#)

休暇取得エレメント: K0AT PTO

指定日: 2003/12/31

予測

予測残数結果詳細

加算サイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-6/6 最後

予測結果

累計結果

ユーザー キー

第 2 エレメント	予測エレメント	タイプ	数値	文字値	日付値
K0AT PTO	K0AE PTO_BAL	累計	112.000000		
K0AT PTO	K0AE FHOL_BAL	累計	168.000000		
K0AT PTO	K0AE PTO_TAKE	累計	8.000000		
K0AT PTO	K0AE FHOL_TAKE	累計	24.000000		
K0AT PTO	K0AE PTO_ENT	累計	120.000000		
K0AT PTO	K0AE FHOL_ENT	累計	192.000000		

予測残数ページ

残数照会プロセスを実行するには、次の手順に従います。

- 1. 休暇取得エレメントを選択し、予測結果の処理対象となる日付を指定します。
- 2. [予測] ボタンをクリックします。
- 3. [予測残数結果詳細] グループ ボックスに結果が表示されます。

このグループ ボックス内のタブは、休暇欠勤予測結果ページにあるタブと同一です。

関連項目:

第 25 章、「[休暇欠勤の入力と処理](#)」、[休暇付与残数予測結果の確認](#)、997 ページ

休暇付与残数の調整と上書き

受給者の休暇付与残数を調整または上書きするには、いくつかの方法があります。

このセクションでは、以下の項目について説明します。

- 休暇付与の調整
- 周期ベースの休暇付与ルールの再定義

休暇付与の調整に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
休暇残数調整	GP_PI_MNL_AE	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[残数/残高の調整]、[休暇欠勤]、[休暇残数調整]	単一カレンダー期間において、受給者の周期ベースの休暇付与を調整します。 調整を入力する前に、対応する休暇欠勤カレンダーを設定しておく必要があります。
付与/取得割当	GP_ABS_OVRD	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[休暇欠勤管理]、[休暇付与/取得割当]、[付与/取得割当]	指定された期間における受給者の周期ベースの休暇付与ルールを再定義します。受給者に対し、休暇取得エレメントまたは周期ベースの休暇付与エレメントのどちらを処理するかを指定します。

単一カレンダー期間の受給者の休暇付与調整

休暇残数調整ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[残数/残高の調整]、[休暇欠勤]、[休暇残数調整])。

休暇欠勤

従業員 ID: GA0001

支給グループ: GAEXECMTH

カレンダー ID: GAMEX0501ABS

名前: John Batone

名称: Monthly Executive Group

開始日: 2005/01/01

雇用コード: 0

支給元: GAAUSMI

終了日: 2005/01/31

残数調整

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 1/1 | 最初 | 最後

エレメント名	名称	残数調整	開始日	終了日
<input type="text"/>		<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

休暇残数調整ページ

休暇付与プロセスは、このページに入力した指示に従います。

注意: また、休暇欠勤イベントの入力時に、休暇欠勤ごとの休暇付与エレメントに一時調整を入力することもできます。

注意: このページでは、休暇付与処理で挿入された休暇付与エレメントの調整や削除を行うことはできません。休暇付与残数を調整するには、休暇プログラム残数調整ページを使用してください。

調整残高

選択された休暇欠勤カレンダーに対して、この受給者に適用される調整をそれぞれ入力します。同一エレメントに対して複数の調整を入力することはできません。

エレメント名

調整を入力する対象の休暇付与エレメントを選択します。プロンプト テーブルには、エレメント名共通ページでポジティブ入力の上書きが定義されている周期ベースの休暇付与エレメントだけが表示されます。

残数調整

調整ユニット数を入力します。正の数、負の数のどちらでも入力できます。入力した数量は、休暇付与プロセスを実行したときに、開始時の休暇付与残数に加算または減算されます。ジェネレーションコントロールは無視されます。

開始日、終了日

- カレンダー期間が分割されている場合、これらの日付によりどのセグメントに調整が適用されるかを指定します。
- [開始日] フィールドを空白にしておくと、"カレンダー" の定義ページで指定された [開始日] と同じ日付であると見なされます。処理の際は、開始日は使用されません。
 - [終了日] がカレンダー期間終了日とは異なり、カレンダー期間が分割されている場合、入力された終了日によって調整が適用されるセグメントまたはスライスが決まります。

関連項目:

第 25 章、「休暇欠勤の入力と処理」、休暇欠勤イベントの入力、更新、および無効化、 979 ページ

周期ベースの休暇付与ルールの再定義

付与/取得割当ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[休暇欠勤管理]、[休暇付与/取得割当]、[付与/取得割当])。

休暇付与/取得割当

従業員 ID: KOG001 雇用コード: 0 名前: [Rebekah Jones](#)

要素上書きリスト カスティング | 検索 | 全件表示 | 1/1 | 最初 | 1/1 | 最後

要素(E) ユニット要素(U) ジェネレーションコントロール(G) [E::U]

要素タイプ*	要素名	名称	アクティブ*	開始日	終了日	
休暇付与			<input checked="" type="checkbox"/>	2009/03/16		<div>+ -</div>

付与/取得割当ページ

休暇欠勤ごとの休暇付与ルールを上書きするには、休暇イベント入力ページを使用します。

注意: 休暇付与要素または休暇取得要素を上書きするには、要素名共通ページ (GP_PIN) で [受給者] の上書きオプションがオンに設定されている必要があります。

エレメント

エレメント タイプ

上書きするエレメントのタイプ、[休暇付与] または [休暇取得] を指定します。

エレメント名

上書きするエレメント名を選択します。受給者が上書きできるエレメントだけが表示され、受給者に資格があるかどうかは確認されません。

エレメント タイプに [休暇付与] を選択した場合、周期ベースの休暇付与エレメントしか選択できません。

アクティブ

デフォルトではオに設定されています。受給に対してこの休暇欠勤エレメントを自動的に変換しない場合は、このチェック ボックスをオフにします。

開始日 、 終了日

上書き指示が有効になる日付と、適用される最終日を入力します。

ユニット エレメント

ユニット エレメント タイプ 休暇付与ユニットの計算に使用されるサポート エレメントを変更するには、[累計]、[ブラケット]、[フォーミュラ]、[数値]、[受給者レベル]、[システム エレメント]、[変数] のどれかを選択します。

[数値] を選択した場合は、[休暇付与ユニット] フィールドに値を入力します。

それ以外のエレメント タイプに関しては、**[エレメント名 - ユニット]** フィールドでエレメント名を選択します。

周期 、 周期 ID

休暇付与が行われるときに適用される周期を指定します。有効値は [支給期間] と [その他] です。

[その他] を選択した場合、[周期 ID] フィールドで、[月次] などの周期を選択します。

ジェネレーション コントロール

- ジェネレーション コントロール オプション
- エレメント名共通ページで休暇取得エレメントまたは休暇付与エレメントに対して定義されたジェネレーション コントロール条件を上書きできます。エレメント レベルでジェネレーション コントロールの詳細を指定しなかった場合でも、ここで指示を入力できます。値は以下のとおりです。
- [なし]: 計算ルール レベルで定義されたジェネレーション コントロールは無視されます。
- [指定]: 右側のフィールドにジェネレーション コントロールの値を入力します。
- [エレメント] (デフォルト): エレメントの設定時に定義されたジェネレーション コントロールが使用されます。

日次休暇欠勤レコードの確認

以下の表は、休暇欠勤のバッチ処理の結果が表示されるページの一覧です。

プロセス	ロード先のテーブル	照会ページと表示内容
休暇取得	GP_RSLT_ABS (休暇欠勤日次データ行)	休暇欠勤データ ページ: 休暇取得プロセスによって作成された日次データが表示されます。
	GP_RSLT_ACUM	累計ページ: 更新された休暇付与の残数が表示されます。
	GP_RSLT_PI_DATA	カレンダー別結果 - ポジティブ入力 - 休暇欠勤ページ: 休暇欠勤カレンダーに対して処理された周期ベースの休暇付与エレメントの残数調整です。

プロセス	ロード先のテーブル	照会ページと表示内容
	GP_RSLT_ABS	カレンダー別結果 - カレンダー 実行結果 - 休暇欠勤データ。ま たは、カレンダー グループ別結 果 - カレンダー実行結果 - 休暇 欠勤データ:休暇欠勤タイプ、理 由、予測値などが表示されま す。
	GP_GEN_PI_DATA	このテーブルには、休暇取得処 理からの作成済ポジティブ入力 が保存されます(注: このテーブ ルは、休暇欠勤管理で給与計算 システムに情報を提供するため に使用される主要なテーブルで す。)
休暇付与	GP_RSLT_ACUM	累計ページ: 更新された休暇付 与の残数が表示されます。
	GP_RSLT_PIN	サポート エlement ページ: サ ポート エlementが指定された 休暇付与ユニットが表示されま す。
給与計算 (ターゲット カレン ダー)	GP_RSLT_ERN_DED	受給者別Element割当ページ: 休暇欠勤を含む、受給者に適用 される支給/控除の内容が表示さ れます。
	GP_RSLT_PI_DATA	カレンダー別結果 - ポジティブ 入力 - 給与計算ページ:休暇取得 プロセスの過程で、支給額と控 除額に対して作成されたポジ ティブ入力がどのように変換さ れたかが表示されます。

プロセス	ロード先のテーブル	照会ページと表示内容
	GP_RSLT_PI_SOVR	"サポート エlement 上書き" ページ: 休暇取得プロセスに よって作成されたポジティブ入 力の変換時に使用されたサポー ト エlementが表示されます。

関連項目:

[第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、ポジティブ入力の結果の表示、871 ページ](#)

[第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、休暇取得処理の日次結果の表示、877 ページ](#)

休暇付与および休暇取得プロセスの実行

このセクションでは、以下の項目について説明します。

- 休暇付与および休暇取得プロセス
- 休暇欠勤と分割
- 休暇欠勤と遡及処理

休暇付与および休暇取得プロセス

以下のプロセスによって休暇欠勤が処理されます。

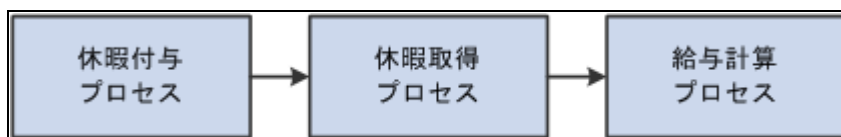
- 休暇付与プロセス

このプロセスでは、受給者の周期ベースの休暇付与が更新され、休暇付与が使用可能になります。たとえば、休暇付与が毎月行われる場合、給与計算は毎週実行し、休暇付与プロセスは月に一度実行するということもできます。休暇欠勤ごとの休暇付与については、休暇取得プロセスで自動的に更新されるため、このプロセスを実行する必要はありません。休暇付与プロセスは、休暇取得プロセスの前後どちらで実行してもかまいません。

- 休暇取得プロセス

このプロセスでは、各日次レコードが参照され、該当する休暇欠勤ルールに従って、有給または無給の時間数が決定されます。有給および無給のユニットはポジティブ入力に変換され、休暇付与残数が調整されます。

休暇付与および休暇取得プロセスの実行後、給与計算プロセスを実行して、受給者に有給休暇欠勤に対する報酬を支給します。次の図は、休暇欠勤処理のサイクルを示しています。



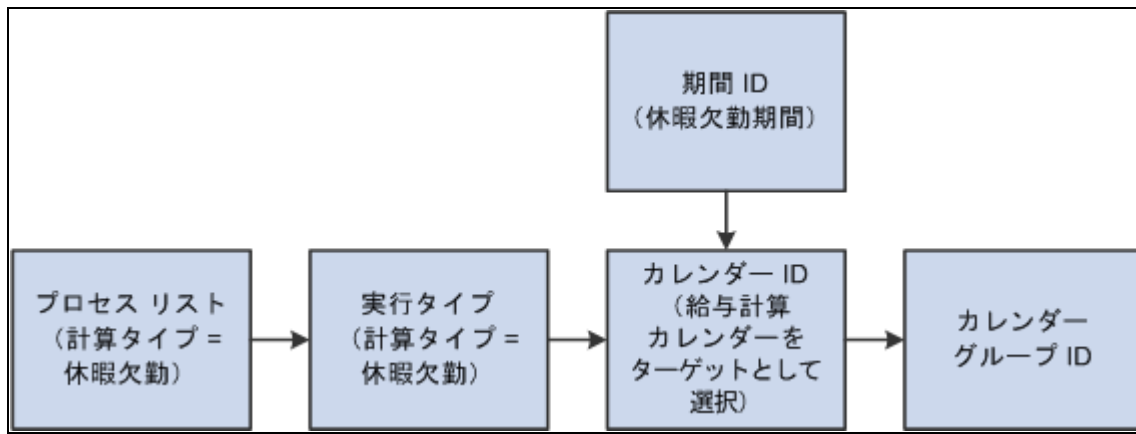
休暇欠勤処理のサイクル

休暇付与および休暇取得プロセスの実行を準備するには、次の手順に従います。

1. 1 つまたは複数の休暇欠勤処理リストを作成し、プロセスの実行中に変換されるべき休暇取得エレメントまたは周期ベースの休暇付与エレメントを定義します。
2. プロセス リストを実行タイプに関連付けます。
3. 休暇欠勤処理期間に対するカレンダーを作成します。
4. 作成したカレンダーをカレンダー グループ ID に割り当てます。

休暇欠勤カレンダーおよび支給カレンダーを、同一のカレンダー グループ ID に割り当てることができます。

通常は、グローバル ペイロールの導入時に、プロセス リストを作成し実行タイプに割り当てます。それから、残りのタスクを定期的に実行します。次の図は、休暇欠勤処理の準備手順を示しています。



休暇欠勤処理の準備

プロセス リストの特長

プロセス リストの特長は、以下のとおりです。

- 休暇欠勤期間は、支給期間と同じでも異なってもかまいません。たとえば、1 月の休暇欠勤は、1 月または 2 月のどちらにでも支給できます。休暇欠勤処理ごとに、ターゲットの支給カレンダーを指定します。
- 休暇付与プロセスと休暇取得プロセスを同時に実行することも、別々に実行することも可能です。
- 複数の休暇取得プロセスで同じ支給カレンダーをターゲット カレンダーとして共有できます。こうすることにより、たとえば 1 月に取得した休暇と 2 月に取得した病欠の両方を 2 月に支給することが可能になります。そのためには、休暇欠勤プロセス リストを 2 つ (一方は休暇用、もう一方は病欠用) 作成し、それぞれのプロセス リストを別々の休暇欠勤カレンダーに関連付けます。そして、それぞれの休暇欠勤カレンダーで同じ支給カレンダーをターゲット カレンダーとして選択します。
- 休暇取得プロセスは、プロセス リストの順または日付順に処理できます。休暇欠勤を日付順に処理するには、休暇取得エレメントをプロセス リストの休暇取得セクションに含めます。

プロセス リスト作成のガイドライン

プロセス リスト作成のガイドラインを以下に示します。

- プロセス リストを設定するときは、「プロセス リスト」の定義ページで、計算タイプに [休暇欠勤計算] を選択します。
- 休暇付与エレメントと休暇取得エレメントを同一のプロセス リスト (または異なるプロセス リスト) に含めることができます。

- 休暇欠勤ごとの休暇付与エレメントは、プロセス リストには含めません。

このタイプの休暇付与は、休暇欠勤が発生するたびに休暇取得プロセスで変換されます。

- プロセス リストにエレメントを追加する順番を検討します。

休暇付与エレメントは休暇取得エレメントの前に置きます。

- 休暇取得エレメントがマッピングされているために、両方のエレメントに対して同じ休暇取得が同時に作成される場合、マップ元のエレメントをマップ先のエレメントの前に置きます。それ以外の配置では、マップ先のエレメントが変換されません。エレメントは、"休暇取得" の日数計算フォーミュラ ページの [マップ先エレメント] フィールドを使用してマッピングできます。
- 休暇欠勤イベントを日付順に処理するには、休暇取得エレメントをプロセス リストの休暇取得セクションに追加します。

休暇欠勤カレンダー作成のガイドライン

休暇欠勤カレンダー作成のガイドラインを以下に示します。

- 休暇取得および休暇付与プロセスには、支給カレンダーを関連付ける必要があります。

休暇取得および休暇付与プロセスのカレンダー作成時に、支給カレンダーをターゲット カレンダーとして選択します。

- 休暇欠勤期間は、支給期間と同じでも異なってもかまいません。
- 適切なカレンダーを同じカレンダー実行 ID に指定することで、同一の実行でプロセスの一部または全部を実行できます。

- 休暇付与および休暇取得プロセスはどの順序でも実行できますが、通常は休暇付与プロセスを先に実行します。

次の例のように、実行のタイミングによって休暇付与残数が変わることがあります。

受給者に 20 時間/月の休暇が付与されることになりました。受給者が、1 月に 15 時間の休暇を取得するとします。前年からの繰り越しはなく、1 月 1 日時点での休暇付与残数はゼロです。

- 休暇付与プロセスを先に実行した場合、受給者は 20 時間/月の休暇付与を受けます。次に休暇取得プロセスを実行すると、15 時間が差し引かれ、休暇付与残数は 5 時間になります。
- 休暇取得プロセスを先に実行した場合は、従業員の休暇付与残数は -15 時間になります。その後、休暇付与プロセスを実行すると、残数は 5 時間になります。組織で超過取得が認められていない場合、受給者は無給で 15 時間の休暇を取得するか、別の休暇欠勤取得と関連付けられた休暇付与から 15 時間を控除することになります。休暇付与プロセスが実行されて初めて、受給者に 20 時間全部が付与されます。

休暇付与および休暇取得プロセスの実行

カレンダー実行 ID を定義すると、プロセスを開始する準備が整います。休暇欠勤計算/給与計算ページでの作業を完了し、PeopleSoft プロセス スケジューラを使用してプロセスを開始します。

関連項目:

[第 15 章、「エレメント処理の定義」、545 ページ](#)

[第 21 章、「給与計算の処理」、813 ページ](#)

休暇欠勤と分割

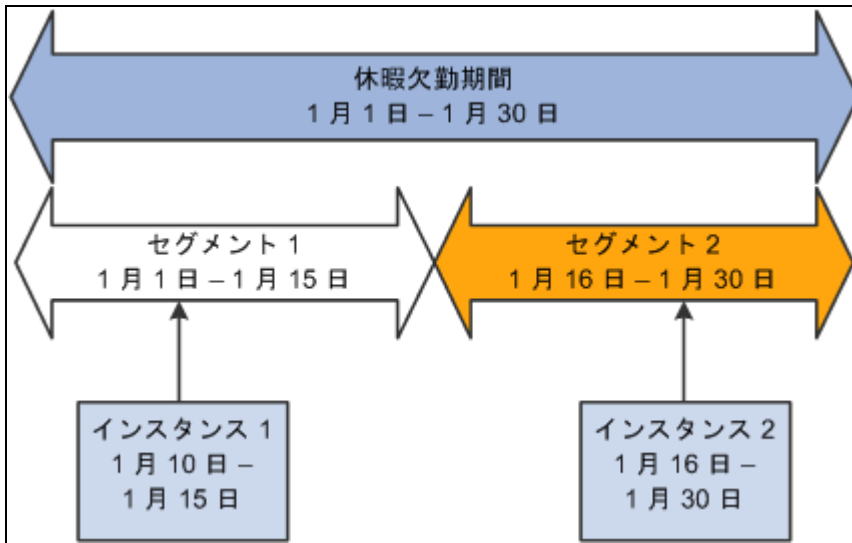
休暇取得プロセスを実行すると、次のルールに従って、インスタンス番号が各イベントに割り当てられます。

- "休暇取得" の計算ページで [複数インスタンス] チェック ボックスがオンになっている場合、同じ休暇欠勤期間内にある同様のイベントそれぞれに、異なるインスタンス番号が割り当てられます。
- [複数インスタンス] がオンになっていない場合は、同じ休暇欠勤期間内にある同様のイベント全てに、同一のインスタンス番号が割り当てられます。

休暇取得エレメントに関連付けられた支給エレメントまたは控除エレメントが分割されている場合は、[複数インスタンス]の設定にかかわらず、休暇取得プロセスにより複数のインスタンスが作成されます。また、休暇取得エレメントに定義されたパーセントが変更されても、複数のインスタンスが作成されます。パーセントは、「休暇取得」の日数計算フォーミュラ ページの [ポジティブ入力作成メンバー リスト] で定義されます。

例

受給者 A が 1 月 10 日から 17 日まで欠勤したと仮定します。また、支給エレメントは次に示すように分割されているとします。この場合、イベントは 2 つのインスタンスに分けられます。



分割により複数インスタンスに分割されるイベント

休暇欠勤と遡及処理

このセクションでは、休暇欠勤処理と遡及処理がどのように関連し合うのかについて説明します。

休暇欠勤イベントのトリガの設定

グローバル ペイロールの機能の 1 つであるトリガは、なんらかのシステム アクションを必要とするデータ変更を検出するために使用します。PeopleSoft では、休暇イベント入力ページから休暇欠勤イベント (レコード GP_ABS_EVENT) に変更を加えた場合に、そのオンラインでの変更が自動的に認識されるようにする遡及トリガと反復トリガを作成するよう推奨しています。トリガを作成しておけば、イベントを追加、削除、更新するたびに、遡及または反復処理が開始されます。

遡及処理の方法

休暇欠勤カレンダーの遡及処理は、"訂正" の遡及方法を使って実行されます。デルタは作成されません。

遡及処理によって、作成済みポジティブ入力結果と日次休暇欠勤データ (GP_RSLT_ABS) が新規バージョンで作成されます。たとえば、最初に処理された時点で休暇欠勤イベントが 1 月 1 日～5 日に発生した場合、イベントは 5 行の日次レコード データで表され、データにはそれぞれ "バージョン 1" と名前が付けられます。その後、終了日を 1 月 7 日に変更すると、"バージョン 2" の結果として 7 行が表示されます。

関連項目:

第 30 章、「トリガの設定」、1111 ページ

休暇欠勤データのレポート

このセクションでは、休暇欠勤処理結果レポートの作成方法について説明します。

休暇欠勤処理結果レポートの作成に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
休暇欠勤結果	GP_GPSQR01_PNL	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[レポート]、[休暇欠勤結果]、[休暇欠勤結果]	このレポートには、支給額、控除額、および累計に対する各給与計算の結果が表示されます。

休暇欠勤結果レポートの作成

休暇欠勤結果ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[レポート]、[休暇欠勤結果]、[休暇欠勤結果])。

言語

翻訳および日付と数字のフォーマットに使用される言語を定義します。

カレンダー グループ

レポートを作成する休暇欠勤処理のカレンダー グループを選択します。

注意: カレンダー グループを複数選択するには、少なくともカレンダーの 1 つが休暇欠勤カレンダーである必要があります。

レポート対象

[全カレンダー グループ]: 選択したカレンダー グループ ID に関連付けられた全支給グループと受給者についてレポートを作成する場合に選択します。

[指定された支給グループ]: 選択したカレンダーグループID に関連付けられた特定の支給グループについてレポートを作成する場合に選択します。選択すると、[支給グループ] フィールドへの入力が可能になります。レポートによって、休暇欠勤処理または給与計算実行のどちらに関連付けられた支給グループが選択できるかが決まります。

[指定された受給者]: 特定の受給者についてレポートを作成する場合に選択します。選択すると、[従業員 ID] フィールドへの入力が可能になります。

受給者のソート基準

受給者を従業員 ID または氏名のどちらでソートするかを指定します。

第 26 章

休暇欠勤セルフサービス機能の設定

この章では、休暇欠勤のセルフサービス トランザクションの設定タスクの概要と、以下の方法について説明します。

- 国別のセルフサービス休暇欠勤ルールの定義
- 休暇取得エレメント別のセルフサービス休暇欠勤ルールの定義
- セルフサービス休暇リクエストの予測ルールの定義
- セルフサービス休暇欠勤ページのテキストの表示または修正

関連項目:

第 11 章、「休暇欠勤管理について」、387 ページ

セルフサービスの設定タスクについて

受給者および管理者は、セルフサービス ページと呼ばれる Web ベースのブラウザ ページを使用して、休暇リクエストのオンライン入力、現在および将来の休暇欠勤残数の表示、休暇欠勤予測プロセスの実行を行うことができます。また、管理者は、セルフサービス ページを使用して、休暇リクエストを承認、却下、または差し戻すことができます。

セルフサービス ページで入力されたリクエストは、承認後、実際の休暇欠勤として扱われ、休暇取得プロセスに含まれます。

このセクションでは、前提条件と共通フィールド、および休暇欠勤のセルフサービス トランザクションの主な設定タスクの概要について説明します。

前提条件

休暇欠勤のセルフサービス トランザクションの休暇取得ルールを定義するには、どの休暇取得タイプをセルフサービスで使えるようにするかを指定する必要があります。指定の休暇欠勤タイプの休暇欠勤タイプ ページで、[セルフサービスでリクエスト可] チェック ボックスをオンにします。これにより、その休暇欠勤タイプを持つ休暇取得エレメントのセルフサービス ルールを定義できます。

参照: 第 12 章、「休暇欠勤エレメントの定義」、休暇欠勤タイプと理由の定義、 416 ページ。

この章で使用する共通フィールド

ステータス

休暇欠勤セルフサービスの新しい国別または休暇取得固有のルールを作成する場合、ルールのデフォルトのステータスは [アクティブ] です。ルールのステータスを [非アクティブ] に変更すると、入力済みだが未承認の休暇リクエストに影響する可能性があります。ルールのステータスを [非アクティブ] に変更する前に、このアクションが送信済みのリクエストにどのように影響するかを考慮してください。

休暇欠勤のセルフサービス トランザクションの設定タスク

休暇欠勤セルフサービスの設定タスクは以下のとおりです。

1. 国別のセルフサービス ルールを定義します。

国別のルールは、指定の国の全ての休暇取得エレメントに適用されます。国別のルールにより、セルフサービス ページの一部のフィールドの表示がコントロールされ、予測および残数照会プロセスをオンラインで利用できるユーザーが決定されます。国別にセルフサービス ルールのさまざまなセットを定義できます。

2. 各休暇取得エレメントのセルフサービス ルールを定義します。

セルフサービス ユーザーの使用を許可する休暇取得エレメントにはそれぞれ追加のルールセットを定義します。これらのルールは、半休等の休暇欠勤を許可するかどうか、休暇リクエストの承認要件、予測結果の表示方法、およびその他の使用ルールを指定します。

3. 予測結果に表示する休暇付与残数を選択します。

セルフサービス ユーザーが予測プロセスまたは休暇欠勤照会プロセスをオンラインで実行できるようにする場合は、セルフサービス ユーザーに表示する休暇付与残数を指定します。

4. (オプション) 必要に応じて、フィールド ラベルおよびページのテキストを修正します。

テキスト カタログには、フィールド ラベル、ボタン名、ハイパーリンク、ページ説明、警告など、セルフサービス ページで使用されるテキストが保存されています。このテキストは、テキスト カタログのエントリを編集することで修正できます。

注意: 手順 2 と手順 3 の順番は入れ替えることができます。

国別のセルフサービス休暇欠勤ルールの定義

休暇欠勤セルフサービス ページを使用するための国別のルールを定義するには、国別設定コンポーネント (GP_ABS_SS_CNTRY) を使用します。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 休暇付与残数を表示するフィールドの選択
- 休暇欠勤履歴を表示するフィールドの選択
- 予測のオプションおよびフィールドを選択します。
- 休暇残数エレメントを入力し、表示オプションを選択します。
- 休暇欠勤イベントの削除オプションの選択

国別のセルフサービス休暇欠勤ルールの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
休暇付与グリッド	GP_ABS_SS_CNTRY1	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[国別設定]、[休暇付与グリッド]	"休暇残数の表示" ページに表示される休暇付与フィールドを選択します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
履歴グリッド	GP_ABS_SS_CNTRY2	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[国別設定]、[履歴グリッド]	休暇リクエストの表示ページに表示される履歴フィールドを選択します。
予測グリッド	GP_ABS_SS_CNTRY3	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[国別設定]、[予測グリッド]	予測のオプションおよびフィールドを選択します。
残時間数	GP_BAL_ELIG_SS	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[国別設定]、[休暇残数]	休暇残数エレメントを入力し、表示オプションを選択します。
イベント入力	GP_ABS_EVT_ENTRY	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[国別設定]、[イベント入力]	休暇イベント入力ページで休暇欠勤入力を削除するための削除オプションを選択します。

休暇付与残数を表示するフィールドの選択

休暇付与グリッド ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[国別設定]、[休暇付与グリッド])。

休暇付与グリッド履歴グリッド(H)予測グリッド(G)休暇残数(B)イベント入力(E)

国: CYM ケイマン諸島

休暇付与

検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

*有効日: 1990/01/01 *ステータス: アクティブ

休暇付与残数

☒ 累積期間☒ 開始日☒ 終了日

休暇付与ユーザー キー

☒ ユーザー キー 1☒ ユーザー キー 2☒ ユーザー キー 3☒ ユーザー キー 4☐ ユーザー キー 5☐ ユーザー キー 6

休暇付与グリッド ページ

このページの各フィールドは、"休暇残数の表示" ページに表示される項目をコントロールします。

累積期間

休暇付与残数の累計期間、たとえば**年間累計**または**月間累計**を表示する場合に選択します。(エレメント <エレメント名> の累計期間で休暇付与累計の期間を定義します休暇残数ページで休暇付与累計を選択します)。

開始日 、 終了日

累積期間の開始日と終了日を表示する場合にオンにします。

ユーザー キー 1 ~ ユーザー キー 6

休暇付与累計に関連付けられた、最大 6 つのユーザー キーの値を表示する場合にオンにします (ユーザー キー値は休暇付与エレメントの自動作成累計ページで定義します)。

休暇欠勤履歴を表示するフィールドの選択

履歴グリッド ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[国別設定]、[履歴グリッド])。

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

1023

休暇付与リクエスト履歴リクエスト(H)予測リクエスト(G)休暇残数(B)イベント入力(E)

国: CYM ケイマン諸島

休暇リクエスト履歴

検索 | 全件表示 最初 1/1 最後

有効日: 1990/01/01 *ステータス: アクティブ

履歴グリッド

☒ デフォルト履歴期間

現在の日付より前の日数: 90

現在の日付より後の日数: 90

☒ 申請者

☒ 期間

履歴グリッド ページ

このページの各フィールドは、休暇リクエストの表示ページに表示される項目をコントロールします。

デフォルト履歴期間

過去の休暇欠勤イベントを表示するデフォルトの日付範囲を定義する場合にオンにします。このチェック ボックスをオンにすると、現在の日付より前の 90 日と現在の日付より後の 90 日が表示されます。

注意: ユーザーは、"休暇リクエストの表示" ページの [開始日] フィールドと [終了日] フィールドを編集することで、この日付の範囲外の日付を選択できます。

現在の日付前の日数、現在の日付後の日数

過去の休暇欠勤イベントを表示するデフォルトの日付範囲を修正する場合にこれらのフィールドを使用します。

申請者

各リクエストを送信した人のロール (従業員、休暇管理者、管理者) を示す列を表示する場合に選択します。名前は表示されません。デフォルトでは、このチェック ボックスはオンになっています。

期間

休暇欠勤イベントの期間を表示する場合にオンにします。デフォルトでは、このチェック ボックスはオンになっています。

予測のオプションおよびフィールドの選択

予測グリッド ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[国別設定]、[予測グリッド])。

休暇付与グリッド^o

履歴グリッド^o(H)

予測グリッド^o(G)

休暇残数(B)

イベント入力(E)

国: CYM ケイマン諸島

休暇欠勤予測

検索 | 全件表示 最初 1/1 最後

有効日: 1990/01/01

*ステータス: アクティブ

予測オプション

☒ 予測リクエスト可

☒ 予測残数の照会可

累計結果

☒ 開始日

☒ 終了日

累計ユーザー キー

☒ ユーザー キー 1

☒ ユーザー キー 2

☒ ユーザー キー 3

☒ ユーザー キー 4

☐ ユーザー キー 5

☐ ユーザー キー 6

予測グリッド ページ

このページの全てのチェック ボックスはデフォルトでオンになっています。

- 予測リクエスト可

セルフサービス ユーザーが休暇欠勤予測プロセスをオンラインで実行できるようにする場合にオンにします。これにより、従業員と管理者の休暇リクエスト ページに [予測残数] ボタンが表示されるようになります。
- 予測残数の照会可

セルフサービス ユーザーが指定の休暇取得エレメントの予測プロセスを実行するには、その休暇取得エレメントの国別取得ルールでも予測を許可する必要があります ([予測可] チェック ボックスを休暇取得エレメントの予測メッセージ ページでオンにする必要があります)。
- セルフサービス ユーザーが残数照会プロセスをオンラインで実行できるようにする場合にオンにします。これにより、[予測残数] リンクが休暇リクエスト ページと "休暇残数の表示" ページに表示されるようになります。

- 開始日、終了日

予測した期間の開始日と終了日を予測結果に表示する場合にオンにします。
- ユーザー キー 1 ~ ユーザー キー 6

予測した休暇付与エレメントの累計に対して定義されたユーザー キーの値を表示する場合にオンにします。

休暇残数エレメントの入力と表示オプションの選択

休暇残数ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[国別設定]、[休暇残数])。

休暇付与クレジット履歴クレジット(H)予測クレジット(G)休暇残数(B)イベント入力(E)					
国: CYM cayman諸島					
残数定義					
カスタマイズ 検索 最初 1-7/7 最後					
有効日	エレメント名	名称	ユニット タイプ	ゼロの場合に結果を表示	
1990/01/01 31	KDAE PTO	PTO	時間	<input checked="" type="checkbox"/>	+ -
1990/01/01 31	KDAE SCK 50	Sickness 50	日	<input checked="" type="checkbox"/>	+ -
1990/01/01 31	KDAE BEREAV	Bereavement	時間	<input checked="" type="checkbox"/>	+ -
1990/01/01 31	KDAE SICK	Sick	時間	<input checked="" type="checkbox"/>	+ -
1990/01/01 31	KDAE VAC	Vacations Entitlement	時間	<input checked="" type="checkbox"/>	+ -
1990/01/01 31	KDAELD VAC	Orig Vacation Entlmt	時間	<input checked="" type="checkbox"/>	+ -
1990/01/01 31	KDAELD SCK	Orig Sick Entitlement	時間	<input checked="" type="checkbox"/>	+ -

休暇残数ページ

このページの各フィールドは、セルフサービス コンポーネントの休暇残数の表示ページに表示される項目をコントロールします。

- 有効日

残数累計の日付が "休暇残数の表示" ページに表示されます。
- エレメント名

表示する休暇付与残数の累計エレメントを選択します。
- ユニット タイプ

セルフサービス ページに表示されるユニットとして [日] または [時間] のいずれかを選択します。これらのユニットは、ユーザーが休暇付与残数を確認する際に表示されます。

注意:

休暇取得エレメントに定義されているユニット タイプと同じユニット タイプを選択します。

ゼロの場合に結果を表示

その累計に残数がない場合に、休暇残数の表示ページにエレメントを表示する場合にオンにします。従業員への休暇付与プロセスが最後に実行された時点での残数が表示されます。

休暇欠勤イベントの削除オプションの選択

イベント入力ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[国別設定]、[イベント入力])。

国: CYM ケイマン諸島

イベント入力 検索 | 全件表示 最初 1/1 最後

有効日: 1990/01/01 *ステータス: アクティブ

削除オプション: 全てのイベント

イベント入力ページ

このページのフィールドは、休暇イベント入力ページの削除オプションを制御します。

削除オプション

休暇イベント入力ページで削除できる休暇欠勤イベントを指定する値を選択します。有効値は [全てのイベント]、[最終決定済を除く全てのイベント]、および [処理済を除く全てのイベント] です。休暇イベント入力ページでは、[削除オプション] の示す基準を満たさない全ての行に対して、[削除] ボタンを使用できません。

関連項目:

第 25 章、「休暇欠勤の入力と処理」、休暇欠勤イベントの入力、更新、および無効化、 979 ページ

休暇取得エレメント別のセルフサービス休暇欠勤ルールの定義

休暇取得固有のセルフサービス休暇欠勤ルールを定義するには、国別休暇取得設定コンポーネント (GP_ABS_BAL_SS_DEF) を使用します。

このセクションでは、PeopleSoft 提供の承認プロセス ID と承認フレームワーク イベントの概要、休暇欠勤期間と終了日計算、予測メッセージ、および以下の項目について説明します。

- 休暇リクエストのユニット、管理ルール、および表示ルールの定義
- 休暇欠勤日の入力ルールの定義
- 表示するユーザー フィールドの定義
- 予測ルールと予測メッセージの選択
- 予測メッセージのカスタマイズ

PeopleSoft 提供の承認プロセス ID と承認フレームワーク イベントについて

承認プロセス ID により、休暇リクエストの送信、承認、却下、差し戻しのリクエストが承認者、申請者、休暇欠勤管理者の間でどのように経路指定されるのかが決まります。ユーザーによるアクションを必要とする休暇欠勤のセルフサービス トランザクションは、ユーザーのワークリストと電子メールの両方に表示されます。電子メール メッセージの内容は、PeopleTools のワークフローの通知コンポーネントに含まれる汎用テンプレート ページを使用して定義します。どの電子メール テンプレートを使用するかは、ユーザーのロール (承認者、申請者、または管理者)、および承認フレームワーク イベントに応じて異なります。

休暇欠勤管理のために提供されている承認プロセス ID

以下の表は、提供されている承認プロセス ID を一覧表示しています。

承認プロセス ID	説明
AbsenceManagement	休暇欠勤セルフサービス
Absence_Mgmt_ByDeptManager	部門管理者による休暇欠勤管理
Absence_Mgmt_ByPosMgmt	ポジション管理による休暇欠勤管理
Absence_Mgmt_ByPosnDeptMgr	ポジション部門管理者別の承認 ID

承認プロセス ID	説明
Absence_Mgmt_ByPosnSupervisor	ポジション監督者による休暇欠勤管理
Absence_Mgmt_BySupervisorId	監督者 ID による休暇欠勤管理

休暇欠勤管理セルフサービス トランザクションの電子メール通知テンプレート

以下の表は、承認フレームワーク イベントに基づいて各ロールに使用される電子メール テンプレート名を一覧表示しています。

承認フレームワーク イベント	申請者テンプレート	承認者テンプレート	管理者テンプレート	休暇リクエスト アクション ボタン
Launch	GP_ABS_SS_SUB			送信
承認		GP_ABS_SS_APPR_READY		送信
OnApprove	GP_ABS_SS_APPR	GP_ABS_SS_APPR		承認
OnDeny	GP_ABS_SS_DNY	GP_ABS_SS_DNY		却下
Back		GP_ABS_SS_WRK		[差戻し] (承認に複数のレベルが存在する場合に使用。たとえば、承認者 2 が承認者 1 へ差戻しを行う場合)
Terminate	GP_ABS_SS_WRK			差戻し
エラー			GP_ABS_SS_ERR	なし

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: Workflow Technology の「Using Notification Templates」

休暇欠勤期間と終了日計算について

定義するルールに基づいて、ユーザーが休暇リクエストを入力した際に、休暇欠勤イベントの期間または終了日の自動計算が行われます。ユーザーが休暇リクエスト ページでボタンをクリックすると計算が行われます。

以下の項目は、休暇欠勤期間または終了日の計算に影響を与える可能性があります。

- 半休などの休暇欠勤

ユーザーは、休暇欠勤イベントの開始日、期間中全て、終了日、または開始日と終了日に対して半休などの休暇欠勤を適用するかどうかを指定できます。

- 休暇取得フォーミュラ

組織が休暇取得処理用に定義したフォーミュラが時間指定を認識しない場合、ユーザーは半休など等の休暇欠勤を入力できますが、それらは計算で使用されません。

- 休日と非勤務日

休暇欠勤を休日または非勤務日に開始または終了できるようにする場合に指定します。また、終了日または期間 (あるいはその両方) を基にした計算ルールを指定します。

- ユニット タイプ

休暇欠勤ページの [ユニット タイプ] フィールドで休暇欠勤に定義されているユニット タイプが [日] である場合、休暇欠勤イベントに記録された時間指定は休暇欠勤期間と終了日の計算では無視されます。

[ユニット タイプ] に [時間] を指定した休暇欠勤の計算

休暇欠勤の [ユニット タイプ] が [時間] に定義されている場合、休暇欠勤イベントの終了日と期間の自動計算は以下のように実行されます。

- 終了日

終了日の計算では、[期間] フィールドに入力された時間が、開始日を先頭に、予定時間に対して日付ごとに適用されます。時間指定休暇と半日休暇は計算要素に含まれます。終了日の時点で残数が負の数値であれば (終了日の予定時間が残り時間を超えている場合)、終了日の指定時間は時間の差異を反映するように調整されます。

[全ての日に適用] チェック ボックスがオンになっていて、休暇欠勤期間の時間数を時間指定の時間数で均等に分割できない場合、またはこのチェック ボックスがオンになっていて、半日が選択され、休暇欠勤期間の時間数が全ての勤務予定時間数の合計を 2 で割ったものでない場合には、エラーが返されます。

- 期間

リクエストされた休暇欠勤日に対する予定時間数が合計され、合計が半休等または半日休暇に合わせて調整されます。

例 1: 終了日の計算

月曜から金曜まで、1 日 8 時間勤務を想定します。土曜日と日曜日は非勤務日です (勤務時間ゼロ)。ある従業員が、開始日が 1 月 7 日 (水曜日)、期間が 24 時間の休暇リクエストを入力しました。休暇取得は時間単位で定義します。以下の表は、自動計算で導き出された、各種のシナリオでの休暇欠勤期間を示しています。

開始日	期間	開始日、 時間指定	半日、開 始日	全ての日	終了日、 時間指定	半日、終 了日	終了日	コメント
01/07/2004	24	0	N	N	0	N	01/09/2004	8 時間/水曜日、木曜日、金曜日
01/07/2004	24	3	N	N	5	N	01/12/2004	3 時間/水曜日 (開始日)、8 時間/2 日間、0 時間/土曜日、日曜日、5 時間/月曜日 (終了日)

開始日	期間	開始日、 時間指定	半日、開 始日	全ての日	終了日、 時間指定	半日、終 了日	終了日	コメント
01/07/2004	24	0	Y	N	4	N	01/12/2004	4 時間/水曜日 (開始日)、8 時間/2 日間、0 時間/土曜日、日曜日、4 時間/月曜日 (終了日)
01/07/2004	24	0	N	Y/全ての 日が 4 時 間	0	N	01/14/2004	4 時間/水曜日、木曜日、金曜日、0 時間/土曜日、日曜日、4 時間/月曜日、火曜日、水曜日
01/07/2004	24	0	N	Y/全て半 日	0	N	01/14/2004	4 時間/水曜日、木曜日、金曜日、0 時間/土曜日、日曜日、4 時間/月曜日、火曜日、水曜日
01/07/2004	24	0	N	Y/全ての 日が 5 時 間	0	N	エラー	24 は 5 で割り切れない
01/07/2004	5	5	N	N	0	N	01/07/2004	24 は 5 で割り切れない

例 2: 期間の計算

月曜から金曜まで、1 日 8 時間勤務を想定します。土曜日と日曜日は非勤務日です (勤務時間ゼロ)。ある従業員が休暇リクエストを入力し、その開始日と終了日を指定しました。休暇取得は時間単位で定義します。以下の表は、自動計算で導き出された、各種のシナリオでの休暇欠勤期間を示しています。

開始日	終了日	開始日、 時間指定	半日、開 始日	全ての日	終了日、 時間指定	半日、終 了日	期間	コメント
01/05/2004	01/08/2004	0	N	N	0	N	32	8 時間/月曜日、火曜日、水曜日、木曜日
01/05/2004	01/08/2004	3	N	N	0	N	27	3 時間/月曜日、8 時間/火曜日、水曜日、木曜日
01/05/2004	01/08/2004	0	N	N	3	N	27	8 時間/月曜日、火曜日、水曜日、3 時間/木曜日
01/05/2004	01/08/2004	3	N	N	3	N	22	3 時間/月曜日、8 時間/火曜日、水曜日、3 時間/木曜日
01/05/2004	01/08/2004	0	N	Y/全ての 日が 3 時間	0	N	12	3 時間/月曜日、火曜日、水曜日、木曜日
01/05/2004	01/08/2004	0	Y	N	0	N	28	4 時間/月曜日、8 時間/火曜日、水曜日、木曜日
01/05/2004	01/08/2004	0	N	N	0	Y	28	8 時間/月曜日、火曜日、水曜日、4 時間/木曜日

開始日	終了日	開始日、 時間指定	半日、開 始日	全ての日	終了日、 時間指定	半日、終 了日	期間	コメント
01/05/2 004	01/08/2 004	0	Y	N	0	Y	24	4 時間/月曜 日、8 時間 /火曜日、水 曜日、4 時 間/木曜日
01/05/2 004	01/08/2 004	0	N	Y/全て半 日	0	N	16	4 時間/月曜 日、火曜 日、水曜 日、木曜日
01/05/2 004	01/10/2 004	0	N	N	0	Y	40	8 時間/月曜 日、火曜 日、水曜 日、木曜 日、金曜 日、0 時間 /土曜日
01/04/2 004	01/08/2 004	0	Y	N	0	N	32	0 時間/日曜 日、8 時間 /月曜日、火 曜日、水曜 日、木曜日
01/04/2 004	01/10/2 004	0	N	Y/全て半 日	0	N	20	0 時間/日曜 日、4 時間 /月曜日、火 曜日、水曜 日、木曜 日、0 時間 /土曜日

予測メッセージについて

セルフサービス ユーザーが予測プロセスをオンラインで実行できるようにする場合は、そのプロセスの終了時に表示するメッセージを定義できます。テキスト カタログを使用して、正常終了メッセージ、警告メッセージ、エラー メッセージという最大で 3 つのメッセージのテキストを定義できます。休暇付与エレメントの予測フォーミュラでは、各メッセージを発行する条件を指定します。各条件に対して返される値を、テキスト カタログで定義したメッセージにそれぞれマッピングします。

予測メッセージを定義するには、次の手順に従います。

1. テキスト カタログを使用して、正常終了、警告、エラーという各予測結果に対してステータスメッセージまたは説明、あるいはその両方を定義します。
2. "メッセージのカスタマイズ" ページを使用して、各メッセージ タイプ (正常終了、警告、エラー) を、予測フォーミュラによって返される値にマッピングし、テキスト カタログから表示するテキストを指定します。

休暇取得エレメント別のセルフサービス休暇欠勤ルールの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
休暇欠勤	GP_ABS_ELIG_SS	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[国別休暇取得設定]、[休暇欠勤]	特定の休暇取得エレメントと国に対して休暇欠勤ユニット (日数または時間数)、リクエストを送信および承認できるユーザー、キャンセルされたリクエストをどう処理するか、および半休等の休暇欠勤を許可するかどうかを定義します。また、休暇欠勤理由と休暇残数を表示するかどうかを指定できます。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
日付のルール	GP_ABS_ELIG2_SS	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[国別休暇取得設定]、[日付のルール]	休暇欠勤が休日または非勤務日に開始または終了できるかどうか、および休暇欠勤の終了日または期間を自動計算するかどうかなど、休暇欠勤日の入力ルールを定義します。
ユーザー フィールド	GP_ABS_ELIG3_SS	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[国別休暇取得設定]、[ユーザー フィールド]	ユーザー フィールドを定義します。
予測メッセージ	GP_ABS_ELIG4_SS	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[国別設定]、[予測メッセージ]	予測ルールを定義します。
メッセージの表示	GP_ABS_ELIG42_SEC	予測メッセージ ページで [メッセージの表示] リンクをクリックします。	オンラインの予測プロセスによって返されるデフォルトのメッセージを表示します。
メッセージのカスタマイズ	GP_ABS_ELIG4_SEC	予測メッセージ ページで [メッセージのカスタマイズ] リンクをクリックします。	オンラインの予測プロセスによって返されるメッセージをカスタマイズします。
設定	GP_ABS_ELIG5_SS	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[国別休暇取得設定]、[設定]	設定可能セクション テンプレートを延長された休暇欠勤コンポーネントにリンクし、テンプレートへのアクセスを定義します。

休暇リクエストのユニット、管理ルール、および表示ルールの定義

休暇欠勤ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[国別休暇取得設定]、[休暇欠勤])。

休暇欠勤(A)		日付のルール(D)		ユーザー フィールド(U)		予測メッセージ(E)		設定(C)	
国:	CYM	ケイマン諸島							
休暇取得:	KOWAT SICK TAKE	Sick							
<div> <div>セルフサービス ルール</div> <div> <div>検索 全件表示 最初 1/1 最後</div> <div> <div>*有効日:</div> <div>1990/01/01</div> <div>日</div> </div> <div> <div>*ステータス:</div> <div>アクティブ</div> <div>+</div> <div>-</div> </div> </div> </div>									
<div> <div>ユニット タイプ:</div> <div>時間</div> </div>									
<div> <div>管理ルール</div> <div> <div>*リクエスト可能なロール:</div> <div>従業員と管理者</div> </div> <div> <div>*使用ルール:</div> <div>従業員</div> </div> <div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 使用ルール上書き</div> <div>キャンセル オプション:</div> <div>レコードのステータスを変更</div> </div> <div> <div>承認プロセス ID:</div> <div>Absence_Mgmt_BySupervisorId</div> </div> <div> <div>承認定義 ID:</div> <div>SHARE</div> </div> <div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 勤務管理での入力を許可</div> <div><input type="checkbox"/> 延長休暇としての入力を許可</div> </div> </div>									
<div> <div>ページ表示ルール</div> <div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 理由の表示</div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 理由必須</div> </div> <div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 現在の残数の表示</div> <div>現在残数累計:</div> <div>KOWAE SICK_BAL</div> </div> <div> <div>残数表示オプション:</div> <div>サマリなし</div> </div> <div> <div><input type="checkbox"/> 元の開始日の表示</div> </div> <div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 半休等の許可</div> <div>*半休等指定オプション:</div> <div>時間指定</div> </div> </div>									

休暇欠勤ページ

セルフサービス ルール

ユニット タイプ

セルフサービス ページに表示されるユニットとして [日] または [時間] のいずれかを選択します。これは、ユーザーが休暇をリクエストした際に入力するユニットです。

注意: 休暇取得エレメントに定義されているユニット タイプと同じユニット タイプを選択します。

管理ルール

リクエスト可能なロール

セルフサービス ページからこの休暇取得エレメントに対して休暇をリクエストできるユーザーを指定します。[従業員]、[従業員と管理者] (デフォルト)、[管理者] から選択できます。

使用ロール

この休暇取得エレメントを管理者セルフサービス ページで "従業員" または "管理者" としてリクエストできるかどうか、あるいは "適用なし" であるかを指定します。

使用ロール上書き

選択されている使用ロール オプションを管理者セルフサービス ページで上書きできるかどうかを指定します。

承認プロセス ID

国と休暇取得エレメントで使用する承認プロセス ID を選択します。承認プロセス ID は、承認プロセスの実行と、承認プロセスと承認フレームワークとの統合を制御する技術的な定義のことです。また、通知 (電子メールとワークリスト) は、承認プロセス ID 内に定義されます。

承認定義 ID

承認フレームワークの設定に基づいて、この承認タイプに対応する ID を選択します。PeopleSoft では、1 つの承認定義 ID を用意しており、これは提供されている 6 つのプロセス ID で使用されます。国レベルでのセルフサービス休暇取得エレメントの定義 ID の選択内容は、会社がどのように直属の部下を設定しているかに応じて異なります。

このフィールドへの入力はい任意です。また、このフィールドに値を入力しないで、管理ルールを設定することもできます。定義 ID を持たない休暇取得を定義すると、従業員または管理者が休暇欠勤セルフサービス ページでこの休暇取得エレメントを選択した場合に、承認フレームワークは使用されません。

注意: 承認を必要としない休暇リクエストの場合は、[承認プロセス ID] と [承認定義 ID] を空欄のままにします。空欄のままにすると、休暇リクエストはユーザーが送信すると自動的に承認されます。

キャンセル オプション	<p>休暇リクエストがキャンセルされたときの処理方法を指定します。オプションは、以下のとおりです。</p> <p>[レコードのステータスを変更]: (デフォルト) リクエストのステータスを [キャンセル] に変更する場合にオンにします。リクエストのステータスが [キャンセル] に設定されていると、そのリクエストにはアクセスできません。</p> <p>[データベースから削除]: データベースからリクエストを削除する場合にオンにします。</p>
勤務管理での入力を許可	PeopleSoft 勤務管理のタイムシート ページで休暇欠勤イベントの入力を許可する場合にオンにします。
延長休暇としての入力を許可	ユーザーが休暇取得を拡張休暇として選択できるようにする場合に選択します。[勤務管理での入力を許可] フィールドと [延長休暇としての入力を許可] フィールドの両方を選択することはできません。
ページ表示ルール	
理由の表示	セルフサービス ユーザーが休暇欠勤の理由を指定できるようにする場合にオンにします。デフォルトではこのチェック ボックスはオンになっています。
理由必須	ユーザーが休暇欠勤の理由を必ず入力するようにする場合にオンにします。
現在の残数の表示	休暇リクエスト ページで最後に最終決定された休暇欠勤実行を基準に、休暇付与エレメントの残数を表示する場合に選択します。残数には、ユーザーがリクエストしているユニット数は反映されていません。このチェック ボックスはデフォルトでオフに設定されます。
現在残数累計	[現在の残数の表示] チェック ボックスをオンにした場合は、この休暇取得エレメントの現在の残数を保存する累計エレメントを選択します。

残数表示オプション

異なるユーザー キーを持つ累計の複数のインスタンスが存在する場合に、現在の残数として表示する値を指定します。

以下のオプションの中から 1 つを選択します。

[サマリなし] (デフォルト): 現在の残数を表示するルールが非常に複雑な場合にこのオプションを使用してください。累計のメンバーとなるエレメントの値を集計する累計を作成してください。その累計の最新のインスタンスの値が表示されます。

[サマリ]: 複数のインスタンスの合計を表示する場合にこのオプションを選択します。

元の開始日の表示

休暇リクエスト ページに [元の開始日] フィールドを表示する場合にオンにします。

半休等の許可

このチェック ボックスは、[半休等指定オプション] フィールドと共に使用します。休暇欠勤で半休を許可する場合にオンにします。

半休または時間指定の休暇欠勤が許可されない場合は、このチェック ボックスをオンにしないでください。

半休等指定オプション

このフィールドは、[半休等の許可] チェック ボックスをオンにした場合に使用できます。オプションは、以下のとおりです。

- [半日]: ユーザーは半日の休暇欠勤のリクエストを入力するチェック ボックスを選択できます。ユーザーのスケジュールを参照して休暇欠勤の時間数が決定されます。
- [時間指定]: ユーザーは休暇欠勤時間数を入力することで半休等の休暇欠勤をリクエストできます。これがデフォルトの設定です。
- [時間指定と半日]: ユーザーは半日休暇のチェック ボックスをオンにするか、時間数を入力することで半休等の休暇欠勤をリクエストできます。
- [半休等の許可] チェック ボックスがオフになっている場合は、[なし] がデフォルト値です。

次の例では、[サマリ] オプションは KOAE PTO 累計に対して値 20 を返します。

累計	開始日	終了日	ユーザー キー 1	ユーザー キー 2	値
KOAE PTO	2000 年 1 月 1 日	2000 年 12 月 31 日	CIA A	支給グループ A	5
KOAE PTO	2001 年 1 月 1 日	2001 年 12 月 31 日	CIA A	支給グループ A	8
KOAE PTO	2002 年 1 月 1 日	2002 年 7 月 31 日	CIA B	支給グループ B	4
KOAE PTO	2002 年 8 月 1 日	2002 年 12 月 31 日	CIA B	支給グループ B	2
KOAE PTO	2003 年 1 月 1 日	2003 年 12 月 31 日	CIA B	支給グループ XYZ	1

休暇欠勤日の入力ルールの定義

"日付のルール" ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバルペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[国別休暇取得設定]、[日付のルール])。

休暇欠勤(A)

日付のルール(D)

ユーザー フィールド(U)

予測メッセージ(F)

設定(C)

国: CYM クイアン諸島

休暇取得: KOWAT SICK TAKE Sick

セルフサービス ルール

検索 | 全件表示 最初 1/1 最後

有効日: 1990/01/01 ステータス: アクティブ

開始日と終了日のルール

☒ 休日の開始/終了を許可
 ☒ 非勤務日の開始/終了を許可

計算ルール

終了日と期間のルール

☒ 終了日の計算
 ☒ 期間の計算
 終了日と期間の入力時に再計算: 終了日

除外ルール

☐ 休日を除外
 ☒ 非勤務日を除外

"日付のルール" ページ

開始日と終了日のルール

休日の開始/終了を許可 リクエストの開始日または終了日が休日に当たることを許可する場合にオンにします。デフォルトでは、このチェック ボックスはオンになっています。

非勤務日の開始/終了を許可 リクエストの開始日または終了日が、従業員が勤務する予定でない日に当たることを許可する場合にオンにします。デフォルトでは、このチェック ボックスはオンになっています。

計算ルール

ここで選択するオプションによって、[終了日の計算] ボタン、[期間の計算] ボタン、または [終了日または期間の計算] ボタンが休暇リクエスト ページに表示されるようになります。

参照: 第 26 章、「休暇欠勤セルフサービス機能の設定」、休暇欠勤期間と終了日計算について、[1030 ページ](#)。

終了日の計算 [終了日の計算] ボタンを表示する場合にオンにします。休暇リクエストの入力時に、ユーザーは休暇欠勤の開始日と期間を入力する必要があります。[終了日の計算] ボタンをクリックすると、終了日が自動的に計算され、表示されます。これはデフォルトの設定です。

期間の計算 [期間の計算] ボタンを表示する場合にオンにします。休暇リクエストの入力時に、ユーザーは休暇欠勤の開始日と終了日を入力する必要があります。[期間の計算] ボタンをクリックすると、期間が自動的に計算され、表示されます。

終了日と期間の入力時に再計算 このフィールドでの指定により、ユーザーが休暇リクエストを入力する際に、[終了日] フィールドと [期間] フィールドの両方に値を入力した場合にどのように処理するかをコントロールします。

- [終了日] を選択すると、このフィールドは再計算されます。
- [期間] を選択すると、このフィールドは再計算されます。

休日を除外

リクエストされた休暇欠勤イベントに対する終了日や期間の計算から休日が除外する場合にオンにします。

注意: PeopleSoft 勤務管理を使用している場合、このフィールドは勤務時間管理処理にも影響します。このチェック ボックスをオフにすると、勤務時間管理処理により、受給者の勤務スケジュールの非勤務日の期間フィールドに基づいて、非勤務日の時間が作成されます。

非勤務日を除外

リクエストされた休暇欠勤イベントに対する終了日や期間の計算から受給者のスケジュールにある非勤務日が除外する場合にオンにします。

注意: PeopleSoft 勤務管理を使用している場合、このフィールドは勤務時間管理処理にも影響します。このチェック ボックスをオフにすると、勤務時間管理処理により、受給者の勤務スケジュールの休日の時間が作成されます。

ユーザー フィールドの定義

ユーザー フィールド ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[国別休暇取得設定]、[ユーザー フィールド])。

休暇欠勤(A)

日付のルール(D)

ユーザー フィールド(U)

予測メッセージ(E)

設定(C)

国:

CYM

クイマン諸島

休暇取得:

KOWAT SICK TAKE

Sick

セルフサービス ルール

検索 | 全件表示

最初 1/1 最後

有効日:

1990/01/01

ステータス:

アクティブ

☒ ユーザー フィールドの表示

ユーザー フィールド

フィールド 1 フォーマット:	文字列	ラベル 1:	Health Care Provider	<input type="checkbox"/> フィールド 1 必須
フィールド 2 フォーマット:	文字	ラベル 2:	PCP	<input type="checkbox"/> フィールド 2 必須
フィールド 3 フォーマット:	10 進数	ラベル 3:	Copayment	<input type="checkbox"/> フィールド 3 必須
フィールド 4 フォーマット:		ラベル 4:		<input type="checkbox"/> フィールド 4 必須

ユーザー フィールド ページ

ユーザー フィールドの表示 休暇リクエスト ページに最大で 4 つのユーザー定義フィールドを表示する場合にオンにします。

ユーザー フィールド

休暇リクエスト ページに表示するフィールドを最大 4 つまで定義できます。これらのフィールドにより、休暇欠勤の管理に必要な、その他のデータを集めることができます。これらのフィールドをシステム エlement として使用してルールに埋め込み、ユーザーが入力した情報を使用して特定のタスクを実行できます。

定義する各フィールドに対し、フォーマット、フィールド ラベル、入力必須フィールドかどうかの指定を行います。

フィールド <番号> フォー [文字列]、[日付]、[10 進数]、[金額] のいずれかを選択します。
マット

ラベル <番号> 英数字で 30 字以内のフィールド名を入力します。ユーザー フィールドを休暇欠勤の詳細ページに表示するには、ラベルの入力が必要です。

フィールド <番号> 必須 フィールドへの入力が必要である場合にオンにします。

予測ルール の定義

予測メッセージ ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバルペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[国別設定]、[予測メッセージ])。

休暇欠勤(A)日付のルール(D)ユーザー フィールド(U)予測メッセージ(F)設定(C)

国:CYMクイマン諸島

休暇取得:KOWAT SICK TAKE Sick

セルフサービス ルール

検索 | 全件表示 最初1/1最後

有効日:1990/01/01

ステータス:アクティブ

予測ルール

☒ 予測可

送信ルール:従業員と管理者

承認ルール:管理者

☐ 送信前の予測必須

☐ 承認前の予測必須

予測メッセージ

☒ デフォルト メッセージ

☐ カスタム メッセージ

☐ 警告の許可

☐ エラーの許可

メッセージの表示

メッセージのカスタマイズ

警告時の送信可:適用なし

エラー時の送信可:適用なし

予測メッセージ ページ

予測ルール

予測可

セルフサービス ユーザーが予測プロセスをオンラインで実行できるようにする場合にオンにします。[予測残数] ボタンが休暇リクエスト ページに表示されます。このチェック ボックスはデフォルトでオフに設定されます。

注意: セルフサービス ユーザーが予測プロセスを実行するには、その休暇取得エレメントの国別ルールでも予測を許可する必要があります (予測グリッド ページで [予測リクエスト可] チェック ボックスがオンになっている必要があります)。

送信ロール

休暇リクエストを送信する前に予測が必須である場合は、プロセスを実行するユーザーを指定します。[従業員]、[管理者]、[従業員と管理者]、[適用なし] (デフォルト) から選択できます。

このフィールドは、[送信前の予測必須] チェック ボックスと共に使用します。[送信前の予測必須] チェック ボックスをオンにした場合は、このフィールドでロールを指定する必要があります。

送信前の予測必須

休暇リクエストを送信する前に予測プロセスの実行を必須とする場合にオンにします。このチェック ボックスはデフォルトでオフに設定されます。ルールによっては、予測プロセスの結果に応じてリクエストを送信できるかどうか判断されます。

ユーザーが最初に休暇付与残数を予測せずに休暇リクエスト ページで [送信] をクリックすると、ユーザーにはエラー メッセージが表示されます。

承認ロール

予測が必須である場合、予測プロセスを実行するユーザーを指定します。[管理者] および [適用なし] から選択できます。

承認前の予測必須

休暇リクエストを承認する前に予測プロセスのオンライン実行を必須とする場合にオンにします。

予測メッセージ

予測プロセス終了時に予測が正常に完了したことを通知するメッセージが表示されます。カスタマイズしたメッセージを作成して表示することもできます。予測プロセスが正常終了したとき、警告を作成するとき、またはエラーが発生したときで異なるメッセージを表示することができます。正常終了、警告、またはエラー メッセージを発行する基準を定義します。

**デフォルト メッセージ、
メッセージの表示**

ユーザーが予測プロセスを実行した後に、デフォルト メッセージを表示する場合にオンにします。"メッセージの表示" ページにアクセスしてデフォルト メッセージを確認する場合は、[メッセージの表示] リンクをクリックします。正常終了した予測とシステム エラーにデフォルト メッセージがあります。

カスタム メッセージ

ユーザーが予測プロセスをオンラインで実行した後に、カスタマイズしたメッセージを表示する場合にオンにします。

- 警告の許可、 警告時の送信可

予測プロセスで警告が出されてもユーザーが休暇リクエストを送信できるようにする場合にオンにします。[警告時の送信可] フィールドで、警告があってもリクエストを送信できるユーザーを指定します。[従業員]、[管理者]、[従業員と管理者] (デフォルト)、および [適用なし] から選択できます。
- エラーの許可、 エラー時の送信可

予測プロセスでエラーが出されてもユーザーが休暇リクエストを送信できるようにする場合にオンにします。[エラー時の送信可] フィールドで、エラーがあってもリクエストを送信できるユーザーを指定します。[従業員]、[管理者]、[従業員と管理者] (デフォルト)、および [適用なし] から選択できます。

予測メッセージのカスタマイズ

"メッセージのカスタマイズ" ページにアクセスします (予測メッセージ ページで [メッセージのカスタマイズ] リンクをクリックします)。

メッセージのカスタマイズ

国: CYM クイマン諸島

エレメント名: KOWAT SICK TAKE

有効日: 1990/01/01

カスタム メッセージ クリット

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

メッセージ タイプ	予測値	表示オプション	ステータス テキスト ID	説明テキスト ID
<div></div>	<div></div>	<div>ステータス</div>	<div></div>	<div></div>

"メッセージのカスタマイズ" ページ

- メッセージ タイプ

定義するメッセージのタイプを [エラー]、[正常終了]、または [警告] から選択します。
- 予測値

このメッセージの表示のトリガとなる予測プロセス (予測フォーミュラ) の戻り値を入力します。このフィールドには 20 文字 (休暇管理の文字エレメントの最大フィールド長) までの英数字を入力できます。
- 表示オプション

予測が完了した後に表示するテキスト カタログの情報タイプを指定します。[ステータス]、[説明]、および [両方] (デフォルト) から選択できます。

- ステータス テキスト ID

[表示オプション] フィールドで [ステータス] または [両方] を選択した場合は、ステータス メッセージの HR のテキスト カタログからテキスト ID を入力します。
- 説明テキスト ID

[表示オプション] フィールドで [説明] または [両方] を選択した場合は、説明の HR のテキスト カタログからテキスト ID を入力します。

設定可能セクション テンプレートと延長された休暇欠勤コンポーネントのリンク

設定ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[国別休暇取得設定]、[設定])。

休暇欠勤(A)日付のルール(D)ユーザー フィールド(U)予測メッセージ(E)設定(C)

国:CYMKayman Islands

休暇取得:KOWAT FMLA MATFMLA Maternity

セルフサービス ルール

検索 | 全件表示 | 最初1/1 | 最後

有効日:1990/01/01

ステータス:アクティブ

ユーザー定義セクション

拡張 | 検索 | 全件表示 | 最初1-4/4 | 最後

コンポーネント名	テンプレート	承認		
GP_ABS_EA_ADMMAN	GP_ABS_FMLA_ELG_FA	フル編集	+	-
GP_ABS_EA_ADMREQ	GP_ABS_FMLA_ELG_FA	フル編集	+	-
GP_ABS_EA_EEHIST	GP_ABS_FMLA_ELG	フル編集	+	-
GP_ABS_EA_EEREQ	GP_ABS_FMLA_ELG	フル編集	+	-

設定ページ

- コンポーネント名

設定可能セクション ページにリンクする延長された休暇欠勤コンポーネントを選択し、設定可能セクション テンプレートにリンクします。
- テンプレート

定義済みの設定可能セクション テンプレートを選択します。
- 承認

設定可能セクション テンプレートにアクセスするため、延長された休暇欠勤リクエストに使用するアクセス モードを選択します。[フル編集] と [表示] から選択できます。

設定可能セクションの情報をユーザーのセルフサービス用として表示するには、作成した設定可能セクション テンプレートを、使用している全ての延長された休暇欠勤コンポーネントにリンクします。次に、表示される設定可能セクション ページへのユーザー アクセスのタイプを指定します。

たとえば、設定ページの図にある情報を使用すると、ユーザーが Cayman Islands FMLA 産前産後休業を使用して延長された休暇欠勤コンポーネント GP_ABS_EA_EEREQ にアクセスすると、表示される設定可能セクション ページの構成が GP_ABS_FMLA_ELG テンプレートによって指定されます。設定可能セクション ページにアクセスするユーザーは、表示されるページのフル編集アクセスを持ちます。

セルフサービス休暇リクエストの予測ルールの定義

セルフサービスの予測および残数照会プロセスを使用するルールを定義するには、予測コンポーネント (GP_ABS_SS_FCST) を使用します。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 予測結果に表示する休暇付与残数の選択
- 残数照会結果に表示する休暇付与残数の選択

セルフサービス予測ルールの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
予測	GP_ABS_TAKE6	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[予測設定]、[予測]	予測結果グリッドに表示する予測結果エレメントを指定します。また、名称として HR のテキストカタログからカスタマイズしたラベルを表示するか、またはエレメント名 共通ページ (GP_PIN) で定義されているエレメント名称を表示するかどうかも指定します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
残数照会	GP_ABS_TAKE7	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[予測設定]、[残数照会]	残数照会プロセスで表示する休暇付と残数を指定し、名称として HR のテキスト カタログからカスタマイズしたラベルを表示するか、またはエレメント名共通ページ (GP_PIN) で定義されているエレメント名称を表示するかどうかも指定します。

セルフサービス休暇付与残数の予測ルールの定義

予測ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[予測設定]、[予測])。

予測(F)		残数照会(B)					
エレメント名:	ANN TKEHRS	Annual Lve Take Hours Entitle	所有者: PS 非管理				
定義							
有効日:	2000/01/01	ステータス:	アクティブ				
予測エレメント:	LVF FM FORECAST	Annual Leave Forecasting					
予測結果エレメント リスト							
拡大 検索 全件表示 最初 1/1 最後							
順序	エレメント タイプ*	予測エレメント	名称	セルフサービス	ラベル		
1	累計	ANN ENTHRS_BAL	Annual Leave Hours Entitlement	<input type="checkbox"/>		+	-
2	累計	LVF FCAST PAID	Leave Forecasting Paid Units	<input type="checkbox"/>		+	-
3	累計	LVF FCAST UNPAID	Leave Forecast Unpaid Units	<input type="checkbox"/>		+	-

予測ページ

このページは、"休暇取得" の予測ページで休暇取得エレメントに定義された予測ルールを表示します。ページ上部の [予測エレメント] フィールドは、予測プロセス中に変換されるフォーミュラです。[予測結果エレメント リスト] グリッドには、予測プロセスの実行後に休暇イベント入力コンポーネントの休暇欠勤予測結果ページに表示される項目が表示されます。予測プロセスの実行後にセルフサービス ユーザーに対してこれらの結果の全てまたは一部を表示することができま

注意: このページに情報を入力するには、予測メッセージ ページの [予測可] チェック ボックスと、休暇取得定義ページの [予測使用] チェック ボックスがオンになっている必要があります。

- セルフサービス

このエレメントの予測結果をセルフサービス ユーザーに表示する場合にオンにします。
- ラベル

セルフサービスに表示する予測エレメントのラベルを指定します。
ラベルを指定しない場合は、エレメントの名称が表示されます。

関連項目:

第 26 章、「休暇欠勤セルフサービス機能の設定」、セルフサービス休暇リクエストの予測ルールの定義、 1049 ページ

セルフサービス残数照会プロセスのルールの定義

残数照会ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤管理]、[予測設定]、[残数照会])。

予測(E) 残数照会(B)

エレメント名: ANN TKEHRS Annual Lve Take Hours Entitle 所有者: PS 非管理

定義 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

有効日: 2000/01/01 ステータス: アクティブ

残数照会エレメント リスト カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

順序	エレメント タイプ*	エレメント名	名称	セルフサービス	ラベル		
1	累計	ANN ENTHRS_BAL	Annual Leave Hours Entitlement	<input type="checkbox"/>		<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>

残数照会ページ

このページは、予測ページと機能が似ていますが、残数照会プロセスのルールに適用されます。

セルフサービス休暇欠勤ページのテキストの表示または修正

テキスト カタログ機能を使用して、セルフサービス休暇欠勤ページに表示されるフィールド ラベル、ボタン テキスト、およびテキストを修正できます。

関連項目:

第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、休暇取得処理の日次結果の表示、 877 ページ

第 27 章

セルフサービス休暇リクエストの入力と承認

この章では、休暇リクエスト トランザクションの概要と、次の作業方法について説明します。

- 従業員セルフサービス ページの管理
- PeopleSoft Enterprise 勤務管理セルフサービスによる従業員の休暇欠勤の管理
- 管理者セルフサービス ページの管理
- 勤務管理セルフサービスによる管理者の休暇欠勤の管理

注意: Global Payroll in Switzerland を使用している場合は、この章の代わりにスイス用の設定インストラクションを参照してください。

関連項目:

[第 26 章、「休暇欠勤セルフサービス機能の設定」、1019 ページ](#)

前提条件

国別休暇取得設定コンポーネントは、国の全ての休暇取得エレメントに適用される国別のルールの定義に使用されます。この国別ルールにより、セルフサービス ページの一部のフィールドの表示がコントロールされ、その国の休暇欠勤取得エレメントの設定のために予測および残数照会プロセスをオンラインで使用できるかどうかが決まります。国別にセルフサービス ルールのさまざまなセットを定義できます。

セルフサービス ユーザーの使用を許可する休暇欠勤取得エレメントにはそれぞれ追加のルールセットを定義します。これらのルールは、半休等の休暇欠勤を許可するかどうか、休暇リクエストの承認要件、予測結果の表示方法、およびその他の使用ルールを指定します。

国別休暇取得設定コンポーネントを設定し、このコンポーネントで選択または入力する値の重要性を理解したうえで、休暇欠勤セルフサービスを利用して値を入力することが重要です。

関連項目:

第 26 章、「[休暇欠勤セルフサービス機能の設定](#)」、[国別のセルフサービス休暇欠勤ルール](#)の定義、[1021 ページ](#)

休暇リクエスト トランザクションについて

セルフサービス トランザクションを使用すると、従業員と管理者はグローバル ペイロールのセルフサービス ページを使用して休暇リクエストの送信、休暇付与残数の予測、その他の共通タスクの実行を行うことができます。

セルフサービスのオプションは従業員と管理者でそれぞれ異なります。

ロール	休暇欠勤セルフサービス オプション
従業員	<div><ul style="list-style-type: none">• 休暇リクエストの追加、編集、予測、送信、一時的な保存、およびキャンセルを行うことができます。<p>注意: 休暇欠勤セルフサービスを使用して入力された休暇リクエストのみ編集、予測、およびキャンセルできます。</p><ul style="list-style-type: none">• 休暇リクエストの詳細とその承認ステータスを表示できます。• 休暇欠勤管理者が入力した休暇欠勤イベントを表示できます。• タイムシートに入力された休暇欠勤イベントを表示できます。• 現在の期間での休暇付与残数を表示できます。• 将来指定日の休暇付与残数を表示できます。• 過去および将来の従業員の月次スケジュールを表示できます。</div>

ロール	休暇欠勤セルフサービス オプション
管理者	<ul style="list-style-type: none">• 直属の部下に代わり、休暇欠勤処理関連の全ての従業員セルフサービス機能を実行できます。• 直属部下の休暇リクエストのリストを表示できます。• (省略可) 承認のために休暇リクエストを予測できます。• 直属部下からの休暇リクエストの承認、却下、または差し戻しを行います。• 直属部下の月次カレンダーを表示します。

関連項目:

第 25 章、「[休暇欠勤の入力と処理](#)」、[休暇欠勤イベントの入力、更新、および無効化](#)、979 ページ

従業員セルフサービス ページの管理

このセクションでは、従業員セルフサービス休暇欠勤ページへのアクセスと使用手順の概要と、以下の項目について説明します。

- 休暇のリクエスト
- 月次スケジュールの表示
- 休暇残数の表示
- 休暇リクエスト履歴の表示
- 休暇リクエストの詳細の表示
- 休暇付与残数の予測
- 職務名の選択

従業員が休暇リクエストの管理に使用するセルフサービス ページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
休暇リクエスト	GP_ABS_SS_REQUEST	[セルフサービス]、[勤務時間レポート]、[勤務時間のレポート]、[休暇リクエスト]、[休暇リクエスト]	休暇欠勤イベントの開始日に基づいて休暇をリクエストします。
月次スケジュール	SCH_EE_MONTHLY	休暇リクエスト ページの [月次スケジュールの表示] リンクをクリックします。	従業員は、過去または将来のある 1 か月間のスケジュールを表示できます。
休暇残数の表示	GP_ABS_SS_BALANCES	[セルフサービス]、[勤務時間レポート]、[勤務時間の表示]、[休暇残数]、[休暇残数の表示]	このページには、休暇のリクエスト、休暇リクエストの表示、月次スケジュールの表示、および残数の予測を行うページへのリンクがあります。
休暇リクエスト履歴	GP_ABS_SS_REQHIST	<ul style="list-style-type: none"> [セルフサービス]、[勤務時間レポート]、[勤務時間の表示]、[休暇リクエスト履歴]、[休暇リクエスト履歴] 休暇リクエスト ページまたは "休暇残数の表示" ページで [休暇リクエスト履歴の表示] リンクをクリックします。 	<p>指定の日付範囲に基づいて処理済みまたは保留中の休暇欠勤イベントを表示します。</p> <p>このページは管理者も使用できます。</p> <p>参照: 第 27 章、「セルフサービス休暇リクエストの入力と承認」、管理者が休暇リクエストの管理に使用するセルフサービス ページ、1076 ページ。</p>
リクエスト詳細	GP_ABS_SS_REQSTAT	休暇リクエスト履歴ページの [休暇付与名] 列にある休暇欠勤のリンクをクリックします。	特定の休暇リクエストの詳細を表示します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
予測残数	GP_ABS_SS_FCST_BAL	"休暇残数の表示" ページの [予測残数] リンクをクリックします。	<p>日付、休暇欠勤タイプ、および休暇欠勤名に基づいて、将来の休暇付与残数の予測プロセスをオンラインで実行します。</p> <p>このページは管理者も使用します。</p> <p>参照: 第 27 章、「<u>セルフサービス休暇リクエストの入力と承認</u>」、管理者が休暇リクエストの管理に使用するセルフサービス ページ、1076 ページ。</p>
ジョブの選択	HCM_JOB_SELECT	[セルフサービス]、[勤務時間レポート]、[勤務時間のレポート]、<任意の従業員のセルフサービス休暇欠勤処理>	複数の職務を持つ従業員は、このページを使用して休暇欠勤のセルフサービス トランザクションの入力/確認を行う職務を選択します。

休暇のリクエスト

休暇リクエスト ページにアクセスします ([セルフサービス]、[勤務時間レポート]、[勤務時間のレポート]、[休暇リクエスト]、[休暇リクエスト])。

休暇リクエスト

Antonio Smith
Administrator

開始日、休暇付与名を入力してください。続いて残りの必須フィールドを設定してから、リクエストを送信または保存してください。

休暇詳細	
*開始日:	2011/01/13  月次スケジュールの表示
終了日:	<input type="text"/> 
休暇欠勤タイプ:	疾病 
*休暇付与名:	Sick  現在残数: 96.00 時間**
*理由:	インフルエンザ 
半休等:	開始日と終了日 
開始日の時間数:	<input type="text"/>
終了日の時間数:	<input type="text"/>
期間:	<input type="text"/> 時間
<input type="button" value="終了日または期間の計算"/> <input type="button" value="予測残数"/>	

休暇リクエスト ページ (1/2)

追加情報	
Health Care Provider:	<input type="text"/>
PCP:	<input type="text"/>
Copayment:	<input type="text"/>
ワークフロー	
リクエスト可能なロール:	従業員と管理者
使用ロール:	従業員 
コメント	
申請者コメント:	<input type="text"/> 
移動 休暇リクエスト履歴の表示 休暇残数の表示	

休暇リクエスト ページ (2/2)

休暇リクエスト ページは、[休暇詳細]、[追加情報]、[コメント] という 3 つのグループ ボックスで構成されます。[追加情報] グループ ボックスで使用可能なフィールドは、組織が休暇欠勤管理のセルフサービスをどのように設定したかに応じて異なります。

休暇詳細

開始日

休暇欠勤イベントの開始日を選択します。このフィールドのデフォルト オプションは現在の日付です。休暇欠勤が断続的に発生する場合は、それぞれのイベントを別々に入力します。たとえば、受給者が 2 日間病欠し、3 日間勤務に戻り、その後再び病欠した場合、2 つの休暇欠勤イベントを入力します。休暇欠勤に週末が含まれる場合 (木曜日から月曜日までの休暇欠勤の場合など) は、1 つの休暇欠勤イベントとして入力します。

終了日

休暇欠勤イベントの終了日を選択します。このフィールドが空欄で、国別休暇取得 (設定) ページの [終了日の計算] チェック ボックスがオンになっていると、開始日、休暇欠勤期間および半休等指定オプションに基づいて終了日が自動計算されます。

注意: "国別休暇取得設定" の設定で、休暇欠勤ユニット タイプが [日] に定義されている場合は、半休オプションを使用しないことをお勧めします。

みなし初回採用日

休暇欠勤イベントの元の開始日を選択します。休暇欠勤の元の開始日に基づく法的または支給の影響が休暇欠勤にある場合、日付を入力します。

このフィールドは、国別休暇取得設定コンポーネントの休暇欠勤ページで [元の開始日の表示] がオンになっている場合に表示されます。

たとえば、足を負傷した従業員がいるとします。この従業員が 2005 年 1 月 3 日から 2005 年 1 月 7 日までの休暇欠勤を報告しました。症状が回復し、職場に戻りました。その後、症状が再発し、2005 年 1 月 17 日から 2005 年 1 月 18 日まで 2 日以上の休暇欠勤が必要となりました。この 2 回目の休暇欠勤の元の開始日は、2005 年 1 月 3 日です。この 2 つの休暇欠勤イベントを関連付けて、資格取得期間または最低有給待機期間の点から 1 つの休暇欠勤イベントとして処理することができます。

注意: セルフサービスでこのフィールドを有効にする場合は、よく検討する必要があります。このフィールドに間違ったデータが入力されると、1 つまたは複数のイベントの資格計算や支給で間違った結果が生成されることがあります。

参照: [第 26 章、「休暇欠勤セルフサービス機能の設定」、国別のセルフサービス休暇欠勤ルールの定義、1021 ページ。](#)

タイプ別フィルタ

休暇欠勤タイプを選択します。このフィールドでの選択によって、[休暇付与名] フィールドで選択できる項目が制限またはフィルタされます。

休暇付与名

選択可能なオプションから休暇付与名を選択します。選択できるオプションは、[タイプ別フィルタ] フィールドで選択された休暇欠勤タイプ、"国別休暇取得設定" の設定で有効にした休暇欠勤タイプ、および従業員が資格を持つエレメントによって異なります。

上記のフィールドで項目を選択すると、ページがリフレッシュされ、追加のフィールドが表示されます。

注意: 既に選択済みの休暇付与名を変更すると、既存の休暇欠勤データが全て失われることを示す警告が表示されます。

参照: [第 19 章、「エレメントの資格チェックと変換」、717 ページ。](#)

理由

使用可能なオプションから理由を選択します。選択可能な理由は、前のフィールドでの選択内容に応じて異なります。休暇欠勤の理由は、休暇取得タイプによって休暇取得名にリンクされています。

参照: 第 12 章、「休暇欠勤エレメントの定義」、休暇欠勤タイプと理由の定義、416 ページ。

半休等

休暇欠勤イベントの中で半休等を取得した日を指定します。

休暇欠勤設定ページの [終了日または期間の計算] チェック ボックスがオンになっている、[ユニット タイプ] が [時間] に指定されている場合、このグループ ボックスでの時間指定または半日のエントリに対して、終了日または期間の自動計算の要素が考慮されます。

たとえば、ある従業員が月曜日から金曜日まで 1 日 8 時間勤務のスケジュールを組んでいるとします。この従業員が 2007 年 1 月 8 日月曜日から 2007 年 1 月 10 日水曜日までの休暇欠勤を報告します。その後、月曜日は半日の休暇欠勤とし、残りの休暇欠勤は終日として取得するとします。

例 1: 国別休暇取得設定は以下のように定義されます。

- [ユニット タイプ] = [時間]。
- [半休等の許可] = オン
- [半休等] = [時間指定]。

これらの設定で、休暇欠勤データを正しく入力するには、従業員は以下の内容をレポートする必要があります。

- [開始日] = 2007 年 1 月 8 日。
- [終了日] = 2007 年 1 月 10 日。
- [半休等] = [開始日のみ]。
- [開始日の時間数] = 4。

例 2: 国別休暇取得設定は以下のように定義されます。

- [ユニット タイプ] = [時間]。
- [半休等の許可] = オン
- [半休等] = [半日]。

これらの設定で、休暇欠勤データを正しく入力するには、従業員は以下の内容をレポートする必要があります。

- [開始日] = 2007 年 1 月 8 日。
- [終了日] = 2007 年 1 月 10 日。
- [半休等] = [開始日のみ]。

- [開始日は半日] = オン

警告: 休暇欠勤ユニット タイプが国別休暇取得設定の日付で定義されている場合、半休等指定オプションを使用することは推奨されません。

注意: 次のフィールドに入力するデータは、休暇欠勤フォーミュラで参照される場合にのみ、休暇欠勤計算プロセスで使用されます。

休暇欠勤計算時に [半休等] フィールドで選択可能なオプションは、次のとおりです。

- [全ての日]
- [終了日のみ]
- [なし]
- [開始日のみ]
- [開始日と終了日]

選択したオプションに応じて、休暇欠勤イベントで半休となる曜日を指定可能なチェック ボックスが最高 2 つまで表示されます。休暇欠勤イベントに適したチェック ボックスをオンにします。

時間

日数または時間数で期間を入力します。休暇欠勤設定ページで [期間の計算] が有効になっている場合は、期間を入力する必要はありません。[期間の計算] ボタンをクリックすると、休暇欠勤期間が時間数または日数単位で計算されます。

このフィールドの動作は、休暇欠勤設定 ページでの設定に応じて異なります。[終了日の計算] チェック ボックスがオンに設定されていると、値は自動的に計算されます。

- 休暇欠勤期間の単位 (ユニット タイプ) が日または時間に指定されている場合、開始日と終了日の入力時に期間が自動計算されます。
- 期間に基づいて終了日を計算する場合は、開始日と期間を入力し、[終了日の計算] ボタンをクリックすると、終了日が自動的に計算されます。

終了日または期間の計算

[開始日] フィールドと [期間] フィールドの値に基づいて休暇欠勤イベントの終了日を自動的に計算する場合、または [開始日] フィールドと [終了日] フィールドの値に基づいて [期間] を計算する場合に、このボタンをクリックします。

注意: "国別休暇取得設定" の日付のルール ページで、終了日と期間を計算するように選択している場合、両方のフィールドに値が含まれているときは、再計算するフィールドを指定する必要があります。したがって、ユーザーが期間または終了日を入力して [終了日または期間の計算] ボタンをクリックすると、どちらか一方のフィールドが再計算されます。

予測残数

この休暇リクエスト用として選択した休暇欠勤取得タイプに対して休暇欠勤予測プロセスをオンラインで実行する場合は、このボタンをクリックします。このボタンは、残数を予測する必要がある休暇付与名の場合のみ表示されます。予測処理が完了すると、ページには**予測プロセスから返された値とステータス**、および [休暇欠勤予測詳細の表示] リンクが表示されます。このリンクを使用すると、予測残数詳細のリストにアクセスできます。

一時保存

このオプションを使用すると、従業員は後で確認および編集するために休暇欠勤イベント情報を保存できます。ただし、承認プロセスのワークフローは作成されません。

送信

このオプションは、入力内容を保存し、1 人または複数の管理者にリクエストを送信するワークフロー承認プロセスを作成します。その管理者には、従業員に対して休暇リクエストをコメントと共に承認、却下、または差し戻す権限のあるロールがワークフローで定義されています。差し戻しは、休暇リクエストの修正を提案するか、追加の情報を取得するために承認者によってよく使用されます。

キャンセル

このオプションは、内容を保存済みであるか、承認者から差し戻されたリクエストでのみ使用できます。国別休暇取得設定の設定によっては、[キャンセル] がクリックされる時期に応じて、リクエストおよびワークフロー レコードからリクエストを物理的に削除するか、リクエストのステータスをキャンセルに設定します。

追加情報

このグループ ボックスに表示される各フィールドは、導入プロセス中にグローバル ペイロールがどのように設定されたかに応じて異なります。

コメント

従業員は、[申請者コメント] フィールドを使用して、レコードの一部となり、承認プロセス全体で確認できる休暇リクエストに関連する自由形式のテキストを入力できます。入力されたコメントは、休暇詳細ページに表示されます。

月次スケジュールの表示

月次スケジュール ページにアクセスします (休暇リクエスト ページの [月次スケジュールの表示] リンクをクリックします)。

月次スケジュール

Christine Nguyen
KOW104

[前月](#)

05 - 5 月
2009

[翌月](#)

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
					K08HRS 08:30-17:30 1	OFF 2
OFF 3	K08HRS 08:30-17:30 4	K08HRS 08:30-17:30 5	K08HRS 08:30-17:30 6	K08HRS 08:30-17:30 7	K08HRS 08:30-17:30 8	OFF 9
OFF 10	K08HRS 08:30-17:30 11	K08HRS 08:30-17:30 12	K08HRS 08:30-17:30 13	K08HRS 08:30-17:30 14	K08HRS 08:30-17:30 15	OFF 16

月次スケジュール ページ (1/2)

OFF	17	K08HRS 08:30-17:30	18	K08HRS 08:30-17:30	19	K08HRS 08:30-17:30	20	K08HRS 08:30-17:30	21	K08HRS 08:30-17:30	22	OFF	23
OFF	24	K08HRS 08:30-17:30	25	K08HRS 08:30-17:30	26	K08HRS 08:30-17:30	27	K08HRS 08:30-17:30	28	K08HRS 08:30-17:30	29	OFF	30
OFF	31												

凡例

承認済研修

休暇欠動予定

休日

OFF 予定非勤務日

キャンセル

月次スケジュール ページ (2/2)

従業員は、月および年フィールドで使用可能なオプションを使用して将来または過去のある 1 か月間のスケジュールを表示できます。[前月の表示] ボタンと [翌月の表示] ボタンをクリックして前月と翌月を表示できます。

従業員が複数の職務を持つ場合、このページには各職務のリンクを表示する [職務名の選択] フィールドが表示されます。

参照: 第 27 章、「セルフサービス休暇リクエストの入力と承認」、職務名の選択、 1073 ページ。

休暇残数の表示

"休暇残数の表示" ページにアクセスします ([セルフサービス]、[勤務時間レポート]、[勤務時間の表示]、[休暇残数]、[休暇残数の表示])。

休暇残数の表示

Christine Nguyen

現時点における休暇付与残数を表示します。この休暇残数には、まだ給与計算処理されていない休暇リクエストは反映されません。詳細については、休暇管理者に連絡してください。

休暇付与残数

現在の残数(B) 休暇付与キー 1(K) 休暇付与キー 2(E)

休暇付与名	現在残数 2004/12/31	開始日	終了日	累積期間
Vacations Balance Hrs	103.99 時間	2004/01/01	2004/12/31	年間
Sick Balance Hrs	96.00 時間	2004/01/01	2004/12/31	年間

"休暇残数の表示" ページ

このページには以下のリンクが含まれます。

- 休暇リクエスト
休暇リクエスト ページへ戻るリンクです。
- 休暇リクエスト履歴の表示
休暇リクエスト履歴ページへのリンクです。
- 月次スケジュールの表示
月次スケジュール ページへのリンクです。
- 予測残数
予測残数ページへのリンクです。
- 職務リスト
複数の職務を持つ従業員の "職務の選択" ページへのリンクです。
参照: 第 27 章、「セルフサービス休暇リクエストの入力と承認」、職務名の選択、 1073 ページ。

注意: 勤務管理と統合している場合、休暇付与残数はタイムシート ページに表示できます。

関連項目:

[第 27 章、「セルフサービス休暇リクエストの入力と承認」、休暇のリクエスト、1057 ページ](#)

[第 27 章、「セルフサービス休暇リクエストの入力と承認」、休暇リクエスト履歴の表示、1068 ページ](#)

[第 27 章、「セルフサービス休暇リクエストの入力と承認」、休暇残数の表示、1066 ページ](#)

休暇リクエスト履歴の表示

休暇リクエスト履歴ページにアクセスします (休暇リクエスト ページまたは "休暇残数の表示" ページで [休暇リクエスト履歴の表示] リンクをクリックします)。

休暇リクエスト履歴

Christine Nguyen

Planner

日付範囲を指定して検索を絞り込みます。履歴を全て取得する場合は、[開始日]と[終了日]を空白にして、[リフレッシュ] ボタンを選択してください。休暇付与名リンクを選択するとリクエストの詳細が表示されます。編集ボタンを選択するとリクエストの修正や削除ができます。

開始日:  終了日:  

休暇リクエスト履歴						
カストマイズ 検索 全件表示   最初 1-4/4 最後						
休暇付与名	ステータス	開始日	終了日	期間	申請者	編集
Jury	送信済	2011/01/07	2011/01/07	1 日	従業員	
Vacations	承認済	2005/01/27	2005/02/07	該当なし	休暇管理者	
Vacations	承認済	2005/01/15	2005/01/15	該当なし	休暇管理者	
Vacations	承認済	2005/01/03	2005/01/06	該当なし	休暇管理者	

休暇リクエスト履歴ページ

このページには、従業員の全ての休暇リクエストが表示されます。従業員が入力した休暇リクエストには、[休暇付与名] 列にリンクが含まれています。休暇イベント入力コンポーネントを利用して休暇欠勤管理者が入力した休暇欠勤には、[休暇付与名] 列にリンクがありません。また、ステータスや期間もありません。従業員は、[編集] 列の [編集] ボタンをクリックすることで、保存済みだがまだ送信されていない休暇リクエストを編集できます。従業員は、[編集] ボタンをクリックすることで、キャンセルまたは却下された休暇リクエストを編集することもできます。

休暇リクエストや休暇欠勤がタイムシートを利用して入力または修正されている場合や、休暇欠勤管理者が休暇イベント入力コンポーネントを使用して入力または修正している場合、これらを休暇欠勤セルフサービスで編集することはできません。

注意: 管理者が従業員として休暇欠勤をリクエストした場合、[申請者] 列には "管理者" と表示されます。

開始日、終了日

ユーザーは、[開始日] フィールドと [終了日] フィールドに日付を入力することで、指定の日付範囲に含まれる休暇リクエストを表示できます。従業員が [開始日] フィールドだけに日付を入力した場合は、開始日が指定した日付と同じかそれより後の休暇リクエストが表示されます。また、従業員が [終了日] フィールドだけに日付を入力した場合は、終了日が指定した日付と同じかそれより前の休暇リクエストが表示されます。日付がどちらのフィールドにも入力されていないと、従業員の休暇リクエストが全て表示されます。

[開始日] から [終了日] までの期間は、国別設定コンポーネントの履歴グリッド ページに入力された [デフォルト履歴期間] の値で決まります。[デフォルト履歴期間] が設定されていない場合は、[開始日] 日付フィールドには現在の日付の 90 日前の日付、[終了日] 日付フィールドには現在の日付から 90 日後の日付がデフォルトで使用されます。

参照: 第 26 章、「休暇欠勤セルフサービス機能の設定」、国別のセルフサービス休暇欠勤ルールの定義、1021 ページ。

リフレッシュ

[開始日] フィールドおよび [終了日] フィールドに日付を入力するか、日付を変更または削除した後でクリックします。

編集

このボタンは、休暇リクエストのステータスが保存、キャンセル、または却下の場合に使用できます。このボタンをクリックすると、休暇リクエスト ページが開きます。

参照: 第 27 章、「セルフサービス休暇リクエストの入力と承認」、休暇のリクエスト、1057 ページ。

[休暇リクエスト履歴] グループ ボックスには、[休暇付与名]、[ステータス]、[開始日]、[終了日]、[期間]、および [申請者] が含まれています。列見出しをクリックすると、これらのいずれかの基準によって行をソートできます。

注意: 休暇欠勤セルフサービスまたはタイムシートを使用して入力された休暇リクエストの [期間] の値のみ自動的に計算、保存されます。休暇イベント入力などのオンライン ページや、コンポーネント インターフェイスを利用して入力または修正された休暇欠勤の期間は、自動的に計算または保存されません。

関連項目:

第 25 章、「[休暇欠勤の入力と処理](#)」、[休暇欠勤イベントの入力、更新、および無効化](#)、979 ページ

休暇リクエスト詳細の表示

リクエスト詳細ページにアクセスします (休暇リクエスト履歴ページの [休暇付与名] 列にある休暇欠勤のリンクをクリックします)。

リクエスト詳細

Christine Nguyen

Planner

リクエスト ステータスと承認詳細を表示します。

詳細

開始日:	2011/01/14		
終了日:	2011/01/17		
休暇付与名:	Sick	現在残数:	96.00 時間**
理由:	インフルエンザ		
半休等:	なし		
期間:	16.00	時間	

リクエスト詳細ページ (1/2)

追加情報			
Emergency Contact:			
Phone Number:			
Earliest Return Date:			

ワークフロー	
ステータス:	送信済

休暇リクエスト履歴			
ステータス	氏名	日付	コメント
保存	Antonio Smith	2006/08/29	Three day weekend
送信	Antonio Smith	2006/09/19	Three day weekend

リクエスト詳細ページ (2/2)

このページには、選択した休暇に関する情報が表示されます。

注意: 管理者が従業員として休暇欠勤をリクエストした場合、[リクエスト履歴] セクションの [氏名] フィールドには従業員名が表示されます。

注意: 承認パスのマップと詳細は、休暇欠勤セルフサービス アプリケーションにのみ表示されます。このパスと詳細は、タイムシート セルフサービスには表示されません。

休暇付与残数の予測

予測残数ページにアクセスします ("休暇残数の表示" ページの [予測残数] リンクをクリックします)。

休暇残数の表示

予測残数

Christine Nguyen

指定日、休暇付与名を入力してから、[予測残数] ボタンを選択してください。

予測残数

指定日:2005/01/12

休暇欠勤タイプ:全て

*休暇付与名:Vacations

現在残数:103.99 時間**

予測
正常に完了しました。

予測残数

予測残数詳細

カスタマイズ

予測結果 累計結果 ユーザー キー 1-3(K) ユーザー キー 4-6(E)

休暇付与名	予測エレメント	値
Vacations	Vacations Balance Hrs	88.66
Vacations	Vacations Taken Hrs	24.00
Vacations	Vacations Entitlement Hrs	8.66
Vacations	Generic Forecast Formula	ELIGIBLE

[\[休暇残数の表示\]に戻る](#)

* 必須フィールド

**注意 現在の休暇残数には、まだ給与計算で処理されていない休暇欠勤日は反映されません。

予測残数ページ

このページを使用すると、従業員は休暇付与残数予測プロセスをオンラインで実行できます。また、指定した将来の日付で、休暇欠勤タイプ、休暇付与名を指定して付与残数を表示できます。

- 指定日

残数の計算に使用する将来の日付を入力します。
- タイプ別フィルタ

休暇欠勤タイプを選択します。このフィールドでの選択によって、[休暇付与名] フィールドで選択できる項目が制限またはフィルタされます。

休暇付与名

フィールドの選択可能なオプションから休暇付与名を選択します。

注意: [予測残数] ボタンを表示するには、ユーザーはこのフィールドで休暇付与名を選択する必要があります。

予測残数

休暇残数の予測プロセスをオンラインで実行する場合にクリックします。プロセスが完了すると、予測された休暇残数が [予測残数詳細] グループ ボックスに表示されます。

注意: 予測プロセスを開始するまでは、休暇欠勤リクエストは自動的に保存されません。ページを移動する前に保存を求めるプロンプトが表示されますが、予測プロセスの前後に予測情報を保存することは必ずしも必要ではありません。

職務名の選択

複数の職務を持つ従業員は、休暇欠勤のセルフサービス トランザクションを入力または確認する職務を選択する必要があります。次のページは、複数の職務を持つ従業員が休暇リクエストを入力する場合の例です。この従業員が休暇欠勤のセルフサービス トランザクションを開始すると、トランザクションのタイトルのみが異なる同様のページが表示されます。

職務の選択

Danilo Travantti

現在複数の職務を兼任しています。このトランザクションの対象となる職務を選択してください。

複数職務				
	職務名	部門	監督者名	会社
<input checked="" type="radio"/>	Sales Manager	Sales Administration	Antonio Smith	Global Business Institute 9999
<input type="radio"/>	Bus Person	Business Services	Paul Harvest	Global Business Institute 9999

続行

休暇リクエストの "職務の選択" ページ

従業員が職務名を選択した後の各プロセスは、前のセクションで説明しているプロセスと同じになります。

PeopleSoft Enterprise 勤務管理セルフサービスによる従業員の休暇欠勤の管理

従業員は、休暇欠勤管理のセルフサービス ページを使用して、休暇欠勤を入力したり、休暇付与残数を確認したりすることができます。この章では、休暇欠勤管理のセルフサービス ページについて詳しく説明します。

注意: 勤務管理タイムシートを利用して入力された休暇欠勤は、休暇欠勤または休暇欠勤イベントと呼ばれます。休暇欠勤管理を利用して入力された休暇欠勤は、休暇欠勤または休暇リクエストと呼ばれます。

勤務管理と統合している場合、休暇欠勤イベントはタイムシート ページを利用して入力できます。また、このページでは、休暇付与残数を表示して十分な休暇付与残数があることを確認したうえで、休暇欠勤を入力できます。

実装時に行う以下の手順によって、従業員はタイムシート ページにアクセスして休暇欠勤を入力したり、休暇付与残数を表示したりすることができます。

1. インストール テーブルで、休暇欠勤管理と勤務管理が選択されていることを確認します。
2. 国別休暇取得設定コンポーネントの休暇欠勤ページで、タイムシート ページに入力する休暇取得エレメントの勤務管理での入力を許可していることを確認します。

参照: 第 26 章、「休暇欠勤セルフサービス機能の設定」、1019 ページ。

3. 勤務管理に必要なフレームワーク設定を実行し、タイムシートから従業員にアクセスできるようにします。

以下の手順では、従業員がタイムシート ページで休暇欠勤を入力する方法と休暇付与残数を表示する方法について説明します。

1. [セルフサービス]、[勤務時間レポート]、[勤務時間のレポート]、[タイムシート] の順にナビゲートして、タイムシート ページにアクセスします。操作する勤務時間レポート期間を選択します。

2. [休暇欠勤イベント - クリックして表示] リンクをクリックして、休暇リクエストを追加、編集、予測、または送信します。たとえば、休暇欠勤を追加するには、次の手順に従います。
- a. [休暇欠勤イベントの追加] をクリックして新しいイベントを追加するか、[編集] をクリックして既存のイベントを修正します。同時に複数のイベントを追加または編集することはできません。
 - b. 開始日を入力します。また、休暇欠勤の [終了日] フィールドが有効になっている場合は終了日も入力します。[終了日] フィールドが空白のままで、終了日の計算機能を使用して計算されない場合、このイベントを保存または送信すると、このフィールドにはデフォルトで開始日が設定されます。

参照: 第 26 章、「休暇欠勤セルフサービス機能の設定」、国別のセルフサービス休暇欠勤ルールの定義、1021 ページ。

- c. ドロップ ダウン リストから [休暇付与名] を選択します。有効な値は、国別休暇取得設定の設定ページで既に定義済みの値で、勤務時間レポート期間の開始日時点での従業員の資格に基づきます。

参照: 第 26 章、「休暇欠勤セルフサービス機能の設定」、国別のセルフサービス休暇欠勤ルールの定義、1021 ページ。

参照: 第 19 章、「エレメントの資格チェックと変換」、717 ページ。

- d. 実装時に、国別休暇取得設定コンポーネントの休暇欠勤ページで、理由を表示するように選択している場合は、必要に応じて休暇欠勤理由を入力します。
- e. [詳細] リンクをクリックして休暇リクエスト詳細 (GP_ABS_SS_REQUEST) ページにアクセスし、休暇欠勤の詳細情報と必要に応じてその他の情報を入力します。詳細情報を全て入力したら、[OK] をクリックしてタイムシート ページに戻ります。

注意: . タイムシートの [休暇欠勤イベント] グリッドで使用可能なフィールド ([開始日]、[終了日]、[休暇付与名]、[理由]) に入力する情報以外にも情報を入力する必要がある場合は、休暇欠勤イベント詳細ページが自動的に開きます。

参照: 第 27 章、「セルフサービス休暇リクエストの入力と承認」、休暇のリクエスト、1057 ページ。

- f. 休暇欠勤を保存して送信する前に、必要に応じて休暇残数を予測します。
- g. 休暇欠勤を一時的に保存するか、送信して承認を受けます。新しい休暇欠勤は、保存または送信前であれば削除できます。また、保存または送信後であれば、キャンセルできます。

3. [残時間数 - クリックして表示] リンクをクリックして、休暇付与残数を表示します。

注意: 休暇欠勤を前回実行した時点での休暇付与残数が表示されます。

管理者セルフサービス ページの管理

このセクションでは、管理者セルフサービス休暇欠勤ページへのアクセスと使用手順の概要と、以下の項目について説明します。

- 従業員の休暇リクエストの代行
- 従業員の休暇リクエストの表示
- 休暇残数の表示
- 休暇リクエストの承認と却下
- 休暇リクエスト履歴の確認

管理者が休暇リクエストの管理に使用するセルフサービス ページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
休暇リクエスト	HR_DR_ADDL_INFO	[管理者セルフサービス]、[勤務時間管理]、[勤務時間のレポート]、[休暇リクエスト]、[休暇リクエスト]	休暇をリクエストする直属部下のリストの作成に使用する日付を入力します。
休暇リクエスト	HR_DR_SELECT_EMPS	休暇リクエスト (HR_DR_ADDL_INFO) ページの [続行] をクリックします。	直属部下のリストの表示、従業員の選択、および従業員の休暇リクエストの代行入力を行います。
休暇リクエスト履歴	HR_DR_ADDL_INFO	[管理セルフサービス]、[勤務時間管理]、[勤務時間の表示]、[休暇リクエスト履歴]、[休暇リクエスト履歴]	休暇履歴を表示する直属部下のリストを使用する日付を入力します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
休暇リクエスト履歴	HR_DR_SELECT_EMPS	休暇リクエスト履歴 (HR_DR_ADDL_INFO) ページの [続行] をクリックします。	管理者は、このページを使用して直属部下または間接的部下の休暇リクエスト情報を表示します。
休暇残数の表示	HR_DR_ADDL_INFO	[管理者セルフサービス]、[勤務時間管理]、[勤務時間の表示]、[休暇残数]、[休暇残数の表示]	休暇残数を表示する直属部下のリストを作成する日付を入力します。
休暇残数の表示	HR_DR_SELECT_EMPS	休暇残数の表示 (HR_DR_ADDL_INFO) ページの [続行] をクリックします。	直属部下の休暇残数を表示します。
予測残数	GP_ABS_SS_FCST_BAL	[管理者セルフサービス]、[勤務時間管理]、[勤務時間の表示]、[休暇残数] 従業員の氏名のリンクをクリックし、休暇残数の表示ページで [残数予測] リンクをクリックします。	休暇欠勤予測プロセスの結果を表示します。
休暇リクエスト	GP_SS_ABS_APPR	[管理者セルフサービス]、[勤務時間管理]、[勤務時間と例外の承認]、[休暇リクエスト]、[休暇リクエスト]	承認または却下の対象となる休暇リクエストを選択します。
リクエスト詳細	GP_ABS_SS_REQUEST	[管理者セルフサービス]、[勤務時間管理]、[勤務時間と例外の承認]、[休暇リクエスト] 休暇リクエスト ページのリクエストで従業員の氏名のリンクをクリックします。	管理者が従業員の休暇リクエストを承認、却下、または以前の承認レベルに差し戻すために使用します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
休暇リクエスト履歴	GP_ABS_SS_REQHIST	<p>[管理セルフサービス]、[勤務時間管理]、[勤務時間の表示]、[休暇リクエスト履歴]、[休暇リクエスト履歴]</p> <p>休暇リクエスト履歴ページで従業員の氏名のリンクを選択します。</p>	指定した日付範囲について従業員の休暇リクエスト履歴を確認します。

従業員の休暇リクエストの代行

休暇リクエスト ページにアクセスします ([管理者セルフサービス]、[勤務時間管理]、[勤務時間のレポート]、[休暇リクエスト]、[休暇リクエスト])。

休暇リクエスト

処理対象の従業員を選択してください。

手順

このページでは、処理対象の従業員を選択します。処理できるのは、最初のページで入力した日付の時点であな
たの管轄下にある従業員のみです。

下の従業員リストに [組織図] アイコンが表示される場合は、その従業員に部下がいることを示しています。こ
の [組織図] アイコンを選択すると、組織内をドリルダウンして、間接的部下に当たる従業員を選択できます。従業員
リストの上の [トリプルアップ] アイコンを選択すると、ドリルダウンした後に再び組織をさかのぼって戻ることができま
す。

処理対象の従業員を選択したら [続行] ボタンを選択し、処理の次のステップに進みます。

[前のページに戻る](#)

従業員の選択

直属上司: **Jeanette Lee** 指定日: 2011/01/13

続行

従業員の選択							カスタマイズ	検索	最初	1-4/4	最後
名前	従業員 ID	雇用レポート	給与計算ステータス	HR ステータス	ポジション番号	+					
<input checked="" type="radio"/> Reza Aliverdi	KU0005	0	アクティブ	アクティブ	19000210						
<input type="radio"/> Jacklyn Murphy	KU0125	0	アクティブ	アクティブ							
<input type="radio"/> Catherine Richards	KUZ013	0	アクティブ	アクティブ							
<input type="radio"/> Sylena Tyler	KU0050	0	アクティブ	アクティブ	10000001						

休暇リクエスト ページ

管理者が直属部下の氏名のリンクをクリックすると、その部下の休暇リクエスト ページが表示されます。従業員セルフサービスの休暇リクエスト ページと同様のページが表示されます。

休暇リクエスト ページにアクセスします (休暇リクエスト (HR_DR_ADDDL_INFO) ページの [続行] をクリックします)。

休暇リクエスト

Antonio Smith

Administrator
開始日、休暇付与名を入力してください。続いて残りの必須フィールドを設定してから、リクエストを送信または保存してください。

休　暇　料	
*開始日:	<input type="text" value="2011/01/13"/> 月次スケジュールの表示
*終了日:	<input type="text"/>
*休暇欠勤タイプ:	<input type="text" value="疾病"/>
*休暇付与名:	<input type="text" value="Sick"/> 現在残数: 96.00 時間**
*理由:	<input type="text" value="インフルエンザ"/>
半休等:	<input type="text" value="開始日と終了日"/>
開始日の時間数:	<input type="text"/>
終了日の時間数:	<input type="text"/>
期間:	<input type="text"/> 時間
<div style="display: inline-block; margin-right: 20px;"> 終了日または期間の計算 </div> <div style="display: inline-block;"> 予測残数 </div>	

休暇リクエスト (1/2)

追加情報	
Health Care Provider:	<input type="text"/>
PCP:	<input type="text"/>
Copayment:	<input type="text"/>
ワークフロー	
リクエスト可能なロール:	従業員と管理者
使用ロール:	<input type="text" value="従業員"/>
コメント	
申請者コメント:	<div><input type="text"/></div> 
<div>移動</div> <div>休暇リクエスト履歴の表示</div> <div>休暇残数の表示</div>	

休暇リクエスト (2/2)

"従業員休暇リクエストの表示" ページに戻るための [ワークフロー] セクションおよび [直属部下] リンクがある場合を除いて、従業員セルフサービスの休暇リクエスト ページと同様のページが表示されます。

ワークフロー

リクエスト可能なロール 管理者または従業員と管理者が休暇欠勤取得を入力できることを示します。

使用ロール リクエストを入力するのが従業員または管理者のいずれであるかを決めます。

管理者が従業員の休暇欠勤をリクエストする場合は、従業員または管理者としてリクエストできます。管理者が従業員としてリクエストすることを選択した場合、承認パスに他の承認者がいなければ、このリクエストは自動的に承認されます。[送信] をクリックすると、管理者には "承認の確認" ページが表示されます。管理者が管理者としてリクエストすることを選択した場合、リクエストは管理者の次の承認レベルに送信されるため、[送信] をクリックした後は通常の "送信の確認" ページが表示されます。

国別休暇取得設定の設定で、休暇欠勤ページの [使用ロール上書き] フィールドが選択されている場合は、[使用ロール] ドロップダウンリストが編集可能になります。そうでない場合、このフィールドはグレイ表示され、デフォルト値が設定されます。

関連項目:

[第 27 章、「セルフサービス休暇リクエストの入力と承認」、休暇のリクエスト、1057 ページ](#)

従業員休暇リクエストの表示



休暇リクエスト履歴ページにアクセスします ([管理セルフサービス]、[勤務時間管理]、[勤務時間の表示]、[休暇リクエスト履歴]、[休暇リクエスト履歴])。

休暇リクエスト履歴

処理対象の従業員を選択してください。

手順

このページでは、処理対象の従業員を選択します。処理できるのは、最初のページで入力した日付の時点であな
たの管轄下にある従業員のみです。

下の従業員リストに  [組織図] アイコンが表示される場合は、その従業員に部下がいることを示しています。こ
の [組織図] アイコンを選択すると、組織内をドリルダウンして、間接的部下に当たる従業員を選択できます。従業員
リストの上の  [ドリルアップ] アイコンを選択すると、ドリルダウンした後に再び組織をさかのぼって戻ることができます。

処理対象の従業員を選択したら [続行] ボタンを選択し、処理の次のステップに進みます。

[前のページに戻る](#)

従業員の選択

直属上司: **Antonio Smith**

指定日: 2011/01/13

[続行](#)

従業員の選択

カスタマイズ | 検索 |  最初  1-6/6  最後

	名前	従業員 ID	雇用レコード	給与計算ステータス	HR ステータス	ポジション番号	+
<input type="radio"/>	Paul Harvest	K0W006	0	アクティブ	アクティブ		
<input type="radio"/>	Laura Jones	K0W005	0	アクティブ	アクティブ		
<input type="radio"/>	Will Smitherson	K0W004	0	アクティブ	アクティブ		
<input type="radio"/>	Jaime Taylor	K0W046	0	アクティブ	アクティブ		
<input type="radio"/>	Danilo Travantti	K0W002	0	アクティブ	アクティブ		
<input type="radio"/>	Owen Wills	K0W003	0	アクティブ	アクティブ		

休暇リクエスト履歴ページ

管理者の直属の部下がこのページに表示されます。[氏名]、[従業員 ID]、[給与計算ステータス]、および [HR ステータス] の列のタイトルをクリックして、これらの条件を基準にリストをソートします。最後の列には、従業員に直属の部下がいる場合にそれを示すアイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、その従業員の直属の部下のリストが表示されます。これらの従業員は、その管理者の間接的部下と呼ばれます。

直属部下を名で検索するには、[続行] ボタンをクリックします。

指定日

この日付の時点での管理者の直属部下が表示されます。

管理者が直属部下の氏名のリンクをクリックすると、その部下の休暇リクエスト履歴ページが表示されます。休暇リクエスト履歴ページに戻るための [直属部下] リンクがあることを除き、従業員セルフサービスの休暇リクエスト履歴ページと同じページが表示されます。

関連項目:

第 27 章、「セルフサービス休暇リクエストの入力と承認」、休暇リクエスト履歴の表示、 1068
ページ

休暇残数の表示

"休暇残数の表示" ページにアクセスします ([管理者セルフサービス]、[勤務時間管理]、[勤務時間の表示]、[休暇残数]、[休暇残数の表示])。

休暇残数の表示

処理対象の従業員を選択してください。

▼ 手順

このページでは、処理対象の従業員を選択します。処理できるのは、最初のページで入力した日付の時点であなたの管轄下にある従業員のみです。

下の従業員リストに  [組織図] アイコンが表示される場合は、その従業員に部下がいることを示しています。この [組織図] アイコンを選択すると、組織内をドリルダウンして、間接的部下に当たる従業員を選択できます。従業員リストの上の  [ドリルアップ] アイコンを選択すると、ドリルダウンした後に再び組織をさかのぼって戻ることができます。

処理対象の従業員を選択したら [続行] ボタンを選択し、処理の次のステップに進みます。

[前のページに戻る](#)

従業員を選択

直属上司: Antonio Smith

指定日: 2009/05/11

続行

従業員を選択

カスタマイズ | 検索 |  最初 1-6/6 最後

	名前	従業員 ID	雇用コード	給与計算ステータス	HR ステータス	ポジション番号	+
<input type="radio"/>	Paul Harvest	KOW006	0	アクティブ	アクティブ		
<input type="radio"/>	Laura Jones	KOW005	0	アクティブ	アクティブ		
<input type="radio"/>	Will Smitherson	KOW004	0	アクティブ	アクティブ		
<input type="radio"/>	Jaime Taylor	KOW046	0	アクティブ	アクティブ		
<input type="radio"/>	Danilo Travantti	KOW002	0	アクティブ	アクティブ		
<input type="radio"/>	Owen Wills	KOW003	0	アクティブ	アクティブ		

休暇残数の表示

このページは、休暇リクエスト履歴ページと同様の方法で動作します。このページで管理者が従業員名を選択すると、その従業員の "休暇残数の表示" ページが表示されます。このページは、従業員セルフサービスの "休暇残数の表示" ページとほぼ同じであり、管理者が直属部下の将来の日付の休暇付与残数を予測するための [予測残数] リンクがあります。従業員セルフサービス ページと管理者セルフサービス ページの違いは、管理者セルフサービス ページには "休暇残数の表示" の "従業員の選択" ページに戻る [直属部下] リンクがあることです。

関連項目:

第 27 章、「セルフサービス休暇リクエストの入力と承認」、休暇残数の表示、1066 ページ

休暇リクエストの承認と却下

休暇リクエスト ページにアクセスします ([管理者セルフサービス]、[勤務時間管理]、[勤務時間と例外の承認]、[休暇リクエスト]、[休暇リクエスト])。

休暇リクエスト

Antonio Smith
Administrator
申請者の名前リンクを選択して、リクエストを承認または却下してください。[月次カレンダーの表示] リンクを選択すると、直属部下の月次カレンダーを表示できます。全てのリクエストを表示したり、事前に承認あるいは却下したリクエストを表示する場合は、[ステータス別リクエストを表示] を選択して [フィルタ] ボタンを選択します。

*ステータス別にリクエストを表示:

保留

リフレッシュ

氏名	従業員 ID	職務名	休暇付与名	開始日	終了日	ステータス	送信日
Danilo Travantti	K0W002	Sales Manager	Sick	2009/05/11	2009/05/12	送信済	2011/01/12
Danilo Travantti	K0W002	Sales Manager	Sick	2007/02/05	2007/02/05	送信済	2006/09/19
Owen Wills	K0W003	Bus Person	Jury	2007/01/26	2007/01/26	送信済	2006/09/19
Owen Wills	K0W003	Bus Person	Sick	2005/08/07	2005/08/08	送信済	2004/09/21
Paul Harvest	K0W006	Manager-Item Processing	Jury	2005/01/03	2005/01/03	送信済	2004/09/21
Owen Wills	K0W003	Bus Person	Vacations	2005/09/05	2005/09/05	送信済	2004/09/21
Rush Limbo	K0W007	Operator	Sick	2005/03/21	2005/03/22	送信済	2004/09/21
Laura Jones	K0W005	Representative-Customer	Sick	2005/04/04	2005/04/06	送信済	2004/09/21

移動
[月次カレンダーの表示](#)

休暇リクエスト ページ

**ステータス別にリクエスト
を表示**

このフィールドでは以下のオプションを選択できます。

- [承認済]
- [却下] (ステータスが "却下" および "差戻し" の休暇が表示されます)
- [保留] (デフォルト) (ステータスが "保留" および "承認処理中" の休暇が表示されます)

ステータスを選択したら、[リフレッシュ] ボタンをクリックして全てのリクエストを表示します。リクエストを処理する従業員の氏名のリンクをクリックします。リクエスト詳細ページが表示されます。

休暇リクエストの承認

リクエスト詳細

Danilo Travantti

Sales Manager

このリクエストの詳細を確認し、承認、却下、または差戻しを行います。必要に応じてコメントを入力することもできます。

休暇詳細

開始日:	2009/05/11		
終了日:	2009/05/12		
休暇付与名:	Sick	現在残数:	96.00 時間**
理由:	インフルエンザ		
半休等:	開始日と終了日		
開始日の時間数:	4.00		
終了日の時間数:	6.00		
期間:	10.00	時間	

予測残数

リクエスト詳細ページ (1/2)

追加情報

Health Care Provider:

PCP:

Copayment:

ワークフロー

ステータス:

送信済

休暇リクエスト履歴

カスミイズ | 最初

ステータス	氏名	日付	コメント
送信	Christine Nguyen	2011/01/14	

監督者 ID による休暇欠勤管理

休暇管理:未処理

監督者 IDによる休暇欠勤管理

保留中

Lionel Blitz

監督者 IDによる休暇欠勤

リクエスト詳細ページ (2/2)


管理者は、このページを使用して承認、却下、または承認プロセスの前のステップへの差し戻し ([差し戻し] ボタンをクリック) を行います。承認者は、[承認者のコメント] フィールドに情報を入力することで、変更を提示したり、その他のコメントを入力したりすることができます。

注意: [差し戻し] は、申請者と最初の承認者間でのみ使用できる操作です。承認パスの次の承認者からリクエストが差し戻され、申請者に見直しが求められる場合は、[却下] プッシュ ボタンを使用し、[承認者のコメント] フィールドに申請者に求める内容を入力します。

これらのいずれかのボタンを選択した後、承認者は以下の確認ページで選択内容を確認する必要があります。

[リクエスト詳細](#)

承認の確認

 この休暇リクエストを承認してもよろしいですか？

"承認の確認" ページ

[はい] ボタンをクリックすると、管理者がその他の休暇リクエストの処理を続けられるように休暇リクエスト ページが再表示されます。[いいえ] ボタンをクリックすると、リクエスト詳細ページが表示されます。

管理者が [差戻し] ボタンをクリックすると、"差戻しの確認" ページが表示されます。

休暇リクエスト履歴の確認

休暇リクエスト履歴ページにアクセスします ([管理セルフサービス]、[勤務時間管理]、[勤務時間の表示]、[休暇リクエスト履歴]、[休暇リクエスト履歴])。

休暇リクエスト履歴

Christine Nguyen

Planner

日付範囲を指定して検索を絞り込みます。履歴を全て取得する場合は、[開始日]と[終了日]を空白にして、[リフレッシュ] ボタンを選択してください。休暇付与名リンクを選択するとリクエストの詳細が表示されます。編集ボタンを選択するとリクエストの修正や削除ができます。

開始日:

2005/01/03

31

終了日:

2011/04/11

31

リフレッシュ

休暇リクエスト履歴						
カスタマイズ 検索 全件表示   最初 1-4/4 最後						
休暇付与名	ステータス	開始日	終了日	期間	申請者	編集
Jury	送信済	2011/01/07	2011/01/07	1 日	従業員	
Vacations	承認済	2005/01/27	2005/02/07	該当なし	休暇管理者	<input type="button" value="編集"/>
Vacations	承認済	2005/01/15	2005/01/15	該当なし	休暇管理者	<input type="button" value="編集"/>
Vacations	承認済	2005/01/03	2005/01/06	該当なし	休暇管理者	<input type="button" value="編集"/>

休暇リクエスト履歴

1086

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

休暇リクエスト履歴ページに戻るための [直属部下] リンクがあることを除き、従業員セルフサービスの休暇リクエスト履歴ページと同じページが表示されます。

[休暇付与名] 列のリンクをクリックすると、"承認内容の詳細" ページが表示されます。管理者がセルフサービス ページを使用して処理した休暇リクエストだけにリンクが表示されます。休暇リクエストまたは休暇欠勤がタイムシートを利用して入力または修正されている場合や、休暇欠勤管理者がイベント入力コンポーネントを使用して入力または修正している場合、これらを休暇欠勤セルフサービスで編集することはできません。

注意: セルフサービスを使用して入力された休暇リクエストの [期間] の値のみ自動的に計算、保存されます。休暇イベント入力などのオンライン ページや、コンポーネント インターフェイスを利用して入力された休暇欠勤の期間は自動的に計算または保存されません。

開始日、 終了日

ユーザーは、[開始日] フィールドと [終了日] フィールドに日付を入力することで、指定の日付範囲に含まれる休暇リクエストの履歴を表示できます。管理者が [開始日] フィールドだけに日付を入力した場合は、開始日が指定した日付と同じかそれより後の休暇リクエストが表示されます。また、管理者が [終了日] フィールドだけに日付を入力した場合は、終了日が指定した日付と同じかそれより前の休暇リクエストが表示されます。日付がどちらのフィールドにも入力されていないと、従業員の休暇リクエストが全て表示されます。

関連項目:

[第 25 章、「休暇欠勤の入力と処理」、休暇欠勤イベントの入力、更新、および無効化、 979 ページ](#)

勤務管理セルフサービスによる管理者の休暇欠勤の管理

管理者は、休暇欠勤管理のセルフサービス ページを使用して、従業員の休暇欠勤を入力したり、休暇付与残数を確認したりすることができます。この章では、休暇欠勤管理の管理者セルフサービス ページについて詳しく説明します。

勤務管理と統合している場合、管理者はタイムシート ページを利用して従業員の休暇リクエストを入力できます。また、このタイムシート ページでは、休暇付与残数を表示して従業員に十分な日数が残っていることを確認したうえで、休暇欠勤を入力できます。

実装時に行う以下の手順によって、管理者タイムシート ページにアクセスして休暇欠勤を入力したり、休暇付与残数を表示したりすることができます。

1. インストール テーブルで、休暇欠勤管理と勤務管理が選択されていることを確認します。
2. 国別休暇取得設定コンポーネントの休暇欠勤ページで、タイムシート ページに入力する休暇取得エレメントの勤務管理での入力を許可していることを確認します。

参照: 第 26 章、「休暇欠勤セルフサービス機能の設定」、1019 ページ。

以下の手順では、管理者がタイムシート ページで休暇欠勤を入力する方法と休暇付与残数を表示する方法について説明します。

1. [管理者セルフサービス]、[勤務時間管理]、[勤務時間のレポート]、[タイムシート] の順にナビゲートして、タイムシート ページにアクセスします。
2. [従業員を取得] をクリックして、管理者の全従業員のリストを取得します。
3. 管理者が休暇欠勤を入力する従業員の氏名をクリックします。これにより、その従業員のタイムシート ページが開きます。
4. [休暇欠勤イベント - クリックして表示] リンクをクリックして、休暇リクエストを追加、編集、予測、または送信します。たとえば、リクエストを追加するには、次の手順に従います。
 - a. [休暇欠勤イベントの追加] をクリックします。
 - b. 休暇の開始日と終了日を入力します。
 - c. ドロップ ダウン リストから [休暇付与名] を選択します。有効値は、[疾病] と [休暇] です。
 - d. 実装時に、国別休暇取得設定コンポーネントの休暇欠勤ページで、理由を表示するように選択している場合は、休暇欠勤理由を入力します。
 - e. [詳細] リンクをクリックして休暇リクエスト詳細 (GP_ABS_SS_REQUEST) ページにアクセスし、休暇欠勤の詳細情報を入力します。詳細情報を全て入力したら、[OK] をクリックしてタイムシート ページに戻ります。

注意: タイムシートの [休暇欠勤イベント] グリッドで使用可能なフィールド ([開始日]、[終了日]、[休暇付与名]、[理由]) に入力する情報以外にも情報を入力する必要がある場合は、休暇欠勤イベント詳細ページが自動的に開きます。

参照: 第 27 章、「セルフサービス休暇リクエストの入力と承認」、従業員の休暇リクエストの代行、1078 ページ。

5. [残時間数 - クリックして表示] リンクをクリックして、休暇付与残数を表示します。

注意: 休暇欠勤を前回実行した時点での休暇付与残数が表示されます。

第 28 章

休暇管理での承認の使い方

この章では、承認プロセス、承認ワークフロー、承認トランザクションの設定、および承認プロセスの設計の概要について説明します。

承認プロセスについて

日常業務として行うタスクの多くは、複数のステップで構成される大きなプロセスの一部であり、複数の人がそのタスクに携わっています。ワークフローという用語は、このプロセスを表しています。このプロセスには、休暇リクエストの承認などが含まれる場合があります。このようなマルチユーザー プロセスを容易にすることを目的として、PeopleSoft Enterprise ではワークフロー通知を自動的に起動して、作業待機プロセスの次の承認者への通知を行います。

承認フレームワークは、承認プロセスの作成、実行および管理機能を備えたエンジンです。このエンジンは、アプリケーション コンポーネント設定と組み合わせて一連のデータベース オブジェクトを使用し、ワークフローを用いて承認を処理する方法を決定します。

承認フレームワークは、HRMS および他の製品ファミリー内の複数の PeopleSoft Enterprise アプリケーションで共有されている共通コンポーネントです。このエンジンは幅広く使用されているため、このエンジンに関するドキュメンテーションはさまざまな場所で提供されています。

- 『Enterprise PeopleTools PeopleBook: Workflow Technology』では、承認フレームワークの設定について詳しく説明しています。

これは、承認ワークフローに関する主要な資料です。

- 現在のこの章では、PeopleTools に関する章についてさらに詳しく触れ、HRMS 製品ライン固有の承認フレームワークに関する設定手順と詳細情報について説明しています。
- アプリケーション固有の HRMS では、特定のビジネス プロセスに関連する承認ワークフローの詳細を示すことで、上記の内容全てについてさらに詳しく説明しています。

導入の前に全ての適切な情報ソースに目を通して、それぞれの情報がどのように関連するかを完全に理解するようにしてください。

承認フレームワークと休暇管理

PeopleSoft 休暇管理では、6 つの承認プロセス ID を提供しています。

- AbsenceManagement
- Absence Mgmt ByDeptManager
- Absence Mgmt ByPosMgmt
- Absence Mgmt ByPosnDeptMgr
- Absence Mgmt ByPosnSupervisor
- Absence Mgmt BySupervisorid

注意: 1 つの承認プロセス ID に複数の承認定義 ID を追加できます。複数の承認シナリオをリンクすることができます。自己承認されるものもあれば、1 つの承認プロセス ID に対する 1 つまたは複数のユーザー リストに含まれる承認者によって 1 レベル、2 レベル、またはそれ以上の承認レベルを必要とするものもあります。この機能を使用すると、承認シナリオを簡素化して、複数の承認プロセス ID に対する管理を軽減することができます。

休暇欠勤イベントの作成者がリクエストを送信すると、セルフサービス - 国別休暇取得設定テーブル- 休暇欠勤ページで定義された管理ルールに基づいて、承認が使用されているかどうかを確認されます。承認の必要がない場合は、休暇欠勤ページの [承認プロセス ID] フィールドと [承認定義 ID] フィールドは空白のままになります。また、独自の承認定義 ID を設定して、休暇欠勤イベントを自動的に自己承認することもできます。これらのフィールドに値が入力されている場合は、承認プロセスが開始されます。

承認プロセスの最初の手順では、トランザクションの最初の承認者を特定します。この承認者は、承認プロセス定義に基づきます。承認者が特定されると、承認待ちの休暇があることを示す通知が送信されます。承認者は以下を行うことができます。

- 休暇の承認。承認プロセスの次の承認者が指定されている場合は、その承認者に通知が送信されます。
- 休暇の却下。承認プロセスが終了します。休暇の作成者は、休暇が却下されたことを示す通知を受信します。

- 休暇の差戻し。休暇の作成者は、休暇に留意が必要であることを示す通知を受信します。

注意: 差戻しは、休暇が承認パスの最初の承認者を通過するまでに、承認者に有効なアクションです。いったん 2 番目以降の承認者が休暇を差し戻すと、最初の承認者は休暇を差し戻すのではなく、却下する必要があります。休暇を却下する場合は、最初の承認者はコメントフィールドに常に理由を入力することをお勧めします。

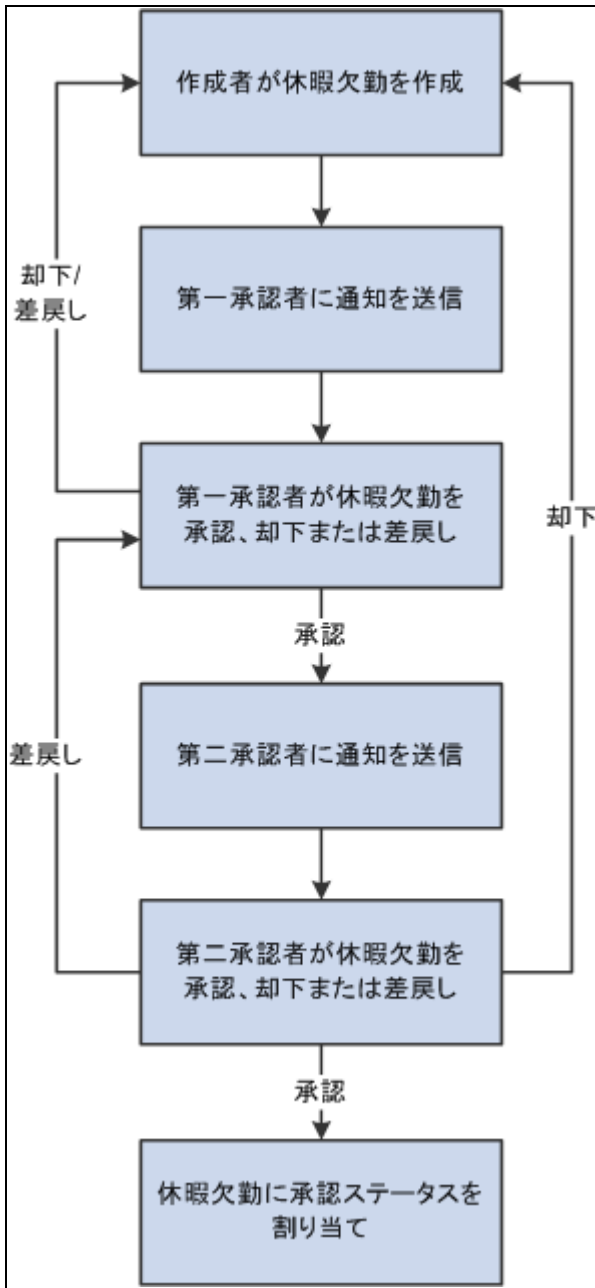
最初の承認者を特定できない場合、承認プロセスは 2 番目の手順に進みます。

以降の承認プロセスの手順では (複数の承認レベルが定義されている場合)、休暇の次の承認者が指定されている場合は、その承認者を特定します。次の承認者が特定されると、承認を必要とする休暇があることを示す通知がその承認者に送信されます。次の承認者は以下を行うことができます。

- 休暇の承認。承認対象の休暇欠勤イベントのステータスが更新され、承認プロセスが終了します。
- 休暇の却下。承認プロセスが終了します。休暇欠勤イベントの作成者は、休暇欠勤イベントが却下されたことを示す通知を受信します。
- 休暇の差戻し。休暇欠勤イベントに関連付けられている最初の承認者に通知が送信され、休暇欠勤に留意が必要であることが通知されます。

どの承認手順の条件も満たさない場合は、承認管理者に通知が送信され、留意が必要な休暇欠勤イベントがあることが通知されます。

次の図で、承認プロセスの流れを説明します。



休暇リクエストの承認プロセスの流れ

注意: 提供されている承認プロセスの中で、2 つの承認レベルを持つのは、承認プロセス ID が AbsenceManagement であるもののみです。その他の承認プロセスの承認レベルは 1 つです。提供されている承認プロセスが組織のニーズに合わない場合は、独自の承認プロセス ID を作成するか、社内ポリシーにより良好に適合する承認定義 ID にステップを追加することができます。

承認トランザクションの設定

PeopleSoft では、休暇管理の承認トランザクションの設定に使用する以下のイベントおよび電子メール通知テンプレートを提供しています。

イベント	テンプレート名
最終承認時	GP_ABS_SS_APPR
差戻し	GP_ABS_SS_WRK
最終却下時	GP_ABS_SS_DNY
エラー時	GP_ABS_SS_ERR
プロセス起動時	GP_ABS_SS_SUB
承認に回す時	GP_ABS_SS_APPR_READY
終了時	GP_ABS_SS_WRK

注意: 以上のテンプレートが提供されています。修正が必要な場合は、『PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーションの基礎 PeopleBook』を参照してください。提供されているイベントを修正することはできません。これを修正すると、休暇欠勤セルフサービス アプリケーションが正しく機能しなくなります。承認フレームワーク、PeopleCode および休暇欠勤セルフサービスについて十分に理解している場合は、この設定を修正してもかまいません。

承認プロセスの設計について

承認プロセスは、ステージ、パス、ステップ、ユーザー リスト、および条件から構成されています。

- ステージ

ステージとは、承認プロセスにおいて特定の順番で実行する高レベルのアクションです。ステージは、1 つ以上のパスから構成されます。

AbsenceManagement、Absence Mgmt ByDeptManager、Absence Mgmt ByPosMgmt、Absence Mgmt By PosnDeptMgr、Absence Mgmt ByPosnSupervisor および Absence Mgmt BySupervisorid では、1 つのステージを使用します。

- 条件

条件では、承認プロセスで使用するルールを定義し、ステージやステップの実行の有無を指定します。

- パス

パスは、ステップの順番です。

AbsenceManagement、Absence Mgmt ByDeptManager、Absence Mgmt ByPosMgmt、Absence Mgmt By PosnDeptMgr、Absence Mgmt ByPosnSupervisor および Absence Mgmt BySupervisorId では、1 つのパスを使用します。

- ステップ

ステップは、休暇欠勤イベントの承認や評価を担当する 1 人以上のユーザーを表しています。パス内のステップは、ステップごとの個別の条件で順番に実行されます。ステップを実行するかどうかは、ステップごとに指定します。

- ユーザー リスト

ユーザー リストでは、休暇欠勤イベント時にアクションを実行するユーザーを指定します。ユーザー リストは、ロール、SQL 定義、クエリー、またはアプリケーション クラスになります。

AbsenceManagement では、AbsenceBySupervisorId ユーザー リストを使用します。

Absence Mgmt ByDeptManager では、AbsenceByDeptManager ユーザー リストを使用します。

Absence Mgmt ByPosMgmt では、AbsenceByPosMgmt ユーザー リストを使用します。

Absence Mgmt By PosnDeptMgr では、AbsenceByPosnDeptMgr ユーザー リストを使用します。

Absence Mgmt ByPosnSupervisor では、AbsenceByPosnSupervisor ユーザー リストを使用します。

Absence Mgmt BySupervisorId では、AbsenceBySupervisorId ユーザー リストを使用します。

注意: 承認プロセスを定義するには、プロセス定義の設定 (PTAF_PRCS) とトランザクション登録 (PTAF_TXN) コンポーネントを使用します。

第 29 章

休暇管理での委任の使い方

この章では、委任の概要と以下の方法について説明します。

- 休暇管理のために用意されている委任設定の確認
- セルフサービスによる委任リクエストの追加

委任について

PeopleSoft Enterprise 休暇管理では、委任を使用して休暇欠勤トランザクションの操作時に、自分の代行をする人に権限を与えることができます。管理者の場合、作業量の軽減やオフィスでの不在などを理由として、勤務時間の承認、従業員の勤務時間の入力、または自分の勤務時間の入力作業を別の人に委任することができます。従業員の場合、オフィスを不在にするときに、自分の勤務時間の入力作業を別の人に委任することができます。

委任関連用語

以下の用語は、委任機能について理解するうえで重要です。

- **委任:** 権限を別のユーザーに与えることです。
- **委任者:** 権限を別のユーザーに与えるユーザーです。
- **代理人:** あるユーザーの代行をする権限を与えられたユーザーです。
- **代理権:** 委任者から代理人に与えられる権利や権限です。
- **委任リクエスト:** 委任者から代理人に対して行われる、権限を引き継ぐためのリクエストです。
- **委任期間:** 代理権の効力が有効な期間です。
- **委任管理者:** 代理権を設定、管理および保守するシステム管理者です。
- **取消:** 委任者が代理権を取り消すことです。

委任フレームワーク

委任フレームワークでは、以下のタイプの委任をサポートしています。

- 直属の部下、または所属階層内の間接の部下への権限の下方委任
- 管理者、または所属階層内の間接の上司への権限の上方委任
- 同じ部門または所属階層の別の部門に属する同僚への平行委任

注意: 委任フレームワークでは委任が連鎖または循環することを避けるために、休暇欠勤トランザクションで代理人に代理権がいったん渡ると、代理人がそのトランザクションで別のユーザーに権限を委任できないようになっています。委任フレームワークでは、トランザクション時に第一委任者から第一代理人に対してのみ権限が渡されます。

休暇管理のために用意されている委任設定の確認

このセクションでは、休暇管理のために用意されている委任設定の概要と以下の項目について説明します。

- ワークフロー トランザクションの確認
- 委任の権限リストとロールの確認
- インストール設定の定義
- 委任トランザクションの確認

休暇管理のために用意されている委任設定

PeopleSoft では休暇管理用の委任フレームワークを提供しています。このフレームワークを確認するには、次の手順に従います。

1. ワークフロー トランザクション ページで、ワークフローの委任トランザクションを確認します。
2. PeopleTools のセキュリティのコンポーネントを利用して、委任の権限リストとロールを確認します。
3. "委任インストール設定" ページで、委任のインストール設定を定義します。

4. 委任トランザクション設定ページで、委任のトランザクションを確認します。

ワークフロー トランザクションの確認

PeopleSoft システムは、休暇管理の委任フレームワーク用にあらかじめ設定済みのトランザクションを備えています。次の表に、これらの委任トランザクションを示します。

承認トランザクション名	トランザクション タイプ	説明
GP_ABS_EESS_BAL	開始	休暇残数に関する従業員のビューの開始を委任します。
GP_ABS_EESS_HIST	開始	休暇履歴に関する従業員のビューの開始を委任します。
GP_ABS_EESS_REQ	開始	従業員の休暇リクエストの開始を委任します。
GP_ABS_MGRSS_BAL	開始	休暇残数に関する管理者のビューの開始を委任します。
GP_ABS_MGRSS_HIST	開始	休暇履歴に関する管理者のビューの開始を委任します。
GP_ABS_MGRSS_REQ	開始	管理者の休暇リクエストの開始を委任します。
GP_SS_ABS_APPR_L	承認	管理者が承認する休暇リクエストの承認を委任します。

承認フレームワーク/委任トランザクションのグリッドを使用して、承認フレームワークと委任トランザクションを使用するセルフサービス トランザクションを登録します。このグリッドに入力するデータによって、トランザクション名と HRMS セルフサービス トランザクション用の補助テーブルは、トランザクション登録ページでこれらのトランザクション用に作成する承認プロセス ID と関連付けられます。

注意: "国別休暇取得設定" の設定で定義された承認プロセス ID と承認プロセス定義に従って、承認プロセス ID が適切に設定されていることを確認してください。複数の承認プロセス ID を定義できますが、一度に使用できるのは 1 つだけです。トランザクション名 GP_SS_ABS_APPR_L の適切な承認プロセス ID を関連付けて、休暇リクエストに関する委任が正しく行われるようにします。

1 つの承認プロセス ID に複数の承認定義 ID を追加できます。複数の承認シナリオをリンクすることができます。自己承認されるものもあれば、1 つの承認プロセス ID に対する 1 つまたは複数のユーザー リストに含まれる承認者によって 1 レベル、2 レベル、またはそれ以上の承認レベルを必要とするものもあります。この機能を使用すると、承認シナリオを簡素化して、複数の承認プロセス ID に対する管理を軽減することができます。

委任の権限リストとロールの確認

PeopleSoft Enterprise HRMS には、委任フレームワークの使用に必要な権限リストがシステムデータとして用意されています。

次の表に、委任フレームワークのために用意されている休暇管理ロールを示します。

ロール名	添付されている権限リスト	説明
Delegate Employee Absence Bal	HCCPAMSS09	委任されたユーザーは、他の従業員の休暇残数を表示するコンポーネントにアクセスできます。
Delegate Employee Absence Hist	HCCPAMSS10	委任されたユーザーは、他の従業員の休暇欠勤履歴と休暇リクエストの詳細を表示するコンポーネントにアクセスできます。
Delegate Employee Absence Rqst	HCCPAMSS08	委任されたユーザーは、他の従業員の休暇リクエストを入力するコンポーネントにアクセスできます。
Delegate Manager Absence Appr	HCCPAMSS04	委任されたユーザーは、他の管理者の直属部下の休暇欠勤を承認するコンポーネントにアクセスできます。

ロール名	添付されている権限リスト	説明
Delegate Manager Absence Bal	HCCPAMSS06	委任されたユーザーは、管理者の直属部下の休暇残数を表示するコンポーネントにアクセスできます。
Delegate Manager Absence Hist	HCCPAMSS07	委任されたユーザーは、管理者の直属部下の休暇欠勤履歴を表示するコンポーネントにアクセスできます。
Delegate Manager Absence Rqst	HCCPAMSS05	委任されたユーザーは、管理者の直属部下の休暇リクエストを入力するコンポーネントにアクセスできます。

注意: 権限リストとロールのセキュリティ設定については、PeopleTools PeopleBook で詳しく説明しています。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration

インストール設定の定義

委任を使用するときは、指定した階層が直属部下のアクセス タイプの設定と一致していることを確認し、承認プロセス ID と承認定義 ID が休暇欠勤に関連付けられていることを確認します。設定に誤りがあると、誤った結果が得られる可能性があります。たとえば、監督者 ID で直属部下のアクセス タイプと委任階層を使用する場合は、休暇欠勤の承認プロセス ID が監督者 ID で設定されていることを確認します。

委任トランザクションの確認

次の表に、休暇管理のために用意されている委任トランザクションを示します。

承認トランザクション名	トランザクション タイプ	ロール
従業員の休暇残数	開始	Delegate Employee Absence Bal
従業員の休暇欠勤履歴	開始	Delegate Employee Absence Hist
従業員の休暇リクエスト	開始	Delegate Employee Absence Rqst
管理者の休暇残数	開始	Delegate Manager Absence Bal
管理者の休暇欠勤履歴	開始	Delegate Manager Absence Hist
管理者の休暇リクエスト	開始	Delegate Manager Absence Rqst
管理者の休暇承認	承認	Delegate Manager Absence Appr

セルフサービスによる委任リクエストの追加

このセクションでは、セルフサービスによる委任の概要と、休暇管理で行う委任の例について説明します。

セルフサービスによる委任の設定手順

委任者は、以下の手順に従って、セルフサービスを利用して休暇リクエストを委任します。

1. システムにログインします。
2. 委任管理コンポーネントに移動します。
3. [委任リクエストの作成] ハイパーリンクをクリックします。

4. 委任者が複数の職務を兼任している場合は、トランザクションを委任する職務を選択する必要があります。

注意: 人員が複数の職務を兼任している場合は、委任期間全体で少なくとも 1 つの職務でアクティブである必要があります。

5. 委任リクエストの [開始日] と [終了日] に日付を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。
6. 権限を委任するトランザクションを選択し、[次へ] ボタンをクリックします。
7. リストを確認し、代理人を選択します。この作業を行うには、権限の委任先となる人員を選択します。
8. [委任者に通知] チェック ボックスをオンにし、[送信] をクリックします。
9. [OK] をクリックしたら、ログアウトします。

休暇欠勤に関する権限の委任例

この例では、管理者である Antonio Smith は、2009 年 8 月 17 日から 2009 年 年 8 月 23 日まで休暇を取得します。この休暇期間中、Antonio は、休暇欠勤に関する全ての管理権限を別の管理者である Paul Harvest に委任します。

次の図に、Antonio Smith が休暇欠勤に関する権限を委任する際に行う手順を示します。

委任の管理

Antonio は、委任管理ページに移動して委任リクエストを作成します。

委任管理

Antonio Smith

ユーザーのセルフサービストランザクションを個人に委任することができます。委任された個人は代理人として、ユーザーのまたは部下のトランザクションを開始または承認処理することができます。また、別の個人がユーザーに対してトランザクションの処理権限を委任する場合があります。

委任の説明

[委任リクエストの作成] をクリックして、委任するトランザクションと代理人を指定します。

[委任リクエストの作成](#)

委任管理ページで権限を委任します。

委任リクエストの日付の入力

Antonio Smith は、休暇期間中に休暇欠勤に関する権限を委任する日付を入力します。



委任リクエストの作成

日付の入力

Antonio Smith

Administrator

委任リクエストの日付を入力してください。[開始日]には今日または今日以降の日付を入力します。[終了日]には、開始日と同じかまたはそれ以降の日付を指定します。委任リクエストの期限を設けない場合は、[終了日]はフラグにしてください。

委任日	
開始日:	<input type="text" value="2010/12/27"/> 
終了日:	<input type="text"/> 

次へ

キャンセル

"委任リクエストの作成" の "日付の入力" ページで委任の日付を入力します。

委任リクエストのトランザクションの選択

Antonio は、権限を委任する休暇欠勤トランザクションのタイプを選択します。Antonio は、休暇欠勤に関する全ての管理トランザクションを委任することを選択します。ただし、従業員の休暇欠勤トランザクションの委任は選択しません。

委任リクエストの作成

トランザクションの選択

Antonio Smith

Administrator

代理人に委任するトランザクションを選択してください。トランザクションは 1 つまたは複数指定できます。

委任トランザクション	
	トランザクション
<input type="checkbox"/>	Approve Promotion
<input type="checkbox"/>	Compensation Approvals
<input checked="" type="checkbox"/>	Confirm Compensation Proposals
<input checked="" type="checkbox"/>	Employee Absence Balance
<input checked="" type="checkbox"/>	Employee Absence History
<input checked="" type="checkbox"/>	Employee Absence Request

"委任リクエストの作成" - "トランザクションの選択" ページでトランザクションを選択します。

階層からの代理人の指定

Antonio は、休暇欠勤トランザクションを委任する人員として Paul Harvest を選択します。

委任リクエストの作成

代理人を階層から指定

Antonio Smith

Administrator

このページでは、ユーザーの階層に属し、代理人に指定できる個人が表示されます。代理人を指定するには、名前の左にあるオプション ボタンをクリックしてください。ユーザーの階層以外の個人を検索する場合は、[名前を検索] リンクを選択してください。

名前を検索

委任の選択						
	名前	従業員 ID	雇用形態	職務名	部門	監督者名
<input type="radio"/>	Bruce Way	K0W021	従業員	Sales Manager	Sales Administration	Dominick Osorio
<input type="radio"/>	Danilo Travantti	K0W002	従業員	Sales Manager	Sales Administration	Antonio Smith
<input type="radio"/>	Jaime Taylor	K0W046	従業員	Manager-Item Processing	Production Scheduling	Antonio Smith
<input type="radio"/>	Laura Jones	K0W005	従業員	Representative-Customer	Marketing	Antonio Smith
<input type="radio"/>	Owen Wills	K0W003	従業員	Bus Person	Business Services	Antonio Smith
<input checked="" type="radio"/>	Paul Harvest	K0W006	従業員	Manager-Item Processing	Production Scheduling	Antonio Smith
<input type="radio"/>	Will Smitherson	K0W004	従業員	Sales Manager	Sales and Services	Antonio Smith

"委任リクエストの作成" の "代理人を階層から指定" ページで権限を委任する人員を選択します。

委任の詳細の表示

Antonio は、Paul に委任するために選択したトランザクションを確認できます。変更が必要であるかどうかに応じて、委任リクエストを送信することもキャンセルすることもできます。委任リクエストを送信すると、代理人である Paul Harvest に電子メール通知が自動的に送信され、代理人は委任内容を確認したうえで、これを受け付けるか拒否します。

委任リクエストの作成

委任の詳細

Antonio Smith

Administrator

委任者の代わりに代理人が操作する際に受信する全ての通知を委任者も受信する場合に、[委任者に通知] チェックボックスをオンにしてください。

代理人: Paul Harvest

開始日: 2010/12/27

終了日: 2010/12/30

トランザクション

Approve Promotion

Compensation Approvals

Confirm Compensation Proposals

Employee Absence Balance

Employee Absence History

Employee Absence Request

☒ 委任者に通知

送信

戻る

キャンセル

"委任リクエストの作成" の "委任の詳細" ページで委任の詳細を表示します。

代理人の表示

Antonio は、全ての代理人と委任リクエストのリクエスト ステータスを表示できます。委任したトランザクションは、委任期間中いつでも必要に応じて取り消すことができます。

代理人の確認

Antonio Smith

Administrator

このページでは、各委任リクエストの代理人およびリクエスト ステータスを表示します。表示するステータスを選択して [リフレッシュ] ボタンを選択すると、そのステータスのリクエストが表示されます。リクエストの詳細を確認するには、詳細アイコンを選択してください。リクエストを取り消すには、まずリクエストを選択し、次に [取消] を選択します。

表示するリクエストのステータス:

リフレッシュ

委任の選択								
	トランザクション	名前	職務名	開始日	終了日	リクエスト ステータス	委任ステータス	詳細
<input type="checkbox"/>	Manager Absence Balance	Paul Harvest	Manager-Item Processing	2010/12/27	2010/12/30	送信済	非アクティブ	
<input type="checkbox"/>	Manager Absence History	Paul Harvest	Manager-Item Processing	2010/12/27	2010/12/30	送信済	非アクティブ	
<input type="checkbox"/>	Manager Absence Request	Paul Harvest	Manager-Item Processing	2010/12/27	2010/12/30	送信済	非アクティブ	
<input type="checkbox"/>	Manager Absence Approve	Paul Harvest	Manager-Item Processing	2010/12/27	2010/12/30	送信済	非アクティブ	
<input type="checkbox"/>	Initiate Promotion	Paul Harvest	Manager-Item Processing	2010/12/27	2010/12/30	送信済	非アクティブ	
<input type="checkbox"/>	Initiate Terminate Employee	Paul Harvest	Manager-Item Processing	2010/12/27	2010/12/30	送信済	非アクティブ	
<input type="checkbox"/>	Manage Reported Time	Paul Harvest	Manager-Item Processing	2010/12/27	2010/12/30	送信済	非アクティブ	
<input type="checkbox"/>	Manage Approve Reported	Paul Harvest	Manager-Item Processing	2010/12/27	2010/12/30	送信済	非アクティブ	

"代理人の確認" ページでトランザクションと代理人を表示します。

代理権の表示

Paul Harvest は、委任リクエストを通知する電子メールを受信すると、"代理権の確認" ページにアクセスし、このリクエストを受け付けるか拒否します。

代理権の確認

Paul Harvest

Manager-Item Processing

このページでは、代理権を表示できます。特定のステータスを選択して [リフレッシュ] を選択すると一致するリクエストが表示されます。リクエストの詳細を確認するには詳細アイコンを選択してください。

表示するリクエストのステータス:

送信済

リフレッシュ

委任の選択								
	トランザクション	名前	職務名	開始日	終了日	リクエスト ステータス	委任ステータス	詳細
<input type="checkbox"/>	複数トランザクション	Antonio Smith	Administrator	2010/12/27	2010/12/30	送信済	非アクティブ	
<input type="checkbox"/>	複数トランザクション	Antonio Smith	Administrator	2010/12/27	2010/12/30	送信済	非アクティブ	

全て選択

全て選択解除

承諾

辞退

"代理権の確認" ページで代理権を表示し、受け付けるか拒否します。

複数トランザクションの詳細の表示

委任リクエストを受け付けるか拒否する前に、Paul は自分に委任されるトランザクションを確認できます。

複数トランザクション

複数トランザクション						
トランザクション	名前	開始日	終了日	リクエスト ステータス	委任ステータス	
Manager Absence Approve	Antonio Smith	2010/12/27	2010/12/30	送信済	非アクティブ	
Manager Absence Approve	Antonio Smith	2010/12/27	2010/12/30	送信済	非アクティブ	
Manager Absence Approve	Antonio Smith	2010/12/27	2010/12/30	送信済	非アクティブ	
Manage Reported Time	Antonio Smith	2010/12/27	2010/12/30	送信済	非アクティブ	
Manage Reported Time	Antonio Smith	2010/12/27	2010/12/30	送信済	非アクティブ	
Manage Reported Time	Antonio Smith	2010/12/27	2010/12/30	送信済	非アクティブ	
Manage Approve Reported Time	Antonio Smith	2010/12/27	2010/12/30	送信済	非アクティブ	
Manage Approve Reported Time	Antonio Smith	2010/12/27	2010/12/30	送信済	非アクティブ	
Manage Approve Reported Time	Antonio Smith	2010/12/27	2010/12/30	送信済	非アクティブ	
Manage Approve Payable Time	Antonio Smith	2010/12/27	2010/12/30	送信済	非アクティブ	
Manage Approve Payable Time	Antonio Smith	2010/12/27	2010/12/30	送信済	非アクティブ	
Manage Approve Payable Time	Antonio Smith	2010/12/27	2010/12/30	送信済	非アクティブ	

複数トランザクション ページで委任されるトランザクションを表示します。

委任された休暇欠勤トランザクション

この例では、Laura Jones は Antonio Smith の部下です。この休暇期間中、Antonio Smith は承認権限を Paul Harvest に委任しています。委任がアクティブになると、休暇リクエストの詳細には、休暇リクエストの承認者が表示されます。リクエスト詳細ページには、承認の代理権が表示されます。

リクエスト詳細

Laura Jones

Representative-Customer

リクエスト ステータスと承認詳細を表示します。

詳細

開始日:

2009/08/19

終了日:

2009/08/20

休暇付与名:

Sick

現在残数:

96.00 Hours**

理由:

Sickness

半休等:

None

期間:

16.00

Hours

追加情報

医療保険取扱機関:

PCP:

自己負担金:

フロー

ステータス:

Submitted

リクエスト可能なユーザー:

Employee and Manager

使用するユーザー:

Employee

リクエスト詳細ページ (1/2)

休暇リクエスト履歴

5/29/2012 | 最初

ステータス	氏名	日付	コメント
送信済	Laura Jones	2009/08/17	

Absence Mgmt By Supervisorid

休暇欠勤管理: 保留

コメントを表示 / 非表示

Absence Mgmt By Supervisorid

保留

Paul Harvest for Antonio Smith

Absence By Supervisorid

コメント

休暇リクエスト履歴に戻る

** 権利放棄 現在残数には、未処理の休暇欠勤を反映していません。

リクエスト詳細ページ (2/2)

1110

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

第 30 章

トリガの設定

この章では、トリガの概要および以下の項目について説明します。

- トリガ定義の設定
- トリガの導入
- トリガの表示と管理
- PeopleSoft 提供のトリガの確認

トリガについて

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- トリガの用途
- トリガ テーブルのデータ
- トリガの作成
- 使用済みまたは不要なトリガの管理
- 支給および控除の割り当てを使用した分割トリガ
- トリガの手動定義

トリガの用途

グローバル ペイロールでは、"**トリガ**" と呼ばれる機能を使用して、反復、遡及、または分割の処理に結びつくオンラインのデータ変更を検出します。トリガを設定するには、昇給、勤務地の変更、雇用終了などのデータ変更に応答させるデータベース レコードおよびフィールドを選択します。変更が発生すると、"**トリガ テーブル**" と呼ばれるテーブルにデータの行が追加され、システムに変更の処理方法が指示されます。

トリガには以下の 3 つのタイプがあります。

- 反復

反復トリガは、現在のオープン カレンダーについて受給者の処理 (または再処理) が必要であることを指示します。たとえば、受給者のデータが変更された、またはバッチ処理中に受給者が一時停止モードになった場合などに使用されます。カレンダー グループ内のカレンダー数にかかわらず、1 つのオープン カレンダー グループの受給者ごとに、反復トリガは 1 つしか作成されません。データが受給者について変更されたとき、オンライン コードによって反復トリガが作成されます。このトリガにより、バッチ処理で受給者の再計算、カレンダー実行への受給者の追加、カレンダー実行からの受給者の除外が可能になります。

- 遡及

遡及トリガは、過去に計算した (処理済みの) カレンダーの再処理が必要であることを指示します。たとえば、受給者の給与が変更され、変更が前回のカレンダーにさかのぼって行われる場合などに使用されます。受給者が正確な支給金額を確実に受け取るためには、給与データの再処理が必要になります。

参照: [第 33 章、「遡及処理の定義」、1219 ページ。](#)

- 分割

分割トリガは、受給者データの変更により、給与計算実行について給与計算エレメントの全てまたはサブセットの分割が必要であることを指示します。

参照: [第 32 章、「分割の定義」、1189 ページ。](#)

トリガは以下の 2 とおりの方法で作成できます。

- 手動: トリガ定義を設定する必要はありません。指定の受給者についてトリガを手動で作成します。

参照: [第 30 章、「トリガの設定」、自動作成されたトリガの管理とトリガの手動定義、1150 ページ。](#)

注意: トリガの手動作成は、遡及トリガと分割トリガでのみ使用できます。

- 自動: トリガ定義を設定する必要があります。これらのトリガ定義は、データベースが変更された際に、"自動" トリガを作成する方法と時期を指定します。

手動または自動のどちらでトリガを作成した場合でも、バッチ処理によりトリガが使用され、適切なアクションが実行されます。

トリガ テーブルのデータ

レコードまたはレコードとフィールドの組み合わせの変更によってトリガが作成されると、変更の処理に必要なデータがトリガ テーブルに書き込まれます。トリガ タイプごとに別々のテーブルがあり、データはそのテーブルに保存されます。

反復トリガ テーブル

反復トリガで作成される情報は、反復トリガ テーブル (GP_ITER_TRGR) に保存されます。このテーブルには、以下のデータが含まれます。

フィールド	用途
EMPLID	反復トリガは、キー構造の一部として従業員 ID を持つレコードから作成される、受給者レベルのトリガです。EMPLID は、トリガを作成するデータ変更の影響を受ける受給者を識別します。 一括トリガの動作はこれとは異なり、キー構造の一部として従業員 ID を持っているレコードに制限されません。 <u>参照: 第 31 章、「一括トリガの設定」、1177 ページ。</u>
CAL_RUN_ID	反復トリガを処理するカレンダー実行を識別します。
TRGR_CREATE_TS	トリガ作成時のシステムの日時です (参照用)。同じ反復トリガが繰り返し作成されるようなデータ変更を行った場合は、各インスタンスを一意に識別するためにタイムスタンプが必要になります。

フィールド	用途
ITER_TRGR_STATUS	<p>トリガの処理状況を識別します。オプションは、以下のとおりです。</p> <p>[キャンセル]: "トリガ確認" の反復ページで、ステータスが [未処理] となっているトリガはキャンセルできます。</p> <p>[処理中]: バッチ処理で現在使用されているトリガです。</p> <p>[処理済]: 処理が既に完了し、今後は使用されないトリガです。</p> <p>[未処理]: まだ処理されていないトリガです。</p>
ITER_TRGR_SRC	<p>反復トリガの作成方法を識別します。オプションは、以下のとおりです。</p> <p>[バッチ]: バッチ処理中に作成されるトリガです。</p> <p>[オンライン]: オンライン コードで作成されるトリガです。</p>
COUNTRY	反復トリガに関連付けられた国コードです。
RECNAME	反復トリガが作成されるソース レコードを識別します。
FIELDNAME	データ変更に対して反復トリガを作成するフィールドを識別します。
TRGR_FLD_VAL_CHAR	反復トリガを作成する文字値の変更を識別します。トリガがレコード レベルでのみ定義されている場合、このフィールドの値は入力されません。
TRGR_FLD_VAL_DT	反復トリガを作成する日付値の変更を識別します。トリガがレコード レベルでのみ定義されている場合、このフィールドの値は入力されません。

フィールド	用途
TRGR_FLD_VAL_NUM	反復トリガを作成する数値の変更を識別します。 トリガがレコード レベルでのみ定義されている場合、このフィールドの値は入力されません。

データ変更によって反復トリガが作成されると、従業員 ID、国、およびカレンダー実行 ID が、バッチ コードによる反復処理を容易にするその他の情報と共にトリガ テーブルに書き込まれます。

たとえば、このデータにより次の事柄が認識されます。

- 処理または再処理対象の受給者
- 処理対象のオープン カレンダー

さらに、RECNAME、FIELDNAME、TRGR_FLD_VAL_CHAR、TRGR_FLD_VAL_DT、および TRGR_FLD_VAL_NUM フィールドで、反復トリガのソース (トリガを作成するレコード、フィールド、またはフィールド値の変更) が識別されます。この情報により、受給者の支給が反復処理される原因を明確に把握し、デバッグを簡単に行ったりクエリーに回答することができます。

注意: このテーブルに保存されているトリガのソース データは、反復ページで表示できます。

参照: 第 30 章、「トリガの設定」、反復トリガのトリガ ステータスの表示と変更、1164 ページ。

遡及トリガ テーブル

遡及トリガで作成される情報は、遡及トリガ テーブル (GP_RTO_TRGR) に保存されます。このテーブルには、以下のデータが含まれます。

フィールド	用途または説明
EMPLID	<p>遡及トリガは、キー構造の一部として従業員 ID を持つレコードから作成される、受給者レベルのトリガです。EMPLID は、トリガを作成するデータ変更の影響を受ける受給者を識別します。</p> <p>一括トリガの動作はこれとは異なり、キー構造の一部として従業員 ID を持っているレコードに制限されません。</p> <p>参照: 第 31 章、「一括トリガの設定」、1177 ページ。</p>
COUNTRY	遡及トリガに関連付けられた国コードです。
TRGR_EVENT_ID	レコード、フィールド、または値の変更に関連付けられたトリガ イベント ID です。トリガの設定時に定義します。
TRGR_EFFDT	有効日を使って、遡及処理の対象期間を指定します。たとえば、有効日が 2000 年 1 月 1 日の遡及トリガは、2000 年 1 月の給与計算実行で始まる全てのカレンダーを再処理するように指示します。
TRGR_CREATE_TS	トリガ作成時のシステムの日時です (参照用)。同じ遡及トリガが繰り返し作成されるようなデータ変更を行った場合は、各インスタンスを一意に識別するためにタイムスタンプが必要になります。
RTO_TRGR_SRC	<p>遡及トリガの作成方法を識別します。オプションは、以下のとおりです。</p> <p>[自動]: オンライン コードで作成されたトリガを識別します。</p> <p>[手動]: 手動で作成されたトリガを示します。</p> <p>[ユーティリティ作成]: ここでは該当しません。</p>

フィールド	用途または説明
TRGR_STATUS	<p>トリガの処理状況を識別します。オプションは、以下のとおりです。</p> <p>[キャンセル]: "トリガ確認" の遡及ページで、ステータスが [未処理] となっているトリガはキャンセルできます。</p> <p>[処理中]: バッチ処理で現在使用されているトリガを示します。</p> <p>[処理済]: 処理が既に完了し、今後は使用されないトリガを識別します。</p> <p>[未処理]: まだ処理されていないトリガを識別します。</p>
TRGR_DESCR	<p>トリガ タグ (トリガの説明) として機能します。</p> <p>[ユーティリティ作成] ソース値で使用されます。</p>
CAL_RUN_ID	<p>遡及トリガを処理するカレンダー実行を識別します。</p>
RECNAME	<p>遡及トリガが作成されるソース レコードを識別します。</p>
FIELDNAME	<p>データ変更に対して遡及トリガを作成するフィールドを識別します。</p>
TRGR_FLD_VAL_CHAR	<p>遡及トリガを作成する文字値の変更を識別します。トリガがレコード レベルでのみ定義されている場合、このフィールドの値は入力されません。</p>
TRGR_FLD_VAL_DT	<p>遡及トリガを作成する日付値の変更を識別します。トリガがレコード レベルでのみ定義されている場合、このフィールドの値は入力されません。</p>
TRGR_FLD_VAL_NUM	<p>遡及トリガを作成する数値の変更を識別します。トリガがレコード レベルでのみ定義されている場合、このフィールドの値は入力されません。</p>

最初にデータ変更によって遡及トリガが作成されると、従業員 ID、変更の有効日 (トリガ有効日)、国、および関連付けられたイベント ID が、バッチ コードによる遡及処理を容易にするその他の情報と共にトリガ テーブルに書き込まれます。

たとえば、このデータにより次の事柄が認識されます。

- 処理対象の受給者
- トリガ有効日に基づく遡及処理の実行期間
- 過去の期間の再計算に使用するプロセス定義

さらに、RECNAME、FIELDNAME、TRGR_FLD_VAL_CHAR、TRGR_FLD_VAL_DT、および TRGR_FLD_VAL_NUM フィールドで、遡及トリガのソース (トリガを作成するレコード、フィールド、またはフィールド値の変更) が識別されます。この情報により、受給者の支給が遡及処理される原因を明確に把握し、デバッグを簡単に行ったりクエリーに回答することができます。

注意: このテーブルに保存されているトリガのソース データは、遡及ページで表示できます。

参照: 第 30 章、「トリガの設定」、遡及トリガの表示、追加、またはキャンセル、1157 ページ。

注意: 遡及データ変更に対応するレコードとフィールドの組み合わせを複数定義することによって、同じイベントに対しトリガ データ行を複数作成できます。たとえば、採用日の遡及変更と支給グループの遡及変更が、同じイベントに対して遡及トリガを作成する場合があります。遡及トリガが複数あるときは、最も古いトリガ有効日が限度計算の実行に使われ、次に遡及計算に使用されます。

分割トリガ テーブル

分割トリガで作成される情報は、分割トリガ テーブル (GP_SEG_TRGR) に保存されます。このテーブルには、以下のデータが含まれます。

フィールド	用途
EMPLID	<p>分割トリガは、キー構造の一部として従業員 ID を持つレコードから作成される、受給者レベルのトリガです。EMPLID は、トリガを作成するデータ変更の影響を受ける受給者を識別します。</p> <p>一括トリガの動作はこれとは異なり、キー構造の一部として従業員 ID を持っているレコードに制限されません。</p> <p>参照: 第 31 章、「一括トリガの設定」、1177 ページ。</p>

フィールド	用途
EMPL_RCD	分割イベントによって影響を受ける職務を識別します。
COUNTRY	分割トリガに関連付けられた国コードです。
TRGR_EVENT_ID	トリガの起動条件に関連付けられたトリガ イベント ID です。トリガの設定時に定義します。適用する分割のタイプと、分割するエレメントを指定します (エレメントの分割の場合)。
TRGR_EFFDT	有効日を使って、支給期間の分割方法を指定します。たとえば、有効日が 6 月 15 日の分割トリガは、6 月の支給期間を 2 つのセグメントに分割するように指示します。1 つのセグメントは 6 月 1 日 ~ 6 月 15 日で、もう 1 つのセグメントは 6 月 16 日 ~ 6 月 30 日です。
TRGR_CREATE_TS	トリガ作成時のシステムの日時です (参照用)。同じ分割トリガが繰り返し作成されるようなデータ変更を行った場合は、インスタンスを一意に識別するためにタイムスタンプが必要になります。
SEG_TRGR_SRC	分割トリガの作成方法を識別します。オプションは、以下のとおりです。 [自動]: オンライン コードで作成されたトリガを識別します。 [手動]: 手動で作成されたトリガを示します。
SEG_TRGR_STATUS	トリガの処理状況を識別します。オプションは、以下のとおりです。 [アクティブ]: ユーザーがキャンセルするまで、トリガは書き込まれ、アクティブのままです。 [キャンセル]: "トリガ確認" の分割ページで、ステータスが [アクティブ] となっているトリガはキャンセルできます。

フィールド	用途
SEG_TRGR_LVL	トリガが、受給者レベルのトリガか受給者の職務 (EMPL_RCD) レベルのトリガであるかを指定します。このフィールドによって、1 つの職務についてのみ処理する必要があるか、または全ての職務について処理する必要があるか指示されます。
RECNAME	分割トリガが作成されるソース レコードを識別します。
FIELDNAME	データ変更に対して分割トリガを作成するフィールドを識別します。
TRGR_FLD_VAL_CHAR	分割トリガを作成する文字値の変更を識別します。トリガがレコード レベルでのみ定義されている場合、このフィールドの値は入力されません。
TRGR_FLD_VAL_DT	分割トリガを作成する日付値の変更を識別します。トリガがレコード レベルでのみ定義されている場合、このフィールドの値は入力されません。
TRGR_FLD_VAL_NUM	分割トリガを作成する数値の変更を識別します。トリガがレコード レベルでのみ定義されている場合、このフィールドの値は入力されません。
TRGR_FLD_VAL_PIN	分割トリガを作成するエレメント (支給または控除) の PIN 番号を含みます。これは、支給/控除割り当てレコード GP_PYE_OVRD のエレメント割り当てから発生するトリガにのみ適用されます。 <u>参照: 第 18 章、「上書きの設定」、受給者上書きを要因とするエレメント分割、661 ページ。</u>

最初にデータ変更によって分割トリガが作成されると、従業員 ID、変更の有効日 (トリガ有効日)、国コード、および関連付けられたイベント ID が、バッチ コードによる遡及処理を容易にするその他の情報と共にトリガ テーブルに書き込まれます。

たとえば、このデータにより次の事柄が認識されます。

- 処理対象の受給者

- 期間セグメントまたはスライスに使用する日付
- 使用する分割のタイプと、分割対象のエレメント (エレメント分割の場合)

さらに、RECNAME、FIELDNAME、TRGR_FLD_VAL_CHAR、TRGR_FLD_VAL_DT、TRGR_FLD_VAL_NUM、および TRGR_FLD_VAL_PIN フィールドで、分割トリガのソース (トリガを作成するレコード、フィールド、またはフィールド値の変更) が識別されます。この情報により、受給者の支給が分割される原因を明確に把握し、デバッグを簡単に行ったりクエリーに回答することができます。

注意: このテーブルに保存されているトリガのソース データは、分割ページで表示できます。

参照: 第 30 章、「トリガの設定」、分割トリガの表示、追加、またはキャンセル、1152 ページ。

トリガの作成

このセクションでは、トリガ有効日タイプとトリガ レベルの概念について説明し、トリガ有効日タイプとトリガ レベルに基づいてトリガがいつ、どのような方法で作成されるかを説明します。

有効日と有効日タイプ

反復トリガを除く全てのトリガは、トリガ有効日 (TRGR_EFFDT) と共にトリガ テーブルに保存されます。トリガ有効日は、トリガ作成の原因となったデータベース変更の日付に基づいていますが、必ずしも同一ではありません。PeopleSoft システムでは、データベース変更の日付は [有効日]、[開始日]、[終了日]、および [固定日] フィールドに記録されます。これらのフィールドは中心的な役割を果たすため、遡及トリガと分割トリガは**日付で管理されているレコードからのみ**作成することができます。遡及トリガは、[有効日] フィールドか、[開始日] フィールドと [終了日] フィールドが指定されているレコード、または [固定日] フィールドが指定されているレコードに対してのみ定義できます。分割トリガは **[有効日]** フィールドが指定されているレコードに対してのみ定義できますが、例外が 1 つあります。分割トリガは、開始日と終了日が指定された支給/控除割り当てレコード GP_PYE_OVRD から作成することもできます。

トリガ有効日のソースとなる日付フィールドに基づいて、それぞれの遡及トリガおよび分割トリガは以下のいずれかの**有効日タイプ**に属します。

- 有効日: トリガ日付は [有効日] フィールドに基づきます。
- 開始/終了日: トリガ日付は [開始日] または [終了日] フィールドに基づきます。
- 固定日: トリガ日付は、汎用の PeopleCode 関数 Generate_Triggers にパラメータとして渡された固定日に基づきます。

参照: 第 30 章、「トリガの設定」、トリガの導入、1148 ページ。

遡及トリガと分割トリガの処理時には、有効日タイプが参照され、トリガ有効日として使用する日付が決定されます。

注意: 反復トリガではトリガ有効日の概念を使用しません。特定の受給者に対する現在の支給実行の計算または再計算を起動する機能に、変更日が不要なためです。反復トリガは、有効日が指定されたレコードや開始日と終了日が指定されたレコードと同様に、有効日が指定されていないレコードでも定義できます。

トリガ レベル

PeopleSoft グローバル ペイロールでトリガを設定する際は、データベース変更に反応するレベルを指定する必要があります。レコードの任意のフィールドに対する、有効日が指定された変更、または開始日と終了日が指定された変更に対応するか ([トリガ レベル] は **[レコード]**)、レコードの特定のフィールドに対する全ての変更に反応するか ([トリガ レベル] は **[フィールド]**) で、値に依存しない場合)、特定の値がフィールドに入力されたときにのみトリガが作成されるように設定します ([トリガ レベル] は **[フィールド]** で、値に依存する場合)。トリガ レベルによって、いつ、どのような状況でトリガが作成されるかが決定されます。

反復トリガのルール: トリガの作成

反復トリガは、オープン カレンダー グループが存在する場合のみ作成されるので、カレンダー グループを指定しておく必要があります。

[トリガ レベル] が [レコード] の場合、行の追加、変更、または削除があれば、反復トリガが作成されます。

[トリガ レベル] が [フィールド] で、値に依存しない場合、反復トリガは以下のときに作成されます。

- 行およびフィールドが変更されたとき
- 行が追加または削除されたとき

注意: [トリガ レベル] が [フィールド] で、値に依存しない場合、行の追加でトリガが作成されるのは、フィールド値が変更されたときだけです。

[トリガ レベル] が [フィールド] であり、値に依存する場合は、追加、変更、削除された行の値が指定した値と一致するとき、または値が一致しなくてもトリガが作成されるように指定されているときのみ、反復トリガが作成されます。それ以外のルールは、値に依存しない場合と同じです。

遡及トリガのルール: トリガ有効日の設定とトリガの作成

[トリガ有効日タイプ] が [有効日] の場合

- デフォルトでは、行が追加されると、その有効日がトリガ有効日として使用されます。

注意: デフォルトでは、変更日 (追加された行の有効日) がトリガ有効日として使用されますが、トリガ定義のフィールド値ページで、トリガ日付が実際の変更日より前または後になるように遡及トリガの有効日を修正できます。

参照: 第 30 章、「トリガの設定」、アクションを起動するフィールド値の指定、1144 ページ。

- 行が削除されると、元の有効日がトリガ有効日として使用されます。
- 行が変更されると、元の有効日と変更後の有効日のうち、日付の古い方がトリガ有効日として使用されます。

元の有効日は、行がロードされたときの有効日です。変更後の有効日は、行が保存されたときの有効日です。有効日を変更されなければ、元の有効日と同じ日付になります。有効日を変更された場合、元の有効日とは異なる日付になります。

[トリガ有効日タイプ] が [開始 - 終了日] の場合

- デフォルトでは、行が追加されると、その開始日がトリガ有効日として使用されます。

注意: デフォルトでは、変更日 (追加された行の開始日) がトリガ有効日として使用されますが、トリガ定義のフィールド値ページで、トリガ日付が実際の変更日より前または後になるように遡及トリガの有効日を修正できます。

参照: 第 30 章、「トリガの設定」、アクションを起動するフィールド値の指定、1144 ページ。

- 行が削除されると、元の開始日がトリガ有効日として使用されます。
- 行が変更され、終了日のほかに変更されたフィールドがない場合は、元の終了日と変更後の終了日のうち、日付の古い方がトリガ有効日として使用されます。それ以外の場合は、元の開始日と変更後の開始日のうち、日付の古い方がトリガ有効日として使用されます。

元の開始日は、行がロードされたときの開始日です。変更後の開始日は、行が保存されたときの開始日です。開始日を変更されなければ、元の開始日と同じ日付になります。開始日を変更された場合は、元の開始日とは異なる日付になります。

元の終了日は、行がロードされたときの終了日です。変更後の終了日は、行が保存されたときの終了日です。終了日を変更されなければ、元の終了日と同じ日付になります。終了日を変更された場合は、元の終了日とは異なる日付になります。

注意: 休暇欠勤については、終了日を変更した場合でも開始日が使用されます。既存の行を無効にし、新しい行を作成した場合、開始日がトリガ有効日として使用されます。

[トリガ有効日タイプ] が [固定日] の場合、関数 `Generate_Triggers (PeopleCode)` でパラメータとして指定した日付がトリガ日付になります。

[トリガ レベル] が [レコード] の場合

- 行が追加、変更、または削除されると、遡及トリガが作成されます。
- 複数の行を変更した場合、トリガ有効日には、変更された行の中で最も古いトリガ日付が使用されます。

[トリガ レベル] が [フィールド] で、値に依存しない場合

- 行が追加または削除されると、その行のトリガ日付より前の日付で、最も新しい有効日の行が検索されます。

前の行と追加または削除された行とでフィールド値が異なる場合は、遡及トリガが作成されます。

- 行とそのフィールド値が変更されると、その行の有効日に変更されたかどうかにかかわらず、遡及トリガが作成されます。
- 行とその行の有効日に変更された場合 (変更前の有効日が "古い日付" で、変更後の有効日が "新しい日付" と仮定) は以下ようになります。

- フィールドが変更されると、遡及トリガが作成されます。
- 新しい日付よりも前の日付で、最も新しい有効日の行が検索されます。

前の行と変更された行でフィールド値が異なる場合は、遡及トリガが作成されます。

- 古い日付よりも前の日付で、最も新しい有効日の行が検索されます。

前の行と変更された行でフィールド値が異なる場合は、遡及トリガが作成されます。

- 前の行が見つからない場合は、追加/変更/削除された行がバッファの最初の行であることを意味します。

この場合は、トリガ定義で指定された主要イベント ID を使用して遡及トリガが作成されます。

[トリガ レベル] が [フィールド] で、値に依存する場合は、追加、変更、削除された行の値が指定した値と一致するとき、または値が一致しなくてもトリガが作成されるように指定されているときのみ、遡及トリガが作成されます。それ以外のルールは、値に依存しない場合と同じです。

分割トリガのルール: トリガ有効日の設定とトリガの作成

開始日と終了日が指定された支給/控除割り当てレコード GP_PYE_OVRD を除き、分割トリガは、[トリガ有効日タイプ] が [有効日] のレコードからのみ作成されます。

参照: 第 30 章、「トリガの設定」、支給および控除の割り当てを使用した分割トリガ、1130 ページ。

削除された行に対して、分割トリガは作成されません。

[トリガ有効日タイプ] が [有効日] の場合

- 行が追加されると、追加された行の有効日がトリガ有効日として使用されます。
- 行が変更されると、変更後の有効日 (元の有効日ではない) がトリガ有効日として使用されます。

注意: 元の有効日は、行がロードされたときの有効日です。変更後の有効日は、行が保存されたときの有効日です。

[トリガ有効日タイプ] が [開始 - 終了日] の場合

注意: 分割トリガを定義できる、開始日と終了日を持つレコードは、支給/控除割り当てレコード GP_PYE_OVRD のみです。

- 行が追加されると、開始日が最初のトリガの有効日として使用され、終了日 + 1 が最終トリガの有効日として使用されます。

注意: 開始日と終了日が指定されたレコード GP_PYE_OVRD から分割トリガを作成すると、それぞれ異なるトリガ有効日を使用して 2 つのトリガが作成されます。1 つは開始日に基づき、もう 1 つは終了日に基づきます。たとえば、開始日と終了日に 6 月 10 日と 6 月 20 日を指定して受給者に控除を割り当て、月次カレンダーで給与計算を処理するとします。有効日 6 月 10 日を使用してトリガが作成され (最初のトリガ)、有効日 6 月 21 日を使用して別のトリガが作成されます (終了日 + 1 の有効日を使用する最終トリガ)。これらのトリガ日付に基づいて、期間は 6 月 1 日 ~ 6 月 10 日、6 月 11 日 ~ 6 月 20 日、6 月 21 日 ~ 6 月 30 日の 3 つのセグメントに分割されます。

- 行が変更され、終了日の他に変更されたフィールドがない場合は、変更後の終了日 + 1 が新しい最終トリガの有効日として使用されます。行が変更され、開始日の他に変更されたフィールドがない場合は、変更後の開始日が最初のトリガの有効日として使用されます。

元の開始日は、行がロードされたときの開始日です。変更後の開始日は、行が保存されたときの開始日です。開始日を変更されなければ、元の開始日と同じ日付になります。開始日を変更された場合は、元の開始日とは異なる日付になります。

元の終了日は、行がロードされたときの終了日です。変更後の終了日は、行が保存されたときの終了日です。終了日を変更されなければ、元の終了日と同じ日付になります。終了日を変更された場合は、元の終了日とは異なる日付になります。

[トリガ レベル] が [レコード] に指定されている場合、行が追加または変更されると、分割トリガが作成されます。

[トリガ レベル] が [フィールド] で、値に依存しない場合

- 行が追加または変更されると、追加、変更された行よりも前の日付で、最も新しい有効日の行が検索されます。

前の行と現在の行でフィールド値が異なる場合は、分割トリガが作成されます。

- 前の行が見つからない場合は、以下ようになります。
 - フィールド値が変更されると、分割トリガが作成されます。
 - 新規の行であれば、指定されたフィールド全てに対して分割トリガが作成されます。

[トリガ レベル] に [フィールド] が指定され、値に依存する場合は、追加または変更された行の値が指定した値と一致するとき、または値が一致しなくてもトリガが作成されるように指定されているときのみ、分割トリガが作成されます。それ以外のルールは、値に依存しない場合と同じです。

使用済みまたは不要なトリガの管理

グローバル ペイロール システムでは、遡及トリガと反復トリガは、必要な処理を起動した後、将来の計算に影響を与えないように自動的に使用済みに指定されます。また、誤って作成してしまった、給与計算処理に影響を与えないようにしたい遡及トリガと反復トリガを手動でキャンセルすることができます。一方、分割トリガは、システムでアクティブのまま残るように設計されています。計算期間中に分割イベントが発生した場合、期間が処理されるたびに分割を起動する必要があります。ただし、分割イベントがシステムに入力された後で、それらを修正または削除する必要がある場合があります。分割イベントの入力そのものが間違っていたとき、イベントの日付が誤って入力されたとき、または他のデータが誤って記録されたときなどです。グローバル ペイロール システムでは、分割イベントによって引き起こされるこうした不要なトリガを自動的に削除することで、この問題を解決しています。以下に、3 つのトリガ レベル (レコード レベル、値に依存しないフィールド レベル、値に依存するフィールド レベル) それぞれで、自動削除が可能なかどうかを、データ変更の種類ごとに示します。

データ変更	トリガ レベルがレコード	トリガ レベルがフィールドで、値に依存しない場合	トリガ レベルがフィールドで、値に依存しない場合
有効日、開始日、または終了日の訂正	可	可	可
フィールド値の訂正	不可	可	可
行の削除	可	可	可

重要: 削除されるのは自動的に作成されたトリガだけです。手動で作成されたトリガまたは一括トリガは削除されません。

注意: 分割トリガはここで説明した状況で自動的に削除されますが、反復トリガや遡及トリガと同様に、分割トリガを手動でキャンセルすることもできます。トリガを管理したりキャンセルするには、トリガ確認コンポーネント (GP_TRIGGER) および反復トリガ確認コンポーネント (GP_TRGRITER_CALRUN) のページを使用します。

例: 行の有効日の変更に反応した分割トリガの削除

JOB レコードで設定されているトリガのレベルが**フィールドで、値に依存する場合**を仮定します。

トリガを作成するように定義されたフィールドおよびフィールド値は、[異動区分] と PAY (給与レートの変更) または TER (雇用終了) です。

異動区分が雇用終了 (TER) の有効日を、11 月 15 日から 11 月 20 日に変更するとします。

この異動区分に関連付けられた有効日を変更すると、以下の動作が行われます。

- 変更したソース行に関連付けられている古いトリガが削除されます。
- 新しいトリガ有効日で新しいトリガが挿入されます。

ユーザー アクション	フィールド変更	有効日/有効連番	トリガ アクション	トリガ有効日	ソースフィールド値	トリガ イベント ID
既存の行	PAY	10/20/05	挿入	10/20/05	PAY	イベント 1
既存の行	TER	11/15/05	挿入	11/15/05	TER	イベント 1

ユーザー アクション	フィールド変更	有効日/有効連番	トリガ アクション	トリガ有効日	ソースフィールド値	トリガ イベント ID
訂正	TER	11/20/05	削除	11/15/05	TER	イベント 1
			挿入	11/20/05	TER	イベント 1

この例では、雇用終了行の有効日が 11 月 15 日から 11 月 20 日に変更されます。その結果、11 月 15 日のトリガは削除され、有効日が 11 月 20 日の新しいトリガが作成されます。

例: フィールド値の変更に反応した分割トリガの削除

JOB レコードで設定されているトリガのレベルが**フィールドで、値に依存する場合**を仮定します。

トリガを作成するように定義されたフィールドおよびフィールド値は、[異動区分] と PAY (給与レートの変更) または TER (雇用終了) です。

有効日が 10 月 20 日に設定された行の [異動区分] の値を、TER (雇用終了) から DTA (データ変更) に変更するとします。

この異動区分に関連付けられたフィールド値を変更すると、以下のように、古いトリガが削除されます。新しいトリガは作成されません。

ユーザー アクション	フィールド変更	有効日/有効連番	トリガ アクション	トリガ有効日	ソースフィールド値	トリガ イベント ID
既存の行	PAY	01/01/05	挿入	01/01/05	PAY	イベント 1
既存の行	TER	10/20/05	挿入	10/20/05	TER	イベント 1
既存の行	DTA	11/15/05	なし		TER	イベント 1
訂正	DTA	10/20/05	削除	10/20/05	TER	イベント 1
			トリガなし			

この例では、有効日が 10 月 20 日の行の値が TER から DTA に変更されます。TER と PAY だけがトリガを作成するように設定されており、DTA はトリガを作成する値として認識されないため、有効日が 10 月 20 日のトリガが削除されても、新しいトリガは作成されません。

例: フィールド値の変更に反応した分割トリガの削除

JOB レコードで設定されているトリガのレベルが**フィールドで、値に依存する場合**を仮定します。

トリガを作成するように定義されたフィールドおよびフィールド値は、[異動区分] と PAY (給与レートの変更) または TER (雇用終了) です。

有効日が 2005 年 7 月 1 日に設定された行の [異動区分] の値を、DTA (データ変更) から PAY (給与レートの変更) に変更するとします。このとき、この行とは別に、値が PAY で有効日が 2006 年 1 月 1 日の既存の行があるとします。この例では、前者の行の変更によって、後者の行が影響を受ける場合を示します。

ユーザー アクション	フィールド変更	有効日/有効連番	トリガ アクション	トリガ有効日	ソースフィールド値	トリガ イベント ID
既存の行	DTA	01/01/05	なし		PAY	イベント 1
既存の行	DTA	07/01/05	なし		TER	イベント 1
既存の行	PAY	01/01/06	挿入	01/01/06	TER	イベント 1
訂正	PAY	07/01/05	削除	削除するトリガなし	TER	イベント 1
			挿入	07/01/05		
			削除	01/01/06		
			トリガなし			

この例では、有効日が 2005 年 7 月 1 日の行の値が DTA から PAY に変更されます。トリガの作成はフィールド値の変更に基きますが、2005 年 7 月 1 日の行と 2006 年 1 月 1 日の行の間で変更がないため (両方ともフィールド値は PAY です)、後者の行で最初は作成されていたトリガが削除され、有効日が 2005 年 7 月 1 日の新しいトリガが挿入されます。DTA はトリガを作成する値として定義されていないため、DTA 行のトリガはありません。

EFFSEQ (同一有効日連番) フィールドを含むレコードに対するフィールド ベースの分割トリガのための特殊ルール

たとえば JOB レコードのように、レコードに EFFSEQ フィールドが含まれている場合、フィールド ベースの分割トリガを管理するための特殊なルールがあります。

- トリガ定義が**フィールドで、値に依存しない場合**、PeopleCode により有効日連番が最も大きい行だけを使用して、指定された有効日のトリガが挿入されます。つまり、トリガ定義がフィールドで、値に依存しない場合は、有効日ごとに有効日連番が最も大きい行だけが考慮されます。これにより、有効日連番の行を入力した後で、この行のエラーを訂正するために同じ有効日の別の行を入力する際に、不要なトリガが作成されるのを防ぐことができます。
- トリガ定義が**フィールドで、値に依存する場合**、PeopleCode により、指定された有効日の有効日連番行ごとに、それぞれ別個のトリガが挿入されます。言い換えると、値に依存するようにトリガが定義されている場合、同一有効日連番の行が全て処理されます。これは、同一有効日連番の複数の行を処理することが必要、または望ましい状況に対応します。たとえば、異動と昇進を同じ日に続けて入力する JOB.ACTION のようなフィールドが該当します。このフィールドのトリガ定義は通常、値に依存するように設定されています。

支給および控除の割り当てを使用した分割トリガ

グローバル ペイロールでは、分割トリガは "有効日が指定されている" **レコードでのみ定義できますが、例外が 1 つあります。つまり、"開始日と終了日が指定されている"** 支給/控除割り当てレコード GP_PYE_OVRD でも、分割トリガを定義することができます。この例外により、受給者別エレメント割当コンポーネント (GP_ED_PYE) またはエレメント別受給者割当コンポーネント (GP_ED_ELEM) で支給/控除を受給者に割り当て、割り当ての**開始日**が支給期間の開始日より後の場合、または割り当ての**終了日**が期間終了日より前の場合に、エレメントを分割 (および比例配分) することができます。

たとえば、300 USD (アメリカ ドル) の支給エレメント E1 を、開始日と終了日にそれぞれ 6 月 10 日と 20 日を指定して (支給期間は月次とします) 受給者に割り当て、このエレメントの支給/控除割り当てレコードから分割が起動されるように設定するとします。割り当て/上書きの開始日と終了日に基づいて、支給期間は 3 つのセグメントにスライスされ、2 番目のスライスのエレメントが処理および比例配分されます。

エレメント	スライス 1 6 月 1 日～ 10 日	スライス 2 6 月 11 日～ 20 日	スライス 3 6 月 21 日～ 30 日
支給 = E1 計算ルール = 金額 金額 = 300	スライス 1 のエレメント は変換されない	変換後の金額 = 100 (比 例配分係数 = .333333333)	スライス 3 のエレメント は変換されない

注意: GP_PYE_OVRD レコードで定義できる分割は、**エレメント分割**だけです。

関連項目:

第 30 章、「トリガの設定」、開始日と終了日が指定された支給/控除割り当てレコード (GP_PYE_OVRD) に対する分割トリガの設定、1135 ページ

トリガの手動定義

トリガは、自動的に作成されるように設定できますが、トリガ確認コンポーネント (GP_TRIGGER) を使用すれば、トリガのタイプ、トリガ有効日、プロセス定義、および遡及処理や分割処理を起動するために必要なその他のデータを選択して、手動で入力することもできます。

参照: 第 30 章、「トリガの設定」、自動作成されたトリガの管理とトリガの手動定義、1150 ページ。

トリガ定義の設定

このセクションでは、反復、遡及、および分割トリガのトリガ定義の概要と、トリガの設定に使用するページについて説明します。

関連項目:

第 16 章、「カレンダーの使い方」、577 ページ

第 33 章、「遡及処理の定義」、1219 ページ

第 32 章、「分割の定義」、1189 ページ

第 32 章、「分割の定義」、分割イベントと分割タイプの定義、1215 ページ

トリガ定義の設定について

このセクションでは、オンライン システムによるトリガの自動作成の設定手順について説明します。

注意: 遡及トリガや分割トリガを定義するときは、反復トリガも定義することを推奨します。カレンダー グループが一度計算されてからデータ変更が発生した場合、反復トリガが定義されていないと、データ変更によって作成された遡及トリガまたは分割トリガは、次の確認フェーズまで処理されません。

反復トリガの設定

反復トリガは、有効日が指定されたレコード、開始日と終了日が指定されたレコード、および有効日が指定されていないレコードで定義することができます。

反復トリガを設定するには、次の手順に従います。

1. [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、[トリガ定義] の順にクリックします。

トリガ定義コンポーネント (GP_TRGR_SETUP) の検索ページが表示されます。

2. [値の追加] タブをクリックします。

3. [値の追加] タブで、国を選択し、データ変更に応答させるレコードを [レコード (テーブル) 名] フィールドで指定し、トリガ タイプに [反復] を選択します。

4. [+] (写真の追加) ボタンをクリックします。

トリガ定義ページが表示されます。

5. トリガ定義ページの [トリガ レベル] で、[レコード] または [フィールド] を選択します。

レコード内のどのフィールドが変更されてもトリガが作成されるようにするには、[レコード] を選択します。レコード内の特定のフィールドまたはフィールドのグループの変更に反応してトリガが作成されるようにする場合は、[フィールド] を選択します。

[フィールド] を選択した場合、データ変更に応答させるフィールドを [トリガで使用するリスト フィールド] グループ ボックスで指定する必要があります。また、特定のフィールドの [フィールド値に依存] チェック ボックスをオンにし、反復処理を起動する値を指定して、トリガが作成されるデータ変更をさらに制限することもできます。

遡及トリガの設定

遡及トリガは、有効日が指定されたレコード、開始日と終了日が指定されたレコード、および固定日が指定されたレコードで定義することができます。

遡及トリガを設定するには、以下の手順に従います。

1. [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、[トリガ定義] の順にクリックします。

トリガ定義コンポーネント (GP_TRGR_SETUP) の検索ページが表示されます。

2. [値の追加] タブをクリックします。

3. [値の追加] タブで、国を選択し、データ変更に応答させるレコードを [レコード (テーブル) 名] フィールドで指定し、トリガ タイプに [遡及] を選択します。

4. [+] (写真の追加) ボタンをクリックします。

トリガ定義ページが表示されます。

5. トリガ定義ページで、トリガ イベント ID ([トリガ レベル] が [フィールド] の場合は主要イベント ID) を選択します。

トリガ イベント ID は遡及データの処理方法を指示します。

注意: トリガ イベント ID は遡及イベント定義ページで定義します。

参照: 第 33 章、「遡及処理の定義」、トリガ イベント ID の定義、1267 ページ。

6. トリガ定義ページの [トリガ レベル] で、[レコード] または [フィールド] を選択します。

レコード内のどのフィールドが変更されてもトリガが作成されるようにする場合は、[レコード] を選択します。レコード内の特定のフィールドの組み合わせに応答してトリガが作成されるようにする場合は、[フィールド] を選択します。

[フィールド] を選択した場合、データ変更に応答させるフィールドを [トリガで使用するリスト フィールド] グループ ボックスで指定する必要があります。特定のフィールドの [フィールド値に依存] チェック ボックスをオンにし、[リスト フィールド値] リンクをクリックして、遡及処理を起動する値を指定すると、トリガが作成されるデータ変更をさらに制限できます。

7. さらに、以下のいずれかのレベルで、トリガ イベント ID または主要イベント ID を指定する必要があります。

- [トリガ レベル] で [レコード] を選択した場合は、トリガ定義ページの [トリガ イベント ID] フィールドに、トリガ イベント ID をレコード レベルで指定します。
- [トリガ レベル] で [フィールド] を選択し、トリガの作成が特定のフィールド値に依存しない場合は、トリガ定義ページの [トリガで使用するリスト フィールド] グループ ボックスで、トリガ イベント ID をフィールド レベルで指定します。
- [トリガ レベル] で [フィールド] を選択し、分割が特定のフィールド値に依存する場合は、[リスト フィールド値] リンクをクリックし、トリガ定義の "フィールド値" ページの [フィールド値] グループ ボックスで、トリガ イベント ID をフィールド値レベルで指定します。
- [トリガ レベル] で [フィールド] を選択した場合、トリガ定義ページの [主要イベント ID (遡及)] フィールドに、主要イベント ID をレコード レベルで入力する必要があります。この ID は、変更、追加、または削除されて遡及処理を起動する行がバッファ内で最初の行である場合、つまり前の行が見つからない場合に、デフォルトのイベント ID として機能します。

注意: [主要イベント ID (遡及)] フィールドは、[トリガ タイプ] が [遡及] で、[トリガ レベル] が [フィールド] の場合のみ表示されます。

有効日が指定されたレコードに対する分割トリガの設定

グローバル ペイロールでは、分割トリガは、有効日が指定されたレコード、および開始日と終了日が指定された 1 つのレコード (支給/控除割り当てレコード GP_PYE_OVRD) で設定することができます。このセクションでは、有効日が指定されているレコードに対して分割トリガを設定する手順について説明します。

有効日が指定されているレコードに対して分割トリガを設定するには、次の手順に従います。

1. [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、[トリガ定義] の順にクリックします。

トリガ定義コンポーネント (GP_TRGR_SETUP) の検索ページが表示されます。

2. [値の追加] タブをクリックします。
3. [値の追加] タブで、国を選択し、データ変更に応答させるレコードを [レコード (テーブル) 名] フィールドで指定し、トリガ タイプに [分割] を選択します。

4. [+] (写真の追加) ボタンをクリックします。

トリガ定義ページが表示されます。

5. トリガ定義ページの [トリガ レベル] で、[レコード] または [フィールド] を選択します。

レコード内のどのフィールドが変更されてもトリガが作成されるようにする場合は、[レコード] を選択します。レコード内の特定のフィールドの組み合わせに反応してトリガが作成されるようにする場合は、[フィールド] を選択します。

[フィールド] を選択した場合、データ変更に応答させるフィールドを [トリガで使用するリスト フィールド] グループ ボックスで指定する必要があります。特定のフィールドの [フィールド値に依存] チェック ボックスをオンにし、[リスト フィールド値] リンクをクリックして、分割を起動する値を指定すると、トリガが作成されるデータ変更をさらに制限できます。

6. さらに、以下の該当するレベルで、トリガ イベント ID を定義する必要があります。

- [トリガ レベル] で [レコード] を選択した場合は、トリガ定義ページで、トリガ イベント ID をレコード レベルで定義します。
- [トリガ レベル] で [フィールド] を選択し、分割が特定のフィールド値に依存しない場合は、トリガ定義ページの [トリガで使用するリスト フィールド] グループ ボックスで、トリガ イベント ID をフィールド レベルで指定します。
- [トリガ レベル] で [フィールド] を選択し、分割が特定のフィールド値に依存する場合は、[リスト フィールド値] リンクをクリックし、トリガ定義の "フィールド値" ページの [フィールド値] グループ ボックスで、トリガ イベント ID をフィールド値レベルで指定します。

注意: トリガ イベント ID は、使用する分割タイプ (**期間分割**または**エレメント分割**) と、エレメント分割の場合はデータ変更に応答して分割されるエレメント (支給エレメント、控除エレメント、およびその他のエレメント) を指示します。トリガ イベント ID は分割イベント定義ページで定義します。

参照: 第 32 章、「分割の定義」、分割イベントと分割タイプの定義、1215 ページ。

開始日と終了日が指定された支給/控除割り当てレコード (GP_PYE_OVRD) に対する分割トリガの設定

割り当てたエレメントを割り当ての開始日と終了日に基づいてスライスおよび比例配分する場合、支給/控除割り当てレコード (GP_PYE_OVRD) に対して分割トリガを設定することができます。

注意: 分割されたエレメントを比例配分する場合、支給または控除の定義ページで、エレメントに比例配分ルールを関連付ける必要があります。

支給/控除割り当てレコードに対する分割トリガを定義するには、次の手順に従います。

1. [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、[トリガ定義] の順にクリックします。

トリガ定義コンポーネント (GP_TRGR_SETUP) の検索ページが表示されます。

2. [値の追加] タブをクリックします。
3. [値の追加] タブで、国を選択し、[レコード (テーブル) 名] フィールドに GP_PYE_OVRD と入力し、トリガ タイプに [分割] を選択します。

4. [+] (写真の追加) ボタンをクリックします。

トリガ定義ページが表示されます。

支給/控除割り当てレコード (GP_PYE_OVRD) に対して分割トリガを定義する場合、トリガ定義ページの各フィールドに以下の値が自動的に入力されます。

フィールド	値	説明
トリガ レベル	フィールド	GP_PYE_OVRD レコードから作成される分割トリガは、フィールド レベルのトリガです。 フィールドは自動的に PIN_NUM ([エレメント名]) として定義されます。つまり、分割トリガは、支給または控除が受給者に割り当てられ、エレメント別受給者割当コンポーネントまたは受給者別エレメント割当コンポーネントの PIN_NUM ([エレメント名]) フィールドに値が入力されている場合にのみ作成されます。
トリガ有効日タイプ	開始 - 終了日	GP_PYE_OVRD レコードは開始日と終了日が指定されているレコードです。
フィールド名	PIN_NUM	これは、分割を起動するように定義される GP_PYE_OVRD レコードの唯一のフィールドです。
フィールド値に依存	選択済み	GP_PYE_OVRD レコードに対して分割トリガを定義する場合、通常、分割を起動する特定の支給または控除エレメントを指定する必要があります。これらのエレメントは、エレメント別受給者割当コンポーネントまたは受給者別エレメント割当コンポーネントの [エレメント名] (PIN_NUM) フィールドで入力するフィールド値です。

5. [リスト フィールド値] リンクをクリックして、トリガ定義の "フィールド値" ページを開きます。
6. トリガ定義の "フィールド値" ページの [エレメント タイプ] フィールドと [エレメント] フィールドを使用して、割り当ての**開始日**が支給期間開始日よりも後の場合、または割り当ての**終了日**が支給期間終了日よりも前の場合に、エレメント分割を起動する支給および控除を指定します。

さらに、エレメントごとに以下のいずれかのトリガ オプションを指定します。

- [このエレメントを分割]

このオプションを選択すると、指定したエレメントだけが分割されます。

- [トリガ イベント ID を指定]

このオプションを選択する場合、トリガ イベント ID を指定する必要があります。選択したエレメントだけでなく、トリガイイベント ID で指定されるエレメントリスト内の他のエレメントも全て分割されます。

注意: トリガ イベント ID は、データの変更に反応して分割されるエレメント (支給エレメント、控除エレメント、およびその他のエレメント) を指示します。トリガ イベント ID は分割イベント定義ページで定義します。

参照: 第 32 章、「分割の定義」、分割イベントと分割タイプの定義、 1215 ページ。

警告: 支給/控除割り当てレコード (GP_PYE_OVRD) に対して分割トリガを完全に機能させるには、国別設定コンポーネント (GP_COUNTRY) で [セグメント期間内でアクティブな場合] オプションを選択する必要があります。このオプションを選択しないと、分割トリガをレコードに追加する際に、次の警告が生成されます。"**警告 - 国コンポーネントで [セグメント期間内でアクティブな場合] が選択されていません。(17000,4637) 支給/控除割り当てレコード (GP_PYE_OVRD) を指定した場合にこの機能を利用するには、国コンポーネントの [受給者割当処理] グループ ボックスで、[セグメント期間内でアクティブな場合] を選択する必要があります。"**

トリガ定義の設定に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
トリガ定義	GP_TRGR_SETUP	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、[トリガ定義]、[トリガ定義]	反復/分割/遡及トリガを定義します。 遡及および分割トリガを作成するには、遡及イベント定義ページまたは分割イベント定義ページで適切なイベント ID を定義しておく必要があります。
トリガ定義 - フィールド値	GP_TRGR_SETUP_SEC	トリガ定義ページで [リスト フィールド値] リンクをクリックします。	アクションを起動するフィールド値を指定します。

トリガの定義

トリガ定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、[トリガ定義]、[トリガ定義])。

トリガ定義

国:
 レコード (テーブル) 名:
 トリガ タイプ:
 *トリガ イベント ID:
 *トリガ ステータス:
 *トリガ レベル:
 *トリガ有効日タイプ:

トリガで使用するリスト フィールド					最初 1-5/5 最後	
フィールド名	フィールド値に依存	リスト フィールド値	トリガ イベント ID			
<input type="text" value="ACTION"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	リスト フィールド値		<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>	
<input type="text" value="COMPANY"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="text" value="JOB"/>	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>	
<input type="text" value="DEPTID"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="text" value="JOB"/>	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>	
<input type="text" value="GP_PAYGROUP"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="text" value="JOB"/>	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>	
<input type="text" value="PAY_SYSTEM_FLG"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="text" value="JOB"/>	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>	

トリガ定義ページ

注意: このページに表示されるフィールドは、作成するトリガのタイプと選択する値によって異なります。

国 トリガを定義する国を指定します。

レコード (テーブル) 名 このページにアクセスするときに選択したレコード (テーブル) 名が表示されます。これは、オンラインのデータ変更によって単独でトリガを作成するレコード、またはフィールドと組み合わせてトリガを作成するレコードを表します。

トリガ ステータス トリガ定義を有効にする場合は、[アクティブ] を選択します。

トリガ タイプ このページにアクセスするために選択したトリガ タイプが表示されます。表示されるタイプは [反復]、[遡及]、[分割] のいずれかです。

トリガ レベル

レコード内のどのフィールドが変更されてもトリガが作成されるようにする場合は、[レコード] を選択します。レコード内の特定のフィールドの組み合わせに反応してトリガが作成されるようにする場合は、[フィールド] を選択します。

[フィールド] を選択した場合、データ変更に応答させるフィールドを、[トリガで使用するリスト フィールド] グループ ボックスの [フィールド名] 列で指定する必要があります。特定のフィールドの [フィールド値に依存] チェック ボックスをオンにし、[リスト フィールド値] リンクをクリックして、トリガの作成を起動する値を指定すると、トリガが作成されるデータ変更をさらに制限できます。

注意: GP_PYE_OVRD レコードで分割トリガを定義する場合、[トリガ レベル] は自動的に [フィールド] に設定されます。

トリガ イベント ID

遡及トリガと分割トリガでは、レコード レベル、フィールド レベル、またはフィールド値レベルでトリガ イベント ID を指定します。

- [トリガ レベル] が [レコード] の場合、ページ上部の [トリガ イベント ID] フィールドにトリガ イベント ID を指定します。

注意: [トリガ タイプ] が [分割] で [トリガ レベル] が [フィールド] の場合、レコード レベルでこのフィールドを使用することはできません。

注意: [トリガ タイプ] が [遡及] で [トリガ レベル] が [フィールド] の場合、レコード レベルの [トリガ イベント ID] フィールドは [主要イベント ID (遡及)] フィールドに置き換えられます (以下の説明を参照してください)。

- [トリガ レベル] が [フィールド] で、値に依存しない場合、[トリガで使用するリスト フィールド] グループ ボックスの [トリガ イベント ID] フィールドにトリガ イベント ID を指定します。
- [トリガ レベル] が [フィールド] で、値に依存する場合、トリガ定義の "フィールド値" ページの [フィールド値] グループ ボックスで、トリガ イベント ID を指定します。

注意: 反復トリガの場合、現在のオープン カレンダーにおける受給者の処理が唯一の機能であるため、定義されているイベントは常に同じです。そのため、トリガ イベント定義は必要ありません。

主要イベント ID (遡及)

遡及イベント定義ページで定義したイベント ID を入力します。

主要イベント ID は、[トリガ レベル] が [フィールド] で、変更、追加、または削除した行がバッファ内で最初の行である場合、つまり前の行が見つからない場合に、デフォルトのイベント ID として機能します。その場合、主要イベント ID を使って遡及トリガが作成されます。

注意: [主要イベント ID (遡及)] フィールドは、[トリガ タイプ] が [遡及] で、[トリガ レベル] が [フィールド] の場合のみ表示されます。

トリガ有効日タイプ

このフィールドには、[レコード (テーブル) 名] フィールドで指定したレコードに基づいて、以下のいずれかの値が表示されます。

有効日

[開始 - 終了日]

[固定日]

トリガ有効日タイプ [固定日] を持つことができるのは遡及トリガのみです。有効日が固定日の遡及トリガを作成するには、汎用の PeopleCode 関数 **Generate_Triggers** に日付をパラメータとして渡す必要があります。データ変更の数に関わらず、1 つのトリガのみが作成されます。

参照: 第 30 章、「トリガの設定」、トリガの導入、1148 ページ。

注意: GP_PYE_OVRD レコードで分割トリガを定義する場合、[トリガ有効日タイプ] は自動的に [開始 - 終了日] に設定されます。

トリガで使用するリスト フィールド

[トリガ レベル] フィールドで [フィールド] を選択すると、[トリガで使用するリスト フィールド] グループ ボックスが表示されます。

フィールド名

データ変更に応答させるフィールドの名前を入力します。

注意: GP_PYE_OVRD レコードで分割トリガを定義する場合、[フィールド名] は自動的に [PIN_NUM] に設定されます。

フィールド値に依存

このチェック ボックスをオンにすると、データ変更に応答するように定義したフィールドが特定のフィールド値に依存することが示されます。その場合、トリガ定義の "フィールド値" ページで指定した値が変更された場合にのみ、システム アクションが起動されます。これにより、反復、遡及、または分割処理を引き起こす変更の種類を制限できます。

GP_PYE_OVRD レコードで分割トリガを定義する場合、[フィールド値に依存] チェック ボックスは自動的にオンになります。

リスト フィールド値

このリンクは、[フィールド値に依存] チェック ボックスをオンにすると、使用可能になります。

このリンクをクリックすると、トリガ定義の "フィールド値" ページにアクセスし、アクションを起動するフィールド値を指定できます。

トリガ イベント ID

[トリガ レベル] が [フィールド] で、[フィールド値に依存] チェック ボックスがオフのとき、このフィールドへの入力が必要になります。定義するトリガ タイプに基づいて、遡及イベント定義ページまたは分割イベント定義ページで定義したイベント ID を入力します。

注意: このフィールドは反復トリガでは使用されません。

アクションを起動するフィールド値の指定

トリガ定義の "フィールド値" ページにアクセスします (トリガ定義ページの [リスト フィールド値] リンクをクリックします)。

[トリガ定義](#)

[フィールド値](#)

国:

AUS オーストラリア

レコード (テーブル) 名:

JOB

フィールド名:

ACTION

フィールド値	加減算	検索	全件表示	最初	1-3/15	最後
連番	文字値	トリガ イベント ID				
1	HIR	JOB	+	-		
2	TER	JOB	+	-		
3	RET	JOB	+	-		

一致フィールド値なしアクション

☒ トリガしない
 ☐ トリガ

トリガ イベント ID:

トリガ定義 - フィールド値ページ

フィールド値

連番

フィールド値を一意に識別し、複数のデータ行を設定した場合に各行を区別するために必要とされる連番を入力します。

数値

レコードとフィールドの組み合わせで数値が保存される場合、このフィールドが入力可能になります。システム アクションを起動する値を入力します。

文字値

レコードとフィールドの組み合わせで文字値が保存される場合、このフィールドが入力可能になります。システム アクションを起動する値を入力します。

日付値

レコードとフィールドの組み合わせで日付値が保存される場合、このフィールドが入力可能になります。システム アクションを起動する値を入力します。

トリガ イベント ID

[トリガ レベル] が [フィールド] で、[フィールド値に依存] チェック ボックスがオンのとき、このフィールドへの入力が必要になります。定義するトリガ タイプに基づいて、遡及イベント定義ページまたは分割イベント定義ページで定義したイベント ID を入力します。

注意: このフィールドは反復トリガでは使用されません。

相殺日数

このフィールドは、[トリガ タイプ] が [遡及] の場合にのみ表示されます。

フィールド値の変更の日付に関して、遡及トリガ有効日を増減する正または負の数を入力します。たとえば、[フィールド値] グループ ボックスにリストされた値の 1 つに対して、[相殺日数] フィールドに「-1」を入力し、2000 年 1 月 1 日の有効日を使用してその値をデータベースにさかのぼって入力すると、トリガ有効日が 1999 年 12 月 31 日 (1 日前の日付) に自動的に調整されます。支給期間は、2000 年 1 月ではなく、1999 年 12 月にさかのぼって処理されます。

入カタイプ

このフィールドは、[トリガ タイプ] が [分割] で、トリガが定義されるレコードが GP_PYE_OVRD の場合に表示されます。

[支給] を選択すると、受給者別エレメント割当コンポーネントまたはエレメント別受給者割当コンポーネントで支給が受給者に割り当てられ、割り当ての**開始日**が支給期間の開始日より後の場合、または割り当ての**終了日**が期間終了日より前の場合に、支給によって分割が起動するように定義されます。

[控除] を選択すると、受給者別エレメント割当コンポーネントまたはエレメント別受給者割当コンポーネントで控除が受給者に割り当てられ、割り当ての**開始日**が支給期間の開始日より後の場合、または割り当ての**終了日**が期間終了日より前の場合に、控除によって分割が起動するように定義されます。

エレメント

このフィールドは、[トリガ タイプ] が [分割] で、トリガが定義されるレコードが GP_PYE_OVRD の場合に表示されます。

上記で指定した入カタイプに応じて、受給者に割り当てられたときに分割を起動する支給エレメントまたは控除エレメントを指定します。

トリガ オプション

このフィールドは、[トリガ タイプ] が [分割] で、トリガが定義されるレコードが GP_PYE_OVRD の場合に表示されます。

有効値は以下のとおりです。

- トリガ イベント ID を指定

このオプションを選択する場合、トリガ イベント ID を指定する必要があります。選択したエレメントだけでなく、トリガイ イベント ID で指定されるエレメントリスト内の他のエレメントも全て分割されます。

注意: トリガ イベント ID は分割イベント定義ページで定義します。

参照: 第 32 章、「[分割の定義](#)」、分割イベントと分割タイプの定義、1215 ページ。

- このエレメントを分割

このオプションを選択すると、指定した支給エレメントまたは控除エレメントだけが分割されます。

一致フィールド値なしオプション

このグループ ボックス内のフィールドを使用すると、フィールドの変更が、トリガ定義の "フィールド値" ページにリストされている値に該当しない場合に使用される、デフォルトのトリガ イベント ID を指定できます。これらのフィールドは、他のフィールド値への変更によって、反復、遡及、または分割処理が起動するように設定する場合にのみ使用します。

トリガしない

このオプションはデフォルトで選択されます。データベースに入力された実際の値と、トリガ定義の "フィールド値" ページで指定した値とが一致したときのみ、トリガを作成することが前提とされているためです。

トリガ

このオプションを選択すると、[トリガ イベント ID] フィールドに入力できるようになります。

トリガ イベント ID

トリガ定義の "フィールド値" ページでトリガ イベント ID にリンクされていないフィールド値の処理に使用する、デフォルトのトリガ イベント ID を入力します。

例: 遡及トリガでの相殺日数の使用

PeopleSoft では、JOB レコードの [異動区分] フィールドに入力された雇用終了の有効日が、受給者が勤務しなくなる最初の日と見なされます。言い換えると、雇用終了の前の日が、受給者がアクティブであると見なされる最後の日です。雇用終了をさかのぼって処理するトリガをこのフィールドに関連付けると、トリガ有効日はデフォルトで、JOB 内の雇用終了行の日付に設定されます。雇用終了の有効日が支給期間の開始日と同じ場合、つまり、最後に勤務した日が前回の支給期間の最後の日であるときは、問題が発生する可能性があります。たとえば、1 月のカレンダーを処理してクローズした後、2 月 1 日に JOB の雇用終了を入力するとします。この場合、2 月 1 日の有効日を使ってトリガが作成されます。これは現在の期間、つまり受給者が "非アクティブ" であり、処理の対象から除外される期間に含まれます。前回のクローズした期間 (1 月) にはトリガがないため、この期間は再計算されず、雇用終了に伴う支給を行うために設定したルールが処理されません。このような問題を避けるには、JOB レコード内の異動区分の値である [雇用終了] に対し、相殺日数を "-1" に設定します。

関連項目:

第 33 章、「遡及処理の定義」、1219 ページ

トリガの導入

定義したトリガ定義を導入するには、それらの定義で使用されるレコードが、いずれかのフィールドの SavePostChange PeopleCode で関数 Generate_Triggers を宣言および呼び出すように設定する必要があります。この PeopleCode は、JOB などのトリガ が定義される可能性があるレコードのほとんどで、あらかじめ追加されているため、この設定手順が必要なケースはそう多くありません。しかし、トリガをレコードに追加する必要がある場合には、以下の手順に従います。

注意: SavePostChange PeopleCode があらかじめ追加されているレコードについては、この章の終わりを参照してください。

1. トリガを作成する関数を宣言します。

```
Declare Function Generate_Triggers PeopleCode  
FUNCLIB_GP.TRGR_FUNCTIONS FieldFormula;
```

2. ローカル日付の変数を宣言します。

```
Local date &L_DT;
```

3. 関数を呼び出します。

```
Generate_Triggers(EMPLID, &L_DT);
```

関数 Generate_Triggers は、FUNCLIB_GP.TRGR_FUNCTIONS.FieldFormula に定義され、呼び出すときに 2 つのパラメータが必要です。必要とされるパラメータは以下のとおりです。

- &P_EMPLID

トリガが作成される従業員 ID (EMPLID) を識別します。EMPLID フィールドを &P_EMPLID に使用します。

- &P_FIXED_DT

トリガ有効日タイプが [固定日] のレコードのトリガ有効日の値を保持します。トリガ有効日タイプが [有効日] または [開始 - 終了日] のレコードは無視します。&P_FIXED_DT に &L_DT を使用します。

[固定日] タイプのトリガに限り、変数 &L_DT に値を割り当てる必要があります。たとえば、ポジティブ入力レコード (手動ポジティブ入力テーブル (GP_PI_MNL_DATA) と手動ポジティブ入力サポート エlement 上書きテーブル (GP_PI_MNL_SOVR)) がこれに該当します。

注意: ある条件が満たされた場合のみ関数を呼び出すように、PeopleCode を設定することもできます。以下の例 2 を参照してください。

以下の例は、データベースに標準で用意されている PeopleCode を抜粋したものです。追加レコードに対して PeopleCode を設定する方法を示しています。

例 1: トリガ レコード = GP_PYE_SOVR

PeopleCode のサンプル

```
PeopleCode on GP_PYE_SOVR.EMPLID.SavePostChange

Declare Function Generate_Triggers PeopleCode
FUNCLIB_GP.TRGR_FUNCTIONS FieldFormula;

Local date &L_DT;

/*-----Function to generate Triggers for Global Payroll---*/

Generate_Triggers(EMPLID, &L_DT);
```

この例では、受給者サポート エlement上書きテーブル (GP_PYE_SOVR) の [トリガ有効日タイプ] が [固定日] ではないため、&L_DT に値は割り当てられていません。

例 2: トリガ レコード = GP_PI_MNL_DATA (手動ポジティブ入力)

このレコードの [トリガ有効日タイプ] は [固定日] です。

PeopleCode のサンプル

```
PeopleCode on GP_PI_MNL_DATA.LASTUPDDTTM.SavePostChange

Declare Function Generate_Triggers PeopleCode
FUNCLIB_GP.TRGR_FUNCTIONS FieldFormula;

Local date &L_DT;

Local Rowset &L_RS0;

Component datetime &C_CAL_IDNT_TS;

/*-----Function to generate Triggers for Global Payroll---*/

&L_RS0 = GetLevel0();

&L_DT = &L_RS0(1).GP_PI_MNL_D.PRD_END_DT.Value;

If All(&C_CAL_IDNT_TS) Then

Generate_Triggers(EMPLID, &L_DT);

End-If;
```

この例では、&L_DT には、ポジティブ入力から作成されるトリガのトリガ有効日として使用する値を設定します。

ポジティブ入力の場合は、ポジティブ入力があるカレンダーの期間終了日を使ってトリガを作成する必要があります。そのため、&L_DT を次のように設定します。

```
&L_RS0 = GetLevel0();  
  
&L_DT = &L_RS0(1).GP_PI_MNL_D.PRD_END_DT.Value;
```

注意: GP_PI_MNL_D.PRD_END_DT には、GP_PI_MNL_DATA.ENTRY_TYPE_ID.RowInit の前の PeopleCode によって、カレンダーの PRD_END_DT の値が割り当てられています。

ここで、関数を呼び出すことができます。ポジティブ入力の場合は、ポジティブ入力があるカレンダーが識別された場合のみ、以下のようにトリガ作成機能を起動する必要があります。

```
If All(&C_CAL_IDNT_TS) Then  
  
Generate_Triggers(EMPLID, &L_DT);  
  
End-If;
```

注意: 遡及トリガや分割トリガを定義するときは、反復トリガも定義することを推奨します。カレンダー グループが一度計算されてからデータ変更が発生した場合、反復トリガが定義されていないと、データ変更によって作成された遡及トリガまたは分割トリガは次の確認フェーズまで処理されません。

関連項目:

[第 30 章、「トリガの設定」、PeopleSoft 提供のトリガの確認、1174 ページ](#)

自動作成されたトリガの管理とトリガの手動定義

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 分割トリガの表示、追加、またはキャンセル
- 遡及トリガの表示、追加、またはキャンセル
- 反復トリガのトリガ ステータスの表示または変更
- 反復トリガのカレンダー グループ ID 別表示

トリガの管理とトリガの手動入力について

トリガ確認コンポーネント (GP_TRIGGER) と反復トリガ確認コンポーネント (GP_TRGRITER_CALRUN) を使用して、以下の作業を行います。

- オンライン システムによって自動的に作成されたトリガを確認、管理します。

- オンライン トリガ作成の設定を行わない場合に、遡及トリガおよび分割トリガを手動で定義します。
- トリガの**ソース**となるレコードまたはフィールドと、反復、分割、遡及処理を引き起こすフィールド値の変更を表示します。この情報は、反復、遡及、または分割処理の特定のインスタンスが実行された原因を識別する際のデバッグやトラブルシューティングに役立ちます。

注意: 手動で定義されたトリガのソース データは表示されません。

注意: トリガ確認コンポーネント (GP_TRIGGER) または反復トリガ確認コンポーネント (GP_TRGRITER_CALRUN) を使用して、反復トリガを手動で定義することはできません。

警告: トリガ確認コンポーネントおよび反復トリガ確認コンポーネントのページでトリガをキャンセルすることができます。給与計算実行の処理中はトリガをキャンセルしないでください。給与計算結果でエラーになる可能性があります。

トリガの管理とトリガの手動入力に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
分割	GP_TRIGGER_SEG	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[トリガ確認]、[分割]	受給者別の分割トリガを表示、追加、またはキャンセルします。分割トリガをこのページで表示または管理するには、そのトリガの [トリガ ステータス] を [アクティブ] にしておく必要があります。
遡及	GP_TRIGGER_RTO	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[トリガ確認]、[遡及]	受給者別の遡及トリガを表示、追加、またはキャンセルします。遡及トリガをこのページで表示または管理するには、そのトリガの [トリガ ステータス] が [未処理] である必要があります。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
反復	GP_TRIGGER_ITER	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[トリガ確認]、[反復]	受給者別の反復トリガを表示します。このページで反復トリガを表示するには、[トリガ ステータス] が [未処理] である必要があります。
反復トリガ確認	GP_TRGRITER_CALRUN	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[反復トリガ確認]、[反復トリガ確認]	反復トリガのカレンダーグループ ID 別表示このページで反復トリガを表示するには、[トリガ ステータス] が [未処理] である必要があります。

分割トリガの表示、追加、またはキャンセル

分割ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[トリガ確認]、[分割])。

分割 遡及 反復

Rebekah Jones

個人 ID: KOG001

分割トリガ

[加減](#) | [検索](#) | [全件表示](#) | [印刷](#) | [最初](#) | [1/1](#) | [最後](#)

イベント ID(V)

ソース(S)

値

...

国	有効日	イベント ID	名称	トリガレベル	雇用コード	トリガステータス	
FRA	1996/06/15	EMPLOI	Job segmentation (period)	雇いコード		0	アクティブ

分割ページ - イベント ID タブ

分割 遡及 反復

Rebekah Jones

個人 ID: KOG001

分割トリガ

[加減](#) | [検索](#) | [全件表示](#) | [印刷](#) | [最初](#) | [1/1](#) | [最後](#)

イベント ID(V)

ソース(S)

値

...

国	有効日	イベント ID	トリガソース	作成日時	ソースコード	フィールド名	
FRA	1996/06/15	EMPLOI	自動作成	2006/08/18 11:49	JOB	CONTRACT_NUM	

分割ページ - ソース タブ

分割逆及反復

Rebekah Jones

個人 ID: KOG001

分割トリガ

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

イベント ID(V) | ソース(S) | 値

国	有効日	イベント ID	フィールド値のトリガ▲	エレメント
FRA	1996/06/15	EMPLOI		

分割ページ - 値タブ

イベント ID

[イベント ID] タブをクリックします。

[イベント ID] タブの各フィールドを使用して、自動作成された分割トリガのトリガ有効日やトリガ イベント ID などの基本的なデータを表示したり、トリガを手動で定義するためにこれらのデータを追加します。

- 国

トリガが適用される国が表示されます。
トリガを手動で作成する場合は、国コードを入力します。
- 有効日

分割対象の支給期間または支給期間内のエレメントの決定に使われる有効日です。
トリガを手動で定義する場合は、トリガ有効日を入力します。
- イベント ID

イベント ID により、分割イベントを処理する際に使用される分割タイプと、エレメント分割の場合に分割されるエレメントが特定されます。ここに表示されるイベント ID は、分割イベント定義ページで定義したものです。
トリガを手動で作成する場合は、イベント ID を入力します。
- 名称

分割イベント定義ページで定義したトリガ イベント ID の名称です。

トリガ レベル

オプションは、以下のとおりです。

[受給者]: [トリガ レベル] が [受給者] の場合、この受給者に属する全ての職務の支給エLEMENTが分割されます。

[雇レコード]: [トリガ レベル] が [雇レコード] の場合、[雇用レコード No.] フィールドの雇用レコード番号で指定される職務の支給エLEMENTが分割されます。

雇用レコード(雇用レコード)

分割トリガの影響を受ける雇用レコード番号 (職務) が表示されます。

トリガを手動で定義する場合は、トリガを作成する雇用レコード番号 (職務) を選択します。

[トリガ レベル] が [受給者] の場合、このフィールドの値は自動的に [0] に設定されます。

トリガ ステータス

トリガのステータスを選択します。

オプションは、以下のとおりです。

[アクティブ]: デフォルトでは、このフィールドの値は [アクティブ] です。

[キャンセル]: アクティブな分割トリガをキャンセルする場合に選択します。[キャンセル] を選択した場合、[保存] をクリックしてページを再度開くと、このトリガは表示されなくなります。

ソース

[ソース] タブをクリックします。

[ソース] タブを使用して、分割トリガのソースであるレコードとフィールドを表示します。

トリガ レベルに応じて、以下のように、トリガのソース レコード、またはソース レコードとソース フィールドの両方が表示されます。

トリガ レベル	表示される情報
レコード	レコードの情報
フィールドで、値に依存しない場合	レコードとフィールドの情報
フィールドで、値に依存する場合	レコードとフィールドの情報

国	[イベント ID] タブの [国] フィールドと同じです。
有効日	[イベント ID] タブの [有効日] フィールドと同じです。
イベント ID	[イベント ID] タブの [イベント ID] フィールドと同じです。
トリガ ソース	<p>以下の値のいずれかが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">自動作成 設定時に指定した条件によってオンライン システムにより作成されたトリガであることを示します。手動作成 手動でこのページに入力されたトリガであることを示します。
ソース レコード	<p>トリガのソースであるレコードが表示されます。</p> <p>手動で定義されたトリガの場合、このフィールドは空白です。</p>
フィールド名	<p>トリガのソースであるフィールドが表示されます。</p> <p>支給/控除割り当てレコード (GP_PYE_OVRD) から作成された分割トリガの場合、[フィールド名] は [PIN_NUM] です。</p> <p>手動で定義されたトリガの場合、このフィールドは空白です。</p>
タイムスタンプ	<p>トリガが作成された日時が表示されます。</p> <p>手動で定義されたトリガの場合、このフィールドは空白です。</p>
値	<p>[値] タブをクリックします。</p> <p>[値] タブを使用して、分割トリガの作成を引き起こしたフィールド値の変更を識別します。</p> <p>フィールド値は、以下のトリガ レベルのトリガでのみ表示されます。</p>

トリガ レベル	表示される情報
フィールドで、値に依存しない場合	<p>フィールド値の情報</p> <p>有効日が指定されているレコードから作成された分割トリガの場合、分割を起動する文字値、日付値、または数値が表示されます。</p>
フィールドで、値に依存する場合	<p>フィールド値の情報</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効日が指定されているレコードから作成された分割トリガの場合、分割を起動する文字値、日付値、または数値が表示されます。 開始日と終了日が指定された支給/控除割り当てレコード (GP_PYE_OVRD) から作成された分割トリガの場合、分割を起動するエレメントの名前が表示されます。

国 [イベント ID] タブおよび [ソース] タブの [国] フィールドと同じです。

有効日 [イベント ID] タブおよび [ソース] タブの [有効日] フィールドと同じです。

イベント ID [イベント ID] タブおよび [ソース] タブの [イベント ID] フィールドと同じです。

文字値 トリガを作成する文字値が表示されます。

日付値 トリガを作成する日付値が表示されます。

数値 トリガを作成する数値が表示されます。

エレメント名 支給/控除割り当てレコード (GP_PYE_OVRD) から作成される分割トリガの場合、トリガの作成を引き起こす支給または控除エレメントの名前が表示されます。

分割トリガの手動追加

分割トリガを手動で挿入するには、以下を実行します。

- 分割ページの [イベント ID] タブで、国と有効日を入力します。ここで入力した有効日に基づいて、トリガ有効日が決定されます。
- 分割ページの [イベント ID] タブで、トリガのイベント ID を指定します。

イベント ID により、使用される分割タイプと、エレメント分割の場合に分割されるエレメントが特定されます。

[トリガ ソース] が [手動作成] に、[トリガ ステータス] が [アクティブ] に設定されます。

注意: 自動作成されるトリガと異なり、手動作成によるトリガはトリガ定義ページでレコードまたはレコードとフィールドの組み合わせによって定義されるデータベース変更とは無関係です。そのため、手動作成のトリガによって生じる影響を理解しておくことは重要です。手動作成したトリガは、特定のデータ変更とは関連付けられていないため、何も変更されていない期間およびエレメントを分割してしまう可能性があるからです。

分割トリガの更新とキャンセル

自動および手動で作成されたトリガ データ行について

- イベント ID は変更可能です。
- [トリガ ステータス] は、[アクティブ] から [キャンセル] に変更できます。
- キャンセルしたトリガを元に戻すことはできません。新しいトリガを手動で追加する必要があります。

作成されたトリガ データ行の有効日について

- 分割ページの [有効日] は、分割対象期間の決定に使用される日付です。
- 手動で作成されたトリガの有効日は変更することができます。
- 事前に定義した設定ルールに基づいて自動作成されたトリガの有効日は変更できません。

関連項目:

[第 33 章、「遡及処理の定義」、分割と遡及、1287 ページ](#)

遡及トリガの表示、追加、またはキャンセル

遡及ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[トリガ確認]、[遡及])。

分割

遡及

反復

Rebekah Jones

個人 ID: K0G001

遡及トリガ

加減算 | 検索 | 全件表示 | 最初 1-10/34 最後

イベント ID(V) ソース(S) 値

国▲	トリガ有効日	トリガ イベント ID	名称	トリガ ステータス	
ARG	2010/12/20	GPABSEVENT	Event Retro p/GP_ABS_EVENT	未処理	+
ARG	2010/12/20	GPABSEVENT	Event Retro p/GP_ABS_EVENT	未処理	+
AUS	2010/12/20	GPABSEVENT	Retro Event for GP_ABS_EVENT	未処理	+
AUS	2010/12/20	GPABSEVENT	Retro Event for GP_ABS_EVENT	未処理	+
CHE	2010/12/20	GPABSEVENT	Retro Event for GP_ABS_EVENT	未処理	+
CHE	2010/12/20	GPABSEVENT	Retro Event for GP_ABS_EVENT	未処理	+
CHN	2010/12/20	GPABSEVENT	Retro Event for Absence Event	未処理	+
CHN	2010/12/20	GPABSEVENT	Retro Event for Absence Event	未処理	+
CYM	2010/12/20	K0RETRO	Retro Event Definition	未処理	+
CYM	2010/12/20	K0RETRO	Retro Event Definition	未処理	+

遡及ページ - イベント ID タブ

分割

遡及

反復

Rebekah Jones

個人 ID: KOG001

遡及トリガ

カスタイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-10/34 最後

イベント ID(V) | ソース(S) | 値

国▲	トリガ有効日	トリガ イベント ID	遡及トリガ ソース	作成日時	ソース レコード	フィールド名	
ARG	2010/12/20	GPABSEVENT	自動作成	2010/12/19 20:20	GP_ABS_EVENT		+
ARG	2010/12/20	GPABSEVENT	自動作成	2010/12/19 20:20	GP_ABS_EVENT		+
AUS	2010/12/20	GPABSEVENT	自動作成	2010/12/19 20:20	GP_ABS_EVENT		+
AUS	2010/12/20	GPABSEVENT	自動作成	2010/12/19 20:20	GP_ABS_EVENT		+
CHE	2010/12/20	GPABSEVENT	自動作成	2010/12/19 20:20	GP_ABS_EVENT		+
CHE	2010/12/20	GPABSEVENT	自動作成	2010/12/19 20:20	GP_ABS_EVENT		+
CHN	2010/12/20	GPABSEVENT	自動作成	2010/12/19 20:20	GP_ABS_EVENT		+
CHN	2010/12/20	GPABSEVENT	自動作成	2010/12/19 20:20	GP_ABS_EVENT		+
CYM	2010/12/20	KORETRO	自動作成	2010/12/19 20:20	GP_ABS_EVENT		+
CYM	2010/12/20	KORETRO	自動作成	2010/12/19 20:20	GP_ABS_EVENT		+

遡及ページ - ソース タブ

分割

遡及

反復

Rebekah Jones

個人 ID: KOG001

遡及トリガ

カスタイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-10/34 最後

イベント ID(V) | ソース(S) | 値

国▲	トリガ有効日	トリガ イベント ID	フィールド値のトリガ▲	トリガ タグ	
ARG	2010/12/20	GPABSEVENT			+
ARG	2010/12/20	GPABSEVENT			+
AUS	2010/12/20	GPABSEVENT			+
AUS	2010/12/20	GPABSEVENT			+
CHE	2010/12/20	GPABSEVENT			+
CHE	2010/12/20	GPABSEVENT			+
CHN	2010/12/20	GPABSEVENT			+
CHN	2010/12/20	GPABSEVENT			+
CYM	2010/12/20	KORETRO			+
CYM	2010/12/20	KORETRO			+

遡及ページ - 値タブ

イベント ID

[イベント ID] タブをクリックします。

[イベント ID] タブの各フィールドを使用して、自動作成された遡及トリガのトリガ有効日やトリガ イベント ID などの基本的なデータを表示したり、トリガを手動で定義するためにこれらのデータを追加します。

国

トリガが適用される国が表示されます。

トリガを手動で作成する場合は、国コードを入力します。

トリガ有効日

トリガ有効日が表示されます。再計算の対象となる支給期間 (期間数) の決定に使用される日付です。

トリガを手動で定義する場合は、トリガ有効日を入力します。

イベント ID

遡及データを処理する際に使用される、遡及イベント定義を特定するイベント ID が表示されます。ここに表示されるイベント ID は、遡及イベント定義ページで定義したものです。

トリガを手動で作成する場合は、イベント ID を入力します。

名称

遡及イベント定義ページで定義したトリガ イベント ID の名称が表示されます。

トリガ ステータス

トリガのステータスを選択します。

オプションは、以下のとおりです。

[未処理]: デフォルトでは、このフィールドの値は [未処理] です。

[キャンセル]: 遡及トリガをキャンセルする場合に選択します。

[キャンセル] を選択した場合、[保存] をクリックしてページを再度開くと、このトリガは表示されなくなります。

[処理中]: この値は自動的に割り当てられます。トリガ ステータスが [処理中] に設定されている場合、このステータスは更新できません。また、トリガ ステータスを手動で [処理中] に設定することはできません。手動で設定しようとするとエラーが表示されます。

ソース

[ソース] タブをクリックします。

[ソース] タブを使用して、遡及トリガのソースであるレコードとフィールドを表示します。

トリガ レベルに応じて、以下のように、トリガのソース レコード、またはソース レコードとソース フィールドの両方が表示されます。

トリガ レベル	表示される情報
レコード	レコードの情報
フィールドで、値に依存しない場合	レコードとフィールドの情報
フィールドで、値に依存する場合	レコードとフィールドの情報

- 国

[イベント ID] タブの [国] フィールドと同じです。
- 有効日

[イベント ID] タブの [有効日] フィールドと同じです。
- イベント ID

[イベント ID] タブの [イベント ID] フィールドと同じです。

トリガ ソース

以下の値のいずれかが表示されます。

- 自動作成

設定時に指定した条件によってオンライン システムにより作成されたトリガであることを示します。

- 手動作成

手動でこのページに入力されたトリガであることを示します。

- 福利厚生管理

PeopleSoft Enterprise Benefits Administration のレコードから作成されたトリガであることを示します。

- 一括トリガ

一括トリガの設定を使用して作成されたトリガであることを示します。

参照: 第 31 章、「一括トリガの設定」、1177 ページ。

- ユーティリティ作成

サードパーティのソフトウェアによって作成されたトリガであることを示します。

トリガ タグ

トリガがユーティリティ作成の場合、このフィールドにはトリガのソースが表示されます。

ソース レコード

トリガのソースであるレコードが表示されます。

手動で定義されたトリガの場合、このフィールドは空白です。

フィールド名

トリガのソースであるフィールドが表示されます。

手動で定義されたトリガの場合、このフィールドは空白です。

値

[値] タブをクリックします。

値 タブを使用して、遡及トリガの作成を引き起こしたフィールド値の変更を識別します。

フィールド値 (文字値、日付値、または数値) は、以下のトリガ レベルのトリガでのみ表示されます。

- フィールドで、値に依存しない場合
- フィールドで、値に依存する場合

国	[イベント ID] タブおよび [ソース] タブの [国] フィールドと同じです。
トリガ有効日	[イベント ID] タブおよび [ソース] タブの [トリガ有効日] フィールドと同じです。
イベント ID	[イベント ID] タブおよび [ソース] タブの [イベント ID] フィールドと同じです。
文字値	トリガを作成する文字値が表示されます。
数値	トリガを作成する数値が表示されます。
日付値	トリガを作成する日付値が表示されます。
タイムスタンプ	トリガが作成された日時が表示されます。 手動で定義されたトリガの場合、このフィールドは空白です。

遡及トリガの手動追加

遡及トリガを手動で挿入するには、以下を実行します。

- 遡及ページで国と有効日を入力します。
標準の遡及の場合と同様、有効日を使用して、再計算する必要のある期間が決定されます。
- トリガをイベント ID に関連付けます。
指定したイベント ID によって、遡及処理の方法が決まります。

[トリガ ソース] が [手動作成] に、[トリガ ステータス] が [未処理] に設定されます。

注意: 自動作成されるトリガと異なり、手動作成によるトリガは、レコードまたはレコードとフィールドの組み合わせに対するデータベース変更とは無関係です。そのため、手動作成のトリガによって生じる影響を理解しておくことは重要です。手動トリガは特定のデータ変更とは関連付けられていないため、何も変更されていない期間を遡及処理する可能性があります。

警告: 遡及トリガを追加またはキャンセルした場合は、データベース内の関連する遡及データも調整する必要があります。

遡及トリガの更新とキャンセル

自動および手動で作成されたトリガ データ行について

- イベント ID は変更可能です。
- [トリガ ステータス] は、[未処理] から [キャンセル] に変更できます。

トリガが一度処理されると、ステータスが [未処理] ではなくなり、遡及ページにも表示されなくなるので、トリガ ステータスは変更できなくなります。

- キャンセルしたトリガを元に戻すことはできません。

新しいトリガを手動で追加する必要があります。

作成されたトリガ データ行のトリガ有効日について

- 遡及ページの [トリガ有効日] は、遡及処理の対象となる期間 (期間数) の決定に使用される日付です。
- 手動作成されたトリガ ([トリガ ソース] が [手動作成]) のトリガ有効日は変更できます。
- 事前に定義した設定ルールに基づいて自動作成されたトリガのトリガ有効日は変更できません。

警告: トリガをキャンセルしても、トリガを作成したデータベースの変更は元に戻りません。何か他の理由による遡及処理が発生した場合、過去の期間の再計算によってこの変更も処理される可能性があります。

反復トリガのトリガ ステータスの表示と変更

反復ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[トリガ確認]、[反復])。

分割

遡及

反復

Krishna Murti

個人 ID: G1GPERF77

反復トリガ

カスタイズ | 検索 | 全件表示 | 1/1 | 最初 | 最後

カレンダー グループ(C)

ソース(S)

値

国	カレンダー グループ ID	トリガ ステータス

反復ページ - カレンダー グループ タブ

分割

遡及

反復

Krishna Murti

個人 ID: G1GPERF77

反復トリガ

カスタイズ | 検索 | 全件表示 | 1/1 | 最初 | 最後

カレンダー グループ(C)

ソース(S)

値

国	カレンダー グループ ID	トリガ ソース	作成日時	ソース レコード	フィールド名

反復ページ - ソース タブ

分割

遡及

反復

Krishna Murti

個人 ID: G1GPERF77

反復トリガ

カスタイズ | 検索 | 全件表示 | 1/1 | 最初 | 最後

カレンダー グループ(C)

ソース(S)

値

国	カレンダー グループ ID	フィールド値のトリガ

反復ページ - 値タブ

カレンダー グループ

- [カレンダー グループ] タブをクリックします。
- [カレンダー グループ] タブの各フィールドを使用して、自動作成された反復トリガのトリガ有効日やカレンダー グループ ID などの基本的なデータを表示します。
- 国 トリガが適用される国が表示されます。

カレンダー グループ ID 反復トリガを処理するカレンダー グループが表示されます。

トリガ ステータス トリガのステータスを選択します。

オプションは、以下のとおりです。

[未処理]: デフォルトでは、このフィールドの値は [未処理] です。

[キャンセル]: 反復トリガをキャンセルする場合に選択します。

[キャンセル] を選択した場合、[保存] をクリックしてページを再度開くと、このトリガは表示されなくなります。

ソース

[ソース] タブをクリックします。

[ソース] タブを使用して、反復トリガのソースであるレコードとフィールドを表示します。

トリガ レベルに応じて、以下のように、トリガのソース レコード、またはソース レコードとソース フィールドの両方が表示されます。

トリガ レベル	表示される情報
レコード	レコードの情報
フィールドで、値に依存しない場合	レコードとフィールドの情報
フィールドで、値に依存する場合	レコードとフィールドの情報

国 [カレンダー グループ] タブの [国] フィールドと同じです。

カレンダー グループ ID [カレンダー グループ] タブの [カレンダー グループ ID] フィールドと同じです。

トリガ ソース

以下の値のいずれかが表示されます。

- バッチ

バッチ処理によって作成されたトリガであることを示します。

- オンライン

設定時に指定した条件に基づき、オンライン コードにより作成されたトリガであることを示します。

- 福利厚生管理

PeopleSoft Enterprise Benefits Administration のレコードから作成されたトリガであることを示します。

- 一括トリガ

一括トリガを使用して作成されたトリガであることを示します。

参照: 第 31 章、「一括トリガの設定」、1177 ページ。

- キャンセル解除

受給者ステータス ページで受給者のステータスが "キャンセル解除" に設定されたときに作成されたトリガであることを示します。

- 中断解除

受給者ステータス ページで受給者のステータスが "中断解除" に設定されたときに作成されたトリガであることを示します。

- 勤務管理

- 勤務管理入力

ソース レコード

トリガのソースであるレコードが表示されます。

フィールド名

トリガのソースであるフィールドが表示されます。

値

[値] タブをクリックします。

[値] タブを使用して、反復トリガの作成を引き起こしたフィールド値の変更を識別します。

フィールド値 (文字値、日付値、または数値) は、以下のトリガ レベルのトリガでのみ表示されます。

- フィールドで、値に依存しない場合
- フィールドで、値に依存する場合

国 [ソース] タブの [国] フィールドと同じです。

カレンダー グループ ID [ソース] タブの [カレンダー グループ ID] フィールドと同じです。

文字値 トリガを作成する文字値が表示されます。

数値 トリガを作成する数値が表示されます。

日付値 トリガを作成する日付値が表示されます。

タイムスタンプ トリガが作成された日時が表示されます。

反復トリガの手動追加

このページでは、トリガ データ行を手動で追加することはできません。

反復トリガの更新とキャンセル

自動作成されたトリガ データ行の場合は、[トリガ ステータス] を [未処理] から [キャンセル] に変更できます。トリガが一度処理されると、ステータスが [未処理] ではなくなり、反復ページにも表示されなくなるので、トリガ ステータスの変更できなくなります。

カレンダー グループ ID 別反復トリガの表示

反復トリガ確認ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[反復トリガ確認]、[反復トリガ確認])。

反復トリガ確認

カレンダー グループ ID: KZ B200601 2006 01 - Biweekly

国: NZL ニュージーランド

反復トリガ カスタマイズ | 検索 | 全件表示 |   最初 1-10/12 最後

名前(N) ソース(O) 値 

従業員 ID	名前	トリガ ステータス
G1UT0160	Patrick Murtiski	未処理
K0G001	Rebekah Jones	未処理
K6001	Bai Lichen	未処理
K6002	Yu Cheng	未処理
K6003	Ding Pin	未処理
K6004	Zhu Yingtai	未処理
K6005	Liang Shanbo	未処理
K6006	Wu Luyao	未処理
K6007	Wang Lifeng	未処理
K6008	Wen Wuquan	未処理

反復トリガ確認ページ - 名前タブ

反復トリガ確認

カレンダー グループ ID: KZ B2006012006 01 - Biweekly

国: NZLニュージーランド

反復トリガ

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-10/12 最後

名前(N)

ソース(O)

値

従業員 ID	トリガ ソース	作成日時	レポート名	フィールド名
G1UT0160	オンライン	2010/12/18 09:44	GP_ABS_EVENT	
K0G001	オンライン	2010/12/19 20:20	GP_ABS_EVENT	
K6001	オンライン	2007/10/04 22:56	ADDRESSES	STATE
K6002	オンライン	2007/10/04 22:57	ADDRESSES	STATE
K6003	オンライン	2007/10/04 22:58	ADDRESSES	STATE
K6004	オンライン	2007/10/04 22:59	ADDRESSES	STATE
K6005	オンライン	2007/10/04 23:01	ADDRESSES	STATE
K6006	オンライン	2007/10/04 23:02	ADDRESSES	STATE
K6007	オンライン	2007/10/04 23:03	ADDRESSES	STATE
K6008	オンライン	2007/10/04 23:05	ADDRESSES	STATE

反復トリガ確認ページ - ソース タブ

反復トリガ確認

カレンダー グループ ID: KZ B200601

2006 01 - Biweekly

国: NZL

ニュージーランド

反復トリガ

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-10/12 最後

名前(N) | ソース(O) | 値

従業員 ID	文字値	数値	日付値
G1UT0160			
K0G001			
K6001	11		
K6002	11		
K6003	31		
K6004	11		
K6005	44		
K6006	31		
K6007	11		
K6008	11		

反復トリガ確認ページ - 値タブ

名前

[名前] タブをクリックします。

[名前] タブの各フィールドを使用して、自動作成されたトリガに関連付けられている従業員 ID、従業員名、ステータスなどの基本的なデータを表示します。

従業員 ID 反復トリガに関連付けられている受給者の従業員 ID が表示されます。

名前 反復トリガに関連付けられている受給者の名前が表示されます。

トリガ ステータス

トリガのステータスを選択します。

オプションは、以下のとおりです。

[未処理]: デフォルトでは、このフィールドの値は [未処理] です。

[キャンセル]: 反復トリガをキャンセルする場合に選択します。

[キャンセル] を選択した場合、[保存] をクリックしてページを再度開くと、このトリガは表示されなくなります。

ソース

[ソース] タブをクリックします。

[ソース] タブを使用して、反復トリガのソースであるレコードとフィールドを表示します。

トリガ レベルに応じて、以下のように、トリガのソース レコード、またはソース レコードとソース フィールドの両方が表示されます。

トリガ レベル	表示される情報
レコード	レコードの情報
フィールドで、値に依存しない場合	レコードとフィールドの情報
フィールドで、値に依存する場合	レコードとフィールドの情報

従業員 ID

[名前] タブの [従業員 ID] フィールドと同じです。

名前

[名前] タブの [名前] フィールドと同じです。

トリガ ソース

以下の値のいずれかが表示されます。

- バッチ

バッチ処理によって作成されたトリガであることを示します。

- オンライン

設定時に指定した条件に基づき、オンライン コードにより作成されたトリガであることを示します。

- 福利厚生管理

PeopleSoft Enterprise Benefits Administration のレコードから作成されたトリガであることを示します。

- 一括トリガ

一括トリガを使用して作成されたトリガであることを示します。

参照: 第 31 章、「一括トリガの設定」、1177 ページ。

- キャンセル解除

受給者ステータス ページで受給者のステータスが "キャンセル解除" に設定されたときに作成されたトリガであることを示します。

- 中断解除

受給者ステータス ページで受給者のステータスが "中断解除" に設定されたときに作成されたトリガであることを示します。

- 勤務管理

- 勤務管理入力

レコード名

トリガのソースであるレコードが表示されます。

フィールド名

トリガのソースであるフィールドが表示されます。

値

[値] タブをクリックします。

[値] タブを使用して、反復トリガの作成を引き起こしたフィールド値の変更を識別します。

フィールド値 (文字値、日付値、または数値) は、以下のトリガ レベルのトリガでのみ表示されます。

- フィールドで、値に依存しない場合
- フィールドで、値に依存する場合

従業員 ID [ソース] タブの [従業員 ID] フィールドと同じです。

名前 [ソース] タブの [名前] フィールドと同じです。

文字値 トリガを作成する文字値が表示されます。

数値 トリガを作成する数値が表示されます。

日付値 トリガを作成する日付値が表示されます。

タイムスタンプ トリガが作成された日時が表示されます。

PeopleSoft 提供のトリガの確認

グローバル ペイロールでは、トリガ作成が容易に行えるように、あらかじめ トリガの PeopleCode が定義された以下のレコードが提供されています。これらは土台として提供されています。個々のビジネス ニーズに合わせるため、他のレコードにトリガを作成する PeopleCode を追加したり、以下のリストにあるレコードから PeopleCode を削除したりできます。

注意: グローバル ペイロールのトリガ作成ロジックは FUNCLIB_GP.TRGR_FUNCTIONS FieldFormula PeopleCode に格納されています。レコードがトリガを作成するには、そこに格納されている GENERATE_TRIGGERS 関数を、レコードから SavePostChange PeopleCode で宣言および呼び出す必要があります。

参照: 第 30 章、「トリガの設定」、トリガの導入、1148 ページ。

- ADDRESSES
- BEN_PROG_PARTIC
- COMPENSATION
- CONTRACT_DATA
- DEP_BEN_ADDR

- DEP_BEN_EFF
- DEP_BEN_NAME
- GP_ABS_EVNT
- GP_ABS_OVRD
- GP_OFFCYCL_A_VW
- GP_OFFCYCL_M_VW
- GP_OFFCYCL_M_VW
- GP_OFFCYCL_U_VW
- GP_PI_MNL_DATA
- GP_PI_MNL_D_VW
- GP_PI_MNL_E_VW
- GP_PI_MNL_SOVR
- GP_PI_MNL_SSN
- GP_PYE_OVRD
- GP_PYE_OVR_SOVR
- GP_PYE_SECT_DTL
- GP_PYE_SOVR
- GP_RTO_TRGR
- GP_RTO_TRGR_VW
- HEALTH_BENEFIT
- JOB
- JOB_JR
- LIFE_ADD_BEN
- LIFE_ADD_BENEFC
- PERSON

- PERS_DATA_EFFDT
- PER_ORG_ASGN
- PRIMARY_JOBS
- SCH_ASSIGN
- SCH_MNG
- SCH_TBL
- WKF_CNT_TYPE

注意: JOB レコードの [給与計算システム] フィールドと [支給グループ] フィールドの変更については、期間分割トリガを設定してください。

第 31 章

一括トリガの設定

この章では、一括トリガの概要および以下の項目について説明します。

- 一括トリガの設定
- 一括トリガ アクション イベントの処理

関連項目:

第 30 章、「トリガの設定」、1111 ページ

一括トリガについて

この機能を使用すると、ユーザーは設定テーブルでの変更に基づく従業員トリガを作成できます。一括トリガは、特定のコンポーネントの特定のレコードに対して設定できます。SQL オブジェクトのセットは、設定テーブルでの変更によって影響を受ける従業員を定義します。影響を受ける従業員が特定できたら、変更を受け入れる前にトリガ詳細を確認できます。

一括トリガを設定するには、以下の処理を実行する必要があります。

- 一括トリガ定義ページで、トリガを起動するコンポーネント/レコードおよびフィールドを定義します。

参照: 第 31 章、「一括トリガの設定」、一括トリガの定義、1181 ページ。

- 設定テーブルでの変更によって影響を受ける従業員を判断するためにレコードをチェックする SQL オブジェクトを設定します。SQL オブジェクトは PeopleTools を使用して定義し、一括トリガ SQL ページで選択する必要があります。

参照: 第 31 章、「一括トリガの設定」、SQL オブジェクトの使用、1182 ページ。

- 一括トリガ定義で使用するレコードによって関数 `Generate_Triggers` を宣言し、それらのレコードのフィールド `SavePostChange PeopleCode` のいずれかでこの関数を呼び出すようにシステムを設定します。

参照: 第 31 章、「一括トリガの設定」、`Generate Triggers` 関数の宣言と呼び出し、1179 ページ。

一括トリガ イベント プロセスは、以下の 3 つのステップで行われます。

1. 一括トリガを起動するコンポーネント/レコードおよびフィールドを含むページを保存すると、イベントおよびフィールド値は一括トリガ結果テーブル (`GP_MT_TRIGGER`) に保存されます。イベント ステータスは [未展開] に設定されます。
2. SQL オブジェクトが評価され、影響を受ける従業員を記録する一括トリガ結果テーブル (`GP_MT_RESULT`) に結果が書き込まれます。全てのオブジェクトの展開に成功すると、イベント ステータスは [展開済] に設定されます。
3. 影響を受ける従業員の遡及トリガと反復トリガのリストが作成されます。完了したら、イベント ステータスは [トリガ生成済] に設定されます。

一括トリガ イベント コンポーネントでイベントとその結果を表示できます。以下のことが可能です。

- 一括トリガ イベント ページを使用したトリガ イベントの削除。これには一括トリガ、影響を受ける従業員、および作成された受給者トリガが含まれます。作成されたトリガが処理済みである場合は、削除は行われません。

参照: 第 31 章、「一括トリガの設定」、イベントの削除、1185 ページ。

- 影響を受ける従業員ページを使用したイベントの手動での展開。エラーのあった SQL オブジェクトを訂正した後で、トリガを作成する場合があります。手動で展開されたトリガでは、次の処理を行うことができます。
 - 影響を受ける従業員、およびステータスが [未展開] のイベントの遡及トリガと反復トリガの作成
 - ステータスが [展開済] のイベントの遡及トリガと反復トリガの作成

参照: 第 31 章、「一括トリガの設定」、イベントの手動展開、1186 ページ。

Generate_Triggers 関数の宣言と呼び出し

グローバル ペイロールのトリガ作成ロジックは FUNCLIB_GP.TRGR_FUNCTIONS FieldFormula PeopleCode に格納されています。レコードがトリガを作成するには、そこに格納されている GENERATE_TRIGGERS 関数を、レコードから SavePostChange PeopleCode で宣言および呼び出す必要があります。この関数については、遡及、分割、および反復トリガの定義に関する章で例を示しながら詳しく説明しています。このセクションでは、主要な設定手順についてのみ説明します。

Generate_Triggers PeopleCode の使い方

Generate_Triggers 関数を宣言して呼び出すには、次の手順に従います。

1. トリガを作成する関数を宣言します。

```
Declare Function Generate_Triggers PeopleCode  
FUNCLIB_GP.TRGR_FUNCTIONS FieldFormula;
```

2. ローカル日付の変数を宣言します。

```
Local date &L_DT;
```

3. 関数を呼び出します。

```
Generate_Triggers(EMPLID, &L_DT);
```

関数 Generate_Triggers は、FUNCLIB_GP.TRGR_FUNCTIONS.FieldFormula に定義され、呼び出すときに 2 つのパラメータが必要です。必要とされるパラメータは以下のとおりです。

- &P_EMPLID

トリガが作成される従業員 ID (EMPLID) を識別します。EMPLID フィールドを &P_EMPLID に使用します。

- &P_FIXED_DT

トリガ有効日タイプが [固定日] のレコードのトリガ有効日の値を保持します。トリガ有効日タイプが [有効日] または [開始 - 終了日] のレコードは無視します。&P_FIXED_DT に &L_DT を使用します。

[固定日] タイプのトリガに限り、変数 &L_DT に値を割り当てる必要があります。

関連項目:

第 30 章、「トリガの設定」、トリガの導入、 1148 ページ

一括トリガの設定

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 一括トリガの定義
- SQL オブジェクトの使用
- SQL ステートメントの表示

トリガの設定に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
一括トリガ定義	GP_MT_TRG_DFN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、[一括トリガ定義]、[一括トリガ定義]	トリガを起動するレコードを定義します。
一括トリガ SQL	GP_MT_TRG_SQL	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、[一括トリガ定義]、[一括トリガ SQL]	一括トリガ イベントによって影響を受ける従業員を取得するために実行する必要がある SQL オブジェクトを指定します。
SQL 定義の表示	GP_MT_SQLTXT_SEC	一括トリガ SQL ページの [SQL 定義の表示] リンクをクリックします。	SQL 定義を表示します。

一括トリガの定義

一括トリガ定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、[一括トリガ定義]、[一括トリガ定義])。

一括トリガ定義(D)

一括トリガ SQL(S)

コンポーネント名:

BEN_PROG_DEFN

福利厚生プログラム テーブル

レコード リスト

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/2 | 最後

*レコード名:

BEN_DEFN_COST

福利厚生オプション費用定義

*ステータス:

アクティブ

*国:

USA

アメリカ

*トリガ イベント ID:

BEN MT

Benefits Mass Triggers

☒ 雇用終了者を無視

フィールド リスト

カスタマイズ | 検索 | 1 | 最初 | 1-3/3 | 最後

フィールド名	名称		
CALC_RULES_ID	計算ルール テーブル ID	+	-
RATE_TBL_ID	レート テーブル ID	+	-
RATE_TYPE	福利厚生レート タイプ	+	-

一括トリガ定義ページ

トリガ イベント ID

トリガ イベント ID をレコード (テーブル) に関連付けて、作成された受給者トリガを処理する遡及処理 ID に一括トリガをリンクします。

雇用終了者を無視

一括トリガ処理時に雇用終了者を除外する場合にオンにします。

フィールド名

一括トリガ イベントを自動作成するフィールドをリストします。SQL オブジェクト ページで入力パラメータとして使用されるフィールドはここにリストする必要はありません。それらのフィールドは保存後に挿入されます。

SQL オブジェクトの使用

一括トリガ SQL ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバルペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、[一括トリガ定義]、[一括トリガ SQL])。

一括トリガ定義(D)

一括トリガ SQL(S)

コンポーネント名:

BEN_PROG_DEFN

福利厚生プログラム テーブル

レコードリスト

検索 | 全件表示

最初1/2最後

レコード名:

BEN_DEFN_COST

福利厚生オプション費用定義

SQL リスト

検索 | 全件表示

最初1/2最後

*SQL オブジェクト ID:

GPUS_MT_BEN_DEFN_COST_1X

GP Mass Trigger SQL

+

-

SQL 定義の表示

バインド変数 (SQL パラメータ)

加減算 | 検索 | 全件表示

最初1-5/9最後

連番	フィールド名	名称		
1	EFFDT	有効日	+	-
2	EFFDT	有効日	+	-
3	BENEFIT_PROGRAM	福利厚生プログラム	+	-
4	OPTION_ID	オプション ID	+	-
5	EFFDT	有効日	+	-

一括トリガ SQL ページ

- SQL オブジェクト ID

アプリケーション デザイナで定義されたスタンドアロンの SQL オブジェクトを選択します。これらのオブジェクトには、入力パラメータのプレースホルダが含まれます。
- SQL 定義の表示

SQL 定義ページにアクセスする場合にクリックします。
- 連番

SQL オブジェクトの各プレースホルダの番号を入力します。
- フィールド名

実行時に SQL オブジェクトのプレースホルダを埋めるために使用するフィールドを入力します。選択可能なフィールドは、上記に指定されたレコードから表示されます。保存すると、これらのフィールドは一括トリガ定義ページに追加されます。

SQL ステートメントの表示

SQL 定義の表示ページにアクセスします (一括トリガ SQL ページの [SQL 定義の表示] リンクをクリックします)。

SQL 定義の表示

説明

GP Mass trigger SQL for record BEN_DEFN_COST in component BEN_PROG_DEFN

SQL ステートメント テキスト:

SELECT HB.EMPLID , HB.EMPL_RCD , %DateOut(HB.EFFDT) FROM PS_BEN_PROG_PARTIC
BP , PS_HEALTH_BENEFIT HB WHERE BP.EFFDT = (SELECT MAX(BP1.EFFDT) FROM
PS_BEN_PROG_PARTIC BP1 WHERE BP1.EMPLID = BP.EMPLID AND BP1.EFFDT <= %DateIn
(1)) AND HB.EMPLID = BP.EMPLID AND HB.PLAN_TYPE IN ('10','11') AND HB.EFFDT = (
SELECT MAX(HB1.EFFDT) FROM PS_HEALTH_BENEFIT HB1 WHERE HB1.EMPLID =
HB.EMPLID AND HB1.PLAN_TYPE = HB.PLAN_TYPE AND HB1.EFFDT >= BP.EFFDT AND
HB1.EFFDT <= %DateIn(2)) AND HB.COVERAGE_ELECT = 'E' AND EXISTS (SELECT 'X' FROM
PS_BEN_DEFN_COST DC , PS_BEN_DEFN_OPTN_OP WHERE DC.BENEFIT_PROGRAM = :3 AND
DC.BENEFIT_PROGRAM = BP.BENEFIT_PROGRAM AND DC.PLAN_TYPE IN ('10','11') AND
DC.OPTION_ID = :4 AND DC.COST_TYPE = 'P' AND DC.EFFDT = (SELECT MAX(DC1.EFFDT)
FROM PS_BEN_DEFN_COST DC1 WHERE DC1.BENEFIT_PROGRAM = DC.BENEFIT_PROGRAM
AND DC1.PLAN_TYPE = DC.PLAN_TYPE AND DC1.OPTION_ID = DC.OPTION_ID AND
DC1.COST_ID = DC.COST_ID AND DC1.COST_TYPE = DC.COST_TYPE AND DC1.EFFDT <= %
DateIn(5)) AND OP.BENEFIT_PROGRAM = DC.BENEFIT_PROGRAM AND OP.BENEFIT_PLAN =
HB.BENEFIT_PLAN AND OP.OPTION_ID = DC.OPTION_ID AND OP.EFFDT = DC.EFFDT AND
OP.PLAN_TYPE = DC.PLAN_TYPE AND OP.OPTION_ID = DC.OPTION_ID AND OP.OPTION_TYPE

戻る

SQL 定義の表示ページ

このページを使用して、実際の SQL テキストを表示する他に、SQL ステートメントの説明を表示します。

一括トリガ アクション イベントの管理

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- イベントを削除します。
- イベントの手動展開

- 遡及トリガの表示
- 反復トリガの表示

トリガ イベントの処理に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
一括トリガ イベント	GP_MT_TRIGGER	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[一括トリガ確認]、[一括トリガ イベント]	コンポーネント/レコードについてリストされた全ての一括トリガ イベントを表示します。イベントを削除します。
一括トリガ イベント メッセージ	GP_MT_MSG_SEC	一括トリガ イベント ページの [メッセージ] リンクをクリックしま す。	メッセージを表示しま す。
イベント メッセージ詳細	GP_MT_MSGLNG_SEC	一括トリガ イベント メッセージ ページの [詳 細] リンクをクリックし ます。	メッセージ詳細を表示し ます。
フィールド値	GP_MT_TRG_VAL	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[一括トリガ確認]、 [フィールド値]	一括トリガ イベント前後 のフィールド値を表示しま す。
影響を受ける従業員	GP_MT_RESULT	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[一括トリガ確認]、[影響を受ける従業員]	一括トリガ イベントによ って影響を受ける従業 員のリストを表示しま す。イベントを手動で展 開します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
遡及トリガ	GP_MT_RTO_TRG	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[一括トリガ確認]、[遡及トリガ]	一括トリガ イベントによって作成された遡及トリガを表示します。
反復トリガ	GP_MT_ITER_TRG	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[一括トリガ確認]、[反復トリガ]	一括トリガ イベントによって作成された反復トリガを表示します。
カレンダー グループ別トリガ	GP_MT_ITER_SEC	反復トリガ ページで [カレンダー グループ別トリガ] リンクをクリックします。	受給者のカレンダー グループ別トリガを表示します。

イベントの削除

一括トリガ イベント ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[一括トリガ確認]、[一括トリガ イベント])。

一括トリガ イベント

フィルタ値(F)

影響を受ける従業員

遡及トリガ(R)

反復トリガ(I)

コンポーネント名:

BEN_PROG_DEFN

福利厚生プログラムテーブル

レポート名:

BEN_DEFN_COST

福利厚生オプション費用定義

開始済トリガ イベント

カスタマイズ | 検索 | 100 件表示 | 最初 1-10/380 最後

作成日時	トリガ アクション	イベント ステータス	メッセージ	ユーザー ID	
2010/11/10 03:05:01.000000	新規	トリガ生成済	メッセージ	SMPLFED	-
2010/09/14 15:44:52.000000	新規	トリガ生成済	メッセージ	SAMPLE	-
2010/09/14 15:43:49.000000	新規	トリガ生成済	メッセージ	SAMPLE	-
2010/09/14 15:43:48.000000	新規	トリガ生成済	メッセージ	SAMPLE	-
2010/09/14 15:43:47.000000	新規	トリガ生成済	メッセージ	SAMPLE	-
2010/09/14 15:43:46.000000	新規	トリガ生成済	メッセージ	SAMPLE	-
2010/09/14 14:24:06.000000	新規	トリガ生成済	メッセージ	SAMPLE	-

一括トリガ イベント ページ

トリガを処理する前にイベントを削除する場合は、削除ボタンをクリックします。これにより、フィールド値、影響を受ける従業員のリスト、およびイベントによって作成された遡及トリガと反復トリガを含むイベントの結果テーブルが削除されます。トリガ イベントは、それを作成したユーザーだけが削除できます。

イベントの手動展開

"影響を受ける従業員" ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[一括トリガ確認]、[影響を受ける従業員])。

一括トリガ イベント

フィールド値 (F)

影響を受ける従業員

遡及トリガ (R)

反復トリガ (U)

コンポーネント名:

BEN_PROG_DEFN

福利厚生プログラム テーブル

レコード名:

BEN_DEFN_COST

福利厚生オプション費用定義

開始済トリガ イベント

検索 | 100 件表示

最初

1/380

最後

作成日時:

2010/11/10 03:05:01.0000000

アクション:

新規

従業員リストの展開/リフレッシュ

従業員リスト

カスタイズ | 検索 | 全件表示 |

最初

1/1

最後

従業員 ID	名前	雇用レコード	指定日
		0	

"影響を受ける従業員" ページ

- 従業員リストの展開/リフレッシュ

イベントを手動で展開する場合にクリックします。展開を実行すると、現在のリストが削除され、新しいリストが作成されます。全ての関連する遡及トリガと反復トリガも削除され、再作成されます。リフレッシュ ボタンは、関連するトリガが何も処理されていない場合にのみクリックできます。一括トリガ イベントを作成したユーザーだけがそれを実行できます。
- 従業員 ID

一括トリガ イベントの保存時にこのリストは作成されます。
- 指定日

遡及または分割処理が発生する日付です。

遡及トリガの表示

遡及トリガ ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[一括トリガ確認]、[遡及トリガ])。

一括トリガ イベント

フィルド値(E)

影響を受ける従業員

遡及トリガ(R)

反復トリガ(I)

コンポーネント名:

BEN_PROG_DEFN

福利厚生プログラム テーブル

レコード名:

BEN_DEFN_COST

福利厚生オプション費用定義

開始済トリガ イベント

検索 | 100 件表示

最初

1/380

最後

作成日時:

2010/11/10 03:05:01.000000

アクション:

新規

遡及トリガ

カスタイズ | 検索 | 全件表示 |

最初

1/1

最後

従業員 ID	名前	トリガ有効日	トリガ ステータス	カレンダー グループ ID
			未処理	

遡及トリガ ページ

- トリガ有効日

"影響を受ける従業員" ページの [指定日] に対応します。
- トリガ ステータス

[U (未処理)]、[I (処理中)]、[P (処理済)]、または [C (キャンセル)] のいずれかです。
- カレンダー グループ ID

遡及トリガを処理するために使用する ID です。

反復トリガの表示

反復トリガ ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[一括トリガ確認]、[反復トリガ])。

一括トリガ イベント

フィルド値(E)

影響を受ける従業員

遡及トリガ(R)

反復トリガ(I)

コンポーネント名:

COVERAGE_GROUP_TBL

補償グループ テーブル

レコード名:

COVG_GROUP_TBL

補償範囲グループ-最高補償額

開始済トリガ イベント

検索 | 全件表示

最初

1/6

最後

作成日時:

2010/04/22 02:16:33.000000

アクション:

属性の変更

反復トリガ

カスタイズ | 検索 | 全件表示 |

最初

1/1

最後

従業員 ID	名前	カレンダー グループ別トリガ
		カレンダー グループ別トリガ

反復トリガ ページ

一括トリガが展開されると、影響を受ける全ての従業員と、現在オープンである全てのカレンダーグループ ID について、反復トリガが作成されます。[カレンダー グループ別トリガ] リンクをクリックしてカレンダー グループ ページにアクセスし、反復トリガが作成されたカレンダー グループを表示します。

第 32 章

分割の定義

この章では、分割の概要、および以下の項目について説明します。

- 分割の設定
- 分割の管理

分割の設定について

分割 (Segmentation) とは、プロセス リストに含まれる全て (または一部) のエレメントについて個別のスライスまたはセグメントごとに計算するプロセスです。支給期間中の給与変更や従業員のステータス変更などのイベントに基づき、給与コンポーネントを**分割**することができます。たとえば、支給期間中に従業員の職務に変更が発生し、組織では職務別に支給を分割するという方法を使用している場合は、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理で職務変更の [異動区分 / 理由] フィールドが変更されたときに、給与明細の支給結果を分割する処理が行われるように設定できます。

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- 分割のタイプ
- 期間、セグメント、スライスにおける開始日と終了日の関係
- エレメント変換の基本ルール
- 有効日によるエレメント定義
- 累計と累計メンバーのスライスに関するルール
- 親エレメントと子エレメントの変換のルール
- 分割と受給者上書き
- 比例配分と分割
- 遡及処理と分割

- 分割を伴うポジティブ入力
- 分割システム エlement

分割のタイプ

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- 分割のタイプ
- 分割Elementの選択

分割のタイプ

グローバル ペイロールでは、以下の 2 つの分割タイプが用意されています。

- 期間分割

給与レートなどのデータが期間の途中で変更されたため、プロセス リストに登録されている全てのElementをその変更日の前後で複数回計算する必要がある場合に、この分割タイプが実行されます。支給期間を 2 つ以上の独立したセグメントに分割し、各セグメントを完全に別の給与計算として処理します。プロセス リスト内のそれぞれのElementがセグメントごとに計算されるので、複数の総額/純額処理、給与明細、受給者処理ステータス レコードが存在することになります。別の期間スライスで有効だったコンポーネントを使って、各Elementが計算されます。

- Element分割

データが期間の途中で変更されたため、影響を受けたElement (および他のElementのサブセット) をその変更日の前後で複数回計算する必要があるときに、この分割タイプが実行されます(それぞれのサブ期間を**スライス**といいます)。選択したElementのみが分割され、指定したElementに対してのみ結果の行がそれぞれ作成されます。Element分割では、総額/純額結果は 1 セットだけです。

分割Elementの選択

期間分割では、プロセス リストの全てのElementが自動的に分割されます。Element分割の場合は、スライス対象のElementをプロセス リストから選択する必要があります。この指定を行うには、分割イベント定義ページを使って、分割対象のElementを**Element リスト**に登録します。

関連項目:

第 32 章、「分割の定義」、分割イベントと分割タイプの定義、1215 ページ

期間、セグメント、スライスにおける開始日と終了日の関係

支給期間ごとに、開始日と終了日が次のように設定されます。

- **期間**

支給期間 (毎月、隔週、または毎週) を使用して、受給者の支給がグループ化および計算されます。それぞれの期間には開始日と終了日があり、スライスや分割が可能です。

- **セグメント**

通常の支給期間を構成する**サブ期間**で、期間分割の結果として作成されます。セグメントはその期間のエレメント全ての総額/純額計算を個別に表し、それぞれ開始日と終了日があります。各エレメントは、サブ期間内で**スライス**できます。

- **スライス**

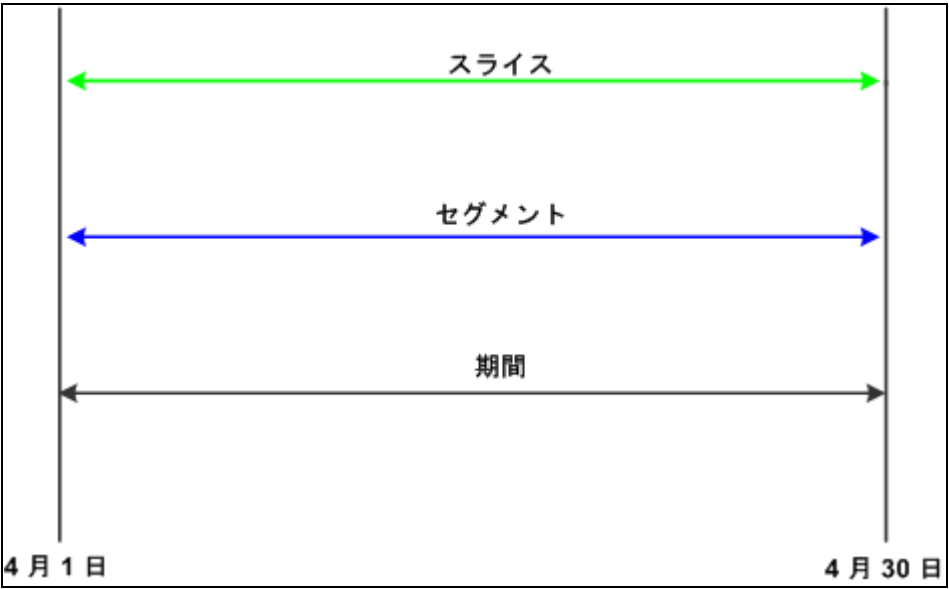
エレメント分割の結果として分割された期間を表します。セグメントや期間とは異なり、スライスは個別の総額/純額プロセスを表しません。これは、スライスが期間またはセグメント内の限られたエレメントにしか影響を及ぼさないためです。セグメントと同様、開始日と終了日があります。

期間がスライスまたは分割されるかに関係なく、給与計算が処理されるたびに 3 セット (期間、セグメント、およびスライス) の日付が全て作成されます。期間、セグメント、およびスライスの開始日と終了日は、その期間の出力結果テーブルに保存され、ほかの計算でもシステム計算エレメントとして使用可能です。

例 1: 分割されていない期間

期間が分割されていないので、期間の数は、セグメントおよびスライスの数と一致します。期間、セグメントおよびスライスの開始日と終了日は全て同じです。

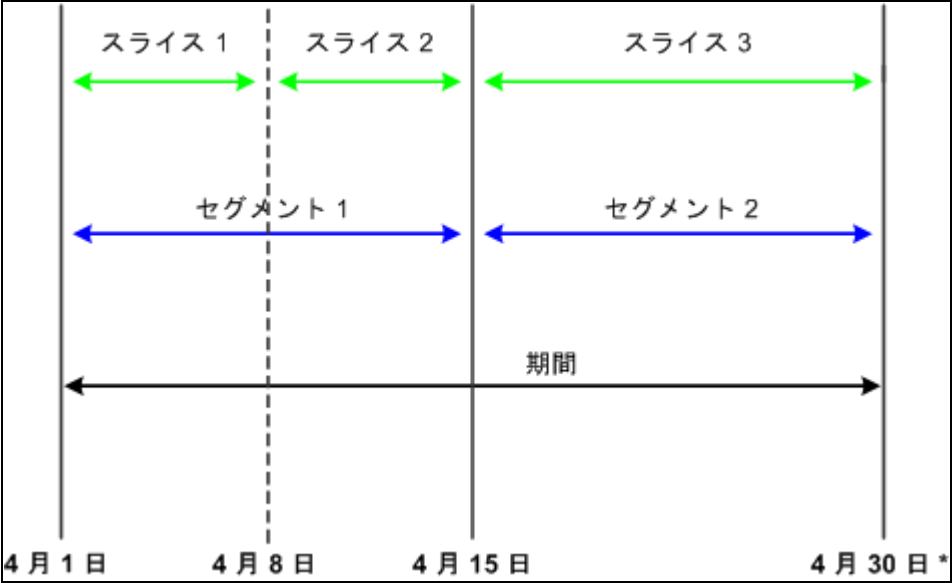
次の図は、期間が分割されない場合について、期間、セグメント、およびスライスの開始日と終了日の関係を示しています。



分割されていない期間

例 2: 分割された期間

次の図では、期間が 2 つのセグメントに分割され、セグメント 1 にスライスされたエレメントがあります。



分割された期間

エレメント変換の基本ルール

このセクションでは、期間分割とエレメント分割について、エレメント変換の基本ルールを説明します。

期間分割を使用した場合

期間分割を使用すると、全てのエレメントがセグメントごとに 1 回変換されます。

エレメント分割を使用した場合

エレメント分割を使用すると、以下のように処理されます。

- 主要エレメントは、エレメントのスライスが設定されている場合に限り、スライスごとに 1 回変換されます。
- サポート エレメントは、エレメントのスライスが設定されている場合に限り、スライスごとに 1 回変換されます。

サポート エレメントは、スライスされるように定義されているエレメントの構成要素である場合にも、各スライスで変換されます。たとえば、支給エレメント E1 をスライスするとします。このエレメントが、勤続年数を算出するデューレーション エレメント (サポート エレメント) を使用している場合、支給 E1 の値は、デューレーション エレメントから返される年数に基づいて計算されます。デューレーション エレメントは E1 の構成要素であるため、E1 を変換するたびに変換されます。

注意: スライス対象のエレメントを定義するには、分割イベント定義ページを使用します。

期間分割の例

期間分割では、セグメントごとに全てのエレメントが 1 回計算され、複数の総額/純額結果セットが実行されます。

次の表は、エレメント、その計算ルールおよび対応する期間分割ルールを示したものです。

エレメント	計算ルール	ベース	%	比例配分
E1 (基本給与)	金額	適用不可	適用不可	する

エレメント	計算ルール	ベース	%	比例配分
E2	ベース × パーセント	E1	10%	しない
D1 (控除)	ベース × パーセント	A1	10%	しない
A1 (累計)	E1 + E2	適用不可	適用不可	適用不可

E1 は基本給与を表し、E1 の値が 9 月 16 日に 10,000 から 20,000 に増えたことで支給期間 9 月の分割処理が起動され、2 等分されたとします。このシナリオについて説明すると、次の表のようになります。

エレメント	セグメント 1: 9 月 1 日から 9 月 15 日	セグメント 2: 9 月 16 日から 9 月 30 日
E1 (基本給与)	$10,000 \times \frac{1}{2} = 5,000$	$20,000 \times \frac{1}{2} = 10,000$
E2	セグメント 1 の E1 \times 10% = $(5,000 \times 10\%) = 500$	セグメント 2 の E1 \times 10% = $(10,000 \times 10\%) = 1,000$
A1	セグメント 1 の E1 と E2 の合計 = $(5,000 + 500) = 5,500$	セグメント 2 の E1 と E2 の合計 = $(10,000 + 1,000) = 11,000$
D1 (控除)	セグメント 1 の A1 \times 10% = 550	セグメント 2 の A1 \times 10% = 1,100
純支給額	セグメント 1 の純支給額 = 4,950	セグメント 2 の純支給額 = 9,900

この例では、プロセス リストのエレメントが全て分割され、2 つの総額/純額計算がそれぞれ実行されます。

エレメント分割の例

エレメント分割を実行すると、エレメント リストに含まれているエレメントのみがスライスされます。1 つの総額/純額結果セットのみ作成され、セグメントまたは期間内のスライスされたエレメントが含まれます。

次の表は、エレメント、その計算ルールおよび対応するエレメント分割ルールを示したものです。

エレメント	計算ルール	ベース	%	分割対象のエレメント リストへの登録	比例配分
E1 (基本給与)	金額	適用不可	適用不可	する	する
E2	ベース × パーセント	E1	10%	しない	しない
D1 (控除)	ベース × パーセント	A1	10%	しない	しない
A1 (累計)	E1 + E2	適用不可	適用不可	しない	適用不可

E1 は基本給与を表し、E1 の値が 9 月 16 日に 10,000 から 20,000 に増えたことでエレメント E1 のスライス処理が起動され、2 つに等分されたとします。スライスが定義されているエレメントは E1 のみです。このシナリオについて説明すると、次の表のようになります。

エレメント	スライス 1: 9 月 1 日から 9 月 15 日	スライス 2: 9 月 16 日から 9 月 30 日
E1 (基本給与)	$10,000 \times \frac{1}{2} = 5,000$	$20,000 \times \frac{1}{2} = 10,000$
E2	E1 の合計 $\times 10\% = (5,000 + 10,000) \times 10\% = 1,500$	
A1 (累計)	E1 と E2 の合計 $= (15,000 + 1,500) = 16,500$	
D1 (控除)	$A1 \times 10\% = (16,500 \times 10\%) = 1,650$	
純支給額	14,850	

E1 は 9 月 16 日に一度スライスされ、その結果 E1 に対して 2 つの計算が発生し、各スライスにつき 1 回計算が実行されます。総額/純額処理は 1 回のみで、純支給額エレメントは、各スライスの E1 と E2 の合計から D1 (控除) を差し引いた額を表しています。

関連項目:

第 32 章、「分割の定義」、分割イベントと分割タイプの定義、1215 ページ

有効日によるエレメント定義

有効日で管理された全てのエレメントには、[定義の指定日] フィールドがあります。このフィールドで、エレメント定義を検索するときに使用する有効日が付いた行を指定します。オプションには、カレンダー期間開始日、カレンダー期間終了日、支給日などがあります。

期間内の全てのセグメントとスライスに対する定義の指定日には、同じ値が使用されます。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、指定日によるエレメント定義の選択処理について、98 ページ

累計と累計メンバーのスライスに関するルール

このセクションでは、累計と累計メンバーのスライスに関するルールについて説明します。

期間分割を使用した場合

期間分割の場合、エレメントとサポート エレメントは全て例外なく分割されます。エレメントは分割されても、そのエレメントが属している累計は分割されないということはありません。

エレメント分割を使用した場合

累計メンバーをスライスしても、累計はスライスされませんが、累計をスライスすると、メンバーのエレメントは全てスライスされます。

ドライバとして使用する累計のスライス ルールについては、支給と控除の複数変換について説明している章を参照してください。

関連項目:

第 20 章、「支給または控除の複数変換」、複数変換を伴う分割について、768 ページ

親エレメントと子エレメントの変換のルール

エレメントがほかのエレメントで構成されている (またはほかのエレメントに基づいている) 場合、構成要素であるエレメントは "**子エレメント**"、子エレメントに基づくエレメントは "**親エレメント**" として定義されます。エレメントおよびサポート エレメントは、親と子のどちらにもなり得ます。

たとえば、税 A は、支給 E1 と支給 E2 に税率を掛けて求めた値であるとし (税 $A = 10\% \times (E1 + E2)$)。この場合は、税 A が "親"、E1 と E2 が "子" になります。**子エレメント**および**親エレメント**の概念は、他のエレメントに基づくエレメントの変換方法を理解するうえで重要です。

スライスとセグメントの一致と不一致

期間分割では、全てのエレメントが均等に分割されるため、親エレメントと子エレメントが常に一致します。

エレメント分割の場合は、親エレメントと子エレメントを均等にスライスできますが、どちらかのエレメントを多くスライスすることも可能です。たとえば、親エレメントが分割対象のエレメントリストに含まれていても、子エレメントは含まれていない場合があります。親エレメントと子エレメントのスライスが同じ場合は、親子が "一致している" とされ、親子のスライスが異なる場合は、親子が "不一致である" とされます。

グローバル ペイロールでは、一定のルールに従って一致エレメントと不一致エレメントが処理されます。このルールについては、次の例で説明します。

例 1 - 7: 親エレメントが主要エレメントまたはサポート エレメントの場合

ここで説明するケースでは、以下のエレメントが使用されています。

- 支給 E1 = F1 (サポート エレメント) のパーセント
- 支給 E3 = E2 (主要エレメント) のパーセント
- F1 = 100 (サポート エレメント)
- E2 = 100 (主要エレメント)

次の表は、このセクションで挙げる例をまとめたものです。表の"一致する/しない" 列からもわかるように、これらの例では親子のスライスは必ずしも一致していません。

ケース番号	親の処理	子の処理	子のタイプ	一致する/しない	処理ルール
1	スライスされる	スライスされない	主要エレメント (E2)	一致しない	親の各スライスに対し子の値を 使用 。
2	スライスされる	スライスされる	主要エレメント (E2)	一致する	親の各スライスに対し子のスライス値を 使用 。
3	スライスされる	スライスされる	主要エレメント (E2)	部分一致 子のスライスの方が多い。	親のスライスに一致する子の各スライスの値を 合計 。
4	スライスされる	スライスされる	主要エレメント (E2)	部分一致 子のスライスの方が少ない。	日付が一致する子のスライス値を 使用 。日付が一致しない場合は、子の全スライスの値を 合計 。間違った値が返される場合があります。
5	スライスされる	スライスされる	主要エレメント (E2)	一致しない	子の全スライスの値を 合計 。間違った値が返される場合があります。

ケース番号	親の処理	子の処理	子のタイプ	一致する/しない	処理ルール
6	スライスされない	スライスされる	主要エレメント (E2)	一致しない	子の値を 合計 。
7	スライスされる	スライスされない	サポート エレメント (F1)	なし 子がサポート エレメントの 場合は、一致 でも不一致で も影響ありま せん。	親の各スライ スに対し子の 値を 変換 。 (ケースの詳 細説明の後の 注記を参照。)

注意: 次の例では、比例配分を行った場合と、行わなかった場合の結果が示されています。括弧内の値が比例配分された金額です。

ケース 1

前提:

E2 (主要エレメント) = 100

E3 (主要エレメント) = E2 の10%

E3 の比例配分

シナリオ: 親はスライスされますが、子はスライスされません。子は主要エレメントです。

E3 (親)	スライス 1 100 (50) の 10%	スライス 2 100 (50) の 10%
E2 (子)	スライス 1 100	

E3 の各スライスには子 (E2) の値がそのまま使用されます。そのため、受給者メッセージ コンポーネントに警告メッセージが表示されます。

ケース 2

前提:

E2 (主要エレメント) = 100

E3 (主要エレメント) = E2 の10%

E2 の比例配分

シナリオ: 親も子もスライスされます。子は主要エレメントです。

E3 (親)	スライス 1 100 (50) の 10%	スライス 2 100 (50) の 10%
E2 (子)	スライス 1 100 (50)	スライス 2 100 (50)

親のスライス日が子のスライス日と同じ場合、親には子の値が使用されます。スライス日が一致しても、子に対して比例配分されないと、結果が間違っている場合があります。

ケース 3

前提:

E2 (主要エレメント) = 100

E3 (主要エレメント) = E2 の10%

E2 の比例配分

シナリオ: 親も子もスライスされますが、子の方が多くスライスされます。スライスは部分的に一致します。子は主要エレメントです。

E3 (親)	スライス 1 100 (33.33) の 10%	スライス 2 200 (33.33 + 33.34) の 10%	
E2 (子)	スライス 1 100 (33.33)	スライス 2 100 (33.33)	スライス 3 100 (33.34)

親と子のスライス 1 が一致するため、子のスライス (この例ではスライス 1) が合計されます。E3 (親) の 2 番目のスライスでは、E2 (子) のスライス 2 とスライス 3 が合計されます。スライス 2 の開始日とスライス 3 の終了日が E3 (親) のスライス 2 と一致するためです。このシナリオでは、受給者メッセージ コンポーネントに警告メッセージが表示されます。

ケース 4

前提:

E2 (主要エレメント) = 100

E3 (主要エレメント) = E2 の10%

E2 の比例配分

シナリオ: 親も子もスライスされますが、子の方が少なくスライスされます。スライスは部分的に一致します。子は主要エレメントです。

E3 (親)	スライス 1 100 (33.33) の 10%	スライス 2 200 (66.67) の 10%	スライス 3 200 (66.67) の 10%
E2 (子)	スライス 1 100 (33.33)	スライス 2 100 (66.67)	

通常、子が主要エレメントである場合は、親と同じスライス対象エレメント リストに登録されている必要があります。このようにすることで、子と親のスライスが一致します。親子が同一のリストに登録されていないと、上記のシナリオが発生する可能性があります、このようなシナリオは回避する必要があります。

変換は 2 回実行されます。親と子のスライス 1 のように完全に一致すると、子の値が使用されます。親または子に比例配分が設定されている場合は、正しい結果が得られます。親の 2 回目の変換では、子の変換値が全て合計されるので (この例では 200)、超過した額が算出されます。これは、親と子のスライス日が一致しないために起こります。比例配分が設定されていても、子の額は超過します (括弧内の額を参照)。

ケース 5

前提:

E2 (主要エレメント) = 100

E3 (主要エレメント) = E2 の10%

E2 の比例配分

親はスライスされます。子はスライスされます。スライス日は一致しません。子は主要エレメントです。

E3 (親)	スライス 1 300 (100) の 10%	スライス 2 300 (100) の 10%	
E2 (子)	スライス 1 300 (100)	スライス 2 300 (100)	スライス 3 (100)

通常、子が主要エレメントである場合は、親と同じスライス対象エレメント リストに登録されている必要があります。このようにすることで、子と親のスライスが一致します。親子が同一のリストに登録されていないと、上記のシナリオが発生する可能性があります、このようなシナリオは回避する必要があります。

ケース 5 の 2 番目の変換のように、親のスライス日が子のスライス日のどれとも一致しない場合は、親の各変換に対して子のスライス値全てが合計されます。そのため、受給者メッセージ コンポーネントに警告メッセージが表示されます。

ケース 6

前提:

E2 (主要エレメント) = 100

E3 (主要エレメント) = E2 の10%

E2 の比例配分

親はスライスされません。子はスライスされます。スライス日は一致しません。(スライス日は親に適用されません。)子は主要エレメントです。

E3 (親)	スライス 1 200 (100) の 10%	
E2 (子)	スライス 1 200 (100)	スライス 2 200 (100)

親はスライスされずに子がスライスされる場合、子が主要エレメントであれば、親エレメントの変換では子の変換値が全て合計されます。そのため、受給者メッセージ コンポーネントに警告メッセージが表示されます。

ケース 7

前提:

E1 (主要エレメント) = F1 の10%

F1 (サポート エレメント) = 100

E1 の比例配分

親はスライスされます。子はスライスされません。子はサポート エレメントです。

E1 (親)	スライス 1 100 (50) の 10%	スライス 2 100 (50) の 10%
F1 (子)	スライス 1 100	スライス 2 100

E1 のスライス 1 によって、スライス 1 の期間について子に変換されます。F1 がスライスされるのは、F1 はサポート エレメントであり子であることから、親の各スライスに対して変換されるためです。

注意: サポート エレメントをアレイ、ブラケットまたはフォーミュラにロードする場合は、アレイエレメント、ブラケット エレメントまたはフォーミュラ エレメントを親と同じスライス対象エレメント リストに登録する必要があります。(スライス対象エレメント リストを定義するは、この章で説明されている分割イベント定義ページの [エレメント リスト] グリッドを使用します。)

システム作成の警告メッセージ

支給計算では、子エレメントが主要エレメントで、そのスライス日が親のスライス日と一致していないと、以下のような場合には警告メッセージが表示されます。

- 親はスライスされます。子はスライスされません (ケース 1 参照)。
- 親はスライスされます。子はスライスされます。親のスライス日が子のスライス日と一致しません (ケース 3、4、5 参照)。
- 親はスライスされません。子はスライスされます (ケース 6 参照)。

子エレメントが累計である場合、累計のスライス日が親のスライス日と一致しないときは必ず警告メッセージが表示されます。

メッセージは、受給者メッセージ コンポーネントに表示されます。

分割と受給者上書き

以下の 2 種類の上書きを受給者レベルで定義することができます。

- 主要エレメントの上書き
- サポート エレメントの上書き

どちらの上書きも **"受給者レベル"** の上書きと呼ばれ、同一の基本ルールに従って、分割された期間および非分割の期間に適用されます。一般的に、支給期間が期間分割またはエレメント分割されている場合は、セグメント終了日と上書きの終了日に基づいて、受給者上書きがセグメントに適用されます。その場合のルールを以下に説明します。受給者レベルにおける主要エレメントの上書きとサポート エレメントの上書きでは、同じルールが適用されるため、ここでは主要エレメントの上書きについてのみ説明します。この 2 種類の上書きに若干の相違点がある場合は、以下の例で明確にしていきます。

受給者レベルで上書きを適用する場合のルールは、以下のとおりです。

- 主要エレメントの上書きは、支給、控除、および休暇付与、休暇取得の各エレメントに適用されます。上書きには開始日が必要です。終了日は必要ありません。

サポート エレメントの上書きは、変数、フォーミュラ、アレイ、ブラケットなどのエレメントに適用されます。

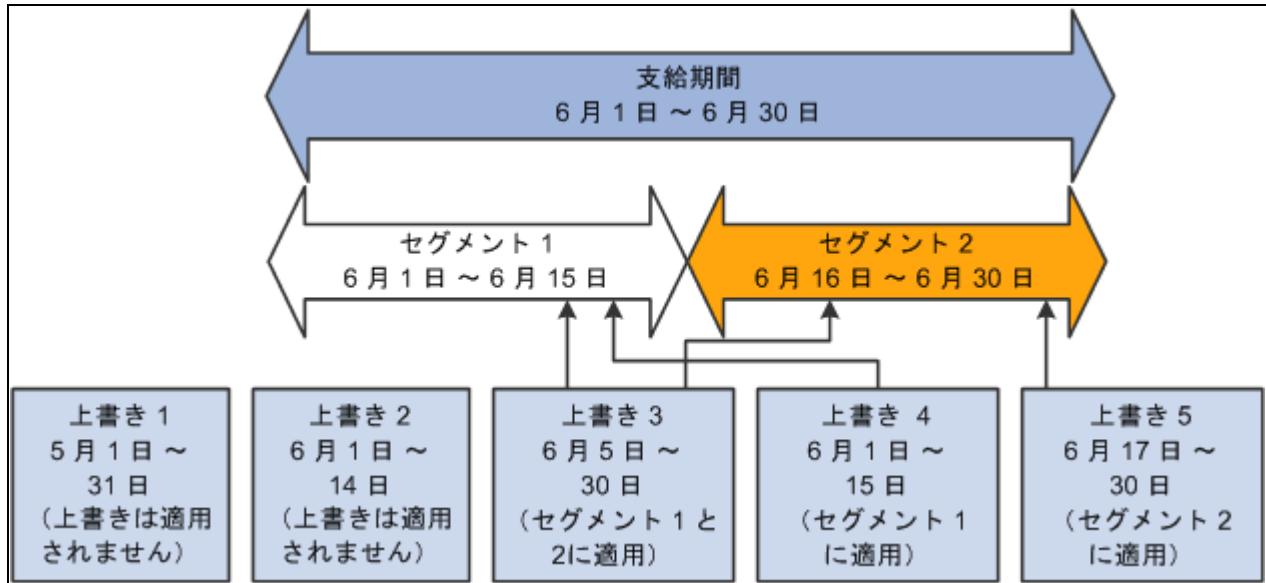
- 上書きをセグメントに適用する場合は、上書きの終了日がセグメント終了日と同じか、それ以降の日付 (または空白) である必要があります (下図の上書き 3 および 4 を参照)。
- 上書きの終了日が、あるセグメントの終了日より後の日付で、次のセグメントの終了日と同じか後の日付である場合は、1 つの上書きを複数のセグメントに適用できます (下図の上書き 3 を参照)。
- 上書きの終了日が、セグメントの終了日より前の日付である場合、上書きはそのセグメントには適用されません (下図の上書き 1 および 2 を参照)。

- 主要エレメントの上書きは、そのエレメントが比例配分するように定義されている場合、比例配分されます。

サポート エレメントの上書きの場合は、そのサポート エレメントが比例配分するように定義されたエレメントのコンポーネントで、そのエレメントが分割される場合、比例配分されません。

- セグメント上書きはセグメント終了日時時点でアクティブにする必要があります。

次の図は、主要エレメントの上書きの例を示したものです。



主要エレメントの上書き

- 上書き 1 と上書き 2 は、それぞれの終了日がセグメント 1 および 2 の終了日より前の日付なので、どちらのセグメントにも適用されません。
- 上書き 3 は、その終了日が最初のセグメントの終了日より後の日付であり、2 番目のセグメントの終了日以降であるため、セグメント 1 および 2 のどちらにも適用されます。
- 上書き 4 は、その終了日がセグメント 1 の終了日以降の日付で、セグメント 2 の終了日より前の日付であるため、セグメント 1 にのみ適用されます。
- 上書き 5 は、その終了日がセグメント 2 の終了日と同じ日付であり、開始日がセグメント 1 の終了日より後の日付であるため、セグメント 2 に適用されます。

以下の例では、分割された期間および分割されていない期間において受給者上書きがどのように適用されるかをさらに詳しく説明します。

シナリオ: 2 人の受給者には、支給エレメント (E1) を受け取る資格があり、その値は 100 です。1 月の支給期間において、受給者 1 に対しては分割がなく、受給者 2 に対しては期間分割が実行されるとします。受給者 2 のセグメントは、2005 年 1 月 1 日～2005 年 1 月 15 日と 2005 年 1 月 16 日～2005 年 1 月 31 日です。また、両方の受給者は同じサポート エレメント上書きを持ち、処理された支給期間は 2005 年 1 月 1 日～2005 年 1 月 31 日です。次の表で、主要エレメントの上書きがシステムによってどのように適用されるか、ケース別に説明します。

ケース	上書き開始日	上書き終了日	上書き値	受給者 1 の結果	受給者 2 の結果	理由
1	2000 年 1 月 1 日	2004 年 12 月 31 日	200	100	100	終了日が期間 /セグメントの終了日より前の日付です。
2	2000 年 1 月 1 日	2005 年 1 月 5 日	200	100	100	終了日が期間 /セグメントの終了日より前の日付です。
3	2005 年 1 月 1 日	2005 年 1 月 5 日	200	100	100	終了日が期間 /セグメントの終了日より前の日付です。
5	2005 年 1 月 5 日	2005 年 1 月 20 日	200	100	S1=200 S2=100	受給者 2 の場合は、終了日がセグメント 1 の終了日より後の日付であるため、セグメント 1 に上書きが適用されます。

ケース	上書き開始 日	上書き終了 日	上書き値	受給者 1 の結 果	受給者 2 の結 果	理由
6	2005 年 1 月 20 日	2005 年 1 月 25 日	200	100	100	受給者 2 の場 合は、上書き の開始日がセ グメント 1 の 終了日より後 の日付で、終 了日がセグ メント 2 の終 了日より前の 日付であるた め、どちらの セグメントに も適用されま せん。受給者 1 の場合は、 上書きの終了 日が期間の終 了日より前の 日付であるた め、上書きは 適用されま せん。
7	2005 年 1 月 5 日	2005 年 1 月 31 日	200	200	S1=200 S2=200	上書きの開始 日がセグメン ト 1 の終了日 よりも前の日 付であり、上 書きの終了日 が両方のセグ メントの終了 日以降の日付 であるため、 どちらのセグ メントにも適 用されます。

ケース	上書き開始日	上書き終了日	上書き値	受給者 1 の結果	受給者 2 の結果	理由
8	2005 年 1 月 20 日	2005 年 2 月 1 日	200	200	S1=100 S2=200	受給者 2 の場合は、上書きの開始日がセグメント 1 の終了日よりも後の日付であるため、セグメント 1 には適用されません。

注意: 上記の表では、期間分割を例として上書きの適用ルールが説明されていますが、同じ基本ルールがエレメント分割の場合にも適用されます。スライスされたエレメントが受給者レベルで上書きされる場合は、期間分割のセグメントへの適用と同様に、上書きがスライスに適用されます。

関連項目:

第 18 章、「上書きの設定」、655 ページ

比例配分と分割

給与計算実行時に支給エレメント、控除エレメント、または休暇付与エレメントを分割するようにグローバルペイロールシステムを設定している場合、支給期間における勤務時間数や勤務日数の総数に対する各スライス/分割における勤務時間数や勤務日数などの係数に基づいて、これらのエレメントの比例配分を適用した計算結果を作成することもできます。そのためには、エレメント定義のページで、比例配分を適用する各支給エレメント、控除エレメント、または休暇付与エレメントと比例配分ルールを関連付ける必要があります。このようにすることで、分割やスライスが発生した場合に、エレメントが自動的に適切な比例配分係数を呼び出します。

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- 比例配分を伴う分割
- 比例配分を伴わない分割
- 支給/控除割当の分割と比例配分

比例配分を伴う分割

分割された支給エレメント、控除エレメントまたは周期ベースの休暇付与エレメントを比例配分するには、エレメント定義の一環として比例配分を指定します。

ただし、ルール自体はハード コードされていないため、分割処理で使用される比例配分ルールを定義する必要があります。一般的に、定義される比例配分ルールは、スライスまたはセグメントを表す分子と、支給期間全体を表す分母から成ります。

比例配分係数を構成する分母と分子をどのように定義するかはユーザーが決定できます。分子または分母には、次のエレメントをどれでも指定できます。

- 累計
- カウント
- デュレーション
- フォーミュラ
- 変数

注意: 比例配分エレメントを定義すると、比例配分名ページの [常時再計算] チェック ボックスが自動的にオンになります。これにより、エレメント分割が行われる際には、比例配分係数が適切に計算されるようになります。

注意: また、システム エレメント PRORATE を使用すると、分割が行われない場合にも支給エレメントまたは控除エレメントを比例配分できます。

参照: 第 7 章、「計算エレメントの定義」、比例配分ルールの定義、251 ページおよび第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、支給エレメントの端数処理オプションおよび比例配分オプションの定義、297 ページ。

比例配分を伴わない分割

比例配分を伴わない分割を適用するには、[支給]、[控除] または [休暇付与] の各コンポーネントの端数処理/比例配分ページで [比例配分しない] オプションを選択します。

次の表に、比例配分を伴わない分割の例を示します。

エレメント	計算ルール	ベース	%	分割対象のエレメントリストへの登録	比例配分
E1 (基本給与)	金額 = 20,000	適用不可	適用不可	する	しない
E2	ベース × パーセント	E1	10%	しない	しない
A1 (累計)	E1 + E2	適用不可	適用不可	しない	適用不可
E3	ベース × パーセント	A1	10%	しない	しない

注意: 比例配分を適用しないで期間を分割またはスライスすることはできますが、分割がなければエレメントを比例配分することはできません。

E1 は基本給与を表し、さらに E1 が支給期間の間である 9 月 16 日にスライスされるとします。この例では、相互に関連しているエレメントのうち、比例配分されるように定義されているものはありません。このシナリオについて説明すると、次の表のようになります。

エレメント	スライス 1: 9 月 1 日から 9 月 15 日	スライス 2: 9 月 16 日から 9 月 30 日
E1 (基本給与)	20,000	20,000
E2	(スライス 1 の E1 + スライス 2 の E1) × 10% = (20,000 + 20,000) × 10% = 4,000	
A1 (累計)	E1 (スライス 1 + スライス 2) と E2 の合計 = (40,000 + 4,000) = 44,000	
E3	A1 × 10% = (44,000 × 10%) = 4,400	

E1 は比例配分されるよう定義されていないため、各スライス (スライス 1 とスライス 2) の E1 の値は 20,000 と誤って算出されます (各スライスの正しい値は $20,000 \times \frac{1}{2}$)。このため、E2 の計算時に、各スライスの E1 が合計され $40,000 \times 10\%$ という値が算出される、というエラーがさらに発生します (正しい額は $20,000 \times 10\%$)。同様に、A1 も 22,000 と変換される必要のあるところが 44,000 となります。また、 $A1 \times 10\%$ と定義されている E3 は、 $44,000 \times 10\%$ と変換され、4,400 が算出されます (正しくは 2,200)。

分割が自動的に比例配分を実行しない理由を理解することが重要です。たとえば、E2 が E1 のパーセントで、両方がスライスされる場合、E2 ではなく E1 が比例配分されます。

支給/控除割当の分割と比例配分

グローバル ペイロールでは、分割トリガは "有効日が指定されている" **レコードでのみ定義できますが、例外が 1 つあります。つまり、"開始日と終了日が指定されている"** 支給/控除割り当てレコード GP_PYE_OVRD でも、分割トリガを定義することができます。このような例外がある目的は、受給者別エレメント割当コンポーネント (GP_ED_PYE) またはエレメント別受給者割当コンポーネント (GP_ED_ELEM) で支給または控除を受給者に割り当てて、割り当ての**開始日**が支給期間開始日より後の場合、または割り当ての**終了日**が支給期間終了日より前の場合 (あるいはその両方の場合) に、エレメントの分割と比例配分を実行できるようにすることです。計算結果に対して比例配分を適用する場合は、エレメント定義の一環として比例配分を指定します。

注意: 受給者別エレメント割当コンポーネント (GP_ED_PYE) およびエレメント別受給者割当コンポーネント (GP_ED_ELEM) で、受給者に割り当てられる上書きの開始日と終了日に基づいて支給期間をスライスするように設定する手順は、標準的な分割設定とほぼ同じです。これについてはトリガの設定に関する章で詳しく説明しています。

参照: 第 30 章、「トリガの設定」、1111 ページ。

遡及処理と分割

イベントに応じて遡及トリガが作成されるとき、変更の有効日がグローバル ペイロールのトリガ発生テーブルに書き込まれます。この日付を使用して、以下のロジックに従い、クローズした期間を再計算するためにさかのぼる期間が決定されます。

- 遡及期間制限がない場合、遡及処理を起動する変更の有効日が取得され、その有効日が含まれている最初のカレンダー期間までさかのぼって、その期間全体とそれ以降全てについて計算されます。
- 遡及する変更の有効日が期間の中間にある場合、元の支給アイテムの再計算時に、自動的に期間が分割されたり、比例配分が実行されることはありません。これは、期間**全体**を再計算しようとするためです。

- 分割トリガは、将来の遡及処理で必要になる可能性があるため、アクティブのままになります。

関連項目:

[第 33 章、「遡及処理の定義」、遡及期間と繰越遡及期限の設定、1240 ページ](#)

[第 33 章、「遡及処理の定義」、分割と遡及、1287 ページ](#)

[第 30 章、「トリガの設定」、トリガ テーブルのデータ、1113 ページ](#)

分割を伴うポジティブ入力

受給者レベルの上書きと同様、ポジティブ入力によって、支給期間内のエレメントの値を上書きできます。また、受給者上書きのように、ポジティブ入力でも開始日と終了日が使用されます (ただし、ポジティブ入力の場合、開始日と終了日は省略可能)。たとえば、カレンダー支給期間に期間分割またはエレメント分割があるときは、インスタンスの終了日に基づいて、ポジティブ入力がセグメントまたはスライスに割り当てられます。受給者の上書きとは異なり、ポジティブ入力は 1 つのエレメントまたはスライスにのみ適用され、比例配分はされません。ポジティブ入力の割り当てに関連するその他のルールは以下のとおりです。

- インスタンスの開始日と終了日が、カレンダー開始日よりも前の日付である場合、ポジティブ入力は最初のセグメントまたはスライスに割り当てられます。
- インスタンスに開始日または終了日が指定されていない場合、そのインスタンスは支給期間の最後のセグメントまたはスライスに割り当てられます。

インスタンスの終了日とカレンダー終了日は同じであると想定されるためです。

関連項目:

[第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、分割に関する注意事項、624 ページ](#)

分割システム エレメント

次の表は、分割に使用できるシステム エレメントをまとめたものです。

システム エlement	説明
FIRST ACT SEGMENT	FIRST ACT SEGMENT (最初のアクティブ セグメント (値は Y と N))は、処理対象のセグメントがカレンダー期間内で最初の アクティブ セグメントかどうかを表します。
FIRST SEGMENT	FIRST SEGMENT (最初のセグメント (値は Y と N)) は、処理対象のセグメントがカレンダー期間内で最初のセグメントかどうかを表します。
LAST ACT SEGMENT	LAST ACT SEGMENT (最後のアクティブ セグメント (値は Y と N)) は、処理対象のセグメントがカレンダー期間内で最後の アクティブ セグメントかどうかを表します。
LAST SEGMENT	LAST SEGMENT (最後のセグメント (値は Y と N)) は、処理対象のセグメントがカレンダー期間内で最後のセグメントかどうかを表します。
SEGMENTATION-PRD	SEGMENTATION-PRD は、処理対象のセグメントがカレンダー期間と同じであるかどうかを表します (期間分割が発生したかどうかを表します)。処理対象のセグメントがカレンダー期間と一致 しない 場合は 1 (true) を返し、カレンダー期間と一致 する 場合は 0 (false) を返します。
SEGMENTATION-ELEM	SEGMENTATION-ELEM は、処理対象のスライスがカレンダー期間と同じであるかどうかを表します (エレメント分割が発生したかどうかを表します)。処理対象のスライスがカレンダー期間と一致 しない 場合は 1 (true) を返し、カレンダー期間と一致 する 場合は 0 (false) を返します。

分割の設定

このセクションでは、分割設定の概要と以下の操作を行う方法について説明します。

- 分割イベントと分割タイプの定義
- トリガ フィールドの定義

分割について

分割を設定するには、以下の手順に従います。

1. 分割イベント定義ページでイベント ID と分割タイプを定義します。

支給グループの移動、支給元の移動、新規採用などのイベントが原因となって、分割は発生します。ただし、イベントに適用される分割タイプ (期間またはエレメント) は、自動的に認識されません。したがって、イベント ID を作成するには、以下の指定を行います。

- 使用する分割タイプ
- スライスするエレメント (エレメント分割の場合のみ)

2. トリガ定義ページで、データの変更に応じて分割を実行する際のトリガとなるレコードまたはレコードとフィールドの組み合わせを定義し、これらを上記のステップ 1 で定義したイベント ID に関連付けます。

イベント ID と関連付けられたレコードやフィールドは、**トリガ レコード**または**トリガ フィールド**と呼ばれ、受給者データの変更に応じて分割を起動します。イベント ID が適切なフィールドに関連付けられることにより、分割イベントの発生時に使用する分割タイプが認識されます。

関連項目:

第 30 章、「トリガの設定」、1111 ページ

第 30 章、「トリガの設定」、有効日が指定されたレコードに対する分割トリガの設定、1134 ページ

分割の設定に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
分割イベント定義	GP_SEG_EVENT	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、[分割イベント定義]、[分割イベント定義]	分割イベントの定義、分割タイプの指定、分割の対象となる各エレメントの選択を行います。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
トリガ定義	GP_TRGR_SETUP	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、[トリガ定義]、[トリガ定義]	トリガを定義します。

分割イベントと分割タイプの定義

分割イベント定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、[分割イベント定義]、[分割イベント定義])。

分割イベント定義

国: CYM ケイマン諸島

トリガ イベント ID: KOPRDSEG

*名称: Full Segmentation

*分割タイプ: 期間

略称: KOPRD

有効日

*有効日: 2010/12/20

*ステータス: アクティブ

エレメント リスト

入力タイプ	エレメント名	名称

分割イベント定義ページ

国

このページで定義されたトリガ イベント ID を使用する国が表示されます。イベント ID は国ごとに定義されます。エレメント分割の場合は、あるサブセットのエレメントを分割してイベントを処理する国 (またはある国内の組織) がある一方で、別のサブセットのエレメントを分割して同じイベントを処理する国もあるためです。または、同じイベントを処理するのに期間分割を使用する国がある一方で、エレメント分割を使用する国もあります。

トリガ イベント ID このページにアクセスするために入力したトリガ イベント ID が表示されます。

トリガ イベント ID により、分割イベントの処理に使用される分割タイプ、およびエレメント分割の場合に分割されるエレメントが識別されます。

分割タイプ 分割タイプを選択します。選択できるオプションは [期間] と [エレメント] です。

参照: 第 32 章、「分割の定義」、分割のタイプ、1190 ページ。

有効日 トリガ イベント ID の有効日を入力します。トリガ イベント定義を変更する場合、各トリガ イベント ID に対して有効日で管理される行を複数入力できます。

ステータス トリガ イベント ID のステータスを選択します。オプションは [アクティブ] と [非アクティブ] です。

エレメント リスト

エレメント分割を使ってイベントを処理する場合は、エレメント分割が影響を及ぼすのは限られた一連のエレメントのみであるため、プロセス リストのどのエレメントをスライスするかを指定する必要があります。[エレメント リスト] グループ ボックスにスライス対象のエレメントを入力します。

入力タイプ スライスするエレメント タイプを選択します。[休暇付与]、[アレイ]、[ブラケット]、[日付]、[控除]、[支給]、[フォーミュラ]、[累計] (セグメント累計)、[書可アレイ] (書込可能アレイ) のいずれかを選択します。

セグメント累計のみ分割可能です。

エレメント名 エレメント名を選択します。

関連項目:

[第 33 章、「遡及処理の定義」、1219 ページ](#)

[第 33 章、「遡及処理の定義」、遡及期間と繰越遡及期限の設定、1240 ページ](#)

[第 30 章、「トリガの設定」、トリガ テーブルのデータ、1113 ページ](#)

トリガ フィールドの定義

トリガ定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、[トリガ定義]、[トリガ定義])。

このページでは、分割のトリガで使用するレコードまたはレコードとフィールドの組み合わせを定義し、それらをイベント ID に関連付けます。

注意: トリガ定義ページでは、反復、遡及の各トリガも定義できます。

関連項目:

[第 30 章、「トリガの設定」、1111 ページ](#)

分割の管理

トリガ データは、設定時に指定した条件に基づいて、オンライン システムによって自動的に作成されます。オンライン システムで分割トリガが作成されたら、"トリガ確認" の分割ページで必要な場合にだけ、適切なデータ変更に対してのみ分割が実行されるように、これらのトリガを調整できます。

このセクションでは、分割トリガの表示、追加、キャンセルに使用するページについて説明します。

分割の管理に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
分割	GP_TRIGGER_SEG	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[トリガ確認]、[分割]	受給者別の分割トリガを表示、追加、またはキャンセルします。分割トリガをこのページで表示または管理するには、そのトリガの [トリガ ステータス] を [アクティブ] にしておく必要があります。

分割トリガの表示、追加、およびキャンセル

分割ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[トリガ確認]、[分割])。

分割ページを使うと、従業員 ID/雇用レコード番号の組み合わせごとに、分割トリガを表示できます。また、このページではトリガ行を手動で追加、キャンセルすることもできます。

関連項目:

第 30 章、「トリガの設定」、1111 ページ

第 30 章、「トリガの設定」、自動作成されたトリガの管理とトリガの手動定義、1150 ページ

第 33 章

遡及処理の定義

この章では、提供されている遡及方法の概要と以下の項目について説明します。

- 遡及処理の設定
- エレメントの繰越とデフォルトの遡及方法の上書き
- トリガ イベント ID の定義
- 遡及期間と繰越遡及期限の定義
- 未処理遡及デルタの管理
- 複雑な遡及処理について

遡及方法について

PeopleSoft グローバル ペイロールでは、遡及計算について 2 つの方法を提供しています。

- 訂正遡及

全ての残高累計とセグメント累計を更新して給与計算実行のエレメントを再計算します。再計算された給与計算の実行結果はその前の実行結果と置き換えられます。ただし、元の計算結果は検証およびレポートで利用できるように残されます。

- 繰越遡及

元の給与計算結果と再計算された結果の差額が計算されます。新しい計算と古い計算との差額は、ユーザーに指定されたエレメントへの調整として現在のカレンダー期間に繰り越されます。訂正遡及とは異なり、遡及を繰り越しても元の結果が置き換わることはありません。また、残高累計は再計算された期間では更新されませんが、現在のカレンダー期間では更新されます。

この表では、2 つの方法を比較して説明します。

訂正遡及	繰越遡及
遡及処理で再計算されるよう定義された給与計算実行のエLEMENTが自動的に再計算されます。	遡及処理で再計算されるよう定義された給与計算実行のエLEMENTが自動的に再計算されます。
給与計算実行のエLEMENTに対して再計算された値により、前回の計算が置換されます。	ELEMENTに対して再計算された値は、再計算期間の遡及デルタの計算に使用されますが、前回の計算は置換されません。
再計算期間の残高累計およびセグメント累計が自動的に更新されます。	セグメント累計のみが自動的に更新されます。 注意: 遡及方法が繰越の場合でも、累計定義レベル、支給累計ページおよび控除累計ページで、残高累計が訂正として動作するように定義することができます。これは、遡及方法が繰越であっても残高累計は再計算期間に置換または更新できるということです。
遡及デルタが自動的に算出され、再計算期間に保存されます。	遡及デルタが自動的に算出され、再計算期間に保存されます。
遡及プロセス上書きページで繰越ELEMENT上書きとして定義されている給与計算実行のエLEMENTに対して、遡及調整が自動的に計算されます。	遡及プロセス上書きページで繰り越されるように定義されている、給与計算実行のエLEMENTに対して遡及調整が算出されます。
銀行処理では、前回の計算と再計算との間に純支給額の差があるかどうかを確認されます。差額がある場合は、銀行振込処理によって処理されます。	以前に再計算された期間の差分が現在期間に含まれているため、銀行振込処理では現在期間の計算から純支給額だけが取得されます。
結果は、PeopleSoft Enterprise 一般会計に再計算期間について転記されます。この処理は、前回の計算結果を完全に取り消し、計算結果を再転記することで実行されます。	結果は、一般会計に再計算期間について転記されます。この処理は、前回の計算結果を完全に取り消し、計算結果を再転記することで実行されます。

注意: 繰り越すことができるのは、セグメント累計だけです。遡及方法に関係なく、残高累計を繰り越すことはできません。

関連項目:

第 34 章、「銀行振込の定義」、1311 ページ

第 39 章、「PeopleSoft Enterprise 一般会計との統合」、1525 ページ

この章で使用する共通フィールド

このセクションでは、この章で遡及処理について説明するために使用する重要な用語を定義します。

前回の結果と再計算の結果

以前に計算された期間を遡及処理すると、新しい結果がその期間に作成されます。新しい結果は、**"再計算の結果"** と呼ばれます。以前に計算された期間の結果は、**"前回の結果"** と呼ばれます。

再計算期間

以前に計算されて、遡及処理のために再計算される期間です。

遡及デルタ

指定の受給者に遡及処理を行う場合、各給与計算エレメントが再計算されます。再計算の結果は前回の結果と比較されます。2 つの結果に生じた差は、通常、**"遡及デルタ"** と呼ばれます。遡及デルタは、受給者の支給額および控除額に対する調整となる増減を表します。

遡及の遡及処理

既に遡及処理が行われた期間に対して、追加の遡及データ変更のために再度処理を行うことを **"遡及の遡及処理"** と呼びます。

遡及追加

"遡及追加" とは、前回の総額/純額の結果セットが受給者に対して存在せず、遡及処理によって、受給者処理ステータス レコードが最初に作成される場合のことです。

注意: 受給者処理ステータス レコードについては、システム アーキテクチャに関する章で説明します。

参照: 第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、バッチ処理出力テーブル、 31 ページ。

遡及処理の一般ルールについて

このセクションでは、提供されている遡及計算方法の例と、PeopleSoft グローバル ペイロールで行われる以下の処理方法について説明します。

- 再計算カレンダーの管理
- 遡及デルタの計算と調整処理
- 残高累計のロード
- 再計算結果の保存
- 前回の結果の取り消し

遡及処理の例

このセクションの訂正遡及と繰越遡及の例では、これらの 2 つの方法の基本的な相違点について説明します。訂正遡及の場合、給与計算実行でのエレメントの再計算結果が、前回の計算結果に置き換わります。繰越遡及の場合、再計算結果を使用して遡及デルタを比較し、現在の期間のエレメントに対する調整としてデルタが繰り越されます。

例 1: 訂正遡及 - 例外なし

この例では、支給 1 の金額を 100 から 120 に変更、有効日は期間 1 にあり、通知は期間 2 で行われます。

再計算オプション	カレンダー 期間 1	前回の結果 (古い値)	再計算の結果 (新しい 値)	デルタ	古い値を新しい値に置き換えて訂正	繰越 Y/N
常時再計算	支給 1	100	120	20	Y	N
常時再計算	控除 1 (固定額)	30	30	0	Y	N

再計算オプション	カレンダー期間 1	前回の結果 (古い値)	再計算の結果 (新しい値)	デルタ	古い値を新しい値に置き換えて訂正	繰越 Y/N
適用不可	純支給額 (セグメント累計)	70	90		Y	N
適用不可	年間累計支給 1	100	120			

処理結果は、次のようになります。

カレンダー期間 2	現在の結果	遡及調整
支給 1	120	なし
控除 1 (固定額)	30	なし
純支給額	90	なし
年間累計支給 1	240	

この例では、支給 1 によってのみ遡及デルタが作成されます。セグメント累計、つまり純支給額は更新されます。現在の期間に処理されるために繰り越されたエレメントはなく、支給 1 の新しい値は古い値と置き換えられています。銀行振込処理で、前回の計算 (70) と再計算 (90) の間で純支給額の差額が求められ、遡及デルタ (20) が管理されます。

例 2: 繰越遡及 - 例外なし

この例では、支給 1 の金額を 100 から 120 に変更、有効日は期間 1 にあり、通知は期間 2 で行われます。

再計算オプション	カレンダー期間 1	前回の結果 (古い値)	再計算の結果 (新しい値)	デルタ	古い値を新しい値に置き換えて訂正	繰越 Y/N
常時再計算	支給 1	100	120	20	適用不可	Y
常時再計算	控除 1 (固定額)	30	30	0	適用不可	Y
適用不可	純支給額 (セグメント累計)	70	90	20	適用不可	N
適用不可	年間累計支給 1	100	適用不可	適用不可	適用不可	N

処理結果は、次のようになります。

カレンダー期間 2	現在の結果	遡及調整
支給 1	120	20
控除 1 (固定額)	30	なし
純支給額	110	なし
年間累計支給 1	240	なし

この例では、支給 1 に対する遡及デルタは現在の期間 (期間 2) に繰り越され、支給 1 に対する調整として記録されています。

遡及方法が繰越の場合でも、期間 1 のエレメントが全て期間 2 に繰り越されるわけではありません。

- 純支給額累計には既に支給 1 の値が含まれているため、この累計は繰り越されません。

もし支給 1 と共に純支給額の累計も繰り越されると、現在の期間で支給 1 が 2 回勘定されることになります。

- PeopleSoft グローバル ペイロールでは、残高累計は繰り越されません。残高累計は、既に繰り越されたエLEMENTの値の合計であるため繰り越されません。これらを現在の期間に移動することは、誤った結果を生成することになります。

注意: 遡及方法が繰越の場合でも、PeopleSoft グローバル ペイロールではプロセス リストのエLEMENTが全て繰り越されるわけではありません。遡及プロセス上書きページで、個別に繰り越すELEMENTを選択します。ELEMENTは自動的に繰り越されません。

再計算カレンダーの管理

PeopleSoft グローバル ペイロールでは、使用している遡及方法に適したバージョン番号およびレビジョン番号がそれぞれの受給者処理ステータス レコードにタグ付けされます。これらのバージョン番号とレビジョン番号は、遡及処理によるカレンダー期間の再計算を管理する手段になります。

注意: 受給者処理ステータス レコードについては、システム アーキテクチャに関する章で説明します。

参照: 第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、バッチ処理出力テーブル、31 ページ。

あるカレンダー計算に対する元の出力結果のセットに対しては、バージョン 1、レビジョン 1、つまり V1R1 が定義されます。その後、同じカレンダーに対して再計算が行われるたびに、その遡及方法によって以下のようにバージョン番号またはレビジョン番号のどちらかが増えていきます。

訂正遡及

遡及方法が訂正の場合、バージョン番号は 1 増加し、レビジョン番号は 1 のままです。たとえば、最初の訂正遡及はバージョン 2、レビジョン 1 (V2R1) となります。"遡及の遡及処理" になる 2 番目の訂正遡及は、バージョン 3、レビジョン 1、つまり V3R1 となり、その後も同じようになります。

繰越遡及

遡及方法が繰越の場合、バージョン番号は変わらず、レビジョン番号は 1 増加します。たとえば、最初の繰越遡及はバージョン 1、レビジョン 2 (V1R2) となります。"遡及の遡及処理" になる 2 番目の繰越遡及は、バージョン 1、レビジョン 3、つまり V1R3 となり、その後も同じようになります。

これらの番号によって、遡及デルタの処理時にどの計算が "古い" 値、および "新しい" 値として使用されるかが判断されます。

遡及の遡及計算で使用されるバージョン番号とレビジョン番号

"遡及の遡及処理" が計算される場合、つまり期間がもう一度再計算される場合は、遡及方法が変更され、採番規則はより複雑になります。以下の例では、最初は繰越方法で再計算され、2 番目は繰越と訂正の組み合わせを使用して再計算される連続した 5 つの期間の例を用いて説明します。

シナリオ:

最初の遡及処理では、遡及方法は期間 3 で訂正から繰越に変更されます。2 番目の遡及処理では、遡及方法は同じ期間に繰越から訂正に変更されます。

以下の表では、期間 1 ～期間 6 が P1 ～ P6 と表記されています。

説明	P1	P2	P3	P4	P5	P6
元の計算のバージョン番号とレビジョン番号	V1R1	V1R1	V1R1	V1R1	V1R1	V1R1
最初の再計算方法が、期間 3 で訂正から繰越に変更	訂正		繰越			
最初の再計算のバージョン番号とレビジョン番号	V2R1	V2R1	V1R2	V1R2	V1R2	V1R2
再計算方法が、期間 3 で繰越から訂正に変更	繰越		訂正			

説明	P1	P2	P3	P4	P5	P6
2 番目の再計算のバージョン番号とレビジョン番号	V2R2	V2R2	V2R1	V2R1	V2R1	V2R1

訂正遡及に続いて繰越が行われる場合、レビジョン番号は 1 増え、バージョン番号は最後に訂正が実行されたときの値のままです。一方、繰越に続いて訂正遡及が行われる場合、バージョン番号は 1 増え、レビジョン番号は 1 に戻ります。これは、遡及デルタの計算の行われ方に重要な意味を持ちます。

参照: 第 33 章、「遡及処理の定義」、遡及デルタの計算と調整処理、1229 ページ。

遡及追加でのバージョン番号とレビジョン番号

遡及追加とは、前回の総額/純額が受給者に対して存在せず、遡及処理によって、受給者処理ステータス レコードが最初に作成される場合のことです。たとえば、2 月に採用されたと思っていた受給者が実際には 1 月に採用されているとします。1 月に対する総額/純額が存在しないため、1 月が遡及で処理される際に、この期間に対する受給者処理ステータス レコードが作成され、これにバージョン番号とレビジョン番号が割り当てられる必要があります。

バージョン番号とレビジョン番号は、次のように割り当てられます。

- 遡及方法が繰越の場合は、番号付き遡及が追加されます。

遡及方法が繰越の場合は、レビジョン番号は 1 より大きくなります。つまり、前回の総額/純額計算が存在せず、遡及追加によって初めて総額/純額が作成されたとき、この計算が厳密には最初の総額/純額であっても、V1R2 とラベル付けされます。これは、繰越遡及は計算の元の結果を新しい結果に置き換えるのではなく、元の値を使って遡及デルタを作成するためです。V1R2 は、現在の期間に繰り越されるデルタを計算するためだけに作成されます。V1R1 は、その期間に対する正しい結果ではないため、使用されません。

- 遡及方法が訂正の場合は、番号付き遡及が追加されます。

遡及方法が訂正で前回の総額/純額が存在せず、遡及追加によって初めて総額/純額が作成されたとき、最初の計算は V1R1 とラベル付けされます。これは、訂正遡及では前回の支給計算結果を置き換えるためです。これは遡及デルタの作成のためだけに使用されるわけではありません。このため、期間が追加される際は、この期間が元の期間であるように処理されます。

以下の表は、遡及追加の場合、繰越遡及と訂正遡及を使用して、どのように受給者処理ステータス レコードが番号付けされるかを示しています。

シナリオ:

次の遡及追加では、期間 1 で計算された受給者が、本来はその期間で処理されるべきではなかったことがわかりました。その結果、その受給者に対する計算は、再計算 No. 2 で取り消されます。その後、受給者がやはりその期間に属していることがわかり、再計算 No. 3 に関連付けられているバージョン番号とレビジョン番号を使用して、新しい総額/純額計算が生成されます。

例 1

期間/再計算	遡及方法	番号
期間 1 (元のカレンダー)	なし	V1R1
再計算 No. 1	訂正	V2R1
再計算 No. 2	取り消し (訂正)	V3R1
再計算 No. 3	追加 (訂正)	V4R1

例 2

期間/再計算	遡及方法	番号
期間 1 (元のカレンダー)	なし	V1R1
再計算 No. 1	訂正	V2R1
再計算 No. 2	取り消し (訂正)	V3R1
再計算 No. 3	追加 (繰越)	V3R2

例 3

期間/再計算	遡及方法	番号
期間 1 (元のカレンダー)	なし	V1R1

期間/再計算	遡及方法	番号
再計算 No. 1	繰越	V1R2
再計算 No. 2	取り消し (繰越)	V1R3
再計算 No. 3	追加 (繰越)	V1R4

例 4

期間/再計算	遡及方法	番号
期間 1 (元のカレンダー)	なし	V1R1
再計算 No. 1	繰越	V1R2
再計算 No. 2	取り消し (繰越)	V1R3
再計算 No. 3	追加 (訂正)	V2R1

関連項目:

第 33 章、「遡及処理の定義」、遡及追加、 1307 ページ

第 33 章、「遡及処理の定義」、遡及削除、 1306 ページ

遡及デルタの計算と調整処理

このセクションでは、遡及デルタの計算方法と調整の処理方法に関する情報について説明します。

遡及デルタの計算

繰越遡及では、デルタ = 新しい値 - 古い値です。古い値は前回の計算の最後のレビジョン、つまり最大のレビジョンからの値です。

期間 1	支給 1 (E1) の値	デルタ
V1R1	20	なし
V1R2	30	支給 1 (V1R2) - 支給 1 (V1R1) = 10
V1R3	40	支給 1 (V1R3) - 支給 1 (V1R2) = 10

訂正遡及では、デルタ = 新しい値 - 古い値です。古い値は前のバージョン、レビジョン 1 からの値です。

期間 1	支給 1 の値	デルタ
V1R1	20	なし
V2R1	30	支給 1 (V2R1) - 支給 1 (V1R1) = 10
V3R1	40	支給 1 (V3R1) - 支給 1 (V2R1) = 10

デルタを計算する際、支給エレメントまたは控除エレメントの古い値には、再計算期間からその期間に繰り越された調整値が含まれます。同様に、現在の期間に対して計算されたエレメントの新しい値には、前回の期間での再計算の結果として、そのエレメントに繰り越された調整値が含まれます。

期間 1	支給 1 の値	デルタ
V1R1	25 (20 + 5 (調整値))	なし
V1R2	35 (30 + 5 (調整値))	支給 1 (V1R2) - 支給 1 (V1R1) = 10
V1R3	45 (40 + 5 (調整値))	支給 1 (V1R3) - 支給 1 (V1R2) = 10

注意: ルールの中には、エレメントの新しい値には、前回の処理で計算された際にそのエレメントに繰り越された調整が常に含まれるという、例外があります。この例外については、「**遡及方法変更時のデルタと調整の処理**」の例 3 で説明します。

繰越後の訂正遡及時のデルタの計算

繰越後に訂正遡及が行われる場合、古い値は前のバージョン番号とレビジョン 1 で定義されます。遡及の際に 2 回再計算される以下の期間の例では、最初に繰越遡及が使用され、次に訂正遡及が使用されます。期間 1 (V1R1) で支給 1 の値が 20 である場合は、最初の再計算 (V1R2) で 30 に増え、次の再計算 (V2R1) で 40 に増えます。デルタは以下の結果となります。

遡及方法	期間 1	支給 1 の値	デルタ
なし	V1R1	20	なし
繰越	V1R2	30	支給 1 (V1R2) - 支給 1 (V1R1) = 10
訂正	V2R1	40	支給 1 (V2R1) - 支給 1 (V1R1) = 20

遡及方法が繰越から訂正に変更される際、V2R1 で 2 番目の遡及デルタを計算するために、前回のバージョン、レビジョン 1 での支給 1 の値 20 との差が支給 1 の新しい値 40 から引かれます。V1R2 は仮の計算であり最新の正しい値を示しているわけではないので、前回のバージョン、レビジョン 2 (V1R2) の支給 1 の値は無視されます。

調整の処理

遡及方法が繰越の場合、再計算期間全体にわたってエレメントのデルタの合計を求めることで、繰越調整が計算されます。支給キーが定義されている場合は、単一の調整値を作成するのではなく、支給キーによって計算済みデルタが合計されます。

参照: 第 33 章、「遡及処理の定義」、繰越遡及での支給キーの使い方、1299 ページ。

例 1: 繰越遡及でのデルタと調整の処理

以下の "遡及の遡及処理" の例では、繰越遡及方法を使用する際に、デルタの計算および調整処理がどのように行われるかを示しています。

シナリオ:

- 期間 2 では、支給 1 は 10 から 20 に変更されます。最初の遡及計算では、期間 2 で期間 1 にさかのぼって処理を行います。

- 期間 3 では、支給 1 は 20 から 30 に変更されます。2 番目の遡及計算では、期間 3 で期間 1 にさかのぼる遡及が処理されます。

バージョン /レビジョン 番号	年間残高の ロード	期間 1	年間残高の ロード	期間 2	年間残高の ロード	期間 3
V1R1	0 をロード	支給 1 = 10	10 をロード	支給 1 = 30 (20 + 10)	40 をロード	支給 1 = 50 (30 0 + 10)
		純支給額 = 10		純支給額 = 30		純支給額 = 50
		年間支給 1 = 10		年間支給 1 = 40		年間支給 1 = 90
V1R2	0 をロード	支給 1 = 20 デルタ = 10	10 をロード	支給 1 = 40 (30 + 10) デルタ = 10		
		年間支給 1 = 10		年間支給 1 = 40		
V1R3	0 をロード	支給 1 = 30 デルタ = 10				
		年間支給 1 = 10				

この例では、支給 1 の新しい値から古い値を引くことによって遡及デルタが計算されます。古い値は、前回の計算の最後のレビジョンとして定義されます。

最初の遡及計算:

- 期間 1 (V1R2): 支給 1 = 20

デルタ = 10 [20 (V1R2) - 10 (V1R1)]。調整値として期間 2 (V1R1) に繰り越されます。

- 期間 2 (V1R1): 支給 1 = 30 (20 + 調整値 10)。調整値は期間 1 (V1R2) からの繰越

2 番目の遡及計算 (遡及の遡及):

- 期間 1 (V1R3): 支給 1 = 30

デルタ = 10 [30 (V1R3) - 20 (V1R2)]。調整値として期間 3 (V1R1) に繰り越されます。

- 期間 2 (V1R2): 支給 1 = 40 (30 + 調整値 10)。調整値は期間 2 (V1R1) からの繰越

デルタ = 10 [40 (V1R2) - 30 (V1R1)]。調整値として期間 3 (V1R1) に繰り越されます。

- 期間 3 (V1R1): 支給 1 = 50 (30 + 調整値 10 + 調整値 10)。調整値は期間 1 (V1R3) と期間 2 (V1R2) からの繰越

調整値は、全ての遡及デルタの合計になります。期間 2 (V1R1) では、支給 1 への調整値は 10 です。期間 3 (V1R1) では、支給 1 への調整値は、期間 1 (V1R3) の再計算および期間 2 (V1R2) の再計算からの調整値の合計、つまり 10 + 10 になります。

注意: 期間 1 および 期間 2 は繰越遡及を使って処理されるので、年間累計はこれらの期間が再計算される各段階では更新されません。各再計算の前に残高がロードされる際に、前回の期間 V1R1 からの年間残高が使用されます。遡及方法が繰越の場合は、常にレビジョン 1 がロードされます。

例 2: 訂正遡及でのデルタの処理

以下の "遡及の遡及処理" の例では、訂正遡及を使用する際に、デルタの計算がどのように行われるかを示しています。

シナリオ:

- 期間 2 では、支給 1 は 10 から 20 に変更されます。最初の遡及計算では、期間 2 で期間 1 にさかのぼって処理を行います。
- 期間 3 では、支給 1 は 20 から 30 に変更されます。2 番目の遡及計算では、期間 3 で期間 1 にさかのぼる遡及が処理されます。

バージョン /レビジョン 番号	年間残高の ロード	期間 1	年間残高の ロード	期間 2	年間残高の ロード	期間 3
V1R1	0 をロード	支給 1 = 10	20 をロード	支給 1 = 20	60 をロード	支給 1 = 30
		純支給額 = 10		純支給額 = 20		純支給額 = 30
		年間支給 1 = 10		年間支給 1 = 40		年間支給 1 = 90
V2R1	0 をロード	支給 1 = 20 デルタ = 10	30 をロード	支給 1 = 30 デルタ = 10		
		純支給額 = 20		純支給額 = 30		
		年間支給 1 = 20		年間支給 1 = 60		
V3R1	0 をロード	支給 1 = 30 デルタ = 10				
		純支給額 = 30				
		年間支給 1 = 30				

この例では、支給 1 の新しい値から古い値の差を引くことによって遡及デルタが計算されます。古い値は、前回の計算の値、つまり前のバージョン、レビジョン 1 として定義されます。支給 1 のデルタは、繰り越されるように指定されません。

訂正遡及では古い値を新しい値に置き換えるため、繰越の場合にはあった支給 1 の値の調整値はありません。

最初の遡及計算:

期間 1 (V2R1): 支給 1 = 20

- $\text{デルタ} = 10 [20 (\text{V2R1}) - 10 (\text{V1R1})]$ 。古い値は新しい値に置き換えられます。
- 純支給額 = 銀行振込処理では、前回の計算と再計算の間で純支給額に差があるかどうか判断されます。この例の場合、差は 10 です。

2 番目の遡及計算 (遡及の遡及):

- 期間 1 (V3R1): 支給 1 = 30
 - $\text{デルタ} = 10 [30 (\text{V3R1}) - 20 (\text{V2R1})]$ 。古い値は新しい値に置き換えられます。
 - 純支給額 = 銀行振込処理では、前回の計算と再計算の間で純支給額に差があるかどうか判断されます。この例の場合、差は 10 です。
- 期間 2 (V2R1): 支給 1 = 30
 - $\text{デルタ} = 10 [30 (\text{V2R1}) - 20 (\text{V1R1})]$ 。古い値は新しい値に置き換えられます。
 - 純支給額 = 銀行振込処理では、前回の計算と再計算の間で純支給額に差があるかどうか判断されます。この例の場合、差は 10 です。

注意: 期間 1 と期間 2 は訂正遡及を使って処理されるので、年間累計はこれらの期間が再計算される各段階で更新されます。残高が各再計算の前にロードされる際は、前回の期間で最大のバージョン番号、レビジョン 1 が付いた計算から得られた残高が使用されます。

例 3: 遡及方法変更時のデルタと調整の処理

遡及デルタを計算する際には、一般的に古い値と同じ調整値を含むものとして、エレメントの新しい値が定義されます。ただし、繰越遡及を使用して期間が処理された後に、遡及方法が繰越から訂正に変更され、訂正遡及を使用して再処理される場合は、デルタの計算処理はより複雑になります。

この例では、遡及計算の方法が繰越から訂正に変更される場合について説明します。

シナリオ:

- 支給 1 を 10 から 30 に変更したために、期間 3 で期間 1 にさかのぼる遡及を処理します。遡及方法は繰越です。

- 支給 1 を 30 から 40 に変更したために、期間 4 で期間 2 にさかのぼる遡及を処理します。期間 2 で遡及方法が訂正に変更され、期間 3 で繰越に戻されます。支給 1 は、繰越例外として定義されます (期間 4 で支給 2 に繰り越されます)。

バージョン /レビジョン 番号	期間 1	方法	期間 2	方法	期間 3	期間 4
V1R1 繰越	支給 1 = 10		支給 1 = 10		支給 1 = 70 (30 +20 + 20)	支給 1 = 30 (40 - 10) 支給 2 = 30
V1R2 繰越	支給 1 = 30 デルタ = 20		支給 1 = 30 デルタ = 20			
		V2R1 訂正	支給 1 = 40 デルタ = 30	V1R2 繰越	支給 1 = 60 (40 + 20) デルタ = <10>	

最初の遡及計算:

- 期間 1 (V1R2): 支給 1 = 30
デルタ = 20 [30 (V1R2) -; 10 (V1R1)]。調整値として期間 3 (V1R1) に繰り越されます。
- 期間 2 (V1R2): 支給 1 = 30
デルタ = 20 [30 (V1R2) - 10 (V1R1)]。調整値として期間 3 (V1R1) に繰り越されます。
- 期間 3 (V1R2): 支給 1 = 70 (30 + 調整値 20 + 調整値 20)。調整値は期間 1 (V1R2) と期間 2 (V1R2) からの繰越

2 番目の遡及計算 (遡及の遡及):

- 期間 2 (V2R1): 支給 1 = 40

デルタ = 30 [40 (V2R1) - 10 (V1R1)]。支給 2 の調整値として期間 4 (V1R1) に繰り越されます。

- 期間 3 (V1R2): 支給 1 = 60 (40 + 調整値 20)。調整値は期間 1 (V1R1) からの繰越

デルタ = <10> [60 (V1R2) - 70 (V1R1)]。調整値として期間 4 (V1R1) に繰り越されず。

- 期間 4 (V1R1): 支給 1 = 30 (40 - 調整値 10)。期間 3 (V1R2) からの調整と、支給 2 = 30 (期間 2 (V2R1) からの調整値)

この例では、期間 2 での最初の遡及計算で支給 1 の値が 10 から 30 に変更され、その結果としてデルタが 20 になります。期間 2 が訂正遡及を使用して再計算される際は、支給 1 の値が 30 から 40 に増加します。新しいデルタは、遡及方法が繰越だった場合の 40 (支給1、V2R1) - 30 (支給1、V1R2) ではなく、40 (支給1、V2R1) - 10 (V1R1) として計算されます。これは、訂正遡及での古い値が、前のレビジョンではなく前回の計算 (前のバージョン、レビジョン 1) として定義されるためです。

この結果によって、解決する必要のある以下のような問題が発生します。

- 最初の遡及計算の結果、デルタは 20 になり、期間 3 に繰り越されます。
- 2 番目の訂正計算の結果、デルタは 30 となり、期間 4 に繰り越されます。このデルタには、V2R1 での支給 1 (40) と、V1R2 での支給 1 の前の値 (30) の差ではなく、既に繰り越された V1R2 での支給 1 の値と V1R1 での支給 1 の値の差 ((30 - 10 = 20) が含まれます。結果としてこの差額 (20) は 2 回計上されます。

これに対する補正は、以下のように行われます。その方法は、期間 3 に対するデルタの再計算方法によって異なります。エレメントの新しい値は、通常古い値と同じ調整値が含まれるよう定義されています。ただし、遡及方法が繰越から訂正に変更されるときは、2 回計上されたデルタ (この例では期間 2 の V1R2 からのデルタ) は、繰越先の期間が再計算される際に、支給 1 の新しい値には含まれません。期間 3 に対するデルタが計算されるとき、新しい値には期間 2 (V1R2) から支給 1 への調整値が含まれず、期間 1 (V1R2) からの調整値のみが含まれます。

残高累計のロード

遡及を通じてエレメントが再計算される前には、残高累計を正しい値にするために残高がロードされます。使用する遡及が繰越か訂正かによって、残高のロードに適用されるルールが異なります。

繰越遡及を使用する場合、再計算されるエレメントの残高は前回の期間の V1R1 からロードされます。

前述（「遡及デルタの計算と調整処理」）の例 1 を使用すると、以下のようになります。

- 期間 1 (V1R1): 支給 1 に対して残高 0 がロードされます。これは、最初の期間であり、支給 1 はまだ計算されていません。
- 期間 2 (V1R1): 期間 1 (V1R1) から支給 1 の年間残高 (10) がロードされます。
- 期間 3 (V1R1): 期間 2 (V1R1) から支給 1 の年間残高 (40) がロードされます。

使用する遡及方法が訂正の場合は、前回の期間の最大のバージョン番号の計算から、そのエレメントに残高がロードされます。

前述（「遡及デルタの計算と調整処理」）の例 2 を使用すると、以下のようになります。

- 期間 1 (V1R1): 支給 1 に対して残高 0 がロードされます。これは、最初の期間であり、支給 1 はまだ計算されていません。
- 期間 2 (V1R1): 期間 1 の最大のバージョン番号 (V2R1) の計算から支給 1 の年間残高 (20) がロードされます。
- 期間 2 (V2R1): 期間 1 の最大のバージョン番号 (V3R1) の計算から支給 1 の年間残高 (30) がロードされます。
- 期間 3 (V1R1): 期間 2 の最大のバージョン番号 (V2R1) の計算から支給 1 の年間残高 (60) がロードされます。

再計算結果の保存

遡及処理では、遡及が繰り越された日付から、受給者に対して作成された各支給額が再計算されます。再計算の結果は、元の結果と比較されます。これらに差額がある場合は、以下のように処理されます。

1. 遡及方法に関係なく、前回の結果はオーディットのために保存されます。
2. それぞれの受給者に対する新しい計算結果が保存されます。遡及方法が訂正の場合は、再計算済みの期間で前回の結果が新しい結果に置き換えられます。これらの結果は、その期間に対する正確な結果を表します。遡及方法が繰越の場合、これらの結果は正確な値を表さず仮の値になります。
3. カレンダー ID を再計算したカレンダー グループ ID によって結果が作成された再計算期間で、各セグメントに対する支給および控除の遡及デルタが GP_RSLT_DELTA に保存されます。
4. 繰り越されるように定義されているセグメント累計デルタが保存されます。

注意: 使用される遡及方法にかかわらず、全ての支給および控除のデルタは保存されます。累計デルタは、繰り越されるよう定義されていない限り保存されません。また、セグメント累計のみ繰越が可能です。

関連項目:

第 33 章、「遡及処理の定義」、デフォルト遡及方法の定義、1247 ページ

前回の結果の取り消し

遡及デルタの計算で、新しい値から古い値を減算する方法が使用されない場合がいくつかあります。これらの場合は、遡及デルタを計算するために、古い結果が**取り消され**前回の計算は削除されます。その後、負の値になる結果がその期間に対して生成される新しい値に（これらが同一の支給キーを持つ限り）加えられます。この結果は、遡及方法が繰越であれば、現在の期間に繰り越されます。

"**取り消し**" を使用する状況を以下に示します。

- 再計算期間のセグメント日が、前回の期間のセグメント日と一致しない場合。
- 再計算された期間およびセグメントの支給キーが、前回の期間およびセグメントと一致しない場合。

この場合、現在の期間内の適切なスライスまたはセグメントに繰り越される前に、支給キーによってデルタが合計されます（つまり、同一の支給キーを持つデルタのみが合計されます）。

- カレンダーの一部として計算された受給者が、後でそのカレンダーに属さないことがわかった場合。

この場合、受給者の前回の計算結果は取り消されます。たとえば、この状況は、受給者が 1 月に異動したのに 2 月までその異動が記録されなかったというような、異動状況の遡及で発生します。1 月の期間は、完全に取り消す必要があります。

次の例で、より選択的に前回の結果を取り消す必要がある状況について説明します。

前回の期間から繰り越された、受給者の支給額に対する調整が存在するカレンダー期間で、遡及計算が実行されるとします。この場合、受給者は調整額を現在の支給に追加して受け取っています。後に、この受給者は、このカレンダーから取り消される必要があることがわかりました。このような状況では、これらの調整額は取り消されないカレンダーから得られるので、取り消されるカレンダーに繰り越される調整額を保存しておく必要があります。PeopleSoft グローバル ペイロール は、このような状況を認識するようにあらかじめプログラムされているので、繰り越された調整額は保存されます。

関連項目:

第 33 章、「遡及処理の定義」、分割と遡及、1287 ページ

第 33 章、「遡及処理の定義」、繰越遡及での支給キーの使い方、1299 ページ

遡及期間と繰越遡及期限の設定

PeopleSoft グローバル ペイロールでは、"支給元" の遡及制限ページを使用して、遡及処理の遡及期間制限と対象期間制限のデフォルト値を設定します。これらのデフォルト値によって、支給元に関連付けられた処理済みの (クローズ) カレンダーを再計算するときに遡及できる期間と、受給者が非アクティブになってから、遡及処理が可能な期間を指定します。

遡及処理できる期間は、"支給元" の遡及制限ページで定義された遡及期間制限と以下のシステム日付を比較して決定されます。

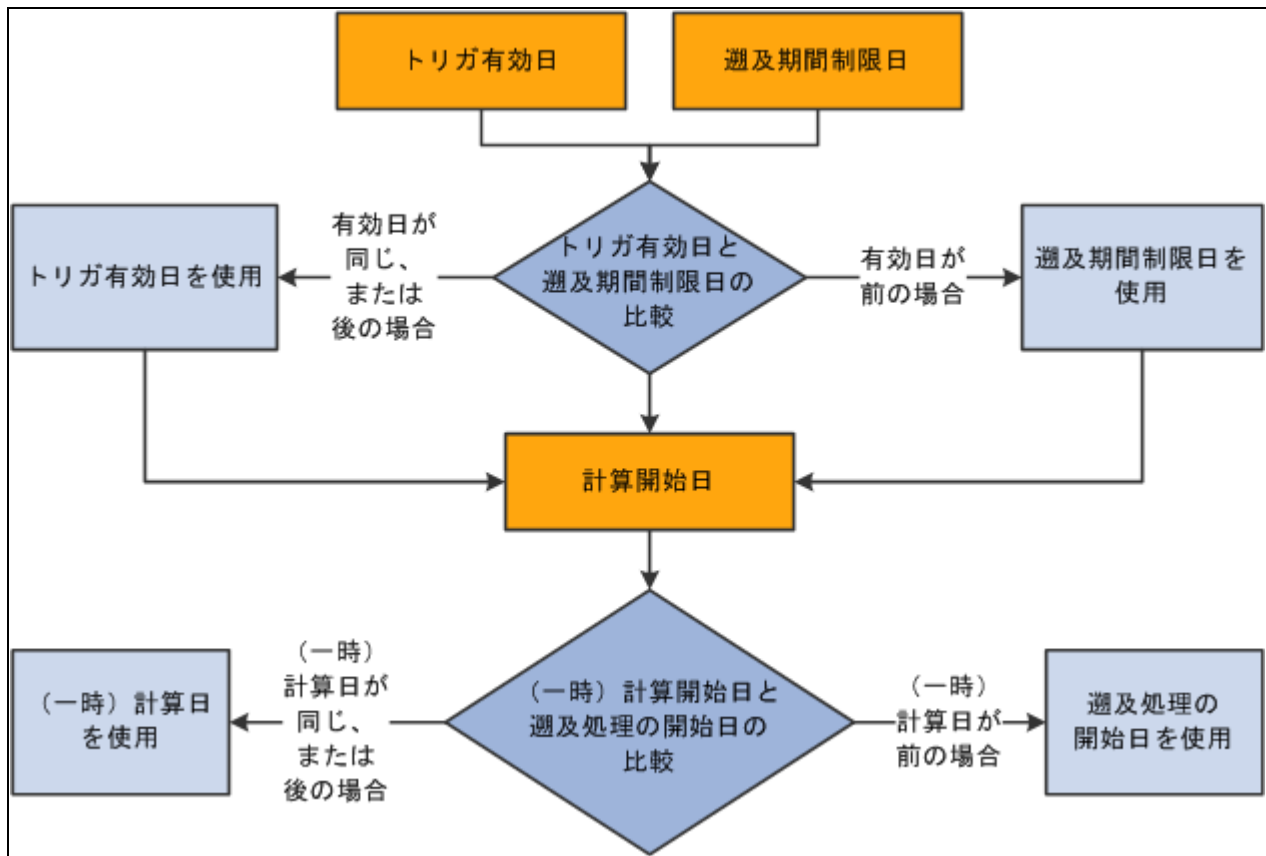
- トリガ有効日

この日付、つまり遡及処理のトリガとなる変更の有効日によって、データを再計算する際にさかのぼる期間の理論上の制限が設定されます。処理される期間が決定される際、遡及期間制限日はトリガ有効日より優先されます。たとえば、トリガ有効日が 1990 年 1 月 1 日で、遡及期間制限日が 1995 年 1 月 1 日の場合は、遡及期間制限日によってこの日以前の全ての計算が停止されます。反対に、遡及期間制限が 1990 年 1 月 1 日で、トリガ有効日が 1995 年 1 月 1 日の場合は、トリガ有効日によって再計算される期間数が設定されます。

- 遡及処理の開始日

PeopleSoft グローバル ペイロールで受給者について入力した日付です。遡及処理の開始日より前に再計算される履歴データがないため、トリガ有効日や遡及期間制限日の日付がどのようなものでも、この日付が優先されます。

この図は、再計算される過去の期間数を決める日付の相互関係を表しています。



再計算される過去の期間数を決める日付の相互関係

PeopleSoft グローバル ペイロール システムでは、最初の再計算期間は、まずトリガ有効日と遡及期間制限日を比較し、その後、両方の日付と計算開始日を比較して決定されます。

対象期間制限を決定するプロセスは、遡及期間制限を決定するプロセスよりも簡単です。なぜなら、トリガ有効日が対象期間制限と遡及処理の開始日のいずれとも比較されないからです。"支給元" の遡及制限ページで定義された対象期間制限内に受給者が入っているかどうかのみ判別する必要があります。受給者がこれらの制限に含まれている場合、再計算を行う過去の期間数を決定する際に遡及期間制限が適用されます。

対象期間制限を適用するには、受給者は全ての職務で非アクティブである必要があります。職務レコード上の EMPL_STATUS が受給者のステータスの確認に使用されます。EMPL_STATUS の値が、[D] (死亡)、[R] (退職)、[T] (雇用終了)、[V] (雇用終了 - 年金支給)、または [X] (退職 - 年金管理) のとき、従業員は非アクティブと考えられます。受給者が複数の職務を兼務している場合は、戻される全ての行の中で最も新しい有効日が非アクティブ日として使用されます。

遡及処理の設定

遡及処理を設定するには、国別設定 (GP_COUNTRY)、遡及プロセス定義 (GP_RTO_PRC_DEFN)、遡及プロセス上書き (GP_RTO_OVR_DEFN)、遡及イベント定義 (GP_RTO_EVT)、支給元 (GP_PYENT)、および遡及制限割当 (GP_PYE_RTO_LIM) コンポーネントを使用します。

このセクションでは、遡及処理の概要と、以下について説明します。

- 国レベルでのデフォルト遡及処理方法の定義
- 遡及プロセスの定義
- エLEMENTの繰越と遡及上書きの定義
- トリガ イベント ID の定義
- 支給元レベルでの遡及期間制限と対象期間制限の定義
- 受給者レベルでの遡及処理制限の定義
- 未処理の遡及デルタの管理

関連項目:

[第 33 章、「遡及処理の定義」、遡及処理に影響するその他のページ、1283 ページ](#)

遡及処理の設定について

遡及処理を設定するには、次の手順に従います。

1. デフォルト遡及方法を選択します。

国別設定ページで、遡及を処理する際のデフォルト遡及方法 (繰越または訂正) を指定します。各国につきデフォルト方法を 1 つだけしか設定できませんが、プロセスごとにそれぞれの方法をさらに詳しく定義でき、必要に応じて上書きすることもできます。

また、このページを使用して、不整合がある場合に適用する遡及方法や、銀行振込処理と一般会計で使用する遡及方法を定義します。

さらに、エレメント名のページ (GP_PIN) の設定に関係なく、ゼロ以外の値のデルタ金額またはデルタ コンポーネントを保存するかどうかを指定できます。

参照: 第 33 章、「遡及処理の定義」、デフォルト遡及方法の定義、1247 ページ。

参照: 第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、国別設定の定義、47 ページ。

2. 遡及プロセスを定義します。

遡及プロセス定義ページで、遡及方法をさらに詳しく定義します。たとえば、繰越遡及を支給元カレンダー年までの期間の計算に使用し、それ以降の期間の計算には訂正遡及を、デフォルトの遡及方法が繰越であっても、使用するといったことができます。また、デフォルトの遡及方法を遡及プロセス定義ページで上書きすることもできます。

3. 繰り越すエレメントを選択し、訂正方法への上書きを設定します。

デフォルトの遡及方法が繰越の場合は、遡及プロセス上書きページで個別に繰り越すエレメントを選択します。PeopleSoft グローバル ペイロールでは、デフォルトの遡及方法が繰越であっても、プロセス リストの全てのエレメントが繰越対象であると見なされるわけではありません。

デフォルトの遡及方法が訂正でも、いくつかのエレメントを繰越で処理する場合は、遡及プロセス上書きページで繰越が必要なエレメントを指定します。

4. 遡及プロセスをトリガ イベント ID にマッピングします。

遡及プロセス定義ページで、ステップ 2 で定義した遡及処理をトリガ イベント ID に関連付けます。このイベント ID によって、ステップ 5 での遡及データの変更 (以下を参照) に伴うレコードとフィールドのデータ変更の方法が決まります。

5. トリガ レコードとトリガ フィールドを定義します。

イベント ID に遡及処理をマッピングした後、データの変更に伴って遡及処理のトリガとなるデータベース レコードおよびフィールドを決める必要があります。トリガ定義コンポーネント (GP_TRGR_SETUP) でこれらのフィールドとレコードを指定し、ステップ 4 で定義したトリガ イベント ID のいずれかに関連付けます。トリガ イベント ID は遡及処理定義を指定するため、データが変更されると、この ID に関連付けられたフィールドやレコードがトリガとなって正しいプロセスが開始されます。

注意: トリガ定義コンポーネントについては、トリガの設定に関する章で説明します。

参照: 第 30 章、「トリガの設定」、1111 ページ。

6. 遡及処理を許可する支給元を決定します。

"支給元" の遡及制限ページを使って、支給元のカレンダーの遡及処理を有効にします。

7. 遡及期間制限と対象期間制限を指定します。

遡及期間制限と対象期間制限は、2 つのページで設定できます。

- "支給元" の遡及制限ページを使用して、遡及処理の遡及期間制限と対象期間制限のデフォルト値を設定します (省略可)。このデフォルト値によって、支給元に関連付けられた処理済みの (クローズ) カレンダーを再計算するときに遡及できる期間と、受給者が非アクティブになってから、遡及処理が可能な期間を指定します。
- 必要に応じて、特定の受給者の遡及期間制限と対象期間制限を遡及制限割当ページを使用して上書きします。

8. 遡及トリガを表示、追加、キャンセルします。

オンラインで遡及トリガが作成された後は、"受給者トリガ" の遡及ページを使用して遡及イベントを管理し、適切なシステム データの変更にのみ反応して、遡及処理が行われるようにします。これらのページでは、各受給者に対する遡及トリガを表示でき、トリガの追加およびキャンセルもできます。

注意: 遡及トリガ データは、設定時に指定した条件に基づいて、オンライン システムによって自動的に作成されます。自動的に作成されなかった遡及データについては、手動で作成することもできます。

警告: トリガをキャンセルしても、最初にトリガを作成したデータベースの変更は元に戻りません。ほかの理由で遡及があった場合、この変更は過去の期間が再計算される際に一緒に処理される可能性があります。

9. 未処理の遡及デルタを管理します。

繰越遡及、または訂正遡及を繰越例外と共に使用する際は、特定の条件（一致条件）を満たす場合に、現在のカレンダーに対する調整として、再計算されたカレンダーからのデルタが繰り越されます。デフォルトの一致条件を満たさないため繰越遡及デルタが処理されない場合は、未処理遡及デルタ ページを使って、デルタを適切なカレンダーに手動で割り当てることができます。

遡及処理の設定に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
国別設定	GP_COUNTRY	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[国別設定]、[国別設定]	国レベルでのデフォルト遡及方法を定義します。
遡及プロセス定義	GP_RTO_PRC_DEFN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、遡及プロセス定義コンポーネント	遡及プロセスを定義します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
遡及プロセス上書き	GP_RTO_OVR_DEFN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、"遡及プロセス上書き" コンポーネント	<ul style="list-style-type: none"> 標準の遡及方法が繰越の場合は、繰り越すエレメントを指定します。 標準の遡及方法が訂正の場合は、上書きを定義します。 支給コンポーネントおよび控除コンポーネントの計算ページで選択した [遡及再計算オプション] の設定 ([常時再計算] または [再計算しない]) を上書きします。
遡及イベント定義	GP_RTO_EVT	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、[遡及イベント定義]	トリガ イベント (重要なデータの変更) を、遡及プロセス定義ページで定義したプロセスの 1 つに関連付けます。
遡及制限	GP_PYENT_RETRO	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[組織]、[支給元]、[遡及制限]	<ul style="list-style-type: none"> 支給元レベルでの遡及期間制限と対象期間制限を定義します。 未処理の遡及デルタに関する支給グループのマッチング条件を上書きします。 遡及処理時の累計残高の保持を有効にします。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
遡及制限割当	GP_PYE_RTO_LIM	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[受給者レベル 上書き]、[遡及制限割当]、[遡及制限割当]	遡及制限ページで支給元レベルで設定した、遡及処理に対する遡及期間制限および対象期間制限を、受給者レベルで上書きします。
未処理遡及デルタ	GP_UDELTA	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[未処理遡及デルタ]	未処理の遡及デルタを管理します。

デフォルト遡及方法の定義

国別設定ページにアクセスします [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[国別設定]、[国別設定]。

国

国:

FRA フランス

純支給額確認フォーミュラ:

*デフォルト遡及方法:

訂正

*不整合時の遡及方法:

訂正

☒ セグメント以外のデルタ コンポーネントを保存

現在の結果と調整の合計を使用

☒ 銀行振込処理

☒ 一般会計処理

受給者割当処理

*割当処理オプション:

セグメント期間内でアクティブな場合

割当比例配分の開始日:

2000/01/01

国別設定ページ

参照: 第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、国別設定の定義、47 ページ。

デフォルト遡及方法に訂正を指定した場合

[デフォルト遡及方法] に [訂正] を選択した場合は、遡及処理が発生すると以下のステップが実行されます。

1. 遡及処理で再計算されるよう定義された給与計算実行のエLEMENTが自動的に再計算されます。
2. 給与計算実行のエLEMENTに対して再計算された値により、前回の計算が置換されます。
3. 再計算期間の残高累計およびセグメント累計が自動的に更新されます。
4. 遡及デルタが自動的に算出され、再計算期間に保存されます。
5. 遡及プロセス上書きページで繰越ELEMENT上書きとして定義されている給与計算実行のエLEMENTに対して、遡及調整が自動的に計算されます。
6. 銀行処理では、前回の計算と再計算との間に純支給額の差があるかどうかを確認されます。差額がある場合は、銀行振込処理によって処理されます。
7. 前の計算結果が完全に取り消され、再計算の結果が一般会計に転記されます。

デフォルト遡及方法に繰越を指定した場合

[デフォルト遡及方法] に [繰越] を選択した場合は、遡及処理が発生すると以下のステップが実行されます。

1. 遡及処理で再計算されるよう定義された給与計算実行のエLEMENTが自動的に再計算されます。
2. ELEMENTに対して再計算された値は、再計算期間の遡及デルタの計算に使用されますが、前回の計算は置換されません。
3. セグメント累計のみが自動的に更新されます。(遡及方法が繰越の場合でも、累計定義レベル、支給累計ページ、控除累計ページで、残高累計が訂正として動作するように定義することができます。)
4. 遡及デルタが自動的に算出され、再計算期間に保存されます。
5. 遡及プロセス上書きページで繰り越されるように定義されている、給与計算実行のエLEMENTに対して遡及調整が算出されます。
6. 以前に再計算された期間の差分が現在期間に含まれているため、銀行振込処理では現在期間の計算から純支給額だけが取得されます。

7. 銀行振込の受取人や一般会計勘定科目に影響する遡及変更を処理するために、前の支払が取り消され、元の状態に戻されます。下の表には、この例が説明されています。この例では、控除額 100 が受取人 1 に対して 1 月 1 日に支払われています。2 月には、この受取人が受取人 2 に変更されますが、有効日が 1 月であるため、遡及処理がトリガされます。以下の受取人と金額情報が銀行振込処理結果に転記されます。

月	バージョン/レビジョン番号	金額	受取人	アクション
1 月	V1R1	100	1	変換 (前の期間)
2 月	V1R2	(100)	1	取消
2 月	V1R2	100	2	元に戻す
2 月	V1R1	100	2	変換 (現在の期間)

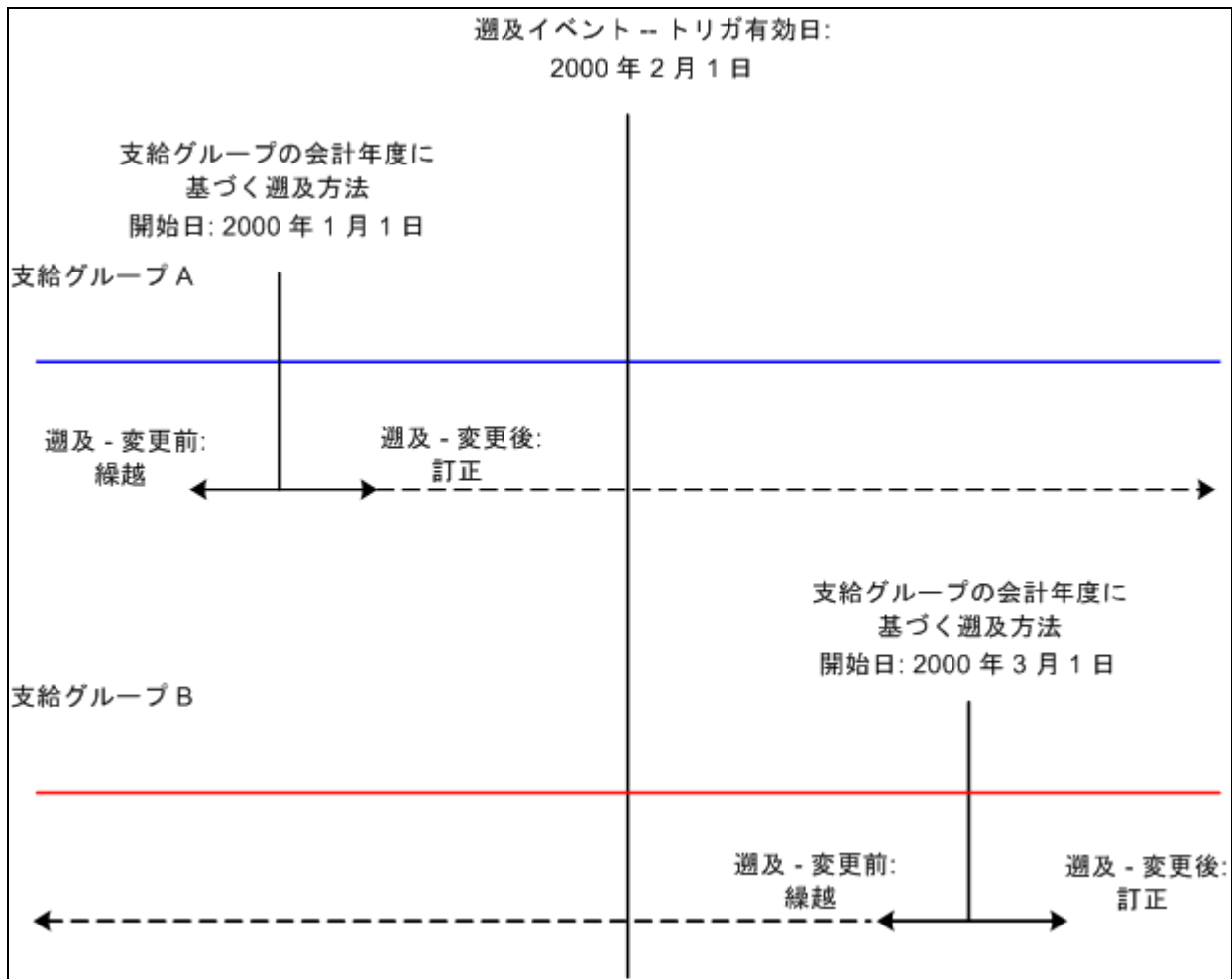
この例では、金額は変更されていません。金額が変更された場合は、変更金額が繰り越されたエレメントからの金額も取り消されます。

不整合時の遡及方法について

遡及処理方法に関する命令で不整合が検出されると、遡及不整合が発生します。たとえば以下のような場合です。

- 従業員が複数の支給グループまたは支給元に関連付けられている場合
- これらの支給グループまたは支給元に対して定義された方法選択基準の日付によって、同一計算期間、つまり同一期間 ID を持つ異なるカレンダーを処理する際にそれぞれ異なる遡及方法が必要とされる場合

支給グループ A に従業員を割り当てるとします。会計年度 (遡及の [方法選択基準] の日付) は、2000 年 1 月 1 日に開始します。同じ従業員が支給グループ B に属する場合には、会計年度は 2000 年 3 月 1 日に開始します。3 月に報告された遡及イベントによって 2 月の支給期間が再計算され、また、このイベントの処理のために定義した方法が支給グループの会計年度によって変化するとします (両方の支給グループとも [遡及-変更前] は繰越、[遡及-変更後] は訂正です)。この状況は、以下のように説明できます。



不整合時の遡及方法

2 月の支給期間を再計算するには、支給グループ A では訂正遡及を使用しますが、支給グループ B では繰越遡及を使用します。プロセス定義が同じでも、同一期間の処理に異なる遡及方法の使用が同じイベントによって要求されるということが起こります。遡及方法は、支給グループの会計年度の前は繰越で、後は訂正です。この不整合を回避するために、国別設定ページで不整合時の遡及方法を選択します。

注意: 各カレンダーの各受給者に対して、遡及を含めた受給者処理ステータス レコードが作成されます。不整合時の遡及方法を指定した場合は、同一期間 ID を持つ連続した受給者処理ステータス レコードが単一の遡及方法を使って処理されます。

遡及処理の定義

遡及プロセス定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバルペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、[遡及プロセス定義])。

遡及プロセス定義			
国:	CYM クイーン諸島		
遡及プロセス定義 ID:	KOPRCDFN		
*名称:	Retro Process Definition	略称:	KOPRCDFN
*遡及方法:	訂正	<input type="checkbox"/> 遡及方法変更	
遡及方法選択基準			
方法選択基準:			
年決定基準:			
遡及-変更前:		遡及-変更後:	

遡及プロセス定義ページ

遡及プロセス定義 ID

定義する遡及プロセスを表します。

遡及方法

このフィールドには、国別設定ページの値がデフォルト値として設定されます。上書きすることもできます。

遡及方法変更

あらかじめ定義された日付に基づいて遡及方法を変更する場合は、このチェック ボックスをオンにします。

このチェック ボックスをオンにすると、[遡及方法選択基準] グループ ボックスのフィールドがデータ入力可能になります。[支給元のカレンダー年]、[支給元の会計年度]、または [支給グループの会計年度] に関連付けて遡及方法を変更できます。

たとえば、支給元のカレンダー年までの期間を計算するのに繰越遡及を使用し、それ以降の期間を計算するには訂正遡及を使用するといったことができます。これは、デフォルトの遡及方法が繰越であっても可能です。

このチェック ボックスをオフにしておく場合、国別設定ページで指定したデフォルトの遡及方法が全てのカレンダー期間に適用されます。

遡及方法選択基準

このグループ ボックスのフィールドによって、遡及方法を変更する場合の日付と年を決めることができます。これらのフィールドは、[遡及方法変更] チェック ボックスがオンになっている場合にのみ入力できます。

方法選択基準

遡及方法が変更される月と日 (遡及方法変更日) を決定する基準を、このフィールドで指定します。

値は以下のとおりです。

[支給元のカレンダー年]: 通常は、任意の年の 1 月 1 日として定義されます。"支給元" の処理詳細ページでこの日を定義します。

[支給元の会計年度]: "支給元" の処理詳細ページでこの日を定義します。

[支給グループの会計年度]: "支給グループ" のデフォルト ページでこの日を定義します。

年決定基準

遡及方法を変更する年 (遡及方法変更日) を決定します。受給者が属しているカレンダー グループの最初の現在のカレンダーによって、選択されたカレンダー日付に基づき使用される年が決定されます。値は以下のとおりです。

[支給日]: 支給の日。

[期間終了日]: 支給期間の終了日。

遡及-変更前

期間終了日が遡及方法変更日より先行しているカレンダー期間を再計算する方法を選択します。[繰越] または [訂正] を選択します。

遡及-変更後

期間終了日が遡及方法変更日と同じか、それより後のカレンダー期間を再計算する方法を選択します。[繰越] または [訂正] を選択します。

遡及方法の変更時に使用される日付と遡及方法の決定

遡及方法変更日と遡及方法は以下のように決定されます。

1. 遡及方法変更日を決定します。

[方法選択基準] フィールドと [年決定基準] フィールドの値に基づいて、遡及方法を変更する日、月、および年 (遡及方法変更日) が決定されます。年は、受給者を含む最初の現在のカレンダーの期間終了日または支給日のどちらか、つまり [年決定基準] フィールドの値に基づいて決定されます。その後、現在のカレンダーの終了日または支給日の月が、[方法選択基準] フィールドで指定された月と比較されます。

- 現在のカレンダーの月が、[方法選択基準] フィールドで指定した月より前である場合は、[年決定基準] の値から 1 年が減算され、遡及方法変更日の年が決定されます。
- 最初の現在のカレンダーの月が [方法選択基準] フィールドの月と同じまたはそれ以降の場合は、[年決定基準] フィールドの値に関連付けられている年が使用されます。

例 1: 期間終了日を使った遡及方法変更日の決定

最初の現在のカレンダー期間	1999 年 12 月 1 日～31 日	
年決定基準	期間終了日	1999 年 12 月 31 日
方法選択基準	支給元のカレンダー年	1 月 1 日
遡及方法変更日	1999 年 1 月 1 日	

例 2: 支給日を使った遡及方法変更日の決定

最初の現在のカレンダー期間	1999 年 12 月 1 日～31 日	
年決定基準	支給日	2000 年 1 月 2 日
方法選択基準	支給元のカレンダー年	1 月 1 日
遡及方法変更日	2000 年 1 月 1 日	

例 3: カレンダー月が方法選択基準の月より前の場合

最初の現在のカレンダー期間	1999 年 3 月 1 日～31 日	
年決定基準	期間終了日	1999 年 3 月 31 日

方法選択基準	支給元の会計年度	4 月 1 日
遡及方法変更日	1998 年 4 月 1 日	

2. 使用する遡及方法を決定します。

遡及方法変更日は、各再計算期間の期間終了日と比較されます。

- 再計算期間の期間終了日が遡及方法変更日と同じ、またはそれ以後の場合は、[遡及-変更後] で指定した方法が使用されます。
- 再計算期間の期間終了日が遡及方法変更日より前の場合は、[遡及-変更前] で指定した方法が使用されます。

指定された次の条件でどのように正しい遡及方法が適用されるかを、下の表に示します。

- [デフォルト遡及方法] = [繰越]
- [遡及方法変更] = オン
- [遡及-変更前] = [繰越]

- [遡及-変更後] = [訂正]

遡及方法変更日の決定方法				使用する方法の決定方法
方法選択基準	現在のカレンダー期間	年決定基準	遡及方法変更日	再計算期間と使用方法
カレンダー年: 1 月 1 日	1999 年 12 月 1 日～ 31 日	期間終了日: 1999 年 12 月 31 日	1999 年 1 月 1 日	#1: 1998 年 11 月 1 日～ 30 日 /変更前 (繰越) #2: 1999 年 3 月 1 日～ 31 日 /変更後 (訂正)
		支給日: 2000 年 1 月 2 日	2000 年 1 月 1 日	#1: 1998 年 11 月 1 日～ 30 日 /変更前 (繰越) #2: 1999 年 3 月 1 日～ 31 日 /変更前 (繰越)
会計年度: 7 月 1 日	1999 年 3 月 1 日～ 31 日	期間終了日: 1999 年 3 月 31 日	1998 年 7 月 1 日	#1: 1998 年 5 月 1 日～ 31 日 /変更前 (繰越) #2: 1998 年 11 月 1 日～ 30 日 /変更後 (訂正) #3: 1999 年 2 月 1 日～ 28 日 /変更後 (訂正)

遡及方法変更日の決定方法				使用する方法の決定方法
		支給日: 1999 年 4 月 1 日	1998 年 7 月 1 日	#1: 1998 年 5 月 1 日～ 31 日 /変更前 (繰越) #2: 1998 年 11 月 1 日～ 30 日 /変更後 (訂正) #3: 1999 年 2 月 1 日～ 28 日 /変更後 (訂正)
	1999 年 8 月 1 日～31 日	期間終了日: 1999 年 8 月 31 日	1999 年 7 月 1 日	#1: 1999 年 5 月 1 日～ 31 日 /変更前 (繰越) #2: 1999 年 6 月 1 日～ 30 日 /変更前 (繰越) #3: 1999 年 7 月 1 日～ 31 日 /変更後 (訂正)
		支給日: 1999 年 9 月 1 日	1999 年 7 月 1 日	#1: 1999 年 5 月 1 日～ 30 日 /変更前 (繰越) #2: 1999 年 6 月 1 日～ 31 日 /変更前 (繰越) #3: 1999 年 7 月 1 日～ 31 日 /変更後 (訂正)

繰越 = 繰越遡及方法

訂正 = 訂正遡及方法

**例: [現在の結果と調整の合計を使用] グループ ボックスの [一般会計処理] をオンにした場合
([遡及方法変更] チェック ボックス = オン)**

以下のように設定するとします。

- 国別設定ページの [現在の結果と調整の合計を使用] グループ ボックス内にある [一般会計処理] チェック ボックスをオンにします。
- 遡及プロセス定義ページの [遡及方法変更] チェック ボックスをオンにします。
- [遡及方法選択基準] グループ ボックスで以下の値を選択します。
 - [方法選択基準]: [支給元のカレンダー年]
 - [年決定基準]: [支給日]
 - [遡及-変更前]: [繰越]
 - [遡及-変更後]: [訂正]

支給/控除割当の期間が 2002 年 12 月 1 日～ 2003 年 12 月 31 日に設定されているとします。2002 年 12 月と 2003 年 1 月の給与計算処理を行い、両方の月の一般会計処理を実行します。その後、日付は変更せずに上書き値を変更したため、2003 年 2 月の給与計算を実行すると、2002 年 12 月 1 日までさかのぼって遡及処理が実行されます。

この例では、遡及方法の変更が指定されているため、2002 年 12 月には繰越遡及が適用され、2003 年 1 月には訂正遡及が適用されます。2003 年 2 月分に対して一般会計処理を実行すると、訂正と繰越の両方の遡及方法が一般会計処理の結果に反映されます。繰越方法では 2 月分の金額にデルタまたは調整が反映され、訂正方法ではそれまで入力されていたデータが取り消され、訂正されます。

エレメントの繰越と遡及上書きの定義

遡及プロセス上書きページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、[遡及プロセス上書き])。

遡及プロセス上書き

国:

DEU

ドイツ

遡及プロセス定義 ID:

DE RETRO

Rtr Evt DEU

遡及方法:

訂正

有効日

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

*有効日:

1998/01/01

フォーミュラ エlement:

DE_TX_OVRD_RTRMTHD

上書きセット

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/2 | 最後

上書きセット番号:

1

☒ 上書きあり

Element上書き

カスタマイズ | 検索 | 最初 | 1/1 | 最後

Element上書き

繰越オプション

入力タイプ	Element名	名称	遡及再計算オプション	繰越	
累計	DE_A1_PAYM	Employee's Payment	常時再計算	<input checked="" type="checkbox"/>	<div>+ -</div>

遡及プロセス上書き

Elementの繰越ルールと訂正遡及の上書きの定義ルールについて

遡及方法が繰越の場合は、遡及プロセス上書きページで繰り越すElementを個別に選択する必要があります。PeopleSoft グローバル ペイロールでは、遡及方法が繰越であっても、プロセス リストの全てのElementが繰越対象であると見なされるわけではありません。

デフォルトの遡及方法が訂正でも、いくつかのElementを繰り越しで処理する場合は、遡及プロセス上書きページで繰り越しが必要なElementを指定します。

繰越対象のElementの定義 (遡及方法が繰越の場合)

デフォルトの遡及方法が繰越の場合は、以下のとおりです。

- 遡及プロセス上書きページで繰り越す各Elementを指定します。
- 繰り越しできるElementのタイプは、支給、控除、および累計のみです。累計の場合、繰り越すことができるのは、セグメント累計のデルタだけになります。
- Elementが支給または控除の場合は、同一ElementにElementの遡及デルタの値を繰り越すことも可能であり、あるいはこの値を受け取る別の "繰越先Element" を定義することも可能です。
- 支給に対するデルタを繰り越す場合、"繰越先Element" は支給または控除になります。
- 控除に対するデルタを繰り越す場合、"繰越先Element" は支給または控除になります。

- セグメント累計を繰り越す場合は、別の累計であっても同一エレメントに繰り越すことはできません。これは、セグメント累計は支給または控除に対してしか繰り越せないためです。
- 繰越エレメントにコンポーネントが含まれていて、別のエレメントに繰り越された場合には、"繰越先エレメント" の計算ルールが同じ場合にのみコンポーネントの調整が適用されます。たとえば、エレメントが "**ベース×パーセント**" として定義され、"繰越先エレメント" も "**ベース×パーセント**" として定義されていれば、その金額とベースの差額は繰り越されます。もし、"繰越先エレメント" が同一ルールを使っていなければ、調整金額のみ繰り越されます。

注意: 繰越遡及を使用すると、累計定義レベル、支給累計ページ、控除累計ページで、残高累計が訂正で動作するように定義できます。

訂正遡及上書きの定義

デフォルトの遡及方法は訂正ですが、特定のエレメントに対してデルタを繰り越す (このエレメントに対してデフォルトの遡及方法を上書きする) 必要があるとします。

- 遡及プロセス上書きページで [別エレメントに繰越] をオンにして、遡及デルタを別のエレメントに繰り越す必要があります。このエレメントは、現在の期間でエレメントの遡及デルタの値を受け取ります。ただし、エレメントは、エレメント定義ページのいずれかで既に定義されている必要があります。

注意: 遡及方法が訂正の場合は、遡及デルタを同一のエレメントに繰り越すことはできません。

- 繰り越しできるエレメントのタイプは、支給、控除、および累計のみです。
- 支給または控除に対するデルタを繰り越す際は、"繰越先エレメント" として支給または控除を選択できます。
- 累計 (セグメント累計だけが繰り越し可能) に対してデルタを繰り越す際は、繰越先エレメントは支給または控除である必要があります。別の累計は指定できません。
- 繰越エレメントにコンポーネントが含まれていて、別のエレメントに繰り越された場合には、"繰越先エレメント" の計算ルールが同じ場合のみコンポーネントの調整が適用されます。たとえば、エレメントと "繰越先エレメント" の両方が "**ベース×パーセント**" として定義される場合、金額とベースに対する差額が繰り越されます。"繰越先エレメント" が同一のルールに従っていない場合は、調整金額のみが繰り越されます。
- 純支給額エレメントを繰り越す場合、銀行振込処理では前回の計算からの純支給エレメントが取り消されることも、新しく再計算された純支給額が挿入されることもありません。

このセクションで使用する共通フィールド

遡及プロセス定義 ID	遡及プロセス定義ページで定義した遡及プロセスを識別します。
遡及方法	ページの上部に表示される国に対して指定した遡及プロセス定義に関連付けられたデフォルトの遡及方法です。遡及プロセス定義ページで [遡及方法変更] を選択した場合は、遡及プロセス上書きページで遡及方法を選択する必要があります。
有効日	上書きの有効日で、遡及プロセス定義の一部です。有効日を使用することで、異なる上書きをさまざまなタイミングで適用できます。
フォーミュラ エlement	このフォーミュラによって、同じ日に有効になる複数の上書きがある場合に、どの上書きのセットが使用されるかが決定されます。このフォーミュラの処理結果として戻される値は、[上書きセット番号] フィールドの値の 1 つと一致する必要があります。たとえば、条件 A が一致した場合は 10、条件 B が一致した場合は 20、条件 C が一致した場合は 30 がそれぞれ戻されるように、フォーミュラを指定できます。各数値は、それぞれ別の上書きのセットに対応しています。条件 A が一致した場合は、フォーミュラによって値 10 が戻され、上書きセット番号 10 の一部として定義されている上書きが使用されることになります。
上書きセット番号	この番号は、特定の時点で遡及プロセス定義および国に適用される上書きのセットを識別します。同じ有効日で、異なる上書きセットを定義できます。適用されるセットを決定するために、[フォーミュラ エlement] フィールドで選択したフォーミュラが使用されます。
上書きあり	上書きが上書きセット番号に関連付けられている場合に選択します。上書きは [Element 上書き] グループ ボックスで指定します。
Element 上書き	遡及プロセス上書きページの [Element 上書き] タブ

入力タイプ

デフォルトの遡及方法を上書きするエレメントのタイプを入力します。値は以下のとおりです。

控除

支給

累計 (セグメント累計): セグメント累計のみが、[エレメント名] 列にリストされます。

エレメント名

上書きを定義するエレメントを選択します。支給および控除の定義ページで定義したエレメントがリストに含まれます。

遡及再計算オプション

遡及処理中にそのエレメントの再計算が必要かどうかを指定します。値は以下のとおりです。

[常時再計算]: 遡及を通じてエレメントを再計算します。

[再計算しない]: 遡及を通じてエレメントを再計算しません。

[エレメント定義使用] (デフォルト): エレメントを再計算するかどうかを決定するためにエレメント定義が参照されます。

繰越

遡及方法が繰越で、[入力タイプ] フィールドと [エレメント名] フィールドで繰り越すエレメントを指定した場合、このチェックボックスはオンになります。エレメントは、[別エレメントに繰越] チェック ボックスがオフの場合には、そのエレメント自体に繰り越されます。

また、セグメント累計に対してもこのチェック ボックスはオンになり、その場合は変更できません。セグメント累計は、別の支給または控除に繰り越される必要があります。

繰越オプション

遡及プロセス上書きページの [繰越オプション] タブ

遡及プロセス上書き

国:

DEU

ドイツ

遡及プロセス定義 ID:

DE RETRO

Rtr Evnt DEU

遡及方法:

訂正

有効日

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

*有効日:

1998/01/01

31

フォーミュラ エlement:

DE_TX_OVRD_RTRMTHD

+

-

上書きセット

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/2 | 最後

上書きセット番号:

1

☒ 上書きあり

+

-

Element上書き

カスタマイズ | 検索 | 最初 | 1/1 | 最後

Element上書き

繰越オプション

≡

入力タイプ	Element名	別Elementに繰越	繰越先入力タイプ	繰越先Element		
累計	DE_A1_PAYM	<input checked="" type="checkbox"/>	支給	DE_AL_PAYM_R	+	-

[遡及プロセス上書き] - [繰越オプション] タブ

別Elementに繰越

Elementの値を現在の期間の別のElementに繰り越す場合は、このチェック ボックスをオンにします。

- デフォルトの方法が [繰越] で、Elementを繰り越すように指定している場合、[別Elementに繰越] チェック ボックスをオンにして繰越先Elementを指定しない限り、ElementはそのElement自体に繰り越されます。
- デフォルトの方法が [訂正] で、Elementを繰り越すように指定した場合は、このチェック ボックスがオンになり、元のElementの値を受け取るElementを定義する必要があります。
- セグメント累計が選択されていると、このチェック ボックスは自動的にオンになり、ユーザーが変更することはできません。

繰越先入力タイプ

[別Elementに繰越] チェック ボックスをオンにしたときに現在の期間で元のElementの値を受け取るElementのタイプです。値は [控除] と [支給] です。

繰越先Element

元のElementの値を受け取る繰越先Elementの名前を選択します。

例: 訂正遡及 - 繰越例外あり

シナリオ:

- 支給 1 の金額を 10 から 12 に変更、期間 1 に有効日があり、期間 2 で通知します。
- 控除 1 は遡及処理で再計算されないように定義されています。
- 支給 1 + 支給 2 に対するセグメント累計は、現在の期間の支給 2 に繰り越されます。
- その他のエレメント定義:
 - 支給 1 = 労働時間 × 給与レート
 - 控除 1 = セグメント累計の 10%
 - 控除 2 = 支給 1 の 20%
 - セグメント累計 = 支給 1 + 支給 2
 - 年間累計支給 = 支給 1

年間累計控除 = 控除 1 + 控除 2

再計算オプション	カレンダー期間	前回の結果 (古い値)	再計算の結果 (新しい値)	デルタ	古い値を新しい値に置き換えて訂正	繰越 Y/N
	期間 1					
常時再計算	支給 1	200 (20 × 10)	240 (20 × 12)	40	Y	N
再計算しない	控除 1	20	20	0	Y	N
常時再計算	控除 2	40	48	8	Y	N
適用不可	純支給額	140	172		Y	N
適用不可	セグメント累計	200	240	40	Y	Y

再計算オプション	カレンダー期間	前回の結果 (古い値)	再計算の結果 (新しい値)	デルタ	古い値を新しい値に置き換えて訂正	繰越 Y/N
適用不可	年間累計支給	200	240		Y	適用不可
適用不可	年間累計控除	60	68		Y	適用不可

カレンダー期間、現在の結果および遡及調整

カレンダー期間	現在の結果	遡及調整
期間 2		
支給 1	240	なし
支給 2	40	40
控除 1	28	なし
控除 2	48	なし
純支給額	164	なし
セグメント累計	280 (240 + 40)	なし
年間累計支給	480	なし
年間累計控除	144	なし

この例では、支給エレメント、控除エレメント、および累計エレメントの元の値は置き換えられます。この置き換えは、訂正遡及のルールに沿っていますが、例外として、支給 1 のセグメント累計が現在の期間の支給 2 に繰り越されることに注意してください。この点は、標準の訂正方法の例外です。また、支給 2 は支給総額には加算されないため、純支給額の計算には含まれません。

支給 1 に対するセグメント累計の繰越の結果として何が起こるのでしょうか。

- この累計は控除 1 の計算の基礎になるので (控除 1 = 支給 1 と支給 2 のセグメント累計の 10%)、現在の期間に対する累計デルタの繰越により、再計算期間ではなく期間 2 で追加の控除が作成されることになります。
- また控除 1 が再計算期間で計算された場合には、現在の期間に対する累計デルタの繰り越しによって問題が発生します。つまり、同一支給に基づいて控除が 2 回計算されることになります。ただし、控除 1 は**遡及の再計算をしない**ように定義されているので、支給 1 が 200 から 240 に増えても再計算期間に対する新しい控除は作成されません。
- 銀行処理では、前回の計算と再計算との間に純支給額の差があるかどうかを確認され、その差が処理されます。この例の場合、差は 32 です。

例: 繰越遡及 - 訂正ルールに従うように定義された累計あり

シナリオ:

- 支給 1 の金額を 100 から 200 に変更、期間 1 に有効日があり、期間 2 で通知します。
- 支給 2 の金額を 100 から 200 に変更、期間 1 に有効日があり、期間 2 で通知します。
- 控除 1 は、繰越エレメントとして定義され、このエレメント自身に繰り越されます。
- 純支給額累計は、別のエレメントである支給 3 に繰り越されます。
- その他のエレメント定義:
 - 控除 1 = 支給 1 と支給 2 の合計の 10%
 - 年間累計支給 = 支給 1 + 支給 2
 - 年間累計控除 = 控除 1

再計算オプション	カレンダー期間	前回の結果 (古い値)	再計算の結果 (新しい値)	デルタ	古い値を新しい値に置き換えて訂正	繰越 Y/N
	期間 1					
常時再計算	支給 1	100	200	100	適用不可	N

再計算オプション	カレンダー期間	前回の結果 (古い値)	再計算の結果 (新しい値)	デルタ	古い値を新しい値に置き換えて訂正	繰越 Y/N
常時再計算	支給 2	100	200	100	適用不可	N
常時再計算	控除 1	20	40	20	適用不可	Y
適用不可	純支給額	180	360	180	適用不可	Y
適用不可	年間累計支給	200	400		Y	N
適用不可	年間累計控除	20	20			

カレンダー期間	現在の結果	遡及調整
期間 2		
支給 1	200	なし
支給 2	200	なし
支給 3	180	180
控除 1	60 (40 + 20)	20
純支給額	520	なし
年間累計支給	800	なし
年間累計控除	80	なし

この例では、以下の処理が行われます。

- 純支給額のデルタ (180) が作成されます。
- 残高累計 (支給 1 と支給 2 の合計の年間累計) は再計算期間内で置き換えられます。これは、デフォルトの遡及方法が繰越であっても訂正ルールに従うように定義されているためです。

期間 1 が再計算される場合は、期間 2 の支給 3 への調整値として純支給額のデルタが取得されます。他の処理が実行されない場合、期間 2 の年間累計は不正確になります。なぜなら、年間累計を構成するいずれの支給も繰り越されないからです。ただし、年間累計は期間 1 で訂正されるので、期間 2 での残高は、800 として正しく記録されます。また、控除 1 のデルタは、期間 2 に繰り越されます。これによって、期間 2 の年間累計控除残高が訂正されます。

関連項目:


第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、 269 ページ

第 10 章、「累計の設定」、 367 ページ

トリガ イベント ID の定義

遡及イベント定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバルペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、[遡及イベント定義])。

遡及イベント定義			
国:	CYM	クイーン諸島	
トリガ イベント ID:	KORETRO		
*名称:	Retro Event Definition	略称:	KORETRO
*遡及プロセス定義 ID:	KOPROCFN		<input type="checkbox"/> 休暇欠勤イベント
	 Retro Process Definition		

遡及イベント定義ページ

遡及処理を起動するオンライン データの変更を追跡するために使用するメカニズムを**トリガ**と呼びます。グローバル ペイロールでトリガを設定するには、データ変更に応じて遡及処理を起動するレコードとフィールドを指定し、それらの変更を処理するために使用する遡及プロセス定義を定義します。

参照: 第 30 章、「トリガの設定」、 1111 ページ。

1. 遡及イベント定義ページで、遡及プロセス定義ページで定義した各遡及処理をトリガ イベント ID に関連付けます。

2. トリガ定義ページで、データが遡及的に変更または更新された場合に遡及処理を実行する際のトリガとなるレコードとフィールドを指定します。
3. トリガ定義ページと "トリガ定義" のフィールド値ページで、ステップ 2 で指定したレコードとフィールドを、ステップ 1 で定義したトリガ イベント ID のいずれかに関連付けます。各 ID は、プロセス定義にリンクされているため、フィールドにあるこれらのレコードのいずれかが変更または更新された場合、正しい遡及プロセスを自動的に適用できます。

注意: トリガ定義ページと "トリガ定義" のフィールド値ページについては、「トリガの設定」の章で説明されているので、このセクションでは遡及イベント定義ページの使用方法についてのみ説明します。

参照: 第 30 章、「トリガの設定」、遡及トリガの設定、1133 ページ。

国	検索画面で指定した国が表示されます。このフィールドは表示専用です。
トリガ イベント ID	<p>検索画面で指定したトリガ イベント ID が表示されます。このフィールドは表示専用です。</p> <p>各トリガ イベント ID と遡及プロセス定義ページで定義したプロセスのうち 1 つを関連付けます。</p>
遡及プロセス定義 ID	<p>遡及プロセス定義ページで定義したプロセスを選択し、トリガ イベント ID に関連付けます。</p> <hr/> <p>注意: 同じイベントに対して、国ごとに異なるプロセスを指定することができます。</p> <hr/>

休暇欠勤イベント

トリガ イベント ID が休暇欠勤だけを対象とする場合は、このチェック ボックスをオンにして不要なカレンダー処理が行われないようにします。このチェック ボックスをオンにしたときは、遡及制限の確認後に適用される最初の休暇欠勤カレンダーから処理が開始され、初期の給与計算カレンダーは無視されます。

たとえば、会社 A は、2 つのカレンダーで構成されるカレンダーグループを使用して月に一度給与計算処理を実行します。1 つ目のカレンダーは給与計算用、2 つ目のカレンダーは休暇欠勤用です。この順序は、常に維持されています。現在、1 月の処理が完了したところであると想定します。給与計算カレンダーでは、1 月の処理が行われますが、休暇欠勤カレンダーでは 2 月の給与計算カレンダーにデータを供給するための処理が 1 月の処理で行われます。現在の期間は 2 月です。1 月の休暇欠勤データに変更がありました。休暇欠勤処理を 1 月にさかのぼって行う遡及トリガが作成されます。この遡及トリガは、[休暇欠勤イベント] チェック ボックスがオンに設定された遡及イベント ID を参照します。2 月の給与計算処理が実行される際、遡及処理は 1 月にさかのぼります。1 つ目の、唯一再計算されるカレンダーが、休暇欠勤カレンダーです。給与計算カレンダーは、遡及処理では無視されます。

注意: 休暇残数累計は、各給与計算期間の終わりに常に更新 (置換) される必要があります。つまり、デフォルトの方法が "繰越" である場合は、累計定義のページで累計を設定する際に休暇残数累計の動作を "訂正を使用" に定義しておく必要があります。

注意: 特定の期間に対するカレンダーの処理順序や、休暇欠勤カレンダーと給与計算カレンダーの関係、休暇欠勤関連のどのトリガ定義を使用しているか、どの遡及イベントが参照されているかなどに応じて、このチェック ボックスをオンにした場合の影響は異なります。

関連項目:

[第 30 章、「トリガの設定」、1111 ページ](#)

[第 11 章、「休暇欠勤管理について」、387 ページ](#)

[第 10 章、「累計の設定」、367 ページ](#)

支給元レベルでの遡及処理の遡及期間制限および対象期間制限の定義

遡及制限ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[組織]、[支給元]、[遡及制限])。

支給元: GN1PYENT01 Pay Entity GN1PYENT01

☒ 遡及処理実行 ☐ 累計調整を保持 ☐ 異なる支給グループ間のデッドライン越可

遡及期間の制限

☒ 制限なし

☐ 月単位で制限
月数:

☐ 年単位で制限
年数:

遡及期間制限の開始月:
遡及期間制限の開始日:

遡及処理対象期間の制限

☒ 制限なし

☐ 月単位で制限
月数:

☐ 年単位で制限
年数:

遡及処理対象期間の開始月:
遡及処理対象期間の開始日:

遡及制限ページ

遡及方法と遡及処理を起動するイベントの定義が終了したら、遡及処理に対する遡及期間制限と対象期間制限を支給元レベルで指定する必要があります。これによって、処理済みのカレンダーを再計算するときに遡及できる期間と、受給者が非アクティブまたは雇用終了となった後に遡及処理が可能な期間が指定されます。

注意: 支給元レベルで定義した遡及期間制限および対象期間制限を、支給元 - 遡及制限割当ページを使用して受給者レベルで上書きすることができます。

遡及期間の制限

このグループ ボックスのフィールドを使用して、過去にさかのぼって再処理できるカレンダー期間数の制限を設定します。

遡及処理できる期間は、遡及制限ページで定義された遡及期間制限と遡及トリガ有効日を比較して決定されます。トリガ有効日が遡及期間制限日より前の日付の場合、遡及期間制限日を使用して最初の遡及期間が決定されます。遡及期間制限日がトリガ有効日より前の日付の場合、トリガ日付を使用して処理対象の最初の遡及期間が決定されます。

遡及処理実行

遡及処理を支給元レベルで有効にする場合にオンにします。選択内容を受給者レベルで上書きできます。

累計調整を保持

遡及処理によって以前の期間にさかのぼって累計が再計算される際に、累計残高の調整を保持する場合にオンにします。PeopleSoft グローバル ペイロールでは、累計残高の再計算時に調整金額が自動的に反映されないため、このオプションが必要となる場合があります。たとえば、このチェック ボックスをオンにし、累計値 1000 に対して値 100 の調整が行われた以前の期間を再処理すると、残高は元の累計値とユーザーが入力した調整値の合計として計算されて 1100 の値が返されます。このチェック ボックスをオンにしていない場合は、調整値は無視されて残高 1000 が返されます。

注意: 累計残高の管理方法として望ましいのは、累計を直接調整するのではなく、累計に算入されるエレメント (支給、控除、休暇付与または休暇取得) を訂正することです。これは、同じエレメントに対する計算に基づいて期間累計値や他の値を格納する累計は自動的に更新されず、その結果、計算エラーやレポート エラーが発生する可能性があるためです。

注意: 累計残高を調整するには、累計残高調整ページを使用します。

参照: 第 10 章、「累計の設定」、累計の調整、381 ページ。

異なる支給グループ間のデルタ繰越可

デフォルトでは、このチェック ボックスはオフで、遡及方法が繰越の場合は標準マッチング条件を適用して、遡及デルタを繰り越すかどうか判断されます。言い換えると、遡及デルタは、以下の場合にのみ繰り越されます。

- 繰り越されるデルタの支給グループが、現在のカレンダーの支給グループと一致する。
- 繰り越されるデルタの支給元が、現在のカレンダーの支給元と一致する。
- 繰り越されるデルタの実行タイプが、現在のカレンダーの実行タイプと一致する。

この条件は上書きすることができます。この条件を上書きすると、現在の期間の実行タイプがデルタの実行タイプと一致しない場合は、実行タイプ ページの [遡及調整ソース] グループ ボックスに追加の実行タイプを表示することで、遡及デルタを自動的に繰り越すことができます。ただし、他の条件は全て満たす必要があります。

参照: 第 16 章、「カレンダーの使い方」、実行タイプの定義、581 ページ。

- 遡及デルタの処理順序タイム スタンプが、現在の受給者処理ステータス レコードの処理順序タイム スタンプより前である。

繰り越されるデルタの支給グループが現在のカレンダーの支給グループと一致するという条件を上書きするには、[異なる支給グループ間のデルタ繰越可] チェック ボックスをオンにします。これにより、デルタは、条件に一致しない支給グループに自動的に繰り越されます。

注意: [異なる支給グループ間のデルタ繰越可] チェック ボックスをオンにせず、支給グループが一致しないため遡及デルタを繰り越すことができない場合は、デルタを繰り越す支給グループを未処理遡及デルタ ページで**手動**で選択することができます。同様に、デルタの実行タイプが現在のカレンダーの実行タイプと一致しないため (または、実行タイプ ページで現在のカレンダーの実行タイプを有効な実行タイプのリストに追加していないため) デルタを繰り越すことができない場合は、未処理遡及デルタ ページで正しい実行タイプのカレンダーに遡及デルタを**手動**で繰り越すことができます。

注意: 支給グループと実行タイプに関するマッチング条件のみ上書きすることができます。支給元マッチングまたは処理順序タイムスタンプに関する条件を上書きすることはできません。支給元が一致しない場合や、遡及デルタの処理順序タイムスタンプが現在の受給者処理ステータス レコードの処理順序タイムスタンプより前でない場合は、デルタを自動的に繰り越すことも手動で繰り越すこともできません。

参照: 第 33 章、「遡及処理の定義」、未処理遡及デルタの管理、[1278 ページ](#)。

制限なし

このオプションを選択した場合は、トリガ有効日を含む最初の期間から遡及処理が開始され、処理が進められます。

注意: [制限なし] を選択しても、さかのぼることができる期間に制限がないということではありません。遡及処理でさかのぼることができる期間は、[遡及処理の開始日] の日付によって制限されます。

参照: 第 33 章、「遡及処理の定義」、遡及期間と繰越遡及期限の設定、[1240 ページ](#)。

月単位で制限、月数

月単位で制限を定義するには、このオプション ボタンを選択し、さかのぼって計算できる月数を入力します。受給者が属する現在のカレンダー グループの最初のカレンダーの開始日から始めて、最大何か月さかのぼるかが決定されます。

年単位で制限、年数

年単位で制限を定義するには、このオプション ボタンを選択し、さかのぼって計算できる年数を入力します。[遡及期間制限の開始月] および [遡及期間制限の開始日] と共に、この制限年数によって、遡及処理時にさかのぼる期間が決定されます。

たとえば、[年数] が [2]、[遡及期間制限の開始月] が [06] (6 月)、[遡及期間制限の開始日] が [01]、および現在の期間の開始日が 1999 年 4 月 1 日の場合、遡及期間制限日は 1997 年 6 月 1 日となります。つまり、現在の期間の開始日から 2 年間さかのぼることができますが、その年の 6 月 1 日より前にはさかのぼれません。

遡及期間制限の開始月

遡及期間制限として使用するカレンダー月を選択します。

遡及期間制限の開始日

遡及期間制限として使用する日を選択します。

例 1: 月数を基準として使用して、再計算する最初の遡及期間を決定する場合

トリガ有効日	現在のカレンダー期間	遡及期間制限	最初の遡及期間
1999 年 2 月 15 日	1999 年 6 月 1 日～ 1999 年 6 月 30 日	2 か月 = 1999 年 4 月 1 日	1999 年 4 月 1 日～ 1999 年 4 月 30 日

グローバル ペイロールでは、現在のカレンダー期間開始日である 1999 年 6 月 1 日から 2 か月さかのぼって遡及期間制限が決定され、制限日は 1999 年 4 月 1 日となります。遡及期間制限日とトリガ有効日が比較されます。トリガ有効日が遡及期間制限日より前なので、遡及期間制限日を使用して最初の遡及期間が決定されます。この場合は、2 期間が再計算されます。4 月 (1999 年 4 月 1 日～ 1999 年 4 月 30 日) および 5 月 (1999 年 5 月 1 日～ 1999 年 5 月 31 日) です。

例 2: 年数、開始月、開始日を基準として使用して、再計算する最初の遡及期間を決定する場合 (トリガ有効日が遡及期間制限日より後の場合)

トリガ有効日	現在のカレンダー期間	遡及期間制限	最初の遡及期間
1998 年 6 月 30 日	1999 年 6 月 1 日～ 1999 年 6 月 30 日	年数 = 1、開始月 = 3、開始日 = 15 (1998 年 3 月 15 日)	1998 年 6 月 1 日～ 1998 年 6 月 30 日

開始年は最初のカレンダーの開始日の年によって決定されるため、遡及期間制限は、1 年さかのぼり、定義された開始月と開始日を適用することで決定されます。その結果、遡及期間制限日は 1998 年 3 月 15 日になります。その制限日とトリガ有効日が比較され、この例では、トリガ有効日が遡及期間制限日より後のため、トリガ有効日によって最初の遡及期間が決定されます。この場合は、12 期間が再計算されます。

例 3: 年数、開始月、開始日を基準として使用して、再計算する最初の遡及期間を決定する場合 (トリガ有効日が遡及期間制限日より前の場合)

トリガ有効日	現在のカレンダー期間	遡及期間制限	最初の遡及期間
1998 年 2 月 28 日	1999 年 6 月 1 日～ 1999 年 6 月 30 日	年数 = 1、開始月 = 3、開始日 = 15 (1998 年 3 月 15 日)	1998 年 3 月 1 日～ 1998 年 3 月 31 日

開始年は最初のカレンダーの開始日の年によって決定されるため、遡及期間制限は、1 年さかのぼり、定義された開始月と開始日を適用することで決定されます。その結果、遡及期間制限日は 1998 年 3 月 15 日になります。その制限日とトリガ有効日が比較され、この例では、トリガ有効日が遡及期間制限日より早い日付のため、遡及期間制限日によって最初の遡及期間が決定されます。この場合は、15 期間が再計算されます。

遡及処理対象期間の制限

このグループ ボックスのフィールドを使用して、受給者が雇用終了または非アクティブとなった後も遡及データの処理を継続できる期間を指定します。

遡及処理実行

このチェック ボックスの選択によって、この支給元で遡及を処理するかどうかが決まります。選択内容を受給者レベルで上書きできます。

制限なし

[制限なし] をオンにすると、この支給元に属する非アクティブな受給者に対して無制限に遡及が行われます。ただし、対象期間制限はなくなっても、非アクティブの受給者はまだ遡及期間制限によって制限されます。

月単位で制限、月数

月単位で対象期間を定義するには、このオプションをクリックし、受給者が非アクティブとなった後に遡及の計算を継続する月数を入力します。最大月数は、最後の職務が "非アクティブ" になった日付を使って計算されます。

年単位で制限、年数

年単位で対象期間を定義するには、このオプションをクリックし、非アクティブになった日以降の遡及処理を行う年数を入力します。[遡及処理対象期間の開始月] および [遡及処理対象期間の開始日] と共に、この年数によって、非アクティブの日付から遡及処理の対象になる期間が決まります。

遡及処理対象期間の開始月

[年数] フィールドに入力した年と連携して、対象期間制限として使用されるカレンダー月を入力します。

遡及処理対象期間の開始日

[年数] フィールドおよび [遡及処理対象期間の開始月] フィールドで指定した値と共に、対象期間制限として使用される日付を入力します。たとえば、[年数] が [2]、[遡及処理対象期間の開始月] が [06] (6 月)、[遡及処理対象期間の開始日] が [01]、および終了日が 1999 年 1 月 1 日の場合、遡及処理の制限は 2001 年 6 月 1 日になります。この例では、非アクティブの日からの 2 年間は遡及できますが、その年の 6 月 1 日を過ぎると遡及できません。

例 1: 月数を基準として使用して、再計算する最初の遡及期間を決定する場合 (カレンダー期間が対象期間制限の範囲内の場合)

非アクティブ日	現在のカレンダー期間	対象期間制限	遡及処理の可否
1999 年 1 月 1 日	1999 年 6 月 1 日～ 1999 年 6 月 30 日	12 か月 = 2000 年 1 月 31 日	可

対象期間制限は、非アクティブとなった日から 12 か月先の日付になります。現在のカレンダー期間は対象期間制限の範囲内なので、遡及処理が行われます。このとき、遡及トリガが遡及期間制限と比較され、処理を継続するかどうか判断されます。

例 2: 月数を基準として使用して、再計算する最初の遡及期間を決定する場合 (カレンダー期間が対象期間制限の範囲を超えている場合)

非アクティブ日	現在のカレンダー期間	対象期間制限	遡及処理の可否
1999 年 1 月 31 日	1999 年 6 月 1 日～ 1999 年 6 月 30 日	3 か月 = 1999 年 4 月 30 日	不可

対象期間制限は、非アクティブとなった日から 3 か月先の日付になります。この例では、現在のカレンダー期間が対象期間制限の範囲を超えているので、遡及処理は行われません。遡及トリガは処理されず、使用済みとされます。

受給者レベルでの遡及処理制限の定義

遡及制限割当ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[受給者レベル上書き]、[遡及制限割当]、[遡及制限割当])。

遡及制限割当

Gerrit Mastenbroek

個人 ID: KNG003

遡及処理の開始日:

2000/04/01

31

☒ 支給元の遡及制限を使用

☐ 遡及処理実行

遡及期間制限

☒ 制限なし

☐ 月単位で制限

月数:

☐ 年単位で制限

年数:

遡及期間制限の開始月:

遡及期間制限の開始日:

対象期間制限

☒ 制限なし

☐ 月単位で制限

月数:

☐ 年単位で制限

年数:

遡及処理対象期間の開始月:

遡及処理対象期間の開始日:

遡及制限割当ページ

注意: このページのフィールドは、遡及制限ページのフィールドとほとんど同じです。共有されるフィールドの定義を確認するには、遡及制限ページに戻ります。このセクションでは、遡及制限割当ページに固有のフィールドについてのみ説明します。

遡及処理の開始日

PeopleSoft グローバル ペイロールで受給者の処理を開始する日です。システムによって設定されますが、上書きもできます。この日付より前の遡及処理は行われません。受給者が複数の職務を兼務している場合は、適切な日付が設定され、全ての職務が計算対象になっていることを確認してください。

注意: このフィールドで最初に使用されるデフォルト値は、受給者の採用日です。ただし、受給者の採用日がその後変更されても、このフィールドは自動的に更新されません。採用日を新しい採用日と同じにするには、このフィールドを手動で更新する必要があります。

支給元の遡及制限を使用

受給者が所属する支給元に定義された遡及制限を使用する場合は、オンにします。このチェック ボックスがオンの場合は、支給元定義からの値が使用され、[遡及処理の開始日] 以外のフィールドには入力できません。このチェック ボックスがオフの場合は、[遡及処理実行] チェック ボックスが選択可能になり、支給元レベルで入力された値ではなく、受給者レベルで入力された値が使用されます。

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

1277

遡及処理実行

遡及処理を行う場合は、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにした場合は、[遡及期間制限] グループ ボックスと [対象期間制限] グループ ボックスの中のフィールドが入力可能になります。

関連項目:

第 33 章、「遡及処理の定義」、支給元レベルでの遡及処理の遡及期間制限および対象期間制限の定義、 1270 ページ

未処理遡及デルタの管理

未処理遡及デルタ ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[未処理遡及デルタ])。

未処理遡及デルタ

ID:KWG103Renato Casanova雇用レコード:0

支給グループ:KW21カレンダー ID:KWM200602PW21 REGカレンダーグループ ID:KW M200604

カレンダー実行 ID:KW M200602セグメント番号:1雇用形態:EMP

セグメント データ

検索

セグメント:1

支給キー番号 1:支給キー番号 2:

支給キー番号 3:支給キー番号 4:

選択デルタ

☐ 全てのデルタを選択

☒ カレンダーに適用

☐ 処理なし

ターゲット支給グループ:ターゲット カレンダー:適用

未処理デルタ

カスタイズ | 検索 | 全件表示 |

繰越オプション | 値 | ユーザー フィールド |

選択	エレメント名	デルタ番号	マッチング処理	金額	通貨	繰越先支給グループ	繰越先カレンダー	繰越先入力タイプ
<input type="checkbox"/>	CH_00_72	1	デフォルトのマッチング処理	6443.00	CHF			支給

未処理遡及デルタ ページ

マッチング条件: 未処理遡及デルタの管理

繰越遡及、または訂正遡及を繰越例外と共に使用する際は、以下の一致条件を満たす場合に、再計算されたカレンダーからの調整値が現在のカレンダーに自動的に繰り越されます。

従業員 ID と雇用レコード番号の各組み合わせにおいて、以下の条件が満たされる場合です。

- 繰り越されるデルタの支給グループが、現在のカレンダーの支給グループと一致する。

注意: この条件は、遡及制限ページの [異なる支給グループ間のデルタ繰越可] オプションを選択して上書きできます。この条件を上書きすると、デルタに関連付けられた支給グループが受給者の現在の支給グループと一致しない場合でも、遡及デルタは現在の期間に自動的に繰り越されます。ただし、他の条件は全て満たす必要があります。

参照: 第 33 章、「遡及処理の定義」、支給元レベルでの遡及処理の遡及期間制限および対象期間制限の定義、1270 ページ。

- 繰り越されるデルタの支給元が、現在のカレンダーの支給元と一致する。
- 繰り越されるデルタの実行タイプが、現在のカレンダーの実行タイプと一致する。

注意: この条件は、実行タイプ ページの [遡及調整ソース] グループ ボックスに追加の実行タイプを入力して上書きできます。この条件を上書きすると、受給者の現在の実行タイプに関連付けられた実行タイプについては、遡及デルタが現在の期間に自動的に繰り越されます。ただし、他の条件は全て満たす必要があります。

参照: 第 16 章、「カレンダーの使い方」、実行タイプの定義、581 ページおよび第 33 章、「遡及処理の定義」、支給元レベルでの遡及処理の遡及期間制限および対象期間制限の定義、1270 ページ。

- 遡及デルタの処理順序タイム スタンプが、現在の受給者処理ステータス レコードの処理順序タイム スタンプより前である。
- これらの条件が一致しない場合は、遡及デルタの作成元のカレンダーから適切な繰越先カレンダーに対して、未処理遡及デルタ ページで調整値を手動で繰り越すことができます。このページでは、以下の操作を行います。
 - 繰越先カレンダーのカレンダー ID と支給グループを指定します。繰越先支給グループの支給元は、元のカレンダーと同じである必要があります。
 - デルタをほかのエLEMENTへ繰り越すよう指定します (必要時のみ)。
 - そのデルタを繰り越さない場合は、処理されないように設定します。

例: 遡及デルタを手動で繰り越す場合

現在の期間の初めに、受給者が支給グループ A から支給グループ B に移ったため、前回の期間が遡及によって再計算される必要があるとします。支給グループ B の現在のカレンダーは、調整値を取り出す元のカレンダー、つまり支給グループ A のカレンダーとは既に一致しなくなっています。支給グループが一致しなくなったこのような状況では、遡及デルタがどこに繰り越されるか (繰越先) を指定する必要があります。

セグメント データ

[セグメント データ] グループ ボックスのフィールドを使用して、未処理の遡及デルタの繰越元支給グループ、カレンダー ID、カレンダー グループ ID、および支給キーを指定します。

支給グループ 未処理遡及デルタが発生した給与計算実行に関連付けられた支給グループが表示されます。

カレンダー ID 未処理遡及デルタが発生した給与計算実行に関連付けられたカレンダーが表示されます。

カレンダー グループ ID 未処理遡及デルタが発生した給与計算実行に関連付けられたカレンダー グループが表示されます。

支給キー番号 1 ～ 支給キー番号 4 支給キーの有効値は 1 から 4 です。

選択デルタ

このグループ ボックスでは、未処理遡及デルタに対する処理を指定します。

全てのデルタを選択 このチェック ボックスをオンにして [適用] ボタンをクリックし、[未処理デルタ] グループ ボックスのデルタ行を全て選択します。次に、[カレンダーに適用] オプション ボタンを選択した後、含める必要のない行のチェック ボックスをオフにします。

カレンダーに適用、ターゲット支給グループ、ターゲット カレンダー [カレンダーに適用] を選択した場合、遡及デルタは右側のフィールドに入力するターゲット支給グループとターゲット カレンダーに組み入れられます。この処理は、通常のカレンダー マッチングより優先されます。

[ターゲット支給グループ] フィールドで、遡及デルタに対する繰越先のカレンダー支給グループを選択します。元のカレンダーと同じ支給元を持つ支給グループから選択できます。

[ターゲット カレンダー] フィールドで、遡及デルタに対する繰越先のカレンダー ID を選択します。繰越先の支給グループに関連付けられたオープンなカレンダーから選択できます。

処理なし このオプション ボタンを選択すると、未処理遡及デルタは、どのカレンダーにも遡及調整として組み入れられません。ユーザーによっていったん保存されると、これらのデルタは処理済みとされ、その後ページに表示されることはありません。

適用 [適用] ボタンをクリックすると、[未処理デルタ] グループ ボックスの遡及デルタは全て選択されます。[未処理デルタ] グループ ボックスの [マッチング処理] には、[選択デルタ] グループ ボックスで指定した処理が表示されます。

このセクションで使用する共通フィールド

選択 このチェック ボックスをオン/オフにすることで、この列の遡及デルタを選択、または選択解除します。

デルタ番号 セグメント内のそれぞれの支給または控除について遡及デルタを個別に識別するのに使用します。たとえば、支給 1 (E1) に 3 つの遡及デルタ インスタンスがあり、支給 2 (E2) に 2 つの遡及デルタ インスタンスがある場合、E1 には 1、2、3 のデルタ番号が割り当てられ、E2 には 1 と 2 のデルタ番号が割り当てられます。

マッチング処理 未処理遡及デルタの処理方法を選択します。有効値は、[デフォルトのマッチング処理]、[カレンダーに適用]、および [処理なし] です。

金額 エレメントのデルタの金額が表示されます。

通貨 エレメントのデルタの通貨が表示されます。

繰越オプション

[未処理デルタ] の [繰越オプション] タブを選択します。

繰越先支給グループ このフィールドには、元のカレンダーと同じ支給元を持つ支給グループの値が表示されます。デルタの繰越先支給グループを選択します。

繰越先カレンダー 選択された支給グループに関連付けられたオープンなカレンダーが表示されます。デルタの繰越先カレンダーを選択します。

繰越先入力タイプ [支給] または [控除] を選択します。

繰越先エレメント 1 つ前のフィールドで選択された入力タイプに基づいて、このフィールドに値が表示されます。ここで、デルタを別のエレメントに繰り越すように指定できます。

値

[未処理デルタ] の [値] タブを選択します。

未処理遡及デルタ

ID: KWG103 Renato Casanova 雇用コード: 0

支給グループ: KW21 カレンダー ID: KWM200602PW21REG カレンダー グループ ID: KW M200604

カレンダー実行 ID: KW M200602 セグメント番号: 1 雇用形態: EMP

セグメント データ

検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

セグメント: 1 支給キー番号 1: 支給キー番号 2: 支給キー番号 3: 支給キー番号 4:

選択デルタ

☐ 全てのデルタを選択

☒ カレンダーに適用 ターゲット支給グループ: ターゲット カレンダー: 適用

☐ 処理なし

未処理デルタ

加工サイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

編集オプション

値 ユーザー フィールド

選択	エレメント名	デルタ番号	マッチング処理	金額	通貨	ユニット	ベース
<input type="checkbox"/>	CH_00_72	1	デフォルトのマッチング処理	6443.00	CHF		

[未処理デルタ] - [値] タブ

ユニット この値は、エレメントのコンポーネントです。

ベース この値は、エレメントに対するデルタ金額のコンポーネントです。

ユーザー フィールド

[未処理デルタ] の [ユーザー フィールド] タブを選択します。

未処理遡及デルタ

ID:KWG103Renato Casanova

雇用コード:0

支給グループ:KW21

カレンダー ID:KWM200602PW21 REG

カレンダー実行 ID:KW M200602

セグメント番号:1

雇用形態:EMP

カレンダーグループ ID:KW M200604

セグメント データ

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

セグメント:1

支給キー番号 1:

支給キー番号 2:

支給キー番号 3:

支給キー番号 4:

遡及デルタ

☐ 全てのデルタを選択

☒ カレンダーに適用

ターゲット支給グループ:

ターゲット カレンダー:

適用

☐ 処理なし

未処理デルタ

加減サイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

編集オプション | 値 | ユーザー フィールド

選択	エレメント名	デルタ番号	マッピング処理	金額	通貨	ユーザー フィールド 1	ユーザー フィールド 2	ユーザー フィールド 3	ユーザー フィールド 4	ユーザー フィールド 5	ユーザー フィールド 6
<input type="checkbox"/>	CH_00_72	1	デフォルトのマッピング処理	6443.00	CHF						

[未処理デルタ] - [ユーザー フィールド] タブ

このエレメントに設定されたユーザー フィールドが表示されます。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、支給エレメントのユーザー フィールドの定義、 287 ページ

遡及処理に影響するその他のページ

この章で既に説明したページにも、遡及処理に影響するページが複数あります。これらのページは、一般設定ページとカレンダー設定ページの 2 つのタイプに分類されます。以下の表で、これらのページについて説明します。

ページのタイプ	ページ名	説明
一般設定	支給 - 計算	[遡及再計算オプション] を [常時再計算] または [再計算しない] にすることにより、遡及処理で再計算する支給を指定します。

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

1283

ページのタイプ	ページ名	説明
	控除 - 計算	[遡及再計算オプション] を [常時再計算] または [再計算しない] にすることにより、遡及処理で再計算する控除を指定します。
	<ul style="list-style-type: none">• 支給 - 自動作成累計• 控除 - 自動作成累計	<p>遡及方法が繰越の場合、[遡及処理] グループ ボックスの [訂正を使用] チェック ボックスをオンにすると、残高累計の処理を上書きして、残高累計を訂正累計として処理できます。</p> <p>[訂正を使用] チェック ボックスがオンの場合、再計算期間の累計が更新されます。</p>
	支給元 - 処理詳細	<p>支給キーを定義します。</p> <p>支給キーの値がセグメントに適用されると、遡及調整で支給キーの値が考慮されます。</p>

ページのタイプ	ページ名	説明
カレンダー設定	実行タイプ	<ul style="list-style-type: none">遡及トリガの処理が可能な実行タイプを指定します。 <p>実行タイプは、カレンダーグループに関連付けられたカレンダーに関連付けられます。カレンダー グループの少なくとも 1 つのカレンダーが遡及トリガを処理するように定義されている場合、カレンダー グループでは、実行タイプに定義された方法が遡及トリガを処理するデフォルトの方法として使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none">未処理の遡及デルタについての一致する実行タイプ条件を上書きします。
	カレンダー - 定義	カレンダー実行で処理する受給者を選択します。遡及トリガ (アクティブまたは非アクティブ) を持つ受給者を選択できます。

ページのタイプ	ページ名	説明
	カレンダー グループ	<p>実行タイプのデフォルト値に基づいて遡及トリガを処理するかどうかを指定します。</p> <p>少なくとも 1 つのカレンダーで遡及トリガが処理される場合は、[遡及トリガの処理] チェック ボックスがオンになります。それ以外の場合にはこのチェック ボックスはオフになります。遡及トリガを処理しないようオフにすることもできます。ただし、このチェック ボックスがデフォルトでオフになっている場合、遡及トリガを処理するためにこれをオンにすることはできません。</p>

複雑な遡及処理について

このセクションでは、以下のような複雑な状況において PeopleSoft グローバル ペイロールによって実行される遡及処理の方法について詳しく説明します。

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- 分割と遡及
- 繰越遡及での支給キーの使い方
- 遡及とポジティブ入力
- 遡及削除
- 遡及追加
- 通貨変更

分割と遡及

分割は、以下のような場合に遡及処理に影響します。

- 分割された期間が遡及で再計算されていて、元の計算の分割日が再計算の分割日と同一日でない場合

これは "セグメントの不一致" と呼ばれ、遡及デルタがどのように計算されるかに影響します。

- 遡及デルタが分割またはスライスされた期間に繰り越される場合

注意: 分割は、[遡及再計算オプション] の [再計算しない] オプションの管理方法にも影響します。

参照: 第 32 章、「分割の定義」、1189 ページ。

セグメントの一致および不一致の場合のデルタの計算

PeopleSoft グローバル ペイロールでのデルタの計算方法は、前回の期間の分割日と支給キーが再計算期間での分割日と支給キーに一致するかどうかによって変わります。

セグメントが一致する場合

セグメント日が一致し、支給キーが同じ場合は、元のセグメントの再計算により各セグメントの新しい値が求められ、各支給エレメントに対して新しい値から古い値を減算することにより遡及デルタが求められ、新しい結果が出力テーブルに書き込まれます。このセクションの「例 1: セグメントが一致する遡及」を参照してください。

セグメントが一致しない場合

セグメントが一致しない場合、古い値と新しい値は別々のセグメントに属しているとして処理されます。

- 前回の計算で存在した各セグメントに対して取り消しセグメントが作成され、その後、新しい再計算セグメントが作成されます。
- 取り消しセグメントでは総額/純額処理が行われないため、結果はありません。出力結果テーブルに書き出される結果は、デルタおよび残高累計に対するものだけです。デルタを計算するために、新しい値は 0 と仮定されます (デルタ = 新しい値 [0] - 古い値)。

新しい再計算セグメントでは総額/純額処理が行われ、新しい値が生成されます。新しい値は、出力結果テーブルに書き出されます。デルタを計算するために、古い値は 0 と仮定されます (デルタ = 新しい値 - 古い値 [0])。

参照: 第 32 章、「分割の定義」、1189 ページおよび第 14 章、「組織構造の定義」、519 ページ。

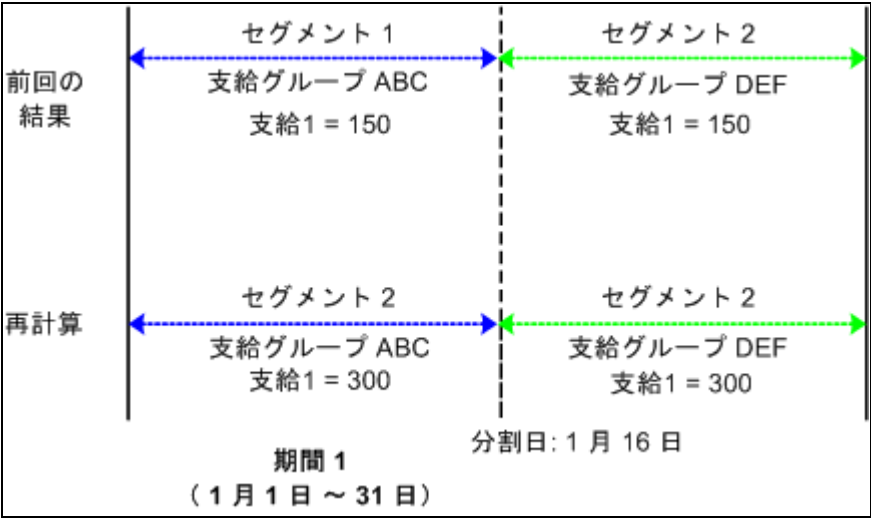
例 1: セグメントが一致する遡及

再計算期間のセグメント日が元の期間のセグメント日と一致する場合、遡及処理は簡単です。遡及が、分割された期間にさかのぼって行われる例を以下に示します。

シナリオ:

- 元の 1 月の支給期間は支給グループの変更のために分割され、この変更は 1 月 16 日に有効になります。
- 1 月の支給期間は、支給 1 が 300 から 600 に変更されたため、遡及に対して再計算される必要があります、この変更は 1 月 1 日に有効になります。

次の図は、上記のシナリオを示しています。



セグメントが一致する遡及

期間 1
V1R1

期間 1
セグメント 1 (1 月 1 日～ 15 日)/支給グループ ABC 支給 1 = 150 セグメント 2 (1 月 16 日～ 31 日)/支給グループ DEF 支給 1 = 150
V1R2
セグメント 1 (1 月 1 日～ 15 日)/支給グループ ABC 支給 1 = 300 セグメント 2 (1 月 16 日～ 31 日)/支給グループ DEF 支給 1 = 300 デルタ = 150、セグメント 1 (支給グループ ABC) デルタ = 150、セグメント 2 (支給グループ DEF)

1 月の支給期間が遡及で再処理される際に、元の分割日は保存されます。これらのセグメントのデルタを求めるために、最初にセグメント1 とセグメント 1、セグメント 2 とセグメント 2 が照合されます。次に、それぞれのセグメントの支給 1 の新しい値から古い値が減算されます (支給 1 は、比例配分されるように定義されています)。分割のない遡及の場合と同じように、期間内の各セグメントは再計算され、各セグメントの新しい値が出力結果テーブルに書き込まれます。

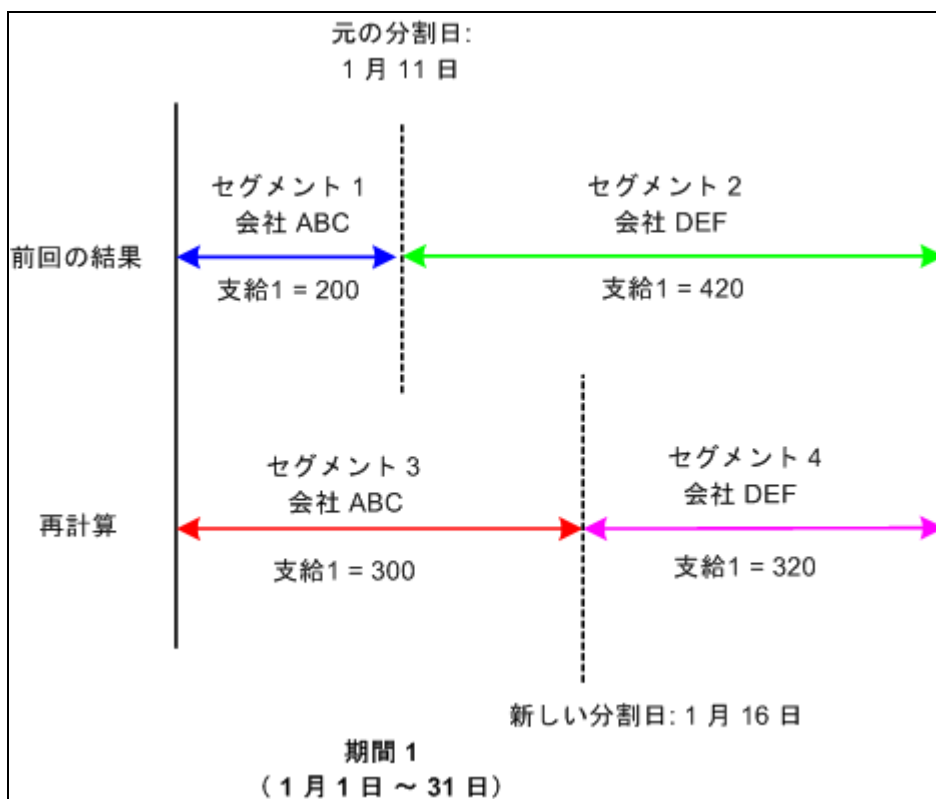
注意: この例と後続の例では、元のカレンダーと計算済みのカレンダーに V1R1、V1R2 などのバージョン番号とレビジョン番号が付けられ、カレンダー期間の再計算が管理されます。

参照: 第 33 章、「遡及処理の定義」、再計算カレンダーの管理、 1225 ページ。

例 2: セグメントが一致しない遡及

再計算期間のセグメント日が前回の期間のセグメント日と一致しない場合は、既に「分割の一致および不一致の場合のデルタの計算」で説明した方法で遡及デルタが計算されます。

遡及が、分割された期間にさかのぼって行われる例を以下に示します。この例では、遡及時にこの支給期間が再処理される際に、前回の分割日は次のように変更されます。



セグメントが一致しない遡及

シナリオ:

- 受給者が 1 月 11 日を有効日として会社 ABC から会社 DEF に移ったため、元の 1 月の支給期間は分割されます。
- 受給者の会社変更の有効日が 1 月 11 日から 1 月 16 日に変更になったため、つまり分割日が 1 月 11 日から 1 月 16 日に変更になったため、元の支給期間は再計算されます。
- 受給者の支給 (支給 1) は 620 で、比例配分が定義されています。

期間 1
V1R1
セグメント 1 (1 月 1 日～ 10 日)/会社 ABC 支給 1 = 200 セグメント 2 (11 月 1 日～ 31 日)/会社 DEF 支給 1 = 420

期間 1
V1R2
<p>セグメント 1 (1 月 1 日～ 10 日)/会社 ABC (取り消し)</p> <p>支給 1 デルタ = <200></p> <p>セグメント 2 (1 月 11 日～ 31 日)/会社 DEF (取り消し)</p> <p>支給 1 デルタ = <420></p> <p>セグメント = (1 月 1 日～ 15 日)/会社 ABC (新しい再計算)</p> <p>支給 1 デルタ = 300</p> <p>セグメント 4 (1 月 16 日～ 31 日)/会社 DEF (新しい再計算)</p> <p>支給 1 デルタ = 320</p>

この例では、受給者の会社 ID が 1 月 11 日を有効日として変更されるため、元の 1 月の支給期間が分割されます。その後、会社変更の有効日が 1 月 11 日から 1 月 16 日に変わったため、1 月のカレンダーが遡及処理のため再びオープンされます。つまり、元の期間と再計算期間のセグメント日が一致していないということです。1 月のカレンダー期間が再計算される際に、セグメント 1 およびセグメント 2 には既に再計算期間の正確な比較対照がないので、前の例のようなセグメントとセグメントの照合はできません。

セグメント 1 およびセグメント 2 の値は取り消され、セグメントごとにそれぞれ、-200 および -420 の負のデルタが作成されます。次に、再計算期間内に、独自のセグメント ステータス レコードを持つ新しい再計算セグメント (セグメント 3 とセグメント 4) が作成され、それぞれのデルタは 300 と 320 になります。各セグメントの新しい値は、出力結果テーブルに書き込まれます。取り消しセグメントでは、残高累計およびデルタ出力結果テーブルのみが更新されます。

注意: **スライス日**が変更されても、元の期間と再計算期間の差額は遡及デルタの計算に影響しません。**分割日**を変更する場合のみ、取り消しセグメントが必要になります。

例 3: 支給キーの値の変更による不一致

会社 ID などの支給キーの値が前回の計算と再計算の間で変更される場合があります。これはセグメントの不一致と見なされ、前回の計算と新しい計算は、セグメントの日付が一致しないかのように、別々のセグメントに属しているものとして処理されます。

参照: 第 33 章、「遡及処理の定義」、繰越遡及での支給キーの使い方、1299 ページ。

分割を伴う遡及での繰越調整

PeopleSoft グローバル ペイロールで調整値を繰り越す方法は、遡及デルタがスライスまたは分割されたカレンダーに繰り越されるかどうか、また、支給キーが定義されているかどうかによって変わります。状況にかかわらず、以下のルールに従って処理されます。

- 分割を伴わない遡及の場合のように、現在の期間のカレンダーにデルタを繰り越せるかどうかを判断するため、遡及マッチング条件が使用されます。つまり、元のカレンダーの従業員 ID、レコード番号、支給元、支給グループ、および実行タイプが、現在の期間の繰越先カレンダーのそれらと一致する場合にのみ、デルタは繰り越されます。

注意: この支給グループの一致は、遡及制限ページの [異なる支給グループ間のデルタ繰越可] オプションを選択して上書きできます。この条件を上書きすると、デルタに関連付けられた支給グループが受給者の現在の支給グループと一致しない場合でも、遡及デルタは現在の期間に自動的に繰り越されます。また、実行タイプの一致も上書きできます。これは、実行タイプページの [遡及調整ソース] グループ ボックスに他の有効な実行タイプを指定することで行います。実行タイプの一致を上書きすると、デルタが受給者の現在の実行タイプと一致しない場合でも、ここで指定した実行タイプについては、遡及デルタが現在の期間に自動的に繰り越されます。ただし、他の条件は全て満たす必要があります。

参照: 第 33 章、「遡及処理の定義」、支給元レベルでの遡及処理の遡及期間制限および対象期間制限の定義、1270 ページ。

- 全ての遡及マッチング条件が満たされると、現在の期間が分割されている場合は、現在のカレンダーの最初のセグメントにデルタが合計され繰り越されます。

このセグメントがスライスされている場合は、このセグメントの最初のスライスに調整値が繰り越されます。

- 会社 ID、契約番号、事業所、または部門 ID のような条件に基づいて支給キーを定義した場合、調整値は、全ての遡及マッチング条件を満たし、繰り越される調整値と同じ支給キーを持つ現在のカレンダーの最初のセグメントにのみ繰り越されます。

このセグメントがスライスされている場合は、このセグメントの最初のスライスに調整値が繰り越されます。支給キーが一致するセグメントがない場合は、調整値を繰り越すための新しいセグメントが現在の期間に作成されます。現在の期間が分割されているかどうかにかかわらず、新しいセグメントの日付は全てそのカレンダー期間の日付になります。

注意: 遡及マッチング条件は、現在の期間に調整を繰り越すかどうかを決めるために使用されます。条件が全て満たされている場合、デルタは繰り越されます。標準マッチング条件に加えて、支給キーが使用されている場合は、調整値の繰越先を決めるためにこれらのキーが確認されます。現在の期間、または期間内のセグメントが同じキーを持つ場合は、一致した支給キーを持つ現在の期間内の最初のセグメントに調整値が繰り越されます。スライスの場合は、そのセグメント内の最初のスライスに繰り越されます。支給キーの一致するセグメントがない場合にのみ、調整値を繰り越すための新しいセグメントが作成されます。

参照: 第 33 章、「遡及処理の定義」、繰越遡及での支給キーの使い方、 1299 ページ。

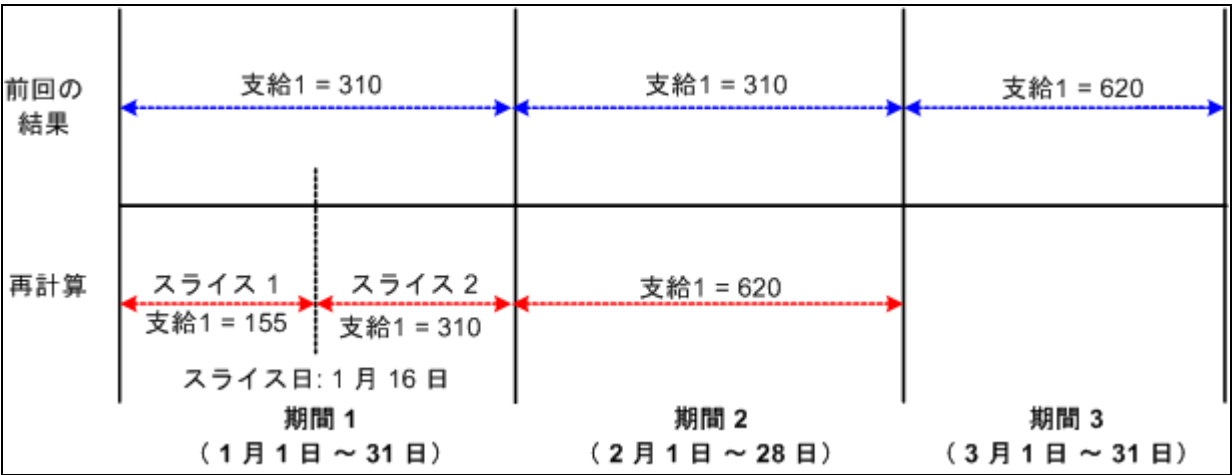
例 1: 遡及を伴うエレメントの分割

以下の遡及を伴うエレメント分割の例では、デルタがどのように現在の期間に繰り越されるかを示しています。ここでは、全ての遡及マッチング条件が満たされ、支給キーはないものとします。

シナリオ:

- 1 月 16 日に支給 1 の値を月額 310 から月額 620 に変更するために、期間 3 で期間 1 にさかのぼる遡及です。このとき、支給 1 は比例配分されるように定義されているとします。
- 支給 1 はエレメントを分割するためエレメント リスト上にあり、本来分割されていない期間の途中で、スライス 1 およびスライス 2 に分割されることになります。

次の図は、再計算期間でのエレメントの分割と現在のカレンダーで分割がない例を表しています。支給キーはなく、遡及マッチング条件は満たされています。



再計算期間でのエレメントの分割と現在のカレンダーでセグメントがない場合の例

期間 1	期間 2	期間 3
V1R1	V1R1	V1R1
セグメント 1 (1 月 1 日～ 31 日) 支給 1 = 310	セグメント 1 (2 月 1 日～ 28 日) 支給 1 = 310	セグメント 1 (3 月 1 日～ 31 日) 支給 1 = 1085 [620 + (155 + 310)]
V1R2	V1R2	
セグメント 1 (1 月 1 日～ 31 日) スライス 1 (1 月 1 日～ 15 日) 支給 1 = 155 スライス 2 (16 月 1 日～ 31 日) 支給 1 = 310 デルタ = 155 [(155 + 310) - 310]	セグメント 1 (2 月 1 日～ 28 日) 支給 1 = 620 デルタ = 310 (620 - 310)	

- 期間 1 の V1R2 で作成されたデルタ 155 は、期間 3 の V1R1 のセグメント 1 に繰り越されます。
- 期間 2 の V1R2 で作成されたデルタ 310 は、期間 3 の V1R1 のセグメント 1 に繰り越されます。

期間 1 の遡及デルタが計算される際に、期間 1 の支給 1 の古い値 310 がスライス 1 とスライス 2 の支給 1 の合計 (155 + 320) から減算されます。分割を伴わない遡及の場合と同じように、全てのデルタが現在の期間、つまり 3 月に遡及マッチング条件を使用して繰り越されます。

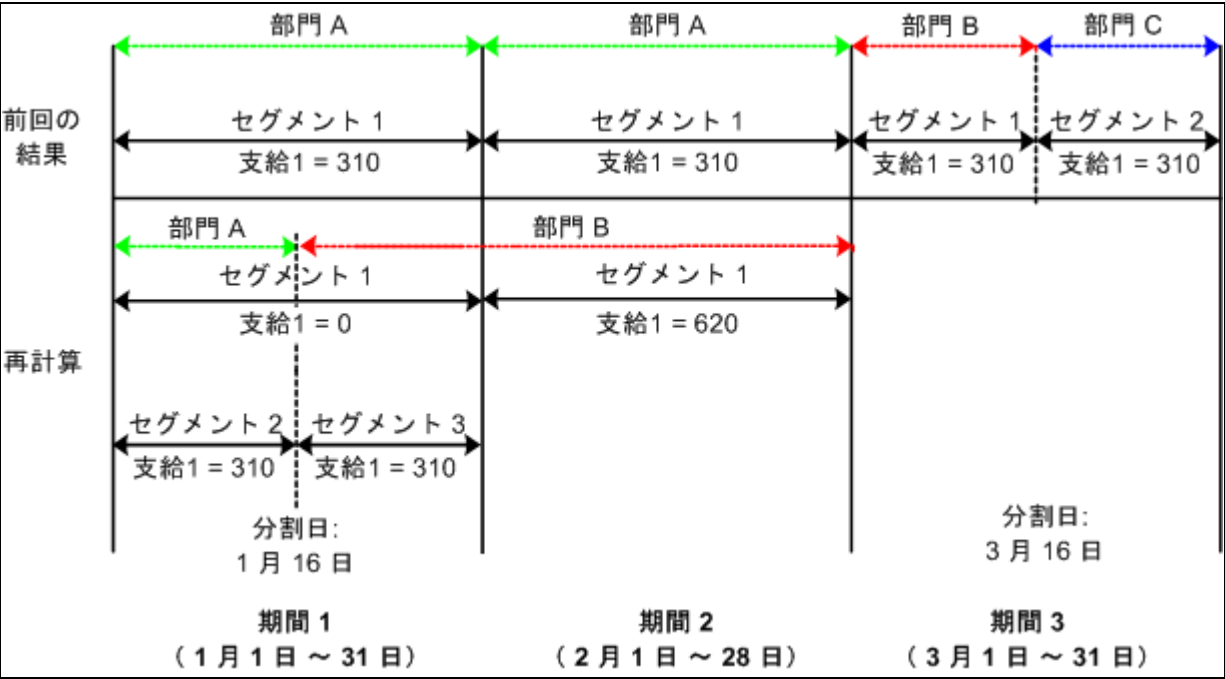
例 2: 遡及と期間分割の組み合わせ

以下の期間分割を伴う遡及の例では、分割された再計算期間から分割された現在の期間に遡及デルタが繰り越される方法を示しています。ここでは、遡及マッチング条件を使用して、繰越先には最初のスライスまたはセグメントが選択されています。

シナリオ:

- 1 月 16 日付けで部門 ID が部門 A から部門 B に変更されたために期間 3 で期間 1 にさかのぼる遡及を処理する際に、1 月の再計算カレンダーで期間分割が発生しています (元の期間は分割されていなかったものとします)。
- 支給 1 の値は、3 月に月額 310 から月額 620 に増加したため、1 月 1 日にさかのぼって遡及を行います (支給 1 は比例配分されるように定義されているとします)。
- 3 月 16 日に部門 ID が部門 B から部門 C に変更されます。これは、現在の期間だけに影響するため、現在のカレンダーが分割されます。

下記の図は、再計算期間と現在のカレンダーの両方における期間分割の例を示しています。支給キーはなく、遡及マッチング条件は満たされています。



再計算期間と現在のカレンダーの期間分割の例

期間 1	期間 2	期間 3
V1R1	V1R1	V1R1

期間 1	期間 2	期間 3
セグメント 1 (1 月 1 日～ 31 日)/部門 A 支給 1 = 310	セグメント 1 (2 月 1 日～ 28 日)/部門 A 支給 1 = 310	セグメント 1 (3 月 1 日～ 15 日)/部門 B 支給 1 = 930 [310 + (310 + 310)] セグメント 2 (3 月 16 日～ 31 日)/部門 C 支給 1 = 310
V1R2	V1R2	
セグメント 1 (1 月 1 日～ 31 日)/部門 A 支給 1 (取り消しセグメント) = <310> セグメント 2 (1 月 1 日～ 15 日)/部門 A 支給 1 = 310 セグメント 3 (1 月 16 日～ 31 日)/部門 B 支給 1 = 310 デルタ = 310 [(310 + 310) - 310]	セグメント 1 (2 月 1 日～ 28 日)/部門 B 支給 1 = 620 デルタ = 310 (620 - 310)	

- 期間 1 の V1R2 で作成されたデルタ 310 は、期間 3 の V1R1 のセグメント 1 に繰り越されます。
- 期間 2 の V1R2 で作成されたデルタ 310 は、期間 3 の V1R1 のセグメント 1 に繰り越されます。

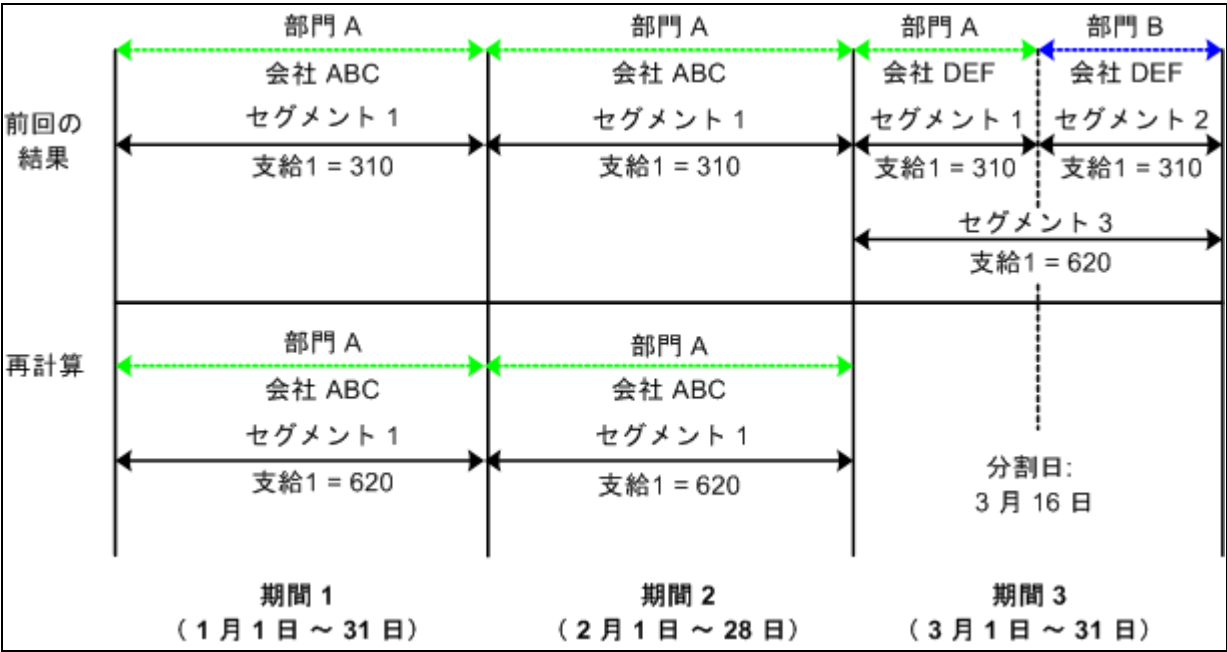
1 月に対する遡及デルタの計算では、取り消しセグメントであるセグメント 1 のデルタがセグメント 2 および 3 と合計されます。そして、2 月のデルタが計算されるときは、V1R2 の支給 1 の値から V1R1 の支給 1 の値が減算されます。その後、1 月および 2 月の再計算期間からのデルタ (310 + 310) が、遡及マッチング条件を満たす現在のカレンダー、つまり 3 月の給与計算カレンダーの最初のセグメントに繰り越されます。

例 3: 遡及と期間分割の組み合わせ - 支給キー使用の場合

以下のシナリオでは、遡及マッチング条件が満たされ、標準遡及マッチング条件に加えて支給キーが定義されている場合の遡及デルタの処理方法を示しています。ただし、再計算期間の支給キーは、現在のカレンダーの支給キーと一致していません。

シナリオ:

- 支給 1 の値は、3 月に月額 310 から月額 620 に増加したため、1 月 1 日にさかのぼって遡及を行います。これによって、1 月および 2 月のカレンダーが再計算されます。
- 3 月 1 日に受給者は会社 ABC から会社 DEF に移ります。会社 ID が、支給キーとして定義されています。
- 3 月 16 日に部門 ID が部門 A から部門 B に変更されます。これは、現在の期間のみに影響するため、現在のカレンダーが分割されます。



会社が支給キーとして定義され、遡及マッチング条件が満たされている場合の例

期間 1	期間 2	期間 3
V1R1	V1R1	V1R1

期間 1	期間 2	期間 3
セグメント 1 (1 月 1 日～ 31 日)/部門 A、会社 ABC 支給 1 = 310	セグメント 1 (2 月 1 日～ 28 日)/部門 A、会社 ABC 支給 1 = 310	セグメント 1 (3 月 1 日～ 15 日)/部門 A、会社 DEF 支給 1 = 310 セグメント 2 (3 月 16 日～ 31 日)/部門 B、会社 DEF 支給 1 = 310 セグメント 3 (3 月 1 日～ 31 日)/部門 A、会社 ABC 支給 1 = 620 (310 + 310)
V1R2	V1R2	
セグメント 1 (1 月 1 日～ 31 日)/部門 A、会社 ABC 支給 1 = 620 デルタ = 310 (620 - 310)	セグメント 1 (2 月 1 日～ 28 日)/部門 A、会社 ABC 支給 1 = 620 デルタ = 310 (620 - 310)	

- 期間 1 の V1R2 で作成されたデルタ 310 は、期間 3 の V1R1 のセグメント 3 に繰り越されます。
- 期間 2 の V1R2 で作成されたデルタ 310 は、期間 3 の V1R1 のセグメント 3 に繰り越されます。

1 月および 2 月の遡及デルタが最初に計算される際には、遡及マッチング条件を基に、現在のカレンダー (3 月) の最初のセグメントへのこれらの遡及デルタの繰り越しが試行されます。しかし、これらのデルタは会社 ABC の従業員に対して作成されていますが、この従業員は 3 月 1 日付けで会社を移り、現在は会社 DEF に属しています。会社は支給キーとして定義されているので、他の遡及マッチング条件が全て満たされていても、デルタは現在のカレンダー (3 月) の最初のセグメントに繰り越されません。その代わりに、3 月の支給期間と同じ開始日と終了日を持つ別のセグメントが作成され、デルタがこの新しいセグメントに移されます。

注意: これらの例では、繰越遡及だけを扱っています。これは、遡及方法が訂正で、エレメントを繰り越すように定義していない限り、現在の期間で処理される調整が繰越遡及でしか生成されないためです。分割と訂正遡及の組み合わせの場合は、上の例と同じように遡及デルタが計算されます。ただし、繰越遡及と異なり、そのエレメントに対して再計算された値は前回の計算値と置き換えられます。前回計算済みの期間と再計算済みの期間との純支給額の差は、銀行振込処理によって処理されます。

繰越遡及での支給キーの使い方

支給キーは、遡及処理の際、調整値がどのように現在の期間に繰り越されるかに影響します。

参照: 第 14 章、「組織構造の定義」、519 ページ。

支給キーと繰越

現在の期間の支給キーが、再計算される期間の支給キーと一致しない場合、調整は現在のカレンダー期間の別の総額/純額として管理される必要があります。たとえば、会社が支給キーとして定義されているとします。会社 ABC で勤務する受給者が、現在の期間に会社 DEF に移ります。このような場合、受給者が会社 ABC に所属していた前回の期間にさかのぼる遡及処理と、受給者の前回のカレンダーから現在の期間のカレンダーへの調整値の繰越が可能です。調整値は会社 ABC に関連付けられており、現在の期間は会社 DEF に関連付けられています。この状況では、調整値は現在の期間の別の総額/純額として管理されます。

調整値の繰越の有無や繰越先が決定されるときには、以下の処理が行われます。

1. 遡及マッチング条件が満たされているかどうか判断されます。

マッチング条件が満たされている場合は、遡及デルタが調整値として現在の期間に繰り越されます。

2. 会社 ID、契約番号、事業所、部門 ID などの条件に基づいて、支給キーが定義されているかどうか確認されます。

支給キーが定義されている場合は、これらのキーが確認され、調整値の繰越先が決定されます。繰り越された調整値に関連付けられている支給キーの値が現在の期間での支給キーの値と等しい場合、調整値は、支給キーが一致する現在の期間の最初のセグメントに繰り越されます。そのセグメントにスライスが含まれる場合は、そのセグメントの最初のスライスに調整値が繰り越されます。

3. 一致する支給キーを持つセグメントが見つからない場合は、調整値の繰越先として現在の期間に新しいセグメントが作成されます。

調整値は、現在の期間の別の総額/純額として管理されます。現在の期間が分割されているかどうかにかかわらず、新しいセグメントの日付はそのカレンダー期間全体の日付と同じになります。

新しいセグメントは、非アクティブ セグメントのステータスで、ほかの全ての総額/純額計算と同様にプロセス リストに従って処理されます。支給と控除は、このセグメントで再び処理されます。計算結果は、このタイプのセグメントに期待されるものではない場合もあります。このセグメントで支給と控除の再処理を防ぐ場合は、ジェネレーション コントロール エlement を定義して、セグメント ステータスが非アクティブ セグメントのセグメントを除外できます。

このカレンダーを対象とするポジティブ入力 (PI) は、全ての作成済みのポジティブ入力セクションと同様に、ジェネレーション コントロールにかかわらず、非アクティブ セグメントのセグメントで再び処理されることはありません。

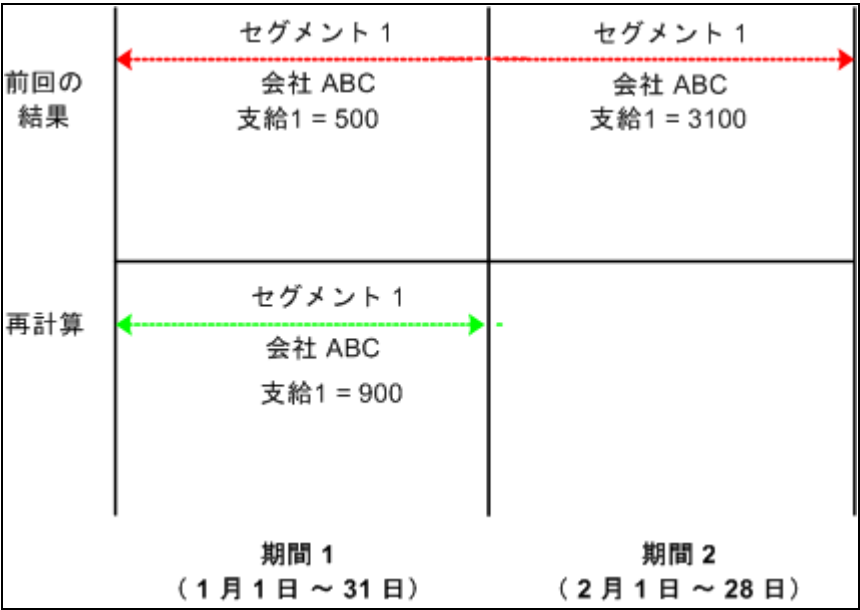
参照: 第 7 章、「計算エレメントの定義」、195 ページ;第 15 章、「エレメント処理の定義」、545 ページおよび第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、615 ページ。

例 1: 支給キー値に変更がない場合

現在の期間の支給キーが再計算期間の支給キーと一致する場合、調整値は現在の期間に繰り越されます。新しいセグメントは作成されません。以下の例で、1 月にさかのぼる 2 月の遡及について考えてみます。

シナリオ:

- 会社 ID が、支給キーとして定義されています。
- 受給者の支給 (支給 1) は、1 月にさかのぼって 500 から 900 に変更されます。この結果、期間 1 は再計算される必要があります。



支給キーの値に変更がない場合

期間 1	期間 2
V1R1	V1R1
セグメント 1 (1 月 1 日～ 31 日)/会社 ABC 支給 1 = 500	セグメント 1 (2 月 1 日～ 28 日)/会社 ABC 支給 1 = 1300 (900 + 400)
V1R2	
セグメント 1 (1 月 1 日～ 31 日)/会社 ABC 支給 1 = 900 デルタ = 400 (900 - 500)	

期間 1 の V1R2 で作成されたデルタ 400 は、期間 2 の V1R1 のセグメント 1 に繰り越されます。

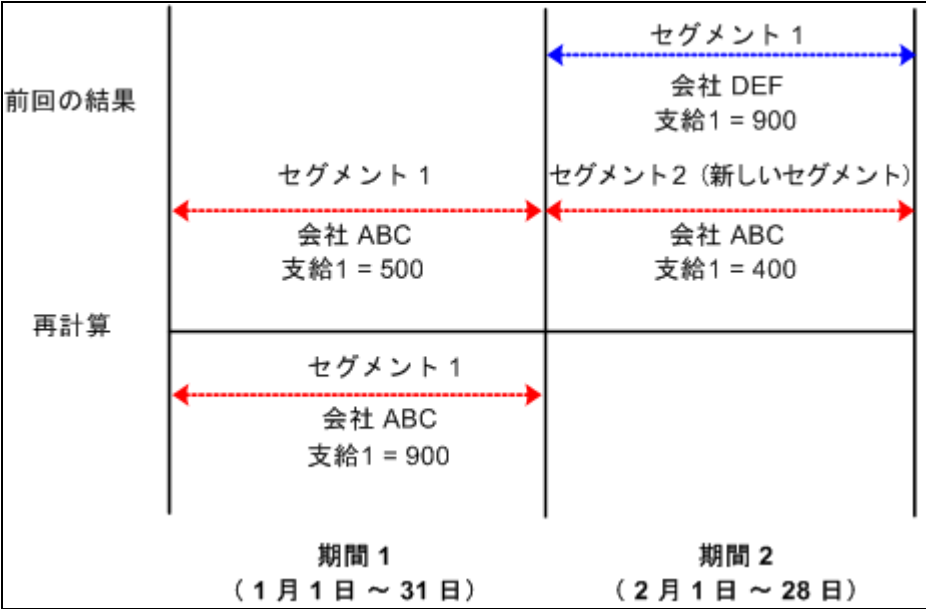
参照: 第 33 章、「遡及処理の定義」、再計算カレンダーの管理、 1225 ページ。

例 2: 現在のカレンダー期間で支給キー値に変更がある場合

現在の期間の支給キーが、再計算された期間の支給キーと一致しない場合は、調整値が繰り越される新しいセグメントが現在の期間に作成されます。以下の例で、1 月にさかのぼる 2 月の遡及について考えてみます。

シナリオ:

- 会社 ID が、支給キーとして定義されています。
- 受給者の支給 (支給 1) は、1 月にさかのぼって 500 から 900 に変更されます。この結果、期間 1 は再計算される必要があります。
- 2 月 1 日付けで、受給者は会社 ABC から会社 DEF に移ります。



支給キーの値の変更がある場合

期間 1	期間 2
V1R1	V1R1
セグメント 1 (1 月 1 日 ~ 31 日)/会社 ABC 支給 1 = 500	セグメント 1 (2 月 1 日 ~ 28 日)/会社 DEF 支給 1 = 900 セグメント 2 (2 月 1 日 ~ 28 日)/会社 ABC 支給 1 = 400

期間 1	期間 2
V1R2	
セグメント 1 (1 月 1 日～ 31 日)/会社 ABC 支給 1 = 900 デルタ = 400 (900 - 500)	

期間 1 の V1R2 で作成されたデルタ 400 は、期間 2 の V1R1 のセグメント 2 に繰り越されます。

この例での受給者は 2 月に会社 ABC から会社 DEF に移っているため、現在のカレンダー (2 月) の支給キーは再計算されたカレンダー (1 月) の支給キーとは一致しなくなっています。その結果、期間 1 の V1R2 からの調整値が繰り越される新しいセグメント (セグメント 2) が 2 月に自動的に作成されます。この新しいセグメントの開始日および終了日は、現在の期間 (2 月 1 日～ 28 日) と同じになります。

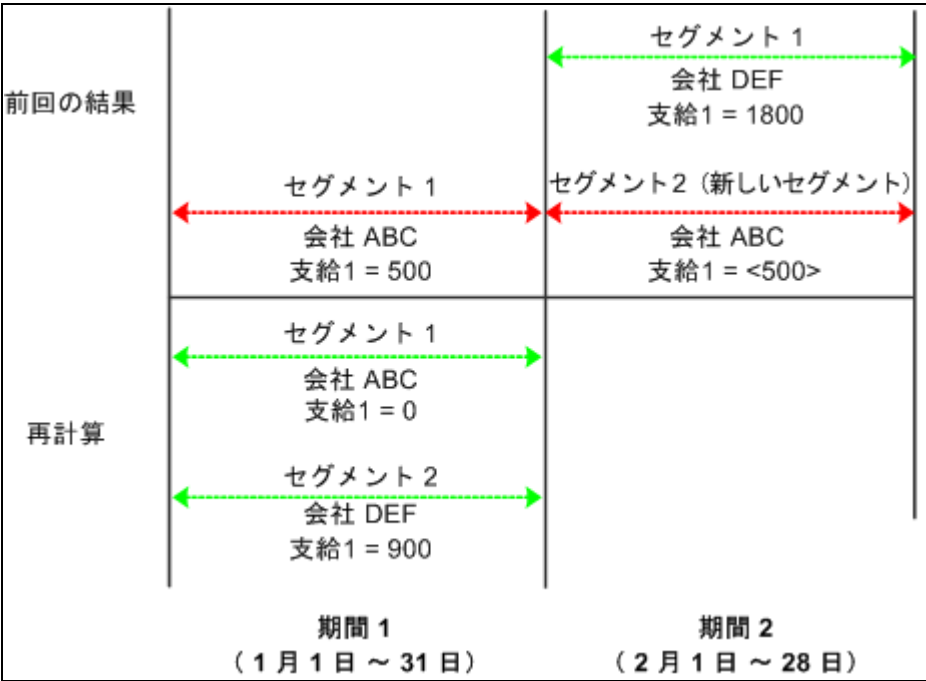
参照: 第 33 章、「遡及処理の定義」、再計算カレンダーの管理、1225 ページ。

支給キーと遡及デルタ

定義済みの支給キーの値がさかのぼって変更された場合、支給キーの一方のセットに関連付けられたカレンダーは値が変更された支給キーを使用して再処理される必要があります。この状況は、**セグメントの不一致**と判断されます。前回の期間と現在の期間の間で支給キーが一致するセグメントがなければ、古い支給キーのデルタから求められた調整値を繰り越すために、現在の期間に新しいセグメントが作成されます。以下の例での処理を説明します。

シナリオ:

- 受給者は、2 月に会社 ABC から会社 DEF に移っています。この変更は、1 月までさかのぼって行われます。
- 会社 ID が、支給キーとして定義されています。
- この受給者の支給 (支給 1) は、1 月にさかのぼって 500 から 900 に変更されます。この結果、期間 1 は再計算される必要があります。



支給キーと遡及デルタ

期間 1	期間 2
V1R1	V1R1
セグメント 1 (1 月 1 日 ~ 31 日)/会社 ABC 支給 1 = 500	セグメント 1 (2 月 1 日 ~ 28 日)/会社 DEF 支給 1 = 1800 (900 + 900) セグメント 2 (2 月 1 日 ~ 28 日)/会社 ABC 支給 1 = <500>
V1R2	
セグメント 1 (1 月 1 日 ~ 31 日)/会社 ABC 支給 1 (取り消しセグメント) = 0 セグメント 2 (1 月 1 日 ~ 31 日)/会社 DEF 支給 1 (再計算セグメント) = 900 デルタ = <500>、会社 ABC デルタ = 900、会社 DEF	

- 期間 1 の V1R2 で作成されたデルタ <500> は、期間 2 の V1R1 のセグメント 2 に繰り越されます。
- 期間 1 の V1R2 で作成されたデルタ 900 は、期間 2 の V1R1 のセグメント 1 に繰り越されます。

1 月の支給 1 の遡及デルタの計算では、通常の計算 (支給 1 の古い値 500 と支給 1 の新しい値 900 を照合し、 $900 - 500 = 400$ のように差分を算出) が行われません。別のセグメントに属している支給 1 の古いバージョンと新しいバージョンは、それぞれ異なる支給キーにリンクされているので、対応関係はなくなります。デルタを求めるには、まず V1R1 の支給 1 の古い値を取り消す必要があります。つまり、期間 1 の支給 1 の前回の計算は、新しいセグメントの中に対応する値がないものとして扱われ、0 から 500 が減算され負の値 -500 が生成されます。同様に、期間 1 の支給 1 の新しい計算は、古いセグメントの中に対応する値がないと見なされるので、900 から 0 が減算され、新しい支給 1 の値 900 が生成されます。

注意: 分割されていて、再計算期間のセグメント日が元の期間のセグメント日と一致しない場合も、**"セグメントの不一致"** が発生します。

支給キーによるデルタの合計

前述の例では、重要なルールを示しています。つまり、デルタの合計と繰越を行う場合、合計されるのは同じ支給キーを持つデルタのみであり、1 つの支給キーのセットに関連付けられているデルタを、別のキーに関連付けられているエレメントに繰越することはできないということです。前述の例では、期間 1 の V1R2 で作成されたデルタ (<500>) は、期間 1 の V1R2 で作成されたデルタ 900 に加算されません。これは、これらのデルタがそれぞれ異なる支給キーに関連付けられているためです。

関連項目:

第 33 章、「遡及処理の定義」、分割と遡及、1287 ページ

遡及とポジティブ入力

ポジティブ入力のインスタンスを修正するには、元の入力を行った支給期間で調整を行います。たとえば、現在 7 月であるとして、5 月に行ったポジティブ入力を修正する必要がある場合は、5 月のカレンダーのポジティブ入力ページにアクセスして、該当するインスタンスを追加、削除、または修正します。

オンラインでの変更が検出されるように遡及トリガを定義した場合は、その受給者の次の給与計算サイクルを実行する際に、この変更を使用してカレンダー期間が再計算されます。

関連項目:

第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、ポジティブ入力の遡及調整、 652 ページ

遡及削除

雇用終了、支給グループの異動、または給与計算システムの変更をさかのぼって行う際に遡及削除が発生します。これらの場合には全て、変更が実際に有効になってから、そのことを知らされることとなります。結果として、本来計算されるべきではない期間について総額/純額が計算されてしまうため、その計算結果を完全に取り消す必要があります。

例 1: 繰越遡及を伴う支給グループの異動

シナリオ:

- 期間 1 で、受給者は支給グループ A に属します。支給 1 = 100 です。
- 期間 2 で、この受給者は期間をさかのぼって支給グループ A から支給グループ B へ異動します。この異動は期間 1 から有効になります。支給 1 = 200 です。
- 期間 2 で期間 1 にさかのぼって処理するために遡及計算を実行します。

期間 1 - 支給グループ A のカレンダー
V1R1
セグメント 1 支給 1 = 100
V1R2
セグメント 1/支給グループ A 支給 1 (取り消しセグメント) = 0 デルタ = <100>

- 期間 1 の V1R2 の支給 1 は、完全に取り消されます。この受給者は、支給グループ A のこの期間に対して総額/純額が計算される必要がないため、新しいセグメントは作成されません。

- 期間 1 の V1R2 に対する支給 1 のデルタ <100> は、受給者が既に支給グループ A に属していないため、現在のカレンダー (期間 2) について処理されません。現在のカレンダーの支給グループが B である場合、手動で未処理のデルタを支給グループ B の繰越先カレンダーに割り当てるまでは、このデルタは調整値として繰り越されません。

遡及追加

採用または支給グループの異動がさかのぼって行われる場合は、遡及追加が発生します。遡及を伴う採用では、前回の計算 (前回の総額/純額) はありません。遡及を伴う支給グループ異動の場合、遡及追加では、受給者の異動先の支給グループが照会されます。

例 1: 繰越遡及を伴う遡及追加

シナリオ:

- 期間 2 で、新しい受給者を期間 1 で採用したという情報を受け取りました。
- 最初の遡及計算では、期間 2 で期間 1 にさかのぼって処理を行います。

期間 1	期間 2
V1R1	V1R1
存在せず	セグメント 1 支給 1 = 200 (100 + 100)
V1R2	
セグメント 1 支給 1 = 100 デルタ = 100	

- 期間 1 の V1R2 は、この期間の遡及処理を表しています。バージョン番号 1 が存在しない場合でも、レビジョン番号は 2 となります。これは遡及方法が繰越のため、再計算が正しい結果を表さないためです。
- 期間 1 の V1R2 のデルタは、期間 2 の V1R1 へ調整値として繰り越されます。

通貨変更

PeopleSoft グローバル ペイロールでは、カレンダーが遡及のために再処理される場合、最初に処理を行った時の通貨を使用します。このことは、遡及処理では、支給期間の元の計算と同一の通貨を使用して前回の期間を再計算する必要があるため、重要と言えます。たとえば、再計算期間と現在の期間で支給元レベルで処理通貨を変更した場合でも、新しい値と古い値の差は元の計算の通貨で計算されます。つまり、遡及デルタは繰越先期間の処理通貨に換算されるということです。通貨の換算には、現在のセグメントの為替レート情報 (受給者レベルで定義された為替レート タイプと為替レート有効日) が使用されます。

たとえば、1998 年 1 月から 1998 年 6 月まで、通貨をフランス フラン (FRF) に設定したとします。7 月に、会社はユーロの使用を決定しました。7 月に、受給者に対し 1998 年 6 月に対する遡及があります。再計算に関するすべての処理が、フランス フランを使用して行われます。デルタが計算される場合は、まず FRF を使って計算され、その後現在のセグメントと同じ為替レート情報を使ってユーロに換算されます。遡及調整は、現在の期間にユーロ換算で繰り越されます。

遡及処理のヒント

このセクションでは、遡及処理の使用に関するヒントを提供します。

質問	回答
繰り越された調整値を受け取るエレメントの値は何ですか。	<ul style="list-style-type: none">繰越遡及を使用する場合、調整値は常にエレメントの変換値に含まれます。出力結果で、支給と控除に対する現在の値と調整値は別々に保存されます。ただし、エレメントが使用される際には、この 2 つの値が合計され、エレメントの変換値が取得されます。バッチ処理モジュールによって、エレメントが使用される際に現在の値と調整値が合計されます。

質問	回答
現在の値とエレメントの調整値を個別に保存するにはどうすればよいでしょうか。	通常、繰越遡及を使用する場合、調整値はエレメントの変換値に含まれます。ただし、エレメントの調整値を現在の値と分けて保存しておく場合には、遡及プロセス上書きページを使用して別のエレメントにその調整値を繰り越します。エレメントの目的が調整値を管理することである場合は、ほかのエレメントを計算ルール "金額 = 0" で定義します。
PeopleSoft グローバル ペイロールでは、複数の国にわたった遡及の計算ができますか。	デフォルトの遡及方法、遡及プロセス定義、およびトリガ イベント ID は国ごとに定義されます。複数の国にわたる遡及の計算は行われません。ただし、受給者が別の国に移っていて、その後受給者が最初の国での雇用時に追加支給を受ける必要があったことが判明した場合は、元の国で非アクティブであっても遡及処理が可能な場合があります。これは、支給元レベルで適用される対象期間制限や、受給者が非アクティブになってから遡及処理の対象にしておく期間を決定するためのその他の処理ルールによって決まります。

質問	回答
<p>複数のトリガが作成され、それぞれで別の遡及プロセス定義が指定されていると、どうなるでしょうか。</p>	<p>複数の遡及イベントが発生して、トリガ テーブルに複数の遡及トリガの書き込みが発生したと考えてください。これらのトリガによって、異なったプロセス定義を使用して処理 (再計算) されるカレンダー実行が呼び出された場合は、不整合が発生します。このような状況では、遡及処理を起こすイベントによって、同一カレンダーで同一受給者に対して複数のプロセス定義のアプリケーションが起動されるので、エラー メッセージが出力され、遡及は処理されません。現在の期間だけが処理されます。遡及トリガは、処理済みにはなりません。</p> <p>注意: 国別設定ページで指定した [不整合時の遡及方法] は、ここで説明した不整合状況では適用されません。この状況では、不整合時の遡及方法によって不整合が解決されることはありません。ただし、"トリガ確認" の遡及ページで遡及トリガに関連付けられているイベント ID を変更することはできます。</p> <p>同一受給者に対して、特定のカレンダー実行の遡及処理を引き起こす遡及イベントで複数のプロセス定義を指定することはできません。カレンダー グループ内の全てのカレンダーに対して同一プロセスが適用される必要があります。</p>

関連項目:

[第 33 章、「遡及処理の定義」、デフォルト遡及方法の定義、 1247 ページ](#)

[第 16 章、「カレンダーの使い方」、 577 ページ](#)

[第 30 章、「トリガの設定」、遡及トリガの設定、 1133 ページ](#)

第 34 章

銀行振込の定義

この章では、銀行振込の概要および以下の作業を行う方法について説明します。

- 銀行と支店の定義
- 資金供給の設定
- 振込スケジュールの定義
- 控除受取人の定義
- 控除と受給者への受取人の割り当て
- 受給者純支給額配分の定義
- 銀行振込処理の実行
- 銀行振込処理結果のカレンダー グループ別確認
- 国別処理での銀行振込情報の使用
- 銀行振込での遡及計算の使用

銀行振込について

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- 銀行振込処理の実行
- 設定要件
- バッチ処理
- 銀行業務プロセス フロー

銀行振込処理

PeopleSoft グローバル ペイロールの銀行振込処理では以下の作業が行われます。

- 設定
- バッチ処理
- 国別拡張機能のタスク

この章では、設定とバッチ処理について説明します。国別拡張機能で銀行振込処理を行う方法の詳細については、該当する国の『PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール PeopleBook』の銀行振替処理に関するセクションを参照してください。

注意: 受給者に対して自動振込や電子振替 (ファーム バンキング) を行わない組織では、銀行振込機能を使用する必要はありません。

設定要件

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- 銀行の設定要件
- 資金供給の設定要件
- 支払い先の設定要件

銀行の設定要件

銀行および支店とは、給与資金の供給と給与計算結果の受け取りを行う金融機関を指しています。

銀行を設定するには、以下の手順に従います。

1. 銀行テーブル ページで銀行情報を設定します。

銀行は、銀行テーブル ページで設定します。このページでは、給与資金供給および支給処理にかかわる全ての金融機関の基本情報も設定します。このページの入力を完了しないと、銀行を送金元銀行口座または受取人として指定できません。

2. 支店テーブル ページで支店情報を指定します (省略可)。

ここでは、どの支店がどの銀行に属するかを定義します。銀行には 1 つまたは複数の支店を割り当てることができます。

注意: 国によっては、銀行の支店情報が不要な場合もあります。

参照: [第 34 章、「銀行振込の定義」、銀行と支店の定義、1317 ページ。](#)

資金供給の設定要件

資金供給とは、給与資金の供給源を指します。

資金供給を設定するには、以下の手順に従います。

1. 電子振替フォーマット ページで、国別にファーム バンキング (FB) フォーマットを定義します。
2. 送金元銀行口座ページで、給与計算の送金元銀行を指定します。

送金元銀行とは、給与の引き出し元です。各送金元銀行について、適切な銀行と支店、口座番号、および FB フォーマットを指定します。

3. 支給元 - 送金元銀行リンク ページで資金供給元のレベルを定義します。

1 つの組織に、さまざまなレベルの資金供給元 (送金元銀行) を設定できます。組織全体の給与資金供給元として 1 つの銀行を指定する場合もあれば、会社などの下位レベルでそれぞれ資金供給元を指定する場合があります。

参照: [第 34 章、「銀行振込の定義」、資金供給の設定、1318 ページ。](#)

支払い先の設定要件

ここでの "支払い先" とは、給与金額の受取り先を指します。純支給額は受給者に支給され、控除額は医療保険取扱機関や政府機関などの受取人に支払われます。

支払い先を設定するには、以下の手順に従います。

1. 振込スケジュールは、[HRMS 基本設定] の下にある "銀行振込" の振込スケジュール ページで定義します。
2. 控除受取人定義ページで受取人を定義します。

受取人には、組織 (一般受取人) と個人 (個人受取人) があります。

3. 受取人を控除に割り当てます。

受取人のタイプによって手順が異なります。

4. 銀行口座管理ページおよび "純支給額配分の指定" ページで、個人の銀行口座情報や支給詳細を指定します。

個人の純支給額をファーム バンキングによって支給するには、この設定が不可欠です。

参照: [第 34 章、「銀行振込の定義」、振込スケジュールの定義、1322 ページ](#); [第 34 章、「銀行振込の定義」、控除受取人の定義、1326 ページ](#); [第 34 章、「銀行振込の定義」、控除と受給者に対する受取人の割り当て、1330 ページ](#)および [第 34 章、「銀行振込の定義」、受給者の純支給額配分の定義、1335 ページ](#)。

バッチ処理

銀行振込のバッチ処理は、グローバル ペイロール コア アプリケーションと国別拡張機能で行われます。

銀行からの支給情報を処理するには、以下の手順に従います。

1. 休暇欠勤/給与計算ページで支給の実行を最終決定します。

銀行振込のプロセスを実行する前に、給与計算実行を最終決定するか、または支給アイテムを承認する必要があります。

2. 支給準備プロセス ページを使用して、銀行振込プロセスを実行します。

銀行振込のプロセスは、給与計算結果を取得して支給テーブル (GP_PAYMENT) を作成するバッチ処理です。支給テーブルには各受取人の詳細が含まれます。このテーブルによって、受取人、支払金額、送金元銀行、および口座番号が識別されます。

注意: 銀行振込のプロセスは、給与計算と同じ順序で実行する必要があります。たとえば、11 月と 12 月の給与計算を最終決定し、11 月の給与計算に関する銀行振込のプロセスを実行する前に 12 月の給与計算に関する銀行振込のプロセスを実行しようとする、エラーが発生します。

3. 国別のバッチ処理を実行します。

各国には、データを電子送信するための独自のファイル フォーマット要件があります。支給ファイルからデータを抽出して適切なフォーマットに変換するための、各国用のプロセスが用意されています。

注意: 各国用のバッチ処理の詳細については、対応する国の『PeopleSoft Enterprise グローバルペイロール PeopleBook』の銀行振込に関するセクションを参照してください。

銀行振込プロセス (ステップ 2) の結果と国別バッチ処理 (ステップ 3) の結果は、"カレンダー グループ別支給額の確認" コンポーネントで確認できます。

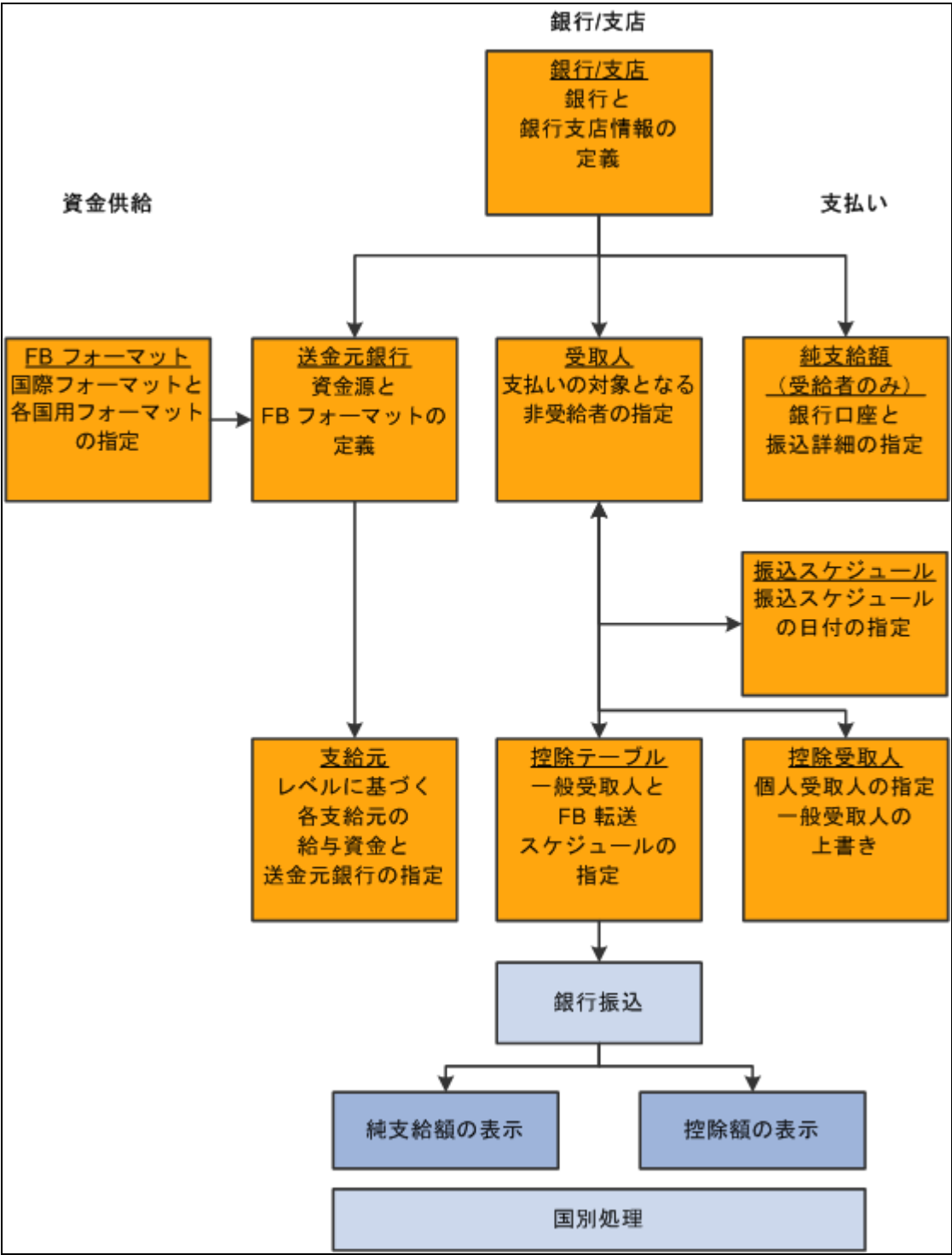
関連項目:

第 21 章、「給与計算の処理」、処理の概念、 817 ページ

第 34 章、「銀行振込の定義」、銀行振込結果のカレンダー グループ別確認、 1347 ページ

銀行振込処理のフロー

次の図は、銀行振込処理のフローを示しています。



グローバル ペイロール コア アプリケーションの銀行振込プロセス

銀行と支店の定義

銀行と銀行支店を定義するには、銀行 (BANK_EC) コンポーネントを使用します。

このセクションでは、銀行と支店の定義の概要と、使用するページについて説明します。

銀行と支店の定義について

銀行と支店の情報を設定するには、銀行テーブル ページと支店テーブル ページを使用します。

銀行と支店の定義に使用するページは、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理のアプリケーション全てに共通するページです。これらのページについては『PeopleSoft アプリケーションの基礎 PeopleBook』で説明しています。

各ページの用途の概要については、前セクションの設定要件の説明を参照してください。

関連項目:

第 34 章、「銀行振込の定義」、設定要件、1312 ページ

銀行および銀行支店の設定に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
銀行テーブル	BANK_EC	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[金融機関関連]、[銀行]、[銀行テーブル]	全ての金融機関の基本情報を設定します。
支店テーブル	BANK_BRANCH_EC	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[金融機関関連]、[銀行]、[支店テーブル]	銀行の支店情報を定義します。国によっては、銀行の支店情報が不要な場合もあります。

資金供給の設定

電子振替フォーマットを定義するには、電子振替フォーマット (EFT_NAME) コンポーネントを使用します。送金元銀行を定義するには、送金元銀行口座 (SRC_BANK) コンポーネントを使用します。また、デフォルトの送金元銀行を支給元に定義したり、送金元銀行を支給元に関連付けたりするには、支給元 (GP_PYENT) コンポーネントを使用します。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 電子振替フォーマットの定義
- 送金元銀行の定義
- 支給元のデフォルト送金元銀行の定義
- 送金元銀行と支給元に関連付け

資金供給の設定に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
電子振替フォーマット	EFT_NAME	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[銀行振込]、[電子振替フォーマット]、[電子振替フォーマット]	各国のファーム バンキング (FB) フォーマットを定義します。FB フォーマットは、多くの銀行で採用されている標準の形式です。
送金元銀行口座	SRC_BANK	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[金融機関関連]、[送金元銀行口座]、[送金元銀行口座]	送金元銀行と FB フォーマットを定義します。
支給元 - 処理詳細	GP_PYENT_PRCs_DTL	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[組織]、[支給元]、[処理詳細]	支給元に対してデフォルトの送金元銀行を定義します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
送金元銀行リンク	GP_PE_SBANK_LNK	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[組織]、[支給元]、[送金元銀行リンク]	<p>指定した支給元に関連付けられている会社、部門、事業所または支給グループに対して送金元銀行を定義します。</p> <p>注意: この設定は省略できます。"送金元銀行リンク" ページが空白の場合は、処理詳細ページで支給元ごとに定義したデフォルトの送金元銀行が使用されます。</p>

FB フォーマットの定義

電子振替フォーマット ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[銀行振込]、[電子振替フォーマット]、[電子振替フォーマット])。

電子振替フォーマット

国コード: CYM クイマン諸島

電子振替ファイル フォーマット			
カスタマイズ 検索 全件表示 最初 1-2/2 最後			
FB フォーマット名	ステータス	説明	
CTX	アクティブ	Corporate Trade Exchange	+ -
PPD	アクティブ	P rearranged Payments and Deposits	+ -

電子振替フォーマット ページ

国コード

このページにアクセスするために入力した国コードが表示されます。

FB フォーマット名

FB フォーマット名を入力します。FB フォーマットは、各国で SQR を実行するときに認識されるその国独自の値です。FB フォーマット名を定義したら、送金元銀行口座ページで、この情報を使用して送金元の FB フォーマットを指定できます。

注意: 各国の FB フォーマットの詳細については、対応する国の『PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール PeopleBook』の銀行振込に関するセクションを参照してください。

送金元銀行の定義

送金元銀行定義のページは、ヒューマン リソース管理のアプリケーション全てに共通するページです。このページについては『PeopleSoft アプリケーションの基礎 PeopleBook』に説明があります。

送金元銀行口座ページの用途の概要については、この章の資金供給の設定要件についての説明を参照してください。

関連項目:

第 34 章、「銀行振込の定義」、設定要件、 1312 ページ

支給元のデフォルト送金元銀行の定義

送金元銀行リンク ページの [送金元銀行 ID] フィールドに、支給元のデフォルト銀行を指定します。送金元銀行リンク ページで送金元銀行を定義しない場合は、支給元 - 処理詳細ページで定義したデフォルトの送金元銀行が使用されます。

処理詳細ページについては、この PeopleBook の別の章に説明されています。

関連項目:

第 14 章、「組織構造の定義」、支給元の処理詳細の入力、 532 ページ

支給元と送金元銀行の関連付け

送金元銀行リンク ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバルペイロール/休暇欠勤管理]、[フレームワーク]、[組織]、[支給元]、[送金元銀行リンク])。

支給元住所(P)

処理詳細(D)

遡及制限(R)

サポート エLEMENT 上書き

送金元銀行リンク(B)

支給処理統合(C)

支給元:

KOPE1

Pay Entity 1

*組織リンク オプション:

会社

定義

検索 | 全件表示

最初

1/1

最後

有効日:

2009/05/15

全組織ユニットのロード

組織リンク リスト

カスタマイズ | 検索 | 全件表示

最初

1/1

最後

組織ユニット	名称	送金元銀行 ID	名前

送金元銀行リンク ページ

給与資金は複数の送金元銀行から供給できます。送金元銀行リンク ページを使用して、支給元の給与資金を供給する送金元銀行口座を定義します。処理詳細ページで定義した支給元のデフォルト送金元銀行から給与資金を供給する場合は、このページは空白にしておきます。

組織リンク オプション

給与資金供給を行う組織レベルを選択します。[会社]、[部門]、[事業所]、[支給グループ] のいずれかを選択します。

参照: 第 14 章、「組織構造の定義」、支給元の処理詳細の入力、532 ページ。

注意: このフィールドの値が変更されると、[組織リンク リスト] グループ ボックスの入力値は、全てクリアされます。

全組織ユニットのロード

このボタンをクリックすると、[組織リンク リスト] グループ ボックスにデータがロードされます。有効日時点でアクティブな組織ユニットが全てロードされます。

組織リンク リスト

このグループボックスでは、[組織リンク オプション] フィールドで選択した各組織ユニットについて送金元銀行 ID を選択します。

組織ユニット	[組織リンク オプション] に指定した組織レベルの組織ユニットを選択します。
送金元銀行 ID	各組織ユニットの送金元銀行 ID を入力します。

例

支給元に 10 個の支給グループがあるとしします。支給グループのうち 2 グループだけがそれぞれ異なる送金元銀行を使用し、残りの 8 グループは同じ送金元銀行を使用するとしします。

この支給元に送金元銀行を設定するには、[組織リンク オプション] フィールドに [支給グループ] を選択します。

[組織リンク リスト] グループ ボックスにデータを設定するには、以下の 2 とおりの方法があります。

- 10 個の支給グループを全て [組織リンク リスト] に表示します。

同じ送金元銀行を使用する 8 個の支給グループについては、同じ送金元銀行 ID が表示されます。異なる送金元銀行を使用する 2 個の支給グループについては、送金元銀行 ID として異なる値が表示されます。
- 処理詳細ページで 8 つの支給グループにはデフォルトの送金元銀行 ID を定義し、送金元銀行リンク ページでは別の送金元銀行 ID を持つ 2 つの支給グループ用の 2 行だけに情報を入力します。

注意: [組織リンク リスト] グループ ボックスを空白にしておくと、処理詳細ページに定義されているデフォルトの送金元銀行 ID を使用するものと見なされます。

関連項目:

第 14 章、「組織構造の定義」、支給元の定義、529 ページ

振込スケジュールの定義

振込スケジュールを定義するには、振込スケジュール (DEP_SCHED) コンポーネントを使用します。

このセクションでは、振込スケジュールの概要と支給の決済日を指定する方法について説明します。

振込スケジュールについて

銀行業務のプロセスを実行すると、プロセスの実行日と、控除に関連付けられた振込スケジュールに基づいて振込日が割り当てられます。

- 振込スケジュールが割り当てられている控除については、実行日以降で実行日に最も近い日付が検索されます。
- 振込スケジュールが割り当てられていない控除の場合は、振込日はプロセスの実行日になります。

例

2 月の給与計算を 25 日に実行する場合

控除	振込スケジュール	振込日
純支給額	振込スケジュールは割り当てられていない	銀行業務処理が実行される日
所得税	四半期周期で各四半期の最終日	3 月 31 日
組合費	月次周期で各月の最初の日	3 月 1 日

この例から、銀行に送信するトランザクションを、振込日によって選別できることがわかります。

振込の管理

振込スケジュールは柔軟に定義できます。月末を期日とする振り込みが多数ある場合、決済日が月の最終日である振込スケジュールを作成できます。これらの日付を受給者および受取人に関連付けます。支給のプロセスを実行して、振込スケジュールの全情報を含むレポートを作成します。

振込スケジュールの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
振込スケジュール	DEP_SCHED	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[銀行振込]、[振込スケジュール]、[振込スケジュール]	送金元銀行の口座で、支給を決済する日付を指定します。

支給決済日の指定

振込スケジュール ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[銀行振込]、[振込スケジュール]、[振込スケジュール])。

振込スケジュール

振込スケジュール: MONTHLY

定義

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/2 | 最後

*有効日: 2011/01/01

ステータス: アクティブ

+ -

*名称: Monthly Deposit Schedule

略称: Mthly

スケジュール作成パラメータ

*スケジュールの単位: 月

期間内の単位数: 1

開始日: 2010/12/20

終了日: 2010/12/20

*スケジュール開始: 末日

調整日数:

振込日

加算/減算 | 検索 | 全件表示 | | | 最初 | 1-3/12 | 最後

決済日

2011/01/31

2011/02/28

2011/03/31

振込スケジュール ページ

スケジュール作成パラメータ

このグループ ボックスを使って、振込日作成の詳細を定義します。

1324

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

スケジュールの単位	作成するスケジュールのタイプを定義します。[日]、[月]、[四半期]、[週]、[年] のいずれかを選択します。選択した値により、決済日が設定される間隔が決まります。[月] を選択すると、決済日は月ごとに設定されます。
期間内の単位数	[スケジュールの単位] フィールドの周期を定義します。[スケジュールの単位] フィールドで [月] を指定し、[期間内の単位数] フィールドに「1」と入力すると、このスケジュールは月に 1 回実行されます。「2」と入力すると、2 か月に 1 回実行されます。
開始日 、 終了日	スケジュールのおおよその開始日と終了日を入力します。スケジュールは、この日付の範囲で作成されます。
スケジュール開始	振込スケジュールの相対的な開始日を選択します。(月の) [1 日] と [末日] のいずれかを選択します。これによって、振込スケジュールを開始する日が指定されます。たとえば、[スケジュールの単位] フィールドで [月]、[スケジュール開始] フィールドで [末日] を選択すると、振込日は月の末日になります。
調整日数	<p>[スケジュール開始] の日付と振込日との間を調整するための日数を指定します。たとえば、[スケジュールの単位] フィールドで [月]、[スケジュール開始] フィールドで [末日] を選択し、[期間内の単位数] に「1」を、[調整日数] フィールドに「+10」を入力するとします。この場合、翌月の 10 日から、毎月 10 日が振込日となる振込スケジュールが作成されます。</p> <hr/> <p>注意: [スケジュールの単位] フィールドで [日] または [週] が選択された場合、[スケジュール開始] フィールドと [調整日数] フィールドは使用できません。</p> <hr/>
決済日の作成	このボタンをクリックすると、[振込日] グループ ボックスに決済日が表示されます。
振込日	このグループ ボックスには、[スケジュール作成パラメータ] グループ ボックスで定義した内容に基づいて自動的にデータがロードされます。これらのパラメータから作成された振込予定日がここに表示されます。

控除受取人の定義

控除受取人を定義し、控除受取人の振込スケジュールを選択するには、控除受取人 (RECIPIENT) コンポーネントを使用します。

このセクションでは、控除受取人の概要と以下の作業を行う方法について説明します。

- 控除受取人の定義
- 控除受取人の振込スケジュールの選択

控除受取人の定義について

控除受取人とは、受給者から源泉徴収された任意および法定の控除を受け取る法人または個人です。PeopleSoft グローバル ペイロールでの控除受取人には、以下の 2 種類があります。

- 政府機関などの一般受取人

特定の控除がある受給者全てから源泉徴収された額を受け取ります。

- 養育費支給などを受け取る配偶者などの個人受取人

1 人または複数の受給者から源泉徴収された額を受け取ります。

注意: 通常、一般受取人は法人であり個人受取人は個人ですが、必須条件ではありません。

各控除受取人には、支払いスケジュールが設定されます。固有の振込スケジュールを作成して、振込日を指定することができます。

注意: 控除受取人を定義するには、銀行テーブル ページで銀行の一般情報を設定しておく必要があります。

関連項目:

[第 34 章、「銀行振込の定義」、銀行と支店の定義、1317 ページ](#)

控除受取人の定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
控除受取人定義	RECIPIENT	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[銀行振込]、[控除受取人]、[控除受取人定義]	控除の一般受取人と個人受取人を定義します。
受給者住所	RECIPIENT_ADR_SP	受給者住所ページにアクセスするには、[住所] リンクをクリックします。	控除受取人の住所情報を入力します。
国際銀行口座番号	BANKACCT_IBAN_SEC	[IBAN 編集] リンクをクリックします。	(イギリス、フランス、ベルギー、スペイン、スイス、ドイツ、イタリア、オランダ機能) 国際銀行口座番号 (IBAN) を作成、編集します。このページについては、『PeopleSoft Enterprise HRMS 9.1 アプリケーションの基礎 PeopleBook』に説明されています。
受取人振込スケジュール	RECIPIENT_DEP_INFO	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[銀行振込]、[控除受取人]、[受取人振込スケジュール]	控除受取人の振込スケジュールを選択します。

控除受取人の定義

控除受取人定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[銀行振込]、[控除受取人]、[控除受取人定義])。

控除受取人定義		受取人振込スケジュール	
受取人 ID:	GXBKGR1		
*名称:	Banking - General Receiver 1	住所	
ステータス:	アクティブ	*支払方法:	銀行振替
受取人カテゴリ:	<input checked="" type="radio"/> 個人 <input type="radio"/> 一般		
銀行口座情報			
銀行詳細			
*国コード:	CYM	ケイマン諸島	
*銀行 ID:			
銀行支店 ID:			
*口座番号:			
*口座名義:			
*通貨コード:	KYD	ケイマン諸島ドル	

控除受取人定義ページ

住所

[住所] リンクをクリックすると、受給者住所ページが表示されます。このページでは受取人の国情報や住所情報を定義します。

支払方法

支払方法を指定します。[銀行振替]、[現金]、[小切手]、[郵便為替]、[電信送金] のいずれかを選択します。

注意: [銀行振替] または [電信送金] が選択されていないと、銀行口座情報は入力できません。

国コード

国コードを入力します。

銀行 ID 、 銀行支店 ID

受取人の銀行 ID と支店 ID (必要な場合) を選択します。

注意: 全ての国で銀行の支店 ID が必要なわけではありません。

口座番号 、 口座名義

受取人の口座情報を入力します。

通貨コード

受取人に支払われるときの通貨コードを指定します。このフィールドに入力するコードは参照専用であり、銀行振込のプロセスでは使用されません。

IBAN 、 IBAN 編集

(イギリス、フランス、ベルギー、スペイン、スイス、ドイツ、イタリア、オランダ機能) 国際銀行口座番号が表示されます。

[IBAN 編集] リンクをクリックすると、国際銀行口座番号ページが表示されます。このページでは国際銀行口座情報を作成、編集することができます。

受取人カテゴリ

- 個人
- 受取人が、裁判所命令の控除のように 1 人または複数の受給者から源泉徴収された額を受け取る場合は、このオプション ボタンを選択します。
- 一般
- 受取人が、特定の控除が指定されている受給者全てから源泉徴収された額を受け取る場合は、このオプション ボタンを選択します。一般受取人とは、受給者のさまざまな控除を徴収する法人のことで、税金を徴収する地方および中央政府機関、保険関連の福利厚生費を徴収する保険会社、組合費を徴収する組合などがこれに該当します。

控除受取人の振込スケジュールの選択

受取人振込スケジュール ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[銀行振込]、[控除受取人]、[受取人振込スケジュール])。

控除受取人定義

受取人振込スケジュール

受取人 ID:

GXBKGR1

Banking - General Receiver 1

振込スケジュール:

GXWKLY

Banking - Deposit Schedule 1

目的 1:

1

目的 2:

2

受取人振込スケジュール

振込スケジュール

受取人が支払いを受ける周期が指定されている振込スケジュールを選択します。振込スケジュールは、[HRMS 基本設定] の下にある "銀行振込" の振込スケジュール ページで定義します。

参照: [第 34 章、「銀行振込の定義」、振込スケジュールの定義、1322 ページ。](#)

目的 1、目的 2

銀行振込ファイルに含まれる情報 (銀行送金番号、名称など) を入力します。

控除と受給者に対する受取人の割り当て

このセクションでは、控除受取人割り当ての概要と以下の作業を行う方法について説明します。

- 控除および受給者に対する個人受取人の関連付け
- 受取人の口座情報の定義
- 控除に対する一般受取人の関連付け

受取人の割り当てについて

受取人を定義したら、その受取人を控除と受給者に割り当てます。受取人をどこに割り当てるかは、控除の種類により異なります。

受取人を割り当てるには、以下の作業を行います。

- [控除受取人割当] (受給者レベルの控除受取人) ページで、個人受取人を控除および受給者に割り当てます。
- 控除コンポーネントの受取人ページで、一般受取人を控除に割り当てます。

以下のセクションでは、それぞれの受取人タイプについて詳しく説明します。

個人受取人

個人を対象とする差し押え控除など、受給者によって受取人が異なる控除の場合は、[控除受取人割当] (受給者レベルの控除受取人) ページ で受取人を割り当てます。

注意: 控除受取人割当ページにアクセスするは、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[純支給額配分/受取人の選択]、[控除受取人追加] の順にクリックします。

参照: 第 34 章、「銀行振込の定義」、控除と受給者に対する個人受取人の割り当て、1333 ページ。

一般受取人

一方、保険取扱機関に対する保険料控除の支払いなどのように、控除受取人が一般法人の場合は、控除の定義に受取人情報を指定し、この控除の対象となる全ての受給者から控除したこの保険料を合計して 1 人の受取人に合計額が送られるように設定します。

一般受取人を控除に関連付けるには、以下の 2 つの方法があります。

- 受取人 ID 別に受取人を選択
- どの一般受取人が控除を受け取るのかを定義するフォーミュラを選択

バッチ処理の計算フェーズで控除が処理されるときに、フォーミュラを使った計算が行われます。結果は、支給と控除の結果テーブルに保存されます。銀行振込のプロセスを実行すると、結果テーブルから受取人 ID が取得されます。

注意: 控除受取人割当ページでは、特定の受給者について、控除の一般受取人を上書きできます。

控除コンポーネントの受取人ページについては、この PeopleBook の別の章で説明されています。

参照: 第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、控除エレメントの定義、306 ページ。

控除と受給者に対する受取人の割り当てに使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
控除受取人の追加	GP_RCP_PYE	<ul style="list-style-type: none"> • [グローバル ペイ ロール/休暇欠勤管 理]、[受給者デー タ]、[純支給額配分 /受取人の選択]、[控 除受取人追加]、[控 除受取人の追加] • [グローバル ペイ ロール/休暇欠勤管 理]、[受給者デー タ]、[支給と控除の 割当]、[受給者別エ レメント割当] <p>受給者別エレメント 割当ページで [控除 受取人] リンクをク リックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [グローバル ペイ ロール/休暇欠勤管 理]、[受給者デー タ]、[支給と控除の 割当]、[エレメント 別受給者割当] <p>エレメント別受給者 割当ページの [受取 人] タブで [受取人の 編集] リンクをク リックします。</p>	個人受取人を控除と受給者に割り当てます。特定受給者の控除の一般受取人を上書きします。
受取人情報	GP_RCP_PYE_SP	"控除受取人の追加" ページの [銀行口座情報] リンクをクリックします。	受取人の銀行口座情報を定義します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
受取人	GP_RCP_DED	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[給与計算エレメント]、[控除]	一般受取人を控除に関連付けます。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、控除の一般受取人の選択、 330 ページ

控除と受給者に対する個人受取人の割り当て

控除受取人の追加ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[純支給額配分/受取人の選択]、[控除受取人の追加])。

控除受取人追加

従業員 ID: KOG002 雇用コード: 0 名前: Issac Nichta

控除

受取人 ID または受取人名/情報の指定

*有効日: 2010/12/20

受取人 ID:

受取人名:

振込スケジュール:

目的 1:

目的 2:

[控除割当](#)

控除受取人割当ページ

エレメント名 受取人情報を定義する控除を選択します。

受取人タグ

受取人タグを入力します。タグは、控除を複数回変換する場合に使用します。特定の受給者に 1 つまたは複数の受取人タグを設定することが可能です。タグは受取人 ID または受取人名に関連付けられます。受取人タグは数字で表示されます。"個人" の控除受取人に関連付けられた受取人タグの値は、ゼロより大きくする必要があります。これにより、一般控除受取人を個人受取人とともにこの従業員に割り当てる必要がある場合、ゼロの受取人タグが使用可能になります。支給も控除も割り当てられていないと、換算金額が追加されます。

受取人 ID

事前に設定されている受取人の受取人 ID を選択します (受取人の設定は、控除受取人コンポーネントを使用します)。新しい受取人を定義するには、このフィールドを空白のままにして、[受取人名] フィールドに値を入力します。既に設定されている受取人を選択すると、[受取人 ID] フィールドの隣に受取人名が表示されます。受取人名のリンクをクリックして控除受取人定義 (RECIPIENT) コンポーネントにアクセスすると、受取人の詳細情報を表示、更新できます。

受取人名、銀行口座情報

新しい受取人を定義する場合は、受取名を入力します。このフィールドに値を入力すると、[銀行口座情報] リンクが表示されます。[銀行口座情報] リンクをクリックすると、受取人情報ページされます。このページから支払方法や受取人の銀行口座情報を入力します。

振込スケジュール

受取人の振込スケジュールを選択します。

目的 1、目的 2

銀行振込ファイルに含まれる情報 (銀行送金番号、名称など) を入力します。

控除割当

[控除割当] リンクをクリックすると、支給と控除の割当ページにアクセスします。

受取人の口座情報の定義

受取人情報ページにアクセスします (控除受取人の追加ページの [銀行口座情報] リンクをクリックします)。

控除受取人追加

受取人情報 (Hiroshi Enutsuka)

*支払方法:

銀行振替

銀行詳細

国コード:

CYM

ケイマン諸島

☒ 国際 ACH 銀行口座

銀行 ID:

GXBANK1

Saving and Loan of the Cayment Islands

銀行支店 ID:

口座番号:

口座名義:

*通貨コード:

KYD

ケイマン諸島ドル

受取人情報ページ

このページにあるフィールドは、控除受取人定義ページにあるフィールドと同じです。

関連項目:

第 34 章、「銀行振込の定義」、控除受取人の定義、 1326 ページ

控除に対する一般受取人の割り当て

一般受取人を控除に関連付けるには、控除コンポーネントの受取人ページにアクセスして、控除受取人を選択します。受取人ページについては、この PeopleBook の別の章に説明されています。

関連項目:

第 8 章、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、控除の一般受取人の選択、 330 ページ

受給者の純支給額配分の定義

このセクションでは、受給者純支給額配分の概要と、以下の作業を行う方法について説明します。

- 受給者の銀行口座情報の入力
- 受給者純支給額配分の定義

- (ESP) 銀行間決済コードの指定

受給者の純支給額配分について

組織の銀行振込情報を設定したら、各受給者の銀行口座情報および純支給額配分情報を定義できます。

注意: PeopleSoft Enterprise ePay - 給与のセルフ サービス ページでは、受給者が自分自身の個人給与情報 (個人の銀行口座や給与支給配分方法など) を管理できます。このセルフ サービス ページについては、『PeopleSoft Enterprise ePay-給与 PeopleBook』で説明されています。

参照: PeopleSoft Enterprise ePay-給与 9.1 PeopleBook、「グローバル ペイロールの支給情報の管理。」

受給者の純支給額配分情報の定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
銀行口座管理	PYE_BANKACCT	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者 データ]、[純支給額配分 / 受取人の選択]、[銀行口座管理]、[銀行口座管理]	受給者の銀行口座情報を入力します。この情報は、従業員の自動振込情報の追跡管理に使用します。 参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.1 PeopleBook: 人事・労務管理、「人事レコードへの追加情報の入力」、従業員の銀行口座情報の記録。
国際銀行口座番号	BANKACCT_IBAN_SEC	[IBAN 編集] リンクをクリックします。	(イギリス、フランス、ベルギー、スペイン、スイス、ドイツ、イタリア、オランダ機能) 国際銀行口座番号 (IBAN) を作成、編集します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
純支給額配分の指定	GP_NET_DIST	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[純支給額配分 / 受取人の選択]、[純支給額配分の指定]、[純支給額配分の指定]	受給者の銀行口座間での純支給額配分方法を定義します。
銀行間決済方法	GPMX_PYE_BANKACCT	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[純支給額配分 / 受取人の選択]、[銀行口座管理]、[銀行口座管理] [その他の必須情報] リンクをクリックします。	(MEX) 受給者の銀行口座に関連付けられている Clave Bancaria Estandarizada (CLABE) 番号を入力します。

受給者の銀行口座情報の入力

銀行口座管理ページにアクセスします ([グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[純支給額配分 / 受取人の選択]、[銀行口座管理]、[銀行口座管理])。

銀行口座管理

Darlene Bergsten

個人 ID: KOG003

銀行口座

検索 | 全件表示 | 最初 1/1 | 最後

口座 ID: 1 ステータス: アクティブ

タイプ: 当座

銀行詳細

国コード: USA アメリカ ☐ 国際 ACH 銀行口座

*銀行 ID: 009824567 State Bank

銀行支店 ID:

*口座番号: 36225178

口座名義: Darlene Bergsten

*通貨コード: USD アメリカドル

口座名義フリガナ:

[純支給額配分の指定](#)

銀行口座管理ページ

- 口座 ID

銀行口座情報に番号が自動的に割り当てられます。
- タイプ

受給者の銀行口座のタイプを指定します。[住宅金融組合の登録番号]、[当座]、[現在の口座]、[Giro 口座]、[普通]、[貯蓄] のいずれかを選択します。
- 国コード、銀行 ID、銀行支店 ID

受給者についてこれらの情報を選択します。
- 国際 ACH 銀行口座

銀行が米国の管轄地域外にあることを指定する場合はオンにします。

注意:

このフィールドが表示されるのは、PeopleSoft Enterprise Payroll for North America または PeopleSoft Enterprise Global Payroll for United States がインストールされている場合に限られます。
- 口座番号、口座名義

受給者の口座情報を入力します。
- 口座名義

従業員の口座名義を入力します。

予告通知情報	(USA) このリンクをクリックすると、銀行予告通知情報ページにアクセスします。
通貨コード	口座の管理に使う通貨のコードを選択します。このフィールドに入力するコードは参照専用であり、銀行振込のプロセスでは使用されません。
その他の必須情報	<p>(MEX) このリンクをクリックすると、銀行間決済方法ページにアクセスして、Clave Bancaria Estandarizada (CLABE) 番号を入力できます。このリンクは、[国コード] フィールドで [MEX] を選択した場合にのみ使用できます。</p> <p>参照: 第 34 章、「銀行振込の定義」、(MEX) 銀行間決済コードの指定、1339 ページ。</p>
IBAN 、 IBAN 編集	<p>(イギリス、フランス、ベルギー、スペイン、スイス、ドイツ、イタリア、オランダ機能) 国際銀行口座番号が表示されます。</p> <p>[IBAN 編集] リンクをクリックすると、国際銀行口座番号ページが表示されます。このページでは国際銀行口座情報を作成、編集することができます。</p>
口座名義フリガナ	プライマリ権限リスト基本設定ページで、[フリガナの使用] チェック ボックスをオンにしている場合に表示されます。
純支給額配分の指定	このリンクをクリックすると、[純支給額配分の指定] ページに移動します。このページでは、受給者の純支給額配分の詳細を確認、更新できます。

(MEX) 銀行間決済コードの指定

銀行間決済方法ページにアクセスします (銀行口座管理ページの [その他の必須情報] リンクをクリックします)。

銀行間決済方法

銀行間決済方法

CLABE: 123456789987654321

銀行間決済方法ページ

CLABE

受給者の銀行口座に関連付けられている Clave Bancaria Estandarizada (CLABE) 番号を入力します。CLABE 番号は、国内銀行間振替用の 18 桁の標準化された数値銀行コードです。

純支給額配分の指定

純支給額配分の指定ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[純支給額配分/受取人の選択]、[純支給額配分の指定]、[純支給額配分の指定])。

純支給額配分の指定

Darlene BergstenEMPID: K0G003雇用コード: 0

実行タイプ*

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

*実行タイプ名: KORYPAY 給与計算

デフォルト選択

有効日

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

*有効日: 1990/01/01

配分詳細

カスサイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

順序番号	支払方法	口座 ID	第 1 口座	一部額振込可	配分率	金額
1	銀行振替	1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	100.00	

銀行口座管理

純支給額配分の指定ページ

実行タイプ名

純支給額配分に使用する実行タイプを選択します。配分は実行タイプ別に定義できます。たとえば、1 つの配分を定期的な実行用、もう 1 つの配分を経費用に定義します。

デフォルト選択

デフォルトの実行タイプを指定する場合は、このチェック ボックスをオンにします。銀行振込のプロセスを実行すると、支給カレンダーに定義されている実行タイプが確認され、その受給者の純支給額の配分のうち一致するものが検索されます。一致するものが見つからなかった場合は、[デフォルト選択] チェック ボックスがオンになっている行の配分が使用されます。

順序番号

順序番号を入力します。この番号は配分の優先順位を表します。口座タイプが指定された配分額がある場合は、優先順位を付けます。たとえば、毎月 100 を普通口座に配分し、残りを当座口座に配分することを受給者が希望しているとします。このような場合、普通口座への配分の優先順位が高くなります。

1340

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

支払方法

受給者への支払い方法を選択します。[銀行振替]、[現金]、[小切手]、[郵便為替]、[電信送金] のいずれかを選択します。

注意: 支払方法が [小切手] または [現金] の場合は、1 行しか作成できません。1 つの支給期間において、1 人の受給者に複数の小切手や現金の金額を指定することはできません。

口座 ID

[支払方法] フィールドで支払方法として [銀行振替] または [電信送金] を選択した場合は、受給者の銀行口座 ID を指定します。銀行口座管理ページの [口座 ID] フィールドに定義されている内容が選択肢として表示されます。

注意: [支払方法] フィールドで [現金]、[小切手]、または [郵便為替] を選択した場合は、[口座 ID] に値を入力する必要はありません。

第 1 口座

指定した口座が受給者の第 1 口座の場合には、このチェック ボックスをオンにします。受給者が配分額を複数の口座に割り当てるように設定していて、割り当て後に純支給額がまだ残っている場合、余剰額は第 1 口座に配分されます。

注意: 純支給額がマイナスの場合は、第 1 口座に配分されます。

一部額振込可

設定されている純支給額配分の金額に満たなくても配分する場合は、このチェック ボックスをオンにします。

たとえば、受給者が毎月 1200 を以下のように配分するとします。

- 500: 当座口座
- 400: 普通口座
- 300: 退職金口座

ある月の純支給額が 1050 しかなかったとします。500 を当座口座に、400 を普通口座に配分すると、退職金口座には本来の金額である 300 を配分できなくなります。[一部額振込可] をオンにしておくと、この場合には一部金額の 150 が配分されます。[一部額振込可] をオフの場合には、150 は受給者の第 1 口座に配分されます。したがって、退職金口座に配分される金額はありません。

配分率

口座への配分を純支給額の比率で計算する場合、その比率を入力します。

金額

口座への配分を金額で計算する場合、その額を指定します。

注意: 純支給額配分は、比率、金額、またはその両方で指定できます。合計が 100% を超えることはできません。特に指定のない限り、配分率を使用して割り当てた後の残金は、第 1 口座に配分されます。

銀行口座管理

このリンクをクリックすると、[銀行口座管理] ページに移動して、受給者の銀行口座情報を確認、更新できます。

支払方法の変更

システム エlement PAYMENT MTHD を使用すると、受給者、実行タイプまたはカレンダー グループごとに定義された支払方法を上書きできます。この Element は給与計算処理時に変換され、変換された値は GP_PYE_SEG_STAT 結果テーブルに保存されます。銀行振込処理では結果テーブルに保存された値がチェックされ、この値に支払方法が指定されている場合は、支払方法上書きが適用されます。値に支払方法が指定されていない場合は、受給者に対して定義された通常の支払方法が使用されます。上書きが可能な支払方法は、[小切手]、[現金]、[郵便為替] または [第 1 口座にのみ支給] のいずれかです。

PeopleSoft グローバル ペイロールのコア アプリケーションには、システム Element PAYMENT MTHD を更新するためのルールは用意されていません。このシステム Element の使い方については、グローバル ペイロールの国別拡張機能の PeopleBook を参照してください。

銀行振込処理の実行

このセクションでは、銀行振込処理の概要と、カレンダー実行での純支給額と控除額の作成方法について説明します。

銀行振込処理について

支給の準備には、給与計算実行時に作成される給与計算結果テーブルが使われます。また、銀行振込準備アプリケーション エンジン プロセス (GP_PMT_PREP) によって、支給情報が格納されたテーブル GP_PAYMENT が作成されます。このプロセスでは、各セグメントの支給が作成され、各従業員 ID、雇用レコードおよび実行タイプに対する純支給額がカレンダー期間 ID 別に保存されます。手動支給以外では、値がゼロの場合は、純支給額は保存されません。

注意: 支給ファイルを作成するプロセスは国別機能です。この機能については対応する国のドキュメンテーションで説明します。

例 1: 昇給を伴う従業員の支給処理

従業員の純支給額配分は、次のようになります。

支払方法	銀行口座	第 1 口座	一部額振込可	配分率	金額
銀行振替	DEF				100
銀行振替	ABC	オン	オン	100%	

従業員の昇給は 12 月 15 日に有効になり、12 月の純支給額は 3500 です。12 月の給与計算結果は、次のようになります。

セグメント	期間	支給元	カレンダー期間 ID	金額
1	12 月 1 日～ 15 日	AP	月次	1500
2	12 月 15 日～ 31 日	AP	月次	2000

この従業員の銀行振込処理の実行結果は、次のようになります。

支払方法	セグメント	金額	カレンダー期間 ID	送金元銀行	銀行口座
銀行振替	1	100	月次	銀行 1	DEF
銀行振替	1	1400	月次	銀行 1	ABC
銀行振替	2	2000	月次	銀行 1	ABC

例 2: 複数の職務を持つ従業員の支給処理

同一の従業員が複数の職務を持つ場合の純支給額配分は次のようになります。ただし、ここでは純支給額配分が1 つしか定義されていません。

雇用レコード	支払方法	銀行口座	第 1 口座	一部額振込可	配分率	金額
0	銀行振替	DEF				100
0	銀行振替	ABC	オン	オン	100%	

従業員は、送金元銀行が異なる別々の部門で働き、純支給額の合計は 4100 であるとします。12 月の給与計算結果は、次のようになります。

雇用レコード	セグメント	期間	支給元	カレンダー期間 ID	金額
0	1	12 月 1 日～ 15 日	AP	月次	1500
0	2	12 月 15 日～ 31 日	AP	月次	2000
1	1	12 月 1 日～ 31 日	AP	月次	600

この従業員の銀行振込処理の実行結果は、次のようになります。

雇用レコード	支払方法	セグメント	金額	カレンダー期間 ID	送金元銀行	銀行口座
0	銀行振替	1	100	月次	銀行 1	DEF
0	銀行振替	1	1400	月次	銀行 1	ABC
0	銀行振替	2	2000	月次	銀行 2	ABC
1	小切手	1	600	月次	銀行 3	配分なし

この例では、従業員の 2 番目の職務 (雇用レコード 1) に純支給額配分が指定されていないため、この職務の支給金額は配分されません。

銀行振込処理の実行に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
支給準備プロセス	GP_PMT_PREPARE	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[支給処理]、[支給準備プロセス]、[支給準備プロセス]	各カレンダー実行用に、純支給額、および個人受取人と一般受取人の控除額を作成するプロセスを実行します。

カレンダー実行用の純支給額と控除額の作成

支給準備プロセス ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[支給処理]、[支給準備プロセス]、[支給準備プロセス])。

支給準備プロセスの実行

ラン コントロール ID: 1 [レポート マネージ](#) [プロセス モニター](#) [実行](#)

カレンダー グループ ID

カレンダー グループ:

名称: Calendar Group GD2 Apr01

ストリーム番号: ☐ ストリーム処理

処理フェーズとオプション

☒ 計算

☒ 統計の更新

☒ 最終決定

カレンダー リスト		
支給グループ*	カレンダー ID	支給日
GD2PG1	GD2PG1 APR01	2001/04/30
GD2PG2	GD2PG2 APR01	2001/04/30

ストリーム			
ストリーム番号	開始従業員 ID	終了従業員 ID	計算済
			<input type="checkbox"/>

支給準備プロセス

カレンダー グループ

プロセス実行対象のカレンダー グループを選択します。給与計算処理で承認された、または最終決定したアイテム (セグメント) が全て処理されます。

ストリーム番号

[ストリーム処理] チェック ボックス、および [処理フェーズとオプション] グループ ボックスの [計算] チェック ボックスをオンした場合は、処理対象のストリーム番号を選択する必要があります。各ストリーム番号は、事前定義した受給者のグループを表します。

ストリーム処理

カレンダー グループの定義でストリーム処理の実行オプションを選択した場合には、この [ストリーム処理] チェック ボックスは自動的にオンになります。

処理フェーズとオプション

計算

給与計算処理で承認および最終決定された結果と、銀行業務の設定時に定義した情報とを照合して、支給ファイルが自動的に作成されるようにする場合に、このチェック ボックスをオンにします。

計算ステップは、銀行振込のプロセスを最終決定するまで繰り返し実行できます。

統計の更新

このチェック ボックスをオンにすると、銀行振込システムから統計が出力され、データ管理者はシステムの処理効率を微調整することができます。

最終決定

全ての計算を完了してから、このチェック ボックスをオンにします。(計算フェーズにストリーム処理を使用した場合は、カレンダーグループの全てのストリームが同時に最終決定されます。)

注意: ストリームを使用しない場合、[計算] と [最終決定] の両方のチェック ボックスを同時にオンにできます。

カレンダー リスト

計算フェーズを実行すると、このグループ ボックスには、カレンダー実行の各カレンダーに関する情報が表示されます。

ストリーム

このグループ ボックスには、カレンダー グループに関連付けられている全てのストリームが表示されます。

関連項目:

第 21 章、「給与計算の処理」、ストリーム処理の作成、 837 ページ

銀行振込結果のカレンダー グループ別確認

この章では、銀行振込の概要および以下の作業を行う方法について説明します。

- 純支給額の表示
- 控除額の表示

銀行振込結果について

銀行振込処理の実行後に、受給者の純支給額と控除額を確認できます。

注意: 各国の銀行振込処理の詳細については、国別のドキュメンテーションを参照してください。

銀行振込処理結果の確認に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
純支給額	GP_PMT_NP_VIEW	[グローバル ペイロール /休暇欠勤管理]、[支給処理]、[カレンダー グループ別支給額の確認]、[純支給額]	純支給額をカレンダー グループ別に表示します。
控除額表示	GP_PMT_DED_VIEW	[グローバル ペイロール /休暇欠勤管理]、[支給処理]、[カレンダー グループ別支給額の確認]、[控除額表示]	カレンダー グループ別に受取人の控除額を表示します。

純支給額の表示

純支給額ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[支給処理]、[カレンダー グループ別支給額の確認]、[純支給額])。

純支給額 控除額表示

カレンダー グループ: K1G_SMPL_FEB04M Feb 04 - Monthly

選択条件

開始従業員 ID:

終了従業員 ID:

支給グループ:

支払方法:

支給番号:

支給ステータス:

☐ サマリ - 従業員

一致する支給額の選択

クリア

純支給額

受給者情報(P) カレンダー情報(C) 支給情報(I) 検索 全件表示 最初 1/1 最後

支給ステータス	従業員 ID	名前	レコード	インスタンス番号	金額	通貨コード	支払方法	送金元銀行 ID
			0		0.000000			

純支給額ページ

注意: 300 行を超えるデータがある場合は、指定したカレンダー グループのレコードを表示するには選択条件の入力が必要であることを知らせるメッセージが表示されます。

選択条件

このグループ ボックスのフィールドを使って、表示する従業員を選択します。[一致する支給額の選択] ボタンをクリックすると、[純支給額] グループ ボックスにデータが表示されます。

開始従業員 ID 、 終了従業員 ID 純支給額表示の対象となる従業員の範囲を選択します。

支給グループ 純支給額の結果を表示する支給グループを選択します。

支払方法 純支給額の結果を表示する際に対象となる支払方法を選択します。
[銀行振替]、[現金]、[小切手]、[郵便為替]、[電信送金] のいずれかを選択します。

支給番号

純支給額の支給番号を入力します。

注意: グローバル ペイロール コア製品の場合、支給番号は、オフサイクル処理の手動支給の場合に使用されます。

参照: 第 24 章、「オフサイクル処理の管理」、937 ページ。

支給ステータス

銀行振込処理結果の支給ステータスを選択します。[決定済]、[保留]、[手動支給済]、[非アクティブ配賦]、[準備済]、[振込済]、[無効] のいずれかを選択します。

サマリ - 従業員

このチェック ボックスをオンにすると、各カレンダー期間、支払方法および送金元銀行ごとに従業員支給のサマリが表示されます。このチェック ボックスをオフにしておくと、支給期間での各セグメントに対する支給データが一覧表示されます。

[サマリ - 従業員] チェック ボックスをオンにすると、支払方法と送金元銀行が一致する全てのセグメントについて合計金額が表示されます。

一致する支給額の選択

このボタンをクリックすると、選択した条件に一致する支給データが [純支給額] グループ ボックスに表示されます。

クリア

[純支給額] グループ ボックスのデータを全てクリアするには、このボタンをクリックします。

受給者情報

[受給者情報] タブを選択します。

各支給に関連付けられた支給ステータス、従業員 ID、名前、レコード番号、インスタンス番号、金額、通貨コード、支払方法、および送金元銀行 ID が表示されます。

支給ステータス

支給ステータスが表示されます。支給ステータスを変更できるのは、銀行振込処理が決定されていて、[サマリ - 従業員] チェックボックスがオフの場合だけです。オプションは、以下のとおりです。

[保留]: このステータスを選択すると、銀行振替が中止されます。支給を行うときは、ステータスを [保留] から [決定済] に変更します。振込完了後にステータスを [保留] に変更することはできません。

[手動支給済]: 手動支給のステータスは変更できません。

[準備済]: 銀行振込処理を実行して、支給額が最初に配賦されると、このステータスが自動的に設定されます。

[振込済]: 支給額が銀行に振り込まれたことを表します。国別処理では、ステータスは [準備済] から [振込済] に変わります。

[アクティブ配分なし]: 純支給額配分の指定ページで、純支給額配分が受給者に定義されていないことを表します。

[決定済]: 支給が作成され、決定されています。決定済みの支給は [無効] または [保留] のステータスに変更できます。

[無効]: 支給をキャンセルする場合に、このステータスを選択します。支給を一度無効にすると、無効の取り消しはできません。

注意: 支給を取り消した時点で、支給の対象となる支給額と控除額が自動的に取り消されます。

注意: 支給を無効にして、オフサイクル処理で支給の訂正または取り消しを行おうとする場合、ステータスを無効に設定しただけでは給与は自動的に再計算されません。オフサイクル処理を実行して給与を再計算する必要があります。

カレンダー情報

[カレンダー情報] タブを選択します。

純支給額

控除額表示

カレンダー グループ:

K1G_SMPL_FEB04M

Feb 04 - Monthly

選択条件

開始従業員 ID:

終了従業員 ID:

支給グループ:

支払方法:

支給番号:

支給ステータス:

☐ サマリ - 従業員

一致する支給額の選択

クリア

純支給額

カスタイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

受給者情報(P)

カレンダー情報(C)

支給情報(I)

支給ステータス	従業員 ID	名前	レポート	セグメント番号	金額	カレンダー ID	支給グループ
			0		0.000000		

純支給額ページ - [カレンダー情報] タブ

このタブには、各支給に関連付けられたセグメント番号、カレンダー ID、支給グループが表示されます。

支給情報

[支給情報] タブを選択します。

純支給額

控除額表示

カレンダー グループ:

K1G_SMPL_FEB04M

Feb 04 - Monthly

選択条件

開始従業員 ID:

終了従業員 ID:

支給グループ:

支払方法:

支給番号:

支給ステータス:

☐ サマリ - 従業員

一致する支給額の選択

クリア

純支給額

カスタイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

受給者情報(P)

カレンダー情報(C)

支給情報(I)

支給ステータス	従業員 ID	名前	レポート	金額	支給番号	支給 ID
			0		0	

純支給額ページ - [支給情報] タブ

このタブには、各支給に関連付けられた支給番号と支給 ID が表示されます。コア プロセスのためにオフサイクル給与計算で手動支給が指定された場合以外は、これらのフィールドは空白になります。

注意: 国別拡張機能によっては、手動支給のみでなく、通常の銀行振込処理でも支給番号と支給 ID が使用されます。

関連項目:

第 24 章、「オフサイクル処理の管理」、937 ページ

控除額表示

控除額表示ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[支給処理]、[カレンダー グループ別支給額の確認]、[控除額表示])。

純支給額

控除額表示

カレンダー グループ: KAM03M05

May Monthly Payroll 2003

選択条件

開始従業員 ID:

終了従業員 ID:

支給グループ:

控除:

登録済み受取人:

アドホック 受取人:

受取人タイプ:

支給ステータス:

☐ サマリ - 受取人情報

一致する支給額の選択

クリア

控除

加減算 | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

受取人情報(R)

受給者情報(P)

カレンダー情報(C)

支給ステータス	名称	受取人 ID	受取人名	金額	通貨	決済日	支払方法
				0.000000			

控除額表示ページ

注意: 300 行を超えるデータがある場合は、指定したカレンダー グループのレコードを表示するには選択条件の入力が必要であることを知らせるメッセージが表示されます。

注意: 控除額表示ページの [選択条件] グループ ボックス内のフィールドは、純支給額ページのフィールドとほとんど同じです。これらの共通フィールドについては、純支給額ページの説明を参照してください。ここでは、控除額表示ページだけに使用されるフィールドについて説明します。

参照: 第 34 章、「銀行振込の定義」、純支給額の表示、1348 ページ。

登録済み受取人

控除受取人定義ページで定義された受取人の控除額を表示するには、受取人 ID を選択します。

- アドホック受取人

控除受取人割当ページで定義された受取人の控除額を表示するには、このフィールドに受取人を選択します。
- 受取人タイプ

[一般受取人控除] または [個人受取人控除] のいずれかを選択します。
- サマリ - 受取人情報

受取人に支給される合計金額を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオフにしておくと、受給者ごとに受取人に支給される合計金額が一覧表示されます。

受給者情報

[受給者情報] タブを選択します。

純支給額

控除額表示

カレンダー グループ: KAM03M05

May Monthly Payroll 2003

選択条件

開始従業員 ID:

支給グループ:

登録済み受取人:

受取人タイプ:

終了従業員 ID:

控除:

アドホック 受取人:

支給ステータス:

☐ サマリ - 受取人情報

一致する支給額の選択

クリア

控除

受取人情報(R) 受給者情報(P) カレンダー情報(C)

カスナビズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

支給ステータス	名称	送金元銀行 ID	従業員 ID	名前	雇用コード	支給額	通貨
					0	0.000000	

控除額表示ページ

このタブには、個人受取人に関する情報が表示されます。

カレンダー情報

[カレンダー情報] タブを選択します。

純支給額

控除額表示

カレンダー グループ:

KAM03M05

May Monthly Payroll 2003

選択条件

開始従業員 ID:

終了従業員 ID:

支給グループ:

控除:

登録済み受取人:

アドホック 受取人:

受取人タイプ:

支給ステータス:

☐ サマリ - 受取人情報

一致する支給額の選択

クリア

控除

受取人情報(R)

受給者情報(P)

カレンダー情報(C)

加算サイズ

検索

全件表示

最初

1/1

最後

支給ステータス	名称	従業員 ID	支給額	支給グループ	カレンダー ID	セグメント番号	インスタンス番号
			0.000000				

控除額表示ページ - [カレンダー情報] タブ

このタブには、カレンダーに関する情報が表示されます。

国別処理での銀行情報の使用

PeopleSoft グローバル ペイロール コア アプリケーションで情報を設定したら、次に、国別プロセスを実行して支給ファイルや支給レポートを作成するときにその情報を利用できます。

各国用の拡張機能には、独自の SQR とフォーマットがあります。コア アプリケーションの銀行振込プロセスで作成された出力ファイルからデータを抽出する SQR を各自で作成します。

支給を準備するには、以下の手順に従います。

1. 給与計算を最終決定します。
2. 銀行振込処理を実行します。
3. 純支給額ページと控除額表示ページで、支給情報を確認します。
4. 支給処理の実行後に支給レポートを出力します。

使用可能なレポートについては、国別拡張機能の PeopleBook を参照してください。

5. 一般受取人への支払いを準備します。

コア アプリケーションの銀行振込処理が決定されると、SQR プロセスによってテーブルが作成されます。このテーブルは、国別のプロセスで、一般受取人用の支給ファイルとレポートを作成するために使われます。

6. 個人受取人への支払いを準備します。

コア アプリケーションの銀行振込処理が決定されると、SQR プロセスによってテーブルが作成されます。このテーブルは、国別のプロセスで、個人受取人用の支給ファイルとレポートを作成するために使われます。

注意: ステップ 4 とステップ 5 では、プロセスを国別 SQR で実行する必要がない場合もあります。プロセス実行に SQR を使うかどうかにかかわらず、プロセスの実行結果として、銀行またはほかの取扱機関に自動振替を行うためのインターフェイス ファイルが作成されます。

注意: 実行が必要な国別処理を確認するには、国別機能ドキュメンテーションの銀行振込に関する章を参照してください。

銀行振込での遡及計算の使用

このセクションでは、遡及処理の概要と、以下の作業を行う方法について説明します。

- デフォルト遡及方法を訂正遡及とする指定
- デフォルト遡及方法を繰越遡及とする指定
- 控除処理の詳細の確認
- [現在の結果と調整の合計を使用] グループ ボックスの [銀行振込処理] チェック ボックスをオフにした場合の処理例の確認
- [現在の結果と調整の合計を使用] グループ ボックスの銀行振込処理の指定
- デフォルト遡及方法に繰越を選択して [銀行振込処理] チェック ボックスをオンにした場合の処理例の確認

銀行振込の遡及処理について

銀行振込処理において、資金供給トランザクションが適切な送金元銀行から実行され、また、借方と貸方の入力が必要な受取人に対して行われるようにするためには、過去の計算の訂正を行う遡及計算が必要です。トランザクションの処理方法を決定するためには、銀行振込のプロセス時に遡及処理とその計算方法が認識されるようにしておく必要があります。

給与計算のデフォルト遡及方法は国ページで定義します ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[国別設定]、[国])。国ページについては、この PeopleBook の別の章に説明されています。

参照: 第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、国別設定の定義、47 ページおよび第 33 章、「遡及処理の定義」、遡及処理の設定、1242 ページ。

デフォルト遡及方法を訂正遡及とする指定

[国] ページで [デフォルト遡及方法] に [訂正] を選択した場合は、遡及処理が発生すると以下のステップが実行されます。

1. 遡及処理で再計算されるよう定義された給与計算実行のエレメントが再計算されます。
2. 給与計算実行のエレメントに対して再計算された値により、前回の計算が置換されます。
3. 再計算期間の残高累計およびセグメント累計が更新されます。
4. 遡及デルタが自動的に算出され、再計算期間に保存されます。
5. [遡及プロセス上書] ページで繰越エレメント上書きとして定義されている給与計算実行のエレメントに対して、遡及調整が計算されます。
6. 前回の計算と再計算との間に純支給額の差があるかどうかを確認されます。
7. 差額がある場合は、銀行振込処理によって処理されます。純支給額が繰り越されていない前回の計算から純支給額入力の全てのセグメントが取り消されます。

純支給額が繰り越されていない再計算から新しいセグメントの純支給額入力が挿入されます。

8. 実行タイプ、従業員 ID/雇用レコード、および期間 ID との組み合わせと一致する純支給額配分セットに基づいて、純支給額が全て配分されます。

合計がゼロの場合は、全ての入力が削除されます。

注意: 純支給額の差額がマイナスの場合、その差額は第 1 口座に割り当てられます。

注意: 給与計算の取り消しの場合、銀行振込処理によって前回の期間が取り消され、差額に加えて新しい計算結果が転記されます。

デフォルト遡及方法を繰越遡及とする指定

[国] ページで [デフォルト遡及方法] に [繰越] を選択した場合は、遡及処理が発生すると以下のステップが実行されます。

1. 遡及処理で再計算されるよう定義された給与計算実行のエレメントが自動的に再計算されます。

2. エレメントに対して再計算された値は、再計算期間の遡及デルタの計算に使用されますが、前回の計算は置換されません。
3. セグメント累計のみが自動的に更新されます。遡及方法が繰越の場合でも、累計定義レベル、支給累計ページおよび控除累計ページで、残高累計が訂正として動作するように定義することができます。
4. 遡及デルタが自動的に算出され、再計算期間に保存されます。
5. [遡及プロセス上書] ページで繰り越されるように定義されている、給与計算実行の全てのエレメントに対する遡及調整が算出されます。
6. 以前に再計算された期間の差分が現在期間に含まれているため、銀行振込処理では現在期間の計算から純支給額だけが取得されます。

控除処理の詳細の確認

遡及の目的にかかわらず、控除処理の手順は以下のとおりです。

1. カレンダー グループで前回の遡及期間の全ての計算から控除が取り消されます。
2. 取り消された控除のうち遡及方法が繰越の控除が元に戻されます。これは、適切な受取人に割り当て直すことが目的であるためです。
3. 訂正遡及で再計算済みの控除について、新しいトランザクションが挿入されます。

この処理には 2 つのステップがあります。最初は一般受取人に対して、次は個人受取人に対して行われます。

4. 同一の受取人 ID を持ち、結果がゼロの入力が削除されます。

[銀行振込処理] チェック ボックスをオフにした場合の銀行振込処理の例

[銀行振込処理] チェック ボックスがオフの場合は、次のように処理されます。

この例では、純支給額の送金元銀行、受取人、および受給者の口座の相互関係を説明します。現在期間を 2 月 (2004 年 2 月 1 日～ 2004 年 2 月 28 日) として、1 月 (2004 年 1 月 1 日～ 2004 年 1 月 31 日) にさかのぼって遡及処理が行われます。

- ABC 社は、送金元銀行 123 を利用しています。DEF 社は、送金元銀行 789 を利用しています。
- 2 月 1 日から、受給者の勤務先が ABC 社から DEF 社に変更されます。

- 2 月 15 日から、ABC 社の送金元銀行が 123 から 456 に変更されます。
- 1 月 1 日から、支給 1 のレートが 100 から 150 に変更されます。
- 1 月 1 日から、控除 1 のレートが 20 から 25 に変更されますが、受取人に変更はありません。
- 2 月 1 日から、控除 1 の受取人が受取人 X から受取人 Y に変更されます。
- 1 月 1 日から、控除 2 の受取人が受取人 A から受取人 B に変更されますが、レートに変更はありません。
- 2 月 1 日から、受給者の配分口座が口座 1 から口座 2 に変更されます。

バージョン/レビジョン番号	2004 年 1 月 会社 ABC	配分情報	2004 年 2 月 会社 DEF	配分情報
V1R1		送金元銀行 123		送金元銀行 789
	支給 1 = 100		支給 1 = 150	
	控除 1 = 20	受取人 X	控除 1 = 30	受取人 Y
	控除 2 = 15	受取人 A	控除 2 = 15	受取人 B
	純支給額 = 65	受給者の口座 1	純支給額 = 105	受給者の口座 2
V2R1		送金元銀行 456		
	支給 1 = 150	差分 50.00		
	控除 1 = 25	差分の 5 を受取人 X へ		
	控除 2 = 15	<15> を受取人 A へ 15 を受取人 B へ		

バージョン/レビジョン番号	2004 年 1 月 会社 ABC	配分情報	2004 年 2 月 会社 DEF	配分情報
	純支給額 = 110	差分の 45 を受給者の口座 2へ		

1 月の再計算 (V2R1) の説明

- 控除 1

V1R1 と V2R1 の差分は、5 です。

受取人は、最初にその受給者の控除が計算された時点 (この場合は 1 月の V1R1) での受給者の勤務先に基づいて決められます。この場合、控除 1 の受取人に変更がなかったため、差分の 5 は受取人 X に送金元銀行 456 から支払われます。

- 控除 2

差分はありません。

ただし、1 月にさかのぼると受取人に変更があります。受取人 A から 15 が取り消され、受取人 B に挿入されます。トランザクションはそれぞれ送金元銀行 456 に "請求" されます。

- 純支給額

V1R1 と V2R1 の差分は、45 です。

受給者の配分口座は、現在のカレンダー (この場合 2 月) の支給日に基づいて決められます。差分の 45 は送金元銀行 456 から供給され、受給者の口座 2 に配分されます。

この例から、純支給額と控除は会社 (支給キー) に割り当てられ、受取人は支給期間に基づいていることがわかります。送金元銀行と受給者の口座はトランザクションが作成された時点を基に選択されます。

[現在の結果と調整の合計を使用] グループ ボックスの銀行振込処理の指定

グローバル ペイロールを導入しているほとんどの組織では、遡及に関連した銀行振込処理を行う際に使用されるデフォルト遡及方法を指定しています。この場合、組織のニーズやグローバル ペイロール 国別拡張機能に合った遡及方法 (繰越または訂正) を国ページで指定するだけで済みます。

組織によっては、V1R1 の結果のみを銀行振込処理に転記する方法を採用する場合があります。国ページの [銀行振込処理] チェック ボックスを使用すると、組織の業務要件に合わせて、遡及に関連する銀行振込の処理方法を変更することができます。[銀行振込処理] チェック ボックスは、デフォルトではオフに設定されています。このチェック ボックスをオンにすると、銀行振込処理で過去の支給が取り消されないように設定されるため、遡及計算 (取り消し) に必要な手順は全て省略され、その代わりに V1R1 の結果と調整の合計のみが使用されます。

国ページの [銀行振込処理] チェック ボックスをオンにした場合、どちらのデフォルト遡及方法が選択されているかによって処理結果は次のように異なります。

- [デフォルト遡及方法] が [訂正] の場合、銀行振込処理で訂正遡及の動作は変わりません。
- [デフォルト遡及方法] が [繰越] の場合には、遡及処理は以下のように変更されます。
 - 遡及処理では、前回の金額は取り消されず、再計算された金額も転記されません。その代わりに、銀行振込処理で現在の結果 (V1R1) と調整の合計が使用されます。
 - ただし、現在の結果と調整の合計を使用する方法では、受取人や口座の遡及変更が反映されないため、銀行振込処理で確認された不整合については手動による訂正が必要になる場合があります。
 - セグメントの不一致が発生した場合は、現在の結果と調整の合計が常に使用され、その合計が前回使用されたセグメントに転記されます。この場合、国ページで指定されたデフォルト遡及方法や、[現在の結果と調整の合計を使用] グループ ボックス内のチェック ボックスの設定に関係なく処理されます。

セグメントの不一致が発生するのは、分割された期間がさかのぼって再計算され、元の計算の分割日が再計算の分割日と同一日でない場合です。

注意: 銀行振込処理と一般会計処理に関して現在の遡及方法に問題がない場合は、[現在の結果と調整の合計を使用] グループ ボックスの [銀行振込処理] チェック ボックスと [一般会計処理] チェック ボックスはオンにしないようにしてください。設定をオンにすると、遡及処理に対応しません。

注意: [現在の結果と調整の合計を使用] グループ ボックス内のチェック ボックスを一度オンにすると、デフォルト設定に戻すことはできません。チェック ボックスは表示専用になります。

注意: 銀行振込処理と一般会計処理で使用されるテーブルはそれぞれ独立しています。したがって、[銀行振込処理] チェック ボックスと [一般会計処理] チェック ボックスをオンにする場合も、相互に影響することなく設定できます。

注意: [現在の結果と調整の合計を使用] グループ ボックスは国別に設定されます。したがって、国ページで行った設定は、その国だけにしか適用されません。

例: デフォルト遡及方法に繰越を選択して [銀行振込処理] チェック ボックスをオンにした場合の処理例

この例では、控除額 100 が受取人 1 に対して 1 月1 日に支払われています。2 月には、この受取人が受取人 2 に変更されますが、有効日が 1 月であるため、遡及処理がトリガされます。[銀行振込処理] チェック ボックスがオンに設定されていて、デフォルト遡及方法が繰越の場合、この受取人情報と金額情報は銀行振込処理の結果に転記されます。

月	バージョン/レビジョン番号	金額	受取人	アクション
1 月	V1R1	100	1	変換 (前の期間)
2 月	V1R1	100 + 0	2	変換 (現在の期間 + 調整)

この場合、取り消しや元に戻す処理は行われません。現在の期間の結果と調整の合計だけが処理されます。(控除金額に変更がないため、この場合の調整は 0 になります。)

第 35 章

支給の照合

この章では、支給照合処理の概要と以下の作業を行う方法について説明します。

- 銀行ファイル情報の入力
- 照合処理の実行
- トランザクションの表示
- 例外の解決

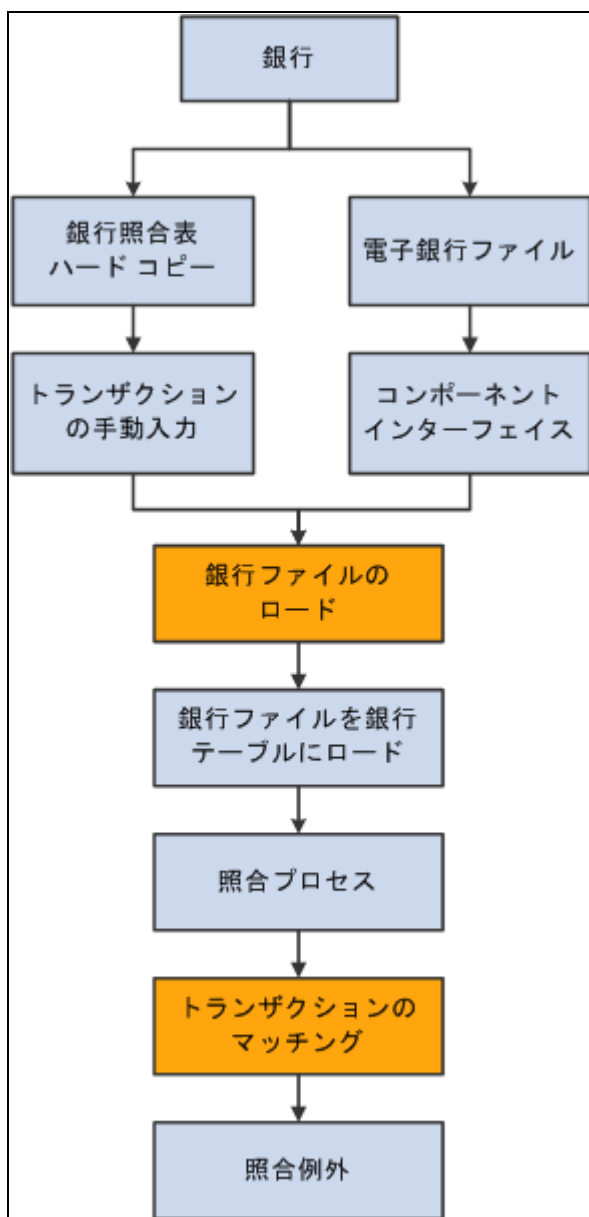
支給照合処理について

グローバル ペイロールでは小切手の照合が行えます。換金済みの小切手や未払いの小切手を確認できます。また、日付や金額の不一致などが発生したトランザクション例外を管理できます。

照合プロセス (GP_BNK_RECON) では、以下に示す銀行ファイルのキー情報とグローバル ペイロールの送金元銀行ファイルのキー情報とのマッチングが行われます。キー情報が一致しない場合には、例外が作成されます。

- 支給番号
- トランザクション金額
- トランザクション タイプまたは支払方法 (該当する情報が銀行ファイルに存在する場合)

次の図は、銀行照合のプロセス フローを示したものです。



銀行照合ビジネス プロセス フロー

事前設定

小切手照合機能を使用するには、小切手詳細情報を銀行から取得する必要があります。以下の 3 つのファイルのいずれかが銀行から提供されます。

- Bank Administration Institute (BAI) - 銀行照合表として銀行が提供する詳細にフォーマット化された電子ファイル

- 清算済み小切手ファイル - 通常は清算済み小切手のデータのみが含まれている、銀行照合表より小さい電子ファイル
- ハード コピー - 詳細な小切手情報が記載された銀行照合表を印刷したもの

銀行ファイル情報の入力

このセクションでは、銀行ファイルの概要と、銀行ファイル エントリ ページにアクセスする方法について説明します。

銀行ファイルについて

銀行から電子ファイルまたはフラット ファイルが提供される場合は、Excel to CI (PeopleTools コンポーネント インターフェイス) を使用して銀行テーブルにデータをロードできます。その場合には、標準の銀行テーブルで使用する Excel ワークブックを作成する必要があります。Excel to CI を実行すると、ユーザーがオンラインで銀行ファイルを入力する場合と同様の検証や編集が行われます。

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleCode API Reference

銀行ファイル情報の入力に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
銀行ファイル エントリ	GP_BNK_FILE_ENTRY	[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[支給処理]、[銀行ファイル エントリ]、[銀行ファイル エントリ]	コンポーネント インターフェイスなどの、支給トランザクションを銀行テーブルにインポートする方法によって銀行ファイルがロードされていない場合は、銀行トランザクションを手動で入力します。

銀行ファイル情報の入力

銀行ファイル エントリ ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[支給処理]、[銀行ファイル エントリ]、[銀行ファイル エントリ])。

銀行ファイル エントリ

送金元銀行 ID: K1GBNKA 口座番号: 19370001
 銀行 ID: 123434566 口座名義: K1A Payroll Acct - PE K1GPED - Company K1A
 銀行ファイル ID: 1 通貨: USD Dollar
 指定日: 2004/09/02 ロード日時: 2004/09/02 16:22:29
 ファイル ステータス: 準備完了

銀行トランザクション(&B)						最初		1-10/10		最後	
銀行支給番号	処理日	金額	タイプ	ステータス							
5025	2004/05/01	1,090.720000	小切手	未照合	+	-					
5026	2004/09/02	4,901.850000	小切手	未照合	+	-					
5027	2004/05/10	1,856.540000	小切手	照合済	+	-					
5028	2004/05/12	831.980000	小切手	未照合	+	-					
5029	2004/05/15	2,144.990000	銀行振替	未照合	+	-					
5030	2004/05/21	6,837.430000	小切手	未照合	+	-					
5030	2004/05/20	6,837.430000	小切手	未照合	+	-					
5031	2004/05/15	7,391.400000	小切手	未照合	+	-					
5032	2004/05/23	4,606.580000	銀行振替	未照合	+	-					
1003	2004/05/25	7,485.250000	小切手	未照合	+	-					

銀行ファイル エントリ ページ

通貨コード

送金元銀行 ID から取得した通貨。このフィールドは表示専用です。

銀行ファイル ID

銀行ファイルをコンポーネント インターフェイスでロードするか、手動で入力するかにかかわらず割り当てられる固有の連番です。

指定日

銀行照合表の日付を入力するか、銀行ファイルの日付が表示されます。

ロード日時

銀行ファイルが手動で入力されたとき、またはコンポーネント インターフェイスからロードされたときの日時です。デフォルトでは現在の日時が設定されます。

ファイル ステータス

有効値は以下のとおりです。

準備完了: 銀行ファイルが最初に手動で入力されたとき、またはコンポーネント インターフェースからロードされたときに、このステータスが割り当てられます。

処理中: 銀行ファイルの照合が行われ、その結果、例外が検出された場合にこのステータスが設定されます。

完了: 銀行ファイルの全てのトランザクションが問題なく照合された場合に、このステータスが設定されます。

銀行支給番号

銀行手数料で使用する小切手番号または参照番号を入力します。

処理日

清算のために小切手が銀行に提示された日付 (処理日) を入力します。

金額

銀行で清算された小切手または取引の金額を入力します。

タイプ

支払方法の種類を選択します。有効値は [小切手]、[銀行振替]、[電信送金] です。

ステータス

トランザクションのステータスを選択します。デフォルト値は [未照合] です。

支給照合処理の実行結果により自動的に割り当てられる値には、[未照合]、[照合済]、[金額不整合]、[支払方法不整合]、[データ重複]、[該当データなし] があります。その他、手動照合を行う場合にユーザーが割り当てる値としては、[支給停止]、[再採番]、[期限切れ]、[未請求]、[無効]、[日付不整合] があります。

注意: トランザクションのステータスを [未照合] から [照合済] に手動で変更すると、警告が表示されます。この警告では、システム側のトランザクションとの照合が銀行側のトランザクションでのみ行われていることが通知されます。ユーザーが銀行トランザクションのステータスを変更すると、照合処理が終了します (ファイル ステータスは "処理中" から "完了" に変更されます)。システムトランザクションとのマッチングを行わずに銀行トランザクションの照合を行うと、銀行ファイルと一般会計のデータに不一致が生じます。

トランザクションのステータスが [照合済] に設定されると、[ステータス] フィールドは表示専用になり、ユーザーによる変更はできなくなります。このステータスは、"支給の手動照合" ページでも手動で設定できます。

照合処理の実行

このセクションでは、支給照合の実行方法について説明します。

照合処理の実行に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
支給照合処理の実行	GP_BNK_RCN_RC	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[支給処理]、[支給照合処理の実行]、[支給照合処理の実行]	銀行照合処理を実行するためのデータを指定します。

支給照合処理の実行

支給照合処理の実行ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[支給処理]、[支給照合処理の実行]、[支給照合処理の実行])。

支給照合処理の実行

ラン コントロール ID: 1

[レポートマネージャ](#)
[プロセスモニター](#)

実行

*送金元銀行 ID:

口座名義:
K1A Payroll Acct - PE K1GPED - Company K1A

*銀行ファイル ID:

銀行 ID:
123434566

口座番号:
19370001

支給照合処理の実行ページ

送金元銀行 ID

照合処理の対象となる送金元銀行を [送金元銀行 ID] に指定します。このフィールドは入力が必要です。

指定した送金元銀行についてシステム内の全ての未照合のトランザクションが検索され、支給番号、支払タイプ、支給金額に基づいてマッチングが実行されます。条件に一致しないトランザクションは例外として指定されます。

銀行ファイル ID

照合処理の対象となる銀行ファイルを [銀行ファイル ID] に指定します。このフィールドは入力が必要です。

注意: 特定の銀行ファイルに対して支給照合処理が何度も実行される場合は、毎回処理が実行されるたびに、照合が済んでいない銀行トランザクションの照合ステータスは [未照合] に設定されます。

トランザクションの表示

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 例外トランザクションの表示

- 照合済みトランザクションの表示

例外トランザクションの表示に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
照合例外	GP_BNK_RCN_EXCP	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[支給処理]、[照合例外]、[照合例外]	照合処理の結果発生した例外トランザクションを表示します。

例外トランザクションの表示

照合例外ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[支給処理]、[照合例外]、[照合例外])。

照合例外

*送金元銀行 ID:

K1GBNKA

銀行 ID:

123434566

銀行ファイル ID:

1

タイプ:

開始金額:

開始日:

検索

口座番号:

19370001

口座名義:

K1A Payroll Acct - PE K1GPED - Company K1A

通貨:

USD Dollar

終了金額:

終了日:

2009/03/31

トランザクション詳細

カスタイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

銀行トランザクション(B)

システム トランザクション(S)

銀行支給番号	銀行処理金額	銀行処理日	タイプ	ステータス

照合例外ページ (1/2)

トランザクション詳細

カスタイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

(B)

銀行支給番号	銀行処理金額	銀行処理日	タイプ	ステータス	支給番号	支給額	支給日	支払方法

照合例外ページ (2/2)

送金元銀行 ID	送金元銀行 ID を入力します。この必須フィールドに値を入力すると、口座名が表示され、[口座番号]、[銀行 ID]、[通貨] の各フィールドに値が設定されます。
銀行ファイル ID	<p>銀行ファイルをコンポーネント インターフェイスでロードするか、手動で入力するかにかかわらず割り当てられる固有の連番です。</p> <p>このフィールドと送金元銀行 ID が指定されていると、自動照合処理によって作成されたトランザクションが表示されます。</p> <p>このフィールドが空白の場合は、更新されたシステム トランザクションしか表示されません。ステータスが [期限切れ]、[支給停止] または [未請求] のトランザクションが表示されます。</p>
開始金額、 終了金額	金額の範囲を指定して、検索条件を絞り込みます。
開始日、 終了日	開始日と終了日を指定して、検索条件を絞り込みます。
タイプ	支払方法の種類を選択します。有効値は [小切手]、[銀行振替]、[電信送金] です。
検索	このボタンをクリックすると、入力した条件に基づいて検索が行われます。検索が終了すると、検出された照合例外が表示されます。

注意: 照合例外の検索結果はエクセル表にエクスポートできます。

照合済みトランザクションの表示

監査上の理由から、システム トランザクションと照合された銀行トランザクションの確認が必要になる場合があります。この情報を表示するには、クエリを作成する必要があります。

自動照合プロセスを実行すると、固有の銀行ファイル ID が照合プロセスごとに割り当てられ、固有の連番が各照合済みトランザクションに割り当てられます。照合済みトランザクションを表示するには、GP_BNK_FILE_DTL.SEQ_NBR = GP_PYMT_BNK_TBL.SEQ_NBR と指定して、レポートのクエリを実行します。このクエリにより、照合済みのシステム トランザクションとそれに対応する銀行データの行が表示されます。

例外の解決

このセクションでは、トランザクションを手動で照合する方法について説明します。

例外の解決に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
支給の手動照合	GP_BNK_RCN_MAN	[グローバル ペイロール /休暇欠勤管理]、[支給処理]、[支給の手動照合]、[支給の手動照合]	ユーザーによる例外の更新またはトランザクションの照合取り消しが可能です。

トランザクションの手動照合

支給の手動照合ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[支給処理]、[支給の手動照合]、[支給の手動照合])。

支給の手動照合

*送金元銀行 ID:

K1GBNKA

銀行 ID:

123434566

銀行ファイル ID:

*ステータス:

未照合

開始日:

開始金額:

開始支給番号:

口座番号:

19370001

口座名義:

K1A Payroll Acct - PE K1GPED - Company K1A

通貨:

USD Dollar

*アクション:

照合

終了日:

2009/03/31

終了金額:

終了支給番号:

検索

更新

システム トランザクション
(&S)

加減サイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1-20/80 | 最後

支給額詳細 | 理由 (R) | 検索

選択	支給番号	日付	金額	タイプ
<input type="checkbox"/>	5025	2004/04/30	1,090.72	小切手
<input type="checkbox"/>	5026	2004/04/30	4,901.85	小切手
<input type="checkbox"/>	5027	2004/04/30	1,856.54	小切手
<input type="checkbox"/>	5028	2004/04/30	831.99	小切手
<input type="checkbox"/>	5029	2004/04/30	2,144.99	小切手
<input type="checkbox"/>	5030	2004/04/30	6,837.43	小切手
<input type="checkbox"/>	5031	2004/04/30	7,391.45	小切手
<input type="checkbox"/>	5032	2004/04/30	4,606.58	小切手

銀行 トランザクション
(&B)

加減サイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1-9/9 | 最後

支給額詳細 | 検索

選択	支給番号	処理日	金額	タイプ
<input type="checkbox"/>	5025	2004/05/01	1,090.720000	小切手
<input type="checkbox"/>	5026	2004/09/02	4,901.850000	小切手
<input type="checkbox"/>	5028	2004/05/12	831.980000	小切手
<input type="checkbox"/>	5029	2004/05/15	2,144.990000	銀行振替
<input type="checkbox"/>	5030	2004/05/21	6,837.430000	小切手
<input type="checkbox"/>	5030	2004/05/20	6,837.430000	小切手
<input type="checkbox"/>	5031	2004/05/15	7,391.400000	小切手
<input type="checkbox"/>	5032	2004/05/23	4,606.580000	銀行振替

支給の手動照合ページ

検索条件

検索に必要な条件を指定します。条件に一致したトランザクションが検索されたら、更新するトランザクションを選択してそのステータスを変更できます。

送金元銀行 ID

送金元銀行 ID を入力します。この必須フィールドに値を入力すると、[銀行 ID]、[口座番号]、および [通貨] の各フィールドに値が設定されます。

銀行ファイル ID

銀行ファイルをコンポーネント インターフェイスでロードするか、手動で入力するかにかかわらず割り当てられる固有の連番です。

ステータス

検索対象トランザクションのステータスを入力します。有効値は、[照合済]、[未照合]、[期限切れ]、[支給停止]、[無効]、[未請求] です。

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

1373

アクション

[アクション] フィールドに選択した値によって、トランザクションのステータスが更新されます。有効値は、[期限切れ][照合]、[支給停止]、[未請求指定]、[未照合にリセット]、[無効]です。

たとえば、ステータスが "未照合" のトランザクションを "無効" に変更する場合は、"未照合" のトランザクションを選択して、[アクション] に "無効" を入力します。このトランザクションを更新すると、[ステータス] は [無効] に変更されます。

注意: このフィールドで値を選択できるのは、[ステータス] フィールドの値が [未照合] の場合に限られます。他の [ステータス] フィールド値の場合は、[アクション] フィールドの値が [未照合にリセット] であり、編集できません。

開始日、終了日

開始日と終了日を指定して、検索条件を絞り込みます。

開始金額、終了金額

金額の範囲を指定して、検索条件を絞り込みます。

開始支給番号、終了支給番号

支給番号の範囲を指定して、検索条件を絞り込みます。

検索

このボタンをクリックすると、入力した条件に基づいて検索が行われます。検索が終了すると、ステータスが "未照合" の銀行ファイル トランザクションがある場合は、画面左側の [銀行トランザクション] に表示され、未照合のトランザクションがある場合は、画面右側の [システム トランザクション] に表示されます。

注意: 検索後、支給照合で不一致となったトランザクションは、例外ステータスとして更新されます。これにより、銀行側にトランザクションは表示されなくなります。この場合、例外ステータスのトランザクションは、照合例外ページで確認できます。また、適切な権限があれば、例外トランザクションのステータスを編集して、手動で照合することができます。例外ステータスとなった未照合の銀行トランザクションは支給照合処理を実行するたびに毎回リセットされるため、支給照合処理は繰り返し実行できます。

更新

このボタンをクリックすると、トランザクションのステータスが [ステータス] フィールドに現在指定されている値から [アクション] フィールドの値に更新されます。システム トランザクションの更新理由についてコメントを入力する画面が表示されます。

コメントは、必要に応じていつでも入力できます。ただし、[未請求]、[期限切れ]、[支給停止]、または [無効] のトランザクションを処理する際にコメントが入力されていないと、警告が表示されます。

[理由] タブ

このタブは、支給ステータスを手動で更新する理由を入力する場合に使用します。

銀行トランザクションとシステム トランザクション

トランザクションの手動照合では、以下の点に注意が必要です。

- 選択したトランザクションの金額が一致していない場合には、ユーザーがそのトランザクションを更新または照合することはできません。
- 選択したトランザクションの支給番号または支払方法が異なる場合には、警告が表示されます。

手動照合の処理例

次の表は、手動照合の処理例をまとめたものです。

トランザクション	例
日付が 2004 年 3 月 15 日の未照合トランザクションを全て期限切れにする場合 (未照合または未請求のどちらのトランザクションを期限切れにする場合も同じ処理になります。)	[ステータス] に [未照合] を選択します。[開始日] に「2004/03/31」、[発行日からの経過日数] に「16」と入力します。これらの値で検索すると、開始日の時点で 16 日経過している日付 (2004 年 3 月 15 日) のトランザクションが表示されます。期限切れにするトランザクションを選択し、トランザクションのステータスを更新します。

トランザクション	例
最初の例で選択したトランザクションの処理に間違いがあった場合は、期限切れにしたトランザクションを未照合に戻す必要があります。	[ステータス] に [期限切れ] を選択します。[開始日] に「2004/03/31」、[発行日からの経過日数] に「16」と入力します。これらの値で検索すると、開始日の時点で 16 日経過している日付 (2004 年 3 月 15 日) のトランザクションが表示されます。未照合にするトランザクションを選択し、ステータスを更新します。
未照合のトランザクションの支給を停止する場合 (支給停止または無効トランザクションのどちらの場合も処理は同じになります。)	[ステータス] に [未照合] を選択し、[アクション] に [支給停止] を選択して、[検索] ボタンをクリックします。支給停止にするトランザクションを選択し、ステータスを更新します。 この場合、支給停止するトランザクションについて銀行に連絡する必要があります。

第 36 章

アプリケーションとリスト セットの管理

この章では、アプリケーションとリスト セットの概要と、以下の作業を行う方法について説明します。

- アプリケーション定義の設定
- リスト セットの定義

注意: この章では、標準で用意されている RSLT_ADM アプリケーションを使用した場合の画面表示を図で示しながら、アプリケーションとリスト セットの関係性を説明します。RSLT_ADM アプリケーションは、"処理結果 - 管理ビュー" コンポーネントと連動して機能するようになっています。アプリケーションとリスト セットを定義してレポートやプロセスを管理するには、さまざまな方法を用いることができますが、ここではそのうちの 1 つの方法として RSLT_ADM アプリケーションについて説明します。

アプリケーションとリスト セットについて

アプリケーション定義とリスト セットは連携して機能するため、以下について表示方法を設定することができます。

- 処理結果 - 管理ビュー
- レポート
- プロセス

アプリケーション定義とは上位レベルの設定グループのことで、さまざまなエレメント レベル (リスト セット、エレメント グループ、エレメントなど) で必要とされるフィールド タイプやフィールド値を定義できます。リスト セットを新規作成する際には、アプリケーションを指定する画面が表示されます。この画面で選択したアプリケーション定義に基づいて、リスト セット定義ページがリフレッシュされ、使用可能なユーザー定義フィールドが表示されます。

リスト セットの定義により、エレメント グループや対応するエレメント属性を作成して、特定のアプリケーション (処理結果 - 管理ビュー、新規レポート、プロセスなど) に関連付けることができます。たとえば、独自のレポートを作成する場合には、給与計算結果からレポート データを抽出する支給、控除、累計のリストを作成できます。さらに、特定のエレメントを印刷する場合、または印刷しない場合の条件を指定することもできます。リスト セット機能では、ページやレコードを新規に作成することなくこうした設定を行うことが可能です。つまり、リスト セットを使用すると、以下の処理を行うことができます。

- エレメント グループとアプリケーションの関連付け
- リスト セットに含めるエレメント グループの関連付け
- リスト セット、エレメント グループ、エレメントの各レベルでのアプリケーションに必要なユーザー定義の設定

主なリスト セット コンポーネント

アプリケーション定義およびリスト セット機能は、主に以下の 3 つの構成要素から成っています。

- エレメント グループ

エレメント グループとは、エレメントのリストです。給与管理者はエレメント グループを使用して、特定のアプリケーションまたは複数のアプリケーションに使用するエレメントのリストを作成できます。

- アプリケーション定義

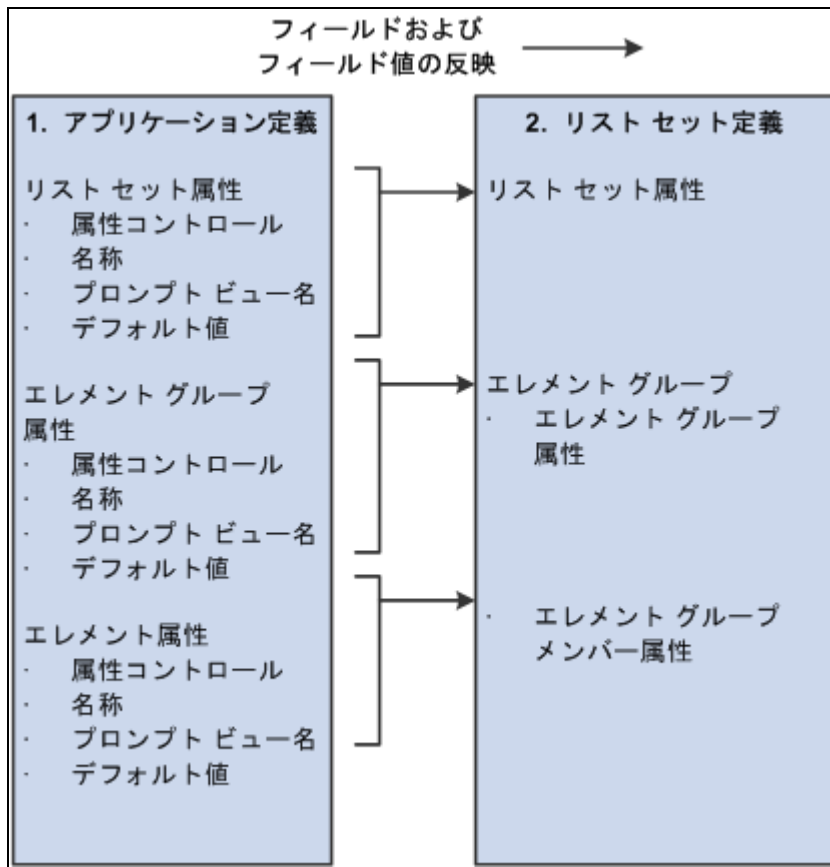
アプリケーション定義とは処理順序や印刷のオプションなどの属性セットのことで、給与管理者がリスト セット内のエレメントをアプリケーションで使用できるようにするために、そのエレメントに割り当てる必要がある属性を指定するのに使用されます。

- リスト セット

リスト セットとは、アプリケーションの特定の属性をエレメント リストに関連付けるために、アプリケーション定義にリンクされたエレメント グループのセットのことです。給与管理者はリスト セットを使用して、エレメント グループをさらにグループ化し、エレメント、エレメント グループ、またはエレメント グループのセット全体に属性を割り当てます。リスト セットには、アプリケーションで利用できる全てのエレメントが含まれています。

アプリケーション定義とリスト セットの設定フロー

次の図は、アプリケーション定義ページの設定によってリスト セット定義ページに表示されるフィールドがどのように決定されるかを示したものです。



アプリケーション定義とリスト セット設定の関係

アプリケーションとリスト セットのユーザー定義の設定方法

アプリケーション定義を使用してリスト セットを設定するには、次の手順に従います。

1. アプリケーション定義ページを使用して、定義する必要がある属性を指定して、ラベルを付けます。属性は、リスト セット、エレメント グループ、エレメントの各レベルで定義できます。アプリケーション定義ページで設定した情報に基づいて、リストセット定義ページにデータがロードされます。
2. 必要に応じて、[属性値の定義] 2 次ページを使用し、さらに属性値を指定します。
3. リスト セット定義ページを使用して、リスト セットに関連付けるさまざまなエレメント グループを指定し、それぞれのエレメント グループに属性値を指定します。アプリケーション定義ページでリスト セットレベルの属性を定義した場合、その属性はリスト セット定義ページに表示されます。また、新規のエレメント グループを作成していない場合は、リスト セット定義ページでも作成できます。
4. [エレメント グループ属性] 2 次ページを使用して、エレメント グループとエレメントの属性を確認または更新します。

事前設定

リスト セット定義ページではエレメント グループが必要になります。したがって、アプリケーション定義とリスト セットを設定する前に、エレメント グループを設定しておく必要があります。リスト セットを作成する前にエレメント グループを設定しない場合は、後でエレメント グループを作成できます。ただし、PeopleSoft では、必要なエレメント グループをすべて定義してから、アプリケーションとリスト セットを設定することをお勧めしています。

参照: 第 14 章、「組織構造の定義」、エレメント グループの定義、522 ページ。

この章で使用する共通フィールド

アプリケーション	グローバル ペイロールまたは国別拡張機能に標準で用意されているか、またはユーザーによって開発された機能、プロセスまたはレポートのことで、エレメント グループとリスト セットを必要とします。
属性	リスト内のエレメント、セット内のグループ、またはエレメント セット全体について定義された特性 (エレメント レベルの "レート の印刷" チェック ボックス、リスト レベルの "レート列ラベル" 文字フィールドなど)
エレメント グループ	エレメント グループとはエレメントのリストまたはグループのことです。
リスト セット	アプリケーションで使用するために定義されたエレメント グループのセット

アプリケーションの設定

アプリケーションを設定するには、アプリケーション定義 (GP_ELN_APP) コンポーネントを使用します。

このセクションでは、アプリケーション定義の設定方法について説明します。

アプリケーション定義の設定に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
アプリケーション定義	GP_ELN_APP	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[アプリケーション定義]、[アプリケーション定義]	リスト セット、エレメント グループまたはエレメントに設定する属性を定義します。
属性値の定義	GP_ELN_LIST_SET GP_ELN_LIST_LST GPE_ELN_LIST_PIN	アプリケーション定義 ページで [属性コントロール] に [ドロップダウン リスト] が選択されている行の [値] リンクをクリックします。	リスト セット、エレメント グループまたはエレメントの属性値を設定します。

アプリケーションの定義

アプリケーション定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[アプリケーション定義]、[アプリケーション定義])。

アプリケーション定義

国: ALL アプリケーション: GP000001

*名称: 給与計算結果

リスト セット				
属性コントロール	名称	フィールド名	プロンプト ビュー名	デフォルト値
トランスレート	レポート タイトル 1 オプション	GP_RGST_TITLE1_OPT		10
トランスレート	レポート タイトル 2 オプション	GP_RGST_TITLE2_OPT		10
編集ボックス	レポート タイトル 1 スtring ID		GP_RGST_STR_VW	
編集ボックス	レポート タイトル 2 スtring ID		GP_RGST_STR_VW	
編集ボックス	レポート タイトル 1 テキスト			
編集ボックス	レポート タイトル 2 テキスト			
ドロップダウンリスト	千の位の区切り記号			値 10
ドロップダウンリスト	小数点記号			値 20
ドロップダウンリスト	金額/累計用小数部桁数			値 30
ドロップダウンリスト	コンポーネント用小数部桁数			値 70

エレメント グループ				
属性コントロール	名称	フィールド名	プロンプト ビュー名	デフォルト値
トランスレート	セクション	GP_RGST_SECT_TYPE		50
トランスレート	セクション タイトル オプション	GP_RGST_SECT_OPT		10
編集ボックス	セクション タイトル String ID		GP_RGST_STR_VW	
編集ボックス	セクション タイトル テキスト			

エレメント			
属性コントロール	名称	プロンプト ビュー名	デフォルト値

アプリケーション定義ページ

注意: 標準で用意されている GP000001 アプリケーションでは [国] フィールドに [ALL] が設定されており (上の図を参照)、給与計算結果レポートと連動して機能するようになっています。したがって、このアプリケーションは変更しないようにしてください。GP000001 アプリケーションと選択したリスト セットとを関連付けて、給与計算結果レポートの形式とそこに表示されるデータを管理します。

参照: 第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、給与計算データのレポート、921 ページ。

[リスト セット]、[エレメント グループ]、[エレメント] の各グループ ボックスには必ずしも属性を指定する必要はありません。属性を指定しなくても、アプリケーション定義は作成できます。複数のエレメント グループをグループ化するためにだけリスト セットを使用するアプリケーションでは、属性を指定しなくてもかまいません。各レベルには最大で 10 個の属性を定義できます。

リスト セット レベルで定義された属性は、そのセット内の全てのエレメント リストに適用されます。

属性コントロール

リスト セット定義ページでの属性の表示方法を指定します。オプションは、以下のとおりです。

- チェック ボックス: この属性はチェック ボックスとして表示されます。
- ドロップダウン リスト: この属性は文字フィールドで、属性値の定義ページで作成された値リストにある値以外は入力できません。
- 編集ボックス: この属性は文字フィールドで、値を自由に入力できます。
- トランスレート: この属性は文字フィールドで、プロンプト リストに指定されているトランスレート値以外は入力できません。

名称

リスト セット定義ページに表示されるフィールド ラベル名を入力します。

プロンプト ビュー名

プロンプト テーブルを作成する際に元になるレコードを選択します。このテーブルで、入力値が有効であるか確認されます。[プロンプト ビュー名] フィールドが表示されるのは、[属性コントロール] に [編集ボックス] が指定されている場合だけです。

重要: ここでは、指定したレコードに基づいたプロンプト テーブルの値を選択します。それ以外のセキュリティや関係プロンプト (セットID ロジックなど) は使用されていません。

値

このリンクをクリックすると、"属性値の定義" ページで有効値を設定できます。[値] リンクが表示されるのは、[属性コントロール] に [ドロップダウン リスト] が指定されている場合だけです。

フィールド名

トランスレート値が設定されているエレメントを指定します。ここで定義されたトランスレート値は、リスト セット定義ページのドロップダウン フィールドに表示されます。このフィールドが表示されるのは、[属性コントロール] に [トランスレート] が指定されている場合だけです。

デフォルト値

リスト セット定義ページに特定の属性値が自動的にロードされるようにするには、有効なデフォルト値を指定します。該当の属性コントロールに対して有効な値をデフォルト値として指定する必要があります。

属性値の定義

属性値の定義ページにアクセスします (値が [ドロップダウン リスト] の属性コントロールについては、アプリケーション定義ページで [値] リンクをクリックします)。

属性値の定義

国: ALL

アプリケーション: GP000001 給与計算結果

属性コントロール: ドロップダウンリスト

名称: 千の位の区切り記号

値	カスタマイズ 検索 全件表示 最初 1-3/3 最後		
値	名称		
10	カンマ	+	-
20	ピリオド	+	-
30	スペース	+	-

属性値の定義ページ

[属性コントロール] に [ドロップダウン リスト] が指定されている属性については、ドロップダウン フィールドの値を指定する必要があります。ここで指定した値は、リスト セットの設定時にエレメント グループ属性ページでフィールドのオプション値として表示されます。[値] 列のどの値もデフォルト値として使用できます。

値

戻り値を入力します。

名称

値に付ける名称を入力します。

リストセットの設定

リスト セットを設定するには、リスト セット定義 (GP_ELN_SET) コンポーネントを使用します。

このセクションでは、リスト セットの定義方法について説明します。

リスト セットの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
リスト セット定義	GP_ELN_SET	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[リスト セット定義]、[リスト セット定義]	エレメント グループをアプリケーションに割り当てます。
エレメント グループ属性	GP_ELN_SET_SEC	リスト セット定義ページの [エレメント グループ 詳細] アイコンをクリックします。	リスト セットのエレメントまたはエレメント グループの属性値を指定します。

リスト セットの定義

リスト セット定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[リスト セット定義]、[リスト セット定義])。

リスト セット定義

国:

GBR

イギリス

リスト セット:

RSLT_ADM

*名称:

Administrator Results

*アプリケーション適用国:

ALL

*アプリケーション:

RSLT_ADM

処理結果 - 管理ビュー

リスト セット詳細

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

*有効日:

1990/01/01

リスト セット属性

サマリ クリット列 1 メッセージ セット:

17000

サマリ クリット列 1 メッセージ番号:

4583

☒ サマリ クリット列 2 の表示

サマリ クリット列 2 メッセージ セット:

17000

サマリ クリット列 2 メッセージ番号:

4584

☒ サマリの表示

☒ サポート エLEMENT の表示

☒ 支給/控除の表示

☒ 累計の表示

☒ 休暇欠勤の表示

ELEMENT グループ

加減サイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1-7/7 | 最後

ELEMENT グループ名	名称			
RSLT ADM SUMM ACM	Result Admin - Summ Accums		+	-
RSLT ADM SUPP ELEM	Result Admin - Supp Elem		+	-
RSLT ADM ACM	Result Admin - Accums		+	-
RSLT ADM ABS ACM	Result Admin - Abs Accums		+	-
RSLT ADM ABS TAKE	Result Admin - Abs Takes		+	-
RSLT ADM ABS GENPI	Result Admin - Abs Gen PI		+	-
RSLT ADM ERN DED	Result Admin - Earn / Ded		+	-

新規ELEMENTグループの作成

リスト セット定義ページ

名称

リスト セットの名称を入力します。

アプリケーション適用国

アプリケーション定義を適用する国を選択します。

アプリケーション

アプリケーション定義を選択します。選択したアプリケーション定義に設定されている値に基づいて、さまざまなフィールドが表示されます。

1386

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

リスト セット属性

[リスト セット属性] グループ ボックスには、アプリケーション定義ページでユーザーが定義したフィールドが表示されます。たとえば、上の図の [サマリ グリッド列 1 メッセージ セット] フィールドは、アプリケーション定義ページの [属性コントロール]、[名称]、[プロンプト ビュー名] の各フィールドを使用して定義したフィールドです。[サマリの表示] チェック ボックスも同様にアプリケーション定義ページで定義したフィールドです。次の図の 2 行目を見ると、[デフォルト値] フィールドに「Y」("オン" の意味) を指定して、[サマリの表示] チェック ボックスのデフォルト設定をオンにしているのがわかります。つまり、リスト セット定義ページを**追加**モードで表示して、[RSLT_ADM] アプリケーションを選択すると、[サマリの表示] チェック ボックスがデフォルトでオンに設定されて表示されます。

アプリケーション定義

国: ALL

アプリケーション: RSLT_ADM

*名称: 処理結果 - 管理ビュー

リスト セット				カスタマイズ 検索 最初 1-10/10 最後	
属性コントロール	名称	プロンプト ビュー名	デフォルト値		
編集ボックス	サマリ グリッド列 1 メッセージ セット	PSMSGSETDEFN		+	-
チェック ボックス	サマリの表示		Y	+	-

[リスト セット属性] グループ ボックスに設定される属性値の例

エレメント グループ

追加モードで最初にページを表示すると、このグループ ボックスにエレメント グループは選択されてません。したがって、リスト セットに関連付けるエレメント グループを全て選択する必要があります。まだ作成されていないエレメント グループを割り当てる必要がある場合は、[新規エレメント グループの作成] リンクをクリックします。

- エレメント グループ名

このリスト セットに関連付けるエレメント グループを選択します。ここで選択したエレメント グループは、このリスト セットを使用して設定するコンポーネント、レポートまたはプロセスに表示できます。
- 名称

このフィールドの下に表示されるリンクをクリックすると、エレメント グループ メンバー ページが開き、エレメント グループの詳細説明を確認したり、必要に応じて変更したりすることができま

エレメント グループ詳細 このアイコンをクリックすると、エレメント グループ属性ページが開きます。このページでは、アプリケーション定義ページの設定に従って、関連するコンポーネント、レポート、またはプロセスで各エレメント グループを表示する場所や方法について詳細に定義できます。

新規エレメント グループの作成 このリンクをクリックすると、エレメント グループ コンポーネントが**追加**モードで表示され、新規のエレメント グループを作成できます。リスト セットに参照するエレメント グループがあらかじめ定義されていない場合には、[新規エレメント グループの作成] リンクを使用すると便利です。

参照: 第 14 章、「組織構造の定義」、エレメント グループの定義、522 ページ。

注意: リスト セット定義ページでは、追加または更新したエレメント全てにデフォルトの属性値が設定されて表示されます。最初にエレメント グループ定義からエレメント リストがロードされ、次に GP_ELN_PIN_ATTR テーブルの属性値が割り当てられます。このようにすることで、リスト セット定義ページには正確なエレメント グループ メンバーが表示されます。エレメントはエレメント グループから削除されると、リスト セットからも削除されます。ユーザーがエレメント グループ詳細ページを表示するたびに、エレメント グループ メンバー リストはリフレッシュされます。

エレメント グループ属性の入力

エレメント グループ属性ページにアクセスします (リスト セット定義ページの [エレメント グループ詳細] アイコンをクリックします)。

国:	GBR	イギリス
リスト セット:	RSLT_ADM	Administrator Results
有効日:	1990/01/01	
エレメント グループ:	RSLT ADM SUMM ACM	Result Admin - Summ Accums

エレメントグループ属性	
エレメント クワッド:	サマリ累計
エレメント クワッド タイトル:	
メッセージ番号:	
エレメント クワッド タイトル タイフ:	
メッセージ セット番号:	

エレメントグループ マンパと属性		カスタマイズ 検索 全件表示 最初 1-10/15 最後	
属性(A)	タイフ名称(T)		
エレメント名	アプリケーションのデフォルト ソート順序	列	
GBR AC GROSS SEG	10		
GBR AC GRTX SEG	20		
GBR AC NIBL SEG	30		
GBR AC PENBL SEG	40		
NI DD EES PTD	80		
NI DD EES YTD	80		
NI DD EESRBT PTD	90		
NI DD EESRBT YTD	90		
NI DD ERS PTD	100		
NI DD ERS YTD	100		

エレメント グループ属性ページ

このページに表示されるフィールドは、アプリケーション定義ページで選択した値によって決まります。エレメント グループ レベルの変更が全て反映されるように、このページにアクセスするたびに、表示される値がリフレッシュされます。エレメント グループ属性ページにアクセスすると、毎回以下の処理が自動的に行われます。

- 定義済みエレメント グループのメンバーとして新規に作成されたエレメントと、そのデフォルトの属性値が設定されます。
- 定義済みエレメント グループのメンバーではなくなったエレメントが削除されます。

このページでは、リストセットを使用するコンポーネント、レポートまたはプロセスで各エレメントグループを表示する場所や方法について詳細に定義できます。

エレメント グループ属性

[エレメント グループ属性] グループ ボックスには、アプリケーション定義ページでユーザーが定義したフィールドが表示されます。たとえば、上の図の [エレメント グリッド] フィールドは、アプリケーション定義ページの [属性コントロール]、[名称]、[値] の各フィールドを使用して定義したフィールドです。下の図を見ると、[エレメント グリッド] フィールドには [サマリ累計]、[サポート エレメント]、[支給/控除]、[累計]、[休暇欠勤日次データ]、[作成済ポジティブ入力]、[休暇欠勤累計] が有効値として設定されているのがわかります。

属性値の定義

国:ALL

アプリケーション:RSLT_ADM

処理結果 - 管理ビュー

属性コントロール:トロッカウソリスト

名称:エレメント グリッド

値

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | | 最初 1-7/7 最後

値	名称		
01	サマリ累計	<div>+ -</div>	
02	サポート エレメント	<div>+ -</div>	
03	支給/控除	<div>+ -</div>	
04	累計	<div>+ -</div>	
05	休暇欠勤日次データ	<div>+ -</div>	
06	作成済ポジティブ入力	<div>+ -</div>	
07	休暇欠勤累計	<div>+ -</div>	

[エレメント グループ属性] グループ ボックスに設定される属性値の例

エレメント グループ メンバーと属性

エレメント グループのメンバーとして選択されている各エレメントがエレメント グループ属性 ページの [エレメント名] 列に表示されます。アプリケーション定義ページの設定値に基づいて、各エレメントに詳細な情報を指定できます。たとえば、エレメント グループ属性ページの [属性] タブの [列] ヘッダーには、アプリケーション定義ページの [属性コントロール] フィールドと [名称] フィールドの値が設定されます。

エレメント

カスタマイズ | 検索 | | | 最初 1/1 最後

属性コントロール	名称	デフォルト値
ドロップダウンリスト	列	値 10

[エレメント グループ メンバーと属性] グループ ボックスの [列] フィールドに設定される属性値の例

エレメント グループ属性ページの [属性] タブの [列] ヘッダー直下には、属性値の定義ページからの値が設定されます。

属性値の定義

国: ALL

アプリケーション: RSLT_ADM 処理結果 - 管理ビュー

属性コントロール: ドロップダウンリスト

名称: 列

値

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | | | 最初 1-2/2 最後

値	名称		
10	列 1		
20	列 2		

[エレメント グループ メンバーと属性] グループ ボックスのフィールドに設定される属性値の例

タイプ/名称

[タイプ/名称] タブをクリックします。

エレメント グループ属性

国:GBRイギリス

リスト セット:RSLT_ADMAdministrator Results

有効日:1990/01/01

エレメント グループ:RSLT ADM SUMM ACMResult Admin - Summ Accums

エレメント グループ属性

エレメント クラット:サマリ累計

エレメント クラット タイトル:

エレメント クラット タイトル タイプ:

メッセージ セット番号:

エレメント クラット タイトル タイプ:

メッセージ セット番号:

エレメント グループ メンバーと属性

加減算 | 検索 | 全件表示 | 最初 1-10/15 最後

属性(A)

タイプ/名称(T)

エレメント名	エレメント タイプ	名称
GBR AC GROSS SEG	累計	Gross Pay Segment
GBR AC GRTX SEG	累計	Generic Gross taxable Segment
GBR AC NIBL SEG	累計	Generic Niable Pay SEG
GBR AC PENBL SEG	累計	Pensionable Pay this Run
NI DD EES PTD	累計	NI Employees Deds
NI DD EES YTD	累計	NI Employees Deds
NI DD EESRBT PTD	累計	NI Employees Rebate
NI DD EESRBT YTD	累計	NI Employees Rebate
NI DD ERS PTD	累計	NI Employers Deds
NI DD ERS YTD	累計	NI Employers Deds

エレメント グループ属性ページ - タイプ/名称タブ

このタブでは、各エレメントのエレメント タイプと名称を確認できます。エレメント設定に基づいて値が表示されます。このリスト セットを使用して設定するコンポーネント、レポートまたはプロセスには、ここに表示される名称が設定されます。

1392

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

第 37 章

ユーティリティの使い方

この章では、グローバル ペイロールで使用されるユーティリティの概要と、以下の作業を行う方法について説明します。

- エレメント関係の定義
- エレメント マップへのレコードの追加
- エレメント関係の表示
- 規定パッケージの作成とエクスポート
- パッケージのステータスの表示
- 規定パッケージの比較とアップグレード
- エレメント名の変更
- 規定外パッケージの作成とエクスポート
- 規定外パッケージの比較とアップグレード
- パッケージのコピー
- エレメントのスタンプ処理とバージョン別パッケージ作成

グローバル ペイロールのユーティリティについて

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- ユーティリティ使用ガイドライン
- パッケージの作成とアップグレード
- 基本言語と関連言語
- バージョン管理機能

- 削除機能
- UNIX ディレクトリと NT ディレクトリの関連付け

この章で使用する共通の用語

エレメント マップ

データベース内でのエレメント間の関係を表します。たとえば、レート×ユニットの計算ルールが設定された支給エレメント (ユニット数がフォーミュラで返される) について、この支給エレメントにコンポーネントおよびフォーミュラ エレメントがどのように関連付けられているのかをエレメント マップによって確認できます。

エレメント マップは、パッケージの作成や、エレメントやデータの他のデータベースへの移動に関して重要な役割を果たします。パッケージを作成するときにマップは最新で正確である必要があるため、規定パッケージ作成処理を開始する場合は、マップが自動的に再作成されます。マップの作成中には、定義されたフィールドがレコードにあるかどうかの確認が行われます。

注意: マップの作成では、PIN レベルのレコードのみが含まれます。規定外パッケージを使用するためには、PIN 番号が主キーではないレコードを含める必要があります。

目的エレメント

処理またはアクションを実行する対象です。

規定外

規定外データの例としては、処理結果、受給者データ、設定の定義など、PIN 番号 (PIN_NUM) が主キーとなっていないデータがあります。

パッケージ ステータス

このリンクをクリックすると、パッケージ ステータス ページにアクセスします。

- PIN コード** (支給アイテム名コード) 全てのデータベース上で一意である必要がある唯一のエLEMENT属性です。PIN 番号と同様に、PeopleSoft が提供している全てのELEMENTおよびユーザーが作成した全てのELEMENTに対して割り当てられます。ELEMENTが全ての国で使用するものであれば **ALL**、特定の国で使用するものであれば 3 文字の国コードがサフィックス (接尾辞) としてELEMENT名に追加されます。たとえば、BASE ALL または BASE ITA となります。ELEMENTをデータベース間で移動すると、エクスポートするELEMENTとターゲット データベース内のELEMENTの比較が行われます。PIN コードは、ELEMENTの比較の際に確認される属性の 1 つです。
- PIN 番号** (支給アイテム番号) 支給アイテム名を示すポインタです。GP_PIN テーブルやその他のテーブルのデータに関連付けられています。PeopleSoft が提供している全てのELEMENTおよびユーザーが作成した全てのELEMENTに対して作成され、割り当てられます。グローバル ペイロールのプログラムでは、ELEMENT名ではなく PIN 番号 (PIN_NUM) を参照してELEMENTにアクセスし、処理を行います。
- PIN 番号は、データベースごとに連番で割り当てられます。つまり、データベースが異なると同じELEMENTでも別の PIN 番号を持つ場合があります。そのためデータベース間でELEMENTを移動する場合、ユーティリティでは、コピー対象のソース ELEMENTがターゲット データベースに存在するかどうかの確認に PIN 番号を使用しません。
- 規定 (ルール)** グローバル ペイロールでは、ルールとはビジネス ルールを定義するために使用される 1 つのELEMENTまたはELEMENTの組み合わせです。たとえば、支給ルール、控除ルール、集計ルール、端数処理ルールなどがあります。ルール定義テーブルの主キーは、PIN_NUM です。
- ターゲット PIN 番号** (ターゲット支給アイテム番号) ターゲット データベースのELEMENTの PIN 番号です。
- アップグレード** ソース データベースからターゲット データベースへアイテムをコピーし、コピーされたアイテムとターゲット データベースのアイテムとを比較します。その比較結果に従って、ターゲット データベース内のアイテムを上書きするか新規アイテムを追加し、選択したアイテムをターゲット データベースから削除します。

ソース データベース	パッケージ化され、ターゲット データベースへ移動される規定エレメントまたは規定外エレメントを含むデータベース。
ターゲット データベース	ソース データベースから、パッケージ化された規定エレメントまたは規定外エレメントを移動する先のデータベース。

関連項目:

第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、コア アプリケーションで支給アイテム名 (PIN) 処理が使われる理由、 16 ページ

ユーティリティ使用ガイドライン

グローバル ペイロールでは、給与計算ルールを定義するエレメントを作成して管理するための統合ツール セットを用意しています。エレメント間の関係を表示するためのユーティリティ、エレメントとデータをパッケージにまとめてデータベース間で移動するユーティリティ、そしてエレメントを削除するユーティリティがあります。このようなユーティリティを使用すると、給与計算システムを導入する際に自ら作成しテストを済ませたルールの全て、または一部を指定して実際に使用するデータベースに移動できます。現在稼働中のシステムでは、新しいルールの導入、システムの更新、処理結果と給与計算データの他のデータベースへの移動などの処理がユーティリティによって能率的に行えます。

ユーティリティの使用に関する重要なガイドラインは以下のとおりです。

- ユーティリティの使用を伴う操作はシステムに大きな影響を及ぼすため、これらを使用するのはグローバル ペイロールを熟知しているユーザーに限定してください。
- ソースとターゲットのデータベースが共に同じリリースの PeopleTools を使用する必要があります。
- 規定外パッケージに使用されるデータベースについては、ソースとターゲットで基本言語が共有される必要があります。
- グローバル ペイロール言語テーブル (GP_PIN_LANG) の PIN_CODE は変更しないでください。

それを行った場合、エレメントの移動に影響を及ぼします。

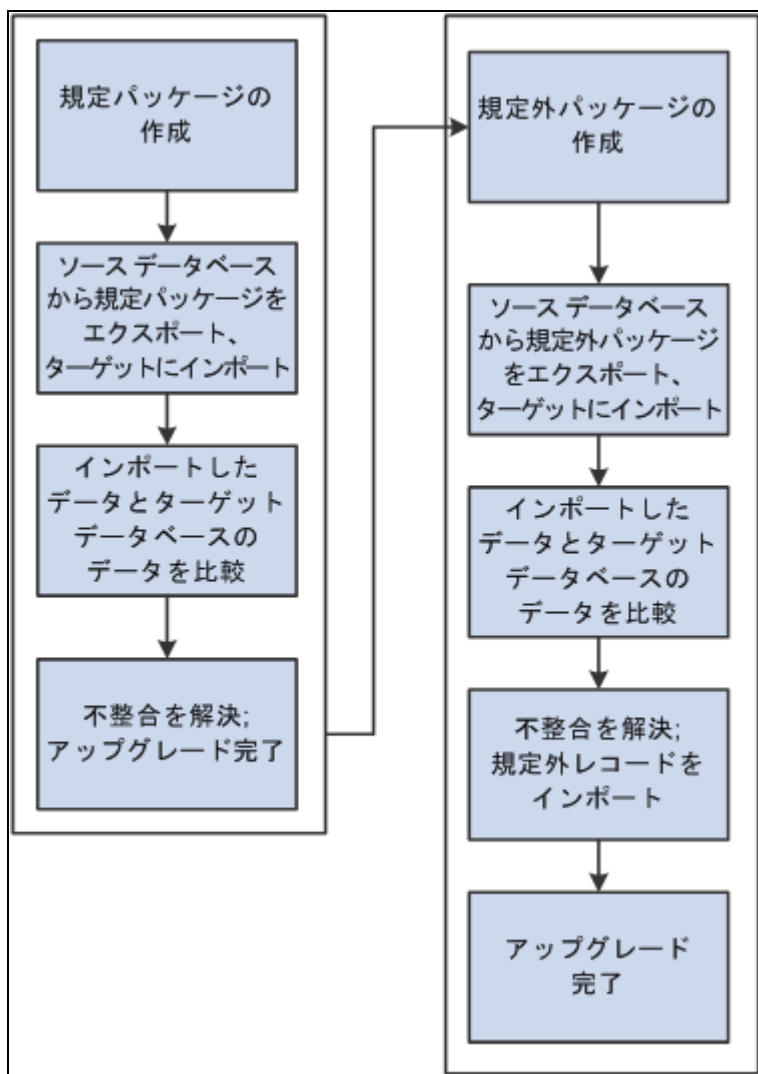
- ユーティリティは業務時間終了後に使用するようにしてください。給与計算実行中、またはオンラインでの業務を実行している間は使用しないでください。

- 一度に複数のパッケージをインポートしないでください。

警告: 一度に複数のパッケージをインポートすると、重要なデータが失われることがあります。

パッケージの作成とアップグレード

データベース間でルールやデータを移動するには、いくつかのユーティリティを特定の順序で使用します。下の図はデータベース間でルールやデータを移動する際の一般的な順序を表しています。



データベース間のルールとデータの移動

データベース間でルールやデータを移動するには、次の手順に従います。

1. 規定パッケージを作成し、アップグレードします。

規定パッケージには、PIN 番号 (PIN_NUM) が主キーのレコードで定義されたエレメントが含まれています。"規定パッケージの作成/エクスポート" コンポーネントと "規定パッケージの適用" コンポーネントを使用して、移動するエレメントのパッケージを作成し、アップグレードします。パッケージに含めるエレメントは、エレメント名または属性で個別に指定したり、バージョン番号で指定することができます。パッケージに目的エレメントのみを含めるか、またはその目的エレメントに使用されるエレメントも含めるのか、エレメント マップを基に指定します。

また、ターゲット データベースのエレメントを削除またはアップグレードするように指定することもできます。バッチ処理ではオンラインで表示可能なエレメントのパッケージが作成されます。

パッケージを作成したら、そのパッケージをソース データベースからエクスポートし、ターゲット データベースにインポートします。ターゲット データベース内で同じ PIN 番号を持つエレメントが上書きされないように、パッケージ内の各 PIN 番号の値に 50000000 が追加されます。

続くバッチ比較処理では、パッケージに含まれたエレメントとターゲット データベースにあるエレメントの比較が行われます。比較の目的は、ターゲット データベースで新しく追加されるエレメント、既存のエレメントに一致するエレメント、およびユーザーの指示に従って削除する必要のあるエレメントを識別することにあります。ターゲット データベースに新しく追加されたエレメントには、PIN 番号が順次割り当てられます。

比較の結果を検討し、不整合の問題を解決すれば、アップグレード処理が完了します。

2. 規定外パッケージを作成し、アップグレードします。

規定外パッケージには、PIN_NUM が主キーではないレコードのデータと、関連エレメントの情報が含まれます。

規定外パッケージを作成するには、次の手順に従います。

- a. 移動するデータのパッケージを作成するための条件を定義します。
- b. ソース データベースから規定外データおよびエレメント情報をエクスポートします。
- c. ターゲット データベースに、エレメントそのものではなく、エレメントに関する情報をインポートします。
- d. 比較処理を実行します。この処理ではパッケージ化されたエレメントとターゲット データベース内のエレメントを比較し、規定外パッケージをターゲット データベースにインポートする前に解決すべき不整合を識別します。
- e. 規定外データをインポートし、アップグレード処理を開始します。この処理では、ターゲット データベースに移動された規定外データ レコードの PIN 番号を付け直します。

たとえば、休暇欠勤結果レコード (GP RSLT ABS) では、ソース データベースに PIN 番号 1333 の休暇取得エレメントがあるとします。このエレメントがターゲット データベースに移され、そのエレメントの PIN コードがターゲット データベース内で PIN 番号 3453 のエレメントと一致した場合、休暇欠勤結果レコードの PIN 番号は規定外パッケージのユーティリティにより変更されます。

基本言語と関連言語

規定パッケージの場合、ソース データベースとターゲット データベースの基本言語が同一である必要はありません。規定パッケージでは、データ ムーバー機能によって、ターゲット データベースの基本言語を識別し、基本言語テーブルまたは関連言語テーブルの正しい言語を使用することができます (その言語がソース パッケージに存在していた場合)。また、規定パッケージによって、ソース データベースの基本言語に対する関連言語のエントリがターゲット データベースに作成されます。以下の例を考えてみます。

ドイツ語 (DEU) のターゲット データベースに以下のデータが含まれています。

基本言語データ

PIN_NUM	PIN_CODE	翻訳対象データ	翻訳対象外データ
701	GP_TEMP001_DEU	現在のドイツ語の TEXT CONTENT	ターゲット データベースの 現在値

PIN_CODE GP_TEMP001 を基本言語用にコピーして、英語 (ENG) のソース データベースからパッケージを作成するとします。以下の処理が行われます。

- PIN_CODE GP_TEMP001 の情報を含むデータ ファイルが ENG データベースからエクスポートされます。

そのデータ ファイルには新規の PIN_NUM (PIN 番号) 50 000 701 が含まれています。

- ターゲット データベースにデータ ファイルがインポートされます。

インポートが完了すると、データ ムーバーによって、言語コード ENG を持つ関連言語の行が自動的に 1 つ作成されます。

この時点で、ドイツ語のターゲット データベースは以下のような状態です。

PIN_NUM	PIN_CODE	翻訳対象データ	翻訳対象外データ
701	GP_TEMP001_DEU	CONTENT	ターゲット データベースの 現在値
50 000 701	GP_TEMP001_DEU	SALARY	ソース データベースからの 新しい値

関連言語データ

PIN_NUM	PIN_CODE	LANGUAGE_CD	翻訳対象データ
50 000 701	GP_TEMP001_DEU	ENG	SALARY

次に、システムにより以下の処理が行われます。

- PIN_CODE によって、50 000 701 と 701 が関連付けられます。
- ドイツ語の翻訳対象フィールドが 701 から 50 000 701 にコピーされます。

- コピー元の PIN_NUM 701 が削除されます。
- ターゲット データベースの PIN_NUM で新規行の番号が付け直されます。

基本言語テーブルの情報が更新され、新規の ENG エントリが関連言語テーブル上に作成されました。処理結果を以下の表に示します。

基本言語テーブル

PIN_NUM	PIN_CODE	翻訳対象データ	翻訳対象外データ
701	GP_TEMP001 DEU	CONTENT	ソース データベースからの新しい値

関連言語テーブル

PIN_NUM	PIN_CODE	LANGUAGE_CD	翻訳対象データ
701	GP_TEMP001 DEU	ENG	SALARY

パッケージが**基本言語**と**関連言語**の両方で定義されていた場合は、パッケージのインポート時にデータムーバーによって言語の置き換えが既にある程度行われています (ただし、ターゲットデータベースの言語の関連言語の行がパッケージにある場合)。そのため、基本言語行の翻訳対象フィールドはコピーされた言語行の内容と重複してしまいます。関連言語のみがパッケージとコピーされた場合も、上記と同様の処理が行われます。ただし、ターゲットデータベースの基本言語行の翻訳対象フィールドは更新されて、移動された言語行の値が設定されます。

バージョン管理機能

グローバル ペイロールのバージョン管理ユーティリティを使用して、エレメントにバージョン番号を割り当てて、そのバージョン番号のエレメントだけをパッケージ化することができます。バージョン別にパッケージを作成したら、そのパッケージを別のデータベースに移動できます。この場合、エレメント定義またはコンポーネント レコードの変更情報が自動的に移動されます。たとえば、支給計算のみを変更した場合、エレメント定義自体は移動されません。

バージョン管理されたパッケージでは、データベースの基本言語テーブルからデータを抽出するだけで、PIN - 関連言語テーブル (GP_PIN_LANG) のデータは抽出しません。GP_PIN_LANG から関連言語情報を移動するには、通常の規定パッケージを使用する必要があります。

削除機能

ターゲットまたはソース データベースからルールを削除するには、パッケージの選択条件を定義するときにエレメント削除についても設定しておきます。データの整合性を保つため、エレメントの削除はそのエレメントが他のデータに関連付けられていない場合にのみ可能になっています。つまり、削除可能なエレメントは以下の条件を全て満たす必要があります。

- 結果テーブルで使用されていない。
- 受給者データに関連付けられていない。
- 規定外テーブルにリンクされていない。
- 別のエレメントで使用されていない。
- PeopleSoft システムにより作成/提供されたものでない。

重要: 削除するエレメントは、ソース データベースからターゲット データベースに移動するエレメントとは別個のパッケージに入れることをお勧めします。

関連項目:

第 37 章、「ユーティリティの使い方」、規定パッケージのエレメントの選択 (エレメント名別)、1422 ページ

第 37 章、「ユーティリティの使い方」、規定パッケージに含めるエレメントの選択 (属性別)、1424 ページ

UNIX ディレクトリと NT ディレクトリの関連付け

UNIX 上でアプリケーションを実行している場合は、パッケージのインポート/エクスポートに関して、さらに考慮すべき点があります。UNIX マシン上でデータ ムーバーのスクリプトを作成することはできますが、パッケージのインポート/エクスポートに使用するデータ ムーバーは、NT プロセス スケジューラを介してのみ実行できます。

重要: UNIX 環境でデータ ムーバーを使用する業務やプロセスは、NT プロセス スケジューラで実行する**必要があります**。

UNIX と NT ではディレクトリの参照方法が異なるので、双方のプラットフォームからアクセスできる共有ディレクトリを定義する必要があります。そのためには、同一のパスが両プラットフォームに指定される必要があります。パス名は、UNIX 側と NT 側で必ず同一に定義します。たとえば、以下のディレクトリを定義してデータ ムーバー ファイルを保存するとします。

- NT システム: ¥¥xx-xxx¥hcm¥datamover¥
- UNIX システム: /xx-xxx/hcm/datamover/

スクリプトの作成やパッケージのインポート/エクスポートを行う前にパスを指定する際には、先頭のダブル バックスラッシュも含めた NT のパス表記を常に使用してください。必要時には、PeopleCode によって各プラットフォーム用のパス表記に自動的に変換されます。

重要: スクリプトの場所を NT プロセス スケジューラの psprcs.cfg ファイルに追加する**必要があります**。[Data Mover] セクションの入カパスと出カパスが同じドライブを指していることを確認してください。

エレメント関係の定義

エレメント関係を定義するには、エレメント関係定義 (GP_PIN_FLD_MAP1) コンポーネントを使用します。

エレメント関係定義のユーティリティによって、PIN 番号を持つエレメントどうしがどのように関係しているかを表すエレメント マップが作成されます。また、エレメント間の関係を定義し、規定外データでのエレメントの使用をパッケージで確認できるようにします。これらは、エレメントの削除や規定外データのパッケージ作成の際に必要となります。

規定パッケージを作成するとマップが自動的に再作成されますが、新規エレメントの定義や、既存エレメントの変更、エレメントの削除を行ったときにはマップを再作成することをお勧めします。また、アップグレードが終了したときにもターゲット データベースでマップを再作成してください。それによって、最新の情報で更新されたマップを表示できます。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- エレメント マップの再作成
- エラーの確認

関連項目:

第 37 章、「ユーティリティの使い方」、エレメント マップへのレコードの追加、1410 ページ

エレメント関係の定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
定義/作成	GP_PIN_FLD_MAP	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[エレメント関係定義]、[定義/作成]	エレメント マップを再作成する GP_PINMAP プロセスを開始します。PIN 番号が保存されているフィールド レコードを表示します。作成したレコードをルール マップに追加したり、ルール マップから削除したりできます。
確認	GP_PIN_FLD_MAP_ERR	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[エレメント関係定義]、[確認]	エレメント マップ再作成後のエラーを確認します。

エレメント マップの再作成

定義/作成ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[エレメント関係定義]、[定義/作成])。

定義/作成

確認

定義

検索 | 100 件表示 | 最初 | 1/522 | 最後

*レコードタイプ:

エレメント定義

*レポート:

GP_ERN_DED

*エクスポート レポート:

GPBR_NRP_ERR_VW

*有効日タイプ:

開始/終了日

*フィールド名:

PIN_PRO_NUM

その他のエレメントを参照するフィールド

カスタイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1-3/3 | 最後

フィールド名	フィールド名称	フィールド ステータス		
<div>PIN_AMT_NUM</div>	PIN Number - Amount	有効	<div>+</div>	<div>-</div>
<div>PIN_ARR_AMT_NUM</div>	Pin Number - Arrears Pybk Amt	有効	<div>+</div>	<div>-</div>
<div>PIN_BASE_NUM</div>	PIN Number - Base	有効	<div>+</div>	<div>-</div>

該当のエレメントタイプ

カスタイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1-2/2 | 最後

エレメントタイプ

控除

+

-

支給

+

-

エレメントマップ再作成

[プロセス モニター](#)

プロセス インスタンス:

定義/作成ページ

定義/作成ページには、PIN 番号が保存されているエレメントを含むレコードのみが一覧表示されます。これらのレコードでは、多くの場合 PIN 番号がキーになっていますが、必ずそうである必要はありません。

注意: このページに表示されているのが PeopleSoft 配布のオブジェクトに関する情報である場合、編集または削除はできません。

参照: 第 37 章、「ユーティリティの使い方」、エレメント マップへのレコードの追加、1410 ページ。

レコード タイプ

エレメントを含むレコードのタイプを選択します。値は以下のとおりです。

[エレメント定義]: このタイプのレコードは、PIN_NUM を主キーに持つエレメントを定義しています。例: GP_ERN_DED (支給/控除)、GP_ABS_TAKE (休暇取得)、GP_ARRAY (アレイ)、GP_FORMULA (フォーミュラ)

注意: [エレメント定義] レコード タイプは PeopleSoft によってのみ使用されます。

エレメントが含まれていてもそれらのエレメントを定義していないレコードには、以下のレコード タイプがあります。

[設定定義]: このタイプのレコードは、グローバル ペイロールの導入時に定義します。例: GP_ELIG_GRP_MBR (有資格グループメンバー)、GP_RUN_TYPE_DTL (実行タイプ詳細)

[出力結果データ]: このタイプのレコードは計算結果を格納します。例: GP_RSLT_ACUM (累計結果)、GP_RSLT_PIN

[受給者データ]: このタイプのレコードは受給者固有のデータを格納します。例: GP_ABS_EVENT (休暇欠勤イベント)、または GP_PYE_OVRD (受給者上書き)

レコード

1 つまたは複数のエレメントを持つレコードの名称が表示されます。

エクスポート レコード

このデータを別のデータベースにエクスポートするときにシステムで使われるレコードの名称が表示されます。

有効日タイプ

有効日付きのレコードであるかどうかを示します。このフィールドの設定が正しくない場合、パッケージ作成に失敗する可能性があります。

[有効日]: デフォルト値です。有効日で管理されるレコードであることを示します。例: GP_BRACKET

注意: 有効日付きの行が 2 行以上あるエレメントをパッケージに含めた場合は、ソース エレメントとターゲット データベースの比較時に、各行について一致する行があるかどうかを確認されます。一致する行がある場合は、ターゲット データベースの行が置換されます。一致する行が見つからなかった場合は、その行がターゲット データベースに追加されます。ターゲット データベースの行と一致する行がない場合、ターゲット データベースの行はそのまま変更されません。

[有効日なし]: レコードが有効日で管理されていないことを示します。例: GP_ARRAY

注意: 有効日の付いていないエレメントをパッケージに含めた場合は、アップグレード処理時に、ターゲット データベース内のそのエレメントに対するデータが全て置換されます。

[開始/終了日]: 有効日ではなく、開始日と終了日が指定されているレコードを示します。例: GP_ACM_MBR

注意: 開始日と終了日が指定されているエレメントをパッケージに含めた場合、ターゲット データベース内のそのエレメントに対するデータは、アップグレード処理時に全て置換されます。

フィールド名

同じレコード内で、他の PIN 番号のエレメントを含むフィールドの名称が表示されます。

レコード タイプに [エレメント定義] が指定されていると、キーフィールド名 (PIN_NUM) が表示されます。

[その他のエレメントを参照するフィールド] グループ ボックス

このグループ ボックスには、メンバー エレメントの PIN 番号を保存している全てのフィールドが表示されます。この PIN 番号が、ページの上方に表示されるレコードのフィールドで使用されています。

サンプル ページには支給/控除エレメントを定義しているレコード GP_ERN_DED の情報が表示されています。このレコードでは、最大 17 のエレメントを使用できます。PIN_AMT_NUM と PIN_BASE_NUM は、メンバー エレメントの PIN 番号を保存しているフィールドです。たとえば、PIN_BASE_NUM は、基本金額の値を返すエレメントを識別します。支給エレメントまたは控除エレメントを処理するには、金額、ベース、ジェネレーション コントロール手順などを保存するエレメントの PIN 番号が必要です。

フィールド名	メンバー エレメントの PIN 番号を保存するフィールドのシステム名が表示されます。
フィールド名称	フィールドの名称が表示されます。
フィールド ステータス	フィールドのステータスが表示されます。値は以下のとおりです。 [有効]: エレメント マップが前回再作成された時点で、フィールドがレコードに含まれていたことを示します。 [無効]: フィールド名が変更されていたり、フィールドがレコードから削除されている、またはそのレコードが既に存在していないことを示します。エレメント マップを再作成するときに、無効なフィールドにフラグが立てられます。

[該当のエレメント タイプ] グループ ボックス

レコード タイプが [エレメント定義] の場合は、このグループ ボックスで該当のエレメント タイプを指定します。たとえば、GP_ERN_DED に適用されるエレメント タイプは [支給] と [控除] です。

エレメント タイプ	エレメントをパッケージ化する際に重要です。パッケージの作成時に選択するエレメント タイプによって、適切なレコードから行を選択するために必要な情報がシステムに提供されます。
エレメント マップ再作成	このボタンをクリックすると、再作成処理が開始されます。エラーが原因でエレメント マップが作成されなかった場合は、"有効日エレメント マップが作成されていません。確認ページでエラーを調べてください" というメッセージがページ上に表示されます。

注意: 再作成処理が正常に終了しなかった場合は、エラー メッセージがメッセージ ログにも表示されます。

エラーの確認

確認ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[エレメント]、[エレメント関係定義]、[確認])。

定義/作成

確認

確認

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 |   最初 1/1 最後

ステータス	レポート (テーブル) 名	PIN 番号フィールド名	フィールド名	メッセージ
無効	GP_ERN_DED	PIN_TAKE_NUM	PIN_TAKE_NUM	

確認ページ

再作成処理で生じたエラーをこのページで確認します。

- ステータス

[無効] は、エラーの発生を示します。通常、フィールド名が変更されたり、フィールドがレコードから削除された場合、または、そのレコードが既に存在していない場合にこのステータスが表示されます。

このエレメントが PS 配布/管理 (PeopleSoft により配布/管理されている) エレメントの場合は、PeopleSoft 製品のサポートにお問い合わせください。

ユーザーが作成したレコードに関するエラーの場合は、そのレコードのフィールド全てがまだ有効であることを確認してください。
- レコード (テーブル) 名

無効フィールドを含むレコードを示します。
- PIN 番号フィールド名 (支給アイテム番号フィールド名)

定義/作成ページ上部の [PIN フィールド名] フィールドに表示されるフィールド名が、このフィールドに表示されます。
- フィールド名

レコードには存在しないが定義/作成ページに表示されているフィールド名が表示されます。
- メッセージ

特定フィールドに関するエラー メッセージが表示されます。

エレメント マップへのレコードの追加

エレメント マップにレコードを追加する手順は、レコードの主 (第 1) キーによって以下のように異なります。

- 主キーが PIN_NUM の場合、レコード タイプは [エレメント定義] (ルール定義) になります。

注意: ルール定義のレコード タイプは、PeopleSoft によってのみ作成されます。

- 主キーが PIN_NUM 以外の場合、レコード タイプは [出力結果データ]、[受給者データ]、[設定定義] のいずれかになります。

このセクションでは、エレメント マップに規定外ルールを追加する方法を説明します。

エレメント マップへの規定外ルールの追加

このセクションでは、レコードの主キーが PIN_NUM ではない場合に、エレメント マップに規定外ルール定義を追加する手順を説明します。

エレメント マップに規定外ルールを追加するには、次の手順に従います。

1. PeopleTools を使用してレコードの SQL ビューを作成します。

手順の最後に示す例のように、このビューは新規レコードと同じ構造にする必要があります。

SELECT 文で、レコードにある PIN 番号を参照する各フィールドの後に +500000000 を入力します。

2. 定義/作成ページで、新規レコードの行を追加します。

3. 定義/作成ページで、以下のように各フィールドを設定します。

- a. [レコード タイプ] に [出力結果データ]、[受給者データ]、または [設定定義] を選択します。
- b. [レコード] フィールドで、新しく作成するレコードを選択します。
- c. [エクスポート レコード] で、手順 1 で作成したビューを選択します。
- d. [有効日タイプ] で、レコードに対し適切な値を選択します。
- e. [PIN フィールド名] で PIN_NUM を参照するレコードのフィールドを選択します。
- f. [その他のエレメント参照フィールド] グループ ボックスで、PIN 番号を持つレコード内の各フィールドを一覧表示します。

そこには、手順 e で定義されたフィールド名が含まれています。PIN_NUM 以外は選択できません。

例

次の図は、SQL 文をレコード構造に合わせて記述する方法を表しています。

Record Fields		Record Type					
	Num	Field Name	Type	Len	Format	Short Name	Long Name
	1	EMPLID	Char	11	Upper	ID	従業員 ID
	2	EMPL_RCD	Nbr	3		雇用コード No.	雇用コード番号
	3	PIN_NUM	Nbr	8		PIN 番号	PIN 番号
	4	BGN_DT	Date	10		開始日	開始日
	5	PIN_SOVR_NUM	Nbr	8		PIN 番号上書	サートメント PIN 番
	6	END_DT	Date	10		終了日	終了日
	7	ENTRY_TYPE_SOVR	Char	3	Upper	メント タイプ	メント入力タイプ
	8	SOVR_VAL_CHAR	Char	25	Upper	文字値	文字値
	9	SOVR_VAL_NUM	Sign	12.6		数値	数値
	10	SOVR_VAL_DT	Date	10		日付値	日付値

GP_PYE_OVR_SOVR のレコード定義

```

SELECT EMPLID
,EMPL_RCD
,PIN_NUM + 500000000
,BGN_DT
,PIN_SOVR_NUM + 500000000
,END_DT
,ENTRY_TYPE_SOVR
,SOVR_VAL_CHAR
,SOVR_VAL_NUM
,SOVR_VAL_DT
FROM PS_GP_PYE_OVR_SOVR

```

エレメント関係の表示

エレメント関係表示ユーティリティを使用して、階層マップを表示できます。日付を指定して過去のマップを表示することも可能です。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 目的エレメントに使用されるエレメントの表示
- 目的エレメントを使用するエレメントの表示

エレメント関係の表示に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
使用対象	GP_PINTREE_EFFDT	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[エレメント関係表示]、[使用対象]	目的エレメントに使用されるエレメントのマップを表示します。データを表示する前に、エレメント関係マップを作成する必要があります。
使用先	GP_PINTREE_EFFDT2	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[エレメント関係表示]、[使用先]	目的エレメントを使用するエレメントを表示します。

目的エレメントに使用されるエレメントの表示

使用対象ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[エレメント関係の表示]、[使用対象])。

使用対象

使用先

エレメント名: DED - POST TAX

タイプ: セクション

指定日: 2004/04/02

使用しているエレメント

先頭 | 前 | 次 | 最後 | 左 | 右

DED - POST TAX-セクション

LOAN REPAY-控除

PAY ENTITY-システム エレメント

CMN VR BALGRP ID-変数

CMN GO TERM STAT-ジェネレーション コント

LOAN BALANCE-累計

LOAN REPAY ATARR-自動割当コンポーネント

LOAN REPAY PYBCK-自動割当コンポーネント

LOAN REPAY NTKN-自動割当コンポーネント

LOAN REPAY ARR-累計

TRANS REC-控除

TRANS ADV AMT-累計

LN GO TRANS REC-ジェネレーション コント

LN FM GOAL CHECK-フォーマット

LN VR REC AMT-変数

基準

*基準: 機能

タイプ: 控除

名称: TRANS REC

説明: Transport Loan Recovery

レポート: Absence Take Config Override

フィールド: PIN 番号

使用対象ページ

エレメント マップには、PIN_NUM を持つフィールドしか含まれません。そのため、支給エレメントのマップを表示しても、周期、通貨など、エレメント以外の情報のフィールドは表示されません。

エレメント名 検索画面で選択したエレメント名が表示されます。これは**目的**エレメントです。

タイプ 目的エレメントのエレメント タイプが表示されます。

指定日 特定の日付を入力すると、その日付の時点で有効な関係マップが表示されます。

使用しているエレメント エレメント名のリンクをクリックすると、そのメンバー エレメントが表示されます。この情報はツリー構造で表示され、エレメント名の前にある [+] フォルダまたは [-] フォルダをクリックすると、それぞれフォルダが展開/折りたたまれます。

基準

関連エレメントの追加情報を表示するには、[使用しているエレメント] グループ ボックス内のエレメント名をクリックし、[基準] フィールドで適切なビューを選択します。

基準	<p>このグループ ボックス内のデータのフォーマットを選択します。値は以下のとおりです。</p> <p>機能ビュー: データの機能上の名称が表示されます。</p> <p>テクニカル ビュー: データの技術的な名称が表示されます。</p>
タイプ	<p>機能ビュー: 選択したエレメントのエレメント タイプの名称が表示されます。</p> <p>テクニカル ビュー: 選択したエレメントのエレメント タイプのコード (2 文字) が表示されます。</p>
名称	<p>選択したエレメントの名前が表示されます。([名称] には、機能ビューでもテクニカル ビューでも同じ値が表示されます。)</p>
説明	<p>選択したエレメントの説明が表示されます。([説明] の表示は、機能ビューでもテクニカル ビューでも同じです。)</p>
レコード	<p>機能ビュー: 選択したエレメントが含まれるレコードの機能上の名称が表示されます。</p> <p>テクニカル ビュー: 選択したエレメントが含まれるレコードの技術的な名称が表示されます。</p>
フィールド	<p>機能ビュー: エレメントの値を保存するフィールドの機能上の名称が表示されます。</p> <p>テクニカル ビュー: エレメントの値を保存するフィールドの技術的な名称が表示されます。</p>

目的エレメントを使用するエレメントの表示

使用先ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[エレメント関係の表示]、[使用先])。

使用対象

使用先

エレメント名: DED - POST TAX

タイプ: セクション

指定日: 2004/04/02

使用先エレメント

先頭 | 前 | 次 | 最後 | 左 | 右

DED - POST TAX-セクション

NZL PAYROLL-プロセス

基準

*基準: 機能

タイプ:

名称:

説明:

レポート:

フィールド:

使用先ページ

このページは使用対象ページによく似ていますが、ここでは目的エレメントを使用するエレメントが全て表示されます。

関連項目:

第 37 章、「ユーティリティの使い方」、目的エレメントに使用されるエレメントの表示、 1412 ページ

規定パッケージの作成とエクスポート

リリース 9.1 のグローバル ペイロールは、能率的なパッケージ作成処理機能を備えており、標準の規定パッケージとバージョン管理された規定パッケージのどちらについても、同じコンポーネントを使用して、規定パッケージの作成、インポート/エクスポート スクリプトの作成、規定パッケージのエクスポートが行えます。パッケージの作成から、スクリプトの作成、パッケージのエクスポートまで、各手順を連続して実行することも、1 つずつ実行することもできます。各手順は次の手順が開始する前に完了され、エクスポート処理の進捗状況を追跡管理できるように、パッケージのステータスが表示されます。

さらに、インストール設定ページで、インポート/エクスポート処理で使用するスクリプトのデフォルト ロケーションを指定することができるため、パッケージをエクスポートするたびに同じ基本情報を入力する必要がありません。

このセクションでは、規定パッケージを作成、エクスポートする方法の概要と、以下の作業を行う方法について説明します。

- 規定パッケージの名称設定
- 規定パッケージに含めるエレメントの選択 (エレメント名別)
- 規定パッケージに含めるエレメントの選択 (属性別)
- 規定パッケージのエレメントの選択 (バージョン別)
- 選択条件の SQL Where 句の変更
- パッケージおよびスクリプトの作成とパッケージのエクスポート
- 規定パッケージに含まれるエレメントの表示
- バージョン別パッケージのバージョン詳細の表示
- パッケージのステータスの表示
- スクリプトの表示

規定パッケージの作成とエクスポートの方法について

規定パッケージを作成し、エクスポートするには、次の手順に従います。

注意: 規定パッケージには、PIN_NUM がキーのレコードで定義されたエレメントのみ含めることができます。

1. 規定パッケージに含めるエレメントの選択条件を定義します。

以下のように、異なる選択条件を定義できます。

- "規定パッケージの作成/エクスポート" コンポーネント (GP_PKG_CREXP) の "エレメント別条件の定義" ページを使用して、パッケージに含めるエレメントを名前で選択します。
- "規定パッケージの作成/エクスポート" コンポーネントの "属性別条件の定義" ページを使用して、エレメントを属性 (エレメント タイプ、所有者、使用先、クラス、カテゴリ、国) で選択します。

属性別条件を定義する場合、エレメントを選択する際に使用される SQL コードは変更可能です。

- 同コンポーネントの "バージョン別条件の定義" ページを使用して、パッケージに含めるエレメントをバージョン番号で選択します。

エレメント別条件**および**属性別条件を同じパッケージに対して指定することができます。その場合、エレメント別条件の定義ページ**または**属性別条件の定義ページで指定された条件に一致するエレメントが全て選択されます。

バージョン別条件をエレメント別条件または属性別条件と一緒に、パッケージに指定することはできません。バージョン別条件は、単独でしか使用できません。

2. パッケージ作成処理を実行して、選択条件に一致するエレメントをパッケージ化します。

これは、"規定パッケージの作成/エクスポート" コンポーネントのパッケージ処理ページで行います。

3. パッケージを表示し、ターゲット データベースへ移動させないエレメントの選択を解除します。

これは、"規定パッケージの作成/エクスポート" コンポーネントのパッケージ表示ページで行います。

4. スクリプト作成処理を実行します。

これは、パッケージ処理ページで行います。

注意: エクスポート処理とインポート処理用に、xxx_exp.dms (エクスポート スクリプト)、xxx_imp.dms (インポート スクリプト)、gp_cleanup.dms (消去スクリプト) の 3 つのスクリプトが作成されます。xxx は規定パッケージ名を表します。

5. 上の手順 4 で作成したスクリプトを確認します。

これは、"規定パッケージの作成/エクスポート" コンポーネントの "スクリプトの表示" ページで行います。

6. パッケージのエクスポート処理を実行します。

これは、パッケージ処理ページで行います。

パッケージをターゲット データベースにインポートするには、その前にパッケージをエクスポートする必要があります。

注意: このセクションでは、規定パッケージの作成、インポート/エクスポート スクリプトの作成、規定パッケージのエクスポートの各手順を別々の処理として説明していますが、これらの手順を 1 つの連続した処理として実行することもできます。

警告: パッケージを作成した後にエレメントを追加または変更した場合は、変更内容をパッケージに含めるために、パッケージを再作成する必要があります。

規定パッケージの作成とエクスポートに使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
パッケージ定義	GP_PKG_DFN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定パッケージの作成/エクスポート]、[パッケージ定義]	規定パッケージに名称とコメントを入力します。
エレメント別条件の定義	GP_PKGCRT_ELM_SEC	パッケージ定義ページの [エレメント別条件の定義] リンクをクリックします。	エレメントによるパッケージの選択条件を定義します。
属性別条件の定義	GP_PKGCRT_ATR_SEC	パッケージ定義ページの [属性別条件の定義] リンクをクリックします。	属性によるパッケージの選択条件を定義します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
バージョン別条件の定義	GP_PKGCRIT_VER_SEC	パッケージ定義ページの [バージョン ベース] チェック ボックスをオンにし、[バージョン別条件の定義] リンクをクリックします。	バージョンによるパッケージの選択条件を定義します。
Where 句	GP_PKG_CRIT2_SEC	属性別条件の定義ページの [Where 句表示] リンクをクリックします。	属性別条件の定義ページで定義した選択条件で使用する SQL Where 句を表示し、修正します。
パッケージ処理	GP_PKG_S_RUNCTL	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定パッケージの作成/エクスポート]、[パッケージ処理]	<ul style="list-style-type: none"> 定義した選択条件に一致するエレメントのパッケージを作成します。 エクスポート処理とインポート処理用のスクリプトを作成します。 パッケージをエクスポートします。
パッケージ表示	GP_PKG_VIEW	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定パッケージの作成/エクスポート]、[パッケージ表示]	規定パッケージに含まれるエレメントを表示します。パッケージをコピーするときのシステムのアクション (アップグレードまたは削除) を表示します。ここで、パッケージからエレメントを除外することもできます。
バージョン詳細の表示	GP_PKG_VERDTL_SEC	バージョン別パッケージで、パッケージ表示ページの [バージョン詳細の表示] リンクをクリックします。	バージョン別パッケージのバージョン詳細を表示します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
パッケージ ステータス	GP_PKG_DTTM_SEC	パッケージ処理ページの [パッケージ ステータス] リンクをクリックしま す。	パッケージおよびスクリ プトが作成された日時を 表示し、パッケージがエ クスポート、インポー ト、比較、アップグレー ドされたそれぞれの日時 を確認します。
スクリプトの表示	GP_PKG_SCRIPTS_SEC	パッケージ処理ページの [スクリプトの表示] リン クをクリックします。	エクスポート、インポー ト、および消去のスクリ プトを表示します。

規定パッケージの名称設定

パッケージ定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定パッケージの作成/エクスポート]、[パッケージ定義])。

パッケージ定義(D)

パッケージ処理(P)

パッケージ表示(V)

パッケージ ID:

DERULGER

バージョン ベース

*名称:

Global Payroll DEU Rule Trans

略称:

GP DEU

コメント:

HRMS - Global Payroll Germany Country Extension Rule Translations (German)

例外別条件の定義

☒

属性別条件の定義

パッケージ定義ページ

名称、コメント

パッケージの名称とコメントを入力します。

バージョン ベース、バージョン別条件の定義

[バージョン ベース] チェック ボックスをオンにすると、バージョン条件を使ってパッケージを定義できます。デフォルトでは、オフになっています。

このチェック ボックスをオンにすると、[バージョン別条件の定義] リンクが表示され、[エレメント別条件の定義] リンクと [属性別条件の定義] リンクは表示されなくなります。

[バージョン別条件の定義] リンクをクリックすると、バージョン別条件の定義ページが表示され、規定パッケージに含めるエレメントのバージョンを指定することができます。

エレメント別条件の定義

このリンクをクリックすると、エレメント別条件の定義ページが表示され、パッケージに含めるエレメントを名前で選択することができます。

注意: エレメント別条件の定義ページで、パッケージに含めるエレメントを選択して [OK] をクリックすると、このリンクの前にあるチェック ボックスが自動的にオンになります。

属性別条件の定義

このリンクをクリックすると、属性別条件の定義ページが表示され、パッケージに含めるエレメントを属性に基づいて選択することができます。

注意: 属性別条件の定義ページで、エレメントの属性を定義して [OK] をクリックすると、このリンクの前にあるチェック ボックスが自動的にオンになります。

注意: パッケージに対して、バージョン ベース条件をエレメント条件または属性条件と一緒に定義することはできません。これらのパッケージ タイプは相互に排他的です。これらの条件が一緒に定義されるのを防ぐために、システムには以下の制御機能が用意されています。パッケージにバージョン条件を定義して保存した後では、エレメント別条件の定義ページまたは属性別条件の定義ページにアクセスして、エレメント条件や属性条件を追加することはできません。さらに、作業を保存する前に続けて別のパッケージ タイプを入力しようとする（たとえば、バージョン ベースの規定パッケージを定義し、次にエレメント別条件または属性別条件を追加で定義する場合）、既に入力した全てのバージョン条件は保存時に削除され、警告メッセージが表示されます。

注意: パッケージをインポートすると、[エレメント別条件の定義]、[属性別条件の定義]、および [バージョン別条件の定義] の各リンクは無効になり、選択条件を修正することはできません。

規定パッケージのエレメントの選択 (エレメント名別)

エレメント別条件の定義ページにアクセスします (パッケージ定義ページの [エレメント別条件の定義] リンクをクリックします)。

規定パッケージの作成/エクスポート

エレメント別条件の定義

パッケージ ID: BRRULPOR Global Payroll BRA Rule Trans

パッケージ条件 - エレメント リスト

加減算 | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

入カタイプ	エレメント名	エレメント所有者	対象	言語	アクション
控除	GXDD101	PS 管理	目的エレメント + 番号	全て	アップグレード

OK キャンセル

エレメント別条件の定義

パッケージ条件 - エレメント リスト

- 入カタイプ

パッケージに含めるエレメントの入カタイプを選択します。この入カタイプによって、[エレメント名] フィールドで選択できるエレメントが決まります。
- エレメント名

このフィールドは必須フィールドです。パッケージに含めるエレメントの名前を選択します。このエレメントは、**目的エレメント**と呼ばれます。
- エレメント所有者

[エレメント名] フィールドで選択したエレメントの作成者と管理担当者を表します。[ユーザー]、[修正済]、[PS 管理]、[PS 非管理]、[PS 保護] のいずれかが表示されます。

対象

パッケージに含めるエレメントを選択します。

有効値は以下のとおりです。

[目的エレメント + メンバー]: 目的エレメント ([エレメント名] フィールドで指定) と、目的エレメントが使用するメンバー エレメント (使用対象ページで指定) が含まれます。

[目的エレメントのみ](デフォルト値): 目的エレメントと、自動作成コンポーネントおよび自動作成累計が含まれます。第 1 のレベルのエレメントは、情報用 (参照専用) のエレメントとして選択されます。

警告: [目的エレメントのみ] は、全てのメンバー エレメントがターゲット データベースに含まれていることが明らかである場合に限り選択してください。含まれていない場合は、比較処理時にエラーが報告されます。

注意: [目的エレメントのみ] を選択した場合でも、パッケージのメンバー エレメントに関する情報は常にパッケージに含まれます。この場合、メンバー エレメント自体はターゲット データベースにコピーされませんが、この章の後で説明される比較処理を実行する際にこの情報が使用されます。

言語

基本および関連言語データをターゲット データベースにコピーするかどうかを指定します。

GP_PIN にある翻訳可能な全てのフィールドは、関連言語データに関連しています。関連言語データは GP_PIN の関連言語テーブル GP_PIN_LANG に保存されます。

有効値は以下のとおりです。

- [全て]: 全ての言語情報がパッケージに追加されます。
- [基本]: 基本言語データのみを取得する場合に選択します。
- [関連]: エレメントの基本言語ではなく、エレメントに関連する言語データが全てコピーされます。

アクション

ターゲット データベースをアップグレードするときにシステムがエレメントに対して実行するアクションを選択します。値は以下のとおりです。

[アップグレード](デフォルト値): ターゲット データベースにエレメントが追加されます。またはターゲット データベースの一致するエレメントが更新されます。

[削除]: ターゲット データベースからエレメントが削除されます。1 つのデータベースをソースとターゲットの両方に使用することもできます。

以下の条件に一致するエレメントは削除できません。

- 結果テーブルで使用されている場合
- 受給者データに関連付けられている場合
- 規定外テーブルにリンクされている場合
- 別のエレメントで使用されている場合
- PeopleSoft システムで提供されている場合

注意: 関連言語または全ての言語情報は削除できますが、基本言語自体は削除できません。

親エレメントと子エレメントの両方を削除する場合でも、子エレメントを親エレメントから切り離しておく必要があります。

警告: 削除するエレメントはその他のエレメントとは別のパッケージに入れることをお勧めします。

関連項目:

第 37 章、「ユーティリティの使い方」、基本言語と関連言語、 1399 ページ

規定パッケージに含めるエレメントの選択 (属性別)

属性別条件の定義ページにアクセスします (パッケージ定義ページの [属性別条件の定義] リンクをクリックします)。

規定パッケージの作成/エクスポート

属性別条件の定義

パッケージ ID: DERULGER Global Payroll DEU Rule Trans

パッケージ条件 - エlement属性

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

属性設定 1 属性設定 2

対象	言語	アクション	Element タイプ	Element所有者		
目的Elementのみ	関連	アップグレード			+	-

属性別条件の定義ページ - 属性設定 1 タブ

規定パッケージの作成/エクスポート

属性別条件の定義

パッケージ ID: DERULGER Global Payroll DEU Rule Trans

パッケージ条件 - Element属性

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

属性設定 1 属性設定 2

使用先	国	カテゴリ	Element クラス	WHERE 句オプション	Where 句表示		
特定の国	DEU			デフォルトの WHERE 句を使用	Where 句表示	+	-

属性別条件の定義ページ - 属性設定 2 タブ

属性設定 1

[属性設定 1] タブをクリックします。

対象

パッケージに目的エレメント ([属性設定 1] タブの選択条件に一致するもの) のみを含めるか、または目的エレメントで使用するエレメントも含めるかを指定します。

[目的エレメント + メンバー] と [目的エレメントのみ] のいずれかを選択します。

[目的エレメント + メンバー]: 目的エレメント ([エレメント名] フィールドで指定) と、目的エレメントが使用するメンバー エレメント ("エレメント関係表示" の使用対象ページで指定) が含まれます。

[目的エレメントのみ](デフォルト値): 目的エレメントと、自動作成コンポーネントおよび自動作成累計が含まれます。第 1 のレベルのエレメントは、情報用 (参照専用) のエレメントとして選択されます。情報用のエレメントは、目的エレメントとその直下のレベルにある子エレメントに使用されます (その情報が選択されていない場合)。

警告: [目的エレメントのみ] は、全てのメンバー エレメントがターゲット データベースに含まれていることが明らかである場合に限り選択してください。含まれていない場合は、比較処理時にエラーが報告されます。

注意: [目的エレメントのみ] を選択した場合でも、パッケージのメンバー エレメントに関する情報は常にパッケージに含まれます。この場合、メンバー エレメント自体はターゲット データベースにコピーされませんが、この章の後で説明される比較処理を実行する際にこの情報が使用されます。

言語

GP_PIN フィールドの基本および関連言語データをターゲット データベースにコピーするかどうかを指定します。

GP_PIN にある翻訳可能な全てのフィールドは、関連言語データに関連しています。関連言語データは GP_PIN の関連言語テーブル GP_PIN_LANG に保存されます。

有効値は以下のとおりです。

- [全て]: 全ての言語情報がパッケージに追加されます。
- [基本]: 基本言語データのみを取得する場合に選択します。
- [関連]: エレメントの基本言語ではなく、エレメントに関連する言語データが全てコピーされます。

アクション

ターゲット データベースをアップグレードするときにシステムがエレメントに対して実行するアクションを選択します。値は以下のとおりです。

[アップグレード](デフォルト値): ターゲット データベースにエレメントが追加されます。またはターゲット データベースの一致するエレメントが更新されます。

[削除]: ターゲット データベースからエレメント情報が削除されます。

以下の条件に一致するエレメントは削除できません。

- 結果テーブルで使用されている場合
- 受給者データに関連付けられている場合
- 規定外テーブルにリンクされている場合
- 別のエレメントで使用されている場合
- PeopleSoft システムで提供されている場合

注意: 関連言語または全ての言語情報は削除できますが、基本言語自体は削除できません。

親エレメントと子エレメントの両方を削除する場合でも、子エレメントを親エレメントから切り離しておく必要があります。

警告: 削除するエレメントはその他のエレメントとは別のパッケージに入れることをお勧めします。

エレメント タイプ

エレメント タイプを選択します。

エレメント所有者

エレメントの所有者を選択します。有効値は、[ユーザー]、[修正済]、[PS 管理]、[PS 非管理]、[PS 保護] です。

属性設定 2

[属性設定 2] タブをクリックします。

使用先	エレメントを使用する場所を選択します。有効な値は、[全ての国] (デフォルト) と [特定の国] です。[特定の国] を選択した場合は、[国] フィールドで国を選択する必要があります。
国	[使用先] フィールドで [特定の国] を選択した場合に、その国の 3 桁の国コードを選択します。
カテゴリ	特定のカテゴリに指定されているエレメントのみを選択するには、そのカテゴリを選択します。(カテゴリは、エレメント名ページで割り当てます。)
エレメント クラス	<p>パッケージに含めるエレメント クラスを選択します。(エレメント クラスはエレメント名ページで割り当てます。)</p> <p>[慣例]、[クラス指定なし]、[サンプル データ]、[法令]、および [システム データ] のいずれかを選択します。</p>
Where 句オプション	<p>パッケージに含めるエレメントを選択するために、属性別条件の定義ページで入力した条件が SQL 文に変換されます。</p> <p>値は以下のとおりです。</p> <p>[デフォルトの WHERE 句を使用]: デフォルトの Where 句が使用されます。Where 句を変更した後で [デフォルトの WHERE 句を使用] を再度選択すると、SQL コードの変更内容は破棄され、指定された条件に基づく Where 句に戻ります。</p> <p>[WHERE 句変更]: このページの他のフィールドが全て入力不可になり、Where 句ページの SQL コードが編集モードになります。</p>
Where 句表示	<p>このリンクをクリックすると Where 句ページが表示されます。</p> <p>Where 句ページでは、選択条件を含む SQL コードの表示や変更が可能です。</p>

関連項目:

[第 37 章、「ユーティリティの使い方」、規定パッケージのエレメントの選択 \(エレメント名別\)、1422 ページ](#)

[第 38 章、「セキュリティの定義」、1507 ページ](#)

[第 37 章、「ユーティリティの使い方」、基本言語と関連言語、1399 ページ](#)

選択条件の SQL Where 句の変更

Where 句ページにアクセスします (属性別条件の定義ページで [Where 句表示] リンクをクリックします)。

規定パッケージの作成/エクスポート

Where 句

WHERE 句オプション

☒ デフォルトの WHERE 句を使用

☐ WHERE 句変更

Where 句: WHERE (PS_GP_PIN.USED_BY = 'C' AND PS_GP_PIN.COUNTRY = 'DEU')

OK キャンセル

Where 句

Where 句オプション

デフォルトの Where 句を使用する場合、または SQL コードを編集した後に元の状態に戻す場合は、[デフォルトの Where 句を使用] を選択します。[デフォルトの WHERE 句を使用] を選択すると、編集した Where 句の内容は失われます。

[WHERE 句変更] を選択すると、ページ下部に表示されているコードの編集が可能になります。

Where 句

[Where 句オプション] グループ ボックスで [デフォルトの WHERE 句を使用] を選択すると、属性別条件の定義ページで入力した選択条件に基づいて自動的に作成された SQL 文の Where 句が表示されます。Where 句は編集できません。

[WHERE 句変更] を選択すると、SQL Where 句が編集可能になります。SQL の編集では、以下のルールが適用されます。

- PIN_NUM を選択条件として指定したり、PIN_NUM が保存される可能性のあるフィールドを使用したりしないでください。

(これに反すると、インポート処理時の番号振り直しができなくなります。)

- 入力するフィールド名にプレフィックス PS_GP_PIN を付けてください。

例: PS_GP_PIN.RECALC_IND

注意: [OK] をクリックして保存すると、PIN_NUM の使用がチェックされ、SQL 構文エラーが検索されます。

規定パッケージに含めるエレメントの選択 (バージョン別)

バージョン別条件の定義ページにアクセスします (パッケージ定義ページの [バージョン ベース] チェック ボックスをオンにし、[バージョン別条件の定義] リンクをクリックします)。


規定パッケージの作成/エクスポート

バージョン別条件の定義

パッケージ ID: GP_RULE

言語: 基本

*使用先: 特定の国

*国: FRA  フランス

バージョン	加減算	検索	全件表示	最初	1/1	最後
*バージョン						
P_9.000.00						

バージョン別条件の定義ページ

使用先	全ての国と 1 つの国のいずれに対してバージョン条件を定義するかに応じて、[全ての国] または [特定の国] を選択します。
国	[使用先] フィールドで [特定の国] を選択した場合、国コードを指定します。
バージョン	パッケージに含めるエレメントのバージョンを選択します。同一の国の場合でも、複数のバージョンを選択できます。

パッケージおよびスクリプトの作成とパッケージのエクスポート

パッケージ処理ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定パッケージの作成/エクスポート]、[パッケージ処理])。

パッケージ定義(D) パッケージ処理(P) パッケージ表示(V)

パッケージ ID: DERULGER Global Payroll DEU Rule Trans 実行

処理オプション

☐ 作成済 ☐ スクリプト作成済 ☐ エクスポート済 [プロセス モニター](#) [パッケージ ステータス](#)

作成処理

☐ パッケージの作成

エクスポート処理

☐ スクリプト作成 ☐ パッケージのエクスポート スクリプトの表示

スクリプト ロケーション:

スクリプト ロケーションの例: C:*folder*

パッケージ処理

パッケージの選択条件を定義したら、パッケージ処理ページを使用して以下の作業を行います。

- 定義した選択条件に基づいてパッケージを作成します。
- エクスポート処理とインポート処理で使用するスクリプトを作成します。
- パッケージをターゲット データベースにエクスポートします。
- パッケージのステータスを追跡管理します。

エクスポート処理中に、各エレメントに割り当てられている PIN 番号に 50000000 が自動的に追加されるため、インポートされたエレメントとターゲット データベースに元から含まれていたエレメントとの区別が可能です。

処理オプション

[処理オプション] の下のチェック ボックスには、作成およびエクスポート処理のステータスが表示されます。ステータス値は以下のとおりです。

- [作成済]: このチェック ボックスがオンの場合、パッケージは既に作成されています。
- [スクリプト作成済]: このチェック ボックスがオンの場合、パッケージのスクリプトは既に作成されています。
- [エクスポート済]: このチェック ボックスがオンの場合、パッケージは既にターゲット データベースにエクスポートされています。

パッケージ ステータス

このリンクをクリックすると、パッケージ ステータス ページにアクセスします。パッケージ ステータス ページには、パッケージおよびスクリプトが作成された日時が表示され、パッケージがエクスポート、インポート、比較、アップグレードされたそれぞれの日時を確認できます。

作成処理

パッケージの作成

[パッケージの作成] チェック ボックスをオンにすると、定義した条件、属性、またはバージョンに基づいてパッケージが作成されます。

エクスポート処理

スクリプト作成

[スクリプト作成] チェック ボックスをオンにすると、エクスポート処理とインポート処理用に、xxx_exp.dms (エクスポート スクリプト)、xxx_imp.dms (インポート スクリプト)、gp_cleanup.dms (消去スクリプト) の 3 つのスクリプトが作成されます。xxx は規定パッケージ名を表します。

このチェック ボックスは、以下の条件下で使用可能になります。

- [パッケージの作成] チェック ボックスがオンになっている。
- パッケージが既に作成されている。

注意: スクリプトを作成するには、スクリプト ロケーションのパスを指定する必要があります。

注意: [パッケージの作成] チェック ボックスと [スクリプト作成] チェック ボックスを両方ともオンにすることができます。その場合、パッケージが作成され、次にエクスポート スクリプトとインポート スクリプトが作成されます。ただし、パッケージを作成する前に [スクリプト作成] チェック ボックスをオンにすることはできません。

スクリプト ロケーション

スクリプトを作成する場所のパスを指定します。

このフィールドは、以下の場合に使用可能になります。

- [スクリプト作成] チェック ボックスがオンになっている。
- [パッケージのエクスポート] チェック ボックスがオンになっている。
- パッケージのスクリプトが既に作成されている。

スクリプトおよびデータ ファイルの場所は、インポート データベースとエクスポート データベースのインポートおよびエクスポート NT プロセス スケジューラの双方からアクセスできる必要があります。スクリプトの場所をプロセス スケジューラの設定ファイル (psprcs.cfg) に指定してください。

注意: スクリプトの場所をプロセス スケジューラの設定ファイルに指定する方法については、「**UNIX ディレクトリと NT ディレクトリの関連付け**」セクションで説明しています。

参照: 第 37 章、「ユーティリティの使い方」、UNIX ディレクトリと NT ディレクトリの関連付け、1402 ページ。

注意: インストール設定ページで、全てのパッケージ スクリプトに対しデフォルトのスクリプト ロケーションを定義できます。

参照: 第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、グローバル ペイロールのインストール設定の定義、42 ページ。

スクリプトの表示

このリンクをクリックすると、スクリプトの表示ページにアクセスして、エクスポート スクリプトとインポート スクリプトを確認できます。

パッケージのエクスポート [パッケージのエクスポート] チェック ボックスをオンにすると、処理中にパッケージがエクスポートされます。

このフィールドは、以下の場合に使用可能になります。

- [パッケージの作成] チェック ボックスと [スクリプト作成] チェック ボックスがオンになっている。
- パッケージが既に作成されていて、[スクリプト作成] チェック ボックスがオンになっている。
- パッケージとスクリプトが既に作成されている。

パッケージをソース データベースからエクスポートした後、規定パッケージの適用コンポーネント (GP_PKG_APPLY) を使用して、パッケージをターゲット データベースにインポートできます。

注意: エクスポート処理中に、各エレメントに割り当てられている PIN 番号に 50000000 が自動的に追加されるため、インポートされたエレメントとターゲット データベースに元から含まれているエレメントとの区別が可能です。

実行

[実行] ボタンをクリックすると、選択したチェック ボックス ([パッケージの作成]、[スクリプト作成]、または [パッケージのエクスポート]) で指定された処理が呼び出されて、実行されます。3 つのチェック ボックス全てを一度にオンにして、これらの処理を 1 つの連続した処理として実行することも、一度に 1 つの処理だけを実行することもできます。ただし、まずパッケージを作成し、次にスクリプトを作成してから、パッケージをエクスポートするという順序で処理を実行する必要があります。

注意: [実行] ボタンをクリックすると、プロセス モニター ページが表示され、プロセスをモニターできます。プログラムが終了するまで待ってから、パッケージに関連付けられたページを開きます。

規定パッケージに含まれるエレメントの表示

パッケージ表示ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定パッケージの作成/エクスポート]、[パッケージ表示])。

パッケージ定義(D)

パッケージ処理(P)

パッケージ表示(V)

パッケージ ID:DERULGlobal Payroll DEU Rules

エレメント リスト

カスタイズ | 検索 | 100 件表示 | 最初1-5/4987 最後

国	ソース PIN 番号	エレメント名	名称	エレメント タイプ*	エレメント所有者	アクション	アップグレード*	言語
	1	ABS BGN DATE	イベント開始日	システム エレメント	PS 保護	情報のみ	<input type="checkbox"/>	全て
	3	ABSENCE DATE	休暇欠勤日	システム エレメント	PS 保護	情報のみ	<input type="checkbox"/>	全て
	4	ABSENCE TYPE	休暇欠勤タイプ*	システム エレメント	PS 保護	情報のみ	<input type="checkbox"/>	全て
	7	ACTION	異動区分	システム エレメント	PS 保護	情報のみ	<input type="checkbox"/>	全て
	9	ACTION REASON	異動理由	システム エレメント	PS 保護	情報のみ	<input type="checkbox"/>	全て

パッケージ表示ページ

パッケージ定義(D)

パッケージ処理(P)

パッケージ表示(V)

パッケージ ID:

AU18899

AUS Rules - Bundle 18899

バージョン詳細の表示

エレメント リスト

カスタイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-5/22 最後

国	ソース PIN 番号	エレメント名	名称	エレメント タイプ*	エレメント所有者	アクション	アップグレード*	言語
	89	EMPLID	受取人 ID	システム エレメント	PS 保護	情報のみ	<div></div>	全て
	257	SEGMENT END DATE	セグメント終了日	システム エレメント	PS 保護	情報のみ	<div></div>	全て
	331	EMPL RCD	雇用レコード*	システム エレメント	PS 保護	情報のみ	<div></div>	全て
	706	GP TEMP001 NUM	一時変数 - 数値	変数	PS 管理	情報のみ	<div></div>	全て
	80144	AUS VR EFFDT	Effective Date	変数	PS 非管理	情報のみ	<div></div>	全て

パッケージ表示ページ

パッケージを作成したら、パッケージに含まれるエレメントを表示して、ターゲット データベースにエクスポートしないエレメントを個別に選択することができます。

アクション

パッケージに含まれる各エレメントに対して有効なアクションが表示されます。

[アップグレード]、[削除]、または [情報のみ] のいずれかが表示されます。

アイテムを削除する際は、ソース データベースとターゲット データベースが同じでもかまいません。

アップグレード

このチェック ボックスは、エクスポートするパッケージのエレメントに対しデフォルトでオンになります。エクスポートしないエレメントに対しては、このチェック ボックスをオフにします。

バージョン詳細の表示

パッケージ表示ページに表示されたエレメントがバージョン別にパッケージ化されている場合、[バージョン詳細の表示] リンクが表示されます。このリンクをクリックすると、バージョン詳細の表示ページにアクセスして、各エレメントのバージョン番号と、エレメント定義を含むデータベース レコード (テーブル) を確認できます。

バージョン別パッケージのバージョン詳細の表示

バージョン詳細の表示ページにアクセスします (バージョン別パッケージで、パッケージ表示ページの [バージョン詳細の表示] リンクをクリックします)。

規定パッケージの作成/エクスポート

バージョン詳細の表示

パッケージ ID:

AU18899

AUS Rules - Bundle 18899

国:

AUS

オーストラリア

パッケージ エレメント (詳細)

カスサイズ | 検査 | 全件表示 | 最初 1-5/16 最後

PIH 番号	エレメント名	名称	レコード (テーブル) 名	有効日	バージョン
80482	AUS TAX	Total Tax for the Period	GP_ACCUMULATOR		P_8.80.00.00.18899
80482	AUS TAX	Total Tax for the Period	GP_ACM_MBR		P_8.80.00.00.18899
80816	AUS AR EE JOBJR	Job Junior Array	GP_ARRAY		P_8.80.00.00.18899
80816	AUS AR EE JOBJR	Job Junior Array	GP_ARRAY_FLD		P_8.80.00.00.18899
80816	AUS AR EE JOBJR	Job Junior Array	GP_ARRAY_KEY		P_8.80.00.00.18899

戻る

バージョン詳細の表示ページ

バージョン別にパッケージ化されているエレメントで、バージョン詳細の表示ページにアクセスすると、各エレメントのバージョン番号と、エレメント定義を含むデータベース レコード (テーブル) を確認できます。

パッケージ ステータスの表示

パッケージ ステータス ページにアクセスします (パッケージ処理ページの [パッケージ ステータス] リンクをクリックします)。

<u>規定パッケージの作成/エクスポート</u>			
パッケージ ステータス			
パッケージ ID:	AU18899	AUS Rules - Bundle 18899	
作成済:		インポート済:	2003/04/22 11:35:55
スクリプト作成済:		比較済:	2003/04/22 11:38:18
エクスポート済:		アップグレード済:	2003/04/22 11:40:42
戻る			

パッケージ ステータス ページ

パッケージおよびスクリプトが作成された日時を表示し、パッケージがエクスポート、インポート、比較、アップグレードされたそれぞれの日時を確認します。

スクリプトの表示

スクリプトの表示ページにアクセスします (パッケージ処理ページの [スクリプトの表示] リンクをクリックします)。

規定パッケージの作成 / エクスポート

スクリプトの表示

パッケージ ID: DERULGER Global Payroll DEU Rule Trans

スクリプト ロケーション: C:\temp

スクリプト ロケーションの例: C:\folder*

パッケージ スクリプト表示: エクスポート スクリプト

SQL ステートメント テキスト:

```
SET OUTPUT derulger_dat.dat;
SET LOG derulger_exp.log;

UPDATE PS_GP_PKG_DFN set PKG_EXPORT_DTTM = %CurrentDateTimeIn WHERE
GP_PKG_ID = 'DERULGER';

EXPORT GP_PKG_DFN WHERE GP_PKG_ID = 'DERULGER';
EXPORT GP_PKG_CRIT1 WHERE GP_PKG_ID = 'DERULGER';
EXPORT GP_PKG_CRIT2 WHERE GP_PKG_ID = 'DERULGER';
EXPORT GP_PKG_ELEMENTS WHERE GP_PKG_ID = 'DERULGER';
```

OK キャンセル

スクリプトの表示ページ

スクリプト ロケーション

スクリプトの場所が表示されます。この場所には、インポート データベースとエクスポート データベースのインポートおよびエクスポート NT プロセス スケジューラの双方からアクセスできる必要があります。スクリプトの場所をプロセス スケジューラの設定ファイル (psprcs.cfg) に指定してください。

注意: スクリプトの場所をプロセス スケジューラの設定ファイルに指定する方法については、「**UNIX ディレクトリと NT ディレクトリの関連付け**」セクションで説明しています。

参照: 第 37 章、「ユーティリティの使い方」、UNIX ディレクトリと NT ディレクトリの関連付け、1402 ページ。

注意: インストール設定ページで、全てのパッケージ スクリプトに対しデフォルトのスクリプト ロケーションを定義できます。

参照: 第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、グローバル ペイロールのインストール設定の定義、42 ページ。

パッケージ スクリプト表示

表示するスクリプトのタイプとして、[エクスポート スクリプト]、[インポート スクリプト]、または [消去スクリプト] のいずれかを選択します。データ ムーバーのスクリプトが下のフィールドに表示されます。

規定パッケージのインポート、比較、およびアップグレード

リリース 9 のグローバル ペイロールは、能率的なパッケージ インポートおよび比較処理機能を備えており、標準の規定パッケージとバージョン管理された規定パッケージのどちらについても、同じコンポーネントを使用して、インポート、比較、およびアップグレード処理を実行できます。パッケージのインポートから、比較、アップグレードまで、各手順を連続して実行することも、1 つずつ実行することもできます。各手順は次の手順が開始する前に完了され、処理の進捗状況を正確に把握できるように、パッケージのステータスが表示されます。

さらに、インストール設定ページでデフォルトのパッケージ関連オプションを指定できるため、インポート、比較、およびアップグレード処理を実行するたびに同じ基本情報を入力する必要がありません。インストール設定ページを使用して、以下の作業を行うことができます。

- インポート処理で使用するスクリプトのデフォルト ロケーションを指定します。

- 標準の規定パッケージとバージョン管理された規定パッケージに対し、比較レポートの印刷オプションを指定して、比較レポートに表示される情報のタイプを制御します。
- アップグレードが許可される条件を指定します。つまり、比較処理でエラーや警告が発生してもアップグレード処理を実行するか、エラーや警告が発生した場合のアップグレードは許可しないかを指定します。

参照: 第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、グローバル ペイロールのインストール設定の定義、42 ページ。

このセクションでは、規定パッケージのインポート、比較、およびアップグレードの概要と、以下の作業を行う方法について説明します。

- パッケージのインポート
- 比較レポートの実行
- 比較処理およびアップグレード処理の開始
- アップグレード時のエラー確認

規定パッケージのインポート、比較、およびアップグレードについて

エクスポート処理を実行したら、「規定パッケージの適用」コンポーネント (GP_PKG_APPLY) を使用して、パッケージをターゲット データベースにインポートし、ソース データベースの規定パッケージをターゲット データベースの規定パッケージと比較して、規定パッケージをアップグレードします。

規定パッケージのインポート、比較、およびアップグレードを行うには、次の手順に従います。

1. 「規定パッケージの適用」コンポーネントのパッケージ処理ページで、インポート処理を実行します。
2. 「規定パッケージの適用」コンポーネントのパッケージ処理ページで、比較処理を実行してパッケージに含まれるエレメントとターゲット データベースのエレメントを比較し、比較レポートを作成します。比較レポートの作成は任意です。

それまでにターゲット データベースになかったエレメント、ターゲット データベース内の既存エレメントを更新するエレメント、ターゲット データベースから削除する必要があるエレメントが自動的に判別されます。

3. 比較レポート、および "規定パッケージの適用" コンポーネントのパッケージ エlement ページとパッケージ比較オーディット ページに表示される結果を確認して、比較処理の結果を判断します。

パッケージ Element ページでは、Element をアップグレード処理から除外することができます。

4. 比較処理中に検出された警告やエラーを解決します。これらは、比較レポート パッケージ Element ページ、およびパッケージ比較オーディット ページで確認できます。

警告やエラーが発生する理由はいくつかあります。たとえば、ターゲット データベースに含まれず、作成したパッケージにも含まれない Element がソース Element によって使用されている場合や、削除する Element が結果テーブルで使用されている場合などです。修正方法は警告やエラーのタイプによって異なります。

5. エラーを修正するか、パッケージから Element を除外した後、パッケージ処理ページで比較処理を再実行します。
6. エラーや警告が発生してもアップグレードを実行するかどうかを判断して、アップグレード処理を実行します。

これは、パッケージ処理ページで行います。

アップグレード処理では、以下が行われます。

- インポートされた Element が既にデータベースに存在している場合、正しい PIN 番号で更新されます。
- 新しい Element に新規の番号が割り当てられます。
- パッケージで選択されたオプションに従って行が削除されます。

この処理は一度しか実行できません。

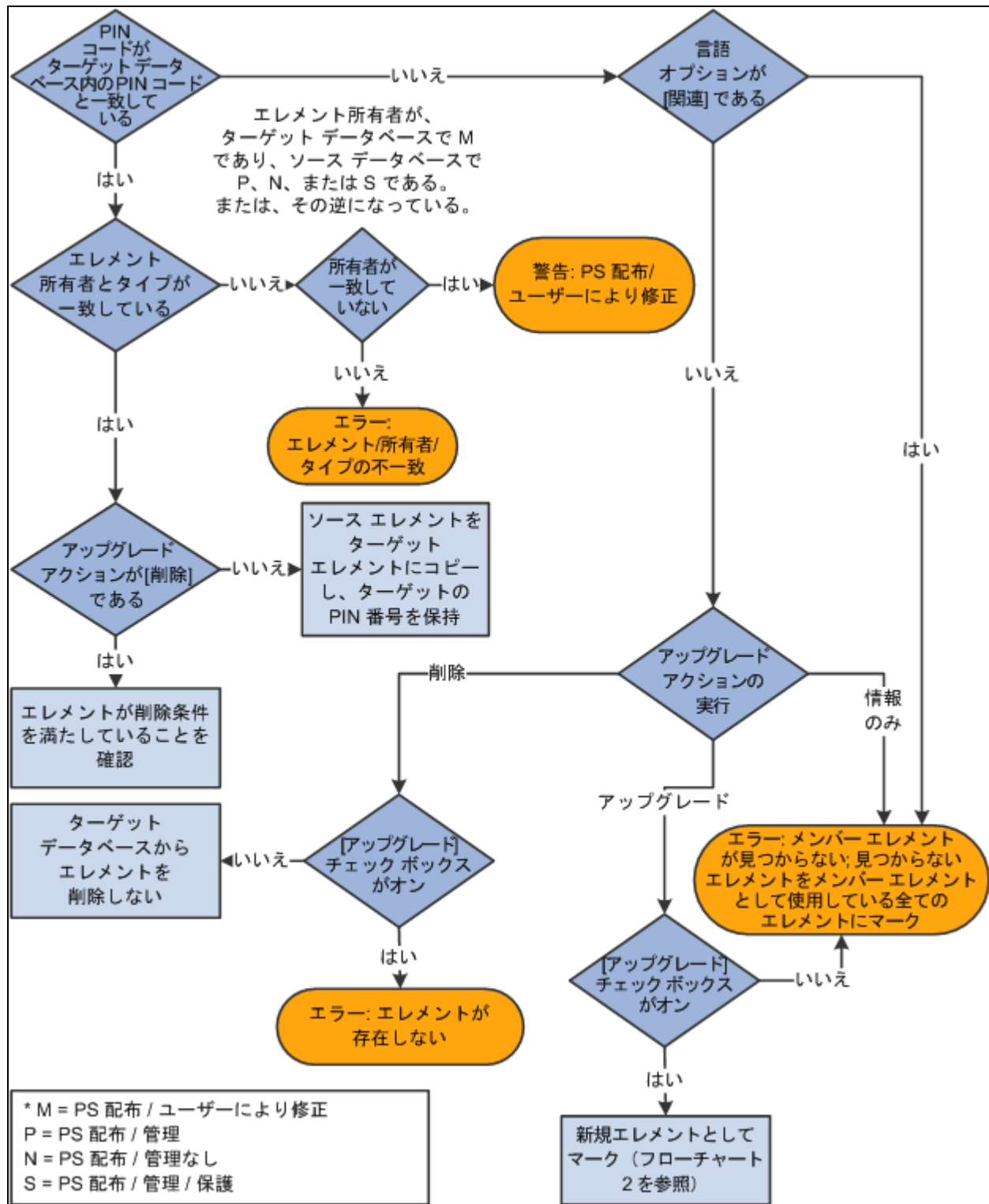
注意: このセクションでは、パッケージのインポート、比較、およびアップグレードの各手順を別々の処理として説明していますが、これらの手順を 1 つの連続した処理として実行することもできます。

注意: 規定および規定外パッケージを移動する前に、ターゲット データベースのバックアップを取っておくことをお勧めします。

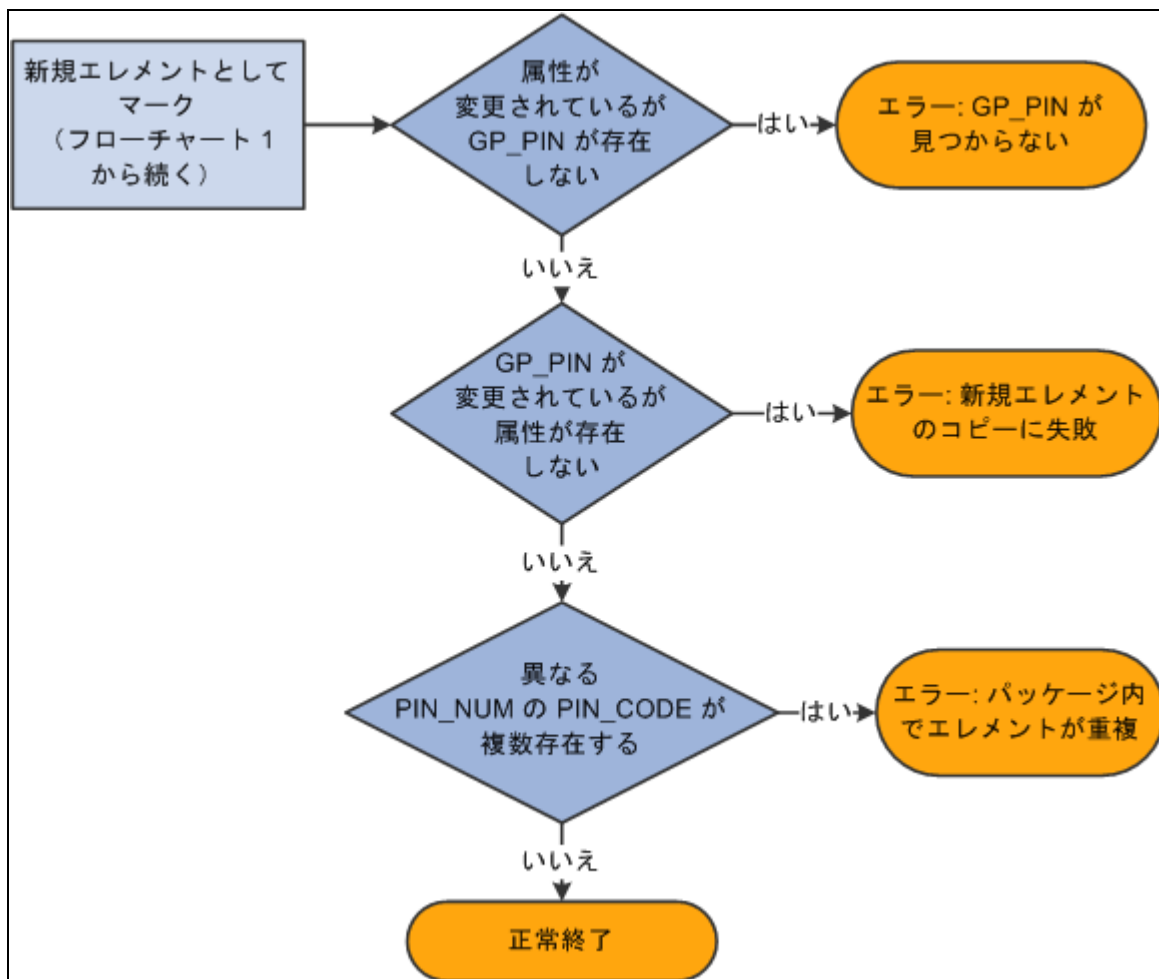
比較処理のしくみ

エクスポートされた各エレメントについて、ターゲット データベース内で同じ PIN コード、エレメント タイプ、エレメント所有者を持つエレメントが検索されます。

以下のフローチャートは、比較処理の実行や、その結果としての警告やエラー メッセージの生成のためにシステムで使用されるロジックを表しています。



規定パッケージの比較処理 (フローチャート 1)



規定パッケージの比較処理 (フローチャート 2)

警告: アップグレードでは、ソース データベースから送信された情報で、ターゲット データベースのエレメントが上書きされます。

関連項目:

第 37 章、「ユーティリティの使い方」、削除機能、1402 ページ

比較レポートの実行

比較処理の実行時には比較レポートを作成できます。比較レポートを使用すると、規定パッケージで変更されるエレメントをフィールド単位で確認することができます。この情報を使って、特定のエレメントをアップグレードするかどうかを判断します。

比較レポートでは、対象となるエレメントや、規定パッケージのエレメントとターゲット データベースのエレメントとの不整合を表示するレポートが作成されます。比較処理を実行しないと、比較レポートも実行できません。

注意: この PeopleBook に付属しているサンプル レポート PDF ファイル (hgy91reports) で、サンプルの比較レポートが提供されています。

比較レポートのサマリ ページ

サマリ ページは、比較レポートの最初のページです。サマリ ページには以下の情報が含まれます。

- 規定パッケージのタイプ (通常またはバージョン管理)
- バージョン管理されたパッケージの場合、規定パッケージに含まれるエレメントのバージョン
- ソース データベースとターゲット データベースの名前
- インポート処理と比較処理が実行された日時
- パッケージに含まれるエレメントが使用される国
- パッケージ処理ページで選択した比較レポート印刷オプションに応じて、以下の各カテゴリに含まれるエレメントの合計数
 - エラーまたは警告が発生したエレメント
 - 修正エレメント
 - 新規エレメント
 - 削除エレメント
 - 変更のないエレメント

注意: これらの合計数は、パッケージに含まれる情報用のエレメント以外の全てのエレメントを対象とし、国ごとに分けられません。このルールの例外として、エラーまたは警告が発生したエレメントの合計数には、情報用のエレメントも含まれます。

比較レポートの内容

比較レポートは 4 つの列で構成されています。次の表に、それぞれの列とその内容を示します。

列	内容
エレメント	<ul style="list-style-type: none"> • PIN コード • PIN タイプ • アップグレード アクション (アップグレード、削除、または情報のみ) • アップグレード (オンまたはオフ) • 比較ステータス • エラーまたは警告 (該当する場合) <p>注意: アップグレード アクション、アップグレード、比較ステータス、エラーまたは警告のメッセージは、レポートの "エラーのエレメント/警告メッセージ" ページにのみ表示されます。</p>
レコード.フィールド	ソース データベースとターゲット データベースのそれぞれの列に含まれている値のレコード名およびフィールド名
ソース データベース	該当のレコード名またはフィールド名に対応し、規定パッケージに含まれているデータ値のうちでソース データベースからターゲット データベースに移動するもの
ターゲット データベース	該当のレコード名またはフィールド名に対応し、ターゲット データベースに存在するデータ値

注意: 比較レポートのエレメントは、国コードのアルファベット順に表示されます。たとえば、**CHE** (スイス) のエレメントは **DEU** (ドイツ) のエレメントより前に表示されます。**全ての**国に対して定義されたエレメント、またはエラー/警告ステータスのエレメントがパッケージに含まれている場合は、国コード **All** (全ての国で使用可能) が表示されます。

比較レポートに表示されるエレメント

比較レポートは、以下のエレメント グループごとに詳細な情報を表示するセクションで構成されています。

- エラーまたは警告が発生したエレメント: エラー メッセージまたは警告メッセージがあるエレメントは全て先頭のセクションに表示され、必要に応じてエレメントに関する基本情報が表示されます。アップグレード処理に進む前に、全てのエラーと警告を確認し解決しておく必要があります。
- 修正エレメント: このセクションには、修正エレメントについて、アップグレードで変更される行 (レコードおよびフィールド) が表示されます。新規のデータが 1 行追加されると、このセクションに表示されます。

重要: アレイ、ブラケット、フォーミュラ、仮計算、および再計算/履歴抽出ルール エレメントのエレメント定義テーブルには、連番フィールドが含まれます。このフィールドはオンラインで常に表示されるわけではなく、単なる技術的な機能しか持ちません。ただし、連番が変更されただけで、これらのエレメントが**修正エレメント**として比較レポートに表示されることがあります。これは、レポートがフィールドごとの比較を行うためです。これらのエレメントが修正エレメントとしてリストされた場合は、機能の観点から重要であるため、連番以外のフィールドおよび情報が変更されているか判断する必要があります。連番だけが変更されている場合、アップグレードによるエレメントへの機能上の影響はありません。

重要: 給与レート コード エレメントでは、PIN 番号 (PIN_NUM) とヒューマン リソース管理の給与レート コード (COMP_RATECD) の両方がキーに指定されています。そのため、エレメント定義でヒューマン リソース管理の給与レート コードが変更されると、このエレメントに対し、比較レポートの修正エレメント セクションに新規の行 (2 つのキー フィールドが表示されます) と削除される行 (2 つのキー フィールドが表示されます) が表示されます。

- 新規エレメント: このセクションには、新規のエレメントのうち規定パッケージに含まれていて、ターゲット データベースに含まれていないものについて、PIN コード (キー フィールド)、PIN_NM、DESCR、COMMENTS といった GP_PIN フィールドが表示されます。
- 削除エレメント: このセクションには、削除エレメントについて、PIN コード (キー フィールド)、PIN_NM、DESCR、COMMENTS といった GP_PIN フィールドが表示されます。
- 変更のないエレメント: このセクションには、PIN コードとエレメント名だけが表示されます。

注意: これらのレポート セクションは国別に、国コードのアルファベット順に表示されます。たとえば、CHE (スイス) のレポート セクションは DEU (ドイツ) のレポート セクションより前に表示されます。要求したレポート セクションで、そのカテゴリに属するエレメントがない場合、比較レポートのそのセクションには、"このセクションの対象となるエレメントはありません" というメッセージが表示されます。国コードが "All" (全ての国で使用可能) の場合、レポートするエレメントがあるときのみレポート セクションは出力されます。"All" に指定されたエレメントがセクションになければ、ページは出力されず、上記のメッセージも表示されません。国コードが "All" のページは常にレポートの最後に表示されます。

注意: フォーミュラについては、フォーミュラ テキストのみが比較レポートに表示され、個々のフィールドの詳細情報は表示されません。

比較レポートでは、全ての PIN 番号フィールドに該当の PIN コードが表示され、PIN 番号は表示されません。

注意: 比較レポートでは、レコード情報は GP_PIN (該当する場合)、親エレメント定義レコード (該当する場合)、子エレメント定義レコード (該当する場合) のソート順序で出力されます。それぞれのレコード内では、データは有効日の降順でソートされ (有効日がレコードで指定されている場合)、次にキー フィールドの昇順でソートされて表示されます。

規定パッケージのインポート、比較、およびアップグレードに使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
パッケージ定義	GP_PKG_DFN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定パッケージの適用]、[パッケージ定義]	規定パッケージの名称とパッケージ ID を表示します。
パッケージ処理	GP_PKG_T_RUNCTL	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定パッケージの適用]、[パッケージ処理]	<ul style="list-style-type: none"> 規定パッケージをターゲット データベースにインポートします。 比較処理を実行して比較レポートを作成します。 アップグレード処理を実行します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
パッケージ エlement	GP_PKG_ELEM_UPG	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定パッケージの適用]、[パッケージ エlement]	比較処理の結果を表示し、アップグレード処理からエレメントを除外します。
パッケージ比較オーディット	GP_PKG_CMP_AUDIT	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定パッケージの適用]、[パッケージ比較オーディット]	比較処理中に発生したエラーを確認します。アップグレード処理を続行する前にエラーを修正し、比較処理を再実行します。
パッケージ ステータス	GP_PKG_DTTM_SEC	パッケージ処理ページの [パッケージ ステータス] リンクをクリックします。	パッケージおよびスクリプトが作成された日時を表示し、パッケージがエクスポート、インポート、比較、アップグレードされたそれぞれの日時を確認します。
スクリプトの表示	GP_PKG_SCRIPTS_SEC	パッケージ処理ページの [スクリプトの表示] リンクをクリックします。	エクスポート、インポート、および消去のスクリプトを表示します。

パッケージ定義の表示

パッケージ定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定パッケージの適用]、[パッケージ定義])。

パッケージ定義(D)

パッケージ処理(P)

パッケージ要素(E)

パッケージ比較オーディット

パッケージ ID:

HKRUL

☐ バージョン ベース

名称:

Global Payroll HKG Rules

略称:

GP HKG

コメント:

HRMS - Global Payroll Hong Kong Country Extension Rules

パッケージ定義ページ

比較およびアップグレードするパッケージのパッケージ ID と名称が表示されます。

インポート処理、比較処理、およびアップグレード処理の開始

パッケージ処理ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定パッケージの適用]、[パッケージ処理])。

ターゲット データベースからこのページにアクセスします。

パッケージ定義(D)	パッケージ処理(P)	パッケージ エlement(E)	パッケージ比較オーディット
パッケージ ID: AU689611 GP 9 Bundle 2 (GP Australia) 実行			
処理オプション			
<input checked="" type="checkbox"/> インポート済 <input checked="" type="checkbox"/> 比較済 <input checked="" type="checkbox"/> アップグレード済 プロセス モニター パッケージ ステータス			
インポート処理			
<input type="checkbox"/> パッケージのインポート スクリプトの表示			
*スクリプト ロケーション: C:\DMS\ スクリプト ロケーションの例: C:\folder\			
比較処理			
<input type="checkbox"/> パッケージの比較 <input type="checkbox"/> 統計の更新			
<input type="checkbox"/> 比較レポートの作成			
比較レポート印刷オプション			
<input type="checkbox"/> エラー/警告 <input type="checkbox"/> 修正 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 削除 <input type="checkbox"/> 変更なし			
アップグレード処理			
<input type="checkbox"/> パッケージのアップグレード <input type="checkbox"/> 統計の更新			
アップグレード処理の続行			
<input type="checkbox"/> エラーあり <input type="checkbox"/> 警告あり			

パッケージ処理ページ

このページを使用して、規定パッケージのインポート、比較、およびアップグレードを行い、アップグレードのステータスを追跡管理します。

処理オプション

[処理オプション] の下のチェック ボックスには、アップグレードのステータスが表示されます。ステータス値は以下のとおりです。

- [インポート済]: このチェック ボックスがオンの場合、パッケージは既にターゲット データベースにインポートされています。
- [比較済]: このチェック ボックスがオンの場合、パッケージに含まれるエレメントとターゲット データベースのエレメントの比較は既に行われています。
- [アップグレード済]: このチェック ボックスがオンの場合、ターゲット データベースはパッケージに含まれるエレメントで既にアップグレードされています。

パッケージ ステータス

このリンクをクリックすると、パッケージ ステータス ページにアクセスします。パッケージ ステータス ページには、パッケージおよびスクリプトが作成された日時が表示され、パッケージがエクスポート、インポート、比較、アップグレードされたそれぞれの日時を確認できます。

インポート処理

パッケージのインポート

[パッケージのインポート] チェック ボックスをオンにすると、処理中に、パッケージに含まれているエレメントをターゲット データベースにインポートするように指示できます。パッケージのインポートに使用されるスクリプトのパスを指定する必要があります。パッケージが既にインポートされているかどうかに関係なく、このチェック ボックスは常に使用可能です。

スクリプト ロケーション

スクリプトを作成する場所のパスを指定します。

スクリプトおよびデータ ファイルの場所は、インポート データベースとエクスポート データベースのインポートおよびエクスポート NT プロセス スケジューラの双方からアクセスできる必要があります。スクリプトの場所をプロセス スケジューラの設定ファイル (psprcs.cfg) に指定してください。

注意: スクリプトの場所をプロセス スケジューラの設定ファイルに指定する方法については、「**UNIX ディレクトリと NT ディレクトリの関連付け**」セクションで説明しています。

参照: 第 37 章、「ユーティリティの使い方」、UNIX ディレクトリと NT ディレクトリの関連付け、1402 ページ。

注意: インストール設定ページで、全てのパッケージ スクリプトに対しデフォルトのスクリプト ロケーションを定義できます。

参照: 第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、グローバル ペイロールのインストール設定の定義、42 ページ。

スクリプトの表示

このリンクをクリックすると、スクリプトの表示ページにアクセスします。スクリプトの表示ページでは、エクスポート スクリプト、インポート スクリプト、および消去スクリプトを確認することができます。

比較処理

パッケージの比較

[パッケージの比較] チェック ボックスをオンにすると、処理中に、インポートされたエレメントをターゲット データベースのエレメントと比較するように指示できます。

このチェック ボックスは、以下の場合に使用可能になります。

- パッケージが既にインポートされているが、アップグレードされていない。
- [パッケージのインポート] チェック ボックスがオンになっている。

比較処理が完了したら、パッケージ エlement ページの [パッケージ アップグレード] タブの内容をチェックし、パッケージ比較オーディット ページでエラーを確認します。

比較レポートの作成

このチェック ボックスをオンにすると、規定パッケージに含まれるエレメントとターゲット データベースのエレメントをフィールドごとに比較するレポートを作成できます。

このチェック ボックスは、[パッケージの比較] チェック ボックスをオンにすると使用可能になります。

統計の更新

このチェック ボックスをオンにすると、比較処理の実行時に、対応するテーブルの統計が更新されます。

比較レポート印刷オプション

これらのチェック ボックスによって、比較レポートに表示されるデータが決まります。

- [エラー/警告]: 比較中に発生した警告またはエラーが全てレポートに表示されます。

このチェック ボックスは、デフォルトでは**オン**に設定されています。

- [修正]: パッケージに含まれるエレメントのうち、ターゲットデータベースのエレメントとは異なるものがレポートに表示されます。

このチェック ボックスは、デフォルトでは**オン**に設定されています。

- [新規]: 新規エレメントがレポートに表示されます。

このチェック ボックスは、デフォルトでは**オフ**に設定されています。

- [削除]: 削除対象のエレメントがレポートに表示されます。

このチェック ボックスは、デフォルトでは**オフ**に設定されています。

- [変更なし]: 変更のないエレメントがレポートに表示されます。

このチェック ボックスは、デフォルトでは**オフ**に設定されています。

注意: インストール設定ページで、比較レポートのデフォルトの印刷オプションを設定できます。これらのデフォルト値は、パッケージ処理ページで比較処理を実行する際に上書きできます。

参照: 第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、グローバル ペイロールのインストール設定の定義、42 ページ。

アップグレード処理

パッケージのアップグレード

[パッケージのアップグレード] チェック ボックスをオンにすると、処理中に、パッケージに含まれるエレメントでターゲット データベースをアップグレードするように指示できます。

このチェック ボックスは、以下の場合に使用可能になります。

- パッケージの比較が既に行われているが、アップグレードは行われていない。
- [パッケージの比較] チェック ボックスがオンになっている。

この処理では、エラーなしで比較処理を終了したエレメントのみがアップグレードされます。パッケージをアップグレードできるのは一度だけです。

注意: エラー時または警告時にもアップグレードするように選択しない限り、エラーまたは警告が発生するとアップグレード処理は完了しません。エラー時および警告時にはアップグレードしないように選択した場合、エラーまたは警告が発生すると、プロセス モニターでは、正常終了と表示されますが、メッセージ ログには以下のいずれかのメッセージが示されます。

1. "比較処理の結果いくつかのエレメントのステータスがエラーとなったため、アップグレード処理を続行できません。パッケージ エレメント ページをオンラインで参照するか、または、レポートの "エラー/警告" セクションを確認してください。"

または

2. "比較処理の結果いくつかのエレメントのステータスが "警告" となったため、アップグレード処理を続行できません。パッケージ エレメント ページをオンラインで参照するか、または、レポートの "エラー/警告" セクションを確認してください。"

アップグレード処理の続行に関して [エラーあり] チェック ボックスや [警告あり] チェック ボックスをオンにしても、エレメントがアップグレードされるためには、少なくとも 1 つのエレメントが正常終了していなければなりません。エラーは修正する必要があります。

重要: 比較処理とアップグレード処理は通常の給与計算処理と一緒に実行しないでください。これは、他のユーザーへの影響を避けるためです。

統計の更新

このチェック ボックスをオンにすると、アップグレード処理の統計が作成、表示されます。

このチェック ボックスは、[パッケージのアップグレード] チェック ボックスをオンにすると使用可能になります。

アップグレード処理の続行

[エラーあり] チェック ボックスまたは [警告あり] チェック ボックスをオンにすると、比較レポートにエラーや警告があっても、アップグレードが続行されます。これらのチェック ボックスのいずれか、または両方をオフにすると、エラーまたは警告が発生した場合、アップグレードは行われません。処理が実行されると結果は正常終了になりますが、エラーまたは警告についての情報を示すメッセージが作成されます。

これらのチェック ボックスは、[パッケージのアップグレード] チェック ボックスをオンにすると使用可能になります。

注意: [エラーあり] チェック ボックスをオンにした場合でも、エラーが発生したエレメントはアップグレードには含まれません。エラーが発生していないパッケージ内のエレメントだけが、アップグレード処理の実行時に、ターゲット データベースでアップグレードされます。これに対し、[警告あり] チェック ボックスをオンにした場合は、アップグレード チェック ボックスがオンになっている場合は、警告に関連したエレメントもアップグレードに含まれます。ただし、[エラーあり] チェック ボックスと [警告あり] チェック ボックス、またはそのいずれかをオフにした場合に、1 つでもエラーまたは警告があると、アップグレードは行われません。処理が実行されると結果は正常終了になりますが、エラーまたは警告についての情報を示すメッセージが作成されます。

注意: インストール設定ページで、アップグレード続行のデフォルトのオプションを設定することができます。これらのデフォルト値は、パッケージ処理ページでアップグレード処理を実行する際に上書きできます。

参照: 第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、グローバル ペイロールのインストール設定の定義、42 ページ。

実行

[実行] ボタンをクリックすると、選択したチェック ボックス ([パッケージのインポート]、[パッケージの比較]、または [パッケージのアップグレード]) で指定された処理が呼び出されて、実行されます。3 つのチェック ボックス全てを一度にオンにして、これらの処理を 1 つの連続した処理として実行することも、一度に 1 つの処理だけを実行することもできます。ただし、まずパッケージをインポートし、比較してから、アップグレードするという順序で処理を実行する必要があります。

注意: [実行] ボタンをクリックすると、プロセス モニター ページが表示され、プロセスをモニターできます。プログラムが終了するまで待ってから、パッケージに関連付けられたページを開きます。

比較処理の結果の確認

パッケージ エlement ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[Element]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定パッケージの適用]、[パッケージ Element])。

パッケージ定義(D) パッケージ処理(P) パッケージ Element(E) パッケージ比較オーディット						
パッケージ ID: AU689611 GP 9 Bundle 2 (GP Australia)						
<div> <div>Element リスト</div> <div> 加減算 検索 全件表示 </div> <div> 最初 1-5/6 最後 </div> </div>						
<div> <div>Element</div> <div> パッケージ アップグレード </div> </div>						
国	ソース PIN 番号	Element 名	アクション	Element タイプ*	Element 所有者	言語
ALL	346	PAY ENTITY	情報のみ	システム Element	PS 保護	基本
ALL	643	PRD FREQ TYPE	情報のみ	システム Element	PS 保護	基本
AUS	80814	AUS VR BALGRP ID	情報のみ	変数	PS 管理	基本
AUS	81959	RTO OTH LVE	情報のみ	支給	PS 非管理	基本
AUS	81966	RTO OTH LVE_FYTDA	アップグレード	累計	PS 非管理	基本

パッケージ Element ページ - Element タブ

パッケージ定義(D) パッケージ処理(P) **パッケージ エlement(E)** パッケージ比較オーディット

パッケージ ID: AU689611 GP 9 Bundle 2 (GP Australia)

エレメント リスト カスタマイズ | 検索 | 全件

エレメント **パッケージ アップグレード**

国	ソース PIN 番号	エレメント名	アクション	アップグレード	結果	理由	新規エレメント	ターゲット PIN 番号
ALL	346	PAY ENTITY	情報のみ	<input type="checkbox"/>	正常終了		<input type="checkbox"/>	346
ALL	643	PRD FREQ TYPE	情報のみ	<input type="checkbox"/>	正常終了		<input type="checkbox"/>	643
AUS	80814	AUS VR BALGRP ID	情報のみ	<input type="checkbox"/>	正常終了		<input type="checkbox"/>	80814
AUS	81959	RTO OTH LVE	情報のみ	<input type="checkbox"/>	正常終了		<input type="checkbox"/>	81959
AUS	81966	RTO OTH LVE_FYTDA	アップグレード	<input checked="" type="checkbox"/>	正常終了		<input type="checkbox"/>	81966

パッケージ エlement ページ - パッケージ アップグレード タブ

このページには比較処理の結果が表示されます。エラーが報告された場合は、アップグレードを続行する前にエラーを修正してください。パッケージ比較オーディット ページには、エラーの詳細情報が表示されます。

ソース PIN 番号 (ソース支

給アイテム名番号)

ソース データベースからのエレメントの PIN 番号 (50000000 の付加なし) が表示されます。

エレメント名

ソース データベースでのエレメント名が表示されます。

アップグレード

ソース データベースからのデータでエレメントを上書きする場合は、このチェック ボックスをオンにします。ターゲット エレメントを変更している場合は、変更内容が失われます。エレメントをアップグレード処理から除外するには、[アップグレード] チェック ボックスをオフにします。除外されたエレメントには、変更内容がそのまま残ります。

重要: パッケージからエレメントを除外した場合は、アップグレードを再開する前に比較処理を再実行する必要があります。

結果

比較の結果が表示されます。値は以下のとおりです。

[未実行]: 比較処理が実行されていません。

[正常終了]: 比較処理がエラーなしで完了しました。

[異常終了]: 比較処理が異常終了しました。[理由] フィールドに理由が表示されます。

[警告]: ソース データベースのエLEMENTが PeopleSoft システムにより変更されているか (アップグレード フラグがオン)、ELEMENT所有者がユーザーになっています (アップグレード フラグがオフ)。[理由] フィールドに警告の理由が表示されます。

変更を承認または無視するには、アップグレード フラグを更新して、ELEMENTをアップグレードするかどうかを示します。

注意: 異常終了、警告、正常終了の順にリストされるので、先頭ページのエントリが全て正常終了であれば、比較処理が全て正常終了したと判断できます。

理由

比較処理が異常終了したり警告が発行された場合は、以下のいずれかの理由が表示されます。

[新規エレメントのコピーが不完全]: ターゲット データベースにコピーしようとしている新規エレメントには定義しかなく GP_PIN レコードがありません。たとえば、エレメントにバージョンを割り当て、バージョン別にパッケージを作成した後に、他のユーザーによってそのエレメントが修正され、バージョン番号が消去されてしまった場合などが考えられます。そのような場合には、適切なバージョン番号でエレメントを再作成してエクスポートを再実行します。

注意: このエラーは、エレメントが新規で、定義ではなく GP_PIN だけがコピーされた場合や、定義はあるが GP_PIN がない場合に発生します。

[エレメント所有者/タイプの不整合]: ソース エレメントの PIN コードがターゲット データベースの PIN コードと一致していますが、所有者またはエレメント タイプが一致していません。エレメント コード変更コンポーネントのエレメント名変更ページでターゲット データベースの PIN コードを変更してください。

エレメントがユーザー定義の場合、"規定パッケージの比較/アップグレード" のパッケージ エレメント ページにある [エレメント所有者] フィールドには [ユーザー] が表示されます。

[メンバー エレメントなし]: ターゲット データベースに存在せず、パッケージにも含まれていないエレメントがソース エレメントで使用されています。**[アップグレード]** チェック ボックスをオフにしてアップグレード処理からエレメントを除外するか、または見つからなかったエレメントをパッケージ条件に追加し、ソース データベースでパッケージを再作成してからインポートし直してください。

[Mbr エレメント所有者/タイプ不整合]: このエラーは、[エレメント所有者/タイプの不整合] のメッセージと似ていますが、目的エレメントで使用されるメンバー エレメントに適用されるメッセージです。エレメント コード変更コンポーネントのエレメント名変更ページでターゲット データベースの PIN コードを変更してください。

[エレメントが存在しない]: ターゲット データベースにないエレメントを削除しようとしています。

[PS 配布/ユーザーにより修正済]: ターゲット データベース内のエレメントが修正されており、ソース データベース内のエレメントと一致しないことを示す警告です。PeopleSoft またはユーザーによる修正を承認し、ターゲット データベースに変更内容を上書きする場合は [アップグレード] チェック ボックスをオンにします。チェック ボックスをオンにすると、エレメント所有者は [PS 配布/ユーザーにより修正済] のままになります。

[PS 配布/PS 修正済]: これはソース データベース内のエレメントの所有者が PeopleSoft システムによって変更されたために、既に [PS 配布/管理] ではなくなっていることを示す警告です。変更内容を反映しない場合は、[アップグレード] チェック ボックスをオフにします。

[PS 所有のエレメントで削除不可]: ターゲット データベースから PeopleSoft 所有のエレメントを削除しようとしています。PeopleSoft 所有のエレメントは、削除できません。

[重複パッケージ エレメントあり]: アップグレードしようとしている別のパッケージにあるエレメントをインポートしようとしています。

[エレメント以外の定義で使用中]: エレメント以外の定義で使用されているエレメントを削除しようとしています。このエレメントを使用しないように、エレメント以外の定義を修正してください。

[出力結果で使用中]: 処理結果テーブルで使用されているエレメントを削除しようとしています (結果テーブルの結果を削除することはできません)。

[受給者データで使用中]: 受給者データに関連付けられているエレメントを削除しようとしています。このエレメントを使用しないように、受給者データを修正してください。

[ルール定義で使用中]: 別のエレメントで使用されているエレメントを削除しようとしています。このエレメントを使用しないように、ルール定義を修正してください。

[ルール定義で使用中のコンポーネント]: ルール定義でコンポーネントが使用されているエレメントを削除しようとしています。このコンポーネントを使用しないように、エレメント定義を修正してください。

新規エレメント

アップグレードするエレメントがターゲット データベースにない場合は、チェック ボックスがオンになります。

アップグレード ステータス アップグレード処理が行われたかどうかを示します。比較処理とアップグレード処理が完了すると、[未実行] から [実行済] に変わります。

アップグレード時のエラー確認

パッケージ比較オーディット ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定パッケージの適用]、[パッケージ比較オーディット])。

パッケージ定義(D) パッケージ処理(P) パッケージエレメント(E) パッケージ比較オーディット			
パッケージ ID: AU689611 GP 9 Bundle 2 (GP Australia)			
エレメント リスト <small>カスタマイズ</small> <small>検索</small> <small>全件表示</small> <small>最初</small> <small>1/1</small> <small>最後</small>			
エレメント パッケージ アップグレード <small>...</small>			
親	メンバー エレメント	異常終了の理由	アップグレード アクション

パッケージ比較オーディット ページ - エレメント タブ

パッケージ定義(D) パッケージ処理(P) パッケージエレメント(E) パッケージ比較オーディット				
パッケージ ID: AU689611 GP 9 Bundle 2 (GP Australia)				
エレメント リスト <small>カスタマイズ</small> <small>検索</small> <small>全件表示</small> <small>最初</small> <small>1/1</small> <small>最後</small>				
エレメント パッケージ アップグレード <small>...</small>				
親	メンバー エレメント	レポート (テーブル) 名	PIN 番号フィールド名	フィールド名

パッケージ比較オーディット ページ- パッケージ アップグレード タブ

- 親

親エレメントの名前です。
- メンバー エレメント

エラーが発生したメンバー エレメントの名前です。
- 異常終了の理由

処理の異常終了の原因が表示されます。これと同じ情報が、パッケージ エレメント ページの [理由] フィールドに表示されます。

アップグレード アクション エラーが発生したときにシステムで実行していたアクションが表示されます。[アップグレード]、[削除]、または [情報のみ] のいずれかが表示されます。

パッケージ アップグレード

[パッケージ アップグレード] タブをクリックします。

親 エラーが発生した親エレメントの名前です。

メンバー エレメント エラーが発生したメンバー エレメントの名前です。

レコード (テーブル) 名 親エレメントとそのメンバーを保存しているレコードの名前です。

PIN 番号フィールド名 (支給アイテム名番号フィールド名) キー フィールドを含むフィールドの名前です。

フィールド名	エラーが発生したメンバー エレメントを含むフィールドの名前です。
--------	----------------------------------

パッケージ ステータスの表示

パッケージ ステータス ページにアクセスします (パッケージ処理ページの [パッケージ ステータス] リンクをクリックします)。

<u>規定パッケージの適用</u>			
パッケージ ステータス			
パッケージ ID:	AU689611	GP 9 Bundle 2 (GP Australia)	
作成済:		インポート済:	2007/06/21 11:50:29
スクリーン作成済:		比較済:	2007/06/21 12:08:36
エクスポート済:		アップグレード済:	2007/06/21 12:12:35
戻る			

パッケージ ステータス ページ

パッケージおよびスクリプトが作成された日時を表示し、パッケージがエクスポート、インポート、比較、アップグレードされたそれぞれの日時を確認します。

スクリプトの表示

スクリプトの表示ページにアクセスします (パッケージ処理ページの [スクリプトの表示] リンクをクリックします)。

[規定パッケージの適用](#)

スクリプトの表示

パッケージ ID:

AU689611 GP 9 Bundle 2 (GP Australia)

*スクリプト ロケーション:

スクリプト ロケーションの例: C:\folder\

パッケージ スクリプト表示:

SQL ステートメント テキスト:

スクリプトの表示ページ

スクリプト ロケーション

スクリプトの場所が表示されます。この場所には、インポート データベースとエクスポート データベースのインポートおよびエクスポート NT プロセス スケジューラの双方からアクセスできる必要があります。スクリプトの場所をプロセス スケジューラの設定ファイル (psprcs.cfg) に指定してください。

注意: スクリプトの場所をプロセス スケジューラの設定ファイルに指定する方法については、「**UNIX ディレクトリと NT ディレクトリの関連付け**」セクションで説明しています。

参照: 第 37 章、「ユーティリティの使い方」、UNIX ディレクトリと NT ディレクトリの関連付け、1402 ページ。

注意: インストール設定ページで、全てのパッケージ スクリプトに対しデフォルトのスクリプト ロケーションを定義できます。

参照: 第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、グローバル ペイロールのインストール設定の定義、42 ページ。

パッケージ スクリプト表示

表示するスクリプトのタイプとして、[エクスポート スクリプト]、[インポート スクリプト]、または [消去スクリプト] のいずれかを選択します。データ ムーバーのスクリプトが下のフィールドに表示されます。

エレメント名の変更

このセクションでは、エレメント名の変更の概要と、その方法について説明します。

エレメント名の変更方法について

比較処理では、PIN コードがターゲット データベースとソース データベースで一致しても、エレメント タイプまたは所有者が異なるエレメントが検出される場合があります。このような場合は、エレメント所有者/タイプの不整合"、または "Mbr エレメント所有者/タイプ不整合" というエラー メッセージが表示されます。

エレメントのエクスポートを続行するには、エレメント名変更ユーティリティを使用してターゲット エレメントの PIN コードを変更します。PIN コードを変更した後は、比較処理を必ず再実行してください。

エレメントの PIN コードを変更するようにシステムを設定すると、以下の項目がチェックされます。

- 新しい PIN コードが既に使用されていないか。
使用されている場合は、エラーが表示されます。
- 変更前の PIN コードが PeopleSoft Enterprise 勤務管理で使用されていないか。
使用されている場合は、警告が表示されます。勤務管理でエレメントをマップし直して新しいコードを適用してください。
- 新しい PIN コードが既存の PIN コードと同じものではないか。
同じ場合は、警告が表示されます。

重要: パッケージ作成処理の途中で、エレメント名を変更しないでください。

PeopleSoft によって作成されたエレメントの名前は変更できません。

警告: 勤務管理には、PIN コード情報が保存されています。したがって、PIN コードを変更する場合は、その変更に合わせて勤務管理データを更新する必要があります。

関連項目:

第 37 章、「ユーティリティの使い方」、削除機能、 1402 ページ

エレメント名の変更に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
エレメント名変更	GP_PIN_RENAME	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[エレメント コード変更]、[エレメント名変更]	エレメントの PIN コードを変更します。

エレメント名の変更

エレメント名変更ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバルペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[エレメント コード変更]、[エレメント名変更])。

エレメントコード変更

旧 PIN コード:UNION FEE ALL

エレメント名:UNION FEE

名称:組合費

定義の指定日:カレンダー期間終了日

新規 PIN コード:

エレメントタイプ:控除

フィールドフォーマット:金額

☐ 常時再計算

エレメント使用

所有者:PS 配布/管理なし

クラス:システム データ

使用先:全ての国

国:ALL

産業/地域:

カテゴリ:GED 一般支給 - 控除

上書きレベル

☐ 支給元

☐ 支給グループ

☒ 受給者

☒ カレンダー

☒ エレメント使用

☐ エレメント定義

☒ ポジティブ入力

結果

☒ 保存

☒ 常に保存

☐ エレメントが 0 以外

☐ エレメント/コンポーネントが 0 以外

予測

このエレメントタイプは予測をサポートしていません。

移動: [リセット](#)

エレメント名変更ページ

新規 PIN コード (新規支給アイテム名コード)

新しいコードを入力します。保存すると、前の PIN コードと置き換えられます。

注意: PIN コードを変更するときは、PIN コードと国コードのサフィックスを使用します。例: PIN NAME DEU。

規定外パッケージの作成とエクスポート

このセクションでは、規定外パッケージの作成とエクスポートの概要と、以下の作業を行う方法について説明します。

- 規定外パッケージの名称設定
- 選択条件の定義
- 選択条件の SQL Where 句の変更
- 規定外パッケージのエLEMENTの表示
- 規定外パッケージのエクスポートとインポート
- 規定外パッケージのスキプトの表示

規定外パッケージの作成とエクスポートの方法について

規定外パッケージには規定外データとELEMENT情報が含まれます。規定外データとは、主キーが **PIN_NUM** ではないレコードに属するデータを指します。

重要: 規定外パッケージを作成する際は、移動するレコードに関連するレコードが同じパッケージに含まれることを確認します。関連する一連のデータを全て移動するには、どのレコードが関連しているかを理解している必要があります。

規定外データを移動する前に、規定外データに関連するELEMENTがターゲット データベースにあることを確認します。確認するには、移動するデータ レコードに関連付けられたELEMENTを含む規定パッケージを作成し、その規定パッケージをターゲット データベースにコピー (アップグレード) します。

たとえば、規定外カレンダー詳細レコードを移動するとします。カレンダー詳細はプロセス番号ELEMENT (PIN_PRC_NUM) に関連付けられています。カレンダー データを移動する前に、プロセス番号ELEMENTを含む規定パッケージを作成し、それをターゲット データベースに移動します。ターゲット データベースでは、必要に応じて新しい PIN 番号がELEMENTに割り当てられます。規定パッケージをターゲット データベースに移動した後、規定外パッケージを作成して、カレンダー詳細を移動できます。

カレンダー詳細が移動されるときに、ターゲット データベースのプロセス番号ELEMENTが検索され、規定アップグレード処理中に割り当てられた新しい PIN 番号が取得され、カレンダー詳細レコードのプロセス番号に新たに適用されます。(番号を付け直さなければ、ターゲット データベースに存在しない可能性のある PIN 番号、または、ターゲット データベース内のカレンダーに使用されているELEMENTと無関係な PIN 番号がカレンダー詳細に含まれてしまいます。)

規定外パッケージを作成し、エクスポートするには、次の手順に従います。

1. 規定外パッケージを作成します。

これには、規定外パッケージ作成コンポーネント (GP_NR_PKG_CREATE) を使用します。

このコンポーネントで以下を実行します。

- ソース データベースから移動するレコードの選択条件を定義します。
- パッケージ作成処理を実行します。
- 移動するデータに関連する規定 (ルール) を表示します。

2. 規定外パッケージをエクスポートします。

これには、"規定外パッケージのエクスポート" コンポーネント (GP_NR_PKG_EXPORT) を使用します。

規定外パッケージに含まれる規定外データとエレメント情報がエクスポートされます。

注意: グローバル ペイロールでは、規定外パッケージのエクスポート処理で使用するスクリプトのデフォルト ロケーションを指定することができるため、パッケージをエクスポートするたびに同じ基本情報を入力する必要がありません。グローバル ペイロールのインストール設定ページにアクセスし ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[インストール設定])、スクリプト ロケーションを指定します。

規定外パッケージの作成とエクスポートに使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
規定外パッケージ作成 - パッケージ定義 規定外パッケージのエクスポート - パッケージ定義	GP_NR_PKG_DFN	<ul style="list-style-type: none"> • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外パッケージ作成]、[パッケージ定義] • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外パッケージのエクスポート]、[パッケージ定義] 	規定外パッケージに名前を付け、名称とコメントを入力したり、表示します。
規定外パッケージ作成 - パッケージ条件	GP_NR_PKG_CRIT	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外パッケージ作成]、[パッケージ条件]	規定外パッケージのアイテムの選択条件を定義し、パッケージを作成します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
規定外パッケージ作成 - パッケージ レコード	GP_NR_PKG_RECS	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外パッケージ作成]、[パッケージ レコード]	パッケージ条件ページで入力した選択条件に基づいてシステムにより作成された SQL 文の Where 句を表示します。必要に応じて編集することもできます。
規定外パッケージのエクスポート - パッケージ レコード	GP_NR_PKG_DATA	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外パッケージのエクスポート]、[パッケージ レコード]	<ul style="list-style-type: none"> • スクリプトを作成し、パッケージのレコードとエレメント情報をエクスポートします。 • パッケージ条件ページで入力した選択条件に基づいてシステムにより作成された SQL 文の Where 句を表示します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
<p>規定外パッケージ作成 - パッケージ エlement</p> <p>規定外パッケージのエクスポート - パッケージ Element</p>	GP_NR_PKG_ELMTS	<ul style="list-style-type: none"> • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[Element]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外パッケージ作成]、[パッケージ Element] • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[Element]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外パッケージのエクスポート]、[パッケージ Element] 	規定外パッケージのElementを表示します。
規定外パッケージのエクスポート - スクリプトの表示	GP_NR_PKG_EXPIMP	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[Element]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外パッケージのエクスポート]、[スクリプトの表示]	規定外パッケージのエクスポート スクリプトとインポート スクリプトを表示します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
パッケージ ステータス	GP_NR_PKG_DTTM_SEC	<ul style="list-style-type: none">パッケージ定義ページの [パッケージ ステータス] リンクをクリックします。パッケージ条件ページの [パッケージ ステータス] リンクをクリックします。パッケージ レコードページの [パッケージ ステータス] リンクをクリックします。パッケージ エlement ページの [パッケージ ステータス] リンクをクリックします。スクリプトの表示ページの [パッケージ ステータス] リンクをクリックします。	パッケージが作成、エクスポート、インポート、比較、アップグレードされたそれぞれの日時が表示されます。

規定外パッケージの名称設定

パッケージ定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外パッケージ作成]、[パッケージ定義])。

パッケージ定義

パッケージ条件

パッケージレコード

パッケージエレメント

パッケージ ID:

GCH81DMR

[パッケージ ステータス](#)

*名称:

Global Payroll CHE 8.01 Demo

略称:

GPCHE 8.01

コメント:

Global Payroll Switzerland Release 8.01 Demo Data

規定外パッケージ作成 - パッケージ定義ページ

パッケージの名称とコメントを入力します。

選択条件の定義

パッケージ条件ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外パッケージ作成]、[パッケージ条件])。

パッケージ定義

パッケージ条件

パッケージレコード

パッケージエレメント

パッケージ ID:

AUDMO

[パッケージ ステータス](#)

名称:

Global Payroll AUS Demo Data

レコード選択条件

検索 | 100 件表示 | 最初 1/270 最後

レコード:

ADDRESSES

*WHERE 句オプション:

デフォルトの WHERE 句を使用

データ選択

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

フィールド名	フィールド フォーマット	演算子	文字
EMPLID	文字列	LIKE	KAG

パッケージ作成

規定外パッケージ作成 - パッケージ条件ページ

パッケージ ID パッケージ ID が表示されます。

レコード 移動するデータが含まれているレコードを選択します。[データ選択] グループ ボックスが入力可能になります。

Where 句オプション

このページで入力された条件が、パッケージに含まれるエレメントを選択するために SQL に変換されます。

値は以下のとおりです。

[デフォルトの WHERE 句を使用]: デフォルトの Where 句が使用されます。Where 句を変更した後で [デフォルトの WHERE 句を使用] を再度選択すると、SQL コードの変更内容は破棄され、指定された条件に基づく Where 句に戻ります。

[WHERE 句変更]: このページの他のフィールドが全て入力不可になり、パッケージ レコード ページの SQL コードが編集モードになります。

データ選択

[データ選択] グループ ボックスの各フィールドを使用して、移動するデータを指定します。選択条件の入力は必須ではありませんが、入力しなかった場合は、ソース データベースをインポートする前にターゲット データベースで削除処理が実行されません。その結果、インポート処理中にデータ ムーバーからレコードが重複していることを告げるメッセージが返され、アップグレード処理が異常終了する場合があります。

フィールド名

選択条件の基準になるフィールドを選択します。プロンプト テーブル (検索画面) の [キー ポジション] 列を確認し、キー フィールドを選択してください。

フィールド フォーマット

選択したフィールドのフォーマットが表示されます。

演算子

パッケージに含めるデータの選択に適用する演算子を選択します。有効な演算子は、[<]、[<=]、[<>]、[=]、[>]、[>=]、および [LIKE] です。[LIKE] を選択した場合は、右横のフィールドに検索する値の一部、たとえば「S」という文字を入力できます。

[演算子] フィールドの右にあるフィールドには、検索対象の値を入力します。選択したフィールド フォーマットによって、このフィールドのラベルは変化します。

パッケージの作成

選択条件を定義したら、このボタンをクリックしてパッケージを作成します。パッケージが作成されると、"規定外パッケージ作成" のパッケージ レコード ページに値が入力されます。

パッケージの内容を確認するには、[パッケージ エlement] タブをクリックします。

選択条件の SQL Where 句の変更

規定外パッケージ作成 - パッケージ レコード ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[Element]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外パッケージ作成]、[パッケージ レコード])。

The screenshot displays the 'Package Record' page. At the top, there are four tabs: 'Package Definition', 'Package Condition', 'Package Record', and 'Package Element'. The 'Package Record' tab is active. Below the tabs, the 'Package ID' is 'SETUP4' and the 'Name' is 'Set up 4 Data'. There is a link for 'Package Status'. The 'Export Script' section has a search bar and a 'Full Display' button. Below this, the 'Record' is 'GP_CALENDAR' and the 'Where Clause Option' is 'Default WHERE clause'. The 'Where Clause' field contains the text 'where GP_PAYGROUP like 'K%'. There is a small icon next to the field.

規定外パッケージ作成 - パッケージ レコード

レコード

選択したフィールドが含まれるレコードが表示されます。

Where 句オプション

Where 句のオプションを選択します。値は以下のとおりです。

[WHERE 句変更]: この値を選択すると、下のフィールド内の SQL コードが編集可能になります。

[デフォルトの WHERE 句を使用]: デフォルトの Where 句を使用する場合や、編集した SQL コードを元に戻す場合に選択します。この場合、変更した Where 句の内容は失われ、フィールドは無効になります。

Where 句

[Where 句オプション] フィールドで [デフォルトの Where 句を使用] を選択すると、"規定外パッケージ作成" のパッケージ条件ページでパッケージに対し入力した選択条件に基づいて作成された SQL 文の Where 句が表示されます。この WHERE 句は編集できません。

[Where 句変更] を選択すると、SQL が編集可能になります。PIN_NUM を選択条件として指定したり、PIN_NUM が保存される可能性のあるフィールドを使用したりしないでください。(これに反すると、インポート処理時の番号振り直しができなくなります。)

規定外パッケージのエレメントの表示

パッケージ エレメント ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外パッケージ作成]、[パッケージ エレメント])。

パッケージ定義 パッケージ条件 パッケージレコード **パッケージエレメント**

パッケージ ID: AUDMO [パッケージステータス](#)

名称: Global Payroll AUS Demo Data

エレメントリスト					
カスタマイズ 検索 100 件表示 最初 1-10/578 最後					
ソース PIN	エレメント名	PIN コード	エレメント タイプ	エレメント所有者	アクション
80	DEPTID	DEPTID ALL	システム エレメント	PS 保護	情報のみ
135	GP PAYGROUP	GP PAYGROUP ALL	システム エレメント	PS 保護	情報のみ
207	PRD FREQ NAME	PRD FREQ NAME ALL	システム エレメント	PS 保護	情報のみ
214	RATE AS OF DATE	RATE AS OF DATE ALL	システム エレメント	PS 保護	情報のみ
285	TERMINATION DT	TERMINATION DT ALL	システム エレメント	PS 保護	情報のみ
346	PAY ENTITY	PAY ENTITY ALL	システム エレメント	PS 保護	情報のみ
723	GP ROUND NEAR 2DEC	GP ROUND NEAR 2DEC ALL	端数処理	PS 管理	情報のみ
764	GP PRORATE WRK DAY	GP PRORATE WRK DAY ALL	比例配分	PS 管理	情報のみ
2194	K0AE PTO	K0AE PTO ALL	休暇付与	PS 非管理	情報のみ
2197	K0AE PTO_BAL	K0AE PTO_BAL ALL	累計	PS 非管理	情報のみ

規定外パッケージ作成 - パッケージ エレメント ページ

注意: このページには、新しいデータベースに移動するレコードで使用される規定エレメントが表示されます。これらは情報用のエレメントです。PIN 番号がフィールドになっていないレコードのデータは表示されません。

スクリプトの作成と規定外パッケージのエクスポート

規定外パッケージのエクスポート - パッケージ レコード ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外パッケージのエクスポート]、[パッケージ レコード])。

パッケージ定義		パッケージレコード	パッケージエレメント	スクリプトの表示
パッケージ ID:	ES89001D パッケージステータス			
名称:	Global Payroll ESP System Data			
*スクリプト ロケーション:	<input type="text"/>			
スクリプト ロケーションの例: C:\folder*				
エクスポート スクリプト 検索 全件表示 最初 1/8 最後				
レコード:	GTZ_DTA_ESP_TBL Contribution Concept Tbl - ESP			
Where 句:	<div>WHERE SCHEME_ID_ESP = '0111' AND CURRENCY_CD = 'EUR' AND EFFDT = %DATEIN('2005-01-01')</div>			
<div>スクリプト作成 エクスポート プロセスモニター</div>				

規定外パッケージのエクスポート - パッケージ レコード ページ

スクリプト ロケーション

[スクリプト作成] ボタンをクリックしたときにインポート/エクスポート スクリプトを作成する場所のパスを指定します。

スクリプトおよびデータ ファイルの場所は、インポート データベースとエクスポート データベースのインポートおよびエクスポート NT プロセス スケジューラの双方からアクセスできる必要があります。スクリプトの場所をプロセス スケジューラの設定ファイル (psprcs.cfg) に指定してください。

注意: スクリプトの場所をプロセス スケジューラの設定ファイルに指定する方法については、「**UNIX ディレクトリと NT ディレクトリの関連付け**」セクションで説明しています。

参照: 第 37 章、「ユーティリティの使い方」、UNIX ディレクトリと NT ディレクトリの関連付け、 1402 ページ。

注意: インストール設定ページで、全てのパッケージ スクリプトに対しデフォルトのスクリプト ロケーションを定義できます。

参照: 第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、グローバル ペイロールのインストール設定の定義、 42 ページ。

レコード

エクスポートするデータを含んでいるレコードの名前が表示されます。

Where 句

エクスポートするデータを選択するための SQL 文の Where 句が表示されます。

スクリプト作成

このボタンをクリックすると、規定外パッケージのインポート スクリプトとエクスポート スクリプト (xxx_elements_imp.dms、xxx_elements_exp.dms、xxx_records_exp.dms、xxx_record_imp.dms) が作成されます。xxx はパッケージ名を表します。これらのスクリプトは、指定したスクリプト ロケーションに作成されます。

エクスポート

スクリプト ロケーションを指定してから、このボタンをクリックしてパッケージをエクスポートします。

規定外パッケージのスキプトの表示

スキプトの表示ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル
ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外
パッケージのエクスポート]、[スキプトの表示])。

パッケージ定義

パッケージレポート

パッケージエレメント

スキプトの表示

パッケージ ID:

AUDMO

[パッケージ ステータス](#)

名称:

Global Payroll AUS Demo Data

*スキプト ロケーション:

スキプト ロケーションの例: C:\folder\

パッケージ スキプト表示:

SQL ステートメント テキスト:

[プロセス モニター](#)

規定外パッケージのエクスポート - スクリプトの表示ページ

スクリプト ロケーション

スクリプトの場所が表示されます。この場所には、インポート データベースとエクスポート データベースのインポートおよびエクスポート NT プロセス スケジューラの双方からアクセスできる必要があります。スクリプトの場所をプロセス スケジューラの設定ファイル (psprcs.cfg) に指定してください。

注意: スクリプトの場所をプロセス スケジューラの設定ファイルに指定する方法については、「**UNIX ディレクトリと NT ディレクトリの関連付け**」セクションで説明しています。

参照: 第 37 章、「ユーティリティの使い方」、UNIX ディレクトリと NT ディレクトリの関連付け、1402 ページ。

注意: インストール設定ページで、全てのパッケージ スクリプトに対しデフォルトのスクリプト ロケーションを定義できます。

参照: 第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、グローバル ペイロールのインストール設定の定義、42 ページ。

パッケージ スクリプト表示

表示するスクリプトのタイプとして、エレメントまたはレコードのエクスポート スクリプトあるいはインポート スクリプトを選択します。データ ムーバーのスクリプトが下のフィールドに表示されます。

パッケージ ステータスの表示

パッケージ ステータス ページにアクセスします (規定外パッケージのエクスポート コンポーネントと規定外パッケージ作成コンポーネントのすべてのページにある [パッケージ ステータス] リンクをクリックします)。

パッケージ ステータス

パッケージ ID:	AUDMO	Global Payroll AUS Demo Data
作成済:	2003/08/15 17:34:49	比較済:
エクスポート済:	2003/08/15 18:17:45	インポート NR:
エクスポート NR:	2003/08/15 18:17:53	アップグレード済:
インポート済:		

戻る

規定外パッケージのエクスポート - パッケージ ステータス

パッケージが作成、エクスポート、インポート、比較、アップグレードされたそれぞれの日時が表示されます。

規定外パッケージのインポート、比較、およびアップグレード

このセクションでは、規定外パッケージの比較とアップグレードの概要と、以下の作業を行う方法について説明します。

- 規定外エレメント情報のインポート
- 規定外パッケージとターゲット データベースのデータの比較
- 規定外レコードのインポート
- 規定外パッケージのアップグレード

規定外パッケージのインポート、比較、およびアップグレードの方法について

規定外パッケージを作成してエクスポートしたら、以下を実行します。

1. 規定外エレメントをインポートします。

これには、規定外エレメントのインポート コンポーネント (GP_NR_PKG_IMPORT) を使用します。

エレメント自体ではなく、エレメントの情報がインポートされます。

2. 規定外パッケージ内のエレメントをターゲット データベースのエレメントと比較し、それらがターゲット データベースに存在していることを確認します。

これには、規定外パッケージ比較コンポーネント (GP_NR_PKG_COMPARE) を使用します。

このコンポーネントを使用して、以下を実行します。

- パッケージ内のエレメント情報とターゲット データベースのエレメント情報を比較します。
- ターゲット データベースに移動する必要があるエレメントが揃っているかどうかを確認します。

3. 規定外レコードをインポートします。

これには、規定外レコードのインポート コンポーネント (GP_NR_PKG_IMPREGS) を使用します。

4. 規定外パッケージをアップグレードします。

これには、規定外パッケージ アップグレード コンポーネント (GP_NR_PKG_UPGRADE) を使用します。

注意: グローバル ペイロールでは、規定外パッケージのインポート処理で使用するスクリプトのデフォルト ロケーションを指定することができるため、パッケージをインポートするたびに同じ基本情報を入力する必要がありません。グローバル ペイロールのインストール設定ページにアクセスし ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[システム設定]、[インストール設定])、スクリプト ロケーションを指定します。

規定外パッケージのインポート、比較、およびアップグレードに使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
規定外エレメントのインポート - パッケージ定義 規定外パッケージ比] - パッケージ定義 規定外レコードのインポート - パッケージ定義 規定外パッケージ アップグレード - パッケージ定義	GP_NR_PKG_DFN	<ul style="list-style-type: none"> • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外エレメントのインポート]、[パッケージ定義] • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外パッケージ比較]、[パッケージ定義] • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外レコードのインポート]、[パッケージ定義] • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管 	<ul style="list-style-type: none"> • 規定外パッケージに名前を付け、名称とコメントを入力します。 • 規定外パッケージの ID と名称を表示します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
		理]、[エレメント]、 [グローバル ペイ ロール パッケージの 管理]、[規定外パッ ケージ アップグレー ド]、[パッケージ定 義]	
規定外エレメントのイン ポート - パッケージ レ コード 規定外レコードのイン ポート - パッケージ レ コード	GP_NR_PKG_DATA	<ul style="list-style-type: none"> • [HRMS 基本設定]、 [製品/業務別定義]、 [グローバル ペイ ロール/休暇欠勤管 理]、[エレメント]、 [グローバル ペイ ロール パッケージの 管理]、[規定外エレ メントのインポー ト]、[パッケージ レ コード] • [HRMS 基本設定]、 [製品/業務別定義]、 [グローバル ペイ ロール/休暇欠勤管 理]、[エレメント]、 [グローバル ペイ ロール パッケージの 管理]、[規定外レ コードのインポー ト]、[パッケージ レ コード] 	<ul style="list-style-type: none"> • 規定外エレメント情 報をターゲット デー タベースにインポー トします。 • 規定外レコードを ターゲット データ ベースにインポート します。 • パッケージ条件ペー ジで入力した選択条 件に基づいてシステ ムにより作成された SQL 文の Where 句 を表示します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
規定外パッケージ アップ グレード - パッケージ レコード	GP_NR_PKG_RECS	[HRMS 基本設定]、[製 品/業務別定義]、[グロー バル ペイロール/休暇欠 勤管理]、[エレメント]、 [グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規 定外パッケージ アップグ レード]、[パッケージ レ コード]	<ul style="list-style-type: none">パッケージ条件ペー ジで入力した選択条 件に基づいてシステ ムにより作成された SQL 文の Where 句 を表示します。規定外パッケージを アップグレードしま す。 <p>パッケージをアップ グレードする前に、 比較処理が正常終了 している必要があります。</p>

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
<p>規定外エレメントのインポート - パッケージ エレメント</p> <p>規定外パッケージ比較 - パッケージ エレメント</p> <p>規定外レコードのインポート - パッケージ エレメント</p>	GP_NR_PKG_ELMTS	<ul style="list-style-type: none"> • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外エレメントのインポート]、[パッケージ エレメント] • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外パッケージ比較]、[パッケージ エレメント] • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外レコードのインポート]、[パッケージ エレメント] 	<ul style="list-style-type: none"> • ソース データベースのデータとターゲット データベースのデータを比較します。 • インポートしたパッケージの内容を表示します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
規定外エレメントのインポート - スクリプトの表示 規定外レコードのインポート - スクリプトの表示	GP_NR_PKG_EXPIMP	<ul style="list-style-type: none">• [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外エレメントのインポート]、[スクリプトの表示]• [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外レコードのインポート]、[スクリプトの表示]	エクスポート スクリプトまたはインポート スクリプトを表示します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
パッケージ ステータス	GP_NR_PKG_DTTM_SEC	<ul style="list-style-type: none">パッケージ定義ページの [パッケージ ステータス] リンクをクリックします。パッケージ レコードページの [パッケージ ステータス] リンクをクリックします。パッケージ エlement ページの [パッケージ ステータス] リンクをクリックします。スクリプトの表示ページの [パッケージ ステータス] リンクをクリックします。	パッケージが作成、エクスポート、インポート、比較、アップグレードされたそれぞれの日時が表示されます。

規定外パッケージの名称設定

パッケージ定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外エレメントのインポート]、[パッケージ定義])。

パッケージ定義 パッケージ レコード パッケージ エlement スクリプトの表示			
パッケージ ID:	AU25318 パッケージ ステータス		
*名称:	AUS Non-Rules -Update ID 25318	略称:	AUS Non-Ru
コメント:	<div style="border: 1px solid black; height: 80px; width: 100%;"></div>		

規定外Elementのインポート - パッケージ定義ページ

パッケージの名称とコメントを入力したり、表示します。

規定外Element情報のインポート

規定外Elementのインポート - パッケージ レコード ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[Element]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外Elementのインポート]、[パッケージ レコード])。

パッケージ定義 パッケージ レコード パッケージ Element スクリプトの表示			
パッケージ ID:	AU25318 パッケージ ステータス		
名称:	AUS Non-Rules -Update ID 25318		
*スクリプト ロケーション:	<div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>		
スクリプト ロケーションの例: C:*folder*			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> エクスポート スクリプト 検索 全件表示 最初 1/3 最後 </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>レコード: GP_RTO_OVR_DEFN Retro Process Override Defn</p> <p>Where 句: where COUNTRY='AUS' and RTO_PRO_ID='AU RETRO'</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div> </div> </div>			
パッケージのインポート		プロセス モニター	

規定外Elementのインポート - パッケージ レコード ページ

スクリプト ロケーション

スクリプトの場所が表示されます。この場所には、インポート データベースとエクスポート データベースのインポートおよびエクスポート NT プロセス スケジューラの双方からアクセスできる必要があります。スクリプトの場所をプロセス スケジューラの設定ファイル (psprcs.cfg) に指定してください。

注意: スクリプトの場所をプロセス スケジューラの設定ファイルに指定する方法については、「**UNIX ディレクトリと NT ディレクトリの関連付け**」セクションで説明しています。

参照: 第 37 章、「ユーティリティの使い方」、UNIX ディレクトリと NT ディレクトリの関連付け、1402 ページ。

注意: インストール設定ページで、全てのパッケージ スクリプトに対しデフォルトのスクリプト ロケーションを定義できます。

参照: 第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、グローバル ペイロールのインストール設定の定義、42 ページ。

パッケージのインポート

このボタンが使用可能な場合は、クリックして、インポート プロセスを開始します。

規定外パッケージとターゲット データベースの要素の比較

規定外パッケージ比較 - パッケージ エlement ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[Element]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外パッケージ比較]、[パッケージ Element])。

パッケージ定義 **パッケージ エlement**

パッケージ ID: AU25318 [パッケージ ステータス](#)

名称: AUS Non-Rules -Update ID 25318

Element リスト

加減サイズ | 検索 | 100 件表示 | | | 最初 1-10/101 最後

ソース PIN	Element 名	PIN コード	Element タイプ	Element 所有者	アクション	結果	理由	ターゲット PIN
80041	UNION	UNION AUS	控除	PS 非管理	情報のみ	正常終了		80041
80054	SALDED	SALDED AUS	控除	PS 非管理	情報のみ	正常終了		80054
80059	SOCIAL	SOCIAL AUS	控除	PS 非管理	情報のみ	正常終了		80059
80064	TRAINEED	TRAINEED AUS	控除	PS 非管理	情報のみ	正常終了		80064
80077	SHFAM	SHFAM AUS	支給	PS 非管理	情報のみ	正常終了		80077
80081	SHFPM	SHFPM AUS	支給	PS 非管理	情報のみ	正常終了		80081
80085	SHFNT1	SHFNT1 AUS	支給	PS 非管理	情報のみ	正常終了		80085
80090	OT1.5	OT1.5 AUS	支給	PS 非管理	情報のみ	正常終了		80090
80094	OT2.0	OT2.0 AUS	支給	PS 非管理	情報のみ	正常終了		80094
80098	OT2.5	OT2.5 AUS	支給	PS 非管理	情報のみ	正常終了		80098

比較

規定外パッケージ比較 - パッケージ Element ページ

エクスポート処理およびインポート処理の準備が完了したら、ターゲット データベースにログインして比較処理を実行します。比較処理では、移動するデータに必要なElementがターゲット データベースに存在することが確認されます。その際、PIN コードと PIN タイプがチェックされます。

Elementが存在しなかった場合、または、Element タイプが一致しなかった場合、比較処理は異常終了します。この場合は、規定外パッケージのアップグレードを続行する前に規定パッケージを作成して、そのパッケージをターゲット データベースに移動する必要があります。

Element リスト

このグループ ボックスには、ソース データベースとターゲット データベースの比較の結果が表示されます。比較処理でエラーが発生した場合は、アップグレード処理を続行する前にそれらのエラーを修正します。

ソース PIN (ソース支給アイテム名番号)

ソース データベースでのElementの PIN 番号 (50000000 の付加なし) が表示されます。

Element 名

ソース データベースでのElement名が表示されます。

PIN コード (支給アイテム名コード)

Elementの PIN コードが表示されます。

Element タイプ

Elementのタイプが表示されます。

エレメント所有者	エレメントの作成者と管理者が表示されます。有効値は、[ユーザー]、[修正済]、[PS 管理]、[PS 非管理]、[PS 保護] です。
結果	<p>比較処理の結果が表示されます。</p> <p>[未実行]: 比較処理が実行されていません。</p> <p>[正常終了]: 比較処理でエラーが発生しませんでした。</p> <p>[異常終了]: 比較処理が異常終了しました。[理由] フィールドに理由が表示されます。</p>
理由	<p>比較処理が異常終了すると、以下のいずれかの値が表示されます。</p> <p>[エレメント無]: 規定外パッケージのアップグレード処理を続行する前に、ターゲット データベースに存在しなかったエレメントを含めた規定パッケージを新しく作成し、このパッケージをターゲット データベースに移動してください。</p> <p>[タイプ不整]: エレメント タイプが一致しません。通常、このエラーは、同じ PIN コードで異なるタイプのエレメントを作成している場合に発生します。エレメント名を変更し、このエレメントを含む新しい規定パッケージを作成してください。</p>
ターゲット PIN (ターゲット支給アイテム名)	ターゲット データベースでのエレメントの PIN 番号 (50000000 の付加なし) が表示されます。
比較	<p>このボタンをクリックすると、比較処理が開始されます。比較処理が完了すると、エレメントごとに一致するエレメントが見つかったかどうか [エレメント リスト] グループ ボックスに表示されます。</p> <p>エラーが検出されない場合は、比較処理が正常に終了したことを通知するメッセージが表示されます。この時点で、規定外レコードをソース データベースからインポートする準備が完了します。</p>

規定外レコードのインポート

規定外レコードのインポート - パッケージ レコード ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外レコードのインポート]、[パッケージ レコード])。

パッケージ定義

パッケージ レコード

パッケージ エlement

スクリプトの表示

パッケージ ID:

AR813007

[パッケージ ステータス](#)

名称:

GP 9.1 2010-A(GP Argentina)

*スクリプト ロケーション:

スクリプト ロケーションの例: C:*folder*

エクスポート スクリプト

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/4 | 最後

レポート:

GPARG_ELEM_MAP_D

Element Mapping Detail

Where 句:

where COUNTRY='ARG' and GPAR_KEY_NAME='GP_PIN' and GPAR_KEY_TYPE='R' and GPAR_MAP_TYPE='F'

パッケージのインポート

[プロセス モニター](#)

規定外レコードのインポート - パッケージ レコード ページ

比較処理の結果を確認し、ターゲット データベースに存在しなかったエレメントをターゲット データベースに移動したら、ターゲット データベースに規定外レコードをインポートできます。

[レコード インポート] ボタンをクリックすると、レコードのインポートが開始されます。

規定外パッケージのアップグレード

規定外パッケージのアップグレード - パッケージ レコード ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外パッケージのアップグレード]、[パッケージ レコード])。

パッケージ定義

パッケージ レコード

パッケージ ID:

AU25318

[パッケージ ステータス](#)

名称:

AUS Non-Rules -Update ID 25318

エクスポート スクリプト

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/3 | 最後

レコード:

GP_RTO_OVR_DEFN

*WHERE 句オプション:

デフォルトの WHERE 句を使用

Where 句:

where COUNTRY='AUS' and RTO_PROG_ID='AU RETRO'

アップグレード

[規定外パッケージ アップグレード] - [パッケージ レコード]

最後の手順として、規定外パッケージ アップグレード コンポーネントを使用して、インポートした規定外データの要素に対して、ターゲット データベース内で一致する要素と同じ PIN 番号になるように番号を付け直します。

アップグレード

このボタンをクリックすると、アップグレード処理が開始されます。処理が完了するとメッセージが表示されます。

ソース データベースからレコードと要素をインポートし直さない限り、同じパッケージを再度比較またはアップグレードすることはできません。

規定外パッケージのスクリプトの表示

スクリプトの表示ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[要素]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外要素のインポート]、[スクリプトの表示])。

パッケージ定義		パッケージレコード		パッケージエレメント		スクリプトの表示	
パッケージ ID:	SETUP4	パッケージ ステータス					
名称:	Set up 4 Data						
*スクリプト ロケーション:	C:\DMS\						
スクリプト ロケーションの例: C:\folder\							
パッケージ スクリプト表示:	<div>▼</div>						
SQL ステートメント テキスト:	<div></div>						
<div>インポート</div> <div>プロセス モニター</div>							

スクリプトの表示ページ

スクリプト ロケーション

スクリプトの場所が表示されます。この場所には、インポート データベースとエクスポート データベースのインポートおよびエクスポート NT プロセス スケジューラの双方からアクセスできる必要があります。スクリプトの場所をプロセス スケジューラの設定ファイル (psprcs.cfq) に指定してください。

注意: スクリプトの場所をプロセス スケジューラの設定ファイルに指定する方法については、「**UNIX ディレクトリと NT ディレクトリの関連付け**」セクションで説明しています。

参照: [第 37 章、「ユーティリティの使い方」、UNIX ディレクトリと NT ディレクトリの関連付け、1402 ページ。](#)

注意: インストール設定ページで、全てのパッケージ スクリプトに対しデフォルトのスクリプト ロケーションを定義できます。

参照: 第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、グローバル ペイロールのインストール設定の定義、42 ページ。

パッケージ スクリプト表示

表示するスクリプトのタイプとして、エクスポート スクリプトまたはインポート スクリプトを選択します。データ ムーバーのスクリプトが下のフィールドに表示されます。

パッケージ ステータスの表示

パッケージ ステータス ページにアクセスします (規定外パッケージのインポート、規定外パッケージ比較、および規定外パッケージ アップグレードの各コンポーネントのすべてのページにある [パッケージ ステータス] リンクをクリックします)。

規定外パッケージ比較
パッケージ ステータス

パッケージ ID:	AU25318	AUS Non-Rules -Update ID 25318
作成済:		比較済: 2003/05/05 08:51:07
エクスポート済:		インポート NR: 2003/05/05 08:51:18
エクスポート NR:		アップグレード済: 2003/05/05 08:51:49
インポート済:	2003/05/05 08:50:33	

戻る

パッケージ ステータス ページ

パッケージが作成、エクスポート、インポート、比較、アップグレードされたそれぞれの日時が表示されます。

パッケージのコピー

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 規定パッケージとその選択条件のコピー
- 規定外パッケージとその選択条件のコピー

注意: パッケージのみをコピーしても、パッケージをエクスポートする準備は整いません。規定パッケージ作成処理または規定外パッケージ作成処理も実行して、全てのエレメントをパッケージに割り当てる必要があります。

パッケージのコピーに使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
規定パッケージ コピー	GP_PKG_COPY	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定パッケージ コピー]、[規定パッケージ コピー]	既存の規定パッケージとその選択条件をコピーします。この処理では、エレメント情報はコピーされません。
規定外パッケージ	GP_NR_PKG_COPY	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外パッケージ コピー]、[規定外パッケージ]	既存の規定外パッケージとその選択条件をコピーします。この処理では、エレメント情報はコピーされません。

規定パッケージとその選択条件のコピー

規定パッケージ コピー ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定パッケージ コピー]、[規定パッケージ コピー])。

規定パッケージ コピー

パッケージ ID: GMX88RUE Global Payroll MEX Trans 8.80
***上位先パッケージ ID:**
***名称:**

規定パッケージ コピー

コピー先パッケージ ID	新しいパッケージ ID を半角英数字 (最大 8 文字) で入力します。
パッケージ定義のコピー	このボタンをクリックすると、パッケージのコピーが開始されます。

規定外パッケージとその選択条件のコピー

規定外パッケージ コピー ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[規定外パッケージ コピー]、[規定外パッケージ コピー])。

詳細については、規定パッケージ コピー ページのフィールドの説明を参照してください。

関連項目:

第 37 章、「ユーティリティの使い方」、規定パッケージとその選択条件のコピー、1500 ページ

バージョン番号の割り当てとバージョン別パッケージ作成

このセクションでは、エレメントへのバージョン番号の割り当て (スタンプ処理) とバージョン別パッケージ作成の概要と、以下の作業を行う方法について説明します。

- エレメントに対する新規バージョン番号の割り当て
- バージョン関係の定義
- パッケージに含めるエレメントの指定
- バージョン詳細の表示

バージョン番号の割り当てとバージョン別パッケージ作成の方法について

各リリースまたは更新で配布されるエレメントをバージョン番号によって管理することができます。また、エレメントをバージョン別にパッケージ化することも可能です。たとえば、グローバル ペイロール 8.9 で配布されるエレメントには 8.90.00 というラベルが付きます。一般的に、主要リリース、更新、修正パッチでは、既に配布されたルール of the 全てまたは一部について新規バージョンが必要になります。

エレメントを別のデータベースに移動できるように、複数のエレメントにバージョン番号 (ラベル) を割り当て、バージョン管理ユーティリティを使用してエレメントのパッケージをバージョン別に作成します。

バージョン別にエレメントのパッケージを作成すると、指定したバージョンに関連する行だけが抽出されます。エレメントのパッケージを作成したら、このパッケージをデータベース間で移動できるようになります。移動する手順は規定パッケージを移動する場合と同じです。エレメントをエクスポートし、このエレメントをデータベース内の既存のエレメントと比較し、アップグレードを完了するという手順になります。

バージョン別のパッケージを作成するには、次の手順に従います。

1. バージョン スタンプ コンポーネント (GP_STAMPING) を使用して、パッケージ化するエレメントに適切なバージョン番号を割り当てます。
2. "規定パッケージの作成/エクスポート" コンポーネントの、バージョン別条件の定義ページを使用して、手順 1 で指定したエレメントをパッケージ化するための選択条件を定義します。
3. この章で既に説明した規定パッケージの作成とエクスポートの手順を実行します。

参照: 第 37 章、「ユーティリティの使い方」、規定パッケージの作成とエクスポート、 1415 ページ。

4. この章で既に説明した規定パッケージのインポート、比較、およびアップグレードの手順を実行します。

参照: 第 37 章、「ユーティリティの使い方」、規定パッケージのインポート、比較、およびアップグレード、 1440 ページ。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

バージョン番号の割り当てとバージョン別パッケージ作成に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
バージョン スタンプ	GP_STAMPING	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[バージョン スタンプ]、[バージョン スタンプ]	エレメントに対する新しいバージョン番号を指定し、スタンプ処理を開始します。
バージョン関係定義	GP_VER_RULE_DFN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[バージョン関係定義]、[バージョン関係定義]	エレメント定義レコード間のバージョン関係を表示します。ルール定義レコードとそれに対応する子レコードが表示されます。

エレメントに対する新規バージョン番号の割り当て

バージョン スタンプ ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[バージョン スタンプ]、[バージョン スタンプ])。

バージョン スタンプ

*使用先:

*国: フランス

スタンプ タイプ

☐ バージョンなし

☐ 既存バージョン

☒ バージョンなしと既存バージョン

*既存バージョン:

*新規バージョン:

GP レコードにスタンプ

バージョン スタンプ ページ

このページを使用して、追加または修正したエレメントに**バージョンを割り当て**たり、エレメントの既存バージョンを変更します。

使用先

全ての国または特定の国でのみ有効なエレメントに対して、バージョンを割り当てることができます。[全ての国] を選択した場合、[国] フィールドはデフォルトで [All] に設定されます。[特定の国] を選択した場合は、[国] フィールドに国コードを指定します。

スタンプ タイプ

バージョンを割り当てるエレメントを指定します。

[バージョンなし]: 既存のバージョンがないエレメントです。

[既存バージョン]: [既存バージョン] フィールドで指定したバージョンのエレメントです。

[バージョンなしと既存バージョン]: 現在バージョンが設定されていないエレメントと、[既存バージョン] フィールドで指定したバージョンに関連付けられているエレメントです。

既存バージョン

スタンプ タイプとして、[既存バージョン] または [バージョンなしと既存バージョン] を選択すると入力可能になります。既存のバージョンを選択します。選択したバージョンに関連付けられている全てのエレメントが検索されます。

新規バージョン

新バージョン名を半角英数字最大 16 文字で入力します。ユーザーインストールの場合は、プレフィックス (接頭辞) "C_" がバージョン名に自動的に追加されます。PeopleSoft システム配布のパッケージには、"P_" から始まるバージョン番号が付いています。エレメント名ページのユーザー バージョン機能を使用すると、プレフィックス "INT_" がバージョン番号に追加されます。エレメント名ページについては、この PeopleBook の別の章に説明されています。

参照: 第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、97 ページ。

GP レコードにスタンプ

このボタンをクリックするとスタンプ処理が開始されます。既存のバージョンがある場合は、そのバージョンがクリアされてから、選択したエレメントに新バージョンが割り当てられます。






注意: バージョン管理は、エレメント定義レコード (PIN_NUM を主キーに持つレコード) でのみ行われます。

バージョン関係の定義

バージョン関係定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロール パッケージの管理]、[バージョン関係の定義]、[バージョン関係の定義])。

バージョン関係定義

ルール定義レコード: GP_ACCUMULATOR

子レコード						カスサイズ 検索 全件表示   最初 1-3/3 最後	
子レコード	レコード名称	エクスポート レコード	バッファのルール レコード	PIN 番号フィールド			
<input type="text" value="GP_ACCUMULATOR"/> 	GP Accumulator Definition	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PIN_NUM	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>	
<input type="text" value="GP_ACM_MBR"/> 	GP 累計メンバー	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PIN_NUM	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>	
<input type="text" value="GP_ACM_MBR_VW"/> 	View of Accumulator Member rec	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="text" value="PIN_MBR_NUM"/>	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>	

バージョン関係定義ページ

ルール定義レコード

フィールド GP_VERSION を持つ親レコードの名前が表示されます。

子レコード

ここに表示された子レコードのデータが変更されると、親レコードの該当する行から GP_VERSION が削除されます。(子レコードがない場合、ここには親レコードの名前が表示されます。)

エクスポート レコード

この子レコードをエクスポートおよびインポートするパッケージに入れる場合にオンにします。

たとえば、累計エレメントが変更された場合、GP_ACCUMULATOR と GP_ACM_MBR のデータのみ移動すれば済みます。子レコード GP_ACM_MBR_VW は、支給コンポーネントや控除コンポーネントで累計と支給や控除とを関連付けるためだけに使用されるため、エクスポートおよびインポートの必要がありません。

バッファのルール レコード

累計のみに適用されます。

GP_VERSION を持つレコードがコンポーネント バッファにある場合にオンにします。たとえば、支給累計が変更されたために GP_VERSION をクリアする必要がある場合などです。レコード GP_ACCUMULATOR はコンポーネント バッファにはありません。コンポーネント バッファの RECNAME_RULE_DFN でレコードを検索せずに、SQLEXEC を実行するように指定する場合に、このチェック ボックスをオンにします。支給コンポーネントにある子レコードは GP_ACM_MBR_VW です。

PIN 番号フィールド

GP_VERSION をクリアする必要があるレコードの PIN_NUM フィールドの名前が表示されます。前述の例では、支給累計 PIN_NUM は、PIN_MBR_NUM として支給コンポーネント バッファに含まれ、PIN_NUM そのものには支給 PIN が含まれていません。そのため、GP_ACCUMULATOR のデータを更新する場合、支給コンポーネントでは、PIN_NUM 値ではなく PIN_MBR_NUM 値のデータを更新する必要があります。

第 38 章

セキュリティの定義

この章では、セキュリティの概要と以下の項目について説明します。

- ユーザー アクセスの制限方法
- エlement セキュリティ
- 受給者セキュリティ

セキュリティについて

セキュリティとは、特定のデータや受給者をユーザーが参照または更新することを制限する機能です。

グローバル ペイロールには、2 つのレベルのセキュリティがあります。

- エlement レベル セキュリティ

ユーザーが参照、更新できるエlementを制限します。ユーザー ルール プロファイル ページ およびエlement名ページの [使用先]、[所有者]、[上書きレベル] での設定がその基準になります。

- 受給者レベル セキュリティ

ユーザーが表示できる受給者を制限します。PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理にある標準の HR セキュリティがその基準になります。

注意: グローバル ペイロールでは、PeopleSoft Enterprise 勤務管理のグループ セキュリティ機能も使用できます。

エレメント使用先セキュリティ

各ユーザーにユーザー プロファイルを設定して、国固有のエレメント情報にのみアクセスできるようにします。たとえば、フランスでのみ業務を行う組織にとって、イギリス固有のエレメント情報は必要ありません。**エレメント使用先セキュリティ**によって、ユーザーに関係のある情報のみがプロンプト テーブルと検索ページに表示されるようになります。

所有者セキュリティ

所有者セキュリティでは、エレメントの所有者および管理者が PeopleSoft またはユーザーのどちらであるかが参照されます。PeopleSoft によってのみ修正できる特定のエレメントと、ユーザーが修正可能なその他のエレメントがあります。

エレメント名ページの [所有者] フィールドで、エレメントの所有者を指定します。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

上書きレベル

エレメントの上書きレベルは、エレメント タイプによって異なります。通常の上書きレベルには、[支給元]、[支給グループ]、[受給者]、[カレンダー]、[エレメント使用]、[エレメント定義] および [ポジティブ入力] があります。エレメント名ページでチェック ボックスを使用して、上書きレベルを選択します。これらのチェック ボックスで、そのエレメントが上書き処理により更新されるのか、別のエレメントによって更新されるのかを指定します。

エレメント使用セキュリティ (エレメントによる更新のセキュリティ) では、どのエレメントがどのエレメントにより更新できるのかを管理します。このアプリケーションの以下の 4 つのコンポーネントでは、エレメントを別のエレメントによって更新できます。

- [アレイ] (フィールド マップ/キー ページの [取得フィールドと変数エレメントのマッピング] グループ ボックスを使用)
- ブラケット (検索キー/戻り列ページの [戻り列] グループ ボックスを使用)
- [日付] (抽出ページの [定義] グループ ボックスを使用)
- フォーミュラ (フィールド ベース定義ページの [フィールド ベース領域] を使用)

システムによってユーザー ルール プロファイルとエレメント使用先セキュリティが確認され、アクセスが可能なエレメントだけが別のエレメントによって更新できるようになります。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

この章で使用する共通の用語

編集プロンプト	指定されたフィールドのオンラインの検索画面に使用されるレコードまたはビュー。
クエリー セキュリティ レコード	PeopleSoft クエリーで使用されるレコードまたはビュー。
検索レコード、 検索ビュー	コンポーネントへのアクセス時に使用されるレコードまたはビュー。

ユーザー アクセスの制限

ユーザーが、全ての国に対して定義されたエレメント、または特定の国に対して定義されたエレメントのどちらにアクセスできるのか、PeopleSoft によって配布および管理されるエレメントを管理できるかどうかを制御できます。

このセクションでは、国固有のエレメントへのアクセス制限の概要と、ユーザー アクセス用のエレメントを定義する方法について説明します。

各国固有のエレメントへのアクセスの制限方法について

エレメントを作成する場合、そのエレメントを全ての国で使用するか、または特定の国で使用するかをエレメント名ページの [使用先] フィールドで指定します。エレメントは、下位のレベルで定義されたエレメントを使用することはできません。たとえば、[全ての国] と定義されたデューレーション エレメントは、単一の国 (フランスなど) に定義された変数を使用できません。使用できるのは、[全ての国] と定義されたエレメントに限られます。ただし、フランスに定義されたデューレーションは、フランスに定義された変数だけでなく、[全ての国] と定義された変数も使用できます。

ユーザー ルール プロファイル ページでは、エレメントを追加する際に [使用先] フィールドおよび [国] フィールドに表示されるデフォルト値を定義します。

次の表は、ユーザー ルール プロファイル ページでの設定がエレメント名ページの [使用先] フィールドと [国] フィールドにどのように影響するかを一覧にしたものです。

ユーザー ルール プロファイル ページ	エレメント名ページ
[使用先] = [全ての国]	[使用先] = [全ての国] がデフォルトです。 [国] フィールドのデフォルト値は [全て] です。
[使用先] = [特定の国]	[使用先] = [特定の国] は変更できません。 [国] フィールドのデフォルトは特定の国になり、変更できません。

警告: [全ての国] と定義されたエレメントを保存した後に [使用先] フィールドを変更する場合は、その影響を十分に検討してください。エレメントが給与計算処理に使用されていると、問題が発生する可能性があります。

注意: グローバル ペイロールのユーザー ルール プロファイルは、ヒューマン リソース管理のものとは別です。

ユーザー アクセスの制限に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
ユーザー ルール プロファイル	GP_OPR_RULE_PRF	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[グループ別ユーザー メンテナンス]、[グローバル ペイロール ユーザー プロファイル]、[ユーザー ルール プロファイル]	全ての国または特定の国に対して定義されたエレメントへのアクセス権を管理します。また、ユーザーが PeopleSoft 配布/管理のエレメントを管理できるかどうかを定義します。 このページを使用する前に、PeopleTools でユーザー ID を作成します。

ユーザー アクセス用エレメントの定義

ユーザー ルール プロファイル ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[グループ別ユーザー メンテナンス]、[グローバル ペイロール ユーザー プロファイル]、[ユーザー ルール プロファイル])。

ユーザー ルール プロファイル ページ

ここで入力される情報が全ての検索ビューで参照され、表示されるエレメントが決定します。

セッション デフォルト

使用先

このユーザー ID を持つユーザーがアクセス可能なエレメントを指定します。値は以下のとおりです。

[全ての国]: 全ての国に対して定義されるエレメント

[特定の国]: [国] フィールドで選択する国にのみ定義されるエレメント

注意: ルールと国は、エレメント名共通ページでエレメントを定義する際に関連付けます。

PS エlement変更可

このチェック ボックスをオンにすると、ユーザーは PeopleSoft 配布/管理のエレメントを管理できます。この "エレメントの管理" とは、エレメントの定義を編集し、エレメント所有者を "PS 配布/ユーザーにより修正" に変更することを意味します。エレメントが一度ユーザーの管理下に置かれると、その後、そのエレメントを "PS 配布/管理" に戻すことはできなくなります。

関連項目:

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義、 97 ページ

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration

エレメント セキュリティ

このセクションでは、コンポーネントのエレメント選択を制御するセキュリティについて説明します。

以下の表は、メニューとコンポーネント別のエレメント セキュリティを一覧にしたものです。次のページ ショットは、一覧で言及されている検索画面のサンプルです。

エレメント グループ*

値を入力して [検索] をクリックしてください。フィルトを空白にすると、全ての値が表示されます。

既存の値の検索(F)

値の追加(A)

検索結果表示数 (最大値は 300):

エレメント名:


先頭 =

名称:

先頭 =


国:

先頭 =



エレメント グループ*の用途:

=



☐ 履歴を含む


☐ 履歴の修正

☐ 大文字/小文字を区別

検索

クリア

[基本検索](#)

 [検索条件の保存](#)

検索画面

[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、全てのエレメント定義コンポーネント

検索画面のセキュリティ	コンポーネント内からエレメント選択を制御するセキュリティ
<p>[追加] モード: 新規エレメントを追加するときは、そのエレメントの情報がないためセキュリティはありません。</p> <p>[追加] モード以外:</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] で [全ての国] が指定されている場合、[使用先] = [全て]、</p> <p>または</p> <p>[使用先] = [特定] のエレメントが表示されます。</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] で [特定の国] が指定されている場合、[使用先] = [全て]、</p> <p>または</p> <p>[使用先] = [特定] のエレメントが表示されます。</p> <p>[国] は、ユーザー ルール プロファイル ページの [国] と一致している必要があります。</p>	<p>エレメント使用先セキュリティ:</p> <p>[使用先] = [全ての国] の場合、使用可能なエレメントは [使用先] = [全ての国]</p> <p>[使用先] = [特定の国] の場合、使用可能なエレメントは [使用先] = [全ての国]</p> <p>または</p> <p>[使用先] = [特定の国]([国] フィールドの値は使用先の国に一致)</p> <p>エレメント による更新のセキュリティ:</p> <p>以下のエレメントについては、エレメント名共通ページの [上書きレベル] グループ ボックスの [エレメント使用] チェック ボックスをオンにして、エレメント セキュリティを更新できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - フォーミュラ定義 / [エレメント名] (割当先) フィールド - 日付定義 / 日付抽出フィールド - ブラケット定義/戻り列フィールド - アレイ定義/取得フィールド <p>注意: [ユーザー ルール プロファイル] = [特定の国] の場合、それらエレメントの [使用先] フィールドを変更することはできません。</p>

[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレームワーク]、[組織]、有資格グループ コンポーネント

検索画面のセキュリティ	コンポーネント内からエレメント選択を制御するセキュリティ
セキュリティ管理はコンポーネント内で行われます。	<p>エレメント使用先セキュリティ (検索結果リストに表示されるエレメント グループ):</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] = [全ての国] の場合、セキュリティはありません。</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] で [特定の国] が指定されている場合、[使用先] = [全て]、または</p> <p>[使用先] = [特定] のエレメントが表示されます (エレメント名共通ページで指定した国がユーザー ルール プロファイル ページで指定した国と一致している必要があります)。</p>

[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレームワーク]、[組織]、支給元コンポーネント

検索画面のセキュリティ	コンポーネント内からエレメント選択を制御するセキュリティ
<p>[追加] モード: 新規の支給元を追加するときは、その支給元の情報がないためセキュリティはありません。</p> <p>[追加] モード以外:</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] = [全ての国] の場合、セキュリティはありません。</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] = [特定の国] の場合、支給元の国はユーザー ルール プロファイルで指定された国になります。</p>	<p>[サポート エレメント上書き] - エレメント使用先は支給元の国が基準:</p> <p>[サポート エレメント上書き] に値を入力する前に、支給元の国を入力する必要があります。</p> <p>[使用先] = [全ての国]</p> <p>または</p> <p>[使用先] = [特定の国] のエレメント (エレメント名共通ページで指定した国が支給元ページの国と一致)</p> <p>エレメント名共通ページの [上書きレベル] グループ ボックスの [支給元] チェック ボックス= オン。</p>

[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレームワーク]、[組織]、支給グループ コンポーネント

検索画面のセキュリティ	コンポーネント内からエレメント選択を制御するセキュリティ
<p>[追加] モード: 新規の支給グループを追加するときは、その支給グループの情報がないためセキュリティはありません。</p> <p>[追加] モード以外:</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] = [全ての国] の場合、セキュリティはありません。[ユーザー ルール プロファイル] = [特定の国] の場合、支給元の国はユーザー ルール プロファイルで指定された国になります。</p>	<p>端数処理/比例配分エレメント - エレメントの使用先は支給元の国が基準:</p> <p>[使用先] = [全ての国]</p> <p>または</p> <p>[使用先] = [特定の国]([国] は支給元の国と一致)。</p> <p>[サポート エレメント上書き] - エレメント使用先は支給元の国が基準:</p> <p>[使用先] = [全ての国]</p> <p>または</p> <p>[使用先] = [特定の国]([国] は支給元の国と一致)。</p> <p>エレメント名共通ページの [上書きレベル] グループ ボックスの [支給グループ] チェック ボックス = オン。</p>

[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレームワーク]、[プロセス]、実行タイプ コンポーネント

検索画面のセキュリティ	コンポーネント内からエレメント選択を制御するセキュリティ
<p>セキュリティ管理はコンポーネント内で行われます。</p>	<p>エレメント使用先 (検索結果リストに表示されるプロセス リスト):</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] = [全ての国] の場合、セキュリティはありません。</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] で [特定の国] が指定されている場合、[使用先] = [全て]、</p> <p>または</p> <p>[使用先] = [特定の国]([国] は [ユーザー ルール プロファイル] で指定した国と一致)。</p> <p>実行タイプ ページには、変動報酬の報奨の支給について入力を可能にするグループ ボックスが含まれています。このグループ ボックスでは、プロセス リストの国によってエレメント選択が制御されます。表示されるエレメントは、[使用先] = [全ての国] または [国] がプロセス リスト エレメントの [国] と同じエレメントです。</p>

[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレームワーク]、[カレンダー]、カレンダー コンポーネント

検索画面のセキュリティ	コンポーネント内からエレメント選択を制御するセキュリティ
<p>全てのモード ([支給グループ] フィールドに関して):</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] = [全ての国] の場合、セキュリティはありません。</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] = [特定の国] の場合、支給グループに関連付けられた支給元の国が [ユーザー ルール プロファイル] の国に一致している必要があります。</p>	<p>[サポート エレメント上書き] と [除外エレメント] - エレメントの使用先は支給元の国が基準:</p> <p>[使用先] = [全ての国]</p> <p>または</p> <p>[使用先] = [特定の国]([国] は支給元の国と一致)。</p> <p>[カレンダー] チェック ボックスをオンにする必要があります。</p>

[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレームワーク]、[カレンダー]、カレンダー グループ コンポーネント

検索画面のセキュリティ	コンポーネント内からのデータ選択を制御するセキュリティ
<p>[追加] モード: 新規のカレンダー グループを追加するときは、そのカレンダー グループの情報がないためセキュリティはありません。</p> <p>[追加] モード以外:</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] = [全ての国] の場合、 セキュリティなし</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] = [特定の国] の場合、 カレンダー グループ ID の国は、[ユーザー ルール プロファイル] で指定された国と一致する必要があります。</p>	<p>[国] - 有効な国は、ユーザー ルール プロファイルの国が基準:</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] = [全ての国] の場合、セキュリティはありません。</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] = [特定の国] の場合、カレンダー グループ ID の国には、[ユーザー ルール プロファイル] で指定した国がデフォルトとして表示されます。変更はできません。</p> <p>[支給グループ]、[カレンダー ID] - カレンダーグループ ID の国が基準:</p> <p>[支給グループ]、[カレンダー ID] に値を入力する前にカレンダー グループ ID の国を入力する必要があります。</p> <p>支給グループの国 (支給グループに関連付けられた支給元の国) は、カレンダー グループ ID の国と一致している必要があります。</p> <p>カレンダー ID の国 (カレンダーの支給グループと関連付けられた支給元の国) は、カレンダー グループ ID の国と一致している必要があります。</p>

[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、遡及プロセス定義コンポーネント

検索画面のセキュリティ	コンポーネント内からエレメント選択を制御するセキュリティ
<p>全てのモード:</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] = [全ての国] の場合、 セキュリティなし</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] = [特定の国] の場合、 [国] = [ユーザー ルール プロファイル] で指定した国</p>	<p>検索画面のセキュリティで制御されます。</p>

**[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、
"遡及プロセス上書き" コンポーネント**

検索画面のセキュリティ	コンポーネント内からエレメント選択を制御するセキュリティ
<p>全てのモード:</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] = [全ての国] の場合、</p> <p>セキュリティなし</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] = [特定の国] の場合、</p> <p>[国] = [ユーザー ルール プロファイル] で指定した国</p>	<p>[フォーミュラ エレメント]、[エレメント名]、[繰越先エレメント] - エレメントの使用先は遡及プロセス定義の国が基準:</p> <p>[使用先] = [全ての国]</p> <p>または</p> <p>[使用先] = [特定の国]([国] は遡及プロセス定義の国と一致)。</p>

**[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、
"遡及イベント定義" コンポーネント**

検索画面のセキュリティ	コンポーネント内からエレメント選択を制御するセキュリティ
<p>[国] のセキュリティ (検索結果リストに表示される国):</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] = [全ての国] の場合、</p> <p>ユーザーは、グローバル ペイロールのどの国の操作も可能。</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] = [特定の国] の場合、</p> <p>有効な値は、[ユーザー ルール プロファイル] で指定した国と一致する国のみ。この値はデフォルトで設定され、フィールドは変更不可。</p>	<p>イベント プロセス定義の遡及プロセス定義のセキュリティ (検索結果リストに表示される遡及プロセス定義): 遡及プロセス定義の国は、選択した国と一致している必要があります。</p>

**[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、
分割イベント定義コンポーネント**

検索画面のセキュリティ	コンポーネント内からエレメント選択を制御するセキュリティ
<p>[国] のセキュリティ (検索結果リストに表示される国):</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] = [全ての国] の場合、</p> <p>ユーザーは、グローバル ペイロールのどの国の操作も可能。</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] = [特定の国] の場合、</p> <p>有効な値は、[ユーザー ルール プロファイル] で指定した国と一致する国のみ。この値はデフォルトで設定され、フィールドは変更不可。</p>	<p>エレメント使用先はイベントの国が基準:</p> <p>[使用先] = [全ての国]</p> <p>または</p> <p>[使用先] = [特定の国]([国] はイベントの 国と一致)。</p>

[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、[トリガ定義]

検索画面のセキュリティ	コンポーネント内からエレメント選択を制御するセキュリティ
<p>[国] のセキュリティ (検索結果リストに表示される国):</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] = [全ての国] の場合、</p> <p>ユーザーは、グローバル ペイロールのどの国の操作も可能。</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] = [特定の国] の場合、</p> <p>有効な値は、[ユーザー ルール プロファイル] で指定した国と一致する国のみ。この値はデフォルトで設定され、フィールドは変更不可。</p>	<p>[トリガ イベント ID] フィールドには、選択された国に有効なトリガ イベント ID のみが表示されます。さらに、トリガ タイプが [分割] でレコード = GP_PYE_OVRD の場合は、ユーザーが "トリガ定義" のフィールド値ページでエレメントを選択する必要があります。選択可能なエレメントは、[使用先] = [全ての国] または [使用先] = トリガ定義の国です。</p>

[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[インテグレーション]、[チャートフィールド]

検索画面のセキュリティ	コンポーネント内からエレメント選択を制御するセキュリティ
<p>全てのモード:</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] = [全ての国] の場合、</p> <p>セキュリティなし</p> <p>[ユーザー ルール プロファイル] = [特定の国] の場合、</p> <p>支給元の国 = [ユーザー ルール プロファイル] で指定された国。</p>	<p>[チャート フィールド] - エレメントの使用先は支給元の国が基準:</p> <p>[使用先] = [全ての国]</p> <p>または</p> <p>[使用先] = [特定の国] ([国] は支給元の国と一致)。</p>

[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[エレメント名表示]、[エレメント名]

エレメント名表示コンポーネントのセキュリティは、ユーザー ルール プロファイルが基準になります。ユーザーが [全ての国] にアクセス可能な場合は、全ての国のエレメントを表示できます。ユーザーが特定の国にのみアクセスできる場合は、その国のエレメントのみまたは [全ての国] と定義されたエレメントを表示できます。

[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[ソース別システム エレメント表示]

ソース別システム エレメント表示コンポーネントには、システム エレメントのみが表示されます。これらのエレメントは常に [全ての国] と定義されているため、どのユーザーでも表示することができます。

受給者セキュリティ

このセクションでは、ヒューマン リソース管理とグループによる受給者セキュリティについて説明します。

受給者の給与計算データには支給関連情報が含まれることが多いため、機密情報となります。グローバル ペイロールには、ユーザーが照会できる受給者を制限する、受給者レベル セキュリティが用意されています。

HR セキュリティ

グローバル ペイロールには、ヒューマン リソース管理の標準セキュリティ機能が用意されています。受給者レベルのセキュリティは、EMPLID フィールドを含む全てのコンポーネント、検索レコードまたはビュー、そしてプロンプト レコードとビューのほか、全てのグローバル ペイロールのレポートに適用されます。入力時に従業員 ID を一緒に指定したコンポーネントには、全て受給者レベル セキュリティが適用されます。

セキュリティ ツリーは、ユーザーが照会またはレポートできる受給者を制限するのに使用されます。

次の表は、メニュー別およびコンポーネント別の受給者レベル セキュリティを一覧にしたものです。

[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[支給と控除の割当]、[受給者別エレメント割当]

検索画面のセキュリティ	コンポーネント内からエレメント選択を制御するセキュリティ
<p>受給者レベル セキュリティが適用されます。</p>	<p>エレメントの使用先は受給者の国 (支給グループに関連付けられた支給元により決定) が基準:</p> <p>受給者の国を決定するために、職務レコードから受給者の支給グループが取得されます。次に、支給グループの支給元が取得され、国が参照されます。職務行が見つからない場合は、ログイン済みのユーザーに関連付けられた国が使用されます。この国は、そのユーザーのユーザー ルール プロファイル データから取得されます。</p> <p>[使用先] = [全ての国]</p> <p>または</p> <p>[使用先] = [特定の国]([国] は、受給者の 国と一致)。</p> <p>受給者別エレメント割当コンポーネントを使用すると、最初にカテゴリを入力して検索対象を特定のカテゴリに一致するエレメントに絞り込むことができます。表示されるカテゴリは、受給者の国に有効なカテゴリになります。</p> <p>さらに、表示されるエレメントではエレメント名共通ページで受給者の上書きが選択されている必要があります。</p> <p>[サポート エレメント上書き] - エレメントの使用先は受給者の国が基準:</p> <p>エレメントの国 = [全ての国] の場合、</p> <p>[使用先] = [全ての国]</p> <p>エレメントの国 = [特定の国] の場合、</p> <p>[使用先] = [特定の国]([国] は、受給者の 国と一致)。</p>

[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[受給者レベル上書き]、[サポート エレメント]

検索画面のセキュリティ	コンポーネント内からエレメント選択を制御するセキュリティ
受給者レベル セキュリティが適用されます。	<p>エレメントの使用先は支給グループに関連付けられた支給元の受給者の国が基準:</p> <p>受給者の国を決定するために、まず職務レコードから受給者の支給グループが取得されます。次に、この支給グループに関連付けられた支給元が取得され、その国が参照されます。職務行が見つからない場合は、ログインしているユーザーに関連付けられた国が使用されます。この国は、そのユーザーのユーザー ルール プロファイル データから取得されます。</p> <p>[使用先] = [全ての国]</p> <p>または</p> <p>[使用先] = [特定の国] (国は受給者の国に一致)。 また、エレメント名共通ページで受給者の上書きが選択されている必要もあります。</p>

[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、
[ポジティブ入力]

検索画面のセキュリティ	コンポーネント内からエレメント選択を制御するセキュリティ
<p>受給者レベル セキュリティが適用されます。</p>	<p>エレメントの使用先は支給グループに関連付けられた支給元の国が基準:</p> <p>[使用先] = [全ての国]</p> <p>または</p> <p>[使用先] = [特定の国]([国] は支給元の国と一致)。</p> <p>また、エレメント名共通ページでポジティブ入力の上書きが選択されている必要もあります。</p> <p>[サポート エレメント上書き] - エレメント使用先は支給元の国が基準:</p> <p>エレメントの国 = [全ての国] の場合、</p> <p>[使用先] = [全ての国]</p> <p>エレメントの国 = [特定の国] の場合、</p> <p>[使用先] = [全ての国]</p> <p>または</p> <p>[使用先] = [特定の国] ([国] は支給元の国と一致)。</p> <p>また、エレメント名共通ページでポジティブ入力の上書きが選択されている必要もあります。</p>

グループ セキュリティ

グループ セキュリティは勤務管理のセキュリティ機能ですが、アプリケーションを統合すれば グローバル ペイロールでも使用できます。グループ セキュリティによって、従業員レコードやグローバル ペイロール レポートへのアクセスを制限することができます。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration

第 39 章

PeopleSoft Enterprise 一般会計との統合

この章では、一般会計インターフェイスの概要と、以下の方法について説明します。

- グローバル ペイロールと一般会計の統合
- 一般会計処理の実行とデータの送信
- 一般会計の遡及処理の定義

一般会計インターフェイスについて

一般会計に給与計算データを送信する作業は、給与計算サイクルの最終ステップの 1 つです。グローバル ペイロールと一般会計を統合すると、最終決定されたカレンダー実行に関連付けられた支給と控除を一般会計システムに自動転記できます。

この章で使用する共通フィールド

チャートフィールド

チャートフィールドは、受給者の属性 (部門、会社、従業員 ID など) を表します。受給者の支給、控除、または累計の金額を一般会計に送信するときは、受給者のチャートフィールド (最大 8 つ) に関連付けられた値も送信できます。

グローバル ペイロールを一般会計と統合すると、チャートフィールド値の有効な組み合わせで、ビジネス ユニットの GL (一般会計) 勘定科目番号にマッピングされます。

どのエレメントをチャートフィールドとして使用するかは、ユーザーが定義します。選択できるのは、変数エレメントおよび COMPANY、COUNTRY、DEPTID、EMPLID、EMPL_CTG、EMPLOYEE SUBCAT1、EMPLOYEE SUBCAT 2、ESTABID、FUNCTION_CD、GP_PAYGROUP、JOB CODE、LOCATION、POSITION_NBR、REG_REGION、STATE、TARIFF_AREA_GER、TARIFF_GER、GP_COUNTRY のシステムエレメントです。これらシステム エレメントの多くは、職務レコードに保存されています。

一般会計で使用する標準のチャートフィールドとして、GP GL AFF INTRA1、GP GL AFF INTRA2、GP GL AFFILIATE (関係会社)、GP GL ALT ACCOUNT (代替勘定科目)、GP GL BUDGET REF (予算参照)、GP GL CHARTFIELD1 (チャートフィールド 1)、GP GL CHARTFIELD2、GP GL CHARTFIELD3、GP GL CLASS (クラスフィールド)、GP GL DEPT (GL 部門)、GP GL FUND (資金コード)、GP GL OP UNIT (業務ユニット)、GP GL PRODUCT (製品)、GP GL PROGRAM (プログラム コード)、GP GL PROJECT (プロジェクト) の 15 の変数が用意されています。

グループ

同じ GL 勘定科目にマッピングするために、ユーザーによって 1 つにまとめられた類似の支給、控除、またはセグメント累計のセットを表します。

グローバル ペイロールと一般会計の統合

グローバル ペイロールと一般会計を統合するには、チャートフィールド コンポーネント (GP_GL_CHARTFLD)、エレメント グループ化コンポーネント (GP_GL_GROUP)、勘定科目マッピング コンポーネント (GP_GL_MAP) を使用します。

このセクションでは、グローバル ペイロールと一般会計インターフェイスのインテグレーション ポイントの概要、グローバル ペイロールと一般会計の統合の手順、および以下の方法について説明します。

- "ビジネス ユニット" の相互参照ページで定義されたビジネス ユニットに対応する一般会計 (GL) ユニットの指定
- 一般会計への費用の割り当てに使用するチャートフィールドの選択
- 一般会計処理用の支給、控除、累計のグループ化
- チャートフィールドおよびグループ コードと一般会計勘定科目とのマッピング
- 受給者のチャートフィールド値の上書き
- ポジティブ入カレベルでのチャートフィールドの上書き

関連項目:

PeopleSoft Enterprise 一般会計 PeopleBook

グローバル ペイロールと一般会計のインターフェイスのインテグレーション ポイントについて

インテグレーション ポイントは、PeopleSoft アプリケーション間のインターフェイスです。EIP を使用すると、データベース間でデータを転送できます。

グローバル ペイロールと一般会計のインターフェイスでは、インテグレーション ポイントを使用して一般会計から勘定科目番号とビジネス ユニット情報を取得し、給与計算結果を一般会計に送信します。

注意: PeopleSoft アプリケーションで使用されるインテグレーション ポイントの技術的詳細については、My Oracle Support の Implementation Guide セクションにある「Interactive Services Repository」を参照してください。

一般会計からの勘定科目データの取得

一般会計との統合を設定する場合、グローバル ペイロールでは以下のインテグレーション ポイント メッセージを受信する必要があります。

ACCOUNT_CHARTFIELD_FULLLSYNCH

BUS_UNIT_FS_FULLLSYNC

BUS_UNIT_GL_FULLLSYNC

JOURNAL_GEN_APPL_ID_FULLLSYNC

この後、一般会計で勘定科目コードとビジネス ユニットに変更が加えられると、グローバル ペイロールでは、以下のインテグレーション ポイント メッセージをサブスクライブしてその変更を取得します。

ACCOUNT_CHARTFIELD_SYNC

BUS_UNIT_FS_SYNC

BUS_UNIT_GL_SYNC

JOURNAL_GEN_APPL_ID_SYNC

注意: PeopleSoft Enterprise HRMS と PeopleSoft Enterprise FMS 間で標準のチャートフィールド設定を使用する場合は、そのチャートフィールドのインポートも実行する必要があります。

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Integration Testing Utilities and Tools

一般会計への給与計算結果の送信

グローバル ペイロール結果インテグレーション ポイントでは、PeopleSoft インテグレーション ブローカーを使用して、給与計算の結果をグローバル ペイロール会計行ステージ レコード (GP_ACC_LINE_STG) に送信します。このデータは GL 取引準備処理アプリケーション エンジン プロセス (GP_GL_PREP) によって送信され、GL へのグローバル ペイロールの転記バッチ ルール (GP_POST_GL) が適用されます。

グローバル ペイロールからデータが送信されると、そのデータは一般会計で受信され、一般会計のデータに取り込まれます。

グローバル ペイロールと一般会計の統合の手順について

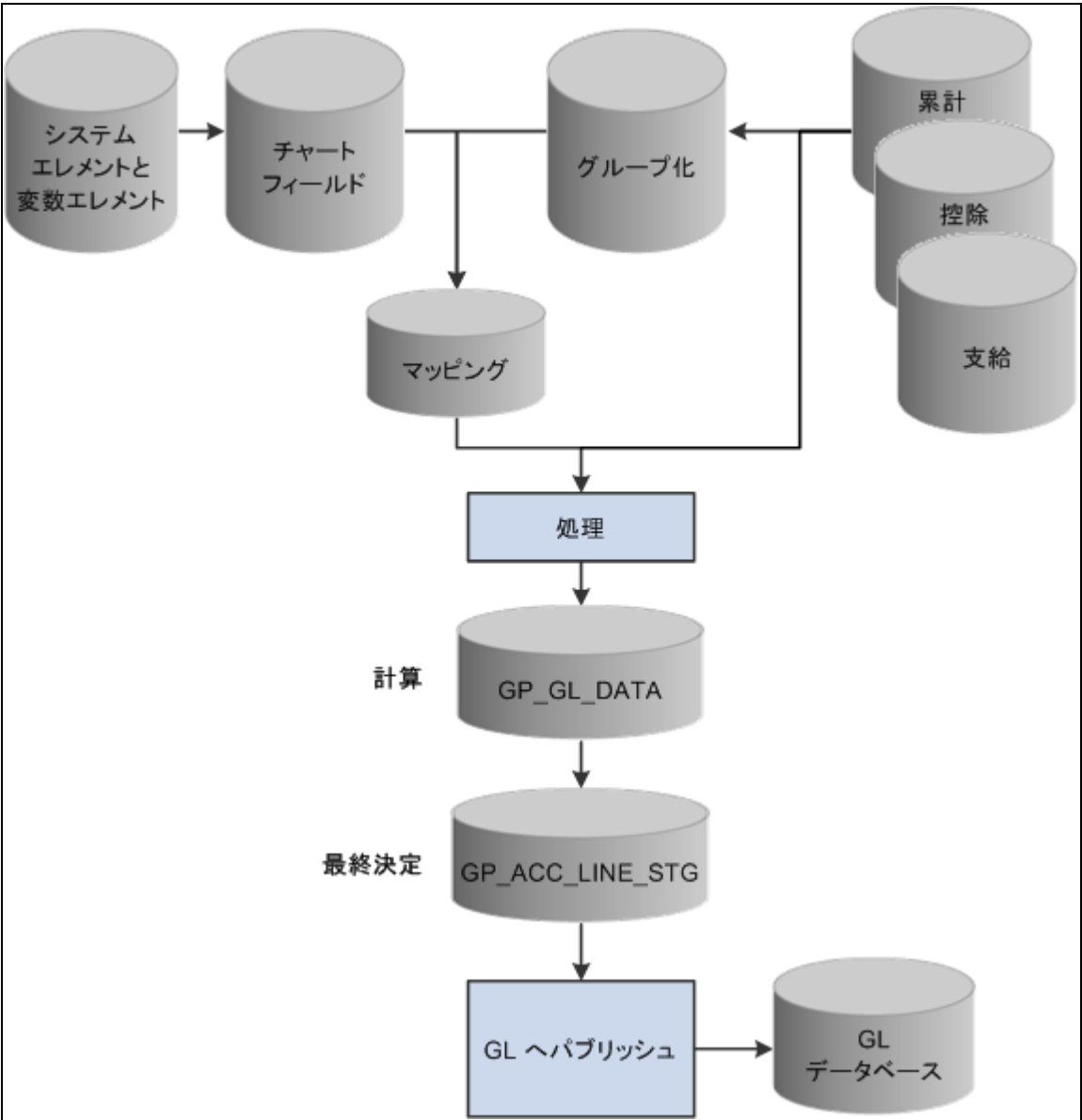
グローバル ペイロールを一般会計と統合するには、次の手順に従って設定を行います。

1. グローバル ペイロールとヒューマン リソース管理を PeopleSoft Enterprise Financials のデータベースと同期させます。

グローバル ペイロールで正しい勘定科目番号とビジネス ユニットが Financials データベースから取得されるように、ACCOUNT_CHARTFIELD_FULLSYNCH、BUS_UNIT_FS_FULLSYNCH、BUS_UNIT_GL_FULLSYNCH、JOURNAL_GEN_APPL_ID_FULLLYSYNC のインテグレーション ポイント メッセージを有効にし、受信します。

2. ビジネス ユニット相互参照ページで、一般会計 (GL) ユニットを追加します。
3. チャートフィールドとして使用できるシステム エLEMENTと変数ELEMENTを指定します。
 - a. ソース/使用ページで [チャートフィールドとして使用] チェック ボックスをオンにし、プロンプト ビュー名を選択してシステム ELEMENTを指定します。"変数" の定義ページで [チャートフィールドとして使用] チェック ボックスをオンにし、プロンプト ビュー名を選択して、変数を指定します。
 - b. ELEMENT名ページで、[保存] チェック ボックスをオンにします。
 - c. 給与計算プロセス リストに各チャートフィールド ELEMENTを追加します。
4. チャートフィールド ページで、特定のビジネス ユニットと支給元に対して適用するチャートフィールド ELEMENTを 8 つまで選択します。
5. ELEMENT グループ化ページで、支給、控除および累計ELEMENTをグループ化します。
6. マッピング ページで、グループとチャートフィールドを対応する一般会計勘定科目にマッピングします。

次の図は、グローバル ペイロールでの一般会計の設定手順とバッチ処理を示しています。



一般会計処理フロー

注意: ソース/使用ページ、"変数" の定義ページ、エレメント名ページについては、この PeopleBook の前の章で説明されています。

関連項目:

第 6 章、「データ取得エレメントの定義」、システム エレメントの変更および表示に使用するページ、127 ページ

第 7 章、「計算エレメントの定義」、変数エレメントの定義に使用するページ、215 ページ

第 5 章、「エレメントの一般情報の定義」、エレメント名の定義に使用するページ、100 ページ

グローバル ペイロールと一般会計の統合に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
チャートフィールド	GP_GL_CHARTFLD	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[インテグレーション]、[チャートフィールド]、[チャートフィールド]	特定の支給元とビジネスユニット用に、費用を一般会計の勘定科目に割り当てるためのチャートフィールドを選択します。
エレメント グループ化	GP_GL_GROUP	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[インテグレーション]、[エレメントグループ化]、[エレメントグループ化]	特定の支給元およびビジネスユニット用に、類似の支給、控除、累計をグループ化して一般会計の勘定科目にマッピングできるようにします。 あらかじめ、チャートフィールド ページに情報を入力しておく必要があります。
マッピング	GP_GL_MAP	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[インテグレーション]、[勘定科目マッピング]、[マッピング]	特定の支給元とビジネスユニット用に、チャートフィールドとグループコードを一般会計の勘定科目番号にマッピングします。 グループコードをあらかじめ定義しておく必要があります。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
GL 配分上書き	GP_GL_DIST	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[受給者レベル上書き]、[GL 配分上書き]、[GL 配分上書き]	従業員の職務レベルでチャートフィールドの値を上書きします。 このページを使用する前にチャートフィールドページでチャートフィールドの値を定義する必要があります。
ポジティブ入力 - 詳細	GP_PI_MNL_SEC	<ul style="list-style-type: none"> [グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[支給と控除の割当]、[ポジティブ入力]、[ポジティブ入力] <p>ポジティブ入力ページの [メイン コンポーネント] タブの詳細アイコンをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[ポジティブ入力 - カレンダー別]、[PI - カレンダー別] <p>PI - カレンダー別ページの [エレメント上書き] タブの詳細アイコンをクリックします。</p>	エレメントの特定インスタンスに対しチャートフィールド値を上書きします。

一般会計への費用の割り当てに使用するチャートフィールドの選択

チャートフィールド ページにアクセスします [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[インテグレーション]、[チャートフィールド]、[チャートフィールド]

チャートフィールド

支給元: K0PE1 Pay Entity 1
 ビジネス ユニット: GBIBU Global Business Institute BU

定義 検索 | 全件表示 最初 1/1 最後

*有効日: 1990/01/01

チャートフィールド

チャートフィールド* 1: GP PAYGROUP	チャートフィールド* 2: DEPTID
チャートフィールド* 3: JOBCODE	チャートフィールド* 4:
チャートフィールド* 5:	チャートフィールド* 6:
チャートフィールド* 7:	チャートフィールド* 8:

チャートフィールド ページ

チャートフィールド

この支給元とビジネス ユニットの費用を一般会計勘定科目に割り当てる際に、グローバル ペイロールから送信する値に対するチャートフィールドを 8 つまで選択します。このページにアクセスするために選択した支給元が所在する国のチャートフィールドとして指定されているシステム エlement および変数 Element だけしか選択できません。

[チャートフィールド 1] から [チャートフィールド 8] まで、リストの順序に従って入力します。これらのフィールドは階層的な順序に並べる必要があります。フィールドを飛ばして入力しないでください。

一般会計処理用の支給、控除、累計のグループ化

Element グループ化ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[インテグレーション]、[Element グループ化]、[Element グループ化])。

エレメントグループ化

支給元: KOPE1 Pay Entity 1

ビジネス ユニット: GBIBU Global Business Institute BU

エレメントグループ

検索 | 全件表示 | 最初 1/3 最後

*グループ コード: DEDUCTIONS

支給、控除、および累計エレメント

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-5/8 最後

入力タイプ	エレメント名	名称		
控除	KOTAX1	Tax1	+	-
控除	KOGARNISHMEN	Garnishment	+	-
控除	KODED	Deduction%	+	-
控除	KOPARKING	Parking	+	-
控除	KODEDWLIMIT	DedwLimit	+	-

エレメント グループ化ページ

グループ コードとは支給、控除、または累計エレメントの属性の 1 つです。エレメントは、一般会計で処理できるように、あらかじめグループ化しておく必要があります。

グループ コード

一般会計に転送するエレメントのグループ コードを入力します。

注意:

支給を個別に入力する代わりに、1 つのセグメント累計にまとめ、その累計のグループ コードを作成できます。

支給、控除、および累計エレメント

グループに含める累計、控除、支給の各エレメントについて、入力タイプとエレメント名を選択します。

注意:

"累計" の期間ページで累計期間として [セグメント] が指定されている累計だけが選択可能です。

一般会計勘定科目へのチャートフィールドとグループ コードのマッピング

マッピング ページにアクセスします [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[インテグレーション]、[勘定科目マッピング]、[マッピング]

勘定科目マッピング

支給元: GXPEBKR2A Bank-GL Fwd GXPEBKR2A

ビジネス ユニット: GXBU1 GX Business Unit 1

一般会計 (GL) ユニット: FRA04

定義

検索 最初 1/1 最後

*有効日: 1990/01/01

*仕訳テンプレート: GLOBAL_PAY

勘定科目とチャート フィールドの割当

加減算 | 検索 | 全件表示 | 最初 1-5/44 最後

チャートフィールド

勘定科目	符号の反転	グループ コード	GP GL FUND	DEPTID	GP GL PROGRAM		
617000	<input checked="" type="checkbox"/>	DEDUCTIONS-1				+	-
617000	<input checked="" type="checkbox"/>	DEDUCTIONS-1	100	GXDEPT1	1000	+	-
617000	<input checked="" type="checkbox"/>	DEDUCTIONS-1	100	GXDEPT2	2000	+	-
617000	<input checked="" type="checkbox"/>	DEDUCTIONS-1	100	GXDEPT3	2001	+	-
617000	<input checked="" type="checkbox"/>	DEDUCTIONS-2				+	-

マッピング ページ

一般会計に送信する支給、控除、累計額について、その金額に関連付けられているチャートフィールド値の組み合わせを一般会計の勘定科目にマッピングする必要があります。

一般会計 (GL) ユニット

選択されたビジネス ユニットに対応する一般会計ユニットが (ヒューマン リソース管理のビジネス ユニット ページで定義されている対応関係に基づいて) 表示されます。

仕訳テンプレート

この支給元とビジネス ユニットに対して仕訳テンプレートを選択します。仕訳テンプレートは一般会計で定義されています。一般会計に情報を送信するには、GLOBAL_PAY テンプレートを使用する必要があります。

チャートフィールド

勘定科目

チャートフィールドとグループ コードをマッピングする一般会計の勘定科目番号を選択します。

符号の反転

トランザクションの符号を反転して転記する場合にはチェック ボックスをオンにします。一般的には、純支給額および控除についてはトランザクションを借方ではなく貸方として記録するために符号を反転させ、支給については符号をそのままにしておきます。

グループ コード

一般会計勘定科目にマッピングするコードを選択します。

<エレメント名 1>、<エレメント名 2>、 <エレメント名 3>

チャートフィールド ページで選択した各チャートフィールドについてフィールドが表示されます。各フィールド名はソース/使用ページで表示されるプロンプト ビュー名と一致します。

一般会計勘定科目にマッピングするチャートフィールド値を選択します。

異なるチャートフィールド値のセットを同一のグループ コードと一般会計勘定科目との組み合わせに関連付けることができます。

注意: 変数には有効日が付いているため、チャートフィールドのプロンプト テーブルには、チャートフィールド指定を解除した変数や現在非アクティブである変数を含めることができます。無効な変数は、手動で削除するか、有効な変数と置き換える必要があります。マッピング フィールドは自動的に更新されません。プロンプト テーブルでは、変数はシステム エレメントの後にリストされます。

複数の勘定科目を同じグループ コードに関連付ける場合は、勘定科目ごとに個別のチャートフィールド値を入力する必要があります。

デフォルト勘定科目の設定

一般会計勘定科目にマッピングされていないチャートフィールド値の組み合わせに金額が関連付けられている場合、その金額は一般会計に送信できません。デフォルト勘定科目を設定しておくことが適切な場合もあります。

ユーザーが以下の情報を設定したとします。また、部門 A、B、C、および D に勤務している受給者がいるとします。

勘定科目	グループ コード	チャートフィールド (DEPTID)
1	支給	DEPT A
2	支給	DEPT B
3	控除	
4	控除	DEPT A

勘定科目	グループ コード	チャートフィールド (DEPTID)
5	控除	DEPT B

勘定科目 3 には部門 ID レベルで割り当てられたチャート フィールドがないため、DEPT A (部門 A) または DEPT B (部門 B) に請求できない控除のデフォルトの役割を果たします。部門 C と部門 D に勤務する受給者の控除は勘定科目 3 に請求されます。

このデフォルト機能を使用すると、1 行だけで同じ勘定科目を多くの部門に割り当てることができます。しかし、この例では支給に対して同様のデフォルト勘定科目が設定されていないため、部門 C と部門 D に属する受給者の支給はどの勘定科目にも請求されません。

したがって、勘定科目にマッピングをする際には、一般会計勘定科目に転送する支給、控除、および累計全てのエレメントごとに特定の勘定科目を設定するか、または、デフォルトの勘定科目を必ず設定します。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise 一般会計 PeopleBook

受給者のチャートフィールド値の上書き

GL 配分上書きページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[受給者データ]、[受給者レベル上書き]、[GL 配分上書き]、[GL 配分上書き])。

GL 配分上書き

従業員 ID: GXBKREE1 雇用コード: 0 名前: Sharon Stonewall

有効日: 2010/12/19

検索 最初 1/1 最後

有効日: 2010/12/19

チャートフィールド上書き 検索 最初 1/1 最後

GP PAYGROUP:	GXPG1	DEPTID:	GXDEPT1
JOB CODE:	GXJB1	チャート値 4:	
チャート値 5:		チャート値 6:	
チャート値 7:		チャート値 8:	
配分率:	100.000000	<input checked="" type="checkbox"/> 全てのエレメントに適用	

GL 配分上書きページ

このページに入力するデータにより、職務レコードやその他のソース レコードの各チャートフィールド値が上書きされます。

チャートフィールド上書き

この職務について受給者が所属する支給元およびビジネス ユニットにいくつチャートフィールドが設定されているかによって、[チャート値 1] ~ [チャート値 8] の中で使用可能になるフィールド数が決まります。フィールド名はチャートフィールド エlement用に選択したプロンプトビュー名と一致します。

選択した受給者の職務に使用するチャートフィールド値を入力します。

全てのElementに適用 同じセットのチャートフィールド上書き値を、受給者のこの職務での全ての支給、控除、セグメント累計に使用する場合は、このチェック ボックスをオンにします。

Element指定上書き

チャートフィールド値を上書きする支給、控除、セグメント累計を指定します。上書き値を適用する支給、控除、累計額をパーセントで指定することもできます。

たとえば、OVERTIME という支給Elementの値を 1000 とします。OVERTIME Elementの配分率として 25 パーセントを指定すると、[チャートフィールド上書き] グループ ボックスに入力したチャートフィールドの上書き値は支給額 250 に関連付けられます。残りの 75 パーセントには、デフォルトのチャートフィールド値に関連付ける必要があります。

配分率

選択したチャートフィールド値に割り当てる、受給者の支給、控除、セグメント累計の割合をパーセントで指定します。

たとえば、受給者の勤務時間を部門 A と部門 B で分割して、2 つの部門に費用を請求するには、以下の手順に従います。

- 受給者の部門 A での職務に適用する チャートフィールド値を選択して、[配分率] フィールドに「50」と入力します。
- 行を1 行追加して、受給者の部門 B での職務に適用するチャートフィールド値を選択します。
- [配分率] フィールドに「50」と入力します。

注意: 同じElementに対して 100 パーセントを超える値を割り当てないでください。

ポジティブ入力レベルでのチャートフィールドの上書き

エレメントの特定のインスタンスについてチャートフィールド値を上書きするには、"ポジティブ入力 - 詳細" ページを使用します。

関連項目:

第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、ポジティブ入力の作成、630 ページ

一般会計処理の実行とデータの送信

このセクションでは、一般会計への給与計算データの送信の概要と、以下の作業を行う方法について説明します。

- 一般会計への給与計算データの送信
- 一般会計勘定科目のないトランザクションの表示
- グローバル ペイロール会計トランザクションのリセット

一般会計への給与計算データの送信について

一般会計処理を最終決定することにより、支給額、控除額、累計額が一般会計に送信されます。

一般会計に給与計算データを送信するには、次の手順に従います。

1. "一般会計へ送信" ページにアクセスします。
2. 処理するカレンダー グループ (該当する場合はストリームも) に対して計算オプションを選択します。
3. 転記日を入力します。
4. カレンダー グループ全体に計算オプションを実行したら、最終決定オプションを選択します。

注意: 最終決定プロセスを実行する前に、"一般会計確認 (勘定科目なし)" のトランザクション ページを確認して、勘定科目に関連付けられていない金額がないか調べてください。勘定科目に関連付けられていない金額は送信されないため、一般会計で貸借不一致になる場合があります。

注意: Payroll to SAP General Ledger Integration Packs をインストールしている場合は、[最終決定] チェック ボックスは表示されません。その代わりに、一般会計準備プロセスで別のチェックが行われますが、最終決定処理は呼び出されません。

一般会計処理の実行とデータの送信に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
一般会計へ送信	GP_GL_PREPARE	[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[勤務管理/一般会計]、[費用データを一般会計へ送信]、[費用データを一般会計へ送信]	データを一般会計に送信する支給、控除、累計の各エレメントの支給を作成するプロセスを実行します。
勘定科目なしトランザクション	GP_GL_NO_ACCT	[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[勤務管理/一般会計]、[一般会計確認(勘定科目なし)]、[勘定科目なしトランザクション]	一般会計処理の計算フェーズで一般会計勘定科目を割り当てられなかったトランザクションを照会します。
一般会計リセット	GP_GL_RESET	[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[勤務管理/一般会計]、[一般会計リセット]、[一般会計リセット]	エラー発生のために再転記が必要になった場合、GL トランザクション作成プロセスを再実行する前に、一般会計リセット処理を実行します。

一般会計への給与計算データの送信

"一般会計へ送信" ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[勤務管理/一般会計]、[一般会計へ送信]、[一般会計へ送信])。

費用データを一般会計へ送信

ラン コントロール ID: 1212 [レポート マネージャ](#) [プロセス モニター](#) [実行](#)

給与計算実行

*カレンダー グループ ID: February Monthly Payroll 2004

ストリーム番号: ☐ ストリーム処理

*転記日:

処理フェーズとオプション

☐ 計算

☐ 統計の更新

☒ 最終決定

カレンダー リスト		
支給グループ*	カレンダー ID	支給日
KAMONTHLY	KAM04M02FEBPAY	2004/02/15

ストリーム			
ストリーム番号	開始従業員 ID	終了従業員 ID	計算済
			<input type="checkbox"/>

"一般会計へ送信" ページ

カレンダー グループ

プロセスを実行するカレンダー グループを選択します。給与計算が最終決定していて一般会計にはまだ送信されていないカレンダー グループだけが、ここで使用できます。

ストリーム番号、ストリーム処理

給与計算処理中にストリーム処理を使用した場合は、[ストリーム処理] チェック ボックスはオンになります。[ストリーム処理] チェック ボックスがオンの場合は、[計算] チェック ボックスもオンにします。処理するストリーム番号を選択します。

転記日

入力した値が一般会計に転記される日付を入力します。たとえば、ある月の 15 日にプロセスを実行する場合でも、その月の 30 日に入力が一般会計に転記されるように指定できます。

注意: 選択した転記日は仕訳ジェネレータのクローズ日に対応している必要があります。転記日は一般会計と整合させる必要があります。勤務管理がインストールされていて、費用が送信済みの場合は、転記日のデフォルト値は費用の送信日になります。[転記日] フィールドの日付を変更して、一般会計データが実際に一般会計に送信される日を転記日とすることもできます。

処理フェーズとオプション

処理オプションを選択します。給与計算処理が最終決定している場合は、計算と最終決定を一緒に実行できます。

計算

このカレンダー グループの給与計算処理で計算され、一般会計グループに属する支給、控除、累計に対して一般会計トランザクションを作成する場合は、このチェック ボックスをオンにします。計算プロセスを実行するには、給与計算処理で少なくとも 1 人の受給者が特定されている必要があります。

ストリーム処理を使用する場合は、一度に 1 つのストリームについて計算フェーズを実行します。

各ストリームについて計算フェーズを複数回実行できます。2 回目以降の計算では、新しい結果が作成される前に既存のデータが削除されます。GP GL トランザクション インターフェイス レコード (GP_GL_DATA) に最終結果が保存され、計算済 GL ストリーム テーブル (GP_GL_PREP_STRM) テーブルに入力が挿入されると計算が完了したことになります。

統計の更新

このチェック ボックスは、データベース管理者がシステムの処理効率を最適化するために使用します。オンにすると、バッチ処理中に統計が出力され、作業テーブルの使用状況に関する情報を得ることができます。

最終決定

給与計算処理が最終決定され、カレンダー グループ全体について計算フェーズを実行すると、このチェック ボックスが使用可能になります。(ストリーム処理を使用する場合は、全てのストリームを計算しておく必要があります。)

実行を最終決定する準備が整ったら、このチェック ボックスをオンにします。(最終決定フェーズではストリーム処理は実行できません。)

注意: Payroll to SAP General Ledger Integration Packs がインストールされている場合は、[最終決定] チェック ボックスは表示されません。

カレンダー リスト

このグループ ボックスには、カレンダー グループの各カレンダーに関する情報が表示されます。

ストリーム

ストリーム番号 カレンダー グループに関連付けられているストリームが表示されます。

計算済 このチェック ボックスがオンになっている場合、給与計算処理でストリームが計算済みです。

一般会計勘定科目のないトランザクションの表示

勘定科目なしトランザクション ページにアクセスします [グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[勤務管理/一般会計]、[一般会計確認(勘定科目なし)]、[勘定科目なしトランザクション]

一般会計確認（勘定科目なし）

カレンダー グループ: KW M200802 2008 02 - Monthly

勘定科目なしチャートフィールドの組合せ

加減算 | 検索 | 全件表示 | 最初 1-3/3 最後

合計金額 | チャートフィールド | その他のチャートフィールド

支給元	ビジネス ユニット	グループ コード	金額	通貨	マッピング表示
KW2	CHE01	2201S	79.04	CHF	マッピング表示
KW2	CHE01	2999H	-4,050.00	CHF	マッピング表示
KW2	CHE01	5013S	22,750.00	CHF	マッピング表示

勘定科目なしトランザクション ページ

[その他のチャートフィールド] タブには、一般会計勘定科目に割り当てられていないトランザクション (つまり、勘定科目にマッピングされていないチャートフィールドの組み合わせに関連付けられている金額) が一覧表示されます。勘定科目のないトランザクションがあると、一般会計では貸借一致になりません。支給、控除など、勘定科目のない金額は全て借方として扱われます。

特定されていない各行にはマッピング表示ボタンがついています。このボタンをクリックすると、指定した支給元とビジネス ユニットのマッピング ページに移動します。これらの行は一般会計に送信されません。たとえば、支給エレメントについて部門 ID を指定した場合には、この条件に一致するものが検索されます。部門 ID に割り当てられていない支給エレメントがあり、なおかつ支給の勘定科目のデフォルトが指定されていない場合、この支給エレメントは一般会計に送信されません。

関連項目:

第 39 章、「PeopleSoft Enterprise 一般会計との統合」、一般会計勘定科目へのチャートフィールドとグループ コードのマッピング、1534 ページ

グローバル ペイロール会計トランザクションのリセット

一般会計リセット ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[勤務管理/一般会計]、[一般会計リセット]、[一般会計リセット])。

参照: 第 40 章、「PeopleSoft EnterpriseOne 一般会計との統合」、グローバル ペイロール会計トランザクションのリセット、1599 ページ。

一般会計の遡及処理の定義

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- デルタの二重計上
- 国ページ
- 一般会計データの遡及調整

デルタの二重計上

一般会計の遡及処理では、正しい設定が行われないとデルタが二重計上されるという特殊な問題があります。このセクションでは、遡及処理の種類に関する概要と、デルタの二重計上を回避する方法について説明します。

遡及処理には、次の 2 種類があります。

- 訂正の遡及方法では、デルタはその発生期間内で処理されます。
- 繰越の遡及方法では、現在の期間にデルタが繰り越されます。

通常は繰越の遡及方法を使用する場合でも、累計コンポーネント (GP_ACCUMULATOR) のレベル ページで [訂正を使用] チェック ボックスをオンにすると、個々の累計を訂正の遡及方法で処理できます。[訂正を使用] をオンに設定すると、累計メンバーの調整値が現在の期間に繰り越されても、この調整値は累計に加算されません。

次の例では、二重計上がどのように発生するかについて説明します。この例では、以下のようになります。

- 遡及方法は繰越です。
- 支給 E1 は累計 E1_YTD のメンバーです。
- E1 の値は 100 です。

最終決定された 1 月の給与計算結果は次のようになります。

カレンダー	レビジョン	E1	E1_YTD
1 月	V1R1	100	100

1 月の給与計算が最終決定されてから、E1 の値がさかのぼって 110 に変更されます。2 月の給与計算を実行すると、グローバルペイロールによって 1 月の遡及処理も実行されます。2 月の給与計算結果は次のようになります。

カレンダー	レビジョン	E1	E1_YTD
1 月	V1R2	110	110 デルタ 10 が繰り越されます。
2 月	V1R1	120	230 調整値 10 が繰り越されています。

2 月の累計は 230 ではなく、220 になります。230 という金額は、1 月からのデルタが二重計上されることで生じます。これを防止するために、グローバルペイロールでは、1 月の V1R2 の残高 110 ではなく、V1R1 の残高 100 が自動的に渡されます。2 月の E1_YTD は、繰り越された残高 100 に 110 (E1 の現在の値) と 10 (1 月の支給額の調整値) を加算した値に等しくなり、正しい合計額 220 となります。この場合、1 月の E1_YTD 値 100 は繰越値であり、値 110 は計算値です。この両方の値は累計結果テーブルに保存され、繰越値は CALC_RSLT_VAL フィールドに、計算値は CALC_VAL フィールドにそれぞれ保存されます。

注意: 累計に定義された遡及方法が繰越の場合にのみ、レビジョン 1 の累計残高が繰り越されています。累計の遡及方法が訂正の場合は、繰り越される値は計算値と等しくなります。調整値は現在の期間に繰り越されないため、二重計上は発生しません。

グローバル ペイロールでは、繰越の遡及では想定される二重計上は自動的に回避されるように処理され、訂正の遡及処理の場合には同様の二重計上が発生する可能性はありません。それでは、どのようにして二重計上が発生するのでしょうか。その答えは、セグメント累計にあります。セグメント累計以外では、終了残高が次に処理されるセグメントに繰り越され、新しい開始残高として使用されます。セグメント累計は、累計が作成されたセグメントの期間内しか存在しません。したがって、繰越残高という概念はセグメント累計には当てはまらず、セグメント累計に含まれるのは計算値だけです。

前の例で二重計上を回避できたのは、繰り越された E1_YTD 残高は V1R1 から取得した 100 であり、計算値 110 ではなかったためです。また、支給 E1 がセグメント累計 AC1_SEG のメンバーである場合は、繰越がセグメント累計に適用されないため、計算値から繰越値への置き換えは行われません。AC1_SEG では、CALC_RSLT_VAL (繰越値) と CALC_VAL (計算値) はどちらも 110 です。1 月の値 110 が AC1_SEG の 2 月の値 120 に加算されると、デルタが二重計上されてしまいます。

したがって、セグメント累計を一般会計に送信する場合は、セグメント累計に訂正の遡及方法を定義する必要があります。前の例で、AC1_SEG に訂正の遡及方法を定義すれば、1 月と 2 月の両方の値が 110 となり、この 2 つの値を加算して正しい合計額 220 が算出されることになります。

国ページ

"国別設定" の国ページでは、[現在の結果と調整の合計を使用] グループ ボックスを使用して、一般会計の遡及処理を定義します。

注意: 国ページについては、この PeopleBook の別の章に説明されています。

参照: 第 3 章、「コア アプリケーションのアーキテクチャについて」、国別設定の定義、47 ページ。

現在の結果と調整の合計を一般会計に使用

グローバル ペイロールを導入しているほとんどの組織では、最終決定された給与計算で遡及処理が発生した際に、一般会計に転記するチャートフィールドとエレメント グループを処理する方法をデフォルト設定しています。この場合、組織のニーズやグローバル ペイロール国別拡張機能に合ったデフォルトの遡及方法 (繰越または訂正) を国ページで指定するだけで済みます。

企業によっては、V1R1 の結果のみを一般会計に転記する方法を採用する場合があります。国ページの [一般会計処理] チェック ボックスをオンにすると、この組織の要件に対応することができます。給与計算システムで発生した遡及処理に関して一般会計への転記方法を変更することにより、常にその方法を使用することができます。

[一般会計処理] チェック ボックスは、デフォルトではオフに設定されています。このチェック ボックスをオンにすると、一般会計に過去に転記されたチャートフィールドやエレメント グループの金額が取り消されないように設定されるため、遡及計算 (取り消し) に必要な手順は全て省略され、その代わりに V1R1 の結果と調整の合計のみが送信されます。国ページの [一般会計処理] チェック ボックスをオンにした場合、どちらのデフォルト遡及方法が選択されているかによって処理結果は次のように異なります。

- [デフォルト遡及方法] に [訂正] が選択されている場合は、[一般会計処理] チェック ボックスをオンにしても、一般会計の遡及方法に影響ありません。
- [デフォルト遡及方法] が [繰越] の場合には、遡及処理は以下のように変更されます。
 - 前回処理されたチャートフィールドと金額が、一般会計の勘定科目にマッピングされていたエレメント グループに関連付けられている場合は取り消されません。
 - 給与計算の遡及処理により再計算された金額は一般会計に転記されません。その代わりに、給与計算システムによって、現在の結果 (V1R1) と調整の合計が一般会計に送信されます。

注意: 遡及方法がその都度異なる場合、[現在の結果と調整の合計を使用] グループ ボックスで [一般会計処理] をオンにすると、一般会計の処理結果には繰越と訂正の遡及方法が反映されます。繰越のエレメントにはデルタまたは調整の金額が含まれ、訂正の遡及方法ではそれまで入力されていたデータが取り消され、訂正されます。

注意: 銀行振込処理と一般会計処理に関して現在の遡及方法に問題がない場合は、[現在の結果と調整の合計を使用] グループ ボックスの [銀行振込処理] チェック ボックスと [一般会計処理] チェック ボックスはオンにしないようにしてください。設定をオンにすると、遡及処理に対応しません。

注意: [現在の結果と調整の合計を使用] グループ ボックス内のチェック ボックスを一度オンにすると、デフォルト設定に戻すことはできません。チェック ボックスは表示専用になります。

注意: 銀行振込処理と一般会計処理で使用するテーブルはそれぞれ独立しています。したがって、[銀行振込処理] チェック ボックスと [一般会計処理] チェック ボックスをオンにする場合も、相互に影響することなく設定できます。

参照: 第 33 章、「遡及処理の定義」、遡及処理の定義、1250 ページ。

例: [デフォルト遡及方法] に [繰越] を選択して、[現在の結果と調整の合計を使用] グループボックスの [一般会計処理] チェック ボックスをオンにした場合の処理

1 月の時点で、控除額 100 が一般会計勘定科目 210003 (チャートフィールド "部門 1"に対応する勘定科目) に転記されたとします。その後、遡及処理の対象となる変更が給与計算に発生し、1 月に控除額を転記した従業員は実際には部門 2 に属しており、部門 1 に属していなかったことが判明したとします。したがって、部門 2 に対する控除を一般会計勘定科目 210004 に転記する必要があります。

[現在の結果と調整の合計を使用] グループ ボックスの [一般会計処理] チェック ボックスがオンに設定されていて、[デフォルト遡及方法] に [繰越] が選択されている場合、一般会計への送信の結果は次のようになります。

月	バージョン/レビジョン番号	金額	勘定科目	アクション
1 月	V1R1	100	210003	変換 (前の期間)
2 月	V1R1	100 + 0	210004	変換 (現在の期間 + 調整)

この例では、エレメント グループに関連付けられているチャートフィールドと金額を取り消したり、元に戻した値を一般会計に送信していません。現在の期間の結果と調整の合計だけが処理されます。(控除金額に変更がないため、この場合の調整は 0 になります。)[一般会計処理] チェック ボックスをオンにすると、現在の変換されたチャートフィールドが使用されます。元のチャートフィールドは使用されません。その結果、調整が別の勘定科目に転記されてしまいます。

注意: このように、金額が間違った勘定科目に転記されるため、1 月の転記を手動で訂正する必要があります。

一般会計データの遡及調整について

給与計算システムの遡及処理モード (訂正または繰越) にかかわらず、一般会計での計算は常に訂正モードで実行されます。つまり、その遡及期間の以前のトランザクションは全て取り消され、再計算結果からの全てのエントリに対して新規のトランザクションが作成されます。これにより、金額の変更だけでなく、チャートフィールドや勘定科目の割り当てについての変更も更新されたトランザクションに反映されるようになります。結果的に、現在の期間から取得された数値は、常に繰り越し調整後の純額で一般会計に転送されます。

給与計算結果に対するこのような "訂正措置" は、一般会計側での処理とは異なります。全てのトランザクションは、一般会計でのプロセスを開始するときに、ユーザーが指定した転記日に基づいて転記され、遡及期間の本来の日付とは関係ありません。元の帳簿は閉じられている可能性があるからです。

1 月の時点で、控除額 100 が一般会計勘定科目 210003 (チャートフィールド "部門 1" に対応する勘定科目) に転記されたとします。その後、遡及処理の対象となる変更が給与計算に発生し、1 月に控除額を転記した従業員は実際には部門 2 に属しており、部門 1 に属していなかったことが判明したとします。したがって、部門 2 に対する控除を一般会計勘定科目 210004 に転記する必要があります。

次の表は、一般会計に送信された計算結果を示したものです。元の転記が取り消され、1 月の処理に対して正しい勘定科目への転記が行われています。

月	本来のカレンダー グループ	金額	勘定科目	アクション
1 月	1 月	100	210003	変換 (前の期間)
2 月	1 月	- 100	210003	取消
2 月	1 月	100	210004	正しい勘定科目へ再転記
2 月	2 月	100	21004	現在の期間

セグメントの不一致が発生した場合は、現在の結果と調整の合計が常に使用され、その合計が前回使用されたセグメントに転記されます。

第 40 章

PeopleSoft EnterpriseOne 一般会計との統合

この章では、一般会計インターフェイスの概要と、以下の方法について説明します。

- Enterprise データベースでのインテグレーションの設定
- ヒューマン リソース管理データベースのデータの表示
- ターゲット製品とターゲット システムの設定
- コスト センターと勘定科目のマッピング
- 為替レートを検索
- 会計行の作成とグローバル ペイロールから一般会計への会計行の転記
- バッチ転記でのデータのエラー処理

一般会計インターフェイスについて

グローバル ペイロールと一般会計を統合する場合の主な作業は以下のとおりです。

- インテグレーション設定
 1. EnterpriseOne XPI ソフト コーディング/相互参照データベースにインテグレーション ポイントとコード相互参照を設定します。
 2. Enterprise データベースにインテグレーションを設定します。
 3. ターゲット製品の設定とターゲット システムの設定を確認します。

- マスター データの初期ロード、設定およびマッピング
 1. EnterpriseOne の会社を Enterprise ビジネス ユニット GL テーブルにロードします。
 2. 必要な場合は、一般会計勘定科目に使用されるセットID を定義します。
 3. 一般会計ビジネス ユニットを設定して、ターゲット システム、勘定科目セットID、仕訳 テンプレートを入力します。
 4. 一般会計ビジネス ユニットをヒューマン リソース管理ビジネス ユニットにマッピングします。
 5. EnterpriseOne の勘定科目を Enterprise GL 勘定科目テーブルにロードします。
 6. EnterpriseOne のビジネス ユニットを Enterprise コスト センター テーブルにロードします。
 7. 一般会計ビジネス ユニットを設定し、清算勘定科目、仮計上勘定科目、デフォルト コスト センターを入力します。
 8. EnterpriseOne のマスター データを Enterprise グローバル ペイロールのデータにマッピングします。
- EnterpriseOne のマスター データの変更による差分同期の実行
 1. EnterpriseOne のマスター テーブルで追加、変更または削除が行われると、差分同期統合処理が自動的に起動します。
 2. EnterpriseOne の差分統合処理により Enterprise テーブルのデータが更新された場合は、グローバル ペイロールのユーザーは必要に応じてデータの設定とマッピングを更新する必要があります。
- 定期トランザクション (一般会計への給与計算データの月次転記など)
 1. 必要に応じて、為替レートを同期させます。
 2. グローバル ペイロールによって会計行が処理され、EnterpriseOne ステージング テーブルに転記されます。
 3. EnterpriseOne で、トランザクションが確認され、取引明細テーブル (F0911) にロードされます。
 4. 必要に応じて、EnterpriseOne でデータのエラーが修正されたり、給与計算アプリケーションによって GL 処理のリセット、エラー修正、再処理、再転記が行われます。
 5. EnterpriseOne で、仕訳入力勘定残高テーブル (F0902) に転記されます。

この章では、Enterprise データベースで実行されるタスクについてのみ説明します。
EnterpriseOne のドキュメンテーションでは、EnterpriseOne 側のインテグレーション設定と Enterprise データベースへの EnterpriseOne データのロードについて説明します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 8.12 Application Integrations with Oracle PeopleSoft Enterprise Applications Implementation Guide の「Setting Up the JD Edwards EnterpriseOne to PeopleSoft Enterprise General Ledger Integration」

Enterprise データベースでのインテグレーション設定

EnterpriseOne データベースから転送されたデータを受信し、給与計算会計データを送信するには、Enterprise データベースを設定する必要があります。インテグレーションのインストールで実行するスクリプトによって、これらのステップのほとんどが実施されます。このセクションの説明に基づいて、設定を確認し、完了してください。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- サービス オペレーション バージョンとハンドラがアクティブであることの確認
- ノード定義の確認
- コネクタ プロパティの設定
- インテグレーションのルーティング設定の確認
- キュー設定の確認

Enterprise データベースでのインテグレーションの設定に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
サービス オペレーション - 一般	IB_SERVICE	[PeopleTools]、[インテグレーション ブロカー]、[インテグレーション設定]、[サービス オペレーション]、[一般]	サービス オペレーションをアクティブにします。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
サービス オペレーション - ハンドラ	IB_SERVICEHDLR	[PeopleTools]、[インテグレーション ブローカー]、[インテグレーション設定]、[サービス オペレーション]、[ハンドラ]	サービス オペレーションのハンドラがアクティブであることを確認します。
ノード定義	IB_NODE	[PeopleTools]、[インテグレーション ブローカー]、[インテグレーション設定]、[ノード]、[ノード定義]	EnterpriseOne との統合に使用するインテグレーション ブローカーのノード定義を確認します。
ノード - コネクタ	IB_NODECONN	[PeopleTools]、[インテグレーション ブローカー]、[インテグレーション設定]、[ノード]、[コネクタ]	コネクタ プロパティを確認します。
ノード - ルーティング	IB_NODEROUTINGS	[PeopleTools]、[インテグレーション ブローカー]、[インテグレーション設定]、[ノード]、[ルーティング]	このインテグレーションで使用されるルーティングが有効になっていることを確認します。
キュー ステータス	IB_MONITOR_QUEUES	[PeopleTools]、[インテグレーション ブローカー]、[サービス オペレーション モニター]、[管理]、[キュー ステータス]	キューのステータスを確認します。

サービス オペレーション バージョンとハンドラがアクティブであることの確認

グローバル ペイロールと一般会計の統合では、サービス オペレーションおよびそれに関連付けられたハンドラとルーティングを使用してメッセージとサブスクリプションのインテグレーションが行われます。インテグレーション設定を続行するには、これらのオブジェクトがアクティブになっていることを確認する必要があります。

サービス オペレーション バージョンをアクティブにするには、次の手順に従います。

1. サービス オペレーション - 一般ページにアクセスします ([PeopleTools]、[インテグレーション ブロカー]、[インテグレーション設定]、[サービス オペレーション]、[一般])。
2. [デフォルトのサービス オペレーション バージョン] グループ ボックスで [アクティブ] チェック ボックスをオンにします。

特定のサービス オペレーションに対してハンドラがアクティブであることを確認するには、次の手順に従います。

1. サービス オペレーション - ハンドラ ページにアクセスします ([PeopleTools]、[インテグレーション ブロカー]、[インテグレーション設定]、[サービス オペレーション]、[ハンドラ])。
2. サービス オペレーションに関連付けられたハンドラについて、[ステータス] フィールドの値が [アクティブ] であることを確認します。

以下のサービス オペレーションについて、サービス オペレーションとハンドラがアクティブであることを確認します。

- ACCOUNT_CHARTFIELD_FULLSYNC
- ACCOUNT_CHARTFIELD_SYNC
- BUS_UNIT_FS_SYNC
- BUS_UNIT_GL_FULLSYNC
- BUS_UNIT_GL_SYNC
- COST_CENTER_FULLSYNC
- COST_CENTER_SYNC
- GP_POST_GL
- GP_POST_GL_REPLY
- MARKET_RATE_REQ
- MARKET_RATE_SYNC

注意: サービス オペレーション コンポーネントのルーティング ページを使用してルーティングをアクティブにする必要はありません。ノード コンポーネントのルーティング ページを使用すると、特定のノードの全ルーティングをまとめてアクティブにすることができます。

参照: 第 40 章、「PeopleSoft EnterpriseOne 一般会計との統合」、ルーティング設定の確認、1558 ページ。

ノード定義の確認

ノード定義ページにアクセスします ([PeopleTools]、[インテグレーション ブロカー]、[インテグレーション設定]、[ノード]、[ノード定義])。

ノード定義(N) コネクト(C) ポータル(P) WS セキュリティ(W) ルーティング

ノード名: PSFT_E1 ノードのコピー

*名称: EnterpriseOne Remote Node ノード名の変更

*ノードタイプ: 外部 ☐ デフォルト ローカル ノード

*認証オプション: なし ☐ ローカル ノード

☒ アクティブ ノード

☐ 否認防止

☐ セグメント認識

*デフォルト ユーザー ID: PS 検索

WSIL URL: 検索

HUB ノード: 検索

基準ノード: 検索

法人 ID: 検索

IB スpoolerのしきい値: 検索

イメージ名: 検索

コードセット グループ名: 検索

外部ユーザー ID: 検索

外部パスワード: 検索

外部バージョン: 検索

保存 連絡先情報 フレッシュ

ノード定義ページ

ヒューマン リソース管理から EnterpriseOne へのインテグレーションの例として PSFT_E1 ノードが用意されています。

PSFT_E1 ノードは名称指定規則とシステム設定に一致するノードにコピーするようにしてください。

ノードをアクティブにして、以下のように設定されていることを確認します。

ノード タイプ	外部
認証オプション	なし

コネクタ プロパティの設定

コネクタ ページにアクセスします ([PeopleTools]、[インテグレーション ブローカー]、[インテグレーション設定]、[ノード]、[コネクタ])。

ノード定義(N) コネクタ(C) ホール(P) WSセキュリティ(W) ルーティング

ノード名 PSFT_E1 PING

詳細

ゲートウェイ ID: LOCAL 🔍

コネクタ ID: HTTPTARGET 🔍

*配信モード: 保証された配信 ▼

プロパティ

カスタマイズ | 検索 | 📄 | 🗑️ | 🔄 最初 1-4/4 最後

プロパティ テーマタイプ / 説明 ⋮

	プロパティ ID	プロパティ名	必須	値		
1	HEADER	Content-Type	<input type="checkbox"/>	text/xml	🔍	+ -
2	HEADER	sendUncompressed	<input checked="" type="checkbox"/>	Y	🔍	+ -
3	HTTPPROPERTY	Method	<input checked="" type="checkbox"/>	POST	🔍	+ -
4	PRIMARYURL	URL	<input checked="" type="checkbox"/>		🔍	+ -

パスワード暗号化

保存

コネクタ ページ

次の表に従って、プロパティの設定を確認し、必要な値を全て入力します。

プロパティ ID	プロパティ名	必須	値
HEADER	Content-Type		text/xml
HEADER	sendUncompressed	オン	Y

プロパティ ID	プロパティ名	必須	値
HTTPPROPERTY	Method	オン	POST
PRIMARYURL	URL	オン	URL によって EnterpriseOne インテグレーション サーバーが指定されます。URL は次の形式で入力します。 http://<XPI IS MachineName>:<IS port>/invoke/PSFT_Dispatcher.Inbound:InboundServiceDispatcher

注意: このページの [プロパティ] グループ ボックスは、ゲートウェイを正しく設定している場合にのみ使用できます。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Integration Broker

ルーティング設定の確認

ノード - ルーティング ページにアクセスします ([PeopleTools]、[インテグレーション ブローカー]、[インテグレーション設定]、[ノード]、[ルーティング])。

ノード定義(N)

コネクタ(C)

ポリシー(P)

WS セキュリティ(W)

ルーティング

ノード名:

PSFT_E1

ルーティング名:

追加

ルーティング定義					
選択	名前	サービス オペレーション	サービス オペレーション バージョン	OType	送信元ノード
<input type="checkbox"/>	~GEN~UPG~13713	ACCOUNT_CHARTFIELD_FULLSYNC	VERSION_1	非同期	PSFT_E1
<input type="checkbox"/>	~GEN~UPG~26294	ACCOUNT_CHARTFIELD_SYNC	VERSION_1	非同期	PSFT_E1
<input type="checkbox"/>	~GEN~UPG~12631	BUS_UNIT_FS_SYNC	VERSION_1	非同期	HR910DCL
<input type="checkbox"/>	~GEN~UPG~29515	BUS_UNIT_GL_FULLSYNC	VERSION_1	非同期	PSFT_E1
<input type="checkbox"/>	~GEN~UPG~17718	BUS_UNIT_GL_SYNC	VERSION_1	非同期	PSFT_E1
<input type="checkbox"/>	~GEN~UPG~29543	COST_CENTER_FULLSYNC	VERSION_1	非同期	PSFT_E1
<input type="checkbox"/>	~GEN~UPG~14371	GP_POST_GL	VERSION_1	非同期	HR910DCL
<input type="checkbox"/>	~GEN~UPG~13131	GP_POST_GL_REPLY	VERSION_1	非同期	PSFT_E1
<input type="checkbox"/>	~GEN~UPG~27864	MARKET_RATE_REQ	VERSION_1	Asy to Syn	PSFT_HR
<input type="checkbox"/>	~GEN~UPG~18055	MARKET_RATE_SYNC	VERSION_1	非同期	PSFT_E1












☒ 全て選択

☐ 全て選択解除

選択したルーティングの非アクティブ化

選択したルーティングのアクティブ化

ノード - ルーティング ページ (1/2)

カスタマイズ 検索 全件表示   最初 1-10/12 最後				
受信元ノード	方向	ステータス	結果	
PSFT_HR	インバウンド	非アクティブ		
PSFT_HR	インバウンド	非アクティブ		
PSFT_E1	アウトバウンド	非アクティブ		
PSFT_HR	インバウンド	非アクティブ		
PSFT_HR	インバウンド	非アクティブ		
PSFT_HR	インバウンド	非アクティブ		
PSFT_E1	アウトバウンド	非アクティブ		
PSFT_HR	インバウンド	非アクティブ		
PSFT_E1	アウトバウンド	非アクティブ		
PSFT_HR	インバウンド	非アクティブ		

ノード - ルーティング ページ (2/2)

以下の表に示す各サービス オペレーションについて、ルーティング タイプ、送信元ノード、および受信元ノードが、以下の表に示す値に設定されていることと、ステータスが [アクティブ] であることを確認します。必要な場合は、サービス オペレーションの隣にある [詳細] リンクをクリックして、サービス オペレーション ページにアクセスします。

サービス オペレーション	オペレーション タイプ	送信元ノード	受信元ノード
ACCOUNT_CHARTFIELD_FULLSYNC	非同期	PSFT_E1	PSFT_HR
ACCOUNT_CHARTFIELD_SYNC	非同期	PSFT_E1	PSFT_HR
BUS_UNIT_FS_SYNC	非同期	PSFT_HR	PSFT_E1
BUS_UNIT_GL_FULLSYNC	非同期	PSFT_E1	PSFT_HR
BUS_UNIT_GL_SYNC	非同期	PSFT_E1	PSFT_HR
COST_CENTER_FULLSYNC	非同期	PSFT_E1	PSFT_HR
COST_CENTER_SYNC	非同期	PSFT_E1	PSFT_HR

サービス オペレーション	オペレーション タイプ	送信元ノード	受信元ノード
GP_POST_GL	非同期	PSFT_HR	PSFT_E1
GP_POST_GL_REPLY	非同期	PSFT_E1	PSFT_HR
MARKET_RATE_REQ	非同期から同期	PSFT_HR	PSFT_E1
MARKET_RATE_SYNC	非同期	PSFT_E1	PSFT_HR

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Integration Broker

キュー設定の確認

キュー ステータス ページにアクセスします ([PeopleTools]、[インテグレーション ブローカー]、[サービス オペレーション モニター]、[管理]、[キュー ステータス])。

キュー ステータス		
ユーザー ID: PS		リフレッシュ
キュー	カスタイズ	検索 100 件表示 最初 1-100/178 最後
キュー名	ステータス	
ACTION_REASON	一時停止	実行
ACTUAL_TIME	一時停止	実行
APE_INDUSTRY	一時停止	実行
AS2_CHANNEL	実行中	一時停止
BANK	一時停止	実行
BENEFIT_DATA	一時停止	実行
BUDGET_POSITION	一時停止	実行
CLASSROOM_MEETING_UPDATE	実行中	一時停止
CLASSROOM_SCHEDULING_CHANGE	一時停止	実行
COMBO_CF_EDIT	一時停止	実行
COMMIT_CNTRL_BUDGET_UPDATE	一時停止	実行
COMPANY_PROPERTY	一時停止	実行
COMPETENCY	一時停止	実行
CORPORATE_CARD	一時停止	実行

キュー ステータス ページ

以下の各キューのステータスが "実行中" であることを確認します。

- ENTERPRISE_SETUP
- GP_POST_GL
- GL_SETUP
- MARKET_RATES

ステータスが "一時停止" のチャンネルがある場合は、**[実行]** をクリックして、そのチャンネルのステータスを変更します。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Integration Broker

PeopleSoft Enterprise HRMS データベースのデータの表示

EnterpriseOne のデータは、EnterpriseOne インテグレーション サーバーから送信される XML メッセージのサブスクリプションによって、HRMS データベース テーブルに自動的にインポート されます。

このセクションでは、メッセージ ステータスの確認とインポート データの表示に使用するページ を一覧に示し、以下の処理を行う方法について説明します。

- 一般会計ビジネス ユニット テーブルにインポートされたデータを表示するクエリーの作成
- 一般会計勘定科目テーブルにインポートされたデータを表示するクエリーの作成

サービス オペレーション ステータスの確認とインポート データの表示に使用する ページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
モニター概要	IB_MONITOR_OVRVIEW	[PeopleTools]、[インテグレーション ブローカー]、[サービス オペレーション モニター]、[モニター]、[非同期サービス]、[モニター概要]	サービス オペレーション またはキューでソートされた概要情報を表示します。
非同期詳細	IB_MONITOR_DET	[PeopleTools]、[インテグレーション ブローカー]、[サービス オペレーション モニター]、[モニター]、[非同期詳細]、[非同期詳細]	非同期サービス オペレーションのプロパティを表示します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
GL ビジネス ユニット	BUS_UNIT_TBL_GL	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[GL ビジネス ユニット]、[GL ビジネス ユニット]	一般会計ビジネス ユニット テーブルにインポートされたビジネス ユニットのコードと名称を表示します。
一般会計勘定科目テーブル	GL_ACCOUNT	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[チャートフィールド設定]、[チャートフィールド値] [勘定科目] をクリックします。	一般会計勘定科目テーブルにインポートされた勘定科目のコードと名称を表示します。
コスト センターの表示	HPYP_CC_TBL	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[GL の統合]、[共通 GL オブジェクト]、[コスト センターの表示]	コスト センター テーブルにインポートされるコスト センターを表示します。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Integration Broker

一般会計ビジネス ユニット テーブルにインポートされたデータを表示するクエリーの作成

GL ビジネス ユニット ページでは、一般会計ビジネス ユニット テーブルにインポートされた GL ビジネス ユニットのコードと名称しか表示されません。指定日や基本通貨といった、GL ビジネス ユニットの詳細情報を表示するには、クエリー マネージャを使用してクエリーを作成する必要があります。

クエリー マネージャを使用して一般会計ビジネス ユニット テーブルの情報を表示するクエリーを作成するには、次の手順に従います。

1. [レポート ツール]、[クエリー]、[クエリー マネージャ] の順にクリックします。
2. [新規クエリーの作成] をクリックします。

3. 検索条件として [レコード名] を指定し、「BUS_UNIT_TBL_FS」と入力して、値を検索します。
4. [レコードの追加] リンクをクリックします。
クリック後、クエリー ページが表示されます。
5. クエリー ページで、[全フィールドを選択] ボタンをクリックします。
6. レコード ページに移動して、検索条件としてレコード名を指定し、「BUS_UNIT_TBL_GL」と入力して、値を検索します。
7. [結合レコード] リンクをクリックします。
8. デフォルトの結合タイプである [フィルターをかけて、追加のフィールドを取得する結合 (標準結合)] を使用します。
9. [A= BUS_UNIT_TBL_FS - PS 財務ビジネス ユニット] リンクをクリックします。
10. [条件の追加] ボタンをクリックします。
11. クエリーに含めるフィールドを選択します。
12. クエリーを保存します。
13. クエリーを実行します。

これで、全ての GL ビジネス ユニットのリストが表示されます。

一般会計勘定科目テーブルにインポートされたデータを表示するクエリーの作成

一般会計勘定科目テーブル ページでは、一般会計ビジネス ユニット テーブルにインポートされた一般会計勘定科目のコードと名称しか表示されません。通貨や勘定科目タイプといった、GL 勘定科目の詳細情報を表示するには、クエリー マネージャを使用してクエリーを作成する必要があります。

クエリー マネージャを使用して一般会計勘定科目テーブルの情報を表示するクエリーを作成するには、次の手順に従います。

1. [レポート ツール]、[クエリー]、[クエリー マネージャ] の順にクリックします。
2. [新規クエリーの作成] をクリックします。
3. 検索条件として [レコード名] を指定し、「GL_ACCOUNT_TBL」と入力して、値を検索します。

4. [レコードの追加] リンクをクリックします。

クリック後、クエリー ページが表示されます。

5. クエリー ページで、クエリーに含めるフィールドを選択します。

6. クエリーを保存します。

7. クエリーを実行します。

ターゲット製品とターゲット システムの設定

ターゲット製品とターゲット システムを設定するには、ターゲット製品の設定コンポーネント (HPIP_CONFIG_PRD) とターゲットシステムの設定コンポーネント (HPIP_TGT_SYS_GL) を使用します。

このセクションでは、ターゲット製品とターゲット システムの設定の概要、会計行貸借一致デフォルトの概要、共通フィールド、および以下の作業を行う方法について説明します。

- ターゲット製品の設定
- ターゲット システムの設定

ターゲット製品とターゲット システムの設定について

このセクションで使われる用語の定義を次に示します。

ターゲット システム	メッセージ ノードで表される特定の GL インストールのことです。一般会計アプリケーションを実行するデータベースで、給与計算会計行の送信先となるシステムを識別します。
ターゲット製品	指定したターゲット システムの給与計算データの転記先となる一般会計製品です。

以下に、設定の手順をまとめます。

1. "ターゲット製品の設定" ページでターゲット製品のデフォルト処理を設定します。

2. "ターゲット システムの設定" ページでターゲット製品を選択して、そのターゲット製品とターゲット システムを関連付けます。

ターゲット製品の処理オプションはこのページで選択できます。"ターゲット システムの設定" ページで処理オプションを選択すると、ターゲット製品に対して既に指定されている処理オプションが上書きされます。

3. "GL ユニットの設定" ページでメッセージ ノード (ターゲット システム) を選択して、ターゲット システムと一般会計ビジネス ユニットを関連付けます。

各会計行には一般会計ビジネス ユニットが必須フィールドとして設定されているため、この処理を行うと、会計行とターゲット システムが関連付けられます。

会計行貸借一致のデフォルト設定について

会計行貸借一致について 2 つのデフォルト設定オプションを指定します。

- 会計行貸借一致

ビジネス ユニットの会計行を一般会計へ転記する前に、貸借一致が必要かどうかを指定します。

- オンの場合:

[会計行貸借一致] をオンにすると、転記処理によって各ビジネス ユニットの貸借が一致しているかどうか計算されます。

- オフの場合:

[会計行貸借一致] をオフにすると、会計行の転記前に貸借一致は計算されません。

- 仮計上科目に記帳

[会計行貸借一致] をオンにしたら、一般会計ビジネス ユニットに貸借不一致が発生した場合に、貸借不一致の金額を仮計上勘定科目に転記するかどうかを指定します。

- オンの場合:

[仮計上科目に記帳] をオンにする場合は、"GL ユニットの設定" ページで仮計上勘定科目番号を指定する必要があります。貸借が不一致の場合は、貸借不一致の金額と指定した仮計上勘定科目を含む会計行が新たに作成されます。

- オフの場合:

[仮計上科目に記帳] をオフにした場合に、勘定科目の貸借不一致が発生すると、その実行 ID の勘定科目は転記されず、対象の一般会計ビジネス ユニットの金額が貸借不一致であることを通知するエラー メッセージが表示されます。

注意: [仮計上科目に記帳] をオンにしても一般会計ビジネス ユニットの仮計上勘定科目を指定しておかないと、貸借不一致が発生した場合には、エラー メッセージが表示され、勘定科目は転記されません。

"ターゲット製品の設定" ページで、一般会計システムのデフォルト処理オプションを選択します。"ターゲット システムの設定" ページでは、"ターゲット製品の設定" ページで指定したデフォルトを上書きできます。また、会計行の転記処理を実行する際に、ラン コントロール ページでターゲット システムの処理オプションを上書きすることもできます。

このセクションで使用する共通フィールド

会計行貸借一致

各一般会計ビジネス ユニットについて貸借が一致しているかどうかを自動的に計算するには、このチェック ボックスをオンにします。

仮計上科目に記帳

このフィールドは、[会計行貸借一致] がオンの場合に入力可能になります。

貸借が不一致の場合に、貸借不一致の金額を仮計上勘定科目に転記するには、[仮計上科目に記帳] をオンにします。[仮計上科目に記帳] をオンにする場合は、"GL ユニットの設定" ページで仮計上勘定科目番号を指定する必要があります。

会計行を連結

会計行がグローバル ペイロールに自動的に連結されます。

ターゲット製品とターゲット システムの設定に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
ターゲット製品の設定	HPIP_CONFIG_PRD	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[GL の統合]、[共通 GL オブジェクト]、[ターゲット製品の設定]、[ターゲット製品の設定]	ターゲット製品のデフォルト処理を設定します。
ターゲット システムの設定	HPIP_TGT_SYS_GL	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[GL の統合]、[共通 GL オブジェクト]、[ターゲット システムの設定]、[ターゲット システムの設定]	ターゲット システムにターゲット製品を選択し、その処理オプションを更新します。

ターゲット製品の設定

"ターゲット製品の設定" ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[共通定義]、[GL の統合]、[共通 GL オブジェクト]、[ターゲット製品の設定]、[ターゲット製品の設定])。

ターゲット製品の設定	
製品: EnterpriseOne	製品リリース: 8.11
最大行チャック限度 <input checked="" type="checkbox"/> チャック限度の設定 会計行最大数: <input type="text" value="9999"/>	デフォルト処理オプション <input checked="" type="checkbox"/> 会計行を連結 <input checked="" type="checkbox"/> 会計行貸借一致 <input checked="" type="checkbox"/> 仮計上科目に記帳

"ターゲット製品の設定" ページ

注意: 通常、このページのデータはシステム データとして提供されているため、変更しないようにしてください。

最大行チャンク限度

チャンク限度の設定

会計行がターゲット製品に指定した最大行数を超えたときにデータのチャンクを自動的に行う場合は、このチェック ボックスをオンにします。

会計行最大数

このフィールドは、[チャンク限度の設定] がオンに設定されている場合にのみ入力できます。ターゲット製品で使用する会計行最大数を入力します。

ターゲット システムの設定

"ターゲット システムの設定" ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[共通定義]、[GL の統合]、[共通 GL オブジェクト]、[ターゲット システムの設定]、[ターゲット システムの設定])。

"ターゲット システムの設定" ページ

"ターゲット システムの設定" ページにアクセスする際に、EnterpriseOne との統合のために定義した PeopleSoft インテグレーション ブロカー ノードを選択します。このノードがターゲット システムを表します。

ターゲット システム詳細

"ターゲット製品の設定" ページで選択したデフォルト処理オプションが、"ターゲット システムの設定" ページのデフォルト値となります。デフォルト処理オプションはこのページで変更できます。また、会計行を転記する際に、プロセス ラン コントロール ページでこの処理オプションを上書きすることもあります。

製品 このターゲット システムの給与計算データの転記先となる一般会計製品として EnterpriseOne を選択します。

製品リリース 製品のリリース番号を選択します。

コスト センターと勘定科目のマッピング

コスト センターと勘定科目をマッピングするには、チャートフィールド コンポーネント (GP_GL_CHARTFLD)、エレメント グループ化コンポーネント (GP_GL_GROUP)、勘定科目マッピング コンポーネント (GP_GL_MAP)、コスト センター チャートフィールド コンポーネント (GP_CC_SETUP) を使用します。

このセクションでは、グローバル ペイロールと一般会計の統合に使用するコスト センターのマッピングの概要と、以下の作業を行う方法について説明します。

- 一般会計への費用の割り当てに使用するチャートフィールドの選択
- 一般会計処理用の支給、控除、累計のグループ化
- 一般会計勘定科目へのチャートフィールド値とエレメント グループのマッピング
- 支給元チャートフィールドの指定
- コスト センターのマッピングに使用するチャートフィールドの選択
- コスト センターへのチャートフィールド値のマッピング

グローバル ペイロールと一般会計の統合に使用するコスト センターのマッピングについて

一般会計ではコスト センター ID が必要です。コスト センター ID は、グローバル ペイロールによって作成される標準の会計行データではありません。したがって、コスト センターをチャートフィールドにマッピングして、コスト センターが EnterpriseOne に送信されるようにする必要があります。

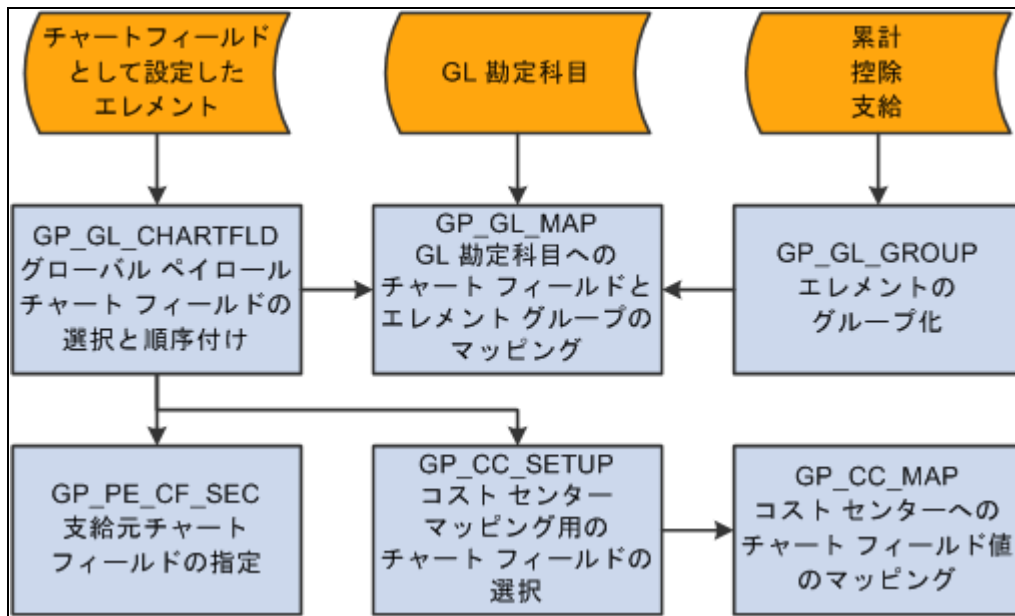
グローバル ペイロールでは、チャートフィールドは支給元、ビジネス ユニット、有効日によって特定できます。コスト センターを取得するには、コスト センターへのチャートフィールド定義のマッピングを同様の方法で有効にする必要があります。以下のような値があります。

- 支給元: このセクションで説明されている手順に基づいて支給元を設定する必要があります。
- ビジネス ユニット: このデータは会計行に直接反映されます。
- 有効日: 会計行の転記日です。

コスト センターは、会計行に指定したチャートフィールドのマッピング定義から取得されます。

マッピング プロセス図

次の図は、勘定科目とコスト センターのマッピングを行うページとそれぞれのページで使用するデータのソースを示したものです。図中の一番下の 3 つのステップは、コスト センターのマッピングに特有のステップです。



グローバル ペイロールでのコスト センターと勘定科目のマッピング

マッピング プロセスの手順

コスト センターと勘定科目をグローバル ペイロールにマッピングする際の手順について、以下に詳しく説明します。

1. チャートフィールドとして使用できるシステム エLEMENTと変数ELEMENTを指定します。
 - a. ソース/使用ページで [チャートフィールドとして使用] チェック ボックスをオンにし、プロンプト ビュー名を選択してシステム ELEMENTを指定します。"変数" の定義ページで [チャートフィールドとして使用] チェック ボックスをオンにし、プロンプト ビュー名を選択して、変数ELEMENTを指定します。
 - b. ELEMENT名ページで、[保存] チェック ボックスをオンにします。
 - c. 給与計算プロセス リストにチャートフィールド ELEMENTを追加します。

注意: 支給元をチャートフィールドとして設定する必要があります。たとえば、会社が組織の支給元と一致する場合は、COMPANY というELEMENTをチャートフィールドとして設定します。支給元に新しい変数を定義して、必要に応じてチャートフィールドとして設定します。

2. チャートフィールド ページ (GP_GL_CHARTFLD) で、特定のビジネス ユニットと支給元に対して適用するチャートフィールド エlementを 6 つまで選択します。

注意: このページには 8 つのチャートフィールドがあります。ただし、チャートフィールド 7 とチャートフィールド 8 は転記処理時にコスト センターのマッピング用として使用します。チャートフィールド 7 は管理エリアで上書きされ、チャートフィールド 8 はコスト センターで上書きされます。チャートフィールド 7 とチャートフィールド 8にどのようなElementを選択しても、一般会計に送信される転記によって管理エリアとコスト センターがそれぞれのチャートフィールドに設定されます。

- 各支給元とビジネス ユニットの支給元チャートフィールド Elementとして定義したElementを含める必要があります。
 - また、特定のビジネス ユニットに含まれる全ての支給元については、同じフィールド番号に支給元チャートフィールド Elementを設定する必要があります。
3. Element グループ化ページ (GP_GL_GROUP) で、支給、控除、および累計のElementをグループ化します。
 4. [マッピング] (GP_GL_MAP) ページで、Element グループとチャートフィールド値を対応する一般会計勘定科目にマッピングします。
 5. [支給元 GP チャートフィールド] (GP_PE_CF_SEC) ページで、支給元Elementを含むチャートフィールド番号を指定します。
 6. [コスト センター チャートフィールド] (GP_CC_SETUP) ページで、コスト センター マッピングに使用するチャートフィールドを選択します。
 7. [チャートフィールド マッピング] (GP_CC_MAP) ページで、コスト センターへのチャートフィールド値をマッピングします。

関連項目:

第 7 章、「計算Elementの定義」、195 ページ

第 39 章、「PeopleSoft Enterprise 一般会計との統合」、1525 ページ

コスト センターと勘定科目をグローバル ペイロール システムにマッピングする際に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
チャートフィールド	GP_GL_CHARTFLD	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[インテグレーション]、[チャートフィールド]、[チャートフィールド]	勘定科目とコスト センターのマッピングに使用するチャートフィールドを選択します。
エレメント グループ化	GP_GL_GROUP	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[インテグレーション]、[エレメントグループ化]、[エレメントグループ化]	特定の支給元およびビジネス ユニット用に、類似の支給、控除、累計をグループ化して一般会計の勘定科目にマッピングできるようにします。
マッピング	GP_GL_MAP	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[インテグレーション]、[勘定科目マッピング]、[マッピング]	グループ化された支給、控除または累計に関連付けられたチャートフィールド値の組み合わせに一般会計勘定科目をマッピングします。
コスト センター チャートフィールド	GP_CC_SETUP	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[インテグレーション]、[コスト センター チャートフィールド]、[コスト センターチャートフィールド]	コスト センターのマッピングに使用するチャートフィールドを選択します。
支給元 GP チャートフィールド	GP_PE_CF_SEC	コスト センター チャートフィールド ページの [支給元チャートフィールド] リンクをクリックします。	ビジネス ユニットの支給元チャートフィールドの連番を指定します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
チャートフィールド マッピング	GP_CC_MAP	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[インテグレーション]、[コスト センター チャートフィールド]、[チャートフィールド マッピング]	チャートフィールド値をコスト センターにマッピングします。

一般会計への費用の割り当てに使用するチャートフィールドの選択

チャートフィールド ページにアクセスします [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[インテグレーション]、[チャートフィールド]、[チャートフィールド]

コスト センターへのマッピングを行うには、このページのチャートフィールドの 1 つを支給元として選択します。特定のビジネス ユニットに含まれる全ての支給元については同じフィールド番号の支給元エレメントを設定する必要があります。

参照: 第 39 章、「PeopleSoft Enterprise 一般会計との統合」、一般会計への費用の割り当てに使用するチャートフィールドの選択、 1533 ページ。

一般会計処理用の支給、控除、累計のグループ化

エレメント グループ化ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[インテグレーション]、[エレメント グループ化]、[エレメント グループ化])。

参照: 第 39 章、「PeopleSoft Enterprise 一般会計との統合」、一般会計処理用の支給、控除、累計のグループ化、 1533 ページ。

一般会計勘定科目へのチャートフィールド値とエレメント グループのマッピング

マッピング ページにアクセスします [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[インテグレーション]、[勘定科目マッピング]、[マッピング]

参照: 第 39 章、「PeopleSoft Enterprise 一般会計との統合」、一般会計勘定科目へのチャートフィールドとグループ コードのマッピング、 1534 ページ。

コスト センターのマッピングに使用するチャートフィールドの選択

コスト センター チャートフィールド ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[インテグレーション]、[コスト センター チャートフィールド]、[コスト センター チャートフィールド])。

コスト センター チャートフィールド(C) チャートフィールド マッピング(M)

支給元: GAAUSBI Australian Business Institute2 [支給元チャートフィールド](#)

ビジネス ユニット: AUS01 Australian Business Unit

チャートフィールド定義 検索 | 全件表示 最初 1/1 最後

*有効日: 2004/03/27

☐ フィールドの確定

コスト センター チャートフィールド カスタマイズ | 検索 | 全件表示 最初 1/1 最後

チャートフィールド	エレメント名	編集テーブル		
1	DEPTID	DEPT_TBL		

コスト センター チャートフィールド ページ

支給元チャートフィールド

支給元 GP チャートフィールド ページにアクセスするには、このリンクをクリックします。

フィールドの確定

チャートフィールドの設定が終了したら、このチェック ボックスをオンにします。

[フィールドの確定] チェック ボックスをオンにすると、このページの全てフィールドにデータを入力することができなくなります。このチェック ボックスをオフにすると、フィールドの入力が可能になります。

コスト センター チャートフィールド

指定した支給元とビジネス ユニットのコスト センターをマッピングする際に使用するチャートフィールドを全てリストするには、必要に応じてグリッド内に行を追加します。

チャートフィールド

チャートフィールド ページで入力したエレメント名のフィールド番号を選択します。

エレメント名

選択したチャートフィールドのシステム エレメント名が表示されます。チャートフィールド マッピング ページでは、このエレメント名がフィールド ラベルとして使用されます。

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

1577

編集テーブル

チャートフィールドの値が含まれているレコードを選択します。

支給元チャートフィールドの指定

支給元 GP チャートフィールド ページにアクセスします (コスト センター チャートフィールド ページの [支給元チャートフィールド] リンクをクリックします)。

支給元 GP チャートフィールド

支給元:GAAUSBIAustralian Business Institute2

ビジネス ユニット:AUS01Australian Business Unit

支給元チャートフィールド

検索 | 全件表示 | 最初1/1最後

*有効日:2004/03/2731

+ -

*チャートフィールド:2

支給元 GP チャートフィールド ページ

チャートフィールド

チャートフィールド ページで指定した支給元チャートフィールド エレメントに対応するフィールド番号を選択します。

注意: 当該のビジネス ユニットに含まれる全ての支給元に対して、この番号は同じになります。

コスト センターへのチャートフィールド値のマッピング

チャートフィールド マッピング ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[インテグレーション]、[コスト センター チャートフィールド]、[チャートフィールド マッピング])。

コスト センター チャートフィールド(C)

チャートフィールド マッピング(M)

支給元:

GAAUSBI

Australian Business Institute2

ビジネス ユニット:

AUS01

Australian Business Unit

チャートフィールド定義

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

有効日:

2010/12/19

コスト センター マッピング

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

管理エリア:

コスト センター ID:

チャートフィールド値

加減

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

チャート値 1	名称

チャートフィールド マッピング ページ

コスト センター チャートフィールド ページで **[フィールドの確定]** チェック ボックスをオンした場合にのみ、このページのフィールドが入力可能になります。

- 有効日

有効日の変更は、チャートフィールド マッピング ページではできません。
- 管理エリア

チャートフィールドの組み合わせのマッピング先となる管理エリアを選択します。

EnterpriseOne の会社コードが Enterprise ビジネス ユニット GL テーブルにインポートされた場合は、このフィールドの有効値は Enterprise 管理エリア テーブルに登録された会社コードになります。
- コスト センター ID

チャートフィールドの組み合わせのマッピング先となるコスト センターを選択します。このフィールドの有効値は、Enterprise コスト センター テーブルにインポートした EnterpriseOne のビジネス ユニットです。

チャートフィールド値

このページにリストされる各チャートフィールドのチャートフィールド値を選択します。コスト センター チャートフィールド ページで指定した順序でチャートフィールドが表示されます。

各チャートフィールドの有効値は、コスト センター チャートフィールド ページの [編集テーブル] で指定した値になります。

為替レートを検索

為替レートを検索するには、市場レートのリクエスト (HIE1_MKT_RT_RNCTL) コンポーネントを使用します。

このセクションでは、為替レートの統合と通貨端数処理の概要、市場レートのリクエスト方法について説明します。

為替レートの統合について

為替レートは、Enterprise の給与計算システムと EnterpriseOne の財務/会計システムとで同期させておく必要があります。同じラン コントロール ページを使用して、同期をスケジュールするか、手動で為替レートをリクエストします。

注意: 市場レートの同期にこのプロセスを使用するには、通貨相互参照を PeopleSoft EnterpriseOne の XPI 相互参照データベースに設定しておく必要があります。

以下に、市場レートのリクエストの処理について簡単に説明します。

1. グローバル ペイロールでは、ユーザーがラン コントロール ページの通貨、通貨範囲、申請日を指定して、市場レートをリクエストします。

市場レート インポート アプリケーション エンジン プロセス (HI_MKT_RT) によって MARKET_RATE_REQ メッセージが作成され、このメッセージが同期されたメッセージに変換され、送信されます。

2. 指定した通貨ペアと日付に対応する市場レートを含む MARKET_RATE_SYNC 返信メッセージがインテグレーション サーバーから送信されます。

レコードの計算方法または通貨換算方法に基づいて、倍数または除数がメッセージにロードされます。その他のレートは 1.0 に初期設定されます。

3. インテグレーション ブローカーによる MARKET_RATE_SYNC メッセージのサブスクリプションによって、Enterprise 市場レート データ テーブル (RT_RATE_TBL) が更新されます。

注意: EnterpriseOne で使用する市場レートは全て設定し、Enterprise に同期させる必要があります。市場レートが Enterprise に設定されていても EnterpriseOne に設定されていない場合に、この市場レートの通貨を使用して給与計算トランザクションを処理すると、EnterpriseOne に無効なデータが作成されます。

EnterpriseOne に存在しない為替レートを検索すると、データは返されません。

通貨の端数処理について

詳細レベルと合計 (残高) レベルの両方に異なる通貨で金額を保存する場合は、端数処理の問題が考えられます。個々の金額を換算し、金額を合計して貸借一致を行い、合計金額を換算するといった処理が行われるために問題が発生します。その結果、合計額を換算した金額と個々の金額を換算してから合計した金額は一致しません。このような問題を回避するには、"ターゲット製品の設定" ページと "ターゲット システムの設定" ページの [会計行貸借一致] チェック ボックスをオンにする必要があります。

[会計行貸借一致] チェック ボックスがオンの場合:

- 全ての金額は、給与計算通貨と一般会計通貨の両方で転記されます。

主に、給与計算通貨では貸借一致が強制的に使用されます。

注意: [会計行貸借一致] チェック ボックスをオンまたはオフにしても、これが標準の処理方法になります。

- 給与計算通貨が一般会計通貨と異なる場合は、一般会計に送信されたセグメントごとに端数処理の調整に使用する会計行が新規に作成されます。

これにより、端数処理の差異によって一般会計通貨の金額が貸借不一致になることがなくなります。

- 会計行はチャンクごとに作成されます。
- [会計行貸借一致] チェック ボックスがオンに設定されていて、給与計算通貨が GL ビジネス ユニットの通貨と異なる場合にのみ、この会計行が作成されます。
- 新規に作成された会計行には、一般会計通貨による端数処理調整があります。給与計算通貨の金額は 0 になります。
- 使用される勘定科目は、GL ユニットの設定でユーザーが仮計上勘定として指定した勘定科目です。

GL ビジネス ユニットの仮計上科目が指定されていない場合は、端数処理調整の入力は作成されません。

- 説明フィールドには端数処理調整入力と表示されます。

関連項目:

第 40 章、「PeopleSoft EnterpriseOne 一般会計との統合」、会計行貸借一致のデフォルト設定について、1567 ページ

為替レートの検索に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
市場レート リクエスト	HIE1_MKT_RT_RNCTL	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[GL の統合]、[ペイロールと E1 の GL 統合]、[市場レートのリクエスト]、[市場レート リクエスト]	PeopleSoft EnterpriseOne Financial Management システムから市場レートを検索します。リクエストを設定するか、アドホックのリクエストを入力できます。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
モニター概要	IB_MONITOR_OVRVIEW	[PeopleTools]、[インテグレーション ブローカー]、[サービス オペレーション モニター]、[モニター]、[非同期サービス]、[モニター概要]	MARKET_RATE_SYNC (市場レート同期) メッセージのステータスを表示します。

市場レートのリクエスト

市場レート リクエスト ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[共通定義]、[GL の統合]、[ペイロールと E1 の GL 統合]、[市場レートのリクエスト]、[市場レート リクエスト])。

市場レートのリクエスト

ラン コントロール ID: 1212

[レポートマネージャ](#)[プロセスモニター](#)

実行

市場レート設定のインポート

*申請日:

2010/12/19

*レート タイプ:

OFFIC

Official Rate

*市場レート インデックス:

MODEL

Default

*ターゲット システム:

PSFT_E1

EnterpriseOne Remote Node

換算元通貨範囲

AUD

オーストラリアドル

NZD

ニュージーランドドル

換算先通貨範囲

USD

アフリカドル

USD

アフリカドル

市場レート リクエスト ページ

申請日

現在の日付を入力します。

PeopleSoft プロセス スケジューラによってリクエストをスケジュールする場合は、[申請日] に過去の日付が入力されると、自動的に現在のシステム日付に上書きされます。申請日が現在の日付の場合は、その日付が使用されます。

レート タイプ	インポートされた値を Enterprise テーブルに保存する際のレートタイプを選択します。値は、市場レート データ テーブル (RT_TYPE_TBL) に設定されています。
市場レート インデックス	インポートされた値を Enterprise テーブルに保存する際の市場レート インデックスを選択します。値は、市場レート インデックス テーブル (RT_INDEX_TBL) に設定されています。デフォルト値は "MODEL" です。
ターゲット システム	EnterpriseOne との統合のために設定したノードを選択します。
換算元通貨範囲	<p>リクエストする為替レートの換算元通貨の範囲を通貨コード (アルファベット) で指定します。</p> <p>たとえば、「GBP」 - 「EUR」のように指定します。</p> <p>換算元通貨が 1 つだけの場合は、両方のフィールドに同じ通貨を選択します。</p>
換算先通貨範囲	<p>リクエストする為替レートの換算先通貨の範囲を通貨コード (アルファベット) で指定します。</p> <p>換算先通貨が 1 つだけの場合は、両方のフィールドに同じ通貨を選択します。</p> <p>たとえば、「EUR」 - 「EUR」のように指定します。</p>

それぞれの通貨コード ペアについて、指定した換算元通貨範囲と換算先通貨範囲に一致する市場レートが検索されます。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース 9.1 PeopleBook: エンタープライズ コンポーネント

会計行の作成とグローバル ペイロールから一般会計への会計行の転記

このセクションでは、会計行の転記とグローバル ペイロールの転記処理の概要と、以下の作業を行う方法について説明します。

- グローバル ペイロール会計行の作成

- グローバル ペイロール会計行の転記
- トランザクション ステータスの表示
- セグメントごとに作成されたログ情報を表示します。
- グローバル ペイロール会計トランザクションのリセット

会計行の転記について

グローバル ペイロールで給与計算処理を行ったら、会計行を作成して、仕訳入力として一般会計に転記できます。通常、仕訳入力はヘッダーと行データで構成されます。

複数の通貨を使用するデータの場合は、最初に財務/会計システムと給与計算システム間で為替レートを同期させる必要があります。

転記フレームワークでは、GL ビジネス ユニット (Business_Unit_GL) によってグループ化されたサマリ GL トランザクションが転記されます。転記処理では、アプリケーション エンジン プロセスによって、データの準備、メッセージの作成、GL ビジネス ユニットに指定したノードへの送信が行われます。

インテグレーション サーバーによって EnterpriseOne 仕訳入力トランザクション - バッチ ファイル テーブル (F0911Z1) にデータがロードされます。グローバル ペイロールによって送信されたトランザクションが正常に転記され、F0911Z1 テーブルにロードされたかどうかを通知する返信メッセージがインテグレーション サーバーから送信されます。

F0911Z1 テーブルにデータがロードされたら、バッチ処理を実行してデータを確認し、取引明細テーブル (F0911) にレコードを挿入します。次に、ほかのトランザクションを転記する場合と同様に、F0911 テーブルから勘定残高テーブル (F0902) にトランザクションを転記します。

給与計算トランザクションのデータにエラーがある場合は、以下のように処理します。

- F0911 テーブルにトランザクションをロードする前に F0911Z1 テーブルのエラーを手動で修正します。
- F0911 テーブルにトランザクションをロードする前に F0911Z1 テーブルを消去します。次に、グローバル ペイロールの処理をリセットし、再実行して、トランザクションを一般会計に転記します。

参照: 第 40 章、「PeopleSoft EnterpriseOne 一般会計との統合」、バッチ転記でのデータのエラー処理、1600 ページ。

グローバル ペイロールの転記処理について

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- グローバル ペイロール会計行の作成と送信の手順
- 転記プロセス
- リセット プロセス

グローバル ペイロール会計行の作成と送信の手順

グローバル ペイロールに会計行を作成し、一般会計に送信するには、次の手順に従います。

1. 給与を計算し最終決定します。
2. 計算オプションをオンにして、GL トランザクション作成アプリケーション エンジン プロセス (GP_GL_PREP) を実行し、GL 会計行テーブル (GP_ACC_LINE) に給与計算会計行を作成します。

注意: 最終決定オプションを使用してこのプロセスを実行しないでください。EnterpriseOne と統合されているカレンダー グループ IDを選択すると、最終決定オプションはページに表示されません。

3. "一般会計確認 (勘定科目なし)" の "トランザクション" ページを表示して、勘定科目に関連付けられていない金額をチェックし、必要に応じて修正します。
4. 修正が済んだら、計算オプションをオンにして、GL トランザクション作成プロセスを再実行します。
5. GL の費用確定アプリケーション エンジン プロセス (HI_GP_POST) を実行して、仕訳入力を一般会計に転記します。
6. プロセス スケジューラのプロセス モニターで転記処理のステータスを確認します。
7. "GL トランザクション ステータスの表示" ページでトランザクションのステータスを確認します。

8. 会計データを転記後に修正する必要がある場合は、以下の作業を行います。

- a. GL リセット プロセス アプリケーション エンジン プロセス (GP_GL_RESET) を実行します。
- b. データを修正します。
- c. 2 から 5 までのステップを繰り返します。

転記処理の説明

GL の費用確定プロセスを実行すると、以下の手順で処理が行われます。

1. コスト センターを特定します。

- テーブル マッピングの設定に従って、管理エリアとコスト センターを特定します。
- 管理エリアを会計行のチャートフィールド 7 に書き込みます。
- コスト センターを会計行のチャートフィールド 8 に書き込みます。

2. 会計行貸借一致オプションがオンの場合は、貸借一致がチェックされます。

貸借が不一致の場合、GL ビジネス ユニットに仮計上勘定科目が定義されていれば、仮計上勘定の入力を作成します。あるいは、"仮計上勘定に記帳"オプションがオフ、または勘定科目が定義されていなければ、会計行は転記されずにエラーが表示されます。

外貨の合計金額がゼロで、国内通貨の合計金額がゼロ以外の場合は、通貨換算による端数処理で差額が発生したとみなされ、国内通貨の合計金額は強制的にゼロに設定されます。

3. GL ビジネス ユニットごとに個別の転記を作成します。

"ターゲット製品の設定" ページで設定したチャック限度に従って、各転記がセグメントに分割されます。セグメントには GL ビジネス ユニットの清算勘定を定義する必要があります。チャック限度がターゲット製品に設定されていない場合は、転記はセグメントに分割されません。この場合、清算勘定のチェックも行われません。各セグメントが GP_POST_GL XML メッセージと共に送信されます。

プロセス リセットの説明

トランザクションが一般会計に送信された後にエラーを発見した場合は、GL リセット プロセスを実行して、トランザクションを再転記する必要があります。

GL リセット プロセス

- グローバル ペイロール会計行ステージング テーブル (PS_GP_ACC_LINE_STG) の全ての行を削除します。このテーブルは、GL の費用確定プロセスの実行時に呼び出され、転記処理のソース レコードとなります。
- 終了済 GL ストリーム テーブル (PS_GP_GL_PREP_STRM) とカレンダー実行定義 テーブル (PS_GP_CAL_RUN) の GL 最終決定フィールドを "最終決定しない" にリセットします。

GL トランザクション作成処理を再実行して、カレンダー グループ ID について再転記をする前に、一般会計リセット処理を実行する必要があります。

関連項目:

第 40 章、「PeopleSoft EnterpriseOne 一般会計との統合」、会計行貸借一致のデフォルト設定について、[1567 ページ](#)

グローバル ペイロール会計行の作成と転記に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
一般会計へ送信	GP_GL_PREPARE	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[勤務管理/一般会計]、[費用データを一般会計へ送信]、[費用データを一般会計へ送信]	GP 会計行テーブルに給与計算会計行を作成します。
勘定科目なしトランザクション	GP_GL_NO_ACCT	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[勤務管理/一般会計]、[一般会計確認(勘定科目なし)]、[勘定科目なしトランザクション]	GL トランザクション作成アプリケーション エンジン プロセスの計算フェーズで一般会計勘定科目が割り当てられなかったトランザクションを確認します。 参照: 第 39 章、「PeopleSoft Enterprise 一般会計との統合」、一般会計勘定科目のないトランザクションの表示、1543 ページ。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
GL の費用確定	HPIP_GP_FINALIZE	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[勤務管理/一般会計]、[GL の費用確定]、[GL の費用確定]	会計行を転記するための準備をして、一般会計に転記します。
GL トランザクション ステータスの表示	HPIP_PRCS_STAT	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[勤務管理/一般会計]、[GL トランザクション ステータスの確認]、[GL トランザクション ステータスの表示]	転記処理でのトランザクション ステータスを表示します。
プロセス パラメータの表示	HPIP_PRCS_PAR_SEC	GL トランザクション ステータスの表示ページの [トランザクション詳細] タブで、[プロセス パラメータ] リンクをクリックします。	プロセス インスタンス情報のサマリを表示し、プロセス インスタンスを作成したプロセスを実行する際に使用したパラメータを表示します。
詳細トランザクションの表示	HPIP_PRCS_SEG_SEC	GL トランザクション ステータスの表示ページの [トランザクション詳細] タブで、[詳細トランザクション] リンクをクリックします。	セグメントごとに作成されたログ情報を表示します。
トランザクション パラメータの表示	HPIP_SEG_PAR_SEC	"詳細トランザクションの表示" ページで [トランザクション パラメータ] リンクをクリックします。	セグメント情報のサマリを表示し、セグメント転記の対象となった一般会計ビジネス ユニットを表示します。
会計行データの表示	HPIP_PRCS_DATA_SEC	GL トランザクション ステータスの表示ページの [トランザクション詳細] タブで、[会計行データ] リンクをクリックします。	転記処理で転記された会計行データのサマリを表示します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
プロセス メッセージ ログの表示	HPIP_PRCS_MSG_SEC	GL トランザクション ステータスの表示ページの [トランザクション詳細] タブで、[メッセージ ログ] リンクをクリックします。	アプリケーション エンジン プロセスの実行中に作成されたメッセージを表示します。このページの情報は、プロセス モニターのメッセージ表示機能で表示される情報と同じです。
一般会計リセット	GP_GL_RESET	[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[勤務管理/一般会計]、[一般会計リセット]	エラー発生のために再転記が必要になった場合、GL トランザクション作成プロセスを再実行する前に、一般会計リセット処理を実行します。

グローバル ペイロール会計行の作成

"一般会計へ送信" ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[勤務管理/一般会計]、[一般会計へ送信]、[一般会計へ送信])。

注意: 一般会計と統合する場合は、[最終決定] チェック ボックスをオンにして処理を実行しないようにしてください。選択したカレンダー グループ ID を EnterpriseOne と統合する場合は、[最終決定] チェック ボックスは使用できません。一般会計処理を最終決定するには、E1 の GL 確定ページを使用します。

参照: 第 39 章、「PeopleSoft Enterprise 一般会計との統合」、一般会計への給与計算データの送信、1540 ページ。

グローバル ペイロール会計行の転記

"GL の費用確定" ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[勤務管理/一般会計]、[GL の費用確定]、[GL の費用確定])。

GL の費用確定

ラン コントロール ID: 1212

レポート マネージャ

プロセス モニター

実行

カレンダー グループ ID

*カレンダー グループ ID: GD2APR01

Calendar Group GD2 Apr01

処理オプション

☐ 上書き

☐ 会計行貸借一致

☐ 仮計上勘定に記帳

オフサイクル グループ

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-2/2 最後

支給グループ*	カレンダー ID	支給日
GD2PG1	GD2PG1 APR01	2001/04/30
GD2PG2	GD2PG2 APR01	2001/04/30

"GL の費用確定" ページ

- 上書き

"ターゲット システムの設定" ページでターゲット製品にデフォルト設定した会計行貸借一致オプションを上書きするには、このチェック ボックスをオンにします。[上書き] チェック ボックスをオンにすると、[オプションの処理] グループ ボックス内のほかのフィールドも入力可能になります。
- 会計行貸借一致

各一般会計ビジネス ユニットについて貸借が一致しているかどうかを自動的に計算するには、このチェック ボックスをオンにします。
- 仮計上科目に記帳

このフィールドは、[会計行貸借一致] がオンの場合に入力可能になります。

貸借が不一致の場合に、貸借不一致の金額を仮計上勘定科目に転記するには、[仮計上科目に記帳] をオンにします。[仮計上科目に記帳] をオンにする場合は、"GL ユニットの設定" ページで仮計上勘定科目番号を指定する必要があります。

プロセス ステータスとメッセージ ログの確認

プロセスが正常に実行されても、検証、貸借一致、チャンキングなどの機能に問題が発生する場合があります。問題があるかどうかを判断するには、次の手順に従います。

1. [プロセス モニター] リンクをクリックして、"プロセス モニター" のプロセス リスト ページにアクセスします。
2. 検索条件を入力して、表示されるデータを絞り込み、**[更新]** ボタンをクリックします。
3. HI_GP_POST アプリケーション エンジン プロセスの実行ステータスが "成功" に設定されていることを確認します。
4. **[詳細]** をクリックして、プロセス インスタンスの詳細を表示します。
5. **[メッセージ ログ]** をクリックします。
 - エラーに関するメッセージを確認します。
 - 必要な場合は、プロセス インスタンスで処理されたカレンダー グループ IDを特定します。

転記処理で発生したプロセス サービス オペレーション モニターのログ エラーの解決

問題	解決方法
転記ステータスは "成功" ですが、検証処理の失敗により会計行が一般会計に転記されません。	エラー メッセージに報告されている問題を修正して、転記処理を再実行します。
転記ステータスは "成功" ですが、貸借一致処理の失敗により会計行が一般会計に転記されません。	<p>以下の 2 つの項目どおりに設定されているかを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 転記処理のラン コントロール ページ ("GL の費用確定" ページ)で [仮計上勘定への記帳] がオンになっている。 • "GL ユニットの設定" ページで、仮計上勘定科目番号が割り当てられている。 <p>設定を訂正したら、転記処理を再実行します。</p>
転記ステータスは "成功" ですが、チャンキング処理の失敗により会計行が一般会計に転記されません。	<p>"GL ユニットの設定" ページで、清算勘定が指定されていることを確認します。</p> <p>清算勘定を入力したら、転記処理を再実行します。</p>

関連項目:

第 40 章、「PeopleSoft EnterpriseOne 一般会計との統合」、会計行貸借一致のデフォルト設定について、1567 ページ

トランザクション ステータスの表示

GL トランザクション ステータスの表示ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[勤務管理/一般会計]、[GL トランザクション ステータスの確認]、[GL トランザクション ステータスの表示])。

GL トランザクション ステータスの表示

プロセス インスタンスの表示

ユーザー ID

リフレッシュ

プロセス インスタンス

終了

過去 1 日間

プロセス リスト

カスタイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

プロセス インスタンス

トランザクション ステータス

トランザクション 詳細

インスタンス	プロセス名	名称	ユーザー	実行日時	ステータス

GL トランザクション ステータスの表示ページ

注意: 会計行の転記処理を続けると、転記処理が実行されるたびにトランザクション ステータス テーブルにデータが書き込まれるため、テーブル内のデータ量が増大します。このテーブルのデータは自動的に消去されません。トランザクション ステータス テーブルからデータを消去するには、各行の削除ボタンをクリックします。GL トランザクション ステータスの表示ページで行を削除してからページを保存すると、"プロセス パラメータの表示"、"詳細トランザクションの表示"、"会計行データの表示" の各ページに表示されるデータも消去されます。

プロセス インスタンスの表示

このグループ ボックスのフィールドを使って、表示するプロセス インスタンスを選択します。前日のプロセス インスタンスが自動的に表示されます。

- ユーザー ID

ユーザー ID を入力すると、その ID に関連付けられているプロセス インスタンスのみが表示されます。
- プロセス インスタンス

表示するプロセス インスタンスの番号がわかっている場合は、その番号を入力します。

過去

数値を入力してから、該当の期間（日間、時間、または分間）を選択します。全ての結果を表示する場合には、[なし] を選択します。

リフレッシュ

検索条件を入力したら、このボタンをクリックして、[プロセス リスト] グループ ボックスに表示される情報をリフレッシュします。

[プロセス インスタンス] タブ

このタブのフィールドには、プロセス モニターと同じ情報が表示されます。

[トランザクション ステータス] タブ

[トランザクション ステータス] タブを選択します。

GL トランザクション ステータスの表示

プロセス インスタンスの表示

ユーザー ID

リフレッシュ

プロセス インスタンス

終了

過去

1

日間

プロセス リスト

カスタイズ | 検索 | 全件表示 | | 最初 1/1 最後

プロセス インスタンス

トランザクション ステータス

トランザクション詳細

インスタンス	トランザクション ステータス	エラー コード	メッセージ セット	番号	

GL トランザクション ステータスの表示ページ: [トランザクション ステータス] タブ

トランザクション ステータス

転記トランザクション全体のステータスが表示されます。転記トランザクションには、複数のセグメント (または、チャンク) を含めることができます。各セグメントにはステータスが個別に設定され、その個別のステータスは "詳細トランザクションの表示" ページで確認できます。トランザクション全体のステータスが [成功] になるのは、全てのセグメントのステータスが [成功] の場合です。トランザクション全体のステータスが [エラー] になるのは、1 つ以上のセグメントのステータスが [エラー] の場合です。

以下の値があります。

成功

エラー

処理中

ステージ

エラー コード

転記トランザクションでエラーが発生した場合は、エラーの原因が処理レベルで表示されます。以下の値があります。

勘定科目不一致: 勘定科目初期ロードまたは差分ロード時に相互参照された割当済みの勘定科目番号が給与計算トランザクションの会計行の勘定科目番号と一致しない場合に発生します。Z1 ステージング テーブルへの行の挿入は試行されませんでした。

挿入エラー: 主キーの省略などの問題により、給与計算トランザクションの会計行が Z1 ステージング テーブルに挿入できませんでした。Z1 ステージング テーブルに行は挿入されませんでした。

プロセス エラー: 転記処理時またはその後のインテグレーション ブローカーでのメッセージ処理時に発生するエラーです。詳細については、プロセス モニターまたはサービス オペレーション モニターの説明を参照してください。

情報使用不可: エラーの原因についての情報がありません。

確認失敗: 転記処理で実行された確認処理が失敗しました。詳細については、"プロセス メッセージ ログの表示" ページの説明を参照してください。

インテグレーション ブローカー エラー: インテグレーション ブローカーによってメッセージが送信されませんでした。

「Enterprise データベースでのインテグレーション設定」のセクションで説明されている設定を確認し、設定が全て正しく行われているかどうかをチェックします。

セグメント エラー: 現在の転記処理でエラーのあるセグメントが 1 つでもあると発生します。詳細については、"詳細トランザクションの表示" ページを参照してください。

不明なリターン コード: 一般会計から送信されたリターン コードが解釈できません。リターン メッセージの詳細については、サービス オペレーション モニターの説明を参照してください。

メッセージ セット、番号、詳細

転記トランザクションのステータスを説明するメッセージが表示されます。メッセージ セットとメッセージ番号がある場合は、詳細リンクをクリックすると、該当するメッセージが表示されます。

[トランザクション詳細] タブ

[トランザクション詳細] タブを選択します。

GL トランザクション ステータスの表示

プロセス インスタンスの表示

ユーザー ID

リフレッシュ

プロセス インスタンス

終了

過去 1 日間

プロセス リスト

カスタイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

プロセス インスタンス | トランザクション ステータス | トランザクション詳細

インスタンス	プロセス パラメータ	メッセージ ログ	詳細トランザクション
	プロセス パラメータ	メッセージ ログ	詳細トランザクション

GL トランザクション ステータスの表示ページ: [トランザクション詳細] タブ

各転記トランザクションが、ターゲット製品に指定した会計行最大数を超える場合は、複数のセグメントに分割されます。インテグレーション ブローカーによって個別のメッセージがセグメントごとに送信されます。個々のセグメントのステータスや情報を表示するには、このページを使用します。

- プロセス パラメータ

このリンクをクリックすると、"プロセス パラメータの表示" ページにアクセスします。
- メッセージ ログ

このリンクをクリックすると、"プロセス メッセージ ログの表示" ページにアクセスします。
- 詳細トランザクション

このリンクをクリックすると、"詳細トランザクションの表示" ページにアクセスします。

リターン コード エラー

GL トランザクション ステータスの表示ページに "勘定科目不一致" または "挿入エラー" というリターン コードが表示され、会計行が Z1 ステージング テーブルに挿入されなかった場合は、以下の手順に従います。

1. 財務担当責任者はオフライン仕訳の処理ページのトランザクション番号フィールドから Enterprise プロセス インスタンス ID を特定して、給与担当責任者に通知します。

2. 給与担当責任者は GL トランザクション ステータスの表示ページにアクセスし、[プロセス インスタンスの表示] グループ ボックスのフィールドに検索条件を入力して影響を受けるプロセス インスタンスを検索します。
- 給与担当責任者は影響を受けるプロセス インスタンスを確認したら、以下の作業を行います。
- a. [トランザクション詳細] タブをクリックします。
 - b. [プロセス パラメータ] をクリックします。
 - c. "プロセス パラメータの表示" ページの情報に基づいて影響を受けるカレンダー グループ ID を特定します。
3. 給与担当責任者はそのカレンダー グループ ID に対する一般会計処理をリセットして、再実行します。

セグメントごとに作成されたログ情報の表示

詳細トランザクションの表示ページにアクセスします (GL トランザクション ステータスの表示 - [トランザクション詳細] タブの [詳細トランザクション] リンクをクリックします)。

View Detail Transactions

プロセス インスタンス

カスサイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

セグメント	ステータス	エラー コード	チャネル	パブリケーション ID	トランザクション パラメータ	ID メッセージ詳細
1					トランザクション パラメータ	ID メッセージ詳細

戻る

"詳細トランザクションの表示" ページ

- セグメント、ステータス

セグメントごとにセグメント番号とステータスが表示されます。
- エラー コード

セグメント レベルのエラーが発生した場合は、問題を特定するエラー コードがこのフィールドに表示されます。
- チャネル

転記または市場レート リクエスト メッセージが送信されたキューが表示されます。
- パブリケーション ID

転記または市場レート リクエスト メッセージのパブリケーション ID が表示されます。

- トランザクション パラメータ

このリンクをクリックすると、セグメント情報のサマリが表示されます。転記先のターゲット システムや市場レート of 検索元となるターゲット システムも表示できます。
- IB メッセージ詳細

このリンクをクリックすると、別の画面が表示され、このセグメントのメッセージ インスタンスに対してメッセージ詳細ページが表示されます。

グローバル ペイロール会計トランザクションのリセット

一般会計リセット ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[勤務管理 /一般会計]、[一般会計リセット])。

一般会計リセット

ラン コントロール ID: 1212

[レポート マネージャ](#)[プロセス モニター](#)

実行

給与計算実行

*カレンダー グループ ID: GD2APR01Calendar Group GD2 Apr01

カレンダー リスト

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1-2/2 | 最後

支給グループ*	カレンダー ID	支給日
GD2PG1	GD2PG1APR01	2001/04/30
GD2PG2	GD2PG2APR01	2001/04/30

ストリーム

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

ストリーム番号	開始従業員 ID	終了従業員 ID	計算済
			<input type="checkbox"/>

一般会計リセット ページ

注意: 送信された元のトランザクションにエラーが発生したために、トランザクションの再転記が必要になる場合にのみ、一般会計リセットを行います。リセットしたら、データのエラーを修正し、一般会計処理を再度実行します。

カレンダー グループ ID GP GL インターフェイス処理をリセットする際に対象となるカレンダー グループを選択します。リセットは選択したカレンダー グループ全体に適用されます。

このページのその他のフィールドは表示専用のため、データの入力や変更はできません。

バッチ転記でのデータのエラー処理

このセクションでは、データのエラー処理の概要と、以下の作業を行う方法について説明します。

- 消去または再処理するデータの特定
- 給与会計行のリセットと再転記

データのエラー処理について

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- データのエラー発生の可能性
- データのエラー修正手順

データのエラー発生の可能性

データのエラー処理が必要な理由を以下に挙げます。

- 一般会計へデータを転記した後で、給与担当責任者が会計行にエラーがあることを発見する可能性があります。

- EnterpriseOne の仕訳入力バッチ処理プログラム (R09110Z) を実行すると、特定の勘定科目コードとコスト センターの組み合わせが確認され、無効な勘定科目番号が検出される可能性があります。

グローバル ペイロール アプリケーションから一般会計に送信される会計行には、勘定科目コードとコスト センターの情報が含まれています。Enterprise の勘定科目コードは EnterpriseOne の主科目と補助科目に対応し、Enterprise のコスト センターは EnterpriseOne の会社に対応します。

EnterpriseOne の勘定科目はビジネス ユニット、主科目、補助科目で構成されているため、Enterprise の勘定科目コードとコスト センターの組み合わせでは無効な EnterpriseOne の勘定科目が作成される可能性があります。

以下に例を示します。

- 有効な EnterpriseOne の会社に対応しないコスト センターを Enterprise で使用する可能性があります。
- EnterpriseOne の会社複数の勘定科目が含まれていて、それぞれの勘定科目の主科目と補助科目は同じでも、ビジネス ユニットが異なる場合、統合によって EnterpriseOne には間違ったビジネス ユニット、主科目、補助科目の組み合わせが作成される可能性があります。

データのエラー修正手順

エラーを発見した場合は、以下の作業を行います。

- 財務担当責任者と給与担当責任者は、意思疎通を図り、エラーの処理方法を調整して、修正するデータを特定できるようにする必要があります。
- 給与担当責任者は給与計算設定のエラーの修正が必要になる場合があります。

たとえば、勘定科目コードとコスト センターによって無効な EnterpriseOne 勘定科目番号が作成される場合、Enterprise の別の勘定科目コードまたはコスト センターに金額を計上する必要が生じる可能性があります。

- 財務担当責任者は EnterpriseOne の正しい勘定科目に金額を再配布することが必要になる可能性があります。

たとえば、EnterpriseOne に複数の勘定科目があり、それぞれの勘定科目の主科目と補助科目は同じであるが、ビジネス ユニットについては同一会社内で異なる場合、Enterprise の勘定科目コードとコスト センターは正しくても、EnterpriseOne では間違った勘定科目に金額が計上されてしまいます。

一般会計に転記された給与データのエラーは、以下のいずれかの方法で処理できます。

- EnterpriseOne データベースのテーブル内のエラーを修正します。
- EnterpriseOne データベースからエラーを含むレコードを消去して、Enterprise 給与計算アプリケーションの管理者に以下のリクエストをします。
 1. 一般会計転記処理をリセットする。
 2. 給与計算設定のエラーを修正する。
 3. 一般会計処理を再実行し、その処理結果を再転記する。

F0911Z1 テーブルのエラーが多すぎて修正できなかった場合に、この方法を使用します。

消去または再処理するデータの特定

給与計算データの再処理が必要な場合、財務担当責任者と給与担当責任者は協力して再処理するデータを特定する必要があります。このセクションでは、以下の場合に消去または再処理するデータを特定する方法について説明します。

- 財務担当部門でデータの修正が発生した場合
- 給与担当部門でデータの修正が発生した場合

財務担当部門でデータの修正が発生した場合

財務担当部門でデータの修正が発生した場合は、以下の作業を行います。

1. 財務担当責任者の作業:

- a. オフライン仕訳の処理ページのトランザクション番号フィールドから Enterprise のプロセス インスタンス ID を特定します。

このページのトランザクション番号が Enterprise のプロセス インスタンス ID になります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 8.12 Application Integrations with Oracle PeopleSoft Enterprise Applications Implementation Guide の「Using the PeopleSoft Enterprise Payroll to JD Edwards EnterpriseOne General Ledger Integration」、
「Processing PeopleSoft Enterprise Payroll Data in JD Edwards EnterpriseOne General Ledger」、
「Locating Payroll Batch Transactions in the JD Edwards EnterpriseOne System」

- b. プロセス インスタンス ID を給与担当責任者に連絡します。

2. 給与担当責任者はそのプロセス インスタンスを GL トランザクション ステータスの表示ページで確認し、影響を受けるカレンダー グループ ID を特定します。

給与担当部門でデータの修正が発生した場合

給与担当部門でデータの修正が発生した場合は、以下の作業を行います。

1. 給与担当責任者の作業:

- a. GL トランザクション ステータスの表示ページを確認して、再処理が必要なカレンダー グループ ID に関連付けられているプロセス インスタンス ID を特定します。
- b. プロセス インスタンス ID を財務担当責任者に連絡します。

2. 財務担当責任者はこのプロセス インスタンス ID に基づいて、オフライン仕訳の処理ページの給与計算バッチ処理トランザクションを特定します。

給与計算プロセス インスタンス ID はこのページのトランザクション番号と同じです。

給与会計行のリセットと再転記

EnterpriseOne で F0911Z1 レコードのバッチ処理を消去する場合は、一般会計処理をリセットして、会計行を再転記するように Enterprise の給与アプリケーション管理者に連絡する必要があります。

第 41 章

PeopleSoft Enterprise 勤務管理との統合

この章では、勤務管理で記録された給与支給対象時間に対してグローバル ペイロールで実行する給与計算方法の概要と、以下の作業方法について説明します。

- 勤務管理との統合のためのグローバル ペイロールの設定
- 勤務管理データを使った給与計算の実行
- 給与支給対象時間の支給対象ステータスの更新
- 勤務管理との勤務スケジュールの共有

勤務管理で記録した給与支給対象時間に対するグローバル ペイロールでの給与計算の方法について

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- 勤務管理との統合によりグローバル ペイロールで実行されるタスク
- 勤務管理での給与支給対象時間の作成方法
- 給与計算実行を起動したときの処理の仕組み
- 計画の注意点

勤務管理との統合によりグローバル ペイロールで実行されるタスク

勤務管理では、受給者が勤務した時間が管理され、グローバル ペイロールなどの給与計算システムで処理される給与支給対象時間が算出されます。グローバル ペイロールを勤務管理と統合すると、給与計算実行時に給与支給対象時間を処理したり、給与計算実行後に費用データを勤務管理に送り返したり、従業員スケジュールを共有したりすることができます。

勤務管理との統合のためのシステム設定を一度行えば、グローバル ペイロールでは以下の処理が可能になります。

- 承認済み休暇欠勤データが勤務管理に渡されます。これにより、勤務管理で費用評価用の給与支給対象時間を作成するために使われるルール プロセスで休暇欠勤データを評価できるようになります。
- 給与計算実行の計算フェーズを起動するたびに、給与支給対象時間がグローバル ペイロールにロードされます。
- 給与支給対象時間が作成済みポジティブ入力として処理されます。これにより作成済みポジティブ入力に適用されるルールが全て給与支給対象時間にも適用されることになります。
- 現在の期間または相殺する期間の給与支給対象時間が処理されます。
- 給与計算処理が完了すると、費用データが勤務管理に返されます。これにより、費用データを給与支給対象時間の入力全体に配分したり、プロジェクト管理などのアプリケーションに送信したりすることができるようになります。

注意: グローバル ペイロールと勤務管理を統合して使用する場合、休暇欠勤イベント ページ、休暇欠勤イベント セクションの勤務管理セルフサービス タイムシート、または休暇欠勤セルフサービスのページを使用して、休暇欠勤イベントをグローバル ペイロールに入力できます。休暇欠勤イベントを入力すると、勤務管理の休暇取得プロセスと勤務時間管理プロセスで使われる休暇欠勤イベント テーブル (GP_ABS_EVENT) に情報がロードされます。

関連項目:

第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、615 ページ

勤務管理での給与支給対象時間の作成方法

勤務管理でレポートされる時間の各インシデントは、勤務時間レポート コード (TRC) と関連付けられます。このコードは、時間のタイプ (正規、ミーティングなど)、ユニット、通貨などの属性を指定するために使います。時間の各入力にはタスク コードも指定できます。タスク コードを使うと、製品や場所などのカテゴリ別に、時間をより詳細なレベルで管理できます。また、勤務管理とグローバル ペイロール間で送受信する会計情報を管理することもできます。勤務管理をグローバル ペイロールと統合するには、支給、控除、および休暇取得のエレメントを勤務時間レポートコードにマッピングする必要があります。サポート エレメント、タスク コード変数、チャート フィールドのマッピングが必要になる場合もあります。

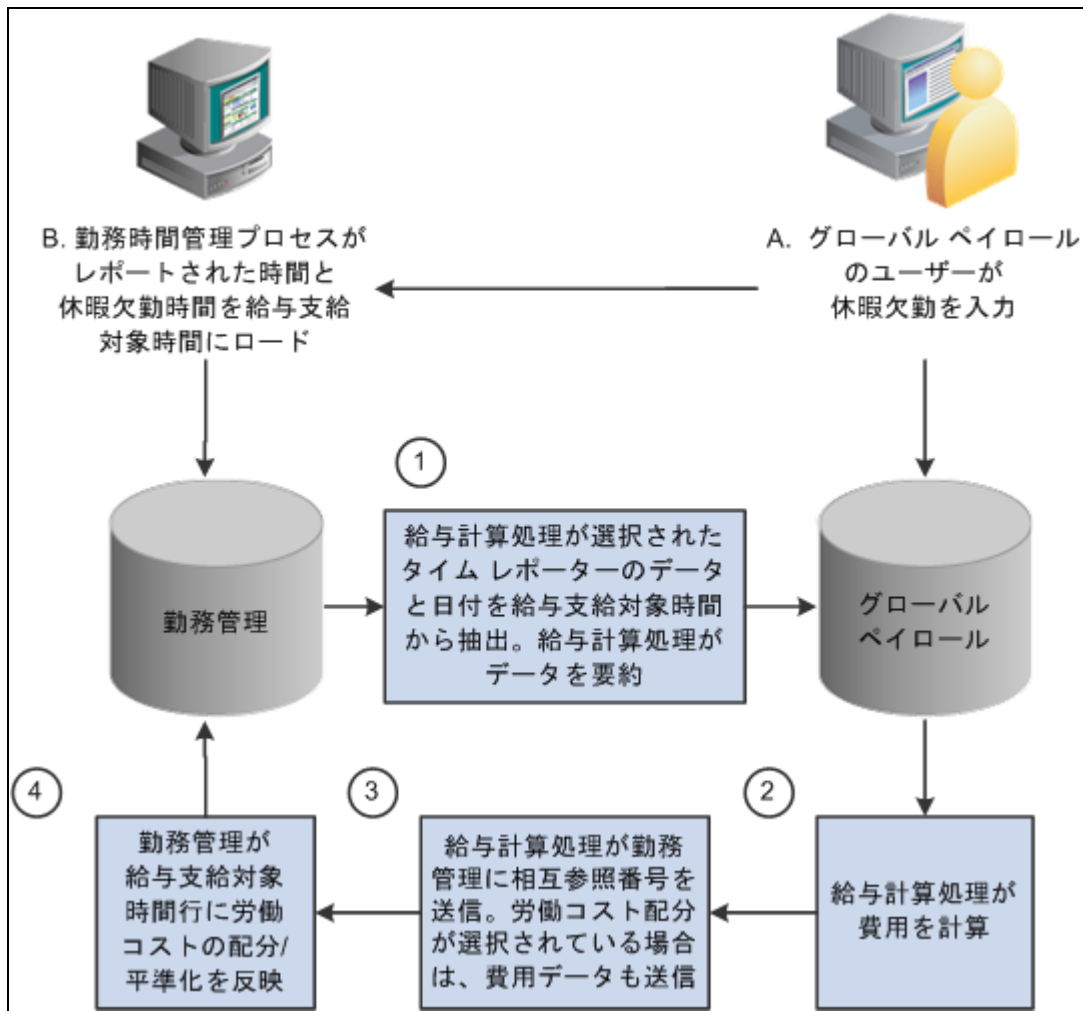
勤務管理でレポートされた時間は、給与計算システムに送信して処理する前に、**給与支給対象時間**に変換する必要があります。給与支給対象時間には、給与支給処理のための準備ができていますことを示す **"給与支給ステータス"** が設定されている必要があります。勤務管理の勤務時間管理プロセスでは、ユーザー定義のルール セットを勤務時間レポート コードに対応した時間入力に適用することによって、給与計算処理に使用できる給与支給対象時間が生成されます。これらのルールは、時間外労働、休暇手当、保証時間、連続日数などの状況に対して適用できます。

給与計算実行を起動したときの処理の仕組み

グローバル ペイロールでは、給与計算実行の計算フェーズ中に、処理の準備ができています給与支給対象時間が勤務管理から抽出されます。グローバル ペイロールで計算フェーズが最初に実行されるときには、現在のカレンダーに指定された全受給者の処理が行われます。2 回目以降の実行時には、変更された給与支給対象時間の各インスタンスに対して反復トリガと遡及トリガが作成され、エラーまたは反復トリガのある受給者だけが再処理されます。給与支給対象時間は、給与計算を実行するたびに抽出されます。

給与計算実行が最終決定されたら、勤務管理の給与支給対象時間入力を更新する更新プロセスを起動します。労働コスト配分プロセスと労働単価平準化プロセスを使うように選択してある場合は、更新プロセスによってこの 2 つのプロセスも起動されます。労働コスト配分を使わない場合、給与支給対象時間入力のステータスは、グローバル ペイロールによって CL (終了) に設定されます。

次のフローチャートは、グローバル ペイロールと勤務管理間でのデータのやりとりを示したものです。



グローバル ペイロールと勤務管理の統合

注意: 勤務管理に送信される休暇欠勤データは、受給者の給与支給には使用されません。受給者の給与支給はグローバル ペイロールで計算されます。労働コスト配分機能を使用する場合は、給与計算が最終決定した後で、算出された金額が勤務管理に送り返されます。

計画の注意点

グローバル ペイロールと勤務管理は両方ともルール ベースのシステムであり、同じタイプのルールを実行できます。2 つの製品を統合する前に、それぞれのシステムでどのルールを適用するか十分に検討する必要があります。一般的には、以下のルールを定義します。

- 超過勤務やシフト特別レートなど特殊な状況を含む給与支給対象時間を計算するルールを勤務管理で定義します。
- 支給を計算するルールをグローバル ペイロールで定義します。

勤務時間レポート コード (TRC) は、総支給額と純支給額の累計に加算または減算されるグローバル ペイロールの支給と控除にマッピングされます。勤務時間レポート コードに支給エレメントをどのようにマッピングするかを決める必要があります。たとえば、総支給額に累計されない支給エレメントに勤務時間レポート コードをマッピングするとします。この方法では、勤務時間レポート コードに関連付けられている費用であっても、支給総額に含めない費用 (たとえば事業主が支払う社会保険料など) を計算するために、別のルールを使用することができます。給与所得者に対してこれと同じ方法を適用すれば、勤務管理で集計された時間を給与計算そのものには使用せず、費用の算出にのみ使用するといったことが可能になります。

以下に要点をまとめます。

- 総額に累計する支給エレメントを 1 つ定義します。

これは、給与計算処理で受給者の給与明細を計算するために使用される支給エレメントです。このエレメントは勤務時間レポート コードにマッピングしないでください。

- 総支給額に含めない 2 番目の支給エレメントを定義します。

この支給エレメントは、費用算出の目的のみに使用されます。また、受給者の給与に加えて、間接費など追加する必要がある費用を全て含めることができます。このエレメントを勤務時間レポート コードにマッピングし、正確な費用データを勤務管理に返して、原価計算、計画、または予算編成のアプリケーションで使用できるようにします。

注意: 時間給労働者などの場合のように、総支給額に 2 番目の支給エレメントを追加する必要がある場合は、総支給額に累計する 2 番目の支給エレメントに勤務時間レポート コードをマッピングすることができます。

注意: 勤務時間レポート コードをマッピングする全ての支給エレメントがポジティブ入力を受信するように設定されていることを確認してください。グローバル ペイロールでは勤務管理の情報が作成済みポジティブ入力として取得されるためです。

注意: 勤務時間レポート コードにマッピングされたエレメントのステータスを非アクティブに変更する場合は、勤務管理で勤務時間レポート コードのマッピングを更新します。

勤務管理との統合のためのグローバル ペイロールの設定

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- チャートフィールドと変数のマッピング

- 勤務時間レポート コードと実行タイプのマッピング
- 給与支給対象時間のトリガ作成
- タスクとサポート エLEMENTのマッピング

勤務管理と統合するためのグローバル ペイロールの設定に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
チャートフィールド マップ	GP_CHART_ELEM	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[インテグレーション]、[チャートフィールド コード マップ]、[チャートフィールド コード マップ]	勤務管理で定義されたチャートフィールドをグローバル ペイロールで定義したチャートフィールド変数にマッピングします。
実行タイプ	GP_RUN_TYPE	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレーム ワーク]、[プロセス]、[実行タイプ]、[実行タイプ]	給与計算実行の実行タイプを定義して、勤務管理の勤務時間レポート コードと変動報酬に関連付けます。
トリガ定義	GP_TRGR_SETUP	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、[トリガ定義]、[トリガ定義]	トリガ タイプ、レコードレベル、トリガで使用するフィールドを定義して、イベント ID に関連付けます。
タスク コード マップ	GP_TL_TASK_ELEM	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[インテグレーション]、[タスク コード マップ]、[タスク コード マップ]	勤務管理で定義されたタスク コードをグローバル ペイロールで定義したサポート エLEMENTにマッピングします。

チャートフィールドと変数のマッピング

チャートフィールド マップ ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[インテグレーション]、[チャートフィールド マップ]、[チャートフィールド マップ])。

チャートフィールド コード マップ

国: GXA GXA - GP Core Country

チャートフィールド マッピング

カス

チャートフィールド コード	エレメント入力タイプ	エレメント名	名称
関係会社	変数	GP GL AFFILIATE	関係会社 - チャートフィールド
関係会社 - 資金	変数	GP GL AFF INTRA1	関係会社 ユニット内 1 - チャートフィールド
関係会社 - 業務ユニット	変数	GP GL AFF INTRA2	関係会社 ユニット内 2 - チャートフィールド
代替勘定科目	変数	GP GL ALT ACCOUNT	代替勘定科目 - チャートフィールド
予算参照	変数	GP GL BUDGET REF	予算参照 - チャートフィールド
チャートフィールド 1	変数	GP GL CHARTFIELD1	チャートフィールド 1 - チャートフィールド
チャートフィールド 2	変数	GP GL CHARTFIELD2	チャートフィールド 2 - チャートフィールド
チャートフィールド 3	変数	GP GL CHARTFIELD3	チャートフィールド 3 - チャートフィールド
クラス フィールド	変数	GP GL CLASS	クラス フィールド - チャートフィールド
部門	変数	GP GL DEPT	GL 部門 - チャートフィールド

チャートフィールド マップ ページ

グローバル ペイロールでは、以下に示す勤務管理の各チャートフィールドに対してそれぞれ変数が用意されています。

- GP GL PRODUCT
- GP GL PROJECT
- GP GL DEPT
- GP GL FUND
- GP GL PROGRAM
- GP GL CLASS
- GP GL AFFILIATE

- GP GL ALT_ACCOUNT
- GP GL BUDGET_REF
- GP GL CHARTFIELD1
- GP GL CHARTFIELD2
- GP GL CHARTFIELD3
- GP GL AFF_INTRA1
- GP GL AFF_INTRA2

チャートフィールド マップ ページでは、PeopleSoft の標準設定チャートフィールドを上記のチャートフィールドの変数にマッピングできます。このマッピングにより、グローバル ペイロールでは給与支給対象時間のチャートフィールド情報を受信できます。組織が業務を行っているそれぞれの国に対して異なるマッピング方法を作成できます。

注意: 最大 8 つのマッピング チャートフィールドを PeopleSoft Enterprise 一般会計に自動的に送信できます。したがって、各マッピングに追加するチャートフィールドは 8 つ以内にしてください。

チャートフィールド コード 変数にマッピングする勤務管理チャートフィールドを入力します。

エレメント入カタイプ チャートフィールドのマッピング先のエレメントのタイプを選択します。値は以下のとおりです。

[変数]: ユーザーによって作成された変数です。たとえば、フィールドに表示される情報と一致するように、GP GL CHARTFIELD1 の名前を変更するといった場合があります。

[システム エレメント]: PeopleSoft で提供される標準の設定チャートフィールドです。

エレメント名 チャートフィールドのマッピング先の変数の名前を選択します。

セットID フィールド コード、 サポート エレメント 変数またはシステム エレメントに関連付けられたセット ID フィールドが表示されます。

タスクのマッピングと給与支給対象時間のバンドル

タスク コードをエレメントにマッピングすることにより、勤務管理から受け取った給与支給対象時間をグローバル ペイロールでバンドルするための条件が指定されます。給与支給対象時間がポジティブ入力テーブルにロードされると、グローバル ペイロールでは類似のデータ行がバンドルされ、後で勤務管理に返される相互参照番号が各バンドルに割り当てられます。バンドルを行うには、入力が以下の条件を満たしている必要があります。

- 同一のスライスおよびセグメント内にあること
- 同じ通貨およびレートを共有していること (通貨およびレート情報がある場合)
- 同じタスク値を共有していること

このルールは、サポート エレメントにマッピングされたタスクにだけ適用されます。

注意: グローバル ペイロールでは、勤務管理の期間、セグメント、またはスライスの終了日が、バンドルされた入力セットに関連付けられたシステム エレメント "指定日の給与レート" にロードされます。分割がない場合には、勤務管理期間の終了日が使われます。分割がある場合には、セグメントまたはスライスの終了日が使われます。システム エレメントにより、レート コードの有効日付き定義が取得されます。

受給者レベルでのチャートフィールド値の上書きの定義

勤務管理の PeopleSoft 標準設定チャートフィールドをグローバル ペイロールの変数またはシステム エレメントにマッピングすると、どのチャートフィールドが支給や控除に関連付けられているかが自動的に識別されるようになります。グローバル ペイロールでは、これらのサポート エレメントを使用して、勤務管理からグローバル ペイロールに送信される受給者レベルのチャートフィールド値を保存します。

参照: 第 18 章、「上書きの設定」、受給者上書きの定義、667 ページ。

勤務時間レポート コードと実行タイプのマッピング

実行タイプ ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[フレームワーク]、[プロセス]、[実行タイプ]、[実行タイプ])。

グローバル ペイロールでは、実行タイプが各カレンダーに関連付けられている必要があります。実行タイプによって、給与計算実行のプロセス タイプ (給与計算または休暇欠勤計算)、プロセス リスト、有効な勤務時間レポート コードが識別されます。給与計算プロセスを実行すると、実行タイプにリストされた各勤務時間レポート コードについて、(グループとペイロールの期間終了日時点での) 有効日付き定義が取得されます。次に、その実行タイプに含まれている勤務時間レポート コードの給与支給対象時間入力だけが抽出されます。

勤務管理システムで、支給、控除、休暇取得エレメントをそれぞれ対応する勤務時間レポート コードにマッピングします。

関連項目:

第 16 章、「カレンダーの使い方」、実行タイプの定義、581 ページ

給与支給対象時間のトリガ作成

トリガ定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[トリガ]、[トリガ定義]、[トリガ定義])。

グローバル ペイロールでは何らかのシステム アクションに結びつくデータ変更を検出するためにトリガを使用します。グローバル ペイロールに送信した給与支給対象時間に対して勤務管理で加えられる変更を検出するために、2 種類のトリガ (反復トリガと遡及トリガ) を作成します。変更が加えられると、次回給与計算処理を実行したときに、遡及処理がトリガされます。

注意: 遡及トリガを作成する前に、遡及イベント定義ページでトリガ イベント ID を定義してください。

レコード (テーブル) 名	[TL_PAYABLE_TIME] を選択します。
トリガ タイプ	[遡及] または [反復] を選択します。
トリガ ステータス	[アクティブ] を選択します。
トリガ レベル	[レコード] を選択します。
トリガ イベント ID	このフィールドは遡及トリガの場合のみ入力可能です。
トリガ有効日タイプ	このフィールドは遡及トリガの場合のみ入力可能です。

関連項目:

第 30 章、「トリガの設定」、トリガ定義の設定、 1131 ページ

タスクとサポート エレメントのマッピング

タスク コード マップ ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[インテグレーション]、[タスク コード マップ]、[タスク コード マップ])。

タスク コード マップ

国: CYM ケイマン諸島

タスク マッピング

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-3/3 最後

タスク フィールド コード	エレメント タイプ	エレメント名	名称	セットID フィールド コード	サポート エレメント		
ビジネスユニット	システム エレメント	BUSINESS UNIT	ビジネス ユニット			+	-
部門 ID	システム エレメント	DEPTID	部門 ID	SETID_DEPT	SETID DEPT	+	-
職務コード	システム エレメント	JOBCODE	職務コード	SETID_JOBCODE	SETID JOBCODE	+	-

タスク コード マップ ページ

タスクを使用して、会社、ビジネス ユニット、製品、部門など、受給者が勤務時間をレポートする単位 (エンティティ) を定義します。

タスク エンティティをマッピングしないと、グローバル ペイロールでは費用の計算が支給と控除のレベルだけで行われるため、タスク別の費用内訳の情報が勤務管理に提供されません。組織が業務を行っているそれぞれの国に対して異なるマッピング方法を作成できます。

タスク マッピング

グローバル ペイロールにロードする各勤務管理エレメントの数だけ行を挿入します。グローバル ペイロールでは、バンドル処理時に、選択したエンティティについて同じ値を共有する給与支給対象時間のインスタンスが 1 つにまとめられます。たとえば、[タスク フィールド コード] フィールドで [ビジネス ユニット] を選択した場合には、同じビジネス ユニットの共有する給与支給対象時間のインスタンスが給与計算実行の開始時にバンドルされます。

タスク フィールド コード	サポート エlement にマッピングする勤務管理のエンティティを選択します。値は以下のとおりです。 [ビジネス ユニット]、[組み合わせコード]、[会社]、[国]、[部門 ID]、[職務コード]、[所在地]、[製品]、[レート値]、[都道府県州]、[USERFIELD1] ~ [USERFIELD5]
エレメント タイプ	タスク コードのマッピング先のエレメントのタイプを選択します。 [変数] または [システム エlement] のいずれかを選択します。
エレメント名	タスク フィールド コードとして [部門 ID]、[所在地]、または [職務コード] を、エレメント タイプとして [システム エlement] を選択すると、タスク エンティティの値を抽出するエレメントの名前がこのフィールドに自動的に表示されます。その他の場合は、タスクのマッピング先のエレメントの名前を選択します。[エレメント タイプ] フィールドのフィールド値に応じて、システム エlement または変数エレメントのリストからだけ選択できます。
セットID フィールド コード、 サポート エlement	タスク フィールド コードとして [部門 ID]、[所在地] または [職務コード] を、エレメント タイプとして [システム エlement] を選択すると、エレメントと関連付けられているセットID フィールドコードとそのセットID フィールドコードに関連付けられているシステム エlement の名前がそれぞれ自動的に表示されます。

勤務管理データを使用した給与計算の実行

このセクションでは、遡及処理の概要と以下の項目について説明します。

- 給与計算実行の準備
- 給与計算実行の起動
- 給与計算実行のキャンセル

遡及処理について

勤務管理で調整された給与支給対象時間では 2 行のデータが作成されます。1 つの行では古い値が取り消されたり、相殺されます。もう 1 つの行には新しい値が入ります。グローバル ペイロールでは、元の行と相殺行が無視され、新しく作成された行に対して処理が行われます。

勤務管理のデータを変更すると遡及トリガが作成され、現在の支給期間または繰越期間のどちらかで、支給期間の再計算と修正が行われます。

給与計算実行の準備

給与計算実行を準備するには、以下の手順に従います。

1. 勤務時間管理プロセスが実行されていることを確認します。

承認済みの各休暇欠勤イベントについて、休暇取得エレメントのコード、休暇の開始と終了日、さらに、1日に満たない休暇欠勤があればその時間が勤務管理で参照されます。また、勤務管理のスケジュール決定プロセスもトリガされます。このプロセスにより、休暇欠勤日、つまり勤務日の既定時間の一部でも勤務時間として記録されていない日が検出され、従業員のデフォルトのスケジュールに基づいて、それぞれの休暇欠勤時間数が決定されます。

勤務時間管理プロセスを実行して、レポート済みおよびスケジュール済みの勤務時間を給与支給対象時間に換算する必要もあります。

注意: 勤務管理では承認済みの休暇欠勤データだけが処理され、未承認の休暇欠勤データは勤務管理の給与支給対象時間テーブルに渡されません。

2. 勤務管理データを選択するカレンダーを作成します。

グローバル ペイロールの "カレンダー" の定義ページを使用して給与計算実行用のカレンダーを作成するには、以下のようにカレンダーを設定します。

- 指定期間のデータを抽出します。

[勤務カレンダー] フィールドで期間を選択します。全てのカレンダー期間を表示するプロンプト テーブルから選択します。[勤務カレンダー] フィールドを空白のままにしておくと、給与支給対象時間を抽出できません。勤務管理計算期間 ID は、計算期間 ID と同じにすることも、別にすることもできます。たとえば、勤務管理計算期間 ID が 3 月であり、現在の計算期間 ID が 4 月の場合、受給者が選択の対象となるには、3 月に給与支給対象時間があり、4 月に少なくとも 1 日は勤務している必要があります。

- 実行タイプを選択して、処理対象の勤務時間レポート コードを指定します。

3. 勤務時間管理プロセスが支給対象の受給者に対して実行されていることを確認します。

注意: グローバル ペイロールでは支給グループ別に給与計算プロセスを実行します。勤務管理ではワークグループ別に勤務時間管理プロセスを実行します。給与計算を開始する前に、給与計算実行の対象となる全受給者に対して勤務時間管理プロセスを必ず実行しておきます。

参照: 第 41 章、「[PeopleSoft Enterprise 勤務管理との統合](#)」、勤務管理との勤務スケジュールの共有、1624 ページおよび第 16 章、「[カレンダーの使い方](#)」、カレンダーと受給者選択条件のリンク、594 ページ。

給与計算実行の起動

勤務管理データを使用して給与計算実行を開始するには、以下の手順に従います。

1. 給与計算プロセスの確認フェーズを起動して受給者を選択します。

グローバル ペイロールでは、「カレンダー」の定義ページで指定した実行タイプと [勤務カレンダー] フィールドの期間にマッピングされた勤務時間レポート コードに給与支給対象時間のある受給者が検索されます。確認プロセスは、単独で起動することも、計算プロセスから起動することもできます。

2. 計算フェーズを起動して給与支給対象時間を選択します。

グローバル ペイロールでは、選択した受給者の給与支給対象時間がポジティブ入力作成テーブルにロードされます。また、以下の条件を満たす給与支給対象時間の行だけが検索されます。

- カレンダー実行タイプにマッピングされた勤務時間レポート コード (TRC) がある。
- 現在期間の入力については、以下のいずれかの給与支給ステータスを持つ。

ES(見積済 - 給与計算実行可)

AP(承認済 - 給与計算承認)

SP(給与計算に送信)

RP(給与計算で却下)

- 遡及期間の入力について、給与支給ステータスが以下のもの**以外**であること

NA(要承認)

CL(終了): 支給システム フィールドが グローバル ペイロール に設定されていないとき

IG (無視)

NP (支給なし)

OE (オンラインでの見積のみ)

- グローバル ペイロールでは、以下のように各入力の給与支給ステータスの更新も行われます。

SP - グローバル ペイロールにロードされた全支給対象時間の入力に適用されます。ただし、ステータスが PD (支払済 - 労働コスト配分) または DL (支払済 - 平準労働単価) の入力は除きます。

IG - 勤務管理で相殺値や新規入力を作成される変更が行われたために、今後使用されることのない全給与支給対象時間の入力に適用されます。

3. 結果を検証しエラーを修正します。

受給者メッセージ ページで、処理エラーやメッセージを確認します。計算フェーズを完了した支給対象時間の入力、ポジティブ給与計算ページで参照できます。ソースの値が "勤務管理" である入力を確認します。また、ポジティブ入力-給与計算ページには、バンドルされた給与支給対象時間の入力、処理が終了したものも表示されます。

勤務管理で作成された入力値を調整または修正する必要がある場合には、まず勤務管理でその値に変更を加えた後で計算フェーズを再び実行します。この操作を行うことにより、勤務管理とグローバル ペイロールのデータの同期を保つことができます。

給与計算実行のキャンセル

給与計算実行をキャンセルすると、勤務管理からグローバル ペイロールにロードされた給与支給対象時間のデータが削除され、各給与支給対象時間入力の給与支給ステータスが RP (給与計算で却下) に更新されます (理由コードは "キャンセル")。ただし、以下の 2 つの条件に該当する場合は、例外となります。

- 給与支給ステータスが "PD"、"DL"、"CL" または "TP" (取得済 - 給与計算で使用済) の場合
- 給与支給対象時間がほかの給与計算システムにも送信されている場合 (入力に関連付けられている給与計算システムのフラグに基づく)

給与支給対象時間入力の給与支給ステータスの更新

このセクションでは、給与支給対象時間のステータス更新の概要と、給与支給ステータスの更新と費用データの返送を行う方法について説明します。

給与支給対象時間のステータスの更新

グローバル ペイロールの "費用データを勤務管理へ送信" ページから更新プロセスを起動して、更新の処理を開始します。

更新プロセスでは以下の処理が行われます。

- SP (給与計算に送信) に設定された各入力の給与支給ステータスが以下のように更新されます。
 - 入力为正しく処理されても、勤務管理で労働コスト配分機能が使用可になっていない場合は、ステータスは CL (クローズ) になります (理由コードは "配分なし")。
 - 入力が抽出されても、処理されなかった場合は、RP (給与計算で却下) になります (理由コードは "未処理")。

このステータスが適用されるのは、グローバル ペイロールで給与支給対象時間が処理されない場合です。これは、ユーザーが同じ支給エレメントまたは控除エレメントに手動でポジティブ入力を行った場合に生じる可能性があります。手動で行ったポジティブ入力は常に優先されます。このことは、従業員が支給または控除の対象でない場合や受給者が給与計算からキャンセルされた場合にも生じることがあります。

- 各給与支給対象時間入力に対して元の勤務管理連番が返されます。同時に、その連番に対応して、グローバル ペイロールのバンドル プロセス中に作成された相互参照番号も返されます。

この相互参照番号により、勤務管理ではどの入力がバンドルされたかが識別され、支給と控除について算出された費用を日次詳細にリンクできるようになります。

- 勤務管理で労働コスト配分機能を使用できるように設定してある場合は、給与支給対象時間の入力に関連付けられている費用データが勤務管理に送られます。

労働コスト配分機能は使用可能、労働単価平準化機能は使用不可になっている場合は、グローバル ペイロールから送られた労働コスト配分額と平準化された労働コスト配分額は同じになります。

- 労働コスト配分機能と労働単価平準化機能の両方が勤務管理で使用可能に設定されている場合は、労働コスト配分額がグローバル ペイロールから勤務管理に送られます。その後、労働単価平準化プロセスが起動されます。

給与支給対象時間入力の給与支給ステータスの更新に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
費用データを勤務管理へ送信	GP_TL_PREPARE	[グローバル ペイロール /休暇欠勤管理]、[勤務管理/一般会計]、[費用データを勤務管理へ送信]、[費用データを勤務管理へ送信]	支給対象時間入力の給与支給ステータスを勤務管理で更新します。また、労働コスト配分機能が有効な場合は費用データを返します。 このページを使用する前に、給与計算実行を最終決定しておく必要があります。

給与支給ステータスの更新と費用データの返送

"費用データを勤務管理へ送信" ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[勤務管理/一般会計]、[費用データを勤務管理へ送信]、[費用データを勤務管理へ送信])。

費用データを勤務管理へ送信

ラン コントロール ID: 1212

[レポート マネージャ](#) [プロセス モニター](#)

実行

給与計算実行

*カレンダー グループ ID:

Calendar Group GD2 Aug01

ストリーム番号:

転記日:

31

☐ ストリーム処理

処理オプション

☐ 統計の更新

カレンダー リスト

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 |

最初

1-2/2

最後

支給グループ*	カレンダー ID	支給日
GD2PG1	GD2PG1 AUG01	2001/08/31
GD2PG2	GD2PG2 AUG01	2001/08/31

ストリーム

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 |

最初

1/1

最後

ストリーム番号	開始従業員 ID	終了従業員 ID	勤務管理送信日時
---------	----------	----------	----------

"費用データを勤務管理へ送信" ページ

1 回の給与計算実行につき更新プロセスを 1 回だけ実行できます。プロセス ストリームを使用して給与計算を実行した場合には、同じプロセス ストリームを使用してデータを勤務管理に返すことができます。1 回に 1 つのストリームに対してラン コントロールを起動します。実行するたびにこのページに戻り、次のストリームに対してラン コントロールを起動します。

給与計算実行

カレンダー グループ

データを勤務管理に送るカレンダー グループを選択します。最終決定したカレンダー グループのみを選択できます。

ストリーム番号、ストリーム処理

選択したカレンダー グループがストリーム処理を行うように設定されている場合には、[ストリーム処理] チェック ボックスがオンになります。処理するストリーム番号を選択します。

転記日

現在の日付がデフォルト値として表示されます。ユーザーはこの日付を適切な転記日に変更することができます。一般会計が実行されている場合は、このフィールドに値を入力することはできなくなり、一般会計の転記日が表示されます。

Copyright © 1988, 2010, Oracle and/or its affiliates. All Rights Reserved.

1623

処理オプション

統計の更新

このチェック ボックスは、データベース管理者がシステムの処理効率を最適化するために使用します。オンにすると、バッチ処理中に統計が出力され、作業テーブルの使用状況に関する情報を得ることができます。

カレンダー リスト

支給グループ、カレンダー ID [支給グループ] フィールドには、[カレンダー ID] フィールドに表示されるカレンダーに関連付けられた支給グループが表示されます。[カレンダー ID] フィールドは [カレンダー グループ ID] フィールドに関連付けられています。

支給日 カレンダーに設定された支給日が表示されます。

ストリーム

ストリーム番号 処理したストリームの番号が表示されます。

開始従業員 ID、終了従業員 ID このストリームで処理された従業員 ID が表示されます。

勤務管理送信日時 プロセス ストリームが勤務管理に送信された時刻が表示されます。

関連項目:

[第 21 章、「給与計算の処理」、ストリーム処理の作成、 837 ページ](#)

勤務管理との勤務スケジュールの共有

勤務管理およびグローバル ペイロールでは、スケジュールの設定および割り当てに、多数の共通ページや共通レコードを使います。両方のシステムを使用している場合、スケジュールの設定と割り当ては 1 回で済みます。ただし、表示されるスケジュール情報はアプリケーションによって異なります。

- グローバル ペイロールから "勤務スケジュールの割当" ページにアクセスすると、代替勤務スケジュールを割り当てるためのフィールドが表示されます。

勤務管理からこのページにアクセスした場合は、これらのフィールドは表示されません。

- グローバル ペイロールからシフト ページにアクセスする場合には、ユーザーが定義したスケジュール設定フィールドの 4 つにデータを入力できます。

勤務管理からこのページにアクセスした場合は、これらのフィールドは表示専用になります。

- グローバル ペイロールから "勤務スケジュールの割当" ページにアクセスすると、部門セキュリティの設定によりアクセスが許可されている受給者を表示できます。

勤務管理からこれらのページにアクセスする場合は、そのアプリケーションのセキュリティ オプションによって表示される受給者が異なります。

- グローバル ペイロールまたは勤務管理から "勤務スケジュールの割当" ページにアクセスすると、デフォルトのスケジュールが使用中の場合、別のスケジュールが表示される場合もあります。

勤務管理では、受給者のデフォルト スケジュールとしてワークグループのスケジュールが使用されます。一方グローバル ペイロールでは、支給グループのスケジュールが使用されます。受給者がデフォルト スケジュールを使用するように設定されていて、支給グループとワークグループに異なるデフォルト スケジュールが指定されている場合は、2 つのページに表示される内容が異なります。

関連項目:

第 13 章、[「スケジュールの使い方」](#)、473 ページ

第 42 章

変動報酬機能との統合

この章では、変動報酬の報奨の概要とその処理方法について説明します。

変動報酬の報奨について

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の変動報酬管理ビジネス プロセスを使用すると、複数の奨励プランを作成、管理できます。奨励プランに基づく報奨は、金銭であっても金銭以外であっても、PeopleSoft グローバル ペイロールを使って受給者に支払うことができます。

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- 変動報酬との統合のためのグローバル ペイロールの設定
- 変動報酬報奨の承認
- 報奨の取得と検証
- 変動報酬データのインテグレーション ポイント

関連項目:

[第 16 章、「カレンダーの使い方」、実行タイプの定義、 581 ページ](#)

[第 17 章、「ポジティブ入力の使い方」、 615 ページ](#)

変動報酬との統合のためのグローバル ペイロールの設定

変動報酬アプリケーションで、各変動報酬プランをグローバル ペイロールの適切な支給エレメントにマッピングする必要があります。

グローバル ペイロールでは、取得および処理の対象となる報奨レコードに関連付けられた支給エレメントを指定します。報奨処理で使用するカレンダーの実行タイプを設定する際に、この情報を実行タイプ ページの変動報酬詳細グループ ボックスに入力します。

報奨取得プロセスでは、実行タイプに含まれる支給エレメントに関連付けられている報奨レコードだけが取得されます。

関連項目:

第 16 章、「カレンダーの使い方」、実行タイプの定義、 581 ページ

変動報酬報奨の承認

変動報酬の報奨がヒューマン リソース管理で承認されると、グローバル ペイロールからアクセスできる一時ファイルに報奨データが送信されます。グローバル ペイロールではそのデータが検証され、その結果承認された報奨と承認されなかった報奨が変動報酬アプリケーションに通知されます。承認された報奨はポジティブ入力の作成済みデータ テーブルにロードされます。

給与計算処理を実行すると、ソースから受け取ったポジティブ入力に対する処理と同じ処理が報奨データに対して実行されます。給与計算処理を最終決定したら、報奨データが処理済みであることを変動報酬に通知します。処理の前に報奨データを却下または削除できます。

報奨の取得と検証

変動報酬管理からグローバル ペイロールに報奨レコードが送信されたら、レコードを取得して検証します。検証プロセスを通過したレコードはポジティブ入力の作成済みデータ テーブルにロードされ、更新できなくなります。

エラーのある報奨レコードは、グローバル ペイロールから変動報酬管理に通知されます。これらのエラー メッセージは変動報酬の管理者用ですが、PS アプリケーション サービス オペレーション モニターに表示することもできます。各メッセージのステータスはエラー (E) で、以下のいずれかの理由コードが含まれています。

- 03: 無効通貨コード
- 05: 既存のトランザクションあり
- 09: グローバル ペイロール更新エラー
- 11: ACK_PUB 更新エラー
- 13: PIN 番号無効

変動報酬管理の管理者は必要な修正を行い、グローバル ペイロールに修正レコードを再送します。

変動報酬データのインテグレーション ポイント

以下の 2 つのインテグレーション ポイントを使用して、ヒューマン リソース管理とグローバル ペイロールとの間で変動報酬データを転送します。

- 変動報酬の支払リクエスト (GP)
 - このインテグレーション ポイントでは、変動報酬支給リクエスト サービス オペレーション (VAR_COMP_PAYMENT_REQUEST_GP) が使用されます。

データは変動報酬給与計算インターフェイス チャネル (VAR_COMP_PAYROLL_INTERFACE) から提供されます。

- ヒューマン リソース管理により、データが変動報酬リクエスト ステージング テーブル (PS_VCGP_RQT_PUB) に送信され、グローバル ペイロールで使用できるようになります。
- 変動報酬の支給 (GP) の承認/確認
 - このインテグレーション ポイントでは、変動報酬支給承認サービス オペレーション (VAR_CMP_PAYMENT_ACKNOWLEDGE_GP) が使用されます。

データは変動報酬給与計算インターフェイス チャネル (VAR_COMP_PAYROLL_INTERFACE) から提供されます。

- このインテグレーション ポイントでは、変動報酬支給承認のグローバル ペイロール送信ルール (VAR_CMP_PAYMENT_ACKNOWLEDGE_GP) も使用されます。
- グローバル ペイロールにより、データが給与計算承認ステージング テーブル (PS_GPVC_ACK_PUB) に送信されます。

次に、ヒューマン リソース管理でテーブルを受信してグローバル ペイロールのデータが取得されます。この送信と受信は、ほぼリアルタイムで行われます。

注意: PeopleSoft アプリケーションで使用されるインテグレーション ポイントの技術的詳細については、My Oracle Support の Implementation Guide セクションにある「Interactive Services Repository」を参照してください。

変動報酬報奨の処理

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 報奨の取得
- 報奨の却下
- 報奨の削除
- 変動報酬管理への給与計算結果の通知

変動報酬報奨の処理に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
変動報酬取得	GP_VC_AWARDS	[グローバル ペイロール /休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[変動報酬取得]、[変動報酬取得]	変動報酬の報奨データの取得と検証、報奨データの却下または削除を行います。また、給与計算実行の最後に変動報酬管理への通知を行います。

報奨の取得

変動報酬取得ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[変動報酬取得]、[変動報酬取得])。

変動報酬取得

ラン コントロール ID: 1212

[レポート マネージャ](#)

[プロセス モニター](#)

実行

実行プロセスの選択

☐ 報奨データをグローバル ペイロールにロード

☒ プラン ID の報奨データを却下

☐ プラン ID の報奨データを削除

☐ 変動報酬に通知を送信

カレンダー グループ ID:

GAMAPR2004

April 2004 Monthly Payroll

支給グループ:

GAEXECMTH

Monthly Executive Group

カレンダー ID:

GAMEXAPR04PAY

*変動報酬プラン ID:

HVEMPDISC

Employee discretionary plan

*支給期間 ID:

HX3

変動報酬取得ページ

報奨データを取得するには、以下の手順に従います。

- 1. [報奨データをグローバル ペイロールにロード] をオンにします。
- 2. カレンダー グループ ID、支給グループおよびカレンダー ID を選択します。
- 3. [実行] ボタンをクリックします。

実行プロセスの選択

報奨データをグローバル ペイロールにロード	変動報酬管理からグローバル ペイロールに報奨データをロードするには、このオプション ボタンをオンにします。
プラン ID の報奨データを却下	選択したプラン ID の報奨データとグローバル ペイロールで取得されなかった支給期間を却下する場合は、このオプション ボタンをオンにします。
<div>警告: このオプションは、変動報酬管理の管理者からの要求があった場合にのみ使用します。</div>	

- プラン ID の報奨データを削除

選択したプラン ID の報奨データとグローバル ペイロールで取得されたが給与計算プロセスで計算されなかった支給期間を削除する場合は、このオプション ボタンをオンにします。
- 変動報酬に通知を送信

給与計算実行が最終決定された後で、変動報酬管理にその結果を通知する場合は、このオプション ボタンをオンにします。

このセクションで使用する共通フィールド

- カレンダー グループ ID

報奨データが処理される給与計算実行に関連付けられているカレンダー グループ ID を選択します。

カレンダー グループ ID によって、ポジティブ入力テーブルにロードされる支給グループとカレンダー ID が決まります。ソース カレンダーの実行 ID には変動報酬プラン ID がロードされます。
- 支給グループ

報奨データを受け取る受給者に関連付けられている支給グループを選択します。
- カレンダー ID

報奨データが関連付けられたカレンダー ID を選択します。

注意: このカレンダーの実行タイプにリストされている支給エレメントに関連付けられた報奨のみが取得、処理されます。

- 変動報酬プラン ID 、 支給期間 ID

これらのフィールドが表示されるのは、[プラン ID の報奨データを却下] または [プラン ID の報奨データを削除] を選択した場合です。報奨を却下または削除する変動報酬プランと支給期間を選択します。

報奨データで更新されるポジティブ入力のフィールド

次の表に、グローバル ペイロールのポジティブ入力のフィールドにロードされる報奨値を示します。

PI フィールド	値
EMPLID	変動報酬管理の EMPLID と一致
EMPL_RCD	変動報酬管理の EMPL_RCD と一致

PI フィールド	値
GP_PAYGROUP	変動報酬管理の GP_PAYGROUP と一致
CAL_ID	変動報酬管理の CAL_ID と一致
SRC_CAL_ID	変動報酬管理の VC_PLAN_ID と一致
PIN_VER_NUM	1
PIN_NUM	変動報酬管理の PIN_ERN_NUM と一致
PI_SOURCE	G
GEN_INSTANCE	1
END_DT	変動報酬管理の END_DT と一致
BGN_DT	変動報酬管理の BGN_DT と一致
SRC_CAL_RUN_ID	変動報酬管理の CAL_ID と一致
ENTRY_TYPE_ID	ER0
PI_ACTION_TYPE	O
CURRENCY_CD	変動報酬管理の CURRENCY_CD と一致
GP_AMT	変動報酬管理の VC_AWARD_VALUE と一致
ENTRY_TYPE_AMT	'002'
DESCR	'VC Award Payment'・(変動報酬管理の報奨支給)

報奨の却下

変動報酬取得ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[変動報酬取得]、[変動報酬取得])。

変動報酬管理の管理者が誤った報奨レコードを送信した場合、それらのレコードがグローバル ペイロールでまだ取得されていなければ、選択した変動報酬プラン ID と支給期間のレコードを全て却下できます。この機能により、報奨の処理を中止できますが、これは、変動報酬管理の管理者から要求があった場合にのみ実行します。報奨を却下すると、グローバル ペイロールから変動報酬管理に次のコードが付いたメッセージが送信されます。

コード 07: 全て却下 - ユーザー リクエスト/全て却下

報奨レコードを却下するには、以下の手順に従います。

1. [プラン ID の報奨データを却下] をオンにします。
2. 変動報酬プラン ID と 支給期間 ID を入力します。
3. [実行] ボタンをクリックします。

報奨の削除

変動報酬取得ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[変動報酬取得]、[変動報酬取得])。

グローバル ペイロールにロードされた報奨レコードは、給与計算処理の計算フェーズ前であれば削除できます。レコードを削除すると、グローバル ペイロールから変動報酬に次のコードが付いたメッセージが送信されます。

コード 12: GP PI から削除済/削除済

報奨レコードを削除するには、以下の手順に従います。

1. [プラン ID の報奨データを削除] をオンにします。
2. 変動報酬プラン ID と 支給期間 ID を入力します。
3. [実行] ボタンをクリックします。

変動報酬管理への給与計算結果の通知

変動報酬取得ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[給与計算の準備]、[変動報酬取得]、[変動報酬取得])。

報奨データを含む給与計算実行を最終決定する準備ができたなら、変動報酬管理に通知します。通知には以下の情報が含まれます (ステータスは支払済)。

- 従業員 ID
- 雇用レコード番号
- 変動報酬プラン ID
- 変動報酬支給期間 ID
- GB グループ ID
- 変動報酬報奨日
- 変動報酬報奨値

グローバル ペイロールは、支給対象ではない報奨に関する通知も変動報酬管理に送信します。これらの報奨には [エラー] または [却下] のステータスが割り当てられ、支給対象外となった理由と共に変動報酬管理に返されます。

通知プロセスは複数回実行できます。通知プロセスを実行するたびに、まだ変動報酬管理に通知されていない報奨が全て検出されます。

給与計算結果を変動報酬管理に通知するには、以下の手順に従います。

1. [変動報酬に通知を送信] をオンにします。

このオプションを選択すると、[実行プロセスの選択] グループ ボックスのフィールドだけが表示されます。

2. [実行] ボタンをクリックします。

第 43 章

PeopleSoft Enterprise パフォーマンス マネジメントとの統合

この章では、パフォーマンス マネジメント インターフェイスの概要と、以下の方法について説明します。

- 配布された設定データの確認
- パフォーマンス マネジメント テーブルへのデータの抽出

パフォーマンス マネジメント インターフェイスについて

グローバル ペイロール システムはパフォーマンス マネジメントのデータ ウェアハウスとインターフェイスすることができます。給与計算 COBOL プロセス (GPPDPRUN) の最終決定フェーズから、支給、控除および累計の情報をグローバル ペイロールの EPM テーブルに送信できます。パフォーマンス マネジメントでは、この EPM テーブルから支給、控除、累計の情報にアクセスし、受信することができます。

パフォーマンス マネジメントとの統合に必要なデータを準備し、抽出するには、主に以下の作業を行います。

1. パフォーマンス マネジメント テーブルヘデータを抽出するために配布された設定データを確認し、国別の対応が必要な場合は、この設定データに変更を加えます。
2. 給与計算プロセスの**最終決定**フェーズを実行します。これにより、パフォーマンス マネジメント テーブルにデータがロードされます。

参照: 第 21 章、「給与計算の処理」、813 ページ。

上記の作業が済み、パフォーマンス マネジメント データベースとの統合の事前設定が全て完了したら、このデータベースにデータをインポートできます。パフォーマンス マネジメント統合の事前設定、グローバル ペイロールからパフォーマンス マネジメントへのデータのインポートについては、パフォーマンス マネジメントの PeopleBook に説明されています。

グローバル ペイロール データベースの設定データの確認

パフォーマンス マネジメントに給与データを送信するには、グローバル ペイロールのデータベースを設定する必要があります。PeopleSoft では、この設定に必要なサンプル データを全て提供しています。ただし、国別の対応が求められる場合は、サンプル データの変更が必要になることがあります。パフォーマンス マネジメントとの統合には、グローバル ペイロールのデータベースに以下のデータを定義する必要があります。

- 書込可能アレイ: GP_WA_GUIDE
- レポート データ: GP_EPM
- PSJob ジョブ定義: GP_PAYE

配布された設定データの確認に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
書込可能アレイ名	GP_PIN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[書込可能アレイ]、[書込可能アレイ名]	書込可能アレイ名の詳細を確認します。
定義とフィールド	GP_WRITABLE_ARRAY	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[書込可能アレイ]、[定義とフィールド]	書込可能アレイの定義とフィールドを確認します。
レポート データ定義	GP_RPT_TBL	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[レポート]、[レポート データ定義]、[レポート データ定義]	出力テーブル、書込可能アレイ、主要入力テーブル、セグメント オプションを指定します。

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
レポート データ処理詳細	GP_RPT_DTL_SEC	"レポート データの定義" ページで [詳細] リンクをクリックします。	出力テーブルの作成に使用するフィールドのマッピングやフィルタの作成を行います。
ジョブ定義	PRCSJOBDEFN	[PeopleTools]、[プロセス スケジューラ]、[ジョブ]、[ジョブ定義]	GP_PAYE の PSJob 定義の詳細を確認します。

配布された書込可能アレイの確認

エレメント GP WA GUIDE の書込可能アレイ名ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[書込可能アレイ]、[書込可能アレイ名])。

書込可能アレイ名		定義とフィールド	
*エレメント名:	GP WA GUIDE	エレメント タイプ:	書込可能アレイ
*名称:	書込可能アレイ分割がけ	*フィールド フォーマット:	10 進数
		エレメント番号:	905 <input checked="" type="checkbox"/> 常時再計算
エレメント使用		上書きレベル	
*所有者:	PS 配布/管理	<input type="checkbox"/> 支給元	<input type="checkbox"/> エレメント使用
*クラス:	システム データ	<input type="checkbox"/> 支給グループ	<input type="checkbox"/> エレメント定義
*使用先:	全ての国	<input type="checkbox"/> 受給者	<input type="checkbox"/> ホットライン入力
国:	ALL	<input type="checkbox"/> カレンダー	
産業/地域:		結果	
カテゴリ:		<input type="checkbox"/> 保存	
		<input type="checkbox"/> ゼロのとき保存	
変換パラメータ		バージョン情報	
このエレメント タイプには変換パラメータは必要ありません。		最終更新日時:	04/11/30 00:00:00.000000
		最終更新者:	PPLSOFT
		ユーザー バージョン:	
		バージョン:	P_8.90.00.00

書込可能アレイ名ページ

注意: 実行する書込可能アレイをグローバル ペイロールのセクションに設定しておく必要があります。この設定は "レポート データの定義" ページで行います。

配布された書込可能アレイ定義の確認

"定義とフィールド" ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[サポート エレメント]、[書込可能アレイ]、[定義とフィールド])。

書込可能アレイ名

定義とフィールド

エレメント名:

GP WA GUIDE

書込可能アレイ分割単位:

所有者:

PS 管理

*レポート (テーブル) 名:

GP_SEG_GUIDE_WA

Segment Guide WA

バッチ挿入フラグ

☐ 直ちに挿入

書込可能アレイ フィールド

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-5/8 最後

フィールド名	入力タイプ	エレメント名	名称		
COMPANY	システム エレメント - 文字列	COMPANY	会社コード	+	-
CONTRACT_NUM	システム エレメント - 文字列	CONTRACT NUMBER	契約番号	+	-
DEPTID	システム エレメント - 文字列	DEPTID	部門 ID	+	-
EMPL_CTG	システム エレメント - 文字列	EMPL CTG	カテゴリ コード	+	-
ESTABID	システム エレメント - 文字列	ESTABID	事業所 ID	+	-

"定義とフィールド" ページ

配布されたレポート データの確認

GP_EPM のレポート データ定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[レポート]、[レポート データ定義]、[レポート データ定義])。

レポートデータの定義

国:ALL

レポートデータ:GP_EPM

*名称:GP/EPM Integration

セグメント書込可能アレイ:GP_SEG_GUIDE_WA

☐ 行レベル セキュリティ

☐ ログを作成する

Segment Guide WA

☒ 実行時のセキュリティ上書き

処理詳細

カスタイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1-3/3 | 最後

連番	出力テーブル	主要入力テーブル	セグメント オプション			
10	GP_EPM_GUI_TMP	内部作業テーブル	元の値		+	-
20	GP_EPM_DTL_TMP	支給額と控除額	元の値と適及		+	-
30	GP_EPM_DTL_TMP	累計	元の値と適及		+	-

コメント:

This Report Data extracts Global Payroll results to populate EPM records.
EPM will pick-up this data.

最終更新者:PSSTG

最終更新日時:05/01/11 07:46:27.000000

レポート データ定義ページ

参照: 第 45 章、「レポート データの作成」、出力テーブルと主要入力テーブルの選択、 1662 ページ。

レポート データ処理詳細の確認

レポート データ処理詳細ページにアクセスします (レポート データ定義ページの [詳細] リンクをクリックします)。

レポート データ処理詳細

連番:10

出力テーブル:GP_EPM_GUI_TMP

EPM Guide Table

主要入力テーブル:GP_RPTW_TMP

内部作業テーブル

追加入力テーブル

カスタイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

入力テーブル	結合対象	更新連番	結合条件定義済み			
					+	-

フィールド マッピングの作成

レポート データ処理詳細ページ

参照: 第 45 章、「レポート データの作成」、フィールドのマッピング、 1665 ページ。

配布された GP_PAYE ジョブ定義の確認

GP_PAYE の PSJob のジョブ定義ページにアクセスします ([PeopleTools]、[プロセス スケジューラ]、[ジョブ]、[ジョブ定義])。

ジョブ定義(D) ジョブ定義オプション ジョブ配信(D) ジョブ通知(N) ジョブメッセージ(M) ジョブランタイムパラメータ

プロセスタイプ: PSJob

ジョブ名: GP_PAYE

*名称: グローバルペイロール (AE プログラム)

実行モード: 逐次

*ジョブ優先度: 中

*プロセスカテゴリ: Default Default Category

最大ジョブ数:

プロセス再実行回数を上書き: ☐ 再実行回数:

プロセス保存日数の上書き: ☐ 保存日数: 0

プロセスリスト

	*プロセスタイプ	*プロセス名	名称	警告時実行	エラー時実行		
1	Application Engine	GP_PAYBEFORE	GP_PAYBEFORE	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-
2	COBOL SQL	GPPDPRUN	給与計算/休暇欠勤処理	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-
3	Application Engine	GP_PAYAFTER	GP_PAYAFTER	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-

ジョブ定義ページ

GP_PAYE は 2 つのアプリケーション エンジン プログラムから成ります。最初のプログラムでは、ラン コントロール データが一次テーブル (GP_RUNCTL_TMP) に保存されます。2 番目のプログラムでは、給与計算プロセスが最終決定に成功したかどうかチェックされます。最終決定に成功したことが確認されると、レポート データ プロセスの実行プログラムが呼び出されます。レポート データ プロセスでは、処理された全受給者の支給、控除、累計の情報がグローバルペイロールの EPM テーブルにロードされます。

グローバルペイロールの EPM テーブルへのデータのロード

給与計算の最終決定プロセスが成功すると、休暇欠勤累計を含む支給、控除、累計の情報がグローバルペイロールの以下の EPM テーブルにロードされます。

テーブル	名前	説明
GP_EPM_GUI_TMP	レポート ガイド テーブル	このレコードは、給与計算結果の詳細を示すヘッダーとして使用されます。このテーブルの各行はカレンダー グループについて計算したセグメントです。
GP_EPM_DTL_TMP	レポート詳細テーブル	このレコードには、給与計算結果の支給、控除、累計が全て保存されます。
GP_PIN_USER_FLD	エレメント別 PIN ユーザー フィールド名	支給、控除、または累計ごとにデータが保存されます。支給と控除については各ユーザー フィールドの PIN 名が保存され、累計については全てのユーザー キーが保存されます。
GP_SEG_GUIDE_WA	セグメント ガイド書込可能アレイ	このレコードには、給与計算時点で職務データから選択された HR データが保存されます。
GP_RUNCTL_TMP	GP_RUNCTL の保存	このレコードには、給与計算ランコントロールからのデータが保存されます。
GP_RUNCTL_AET	アプリケーション エンジンのステータス レコード	GP_PAYAFTER を参照する技術的レコードです。

全てのデータがテーブルにロードされたら、パフォーマンス マネジメント データ ウェアハウス機能がデータにアクセスし、インポートを行います。詳細については、PeopleSoft Enterprise パフォーマンス マネジメントの PeopleBook を参照してください。

第 44 章

配布されたエレメントの表示

この章では、GP_ELEMENTS クエリーを使用して配布されたエレメントを表示する方法の概要と以下の方法について説明します。

- GP_ELEMENTS クエリーにアクセスします。
- GP_ELEMENTS クエリーの実行

配布されたエレメントの表示方法について

GP_ELEMENTS クエリーを使用してシステムに定義されているエレメントのリストを表示します。全ての国または特定の国に定義されているエレメントを表示したり、カテゴリ、エレメント名、またはその両方を検索条件として指定してエレメントを表示することもできます。このクエリーを使用してシステム エレメントを表示すると、クエリーによって各システム エレメントの用途および変換の方法と時期に関する情報が取得されます。

GP_ELEMENTS クエリーのアクセスと実行に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
クエリー マネージャ	QRY_SELECT	[レポート ツール]、[クエリー]、[クエリー マネージャ] GP_ELEMENTS クエリーにアクセスするには、クエリー マネージャ ページの [検索条件] フィールドで [クエリー名] を選択して GP_ELEMENTS と入力し、[検索] ボタンをクリックします。	GP_ELEMENTS クエリーにアクセスします。
GP_ELEMENTS - グローバル ペイロール エレメント	QRY_SELECT	クエリー マネージャ ページの GP_ELEMENTS クエリーの行で [実行 (HTML)] の下にある [HTML] リンクをクリックするか、または [実行 (Excel)] の下にある [Excel] リンクをクリックします。	GP_ELEMENTS クエリーを使用してクエリーの結果を作成します。

GP_ELEMENTS クエリーへのアクセス

クエリー マネージャ ページにアクセスします ([レポート ツール]、[クエリー]、[クエリー マネージャ])。

クエリー マネージャ

情報を入力して [検索] をクリックしてください。全ての値のリストを検索する場合はフィールドを空白にします。

既存のクエリーの検索 | [新規クエリーの作成](#)

*検索条件:

クエリー名

先頭

GP_ELEMENTS

検索

詳細検索

検索結果

*フォルダの表示:

-- 全てのフォルダ --

全て選択

選択解除

*アクション:

-- 選択 --

実行

クエリー	加算/減算	検索	全件表示	最初	1/1	最後			
選択	クエリー名	名称	オーナー	フォルダ	編集	実行 (HTML)	実行 (Excel)	実行 (XML)	スケジューリング
<input type="checkbox"/>	GP_ELEMENTS	グローバル ペイロール エlement	ハウリック		編集	HTML	Excel	XML	スケジューリング

既存のクエリーの検索 | [新規クエリーの作成](#)

クエリー マネージャ ページ

- 編集

フィールド プロパティとクエリーのソート順序を編集するには、このリンクをクリックします。
- 実行 (HTML)

クエリーを実行し、配布されたエレメントをオンラインで表示する場合にクリックします。GP_ELEMENTS クエリーの検索条件を一度定義しておく、クエリー結果をオンラインで表示できるほか、Microsoft Excel スプレッドシート、CSV テキスト ファイル、または XML ファイルにその結果をダウンロードすることもできます。
- 実行 (Excel)

クエリーを実行し、Microsoft Excel スプレッドシートで結果を送信する場合にクリックします。

注意:

Excel にエレメントのコメント フィールドが表示されない場合は、フィールドのフォーマットを変更するか、または HTML で出力を表示してください。
- 実行 (XML)

クエリーを実行し、結果を XML ファイルに保存する場合にクリックします。
- スケジューリング

クエリーのスケジューリングの条件を定義するには、このリンクをクリックします。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Query

GP_ELEMENTS クエリーの実行

"GP_ELEMENTS - グローバル ペイロール エlement" ページにアクセスします (クエリー マネージャ ページの GP_ELEMENTS クエリーの行で [実行 (HTML)] の下にある [HTML] リンクをするか、または [実行 (Excel)] の下にある [Excel] リンクをクリックします)。

GP_ELEMENTS - グローバル ペイロール エlement

使用先: 特定の国

国: FRA

カテゴリ: ABS

エレメント名: EVE

結果の表示

使用先	国	カテゴリ	エレメント タイプ	エレメント名	名称	コメント
-----	---	------	-----------	--------	----	------

"GP_ELEMENTS - グローバル ペイロール エlement" ページ

クエリーを実行するには、検索条件を入力して、[結果の表示] ボタンをクリックします。以下の検索条件を使用してクエリーの結果を変更します。

- 使用先

表示するエレメントの使用先として [全ての国] または [特定の国] を選択します。
- 国

[使用先] フィールドで [全ての国] を指定した場合、[国] フィールドに [ALL] を指定します。[使用先] フィールドで [特定の国] を指定した場合は、表示するエレメントの国コードを入力します。
- カテゴリ、エレメント名

検索結果を絞り込むには、ABS (休暇欠勤) などのカテゴリ コードを入力します。また、エレメント名の一部または全部を入力して絞り込むこともできます。

注意:

カテゴリおよびエレメントの名称指定規則については、国別の PeopleBooks を参照してください。
- 結果の表示

このボタンをクリックすると、結果がオンラインで表示されるか、または Microsoft Excel ファイルにダウンロードされます。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Query

[付録 A、「グローバルペイロールクエリー」、1703 ページ](#)

第 45 章

レポート データの作成

この章では、レポート データ作成の概要と以下の方法について説明します。

- レポート データの定義
- レポート データの検証
- レポート データの利用

レポート データ作成について

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- データのレポート処理
- フィルタ
- レポート データと分割
- 出力テーブルの定義
- ユーザー定義パラメータの定義
- バッチ処理の設定
- リアルタイム処理の設定
- レポート データを使用するトランザクションの作成

データのレポート処理

レポート データ作成プロセスを使用すると、給与計算結果テーブルを簡単に読み込み、そのデータを使用してユーザー独自のレポートに値をロードすることができます。

レポート データ作成プロセスにより、以下の内容を含むレポートを作成することができます。

- 訂正遡及処理と繰越遡及処理またはこれらの処理の組み合わせ
- 分割、遡及分割、および遡及処理によってキャンセルされた分割
- 取り消し計算
- グローバル ペイロールのステータス、インジケータおよび他の技術フィールド
- 訂正遡及処理で生じた支給グループ、支給元および支給キーの変更
- 支給、控除、残高累計に保存された計算結果、各計算で保存された累計、休暇欠勤日次データ、処理済みのポジティブ入力、作成済みのポジティブ入力、各計算で保存されたサポート エレメント、および特定の結果テーブル (書込可能アレイ)
- プロセス実行ごとの複数選択
- カレンダー グループまたは期間に基づくデータ
- 最終決定されたカレンダーと最終決定されていないカレンダーの結果
- HRMS セキュリティに従って任意のテーブルから従業員 ID レベルで選択された受給者
- 適切な給与計算セグメント
- 選択されたエレメント
- 任意または全てのスライス

レポート データ作成プロセスを使用してレポートを作成する手順

レポート データ作成プロセスを使用してレポートを作成するには、次の手順に従います。

1. レポート データ定義ページでレポートの出力テーブルと入力テーブルを割り当てます。
2. レポート データ定義ページで出力テーブルの作成に使用するルールを定義します。
3. レポート データ処理詳細ページでフィールドをマッピングし、出力テーブルの作成に使用するフィルタを作成します。

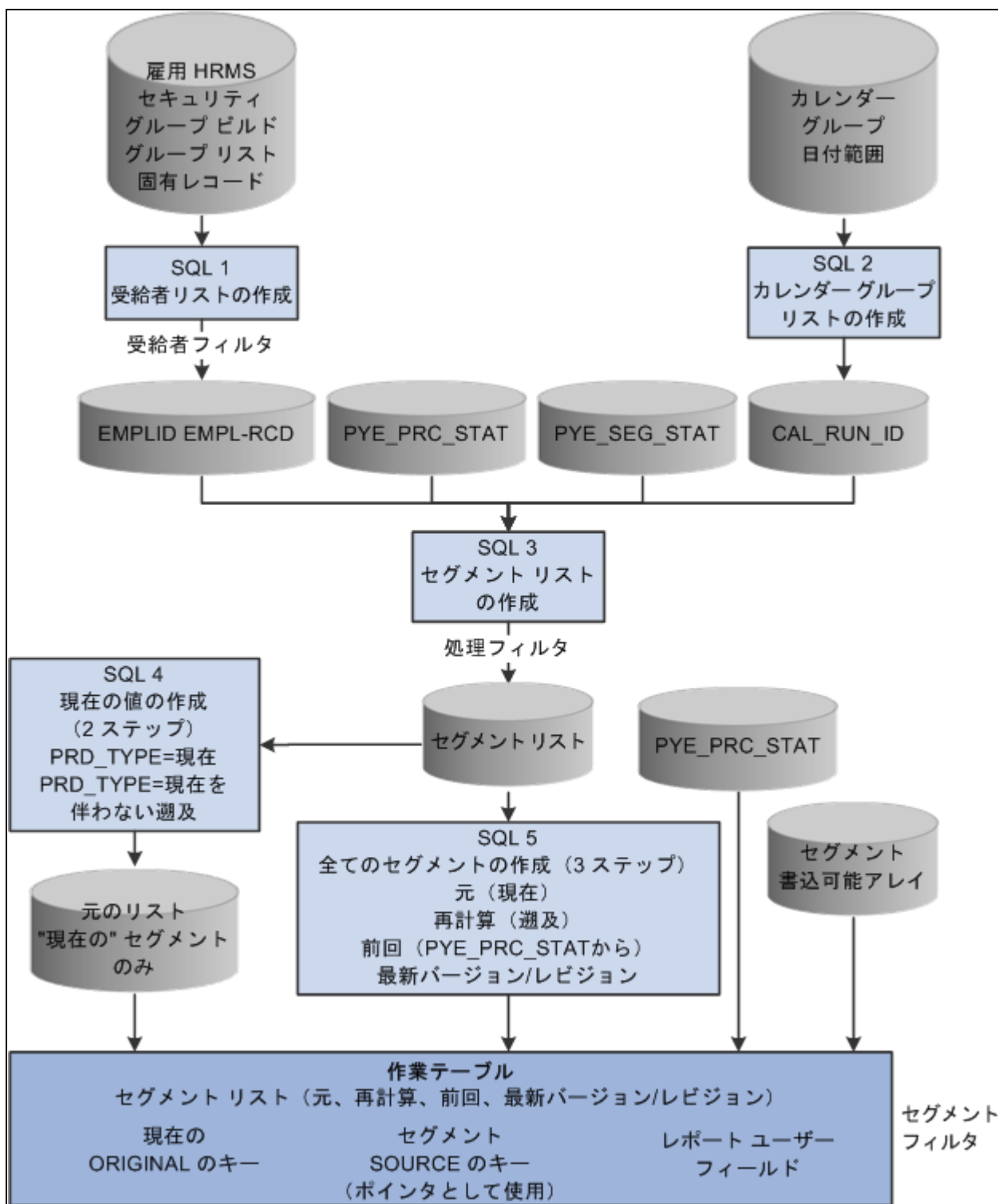
給与計算結果の選択と出力テーブルへのロード

レポート データ定義ページを使用して入力テーブルと出力テーブルの詳細を設定し、レポート データ処理詳細ページでフィールドのマッピングとフィルタの作成を行った後、以下のステップが実行されて給与計算結果の選択と出力テーブルへのロードが処理されます。

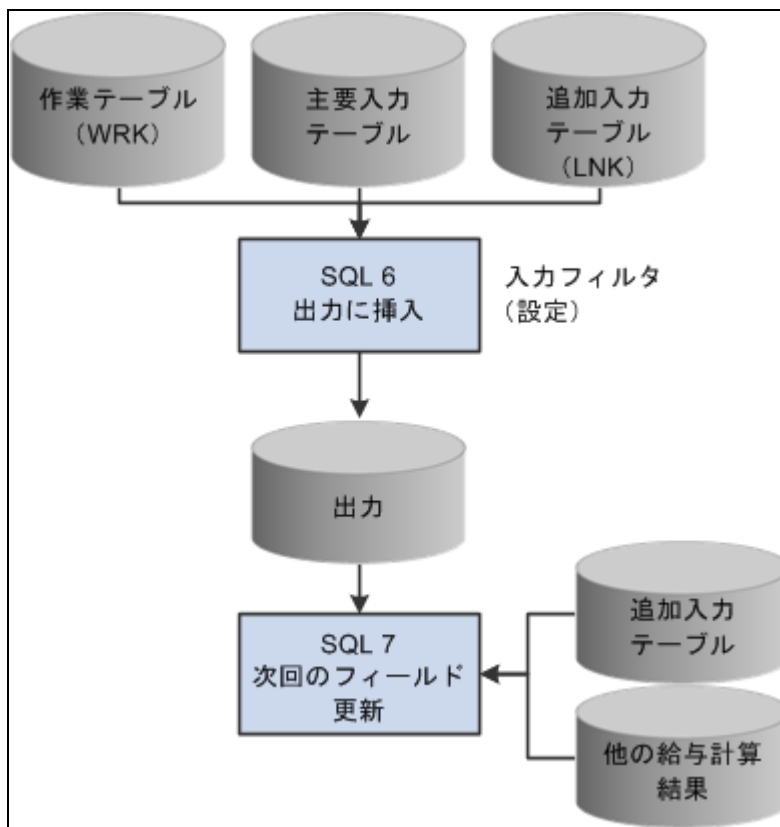
1. カレンダー グループが選択されます。

2. 受給者リスト、グループ ビルド、セキュリティおよび受給者フィルタを使用して対象の受給者が選択されます。受給者フィルタが作成されている場合は、ここで適用されます。
3. 受給者処理ステータス テーブル (GP_PYE_PRC_STAT) と受給者セグメント ステータス テーブル (GP_PYE_SEG_STAT) が結合されます。
4. 元のセグメントが選択されます。処理フィルタが作成されている場合は、ここで適用されます。
5. 元のセグメント、再計算セグメント、前回計算されたセグメントおよび最新バージョン/レビジョンのセグメントが作業テーブル (GP_RPTW_TMP) に挿入されます。これにより、作業テーブルには、選択されたセグメント、再計算セグメント、前回計算されたセグメントおよび最新バージョン/レビジョンのセグメントの受給者ごとの行が格納されます。セグメント フィルタが作成されている場合は、ここで適用されます。
6. レポート データ処理詳細ページのデータに基づいて作業テーブル、主要入力テーブルおよび結合テーブル (主要入力テーブルに結合された追加入力テーブル) が結合されます。結果は出力テーブルに転記されます。作業テーブルまたは主要入力テーブルから取得された結果だけがロードされます。入力フィルタが作成されている場合は、ここで適用されます。
7. 追加入力テーブルのデータで出力テーブルが更新されます。

以下の図は、レポート データ作成のプロセスを示しています。



レポート データ作成の概要 1



レポート データ作成の概要 2

フィルタ

4 つのレベルのフィルタ (受給者、処理、セグメントおよび入力) があります。

- 受給者フィルタ

この SQL パラメータは、対象グループをフィルタに掛ける場合に使用されます。特定のレコードまたは雇用テーブルを基準に選択するときに適用されます。

- 処理フィルタ

この SQL パラメータは、元のセグメントで処理全体をフィルタに掛ける場合にのみ使用されます。受給者処理ステータス テーブルまたは受給者セグメント ステータス テーブルの任意のフィールドを基準にフィルタを掛けることができます。たとえば、"and COUNTRY = 'USA'" を使用すると、アメリカの給与計算結果のみが選択されます。

- セグメント フィルタ

このフィールド パラメータは、各セグメントの処理のステップごとにフィルタを作成する場合に使用されます。受給者処理ステータス テーブル、受給者セグメント ステータス テーブルまたはセグメント書込可能アレイ テーブル (設定時に定義された場合) の任意のフィールドを基準にフィルタを作成できます。たとえば、COMPANY 'GBI' を使用すると、セグメント書込可能アレイに COMPANY が格納されている場合は会社 GBI で選択が行われます。

- 入力フィルタ

この SQL フィルタは各ステップの設定時に定義され、主要入力テーブル、主要入力テーブルに結合された追加入力テーブル (結合テーブル)、または作業テーブルにフィルタを掛ける場合に使用されます。入力フィルタは、フィルタまたは追加結合条件として使用できます。たとえば、"and PRI.CALC_RSLT_VAL>0" を使用すると、ポジティブ入力のみが選択されます。

レポート データと分割

遡及処理が検出された場合、レポート データを保存する方法は検出された遡及方法によって異なります。繰越方法が使用される場合は、支給グループ、実行タイプおよび支給キーに一致する最初のセグメントの最初のスライスにデルタが繰り越されます。訂正モードでは、デルタは繰り越されません。

レポート データ機能によって 4 種類のセグメントが管理されます。

- 元のセグメント

元のセグメントとは、期間におけるバージョン 1/レビジョン 1 (V1R1) の全てのセグメントを指します。この種類のセグメントには、仮想セグメントも存在します。仮想セグメントは、訂正遡及処理が存在し、現在の期間の支給グループ、実行タイプ、または支給キーが再計算済みの期間に一致しない場合に作成されます。

- 再計算済みセグメント

再計算済みセグメントとは、カレンダー グループ実行時に作成された V1R1 を除く全てのセグメントを指します。

- 前回計算されたセグメント

前回計算されたセグメントとは、前のバージョン/レビジョンの全ての再計算済みセグメントまたは取り消しセグメントを指します。

- 最新バージョン/レビジョン

以下の状況がシステムではどのように解釈されるかを示します。

- 受給者に 1 つのカレンダーと 1 つのセグメントのみが存在する場合、この受給者には 1 つの元のセグメントがある。
- 受給者に 1 つのカレンダーと 2 つのセグメントが存在する場合、この受給者には 2 つの元のセグメントがある。
- 受給者に 2 つのカレンダーと 1 つのセグメントが存在する場合、この受給者には 2 つの元のセグメントがある。
- 受給者に現在の期間で 1 つのカレンダーと 1 つのセグメントが存在し、前の 12 期間までの遡及 (繰越または訂正) がある場合 (同じ支給グループと支給キーを使用)、この受給者には 1 つの元のセグメントがある。
- 受給者に現在の期間で 1 つのカレンダーと 1 つのセグメントが存在し、前の 12 期間までの繰越遡及がある場合 (同じ支給グループと 2 つの異なる支給キーを使用)、この受給者には 2 つの元のセグメント (1 つはアクティブ、もう 1 つは非アクティブ) がある。
- 受給者に現在の期間で 1 つのカレンダーと 1 つのセグメントが存在し、前の 12 期間までの訂正遡及がある場合 (同じ支給グループと 2 つの異なる支給キーを使用)、グローバル ペイロールで現在の期間に作成されるセグメントが 1 つのみであっても、この受給者には 2 つの元のセグメントがある。

関連項目:

第 33 章、「遡及処理の定義」、1219 ページ

出力テーブルの定義

選択した結果を保存するには、出力テーブルを定義する必要があります。出力テーブルには以下のキー構造を格納する必要があります。

フィールド名	タイプ	データ長	キー	必須
PROCESS_INSTANCE	数値	10	KA	N
EMPLID	文字列	11	KA	Y
CAL_RUN_ID	文字列	18	KA	Y
EMPL_RCD	数値	3	KA	N

フィールド名	タイプ	データ長	キー	必須
GP_PAYGROUP	文字列	10	KA	Y
CAL_ID	文字列	18	KA	Y
ORIG_CAL_RUN_ID	文字列	18	KA	Y
RSLT_SEG_NUM	数値	4	KA	Y
GP_RPT_KEY	文字列	22	KA	Y
SEQ_NUM	数値	3	KA	Y

ユーザー定義パラメータの定義

レポート データ処理詳細ページで入力フィルタを設定する際にユーザー定義パラメータが定義されます。これらのパラメータは、次の構文に準拠する必要があります。

%PARM.<関数>.<パラメータ>

フィルタ **And PRI.STATE in (%PARM.REPORT.STATE)** を使用した例とこれらのパラメータについて考察します。

REPORT	STATE	CA
REPORT	STATE	OR

この例では、作成される SQL ステートメントに "And PRI.STATE IN ('CA', 'OR')" が含まれます。以下に、プログラムでこれらのユーザー定義パラメータを使用する方法の例を示します。

```
&reportBatch.AddParamChar("REPORT", "STATE", "CA");
&reportBatch.AddParamChar("REPORT", "STATE", "OR");
```

バッチ処理の設定

バッチ処理には、"EXTRACT" という名前のパブリック セクションが用意されています。このセクションは、レポート用の給与計算結果を準備するアプリケーション エンジン プロセスで呼び出すことができます。パラメータのリストを準備しておく必要があります。その後、EXTRACT セクションによってパラメータを基に SQL リクエストが作成され、リクエストが実行されます。

テスト用に "MAIN" という名前のセクションが用意されています。MAIN セクションは、標準のラン コントロール "レポート データ検証" で使用されます。パラメータは、コンポーネント レベルで定義されたオブジェクト "&reportBatch" によって標準のアプリケーション クラスで管理されます。

```
import GP_RPT_DATA:ReportDataClasses:*;  
Component ReportDataAE &reportBatch;
```

セクション	手順
MAIN	<div>1. ラン コントロール GP_RC_RPT_DTL に基づく パラメータのリストを用意します。</div> <div>2. EXTRACT を呼び出します。</div>
EXTRACT (パブリック)	<div>1. 初期化します。</div> <div>2. パラメータのログ ファイルを印刷します。</div> <div>3. リクエストを作成します (.GenerateSQL を呼 び出します)。</div> <div>4. リクエストをループします。EXECUTE を呼び 出します。</div>
EXECUTE	<div>1. ログ ファイルのメッセージを印刷します。</div> <div>2. リクエストを実行します。</div> <div>3. ログ ファイルのメッセージを印刷します。</div>

アプリケーション エンジン はステート レコード GP_RPT_AET に基づいており、GP_RPTC_TMP、GP_RPTO_TMP、GP_RPTE_TMP、GP_RPTS_TMP および GP_RPTW_TMP の専用一時テーブルが含まれています。

以下に、バッチ処理の設定例を示します。

```
import GP_RPT_DATA:ReportDataClasses:*;  
Component ReportDataAE &reportBatch;  
&reportBatch.AddParamChar("EXTPRC", "COUNTRY", "USA");  
&reportBatch.AddParamChar("EXTPRC", "NAME", "GP_REPORT");  
&reportBatch.AddParamChar("EXTPRC", "TYPE", "P");  
&reportBatch.AddParamChar("SELPYE", "SECUR", "Y");  
&reportBatch.AddParamChar("SELCAL", "CALGRPID", GP_REGISTER_AET.CAL_RUN_ID);  
&reportBatch.AddParamChar("SELCAL", "FROMDT", GP_REGISTER_AET.FROM_DT);  
&reportBatch.AddParamChar("SELCAL", "TODT", GP_REGISTER_AET.TO_DT);
```

呼び出しのセクション名は EXTRACT、プログラム ID は GP_EXT_AE です。

リアルタイム処理の設定

以下に、リアルタイム処理の設定例を示します。

```
import GP_RPT_DATA:ReportDataClasses:*;  
Component ReportDataReal &report;  
Local number &instance;  
&report = create ReportDataReal();  
&report.AddParamChar("EXTPRC", "COUNTRY", "USA");  
&report.AddParamChar("EXTPRC", "NAME", "GP_REPORT");  
&report.AddParamChar("EXTPRC", "TYPE", "P");  
&report.AddParamChar("SELPYE", "SECUR", "Y");  
&report.AddParamChar("SELCAL", "CALGRPID", GP_REGISTER_AET.CAL_RUN_ID);  
&report.AddParamDate("SELCAL", "FROMDT", GP_REGISTER_AET.FROM_DT);  
&report.AddParamDate("SELCAL", "TODT", DERIVED_GP.TO_DT);  
&instance = &report.GetInstance();  
&report.ExecuteNow();  
  
/* selection from the output tables (using &instance) can be done here  
   in order to display results */
```

レポートデータを使用するトランザクションの作成

レポートデータを使用するトランザクションを作成する場合は、以下のガイドラインに従う必要があります。

- トランザクション用としてバッチ処理と同じキー構造を持つ 1 つ以上の一時テーブルを定義します。このテーブルは、プロセス インスタンスによって管理されます。
- ユーザーのトランザクションには、EMPLID や CAL_RUN_ID などの照会パラメータが含まれている必要があります。

- PeopleCode プログラムを起動してレポート データにアクセスするためのプッシュ ボタンまたはそれに類する機能を作成します。この機能は、以下のように動作する必要があります。
 - クラス class ReportDataReal が開始されます。
 - PeopleCode により、メソッド .AppParamChar/Date/Num() を使用して照会パラメータがレポート データのパラメータに変換されます。
 - メソッド .GetInstance() が開始されます。このメソッドにより、レポート データ用に定義されたテーブルを使用してプロセス インスタンス番号が作成されます。
 - メソッド .ExecuteNow() が開始されます。
 - PeopleCode により、一時テーブルからページ バッファにデータをロードできます (たとえば、メソッド .GetInstance() によって返されるプロセス インスタンス番号を使用)。
 - その後、プロセス インスタンス番号を使用して一時テーブルの内容が削除される必要があります。
- 2 人のユーザーが同じトランザクションを同時に実行した場合は、2 つの異なるプロセス インスタンス番号が作成されます。

この章で使用する共通フィールド

出力テーブル	データがロードされるテーブルの名前。
主要入力テーブル	グローバル ペイロール結果テーブルの機能名。たとえば、支給と控除の結果テーブルは GP_RSLT_ERN_DED と呼ばれます。
元のセグメント	バージョン 1 とレビジョン 1 で表されるセグメント。
再計算済みセグメント	バージョン 1 とレビジョン 1 ではないセグメント。
前回計算されたセグメント	グローバル ペイロールのコア アプリケーションでデルタの計算に使用されたセグメント。

レポート データの定義

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 出力テーブルと主要入力テーブルの選択

- フィールドのマッピング
- 入力フィルタの作成

レポート データの定義に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
レポート データ定義	GP_RPT_TBL	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[レポート]、[レポート データ定義]、[レポート データ定義]	出力テーブル、書込可能アレイ、主要入力テーブルおよびセグメント オプションを指定します。
レポート データ処理詳細	GP_RPT_DTL_SEC	"レポート データの定義" ページで [詳細] リンクをクリックします。	出力テーブルの作成に使用するフィールドのマッピングやフィルタの作成を行います。

出力テーブルと主要入力テーブルの選択

レポート データ定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[レポート]、[レポート データ定義]、[レポート データ定義])。

レポートデータの定義

国:USA アメリカ

レポートデータ:GPUSFDSM

*名称:Federal Tax Summary

セグメント書込可能アレイ:GPUS_FWT_WA

☐ ログを作成する

Tax Data Writable Array

☐ 行レベル セキュリティ

☒ 実行時のセキュリティ上書き

処理詳細	カスタマイズ	検索	全件表示	最初	1/1	最後
連番	出力テーブル	主要入力テーブル	書込可能アレイ テーブル	セグメント オプション		
10	GPUS_FDSM_TMP	書込可能アレイ テーブル	GPUS_RSLT_FD_WA	元の値と避及		

コメント:Federal Tax Summary report summarizes period-to-date income tax withheld, disability, FICA, and unemployment taxes at the federal level.

最終更新者: HCRUSA_GP 最終更新日時: 04/10/12 04:34:36.000000

レポート データ定義ページ

レポート データ

レポート データ設定の ID コードが表示されます。

ログを作成する

レポートの実行時にログ詳細を作成する場合は、このチェック ボックスをオンにします。

セグメント書込可能アレイ

書込可能アレイ セグメントを入力します。対応する書込可能アレイ テーブルをレポート データ作成プロセスで使用するには 2 つの方法があります。1 つ目の方法では、書込可能アレイ テーブルのどのフィールドでもフィールド マッピングに含めることができます。これにより、書込可能アレイ テーブルを使用して、フィールドを出力テーブルにロードできます。2 つ目の方法では、書込可能アレイ テーブルをレポート データ作成プロセスのフィルタとして使用できます。この場合、レポート データ検証ページのパラメータ "SEGFILTER" を使用します。たとえば、書込可能アレイに会社フィールドと事業所フィールドがある場合は、特定の会社または事業所ごとにプロセスを実行できます。

行レベル セキュリティ

レポートの行レベル セキュリティを有効にする場合は、このチェック ボックスをオンにします。行レベル セキュリティを有効にすると、レポート データ処理時に行セキュリティ クラスとユーザーに定義されたクラスが一致した場合にのみ EMPL_SRCH_GBL から受給者のレコードが選択されます。

実行時のセキュリティ上書き

レポートのラン コントロール ページで [行レベル セキュリティ] の設定を上書きできるようにする場合は、このチェック ボックスをオンにします。

処理詳細

連番

連番を入力します。同じ入力テーブルと出力テーブルを繰り返し使用できます。

警告: レポート データ作成プロセスでは、出力テーブルを作成する際に、この連番が使用されます。出力テーブルには、連番の値を保存する SEQ_NUM フィールドが必要です。

出力テーブル

出力テーブルのレコード名を入力します。

主要入力テーブル

データを選択する際に読み込まれる主要テーブルを選択します。[主要入力テーブル] と [出力テーブル] の値は 1 対 1 で対応します。[主要入力テーブル] に 1 行選択したら、[出力テーブル] に対応する行を 1 行 選択します。

- [休暇欠勤日次データ] (GP_RSLT_ABS)
- [累計] (GP_RSLT_ACUM)
- [支給額と控除額] (GP_RSLT_ERN_DED)
- [内部作業テーブル] (GP_PYE_PRC_STAT:
GP_PYE_SEG_STAT とセグメント書込可能アレイに結合)
- [ポジティブ入力] (GP_RSLT_PI_DATA)
- [サポート エレメント] (GP_RSLT_PIN)
- [書込可能アレイ テーブル]

書込可能アレイ テーブル

[主要入力テーブル] に [書込可能アレイ テーブル] を選択した場合は、そのテーブル名を入力します。このフィールドに入力する書込可能アレイは、[セグメント書込可能アレイ] フィールドの書込可能アレイとは異なります。[セグメント書込可能アレイ] フィールドに指定した書込可能アレイはプロセス全体に適用されます。

セグメント オプション

プロセスで遡及情報が検出された場合に選択されるデータを選択します。オプションは、以下のとおりです。

- [元の値]: 元のセグメント情報のみが選択されます。遡及情報は選択されません。
- [元の値と遡及]: 元のセグメントに加え、再計算済みセグメントと前回計算されたセグメントの情報が選択されます。
- [最新バージョンとレビジョン]: 最新のバージョン番号とレビジョン番号が設定されているセグメントのみが選択されます。
- [ユーザー定義]: セグメントを手動で選択する場合は、このオプションを選択します。このフィールドを選択すると、[最新]、[遡及 (前回)]、[遡及 (再計算済)]、[元の計算値] の各フィールドが表示されます。

フィールドのマッピング

レポート データ処理詳細ページにアクセスします (レポート データ定義ページの [詳細] リンクをクリックします)。

レポート データ処理詳細

連番:10

出力テーブル:GPUS_FDSM_TMPTax Report Temporary Table

主要入力テーブル:GPUS_RSLT_FD_WA書込可能レイアウト

追加入力テーブル

カスサイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

入力テーブル	結合対象	更新連番	結合条件定義済み		
GP_ELN_TMP	主要入力 (多対多)		<input checked="" type="checkbox"/>		

フィールド マッピングの作成

フィールド マッピング

カスサイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-8/8 最後

入力レコードとフィールド(0)

出力フィールド	入力タイプ	入力レコード	入力フィールド	符号の反転		
COMPANY	主要入力	GPUS_RSLT_FD_WA	COMPANY	<input type="checkbox"/>	+	-
GPUS_TAX_AMT	主要入力	GPUS_RSLT_FD_WA	GPUS_TAX_AMT	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-
GPUS_TAX_CATEGORY	追加入力	GP_ELN_TMP	GP_ELN_PIN_ATTR1		+	-
GPUS_TAX_GRS	主要入力	GPUS_RSLT_FD_WA	GPUS_TAX_GRS	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-
GPUS_TAX_NL_GRS	主要入力	GPUS_RSLT_FD_WA	GPUS_TAX_NL_GRS	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-
GPUS_TAX_RPT_TYPE	主要入力	GPUS_RSLT_FD_WA	GPUS_TAX_RPT_TYPE	<input type="checkbox"/>	+	-
GPUS_YE_RPT_CO	主要入力	GPUS_RSLT_FD_WA	GPUS_YE_RPT_CO	<input type="checkbox"/>	+	-
PYMT_DT	内部作業テーブル	GP_RPTW_TMP	PYMT_DT		+	-

レポート データ処理詳細ページ

追加入力テーブル

[主要入力テーブル]に加えて、追加入力テーブルを使用できます。プロセスで追加テーブルを使用するには、データを取得するためにこのページでリンク関係を定義する必要があります。結合対象として、主要入力テーブルまたは出力テーブルを定義できます。

入力テーブル

入力テーブルを入力します。追加入力テーブルを一度定義すれば、このテーブルのフィールドを使用して、出力テーブルのフィールドにデータをロードできます。

結合対象

以下のオプションの中から 1 つを選択します。

- [出力テーブル]: 1 対 1 の結合関係が作成されます。主要入力テーブルから出力テーブルにデータがロードされてから、追加入力テーブルが読み込まれます。次に、追加入力テーブルから選択されたフィールドは更新ステートメントで出力テーブルに設定されます。
- [主要入力]: 複数対複数の結合関係が作成されます。主要入力テーブルを選択すると、追加入力テーブルが読み込まれます。主要入力テーブルと追加入力テーブル間で結合が行われ、追加入力テーブルから選択されたフィールドが挿入ステートメントで出力テーブルに設定されます。

注意: 主要入力テーブルと結合できる追加入力テーブルは 1 つだけです。この追加入力テーブルは結合テーブルといい、入力フィルタを使用してフィルタをかけることができます。

更新連番

入力テーブルと出力テーブルを結合する際は連番を入力する必要があります。更新連番によって、更新ステートメントでトリガされる追加入力テーブルへのアクセス順序が決まります。各追加入力テーブルには更新ステートメントが 1 つあります。たとえば、UNION_CD フィールドには、出力テーブルに定義された SETID と JOBCODE に基づいて JOBCODE_TBL からデータがロードされます。次に、DISABILITY_INS フィールドには、UNION_CD に基づいて UNION_TBL からデータがロードされます。この場合、JOBCODE_TBL の [更新連番] の値は "1" に、UNION_TBL の [更新連番] の値は "2" に設定する必要があります。

結合条件定義済み

[結合対象] フィールドの値に応じて、追加入力テーブルと主要入力テーブル間または追加入力テーブルと出力テーブル間で結合条件が定義済みであるかどうかを示します。このフィールドは表示専用です。

フィールド マッピングの作成

このプッシュ ボタンを使用すると、出力テーブル定義、主要入力テーブル、追加入力テーブル、書込可能アレイ セグメントおよび作業テーブルに基づいてフィールド マッピングが作成されます。作成されたフィールド マッピングを変更するには、[フィールド マッピング] グループ ボックスを使用します。

フィールド マッピング

[フィールド マッピングの作成] ボタンをクリックした場合は、このグループ ボックスにデータがロードされます。データがロードされたら、グループ ボックス内のフィールドの値を変更できます。

[フィールド マッピング] の [入力レコードとフィールド] タブ

出力フィールド

出力テーブルのフィールド名が表示されます。出力テーブルのフィールドは指定しなくてもかまいません。通貨のキー構造を定義するフィールドは選択できません。

入力タイプ

有効なオプションは以下のとおりです。

- [主要入力]: 主要入力テーブルのフィールドが出力フィールドにロードされます。
- [内部作業テーブル]: 作業テーブルのフィールドが出力フィールドにロードされます。GP_PYE_PRC_STAT と GP_PYE_SEG_STAT のフィールドであれば、どのフィールドでも選択できます。
- [追加入力]: 特定のレコードのフィールドが出力フィールドにロードされます。
- [エレメント]: エレメントが出力フィールドにロードされます。指定日は [指定日フィールド] フィールド (出力テーブルに表示されるフィールド) で指定できます。
- [書込可能アレイ]: 書込可能アレイのフィールドが出力フィールドにロードされます。指定日はセグメント遡及期間になります。
- [期間累計]: 残高累計エレメントが出力フィールドにロードされます。残高累計期間は期間累計で定義されます。
- [セグメント書込可能アレイ]: セグメント書込可能アレイのフィールドが指定されている場合は、そのフィールドがロードされます。

入力レコード

[入力タイプ] が [追加入力] または [書込可能アレイ] の場合は、レコード名を入力します。他の入力タイプの場合は、レコードの技術的な名称が表示されます。

入力フィールド	主要入力、追加入力、作業テーブル、セグメント書込可能アレイ、または書込可能アレイのフィールド名が表示されます。
符号の反転	計算結果を前回の金額に合計する場合に、符号を反転する必要があるかどうかを指定します。通常、集計が可能なフィールドについては全てオンにします。PIN_NUM や INSTANCE など値を含まないフィールドについては、このチェック ボックスはオフにします。

[フィールド マッピング] の [エレメント] タブ

[入カタイプ] に [エレメント] が指定されている場合は、以下のフィールドの入力は必須になります。

入カタイプ	[システム エレメント]、[変数]、[フォーミュラ]、[休暇付与]、[支給]、[控除]、[自動割当]、[累計]、[カウント]、[デュレーション] および [日付] の中から選択します。
エレメント	[入カタイプ] が [エレメント] の場合は、このフィールドの入力が必須です。[国] フィールドは、必ず正しく使用してください。

[フィールド マッピング] の [エレメント オプション] タブ

エレメント ソース	<p>[入カタイプ] が [エレメント] または [書込可能アレイ] の場合は、入力が必須です。遡及処理の場合のエレメントの読み取り方法を決定してください。</p> <ul style="list-style-type: none">• [元の値]: 元のセグメントで読み込まれます。• [再計算済]: 再計算済みセグメントで読み込まれます。
指定日フィールド	[入カタイプ] が [エレメント] であり、[エレメント ソース] が [元の値] の場合は、入力が必須です。エレメントを検索する指定日の代わりにこのフィールド名が使用されます。このフィールドの値は、出力テーブルからロードされます。
期間累計タイプ	[入カタイプ] が [期間累計] の場合は、入力が必須です。値は、[月間金額]、[月間ユニット]、[期間金額]、[期間ユニット]、[四半期金額]、[四半期ユニット]、[年間金額]、および [年間ユニット] です。

入力フィルタの作成

レポート データ処理詳細ページにアクセスします (レポート データ定義ページの [詳細] リンクをクリックします)。

SQL

主要入力テーブルの選択時に実行する where 句を入力します。別名を使用することができます。以下に例を示します。

- プラスの金額のみをフィルタに掛ける場合: "and PRI.CALC_RSLT_VAL>0"
- 特定の国をフィルタにを掛ける場合: "and WRK.COUNTRY='USA'"
- 追加入力テーブルに保存されているフィールドにフィルタを掛ける場合 (主要入力テーブルに結合されている場合): "and LNK.PIN_TYPE='ER'"

フィルタに使用可能な別名

[SQL] フィールドに指定できる別名が表示されます。ボタンを使用すると、使用可能な別名がリフレッシュされます。以下の別名が使用可能です。

- WRK: 作業テーブルです。
- PRI: 主要入力テーブルです。
- LNK: 主要入力テーブルと結合されていて、追加入力テーブルとして使用されるレコードです。

注意: SQL の where 句に特定の語句を使用することができます。たとえば、"and WRK.PAY_ENTITY in (%PARM.PRMARG.1)" とします。このステートメントでは、レポート データ処理によって %PARM.PRMARG.1 が適切な値に置き換えられます。

レポート データの検証

このセクションでは、レポート データを検証する方法について説明します。

レポートの検証

レポート データ検証ページを使用すると、特定のパラメータで定義済みのレポートをテストし、結果を検証できます。このページでは、以下の処理を行うことができます。

- バッチ モードでのレポート データ作成プロセスの実行
- リアルタイムでのレポート データ作成プロセスの実行
- SQL リクエストの作成
- 作成されたレポート データの表示

レポート データの検証に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
レポート データ検証	GP_RC_RPT	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[レポート]、[レポート データ検証]、[レポート データ検証]	レポート データのパラメータを入力します。レポート データ作成プロセスをバッチ モードまたはリアルタイムで実行します。SQL リクエストを作成します。

レポート検証パラメータの入力

レポート データ検証ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[レポート]、[レポート データ検証]、[レポート データ検証])。

レポート データ検証

ラン コントロール ID:

*実行モード:

スクリプト ロケーション:

▶ 関数とパラメータ

関数	パラメータ	タイプ	文字値		
EXTPROC	COUNTRY	文字列	USA	+	-
EXTPROC	NAME	文字列	GP_REPORT	+	-
SEGFILTER	COMPANY	文字列	GF1	+	-
SELCAL	CALGRPID	文字列	GDAPR01	+	-

スクリプト作成 レポート データ検証

レポート データ検証ページ

実行モード

3 つのオプションのいずれかを選択します。

- [バッチ (アプリケーション エンジン)]
- [リアルタイム (PeopleCode)]
- [スクリプト (データ ムーバー)]

[実行モード] によって SQL ステートメントの適用方法が決まります。

スクリプト ロケーション

スクリプトの保存場所を入力します。データ ムーバーでスクリプトを実行できるのは、[実行モード] で [スクリプト (データ ムーバー)] を選択した場合に限られます。それ以外の場合は、作成されたスクリプトを使用して、SQL 文をデバッグできます。

関数、パラメータ

システムでレポート用のデータを選択するために使用される関数とパラメータを入力します。たとえば、SELCAL/CALGRPID と入力すると、レポートで使用するカレンダー グループ ID を選択することができます。展開可能な [関数とパラメータ] グループ ボックスに定義済みの値が表示されます。

注意: ユーザー定義の関数とパラメータを作成して入力フィルタで使用することもできます。

タイプ

[パラメータ] のフィールド タイプを示します。[文字列]、[日付]、[数値]、または [SQL] のいずれかを選択します。

文字値

[関数] または [パラメータ] の値を入力します。

スクリプト作成

このボタンをクリックすると、SQL ステートメントを含む .dms が作成され、ページに表示されます。スクリプトには、ステートメントの作成に使用するパラメータのリストが含まれます。構文エラーや未定義によりパラメータがプロセスで使用されない場合は、リストに "非使用" と表示されます。

レポート データ検証

このオプションを選択すると、レポート データが検証されます。使用されるプロセスは、[実行モード] で選択したオプションによって異なります。

- [バッチ (アプリケーション エンジン)]: アプリケーション エンジンが開始され、プロセス スケジューラによりプロセスがバッチ モードで実行されます。
- [リアルタイム (PeopleCode)]: PeopleCode 関数が開始され、プロセスがリアルタイムで実行されます。
- [スクリプト (データ ムーバー)]: データ ムーバー プロセスが開始され、プロセス スケジューラによりプロセスがバッチ モードで実行されます。

パラメータの構築

以下に、あらかじめ定義されている関数とパラメータ値のリストを示します。

関数	パラメータ	パラメータ値	コメント
EXTPRC	COUNTRY	国コード	これは必須パラメータです。
EXTPRC	NAME	レポート データ	これは必須パラメータです。
EXTPRC	TYPE	P、A、または B	以下のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • P: 給与計算データの抽出プロセス • A: 休暇欠勤データの抽出プロセス • B: 給与計算と休暇欠勤の両データのプロセス
SELPYE	SECUR	Y/N	このパラメータは、受給者選択にセキュリティを適用する場合に使用します。
SELPYE	RECORD	レコード名	受給者選択は、このレコードに基づいて行われます。このレコードには、EMPLID と EMPL_RCD が格納されている必要があります。
SELPYE	SQL	SQL ステートメント	パラメータ値のフィールド長が十分でない場合、ユーザーは同じパラメータを繰り返すことができます。システムではこれらの値が結合されます。
SELPYE	GRPBUILD	グループ ビルド コード	
SELPYE	GRPVER	グループ ビルド バージョン	

関数	パラメータ	パラメータ値	コメント
SELPYE	GRPLST	グループ リスト名	
SELPYE	STREAM	ストリーム番号	このパラメータは、EMPL_FROM/TO の使用が必要かどうかを指定する場合に使用します。
SELPYE	EMPLID	従業員 ID	同じパラメータを繰り返すことが可能です。
SELPYE	EMPL_RCD	雇用レコード番号	
SELCAL	CALGRPID	カレンダー グループ ID	
SELCAL	DATE	1、2、3、または 4	<p>以下のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1: 期間開始日 • 2: 期間終了日 • 3: 支給日 • 4: "期間開始日 >= FROMDT" および "期間終了日 <= TODT" <p>このパラメータが定義されていない場合は、期間終了日が使用されます。</p>
SELCAL	FROMDT	開始日	
SELCAL	TODT	終了日	

関数	パラメータ	パラメータ値	コメント
SELCAL	CYCLE	1、2、または 3	以下のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 1: 全サイクル (デフォルト) 2: オフサイクルのみ 3: オンサイクルのみ
SELSEG	SQL		これは処理フィルタです。
SELSEG	BALANCES	1 または 2	以下のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 1: 受給者レベル 2: 職務レベル
SELSEG	REPLACE	Y/N	このパラメータは、置換値が元の値と見なされるかどうかを指定する場合に使用します。
SEGFILTER	作業テーブルおよびセグメント書込可能アレイ (セグメント書込可能アレイが定義されている場合) の任意のフィールド名	任意の値	これはセグメント フィルタです。プロセスによって WRK.fieldname がレポートに追加されます。

レポート データの利用

グローバル ペイロールには、レポート データ機能を使用して結果データを抽出する 2 つのレポートが用意されています。

- 給与計算結果

参照: 第 22 章、「給与計算結果の表示と最終決定」、給与計算データのレポート、921 ページ。

- 汎用レポート

参照: 第 46 章、「汎用レポートの設定と実行」、汎用レポートの実行、 1688 ページ。

第 46 章

汎用レポートの設定と実行

この章では、汎用レポートの概要と以下の方法について説明します。

- 汎用レポートの設定
- 汎用レポートの実行

関連項目:

付録 B、「グローバル ペイロールのレポート群」、1707 ページ

汎用レポートについて

グローバル ペイロールでは、基本的な給与計算結果用に独自の汎用レポートを定義できるフレームワークが用意されています。汎用レポートの機能によって、さまざまなビジネスの要件に応じた最適な結果テーブル クエリーを設定することができます。このようなクエリーを使用することで、必要なデータを迅速に表示できるようになります。ただし、最終版 (配布用) のレポート作成に使用される SQR を代替するものではありません。

以下の 3 種類の汎用レポートによって、同一の情報を異なる観点で表示できます。

- エレメント リスト

各従業員の特定期間における給与計算エレメントを一覧にしたものです。数値エレメントのセットとして各列を定義します。数値エレメントは累計されます。

- サマリ

各従業員に指定された 2 つの日付の間を支給期間とする、ユーザー定義の支給エレメントのリストです。数値エレメントのセットとして各列を定義します。数値エレメントは累計されます。ラン コントロール ページで、各行に開始日と終了日を指定します。

- 累計

各従業員に対して選択した累計の合計が表示されます。ラン コントロール ページで、レポートを出力する支給カレンダーを指定します。

これら全てのレポートで、ソート オプションと分割レベルを指定できます。分割レベルを定義すると、分割が発生するごとに各分割の合計が印刷されます。レポートの最後には総計が印刷されます。分割が定義されていない場合、合計は印刷されません。分割レベルによっては、1 つのレポートに同じ従業員が複数回登場する可能性があります。(同一の従業員ですがセグメント番号が違います。)

この 3 種類のレポートでは、最大列数はいずれも 12 です。

分割レベル

分割レベルとは、結果をソートするためのツールです。分割レベルを使用して、レポートの情報を整理します。1 つのレポートは、最大 3 つのレベルに分割できます。たとえば、最初のレベルでは従業員をビジネス ユニット別でソートします。次のレベルでは、各ビジネス ユニットのメンバーを部門別でソートし、3 つ目のレベルでは、各部門のメンバーを事業所別にソートします。レポート作成時に分割レベルを選択する場合、セクションごとにページを分けて印刷することができます。

システム データとして用意されている標準の分割レベルは以下のとおりです。

- 部門
- 会社
- 事業所

汎用レポートの設定

汎用レポートを設定するには、汎用レポート分割レベル (GP_GENRPT_BRK_LVL) コンポーネントと汎用レポート (GP_GENRPT) コンポーネントを使用します。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 分割レベルの定義
- 汎用レポートのパラメータの定義
- 汎用レポートの行と列の定義

汎用レポートの設定に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
分割レベル	GP_GENRPT_BRK_LVL	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[レポート]、[汎用レポート分割レベル]、[分割レベル]	分割レベルを定義します。
汎用レポート - 定義	GP_GENRPT_SETUP	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[レポート]、[汎用レポート]、[定義]	レポート ID とパラメータを定義します。
行/列	GP_GENRPT_ROW	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[レポート]、[汎用レポート]、[行/列]	レポートの行または列を指定し、エレメントを定義します。

分割レベルの定義

分割レベル ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[レポート]、[汎用レポート分割レベル]、[分割レベル])。

汎用レポート分割レベル

分割レベル: J1

データ種別: ユーザー データ

*名称: 会社

ALL

エレメント

*入力タイプ: システム エレメント - 文字列

エレメント名: COMPANY

ソースと利用法

☒ データベース フィールド

☐ システム計算

レコード (テーブル) 名: JOB

フィールド名: COMPANY

プロソフト ビュー名: COMPANY_TBL

エレメント名:

☐ セットID による管理

分割レベル ページ

注意: 分割レベルに部門を指定してソートする場合、ビジネス ユニットで先にソートし、それから部門でソートすることをお勧めします。

分割レベル	分割レベルを識別する番号およびコードです。
データ種別	値は以下のとおりです。 [システム データ]: PeopleSoft が用意した分割レベルのタイプです。 [ユーザー データ]: システム データ以外の全ての分割レベルのタイプです。
名称	分割レベルを識別できる名称を入力します。この名称が、レポートされる分割データの見出しになります。

エレメント

入カタイプ

分割レベルに関連付けるエレメントの入カタイプを選択します。[システム エレメント - 文字列] または [変数 - 文字列] を選択できます。

エレメント名

分割レベルに関連付けるシステム エレメントまたは変数を選択します。たとえば、分割レベルとして支給グループを定義する場合、GP PAYGROUP エレメントを選択します。

注意: 選択したエレメントは全て変換され保存される必要があります。

レコード (テーブル) 名

[入カタイプ] に [変数 - 文字列] を選択した場合は、変数のロード元であるレコードの名称を入力します。

フィールド名

[入カタイプ] に [変数 - 文字列] を選択した場合は、変数のロード元のレコード名のほかに、そのレコードのフィールドも指定します。

ソースと利用法

システム エレメントを選択すると、そのシステム エレメントのソース/使用ページにある情報がこのグループ ボックスに表示されます。

関連項目:

第 6 章、「データ取得エレメントの定義」、システム エレメントの使い方、122 ページ

汎用レポート パラメータの定義

汎用レポート - 定義ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[レポート]、[汎用レポート]、[定義])。

定義

行列

レポート ID:

JGR01

*名称:

支給/控除リスト (給与)

*レポート タイプ:

リスト

*通貨:

JPY

円

レポート分割レベル

分割レベル 1:

☐ レベル 1 のページ分割

分割レベル 2:

☐ レベル 2 のページ分割

分割レベル 3:

☐ レベル 3 のページ分割

受給者オプション

ソート オプション:

従業員 ID、雇用コード番号

☐ 従業員レベルのページ分割

☐ 空白行を非表示

汎用レポート - 定義ページ

レポート タイプ

[サマリ]、[リスト] (エレメント リスト)、[累計] のいずれかを選択します。

通貨

レポートのデフォルト通貨を定義します。金額は、この通貨へ換算された後に処理されます。ここで指定した通貨は、汎用レポート作成のラン コントロール ページで変更することができます。

汎用レポートの金額は最大 14 桁までです。小数点以下の値の処理は、通貨コードによって異なります。通貨によっては、金額の小数点第 2 位、第 3 位、または第 4 位以下が切り捨てられます。小数点以下を使用しない通貨の場合、14 桁全てを金額の表示に使用できます。

レポート分割レベル

分割レベル 1、分割レベル 2、 分割レベル 3

最大 3 つの分割レベルを使用することができます。複数の分割レベルを使用する場合は、最初に分割レベル 1、次に分割レベル 2、最後に分割レベル 3 でソートが実行されます。分割レベル ページで設定した分割レベルから選択します。

レベル 1 のページ分割、レベル 2 のページ分割、 レベル 3 のページ分割

選択した分割レベルでレポートのページ分割 (改ページ) を行う場合は、それぞれのチェック ボックスをオンにします。

受給者オプション

ソート オプション 従業員別にソートする場合のデフォルトの方法を選択します。従業員 ID および雇用レコード番号別、または氏名および雇用レコード番号別にソートできます。このソート オプションはレポートの実行時にラン コントロール ページで変更することができます。

従業員レベルのページ分割 サマリ タイプのレポートでのみ有効です。従業員別にページを分けて印刷する場合にこのチェック ボックスをオンにします。

空白行を非表示 リストとサマリの場合にのみ有効です。値が 0 の行を印刷しないようにする場合にオンにします。

汎用レポートの行と列の定義

行/列ページにアクセスします ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[レポート]、[汎用レポート]、[行/列])。

定義

行列

レポート ID: JGR01

名称: 支給/控除リスト (給与)

レポート タイプ: リスト

行/列

検索 最初 1-12/12 最後

列タイトル 1: 固定的賃金

列タイトル 2:

☒ 合計を印刷

エレメント

加減算

加減算

最初 1-3/3 最後

入力タイプ	エレメント名	名称	加算/減算		
支給	ER BASE PAYM	固定的賃金 (月給)	加算	+	-
支給	ER BASE PAYD	固定的賃金 (日給)	加算	+	-
支給	ER BASE PAYH	固定的賃金 (時給)	加算	+	-

行/列ページ

"汎用レポート" の定義ページで選択したレポート タイプによって、このページに表示されるフィールドが異なります。ただし、列タイトル フィールド、[合計を印刷] チェック ボックス、[エレメント名] フィールド、[名称] フィールドについては、全てのレポートに共通して表示されます。

選択したレポート タイプによって表示されるフィールドは以下のとおりです。

[リスト] または [サマリ] を選択した場合	[累計] を選択した場合
入力タイプ	ユーザー キー
加算/減算	フィールド ラベルを印刷
	結果のない場合は行を印刷しない
	カレンダー ID を印刷

行/列

各レポート タイプの行と列に含まれるデータ タイプの一覧を以下の表に示します。

レポート タイプ	列	行
リスト	エレメントまたはエレメント グループ	受給者
サマリ	期間	エレメント (1 つまたは複数)
累計	累計	受給者

列タイトル

各列のタイトルを定義します。タイトルは 2 行×30 文字まで入力できます。

ユーザー キー

(累計タイプのみ) 累計のユーザー キーを選択します。列は、ユーザー キーかエレメントになります。

合計を印刷

改ページの前に合計を印刷する場合、このチェック ボックスをオンにします。

フィールド ラベルを印刷

レポート タイプが [累計] であり、列がユーザー キーではない場合のみ、このチェック ボックスが表示されます。列のエレメントの値ではなく、ラベルを印刷する場合にこのチェック ボックスをオンにします。[ラベル] フィールド内の文字列が印刷されます。

結果のない場合は行を印刷しない

レポート タイプが [累計] であり、列がユーザー キーではない場合に、このチェック ボックスが表示されます。累計に終了日がなく、結果がゼロとなった行を新しいカレンダーに繰り越す場合にその行を印刷しないようにするには、このチェック ボックスをオンにします。このようにすることで、不要な行をレポートに表示しないようにすることができます。

カレンダー ID を印刷

レポート タイプが [累計] であり、列がユーザー キーではない場合のみ、このチェック ボックスが表示されます。このチェック ボックスをオンにすると、処理の結果作成された行のカレンダー ID が印刷されます。これにより、遡及処理が発生したカレンダー グループのレポートであることが識別しやすくなります。

エレメント

レポートの各行または各列においてレポートされるエレメントを選択します。

入力タイプ

エレメントの入力タイプを選択します。選択できる値は、[自動割当]、[ブラケット]、[控除]、[支給]、[フォーミュラ]、[システムエレメント] および [変数] です。

エレメント名

エレメント名を選択します。

ラベル

レポート タイプが累計の場合に、ユーザー キーまたはカレンダー ID 以外の列に対して [フィールド ラベルを印刷] チェック ボックスをオンにすると、[名称] フィールドに代わって表示されます。関連するエレメントが 0 以外のときに列に出力するラベルを入力します。

加算/減算

列または行の合計にエレメントを加算するのか、または合計から減算するのかを選択します。

注意: レポート タイプが累計の場合、有効桁数が必要になる場合があります。全てのユーザーキーは、設定時に定義された累計の結果テーブルから取得されます。ユーザー キーが印刷され、その後それらのキーから開始される累計結果が選択されます。

また、累計に終了日が定義されていないために、ローン返済などのイベントが終了しても累計が繰り越される場合があります。このような場合には、常に処理結果がゼロとして繰り越される累計 (毎月の控除など) を特定して、[結果のない場合は印刷しない] チェック ボックスをオンにする必要があります。同様に、累計の保存オプションに "全ての計算" が定義されていて、カレンダー実行で遡及処理が発生した場合も、[結果のない場合は印刷しない] チェック ボックスをオンにします。カレンダー グループに給与計算カレンダーと休暇欠勤カレンダーの両方がある場合は、遡及期間から現在の期間までの全てのカレンダー (給与計算と休暇欠勤の両方) に累計が表示されます。こうした累計で結果がゼロになる列を特定できる場合も、[結果のない場合は印刷しない] チェック ボックスをオンにして、不要な行が印刷されないようにします。

汎用レポートの実行

このセクションでは、汎用レポートの実行方法について説明します。

受給者データのサマリまたは詳細、ソート オプション、開始日、終了日などのランタイム パラメータを選択してから、レポートを実行してください。

ラン コントロール ページによって以下のアプリケーションとプログラムが起動されます。

1. GP_GENRPT アプリケーション エンジン プログラム。このプログラムではレポート データのパラメータが準備されます。これにより、指定されたラン コントロール オプションと設定に基づいて GPGENRPT SQR プロセスの結果が抽出されます。
2. GPGENRPT SQR プログラム。このプログラムでは抽出されたレポート データの結果から給与計算結果が読み込まれ、レポートの書式が設定されます。

参照: 第 46 章、「汎用レポートの設定と実行」、1679 ページ。

リスト レポートまたはサマリ レポートでの受給者と期間の選択

リスト レポートとサマリ レポートでは、複数の期間を対象にすることができます。期間 ID によって、日付と受給者のパラメータが設定されます。次に、一致する期間 ID のセグメント レコードを持つ全ての受給者が選択され、レポートが作成されます。リスト レポートで複数の期間が選択されると、選択した全てのセグメントの値が合計されます。

累計レポートでの受給者と期間の選択

累計レポートは 1 つの期間のみを対象とします。カレンダー グループ ID によって、日付と受給者のパラメータが設定されます。カレンダー グループ ID には、1 つの期間しか含めることができません。ただし、カレンダー グループに遡及処理が行われた場合は、レポートに追加の行が表示される場合があります。したがって、遡及処理行が識別できるように、[カレンダー ID を印刷] チェック ボックスをオンにすることをお勧めします。

汎用レポートの実行に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
汎用レポート作成	GP_GENRPT_RC	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[レポート]、[汎用レポート作成]、[汎用レポート作成]	汎用レポートを実行します。

汎用レポートの実行

汎用レポート作成ページにアクセスします ([グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[レポート]、[汎用レポート作成]、[汎用レポート作成])。

汎用レポート作成

ラン コントロール ID:

レポートマネージャ

プロセスモニター

実行

言語コード:

英語

レポート ID

*レポート ID:

JGR06

名称:

休暇欠勤/超過勤務リスト

レポート タイプ:

サマリ

カレンダー グループ:

*開始日:

J200401

2004/01/01

*終了日:

J200401

2004/01/31

*計算タイプ:

給与

ソート オプション:

従業員 ID、雇用コード番号

*通貨:

USD

アメリカドル

☒ 受給者の詳細

グループ ID

グループ ID:

名称:

指定日:

絞込日:

☐ グループの再作成

行/列

カスタイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

開始カレンダー期間 ID	期間開始日	終了カレンダー期間 ID	期間終了日		
J200401	2004/01/01	J200401	2004/01/31	+	-

汎用レポート作成ページ

レポートを実行するには、レポートに含めるカレンダーをまず指定する必要があります。そのためには、リスト レポートとサマリ レポートで [開始日] と [終了日] に期間 ID を入力し、累計レポートではカレンダー グループ ID を入力します。リスト レポートとサマリ レポートは複数の期間を対象にできるので、期間 ID を入力することになります。

- レポート タイプ

このフィールドは、同じページのその他のフィールドに影響します。
- 開始日

[終了日] フィールドとの組み合わせによってレポートの期間枠を設定します。これらの日付で定義される期間は、定義された支給期間の日付と一致している必要があります。レポート タイプによっては、開始日と終了日の代わりにグループ ID が使用されます。
- 終了日

[開始日] フィールドとの組み合わせによってレポートの期間枠を設定します。これらの日付で定義される期間は、定義された支給期間の日付と一致している必要があります。レポート タイプによっては、開始日と終了日の代わりにグループ ID が使用されます。
- ソート オプション

このフィールドには、"汎用レポート" の定義ページで定義されたソート オプションが表示されます。この値は上書き可能です。

通貨	このフィールドには、"汎用レポート" の定義ページで定義された通貨が表示されます。この値は上書き可能です。
受給者の詳細	各受給者の詳細をレポートする場合にこのチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスがオフになっている場合、分割レベル別のサマリのみがレポートに出力されます。分割レベルが定義されていないレポートの場合、このチェック ボックスは使用不可になります。
グループ ID	[グループ ID] セクションを使用して、特定のグループ ID を入力することにより、受給者の一部を選択できます。このグループ ID は、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理のグループ ビルド ページで定義されます。
指定日	レポートするグループの有効日を指定します。
絞込日	<p>グループ定義に有効日が付いたレコードが含まれている場合、実行するレコードの日付を入力します。たとえば、1990/1/1 という有効日が付いているグループを実行し、そのグループ内にある 1998/2/15 の有効日の付いた行を実行する場合、[指定日] に 1990/1/1、[絞込日] に 1998/2/15 をそれぞれ選択します。</p> <p>このフィールドを空白のままにしておくと、現在の日付でグループが実行されます。</p>
グループの再作成	汎用レポートを実行する前にグループを再作成する場合にこのチェック ボックスをオンにします。

レポート タイプがサマリの場合のみ、[行/列] グループ ボックスが表示されます。[レポート ID] グループ ボックスで定義するレポート期間のうち、最初の 12 か月間について列のセットが作成されます。各月の最初の日付と最後の日付が開始日列と終了日列に入力されます。独自のサマリレポート用に異なる列を最大 12 列まで手動で定義することができます。

第 47 章

データのアーカイブ

この章では、データ アーカイブの概要と以下の方法について説明します。

- データ アーカイブ マネージャの管理
- データ アーカイブ マネージャの実行

グローバル ペイロール データのアーカイブ

グローバル ペイロールでは大量の結果データが作成されます。詳細なオーディット トレールを管理するため、通常は順守目的でこのデータを保持する必要があります。一般的に、実際に参照が必要とされるデータの量よりも、保存する必要のあるデータ量の方が多くなります。保存データを管理可能な量に抑えるには、データを定期的にアーカイブする方法があります。

PeopleSoft PeopleTools には、データ アーカイブ マネージャと呼ばれるアーカイブ ツールが用意されています。このツールを使用してグローバル ペイロールの結果データを正しくアーカイブするには、アーカイブするデータと対応するテーブル構造を正確に理解しておく必要があります。結果データのアーカイブを容易にするため、PeopleSoft グローバル ペイロールにはあらかじめ定義されているアーカイブ オブジェクト、アーカイブ クエリーおよびアーカイブ テンプレートが用意されています。

注意: 標準で用意されているアーカイブ オブジェクト、アーカイブ クエリー、またはアーカイブ テンプレートに変更を行う場合は、細心の注意を払ってください。変更によって重要なデータが失われる可能性があります。

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: Data Management, Using PeopleSoft Data Archive Manager

標準で用意されているアーカイブ オブジェクト

アーカイブ オブジェクトとは、アーカイブするテーブルの集まりのことです。オブジェクト定義によってテーブルからデータをアーカイブする方法が決定されます。

PeopleSoft グローバル ペイロールには、アーカイブする全てのグローバル ペイロール コア結果 テーブルのリストを含む 1 つのアーカイブ オブジェクト (GP_RSLT_ARCHIVE) が用意されています。さらに、グローバル ペイロールの国別拡張機能ごとに 1 つのアーカイブ オブジェクトが用意されています。これらのアーカイブ オブジェクトには、アーカイブする国別テーブルのリストが含まれます。国別のアーカイブ オブジェクトの名称は GPxx_RSLT_ARCHIVE (xx は 2 文字から成る ISO 指定の国コード) になります。

注意: 国別のアーカイブ オブジェクトに含まれる特定のテーブルに関する詳細については、国別機能のドキュメンテーションを参照してください。

標準で用意されているアーカイブ クエリー

PeopleSoft データ アーカイブ マネージャでは、クエリーを使用して基本アーカイブ オブジェクトの基本テーブルからの選択条件を定義します。PeopleSoft グローバル ペイロールには、2 つのアーカイブ クエリーが用意されています。

- GP_CAL_RUN_SNGL
- GP_CAL_RUN_MULT

これらのクエリーでは、カレンダー グループ ID (CAL_RUN_ID) に基づいてアーカイブするデータが選択されます。GP_CAL_RUN_SNGL では、1 つの特定のカレンダー グループ ID のデータが選択されます。GP_CAL_RUN_MULT では、指定されたカレンダー グループより前または同時に最終決定された全てのカレンダー グループのレコードが選択されます。

注意: 一度に 1 つの国のデータのみをアーカイブします。データ アーカイブ マネージャを使用して選択プロセスを実行するときに国を選択します。

標準で用意されているアーカイブ テンプレート

アーカイブ テンプレートでは、アーカイブ オブジェクトとアーカイブ クエリーを関連付けます。PeopleSoft グローバル ペイロールには、グローバル ペイロール コアのアーカイブ オブジェクトと 2 つのアーカイブ クエリーを参照する 1 つのアーカイブ テンプレート (GPRSLT) が用意されています。さらに、グローバル ペイロールの国別拡張機能ごとに 1 つのアーカイブ テンプレートが用意されています。このテンプレートでは、グローバル ペイロール コアのアーカイブ オブジェクト、国別のアーカイブ オブジェクトおよび 2 つのアーカイブ クエリーが参照されます。国別のアーカイブ テンプレートの名称は GPxxRSLT (xx は 2 文字から成る ISO 指定の国コード) になります。

データ アーカイブ マネージャの管理

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- アーカイブ オブジェクトの管理
- アーカイブ テンプレートの管理

データ アーカイブ マネージャの管理に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
アーカイブ オブジェクト の管理	PSARCHOBJDEFN	[PeopleTools]、[データ アーカイブ マネー ジャ]、[アーカイブ オブ ジェクトの管理]、[アー カイブ オブジェクトの管 理]	アーカイブ レコードを アーカイブ オブジェクト に分類します。
アーカイブ テンプレート の管理	PSARCHTEMPDEFN	[PeopleTools]、[データ アーカイブ マネー ジャ]、[アーカイブ テン プレートの管理]、[アー カイブ テンプレートの管 理]	アーカイブ テンプレート を定義します。

アーカイブ オブジェクトの管理

アーカイブ オブジェクトの管理ページにアクセスします ([PeopleTools]、[データ アーカイブ マネージャ]、[アーカイブ オブジェクトの管理]、[アーカイブ オブジェクトの管理])。

アーカイブ テンプレートの管理

アーカイブ テンプレートの管理ページにアクセスします ([PeopleTools]、[データ アーカイブ マネージャ]、[アーカイブ テンプレートの管理]、[アーカイブ テンプレートの管理])。

アーカイブ テンプレートの管理

アーカイブ テンプレート: GPRSLT 名称: GP Core Archive Template

アーカイブ テンプレート オブジェクト

検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

基本オブジェクト	アーカイブ オブジェクト		
<input checked="" type="checkbox"/>	GP_RSLT_ARCHIVE	GP Core Archive Object	<div>+ -</div>

選択アーカイブ クエリー

検索 | 全件表示 | 最初 1-2/2 最後

クエリー名	名称		
GP_CAL_RUN_MULT	Archive: Multiple Cal Groups		<div>+ -</div>
GP_CAL_RUN_SINGL	Single Finalized GP CAL_RUN_ID		<div>+ -</div>

☐ テンプレートで、履歴からのデータの選択リストAを許可

選択リストA クエリー

検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

クエリー名	名称		
-------	----	--	--

AE フロセス

検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

アーカイブ フロセス	前処理 AEプログラム	後処理 AEプログラム		
			<div>+ -</div>	

アーカイブ テンプレートの管理ページ

このページを使用して、標準のアーカイブ テンプレートに関連付けられているアーカイブ オブジェクトとアーカイブ クエリーを表示します。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Data Management の「Using PeopleSoft Data Archive Manager」に含まれる「Managing Archive Templates」

データ アーカイブ マネージャの実行

このセクションでは、データ アーカイブ マネージャの使い方の概要と以下の方法について説明します。

- グローバル ペイロール データのアーカイブ ジョブの定義
- クエリー バインド変数の定義

データ アーカイブ マネージャの実行に使用するページ

ページ名	定義名	ナビゲーション	用途
データのアーカイブ	PSARCHRUNCNTL	[PeopleTools]、[データ アーカイブ マネー ジャ]、[データのアーカ イブ]	アーカイブ ジョブを定義 します。
アーカイブ用クエリー バ インドの定義	PSARCHRUNQRYBND	"データのアーカイブ" ページで [バインド定義] リンクをクリックしま す。	アーカイブ プロセスの アーカイブ用クエリー バ インド変数を定義しま す。
アーカイブ ラン コント ロールの詳細	PSARCHEXAMRUNCNTL	"データのアーカイブ" ページで [詳細表示] リンクをクリックしま す。	アーカイブするデータの 詳細を表示します。 参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: Data Management の「Using PeopleSoft Data Archive Manager」の 「Archiving Data to History」に含まれる 「Viewing Details」
アーカイブのオーディッ ト	PSARCHIVEAUDIT	[PeopleTools]、[データ アーカイブ マネー ジャ]、[アーカイブの オーディット]、[アーカ イブのオーディット]	アーカイブ ジョブの結果 を表示します。 参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: Data Management の「Using PeopleSoft Data Archive Manager」に含 まれる「Auditing Archive Processes」

グローバル ペイロール データのアーカイブ ジョブの定義

データのアーカイブ ページにアクセスします ([PeopleTools]、[データ アーカイブ マネージャ]、[データのアーカイブ])。

ラン コントロール ID: 1212

[レポート マネージャ](#)

[プロセス モニター](#)

実行

アーカイブ テンプレート

*アーカイブ テンプレート:  GP Core Archive Template

アーカイブ プロセス

プロセス タイプ オンライン テーブルから履歴テーブルにコピー

選択条件

☒ 選択クエリー

 Single Finalized GP CAL_RUN_ID [バインド定義](#)

☐ バッチ番号

コミット処理

☐ 終了時にコミット

☒ セット ベース処理

☐ 行ベース処理

☐ 行数のオーディット

データのアーカイブ ページ

データ アーカイブ プロセス

データのアーカイブ ページを使用して 4 つの異なるプロセスを実行することができます。

- [選択]: データがトランザクション テーブルから履歴テーブルにコピーされます。
- [削除]: 履歴テーブルにデータが既にアーカイブされている場合にのみトランザクション テーブルからデータが削除されます。
- [ロールバック]: データが履歴テーブルからトランザクション テーブルにコピーされます。
- [履歴から削除]: データが履歴テーブルから削除されます。

注意: 一般的に、通常のデータ アーカイブ アクティビティでは [選択] と [削除] のプロセスのみを使用します。

グローバル ペイロール データのアーカイブ

グローバル ペイロールのデータをアーカイブするには、次の手順に従います。

1. 使用するアーカイブ テンプレートを選択します。
2. プロセス タイプに [選択] を選択して、グローバル ペイロールの結果テーブルから対応する履歴テーブルにデータをコピーします。
3. 1 つのカレンダー グループのデータをアーカイブする場合は、選択クエリーに GP_CAL_RUN_SINGL を選択します。

複数のカレンダー グループのデータをアーカイブする場合は、選択クエリーに GP_CAL_RUN_MULT を選択します。
4. [バインド定義] リンクをクリックして "アーカイブ用クエリー バインドの定義" ページにアクセスし、このページでアーカイブ プロセスのバインド変数としてカレンダー グループと国を選択します。GP_CAL_RUN_MULT クエリーを使用する場合は、選択したカレンダー グループ ID に定義された日付よりも前または同日に最終決定された全てのカレンダー グループのデータがアーカイブ プロセスで選択されます。
5. [実行] をクリックして選択プロセスを開始します。
6. "アーカイブのオーディット" ページを使用して選択プロセスの結果を確認します。
7. データのアーカイブ ページに戻ります。
8. プロセス タイプに [削除] を選択して履歴テーブルにコピーしたデータを削除します。
9. 実行した選択プロセスのバッチ ID を選択します。
10. [実行] をクリックして削除プロセスを開始します。
11. "アーカイブのオーディット" ページを使用して削除プロセスの結果を確認します。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Data Management の「Using PeopleSoft Data Archive Manager」の「Archiving Data to History」に含まれる「Defining Archive Jobs」

クエリー バインド変数の定義

"アーカイブ用クエリー バインドの定義" ページにアクセスします (データのアーカイブ ページの [バインド定義] リンクをクリックします)。

アーカイブ用クエリー バインドの定義

アーカイブ ID: GPRSLT

ユーザー ID: PS

ラン コントロール ID: 1212

使用クエリー: GP_CAL_RUN_SINGL

クエリー バインド変数のリセット

CountryGXA

Calendar GroupG1_GRP_PERF_JAN04

"アーカイブ用クエリー バインドの定義" ページ

[クエリー バインド変数のリセット] ボタンをクリックして、データ アーカイブ プロセスのバインド変数として国とカレンダー グループを選択します。国とカレンダー グループを選択すると、データのアーカイブ ページ [詳細表示] リンクが使用可能になります。このリンクを使用すると、アーカイブされるデータを表示することができます。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Data Management の「Using PeopleSoft Data Archive Manager」の「Archiving Data to History」に含まれる「Defining Archive Query Binds」

アーカイブ ジョブの結果の表示

"アーカイブのオーディット" ページにアクセスします ([PeopleTools]、[データ アーカイブ マネージャ]、[アーカイブのオーディット]、[アーカイブのオーディット])。

アーカイブのオーディット

ユーザー ID:

アーカイブ ID:

GPRSLT

GP Core Archive Template

開始日:

終了日:

検索

削除

アーカイブ プロセス							カスタマイズ 検索 全件表示	
	アーカイブ ID	イベント日時	アーカイブ プロセス	アーカイブ バッチ番号	レコード (テーブル) 名	行数	ユーザー ID	ラン コント
1						0		

"アーカイブのオーディット" ページ

このページを使用してアーカイブ ジョブの結果を表示します。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Data Management の「Using PeopleSoft Data Archive Manager」に含まれる「Auditing Archive Processes」

付録 A

グローバル ペイロール クエリー

この付録では、PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールで標準で用意されているクエリーについて説明します。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Query

標準で用意されているクエリー

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールで標準で用意されている全てのクエリーを以下の表に示します。

クエリー	説明	検索キー
GP_ELEMENTS	<p>特定の国の全てのエレメントをリストします。カテゴリまたはエレメント名を含めて、検索をさらに絞り込むことができます。</p> <p>注意: このクエリーの実行方法は、この PeopleBook の「配布されたエレメントの表示」の章で説明しています。</p> <p>参照: 第 44 章、「配布されたエレメントの表示」、1645 ページ。</p>	<ul style="list-style-type: none">• 使用先• 国• カテゴリ• エレメント名
GP_PMT_BY_STATUS	支給ステータス別に全ての受給者をリストします。	支給ステータス

クエリー	説明	検索キー
GP_RESULTS_ACM	特定のカレンダー グループの累計結果を全て表示します。	<ul style="list-style-type: none"> • カレンダー グループ • 支給グループ • 従業員 ID • エLEMENT名
GP_RESULT_ABS	特定のカレンダー グループの休暇欠勤結果を全て表示します。	<ul style="list-style-type: none"> • カレンダー グループ • 支給グループ • 従業員 ID • エLEMENT名
GP_RESULT_ACM_USER_ADJ	特定のカレンダー グループの累計値に対する調整値を全て表示します。	<ul style="list-style-type: none"> • カレンダー グループ • 支給グループ • 従業員 ID • エLEMENT名
GP_RESULT_DELTA	特定のカレンダー グループの遡及デルタを全て表示します。	<ul style="list-style-type: none"> • カレンダー グループ • 支給グループ • 従業員 ID • エLEMENT名
GP_RESULT_ERN_DED	特定のカレンダー グループの支給および控除の結果を全て表示します。	<ul style="list-style-type: none"> • カレンダー グループ • 支給グループ • 従業員 ID • エLEMENT名
GP_RESULT_MESSAGES	特定のカレンダー グループのバッチ処理メッセージを全て表示します。	<ul style="list-style-type: none"> • カレンダー グループ • 支給グループ • 従業員 ID

クエリー	説明	検索キー
GP_RESULT_PAYMENT	特定のカレンダー グループの銀行振込処理の実行結果を表示します。	カレンダー グループ
GP_RESULT_PIN	特定のカレンダー グループのサポート エLEMENTの結果を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> • カレンダー グループ • 支給グループ • 従業員 ID • ELEMENT名
GP_RESULT_PI_DATA	特定のカレンダー グループのポジティブ入力結果を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> • カレンダー グループ • 支給グループ • 従業員 ID • ELEMENT名
GP_RESULT_PI_SOVR	特定のカレンダー グループのポジティブ入力のサポート ELEMENTを表示します。	<ul style="list-style-type: none"> • カレンダー グループ • 支給グループ • 従業員 ID • ELEMENT名
GP_RESULT_PRC_STAT	特定のカレンダー グループの処理ステータス レコードを表示します。	<ul style="list-style-type: none"> • カレンダー グループ • 支給グループ • 従業員 ID
GP_RESULT_SEG_STAT	特定のカレンダー グループのセグメント ステータス レコードを表示します。	<ul style="list-style-type: none"> • カレンダー グループ • 支給グループ • 従業員 ID
GP_SET_ERNDED_END_DATE	特定のカレンダー グループについて、割り当てられている支給または控除の終了日が変更された受給者をリストします。	カレンダー グループ

付録 B

グローバル ペイロールのレポート群

この章では、グローバル ペイロールのレポート群の概要と、以下の方法について説明します。

- 全レポートのサマリ テーブルの表示
- レポートの詳細とソース レコードの表示

注意: レポート群のサンプルについては、CD-ROM に含まれる PDF ファイルをドキュメンテーションと併せてご確認ください。

関連項目:

第 46 章、「汎用レポートの設定と実行」、1679 ページ

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Process Scheduler

グローバル ペイロールのレポート群: アルファベット順

グローバル ペイロールのレポートを以下の表に示します (これらのレポートは、レポート ID でアルファベット順にソートされています)。レポートは全て SQR レポートです。レポートの詳細については、この付録の最後にあるレポートの詳細を参照してください。

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン・コントロール・ページ
GP000001 給与計算結果	<p>給与計算結果レポートには 3 つのバージョンがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 従業員詳細レポート: セグメントごとの給与計算結果の詳細が受給者別に表示されます。給与計算の実行後または最終決定後に作成します。 従業員サマリ レポート: セグメントごとの給与計算結果のサマリが受給者別に表示されます。給与計算の実行後または最終決定後に作成します。 組織サマリ レポート: 支給と控除の合計のサマリが部門別に作成されます。このレポートは給与計算の実行後または最終決定後に作成します。 <p>3 つのバージョン全てにおいて、レポートの上部に "オープン" または "最終" の給与計算ステータスが表示されます。</p>	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[レポート]、[給与計算結果]、[給与計算結果]	GP_GPSQR01_PNL
GP000002 休暇欠勤結果	<p>給与計算結果レポートと類似していますが、休暇欠勤処理の計算結果または確定結果が表示されます。</p>	[グローバル ペイロール / 休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[レポート]、[休暇欠勤結果]、[休暇欠勤結果]	GP_GPSQR01_PNL

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン・コントロール・ページ
GP000004 受給者メッセージ	給与計算実行によって作成された受給者メッセージを表示します。	[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[レポート]、[給与計算メッセージ]、[給与計算メッセージ]	GP_GPSQR04_PNL
GP00PK01 比較レポート	規定パッケージを適用する際に更新または変更されるエレメントを確認できます。 この情報を使って、特定のエレメントをアップグレードするかどうかを判断します。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[エレメント]、[グローバル ペイロールパッケージの管理]、[規定パッケージの適用]、[パッケージ処理] パッケージ処理ページで [比較レポートの作成] チェック ボックスをオンにし、[実行] ボタンをクリックしてレポートを作成します。	GP_PKG_T_RUNCTL
GPGENRPT ユーザー定義の汎用レポート (標準のレポート名なし)	ランタイム パラメータを追加で定義し、汎用レポートを実行します。	[グローバル ペイロール/休暇欠勤管理]、[休暇欠勤処理と給与計算処理]、[レポート]、[汎用レポート作成]、[汎用レポート]	GP_GENRPT_RC

索引

記号

- 計算ページ - 支給 292
"<エレメント名> の HR 異動区分/理由"
ページ 264
"<エレメント名> の HR 異動区分/理由 "
ページ 261
"<エレメント名> の HR ステータス" ページ
261、263
"<エレメント名> の周期" ページ 261
"<エレメント名> の周期 " ページ 264
"<エレメント名> のセグメント ステータス"
ページ 261、265
"GL の費用確定" ページ 1589、1590
"アーカイブのオーディット" ページ
1698、1701
"アーカイブ用クエリー バインドの定義"
ページ 1698、1701
"一般会計へ送信" ページ
1540、1588、1590
"影響を受ける従業員" ページ 1184、1186
"休暇残数の表示" ページ
1056、1066、1077、1082
管理者セルフサービス 1077
"勤務スケジュールの割当" ページ
500、501
"サポート エレメント上書き" ページ 877
"サポート エレメント上書き" ページ 873
"ジェネレーション コントロール" - 条件
ページ 262
"承認の確認" ページ 1085
"スケジュール カレンダーの交代勤務情報"
ページ 500
"スケジュールの管理" ページ 507
"スケジュールの交換" ページ 507
"スケジュールのコピー" ページ 507
"ターゲット システムの設定" ページ
1569、1570
"ターゲット製品の設定" ページ 1569
"定義とフィールド" ページ
146、147、1638、1640
"日次 HR ステータス条件の設定" ページ
205、211
"日次詳細 <日付>" ページ 506、511
"日付のルール" ページ 1036、1041

"費用データを勤務管理へ送信" ページ 1622
"ブラケット" - データ ページ 162
"メッセージのカスタマイズ" ページ
1036、1047
"要員の変更" ページ 507
<エレメント名> の予測ページ 438
<エレメント名> 共通ページ 100、101
<エレメント名> のコメント ページ 127
<エレメント名> の作成済みエレメント ページ - 支給 284、302
<エレメント名> の作成済エレメント ページ
420、431
<エレメント名> の実行タイプ ページ -
ジェネレーション コントロール
261、266
<エレメント名> のフォーミュラ ページ -
ジェネレーション コントロール
261、266
<エレメント名> のユーザー フィールド
ページ - 支給 283、287
<エレメント名> の予測ページ - <エレメン
ト名> 101、112
<エレメント名> の予測ページ 419
<エレメント名> の累計期間ページ - 支給
284、301
<エレメント名> の累計期間ページ
420、428
<従業員 ID> の結果セグメント詳細ページ
863、865

G

Generate_Triggers 関数
宣言と呼び出し 1179
GL トランザクション ステータスの表示ペー
ジ 1589、1593
GL 取引準備処理アプリケーション エンジン
プロセス (GP_GL_PREP) 1528
GL 配分上書きページ 1537
GL 配分上書きページ 1532
GL ビジネス ユニット ページ 1564
GP_ABS_BAL_SS_DEF コンポーネント
1028
GP_ABS_SS_CNTRY コンポーネント 1021
GP_CC_SETUP コンポーネント 1571

GP_COUNTRY コンポーネント 1242
 GP_COUNT コンポーネント 248
 GP_DATE コンポーネント 218
 GP_DURATION コンポーネント 197
 GP_ELEMENTS クエリー 1646
 GP_FORMULA コンポーネント 223
 GP_GCTL_CONDITION コンポーネント 256
 GP_GCTL_FREQUENCY コンポーネント 267
 GP_GL_CHARTFLD コンポーネント 1527、1571
 GP_GL_GROUP コンポーネント 1527、1571
 GP_GL_MAP コンポーネント 1527、1571
 GP_GL_PREP プロセス 1528
 GP_PIN 参照: エレメント名
 GP_PRORATION コンポーネント 251
 GP_PYE_RTO_LIM コンポーネント 1242
 GP_PYENT コンポーネント 1242
 GP_ROUNDING コンポーネント 240
 GP_RTO_EVT コンポーネント 1242
 GP_RTO_OVR_DEFN コンポーネント 1242
 GP_RTO_PRC_DEFN コンポーネント 1242
 GP_TL_CHART_ELEM コンポーネント 1609
 GP_TL_TASK_ELEM コンポーネント 1609
 GP_VARIABLE_BY_CAT コンポーネント 213
 GP_VARIABLE コンポーネント 213

H

HIE1_MKT_RT_RNCTL コンポーネント 1580
 HPIP_CONFIG_PRD コンポーネント 1566
 HPIP_TGT_SYS_GL コンポーネント 1566

I

IB ノード 1556

P

PeopleSoft EnterpriseOne 一般会計インターフェイス

統合 1551
 PeopleSoft Enterprise 一般会計インターフェイス
 1525、関連項目: インターフェイス
 インテグレーション ポイントについて 1527
 勘定科目のないトランザクションの表示 1543
 給与計算データの送信 1540
 支給、控除、累計のグループ化 1533
 受給者のチャートフィールド値の上書き 1537
 チャートフィールドとグループ コードのマッピング 1534
 データの送信 1539
 統合の手順について 1529
 費用の割り当てに使用するチャートフィールドの選択 1533
 PeopleSoft Enterprise 勤務管理インターフェイス
 給与計算実行の起動 1607
 給与計算の実行 1616
 給与支給対象時間入力のスtatusの更新 1620
 給与支給対象時間の作成 1606
 勤務時間レポート コードと実行タイプ
 のマッピング 1613
 勤務スケジュールの共有 1624
 グローバル ペイロールでの給与計算 1605
 グローバル ペイロールの設定 1609
 計画の注意点 1608
 ポジティブ入力のバンドル ルール 618
 PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール
 ル
 アーキテクチャ 13
 概要 1
 処理構造の定義 545
 組織構造の定義 519
 統合 2、11
 導入 2、7
 はじめに 1
 ビジネス プロセス 1
 ユーティリティ 1393
 PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース
 管理
 アレイ 54
 給与レート コード 54
 システム エlementで使用するレコード 123

周期 54
 データ取得 52
 データベース システム エlement 53
 トリガ 55
 PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース
 管理と変動報酬の統合
 インテグレーション ポイント 1629
 PeopleSoft セットアップ マネージャ 2
 PeopleSoft 変動報酬インターフェイス
 給与計算結果の通知 1635
 報奨の却下 1634
 報奨の削除 1634
 報奨の取得 1630
 報奨の処理 関連項目: インターフェイス
 PI - カレンダー別ページ 632
 PI - カレンダー別ページ 637
 PI - テンプレート ページ 645
 PI - テンプレート ページ 645
 PIN コード
 PIN コードとユーティリティ 1395
 コードと番号について 98
 定義 1394
 名前の変更 1467
 目的 16
 PIN マネージャ ロジック 725
 PSFT_E1 1556

S

SQL オブジェクト 1182
 SQL 定義の表示ページ 1180、 1183

W

Where 句ページ 1419、 1430

あ

アーカイブ 1693
 標準で用意されているオブジェクト
 1693
 標準で用意されているクエリー 1694
 標準テンプレート 1694
 アーカイブ オブジェクト 1695
 アーカイブ オブジェクトの管理ページ 1695
 アーカイブ テンプレート 1697

アーカイブ テンプレートの管理ページ
 1695、 1697
 アーカイブ ラン コントロールの詳細ページ
 1698
 アーキテクチャ
 バッチ処理フロー 24
 値
 属性の定義 1384
 後処理フォーミュラ 276
 アプリケーション定義ページ 1381
 アレイ
 SQL ステートメント情報の定義 136
 処理フォーミュラの定義 141
 処理 131
 定義 130
 データ取得エレメント 71
 名前定義 134
 アレイ名ページ 133、 134

い

一括トリガ SQL ページ 1180、 1182
 一括トリガ イベント ページ 1184、 1185
 一括トリガ イベント メッセージ ページ
 1184
 一括トリガ イベント
 管理 1183
 一括トリガ定義ページ 1180、 1181
 一括トリガ
 SQL オブジェクトの使用 1182
 イベントの削除 1185
 概要 1177
 手動で展開したイベント 1186
 設定 1180
 定義 1181
 表示
 遡及処理のトリガ 1186
 反復トリガ 1187
 一般会計勘定科目テーブル ページ 1564
 一般会計リセット ページ
 1540、 1590、 1599
 委任トランザクション 1101
 委任フレームワーク 1098
 委任 1097
 休暇管理 1098
 権限リストとロール 1100
 設定手順 1102
 用語 1097
 イベント入力ページ 1022、 1027

イベント メッセージ詳細ページ 1184
 インストール設定 40
 インストール設定ページ 41、 42
 インターフェイス
 参照: PeopleSoft Enterprise 勤務管理
 インターフェイス、PeopleSoft
 Enterprise 一般会計インターフェイス、
 PeopleSoft EnterpriseOne 一般会計イン
 ターフェイス、PeopleSoft エンタープラ
 イズ パフォーマンス マネジメント イン
 ターフェイス、PeopleSoft Enterprise 変
 動報酬管理インターフェイス
 PeopleSoft Enterprise 一般会計イン
 ターフェイス 1527
 エンタープライズ パフォーマンス マネ
 ジメント 1637
 変動報酬報奨の処理 1629
 インテグレーション ブロカー
 キュー ステータス 1561
 コネクタ プロパティ 1557
 サービス オペレーションのモニター
 1563
 ノード定義 1556
 インテグレーション ポイント
 PeopleSoft Enterprise グローバル ペイ
 ロールと PeopleSoft Enterprise 一般
 会計のインターフェイス 1527
 PeopleSoft Enterprise グローバル ペイ
 ロールと PeopleSoft Enterprise
 ヒューマン リソース管理の変動報酬
 ビジネス プロセス 1629

う

受取人情報ページ 1332、 1334
 受取人振込スケジュール ページ 1329
 受取人振込スケジュール ページ 1327
 受取人ページ 1333
 受取人
 一般 1331
 口座情報の定義 1334
 控除と受給者に対する割り当て 1330
 個人 1330
 定義 1326、 1327
 上書き
 エレメント使用上書きの定義 690
 エレメント定義上書きの定義 690
 エレメント変換 724
 エレメント割り当て上書き、ポジティブ

入力、およびエレメント定義の間の競
 合の管理 692
 開始日および終了日のロジック 660
 カレンダー 599
 休暇取得 991
 休暇付与 1004
 コンポーネント値、ジェネレーション
 コントロール、周期、延滞、および変
 数の上書き 679
 サポート エレメント 658
 サポート エレメント値 688
 サポート エレメントの階層図 659
 支給カレンダーの定義 689
 支給グループの定義 666
 支給元上書きの処理ルール 664
 支給元の定義 664
 受給者の支給および控除エレメントの割
 り当ておよび無効化 672
 主要エレメント 657
 処理ルール 688
 設定 655
 デフォルトの支給グループ設定 536
 入力用コンポーネントの設定 333
 バッチ処理 712
 プロンプト ビュー 90
 分割 660、 1204
 ポジティブ入力を使った上書きの定義
 691
 補足ルール インスタンス 707
 理解 655
 レベル 657

え

エラー
 GL トランザクション ステータスの表示
 ページ 1597
 給与計算トランザクション データ 1600
 メッセージ ログ 1592
 リターン コード 1597
 エレメント上書き
 設定コンポーネント 338
 設定 関連項目: 上書き、 333
 代替コンポーネントの修正 339
 標準の修正 339
 変更 334
 ポジティブ入力の上書きの設定 355
 エレメント
 上書きレベル 108、 1508

- エレメント タイプ 83
- エレメント タイプ コード 83
- エレメント タイプの定義 85
- エレメント名の定義 101
- 概要 8
- 関係マップ 1403
- 計算エレメント 74、 195
- 構造化エレメント 81
- コンポーネント エレメント情報の更新 113
- サフィックスの定義 115
- 産業とカテゴリの定義 96
- 資格チェック 717
- システム エレメント 70
- システム計算 126
- 処理構造 23
- 組織構造 21
- 定義の指定日 98
- 定義 14、 67
- データ取得エレメント 69
- 名前の変更 1467
- 入力タイプの選択 92
- 入力タイプの定義 87
- バージョン番号の割り当てとバージョン別パッケージ作成 1501
- 分類 68
- 変換ルール 1193
- 変換 721
- メニュー アイテム別セキュリティ 1512
- 有効日による定義の決定 1196
- ユーザー アクセスの制限 1509
- ユーザー定義フィールドの追加 112
- 理解 67
- ルールとの関連付け 15
- エレメント関係マップ
 - エラーの確認 1409
 - エレメント関係 1403
 - 規定外ルールの追加 1410
 - 再作成 1404
 - 定義 1394
 - 表示 1412
 - 目的エレメントで使用するエレメントの表示 1412
 - 目的エレメントを使用するエレメントの表示 1414
 - レコードの追加 1410
- エレメント グループ
 - エレメントの挿入 524
 - 構造化エレメント 81
 - 組織構造 21
 - 定義 522
- エレメント グループ化コンポーネント (GP_GL_GROUP) 1527、 1571
- エレメント グループ化ページ 1533、 1575
- エレメント グループ化ページ 1531
- エレメント グループ属性
 - 処理 1388
- エレメント グループ属性ページ 1385、 1388
- エレメント グループ名ページ 523
- エレメント グループ メンバー ページ 523、 524
- エレメント資格チェックと変換 717
- エレメント詳細ページ 671、 679、 737
- エレメント詳細ページの設定 333
- エレメント属性ページ 227、 234
- エレメント タイプ
 - エレメントの分類 69
 - 定義 85
 - 変換情報 86
- エレメント タイプ ページ 85
- エレメントの資格 764
- エレメント分割 1190
 - 累計ドライバ 768
- エレメント別受給者割当ページ 671、 676、 736
- エレメント別条件の定義ページ 1418、 1422
- エレメント別設定ページ 342、 350
- エレメント変換詳細 - カレンダー別結果ページ 864、 869
- エレメント変換チェーン
 - 給与計算処理トレース オプション 834
 - 表示 907
- エレメント変換チェーン ページ 907
- エレメント ポインタ 196
 - フォーミュラ 223、 234
- エレメント名 97、 101
- エレメント名変更ページ 1468、 1469
- エンタープライズ パフォーマンス マネジメント
 - 設定データ 1638
 - データのロード 1642
 - 統合 1637
- 延滞
 - エレメント変換 723
 - 回収処理 318
 - コンポーネント サフィックス 118
 - コンポーネントと累計 312
 - 処理について 307

遡及処理 315
 定義 797
 分割 314
 累計サフィックス 118

お

オフサイクル オンデマンド ページ
 949、950
 オフサイクル処理 10
 カレンダーの実行 921
 管理 937
 機能 941
 給与計算結果の訂正と取り消し 959
 結果の表示 976
 手動支給の記録 954
 手動支給 945
 処理手順および後処理手順 943
 タイプ 929、940
 追加支給の作成 969
 追加支給 947
 訂正方法 959
 訂正 946
 トランザクションの起動 948
 入力用コンポーネントの設定 929
 バッチ 945
 前払い支給の発行 972
 前払い 947
 リクエストの入力手順 941
 ルール設定用システム エlement 948
 オフサイクル設定ページ 931
 オフサイクル トランザクションの設定 929
 オフサイクル リクエスト
 設定手順 930
 オフサイクル リクエスト ページ 950、952

か

会計行貸借一致
 関連項目: 参照: 会計行貸借一致、1567
 、1568、1591
 会計行データの表示ページ 1589
 会計行の転記
 グローバル ペイロール 1586
 グローバル ペイロールでのリセット
 1587
 会計行のリセット
 グローバル ペイロール

1587、1599、1603
 会計行を連結 1568
 会計行
 グローバル ペイロールでの処理 1584
 開始日と終了日 722
 回収処理
 延滞 318
 控除 318
 カウント - 定義ページ 250
 カウント
 カウント フォーミュラの定義 250
 計算エレメント 77
 定義 248
 カウント コンポーネント (GP_COUNT) 248
 カウント名ページ 249、250
 書き込み可能アレイ 71
 記憶領域に関する注意事項について 145
 定義 143
 名前定義 146
 バッチ処理について 145
 レコードとフィールドの定義 147
 確認対象スケジュール ページ 497
 確認ページ 1404、1409
 カテゴリ 96
 カテゴリ タイプ ページ 97
 カテゴリ別設定ページ 341、343
 カテゴリ別変数コンポーネント
 (GP_VARIABLE_BY_CAT) 213
 カテゴリ別変数ページ 216
 仮計上科目に記帳
 定義
 1568、関連項目: 参照: 仮計上勘定
 科目
 仮計上勘定科目 1568、1591
 仮再計算名ページ 177、178
 仮再計算
 値を保存するエレメントの指定 181
 過去の期間ルールへの指定 178
 定義 175
 データ取得エレメント 73
 データの移動 182
 バッチ処理 176
 元の値を上書きするエレメントへの指定
 179
 渡される累計の選択 180
 カレンダー
 上書き指示の入力 610
 上書きするカレンダーの選択 611
 期間の作成 585
 サポート エlementの上書き 599

- ジェネレーション コントロールの周期
 の入力 598
- 支給プロセス フロー 579
- 自動作成機能の使い方 601、 602
- 受給者の選択 596
- 条件のリンク 594
- 除外エレメント 600
- 処理構造のフレームワーク 23
- 処理順序 606
- スケジュール 476
- 単一カレンダーの作成 591
- 使い方 577
- 定義 580
- 理解 577
- カレンダー グループ
 - 処理結果の表示 893
 - 定義 605、 608
- カレンダー グループ結果ページ 894
- カレンダー グループ別結果 - エレメント変
 換詳細ページ 894
- カレンダー グループ別トリガ ページ 1185
- カレンダー グループ別ページ 851
- カレンダー グループ ページ 608
- カレンダー実行結果ページ - カレンダー別結
 果 863、 864
- カレンダー別結果 - ポジティブ入力ページ
 874
- カレンダー別ページ 851、 853
- 為替レート (タイプと換算日) 36
- 関係者情報の追加ページ 59
- 関係者
 - 追加 58
- 勘定科目なしトランザクション ページ
 1543、 1588
- 勘定科目なしトランザクション ページ 1540
- 勘定科目マッピング コンポーネント
 (GP_GL_MAP) 1527、 1571
- 勘定科目
 - グローバル ペイロールへの一般会計の
 マッピング 1571
- 管理エリア
 - グローバル ペイロール 1579
- 管理ビュー定義ページ 896
- 管理
 - 一括トリガ イベント 1183

き

- 期間分割 1190

- 期間ページ 439
- 期間ページ 452、 585、 586
- 期間 1191
 - 自動作成機能の使い方 589
 - 単一期間の定義 586
 - 定義 585
- 規定外パッケージ作成 - パッケージ条件ペー
 ジ 1472
- 規定外パッケージ ページ 1500、 1501
- 規定外パッケージ
 - アップグレード 1484、 1496
 - インポート 1480
 - エクスポート 1469、 1480
 - エレメントの表示 1479
 - コピー 1499、 1501
 - 作成とアップグレード 1399
 - 作成とエクスポート 1470
 - スクリプトの表示 1482、 1497
 - 選択したデータのターゲット データ
 ベースへのインポート 1492
 - 選択条件の SQL Where 句の表示 1478
 - 選択条件の定義 1476
 - ソース データベースとターゲット デー
 タベースの比較 1493
 - 定義 1469
 - 比較 1484
 - 名称設定 1475、 1491
- 規定パッケージ コピー ページ 1500
- 規定パッケージ
 - アップグレード 1440
 - アップグレード時のエラー確認 1464
 - インポート 1440
 - インポート処理、比較処理、およびアッ
 プグレード処理の開始 1451
 - エクスポート 1415
 - エレメントの選択 1422
 - エレメントの表示 1436
 - コピー 1499、 1500
 - 作成とアップグレード 1398
 - 作成とエクスポート 1416
 - 選択条件の SQL Where 句の表示 1430
 - 属性によるエレメントの選択 1424
 - 定義 1415
 - 比較 1440
 - 名称設定 1420
- 休暇イベント入力ページ 965、 973、 981
- 休暇欠勤/給与計算ページ 826
- 休暇欠勤イベント入力詳細ページ
 981、 987
- 休暇欠勤イベント

- 休暇欠勤予測結果の確認 997
- 処理 979、981
- 入力時における休暇付与の予測 995
- 入力手順 980
- 予測メッセージの確認 1000
- 休暇欠勤エレメント
 - 使用準備 464
 - 定義 411
 - 理解 411
- 休暇欠勤開始/終了データ ページ 879、886
- 休暇欠勤期間 1042
- 休暇欠勤結果ページ 1016
- 休暇欠勤結果レポート 1708
- 休暇欠勤残数データ ページ 879、884
- 休暇欠勤処理
 - イベントの入力 979
 - 機能概要 10
 - 休暇欠勤カレンダー作成のガイドライン 1013
 - 休暇欠勤処理の実行 1010
 - 休暇欠勤の入力と処理 979
 - 休暇取得 1010
 - 休暇付与 1010
 - 実行のキャンセル 919
 - 実行の最終決定 918
 - 遡及処理 1015
 - プロセス リスト作成のガイドライン 1012
- 休暇欠勤タイプ ページ 416
- 休暇欠勤データ ページ 880
 - [開始/終了データ] タブ 881
 - [関連エレメント] タブ 883
 - [休暇欠勤詳細 2] タブ 880
 - [スケジュール データとユーザー定義 フィールド] タブ 882
- 休暇欠勤データ ページ 878
- 休暇欠勤日次データ 400
- 休暇欠勤の管理
 - 継続タスク 390
 - 設定タスク 389
 - 設定のガイドライン 412
 - 日次処理 405
- 休暇欠勤ページ - "処理結果 - 管理ビュー" 901、906
- 休暇欠勤ページ 1035、1037
- 休暇欠勤予測結果ページ 997
 - [予測結果] タブ 997
 - [累計結果] タブ 999
- 休暇欠勤予測 112
- 休暇欠勤
 - 機能 391
 - 休暇取得機能 394
 - 休暇取得プロセス 400、404
 - 休暇付与機能 392
 - 休暇付与残数の調整と上書き 1004
 - 休暇付与残数の予測および照会を実行可能にする方法 465
 - 休暇付与プロセス 399
 - 勤務管理による管理者の管理 1087
 - 勤務管理による従業員の休暇欠勤の管理 1074
 - 残数照会処理 409
 - システム エレメント 402
 - 周期ベースの休暇付与ルールの再定義 1006
 - 従業員セルフサービス 1055
 - 処理機能 398
 - スケジュール機能 392
 - セルフサービス機能 397
 - データのレポート 1016
 - 導入設定と管理タスク 387
 - 日次データ 400
 - 日次レコードの確認 1008
 - 入力機能 396
 - フォーミュラの作成 413
 - 分割 1014
 - 用語 388
 - 予測 409
 - 理解 387
- 休暇残数調整ページ 973、1004
- 休暇残数ページ 1022、1026
- 休暇取得エレメント 参照: 休暇取得
- 休暇取得セクション 558
- 休暇取得名ページ 438
- 休暇取得名ページ 440
- 休暇取得
 - 一般的な計算ルールの定義 442
 - エレメントについて 433
 - 関連支給エレメントと控除エレメントの選択 444
 - 休暇欠勤処理 1010
 - 休暇欠勤タイプの定義 416
 - 休暇取得期間と休暇欠勤のリンクの定義 452
 - 計算エレメント 79
 - サポート エレメント上書きの定義 464
 - 残数照会ルールの定義 462
 - セクションの定義 557
 - タイプと理由の定義 416
 - 超過取得ルールの定義 457

- 定義 432
- 名前定義 440
- 日数計算フォーミュラの選択 444
- 表示 877
- ポジティブ入力のバンドル ルール 620
- ポジティブ入力の表示 874
- マッピング 447
- 優先度の定義 459
- 予測ルールの定義 461
- リンク設定 456
- 休暇付与エレメント
 - 参照: 休暇付与エレメント
- 休暇付与グリッド ページ 1021、 1022
- 休暇付与ページ - エレメント サフィックス
 - 116、 118
- 休暇付与名ページ 419
- 休暇付与名ページ 420
- 休暇付与予測
 - 従業員セルフサービス 1071
- 休暇付与
 - 休暇欠勤処理 1010
 - 休暇付与数と計算方法の定義 421
 - 計算エレメント 79
 - サフィックスの定義 118
 - サポート エレメント上書きの定義 432
 - 自動作成累計の表示 431
 - 自動作成累計 431
 - 周期ベースの休暇付与 424
 - 定義 417
 - 名前定義 420
 - 比例配分および端数処理の定義 425
 - 累計期間の定義 428
 - 累計ルールの定義 427
- 休暇リクエスト ページ
 - 1056、 1057、 1076、 1077、 1078、 1083
- 休暇リクエスト履歴の表示
 - 管理者セルフサービス 1077
- 休暇リクエスト履歴ページ
 - 1056、 1068、 1076、 1078、 1080、 1086
- 休日スケジュール ページ 498
- 休日スケジュール 63
 - 定義 498
- キュー ステータス ページ 1554、 1561
- 給与計算結果ページ 922

- 給与計算結果ページ 922

き

- 給与計算結果レポート 1708
- 給与計算結果 922
- 給与計算処理
 - アクティブな受給者の一時停止 819
 - エレメントの変換順序の表示 909
 - エレメント変換チェーンの表示 907
 - オフサイクル 10
 - 概念 817
 - 概要 9
 - カレンダー グループ別結果の表示 893
 - カレンダー グループ別の処理統計の表示 851
 - カレンダー別結果の表示 862
 - カレンダー別サポート エレメントの表示 870
 - カレンダー別の支給と控除の表示 867
 - カレンダー別の処理統計の表示 853
 - カレンダー別累計の表示 869
 - 機能 814
 - 休暇欠勤処理実行のキャンセル 919
 - 休暇欠勤処理実行の最終決定 918
 - 休暇欠勤処理の結果の表示 880
 - 休暇取得処理結果の表示 877
 - 給与計算結果レポートの作成 922
 - 給与計算実行の開始後の変更 815
 - 給与計算実行のキャンセル 919
 - 給与計算処理実行の最終決定 918
 - 給与計算処理 27
 - 給与計算データのレポート 921
 - グループ リスト 835
 - 計算処理 29
 - 計算の凍結と凍結解除 819
 - 結果の表示 843
 - 最終決定 841
 - 指示の入力 825、 826
 - 事前設定 815
 - 受給者ステータスの表示 859
 - 受給者の確認 817
 - 受給者の休暇付与残数情報の表示 884
 - 受給者の計算 818
 - 受給者の欠勤時間数の表示 886
 - 受給者反復処理結果リストの表示 854
 - 受給者メッセージの表示 856、 857
 - 順序 816
 - 詳細情報の表示 865
 - 処理の再実行 832
 - 処理の指示の更新 859

ステータス コードと処理インジケータ
 820
 遡及計算デルタ値の表示 890
 データ入力エラーの修正 910
 統計の表示 850
 特殊な状態 920
 バッチ処理の修正 910
 表示 841
 ポジティブ入力の結果の表示 871
 理解 813
 ログ ファイルの表示 844
 給与計算データ
 送信 1539
 レポート 921
 給与計算トランザクション
 PeopleSoft EnterpriseOne 一般会計で
 の特定 1602
 データのエラー処理 1600
 給与計算の処理 参照: 給与計算処理
 給与計算メッセージ ページ 916
 給与計算ルール 9
 給与支給対象時間 1606、1613
 トリガ作成 1614
 入力のステータスの更新 1620
 給与レート コード名ページ 173
 給与レート コード
 支給エレメントでの使い方 166
 定義 162、174
 データ取得エレメント 72
 名前定義 173
 バッチ処理 168
 マッピング 163
 記録時刻シフト 474
 銀行間決済方法ページ 1339
 銀行口座管理ページ 1336、1337
 銀行テーブル ページ 1317
 銀行ファイル エントリ ページ 1365
 銀行振込処理
 概要 1312
 理解 1343
 銀行振込データ 63
 銀行振込
 一般受取人 1331
 受取人の口座情報の定義 1334
 受取人の定義 1326、1327
 受取人の振込スケジュールの選択 1329
 受取人の割り当てについて 1330
 カレンダー グループ別結果の確認 1347
 銀行と支店の定義 1317
 国別プロセスでの使用 1354

決済日の指定 1324
 控除と受給者に対する受取人の割り当て
 1330
 控除と受給者に対する個人受取人の割り
 当て 1333
 控除に対する一般受取人の関連付け
 1335
 控除の表示 1352
 個人受取人 1330
 資金供給の設定 1318
 受給者の銀行口座情報の入力 1337
 受給者の純支給額配分の定義
 1335、1340
 純支給額の表示 1348
 処理のフロー 1315
 設定要件 1312
 送金元銀行と支給元の関連付け 1321
 送金元銀行の定義 1320
 遡及計算の使用 1355
 遡及処理 1355
 定義 1311
 電子振替フォーマットの定義 1319
 バッチ処理 1314、1342
 振込スケジュールの定義 1322
 理解 1311
 勤務スケジュール データ ページ 879、888
 勤務スケジュール 64
 雇用レコード 499
 勤務日ページ 481、489
 勤務日
 定義 489



クエリー マネージャ ページ 1646
 行/列ページ 1681、1685
 国別休暇取得設定コンポーネント
 (GP_ABS_BAL_SS_DEF) 1028
 国別指定ページ 41、42
 国別設定コンポーネント
 (GP_ABS_SS_CNTRY) 1021
 国別設定コンポーネント (GP_COUNTRY)
 1242
 国別設定ページ 41、47、1245、1247
 国ページ 1546
 繰越遡及
 エレメントの繰越ルールについて 1258
 処理ステップ 1248
 遡及処理 関連項目: 遡及処理

訂正ルールに従うように定義された累計
あり 1265
例 1223
グループ リスト ページ 836
グローバル ペイロールの支給元チャート
フィールド 1578

け

経過時間シフト 474
計算エレメント
 カウント 77、 248
 休暇取得 79
 休暇付与 79
 控除 78
 ジェネレーション コントロール
 80、 256
 ジェネレーション コントロール周期
 267
 支給 77
 定義 195
 デュレーション 75、 197
 名前定義 196
 端数処理ルール 76、 240
 日付 75、 218
 比例配分ルール 77、 251
 フォーミュラ 76、 223
 分類 68
 変数 75、 213
 メッセージ 237
 理解 195
 累計 80
計算ステータス 820
計算ページ - 支給 283
計算ページ 419、 438
計算ページ 421、 442
結果セグメント詳細ページ 894
月次スケジュール ページ
 516、 1056、 1065
現在残数ページ 1001、 1002
検索キー/戻り列ページ 157、 160
検索ルール ページ 157、 158

処理のフレームワーク 17
組織構造 19
控除 - 受取人ページ 321、 330
控除 - 延滞ページ 320、 323
控除 - 計算ページ 319
控除 - サポート エlement上書きページ
 321
控除 - その他の累計ページ 320
控除 - 端数処理/比例配分ページ 320
控除受取人定義ページ 1327
控除受取人の追加ページ 1332
控除受取人割当ページ 1333
控除額表示ページ 1347、 1352
 カレンダー情報 1353
 受給者情報 1353
控除名ページ 319
控除
 一般受取人の選択 330
 一般受取人の割り当て 1335
 受取人の定義 1327
 受取人の割り当て 1330
 エレメント変換 723
 延滞情報の定義 323
 延滞処理方法 312
 延滞処理 307
 延滞と遡及処理 315
 回収オプション 328
 回収処理と資格 318
 計算エレメント 78
 コンポーネントについて 270
 サードパーティへの振替 327
 作成済みエレメントの表示 302
 サフィックスの定義 116
 自動作成累計について 271
 周期 272
 受給者への割り当て 672
 純支給額確認方法 325
 純支給額確認 307
 純支給額の確認について 308
 処理の準備 332
 設定手順 307
 前処理フォーミュラおよび後処理フォー
 ミュラ 276
 定義 269、 306
 端数処理ルール 279
 比例配分ルール 279
 複数変換 281
 プログラム フロー 714
 累計ドライバを使用する支給と控除 740
構造化エレメント

こ

コア アプリケーション
 処理構造 21
 処理順序 18

- エレメント グループ 81
- セクション 82
- プロセス リスト 82
- 分類 68
- 理解 81
- 交代勤務スケジュール 476
- 国際銀行口座番号ページ 1327、 1336
- 個人情報ページ 516
- 個人スケジュール定義 - スケジュール シフト ページ 500
- 個人スケジュール定義 - 定義ページ 500
- コスト センター
 - グローバル パイロールでのマッピング 1571
- コスト センター チャートフィールド コンポーネント (GP_CC_SETUP) 1571
- コスト センター チャートフィールド ページ 1575、 1577
- コスト センターの表示ページ 1564
- コネクタ プロパティ 1557
- コネクタ ページ 1557
- コメント ページ - 支給名 112
- コメント ページ 101
- コンポーネント
 - 延滞 312
 - サフィックス 118
 - サフィックスの定義 115
 - 情報の更新 113
 - 理解 270
- コンポーネント名ページ 113

さ

- サービス オペレーション - 一般ページ 1553
- サービス オペレーション - ハンドラ ページ 1554
- サービス オペレーション
 - アクティブであることの確認 1554
- 再計算/履歴抽出ルール
 - 処理期間の定義 188
 - 先行値の計算に使用されるフォーミュラ 186
 - 定義 183
 - データ取得エレメント 73
 - バッチ処理 185
 - フォーミュラの定義 191
 - ルール タイプの定義 188
- 再計算/履歴ページ 187、 188
- 再計算オプション

- エレメント変換 724
- 再計算ロジック 725
- 再実行情報ページ 826
- 再実行情報ページ 832
- 作成済みエレメント ページ - 控除 320
- 作成済ポジティブ入力ページ 873
- サフィックス (定義) 115
- サブプロセス セクション
 - 純支給額確認ロジック 554
 - 定義 552
- サポート エレメント上書きページ - カレンダー 594、 599
- サポート エレメント上書きページ - 支給グループ 667
- サポート エレメント上書きページ - 支給元 665
- サポート エレメント上書きページ 440
- サポート エレメント上書きページ 420、 432
- サポート エレメント
 - タスクのマッピング 1613、 1615
 - 表示 877
- サポート エレメントの上書き 参照: 上書き
- サポート エレメント ページ - "処理結果 - 管理ビュー" 901、 903
- サポート エレメント ページ - カレンダー グループ別結果 895
- サポート エレメント ページ - カレンダー別結果 864、 870
- サポート エレメント ページ 671、 688
- サマリ ページ 901、 902
- 産業/地域タイプ ページ 97
- 産業 96
- 残数照会ページ - 休暇取得 462
- 残数照会ページ 439
- 残数照会ページ 1050、 1051
- 残数照会
 - オンライン プロセスの実行 1001
 - カレンダー グループ テンプレートの関連付け 469
 - 休暇取得エレメントの定義 462
 - 処理 1003
 - 使い方 409
 - 有効化 465

し

- ジェネレーション CTL 周期ページ 268

ジェネレーション CTL 名ページ 260、 261
 ジェネレーション コントロール コンポー
 ネント (GP_GCTL_CONDITION) 256
 ジェネレーション コントロール
 異動区分/理由コードの組み合わせ 264
 エレメント変換 295、 722
 カレンダー 598
 計算エレメント 80
 実行タイプ 266
 周期換算 273
 周期コード 264
 従業員ステータス条件 263
 セグメント ステータス条件 265
 定義 256
 バッチ処理条件の定義 262
 バッチ処理 260
 フォーミュラ エレメント 266
 複数変換 798
 ジェネレーション コントロール周期コン
 ポーネント (GP_GCTL_FREQUENCY)
 267
 ジェネレーション コントロール周期 (定義)
 267
 ジェネレーション コントロール ページ - カ
 レンダー 593、 598
 資格チェック
 上書き 535
 エレメント 717
 ポジティブ入力のルール 620
 支給 - サポート エレメント上書きページ
 285、 691
 支給 - 支給名ページ 285
 支給/控除ページ - "処理結果 - 管理ビュー"
 901、 904

 支給/控除ページ - カレンダー グループ別結
 果 894

し

支給/控除ページ - カレンダー別結果 867

 支給/控除ページ - カレンダー別結果 863

し

支給/控除ページ 116
 支給アイテム名 (PIN) 参照: PIN コード
 支給および控除の割り当て
 分割トリガ 1130
 ポジティブ入力とのマッチング 745
 支給グループ名ページ 499、 537
 支給グループ
 組織構造 20
 定義 536
 デフォルト設定の上書き 536
 デフォルトの入力 537
 端数処理、比例配分および周期の定義
 541
 支給準備プロセス ページ 1345
 支給照合処理の実行ページ 1368、 1369
 支給の手動照合ページ 1372
 支給の照合
 概要 1363
 銀行ファイル情報の入力 1365
 事前設定 1364
 照合済みトランザクションの表示 1371
 処理のフロー 1363
 トランザクションの手動照合 1372
 トランザクションの表示 1369
 プロセスの実行 1368
 例外解決 1372
 例外の表示 1370
 支給名ページ 283
 支給元 (GP_PYENT) コンポーネント 1242
 支給元 GP チャートフィールド ページ
 1575、 1578
 支給元住所ページ 531
 支給元
 上書き 664
 期間定義 533
 資格上書き 535
 支給情報 534
 住所情報の入力 531
 処理詳細の入力 532
 処理通貨 534
 送金元銀行の関連付け 1321
 遡及処理制限の定義 1270
 遡及処理の許可 1244
 組織構造 19
 定義 529
 支給
 エレメント変換 723

計算エレメント 77
 計算ルールの定義 292
 コンポーネントについて 270
 作成済みエレメントの表示 302
 サフィックスの定義 116
 サポート エレメントの上書き 306
 支給エレメント名の定義 285
 自動作成累計について 271
 自動作成累計の定義 299
 周期 272
 受給者への割り当て 672
 照合 1363
 処理の準備 332
 設定手順 282
 前処理および後処理フォーミュラ 276
 遡及再計算オプション 296
 遡及再計算の注意事項 275
 定義 269、281
 端数処理オプションおよび比例配分オプションの定義 297
 端数処理ルール 279
 比例配分ルール 279
 複数変換 281
 プログラム フロー 714
 ユーザー フィールドの定義 287
 累計期間の選択 301
 累計先となる累計の指定 303
 累計ドライバを使用する支給と控除 740
 市場レートのリクエスト コンポーネント (HIE1_MKT_RT_RNCTL) 1580
 市場レート リクエスト ページ 1582、1583
 システム エレメント
 休暇欠勤 402
 使用する PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理のレコード 123
 通貨 125
 使い方 122、810
 データ取得エレメント 70
 バッチ処理 123
 表示 128
 システム エレメント名ページ 127、128
 システム計算エレメント 126
 実行タイプ ページ 581
 実行タイプ
 勤務時間レポート コードのマッピング 1613
 定義 581
 支店テーブル ページ 1317
 自動カレンダー作成ページ 602

自動カレンダー作成ページ 602
 自動期間作成ページ 586
 自動期間作成ページ 589
 自動作成済みエレメント 参照: 累計
 自動作成累計ページ - 控除 320
 自動作成累計ページ - 支給 284、299
 自動作成累計ページ 420、427
 自動作成累計
 休暇付与 418
 シフト
 上書き 511
 記録時刻シフト 474
 経過時間シフト 474
 設定 482
 タイプ 474
 フレックス シフト 475
 シフト情報ページ 481
 シフト ページ 481、482
 従業員
 一括トリガ 1177
 周期
 オプション 296
 換算 273
 周期テーブル 272
 週次スケジュール ページ 506
 終了日
 割り当て済みの支給と控除のバッチ更新 668
 受給者上書き
 定義 667
 複数変換のトリガ 668
 分割 660
 受給者カレンダー上書きページ 966、970
 受給者カレンダー グループ ページ 611、973
 受給者住所ページ 1327
 受給者ステータス ページ 859
 受給者セクション ページ 570

 受給者セクション ページ 565

し

受給者セクション
 定義 552
 プロセス リストの作成 570
 受給者データ
 更新 62

- 使い方 51
- 表示 60
- 理解 51
- 受給者の選択
 - カレンダー 596
 - 作成されるテーブル 31
 - 受給者の確認 817
 - バッチ処理フローのアーキテクチャ 25
- 受給者反復処理結果リスト ページ 854
- 受給者別エレメント割当ページ
 - 670、672、736
- 受給者メッセージ ページ 857
- 受給者メッセージ レポート 1709
- 受給者
 - 2 つのカレンダー グループ 921
 - 受取人の割り当て 1330
 - カレンダー上書き指示の入力 610
 - 給与計算システムの割り当て 56
 - 銀行口座情報の入力 1337
 - 支給グループの割り当て 56
 - 純支給額配分の定義 1335、1340
 - 処理の指示の更新 859
 - ステータスの表示 859
 - セキュリティ 1520
 - セグメント情報の表示 864
 - 遡及処理制限の定義 1276
 - 組織構造 20
 - チャートフィールド値の上書き 1537
 - 反復処理結果リストの表示 854
 - メッセージの表示 856
- 出力結果テーブル
 - エレメント結果 32
 - 受給者選択処理による作成 31
 - デルタ結果 32
 - ポジティブ入力結果 32
 - 累計結果 32
- 出力テーブル
 - 定義 1657
- 出力マッピング ページ 178、181
- 手動支給詳細ページ 955
- 手動支給 945
- 純支給額配分の指定ページ 1337、1340
- 純支給額ページ 1347、1348
- 純支給額
 - 確認
 - フォーミュラの定義 555
 - システム エレメント 556
 - カレンダー情報 1350
 - 支給情報 1351
 - 受給者情報 1348
- 条件ページ - ジェネレーション コントロール 260
- 照合例外ページ 1370
- 照合
 - 支給 1363
 - プロセスの実行 1368
- 詳細トランザクションの表示ページ
 - 1589、1598
- 使用先ページ 1412、1414
- 常時再計算オプション 798
- 使用対象ページ 1412
- 使用対象ページ 1412
- 承認トランザクション 1095
- 承認フレームワーク 1028
- 承認プロセス ID 1028、1092
- 承認プロセスの設計 1095
- 承認プロセス 1091
- 除外エレメント ページ - カレンダー 600
- 除外エレメント ページ - カレンダー 594
- 職務情報ページ 61
- 書込可能アレイ名ページ
 - 146、1638、1639
- ジョブ定義ページ 1639、1642
- ジョブの選択ページ 1057
 - 複数雇用レコード
 - セルフサービス 1073
- 処理インジケータ 820、821
- 処理オプション
 - ターゲット製品 1567
- 処理期間ページ 187、188
- 処理結果管理ビュー
 - 理解 899
- 処理構造
 - セクション 546
 - 定義 545
 - プロセス リスト 571
 - 理解 545
- 処理順序
 - 支給または控除の処理順序の定義 750
 - 定義 761
- 処理詳細ページ - 支給元 531、532
- 処理詳細ページ 1318
- 処理ストリーム 参照: ストリーム処理
- 処理フォーミュラ ページ 134、141
- 処理
 - 銀行振込 1342
- 親エレメントと子エレメント
 - 参照: エレメント

す

スクリプトの表示ページ - 規定外エレメント
 のインポート 1490
 スクリプトの表示ページ - 規定外パッケージ
 のエクスポート 1474、 1482
 スクリプトの表示ページ - 規定外レコードの
 インポート 1490
 スクリプトの表示ページ
 1420、 1439、 1450、 1466、 1497
 スケジュール カレンダー
 理解 476
 スケジュール カレンダー ページ 481、 495
 スケジュール グループ ページ 480、 482
 スケジュール シフト ページ - 定義
 481、 493
 スケジュール
 PeopleSoft Enterprise 勤務管理との共
 有 1624
 確認 497
 カレンダーの作成と表示 495
 休日 63、 498
 勤務 64
 交換 515
 交代勤務 476
 コピー 514
 作成 479
 従業員セルフサービス 516
 受給者への割り当て 501
 設定 478
 セルフサービス機能 478
 セルフサービス基本設定の定義 516
 セルフサービス タスク 505
 タイプ 474
 使い方 473
 定義 479、 515
 データの共有 63
 名前定義 490
 表示 479
 要員の変更 514
 理解 473
 割り当て 498、 515
 スケジュール設定ページ 41、 45
 スケジュール定義 476
 スケジュールの基本設定ページ 506、 516
 スケジュール表示オプションの管理ページ
 506、 512
 スケジュール割り当て
 PeopleSoft Enterprise 勤務管理との共

 有 64
 ステータス コード 820
 ストリーム処理
 事前設定 837
 設定 838
 定義 837
 ストリーム ページ 838
 スライス 1191
 スライスの一致 275

せ

製品ページ 40、 41
 セキュリティ
 上書きレベル 1508
 エレメント 1512
 エレメント使用先 1508
 グループ 1524
 受給者 1520
 所有者セキュリティ 1508
 部門 1521
 ユーザー アクセスの制限 1509
 理解 1507
 セクション
 エレメントの選択 566
 休暇取得 557、 558
 構造化エレメント 82
 サブプロセス 552
 受給者 552
 処理構造 22
 設定 563
 タイプ 547
 使い方 546
 標準 548
 ポジティブ入力作成 548、 549
 セクション名ページ 565
 セグメント詳細ページ 611
 セグメント詳細ページ 613
 セグメント 1191
 セグメントの一致 275
 設定可能セクション
 セルフサービス設定 1036
 設定ページ 1036、 1048
 セットアップ マネージャ 2
 セルフサービス休暇トランザクション
 概要 1019、 1053
 休暇欠勤期間の自動計算 1030
 理解 1054
 セルフサービス設定

- 休暇取得ルールの定義 1028
- 国別のルールの定義 1021
- 設定タスク 1020
- 前提条件 1020
- ユーザー タスクの定義 1037
- セルフサービス (タスクのスケジュール設定)
505
- 前処理フォーミュラ 276
- 選択ステータス 820、 822

そ

- 送金元銀行口座ページ 1318
- 送金元銀行リンク ページ 1321
- 送金元銀行リンク ページ 1319
- 送金元銀行
 - 支給元への関連付け 1321
 - 定義 1320
 - デフォルトの定義 1320
- ソース/使用ページ 127、 128
- ソース別システム エLEMENT ページ 127
- 遡及イベント定義 (GP_RTO_EVT) コンポー
ネント 1242
- 遡及イベント定義ページ 1246、 1267
- 遡及計算デルタ ページ 891
- 遡及計算デルタ ページ 891
- 遡及計算
 - 銀行振込 1355
- 遡及再計算オプション 275、 296
- 遡及処理のトリガ
 - 更新とキャンセル 1164
 - 作成 1122
 - 手動追加 1163
 - テーブル 1115
 - 表示、追加、キャンセル 1157、 1244
 - 表示 1186
 - フィールドの定義 1244
 - 理解 関連項目: トリガ、設定
- 遡及処理 関連項目: 遡及処理
 - PeopleSoft Enterprise 一般会計 1544
 - 一般ルールについて 1222
 - イベント ID へのプロセスのマッピング
1243
 - 上書きの設定 1243
 - ELEMENT上書き 1260
 - ELEMENTの繰越 1257
 - 延滞 315
 - 機能概要 11
 - 銀行振込 1355
 - 繰越遡及を伴う支給キーの使い方 1299
 - 繰越遡及 1219
 - 再計算カレンダーの管理 1225
 - 再計算期間 1221
 - 再計算結果の保存 1238
 - 削除 1306
 - 残高累計のロード 1237
 - 支給元の決定 1244
 - 支給元レベルでの遡及処理制限の定義
1270
 - 受給者の制限の定義 1276
 - 制限の定義 1270
 - セグメントの一致/不一致の場合のデル
タの計算 1287
 - 設定 1242
 - 前回の結果と再計算の結果 1221
 - 前回の結果の取り消し 1239
 - 遡及上書きの定義 1257
 - 遡及期間制限と対象期間制限の指定
1244
 - 遡及期間制限と対象期間制限の設定
1240
 - 遡及期間の制限 1270
 - 遡及処理対象期間の制限 1275
 - 遡及処理に関する定義 802
 - 遡及処理の定義 1219、 1250
 - 遡及デルタと調整処理の例 1231
 - 遡及デルタの計算と調整処理 1229
 - 遡及の遡及処理 関連項目: 遡及処理
 - 遡及方法の定義 1247
 - 遡及方法の変更時に使用される日付と遡
及方法の決定 1252
 - その他の設定ページ 1283
 - 調整の処理 1231
 - 追加 1307
 - 通貨変更 1308
 - 訂正遡及 1219
 - 訂正と繰越 (例外付き) の例 1263
 - デフォルト遡及方法の指定 1243
 - デルタ値の表示 890
 - デルタ 1221
 - トリガ イベント ID の定義 1267
 - トリガ テーブル 1115
 - トリガ フィールドの定義 1244
 - バージョン番号とレビジョン番号
1225、 1227
 - ヒント 1308
 - 複雑な遡及処理について 1286
 - 不整合時の遡及方法 1249
 - プロセス リストに関する注意事項 562

- 分割との組み合わせ 1211
- 分割を伴う繰越調整 1292
- 分割 1287
- ポジティブ入力の遡及調整 652
- ポジティブ入力 1305
- 未処理遡及デルタの管理 1245、 1278
- 予測 996
- 理解 1219
- 累計 369
- 遡及制限ページ 1246、 1270
- 遡及制限割当 (GP_PYE_RTO_LIM) コンポーネント 1242
- 遡及制限割当ページ 1247、 1276
- 遡及トリガ ページ 1185、 1186
- 遡及トリガ 参照: 遡及処理のトリガ設定 1133
- 遡及プロセス上書き (GP_RTO_OVR_DEFN) コンポーネント 1242
- 遡及プロセス上書きページ 1246、 1257
- 遡及プロセス定義 (GP_RTO_PRC_DEFN) コンポーネント 1242
- 遡及プロセス定義ページ 1245、 1250
- 遡及ページ 966、 973
- 属性値の定義ページ 1381、 1384
- 属性別条件の定義ページ 1418、 1424
- 属性
 - 値の定義 1384
- 組織構造
 - エレメント グループ 522
 - 支給元 529
 - 有資格グループ 528
 - 理解 519
- その他の累計ページ - 支給 285、 303
 - [累計] タブ 304
 - [累計値] タブ 305

た

- ターゲット システム
 - 概要 1566
 - 設定 1570
- ターゲット システムの設定コンポーネント (HPIP_TGT_SYS_GL) 1566
- ターゲット製品
 - 概要 1566
 - 設定 1569
 - デフォルト 1567
- ターゲット製品の設定コンポーネント (HPIP_CONFIG_PRD) 1566

- 代替勤務スケジュール データ ページ 890
- 代替勤務スケジュール データ ページ 879
- タスク コード マップ コンポーネント (GP_TL_TASK_ELEM) 1609
- タスク コード マップ ページ 1610、 1615
- 多通貨
 - 支給額の表示 37
 - 使い方 関連項目: 通貨

ち

- チェーン検証詳細ページ 907、 909
- チャートフィールド コード マップ コンポーネント (GP_TL_CHART_ELEM) 1609
- チャートフィールド コンポーネント (GP_GL_CHARTFLD) 1527、 1571
- チャートフィールド
 - 勘定科目へのマッピング 1534
 - 受給者のチャートフィールド値の上書き 1537
 - 費用の割り当てに使用するチャートフィールドの選択 1533
 - ポジティブ入力レベルでの上書き 1539
- チャートフィールド ページ 1531、 1533、 1575、 1576
- チャートフィールド マッピング ページ 1576、 1578
- チャートフィールド マップ ページ 1610、 1611
- チャック 1570
- 抽出ページ 219、 222
- 超過取得ページ 439、 457

つ

- 追加支給詳細ページ 969、 970
- 追加支給 947
- 通貨
 - エレメント レベル 35
 - オンライン デフォルト 37
 - 基本報酬で使用する場合 35
 - 支給元レベル 35
 - 支給元 534
 - システム エレメント 125
 - 遡及処理と通貨変更 1308
 - その他のエレメントで使用 36
 - 使い方 33
 - 定義 33

端数処理 1581
 バッチ処理 39
 理解 関連項目: 多通貨
 累計 37

て

定義/作成ページ 1404
 定義の指定日 98、 722
 定義ページ - カレンダー 593、 594
 定義ページ - 定義 481、 490
 定義ページ - デュレーション 205、 206
 定義ページ - 端数処理ルール 246
 定義ページ - 汎用レポート 1681、 1683
 定義ページ - 比例配分ルール 253
 定義ページ - 累計 370
 定義ページ
 173、 253、 565、 566、 573、 574、
 743
 定義 174
 訂正遡及
 上書きの設定 1243
 上書きの定義 1259
 銀行振込 1357
 繰越例外あり 1263
 処理ステップ 1248
 理解 関連項目: 遡及処理
 例 1222
 訂正リクエスト詳細ページ 964、 966
 訂正 946
 方法 959
 テキスト定義ページ 227、 236
 デバッグ/チューニング オプション ページ
 826、 833
 デフォルト ページ 537、 541
 デュレーション コンポーネント
 (GP_DURATION) 197
 デュレーション
 開始日と終了日 207
 期間を対象、または除外にする HR ス
 テータスの定義 211
 休暇欠勤の対象/除外 198
 計算エレメント 75
 定義 197、 206
 日数の対象/除外 210
 バッチ処理 204
 デュレーション名ページ 205
 デルタ
 計算 1229

遡及 1221
 保存するテーブル 32
 未処理遡及デルタの管理 809、 1245
 ユーザー フィールド レベルを使用した
 グループ化 803
 デルタの繰り越し
 ユーザー フィールドによる繰り越し
 807
 電子振替フォーマット ページ 1319
 電子振替フォーマット ページ 1318
 電子メール通知 1029
 電子メール 1028
 テンプレート (電子メール) 1029
 テンプレート別 PIページ 649
 テンプレート別 PI ページ 645
 データ アーカイブ マネージャ 1693
 クエリー バインド変数の定義 1701
 結果の表示 1701
 ジョブの定義 1699
 データ取得エレメント
 アレイ 71
 書き込み可能アレイ 71
 仮再計算 73
 給与レート コード 72
 再計算/履歴抽出ルール 73
 システム エレメント 70
 定義 121
 バッチ処理 122
 ブラケット 72
 分類 68
 理解 69、 121
 データ
 アーカイブ 1693
 エラー処理 1600
 データのアーカイブ ページ 1698、 1699
 データのレポート
 フィルタ (選択) 1655
 分割 (定義) 1656
 理解 1651
 データ ページ 157
 ブラケット 157
 データベース システム エレメント 53

と

統合
 PeopleSoft EnterpriseOne 一般会計
 1551
 PeopleSoft Enterprise グローバル ペイ

ロール 2
 導入
 PeopleSoft Enterprise グローバル ペイ
 ロール 2
 トランザクション定義ページ 468、 469
 トランザクション パラメータの表示ページ
 1589
 トリガ確認 - 遡及ページ 1151、 1157
 トリガ確認 - 反復ページ 1152、 1164
 トリガ確認 - 分割ページ
 1151、 1152、 1218
 トリガ定義 - フィールド値ページ
 1139、 1144
 トリガ定義ページ 1139、 1215、 1217
 トリガ
 アクションを起動する値の指定 1144
 イベント ID の定義 1267
 給与支給対象時間のトリガ作成 1614
 作成 1121
 手動定義 1131
 使用済みまたは不要なトリガの管理
 1126
 設定 関連項目: 反復トリガ
 定義 1131、 1139
 テーブル データ 1113
 導入 1148
 表示と管理 1150
 標準 1174
 用途 1111

に

日数計算フォーミュラ ページ 438
 日数計算フォーミュラ ページ 444
 入カタイプ プロンプト ページ 91、 92
 入カタイプ ページ 88
 入カタイプ
 選択 90、 92
 定義 87、 88
 プロンプト ビュー 90
 入カフィルタ
 定義 1670
 入カマッピング ページ 177、 179

の

ノード - コネクタ ページ 1554
 ノード - ルーティング ページ 1554、 1558

ノード定義ページ 1554、 1556

は

配布されたエレメント
 表示 1645
 端数処理/比例配分ページ - 支給 284、 297
 端数処理/比例配分ページ 419、 425
 端数処理オプション
 定義 297
 端数処理名ページ - 端数処理ルール 246
 端数処理名ページ 246
 端数処理ルール - 定義ページ 246
 端数処理ルール コンポーネント
 (GP_ROUNDING) 240
 端数処理ルール
 計算エレメント 76
 控除エレメント 279
 支給エレメント 279
 定義 240
 フォーミュラへの割り当て 234
 ポジティブ入力 630
 パッケージ エレメント ページ - 規定外エレ
 メントのインポート 1489
 パッケージ エレメント ページ - 規定外パッ
 ケージ作成 1474、 1479
 パッケージ エレメント ページ - 規定外パッ
 ケージ比較 1489
 パッケージ エレメント ページ - 規定外レ
 コードのインポート 1489
 パッケージ エレメント ページ
 1450、 1459、 1493
 パッケージ条件ページ - 規定外パッケージ作
 成 1476
 パッケージ処理ページ
 1419、 1432、 1449、 1451
 パッケージ ステータス ページ
 1438、 1465、 1475、 1483、 1491、
 1499
 パッケージ ステータス ページ
 1420、 1450
 パッケージ定義ページ - 規定外エレメントの
 インポート 1491
 パッケージ定義ページ - 規定外パッケージ作
 成 1472、 1475
 パッケージ定義ページ - 規定外パッケージの
 エクスポート 1472
 パッケージ定義ページ
 1420、 1450、 1486

パッケージ定義ページ 1418、 1449
 パッケージ比較オーディット ページ 1464
 パッケージ比較オーディット ページ 1450
 パッケージ表示ページ 1419、 1436
 パッケージ レコード ページ - 規定外エ
 レメントのインポート 1487、 1492
 パッケージ レコード ページ - 規定外パッ
 ケージ アップグレード 1488
 パッケージ レコード ページ - 規定外パッ
 ケージ作成 1473、 1478
 パッケージ レコード ページ - 規定外パッ
 ケージのエクスポート 1473、 1480
 パッケージ レコード ページ 1495、 1496
 バッチ更新
 割り当て済みの支給と控除の終了日 668
 バッチ処理エラー 910
 バッチ処理
 アレイの使い方 29
 上書き 712
 エラーの修正 910
 エレメント結果テーブル 32
 銀行振込 1314
 出力テーブル 31
 設定 1658
 通貨 39
 データ取得エレメント 122
 プロセス リスト マネージャ 560
 ポジティブ入力 629
 累計 368
 バッチ処理フローのアーキテクチャ
 受給者の選択 25
 理解 24
 バッチ処理メッセージ 911
 パラメータ/マッピング ページ 187、 191
 パラメータ
 構築 1673
 反復トリガ確認ページ 1152、 1168
 反復トリガ ページ 1185、 1187
 反復トリガ
 カレンダー グループ ID 別の表示 1168
 更新とキャンセル 1168
 作成 1122
 手動追加 1168
 設定 1132
 テーブル 1113
 トリガ ステータスの表示と変更 1164
 表示 1187
 理解 関連項目: トリガ、設定
 汎用レポート作成ページ 1689
 汎用レポート 1709

行と列の定義 1685
 実行 1688
 設定と実行 関連項目: レポート
 設定 1680
 パラメータの定義 1683
 分割レベルの定義 1681
 理解 1679
 バージョン関係定義ページ 1503、 1505
 バージョン詳細の表示ページ 1419、 1438
 バージョン スタンプ ページ 1503
 バージョン別条件の定義ページ
 1419、 1431

ひ

比較レポート 1445
 日付 - 定義ページ - 219
 日付 - 定義ページ 219
 日付コンポーネント (GP_DATE) 218
 日付テーブルのロード ページ 41
 日付名ページ 218、 219
 日付
 エレメント固有の識別子の割り当て 222
 計算エレメント 75
 定義 218、 219
 比例配分名ページ 252、 253
 比例配分ルール コンポーネント
 (GP_PRORATION) 251
 比例配分ルール
 エレメント分割による定義 772
 オプションの定義 297
 計算エレメント 77
 控除エレメント 279
 支給エレメント 279
 システム エレメント 280、 426
 定義 251
 分割との組み合わせ 1209
 分子と分母の定義 253
 比例配分
 分割 1208

ふ

フィールド値ページ 1184
 フィールドベース定義ページ 228
 フィールド ベース定義ページ 227
 フィールド マップ/キー ページ 134、 136
 フィルタ

- 入力フィルタ (作成) 1670
- フォーミュラ - フォーミュラ名ページ 227
- フォーミュラ コンポーネント (GP_FORMULA) 223
- フォーミュラ
 - エレメント ポインタの使い方 223
 - 休暇欠勤フォーミュラの作成 413
 - 計算エレメント 76
 - 設計と設定 233
 - 前回の値の選択 234
 - 前処理および後処理 276
 - 定義 223、 228
 - 端数処理ルールの割り当て 234
 - 表示 236
 - ブラケットを使用したユーザー フィールドへのデータのロード 802
 - メッセージの定義 237
- フォーミュラ名ページ 226
- 複数変換のデータの取得 796
- 複数変換
 - 計算ルール コンポーネントの定義 767
 - 作成 731
 - ジェネレーション コントロール 798
 - 支給エレメントおよび控除エレメント 281
 - データの取得 796
 - ドライバを使用した複数変換の管理 756
 - トリガ 727
 - 分割カレンダー 768
 - ポジティブ入力を使用した複数変換 729
 - ユーザー フィールドのあるエレメント
 - 割当を使用した複数変換 733
 - ユーザー フィールドのないエレメント
 - 割当を使用した複数変換 732
 - 理解 727
 - 累計ドライバを使用した複数変換 737
- 付与/取得割当ページ 1004、 1006
- 付与残数
 - 受給者メッセージの表示 1002
 - 単一カレンダー期間の調整 1004
 - 調整と上書き 1004
 - 表示 1001
- ブラケット
 - 検索キーと戻り列の定義 160
 - 検索値の入力 162
 - 検索ルールの定義 158
 - 定義 148
 - データ取得エレメント 72
 - バッチ処理 156
 - ブラケットを使用したユーザー フィールドへのデータのロード 802
- 補間法 149、 153
- ブラケット名ページ 157、 158
- 振込スケジュール ページ 1324
- 振込スケジュール 1322
- フレックス シフト 475
- プロセス インスタンス 1591、 1602
- プロセス パラメータの表示ページ 1589
- プロセス ページ 177、 178
- プロセス メッセージ ログの表示ページ 1590
- プロセス リスト
 - エレメントとセクションの順序 562
 - 休暇欠勤処理 1012
 - 構造化エレメント 82
 - 処理構造 22
 - セクションの指定 574
 - 設定 571
 - 遡及処理に関する注意事項 562
 - バッチ処理とプロセス リスト マネージャ 560
 - 理解 559
- プロセス リスト ページ - プロセス モニター 1591
- プロセス リスト名ページ - プロセス リスト 573
- プロンプト ID 使用先レコード/フィールド ページ - 入力タイプ プロンプト 92
- 分割イベント定義ページ 1215
- 分割イベント定義ページ 1214
- 分割トリガ
 - 支給および控除の割り当て 1130
- 分割マッピング ページ 177、 180
- 分割レベル ページ 1681
- 分割 660
 - イベントとタイプの定義 1215
 - 上書きする期間セグメントの入力 613
 - エレメント分割 1195
 - エレメント分割を使用した変換 1193
 - エレメント リスト 1216
 - 延滞 314
 - 親子関係の変換 1197
 - 関係 1191
 - 管理 1217
 - 期間分割を使用した変換 1193
 - 期間分割 1193
 - 機能概要 11
 - 休暇欠勤 1014
 - 作成される警告メッセージ 1203
 - システム エレメント 1212

受給者上書き 660、 1204
 処理順序 780
 設定 1213
 遡及処理との組み合わせ 1211
 遡及処理 1287
 タイプ 1190
 定義 1189
 トリガ テーブル 1118
 トリガ 関連項目: トリガ、設定
 テーブル 1118
 作成 1125
 表示、追加、キャンセル 1152
 手動追加 1156
 更新とキャンセル 1157
 比例配分との組み合わせ 1209
 比例配分を伴わない適用 1209
 比例配分 1208
 複数変換 768
 分割を伴う遡及処理での繰越調整 1292
 ポジティブ入力との使い方 1212
 ポジティブ入力 624
 理解 1189
 累計と累計メンバーのスライス 1196

へ

変数 - 定義ページ 215、 217
 変数コンポーネント (GP_VARIABLE) 213
 変数名ページ 215、 216
 変数
 カテゴリ別の表示または更新 216
 計算エレメント 75
 定義 213、 217
 バッチ処理 214
 変動報酬取得ページ 1630

ほ

補間法
 キーが一致しない場合 156
 ブラケットでの補間法の使い方 153
 ポジティブ給与計算ページ 874
 ポジティブ入力 - 休暇欠勤ページ
 872、 874
 ポジティブ入力 - 給与計算ページ 873
 ポジティブ入力 - 詳細ページ
 633、 639、 731、 873
 ポジティブ入力作成セクション 549

ポジティブ入力ページ 632
 ポジティブ入力ページ
 633、 731、 876、 965、 969、 973
 ポジティブ入力
 1 人の受給者に対するポジティブ入力
 633
 PI - テンプレート ページのレイアウト
 の定義 645
 アクション タイプと処理ルール 621
 インスタンス 617
 上書き 691
 確認 654
 カレンダー別の表示 876
 休暇取得処理からの表示 874
 休暇取得のバンドル ルール 620
 結果テーブル 32
 結果の表示 871
 サードパーティ アプリケーションの
 バンドル ルール 620
 作成する方法 631
 作成ヒント 631
 資格ルール 620
 受給者メッセージの表示 874
 詳細の上書き 639
 処理 630
 ソース 616
 遡及処理 1305
 遡及調整の作成 652
 チャートフィールドの上書き 1539
 使い方 615
 テンプレートで作成したページでの入力
 649
 テンプレートの使用 644
 特徴 615
 端数処理 630
 バッチ処理 629
 バンドル 618
 複数の受給者のための作成 637
 分割を伴う使い方 1212
 分割 624
 ポジティブ入力作成セクション 548
 理解 615
 補足ルール インスタンス 707、 785

ま

前払リクエスト詳細ページ 973
 前払い 947
 マスター データ

Enterprise テーブルにインポートされ
たデータの表示 1563
マッピング ページ 1531、 1534、 1575

み

未処理遡及デルタ ページ 1247、 1278

め

メッセージ インテグレーション
Enterprise テーブルにインポートされ
たデータの表示 1563
メッセージの詳細ページ 857
メッセージの表示ページ 1036
メッセージ
受給者メッセージの表示 856
メッセージ ログ
エラー処理 1592
メンバー ページ 371、 379、 380、 743

も

モニター概要ページ 1563、 1583

ゆ

ユーザー設定
スケジュールの設定 516
ユーザー定義パラメータ
定義 1658
ユーザー定義フィールド ページ - 休暇取得
463
ユーザー定義フィールド ページ 440、 887
ユーザー定義フィールド ページ 879
ユーザー フィールド セット
エレメントとポジティブ入力との相互作
用の定義 743
定義 744、 756
入力 745
補足ルール インスタンス 785
ユーザー フィールド ページ - 控除 319
ユーザー フィールド ページ - 支給名 112
ユーザー フィールド ページ
101、 742、 1036、 1043

ユーザー フィールド
ブラケットとフォーミュラを使用した
ユーザー フィールドへのデータの
ロード 802
ユーザー ルール プロファイル ページ
1510、 1511
有資格グループ ページ 528、 529
有資格グループ
エレメント グループの挿入 529
組織構造 21
定義 528
優先度ページ 439
優先度ページ 459
ユーティリティ
UNIX ディレクトリと NT ディレクトリ
の関連付け 1402
エレメント関係の定義 1403
エレメントに対する新規バージョン番号
の割り当て 1503
エレメント名の変更 1467
規定外パッケージの作成とエクスポート
1469
規定外パッケージの比較とアップグレー
ド 1484
規定パッケージの作成とエクスポート
1415
規定パッケージの比較とアップグレード
1440
基本言語と関連言語 1399
削除機能 1402
使い方
関連項目: 規定パッケージ (規定外
パッケージ)
パッケージの作成とアップグレード
1397
バージョン関係の定義 1505
バージョン管理機能 1401
バージョン番号の割り当てとバージョン
別パッケージ作成 1501
理解 1393

よ

予測グリッド ページ 1022、 1025
予測残数ページ
1002、 1003、 1057、 1071、 1077
予測フィルタ ページ 469、 470
予測ページ - 休暇取得 461
予測ページ 439

予測ページ 1049、 1050
 予測メッセージ詳細ページ 997
 予測メッセージページ 997
 予測メッセージ ページ
 1000、 1036、 1045
 予測メッセージ 1035
 予測
 カレンダー グループ テンプレートの関
 連付け 469
 休暇欠勤イベント入力時 995
 休暇欠勤の結果の確認 997
 休暇取得エレメントの定義 461
 遡及処理 996
 使い方 409
 メッセージの確認 1000
 有効化 465

り

リアルタイム処理
 設定 1660
 リクエスト詳細ページ 1056、 1070
 休暇リクエスト 1077
 リスト セット定義ページ 1385
 リスト セット
 設定 1385
 定義 1377、 1385
 リターン コード エラー 1597
 履歴グリッド ページ 1022、 1023

る

累計 - 定義ページ 371
 累計期間ページ - 控除 320
 累計残高調整ページ 381、 382
 累計ページ - "処理結果 - 管理ビュー"
 901、 905
 累計ページ - カレンダー グループ別結果
 895
 累計ページ - カレンダー別結果 869
 累計ページ - カレンダー別結果 864
 累計名ページ 370、 742
 累計
 延滞 312
 キーの指定 378
 期間の定義 371
 休暇付与エレメントの自動作成 431
 休暇付与エレメント 427

抛出するエレメントの定義 379
 計算エレメント 80
 サフィックス 118
 サフィックスの定義 115
 残高累計のロード 1237
 支給エレメントの自動作成累計の定義
 299
 支給の累計期間の選択 301
 自動作成について 271
 スライス/分割ルール 1196
 設定 367
 遡及処理 369
 タイミング 371
 調整 381、 382
 通貨 37
 定義 367、 370
 名前定義 371
 バッチ処理 368
 理解 367
 ルーティング
 設定の確認 1558

れ

レコードとフィールドの組み合わせ 90、 92
 レベル ページ - 累計 371、 378
 レベル ページ 743
 レポート データ検証ページ 1671
 レポート データ処理詳細ページ
 1639、 1641、 1662、 1665
 レポート データ定義ページ
 1638、 1640、 1662
 レポート データ
 確認 1670
 作成プロセス (使用) 1651
 定義 1661
 レポート データを使用するトランザク
 ションの作成 1660
 レポート
 休暇欠勤結果レポート 1708
 給与計算結果レポート 1708
 受給者メッセージ レポート 1709
 設定と実行 関連項目: 汎用レポート
 汎用レポート 1709
 付録 1707

わ

ワークフロー トランザクション 1099